

九州縦貫自動車道関係  
埋蔵文化財調査報告

— v —

加 栗 山 遺 跡  
神 ノ 木 山 遺 跡  
(本 文)

1981.3

鹿 兒 島 県 教 育 委 員 会

## 加 栗 山 遺 跡 正 誤 表

ページ	行	誤	正
7	13	埋蔵文化財資料館	考古資料館
〃	24	土壇の掘り	土壇の掘り
8	2	調査に至る経過	調査に至るまでの経過
〃	27	451	481
〃	30	鹿県金属センター	鹿県機械金属技術指導センター
9	2 右	F 141 号住居址	F 14区 1 号住居址
〃	7 右	IV号住居址	VI号住居址
〃	12	第45図 G 11Ⅲ・IV号	第45図 G-11Ⅷ・IX号
〃	19	第52図 H 9 X VI号住居址	第52図 H-9 X・VI号住居址
〃	25	第57図 V・VI号住居址	第57図 V・VI号住居址
〃	28	Ⅷ・IX・X・Ⅻ号内土器実測図	Ⅷ・IX・X・Ⅻ号住居址出土土器
10	32		第 164 図 軽石製品実測図
11	5		第 309 図 石鏃・磨製石斧・ナイフ形石器出土分布図
〃	6	第 309 図	第 310 図
〃	7	第 310 図	第 311 図
〃	8	第 311 図	第 312 図
〃	9	第 312 図 第32ユニット…	第 317 図 第32ユニット…
13	27	図版39下 (IV号住)	図版39下 (VI号住)
23	5	平坦 (以下全て同じ)	平坦
25	19	武見塚	武貝塚
27	10	掘状	堀状
34		第 6 図 掘立柱建	第 6 図 掘立柱建物
37		5 cm	5 m
40	$\frac{10}{26}$	0.75cm	75cm
49	2	瓦器類	瓦器質
59	9	出土遺物	出土遺物 (59図)
〃	15	Ⅷ・IX号住居址	Ⅷ・IX号住居址 (45図)
62	5	かかい	かこい
66	10	10数m	10数cm
71	5	56図	55図22~26
74	33	Ⅶ類土器	Ⅷ類土器
81	17	XI・Ⅻ号住居址	XI・Ⅻ号住居址 (第47~49図)
〃	31	Ⅻ号住居址	Ⅻ号住居址 (第51図)
86	3	出土遺物	出土遺物 (60図)
〃	6	XV号住居址	XV号住居址 (52図)
〃	12	出土遺物	出土遺物 (59図)
〃	15	XV号住居址	XV号住居址 (53図)
〃	22	XI号住居址	XI号住居址 (54図)
87	6	土器	土器 (61図)
97			実測図番号78をいれる。
109	8	3・9・10・24・35・41…	3号・9号・10号と号をいれる。



ページ	行	誤	正
122			No26をいれる。
131	3	中世山城の や	中世山城の堀や
136	30	炭火物	炭化物
139	16	数☆☆個出土	数 179 個出土
140	30	一例	一例
150			縮尺にcmを入れる。
169			実測図番号 166 の 9 をとる。
207			長さは全てcm
210			長さは全てcm
214	14	湾曲	弯曲
223			長さは全てcm
229			長さは全てcm
237	28	VIII号	Ⅷ号
〃	31	VIII号	Ⅷ号
238	15	VII号・XI号	Ⅶ号・Ⅺ号・Ⅻ号
239	5	XI号	Ⅺ号
〃	28	持ちだ	待ちだ
240	26	調査場	調理場
〃		P 240	P 241
241		P 241	P 240
242	3	とあるが	となるが
251		29郡	29群
253			黒曜石分布図
253'			凝灰岩分布図
255			黒曜石分布図
255'			凝灰岩分布図
257	28	十イフ	ナイフ
258			黒曜石分布図
258'			凝灰岩分布図
259			黒曜石分布図
259'			凝灰岩分布図
305	12	訂面	打面
〃	15	硅質土	硅岩質
356	5	第 図はその分布であるが	削除する
412	29	29ユニットの石材組成表の数字をいれる。	21811, 1526, 0, 101, 4, 2, 8, 0, 185
435	図中	f	b
437	15	剥片に分 られるが	剥片に分けられるが
438	30	検出された。	検出された,
442	右47	00	100
499	右⑩	スズタス	スズタケ

## 序 文

九州縦貫自動車道（薩摩吉田～鹿児島）建設に伴う鹿児島市川上町加栗山遺跡については、発掘調査を昭和50年2月15日から昭和51年10月16日までの間に実施し、西日本において唯一の縄文早期の住居群、また、本県における最大の規模の先土器遺跡を発見するなど多大の成果をおさめました。

その後、昭和55年度に整理調査を進め、ここに「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告第5集」として発刊することができました。

県教育委員会としては、この報告書が文化財保護のため広く活用されることを願っています。

発刊に当たり、日本道路公団をはじめ、調査に参加された方々に対し深く感謝の意を表します。

昭和56年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 井之口 恒 雄

## 調 査 の 状 況

九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査の経緯は、それぞれ「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告—I・II・III」で述べた。昭和46年、始良郡始良町小瀬戸遺跡で調査を開始して以来すでに9年間にも及んでいる。

この間、調査については、年度毎に日本道路公団福岡建設局との間に「発掘調査の委託契約」を行い、これに基づいて実施してきた。この間発掘調査の対象とした遺跡は38箇所であったが、昭和55年2月21日、木場A遺跡を最後にすべてを終了した。

一方、調査の整理・報告については、第I・II・III・IV集で19遺跡を、第V集で本遺跡等と計21遺跡を発表したことになる。残された遺跡についても、今後、ひきつづき報告してゆく計画である。

九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表

(昭和46年～昭和55年2月)

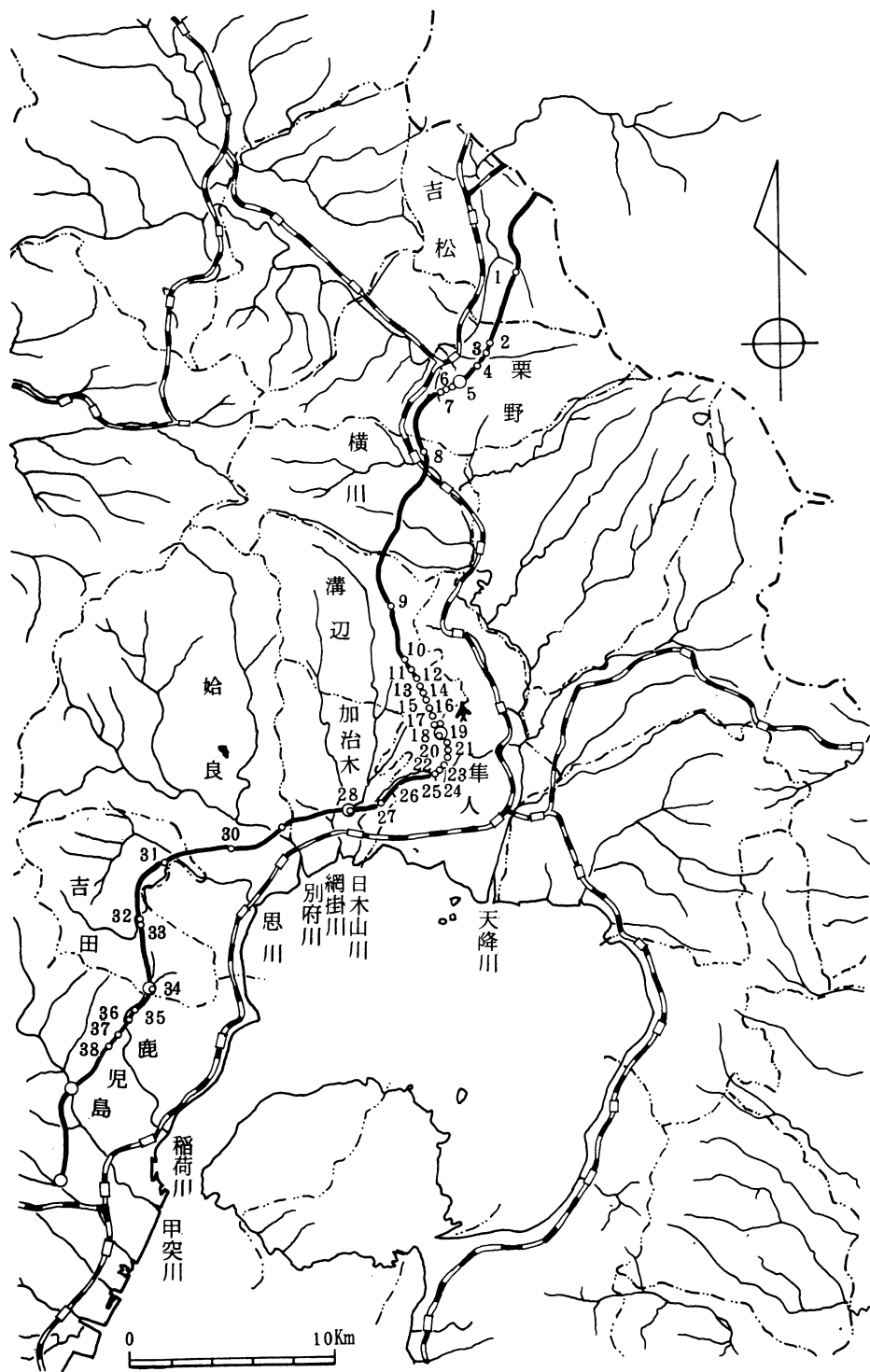
番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査員	概 要
1	堀之内B	吉松町川添	54. 9. 10 } 54. 9. 27	500	立 神 青 崎	○土師式土器の散布
2	木場A	栗野町木場	一次 53. 12. 11 } 54. 3. 31 二次 54. 8. 28 } 55. 2. 21	14,000	牛ノ濱 新東 宮田 池畑 長野	○旧石器, ナイフ他剥片, 集石遺構, 細石核・細石刃 ○縄文早前期土器片・集石遺構 ○土師式土器散布
3	木場B	〃	54. 8. 28 54. 11. 24	4,500	新出東 弥口 中栄 島	○土師式土器の散布 ○中世溝状遺構
4	木場C	〃	53. 11. 27 54. 1. 13	2,700	長野 出口	北部に湯ノ谷川, 北に傾斜する台地中腹に土師器, 弥生式土器の散布が見られる。
5	山崎A	栗野町山崎	52. 12. 13 53. 3. 26	6,000	{ 吉永 牛ノ濱	①弥生, 土師, 須恵器片の散布。 ②中世(建物)
6	山崎B	〃	53. 4. 10 54. 10. 12	21,800	牛ノ濱 西田 中島 出口	○旧石器時代(細石核・細石刃) ○古墳時代・中世(青磁・陶磁器・建物跡) ○縄文時代早～後期・集石遺構 土壌

7	山崎 C	栗野町山崎	52. 12. 13 53. 3. 26	3,000	中西 村田	土師器, 須恵器, 青磁片の散布
8	中尾田 (山城)	横川町中野	53. 5. 15 54. 10. 6	9,800	新東 中島 井ノ上	○縄文時代・早・前・中期土器 (前平・手向山・阿高) 石器 集石遺構 ○中世山城・建物遺構・青磁・ 陶磁器
9	木佐貫原	溝辺町木佐貫	51. 2. 6 52. 11. 31	17,000	吉永 牛ノ濱	●①縄文時代(前期・後期)土器 片, 炉穴 ②土師器片
10	石 峰	溝 辺 町 麓	一次 (50.10.2 50.12.19 二次 51. 11. 24 53. 5. 15	20,000	河出 口 西 田 戸 崎 青 畑	●①縄文土器, 住居跡1基, 集 石遺構 ②土師器片
11	柳ヶ迫	〃	51. 3. 22 51. 5. 17	700	長野 西 田	●①細石器剥片(黒曜石) ②縄文時代(後期)土器片
12	長ヶ原	〃	50. 10. 1 50. 11. 28	1,140	新東 中 村	●①細石器剥片(黒曜石) ②縄文時代(前期)土器片 ③弥生時代(後期)土器片
13	松木原	〃	50. 9. 18 50. 9. 26	420	新東 池 畑 中 村	●弥生時代(後期)土器片, 黒 曜石
14	葛根塚	〃	50. 9. 8 50. 9. 26	790	新東 池 畑 中 村	●①弥生時代(後期)土器片, 石鏃(黒曜石)
15	七ツ次	〃	50. 8. 5 50. 9. 18	2,700	弥栄 池 畑 中 村	●①縄文時代(後期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片
16	松ヶ迫	〃	50. 7. 14 50. 8. 11	600	弥栄 中 村	●①弥生時代(後期)土器片
17	木屋原	〃	50. 4. 7 51. 3. 31	4,500	弥栄 立 神	●①縄文時代(前期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片
18	山 神	〃	49. 6. 13 50. 4. 28	6,900	平田 牛ノ濱 吉 永	●①縄文時代(前・後期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片 ③平安時代・建物遺構, 溝状 遺構, 須恵器, 墨書土器(奠, 廣~坏2, 破片15)

19	曲 迫	溝 辺 町 麓	50. 1. 27 50. 3. 31	4,300	諏 訪 弥 栄	●①縄文時代(後期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片 ③土師器片
20	柵 場	〃	49. 6. 5 50. 3. 27	2,550	平田, 牛 ノ濱, 吉永	●①縄文時代(前・後期)土器片
21	西 免	隼人町西光寺	49. 5. 25 50. 2. 8	1,500	平 出 吉 永	●①弥生時代(後期)土器片 ②玉髓, 黒曜石 ③弥生時代(後期)土器片 ④土師器片
22	中 尾	〃	49. 9. 25 50. 2. 10	2,500	出 口 吉 永	●①縄文時代(後期)土器片 ②弥生後代(終末期)土器片, 磨製石鏃 ③土師器片
23	入 道	〃	49. 8. 5 50. 3. 31	1,720	〃	●弥生時代(終末期)土器片, 石鏃, 土師器, 溝状遺構
24	南十三塚	溝 辺 町 崎 森	49. 7. 16 49. 9. 20	600	出 口 中 村	●弥生時代(終末期)土器片
25	東 原	〃	49. 9. 17 50. 1. 24	8,700	諏 訪 弥 栄 中 村	●①縄文時代(早期)土器片, ②弥生時代(後期)土器片, 住居跡1基 ③土師器片
26	桑ノ丸	〃	49. 8. 1 50. 4. 25	8,750	新 東 牛 ノ 濱 中 村	●①縄文時代(早・前・後期)土器 片, 石斧, 石鏃
27	三代寺	加 治 木 町 日 木 山	49. 3. 15 49. 7. 31	2,300	河 口 新 東 弥 栄 牛 ノ 濱	●①縄文時代(早・前期)土器 片, 石斧, 石鏃, 集石遺構 ②弥生時代(終末期)土器片 ③土師器, 土壇, ピット群
28	建馬場	加治木町反土	46. 12. 8 46. 12. 12	540	盛 園 立 神	①弥生時代(後期)土器片
29	松木田	始良町鍋倉	46. 12. 12 46. 12. 15	20	〃	①柱穴~22個
30	小瀬川	始 良 町 西 餅 田	46. 8. 20 46. 11. 2	2,780	河 口 立 崎 尾 ノ 神 中 上 有 間 元	①縄文時代(前期)土器片(塞 ノ神) ②弥生時代(中期)土器片 ③墨書土師器(伴, 大伴, 原仲 家), 青磁, 白磁, 緑釉陶器, 須恵器, 紡錘車, 土錘, 井戸 梓, 木製器, 柱穴(多数)

31	小山	吉田町 東佐多浦	46. 11. 6 47. 2. 10	1,420	河 戸 立 尾 中 有	口 崎 神 上 間 元	①縄文時代（早・前期）土器片 （吉田，塞ノ神） ②弥生時代土器片 ③墨書土師器，須恵器片，青磁， 白磁，緑釉陶器，滑石製石鍋
32	谷口	吉田町本城	46. 11. 10 46. 11. 18	124	盛 立	園 神	①縄文時代（後期）土器片，黒 曜石剝片 ②弥生時代土器片 ③土師器，白磁，滑石製石鍋
33	上城城址	〃	47. 1. 14 47. 1. 18	20,000 現地踏査	盛 田	園 野 辺	①中世～山城，青磁，白磁，瓦 器
34	宮後	吉田町宮ノ浦	46. 11. 10 46. 11. 18	44	〃	〃	①縄文時代（晩期）土器片，石 鏃（黒曜石） ②土師器
35	木の迫	鹿児島市 川上町	50. 12. 9 50. 12. 11	300	立 牛 吉	神 濱 永	①弥生時代（後期）土器片
36	加治屋園	〃	50. 11. 26 51. 7. 31	1,200	弥 新 長 中	栄 東 野 村	①細石器～細石刃，細石核，同 時期土器片（有文） ②縄文時代前期土器片（塞ノ神 式），集石遺構 ③弥生時代後期土器片
37	加栗山	〃	50. 2. 15 51. 10. 16	30,600	戸 青 立 吉 牛	崎 崎 神 永 濱	①細石器～細石刃，細石核，石 鏃14，局部磨製石斧1，大型 台形石器1 ②縄文時代（前期）土器片（吉 田式，前平式），住居跡17， 土坑72，集石遺構14，石鏃， 陰陽石（軽石製） ③中世～山城，柵列跡，空堀， 柱穴，青磁，瓦器
38	神の木山	〃	50. 5. 12 50. 5. 15	20	戸 青	崎 崎	①耕作土の下部はシラス層で遺 物なし

（●は，調査報告書発行終了）



遺跡名

1. 堀之内 B
2. 木場 A
3. 木場 B
4. 木場 C
5. 山崎 A
6. 山崎 B
7. 山崎 C
8. 中尾田
9. 木佐貫原
10. 石峰
11. 柳ヶ迫原
12. 長ヶ原
13. 松木原塚
14. 葛根塚
15. 七ツ次
16. 松ヶ迫原
17. 木屋原
18. 山神
19. 曲迫場
20. 樺場
21. 西免尾
22. 中尾道
23. 入道
24. 南十三塚
25. 東原
26. 桑ノ丸
27. 三代寺
28. 建馬場
29. 松木田
30. 小瀬戸
31. 小山口
32. 谷ノ城址
33. 上城後
34. 宮の迫
35. 木の園
36. 加治屋園
37. 加栗山
38. 神の木山

縦貫道全遺跡地図

## 例 言

1. この報告書は、九州縦貫自動車道（鹿児島線）建設によって消滅する遺跡について行なった事前調査のうち、昭和49年～昭和51年度に発掘調査した加栗山遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は、日本道路公団の受託事業として、鹿児島県教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆は、次のとおりである。

第Ⅰ章—1節, 第Ⅱ章, 第Ⅳ章—小結	戸崎
第Ⅰ章—2・3節, 第Ⅲ章, 第Ⅵ—1節・2節・小結	青崎
第Ⅵ章—2節の(3)	立神
第Ⅲ章—1節, 第Ⅵ—2節(2)Aの(1), (4)のA	吉永
第Ⅴ章	中村
第Ⅶ章	牛ノ浜・宮田

付 篇 (1)石川秀雄, (2)加藤芳朗, (3)千浦美智子, (4)藤原宏志, (5)安田喜憲, (6)出雲茂人  
まとめ—各時代の担当者
4. 出土品は、県立博物館（埋蔵文化財資料館）に展示し、大半は文化課収蔵庫に保管している。整理・復元作業等は、収蔵庫の整理作業員が行なった。
5. 中世山城は戸崎、縄文時代は青崎、先土器時代は牛ノ浜が中心となり、先土器時代の実測は、戸崎・立神・青崎・吉永・牛ノ浜・中村・中島哲郎・宮田が実測した。  
トレースは、牛ノ浜・立神・中村・宮田が行なった。
6. 遺跡及び遺物の写真撮影は、青崎・吉永・牛ノ浜が行ない、本書の編集は青崎がたった。
7. 本書で用いた挿図中の土器・石器の番号は、図版中の番号と同一である。
8.  $^{14}\text{C}$ の年代測定については、日本アイソトープ協会の浜田知子・峰村明彦両氏の測定結果によるものである。
7. 航空写真撮影は、海上自衛隊鹿屋基地、海上保安庁航空基地の協力を得、航空写真は、日本道路公団所有のものを使用した。
8. 住居址や土壇の堀り込みは、図に示した検出面よりは10数cm上位にあるものと想定される。



# 目 次

序 文	
例 言	
第I章 序 説	17
1節 調査に至る経過	17
2節 調査の組織	17
3節 調査の経過・日誌抄	18
第II章 遺跡の位置及び環境	23
第III章 調査の概要	27
1節 層 序	27
第IV章 中世山城	34
1節 遺 構	34
2節 遺 物	49
小 結	60
第V章 古墳時代	63
1節 土 器	63
第VI章 縄文時代	64
1節 遺 構	66
2節 遺 物	131
小 結	235
第VII章 先土器時代	245
1節 細石器文化の概要	245
2節 遺 構	257
3節 遺 物	269
4節 ユニットの問題点	411
5節 石器群の遺存状態	437
小 結	438
ま と め	478
付 篇 分析資料	
加栗山遺跡における火山灰層の層序 (静岡大—石川秀雄)	479
加栗山遺跡・加治屋園遺跡の土層調査と土壌分析 (筑波大—加藤芳朗)	451
微細遺物—フロテーション・セパレーション法 (ICU—千浦美智子)	490
加栗山遺跡におけるプラント・オパール分析 (宮大—藤原宏志)	497
土器に関する調書 (鹿県金属センター—出雲茂人)	503
集石遺構の科学処理による取り上げと保存 (文化課—吉永正史)	505

## 挿 図 目 次

第1図 加栗山遺跡の位置・周辺遺跡……………24	第34図 遺構配置図……………67
第2図 加栗山遺跡地形図……………26	第35図 F14Ⅰ号住居址実測図……………69
第3図 加栗山遺跡地形・グリッド配置図……………28	第36図 D15Ⅱ号住居址実測図……………70
第4図 土層断面図……………31	第37図 Ⅲ号住居址出土軽石製頑具……………71
第5図 加栗山遺跡標準土層柱状図……………33	第38図 G14Ⅲ号住居址実測図……………72
第6図 堀立柱建物Ⅰ……………34	第39図 F14Ⅳ号住居址実測図……………73
第7図 山城遺構配置図……………35	第40図 Ⅳ号住居址出土装身具……………74
第8図 堀Ⅰ・棚列実測図……………37	第41図 F13Ⅴ号住居址実測図……………75
第9図 堀立柱建物Ⅱ……………39	第42図 G13Ⅵ号住居址実測図……………76
第10図 堀Ⅰ断面図……………40	第43図 G12Ⅶ号住居址実測図……………77
第11図 堀Ⅱ・出入口実測図……………41	第44図 G12Ⅶ号住居址ピット実測図……………78
第12図 堀Ⅱ断面図……………43	第45図 G11Ⅲ・Ⅳ号住居址実測図……………80
第13図 土塁・土塁状土盛実測図……………44	第46図 E11Ⅹ号住居址実測図……………82
第14図 炉址Ⅰ実測図……………45	第47図 G14Ⅺ・Ⅻ号住居址実測図(1)……………83
第15図 炉址Ⅱ実測図……………45	第48図 G14Ⅺ号住居址実測図……………84
第16図 炉址Ⅲ実測図……………46	第49図 G14Ⅻ号住居址実測図……………85
第17図 炉址Ⅳ実測図……………46	第50図 ⅩⅥ号住居址出土軽石製陰陽石……………87
第18図 礫溜りⅠ実測図……………47	第51図 F11ⅩⅢ号住居址実測図……………88
第19図 礫溜りⅡ実測図……………48	第52図 H9ⅩⅥ号住居址実測図……………89
第20図 井戸実測図……………48	第53図 E14ⅩⅤ号住居址実測図……………90
第21図 土師器実測図……………50	第54図 B13ⅩⅥ号住居址実測図……………91
第22図 青磁実測図……………52	第55図 1号住居址出土土器実測図……………92
第23図 青磁・白磁実測図……………53	第56図 Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ号住居址 出土土器実測図……………93
第24図 染付実測図Ⅰ……………55	第57図 Ⅴ・Ⅳ号住居址出土土器実測図……………94
第25図 染付実測図Ⅱ……………56	第58図 Ⅵ号住居址出土土器実測図……………95
第26図 渦釜・すり鉢その他実測図……………58	第59図 Ⅵ・ⅩⅣ・Ⅶ号住居址出土土器実測図……………96
第27図 石臼・かんざしその他実測図……………59	第60図 Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅢ号内土器実測図……………97
第28図 周辺地形・字名図……………61	第61図 ⅩⅥ号住居址出土土器実測図……………98
第29図 成川式土器実測図……………63	第62図 集石①・②実測図……………100
第30図 D-13区土器出土状況……………64	第63図 集石⑪・⑫・⑬実測図……………101
第31図 P-13区土器出土状況……………64	第64図 集石⑭・⑮実測図……………102
第32図 Ⅰ類土器出土状況……………65	第65図 集石④・⑦・⑧・⑨・⑰実測図……………103
第33図 Ⅰ類土器出土状況……………65	

第66図	集石⑥・⑩実測図……………104	第168図	ユニット別遺物配置図 (25～38ユニット)……………249
第67図	集石③・⑤実測図……………105	第169図	第29ユニット石材別分布図……………251・251′
第68図	集石⑬実測図……………106	第170図	第30ユニット石材別分布図……………253・253′
第69図	④連穴土坑実測図……………111	第171図	第32ユニット石材別分布図……………255・255′
第70図	住居址と重複する④連穴土坑……………112	第172図	第35ユニット石材別分布図……………258・258′
第71図	住居址と重複する④連穴土坑……………113	第173図	第37ユニット石材別分布図……………259・259′
第72～79図	④連穴土坑, ⑥土坑実測図…114～121	第174図	第30ユニット礫分布図……………261
第80～83図	土坑出土土器実測図……………122～125	第175図	第32ユニット礫分布図……………263
第84図	土器分類による分布状況……………129	第176図	第37ユニット礫分布図……………265
第85・86図	I類土器出土状況……………131	第177図	第1～17ユニット器種別分布図……………267
第87～104図	I類土器実測図……………143～160	第178図	第1～4ユニット出土石器実測図……………269
第105図	II類土器実測図……………161	第179図	第5ユニット出土石器実測図……………269
第106～111図	III A類土器実測図……………162～167	第180図	第6ユニット出土石器実測図……………270
第112～113図	III B類土器実測図……………168～169	第181図	第7ユニット出土石器実測図……………271
第114～122図	IV A類土器実測図……………170～178	第182図	第8ユニット出土石器実測図……………272
第123～129図	IV B類土器実測図……………179～185	第183図	第9ユニット出土石器実測図……………273
第130～133図	V類土器実測図……………186～189	第184図	第10ユニット出土石器実測図……………273
第134図	VI類土器実測図……………190	第185図	第11ユニット出土石器実測図……………274
第135図	VII類土器実測図……………191	第186図	第12ユニット出土石器実測図……………275
第136～138図	VIII A類土器実測図……………192～194	第187図	第13ユニット出土石器実測図……………275
第139～142図	VIII B類土器実測図……………195～198	第188図	第15ユニット出土石器実測図……………277
第143図	IX類土器実測図……………199	第189図	第16ユニット出土石器実測図……………278
第144～146図	X類土器実測図……………200～202	第190図	第17ユニット出土石器実測図……………279
第147図	石器実測図(石鏃)……………208	第191図	第18ユニット器種別分布図……………280
第148～151図	石器実測図(石斧)……………212～215	第192図	第18ユニット出土石器実測図……………281
第152図	石器実測図(石匙・削器I)……………218	第193図	第19ユニット器種別分布図……………282
第153図	石器実測図(削器II)……………219	第194～196図	第19ユニット出土 石器実測図……………283～285
第154図	石器実測図(剝片)……………220	第197図	第20ユニット器種別分布図……………286
第155図	石器実測図(石核)……………221	第198図	第20ユニット出土石器実測図……………287
第156～160図	石器実測図(磨石)……………224～228	第199図	第21ユニット器種別分布図……………289
第161～163図	石器実測図(石皿)……………230～232	第200～206図	第21ユニット出土 石器実測図……………290～296
第165図	円盤状軽石製品出土状況……………234	第207図	第22ユニット器種別分布図……………297
	III層出土の穿のある土製品実測図……………234		
第166図	ユニット配置図……………246		
第167図	ユニット別遺物配置図(1～18ユニット)……………247		

第208～212図 第22ユニット出土	第303～304図 第38ユニット出土
石器実測図……………298～302	石器実測図……………409・410
第213図 第24ユニット器種別分布図……………303	第305～307図 槌石実測図……………419～421
第214図 第24ユニット出土石器実測図……………304	第308図 大型加工台形様石実測図……………424
第215図 第25ユニット器種別分布図……………306	第309図 磨製石斧実測図……………425
第216～220図 第25ユニット出土	第310図 石鏃実測図……………426
石器実測図……………307～311	第311図 ナイフ形石器実測図……………426
第221図 第26ユニット器種別分布図……………312	第312図 第30・32・37ユニット
第222～227図 第26ユニット出土	接合資料の分布図……………427
石器実測図……………313～318	第313～315図 第32ユニット出土石器
第228図 第28ユニット器種別分布図……………320	および接合図……………429～431
第229図 第28ユニット出土石器実測図……………321	第316図 第37ユニット出土石器
第230図 第29ユニット器種別分布図……………323	および接合図……………432
第231～260図 第29ユニット出土	第317図 第30・32・37ユニット
石器実測図……………326～355	接合資料の分布図……………433
第261図 第30ユニット器種別分布図……………357	第318図 第32ユニット出土石器
第262～270図 第30ユニット出土	および接合図No.5資料……………435
石器実測図……………360～368	
第271図 第31ユニット器種別分布図……………369	
第272図 第31ユニット出土石器実測図……………371	
第273図 第32ユニット器種別分布図……………373	
第274～288図 第32ユニット出土	
石器実測図……………375～389	
第289図 第33ユニット器種別分布図……………391	
第290図 第34ユニット器種別分布図……………392	
第291図 第34ユニット出土石器実測図……………393	
第292図 第35ユニット器種別分布図……………395	
第293図 第35ユニット出土石器実測図……………396	
第294図 第36ユニット器種別分布図……………398	
第295～296図 第36ユニット出土	
石器実測図……………399・400	
第297図 第37ユニット器種別分布図……………401	
第298～301図 第37ユニット出土	
石器実測図……………403～406	
第302図 第38ユニット器種別分布図……………408	

## 表 目 次

第1表 加栗山遺跡の周辺遺跡一覧表…………… 25	第34表 第11ユニット出土石器一覧表……………441
第2表 土坑別関連資料……………126～128	第35表 第12ユニット出土石器一覧表……………441
第3表 土器一覧表……………203～205	第36表 第13ユニット出土石器一覧表……………441
第4表 石器一覧表……………207	第37表 第14ユニット出土石器一覧表……………441
第5表 石器一覧表……………210	第38表 第15ユニット出土石器一覧表……………441
第6表 石器一覧表……………216	第39表 第16ユニット出土石器一覧表……………441
第7表 石器一覧表……………223	第40表 第17ユニット出土石器一覧表……………441
第8表 石器一覧表……………229	第41表 第18ユニット出土石器一覧表……442・443
第9表 住居址一覧表……………238	第42表 第19ユニット出土石器一覧表……443・444
第10表 第18ユニット細石刃分類表……………278	第43表 第20ユニット出土石器一覧表……………444
第11表 第19ユニット細石刃分類表……………285	第44表 第21ユニット出土石器一覧表……444～448
第12表 第21ユニット細石刃分類表……………288	第45表 第22ユニット出土石器一覧表……448～450
第13表 第22ユニット細石刃分類表……………296	第46表 第23ユニット出土石器一覧表……………450
第14表 第24ユニット細石刃分類表……………305	第47表 第24ユニット出土石器一覧表……………450
第15表 第25ユニット細石刃分類表……………305	第48表 第25ユニット出土石器一覧表……451・452
第16表 第26ユニット細石刃分類表……………319	第49表 第26ユニット出土石器一覧表……452・453
第17表 第29ユニット細石刃分類表……………356	第50表 第27ユニット出土石器一覧表……………453
第18表 第30ユニット細石刃分類表……………370	第51表 第28ユニット出土石器一覧表……453・454
第19表 第31ユニット細石刃分類表……………372	第52表 第29ユニット出土石器一覧表……454～460
第20表 第32ユニット細石刃分類表……………372	第53表 第30ユニット出土石器一覧表……460～464
第21表 第35ユニット細石刃分類表……………397	第54表 第31ユニット出土石器一覧表……464・465
第22表 第37ユニット細石刃分類表……………407	第55表 第32ユニット出土石器一覧表……465～470
第23表 ユニット別石材組成表……………412	第56表 第33ユニット出土石器一覧表……………470
第24表 ユニット別石器組成表……………413	第57表 第34ユニット出土石器一覧表……………471
第25表 細石刃石材別分類表……………416	第58表 第35ユニット出土石器一覧表……………471
第26表 細石刃分類表……………417	第59表 第36ユニット出土石器一覧表……………471
第27表 第1～4ユニット出土石器一覧表……440	第60表 第37ユニット出土石器一覧表……471～477
第28表 第5ユニット出土石器一覧表……………440	第61表 第38ユニット出土石器一覧表……………477
第29表 第6ユニット出土石器一覧表……………440	
第30表 第7ユニット出土石器一覧表……………440	
第31表 第8ユニット出土石器一覧表……………440	
第32表 第9ユニット出土石器一覧表……………440	
第33表 第10ユニット出土石器一覧表……………440	

## 図版目次

図版1	加栗山遺跡と周辺地形(航空写真)……	1	図版26上	XIV号住居址・㊤連穴土城(南より)	26
図版2	加栗山遺跡全景……	2	下	XIII号住居址(南より)……	26
図版3	曲輪・腰曲輪……	3	図版27	XVI号住居址(西より)……	27
図版4	土層断面・ピット群……	4	図版28上	集石① 直上より……	28
図版5	堀Ⅰ……	5	下	集石①……	28
図版6	堀Ⅱ・出入口・腰曲輪・堀Ⅱ断面……	6	図版29上	集石②……	29
図版7	棚列……	7	下	集石③……	29
図版8	溝状遺構……	8	図版30上	集石⑬……	30
図版9	炉址・湯釜出土状況……	9	下	集石④……	30
図版10	礫溜り・井戸……	10	図版31上	集石⑥……	31
図版11	柱穴・土師器出土状況……	11	下	集石⑩……	31
図版12	土師器……	12	図版32上	㊤連穴土城……	32
図版13	青磁……	13	下	㊤連穴土城……	32
図版14	青磁・白磁……	14	図版33上	㊤連穴土城・㊦土城……	33
図版15	染付……	15	下	㊤連穴土城(VII号住居址)……	33
図版16	湯釜・すり鉢・その他……	16	図版34上	㊤連穴土城・㊦土城……	34
図版17	石臼・こうがい……	17	下	㊤連穴土城60の断面……	34
図版18上	成川式土器……	18	図版35上	発掘風景……	35
下	高坏・甕の底部……	18	下	現地説明会の風景……	35
図版19上	竪穴住居址群(西から)……	19	図版36上	集石遺構の取り上げ風景……	36
下	竪穴住居址群と集石①・②(西から)……	19	下	千浦先生土壌サンプリング……	36
図版20上	I号住居址(南より)……	20	図版37上	㊤土城75の焼土及びその断面……	37
下	II号住居址(西より)……	20	下	I類(石坂式)土器出土状況……	37
図版21上	III号住居址(東より)……	21	図版38上	土器出土状況……	38
下	IV号住居址(北より)……	21	下	土器出土状況……	38
図版22上	V号住居址(北より)……	22	図版39上	軽石製頑具出土状況(III号住)……	39
下	VI号住居址……	22	下	石製装身具出土状況(IV号住)……	39
図版23上	VII号住居址(西より)……	23	図版40上	軽石製陰陽石出土状況(XVI号住)……	40
下	VII号住居址・㊤連穴土城(東より)……	23	下	石皿及び土器出土状況(VII号住)……	40
図版24上	VIII・IX号住居址(北より)……	24	図版41	加栗山遺跡出土のI類土器……	41
下	VIII・IX号住居址と㊤連穴土城(北より)……	24	図版42	加栗山遺跡出土のI類土器……	42
図版25上	X号住居址(南より)……	25	図版43	加栗山遺跡出土のI類土器……	43
下	XI・XII号住居址(南東より)……	25	図版44	加栗山遺跡出土のI類土器……	44

図版45	加栗山遺跡出土のⅠ類土器	45	図版67下	ⅧA類土器	67
図版46	加栗山遺跡出土のⅠ類土器	46	図版68上	ⅧB類土器	68
図版47	加栗山遺跡出土のⅠ類土器	47	下	ⅧB類土器	68
図版48	加栗山遺跡出土のⅠ類土器	48	図版69上	Ⅸ類土器	69
図版49	加栗山遺跡出土のⅠ類土器	49	下	Ⅸ類土器	69
図版50	Ⅱ・Ⅲ類土器	50	図版70上	Ⅹ類土器	70
図版51	Ⅲ類土器	51	下	Ⅹ類土器	70
図版52	ⅣA類土器	52	図版71上	住居址内出土土器	71
図版53	ⅣA類土器	53	下	住居址内出土土器	71
図版54	角筒土器	54	図版72上	住居址内出土土器	72
図版55上	ⅢA類土器	55	下	住居址内出土土器	72
下	ⅢA類土器	55	図版73上	住居址内出土土器	73
図版56上	ⅢA類土器	56	下	住居址内出土土器	73
下	ⅢA類土器	56	図版74上	住居址内出土土器	74
図版57上	ⅢB類土器	57	下	土城内出土土器	74
下	ⅢB類土器	57	図版75上	土城内出土土器	75
図版58上	ⅣA類土器	58	下	土城内出土土器	75
下	ⅣA類土器	58	図版76	土城内出土土器	76
図版59上	ⅣA類土器	59	図版77	Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器	77
下	ⅣA類土器	59	図版78上	石鏃	78
図版60上	ⅣA類土器	60	下	磨製石斧	78
下	ⅣB類土器	60	図版79	磨製石斧・石核	79
図版61上	ⅣB類土器	61	図版80上	局部磨製・打製石斧	80
下	ⅣB類土器	61	下	石匙・削器	80
図版62上	ⅣB類土器	62	図版81上	削器・剝片	81
下	ⅣB類土器	62	下	剝片	81
図版63上	ⅣB類土器	63	図版82上	磨石	82
下	ⅣB類土器	63	下	磨石	82
図版64上	Ⅴ類土器	64	図版83上	石皿	83
下	Ⅴ類土器	64	下	石皿	83
図版65上	Ⅴ類土器	65	図版84上	磨石	84
下	Ⅴ類土器	65	下	石皿	84
図版66上	Ⅵ類土器	66	図版85上	磨石	85
下	Ⅶ類土器	66	下	磨石	85
図版67上	ⅦA類土器	67	図版86	円盤状軽石製品	86

図版87	特殊遺物……………87	図版105上	第21ユニット出土石器……………105
図版88上	遺物出土状況……………88	下	第21ユニット出土石器……………105
下	第36・38ユニット遺物出土状況……………88	図版106上	第21ユニット出土石器……………106
図版89上	遺物出土状況……………89	下	第21ユニット出土石器……………106
下	遺物・礫出土状況……………89	図版107上	第21ユニット出土石器……………107
図版90上	大型加工台形様石出土状況……………90	下	第21ユニット出土石器……………107
下	大型加工台形様石出土状況……………90	図版108上	第21ユニット出土石器……………108
図版91上	細石刃核出土状況……………91	下	第22ユニット出土石器……………108
下	細石刃核出土状況……………91	図版109上	第22ユニット出土石器……………109
図版92上	大型加工台形様石出土状況……………92	下	第22ユニット出土石器……………109
下	磨製石斧出土状況……………92	図版110上	第22ユニット出土石器……………110
図版93上	細石器文化石鏃出土状況……………93	下	第22ユニット出土石器……………110
下	石槌・礫出土状況……………93	図版111上	第24ユニット出土石器……………111
図版94上	凝灰岩質剥片出土状況……………94	下	第25ユニット出土石器……………111
下	第31ユニット遺物出土状況……………94	図版112上	第25ユニット出土石器……………112
図版95上	第1～4ユニット出土石器……………95	下	第25ユニット出土石器……………112
下	第5ユニット出土石器……………95	図版113上	第25ユニット出土石器……………113
図版96上	第6ユニット出土石器……………96	下	第26ユニット出土石器……………113
下	第7ユニット出土石器……………96	図版114上	第26ユニット出土石器……………114
図版97上	第8ユニット出土石器……………97	下	第26ユニット出土石器……………114
下	第9ユニット出土石器……………97	図版115上	第26ユニット出土石器……………115
図版98上	第10ユニット出土石器……………98	下	第26ユニット出土石器……………115
下	第11ユニット出土石器……………98	図版116上	第26ユニット出土石器……………116
図版99上	第12ユニット出土石器……………99	下	第26ユニット出土石器……………116
下	第13ユニット出土石器……………99	図版117上	第28ユニット出土石器……………117
図版100上	第15ユニット出土石器……………100	下	第29ユニット出土石器……………117
下	第16ユニット出土石器……………100	図版118上	第29ユニット出土石器……………118
図版101上	第17ユニット出土石器……………101	下	第29ユニット出土石器……………118
下	第18ユニット出土石器……………101	図版119上	第29ユニット出土石器……………119
図版102上	第19ユニット出土石器……………102	下	第29ユニット出土石器……………119
下	大型加工台形様石……………102	図版120上	第29ユニット出土石器……………120
図版103上	第19ユニット出土石器……………103	下	第29ユニット出土石器……………120
下	第19ユニット出土石器……………103	図版121上	第29ユニット出土石器……………121
図版104上	第19ユニット出土石器……………104	下	第29ユニット出土石器……………121
下	第20ユニット出土石器……………104	図版122上	第29ユニット出土石器……………122



図版122下	第29ユニット出土石器	122	図版140上	第30ユニット出土石器	140
図版123上	第29ユニット出土石器	123	下	第31ユニット出土石器	140
下	第29ユニット出土石器	123	図版141上	第32ユニット出土石器	141
図版124上	第29ユニット出土石器	124	下	第32ユニット出土石器	141
下	第29ユニット出土石器	124	図版142上	第32ユニット出土石器	142
図版125上	第29ユニット出土石器	125	下	第32ユニット出土石器	142
下	第29ユニット出土石器	125	図版143上	第32ユニット出土石器	143
図版126上	第29ユニット出土石器	126	下	第32ユニット出土石器	143
下	第29ユニット出土石器	126	図版144上	第32ユニット出土石器	144
図版127上	第29ユニット出土石器	127	下	第32ユニット出土石器	144
下	第29ユニット出土石器	127	図版145上	第32ユニット出土石器	145
図版128上	第29ユニット出土石器	128	下	第32ユニット出土石器	145
下	第29ユニット出土石器	128	図版146上	第32ユニット出土石器	146
図版129上	第29ユニット出土石器	129	下	第32ユニット出土石器	146
下	第29ユニット出土石器	129	図版147上	第35ユニット出土石器	147
図版130上	第29ユニット出土石器	130	下	第36ユニット出土石器	147
下	第29ユニット出土石器	130	図版148上	第37ユニット出土石器	148
図版131上	第29ユニット出土石器	131	下	第37ユニット出土石器	148
下	第29ユニット出土石器	131	図版149上	第37ユニット出土石器	149
図版132上	第29ユニット出土石器	132	下	第37ユニット出土石器	149
下	第29ユニット出土石器	132	図版150上	第37ユニット出土石器	150
図版133上	第29ユニット出土石器	133	下	第37ユニット出土石器	150
下	第29ユニット出土石器	133	図版151上	第38ユニット出土石器	151
図版134上	第30ユニット出土石器	134	下	第38ユニット出土石器	151
下	第30ユニット出土石器	134	図版152	第32ユニット接合資料No. 5	152
図版135上	第30ユニット出土石器	135	図版153上	第32ユニット接合資料No. 1	153
下	第30ユニット出土石器	135	下	第32ユニット接合資料No. 2	153
図版136上	第30ユニット出土石器	136	図版154上	石 鏃	154
下	第30ユニット出土石器	136	下	磨製石斧・ナイフ形石器	154
図版137上	第30ユニット出土石器	137	図版155上	槌 石	155
下	第30ユニット出土石器	137	下	槌 石	155
図版138上	第30ユニット出土石器	138	図版156	槌 石	156
下	第30ユニット出土石器	138			
図版139上	第30ユニット出土石器	139			
下	第30ユニット出土石器	139			

# 第 I 章 序 説

## 1 節 調査に至るまでの経過

九州縦貫自動車道の計画は昭和43年3月に、その整備計画が決定され、つづいて4月には、日本道路公団に対して、加治木～鹿児島区間25kmについて工事施行命令が出された。

これを受けて、県教育委員会は文化庁の指導により、日本道路公団鹿児島工事事務所と連絡のうえ、県内在住の考古学・文化財関係の専門家の協力を得て、昭和43年12月17日～昭和44年1月20日まで、加治木～鹿児島間の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施した。

その後、加治木～鹿児島間の工事着工が具体化したため、県教育委員会文化室（当時）は、昭和47年8月22日、再び分布調査を実施した。以上、2回の分布調査の結果、鹿児島市の区間には、木ノ迫・加治屋園・加栗山・神ノ木山の4遺跡が確認された。

そのため、九州縦貫自動車道建設事業の推進と文化財保護について協議を進めた結果、これらの遺跡については発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

## 2 節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課長	犀川碇吉	(S.49年度)
	〃 課長	宇都 哲	(S.50年度)
	〃 課長	嶋本牧雄	(S.51年度)
	〃 課長	山下典夫	(S.55年度)
企 画	〃 専門員	河野治雄	(S.49～51年度)
	〃 専門員	本蔵久三	(S.49～51・55年度)
	〃 補 佐	有村八朗	(S.49・50年度)
	〃 補 佐	新 時弘	(S.55年度)
調査担当者	〃 研究員	戸崎勝洋	(S.49～51・55年度)
	〃 主 事	青崎和憲	(S.49～51・55年度)
	〃 主 事	立神次郎	(S.50・51・55年度)
	〃 主 事	吉永正史	(S.50・51・55年度)
	〃 主 事	牛ノ浜修	(S.50・51・55年度)
	〃 主 事	長野真一	(S.49・50年度)
	〃 主 事	中村耕治	(S.50・55年度)
	〃 調査員	西田 茂	(S.50・51年度 現 北海道教委)
事 務	〃 係 長	中島敏光	(S.49～51年度)
	〃 係 長	川畑栄造	(S.55年度)

事	務	〃	主 査	安藤幸次 (S.55年度)
		〃	主 事	伊地知千晴 (S.51年度)
		〃	主 事	野村和徳 (S.49・50年度)
		〃	主 事	長山恭子 (S.49～51年度)
		〃	主 事	天辰京子 (S.55年度)

調査の指導にあたっては、考古学分野で河口貞徳(県文化財専門委員)、賀川光夫(別府大学)、三友国五郎(鹿女短)、池水寛治(S.55永眠さる)、小林達雄(文化庁)、小田富士雄(北九州市立歴史資料館)、加藤晋平(筑波大)、稲田孝司(文化庁)の指導をあおぎ、上村俊雄(ラサール)、橘昌信(別府大)の助言をたまわり、歴史分野で五味克夫(鹿大)、分析・同定で石川秀雄(鹿大)、加藤芳朗(静大)、藤原宏志(宮大)、安田喜憲(広大)、千浦美智子(I・C・U)、出雲茂人(県金属センター)、石材鑑定は上竹利彦(県教委)、青・白磁鑑定は亀井明徳(九歴資料館)、保存科学分野で樋口清治・青木繁夫(国立文化財研究所)などの諸先生方の協力をいただき、中島哲郎、井上秀文、若月省吾、吉留秀敏(別府大)、宮田栄二(立正大)、池崎譲二(東北大)等の学生の助力や援助があった。

※名称は順不同、敬称は略させていただきます。

### 3節 調査の経過・日誌抄

遺跡の発掘調査は、事前の分布調査の結果に基づき実施の運びとなった。当初、加栗山遺跡は縄文時代の単純遺跡として遺物包含層の有無や範囲の確認のためトレンチ調査から行った。その結果、中世山城・縄文時代・先土器時代の遺物包含層や遺構などが舌状台地のほぼ全面(一部、縄文時代早期と先土器時代の文化層は、中世山城構築時や現代の耕作によって削除されている部分もあった。)にわたって存在する複合遺跡であることが判明した。そこで、各時代を追って全面調査することとなった。独立した約1万㎡の丘陵における調査方法としては、排土処理、民家への影響などを考慮して、まず台地中心部より北側の中世山城から調査することにした。中世山城に伴う堀や柵列、柱穴群などの遺構が発見された。発掘調査に平行して道路建設工事は着々と進行し、遺跡が立地する台地は孤立した状況に置かれ、工事もあと遺跡地の部分だけとなって来た。そこで、15区以北の中世山城を記録保存のあと、下層の縄文時代早期と先土器時代の遺物包含層の確認調査をし、一部中世山城構築時による文化層の削除箇所のあることが認められた。B区以西の縄文時代早期と先土器時代の調査を実施し、その後、この部分については公団へ受け渡した。さらに調査を継続するなかで、舌状台地に中世山城・縄文時代早期・先土器時代の文化が複合し、しかも大規模な遺跡で学術的にも価値ある貴重な遺跡ということで、鹿児島県史跡調査会から遺跡の永久保存が提起された。そこで、県教委は調査を中止し、文化庁や日本道路公団、鹿児島県史跡調査会と遺跡の永久保存や、その後の遺跡の保存対策、それに伴う路線変更等について協議を重ねた。その結果、調査員の増員や分析・科学処理による保存など完全記録保存することで、調査の再開となり継続して調査することとなった。以下発掘調査の経過については、月毎に略述し日誌抄とした。

調査期間は、昭和49年2月17日より昭和51年10月16日までの長期間の調査となった。

調 査 の 経 過	
S 50 ・ 2 月	<p>17日、加栗山遺跡発掘調査開始。発掘用具運搬、点検、縦貫道路センターラインのSTA200～STA201を結ぶ横線を基準に東西南北10m四方のグリッド設定。10×2mのテストトレンチを設け遺跡の範囲及び遺物包含層の把握に努め掘り下げ実施。台地中央部のF-10・11とD-19・E-19区に表土層の落ち込みB-17の青磁片の出土により中世山城に係わる遺跡としての検討を要した。</p>
3 月	<p>範囲確認のためのトレンチ調査。表層に青磁・瓦器や縄文土器片出土。K-3区のX層の暗褐色粘質土層中に黒曜石製の細石核、剥片が出土し旧石器文化も当台地に残存することが判明した。通称馬場といわれる東側の一段低い場所つまり腰廓のE・F-19区に巾5m、深さ3mの箱掘り状の遺構検出。E-19の遺構の延長を確認するため、I-11区を掘り下げ同様な落ち込みを検出し空堀Ⅱと呼ぶ。台地中央部を東西に走る(E-10・11, F-10・11, G-11)空堀Ⅰを検出する。</p> <p>加栗山遺跡周辺を字絵図と照し合せ、字絵図中に「楡山」「野久保」「弓場」などの字名が記載され、加栗山遺跡は中世山城に関する遺跡ではないかと提起する。</p> <p>11日一五味克夫(鹿大)先生に文献資料の検討及び指導を願う。教育次長現地へ。</p>
4 月	<p>範囲確認のためのトレンチ調査及び一部グリッドの全面調査。青磁、土師器、縄文式土器片出土。空堀Ⅰの検出作業。空堀Ⅰの北側に堀と平行に柵と思われる2列のピット列を確認。炉址も検出。腰廓に空堀Ⅱが構築され、小溝や道路敷も確認した。空堀Ⅱは深さ2.7～3m。空堀Ⅰの掘り下げ、排土処理にてこずる。</p> <p>9区以南は中世山城遺構のピットや遺物量は少ない。但し、I-6・7, J-6・7に土墨らしい盛土が認められる。</p>
5 月	<p>範囲確認のためのトレンチ調査。F-15, E-15・16区は中世山城構築時にⅡ～Ⅴ層は削除され遺物も攪乱して出土している。廓Ⅰの全面調査、D-17区以北の廓Ⅰの部分、特にD-17付近とA・B-20区は表層直下がX層が露呈し、細石器文化の遺物も出土する。廓Ⅰにピット群やコウガイが出土。腰廓から廓ⅠとⅡへ通じる登り口検出。排土処理等で台地北側半分を手始めに全面剥ぎ取りを行い、中世山城の遺構検出に努めることとなった。</p> <p>2日一五味克夫先生、6日一石川秀雄先生、23日一河口貞徳先生現地指導。</p>
6 月	<p>範囲確認のトレンチ調査によって加栗山遺跡は中世山城、Ⅴ層に縄文時代早期、Ⅺ層に旧石器時代の複合遺跡であることを確認した。廓Ⅰの全面調査、清掃、平板実測、写真撮影など行う。廓Ⅰ北側の土墨を切断し確認を行った。高さ1.6m巾4mである。台地北側半分の全掘終了。廓Ⅱの空堀Ⅰ、腰廓の空堀Ⅱ、廓Ⅰの土墨、出入口、排水溝、古道、柵列、ピット群などを検出した。遺物には青磁・白磁・瓦器・土師・コウ</p>

6 月	<p>ガイ等出土した。その他、縄文式土器や細石器も出土している。第1回現地公開を行う。</p> <p>3日—五味先生現地指導、6日・9日—小田富士雄先生、9日—河口貞徳先生現地指導。</p>
7 月	<p>中世山城遺構実測や縄文時代・旧石器時代の調査を平行して随時実施した。台地を南北に土層断面図作成の為、廓Ⅰにテストトレンチを設定、B・C—16・17のⅤ層に縄文式土器多数出土、B—19に細石器の文化層が表層直下に認められた。16区～20区のA・B区に細石器の遺物が多数出土し、数ユニットが検出された。B—17区より大型の磨石が出土した。Ⅱ層以下の調査で台地中央部のⅢ層に曾畑式土器の分布を見た。縄文時代早期の竪穴方形住居址Ⅰ・Ⅱ号が柱穴や溝を伴って発見された。</p> <p>24日—小林達雄先生現地指導。</p>
8 月	<p>台地南側中世山城残部の全面調査開始。縄文早期・旧石器文化層の実測。住居址検出作業。住居址2基発見、F—13区を中心に土塚（連穴土塚・土塚）が発見、縄文時代早期の吉田・前平式土器を中心に石斧など多量に出土した。廓Ⅰの南側と廓Ⅱと腰廓に近い入口部分では中世山城遺構の構築時に縄文早期と先土器文化層は一部攪乱や削除されていることが判明した。</p> <p>2日—河口貞徳先生現地指導。11日に第2回目の現地説明会を開く。</p>
9 月	<p>縄文時代の包含層及び遺構検出作業。竪穴方形住居址5基発見。縄文時代早期の吉田、前平式土器の分布は台地の北側に、石坂式土器は南側に2分されて分布している。その他、集石も数箇所確認。軽石製円盤が3枚出土。H—8に不定形の竪穴式住居も発見され、遺物の分布から石坂式土器に伴うものか。</p> <p>2日—河口貞徳先生現地指導。南日本新聞社、日本道路公団、三井建設、徳沢建設関係現地へ。</p>
10 月	<p>縄文時代の包含層及び遺構検出作業。竪穴式住居址が新たに8基発見され、検出作業Ⅳ号住居址内より軽石製頑具、Ⅵ号住居址内よりペンダントが出土。</p> <p>7日—河口貞徳先生現地指導。</p>
11 月	<p>縄文時代の遺物包含層及び遺構検出作業。8・9区以南は遺物包含層は薄くなり集石4基を除いて、遺物の分布はほとんど見ない。住居址Ⅶ号・Ⅷ号・Ⅳ号と連穴土塚が複合しているが、先後関係は定かでない。集石は礫が一ヶ所にまとめてあるものと、散乱しているものがある。住居址内の遺物は吉田・前平式土器であるがほとんど小片ばかりで床面にへばりついているものは少なく、ほとんどが浮いた状態で検出される。住居址の床面はパミス層まで掘り込んでいる。</p> <p>12日—藤原宏志先生(宮大農学部)プラントオパール同定の為、サンプル採集。29日に現地説明会。海上保安庁(航空基地)による航空写真撮影。マスコミ関係者現地へ。</p>
	<p>縄文時代の遺構検出作業は一部を残しほぼ終了する。排土置場となっていたB—12</p>

12月	<p>～15区と台地南・西側縁辺部の中世山城遺構検出作業。台地縁辺部の西・南・東側に巾30cm、深さ30cmの小溝が台地をめぐっている。遺物は無い。又、遺跡地内のプレハブを民間地を借り移動し、H-7, I-7・8, J-7・8区の未調査部分の調査開始。V層より石坂式土器片出土。正月休みの為、用具点検と各住居址、土坑、集石などの遺構にビニールシートを覆う。</p> <p>16日―河口貞徳先生現地指導。5日―塚田教育次長現地へ。13日―三友国五郎先生現地指導。15日―賀川光夫先生現地指導。29日―安田喜憲先生（広島大）花粉分析同定の為にサンプル採取。</p>
S51 1月	<p>8日作業開始。B-12～15区, H・I-7, I-8, J-7・8区調査継続。特にB-12～15区は10mグリッドを2mグリッドに細分し、綿密に調査する。I・II・III・IV層と攪乱された状態で縄文時代早期の遺物が出土するが、早期包含層の主体はV層である。層位は12区から15区へと高くなり、15区は中世山城の構築時にII～V層は削除されている。</p> <p>28日―鹿屋航空自衛隊のヘリコプターによる航空写真撮影。</p>
2月	<p>遺跡の永久保存が提起され、諸関係機関との協議の為、1日から発掘調査中止。</p>
3月	<p>8日―加栗山遺跡の発掘調査再開。B-12～14区V層に吉田・前平式土器片出土。一部に土層の局部断層を観察する。土器は完形品はなくほとんど小破片である。土壌をフルイにかけて、炭化物や小遺物の確認を行う。H・I-7, I-8, J-7・8, 石坂式土器分布の確認。一部局部断層のある地点も検出。</p> <p>12日・13日―樋口清治先生（東京国立文化財研究所）I・II号集石の科学処理による保存処置の為、現地へ視察。16日～18日―千浦美智子（国際基督教大学考古学センター）住居址・土坑内の植物性炭火物の同定の為、サンプル採集及び指導。19日―河口貞徳先生現地指導。31日―加藤晋平先生（筑波大）現地指導。</p>
4月	<p>竪穴方形住居址、土坑、集石など遺構実測、B-13区に竪穴住居址発見。住居址内に土器片や軽石製陰陽石出土。その他、周囲の排土処理、縄文時代早期の遺構・遺物について全面調査終了。</p> <p>6日・7日―加藤芳郎先生（静岡大）現地指導。</p>
5月	<p>旧石器時代の遺物包含層の本格的調査開始。その前にIV層～IX層の無遺物層、約70cm堆積する黄色バミス層を重機によって削除した。10mグリッド内に2×2mの小グリッドを設定する。1～9区と11～13区の先土器文化層削ぎ。広範囲にわたって細石器の分布を確認した。ただし、11～13区には遺物は出土しない。</p> <p>11日～15日―樋口清治・青木繁夫先生（東京国立文化財研究所）によるF-10の集石IとF-10の集石IIの遺構を薬品による保存取り上げを実施する。時間の関係上、II号については現場の調査員が両先生の指導のもと処置作業を行った。</p> <p>13日―河口貞徳・故池水寛治先生現地指導。</p>

6 月	<p>1～9区の細石器文化の遺物は12ユニットを数え、広範囲に分布する。遺物は遺物包含層の上位から下部まで密に認められ、レンズ状に包含されている。特に29群・30群・32群は遺物の量も多くユニットも広い。遺物には黒曜石・頁岩・砂岩などの細石核、細石刃、剥片、搔器、削器が出土。D-14・15～G区の調査で4ユニットに細石器が分布するが、遺物は少なく点在している。C-13区に石鏃出土。この区の付近は雨期にあたり崖くずれの危険性があり調査終了後、STA201～STA200 +80の20mまでをロープを張るなどして防災対策を講じる。先土器遺物包含層は粘性が強く、水の浸透性に乏しく直射日光によりひび割れを生じたり、雨水が溜ったり流されたりして、細石器類の小さい遺物は現位置を保て得ない状況が時として生じ、作業は困難をきたす。</p> <p>2日・29日—河口貞徳先生指導。</p>
7 月	<p>1～9区の25～35・37群の細石器遺物の検出作業。遺物量も多く足の踏み場もない。各ユニットとも面的に遺物を検出し→1点ずつ番号札記入→10分の1の実測・レベル測定→遺物取り上げのくり返し作業。29～32群に石鏃、30群より磨製石斧と石英の搔器・剥片が発見され特記すべき遺物である。27群・33～34群を結ぶ区より以西は遺物は出土しない。</p> <p>3日—橘昌信先生(別府大学)現地へ。24日—小林達雄先生現地指導。</p>
8 月	<p>H-1～9・K区の各ユニットの検出作業継続。A～C-12～15区のXI層を掘り下げ、遺物は少量で2ユニット発見。C-13区のシラス層までの断面図作成。遺物包含層は、大工道具の「かな」で削るように小型の草かきで数mmずつ掘り下げて遺物を検出する方法を用いているが、細石器自体、特に細石刃やフレイク、チップなどは数mmの小型のものであり、全ての遺物を現位置のまま検出させることは不可能に近い。そこで包含層の掘り下げ時に排土した土を水洗し、フルイにかけて採集することを試みてみた。</p> <p>26日—稲田孝司先生現地指導、上村俊雄先生現地へ。30日—河口貞徳先生現地指導。</p>
9 月	<p>1～9区の12ユニットの遺物検出作業継続。8～11区の旧石器時代遺物包含層の掘り下げ開始。G-10・11区に2ユニットを発見、石鏃4本が出土した。なお、このユニット以南は遺物は全く検出されない。出土遺物の石材には黒曜石、頁岩、チャート、石英、凝灰岩、水晶、安山岩、砂岩などがある。中世山城の腰廓の堀Ⅱの残部の検出作業、堀中には遺物は無い。J-9区で堀の末端となる。</p> <p>17日—河口貞徳先生現地指導。</p>
10 月	<p>1～9区の12ユニットの遺物検出作業継続。遺物を多量に出土するユニットは遺物包含層の上・中・下ともにまんべんなく保存されているが、全般的に下位は量的に少なくなる傾向があるようだ。旧石器時代の各ユニットの出土遺物については、遺物の出土状況は、石器石材の種類に相異点が認められる。</p> <p>16日—加栗山遺跡は、中世山城・縄文時代早期の集落址、先土器時代と複合する遺跡であった。発掘終了。</p>

## 第Ⅱ章 遺跡の位置及び環境

加栗山遺跡が所在する鹿児島市川上町字加栗山及び字野久保は、鹿児島市街地の北西約7kmのところの位置する。

遺跡は緑ヶ丘台地を基部として南へ延びた長さ210m、幅80mの舌状台地に立地する。この台地は、標高約174mを測る基部を最頂部とし、比高差6.7mをもって先端部に傾斜する台地。上面は平坦となる。

本遺跡が立地する舌状台地を中心に地形を概観すれば、台地の西側は鹿児島市最大の河川の甲突川の支流、長井田川によって浸蝕された深い谷が枝状に入り乱れている。しかもこの谷は台地の直下まで迫り、台地とはほぼ垂直な崖となる。谷との比高差約60mを測る。

東側は緩傾斜をもって、精木川によって形成された開析谷ともいえる幅約200mの水田地帯を経て、対岸の吉野台地となる。

南側は舌状台地の先端部で小谷を経て同様な舌状台地を望む。この地点は開析谷が幅100mと、もっとも狭くなる場所である。

一方、北側は傾斜した地形が幅約60mで一たん平坦となるものの、幅200mの窪みを経て再び緑ヶ丘台地へと連なる。

これら台地を形成する地層は、本遺跡側で吉野軽石流を基盤とし、上位に坂元軽石流（シラス）、新期の火山灰層となる。本遺跡の遺構・遺物を包含する層は、すべてシラス層の上位の火山灰層で、無遺物層も含め層が観察できた。

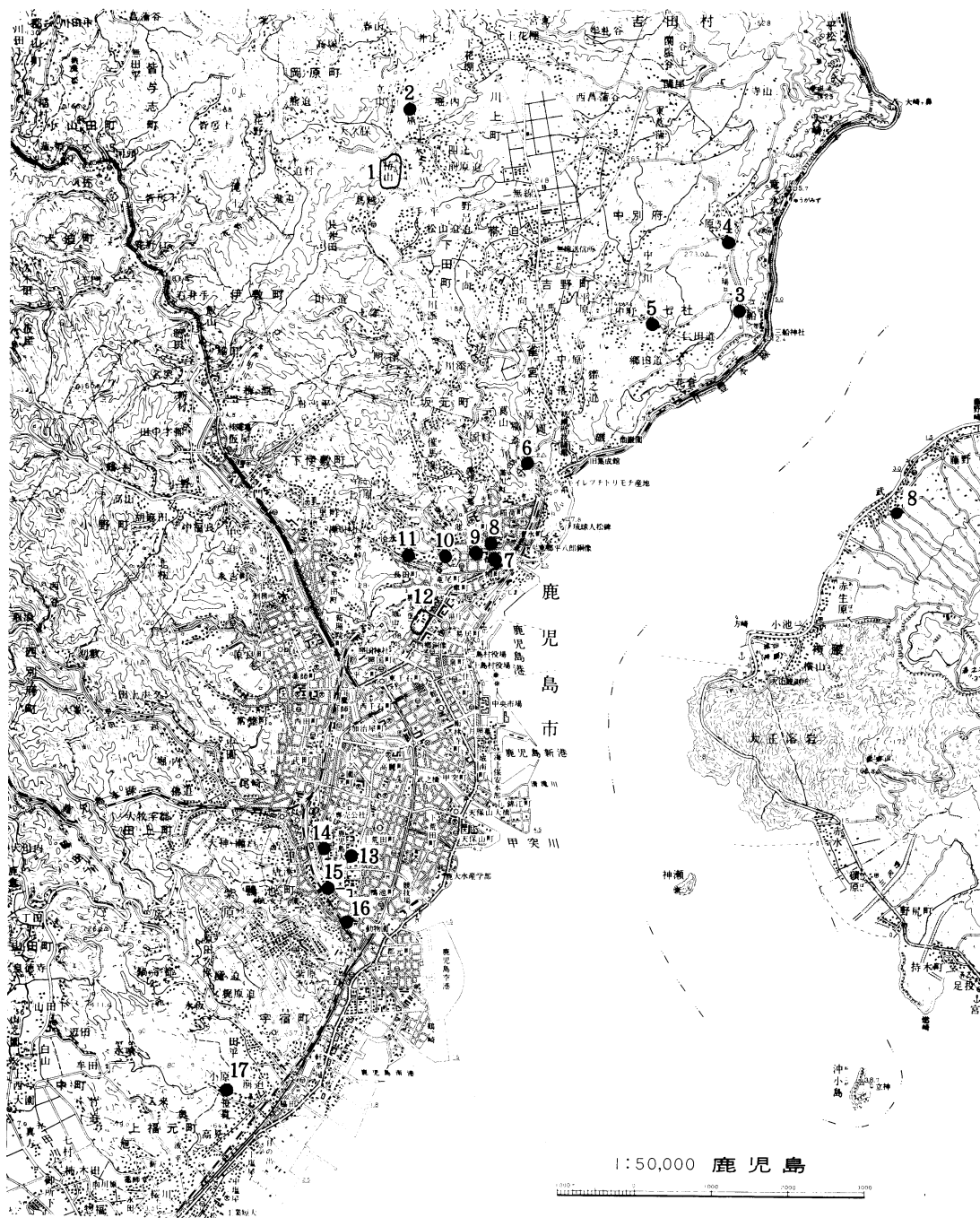
このような地形のため、集落は水田地帯の両端の傾斜面や、わずかに開けた河岸段丘（川上小学校付近）に集中する。近年は吉野台地・緑ヶ丘台地・伊敷台地等に大型団地が造成されたため、台地への人口集中化がみられる。

なお、本遺跡を含む鹿児島市の遺跡は、吉野台地縁辺部及び錦江湾に面する市街地内の微高地、南部の谷山地区に集中して発見され、その多くは河口貞徳氏の势力的な調査研究により考古学的評価がなされてきた。

台地奥部については本遺跡を含め数ヶ所にすぎない。そのうち本遺跡の北東約700mには、加治屋園遺跡が九州縦貫自動車道建設に伴い、加栗山同様に多くの発掘成果をあげた。また、対岸の吉野台地の切通し崖面に黒曜石片が発見されていることから、旧石器時代の遺跡をふくめた未発見の遺跡の存在が推定される。

また、黒曜石原産地である鹿児島市吉野町三船とは直線距離で約5kmである。





1. 加栗山遺跡 2. 加治屋園遺跡 3. 黒曜石原産地 4. 石郷遺跡 5. 七社遺跡  
 6. 前平遺跡 7. 春日町遺跡 8. 若宮神社 9. 大竜小学校 10. 南洲神社遺跡  
 11. 豎野(冷水)竈跡 12. 鶴丸城(鹿児島城)本丸・二の丸跡 13. 釘田遺跡第1地点  
 14. 釘田遺跡第8地点 15. 県立医大遺跡 16. 一の宮遺跡 17. 笹貫遺跡 18. 武貝塚

第1図 加栗山遺跡と位置および周辺遺跡

第1表 加栗山遺跡の周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	地形	遺構・遺物	備考
1	加栗山	鹿児島市川上町	台地		本報告
2	加治屋園	〃 川上町	台地		昭56.3刊
3	三船黒曜石原産地	〃 吉野町三船	火口壁	黒曜石	
4	石郷	〃 吉野町石郷	台地	縄文(阿高・指宿・市来・御領・鐘ヶ崎式)	
5	七社	〃 吉野町七社	台地		
6	前平	〃 吉野町前平	台地	縄文(前平式)	
7	春日町	〃 春日町	微高地	縄文(春日・阿高・指宿・西平・鐘ヶ崎・市来式) 有孔軽石円盤	
8	若宮神社	〃 池之上町	微高地	縄文(西平・市来・御領式)	
9	大竜	〃 池之上町	台地		
10	南洲神社	〃 上竜尾町	台地	縄文(前平式) 石匙・石鎌	
11	豎野(冷水)窯跡	〃 冷水町	台地	窯跡・物原・薩摩焼・窯道具	
12	鶴丸城(本丸・二の丸跡)	〃 城山町	微高地		昭52・53・54年発掘
13	釘田遺跡8地点	〃 鴨池町			
14	釘田遺跡	〃 鴨池町			
15	県立医大	〃 鴨池町	平地	弥生	
16	一の宮	〃 郡元町	微高地	竪穴住居址・弥生式土器・石斧・石鎌・軽石集積	
17	笹貫	〃 宇宿町	山麓	住居址・弥生式土器	
18	武見塚	鹿児島郡桜島町	扇状地	縄文(指宿・市来・鐘ヶ崎・西平式)	昭19・22年発掘

鹿児島県教育委員会「鹿児島県市町村別遺跡地名表」1977.3刊行

- (4) 1915年(大正4)M・Gマンローが発掘
- (5) 出口浩「吉野町七社神社遺跡」鹿児島考古8号 1973年
- (6) 河口貞徳「先史時代・鹿児島のおいたち」1955年 その他
- (7) 河口貞徳「先史時代・鹿児島のおいたち」1955年 その他
- (8) 河口貞徳「先史時代・鹿児島のおいたち」1955年 その他
- (9) 鹿児島市教育委員会「大龍遺跡」1979年
- (10) 河口貞徳「原始時代」鹿児島市史
- (11) 南風病院「豎野(冷水)窯業」1978年
- (15) 河口貞徳「鹿児島県の弥生式諸遺跡について」「鹿児島県考古学会紀要」2号 1952年
- (16) 河口貞徳「一の宮遺跡」鹿児島県文化財調査報告書 1954年 その他
- (17) 河口貞徳「鹿児島県の弥生式諸遺跡について」「鹿児島県考古学会紀要」2号 1952年
- (18) 1944年・京都大学発掘



第2図 加栗山遺跡地形図

## 第三章 調査の概要

加栗山遺跡は南北約 150m，東西約70mのシラスからなる舌状台地である。南・西側はシラスが浸蝕され比高80mの断崖絶崖，東側は台地頂部から一段低い（通称馬場）巾の狭い平坦地となり，それを経て民家あるいは県道へと続く。北側は台地の基部でこれより丘陵が広がる。

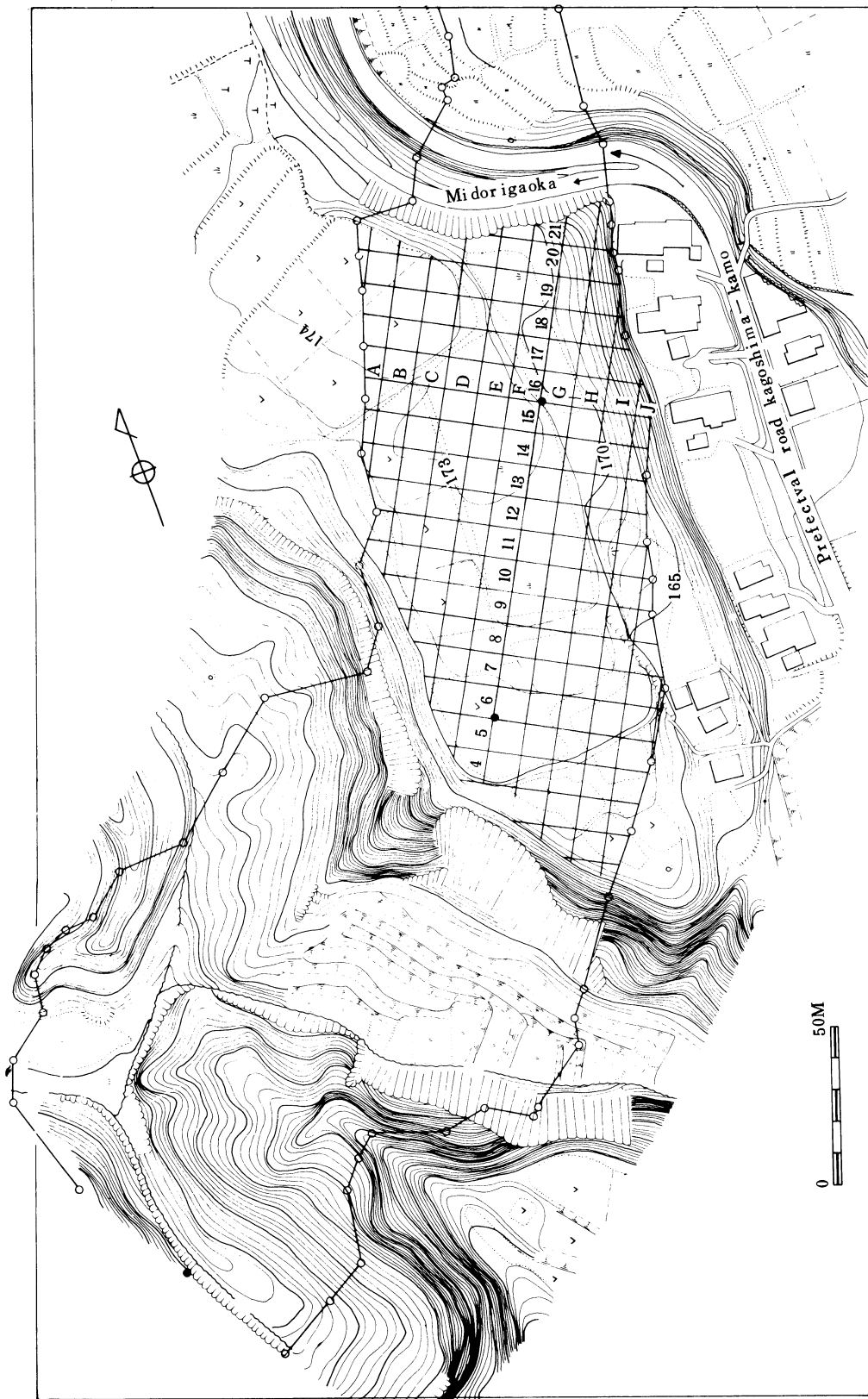
当地は，畑・竹林が繁茂していたので，その伐採から始めた。調査実施にあたって，10m四方を単位に区画を設けることとし，縦貫道路のセンターラインSTA 200杭とSTA 201杭を結び横線を基準とした。この線と平行に10m間隔の横線を各々設け，南北に1～21，それと直角に10m間隔の縦線を設け，A-1，A-2，……C-15と区を設定して区域名を表わすことにした。段取りとして10m毎の10×2mのトレンチ調査を実施し，遺跡の範囲や遺物包含層の把握に努めた。当初，分布調査に基づき縄文時代の遺跡として調査のはこびとなったが，トレンチ調査の結果，D-9区とH-11区を結ぶ巾5m，長さ45m，深さ4mの掘状の落ち込み，東側一段低い平坦部のE-19区に同様の遺構が検出され，又，ピット列や青磁片・茶臼などの出土遺物による中世の遺跡の存在と，V層にはほぼ全面（一部中世遺構で削除）に縄文早期の遺物包含層，J-5区・B-20区（耕作土直下）の第X層のローム層に先土器時代の遺物包含層が確認された。この結果，加栗山遺跡は独立した台地を全面に利用した複合遺跡であることが判明し，全面調査することとなった。全面調査はまず中世山城の検出，第III層の曾畑式，第V層の縄文時代早期，第X層は細石器文化の検出と順時，実施した。

中世山城の遺構としては，空堀・柵列・ピット群・炉址・台地をとりまく溝・出入口など検出され，遺物には青磁・白磁・土師器・瓦器・臼・コウガイなど出土した。縄文時代早期の遺構には，台地の中央部に16基の方形竪穴住居址群・土塚（連穴土塚）群・集石などや，石坂・吉田・前平式土器・石器・軽石製品など多量に出土した。先土器時代の出土遺物には，台地全面に細石核・細石刃・搔器・削器など石器類が大量に出土した。特記すべき遺物に，石皿・石鏃・磨製石斧の資料も得ることができた。

このように遺跡は台地全面に広がる中世山城，縄文時代早期，先土器時代の複合遺跡で各文化の保存状態は極めて良好である遺跡であった。このため遺跡の全面保存・遺跡保存に伴う路線変更並びに設計変更等が提起された。そこで各分野の協力を得て，たとえば保存科学処理等の対策を講じたり，調査員の増員を計りながら，昭和49年2月17日から昭和51年10月17日まで足かけ3ヶ年の長期間を費して遺跡の調査を終了した。

### 1節 層 序

加栗山遺跡における地表面は北から南へとゆるやかな傾斜を呈している。標準的な層序が観察されるのは，遺跡の南側部分である。北側部分においては，山城の築城に際して縄文文化層（第V層）にまで達する削平が行われたために土層の保存状況は良好とはいえなかった。



第3図 加栗山遺跡地形・グリッド配置図

また、当遺跡では、発掘班の観察による土層区分だけでなく、鹿児島大学教育学部（当時）石川秀雄教授や静岡大学農学部加藤芳郎教授らによる火山灰層位学的立場からの土層区分もあわせ行ったが、記述は発掘班による土層区分を中心にし、火山灰層位学的区分を加えていくことにする。

**第Ⅰ層** 表土であり、現在の耕作土である。A-16・17区などの一部には、山城の築城や耕作等により削平されずに残っている黒色火山灰土層があり、これは通称黒ニガと呼ばれているものである。耕作土を第Ⅰa層、黒色火山灰土を第Ⅰb層とした。

（木佐貫原遺跡、山崎A・C遺跡のこの層から土師器を出土することが確認されている。）

**第Ⅱ層** 茶褐色砂質土層である。この層の起源は未同定ではあるが、桜島ではないかとの教示を加藤教授等より受けた。

**第Ⅲ層** 黄褐色砂質土層で、下部にパミスがブロック状にみられるが、連続した層にはならない。この層は、アカホヤ層と幸屋火砕硫対比できるもので、その起源は鬼界カルデラに求められ、6050～6400Y.B.P.の年代が与えられている。

この層からは、第Ⅹ類の土器を包含する。この層までは上部ロームである。

**第Ⅳ層** 青灰色土層である。

**第Ⅴ層** 黒褐色粘質土層である。この層は含まれるパミスの量により、量の少ない上部（第Ⅴa層）と量の多い下部（第Ⅴb層）とに細分した。第Ⅴb層のパミスは第Ⅴa層のそれよりも、むしろ第Ⅵ層のパミスと同質である。

第Ⅳ層と第Ⅴ層とは不整合の状態である。

この層には第Ⅰ×Ⅸ類の土器を包含する。

**第Ⅵ層** 黄褐色パミス層である。

**第Ⅶ層** 黄褐色パミス層であり、緻密で硬い層である。

**第Ⅷ層** 黄褐色パミス層であり、黒色・白色の火山砂を多く含む。

**第Ⅸ層** 黄褐色パミス層であり、火山砂を含む。

第Ⅵ～Ⅸ層のパミスの粒子を比較するとⅦ<Ⅷ<Ⅸ<Ⅵと粗くなる。これらは未同定ではあるが、起源は桜島に求められるのではないかとの教示を加藤教授等から受けた。第Ⅵ～Ⅸ層は無遺物層である。第Ⅳ～Ⅸ層は中部ローム層である。

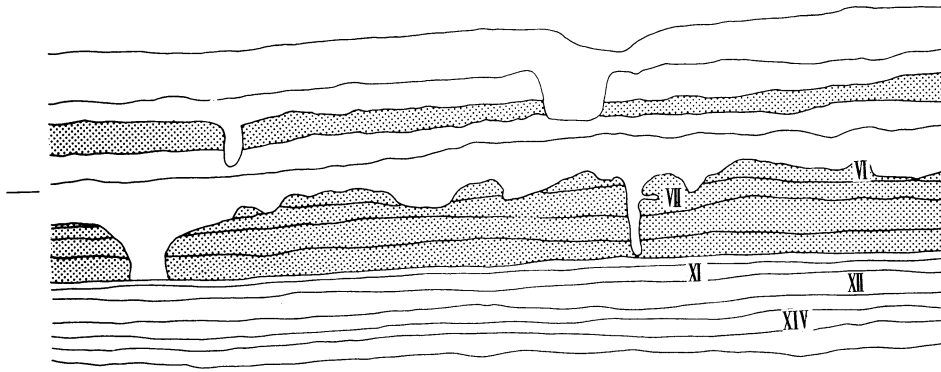
**第Ⅹ層** 赤褐色粘質土層である。これ以下の層は下部ローム層である。

**第Ⅺ層** 暗茶褐色粘質土層である。この層には、細石刃核・細石刃器等の先土器時代の遺物を包含する。又、この腐植土壌の放射性年代測定により、10230±220 Y.B.P.という結果を得た。

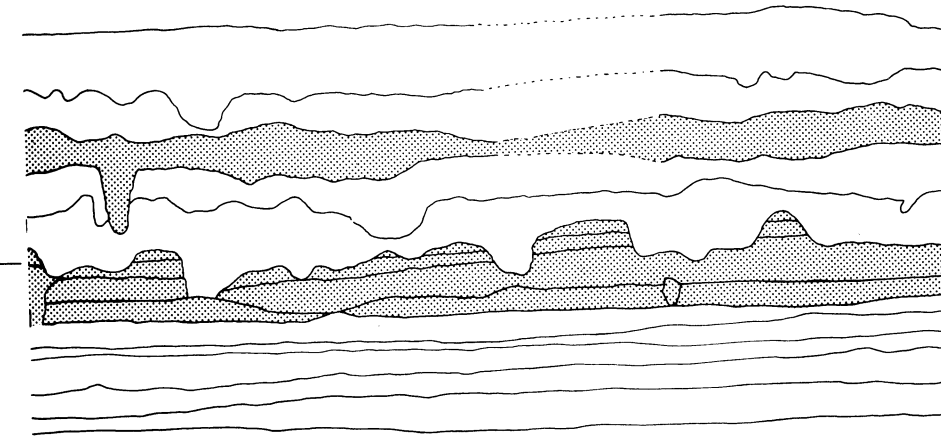
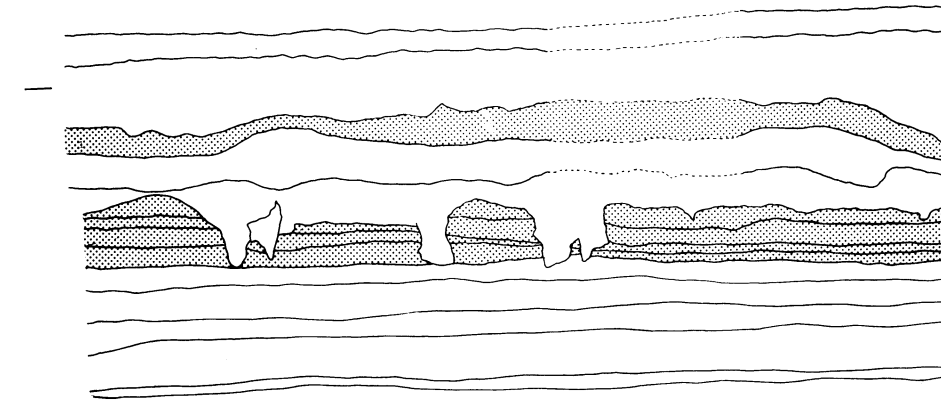
**第Ⅻ層** 茶褐色粘質土層である。

**第Ⅼ層** 暗茶褐色粘質土層である。

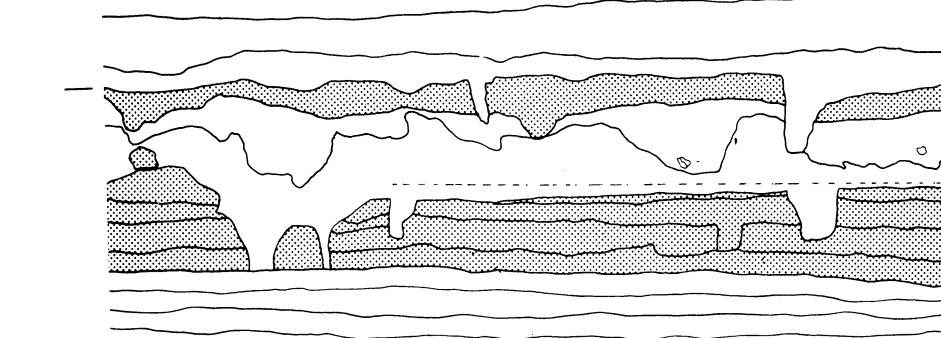
**第Ⅽ層** 茶褐色粘質土層である。

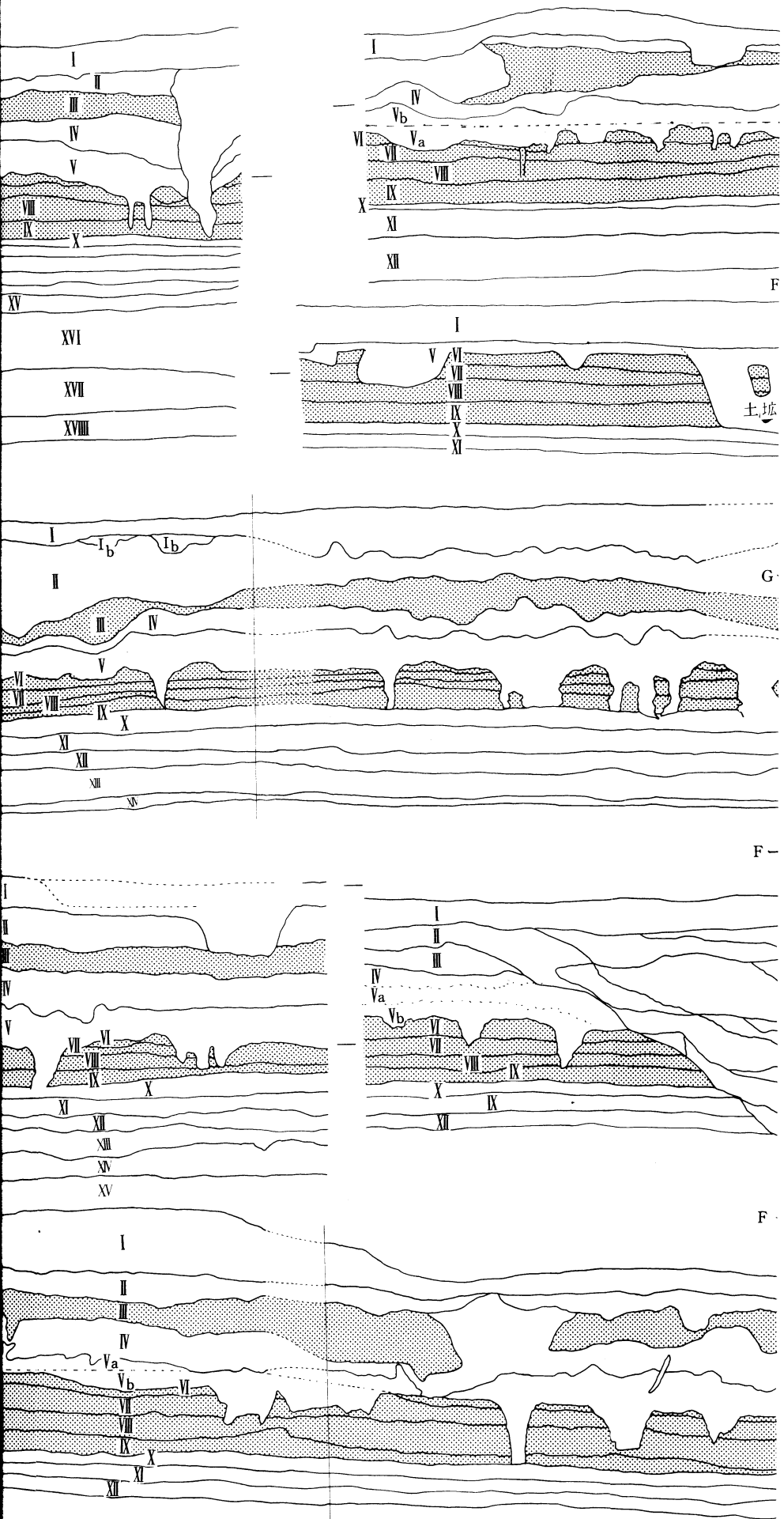


F-5



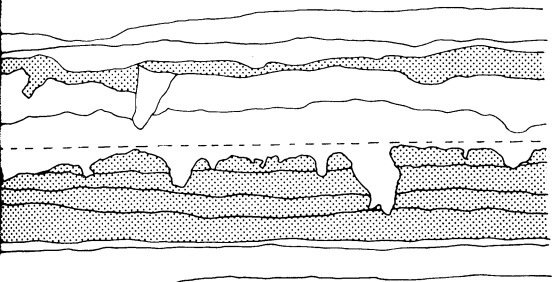
F-9



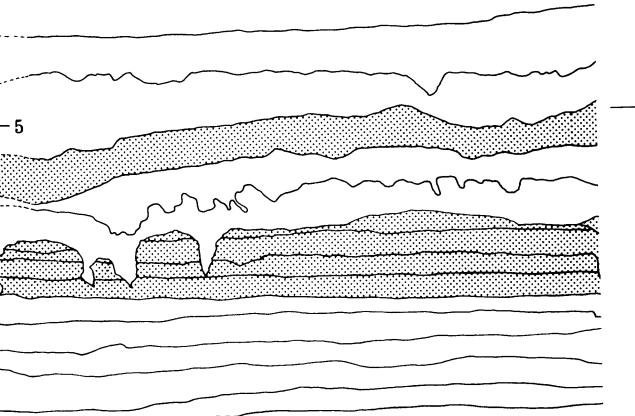
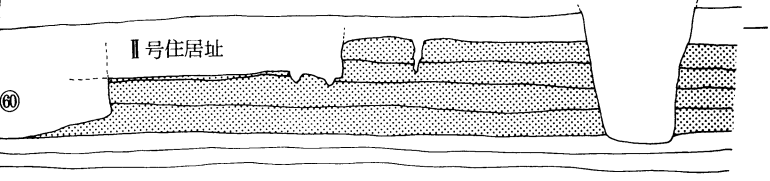


第4图 土层断面图

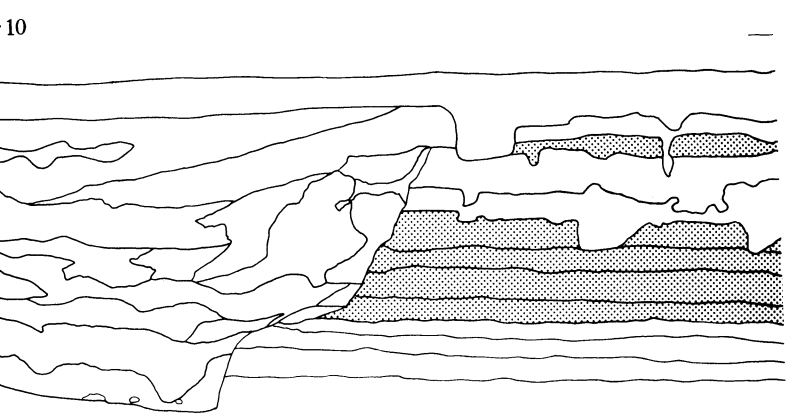




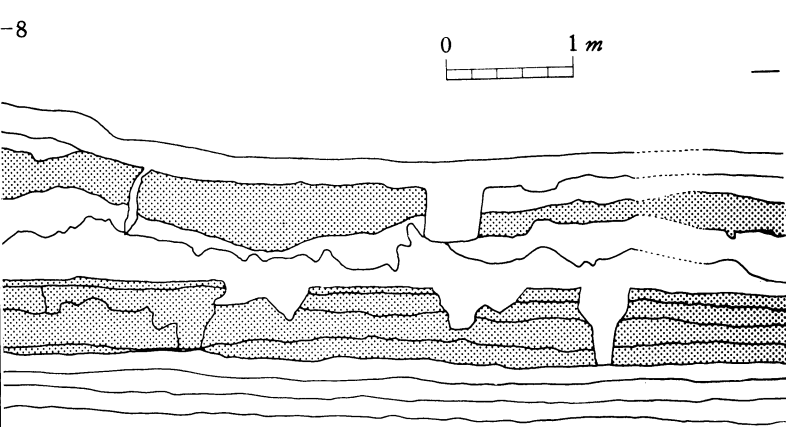
-15



-5



10



-8

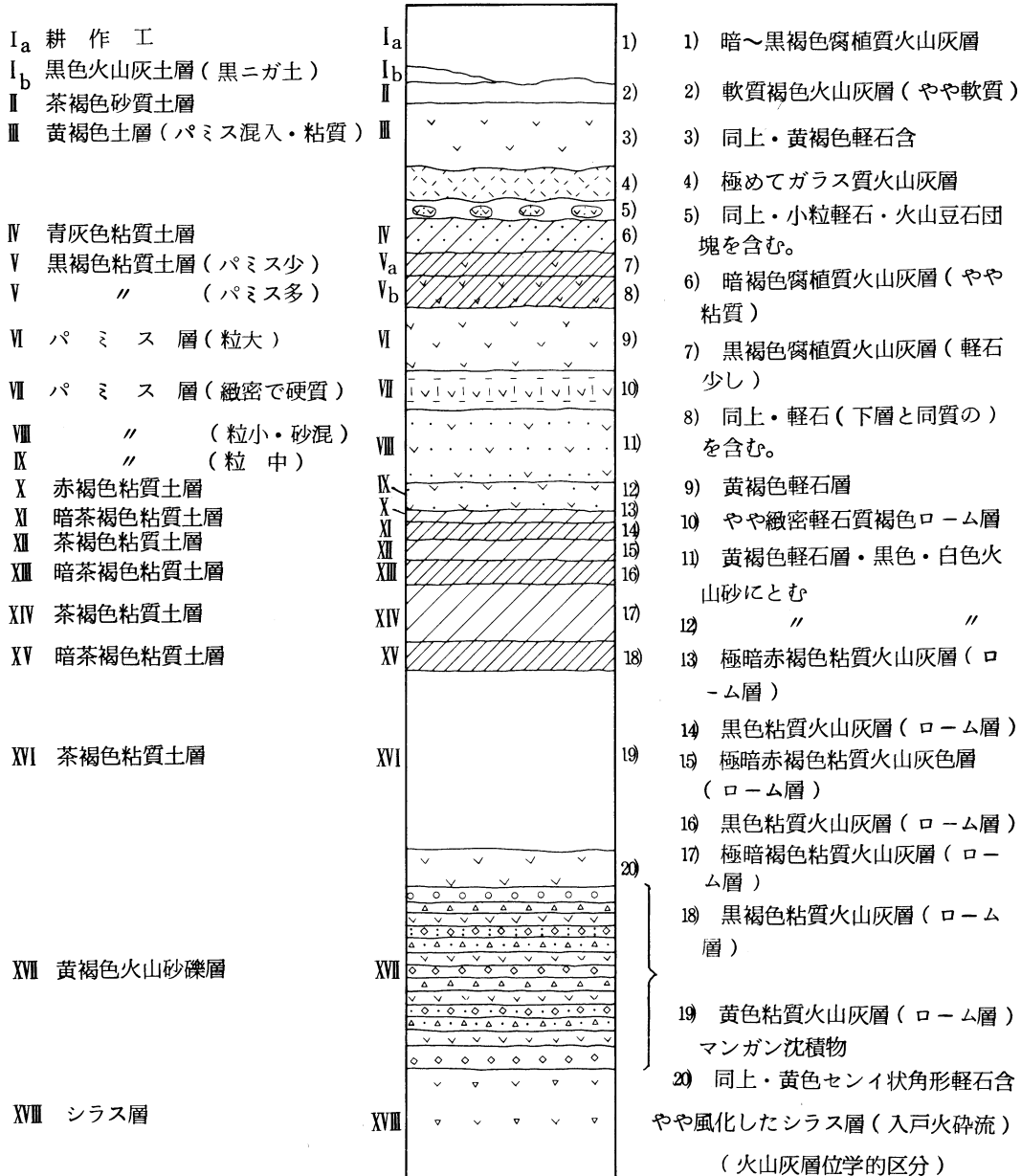
0 1 m

第 XV 層 暗茶褐色粘質土層である。

第 XVI 層 茶褐色粘質土層である。

第 XVII 層 黄褐色火山灰砂礫層である。この層は13層に分層が可能であったが、無遺物層として一括して呼称した。桜島に起源をもつ薄層理火山灰層に対比できるものである。

第 XVIII 層 シラス層であり、これ以下を基盤層として扱った。



第 5 図 加栗山遺跡標準土層柱状図

## 第IV章 中 世 山 城

山城は南側に突出した長さ 210m、幅80mの舌状台地に築城された。

この舌状台地の北西側は比高差約60mのほぼ垂直の開折谷による崖、東南側は緩傾斜の斜面を経て、精木川による小谷を望み、先端部は、この小谷がせばまりネックとなる地形で、自然の要塞となっている。山城はこの地形を最大限に利用し、活用したものである。

山城関係の遺構は台地中央を分断する堀。東側の緩傾斜面を削平し、腰曲輪を作り出し、その曲輪よりの防禦のための箱堀。先端部付近の土塁。台地上には堀と平行の柵列、台地中央より基部にかけてのピット群及び建物遺構、炉址、井戸等が検出された。

遺物は、耕作等により現位置での出土はわずかであったが、土師器、青磁、白磁、染付、瓦器質土器、備前焼の摺鉢、甕、石臼、かんざし等が出土した。

### 1 節 遺 構

#### 1 掘立柱建物跡

台地のほぼ中央部C～F-11～14区及び一段高い基部よりのA～C-16～19区に集中して多数のピット群が検出されたため、数多くの掘立柱建物群の復元が予想されたが、柱穴が連結し、一棟の建物となるものは2棟だけであった。ピット中に礫を置くものもあった。

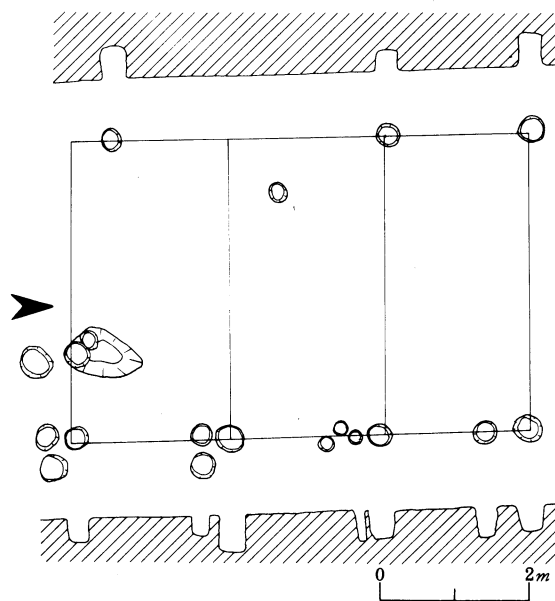
#### A 掘立柱建物 1 (第6図)

D-11・12区に検出されたもので主軸をN-1°-Eにもつ建物である。

柱間は東北方向に2間、北西方向に3間あるが、北西方向の柱穴は検出不能なものもあった。

柱間隔は東北方向の柱穴が検出不能であるので不明だが、総長は4mであるから(2m+2m)。北西方向は6m(2m+2m+2m)で、主柱の周囲に20～30cmの添え柱と思われる柱穴が2～3個検出された。

柱穴の直径は30～40cm、深さ28～34cmを測る。柱穴・住居址内には遺物は発見されなかった。



第6図 掘立柱建 1

1

2

3

4

5

6

7

8

A

B

C

D

E

F

G

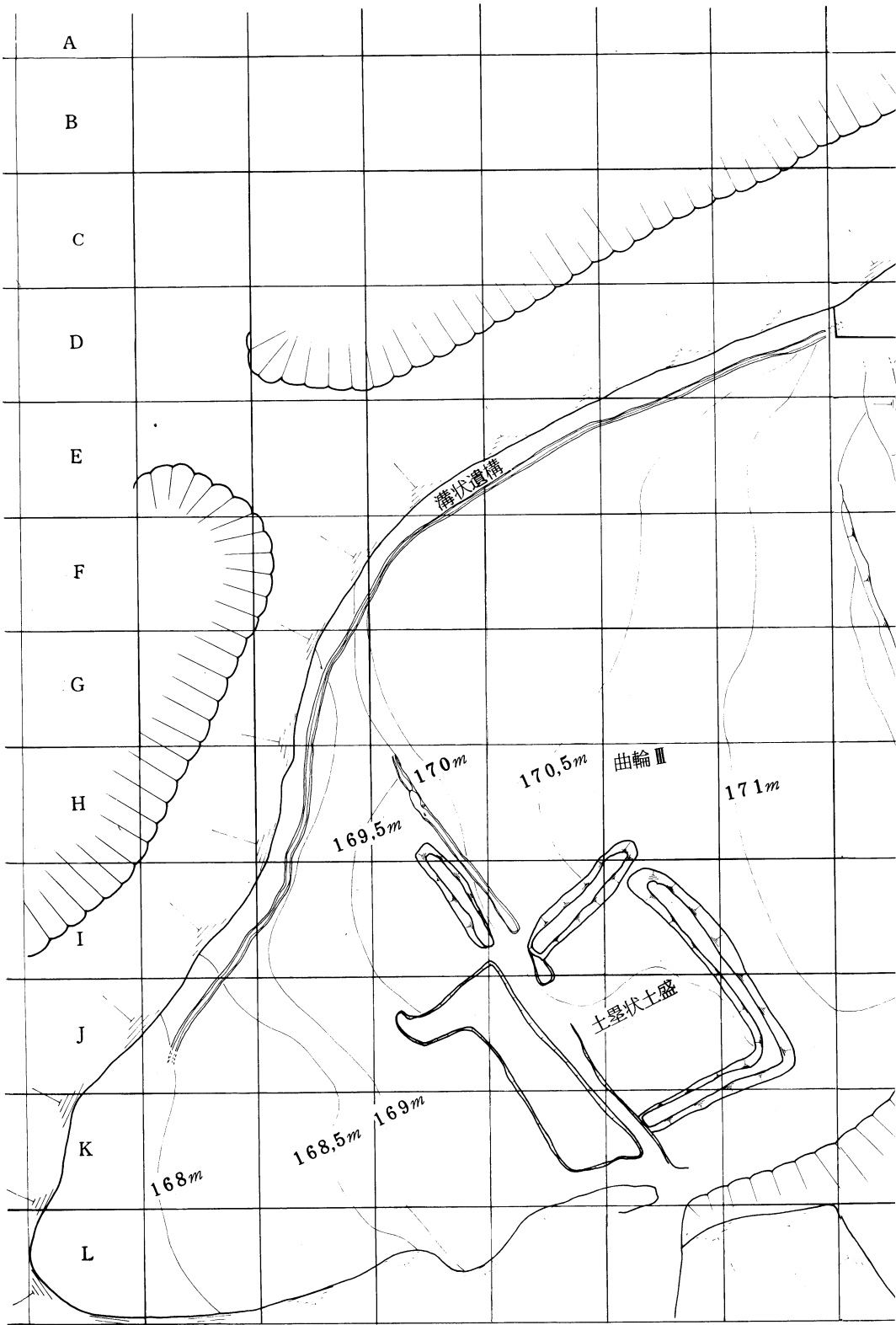
H

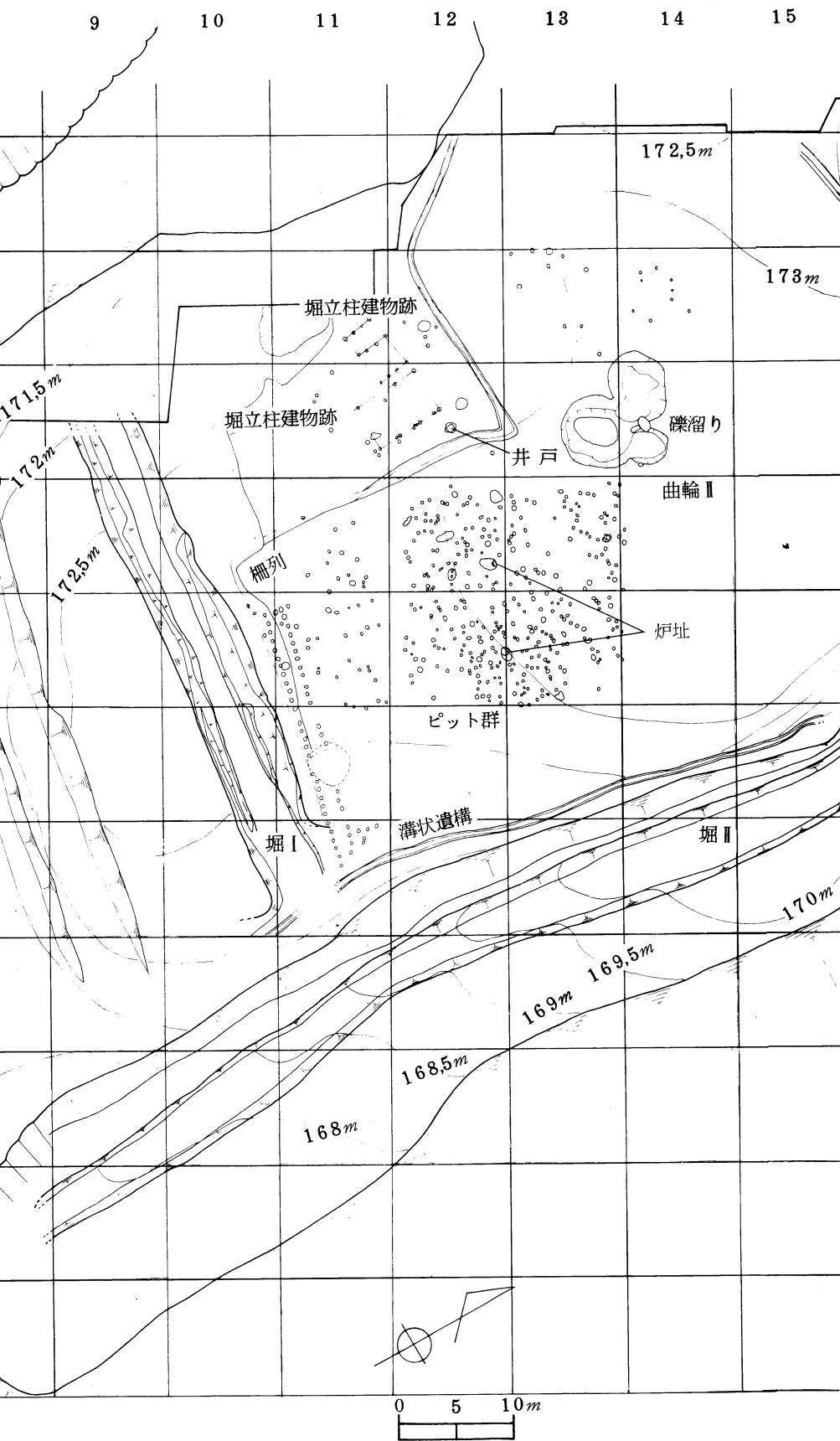
I

J

K

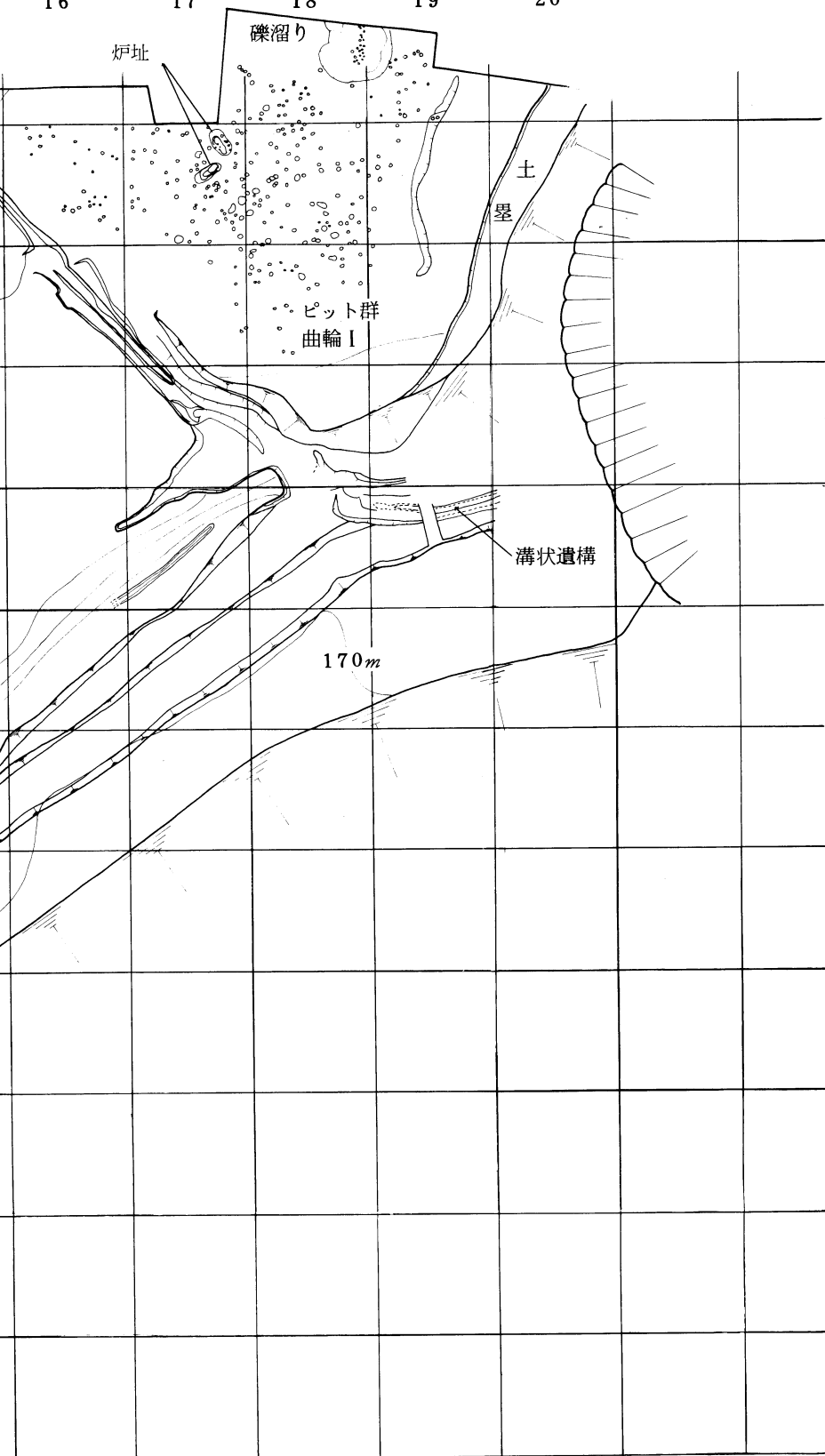
L

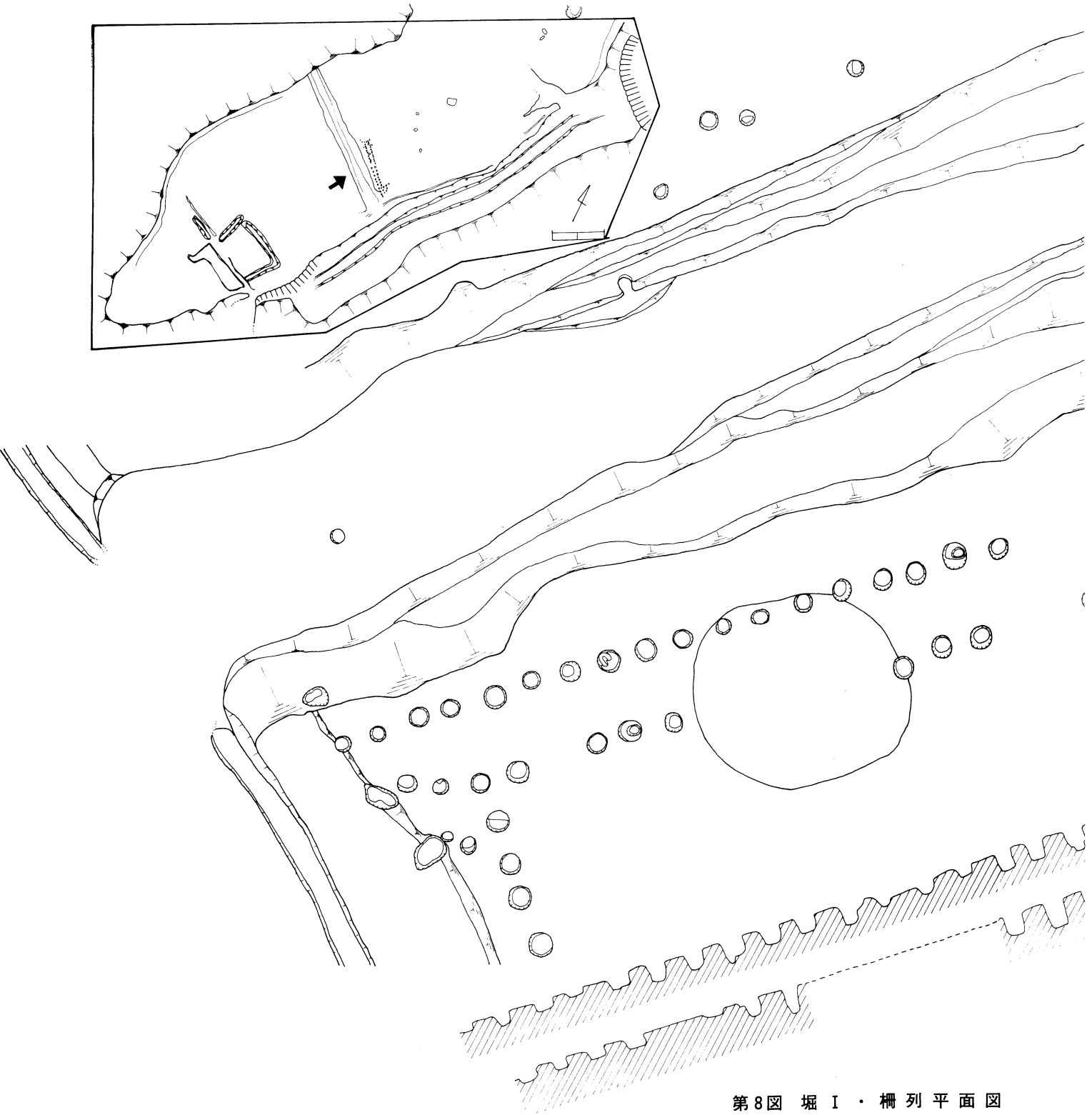




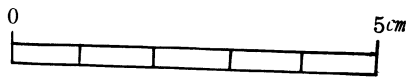
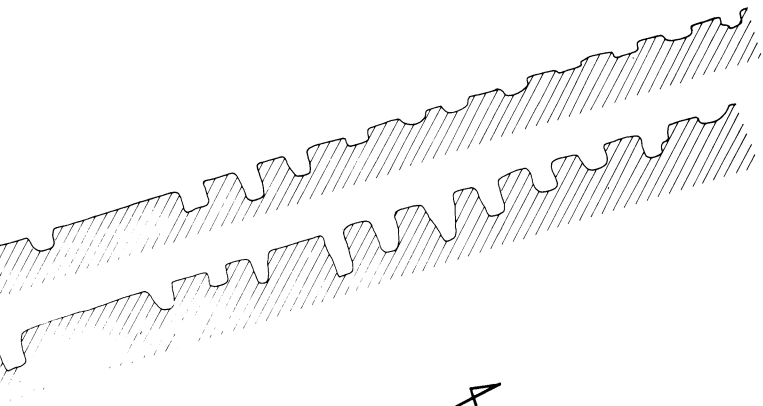
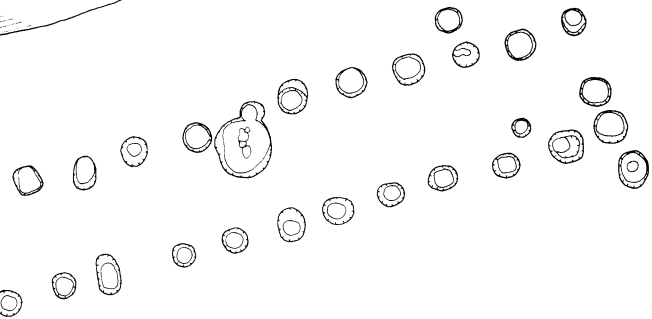
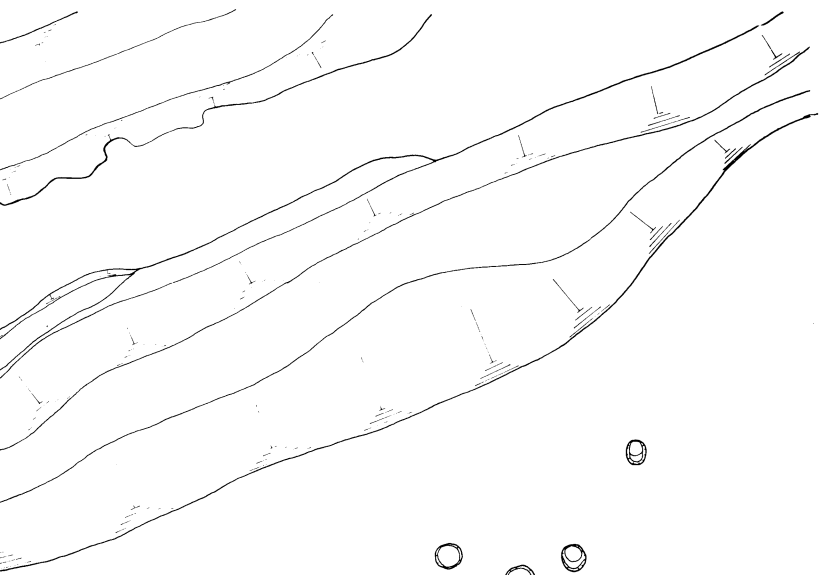
第7図 山城遺構配置図

16 17 18 19 20





第8图 堀 I · 柵列平面图





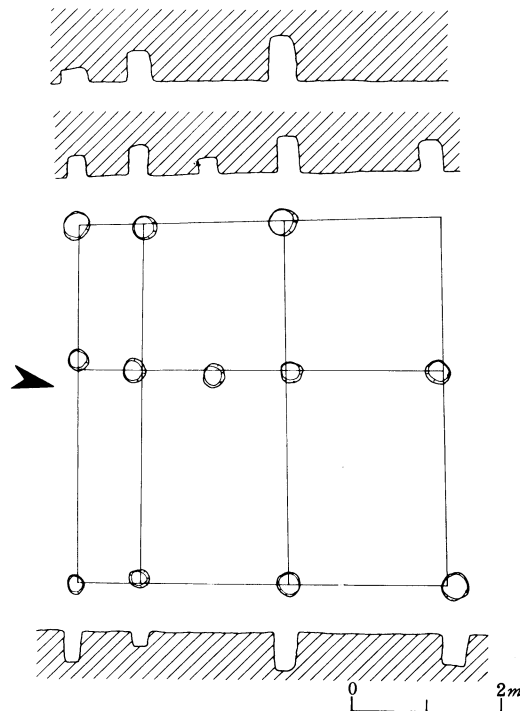
## B 掘立柱建物 2 (第9図)

C-11・12区, D-11・12区に検出されたもので, 主軸をN-19°-Wにもつ建物である。

柱間隔は東北方向に 2.5間, 北西方向に 2.5間で, 東・西側にはそれぞれ半間のひさしをもつ。

柱間隔は東北方向が 2 m, 北西方向が 4.2m (2.2m + 2 m) で, ひさしは 0.9m を測る。なお, 東西方向の柱穴は検出不能もあり確実におさえられぬが, 全長 5 m を測るので, 1 m 前後のひさしがついていたものと思える。

柱穴の直径は 20~34cm, 深さ 30~55 cm を測る。柱穴・住居址内からは遺物は発見されなかった。



第9図 掘立柱建物 2

## 2 堀

堀は舌状台地のほぼ中央部D~H-9~11区を東西に横断し, 台地を分割するものと, 東側E~K-9~20区の傾斜面を削平した腰曲輪の台地の接点にそれぞれ1条ずつ検出された。

また, 台地の西側及び東側の台地側端に幅50~80cm, 深さ20~50cmの溝状遺構がめぐっている。

堀Ⅰ・Ⅱともシラス層に達し箱堀となる。

### A 堀Ⅰ (第8・10図 図版5)

堀Ⅰは, D~H-9~11区に検出されたものである。

この区域は台地のほぼ中央部にあたり, 堀をつくることで台地を分断し, 曲輪を区画したものである。

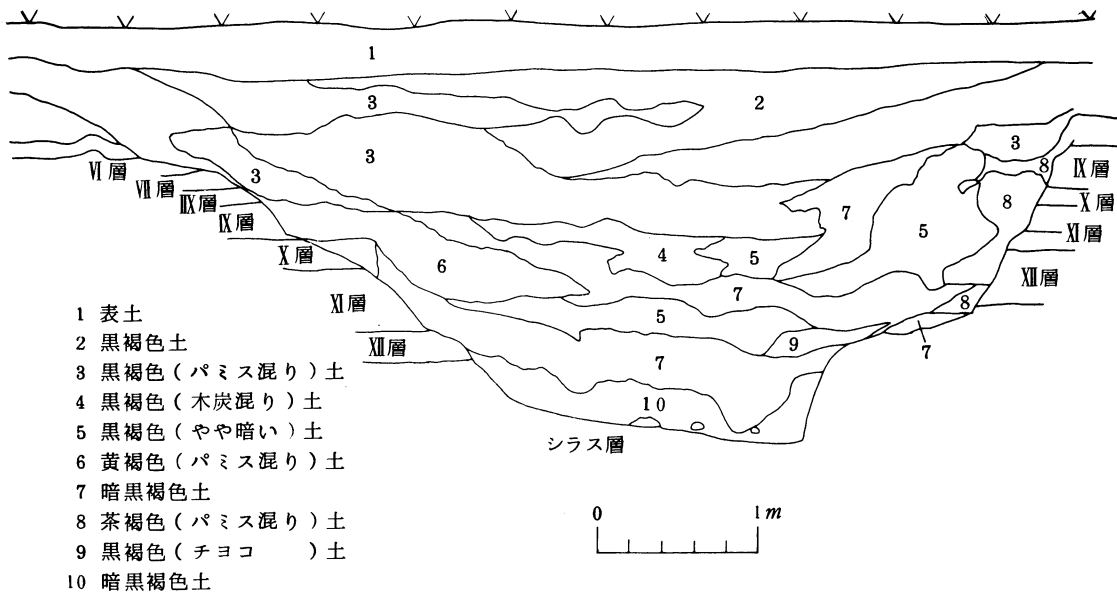
堀は幅 5 m から広いところで 6 m, 深さは 1~4 m となる。東西に走るこの堀は腰曲輪よりの H-11 区を最頂部とし, 西方向に傾斜し C-9 区では最深 4 m となり, 急峻な崖へ出る。

このことから排水は西側の崖へ落したものである。

堀断面は逆台形状を呈し, 底面は約 1 m シラス層を掘り込むが, 堀の中央部 F-10 区付近では段堀をなす部分がある。堀内には遺物は検出されなかった。

### B 堀Ⅱ (第11・12図 図版6)

堀Ⅱは, 台地の東側の傾斜面を削平して作り出した幅約 1.2 m, 長さ約 140 m の腰曲輪の台地よりに検出されたものである。



第10図 堀 I 断面図

グリッド図でいえばF～K-9～20区のほぼ南北に走るものである。しかし、E-20区、K-9区の両端はすでに削平され、台地を巡るものかは不明であった。

堀は幅4～5m、床面1～1.5m、深さ2～3mで、断面断は逆台形の箱堀となる。全長は両端が不明なため確認できなかったが、現存長は136mであり、南側K-9区へと傾斜する。

なおD・K-17・18区での断面観察によれば、表土下に厚さ30～45cmの粘土・砂・シルス混りの堅い面が堀の西側に検出された。この堅い面(通路)は約10m堀に添って走り、D-18区で北に向きをかえ登り口へと続く。また、表土下60cmにも同様の通路面が幅2.5mで検出された。これも先端は登り口へと続いている。

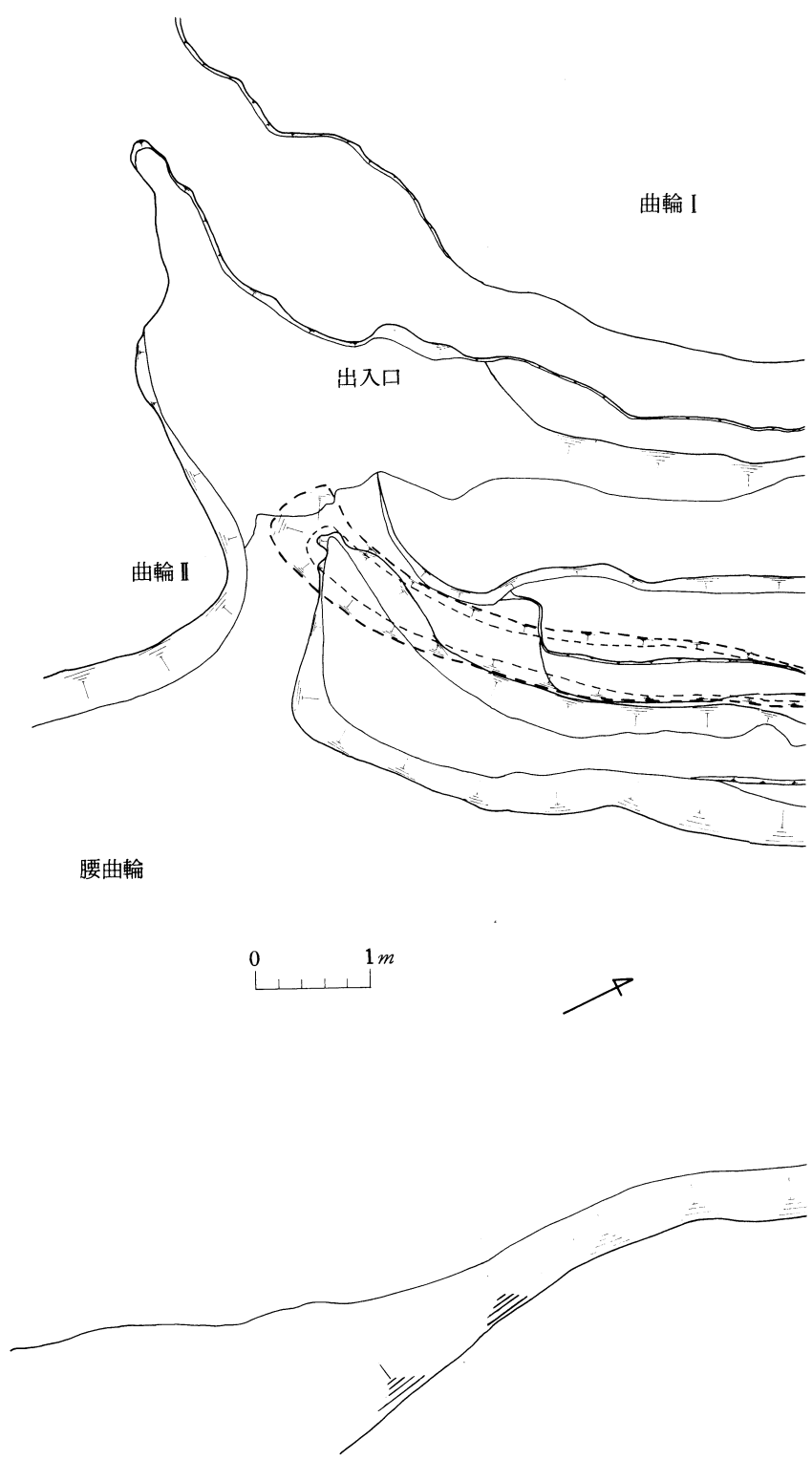
なお、表土下の通路面に接するように、幅1.4m、深さ0.75cmの溝も検出され(第10図の破線)、先端はやはり登り口へ続き、入口付近ですぼまる。

これらのことから、堀Ⅱに土砂が堆積し、堀の用途が消滅したのちは、この付近は台地面への出入口として活用されていたものと考えられる。そして、それは少なくとも2時期が考えられる。

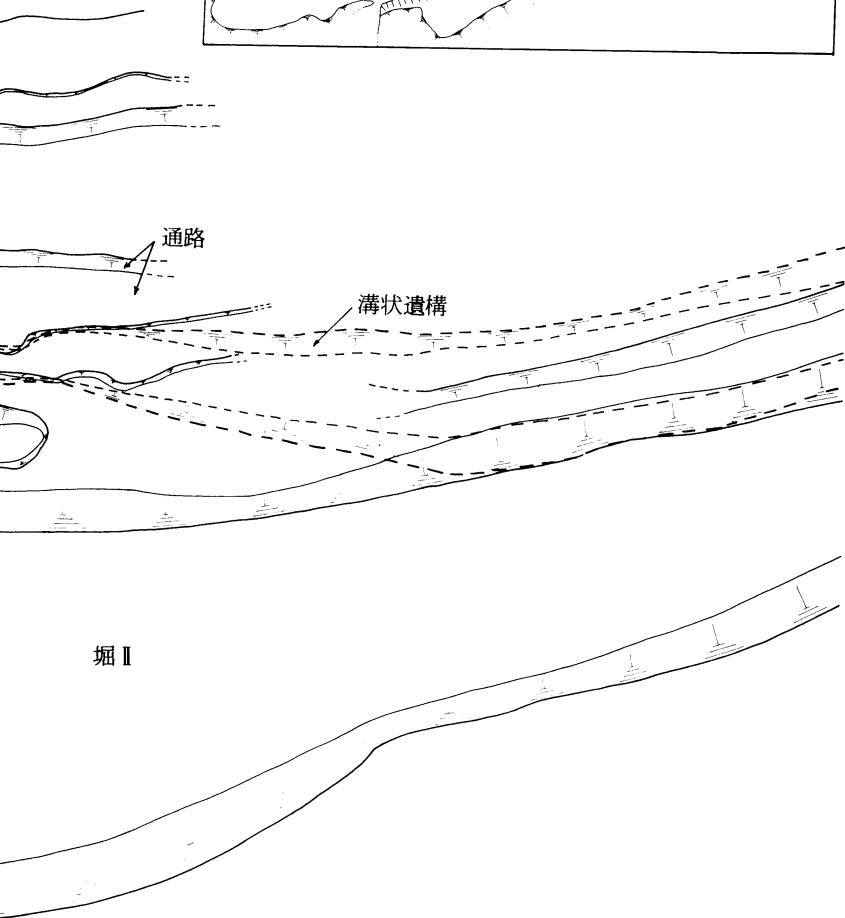
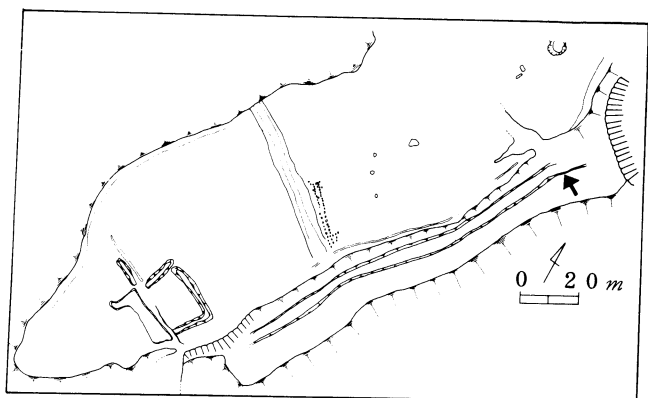
堀Ⅰの混入土の堆積は西側の土砂が多く流入し、そのあとシルス・砂・粘質土等が5～10cm内外でレンズ状に堆積している。

### 3 柵列(第8図・図版7)

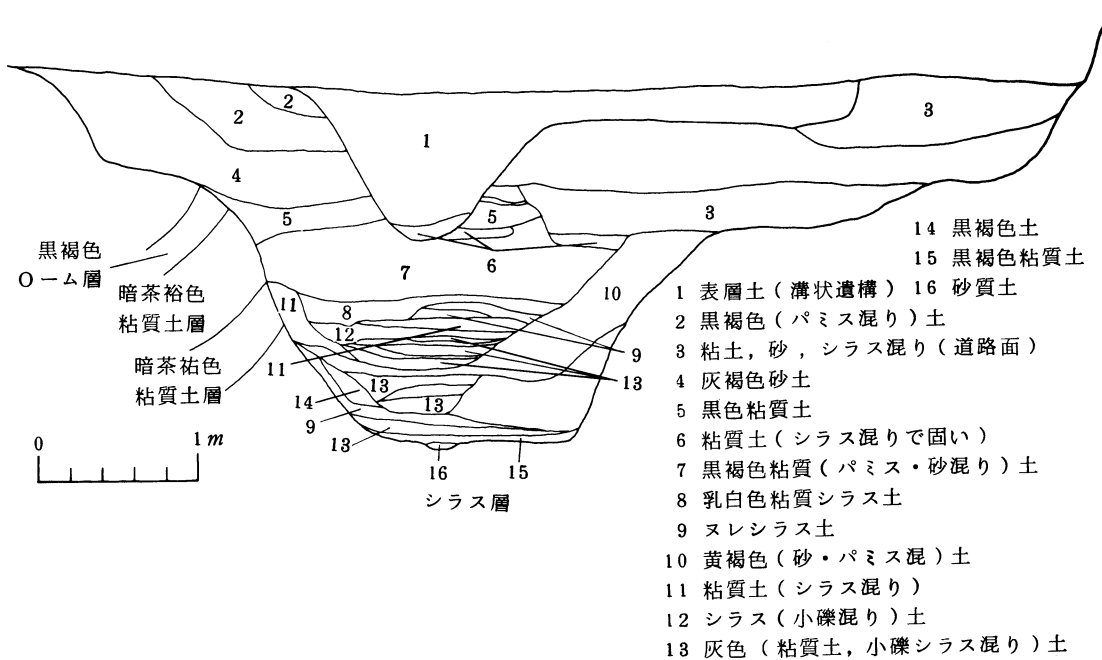
堀Ⅰの北側のF・G-10・11区に長さ22.5mにわたり平行な2列の柵列が検出された。



第11図 堀 II · I



出入口実測図



第12図 堀 II 断面図

この柵列は両端とも北側に向け3～4本の柵を設けたコ字型のものであり、しかも東側端は堀Iの最頂部に符号し、堀Iの東側約半分に位置する。

柵跡は直径25～30cm、深さ10～60cmのもので、合計58個検出された。各柵列は1.4～1.5mの幅、各柵跡間は70～80cmの間隔をとり設けられたものである。

柵列で囲むF・G-11・12区にピットが検出されたが、建物を復元するには至らなかった。

#### 4 溝状遺構 (第7図・図版8)

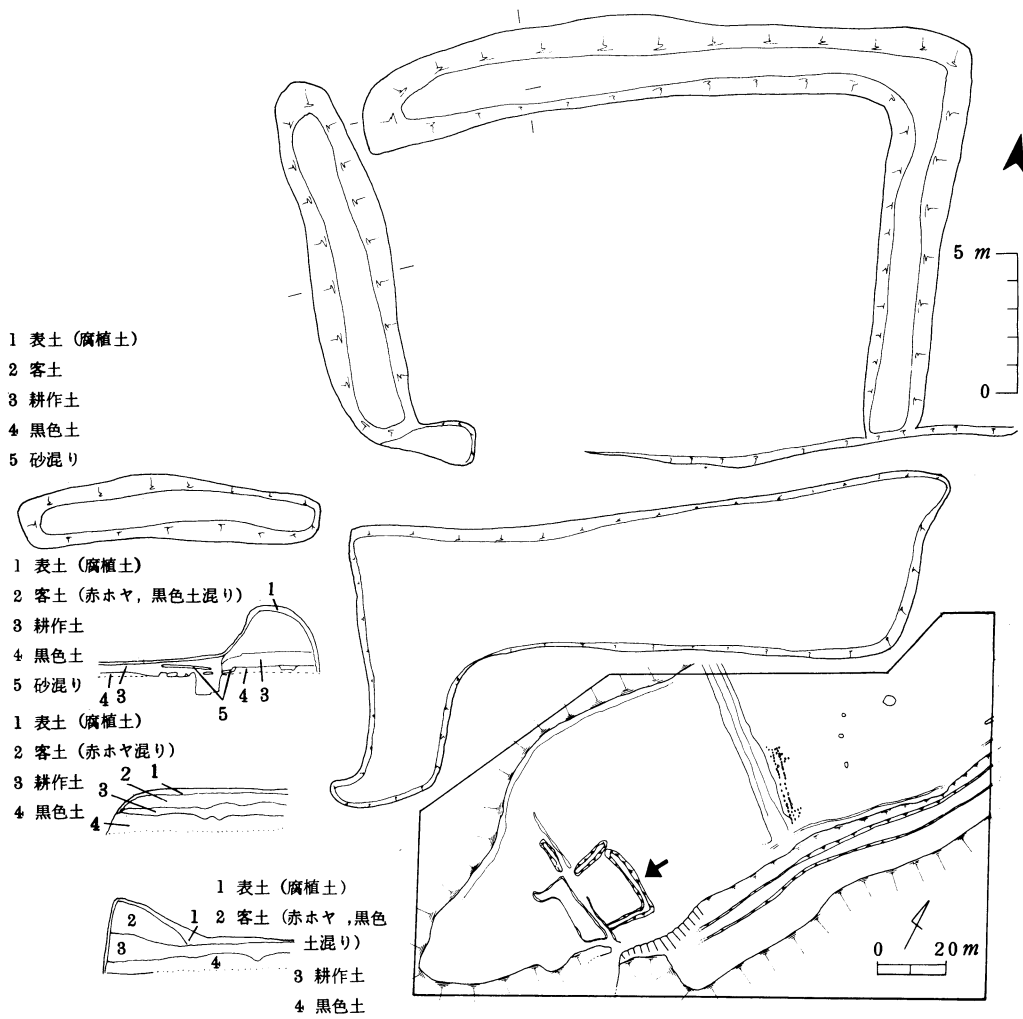
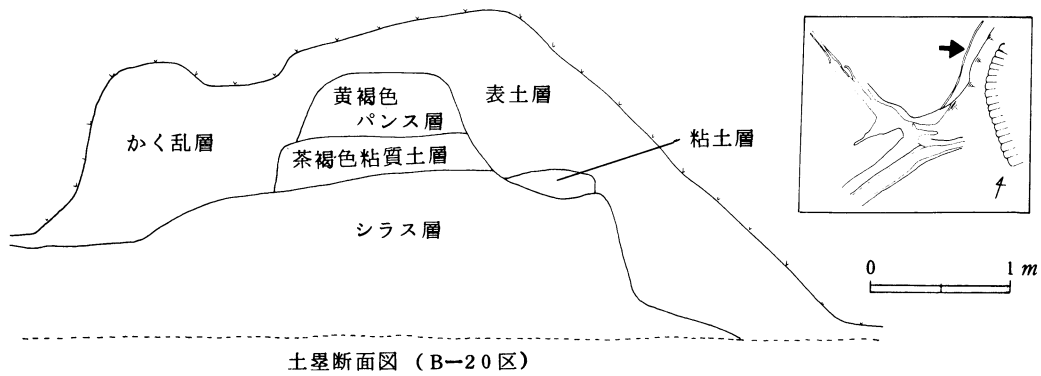
台地の縁辺部に幅20～40cm、深さ10～50cmの溝状遺構が検出された。

西側の溝状遺構は縁辺より約2m内側に造られ、C-8区で一端は堀Iに接する。東側は台地基部より発したものがD-18付近の出入口で終止し、再びE-17区より縁辺部を南側へ延びる。この溝も堀IのH-11区で消滅する。H-11区から再び台地先端部へかけて一部検出されたことから、これら溝状遺構は台地を巡っていたものと思われ、排水の用途が考えられる。

#### 5 土塁・土塁状土盛 (第5・13図)

台地基部A～D-19・20区に自然地形を残した土塁がわずかに残存していたほか、H～K-4～7区には、長さ11～21m、幅約3m、高さ1.5mの盛土が囲みとして現存していた。

台地基部の土塁は城構築の際、幅約6mを残し削平することで土塁を造り出しているものである。従って土塁基面は、自然地層が2層(IV・X層)が残存する高さ約2.5mを測り、残存



第13図 土壘・土壘状土盛実測図

長は約30mである。また、土塁状土盛内には民家があり、その家の口伝では防風堤であったともいうので、土塁と断定するには至らなかった。

## 6 炉 址

炉址は、E・F-12区及びB-17区にそれぞれ2基ずつ検出された。台地でいえばE・F-12区が中央部、B-17区が台地基部にあたる。

### A 炉址Ⅰ（第14図）

F-12区に検出された炉である。長軸方向はN-49°-Wにある。炉は、長軸120cm、短軸80cmの長楕円形。たき口部は炉より5cm程高くなり、幅50cmとすぼまる。たき口部のうしろには80cm×55cmの円形に近い楕円形の灰出し部がみられる。

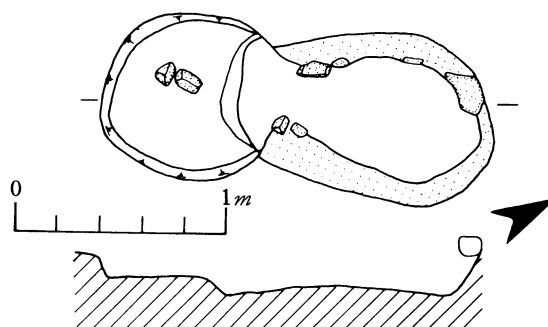
炉壁には5～25cmの凝灰岩の割石を並べ、粘質土を用いている。この割石の内側には赤く焼けてしまった炉壁とともに多数の木炭が付着していた。

炉壁の高さは20cmほどしか残っており、上部構造をうかがうことはできない。

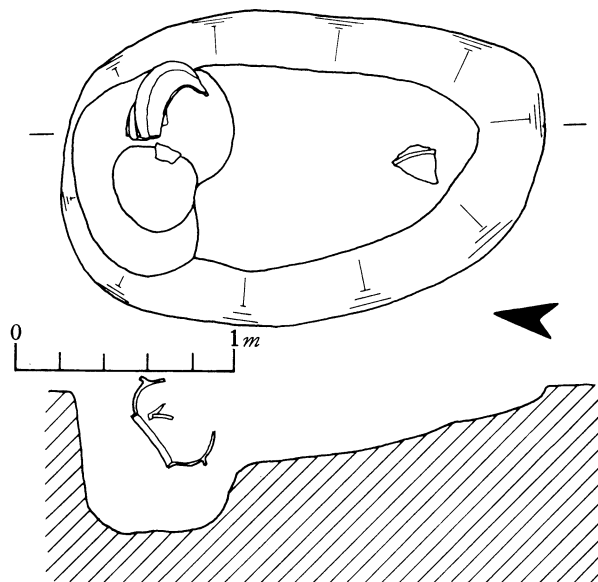
床面には少量の木炭がみられた。

### B 炉址Ⅱ（第15図・図版9）

E-12区に検出されたもので長軸N-6°-Wにある。炉は70×80cmの楕円形、たき口部及び灰出し部は同じ幅となる。全長220cmを測る。炉は深さ60cmを測るピット状となり、段差をもってたき口、灰出し部につながる。炉壁は剥落が目立ち、炉の構造とも不明である。炉内には第25図の湯釜が検出された。



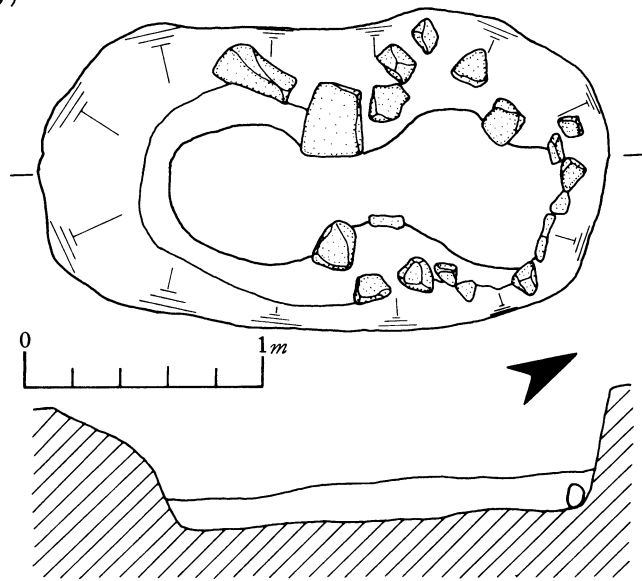
第14図 炉址Ⅰ実測図



第15図 炉址Ⅱ実測図

### C 炉址Ⅲ (第16図・図版9)

B-17区に検出された炉である。長軸方向はN-15°-Eにある。炉は奥壁部内法55cm、たき口部35cm、長さ85cmを測る不定形な台形を呈する。炉塾には5~30cmの凝灰岩の割石を利用するが、一般的に扁平な礫を用いている。炉壁の高さは50cmほどで、炉壁・凝灰岩とも赤く焼け、ことに凝灰岩には亀裂や剝落が目立ち上部構造は不明である。



第16図 炉 址 Ⅲ 平 面 図

灰出し部は幅35cmとしま

った炉のあとにつき、内法で70×80cmの楕円形を呈する。壁に凝灰岩を用いていたかは確認できなかったが、たき口部には大きな扁平な石を利用している。

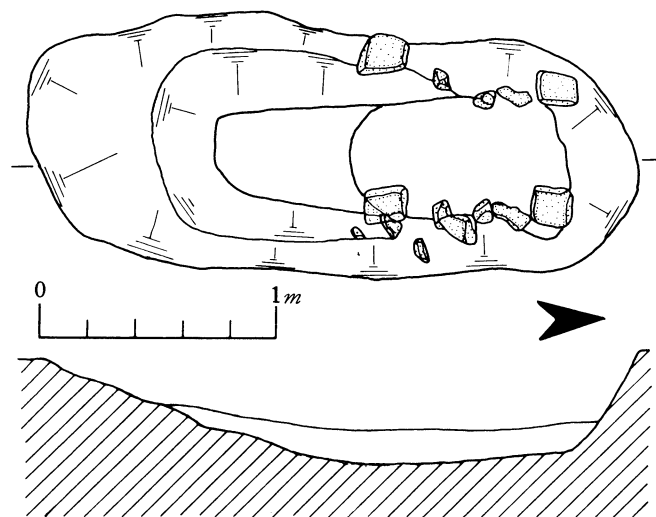
炉及び灰出し部には15cmほどの木炭が堆積している。

炉の上面では長軸 240cm、短軸 130cmを測る長楕円形を呈する。

### D 炉址Ⅳ (第17図・図版9)

炉址Ⅳは炉址Ⅲと直行する形でB-17区に検出された。長軸方向は真北にある。

炉の構造は炉壁に凝灰岩の扁平割石を利用すること、平面形等、炉Ⅲと同様である。たき口部がわずかに欠損するが、比較的大型の石が片側に残存していることから、Ⅲ同様にしまったものと考えられる。床面には15cmほど木炭が堆積していた。上面で長軸 260cm、短軸 105cmを測る。



第17図 炉 址 Ⅳ 平 面 図



## 7 礫溜り

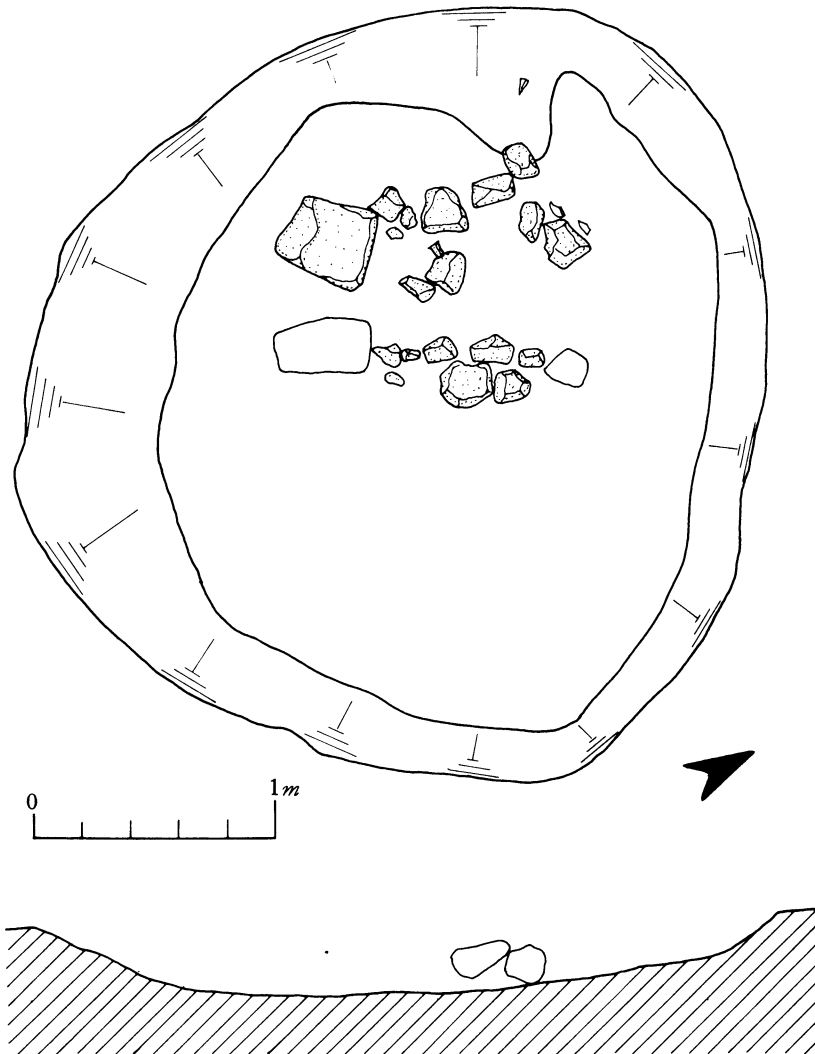
土坑を掘り、その中に礫が集積された礫溜りはD-14, A-18区に検出された。この2基のほか、D-18・19区の入出口の傾斜面にも礫が多数散存していた。

### A 礫溜り I (第18図)

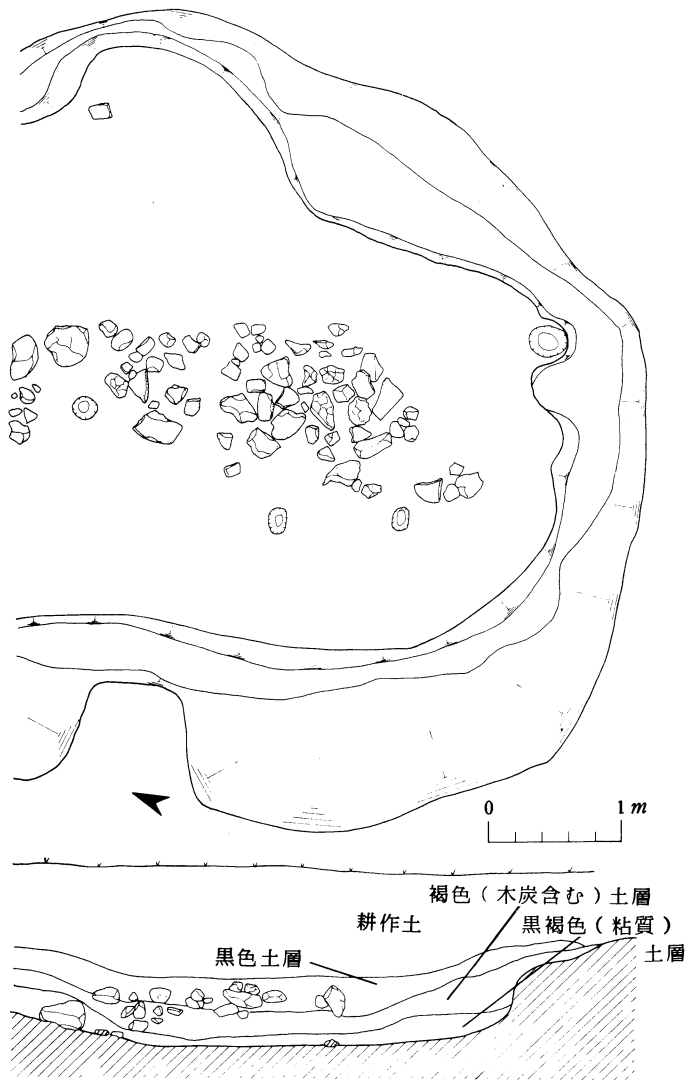
D-14区に検出されたもので、 $3 \times 3.1\text{m}$ 、深さ  $0.3\text{m}$  を測る円形に近い土坑の床面に、安山岩・凝灰岩質の礫が24個検出された。礫は  $5 \sim 30\text{cm}$  に及ぶものまで雑多である。

### B 礫溜り II (第19図・図版10)

A-18区に検出されたもので、北側は区域外でも調査であるが、 $6 \times 4.5\text{m}$ 、深さ  $0.7\text{m}$  を測る。床面には大小の安山岩、凝灰岩質の礫が77個検出された。土坑内には4個のピットが検出されたが、目的については不明である。



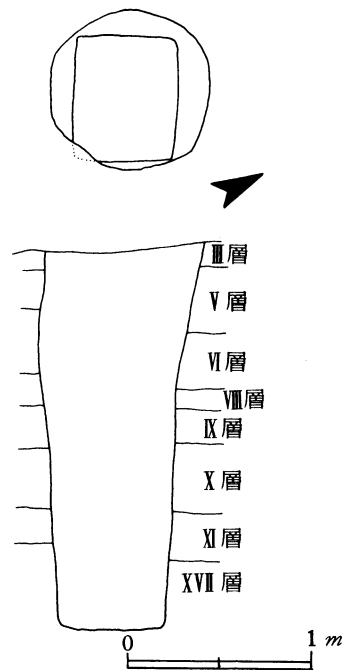
第18図 礫溜り I 平面図



第19図 礫溜りⅡ実測図

### 8 井戸 (第20図・図版10)

D-12区に検出されたもので、上面は径75cmの円形。底面にいくにしたがって方形となり、底面では55×78cmの長方形の平面形となる。遺構検出面から底面までの深さは2mを測り、シラス層を約45cm掘り込む。井戸に隣接した建物跡が2棟検出されている。



第20図 井戸実測図

### 9 腰曲輪 (図版3)

舌状台地の東側E~L-7~20区にいたる区域に検出されたもので、当地の人々は「馬乗馬場」と通称し、調査時も平坦面として残存していた。

堀Ⅱの断面観察によれば、地形は台地上面よりの緩傾斜であったが、これを削平することで腰曲輪をつくり出し、その後、堀Ⅱを作ったものと考えられる。この2つの作業によって出る土砂は傾斜におし出している。腰曲輪は幅17~18m、長さ140mを測る。

## 2節 遺物

山城に伴う中世および近世の遺物には、土師器・青磁・白磁・染付・瓦器類の湯釜・備前焼の摺鉢等の土器のほか、石臼・筭等がある。

遺物は発掘面積に比して少量であり、しかも後世の耕作等により攪乱が著しく、現位置をとどめるものも少なかった。特にD-18区付近の出入口と思われる場所には混在して出土し、のちの土砂の堆積にうずもれている状況を呈していた。

### 1 土師器 (第21図・図版12)

#### A 坏 (1~6)

復元実測可能な土師器は土師質の蓋をふくめ22点出土した。このうち坏は6点である。1は三脚付坏である。口径12.3cm, 底部径 6.5cm, 脚高1cmを測る。器形は底部より直線的に開き口唇部は舌状にすぼまる。茶褐色を呈し、焼成は良好である。底部は糸切り底で、底部切離したのち三脚を接合している。2は黒色土器で高台の付く坏である。外面は茶褐色を呈する。内面は剥落がめだつが黒色を呈する。胎土は良質で焼成も良好である。3は高台・口縁部が欠損しているが、内面が黒色を呈する黒色土器である。胎土・焼成ともに良好である。

4~6はいずれも高台付の坏であるが、口縁部にかけて欠損しているために、器形は不明である。色調は4が明るい茶褐色、5・6がやや暗い茶褐色を呈するほか、胎土・焼成ともに良好である。7はほぼ直線に開くが、小片で形態は不明である。胎土・焼成ともに良好である。

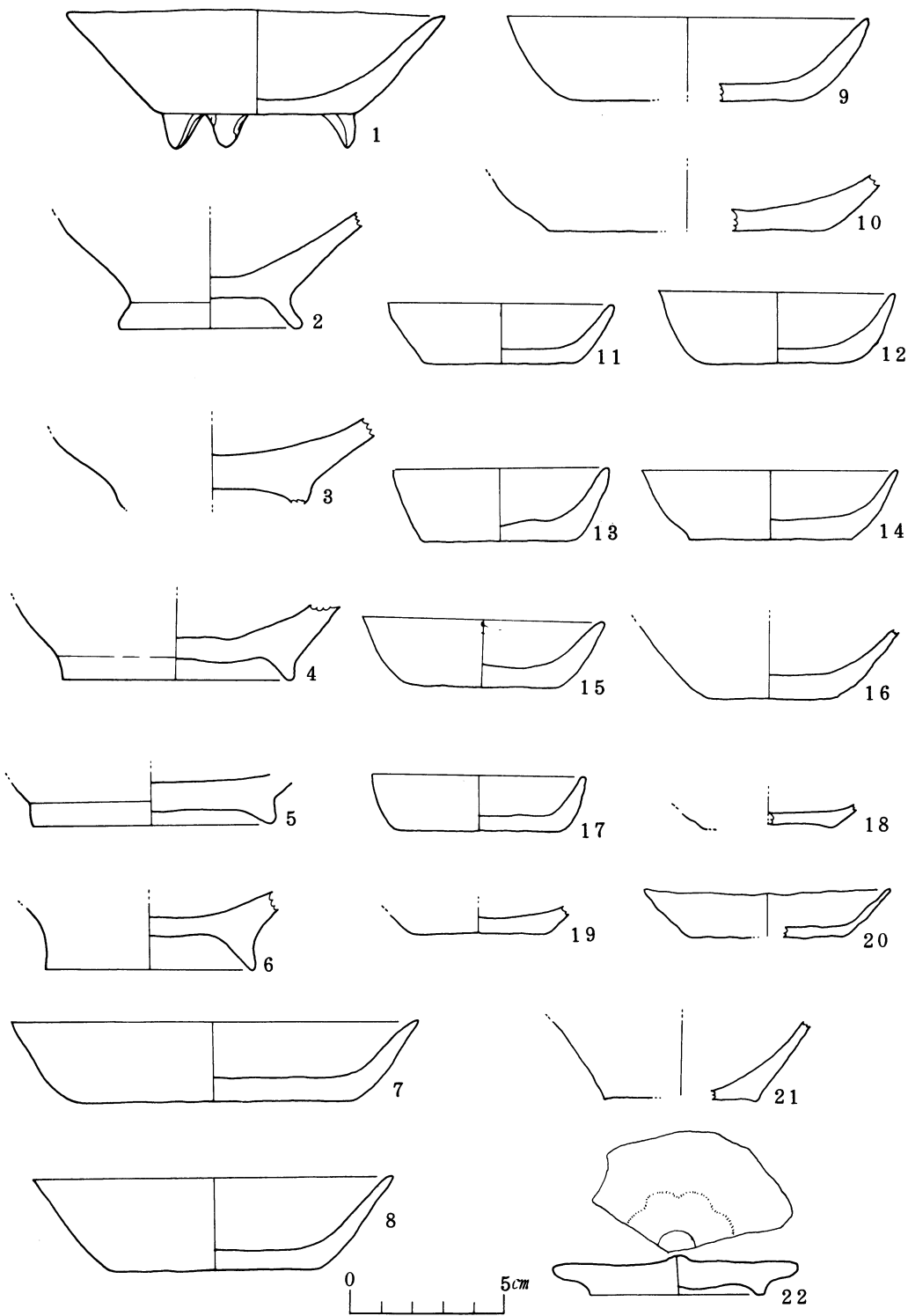
#### B 皿 (8~21)

皿は口径11.8~14cm, 器高 2.7~3cmを測る大形の皿と、口径7~8.3cm, 器高 1.2~2.4cmを測る小皿とに分類できる。7は底部からやや丸みをおびて開き、口唇部がやや外反して舌状にすぼまる。色調は茶褐色で胎土・焼成ともに良好。底部は糸切り底であるが、粗く末尾部分は胎土の凸凹がある。8は7同様の形態を示すやや小形の皿である。茶褐色を呈し、胎土・焼成ともに良好である。9は口唇部がやや立つ形態を示すが、胎土・焼成・糸切り底ともに同様である。11~20までが小皿の類である。形態は底部から丸みをおびて開き、口唇部が立ちあがるものと、わずかに外反して舌状にすぼまるものとある。器厚は11~17はやや厚いが、19~21は薄い。いずれも糸切り底で、色調は茶褐色を呈し、胎土・焼成ともに良好。内・外とも指などによるていねいな仕上げである。

19~21は糸切り底の小形皿であるが、二次的に熱を受けたために器形は変形し、内外ともに黒色に変色している。このうち18の内面には緑青とともに鉋物のようなものが付着している。

#### C 蓋 (22)

直径8cm, 紐1cmの土師質の蓋である。かえしは先端部より中心部の1cmのところにつき、3mmを測る。上面には、紐を中心に8弁の花弁をあしらった型押し文様が施されている。色調は茶褐色、一部に赤褐色を呈し、胎土・焼成ともに良好である。



第21圖 土師器 実測圖

## 2 青磁 (第22・23図 図版13・14)

### A 碗 (23~44)

器形全体を復元できるものがないために全体の形態は不明である。従って破片の各部位で分類すると、高台の畳付部が断面三角形に近いもの(23・26・32)と台形状を呈するものに分類できる。色調は23・24・29~34が青色、25~28が青灰色に近い色、35~40が灰色に近い色調である。胎土は灰色か乳白色を基調とするものが主体であるが、25・26・28のようにやや陶質を呈するものもある。貫入は23・24・30を除き見られるが粗い。

27は見込み中央部に「疆」印の型押文様を施し、これを中心に唐草文様状を4本印刻する。

32の見込みには円形の印刻の中央部に印花文様を施す。

37~40のうち、37~39は口縁部がまっすぐ立ち上り、外面に退化した蓮花文を施すものである。口唇部は舌状にすぼまるものと、39のようにわずかに玉縁状を呈するものがある。

### B 盤 (45)

口縁部が欠落しているもので、高台径10cmを測る。内外面とも唐草文を陰刻する。色調はやや暗い青色、胎土は灰色を呈する。

### C 皿 (46~57)

復元口径10.7~12.4cm、底部径 5.3~6cm、器高さ 2.3~3cmを測るものがすべてである。口縁部の残存しているもののうち、47~54はいずれも稜花皿である。

46は淡青色で薄く釉をかけた堅緻な皿である。内外ともに貫入はなく、胎土は灰色である。

47は稜花皿のうちでは淡青色を示す唯一のもので、内面に雷文を簡略した文様を施す。貫入は内外面とも粗い。49は茶褐色で、内面の口縁部に2条の平行縁文、見込みの圏線内に印花文を施す。貫入はやや粗いが内外とも均一である。50は見込みに釉がかからないのを除けば同様な色調・貫入・文様を施す。52は見込み・底面を除き淡い青色の釉が厚くかかり、焼成も良くない。二次的に熱を受けたため変色がみられる。

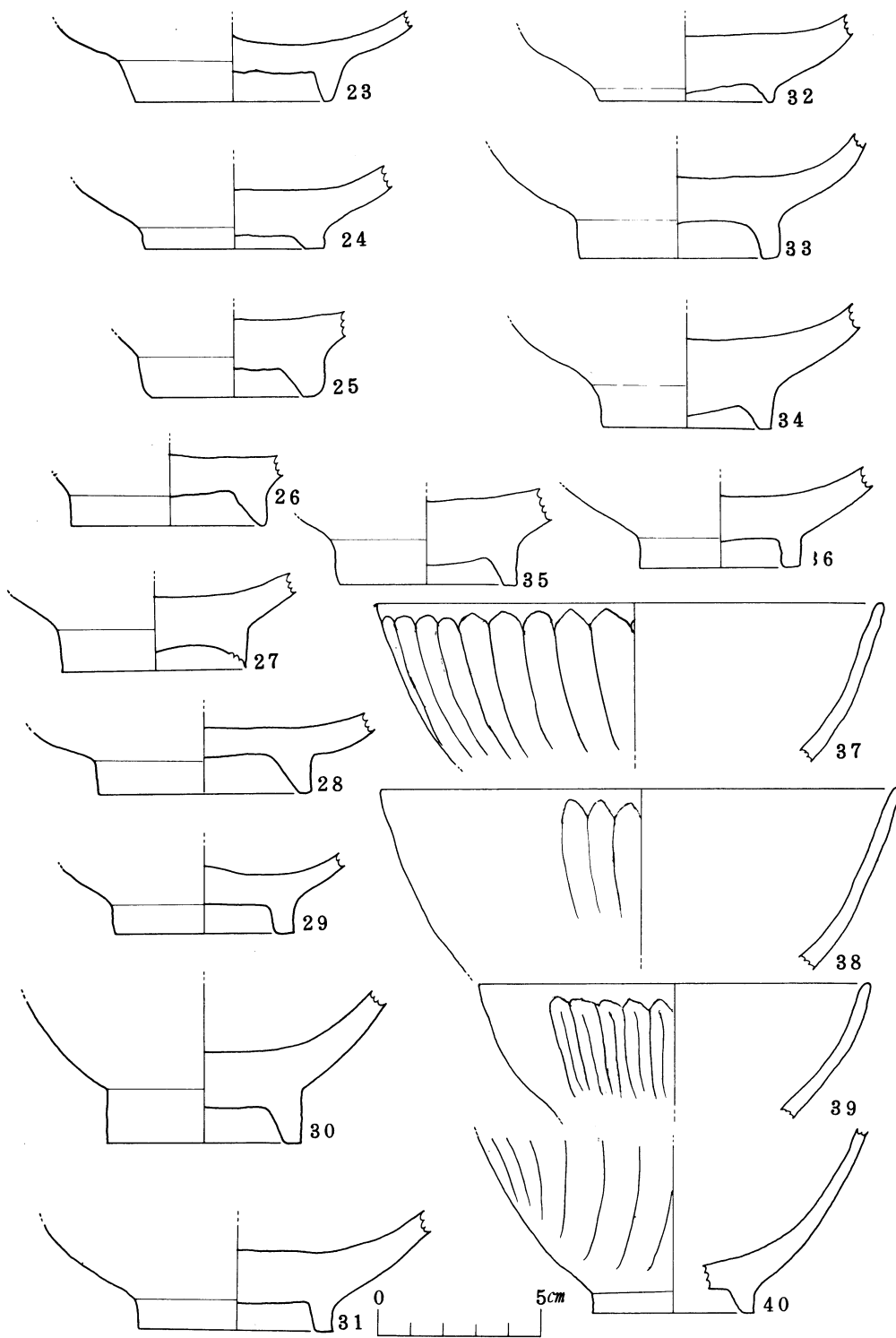
## 3 白磁 (第23図・図版14)

58は見込み及び底部を除き白釉がかかるが、外面は焼成が悪く粒状になるところもある。高台内はへら削りが粗く、中心部が山状に隆起した兜巾状となる。見込みには山形連続文の内側に「全」の型押がみられる。内外とも微細貫入がみられる。

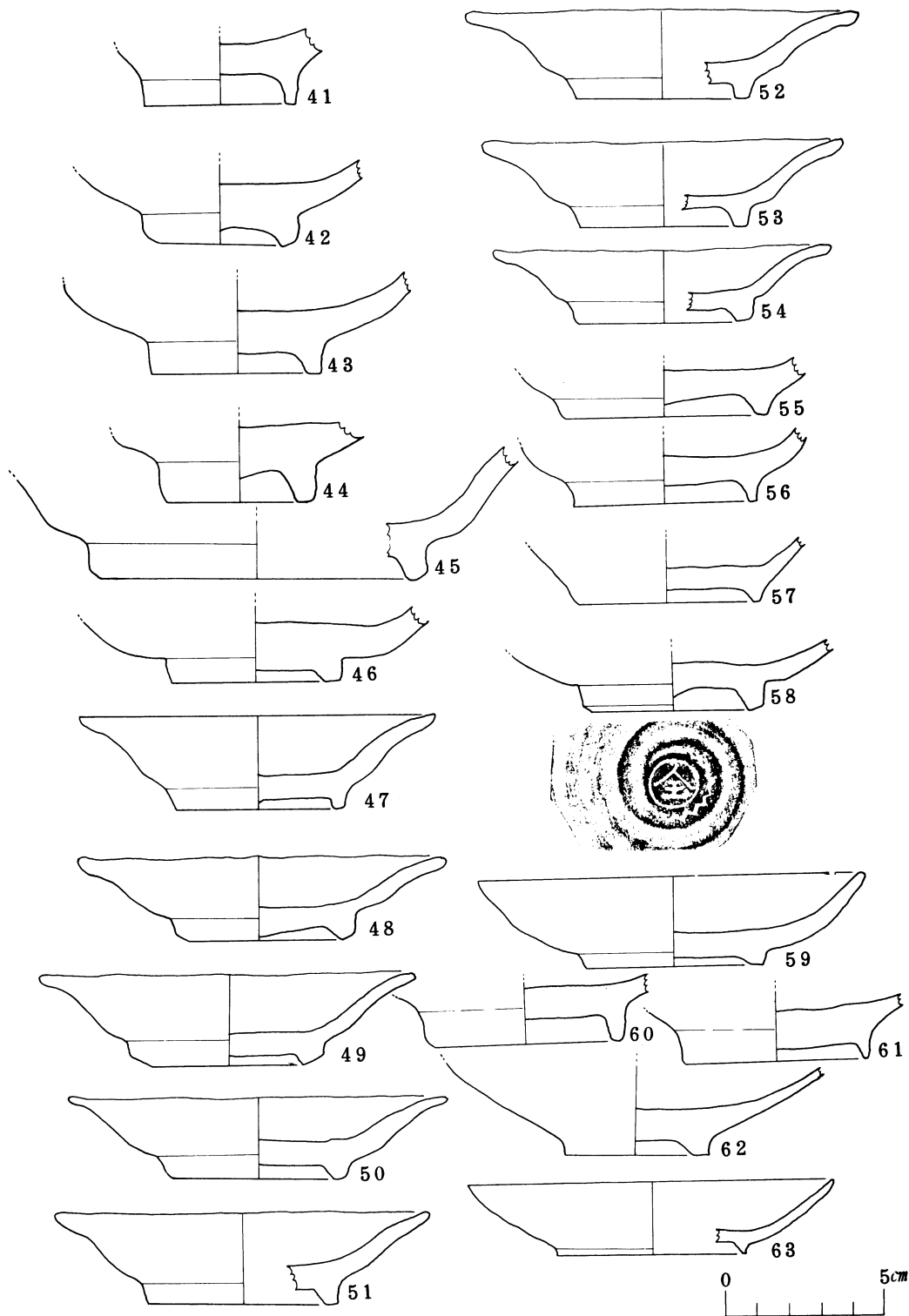
60は高台を除き薄く白釉がかかる。高台内はチリメン皺状となる。焼成は良いが貫入は粗い。

61は灰色に近い白色で、高台は薄く低く、釉はかからない。胎土・焼成とも良く貫入は粗い。

62は高台を除き白釉がかかり高台際に数条釉だまりがみられる。また、内面には重焼きのあと、高台内には砂粒が付着し重焼きのあとがうかがえる。41は復元口径11.6cm、底部径6cm、器高2.3cmを測る総釉の白磁菊花皿である。



第22图 青磁实测图



第23図 青磁・白磁実測図

#### 4 染付(第24・25図 図版15)

大陸産青花で、壺・皿・盃等である。

##### A 壺(64~75)

64は口径13.1cmを測るもので、口縁部の帯状の区内に草文様、胴部には草木文様を描く。

65は口径14.1cmを測る端反り壺である。口縁部内外に一条の横線、胴部に草花文を薄い呉須で描く。66は高台内を除き釉がかかり、見込みには一条の圏線内に山椒のようなものを図案化して描く。外面・高台際・胴部にも各一条の横線が描かれている。貫入は内外ともに粗い。

67はわずかに兜巾状となった高台内以外に釉がかかり、見込みに文様が描かれているが、発色がややにぶい。5は口径12.4cmを測るもので、内外ともに粗く貫入がはいり、横位の線は多く濁っている。68は口唇部内外に一条の線、69は外面ににぶい呉須で草葉文状を描き、内面には0豆印、見込みに一条の圏線、70はにぶい呉須でラフな文様を描く。粗い貫入がはいる。

71は見込み内の圏線内に文様を描き、外面は壘付部と高台際に各二条の線と胴部に意匠不明の文様を描く。72は唐草文を簡略したような文様を中心に渦巻文を外側にあしらっている。高台から三条の線を描く。高台内の白釉は壘付部を除き厚くかかる。73は見込み内に2条の圏線内に花文をあしらう。胴部には唐草文を連続・連結させ、その下位に不統一な二条の線を描く。釉は壘付部を除き均一にかかり焼成も良好である。74は見込み内に草木文を描くもので、高台は兜巾状となり釉はかからない。粗い貫入が内外に入る。75は見込みに濃い呉須により、牡丹花、その外区に大小の山形文を圏線内に描く。高台内には「大明年口」の銘がある。

##### B 皿(76~82)

76は碁笥底状のもので見込み内に意匠不明の文様を呉須描きする。77も碁笥底のもので濁った白釉を、高台内をふくめ土見せ状に高台際以外に不均一にかかり、外面には底面より上位にかけ鉄釉により堀齒文様状のものを描く。胎土・焼成ともに良くない。78は口径17.2cm、底部10cm、器高3.5cmを測る玉取獅子文皿である。壘付部には焼成時の砂粒が付着する。79も碁笥底の皿で見込みに「寿」の草書体の文字を描く。壘付部に砂粒が付着する。80は小片であるが文様構成は15に類似するので玉取子文皿と思える。81は唐草文のあとに淡く呉須をのせている見込みには「萬福攸同」のうち「攸」が若干読みとれる。82は見込み・高台に釉のかからない皿の破片である。

##### C 盃(83~86)

いずれも小片である。83は濁った白釉にうすい呉須で文様を描いたものである。

84も呉須で文様を描くが意匠については不詳である。粗い貫入が内外にみられる。

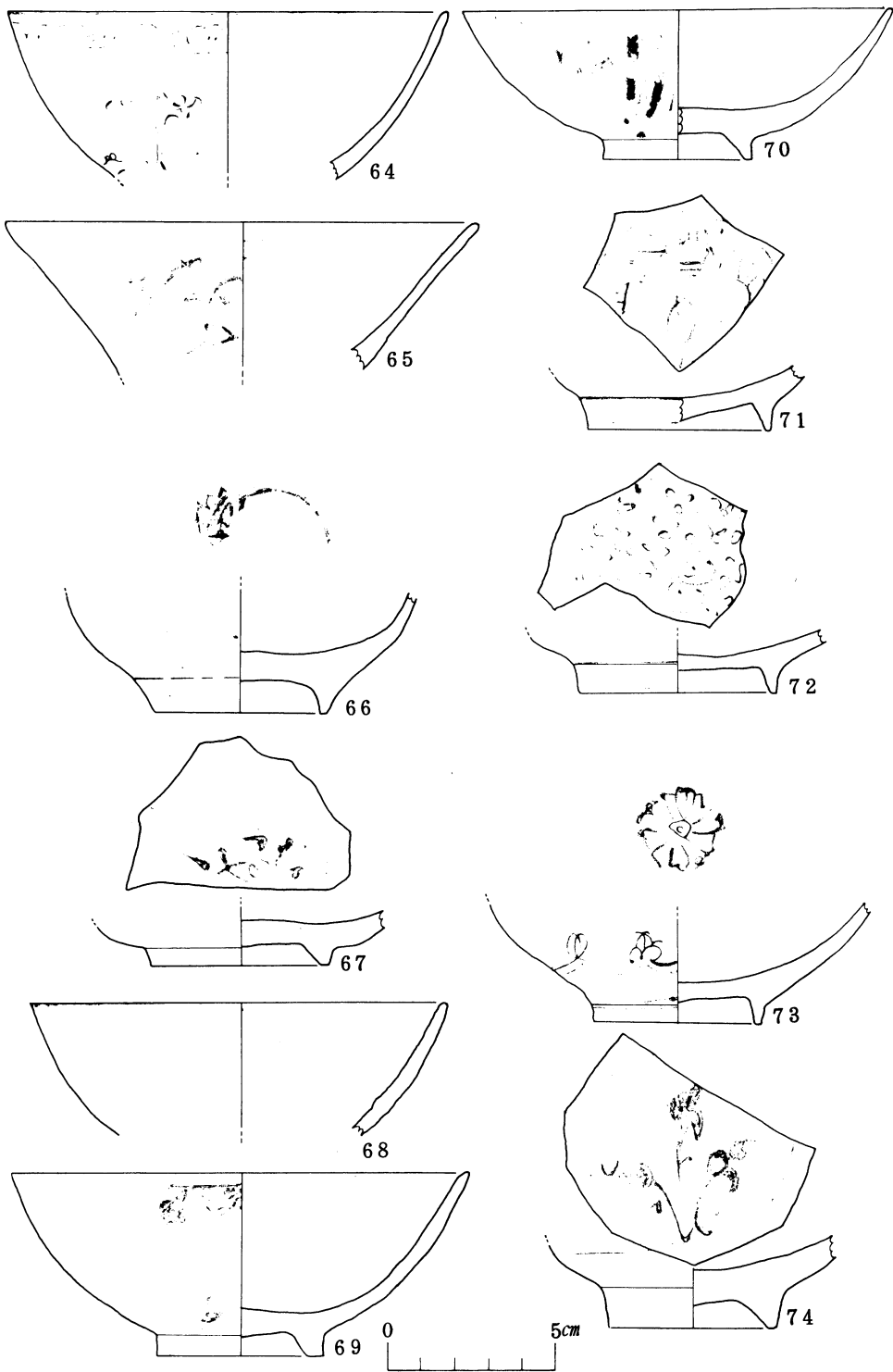
85は薄い器壁が直線的に外反する器形のもので、見込み内面に草花文を描く。

86はやや大型の盃で外面に呉須の線描きがみられる。

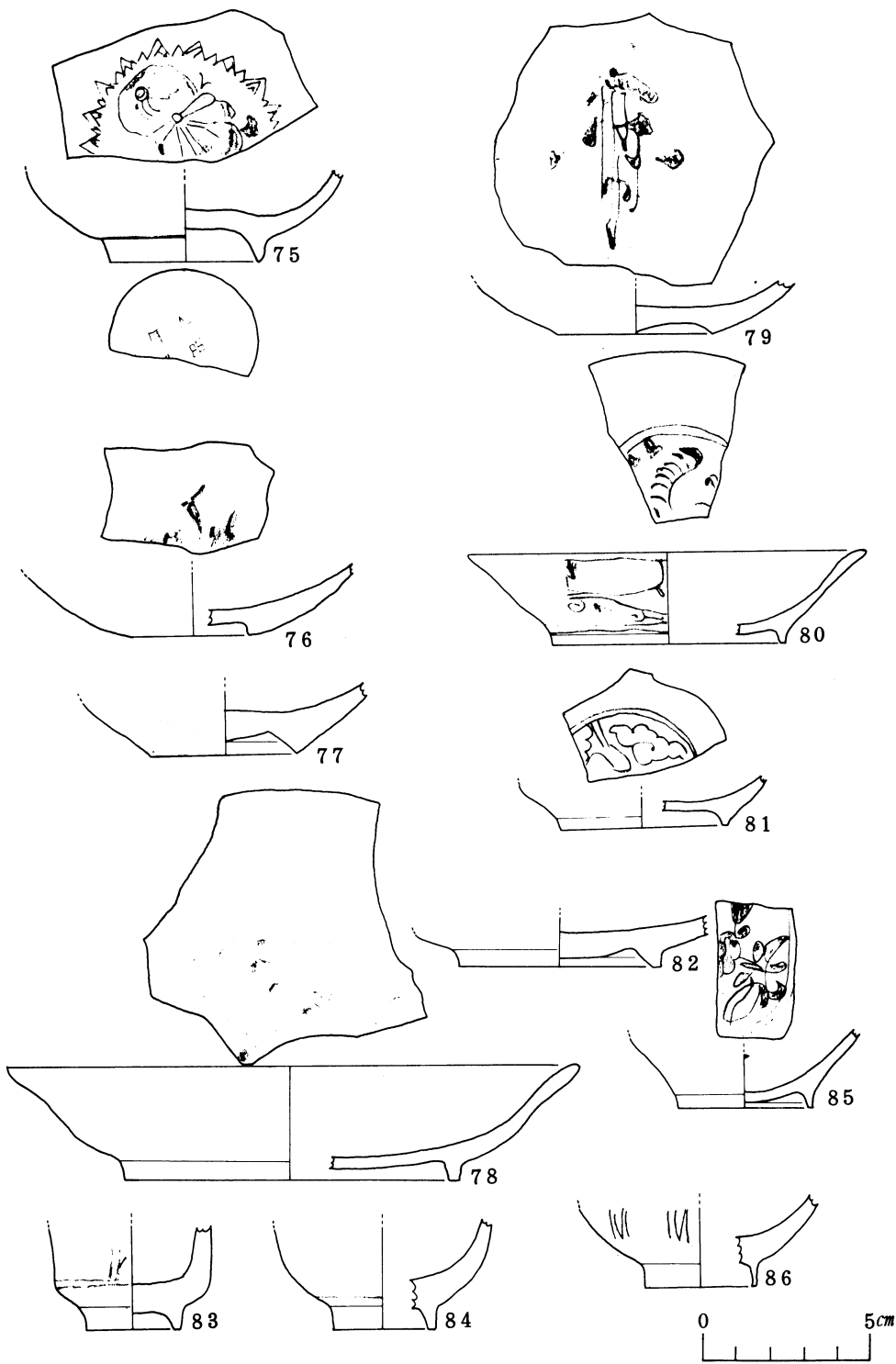
#### 5 湯釜(第26図・図版16)

湯釜は87・88の2個と破片が少数出土した。87はE-12区の炉内から出土したものである。





第24図 染付実測図 I.



第25図 染付実測図Ⅱ

口径16cmを測り、1.3cmの口縁部は垂直に立ちあがる。

肩部は張って左右に一对の把手がついている。胴部には3.5cmの鏝状凸帯をめぐらす。底部は欠損しているため平底か丸底か不明である。鏝状凸帯以下には煤が付着しており、使用された痕跡を示す。肩部には梅花文がスタンプされている。胎土・焼成ともに良く、色調は灰色を呈する。

88は口径15.5cmを測り、2cmの口縁部は垂直に立ちあがる。肩部は87よりも張り左右に一对の把手がついている。胴部には2cmの鏝状凸帯をめぐらす。底部は欠損しているが形状からすると丸底と思える。鏝状凸帯以下には煤が付着している。肩部には、菊花文と唐草文がスタンプされている。胎土・焼成ともに良く、色調は灰色を呈する。

## 6 すり鉢 (第26図・図版16)

すり鉢は89のほか、瓦器質の破片が数点出土した。

89は口径24.2cmを測る備前焼のすり鉢である。口縁部は断面三角形となり、内外面とも横なでである。内面には七条のかき目が下から上へ引かれる。色調は内外面とも茶褐色を呈するが口縁部のみは濃い茶褐色となる。胎土は砂粒をふくまぬ良好な土で、焼成も良い。

## 7 その他の土器 (第26図・図版16)

90は備前焼の甕底部である。底部はあげ底になり、内外面とも横位のなでである。色調は内面が黒褐色、外面が茶褐色を呈する。胎土は砂粒を多く含み粗い。焼成は胎土間にすき間があき、さほど良くない。

91は口径6.8cm、器高5.1cmを測る三脚付のものである。淡い緑色の釉は畳付部及び内面の中位以下はかからない。貫入は釉のかかる部分に細かくはいる。三角形の脚は畳付部より2mmほど上位にある。用途は香炉と思えるが、産地ともにさだかでない。

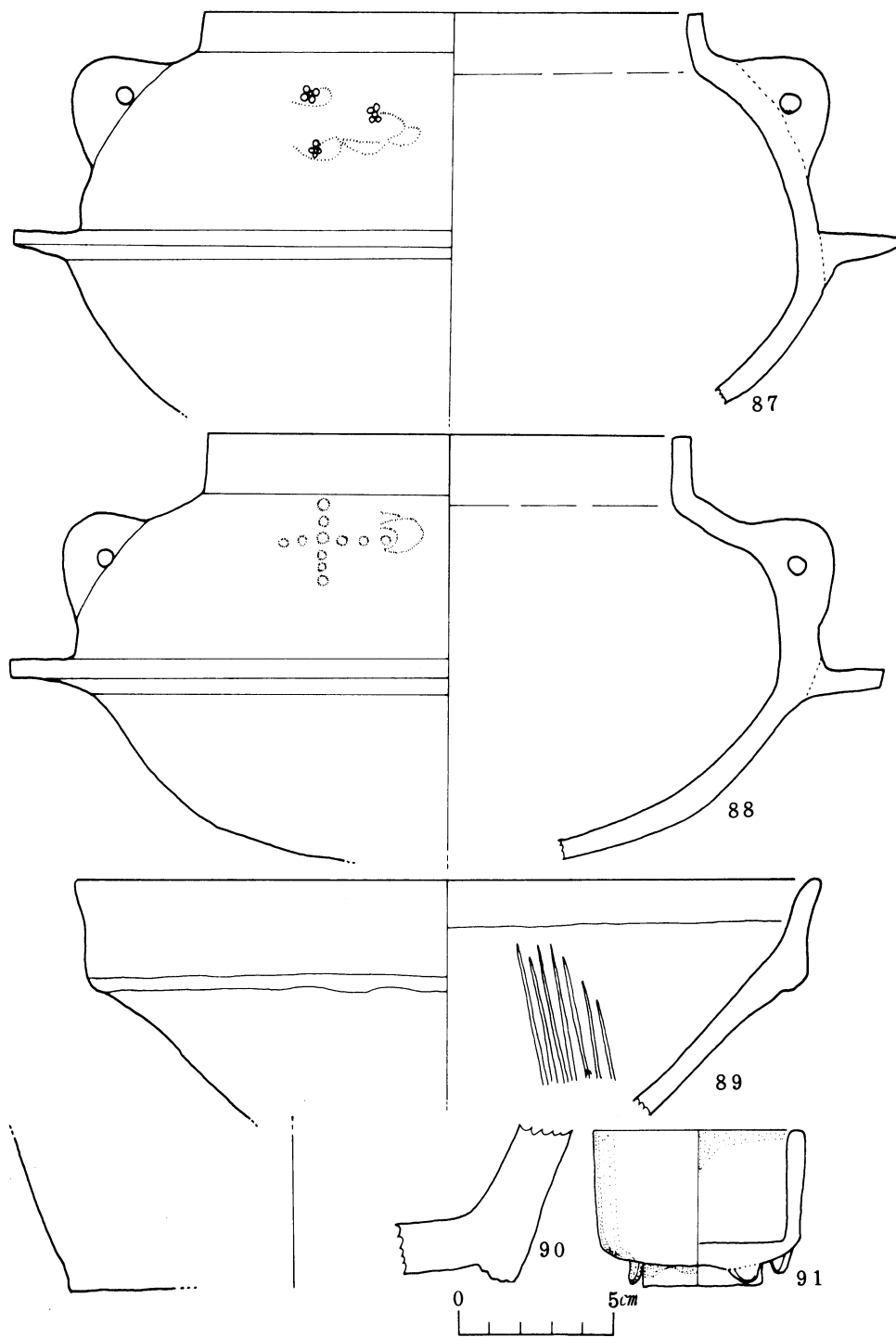
## 8 石 臼 (第27図・図版17)

G-11区の柵列の落込みから出土した凝灰岩質の石臼である。半欠であるが上臼(雌臼)で直径18.5cm、厚さ11cmを測る。上面の縁は幅2.5cmの平担面で、くぼみは2.5cmあり、中央部に直径2.4cmの供給口が貫通しており、これが芯うけにもなっている。下面は平担で3~7条の副溝が刻まれている。側方には径7・5・4cmの方形の刻線の中心部に挽手の穴(直径4cm、奥行3.8cm)がある。表面は上面の1.5cmを除き不規則な刻目を施す。

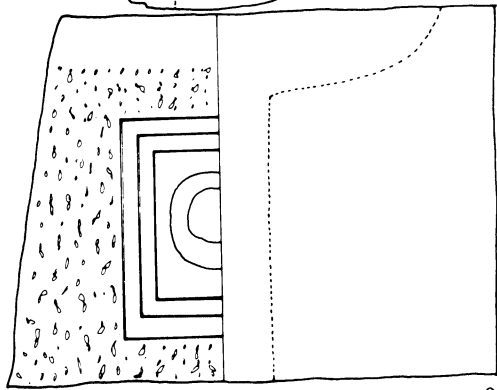
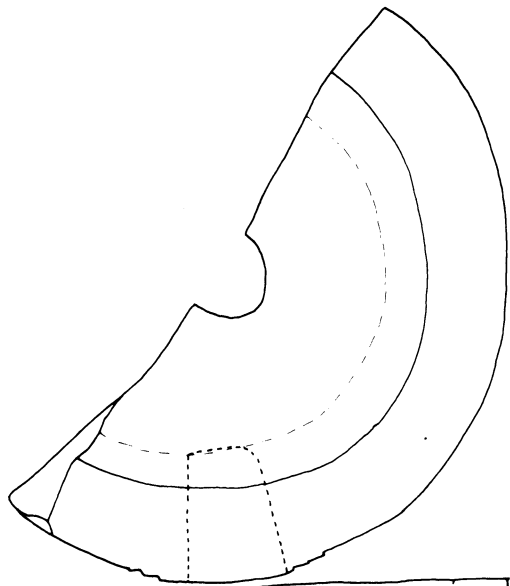
## 9 かんざし (第27図・図版17)

かんざしは2本出土した。93は全長18.1cm、最大幅1.1cm、厚さ0.3cmを測る。耳かき部分は反りかえり、表には唐草文様の毛彫りと、中央部には縦に1本の彫りこみがある。

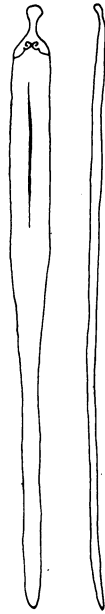
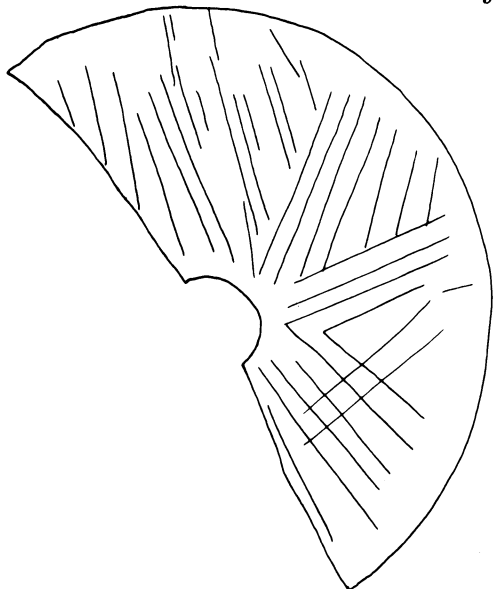
94は全長18.2cm、最大幅1.3cm、厚さ0.3mmを測る。表は唐草文様を上部に毛彫りし、中央



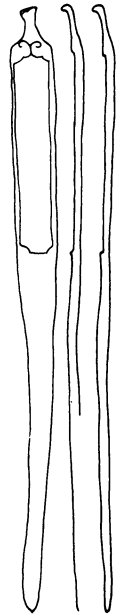
第26図 湯釜・すり鉢・甕・香炉実測図



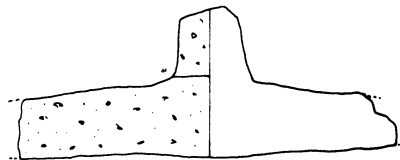
92



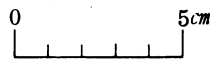
93



94



95



第27図 石臼・かんざし・蓋実測図

部は幅 1.1cm, 長さ 5.9cmの窪みをあしらう。四隅は曲線でデザインしている。

## 10 軽石製蓋 (第27図・図版17)

軽石製の蓋で、紐は方形となる。全長約11cm, 厚さ 2 cm, 紐高 2.2cmを測る。

### 小 結

これまで山城に関する遺構・遺物等について述べてきたが、これらを要約すると次のとおりになる。

①山城は三方を崖に囲まれた舌状台地という天然の地形を活用したものである。そしてこの台地も中央部に堀、基部は約1mの段を設けることで3つの廊を形成する。東側は緩傾斜面を削平し、腰曲輪を造り出す一方、台地との接点に堀を設けることで、台地との比高差も最大5～6cmに及ぶ斜面とし、防禦面として利用している。

また、台地中央部の北側には2列の柵列が検出されたことから、廊の防禦を考慮したものといえる。

なお、台地基部にあたる曲輪Ⅰは幅60mの平坦面を経て、再び段差をもって丘陵へと続くものであるが、この段差付近に堀状の落込みがあるとの地主の話があり、これが堀とすれば、台地を独立させたものとも思える。

ピットは曲輪Ⅰ及びⅡに集中して検出されたものの、建物を復元するにはいたらなかった。しかしながら、ピットの集中度から本遺跡の主要部は曲輪Ⅰ及びⅡと考えられる。

そのほかの遺構としては土坑内に集積された礫が検出された。この礫の出土は上ノ城(加世田市)等でも確認されているし、本遺跡とほぼ同時期の矢上城(鹿児島市坂元町)にはより多くの礫が現存し、戦闘用に用いたとの記録もあることから、本遺跡の礫も有事の際の投石用の可能性も十分に考えられる。

井戸は一基確認できたが、高地であるためその用に供したかは不明である。ちなみに、腰曲輪に居住していた地主の家(標高約168m)の井戸は30mに及ぶものであったといわれるのでそれよりも約5m上位の本井戸の活用は、水位の変化を考慮しても疑問が残る。

土塁は基部にわずかな痕跡として確認したものほか、先端部に土盛りがあり、縦断・横断面の観察をし検討を加えてみた。この区域は明治年間に移住した地主の話では防風用に構築したとのことでもあったし、本土盛りのみが、以後畑地として利用された台地において現状のまま残存していた不自然さも懸念の一つであった。

②遺物は土師器、青磁・白磁・染付・石臼・湯釜・かんざし等が出土したが、その総対量は少なく、しかもほとんどが攪乱を受けた地域や、台地縁辺部に散逸しており、現位置を示すものは少なかった。これら遺物のうち土師器皿はすべて糸切り底である。このうち3点は二次的に火を受け黒色となり、器形も変形していることから火災等が考えられる。

青磁・白磁・染付のうち、青磁の23・24、白磁の60・62のように13～14世紀前半の南末代に



第28図 城周辺地形・字名図

比定されるものもあるが、ほとんどは15～16世紀の遺物である。染付はこの傾向がなお強く、15～16世紀のいわゆる嘉靖様式が主流である。

③以上が発掘調査で得た結果であるが、字名としても城の存在を示している。

台地の中心部の字名は「加栗山」、基部付近は「野久保」となっているが、「かくり山」→「かかい(楳)」、「のくぼ」→「のくび(野首)」の転化したものととらえることができ、それぞれ城に由来する地名といえよう。

また、台地西側の字名は「弓場」、腰曲輪付近は「馬乗馬場」と通称されている。

④ところで、中世山城としての加栗山遺跡の城主の比定である。

本遺跡を含む地域は川上町である。この川上に由来する人名は「鹿児島県史」によれば、島津氏第15代藩主島津貞久の長庶子・頼久を祖とし、江戸時代まで島津氏の重臣としての地位を保った名家であった。そして、2代(頼久の子親久)が川上を拝領し、川上姓を称したとも伝えられている。このほか「川上氏系図」「薩藩旧記雑録」には「勝久公遣兵攻川上城」や「久利在川上城時宥失火」等の記事が散見され、川上城の存在したことがうかがえる。しかし、この記事にいう川上城が本遺跡であるかについては、調査資料からは特定できない。

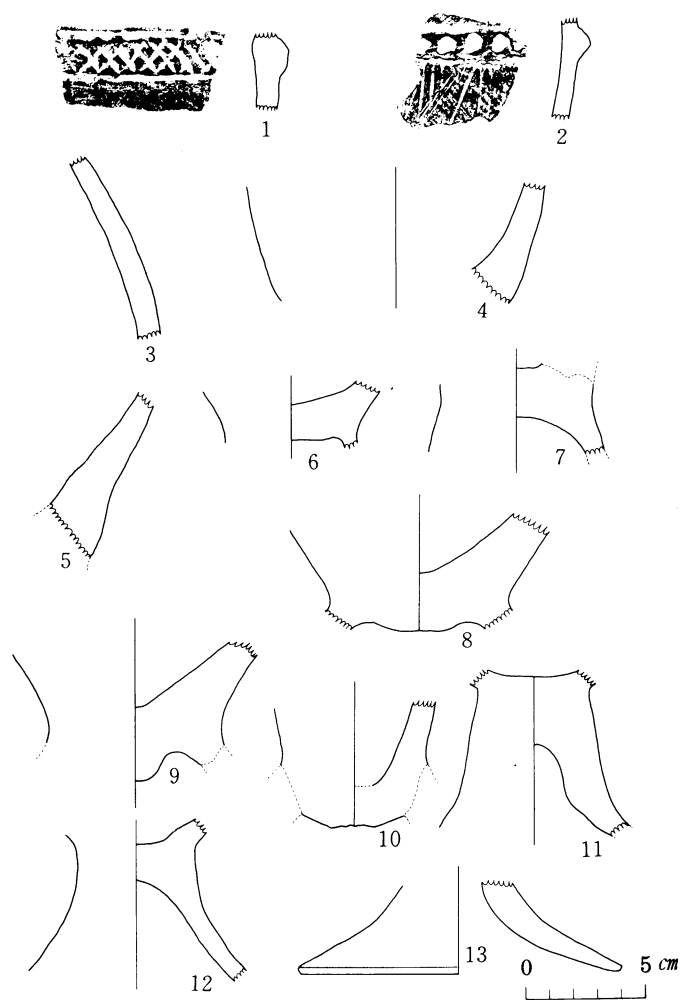
⑤なお、図27のB・Cも城山と口伝されていることから、本遺跡と対をなすものと考えられる。



## 第V章 古 墳 時 代

### 1 節 土 器

古墳時代の土器は、表土層より山城の時期の遺物等といっしょに出土し、いわゆる包含層よりの出土物ではなく、量的にも少ない。1・2は貼付突帯を有する壺形土器の胴部と思われる。1は突帯にヘラ状施文具による斜格子の刻目を施し、焼成は良好、色調は淡い茶褐色、胎土には石英・長石・角閃石等を含む。2は突帯に斜めの刻目を施し、焼成は良好、色調は暗茶褐色を呈す。胎土には石英・長石・角閃石等を含む。3は壺形土器の胴部である。焼成は良好であるが、器面は風化している。色調は淡茶褐色であるが、部分的に焼成時に黒くなっている。胎土には石英・長石等が含まれる。4・5は壺形土器の底部近くである。焼成は良好、色調は淡茶褐色、胎土には石英・長石・角閃石等を含む。6～10は甕形土器の底部である。8・9は胴部と底部の取りつけ部において、胴部の先端部が、底部へと突出して残っているのが観察される。いずれも焼成は良好、色調は茶褐色を呈す。胎土には石英・長石・角閃石等が含まれる。11～13は高坏の脚部である。11は取り付け部において、坏部の貼付が観察される。焼成は良好、色調は茶褐色、胎土には石英等が含まれる。12はややラッパ状に開く脚部で、焼成は良好、色調は茶褐色、胎土には石英・長石・角閃石等を含む。13は復元脚底径13.6cmを測り、ラッパ状に開くものである。焼成は良好、色調は淡茶褐色であるが、部分的に赤色顔料が塗布された所を残し、全面に赤色をしていたものと思われる。胎土は精選されたきめのこまかい土を使用する。



第29図 成川式土器実測図

## 第Ⅵ章 縄文時代

### 層位と分布

本遺跡の縄文時代の出土土器には、縄文時代早期・前期の土器があり、その中でも縄文時代早期に属するものが主体となる。層位的には、Ⅲa層・Ⅴa層が遺物包含層となり、台地全域



第30図 D-13区土器出土状況

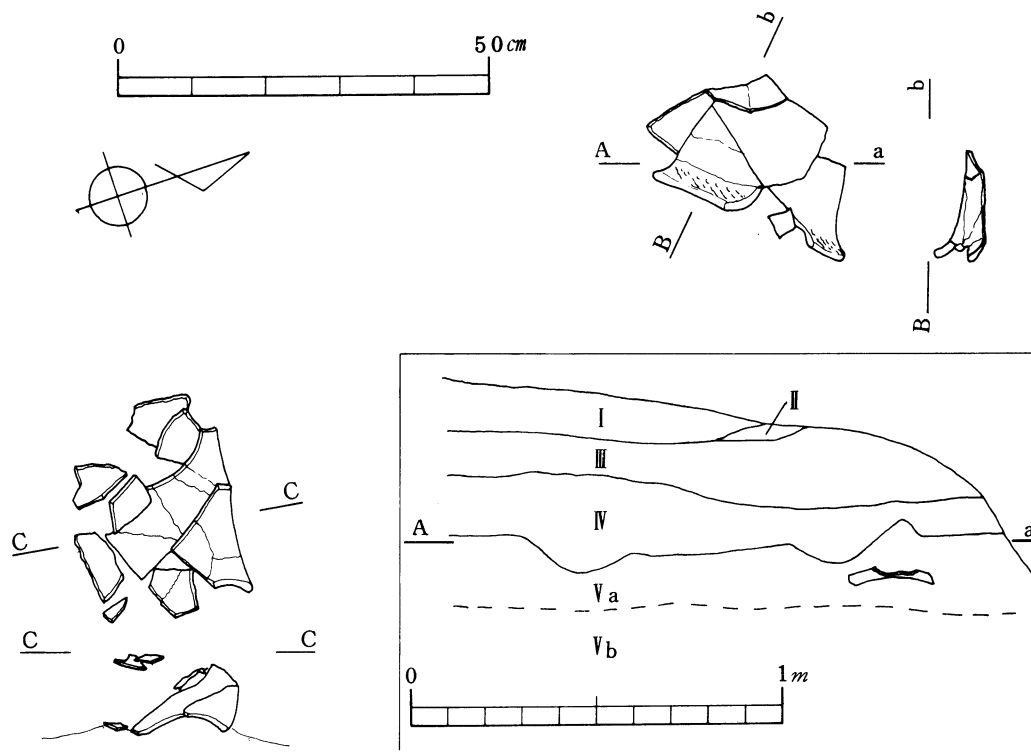


第31図 P-13区土器出土状況

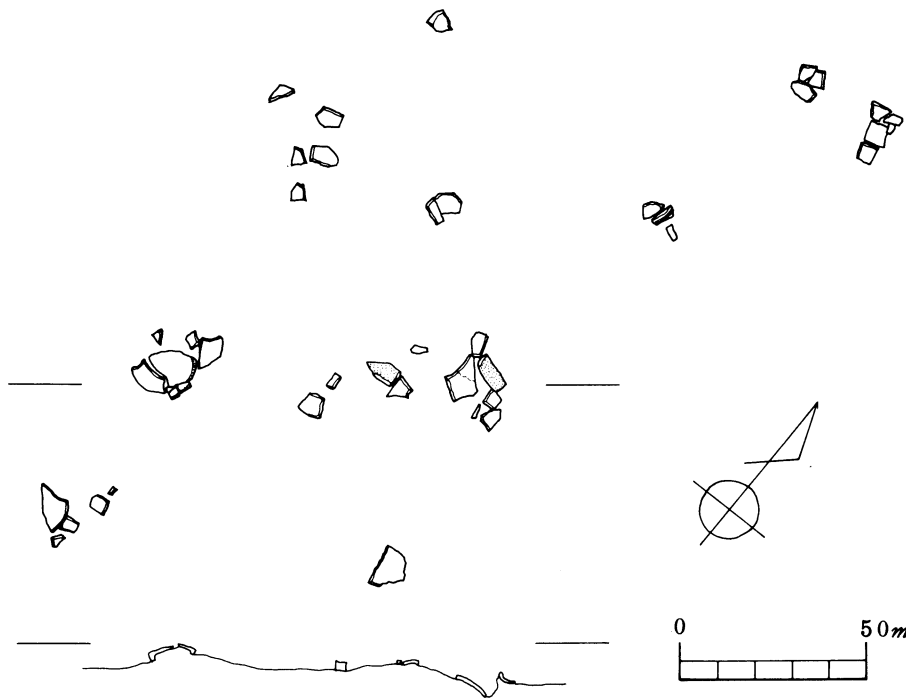
況は、台地中央部は土坑群や住居址群の遺構があり、その周辺には遺物の量は少なく、台地西側縁辺部付近に土器片が多い傾向にある。

に堆積している。なお、現代の耕作や、特に中世山城の廊Ⅰ、廊Ⅱ、堀Ⅰ、堀Ⅱ、柱穴などの人為的な遺構構築時に攪乱を受けたりして、縄文時代の遺物包含層は削り取られている部分も認められた。

Ⅲa層からは、前期に比定される曾畑式土器が出土する。土器のほとんどが破片である。Ⅴa層の縄文時代早期の遺物包含層は20cm前後堆積し、石坂式・吉田式・前平式土器の縄文時代早期の3形式の土器が多数量出土した。これらの形式の土器分布は、11区を境に2分する状況を示した。11区以南に石坂式が、11区以北に吉田式・前平式土器が出土した。形式によって独自の分布域を成していた。石坂式土器は50m四方の範囲に分布し、台地縁部には遺物は見られなかった。吉田式・前平式土器は広範囲に一様に分布している。同一層内の出土状況で、しかも分布域が違っていることもあって層位的に前後関係を把握出来るような遺物の出土状況ではなかった。また、吉田式・前平式土器の分布状



第32图 I類土器出土状况



第33图 I類土器出土状况

## 1節 遺 構

今回の発掘調査の結果、舌状台地のほぼ中央部に縄文時代早期の竪穴住居址17基（A—12区住居址は、住居址遺構のコーナーの一部で、遺跡調査区範囲外に主体部は残存するものと想定され、調査の対象から除外し、確認だけにとどめた）や、土塚77基、集石16基などの遺構が発見された。

住居址や土塚の遺構の掘り方は、無遺物層のV b・VI・VII層を掘り込んでいる。なお、V b層はV a層との比較は、土質や色調などの要素が極似し見分けが困難で、V b層上部での遺構検出は不可能であった。そこで黒褐色のV b層を除去し、黄褐色パミスでVI層の上面まで掘り下げて遺構検出作業を実施した。したがって、V a層を遺物包含層とし、縄文時代早期の生活面や、遺構の掘り方は、遺構検出面（VI層上面）より10数m上位に求められよう。ゆえに、住居址や土塚の遺構の深さを確実に計測することは不可能であった。

個々の住居址は、単基で独立するもの、重複するもの、隣接あるいは、かけ離れて位置するもの、土塚は群をなし重複あるいは単独、集石は全面的に散在しているなどの配置をみる。

### (1) 住 居 址

#### I号住居址（第35図）

台地中央部の東側縁部のF—14区に検出された。主軸をN—68°—Wに、3.4×3mの隅丸方形のプランを呈す。IX層上位まで掘り込み床面とする。深さ28cm、面積は10.2㎡。側壁は、わずかに傾斜を呈す。東側の壁は土層の横転や攪乱を受け、掘り方は把握出来なかった。

柱穴は総数41個を検出する。壁柱穴はほぼ円形で径13～27cmの小さい、24個確認する。5・12～14・21は壁ぎわに挿入する柱穴痕を検出する。床面の柱穴は、壁柱穴より比較的大きい。26・32・36は他の柱穴より若干深い。

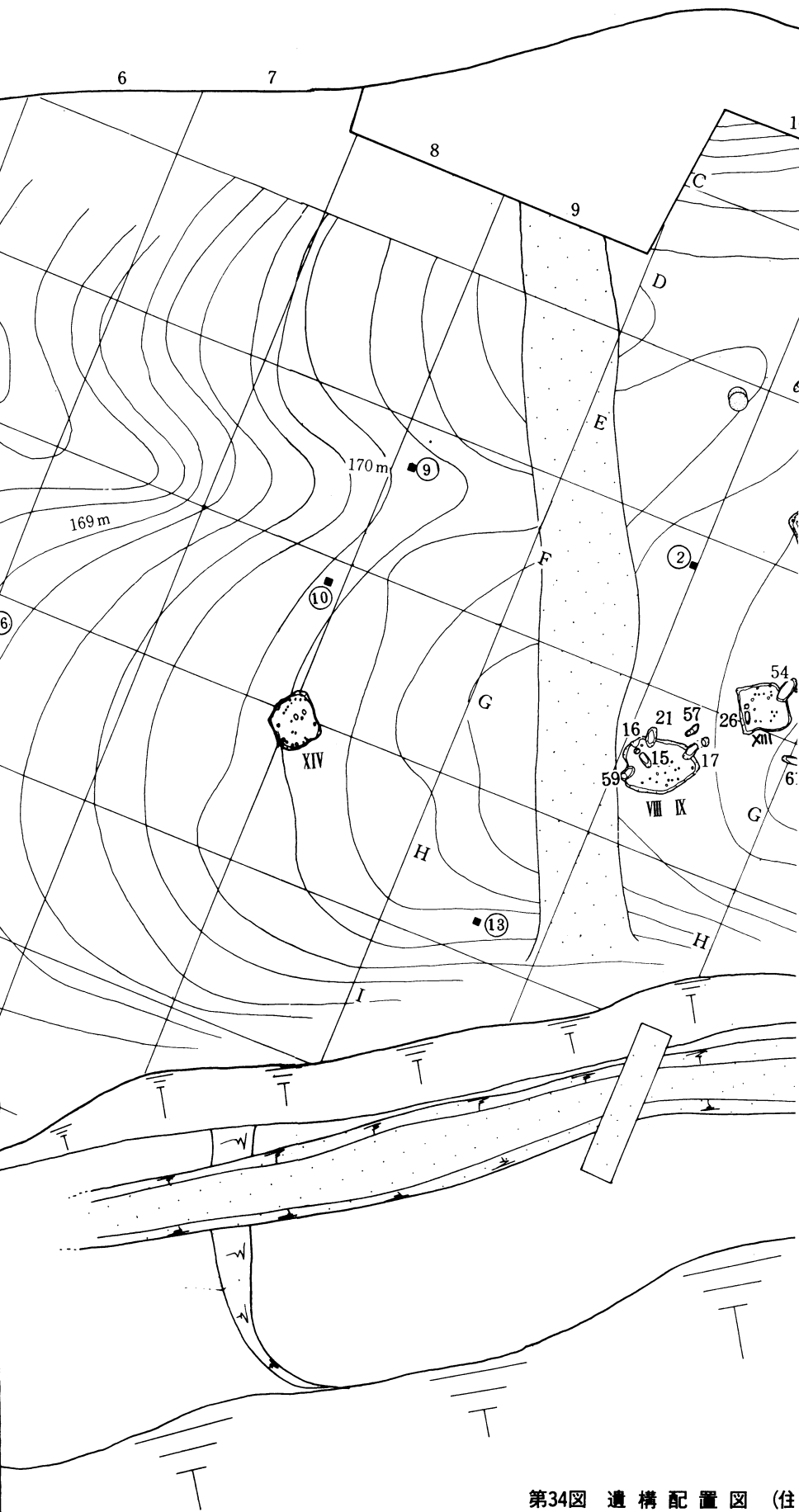
#### 出土遺物（第55図）

床面に安定した状態で出土するものでなく、住居址内の覆土から出土する。1～12は円筒土器である。1・2は、円筒土器でクサビ形凸帯を有す。IV A類土器である。3～11はIV類土器の口縁部と12は底部である。13～21は角筒土器で、18はVIII A類、13～15・17・19はVIII類、16・20・21はVIII類底部である。

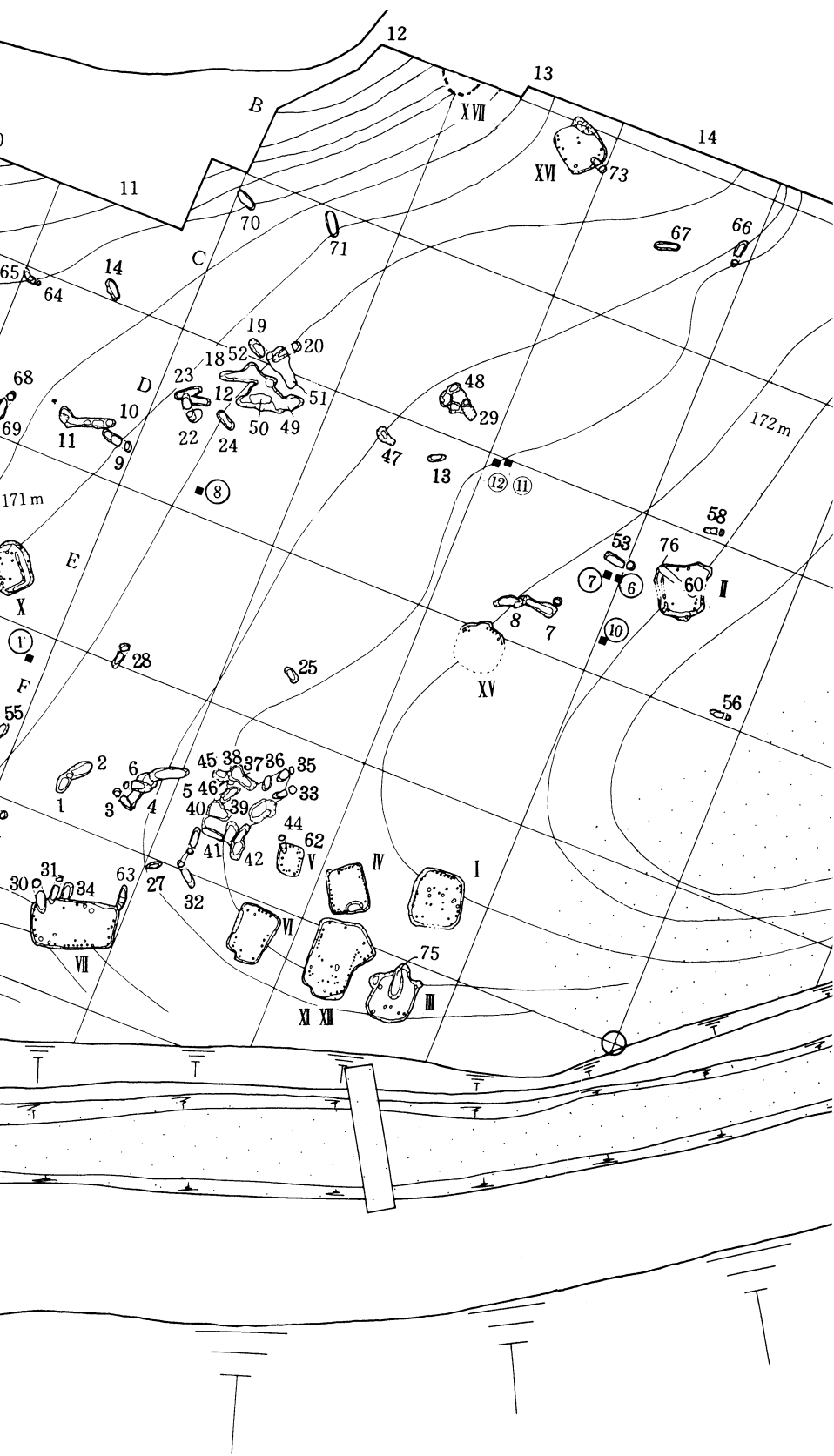
#### II号住居址（第36図）

D—15区に検出された。主軸はN—80°—W。2.8×2.5mの隅丸方形プランを呈す。面積は8.4㎡、VII層下位まで掘り込み床面とする。II号住居址は、土層確認のためトレンチ調査の結果、発見され、住居址遺構の真ん中を、たち切った状態となってしまった。側壁は、わずかに傾斜を呈す。住居址北壁と西壁は土塚60と76と重複し、壁面は定かではない。また、住居址と土塚の先後関係を知る資料として、遺構内への覆土を細かく観察したが、覆土は同系統の土壌であり把握は出来なかった。住居址内の南側に、長さ2.2m以上、幅15cm、深さ10cmの壁帯溝と、

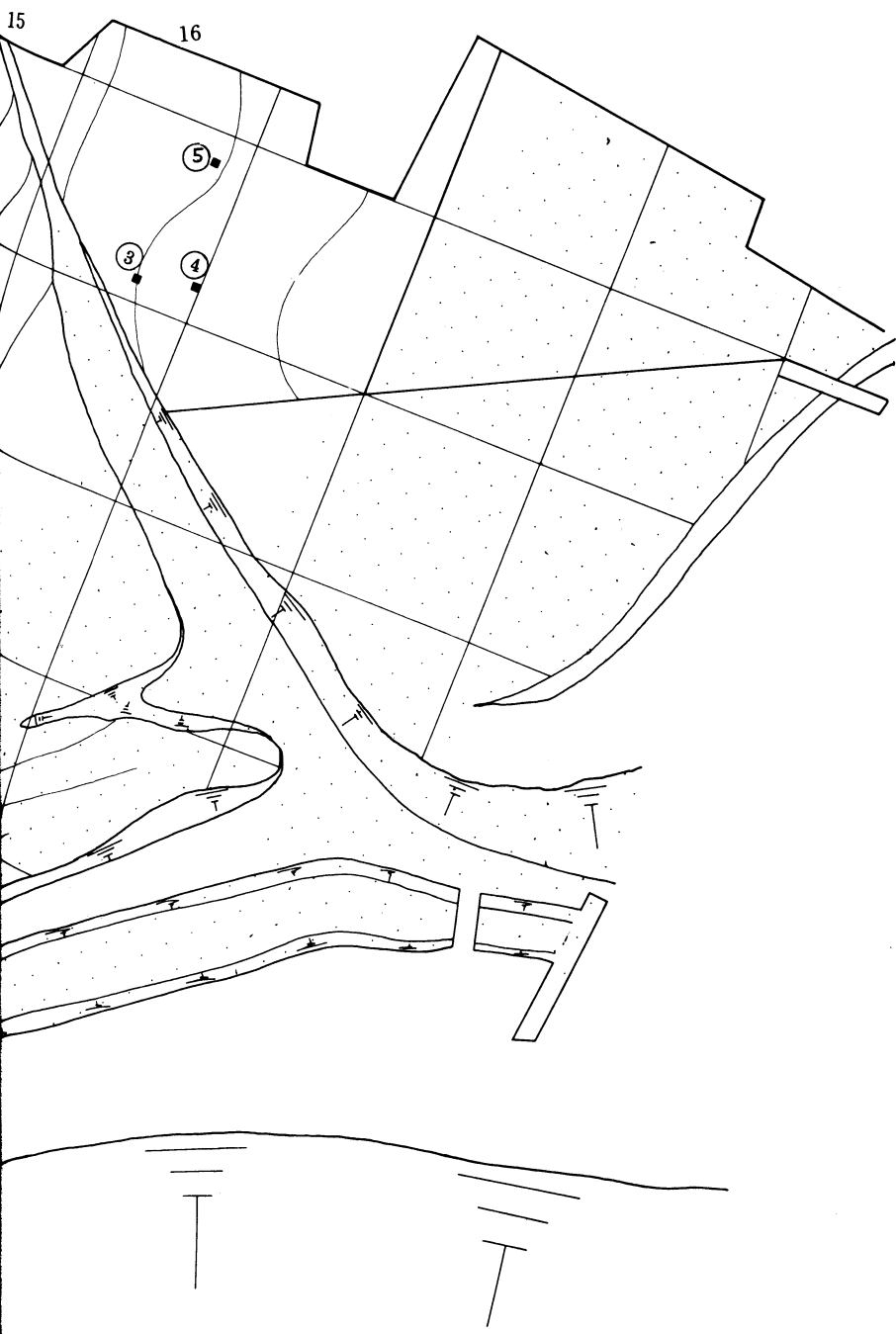
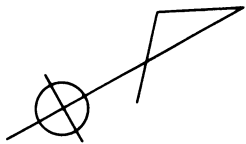




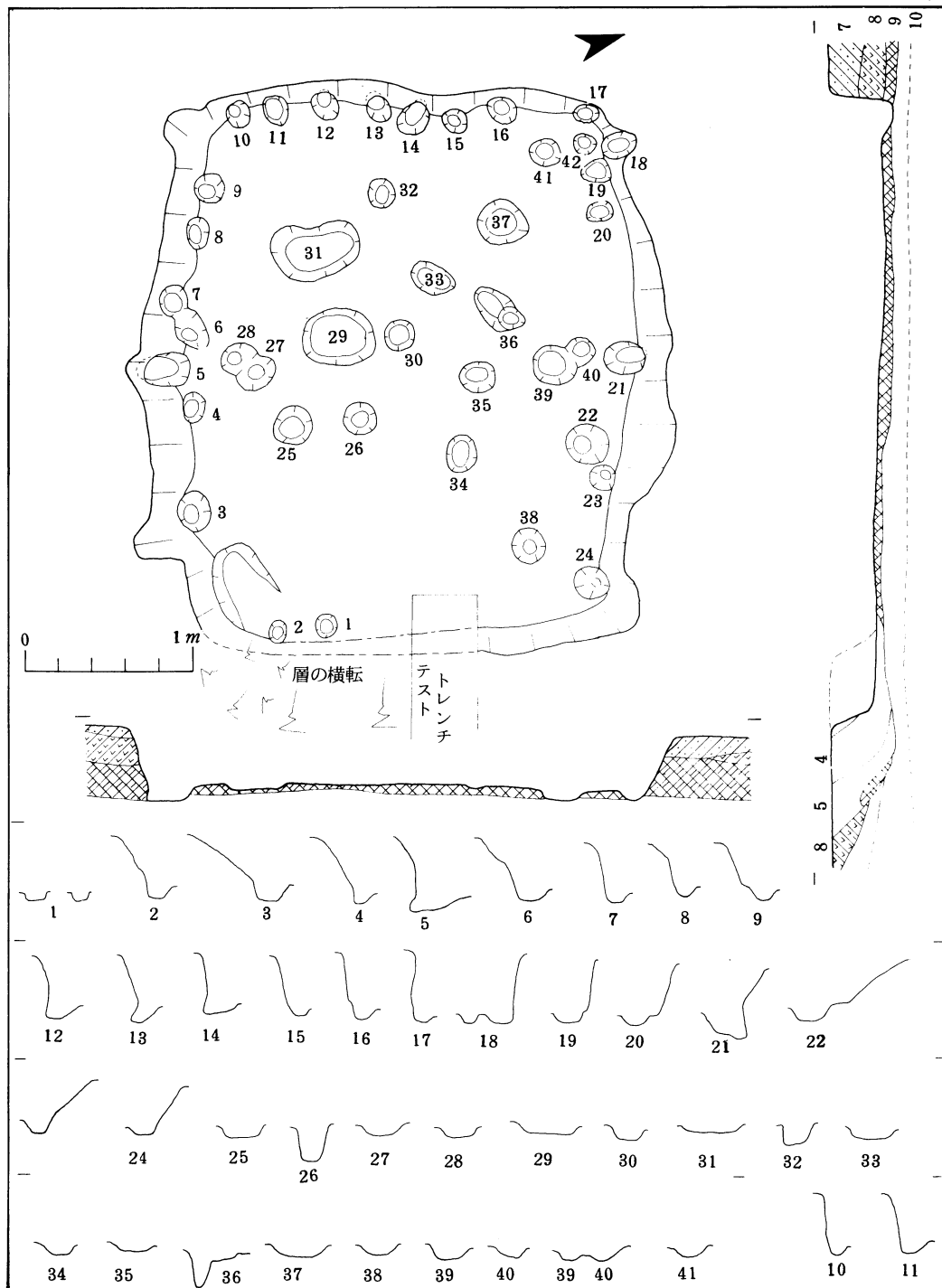
第34図 遺構配置図 (住)



居址・土城・集石)





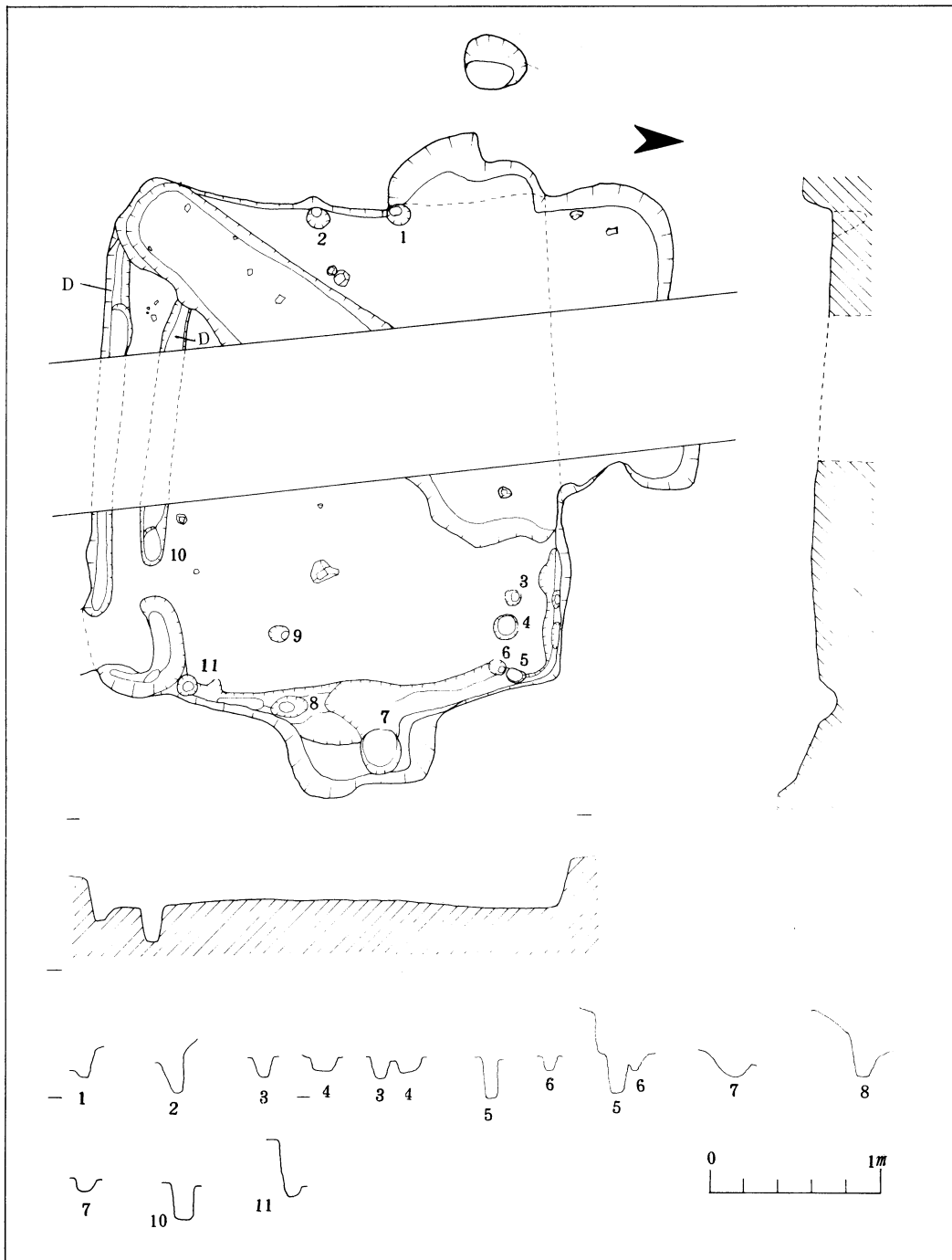


第35図 F-14・I号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 無し

柱穴 41個 寸法 3×3.4 m 深さ 30cm

備考 東壁は、土層の横転及び攪乱を受けている。



第36図 D-15・II号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 有り 柱穴 11個  
 寸法 2.8×3.0m 深さ 20cm 面積 8.4㎡  
 備考 テストトレンチにより中央部は除去された。

東側と北側の一部を巡る壁帯溝、南壁より30cm内側に長さ1.6m、幅17cm、深さ20cmの溝を検出。確認できた柱穴は11個で、5個は壁柱痕である。柱穴5・8・10・11は溝と重複する。2・5・8・10は他のものより深い。東側には、壁より突出し段を有している。住居址の出入口部を想定させる。

#### 出土遺物 (第56図)

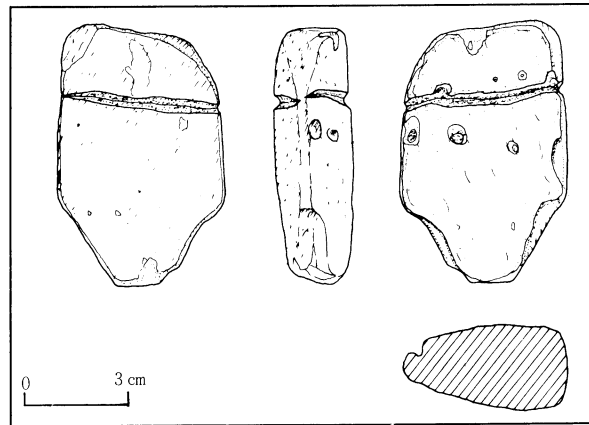
住居址床面からは小礫4個のみで土器は発見されなかった。22は器面に貝殻腹縁による押圧文のⅢ類土器、但し、土埴76のものか不明。23～26はⅣ類土器で土埴内のものである。

#### Ⅲ号住居址 (第38図)

Gの14区から検出。主軸はN-90°-W。2.6×2.5m、深さ32cm、面積は6.5㎡。台地東側縁辺に位置し、土層は西から東へ傾斜をなすことから、床面はⅩ層も部分的に露呈している。全体的に壁はゆるやかなもので西壁は土埴76と重複し、壁面のパミス層はもろく、くずれている。柱穴は8個検出され、壁柱は4個で、1・2・7は径20cm前後の大きい柱穴痕となる。深さは全体的に浅い。周溝は無い。

#### 出土遺物 (第37図)

土器や石器などの遺物は出土していない。住居址内の南西部位から軽石製頑具が出土した。長さ7cm、幅4cm、厚さ2.2cmで片方は尖がり気味。真ん中より上位に幅4mmの陰刻線を表裏に巡らす。下方の両端は欠落する。石棒と類似するものか。



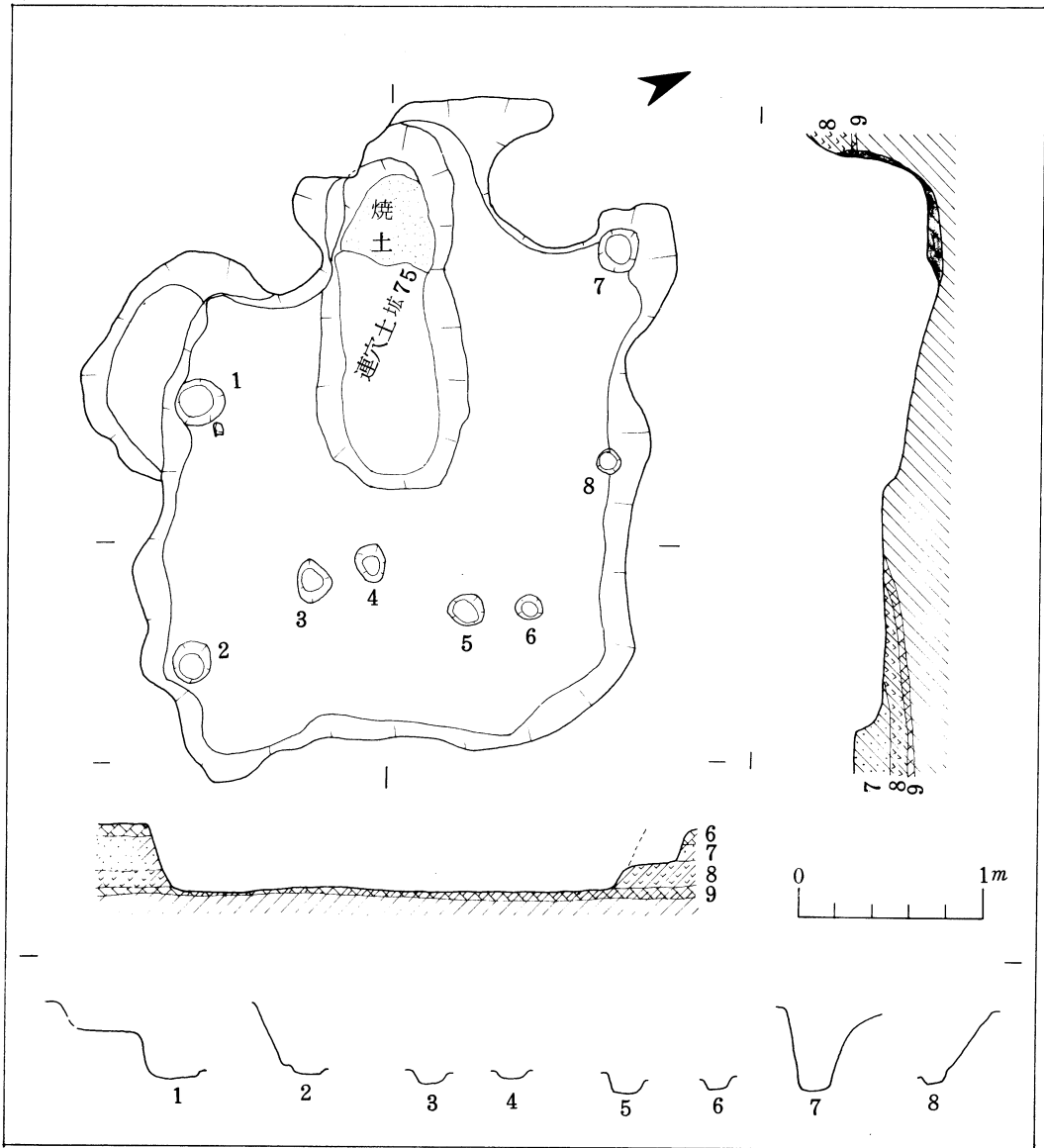
第37図 Ⅲ号住居址内出土・軽石製頑具

#### Ⅳ号住居址 (第39図)

F-14区から検出。主軸はN-65°-W。2.8×2.5mの隅丸方形プランを呈す。面積は7㎡。深さ30cm。Ⅶ層下位を床面とする。側壁はしっかりしたもので、ほぼ垂直となる。南西部は試掘溝により一部カットされた。柱穴は総数33個検出されるが、カットされる部分を復元すると6個以上は増すものと思われる。1～32の壁柱穴は等間隔に整然と配置されている。深さも、おおよそ一定する。住居址内東壁に隣接する楕円形の落ち込み(1.1×0.8m、深さ20cm)が発見されたが、住居址に付随する遺構か否かは判断できなかった。

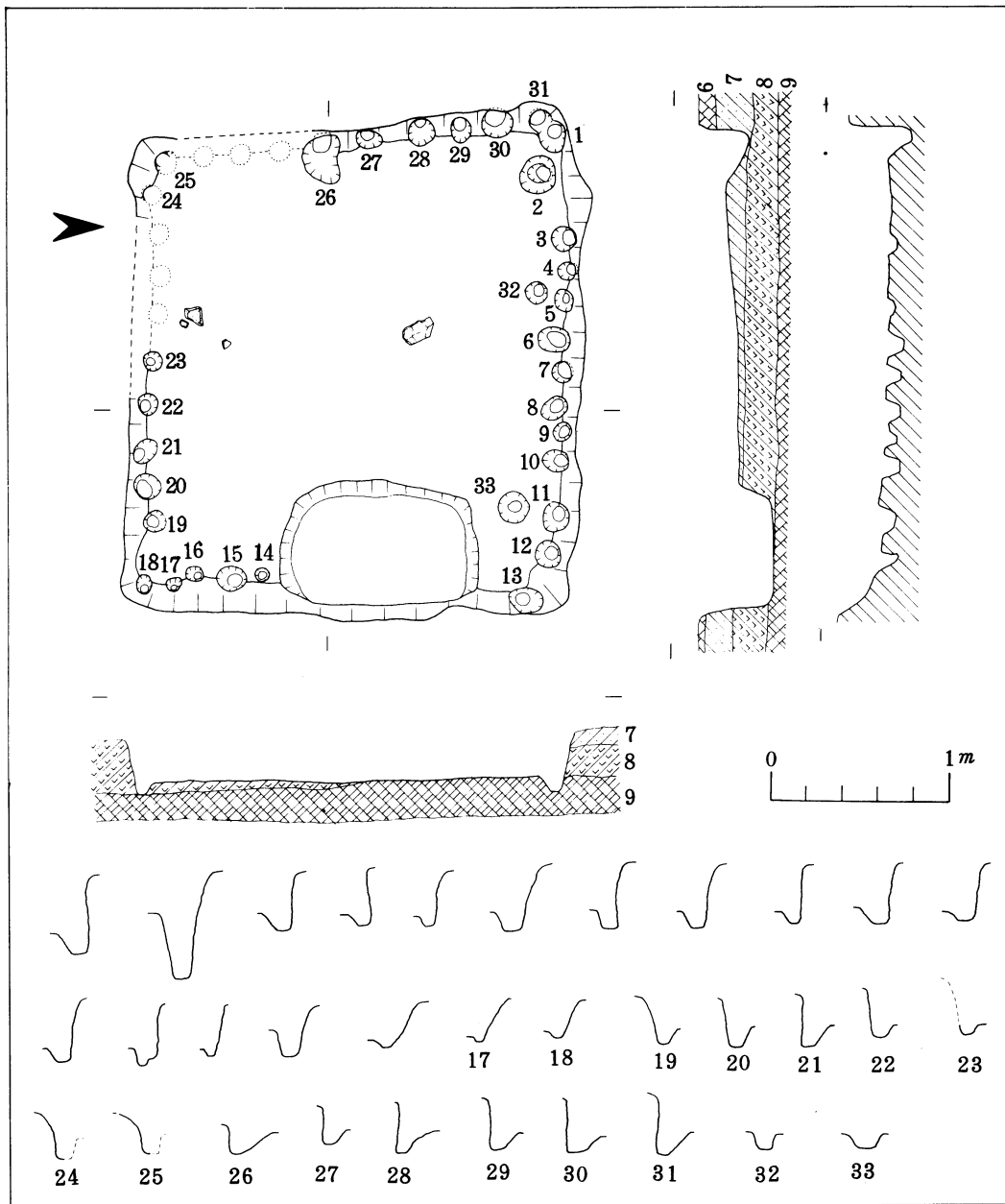
#### 出土遺物 (第56図-27・28)

住居址床面直上から出土した。27・28は器面に貝殻条痕文を施し、貝殻腹縁による縦列の貝殻刺突線を有す円筒土器Ⅳ類である。



第38図 G-14・Ⅲ号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 無し 柱穴 8個  
 寸法 2.6×2.5m 深さ 32cm 面積 6.5㎡  
 備考 土壇75と重複する。軽石製頑具出土。



第39図 F-14・IV号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 無し 柱穴 33個  
 寸法 2.8×2.5m 深さ 30cm 面積 7.0㎡  
 備考 テストトレンチにより一部カット。

### V号住居址 (第41図)

F-13区より検出した。主軸はN-70°-W。1.9×1.6mの隅丸方形プランを呈す。面積は3㎡と最も小型のものである。Ⅸ層上部まで掘り下げ、床面とする。深さ34cm。側壁はしっかりしており、ほぼ垂直となる。住居址南壁部のコーナーは土塚62と重複している。柱穴は23個検出され、壁柱痕と思われる。1・2・6・8・12・15~18・21~23は壁ぎわに位置する。小さい柱穴痕で、深さも0.9~26cm前後である。周溝はない。

### 出土遺物 (第57図)

覆土から土器が出土した。34・40は土塚62のものと思われる。34はⅣ類、40は角筒土器の底部で、平部は厚い。29・38はⅣA b類土器片、30~33・35はⅣ類土器片、36・37・39は角筒土器片である。

### Ⅵ号住居址 (第42図)

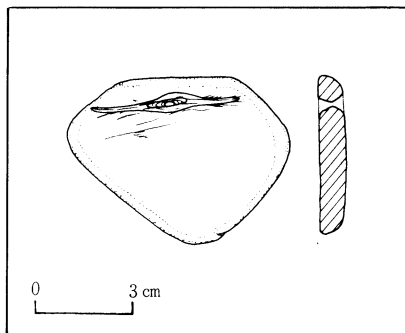
G-13区より検出した。主軸はN-58°-W。3.4×2.6mの隅丸方形プランを呈す。面積8.84㎡。側壁は比較的しっかりしたものである。東側の壁の掘り方は、中世遺構構築の為に落差は小さい。東側は1.4m、横40cmの突出しを持つ。柱穴は総計15個検出し、12~15は径10~15cmの小さい円形の穴で整然と並び、又、1~3は径20数cmの穴が壁ぎわにそって配置している。深さは10~18cmとなる。Ⅸ層上位が床面となる。突出し部のコーナーにも柱穴痕を配す。南側壁には、長さ1.5cm、幅16cm、深さ10cmの壁帯溝を設けている。溝の東側端には自然礫を認める。

### 出土遺物

Ⅵ号住居址内から床面に安定した状態で土器片や装身具と思われる加工品が出土した。

### 装身具 (第40図)

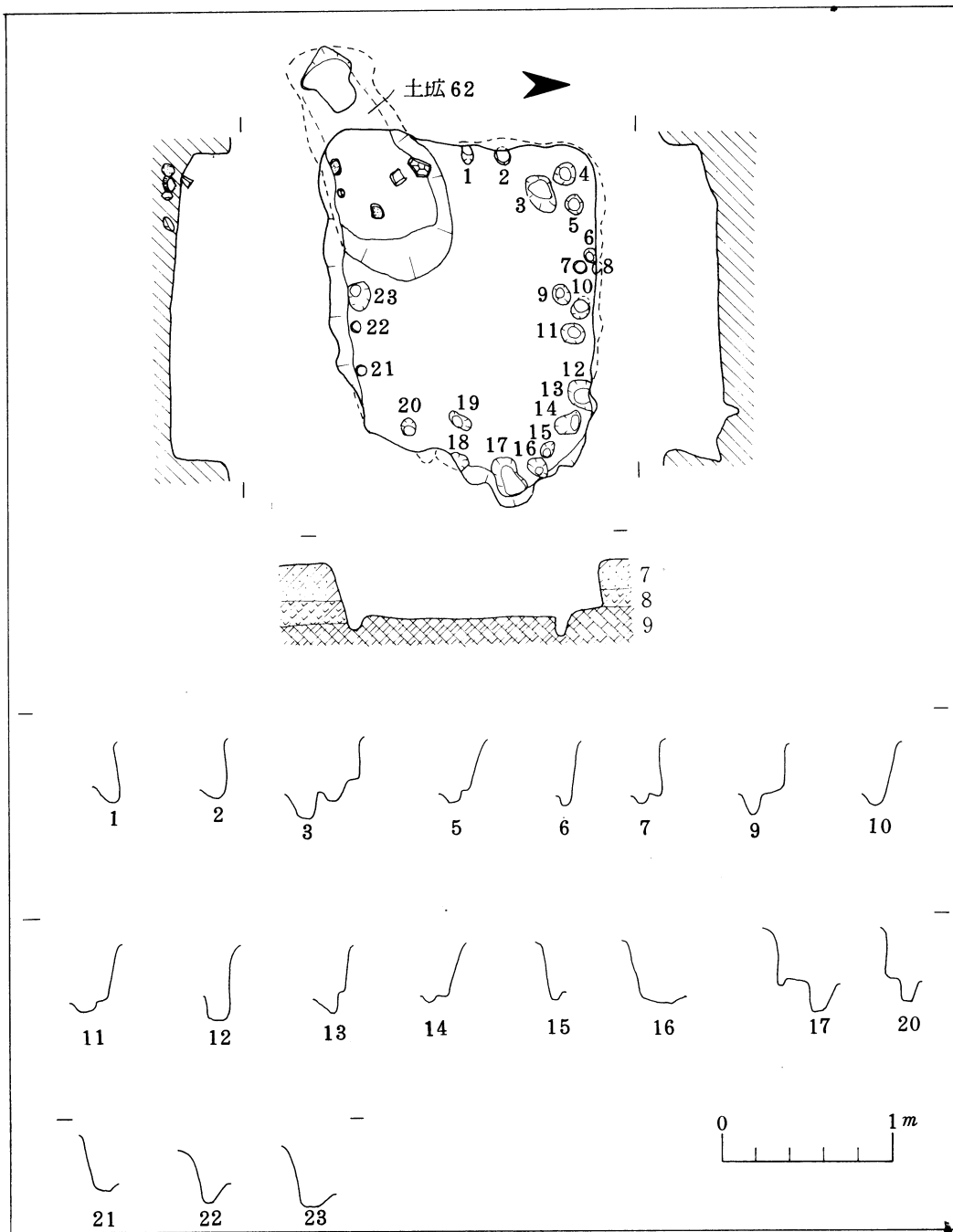
扁平な砂岩製の自然礫を使用し、研磨によって横6cm、幅4.5cm、厚さ7mmの垂三角形状に加工する。片面から線刻を行い、径2mmの穴を穿っている。



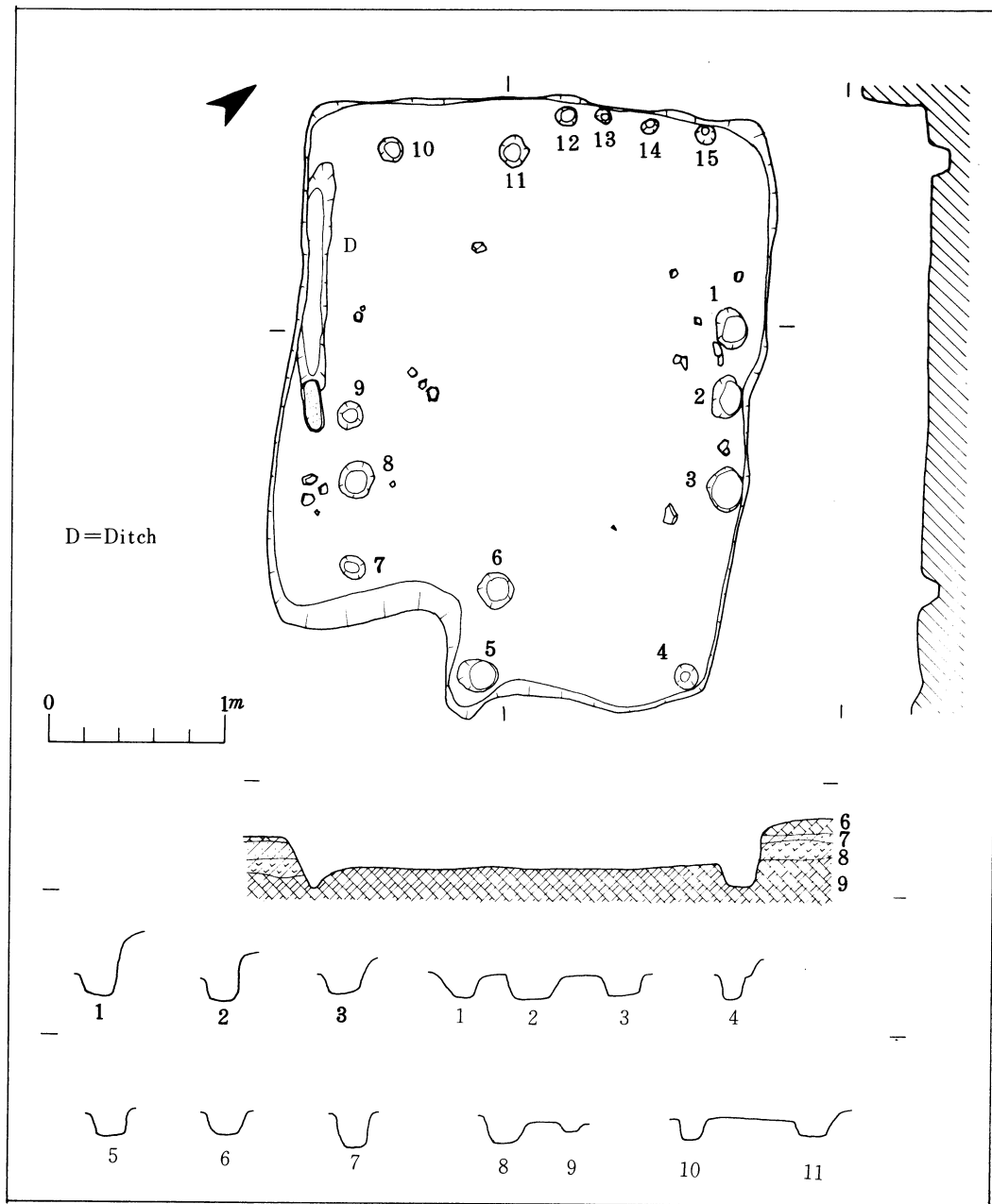
第40図 砂岩製装身具

### 土器 (第58図)

出土土器には41~53がある。41~44は口縁部が外反し、貝殻条痕文や貝殻刺突総文、クサビ形凸帯を有する。器内面の口縁部付近は篋研磨が施される円筒土器でⅣA a類に属する土器である。45・47・48は貝殻条痕文と縦位に貝殻刺突線文を施すⅣ類土器と思われ、48は大型の円筒形土器である。46・49~52は角筒土器で、貝殻条痕文・貝殻腹縁による縦線・菱形文線を構成するⅦ類土器である。53は円筒土器の底部で側面に縦位の凹線文を丁寧に施している。



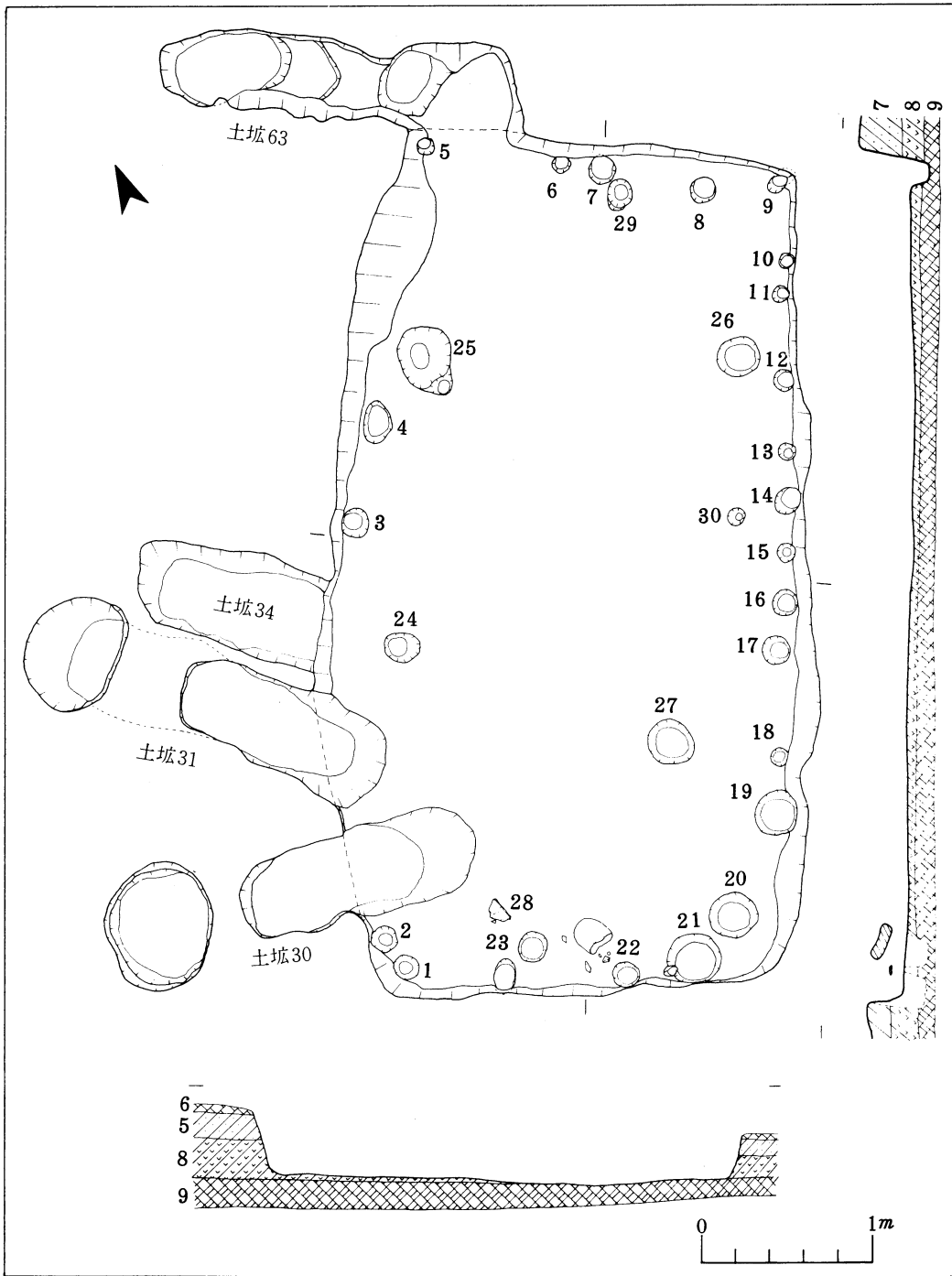
第41図 F-13・V号住居址  
 形状 隅丸長方形 周溝 無し 柱穴 23個  
 寸法 1.9×1.6m 深さ 34cm 面積 3㎡  
 備考 土塚62と重複する。



第42図 G-13・VI号住居址

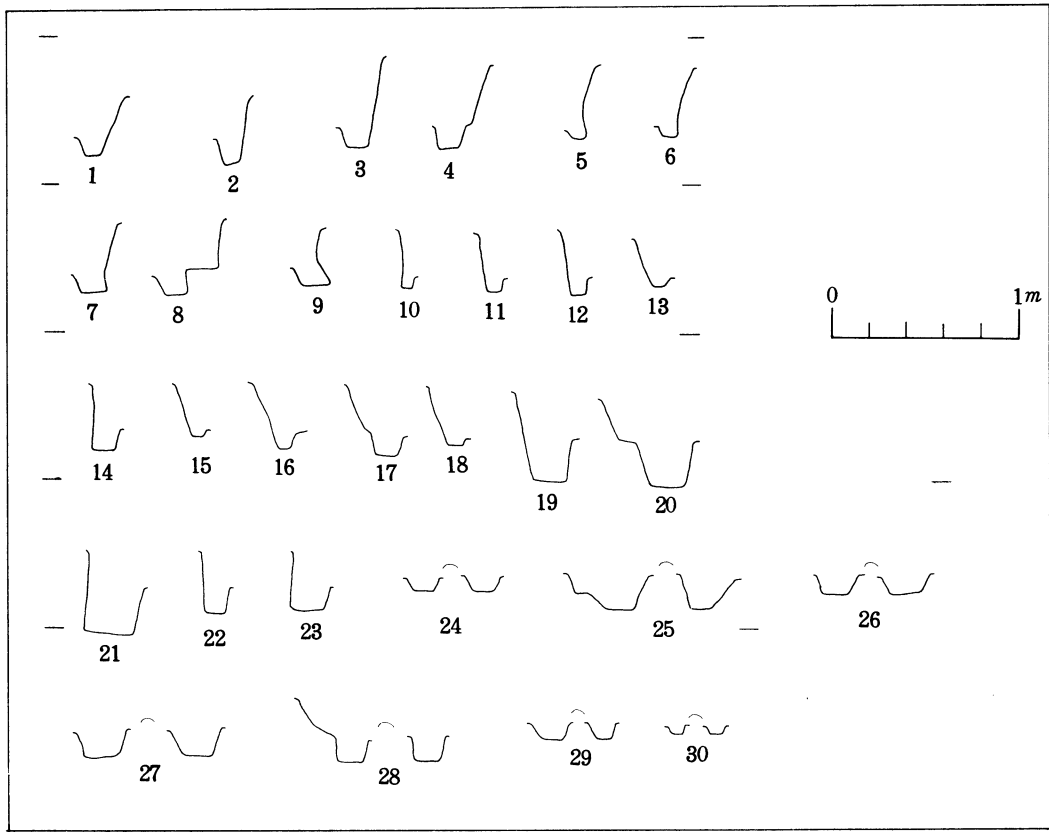
形状	隅丸長方形	周溝	有り	柱穴	15個
寸法	3.4×2.6m	深さ	18cm	面積	8.84㎡
備考	ペンダント出土				





第43図 G-12・Ⅶ号住居址

形状	隅丸長方形	周溝	無し	柱穴	30個
寸法	5.1×2.8m	深さ	40cm	面積	14.2㎡
備考	最も大規模な住居址・石皿出土				



第44図 G-12-VII号住居址ピット実測図

#### Ⅶ号住居址（第43図・第44図）

G-12区より検出された。主軸はN-9°-E。5.1×2.8mの隅丸長方形のプランを呈す。面積は14.2㎡。深さ40cm。Ⅷ層の下位まで掘り下げ、床面としている。側壁はしっかりしたものとなる。当遺跡の住居址群の中では、最大級の規模である。住居址西壁には土坑30・31・34・63が重複している。土坑の底面は住居址の床面より低い。柱穴は総数30個を検出した。壁にそって1~21・23の小円形と22の径30cmの壁柱痕が検出され、東側壁柱痕は比較的整然と配列している。5・6・7・9・10の柱穴痕は側壁に挿入するものである。支柱痕と思われる径30cmの円形の25~27がある。南東部に配する19~21は深さが24cmと深くしっかりしている。

#### 出土遺物

出土遺物には、土器と石皿が発見された。

土器には54~61がある。住居址内出土というよりは覆土の上位から出土した。55~59は器面に貝殻条痕文と貝殻腹縁による刺突線を施文する円筒土器Ⅳ類。60・61は角筒土器Ⅷ類で、貝殻条痕文と貝殻刺突線文を施している。61は床面近くに出土した。

石皿（143）は、半欠損するもので南壁の柱穴22の近くに凹部を上にして出土した。

#### Ⅷ・Ⅸ号住居址

G-11区より検出された。Ⅷ号住居址は、主軸をN-74°-Wにし、3.5×2.6m、面積9.1㎡の隅丸方形プランを呈す。北側はⅨ号住居址と重複する。又、西壁に土坑21、南壁に土坑16・51、中央部に土坑15が複合する。Ⅷ層上位まで掘り下げ床面とし、Ⅸ号住居址床面より若干高い。掘り方は浅く、特に東壁は傾斜を呈し落差は小さい。柱穴は間隔を広く配し9個以上検出。

Ⅸ号住居址は、主軸をN-25°-Wにし、2.5×2.4mの正方形に近い隅丸方形プランを呈す。南側一部はⅧ号住居址と重複する。Ⅶ層下部を床面とする。北壁に土坑17が複合している。壁は西、北側では明瞭に検出されるが東側は落差が小さい。西壁と北壁に添って、幅16cm、深さ6cm前後の溝1が「くの字」形に、又、北壁より25cm内側に長さ38cmの溝状の落ち込みと、南壁側にも同様な溝状の遺構を検出した。柱穴は、壁ぎわと内部に9個以上を検出した。

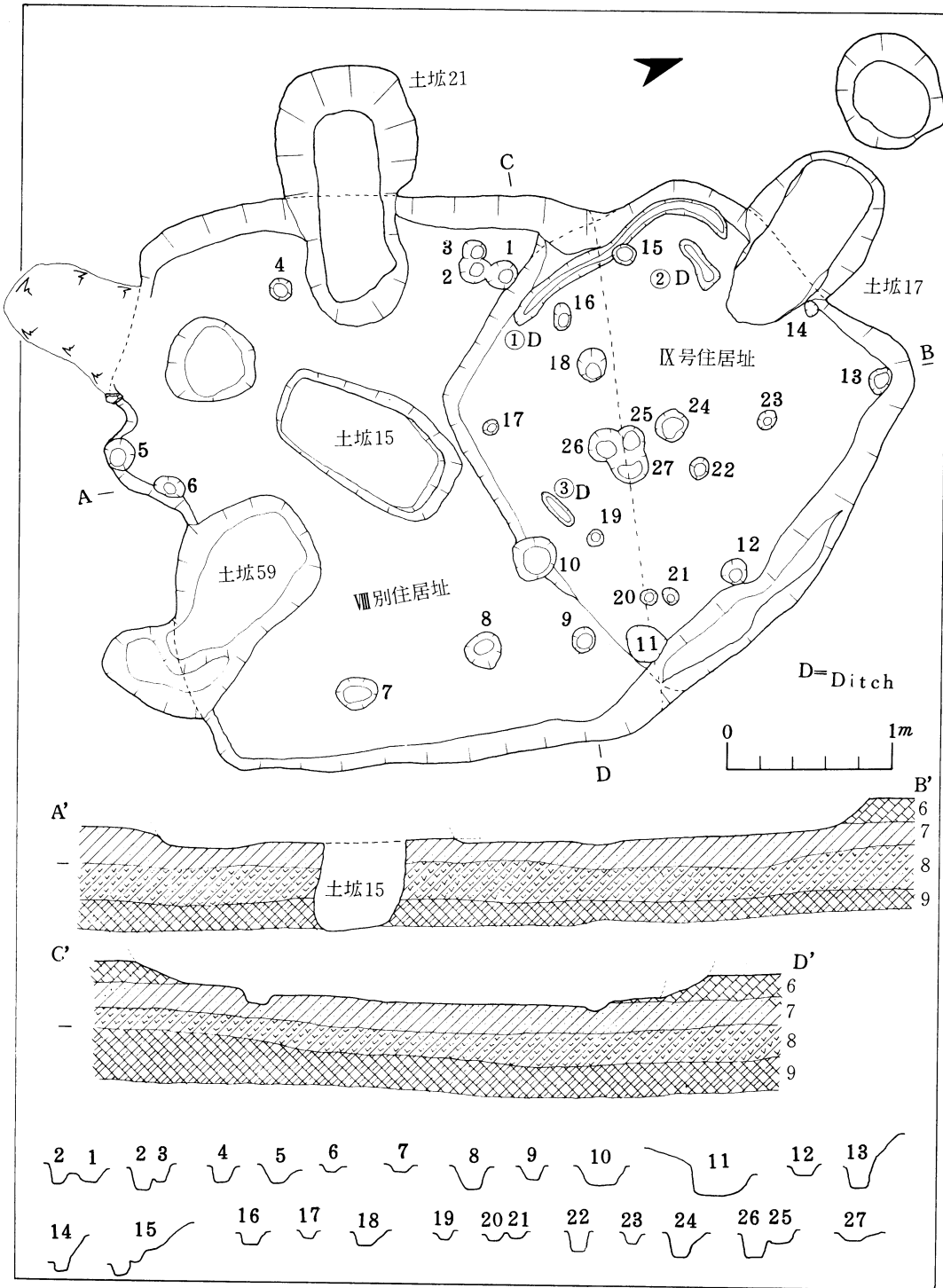
Ⅷ・Ⅸ号住居址の柱穴は総数27個検出したが、各住居址内の柱穴の配列から考慮して、Ⅷ号住居址の柱穴痕は1~9、Ⅸ号住居址の柱穴痕は12~17・19~25と思われるが、他の柱穴痕は住居址が重複している個所で不明である。

#### 出土遺物（第60図）

出土遺物は無いに等しく、62の土器底部のみである。Ⅷ号住居址内の覆土から出土したものである。復元底部径11.5cmで器面に貝殻条痕を横位に施文する。外底部には、幅の広い篋状施文具による刻み目文を施している。器壁は厚い、Ⅰ類土器のものと思われる。

#### X号住居址（第46図）

E-11区より検出された。主軸をN-74°-E。2.7×2.3m、深さ30cm、面積6.2㎡の隅丸方



第45图 G-11 VII·IX号住居址

VII号	形状	隅丸長方形	周溝	無し	柱穴	11個	寸法	3.5×2.6m	面積	9.1m <sup>2</sup>
IX号	形状	隅丸長方形	周溝	有り	柱穴	16個	寸法	2.5×2.4m	面積	6.0m <sup>2</sup>

形プランを呈す。他の遺構とも重複しない完全な状態で検出された。Ⅷ層まで掘り下げ、床面としている。掘り方はほぼ垂直で、側壁はしっかりしている。住居址内には、溝と柱穴がある。壁に添って、幅20cm前後、深さ5cm程の壁滞溝1が一周する。又、北・東・南壁より各20cm・12cm・20cm内側に、幅13cm、深さ5cm程の溝2が検出された。南側の溝2の痕跡は、床面に凹凸があるが溝状遺構は無い。柱穴痕は総数26個検出した。1～13は壁溝1の凹部と重複する。2・3・6・7・10～12は側壁に挿入されている。一般的に小円形の柱穴痕である。14～20は溝2に重複する。さらに溝2より内側に、一直線上に並ぶ21～23・20・26・24がある。深さは5～30cmのものがあるが、2・5・10～12・14～16・19・21～23は深い柱穴痕である。又、24の柱穴痕の南側には焼土が検出された。Ⅹ号住居址は、壁滞溝1や溝2、壁柱穴、柱穴痕などの配置などから建て直しや、拡張などの可能性を指摘できよう。

#### 出土遺物 (第60図)

出土遺物には63～80の土器片がある。63は口縁部が外反を呈し、小形のクサビ形凸帯を有し器壁が薄く、器内面は篋研磨痕を施すⅢA類土器、64は器面に貝殻背部による押圧文を施すⅢ類土器である円筒土器である。65～69は、クサビ形凸帯と器面に貝殻腹縁による縦線文と菱形線文を施文するⅣ類土器で、71～75・78は胴部、79・80は底部の円筒土器片である。76・77はクサビ形凸帯を施す角筒土器Ⅶ類である。

#### Ⅺ・Ⅻ号住居址

G-14区から検出された。Ⅺ号住居址は、主軸をN-21°-W。主体の3分の1以上は、Ⅻ号住居址と複合するため、規模は計測不可能であったが、柱穴痕の配置などから、大よその復元を試みた結果、2.2×3.2?m、面積6.4?㎡、深さは46cmであると想定した。柱穴痕は1～5・11・12と、6～10(想定)の12個が検出された。いずれも小円形で、配置も間隔が比較的広い。床面はⅦ層上部で、わずかにⅪ号住居址床面が高く検出された。

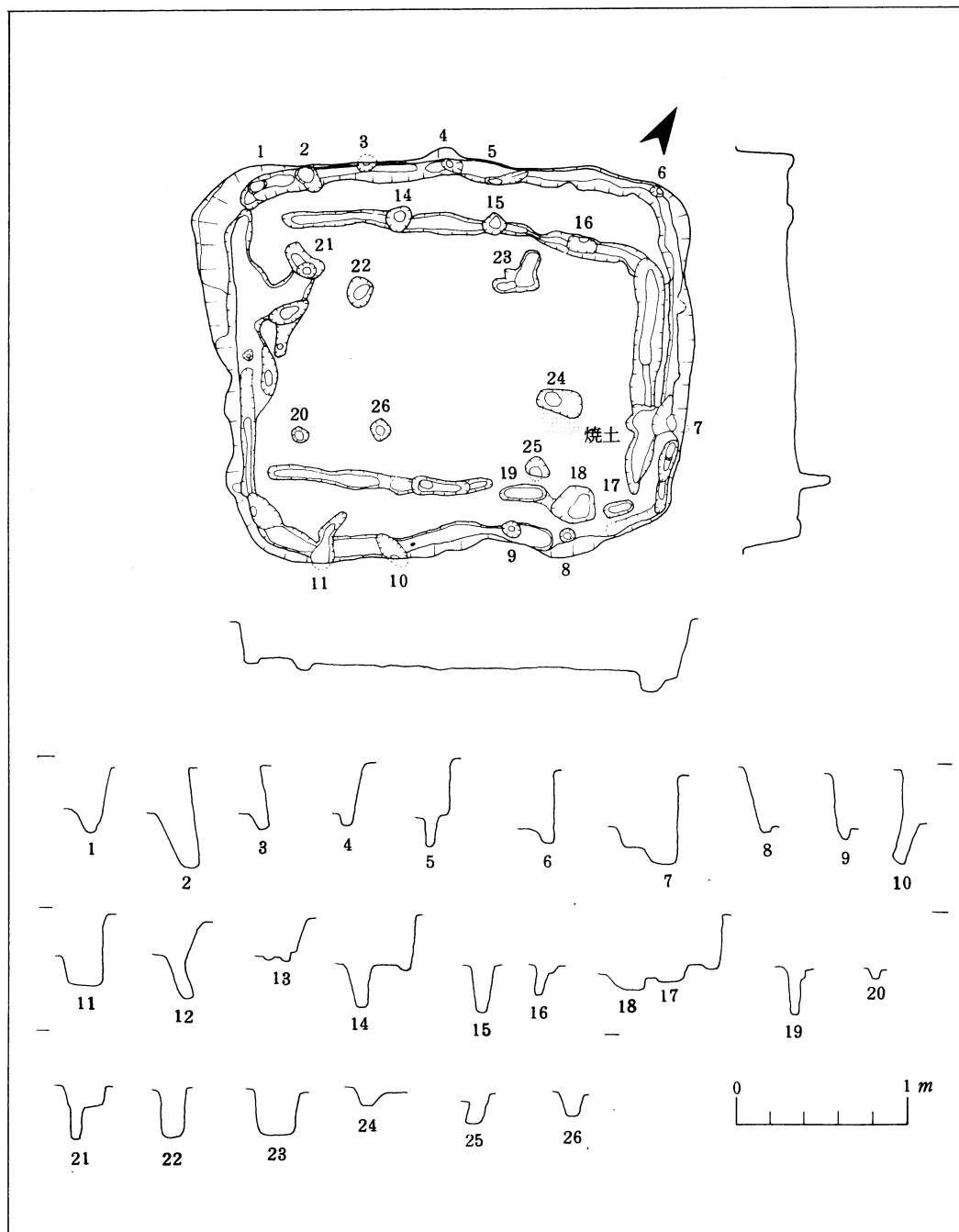
Ⅻ号住居址は、主軸をN-66°-Wにし、4.4×2.9m、面積12.8㎡の隅丸方形プランを呈す。住居址中央部と北側は、Ⅺ号住居址と複合する。住居址東側は、幅30cm、長さ1.8m程の突出し部が認められた。西壁は垂直にきちんと掘り込みがなされ、深さ40cmであるが、東壁部は傾斜を呈し、不明瞭である。柱穴痕は配置などから総数38個を確認した。北壁と南壁側には、小円形の壁柱痕が整然と配置されている。東側より1.3m内側の16～24の柱穴痕も整然と並ぶ。

#### 出土遺物

Ⅺ・Ⅻ号住居址内からの出土遺物には、土器片は1片も発見されなかった。ただし、自然礫が床面より4個発見された。

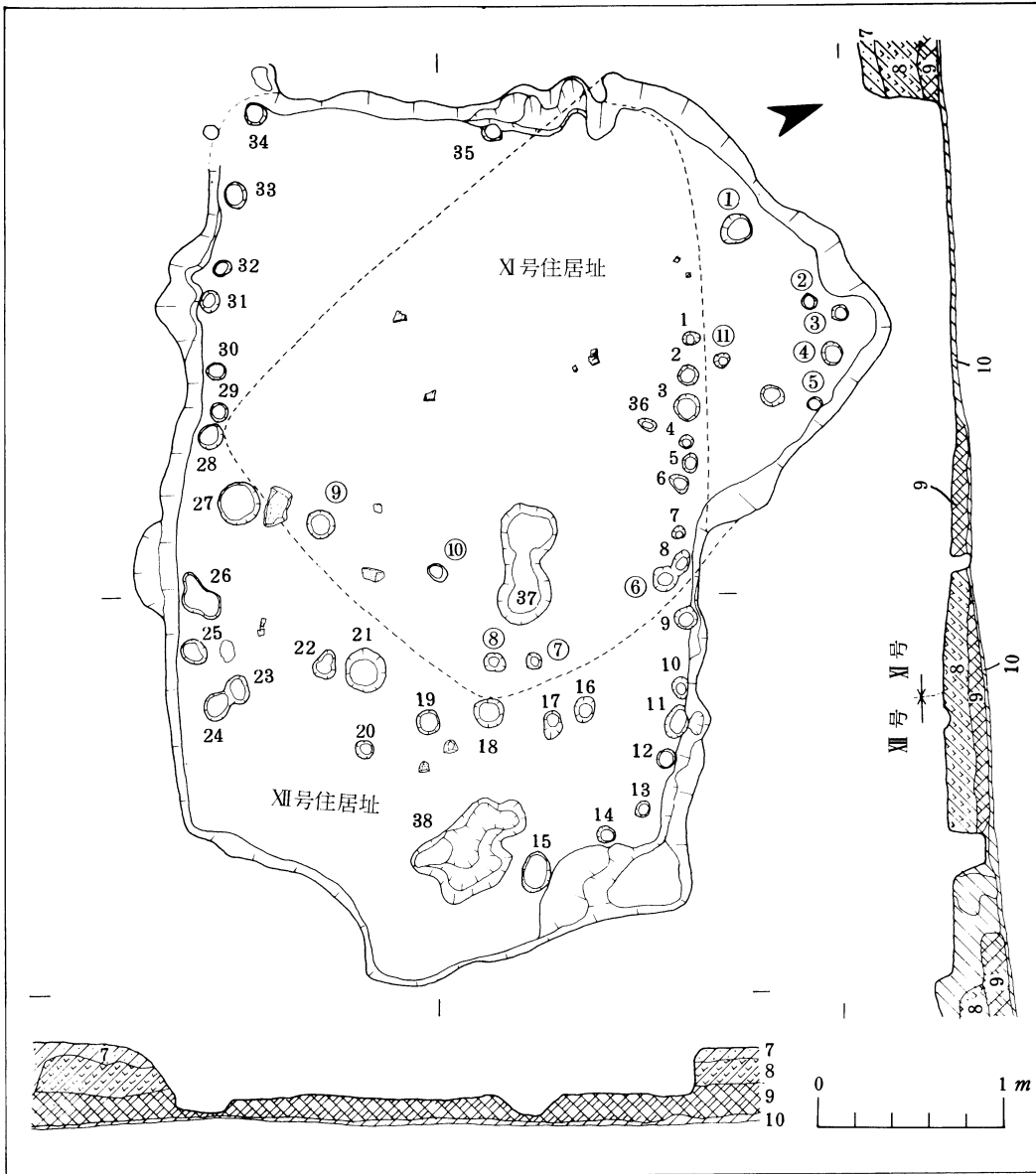
#### Ⅼ号住居址

F-11区より検出された。主軸はW-90°-N。3.5×3.2m、面積11.2㎡の隅丸方形プランを呈す。Ⅶ層を床面とし、住居址検出面からは浅い。南側壁面近くに土壇26と、北壁に土壇54が

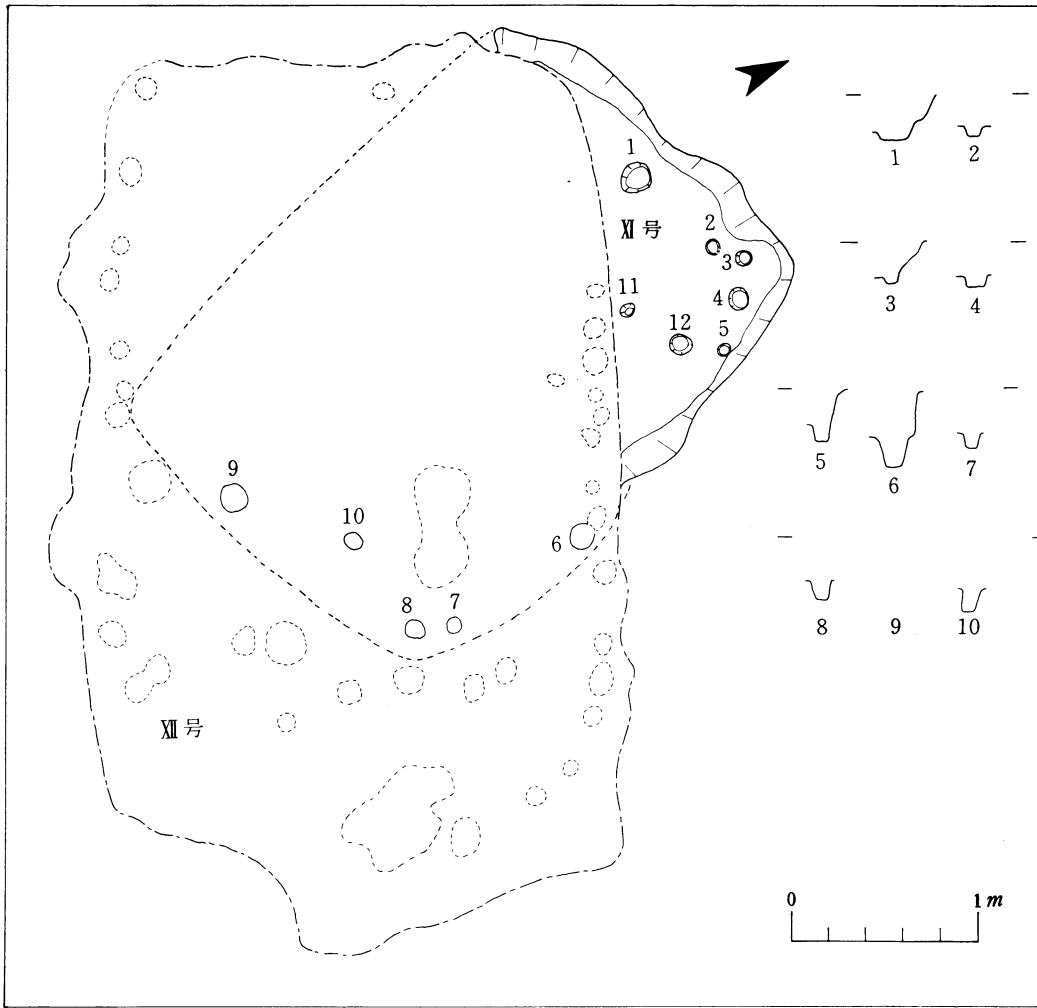


第46図 E-11・X号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 有り 柱穴 26個  
 寸法 2.7×2.3m 深さ 32cm 面積 6.2㎡  
 備考 建て直し、拡張を認める。



第47图 G-14-XI·XII号住居址实测图 (1)



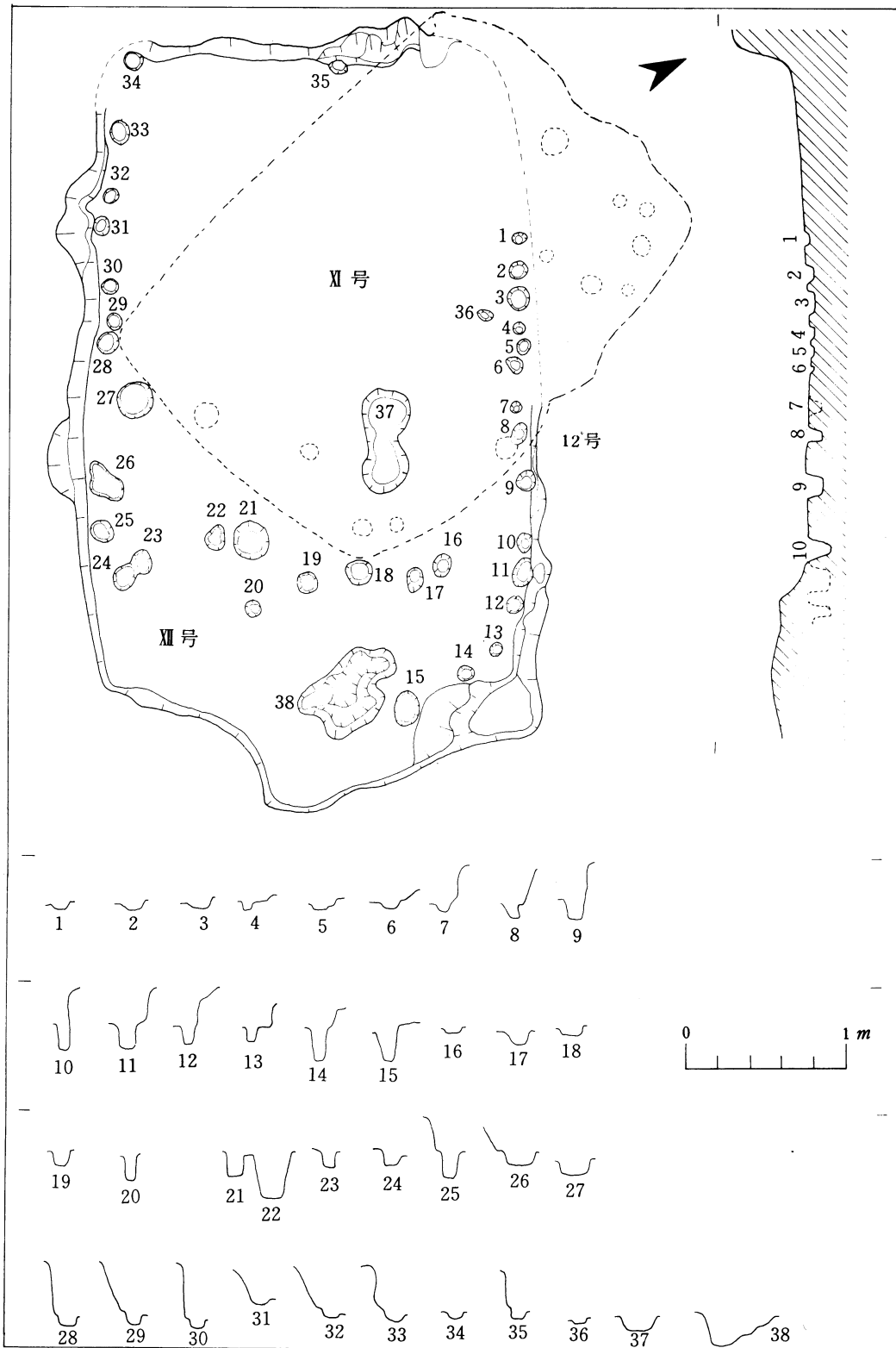
第48図 G-14・XI号住居址

形状	隅丸長方形	周溝	無し	柱穴	10個
寸法	2.2×3.2m	深さ	46cm	面積	6.4㎡
備考	XII号と重複				

XII号住居址

形状	隅丸長方形	周溝	無し	柱穴	38個
寸法	4.4×2.9m	深さ	40cm	面積	12.8㎡
備考	XI号と重複				





第49图 G-14-XII号住居址实测图

重複する。柱穴痕は総数21個確認した。5・10・18～20は径20cm前後の柱穴が壁ぎわに、3・4・6・9・21と1・16・14は一直線に配して検出された。

#### 出土遺物

出土遺物は、81の土器が1片出土した。復元径15.6cmの円筒土器の底部である。外底面に、篋状施文具による縦線文を丁寧に施している。

#### XV号住居址

H-9区より検出された。3.2×3.5mで、面積は11.2㎡の不定形な楕円形を呈するプランとなる。Ⅶ層下位を床面としている。柱穴痕は総数40個を確認した。1～20は壁際にある壁柱痕で、5～18は比較的等間隔に配している。他の柱穴痕は20cm前後のもので、19・20・29～32・39・40は30cm前後の深さの、しっかりした柱穴痕である。掘り込みは浅く、東壁は、検出面と床面がほぼ同レベルであった。当住居址周辺は、I類土器の石坂式土器が散布する地域である。

#### 出土遺物

出土遺物は、54の土器片が1片、東側部の覆土より出土した。器壁が厚く器面に貝殻条痕文を施す。I類土器と思われる。

#### XV号住居址

E-14区より検出された。東側半分は、試掘溝によって欠損した。そのため、住居址の規模は、南北2.6mの一辺を知るのみとなった。Ⅶ層上面まで掘り下げ、床面となる。深さ24cm。柱穴は、1～4・7～12の壁柱痕と、13・14～18の柱穴痕を確認したが、総数の倍以上、柱穴があったと思われる。16をのぞいて、ほとんどの柱穴は浅い。西壁には、幅15cm前後、深さ38cmの小溝を検出した。

出土遺物は、発見されなかった。

#### XVI号住居址

B-13区に検出された。主軸はN-70°-Eにし、3.2×2.5m、面積8㎡の隅丸方形プランを呈す。深さ50cm。西壁には、土層の横転が検出されている。又、東壁には土壇72が重複する。側壁は垂直できちんとしている。北壁には段を有す。柱穴は総数16個確認した。2・3・8～13は壁際に配する壁柱痕で、1・4～7・14は側壁近くに位置している。

#### 出土遺物

出土遺物には、軽石製加工品と土器片が出土した。

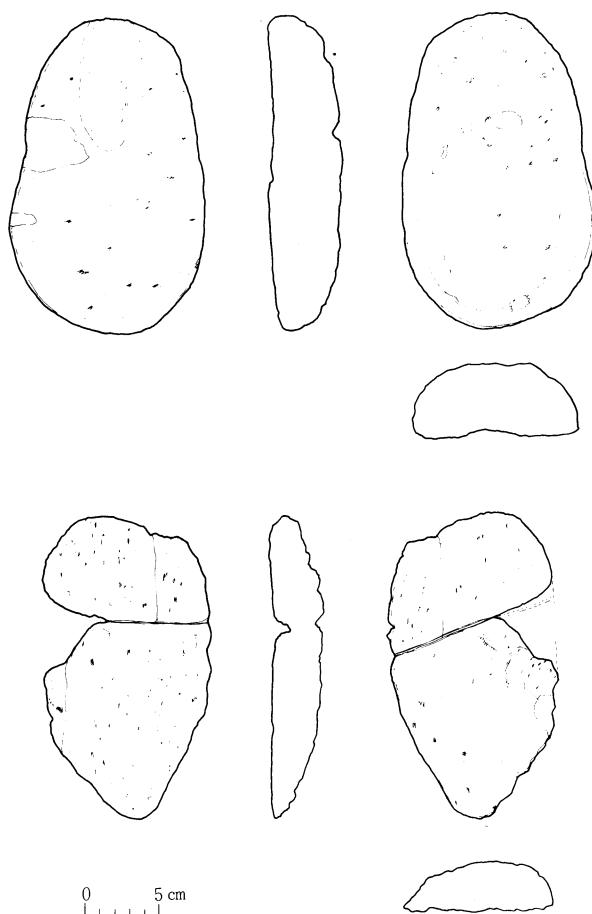
#### 軽石製加工品（陰陽石・第50図）

住居址XVI号の東側の床面に平担面を下方にして向き合って発見された。1は陰石一長さ21.6cm、幅13.4cmの楕円形である。厚さは5cm、平担部に長さ9cm、幅2cmの凹部を形成す。2は陽石一

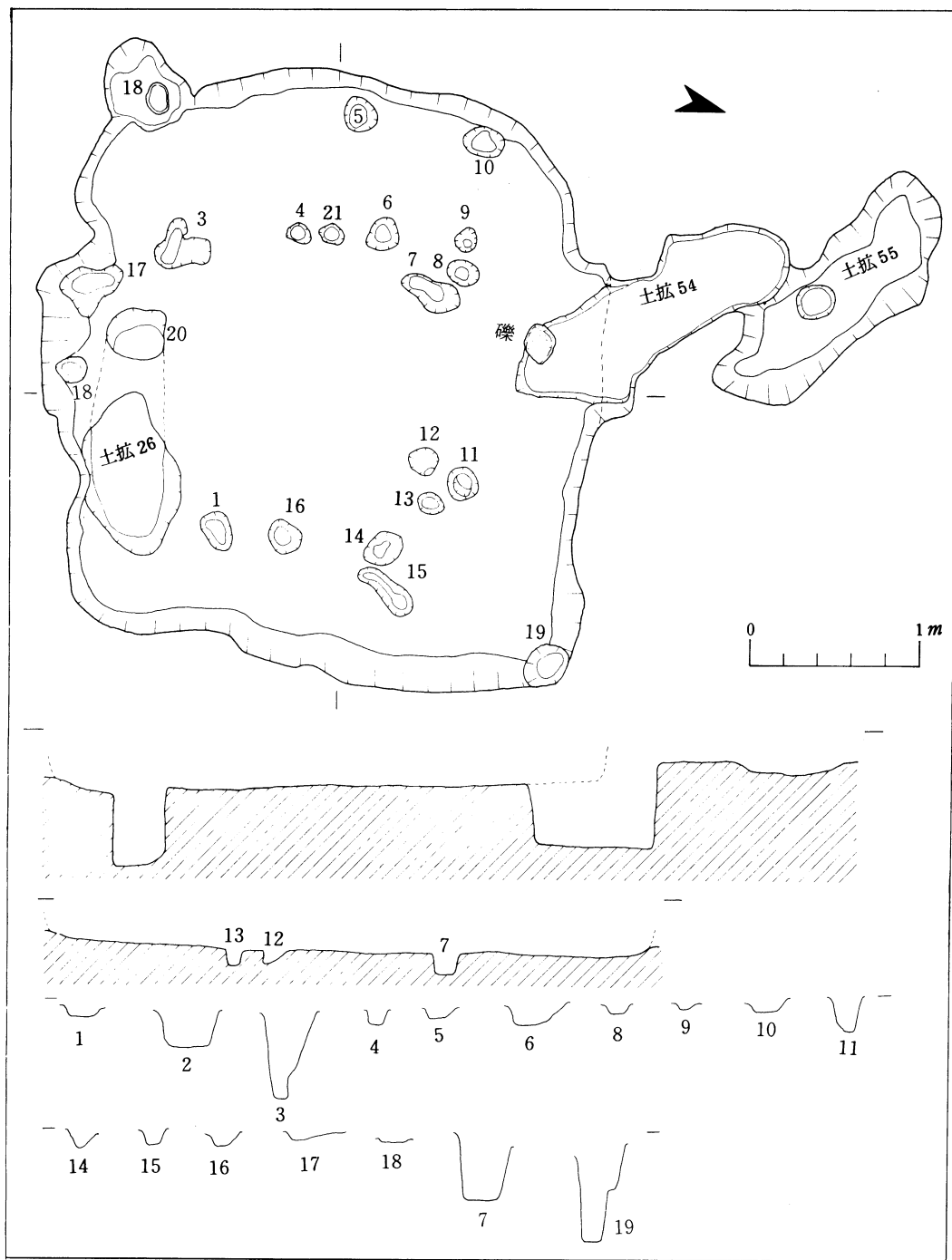
長さ20.4cm, 幅11cmの楕円形。厚さ3.4cm。中心より外側に、陰刻線を巡らしていたが、取り上げの際、軽石製ということもあり、もろく、陰刻線の部位で折れてしまった。

**土器**

出土土器には、82～93がある。82～86は、クサビ形凸帯や貝殻条痕、貝殻腹縁による刺突線文を施すⅣ類の円筒土器である。87～93は、貝殻条痕文や貝殻腹縁によるⅧ類土器の角筒土器である。

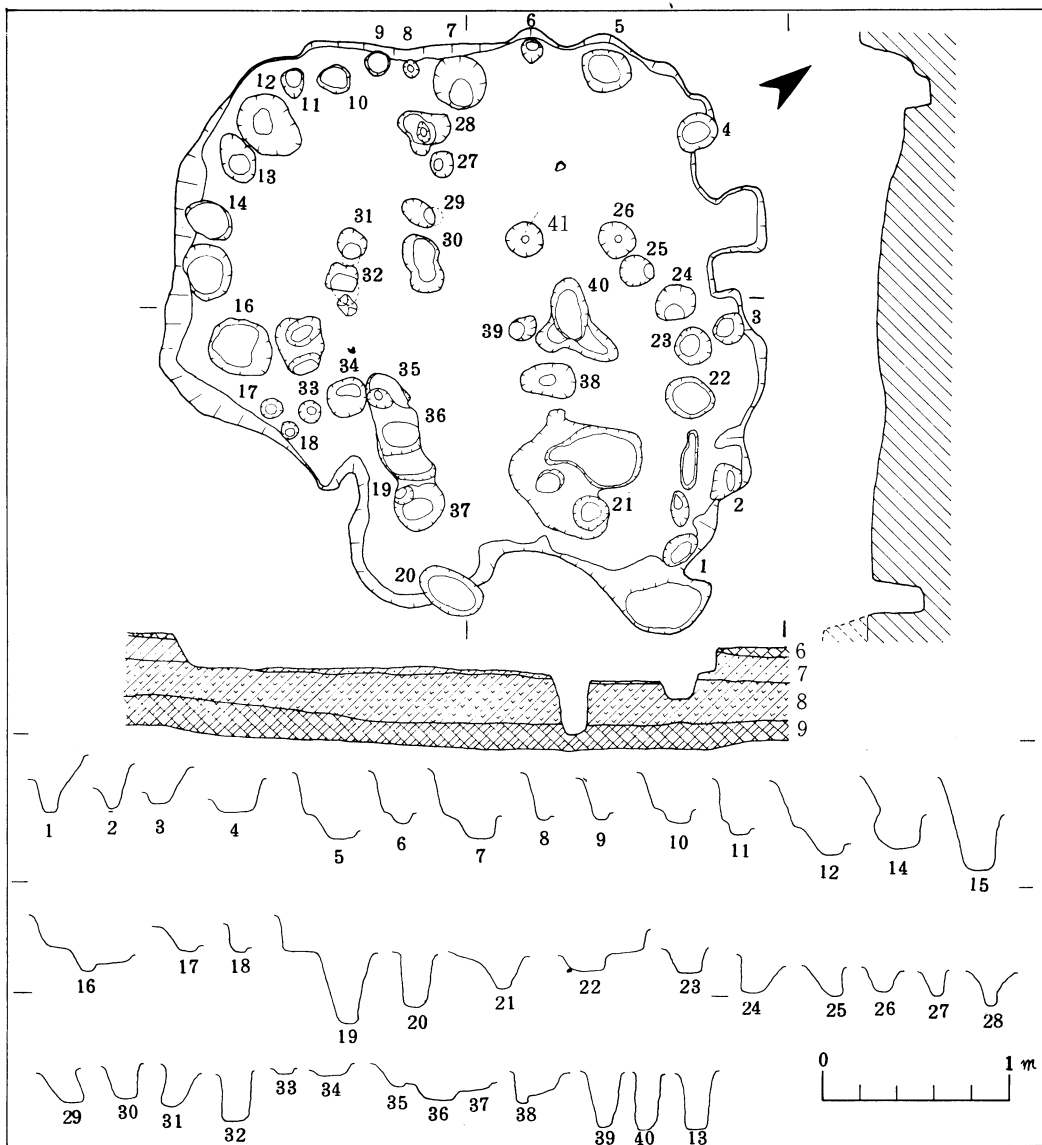


第50図 軽石製陰陽石実測図



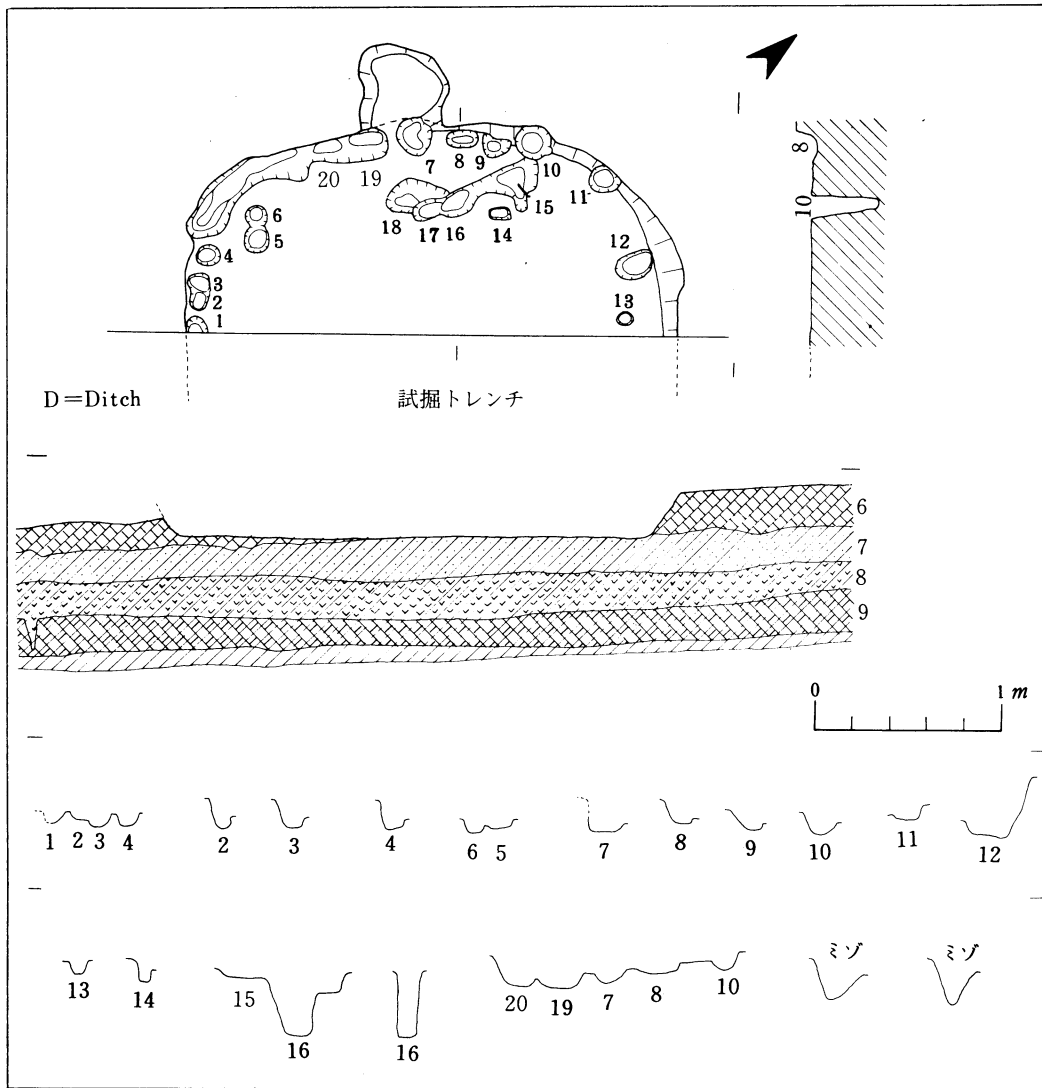
第51図 F-11・Ⅻ号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 無し 柱穴 19個  
 寸法 3.5×3.2m 深さ 16cm 面積 11.2m<sup>2</sup>  
 備考 土垣26・54が重複する。



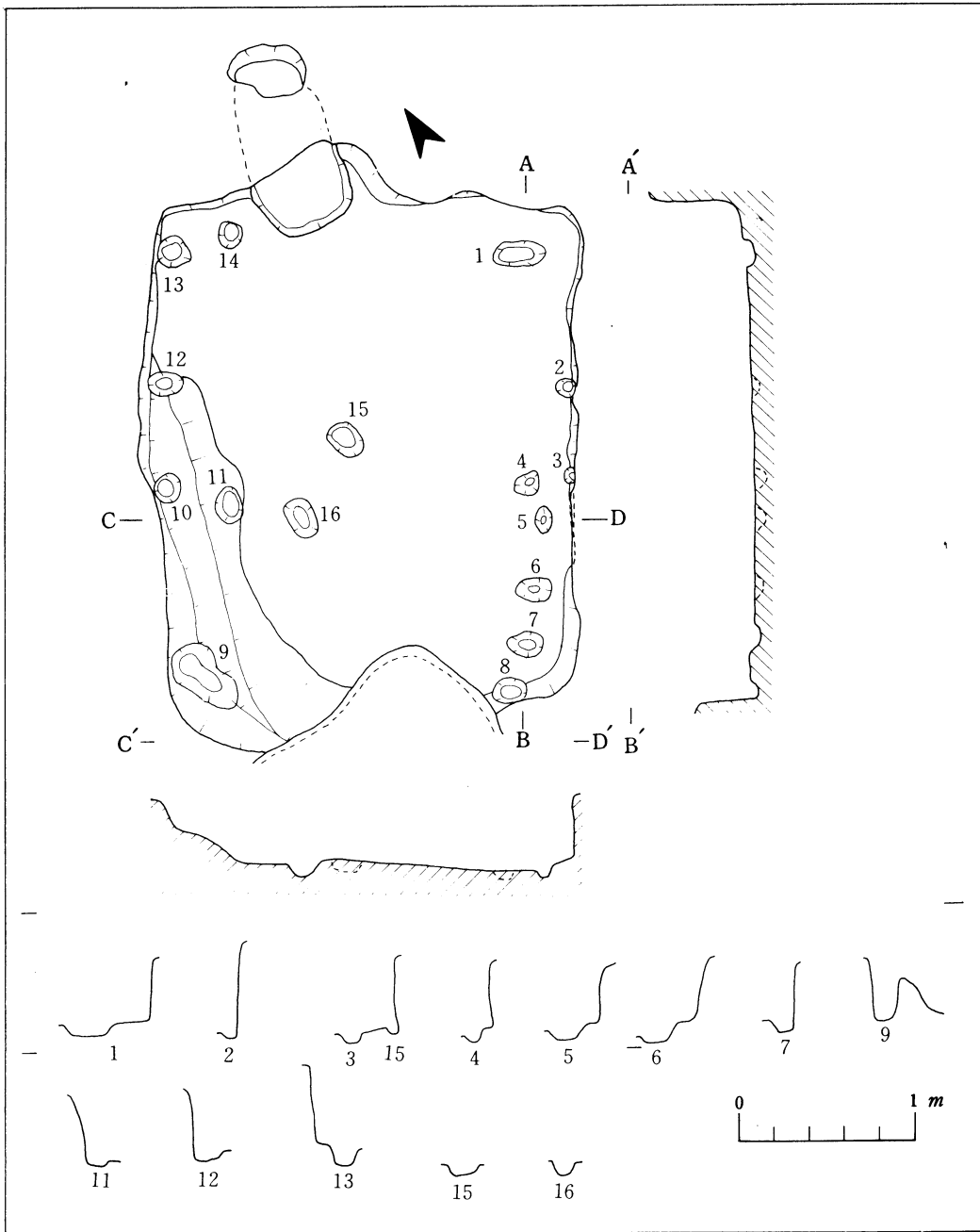
第52図 H-9・Ⅻ号住居址

形状	不定形の楕円	周溝	無し	柱穴	40個
寸法	2.9×2.9m	深さ	14cm	面積	8.4㎡



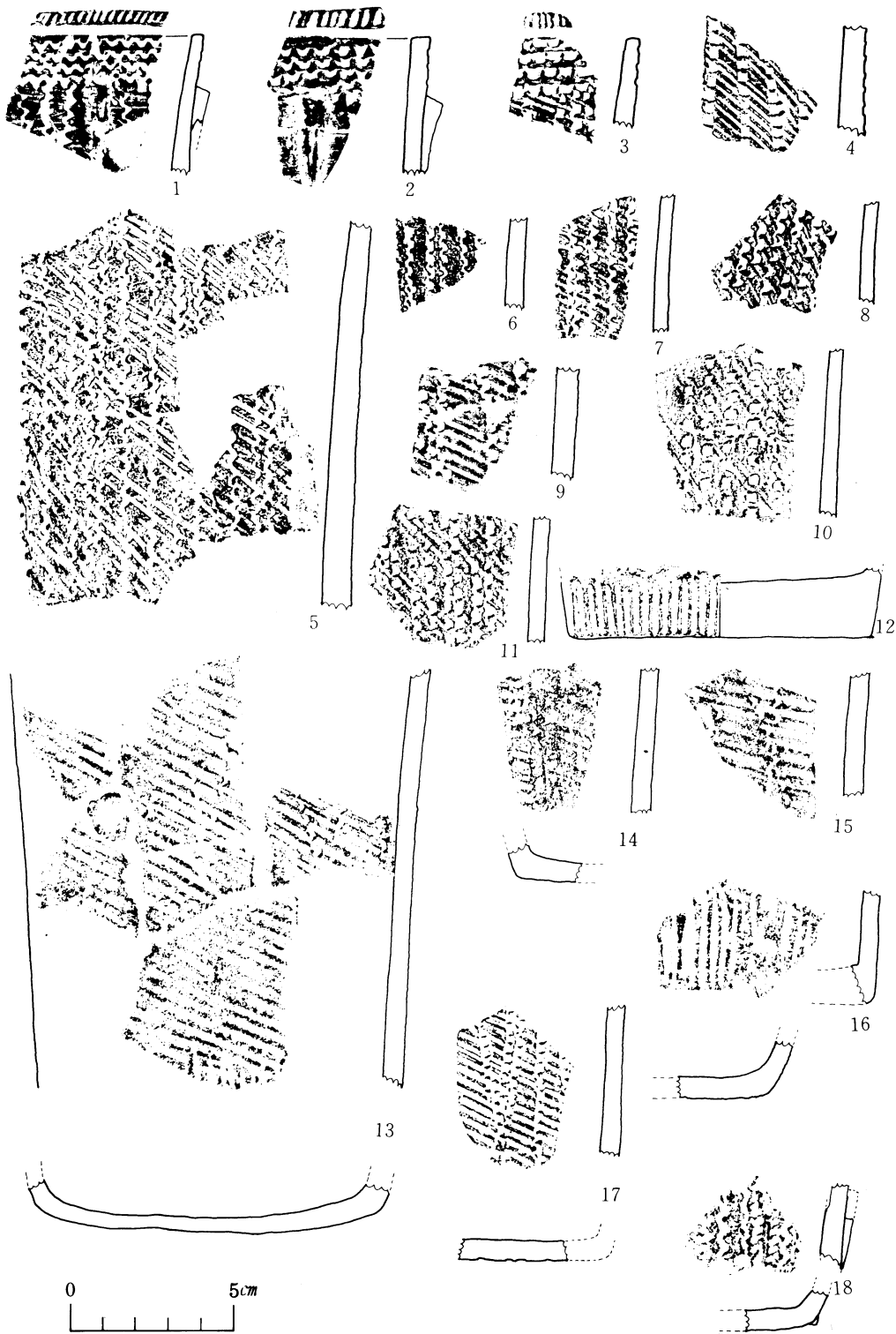
第53図 E-14・XV号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 有り 柱穴 17個  
 寸法 2.6×? m 深さ 30cm 面積 計測不可能  
 備考 テストトレンチによって削除し規模は不定となった。



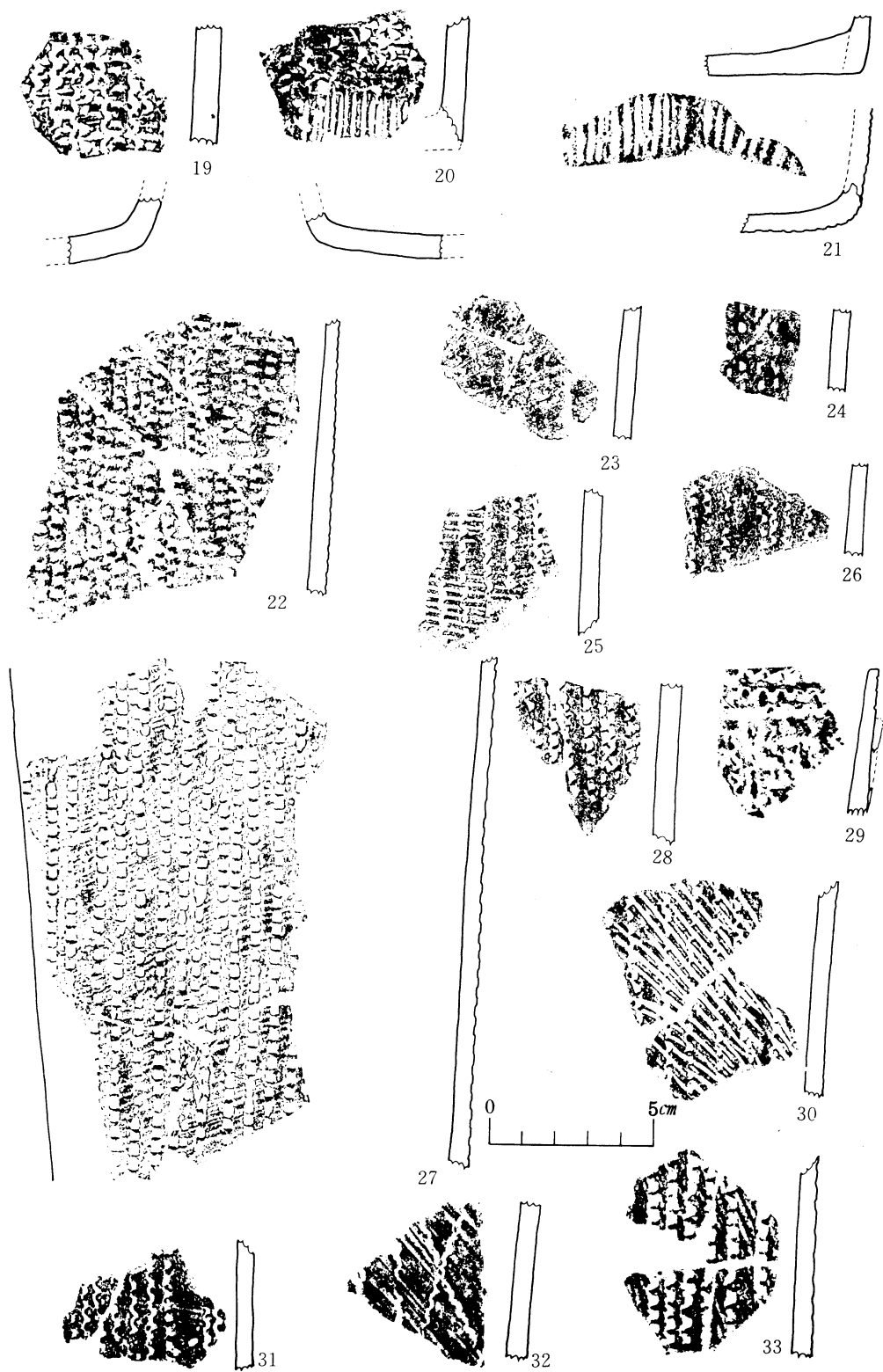
第54図 B-13・ⅩⅠ号住居址

形状 隅丸長方形 周溝 無し 柱穴 15個  
 寸法 2.5×3.2m 深さ 40cm 面積 8㎡  
 備考 南側は、土層の転移と攪乱を受けている。

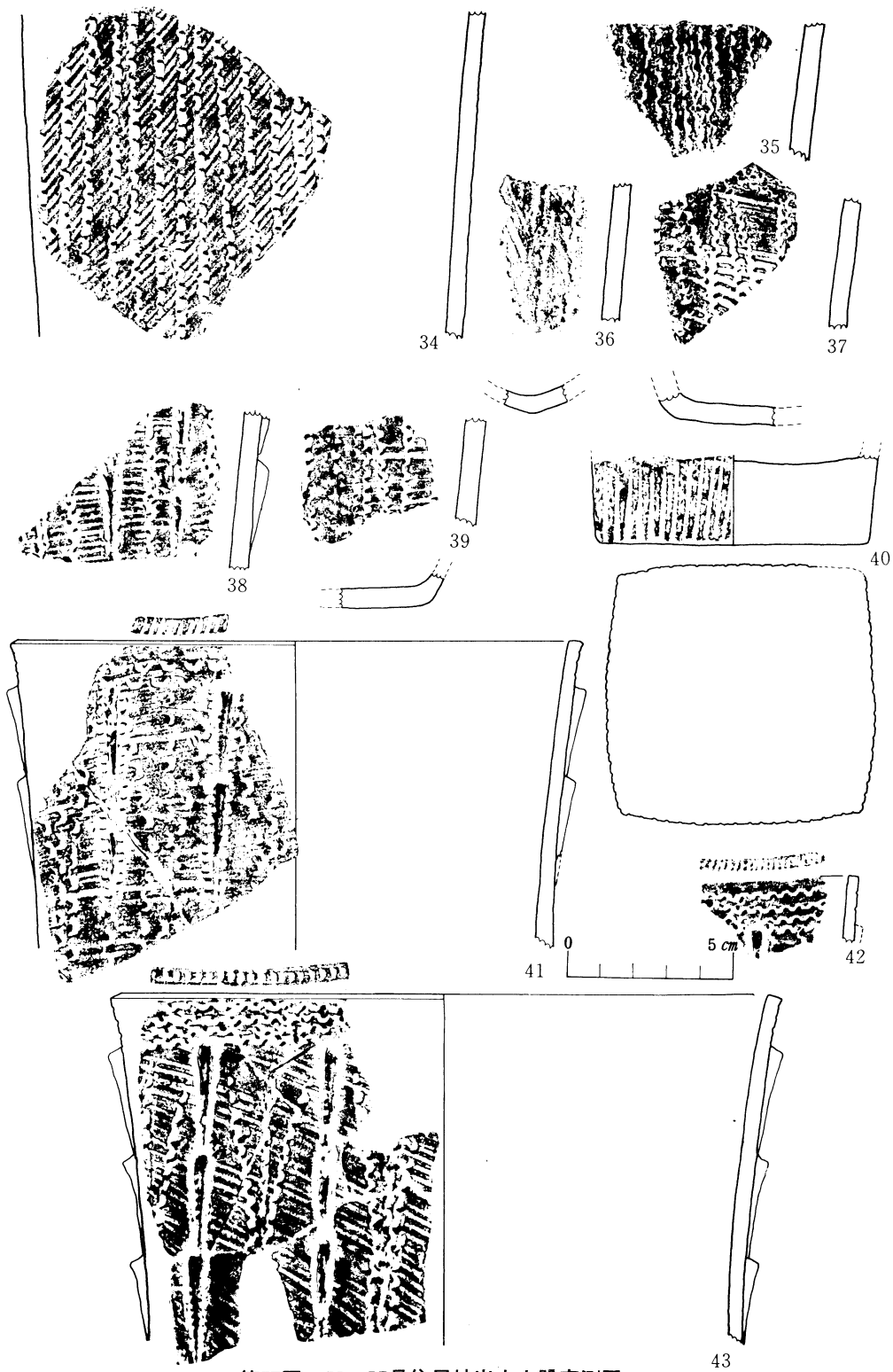


第55图 I号住居址出土土器实测图

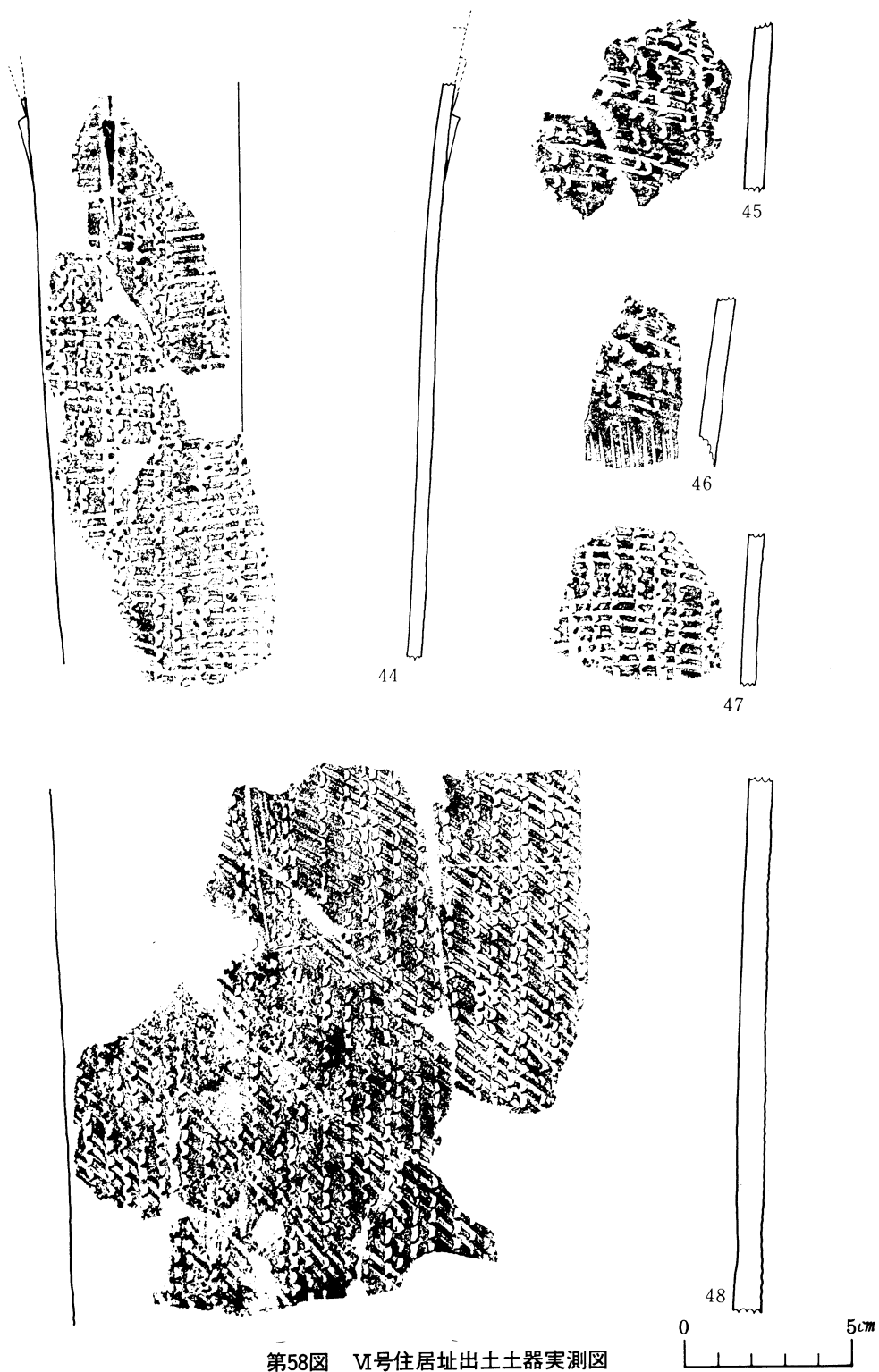




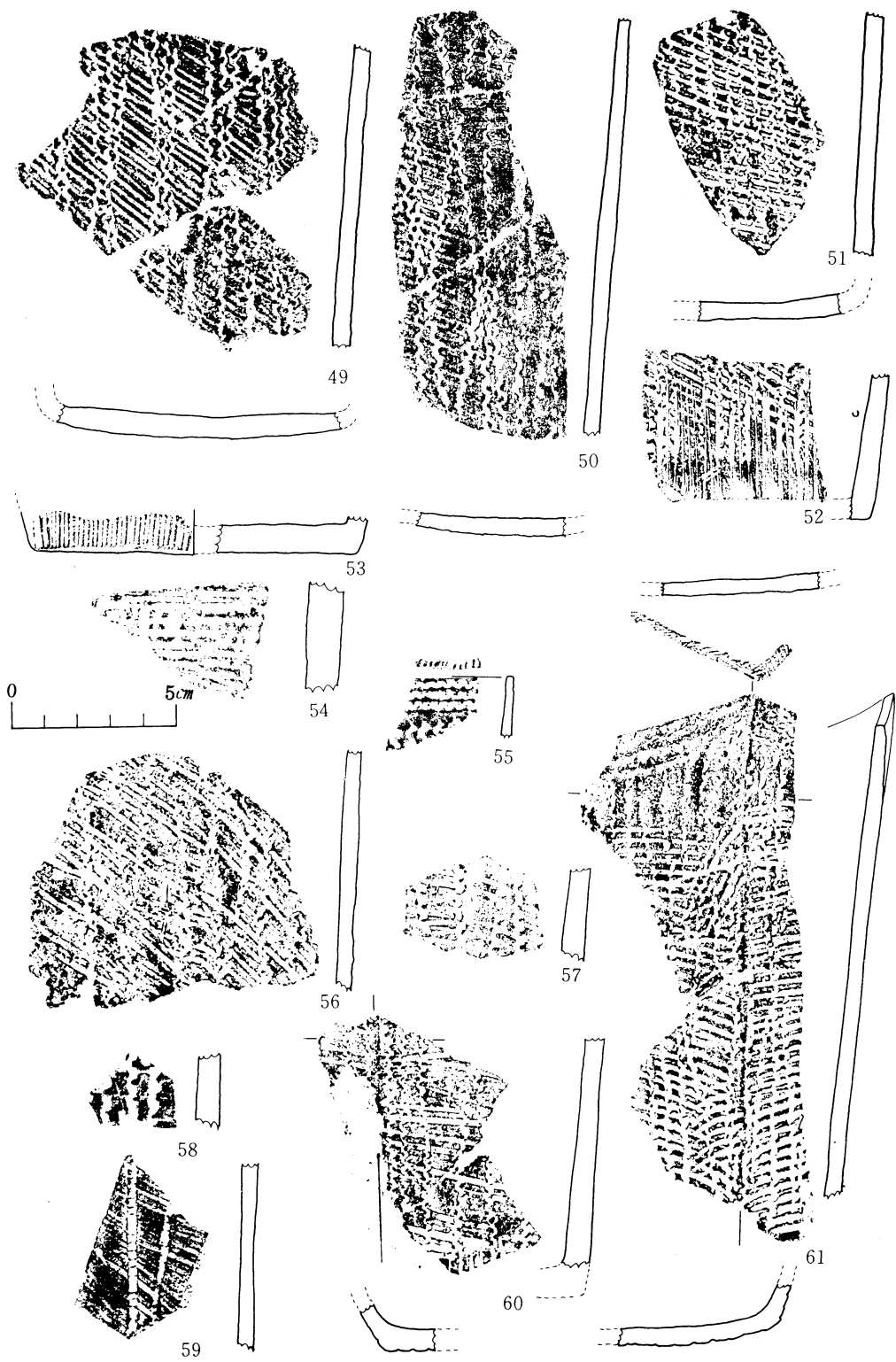
第56图 I·II·IV·V号住居址出土土器实测图



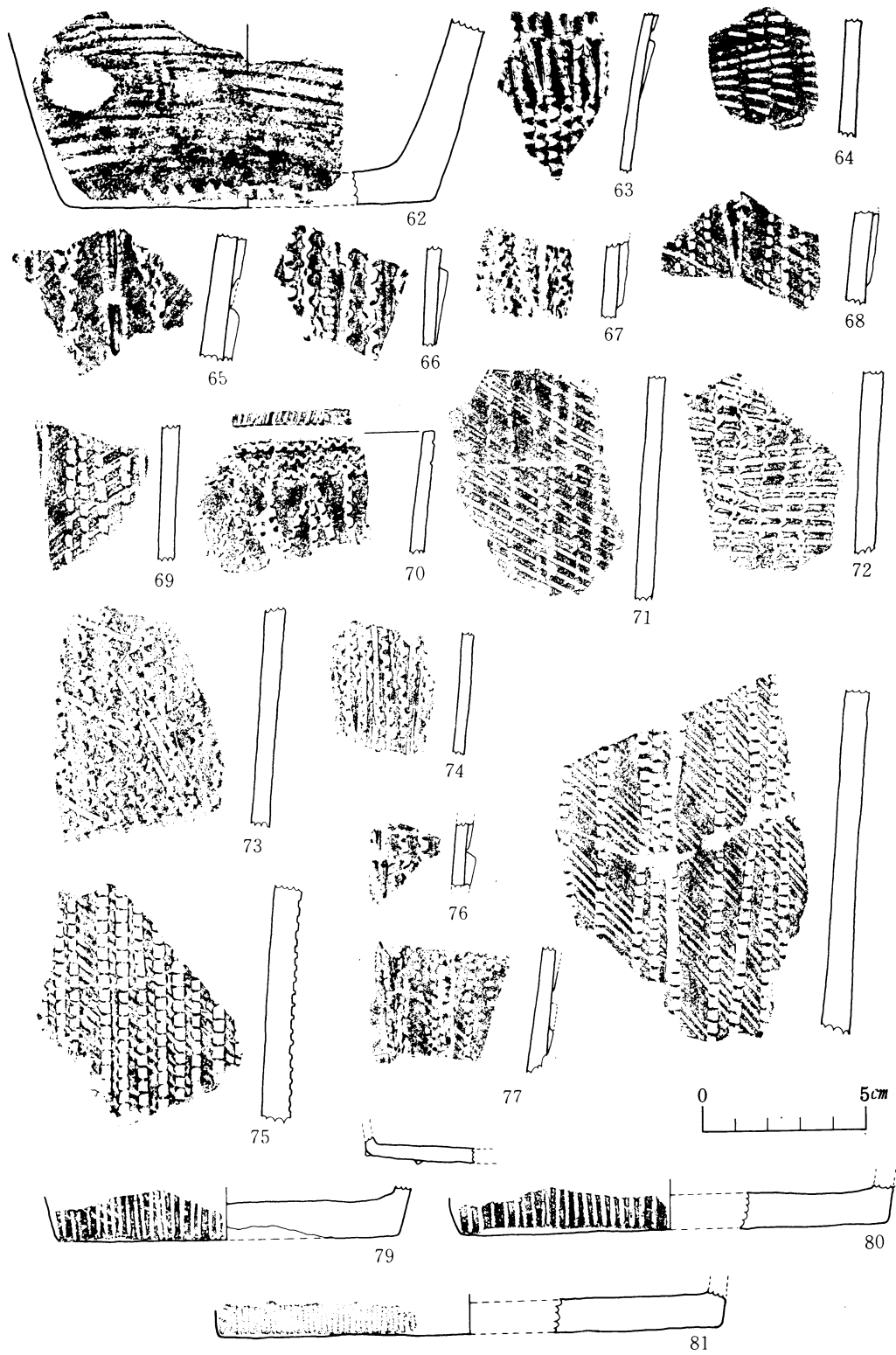
第57图 V·VI号住居址出土土器实测图



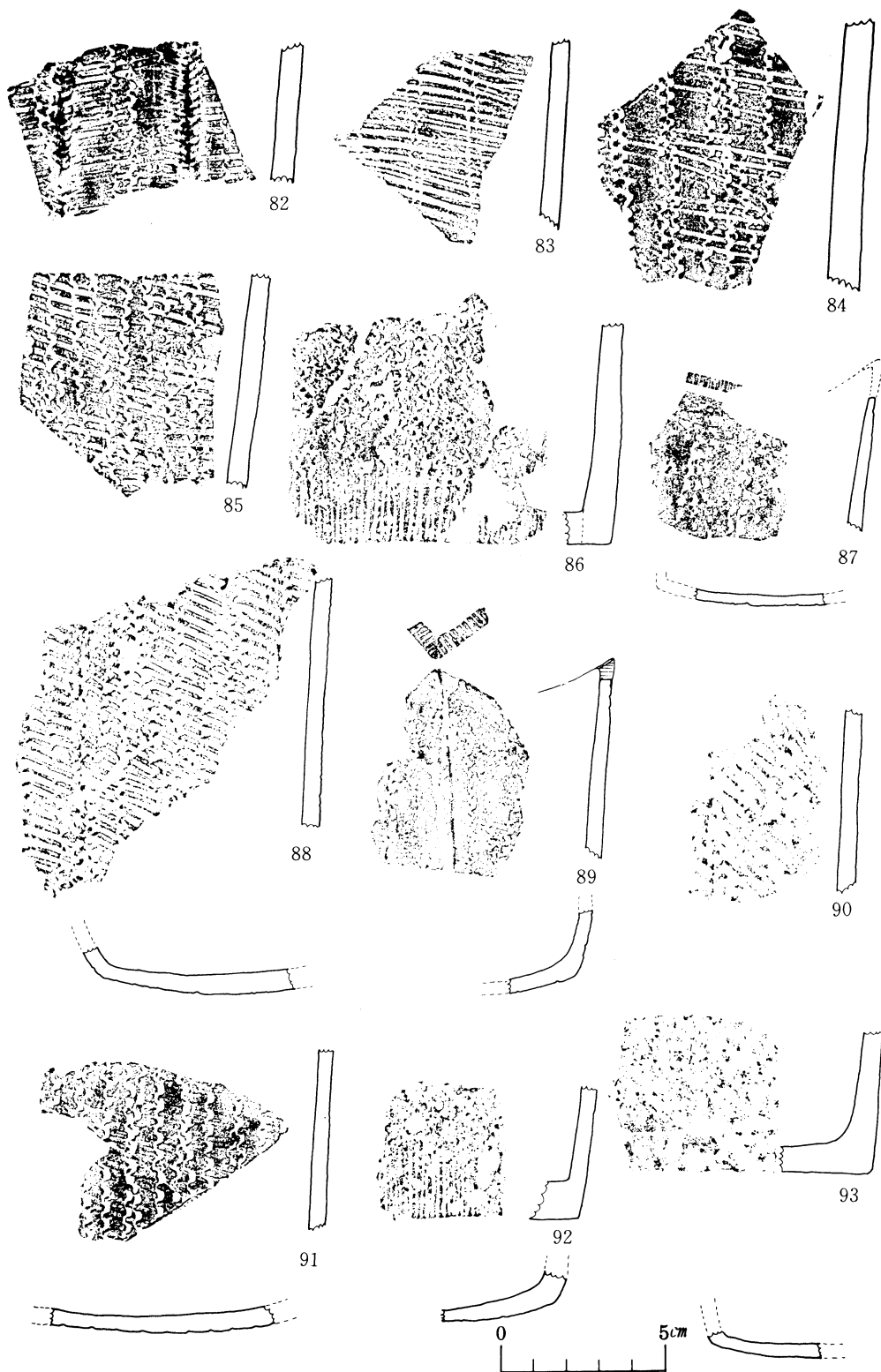
第58图 VI号住居址出土土器实测图



第59图 VI·XV·VII号位居址出土土器实测图



第60图 Ⅷ·Ⅸ·X·Ⅻ号住居址出土土器实测图



第61图 ⅡⅥ号住居址出土土器实测图

## (2) 集石遺構

縄文時代早期の集石遺構は、土器分布の状況と同じように全域に分布し、17基を確認した。検出状況は、Ⅳ層下部出土のJ-4区の集石17をのぞき、すべてⅤa層上部からのものである。一ヶ所に集中しているものから、散乱しているものと形態はまちまちであるが、集石として記録した。大半が拳大の安山岩の角礫や円礫の自然石からなる。軽石や石皿片を含む集石もある。集石の断面はほぼ一面となり、集石中心部が凹状を呈しながらも落ち込みなど土層の変化がみられないものが大半である。しかし、集石⑩・⑯のように明確な掘り込みと供伴した集石など特記すべき集石遺構も発見された。

集石には、その検出状況を大別すると、礫が1m四方に集中する集石①・②・③・⑯と、10数個を小じんまりと集めた④・⑦・⑪や、配置にバラツキがありまとまりのない⑤・⑧・⑨・⑫・⑬・⑭・⑮と、落ち込みを伴った集石の⑩・⑯の4つの形態がある。なお、集中する集石の中で特徴的なことは、中心部が凹状を呈し、わずかに掘り込みがあったと思われるが、的確な判断はできない。このことは、集石内の覆土と周囲の土層が同一のものであることによるものであろうと思われる。

**集石①**は、径約1mの円形状に大小の円礫・角礫を集めている。西側・中心部は礫は少なく、Ⅴb層下位からⅦ層上位まで掘り込んであったと思われるが、掘り込みは定かでない。礫はまとまっている。この中より、東側に石皿の破片2個が発見された。又、この周辺より出土する円筒土器Ⅳ類の破片が3個共伴する。

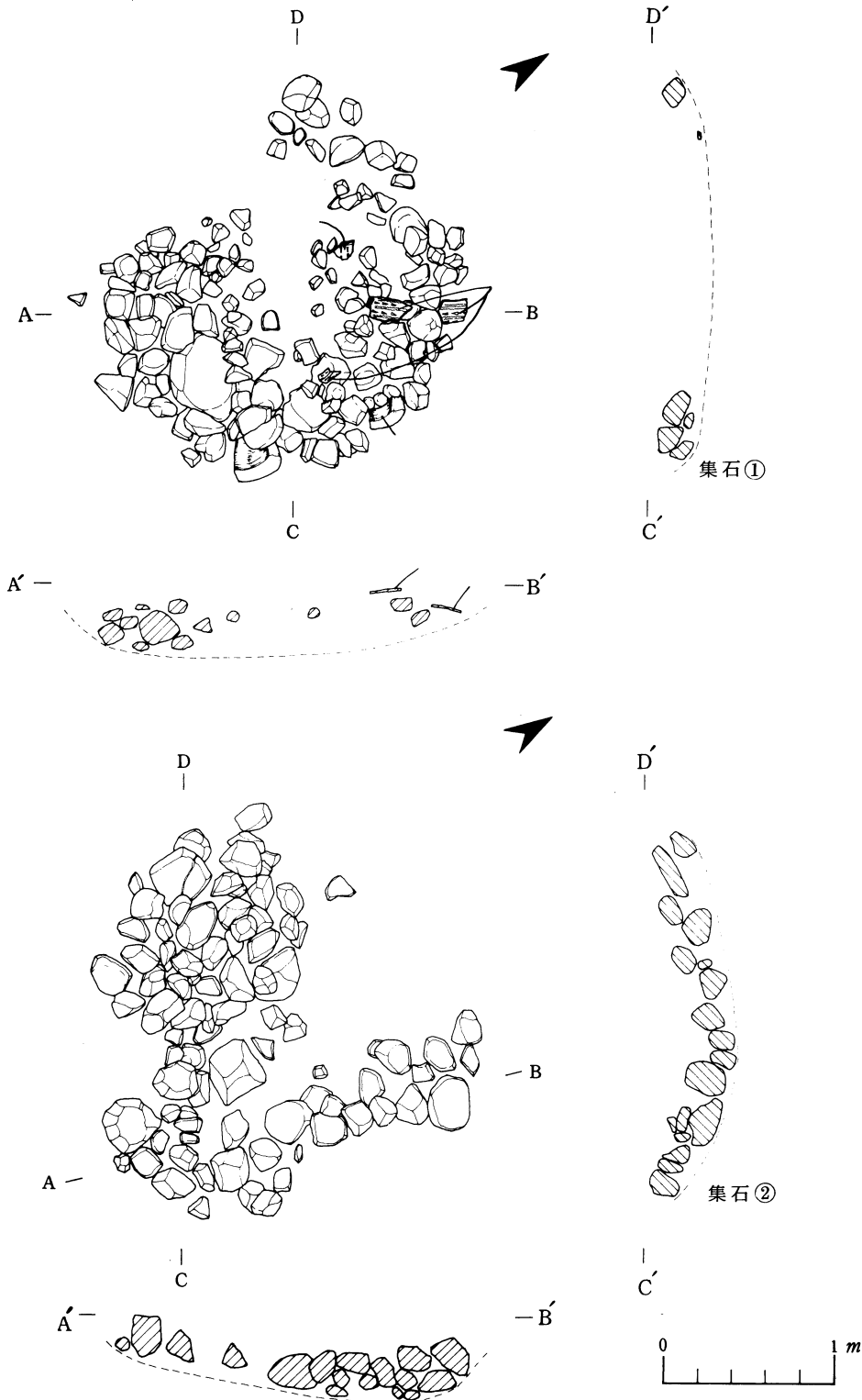
**集石②**は、F-10区に発見。径約1mの円形状に拳大から小児頭大のわりに大きな円礫および角礫を集めたものである。ただし、北側は空間をなす。中央部Ⅴb層からⅥ層にかけて凹状となるが、明瞭ではない。

**集石④**は、B-16区のⅤa層上部から検出された。径40cmの円形の範囲に角礫15個が置かれ、こじんまりとまとまっている。礫は水平面におかれている。

**集石⑭・⑮**は、H-6区のⅤa層直上から検出された。両者ともに拳大や小児頭大の自然礫が四方に散乱している。礫は水平面に置かれている。周辺には土器は見られない。

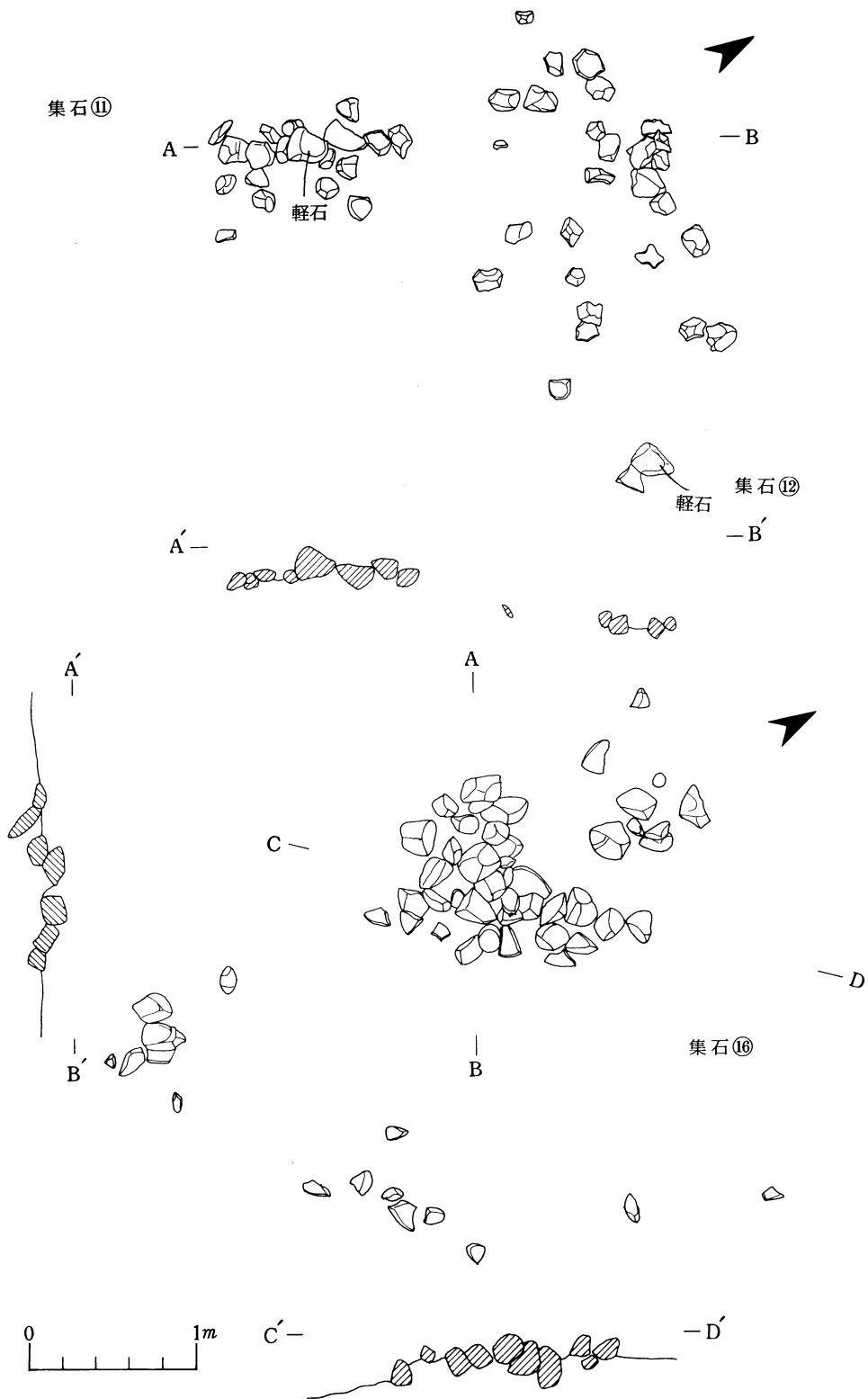
**集石⑩**は、G-6区のⅤa層より発見。集石のまわりに南北約2.3mの細長い不整形な落ち込みが検出され（落ち込みY-東西1.2m、南北1.4mの楕円形プランを呈し、深さ45cmで、落ち込みZ-径85cmの円形プランを呈し、深さ20cmの落ち込みがX部で連なる）。落ち込みZ内に礫を検出した。礫は拳大のものから30cm前後の大石の角礫が床面から掘り込みの縁辺部まで雑然と置かれていた。礫の中には焼けていると思われる赤褐色を呈したのものもある。落ち込みYの南東側縁辺部には焼土が4～5cm堆積し、灰や微細な木炭片も検出された。X部位は灰色を呈し硬質である。

**集石⑯**は、D-14区のⅤa層より発見。長径1m、短径85cmの不整円形状の平面プランを呈す落ち込みが集石周囲を巡っている。深さは20cmで、更に落ち込みの北東側に径35cmの円形で深さ24cmの2段掘りを有す落ち込みもみられた。覆土は灰褐色を呈す。

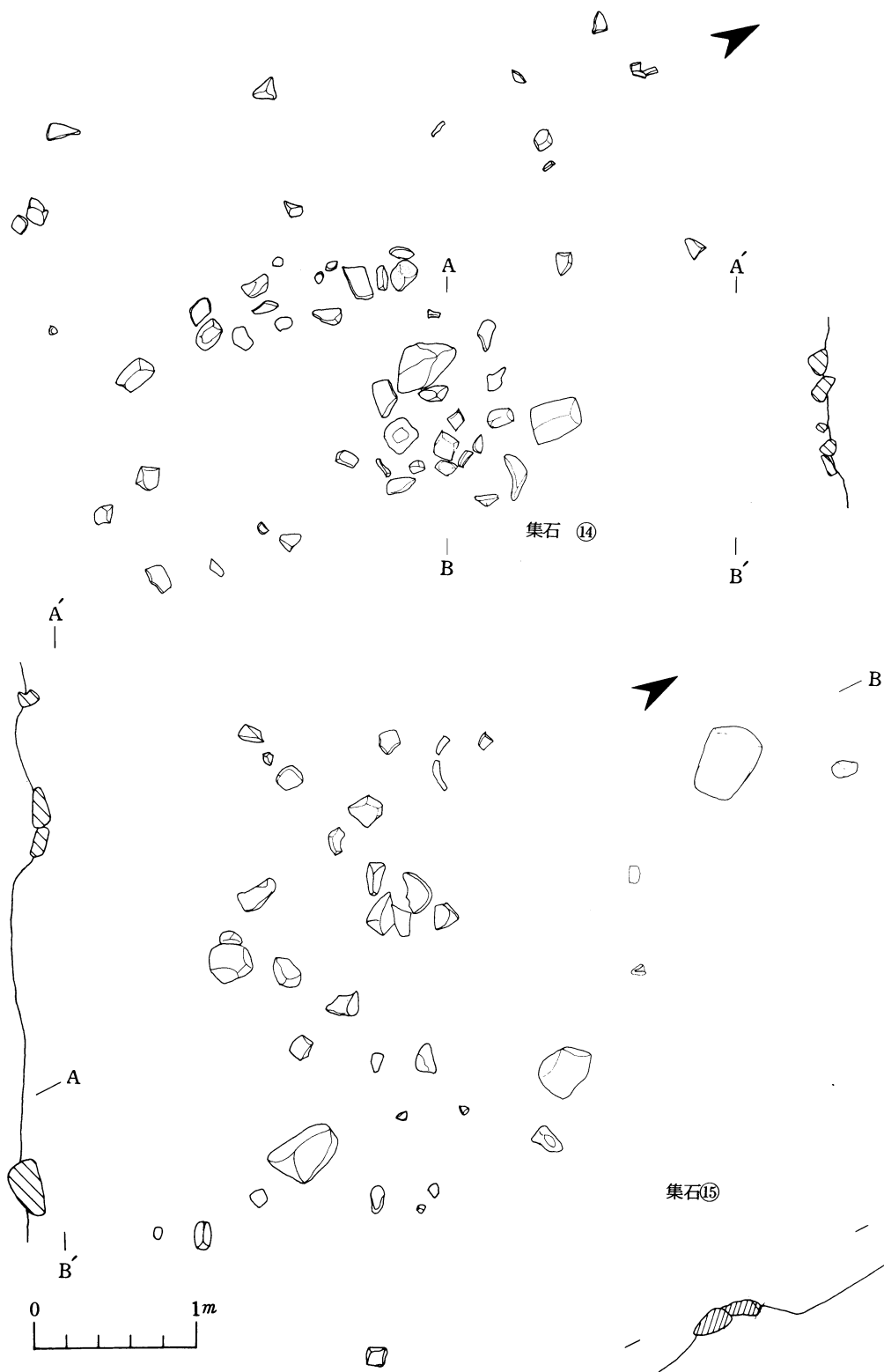


第62图 集石①·②实测图

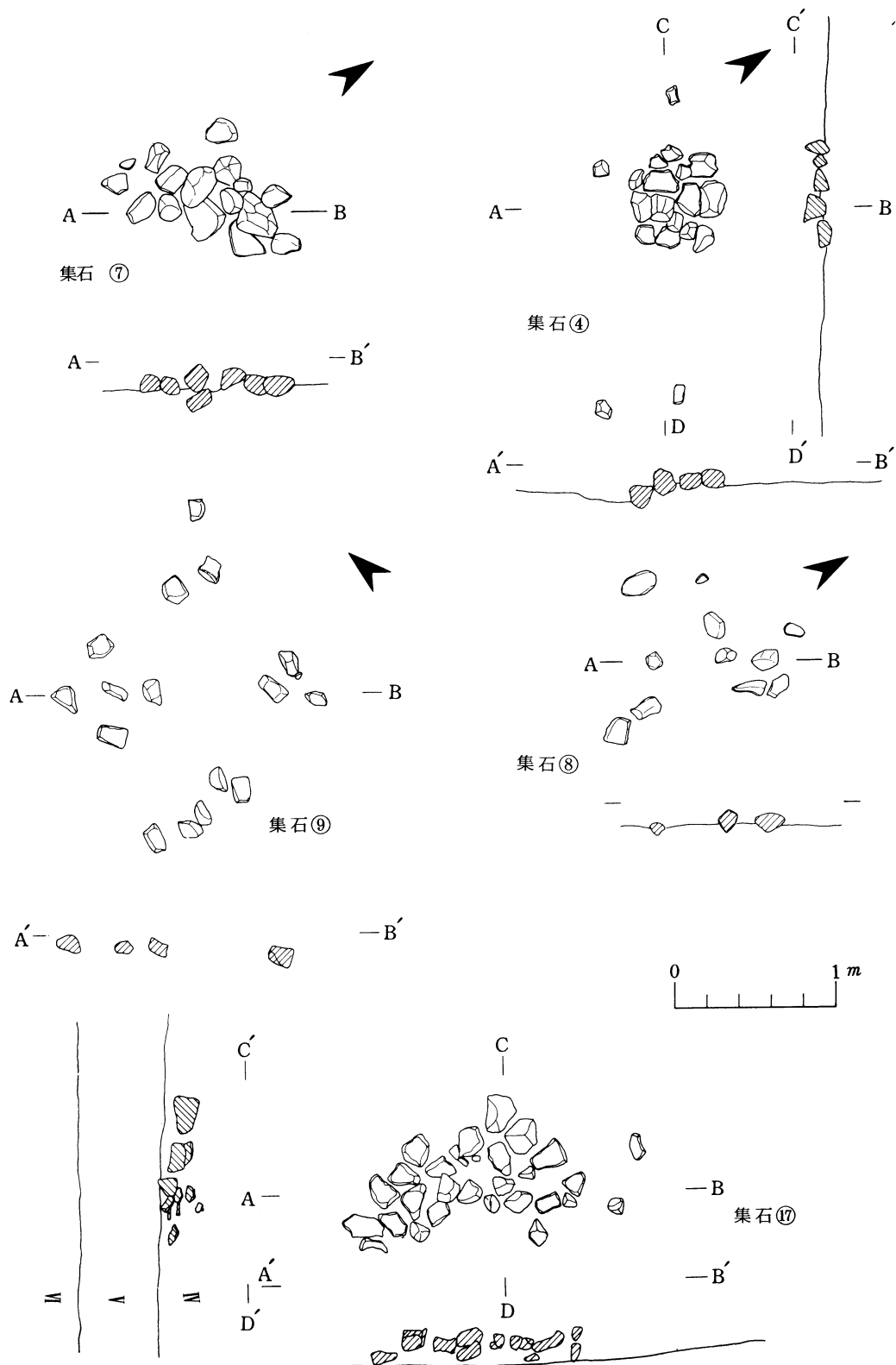




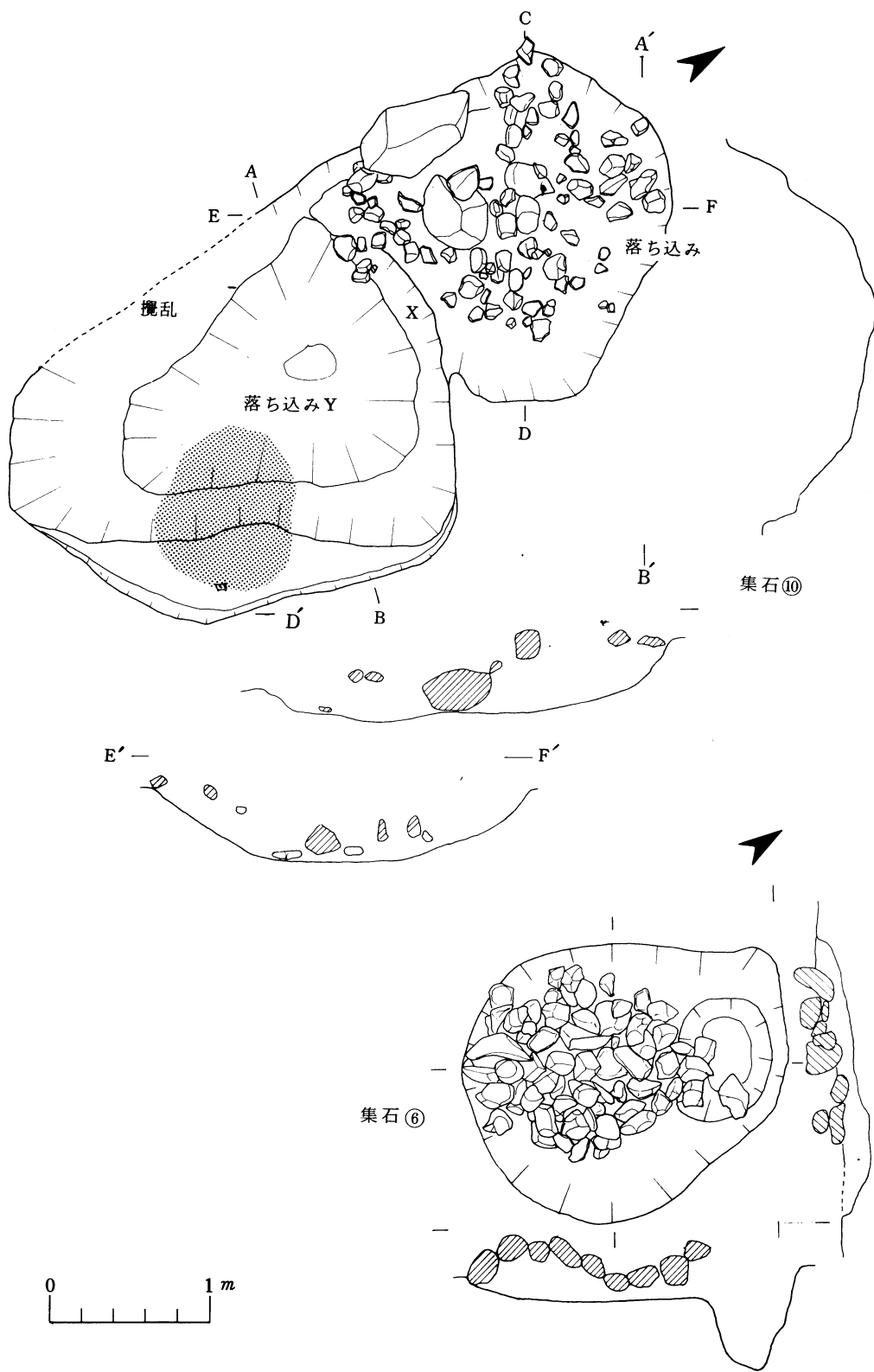
第63图 集石⑪・⑫・⑬实测图



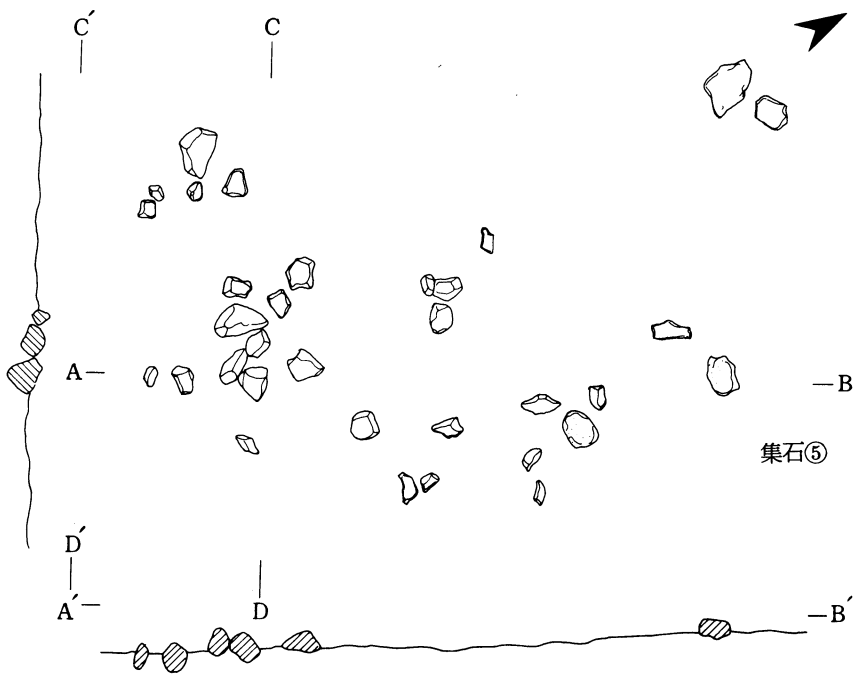
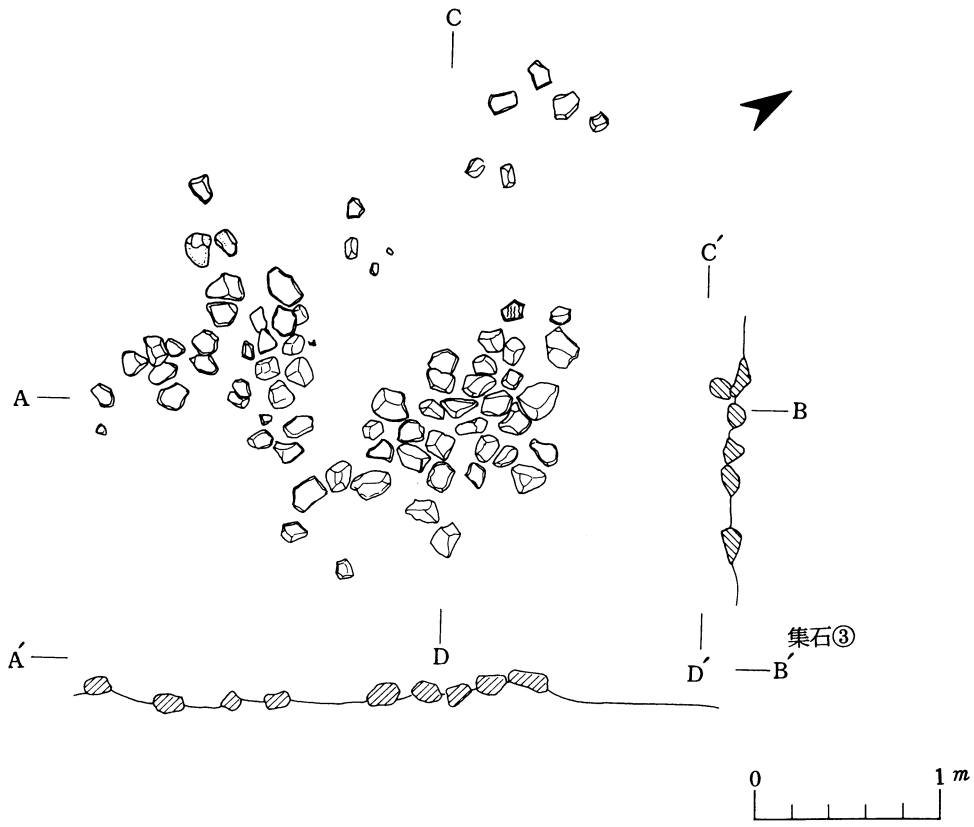
第64図 集石⑭・⑮実測図



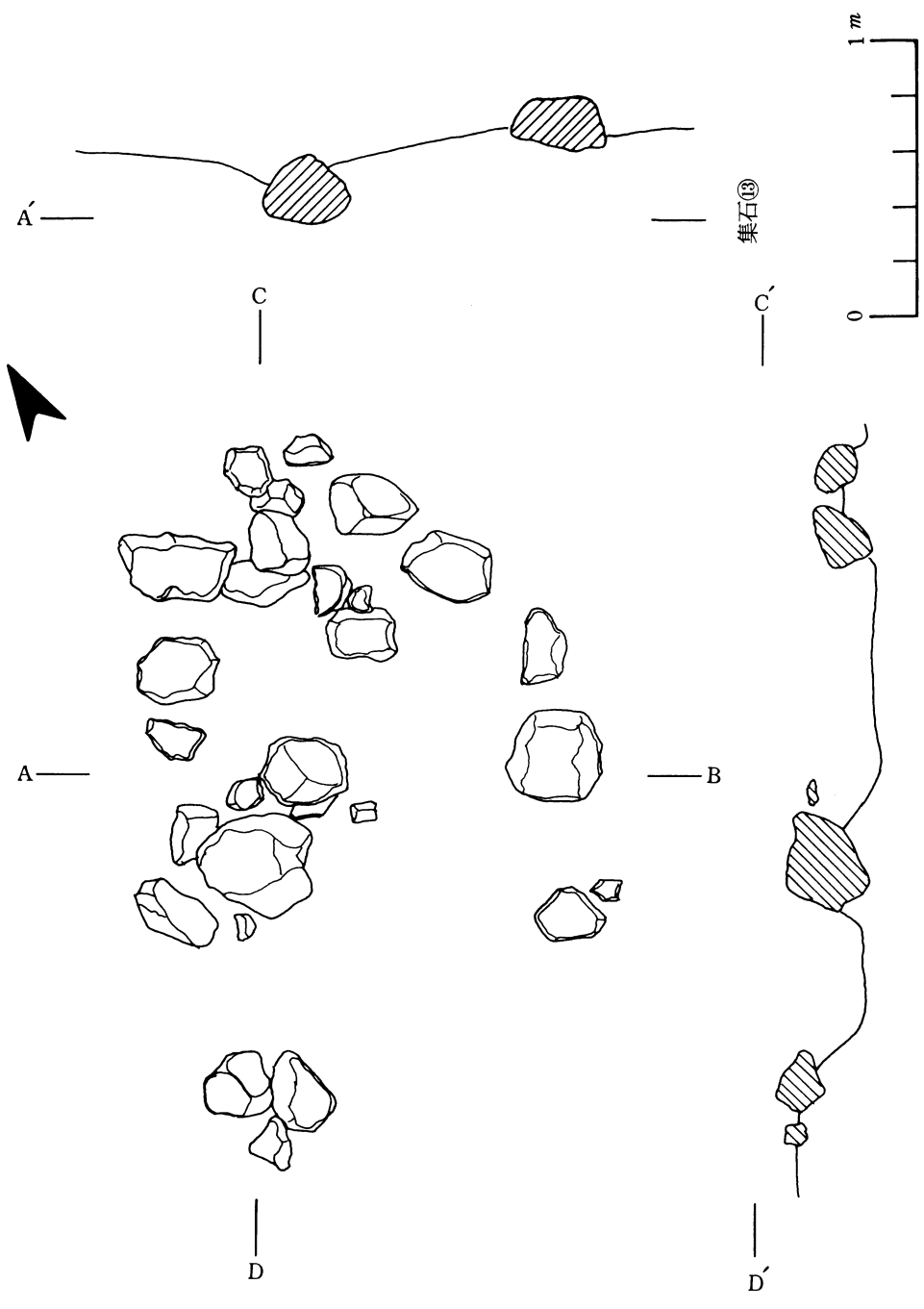
第65图 集石④·⑦·⑧·⑨·⑰ 实测图



第66図 集石⑥・⑩実測図



第67図 集石③・⑤実測図



第68図 集石⑬ 実測図

### (3) 土 塚

住居址と同様にⅥ層以下の黄色パミス層を掘り込んだ土塚76基を発見した。これらは台地中央部を中心に単基あるいは数基に群をなしたり、他の土塚や住居址と重複して検出された。これら土塚についての性格を把握する確実な資料は得られなかったが、いくつかの土塚内には、小礫や土器片、微量の炭化物を検出する。又、土塚75をのぞいて、土塚内に焼土や灰などの痕跡を見ることはできなかった。

各々の土塚の規模や主軸（長軸）の方向については第2表に示すものである。以下、土塚について略述する。便宜上、連穴土塚を㊶、一般的な土塚を㊷とする。

#### ㊶タイプ（連穴土塚）

連穴土塚は、土塚検出面で小円形と長楕円形に近い隅丸方形の別個の掘り込み遺構が隣接して並び、覆土を取り除くと小円形の掘り込みと隅丸方形の掘り込みが、厚さ30～40cmの橋状（以下これを「ブリッジ」と呼ぶ）によって、つまり、トンネル状になり両者の土塚の底面がほぼ同じ深さで連穴する（以下これを「連穴土塚」と呼ぶ）土塚となる形態を呈す。土塚と土塚の間にあるブリッジは、Ⅵ・Ⅶ層の黄色パミス層であり、その厚さによって、脆く崩れているものもある。連穴土塚は27基と、それに類する6基の合計33基が検出された。

##### (a) 単基に検出される連穴土塚

単基に検出される土塚としては次の9号・10号・14号・24号・33号・53号・56号・58号・61号・66号・67号・28号・75号の12基がある。33号は主軸をN-14°-Wとする。北側に長径56cmと短径42cmの楕円形と、長さ122cm、幅46cmの隅丸方形の平面プランの2基の落ち込みが、深さ約60cmの底面で、高さ20cmのトンネルによって連穴している。ブリッジは厚さ35cmの黄色パミス層である。トンネルは半円形を呈し、Ⅹ層上面が底面となる。側壁は垂直できちんとしている。側壁や底面などに焼土や灰などの痕跡は認められず、又、遺物も出土しなかった。(第75図) 53号は主軸をN-28°-Eとする。長径74cm、短径34cmの楕円形と長さが94cmと幅が70cmの隅方形の平面プランの2基が40cmで隣接していた。この2基の落ち込みが、深さ約65cmの床面で高さ38cmの半円形状のトンネルによって連穴し、2基の土塚を結ぶブリッジは厚さ30cmの黄色パミス層となる。底面はほぼ水平を保ち、側壁の立ち上りは垂直で、掘り方もきちんとしている。焼土や遺物は検出されない(第69図)。61号は主軸をN-20°-Eに保つ。北側に直径40cmの円形と長さ106cm、幅58cmの隅丸方形の平面プランの落ち込みが、26cmで隣接する。2基の土塚は、高さ26cmの半円形状のトンネルによって連穴する。2基の土塚を結ぶブリッジは厚さ30cmとなる。底面は南から北へ傾斜を呈している。焼土や灰、遺物などは検出されなかった(第69図)。

##### (b) 重複する連穴土塚

重複する連穴土塚には、a-土塚と重複するもの、b-住居址と重複するものがある。

##### a. 土塚と重複するもの

土塚と重複するものとしては3号・6号・19号・20号・23号・32号・35号・36号・41号・43

号・51号・61号・64号・65号・68号の15基がある。3号は4号と重複する。主軸はS-54°-Wに保つ。北西側に長径54cm、短径40cmの楕円形と、長さ130cm、幅60cmの隅丸方形の平面プランの2基の落ち込みが、10cmの間隔で隣接する。2基の土壇は高さ24cmの半円形状のトンネルによって連穴している。ブリッジは22cmの厚さとなる。底面は南西から北東へわずかに傾斜を呈している。側壁の立ち上りは、土壇縁辺部へ、わずかながら袋状となる。焼土の痕跡は不明であった。土壇内に土器片や小礫が出土した。19号は20号と51号に重複する。主軸はN-30°-Eに保つが、円形土壇は20号との重複によって計測不可能であった。しかし、厚さ28cmのブリッジを有し、半円形状のトンネルとなる。床面はわずかに傾斜を呈している。土壇内に小礫が出土した(第76図)。35号は南東部で36号と重複する。北西部に径46cmの円形と5cmで隣接する長さ110cm、幅62cmの隅丸方形の平面プランを呈する落ち込みで、平坦な底面と、高さ42cmの台形状トンネルによって連結する連穴土壇である。土壇内より土器片や小礫が出土した。41号43号は、ほぼ直角に重複するが、先後関係は不明である。41号には小礫が出土した(第73図)。

### (c) 住居址と重複する連穴土壇

住居址と重複する連穴土壇には、15号・17号・26号・30号・31号・60号・62号・73号・76号の9基がある。15号はⅧ号住居址と重複する。住居址のほぼ中央部に位置する。主軸をS-53°-Wに保つ。直径約55cmの楕円形と長さ118cm、幅64cmの隅丸方形の平面プランを呈し、高さ36cmの楕円形のトンネルとからなる連穴土壇である。底面は、トンネル部がわずかに高くなる(第70図)。17号はⅨ号住居址の北壁に重複する。長径70cm、短径60cmの楕円形の土壇と、長さ120cm、幅76cmの隅丸方形の平面プランを呈し、高さ62cmのトンネルからなる。底面は平坦で、側壁の立ち上りはほぼ垂直で掘り方もきちんとしている。15号・16号ともに住居址との先後関係は不詳。土壇内の出土遺物は検出されない(第70図)。26号はⅩ号住居址と重複し、住居址の南側に位置する。主軸はN-91°-Wのほぼ東西を保つ。直径約30cmの楕円形と長さ116cm、幅42cmの隅丸方形の平面プランで、深さ約42cm、高さ24cmの半円形状トンネルからなる。遺物無し。30号・31号はⅦ号住居址の西壁とが重複する。30号は主軸をS-82°-Wを保つ。長径74cm、短径64cmの楕円形と長さ140cm、幅54cmの隅丸方形の平面プランを呈し、高さ66cmの楕円形のトンネルによって連穴する。床面は平坦で、土壇の立ち上りは垂直であるが、東側は傾斜を呈している。31号も同じである。両者ともに土壇内には焼土や遺物は検出されなかった(第71図)。60号はⅡ号住居址の北壁側に重複する。なお、この土壇はテストトレンチによって半分は欠損した。結果、土壇断面の状態を確実に観察することができた。小円の土壇と隅丸方形の土壇は高さ30cmのトンネルによって連穴され、床面は平坦となる。土壇内には微量の炭化物や、土器片を出土した。しかし、土壇内の覆土と住居址内の覆土の土壌の差は色別できず、判断できる資料は得られず、先後関係は把握できなかった(第71図)。62号はⅤ号住居址の西側と重複する。長径40cmと短径30cmの不整形の土壇が、東側の隅丸方形土壇と高さ40cmの円形状トンネルによって連穴される。トンネル直下に径30cmほどの落ち込みがあった。土壇内から土器片や小礫が出土した。76号は、ブリッジが土壇内に落ち覆土と混在してブリッジである黄色パミ



ス層が認められるなど形状が類似していることなどから連穴土壇として記録した。この土壇は住居址Ⅲ号（第38図）の北西部の側壁一辺と重複する。住居址とのかね合いで規模は定かでないが、底面の長さ164cm、幅は50cmで北西へとわずかに側斜する。土壇北西部の底面に厚さ7～8cmの焼土や灰、木炭が検出される。又、側壁には硬く赤褐色に変色した痕跡も観察された。この土壇は特記すべきものでこれだけ焼土の跡が明瞭に発見された唯一の土壇である。土壇底面は住居址床面より低い。又、住居址床面の検出作業中に土壇のプランが発見され、土壇構築が住居址構築時より新しいものと思われる。

土壇内に土器が出土する3・9・10・24・35・41・66・67・70がある。

#### ㊸タイプの土壇

㊸タイプの土壇は、一般的な落ち込みで隅丸方形や長楕円形の平面プランで深さも浅いものである。1号・2号……73号・74号と計43基確認された。これらの土壇は、他の土壇との重複が著しく、数基が群をなし全容を把握する状況ではなかったが、その形状から㊸タイプとして記録した。重複する土壇であることから土壇の件数は増えることが予想される。

単基に検出されるものに、13・25・27・39・44・47・57・70・71の各土壇があり、土壇と土壇が重複する1・2・4・5・7・8・11・12・18・22・29・36・37・38・45・46・48～52・55・69・77・78と、住居址と重複する16・21・34・54・59・63・75・76の土壇がある。

土壇内に土器片が出土するものに1・2・5・7・40・43がある。いずれも土壇内の覆土に混在し床面より浮いた状態での出土状況である。床面はⅥ層下部かⅦ層上部となり浅いものである。床面や壁などに焼土などは検出されないが、なかには土壇内の覆土に微量の炭化物が検出される例もある。重複の土壇については先後関係は不明である。

#### 出土土器（第80～83図）

土壇1（1～18）—1・7～9・11は円筒土器片で、胴部に貝殻条痕文と貝殻腹縁による刺突線文、それにクサビ形凸帯文を有すⅣa類土器、3～6・10・12～15はⅣ類土器片、16～18は円筒土器の底部片である。18は直径11cmで外底部に篋による縦位の凹線文を施している。

土壇2（19～28）—19～26は器面に貝殻条痕文と貝殻腹縁による刺突線文を施す円筒土器Ⅳ類である。28はその底部片である。

土壇3（29・30）—29は円筒土器底部片、30は円筒土器Ⅳ類である。

土壇4（31）—31は、口唇部にキザミ目文と胴部に貝殻腹縁による押し引き文のⅢ類土器。

土壇5（32～37・41）—32はクサビ形凸帯を有す円筒土器Ⅳa類の口縁部片。33～37はⅣ類土器片で、貝殻条痕文と貝殻腹縁による刺突線文を施している。

土壇6（38）—38は口縁部でわずかに外反し口唇部にキザミ目凸帯と口縁部直下に貝殻腹縁を横位に3段施す。胴部には貝殻条痕文と貝殻腹縁による菱形文を描く刺突線文と、3段にクサビ形凸帯を有す円筒土器Ⅳ類である。

土壇7（39・40・42）—いずれも円筒土器Ⅳ類土器である。

土壇10（43～47）—43はクサビ形凸帯を有すⅣa類の口縁部片。その他はⅣ類土器である。

土塚9 (48) —48はⅣ類土器の胴部片である。

土塚24 (49~51) —49は強いタッチの貝殻条痕文と刺突線文の円筒土器Ⅳ類。51は底部片。

土塚35 (52) —円筒土器の底部片。外底部に縦位の凹線文を施している。

土塚41 (53~62) —53はクサビ形凸帯を有す角筒土器のⅣ類土器。55・56はクサビ形凸帯を有す円筒土器ⅣA類。

土塚40 (64~66) —65・66は円筒土器の底部片。その他は同筒土器Ⅳ類の胴部片である。

土塚43 (63) —円筒土器Ⅳ類土器片。

土塚44 (67~69) —67は円筒土器Ⅳ類の胴部。68・69はその底部片である。

土塚46 (70~76) —70は貝殻条痕文と貝殻腹縁による刺突線文、さらにクサビ形凸帯を有す円筒土器ⅣA類土器。71・72・76はⅣ類土器の胴部片。73~75は底部片である。

土塚66 (77・78) —両者ともに、円筒土器Ⅳ類の胴部片である。

土塚67 (81) —角筒土器Ⅳ類の胴部片である。小片の厚い詳細は不明。

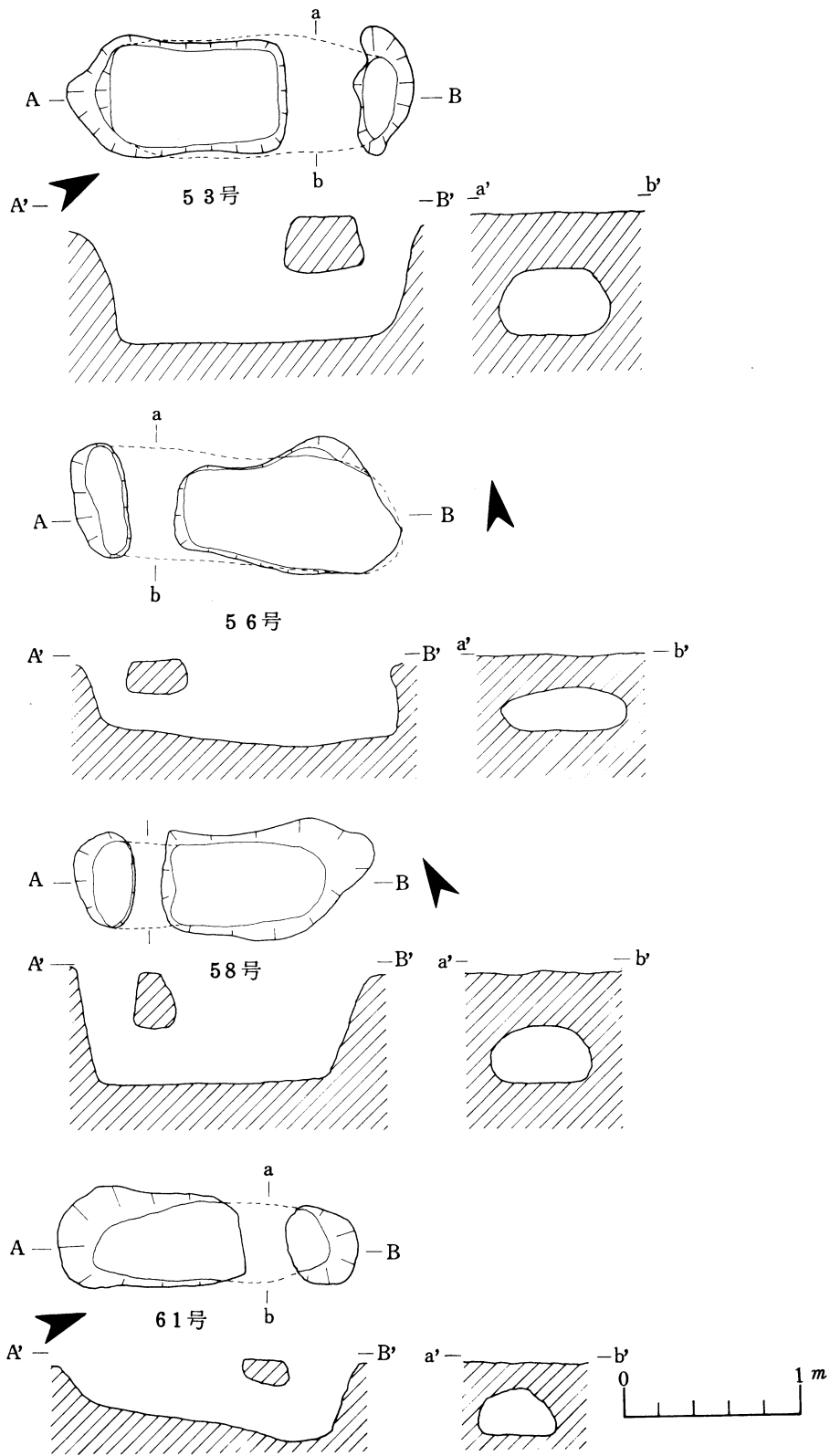
土塚68・69 (79・80・82~85) —80は円筒土器ⅣA類でクサビ形凸帯を有す。83は器面の貝殻条痕文が無く、貝殻刺突線文を縦位に施す円筒土器Ⅳ類である。85は角筒土器Ⅳ類である。

土塚70 (86) —口縁部が直行し、口唇部はフラットでキザミ目文を施す。口縁部直下に貝殻腹縁による横位2段に刺突線文を巡らし、胴部にも縦位の刺突線文を施すⅥA類の土器片。

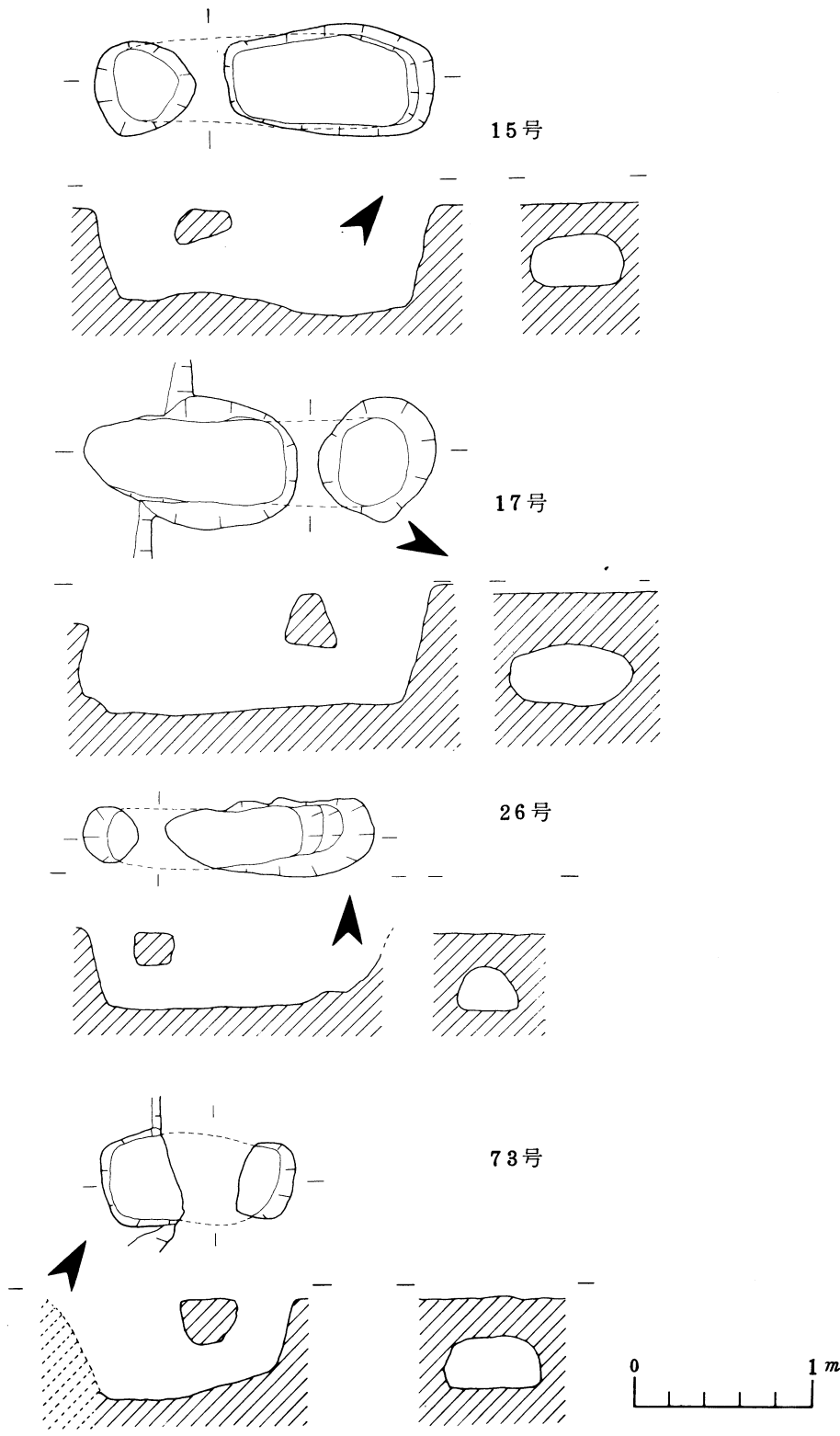
以上、土塚内における出土土器は、ほとんどが覆土内に検出されるものであり、完形品は全くなく、破片のみであった。量も少ない。全体の21%の土塚に土器の出土を見る。

その他、㊤連穴土塚10基と㊦土塚4基から拳大の自然礫が出土するが、覆土中に出土のものが多く、底面の現位置で発見されるものは少ない。

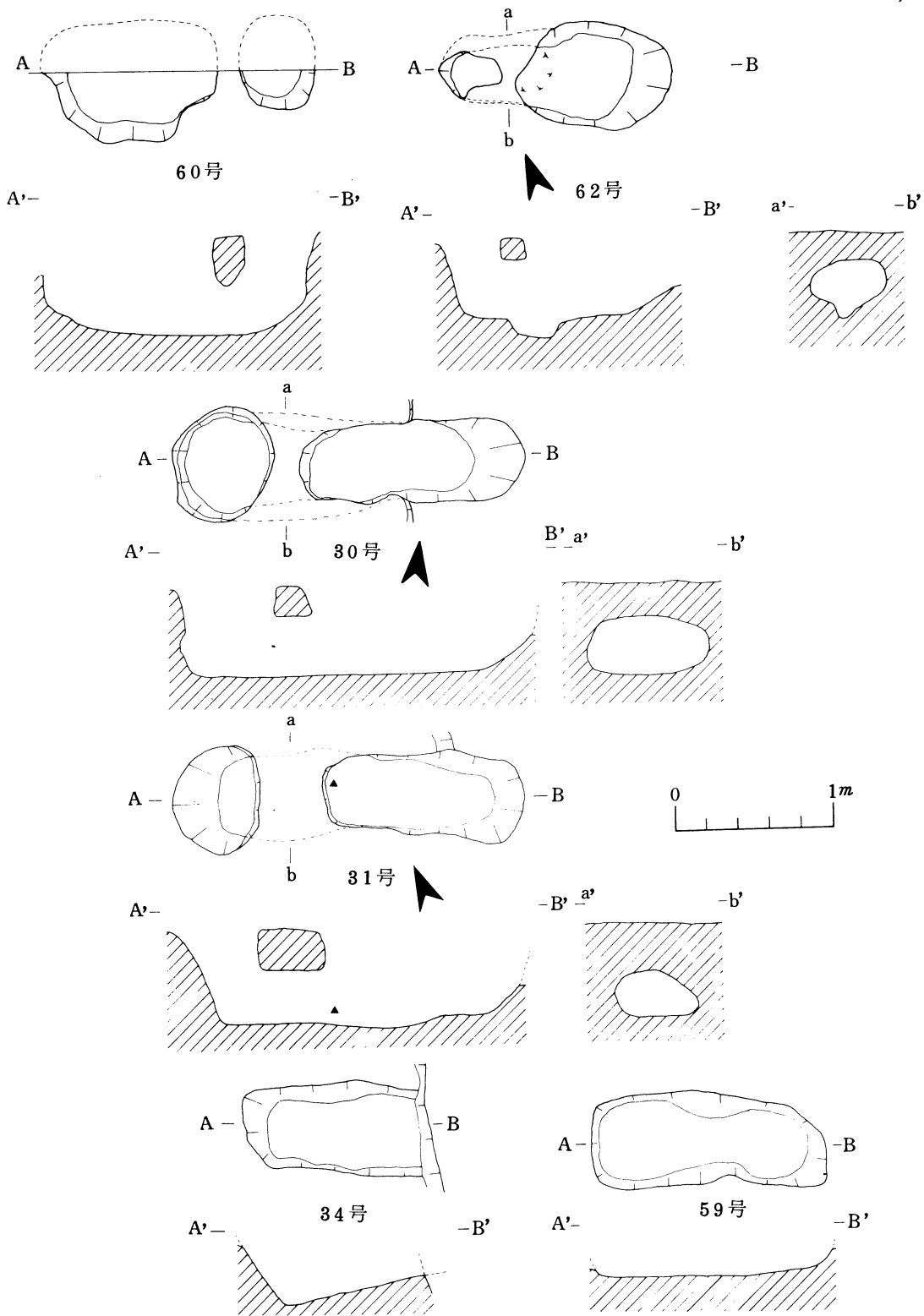
(注：図中の\*—土器，▲—石器である。)



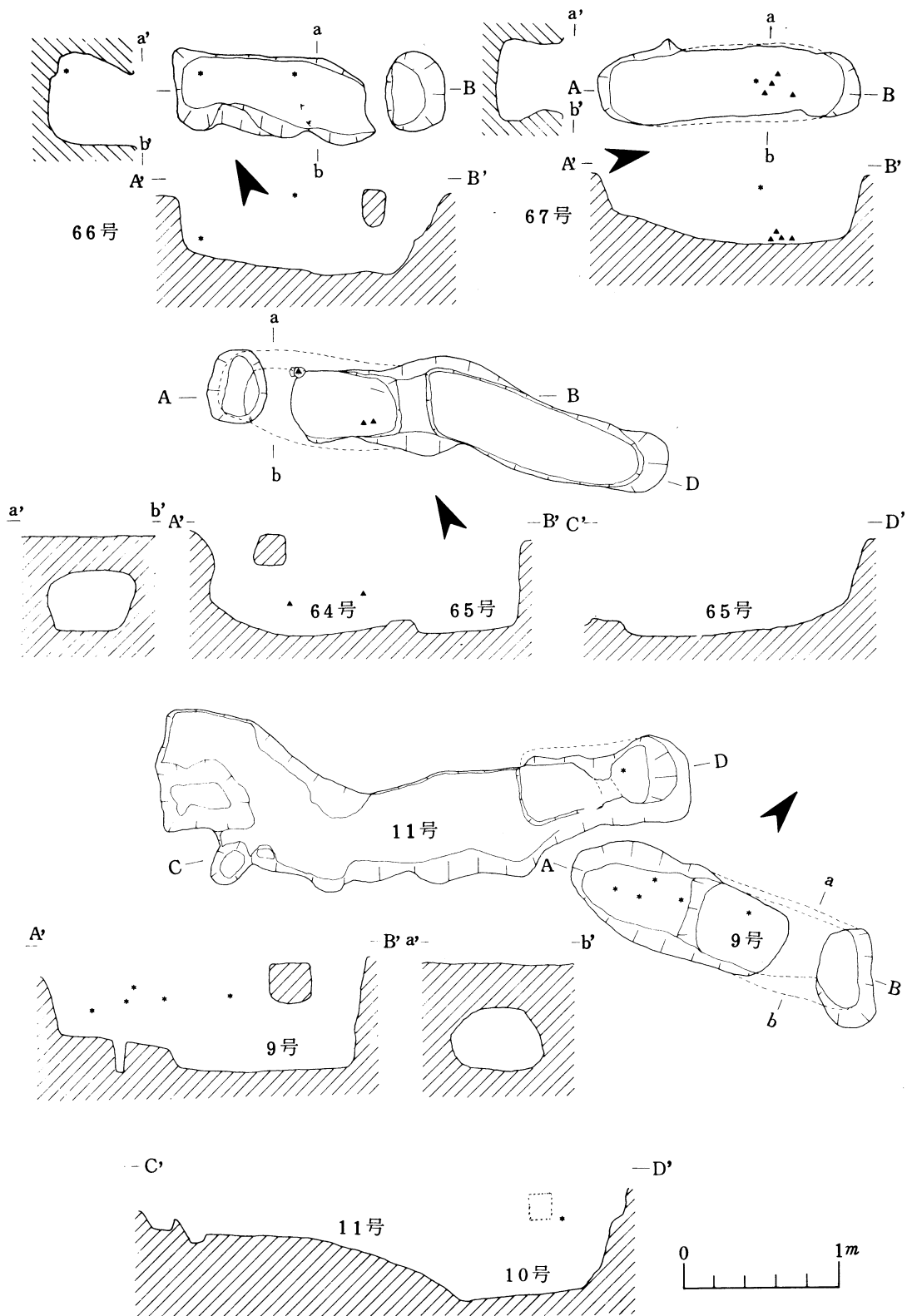
第69图 (A)連穴土坑(53·56·58·61号)实测图



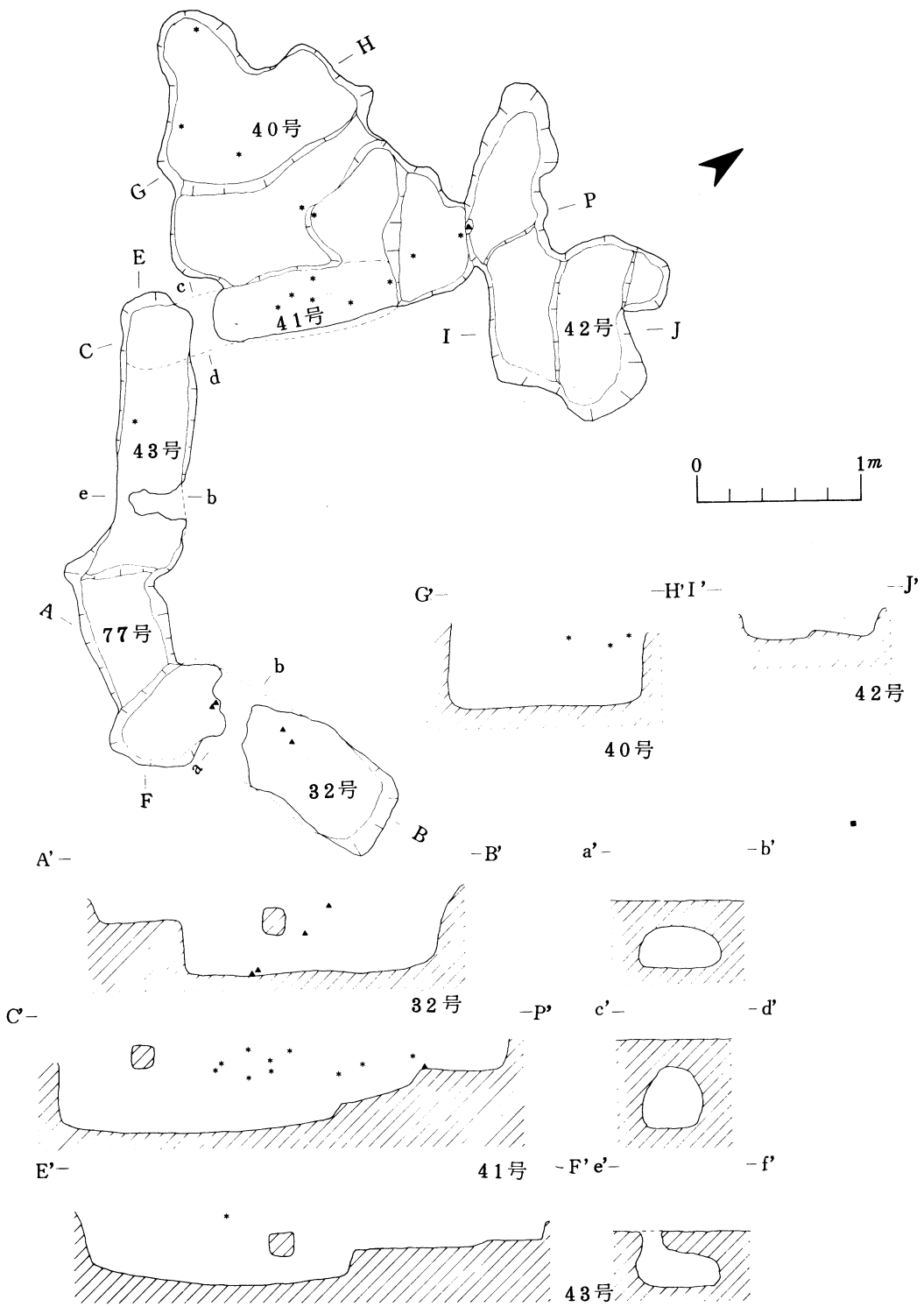
第70図 住居址と重複する㊦連土坑 (15・17・26・73号) 実測図



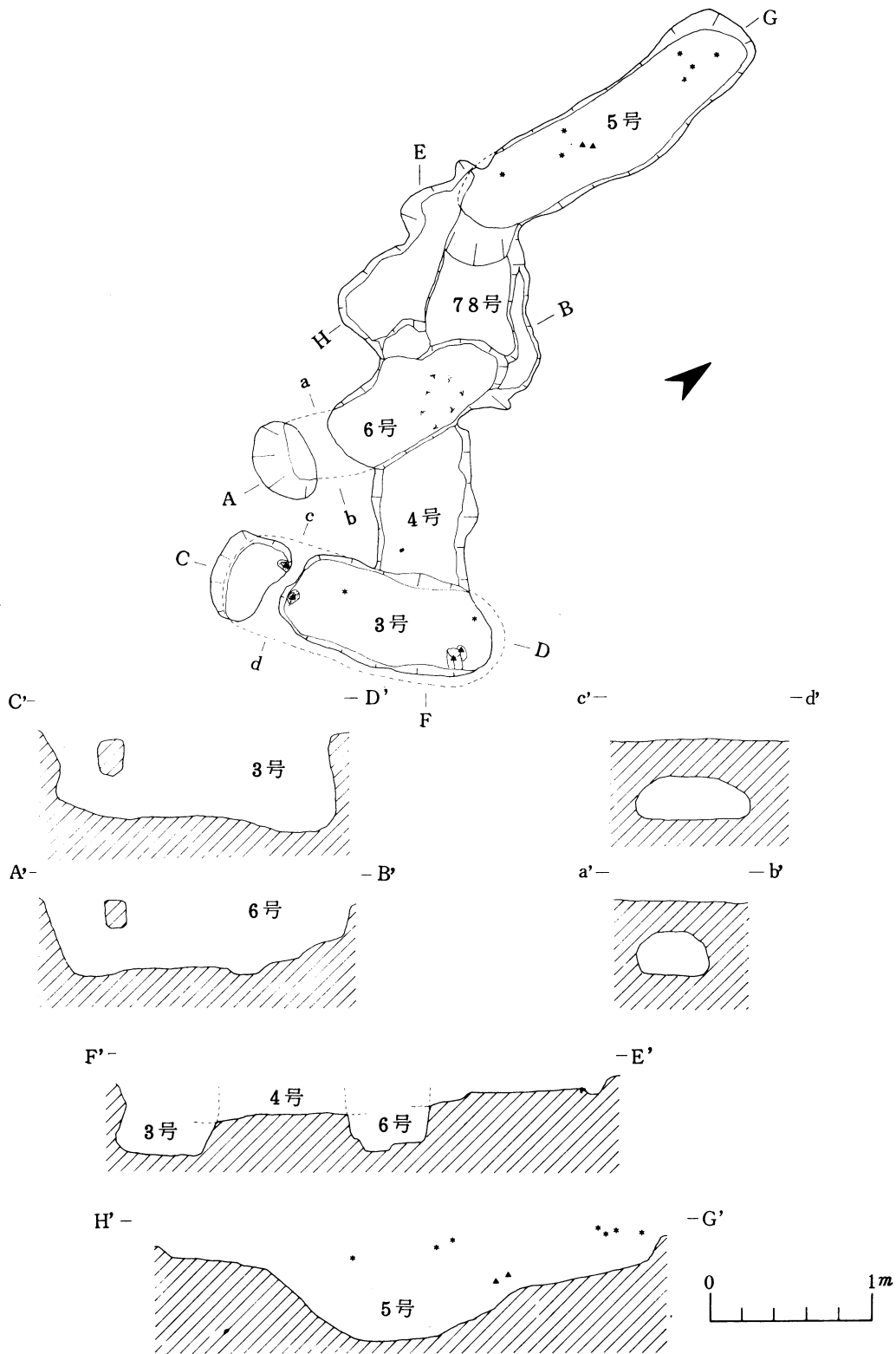
第71図 住居址と重複するⒶ連土坑(30・31・60・62号)とⒷ土坑(34・59号)実測図



第72図 ①連穴土塚(9・10・64~67号)と②土塚(11号)実測図

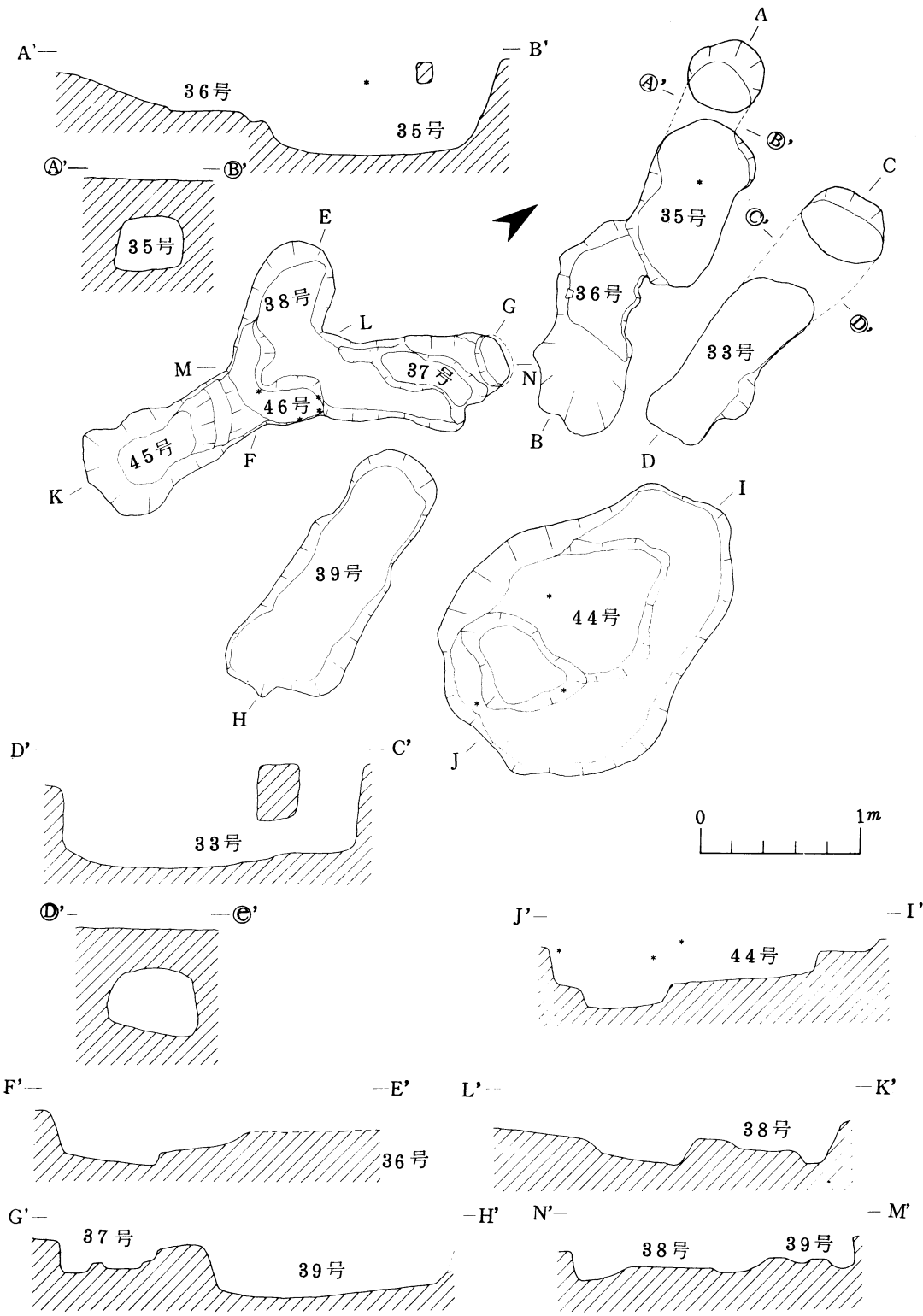


第73图 ①連土塚(32・41・43号)と②土塚(40・42号)実測図

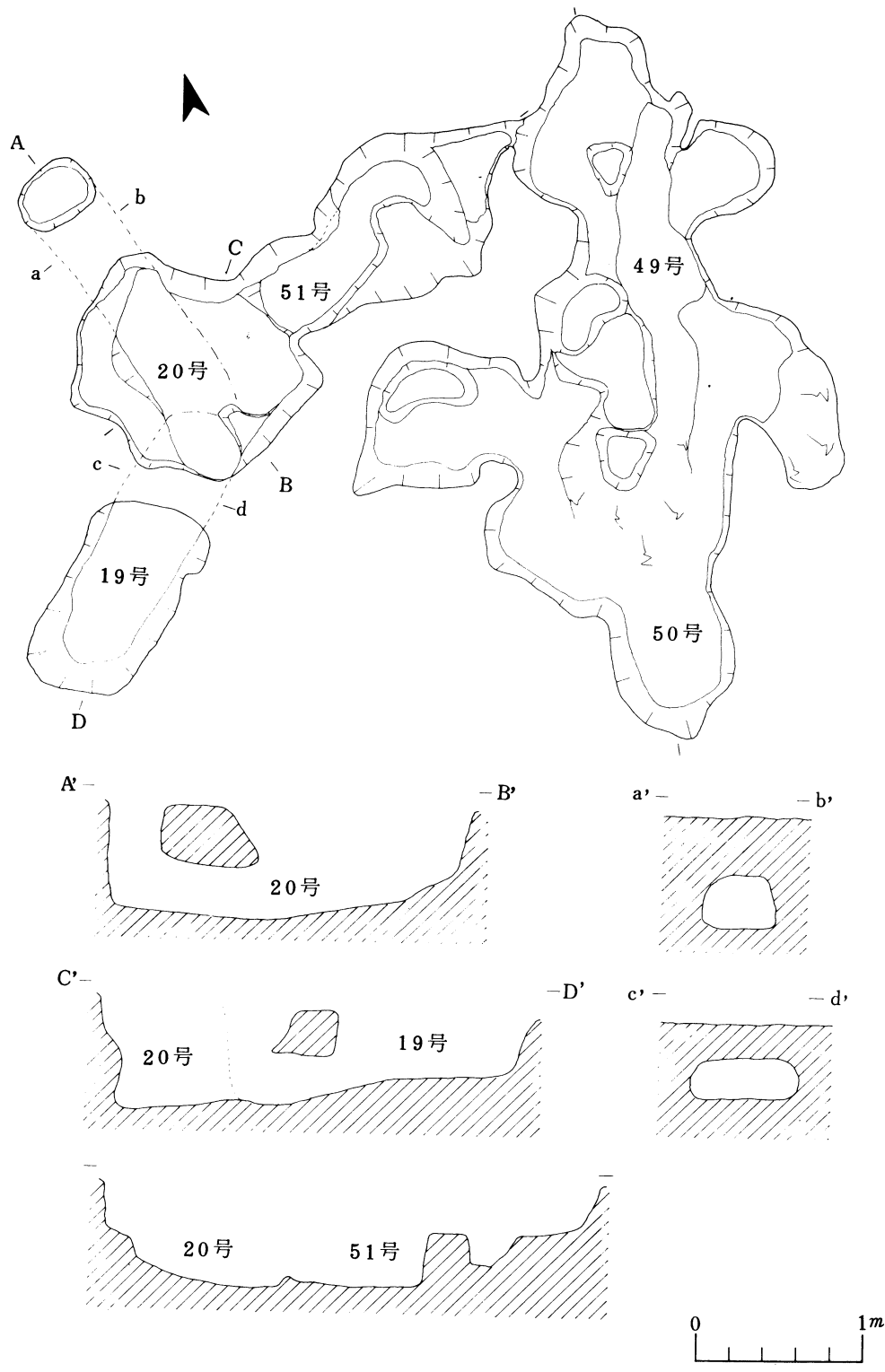


第74图 ㊶連穴土塚(3・6号)と㊷土塚(5・4号)実測図

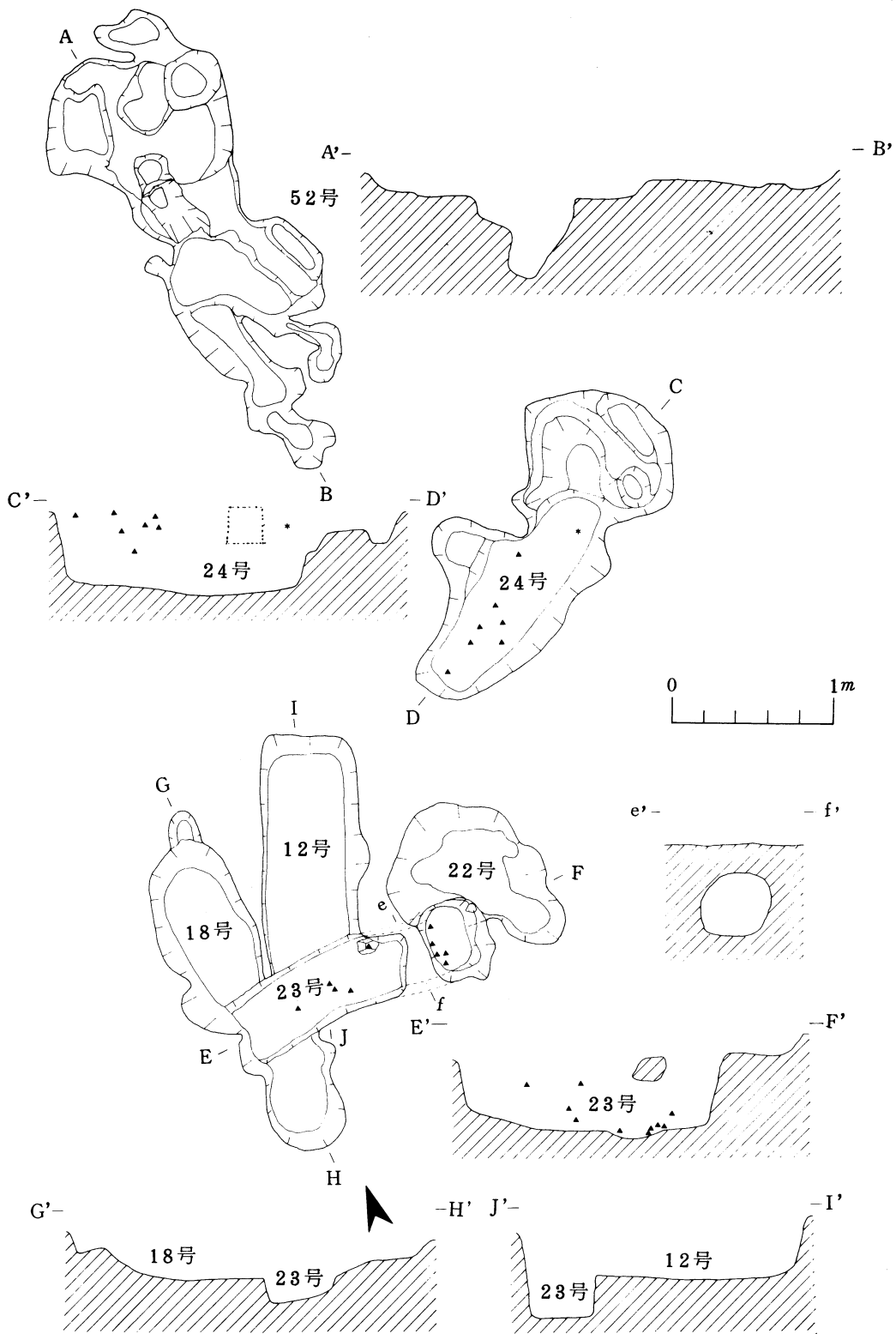




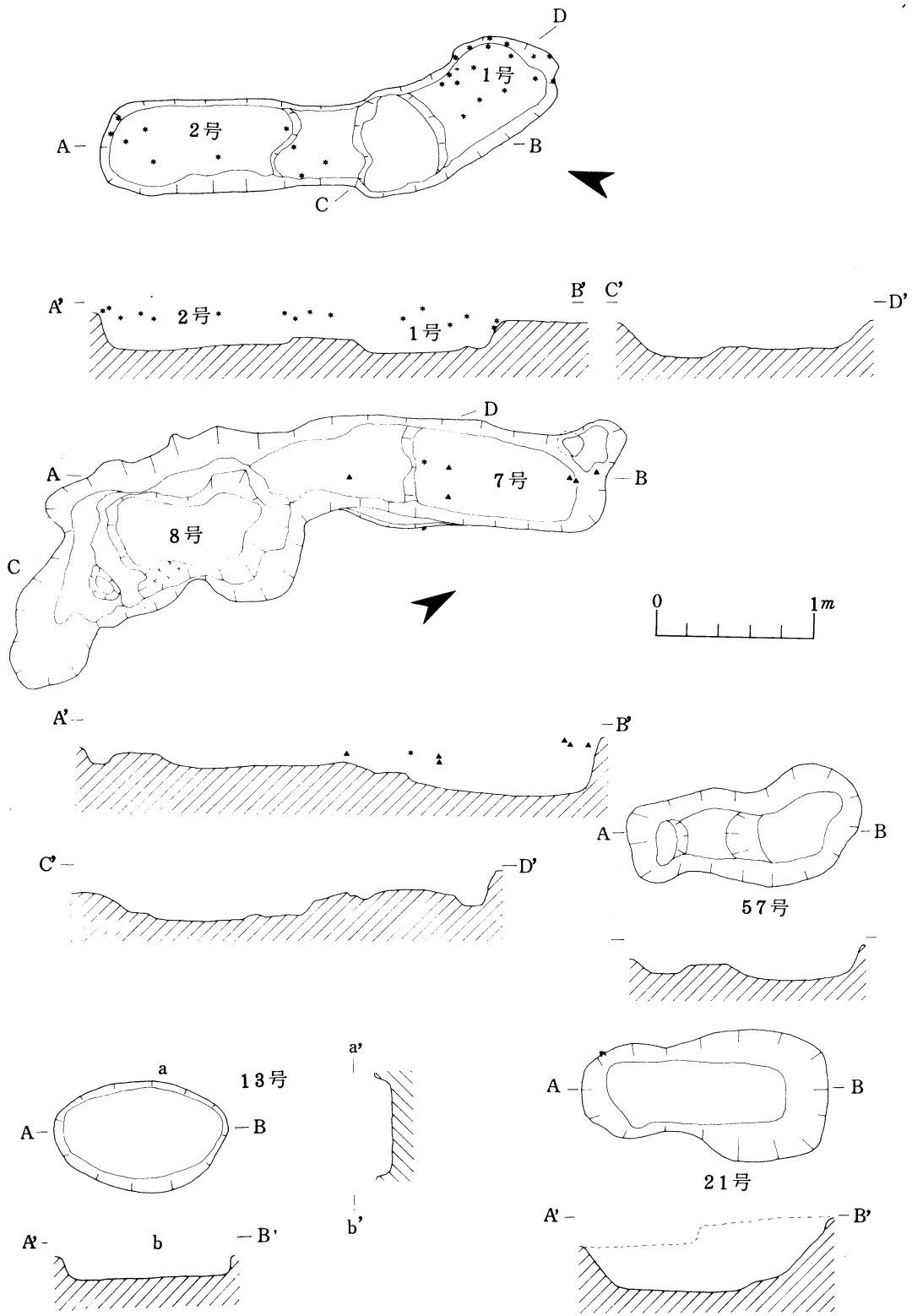
第75図 ㊸連穴土塚(33・35号)と㊹土塚(32・36~39号・44・45号)実測図



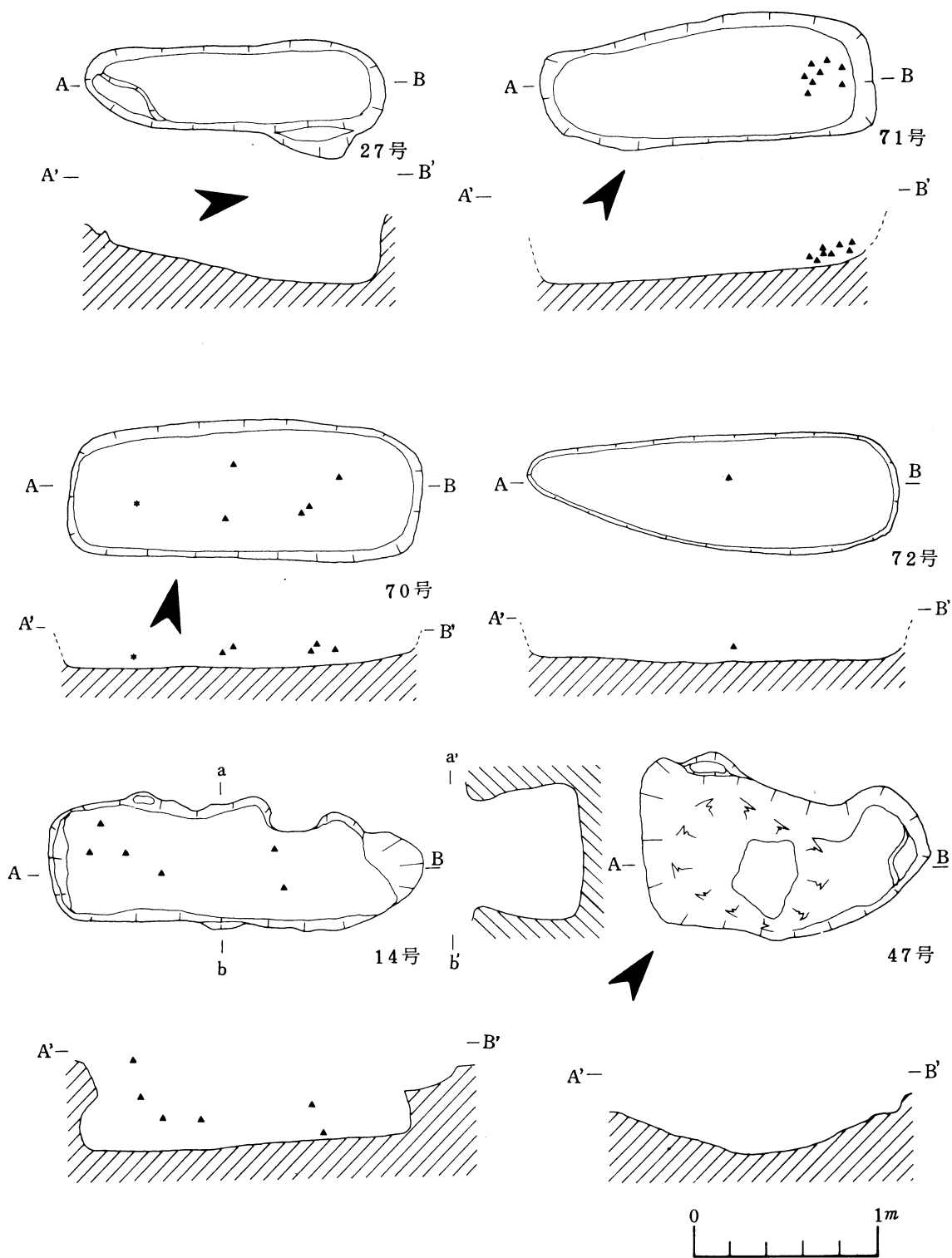
第76图 ①連穴土坑(19·20·51号) 実測図



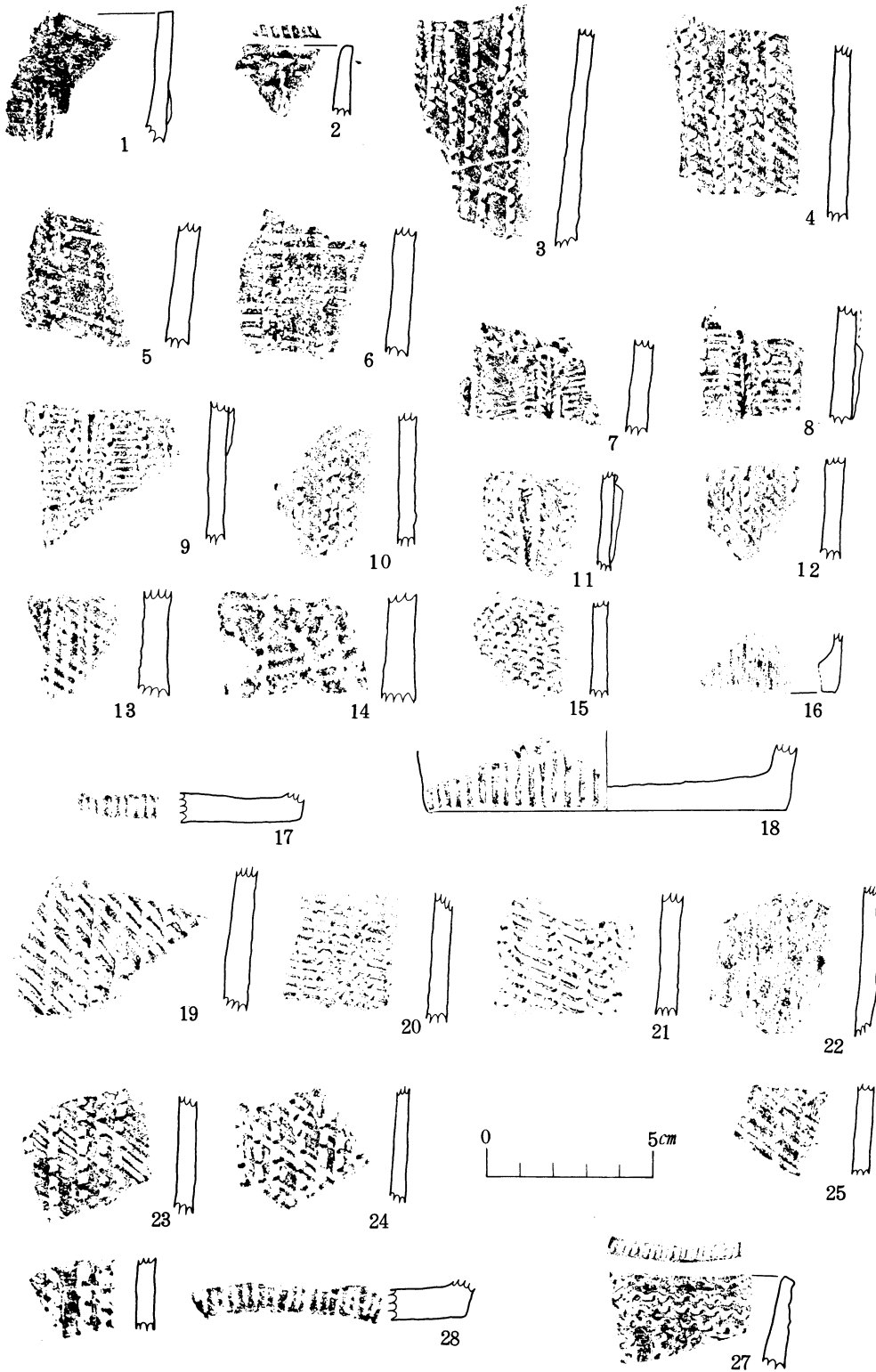
第77图 ㊶連穴土塚 (23・24号) と㊷土塚 (12・18・52号) 実測図



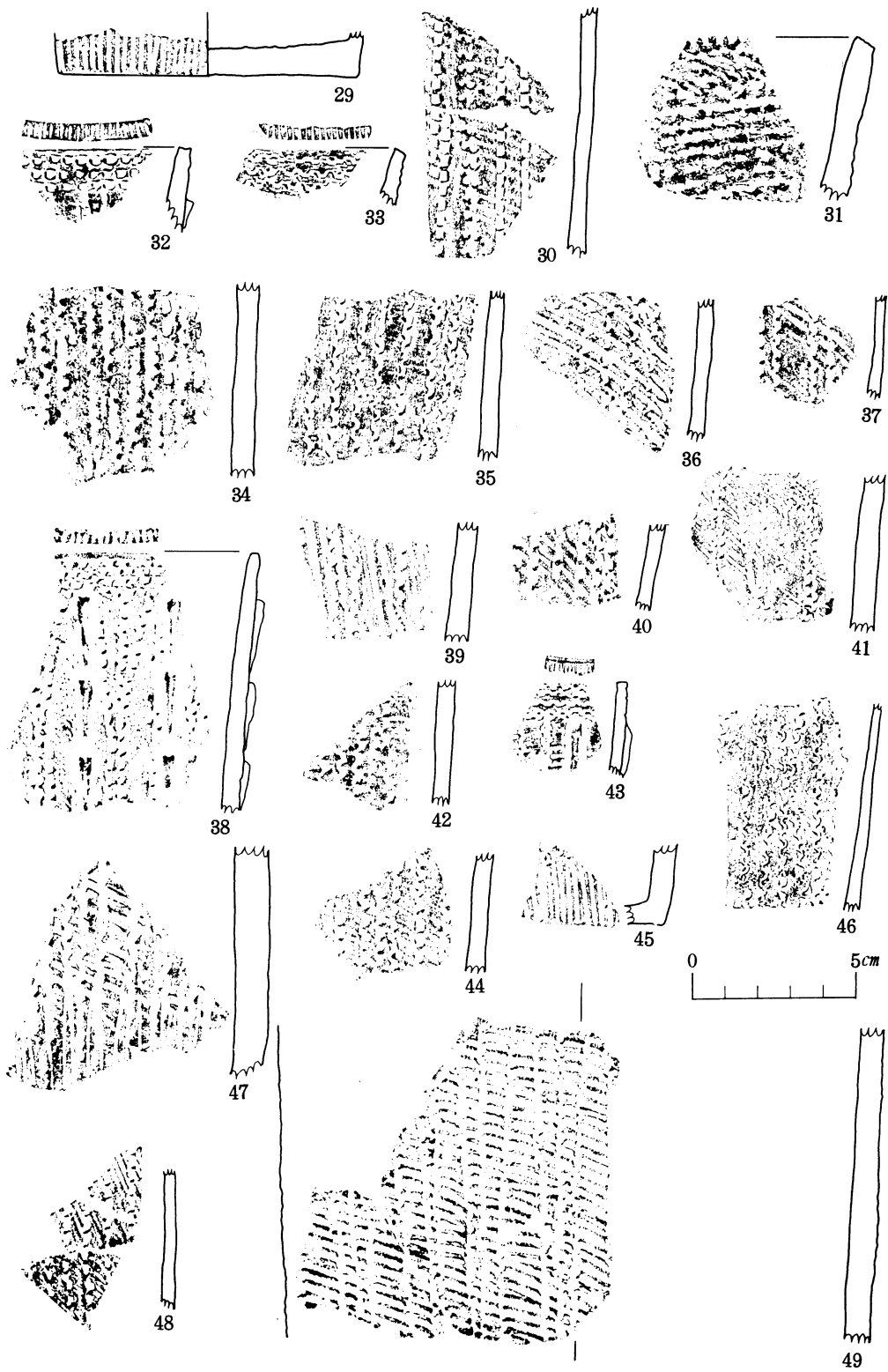
第78图 ㊸土坑 (1·2·7·8·13·21·57号) 实测图



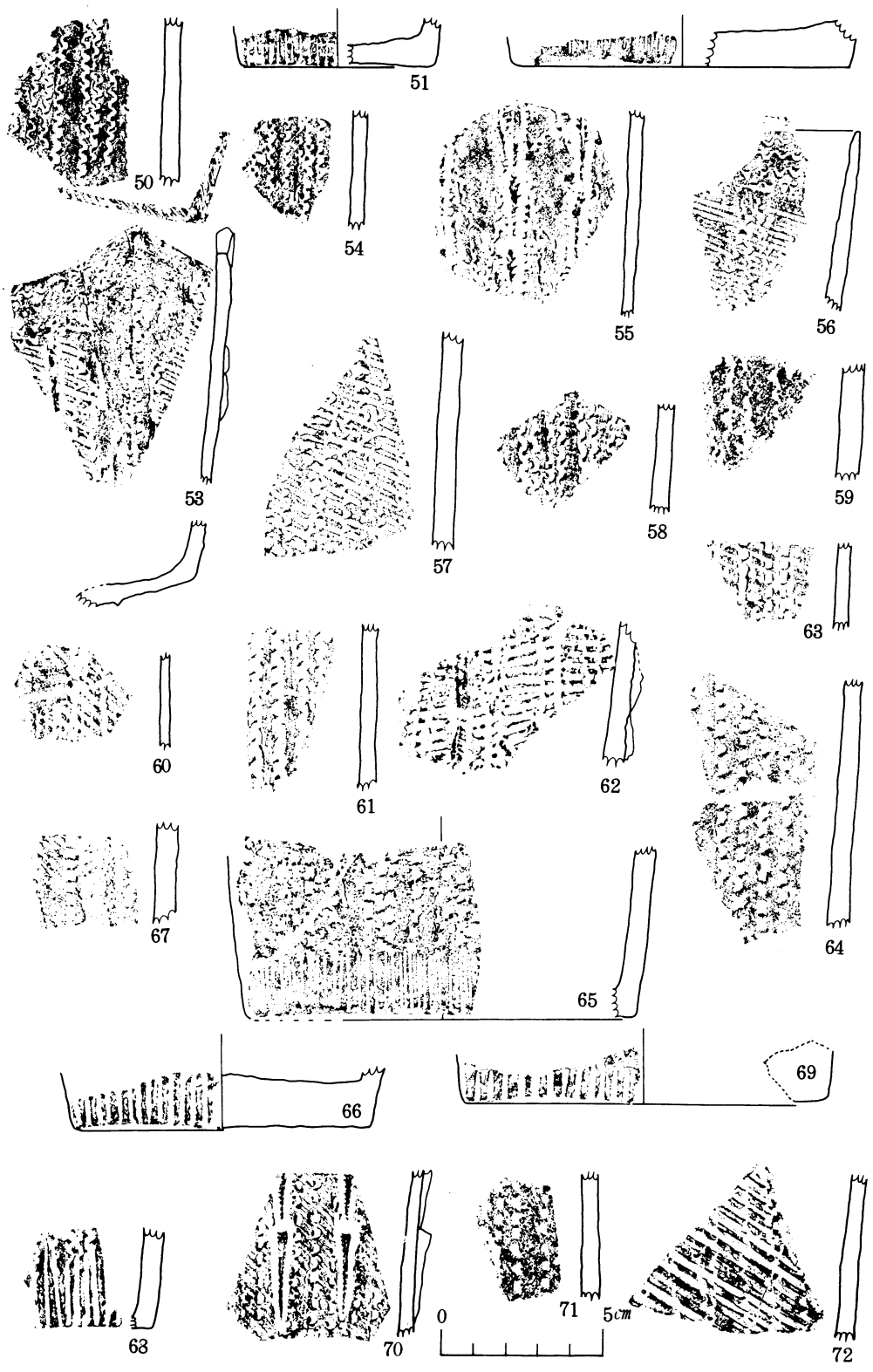
第79図 ㊶連穴土塚(14号)と㊷土塚(27・47・70~72号)実測図



第80图 土坛(1·2号)出土土器实测图

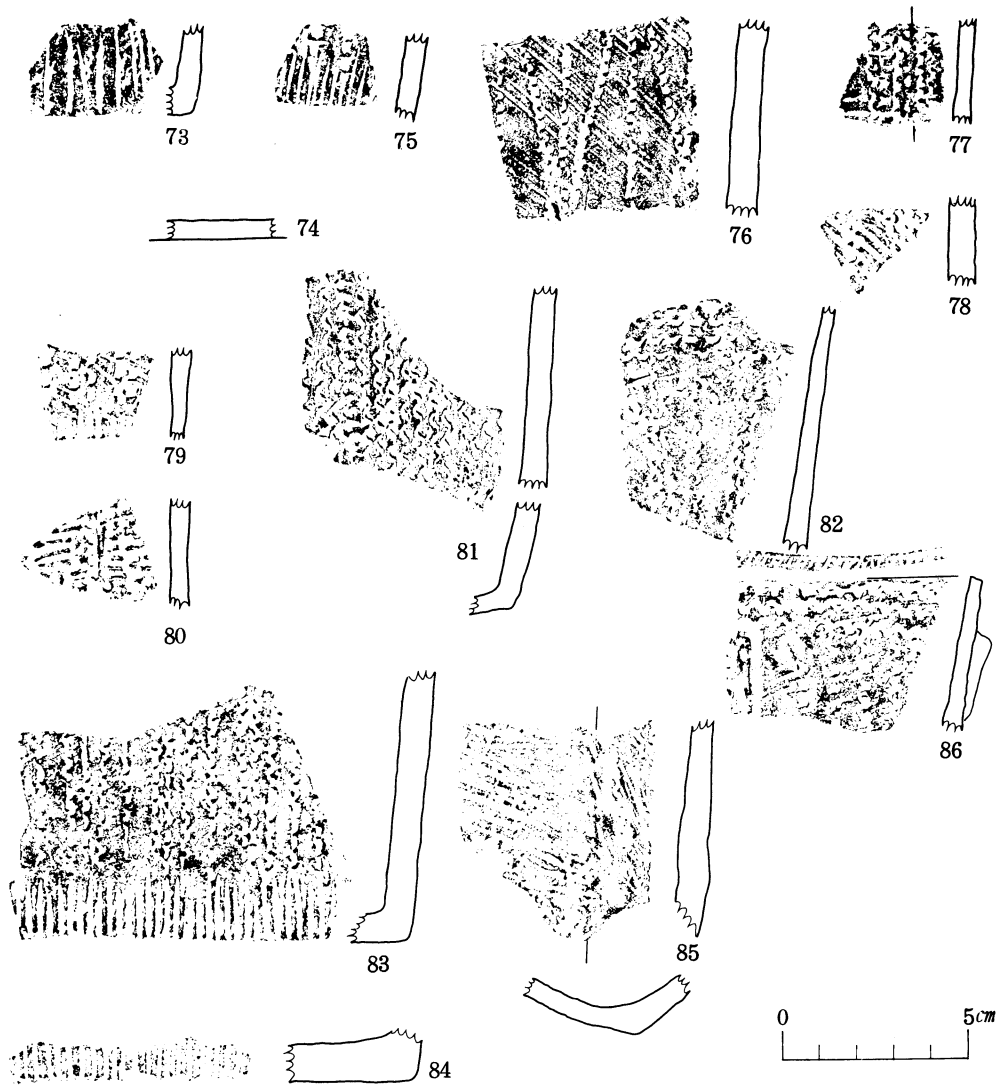


第81图 土坛(3~7·9·10·24号)出土土器实测图



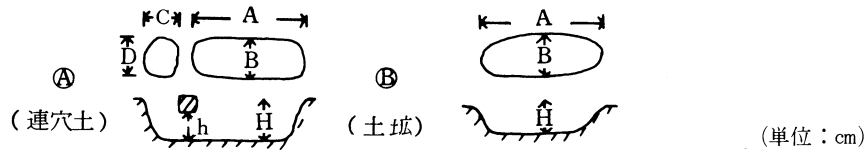
第82图 土坛 (24·35·40·41·43·44·46号) 出土土器实测图





第83图 土坑(46·66~70号)出土土器实测图

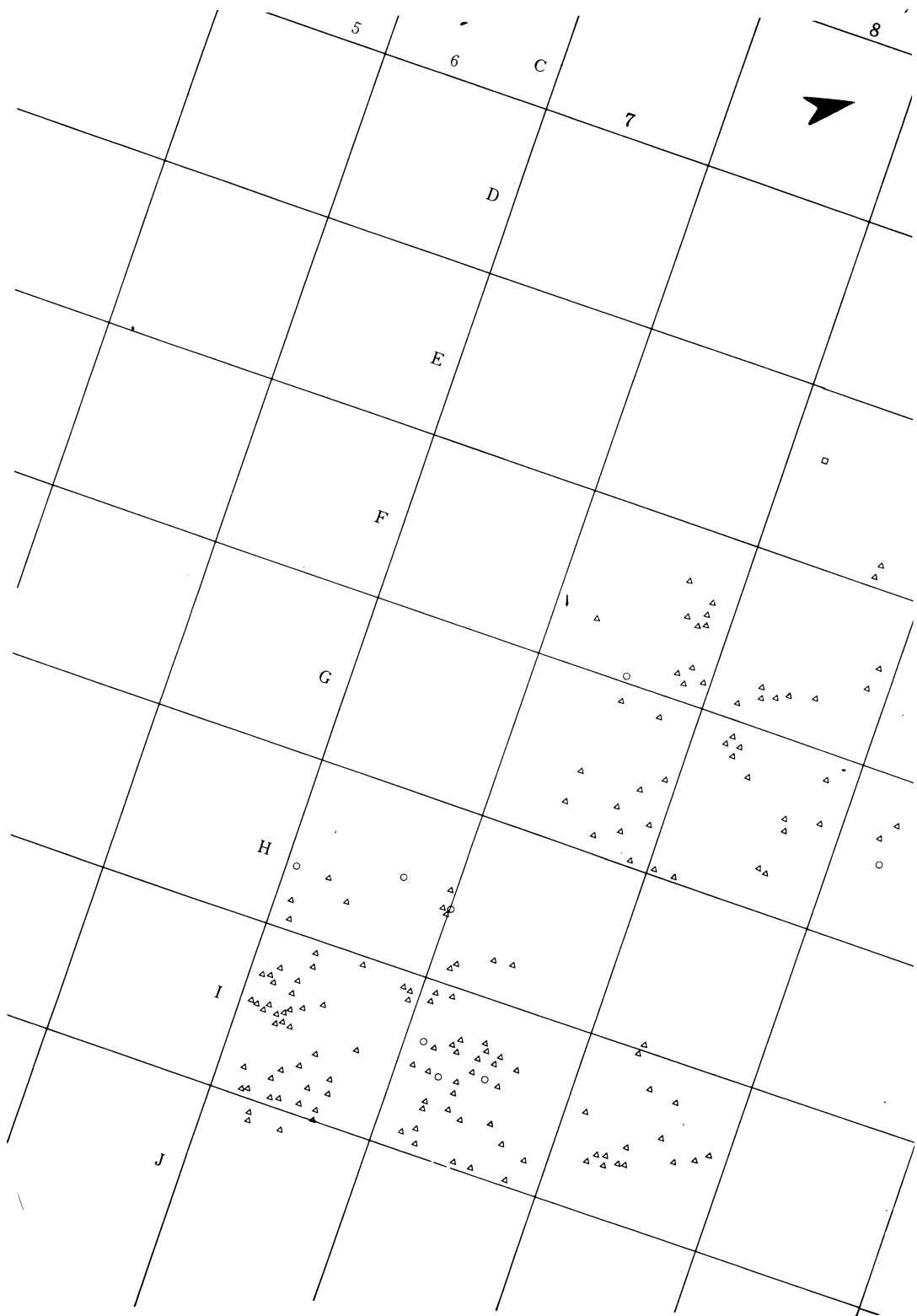
第2表 土坑別関連資料

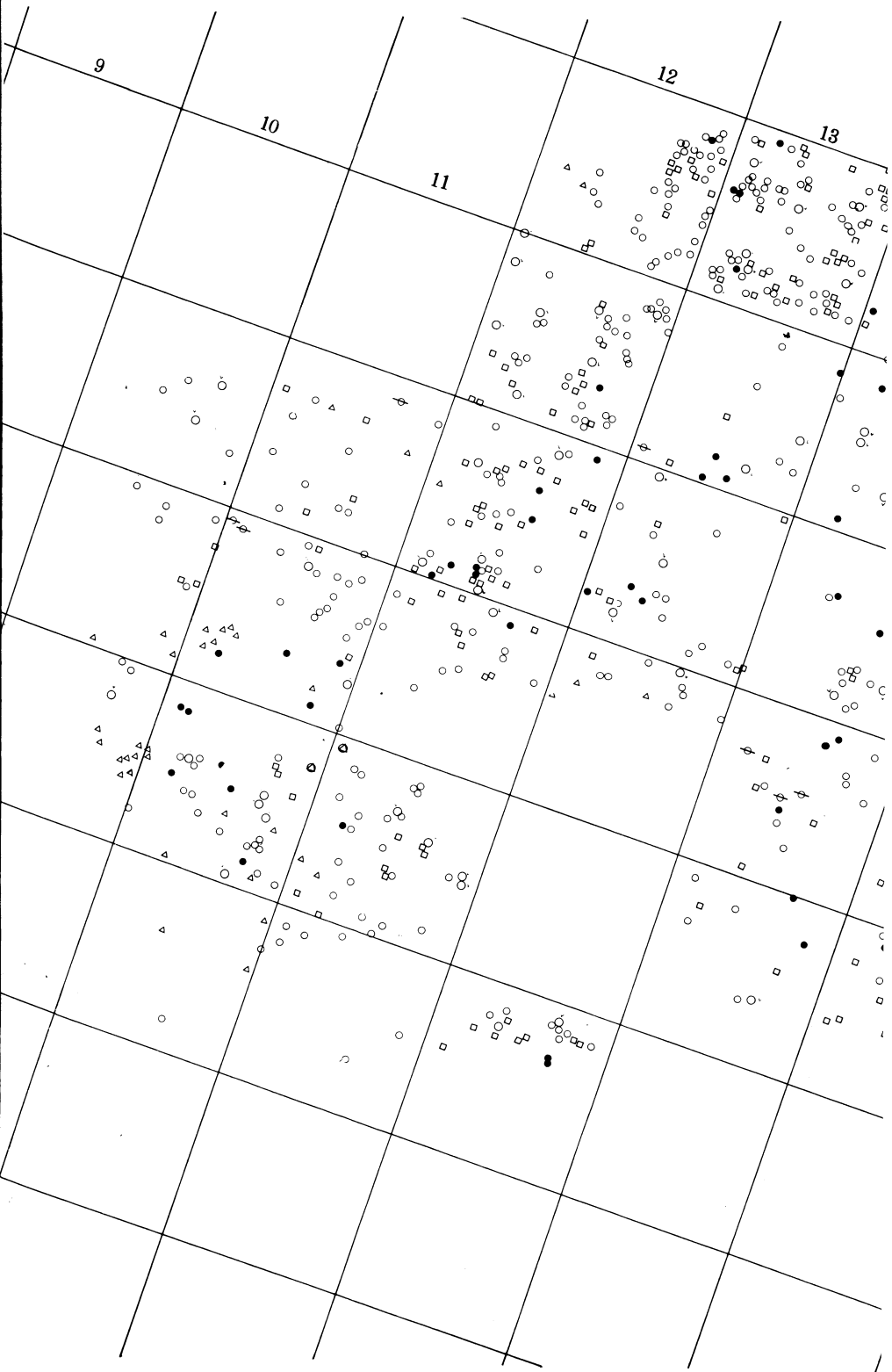


土坑 番号	出土区	主軸の 方向	① 連 穴 土 坑						② 土 坑				備 考
			単	重複	A × B	H	a × b	h	単	重複	A × B	H	
①	F-12	N-56°-W							2	? × 68	18	土器	
②	F-12	N-16°-W						1	? × 60	22	土器		
③	F-12	S-54°-W		④	130 × 58	60	42 × 54	24				土器 石	
④	F-12	N-47°-W							③⑥	? × 62	20		
⑤	F-12	N-6°-E							⑦⑧	? × 56	62	土器 石	
⑥	F-12	S-15°-W		④	? × 50	44	34 × 50	26					
⑦	D-14	N-30°-E							⑧	? × 68	36	土器 石	
⑧	D-14	N-3°-E							⑦	? × 112	20		
⑨	D-11	N-11°-E	○		144 × 62	70	38 × 62	42				土器	
⑩	D-11	N-36°-E	△	⑪	? × 56	70						土器	
⑪	D-11	N-35°-E							⑩	? × 70	16		
⑫	D-12	N-16°-E							⑬	? × 60	36		
⑬	D-13	N-5°-E						○		110 × 70	14		
⑭	C-11	N-70°-E	△		206 × 70	48						石	
⑮	G-11	S-53°-W		VIII-IX	116 × 64	60	54 × 54	26					
⑯	G-11	N-57°-E								?			
⑰	G-11	N-24°-W		VIII-IX	198 × 76	70	68 × 68	32					
⑱	D-12	N-1°-W							⑳	? × 62	30		
㉑	C-12	N-30°-E		㉑㉒	120 × 72	54	?	26					
㉒	C-12	N-27°-W		㉑㉒	?	64	46 × 36	28					
㉓	G-11	N-73°-W								156 × 84	48		
㉔	D-12	N-84°-E							㉕	?			
㉕	D-12	N-48°-E		㉖㉗	120 × 44		40 × 54	32				石	
㉖	D-12	N-63°-E	△			50	220 × 100					土器 石	
㉗	E-13	N-63°-E						○					
㉘	F-11	N-91°-W		VIII	118 × 42	44	30 × 32	42					
㉙	G-13	N-80°-E						○					
㉚	E-12	N-52°-W	○							166 × 48	34		

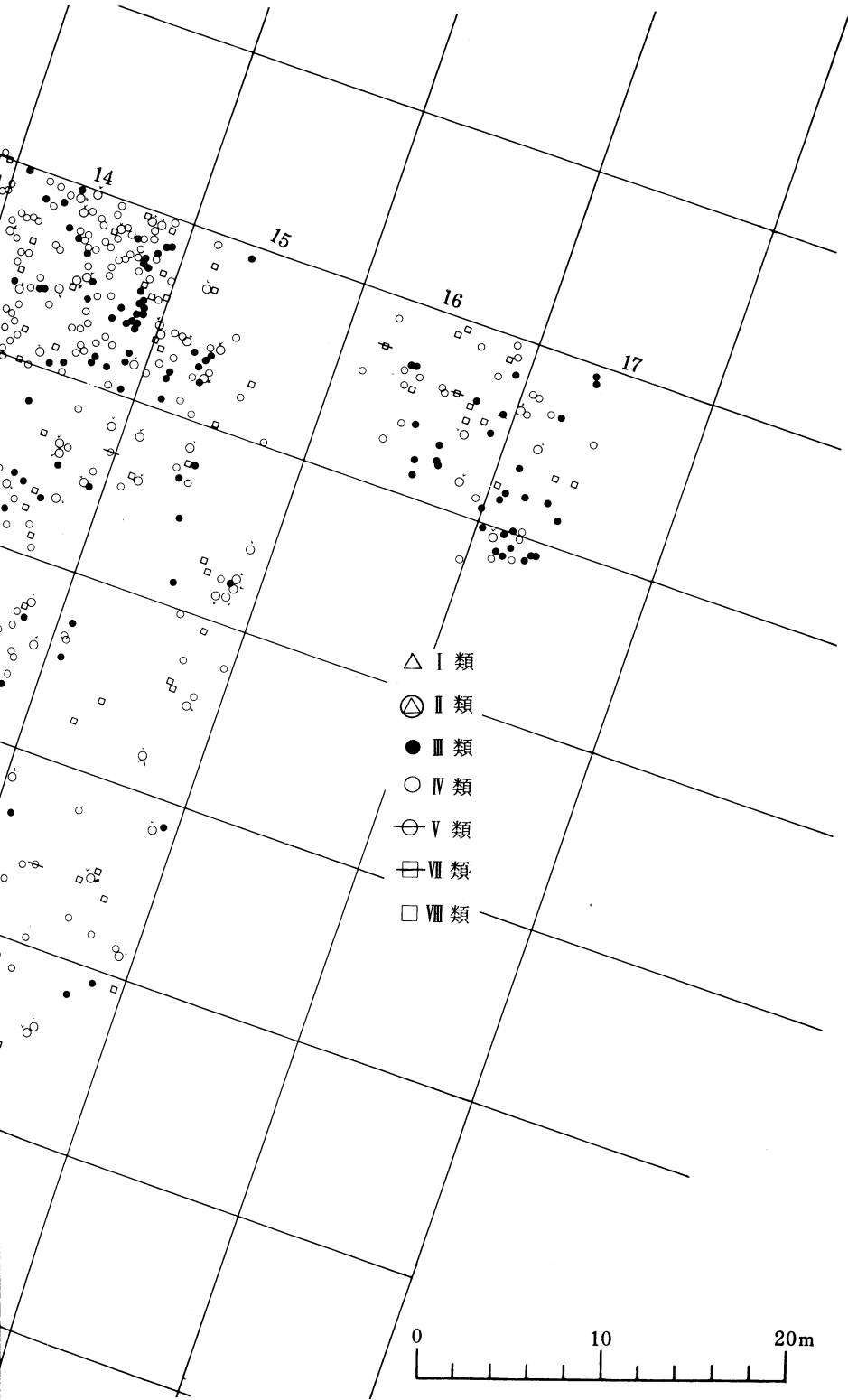
土坑 番号	出土区	主軸の 方 向	㊤ 連 穴 土 坑					㊤ 土 坑				備 考		
			単	重複	A × B	H	a × b	h	単	重複	A × B		H	
㉑	C-13	N-65° E								48				
㉒	G-12	S-82° W		Ⅵ	142×54	58	60×74	38						
㉓	G-12	N-64° W		Ⅶ	126×54	60	54×70	32						石
㉔	G-13	S-65° W		77	? × 54	50	76 × ?	22						石
㉕	F-13	N-14° W	○		126×46	60	40×56	24						
㉖	G-12	N-68° W								Ⅶ	? × 60	?		
㉗	F-13	N-35° W		36	160×62	58	46×46	42						土器
㉘	F-13	N-42° W								○	? × 54	22		
㉙	F-13	N-42° W								38·45	?			
㉚	F-13	N-38° W								37·45	? × 50	26		
㉛	F-13	N-23° W								○	180×62	30		
㉜	F-13	N-6° E								○	?			土器
㉝	F-13	N-25° E	△	43	?									土器 石
㉞	F-13									○	86×116	18		
㉟	F-13	N-48° W		41	? × 46	42		14						土器
㊱	F-13	N-11° W								○	208×156	40		土器
㊲	F-13	N-20° E									? × 50	20		
㊳	F-13										?			
㊴	D-13	N-51° E								○	156×82	30		
㊵	C-13	N-74° E									29			
㊶	D-12	N-7° E									50	?		
㊷	D-12	N-4° E									49	?		
㊸	C-12	N-64° E									20	? × 60	62	
㊹	D-12	N-2° W									49·50		64	
㊺	D-15	N-28° E	○		124×70	68	34×72	38						
㊻	F-11	N-47° W									Ⅷ	180×44	?	
㊼	F-11	N-63° W									54	160×56	?	
㊽	D-15	N-81° W	○		130×76	44	30×66	20						
㊾	G-11	N-24° W								○	146×64	20		
㊿	C-15	N-53° W	○		120×62	64	32×54	30						
①	G-11	N-28° W									Ⅷ·Ⅸ	150×60	?	
②	D-15	N-30° W		Ⅱ	110×?	64	46×?	30						
③	G-12	N-20° E	○		106×56	42	40×42	26						

土坑 番号	出土区	主軸の 方 向	㊤ 連 穴 土 坑						㊤ 土 坑				備 考	
			単	重複	A × B	H	a × b	h	単	重複	A × B	H		
⑥②	F-13	N-66°-W		V	100×66	56	40×30	36						
⑥③	G-12	N-66°-W								VIII	?×48	?		
⑥④	D-11	N-56°-W		65	?×46	64	38×48	42						石
⑥⑤	D-11	N-42°-W	△	64	?×46	60								
⑥⑥	B-14	S-60°-E	○		122×50	50	38×52	28						土器
⑥⑦	B-14	N-13°-E	△		168×44	44								土器 石
⑥⑧	D-11	N-68°-W		69	○									
⑥⑨	D-11	N-23°-W								68				
⑦⑩	C-12	N-76°-E							○		194×76	?	土器	石
⑦⑪	C-12	N-52°-E							○		182×70	?		
⑦⑫											204×64	?		石
⑦⑬	B-13	N-55°-E		XVI	?×54	52	32×42	26						
⑦⑭	D-14													
⑦⑮	G-14	N-67°-W	△	III	190×78	?								
⑦⑯	D-15	?	△	II	?×116	?								焼土
⑦⑰	F-13									32・43	?			
⑦⑱	F-12									5・6	?			





第84図 土器分類による分布状況



## 2節 遺物(土器)

出土した縄文土器には、南九州特有の貝殻文系を主体とした縄文時代早期の円筒土器・角筒土器や前期の曽畑式土器をはじめ条痕文系土器などがあり、10類に類別できた。

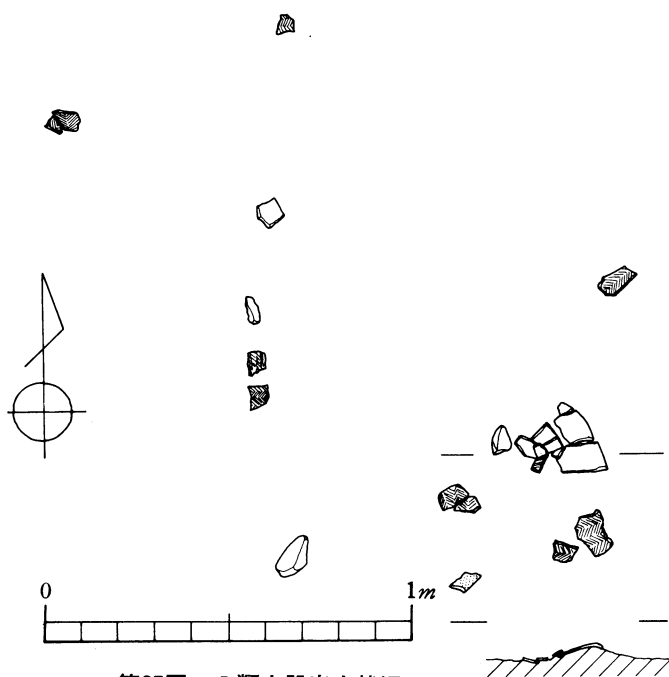
耕作及び中世山城の構築の際に、縄文時代や遺物包含層であるⅢa層・Ⅴa層が部分的に攪乱及び削平を受けており、表層や中世山城の やピット等の遺構内からも縄文式土器の混在がみられた。Ⅴa層出土の土器には円筒土器と角筒土器とがあり、円筒土器は大別して6類に、角筒土器は2類に類別できた。

### A. 円筒土器

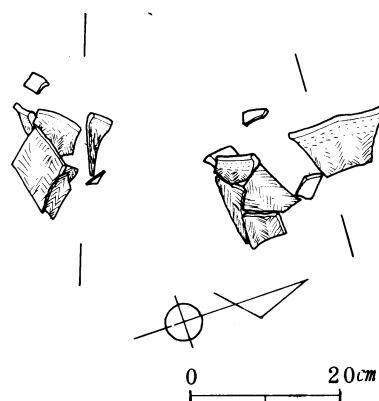
#### (1) I類土器

I類土器は、台地の中央から南にかけて出土したものである。全体的に破片が散布した状態で出土し、まとまりをもった形で出土したのは、F-9区・F-10区・I-9区で3ヶ所あった。F-9区から出土したものは、口縁部から胴部まで、I-9区から出土したものは、口縁部から底部まで復元ができたものである。F-10区から出土したものは、土層観察用の畦にかかって出土したもので、出土層は第Ⅴa層からのものである。他の類の土器との比較は単独出土のために出来なかった。

I類土器は、口縁部における文様の形態により6種類に細分することができた。又、胴部片の条痕の形態は6種類に、底部片では厚さにより2種類に細分することができた。しかし、口縁部片のどの形態のものに、どの形態の胴部片や底部片が接合しているかは、砂片が小さく判断できなかったため、記述の方法を口縁部・胴部・底部の3つに分けて行った。



第85図 I類土器出土状況



第86図 I類土器出土状況



#### I-A類 (第87図1～6, 第88図8～9)

I-A類は、口縁部に貝殻腹縁による連続刺突文を羽状に施すものである。又、これらは羽状文だけのもの(I-A-1類・1)・羽状文に楔状の連点文を施すもの(I-A-2類・2～4)・羽状文に横位の連続文を施すもの(5～9)の3種に細分することができた。

1は、口径が28.1cmの口縁部片である。口縁部には右に開く羽状文を、貝殻腹縁による連続刺突文で施している。口唇部には、左に開く羽状文を、ヘラ状のもので施している。色は茶褐色を呈し、胎土に小礫を含んでいる。焼成は良い。2～4は、口縁部の砂片で同一個体のもと考えられるものである。口縁部には左に開く羽状文を、貝殻腹縁による連続刺突文を施しており、その下位には楔状の連続刺突文をヘラ状のもので施している。口唇部には左に開く羽状文をヘラ状のもので施している。色は内外茶褐色を呈し、胎土に小礫を含んでいる。焼成は良い。5～9は、口縁部片であり、8は口径が19.1cm、9は口径が23.0cmを測る。口縁部は右に開く羽状文を、貝殻腹縁による連続刺突文により施すものである。又、その下位には貝殻腹縁により、横位の連続刺突文を施している。5・6の口唇部には左に開く羽状文をヘラ状のもので施している。色は5～7が茶褐色、8・9が淡茶褐色を呈する。胎土は5～7に小礫を含んでいるが、8・9には細砂粒を含んでいる。焼成は、5～7が良く、8・9はやや悪い。

#### I-B類 (第88, 89図-10, 第90図-11～18, 第91図-19～23)

I-B類は、口縁部に貝殻腹縁による連続刺突文を斜位に施すものである。又、これらは斜位の連続刺突文を1段施すもの(I-B-1類・10～22)・2段施すもの(I-B-2類・23)の2種に細分できた。

10は、口径27.6cmを測るもので底部近くまで復元できたものである。口縁部には、山形の隆起を一對もち、右上りの貝殻腹縁による連続刺突を施している。口唇部にも横位の連続刺突文を一条施している。胴部には、貝殻条痕を綾杉状に施している。色は茶褐色を呈し、胎土には小礫を含んでいる。焼成は良い。内面に一部ススが付着している。11は、口径37.2cmを測る大形のものである。口唇部は、斜位の連続文を施している。胴部の条痕は、綾杉状の中にも縦位の条痕も観察できる。色は茶褐色を呈し、胎土に小礫を多く含む。焼成は良い。12は口径21.1cmのものである。口縁部の連続刺突文はやや立ち上ったものである。色は外面が暗茶褐色、内面は灰茶褐色を呈する。焼成は良い。13～15は同一個体のもと思われる破片である。口唇部に刻みはない。色は赤茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。16は、口唇部に右に開く羽状文をヘラ状のもので施している。色は淡茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。17は、口径200cmを測る。貝殻腹縁による斜位の連続刺突文の間隔がやや広いものである。口唇部に斜位のヘラ状のものによる刻みを施す。外面は灰茶褐色、内面は黒褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成はやや悪い。この破片には補修孔をあけようとした跡がある。18は口径11.0cmの小形のものである。口縁部に施した連続刺突文の施文具の貝殻は他と比べてやや小さいものである。胴部の条痕の幅もやや狭い。19は、口径39.0cmを測る大形の口縁部である。口唇部には、ヘラ状のものによる連続刻み文を施す。器形は、頸部でしまり、胴部でやや脹らむ形を

呈している。色は茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成はやや悪い。20・21は、口縁部の破片である。10～19は、口縁部の貝殻腹縁による斜位の連続刺突文が右上りであるのに対して、20・21は右下りのものであり、同一個体と考えられる。色は茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。22は、口径19.8cmを測る直口のものである。口縁部は、右下りの斜位の連続刺文を施し、胴部には縦位の貝殻条痕文を施す。外面は茶褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成はやや悪く、外面にススが付着している。23は、口径17.2cmを測り、口縁部はゆるやかに外反する。口縁部には、右上りの斜位の貝殻腹縁による連続刺突文を2段施している。胴部には横位の貝殻条痕を施す。外面は淡茶褐色、内面は茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。外面にススが付着している。

#### I-C類 (第92～97図—47～50)

I-C類は、口縁部に貝殻腹縁による波状文や連点文を横位に施すものである。又、これらも横位の波状文のみを2～3条施すもの(24～32)、上位に横位の波状文を2条施し、下位に斜位の波状文・連点文・沈線を施すもの(33～44・47・48)や、縦位の波状文を連続して施すもの(45・46)、2条の横位の連点文を施し、その間に連点による斜格子文を施すもの(49・50)に細分することができた。

24は、口径26.2cmを測るもので、口縁に貝殻腹縁による連続刺突文を6条施している。口縁部はゆるやかに外反する。色は灰茶褐色を呈し、胎土に小礫を含んでいる。焼成はやや悪い。25・26は同一個体と考えられるものである。25は、口径20.0cmを測る。6～7条の連点文を横位に施し、口唇部にはへら状のものによる斜位の刻みを施している。色は灰茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。27も24～26と同様の連点文を有するが、口唇部に刻みをもたない。色・胎土・焼成も同様である。28は、口径28.1cmを測る。口縁部には、貝殻腹縁による横位の波状文を4条施すものである。口唇部には、へら状のものによる刻みを施す。外面は赤茶褐色、内面は茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。29は、口径18.1cmを測る。口縁部には、貝殻腹縁による横位の連点文を3条施し口唇部に刻みをもつ。色は茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。30は、口縁部に一条の連点文を施し、口唇部には貝殻腹縁による刺突文を施している。口唇部は丸味をもって終る。色は赤茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。31は、口縁部に2条の波状文を施し、平坦な口唇部には密に刻みを施している。外面は暗茶褐色を呈し、内面は茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。32は、直口の口縁部で口径21.5cmを測る。口縁部には横位の連点文を2条施し、胴部は貝殻条痕を綾杉状に施す。色は灰褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良いが、砂が多いためか表面は平滑ではなく、剝離した部分もある。33は、口縁が一周した数少ない資料であり、口径21.4cmを測る。口縁部には、低い山形の隆起を一對もつ。口縁部には、横位の波状文を2条施し、その下位に右下りの斜位の波状文を施している。平坦な口唇部には、密に刻みを施す。胴部は、貝殻条痕を綾杉状に施している。器壁の厚さは7mmと他に較べてやや薄い。色は暗茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。34・35は、33と同様の文様構成であるが、斜位の波状文はやや長い。

茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む、焼成はやや悪い。36は口径35.8cmを測る。口縁部は「く」字状に直線的に外反する。口縁部に波状文を横位に4条施し、下位に右上りに斜位の波状文を施す。平坦な口唇部には右に開く羽状の刻みを付している。頸部以下は貝殻条痕を稜杉状に施している。37~39は、同一個体のもと考えられる。37は、口縁部の山形隆起の部分である。口縁部に波状文を横位に3条施し、右上りの斜位の波状文を施すのは36と同じであるが、口唇部は36よりやや丸味をもち、刻みもやや雑な感じである。36~39は、色は赤茶褐色を呈し、胎土に小礫を含むが、内外面丁寧なで仕上げが行なわれている。焼成は良い。40は頸部片であるが36~39と同類のもと考えられるものである。41~42は、口縁部に貝殻腹縁による連点文を横位に2~3条施し、その下位にヘラ状のものによる斜位の連続刺突文を施すものである。42には口唇部に斜位の刻みを施している。40は、外面灰茶褐色、内面茶褐色を呈し、41は外面暗茶褐色、内面淡茶褐色を呈す。両者共に胎土に小礫を含み、焼成は良い。43は、その器形を知る唯一の資料である。口径34.4cm、高さ40.0cm、底部径15.0cm、器厚1.0cm、底部厚1.7cmをそれぞれ測る。器形は、やや厚い平底にやや脹らむ円筒形の胴部をもち、口縁部は外反して、低い山形の隆起を一对もち口唇部は平坦である。口縁部には、上位に貝殻腹縁による刺突連点文を横位に2条施し、その下位に斜位の刺突連点文を連続して施している。胴部には貝殻条痕を稜杉状に施し、底部近くでは横位に施す。底部との境には、ヘラ状のものによる刻みを縦位に施している。内面はヘラ状のものにより丁寧なで仕上げがなされている。色は茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含んでいる。焼成は良い。44は口径25.7cmを測る。口縁部には、上位に貝殻腹縁による連点文を横位に2条施し、その下位に斜位の連点文を密に施している。胴部は貝殻条痕を横位に施している。色は黒褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。45・46は同一個体と考えられるものである。口径23.0cmを測る。口縁部に貝殻腹縁による刺突連点文を横位に4条施し、その下位に貝殻縁によると思われる縦位の刺突文を1条めぐらしている。胴部には貝殻条痕を稜杉状に施している。色は暗茶褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。47・48は口径21~24cmを測るものである。器壁はやや薄手である。口縁部に貝殻腹縁による刺突連点文を横位に2条施し、その下位にヘラ状のものによる斜位の刻みを巡らす。口縁部にも斜位の連続刻み文をヘラ状のもので施す。胴部は横位の貝殻条痕を施し、一部縦位にも施している。器壁は他に較べやや薄い。色は淡茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。49・50は同一個体と考えられるものである。口径19.3cmを測る。やや直口ぎみの形を呈する。口縁部に貝殻腹縁による刺突連点文を横位に2条施し、その間に斜格子状に施している。口唇部にはヘラ状のものによる斜位の刻みを施す。色は暗茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成は良い。

#### I-D類 (第97図-51)

I-D類は、口縁端部と口唇端部に斜位の連続する刻みを施すもので、羽状に施したよう見えるものである。51がI-D類に属し、口径24.1cmを測るもので、胴部にはやや細い貝殻条痕を縦位に施すものである。刻みはヘラ状のものによると思われる。色は茶褐色を呈し、胎土に砂粒を含んでいる。焼成は良い。

### I-E類 (第97図-52・53)

I-E類は、口縁部は直口を呈し、器面には貝殻条痕を横位に施すのみである。口唇部は、舌状を呈する。52・53は黒褐色を呈し、胎土に小礫を含む。焼成は良い。

### I-F類 (第97図-54・55)

I-F類は、口縁部が外反するなどの器形はI-A～C類と同様であるが、無文のものである。54は口径15.9cm、55は16.3cmを測り、小形のものである。色は暗茶褐色を呈し、胎土に小礫を多く含む。焼成は良い。

以上、口縁部片の文様を中心に記述してきた。前述したように、胴部片・底部片については口縁部片のどの類に属するか不明なものが多いため個々について記述していきたい。

### 胴部片 (第98～102図)

胴部片は、貝殻条痕を付す点一致するが、大別すると綾杉状に施すもの(56～73)、横位に施すもの(74～78)、縦位・斜位に施すもの(79～84)、斜位に施すもの(85～86)、横位・斜位・縦位に施すもの(87～94)に分けられる。

これらの破片のうち、口縁部と同一個体と考えられるのは、56が24～26、86が52・53と、89・92が11とであり、他は不明である。57は胴部径20.4cmを測るものである。

95～101は、貝殻条痕のみでなく、貝殻腹縁による刺突連点文や矢印様の連点文を貝殻条痕に重ねたものである。

色は茶褐色を呈するものが大部分であり、一部赤褐色を呈するもの(58・80・90・93・97・100)や黒褐色を呈するもの(86)がある。内・外面にススが付着しているもの(58～60・62・63・70・76・78・79・81・86・87)もある。

胎土は多くが小礫を含んでおり、89では小礫にまじり黒曜石の碎片が観察される。

焼成は良いものが多いが、やや悪いもの(56・61・67・71・80・87・95・99・101)もある。

### 底部片 (第103・104図)

底部は、比較的薄いもの(102～113)と、比較的厚いもの(114～121)に分けられるが、113・115・121はどちらともいえないものもあり、明確な数値上の分類はできない。

底部近くでの貝殻条痕は、胴部がどの形態であっても、多くが横位に施されているが、119・121では斜位の条痕がそのまま底部近くまで施されている。

102は、綾杉状の貝殻条痕に矢印状の連点文を付した破片である。

底部近くの胴部末端部は、ほとんどがへら状のものにより縦位の刻みを巡らしている。

116は、円盤状のもので、円盤状の底部から胴部へ積み上げるという土器の製作過程を知る好資料である。

122は、底部径5.2cmの小形の底部であり、底部近くの縦位の刻みをもたないものである。

色は、茶褐色を呈するものが大部分であり、赤褐色を呈するもの(113・116)もある。胎土は小礫を含むものがほとんどである。焼成は、大部が良いが、やや悪いもの(105・106・111・120)もある。

## Ⅱ類 (123)

123 は、E・F-11区より出土。器形は口縁部が若干外反し、直線的な胴部となる円筒土器である。口径17cm。口唇部は丸味を帯び、器壁は厚い。口唇部外側に篋によるキザミ目文を有す。口縁部に貝殻腹縁による3条の平行な押圧文を横位に廻す。胴部は貝殻腹縁による押引き文様を器面全体に施している。土器内面は篋によるていねいな横位のナデ整形。色調は暗褐色を呈す。胎土に黒雲母や小礫・長石等を含む。焼成は良好。

## Ⅲ類

Ⅲ類に類別した土器の特徴をあげると次のようになる。器形は口縁部でわずかに外反する。底部径は口縁径よりわずかに小さく、口縁直下から直線的（胴張りが無い）に底部へ移行する円筒形土器となる。器壁は、口縁部から底部まで薄手の均等な厚さをもつ。口唇部は平坦で、キザミ目を施す。文様には口縁部直下に貝殻腹縁を利用して、横位に2～4列の押圧文を廻らす。その下方にクサビ形貼付け凸帯を有するⅢA類や、クサビ形凸帯のないⅢB類がある。胴部文様には貝殻腹縁による押引き文や押圧文、貝殻の背（肋の部分）部を押圧したものなどがある。底部外側には、篋状施文具による縦位のていねいな沈線を施している。器面調整として器内面は篋整形を施しているが、口縁部から口唇部の間は研磨されている。色調は、黒褐色及び褐色を呈す。胎土は粒子が細かく、焼成も極めて良い。以上が共通点といえる。

### ⅢA類 —— クサビ形凸帯を有するもの (124～158)

124 は、器高42.8cm、口縁部径37.5cm、底部径25.3cmの大型深鉢型土器である。器形は口縁部でわずかに外反を呈し、胴部から底部へ直線的に移向する。口唇部は平坦になる。器壁の厚さは土器の大きさに比例して厚く、1～1.5cmを測る。文様には、口唇部に篋によるキザミ目文、口縁直下に貝殻腹縁を横位に2列の平行な押圧文を廻す。その下に幅1cm、長さ1.7cmのクサビ形の凸帯を約1cm間隔で貼り付けている。クサビ形凸帯を貼り付け後、クサビの頂部を篋状施文具によって整形した短かい凹線文の痕跡を見る。結果として文様効果が現われている。又、クサビとクサビの間には貝殻腹縁を縦位に4～5列押圧する貝殻押圧文を施す。胴部から底部全面に平行に10数列に貝殻腹縁による連続押引き文を施す。（図面・写真によると押引き文様は異なった2種類の文様に見えるが、施文具は1個の貝殻で貝の成長過程を示す肋であり、貝の弧状を成す部分ほど肋の間隔は狭いものとなっていることから文様は2種類にみえるものと思われる）。底部側面には篋による縦位のていねいにほぼ等間隔に刻目沈線文が施されている。内面はナデ整形を行っているが、口縁部付近は篋による研磨が行われているようだ。器の内外面に炭火物の付着が部分的に観察される。色調は黄褐色。胎土には長石・石英や小礫を含んでいる。焼成は良好である。

157 は、器高24cm、口縁径18.4cm、底部径9.2cmの円筒土器である。器形は、口縁部でわずかに外反し、直線的に底部へ移向する。口唇部はフラットを呈する。器壁は薄い。文様は、口

縁部直下に貝殻腹縁によって横位に2列の刺突線を施す。その下位に約1cm間隔のクサビ形貼り付け凸帯を施す。貼り付け凸帯を施す前に器面調整時の貝殻条痕文が観察される。クサビの頂部と両端には篋による調整痕を認め、両端は再び貝殻腹縁によって連点文状の文様を施す。胴部以下全面に貝殻腹縁による押し引き文様、外底部にていねいな縦位の沈線文を施している。内部調整は下から上へナデを行ない、口縁部付近は篋による研磨がされている。色調は黒褐色。胎土は粒子が細かい。焼成は強固。

158 は、器高20.5cm(復元計)、口縁径15cm、底部径7.8cmの円筒形土器である。器形は口縁部でわずかに外反を呈す。胴部はわずかに丸味を帯びているがほぼ直線的で、そのまま底部へと続く。口唇部はフラットでキザミ目が施されている。文様は、口唇部直下に2列に貝殻腹縁による刺突線を施す。その下位に長さ7~8mmのクサビ形凸帯を3段に密に施している。クサビの頂部は調整のための凹線を施し、頂部の中心部に刺突文も有す。又、両端は貝殻腹縁によって整形を施し、文様と化している。胴部以下器面全体に刺突文がていねいに施されている。これは、他の土器の手法と異なり、貝殻腹縁を横位に使用し、下から上へと刺突するものである。遺跡内でただ1個の土器文様をもつものである。外底部は縦位の沈線文を施す。内面の口縁部は篋研磨されている。色調は黒色。胎土は粒子が細かい。焼成は強固。

一般的にクサビ形貼り付け凸帯は、小型で短かく長さは1.5cmから3cmのもので整然としていている。124~136のクサビは間隔0.8cm以下と狭い。又、136~152はその間隔も1cm以上に離れている。その間に器面調整の貝殻条痕が顕著に見られる146~151がある。159~156は上段と下段のクサビの組合せが「Y」字形を成す土器片である。胴部文様には、貝殻腹縁による押し引き文125・127や、貝殻の背による押圧文145や貝殻腹縁による押圧文、その他の土器などがある。いずれの土器も口縁部内面は篋研磨されている。130・144・148・149の土器の胎土には、銀雲母が含まれている。

### ⅢB類 —— クサビを有しないもの(159~172)

器形や貝殻腹縁を利用した文様・整形方法はⅢA類と同様である。しかし、全般的に口縁部の外反はⅢA類よりゆるやかで、160・171・172は直口する口縁部である。170は口縁直下に貝殻腹縁を斜めに押圧している。160と170は胎土に銀雲母を含む。159は口縁径22.8cmの円筒土器である。胴部一部と底部は欠損。器形は口縁部でわずかに外反する。口唇部はフラットを呈し、キザミ目文を施す。口縁直下に3列に貝殻腹縁による押圧文を有す。器面全体に貝殻腹縁による押し引き文様をていねいに施している。器内の口唇部より2.5cmは篋研磨されている。色調は明褐色。胎土に小礫を含む。焼成は良好。

### Ⅳ類

出土土器の多数を占める土器群である。Ⅳ類土器をさらにⅣA a類、ⅣA b類、ⅣB類に分類した。ⅣA a類—クサビ形貼り付け凸帯を有し、口縁部は外反する。ⅣA b類—クサビ形貼

り付け凸帯を有し、口縁部は直行する。ⅣB類—クサビ形凸帯を有しない。しかし、このⅣ類土器はいくつかの共通する点が指摘出来る。器形は、口縁部がわずかに外反及び直行するが、胴部は口縁直下から直線的（胴張りが無い）に底部へ移行し、器壁の厚さは口縁部から胴部、底部まで均等な薄手の円筒土器となる。口唇部は平担でキザミ目文を施す。文様は口縁部直下に貝殻腹縁で、横位に3～4列に刺突線を廻らす。胴部には、横位及び斜位の貝殻条痕文を施し、その上から再度、貝殻腹縁の刺突による縦列文と縦位・斜位の組合せによる菱形文様を施す。底部側面は篋状施文具によって縦位の沈線文をていねいに施す。なお、器面の貝殻条痕文は器面調整の痕跡と思われるが、比較的整然と施され文様効果を表現させることを意識していると想定される。器面内部には、底部から胴部へ整形及び調整のための引っかきの痕跡を認め、口縁部から口唇部の数センチメートルの範囲に研磨されている。色調は明・暗褐色を呈し、胎土は粒子が細かく強固で、焼成は良好となる。特徴を認めることができる。

#### ⅣA a 類 — クサビ形凸帯を有し口縁部は外反する。(173～186・190・219)

クサビ形凸帯について、クサビとクサビの間隔はⅢ類のものより広く、その間に、貝殻刺突線文を施している。

173 は、口縁部でわずかに外反を呈し、直線的な胴部となるが底部は欠損する円筒土器である。器壁は口縁部から胴部、底部付近までわずか4mmの均等で薄い。口縁部径13cmを測る。口唇部は平担でキザミ目文を施す。口縁部直下には横位3列に貝殻刺突線を廻らす。器面全体に貝殻条痕を斜位に施し、その後、貝殻腹縁による刺突を垂直に等間隔で施し、3段に2cm間隔で、長さ2cmの細いクサビ形凸帯を施している。このクサビは頂部と両端を篋で整形する。しかもクサビの両端は櫛状施文具によって連点文様が施されている。器面内部は篋研磨されている。色調は暗褐色、胎土は粒子が細かく、焼成はきわめて良好である。

174～186は、173と同様な器形・文様である。胴部に施文される貝殻腹縁による押圧文には垂直で平行な文様174と菱形文を構成する174～186、190がある。

#### ⅣA b 類 — クサビ形凸帯を有し、口縁部は直行する。(187～189, 191～211)

187 は、口縁径19cmの口縁部が直行する円筒土器である。口唇部はキザミ目文を施す。口縁部直下に横位4段に貝殻刺突線を廻らす。器面全体には斜位に貝殻条痕文が明瞭に施されている。約10cm間隔に3段に凸帯文を貼り付ける。他の土器の凸帯はクサビ形を呈しているが、この土器と188のものは、凸帯を指でつまんだものである。凸帯の両端は、櫛状の施文具で刺突し、連点文様を施している。又、縦位と斜位の刺突線の組合せにより菱形文を描いている。

189 は、口縁径11.4cmの円筒形土器である。口縁部は直行し、胴部は直線的である。口縁部直下のクサビ形凸帯は2段を有し、ていねいなものとなる。クサビをはさんで1対の穿孔を設けられている。内面は底部から胴部までかき上げ手法、口縁部は口唇部までヘラ研磨調整が行われている。又、器面調整及び整形には、貝殻条痕が斜位の188・189・191～195・207～222、

横位の196~200, 無文の201~206がある。器面の貝殻腹縁による刺突線文は、大半が、斜位と縦位の組合せによる菱形文構が構成されている。

#### IVB類 —— クサビ形凸帯が無いもの。(223~240, 248~251)

この類の土器の全て、直行する口縁部となる。口唇部は平坦でキザミ目文が施され、口縁部直下に数条の貝殻刺突線を廻らす。器面の貝殻条痕文は、斜位 223 や横位 239 , 無文 248 などによって代表する土器であり、文様や器面調整などIV A類と同様なものである。254 は大型土器であるが、その他は12.3~20cmまでと小型の円筒土器である。

#### 胴部 (252~265)

IV類土器の胴部であるが、器形など定かでない。文様や器面調整はIV類のものと同様なものであるが、263・264は2列の刺突を単位に1cm間隔で貝殻刺突線を施している。252 は、楕円形の小さい穿孔を施している。

#### 底部 (266~279)

III類・IV類の土器の底部である。平底で外底部に篋状施文具による縦位の沈線文を丁寧に施す。275・276は胴部の押圧文 275 , 押引き文 276 からIII類土器の底部である。272~274はIV類底部である。その他は不明であるが、III・IV類のものであることは確かである。全体で底部総数☆☆個出土する。277・278は、楕円形で対面は円と角を有し、円筒土器と後述する角筒土器の要素をもつ底部である。

#### V類 (280~315)

V a層中より出土する土器で、量的には少ない。口縁部は直行し、胴部は直線的（ふくらみは全くない）に平底の底部となり、底部径は口縁部径よりわずかに小さくなる円筒形土器である。文様は、口唇部と口縁部だけに貝殻状施文具による押圧文を施し、口縁部位に制約される。器外面に横位、縦位に浅い貝殻条痕文が施されるが、292・294・304~309は不鮮明で、313 は横ナデ整形と思われる。又、内側器には、外側の条痕文と同じ施文具の条痕を認めるが、全体の20%の土器には貝殻条痕は観察されない。口唇部内側に陵をもつ280~314と陵がなく鋭利な口唇部となる315 がある。口唇部には貝殻による押圧文を施し、小さな波状口縁となる。器壁はIV類よりは厚く、頑丈である。色調は赤褐色を呈す。胎土は小礫を含む。焼成は良好。

#### 底部 (316~318)

V類の底部は、平底で条痕文のみを認め、IV類底部の篋による凹線文はない。



## Ⅵ類 (319~324)

Ⅵ類土器はⅤa層中より出土する。量は少なくわずかに5点のみである。口縁部は直行し、胴部下位と底部は欠けているが直線的な胴部と思われ円筒土器を想定する。口唇部はフラットを呈し、キザミ目を施す。器外面は、強く深い貝殻条痕文を横・斜位に施す。口縁部直下に3段の下から上への刺突文と胴部に2列の刺突文**325・320・322~324**と、1列の刺突文**321**を等間隔に施している。器内面は下から上へ、口縁部付近は、斜位・横位に篋による強い研磨痕を見る。器壁の厚さは比較的厚く0.8mm前後となる。色調は黒褐色を呈す。胎土は小礫を含む。焼成は硬い。

## B. 角筒土器

Ⅴa層から出土する。四つの面から成り、四隅に陵をもち、口縁部・底部も当然四角形の波状口縁の角筒土器である。口縁部の一辺の長さは、底部の一辺より長く、底部から口縁部へわずかに開く。器壁は薄く均等である。大半の土器が陵（面と面のつぎ目）から割れている。器面の貝殻条痕やクサビ形貼り付け凸帯から2つに類別した。

## Ⅶ類 (325~330)

角筒をのぞけば円筒土器のⅢ類に類似する土器と思われる。**325**と**326**は想定復元図である。**325**は口縁部の一辺が10.5cmで復元高19.6cm。底部は平底で底面と胴部との接点で底面が削離している。口縁部は四隅に陵を有す。口唇部にはキザミ目文を施す。口縁部直下には2段に貝殻刺突線を、口縁部の孤状に添って施す。下位には、長さ1.8cmのクサビ形凸帯を7mm間隔で貼りつけ、頂部と両端は篋で調整した後、貝殻腹縁で刺突し、あたかも連点文を施したような文様となる。胴部には全体に貝殻腹縁によって押し引き文をていねいに施す。又、胴部やクサビ間に貝殻腹縁による縦位と斜位の組合せによって菱形文を形成する文様となる。外底部には縦位に凹線文をきめ細かく施している。器壁は薄く均一な厚さである。**326~328**はクサビ形凸帯文を有す口縁部片である。器面の貝殻文には、押し引き文**325**や貝殻腹縁の連続する刺突線文**329**、貝殻背による押圧文**330**がある。**330**は、外側が陵、内側で弧状を呈す角筒土器である。いずれの土器も口縁部付近で、篋研磨痕を認める。色調は灰褐色を呈す。胎土には小礫を含む。焼成は良好。出土数は少ない。

## Ⅷ類土器

器形の角筒をのぞけば同筒土器Ⅵ類の土器に類似する土器と思われる。この中でクサビ形凸帯を有すものⅧAとクサビ形凸帯の無いⅧBとに分類した。但し、角筒土器は、面と面の接点から割れている破片が多く、完形品はおろか、隣接する面と面がいっしょに出土する例が少なく、**335**の土器は一面にはクサビ形凸帯を有しながらも一面には無いものもある一列があり、4面にクサビ形凸帯があるのか、対面にだけあるのか正確な資料は入手出来なかった。便宜上

2分した。

#### ⅧA類—クサビ形凸帯を有するもの(331~346)

331は一辺が8.8cmの角筒土器である。器壁は薄い。口唇部はフラットでキザミ目文、口縁部は3段に貝殻刺突線文、その下方に平行な縦6列の3段の細かい凸帯を施す。両端2列の凸帯は頂部で斜めの凸帯とを接続させ、下部は「く」の字形に屈折する凸帯を有す。クサビの両端は櫛状施文具によって調整及び文様効果を現わしている。四隅の陵部には貝殻腹縁による刺突文を施す。口縁部は波状となる。器面は斜位の貝殻条痕を施し、クサビ間に菱形に貝殻刺突文を施す。内面は口縁部で篋研磨されている。右側陵部付近に、外側から内側へ穴を穿っている。色調は黒褐色、胎土に小礫含む、焼成は強固。凸帯には、凸帯の頂部を篋調整する333・336・346、その他は、小さい凸帯を貼り付けている。両者ともに凸帯の両端は櫛状施文具によって調整し、文様効果を現わしている。又、クサビ形凸帯の間隔が比較的狭い331~333、341・342と、広い334~337・339・340・343~346と、一本のみの338がある。四隅の陵部には(346の陵部にクサビ形凸帯有り)貝殻腹縁による刺突文を施している。345は角筒土器であるが、四隅の陵が明瞭でなく弧状を呈している。胴部の貝殻条痕は斜位331・334・338や横位332など代表する土器である。

#### ⅧB類—クサビ形凸帯が無いもの(347~361)

ⅧA類とほとんど同じで、クサビ形凸帯を有しないという条件だけである。329は想定復元図である。腹部の貝殻条痕は斜位347~355と横位356~359と無文360・361がある。又、貝殻腹縁による刺突線文は菱形文347・350・351と縦列348・349・352~361がある。

#### 底部(362~369)

角筒土器の底部は、総数72個出土した。369を除き、362~368は1~2.8cmの底が厚いものが多い。362~365・367~369は四隅が角張りほぼ正方形を呈するが、366は陵が明瞭でなく、にぶい弧状を呈している。368の外底部は格子状沈線文様を施し、その他は縦に沈線を丁寧な施文している。

#### Ⅸ類—条痕文土器(370~374)

Ⅸ類土器はⅧa層中より出土する。わずかに5点である。破片のため正確な器形は定かではないが、底部・胴部片から鉢形土器と想定される。器壁は比較的厚い。器外面は丁寧な仕上げ内面はナデの雑なものとなる。器面の文様は櫛あるいは貝殻腹縁の施文具と思われ、数条の凹線を横線又は流れ文状に施文する370~372がある。374は平底である。色調は赤褐色を呈す。胎土に石英粒や小礫を多量に含む。焼成は強固となる。

### X類—曾畑式土器 (375~401)

X類土器の遺物包含層は、Ⅲ層の通称赤ホヤ層より出土する曾畑式土器である。台地中央部のE-11区を中心に90×50mの範囲に散布する。又、中世山城の遺構内や表層からも散発的に検出している。器形は、口縁部が外反するもの、直行するもの、波状を呈するものがあり、胴部は丸味を帯び、丸底の底部となる土器と思われる。文様は、短線を数段施すものや、菱形文を構成する文様と種類は限られ、凹線も浅く、雑な仕上りとなるものがほとんどである。色調は褐色。胎土には滑石は含まれず、焼成は良好。曾畑式土器に伴う遺構は発見されなかった。

375~385は、口縁部片である。

375は復元口径26.5cm。口縁部は若干外反し、胴部でわずかにふくらみを呈す。口唇部は尖がり気味。口縁端部に刺突文と胴部に短線の浅い凹線文を雑に施す。胴部に粘土の継ぎ目痕を観察する。

376は、口縁部が直行する破片である。文様は375と同様。

377は、直行する口縁部。口唇部はフラットで連点文を施す。器外面には短線の凹線文と斜位の沈線文を、内器面には連点文と横位沈線文と据歯文の組合せ文を施す。

378は、復元口径24.6cm。口縁部は若干外反を呈し、胴部は丸味を帯める。口唇部はフラット状で連点文を施す。器外面は横位の短い凹線を4条と縦位の据歯文の組合せ文様。器内面は口縁部に連点文と横位の短い沈線5本を施している。

379は、外反する口縁部である。器外面は、短線と縦線の凹線文の組合せ。器内面は横位の短い凹線文に、2本の縦位の凹線文様を施す。

380は、外反する口縁部で、口唇部は尖がり気味。器外面は、短線と据歯文の組合せ文様、器内面は、連点文や据歯文と短線の凹線文の組合せ文様を施す。

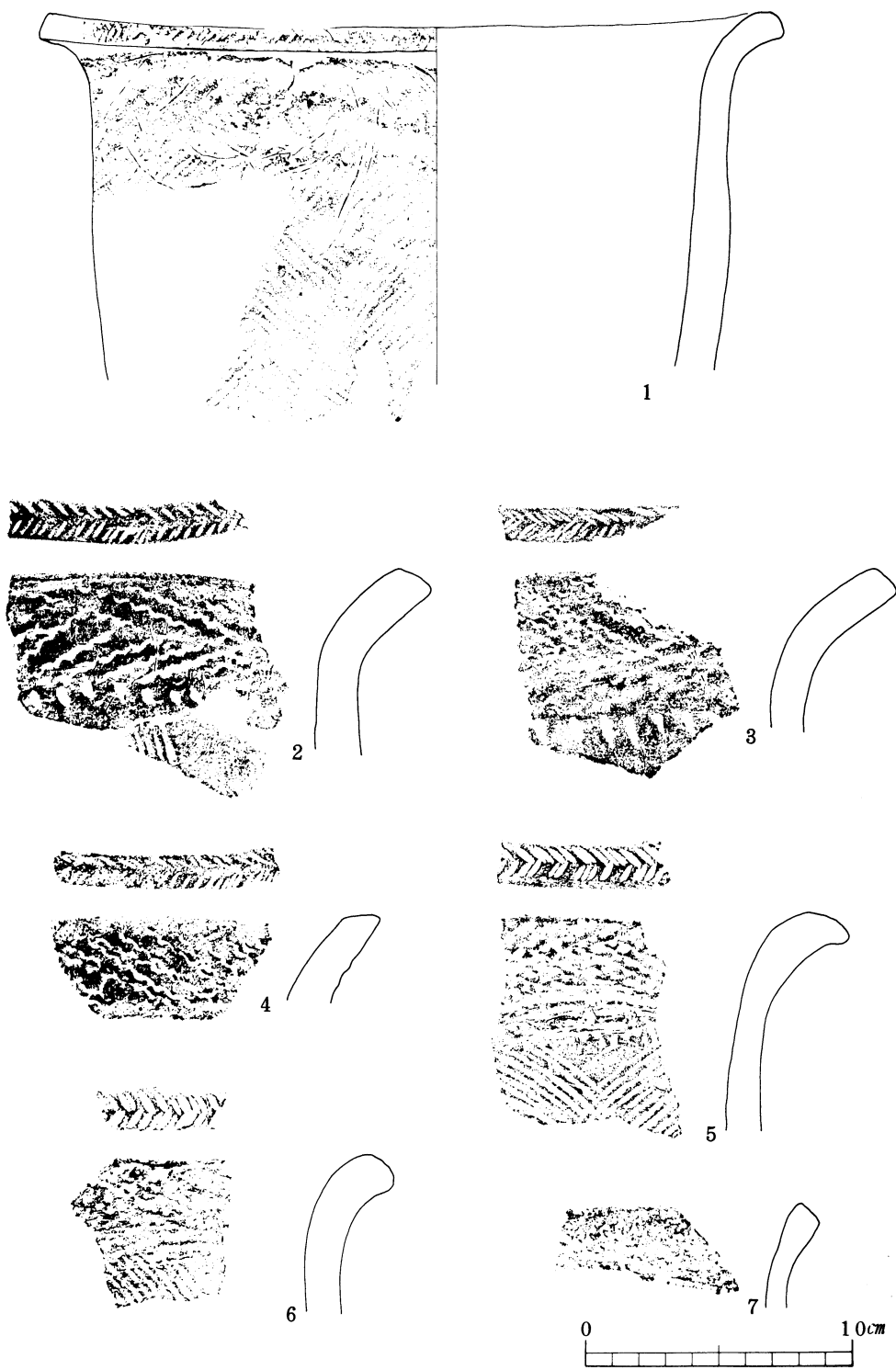
381は、外反する口縁部で端部はさらに外にくびれる。口唇部はフラットを呈す。器外面は横位の短線を数条配し、器内面には、連点文と間隔の広い連点文を施す。

382は、外反する口縁部である。口唇部はフラットで連点文を施す。器外面は雑に横位の凹線文と据歯文の組合せ。器内面は、雑な横位の短い凹線文を施す。

383~385は、波状口縁を呈し外反する。器外面には横位に短い凹線文を数段配し、器内面の口唇部付近には連点文と短い凹線文を数段施文する。

386~497は胴部片である。386~396の文様は縦位・斜位の凹線文の組合せによる菱形文様を構成する。389と397の凹線文は他のものと比較して浅く雑な凹線文となる。396は短い凹線や横位と縦位の凹線文の組合せ文を有す。

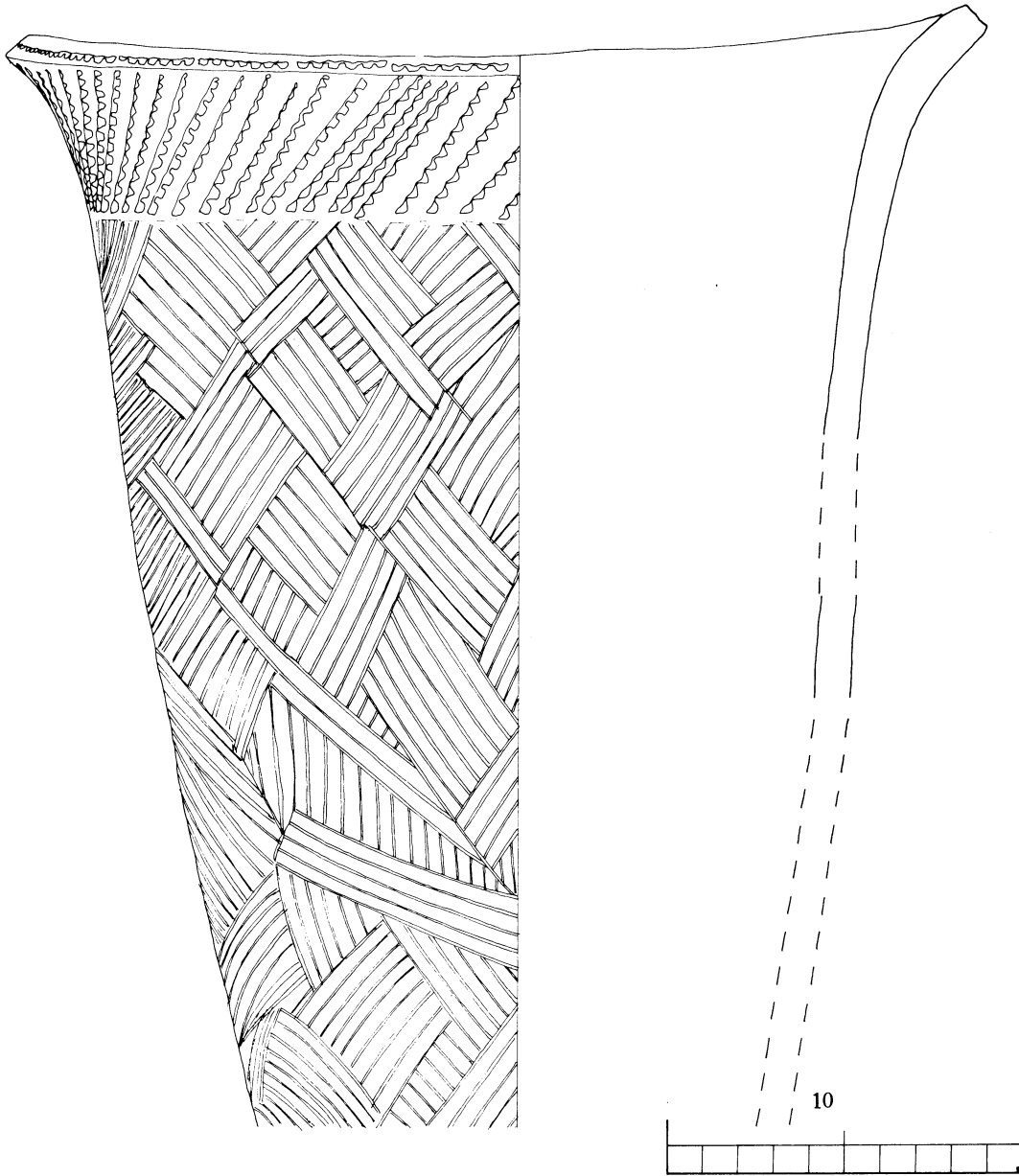
398~401は、底部で丸底となる。文様は「くもの巣」状の文様を呈し、凹線は浅く雑な仕上りとなる。



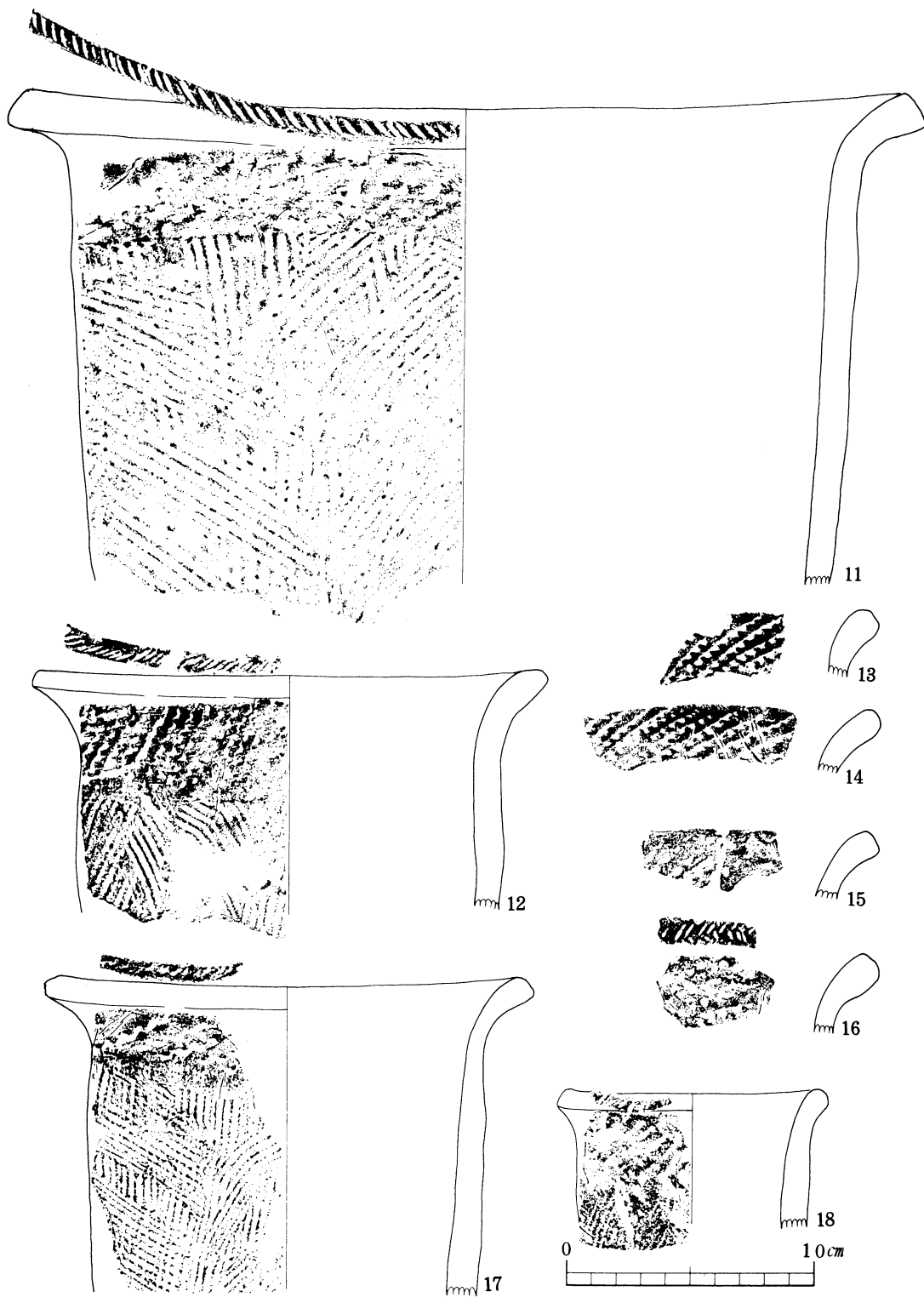
第87图 I類土器実測図(1)



第88図 I類土器実測図(2)



第89図 I類土器実測図(3)

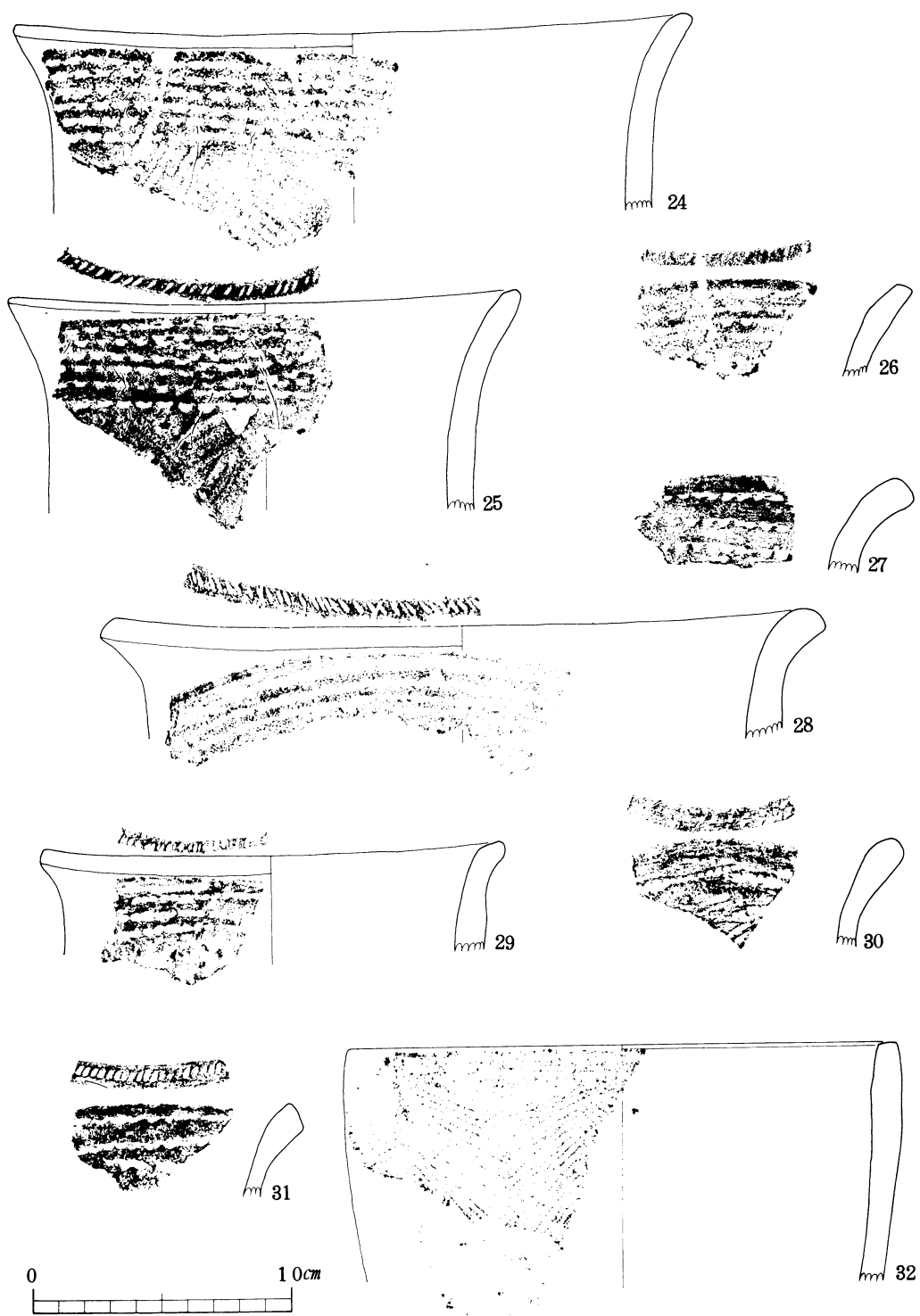


第90图 I類土器実測図(4)

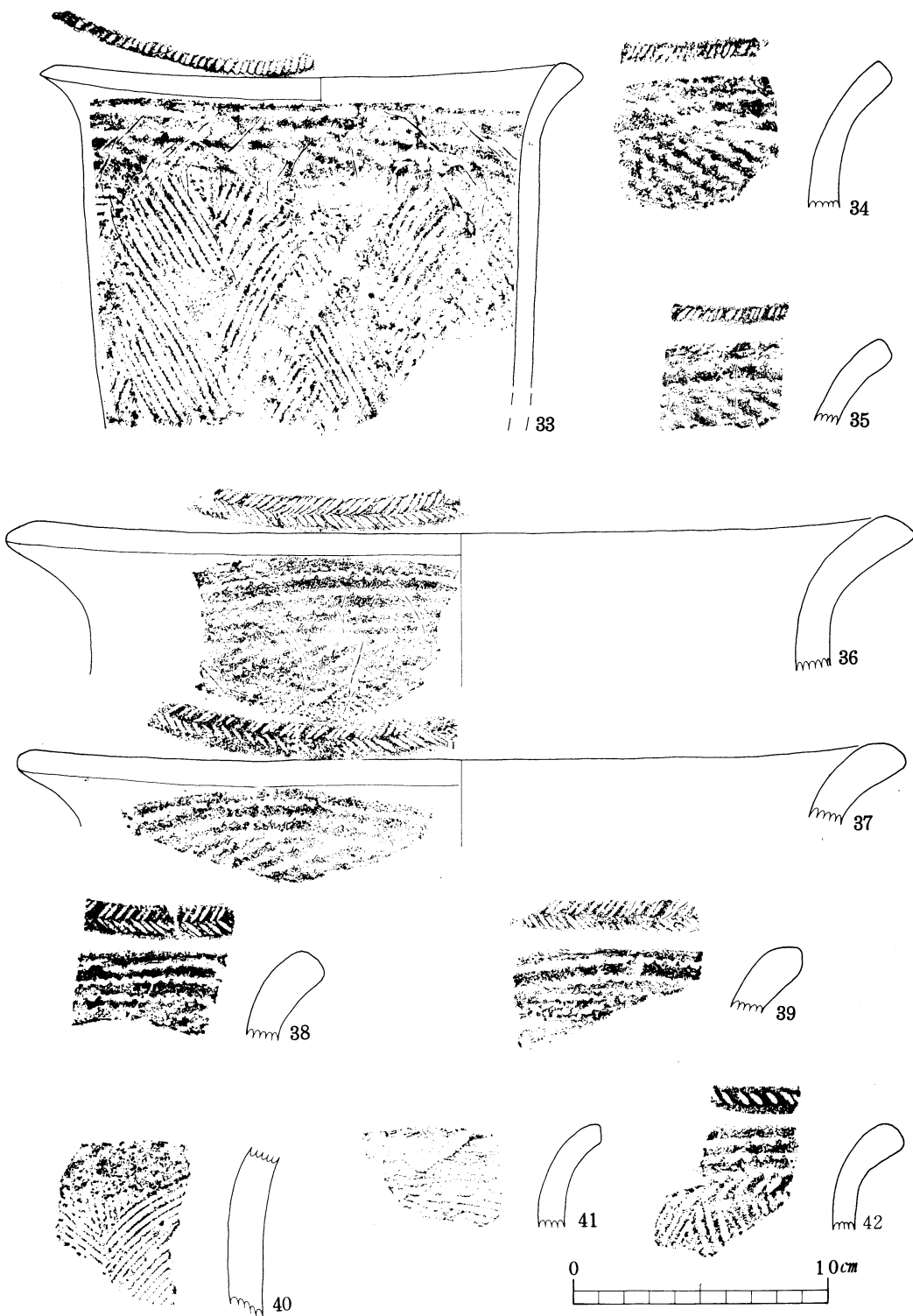


第91図 I類土器実測図(5)

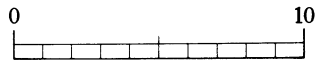
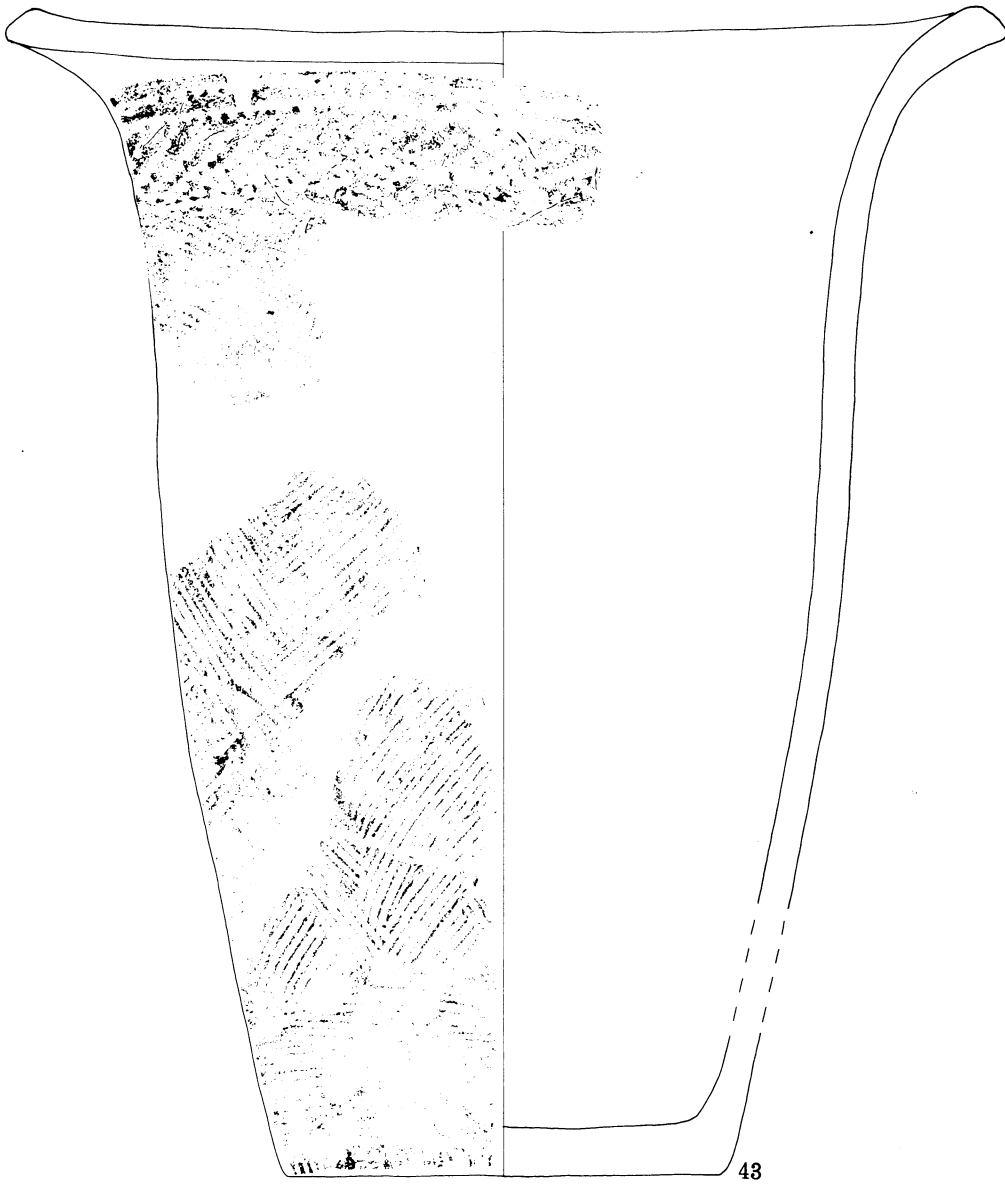




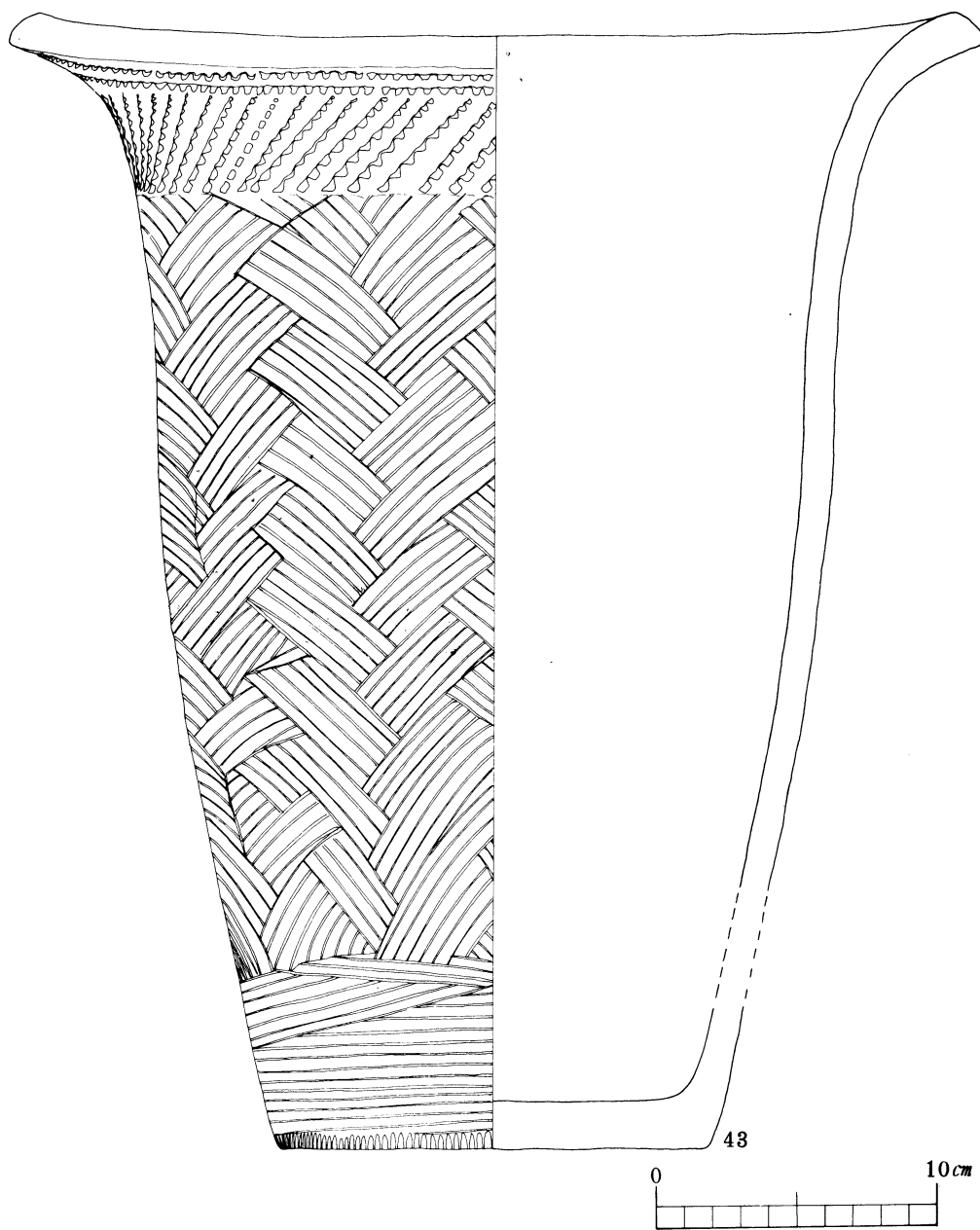
第92図 I類土器実測図(6)



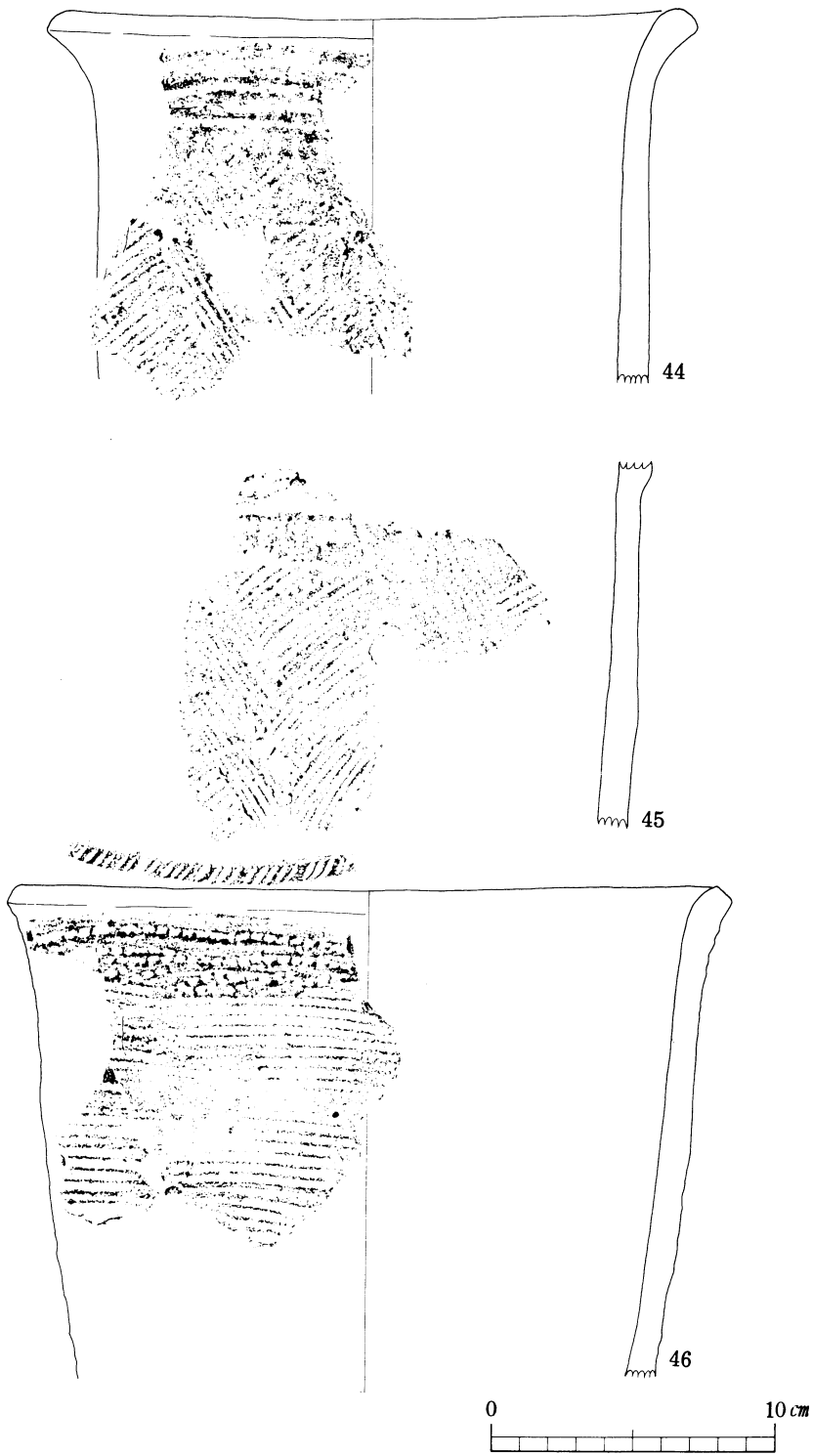
第93图 I 類土器実測图(7)



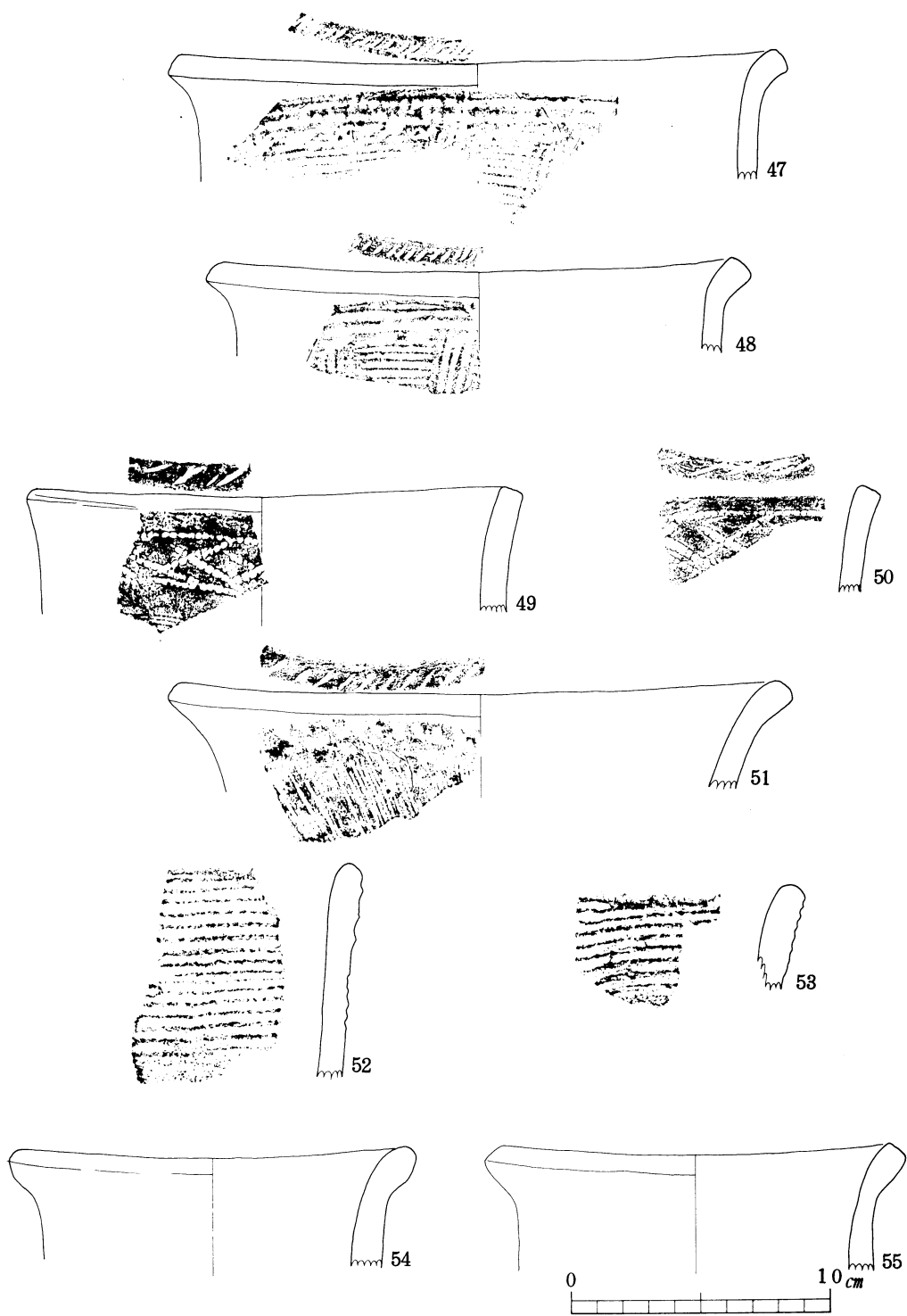
第94図 I 類土器実測図(8)



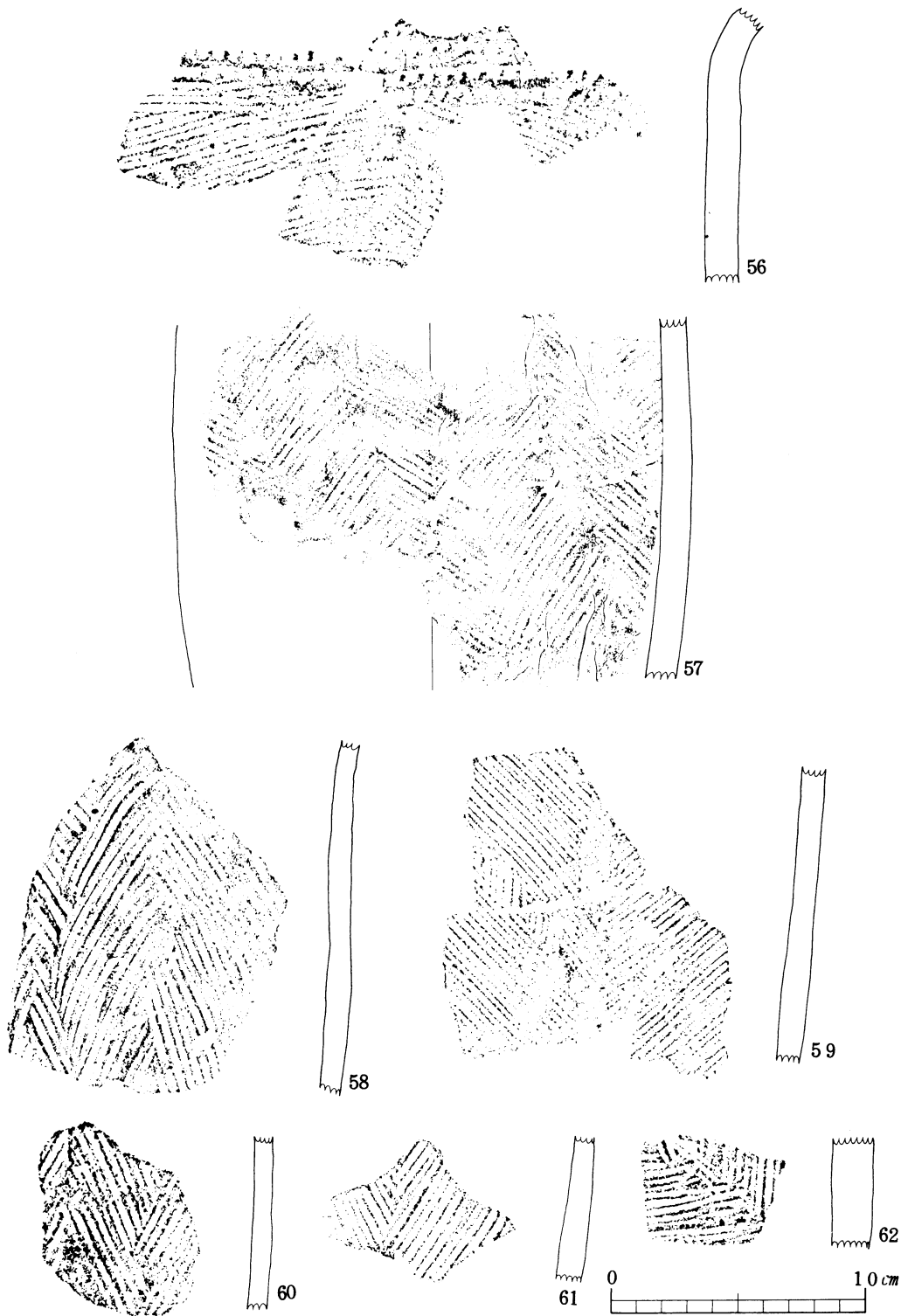
第95図 I類土器実測図(9)



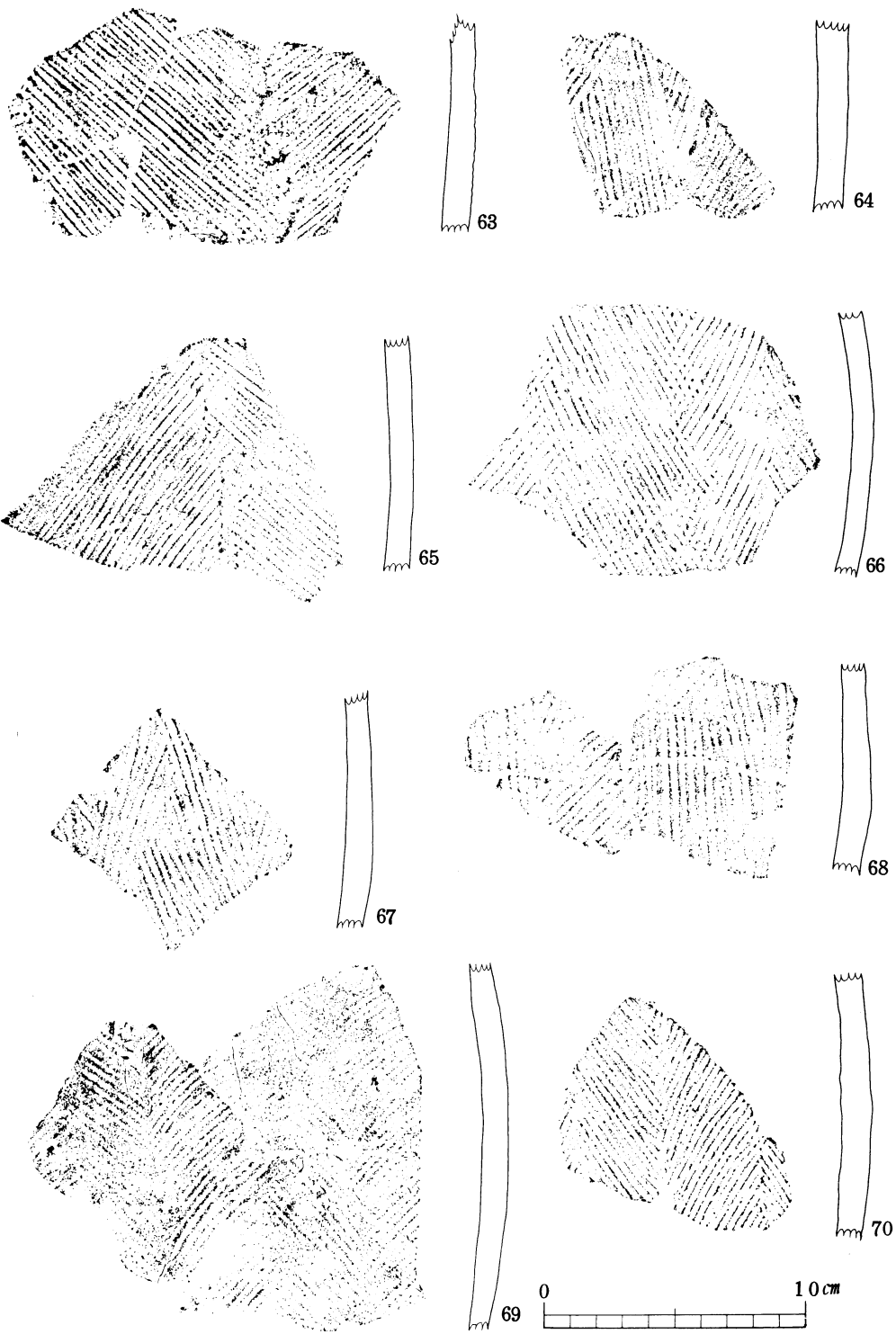
第96図 I類土器実測図(10)



第97図 I類土器実測図(1)



第98图 I 類土器実測図(12)

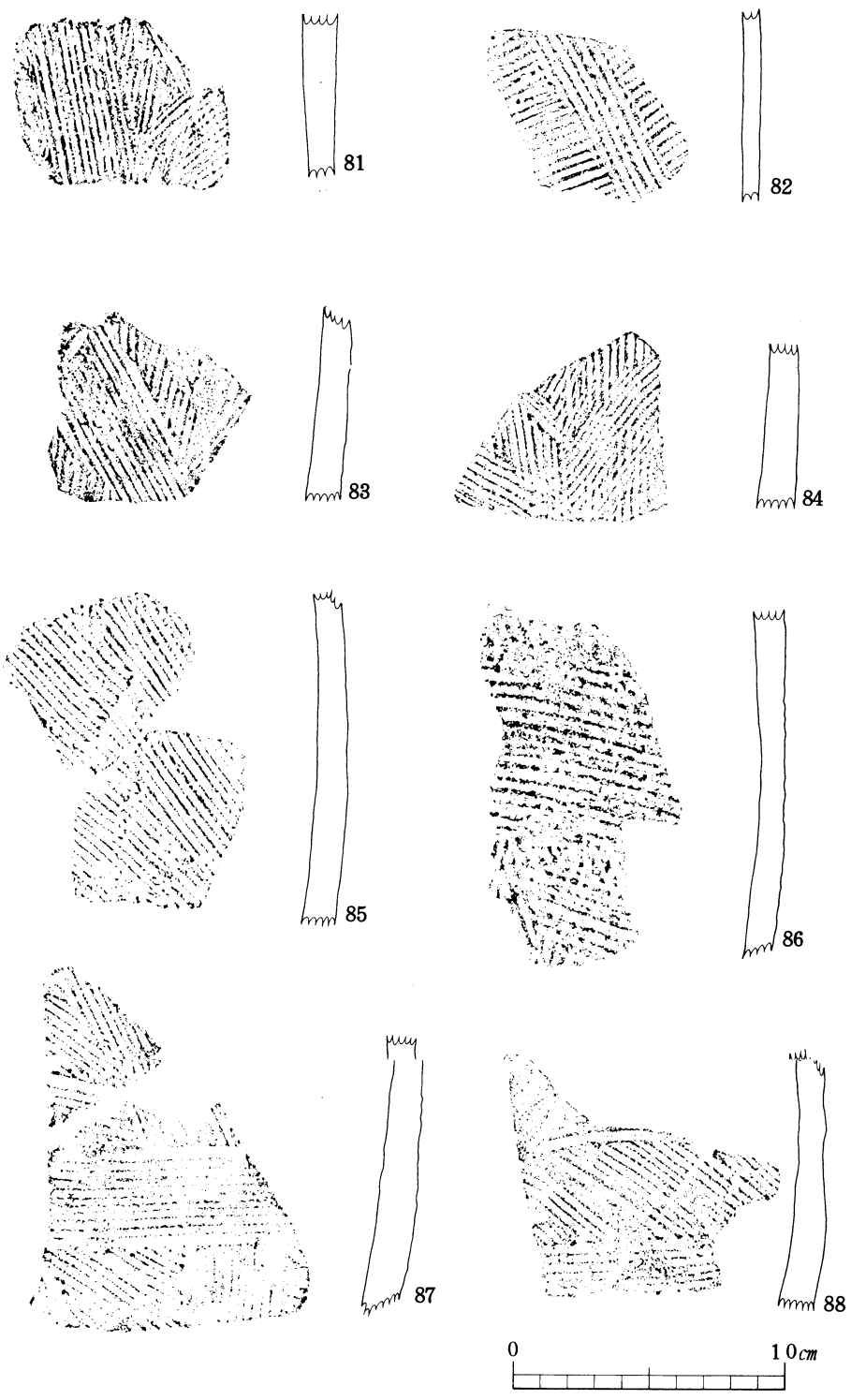


第99图 I類土器実測図(13)

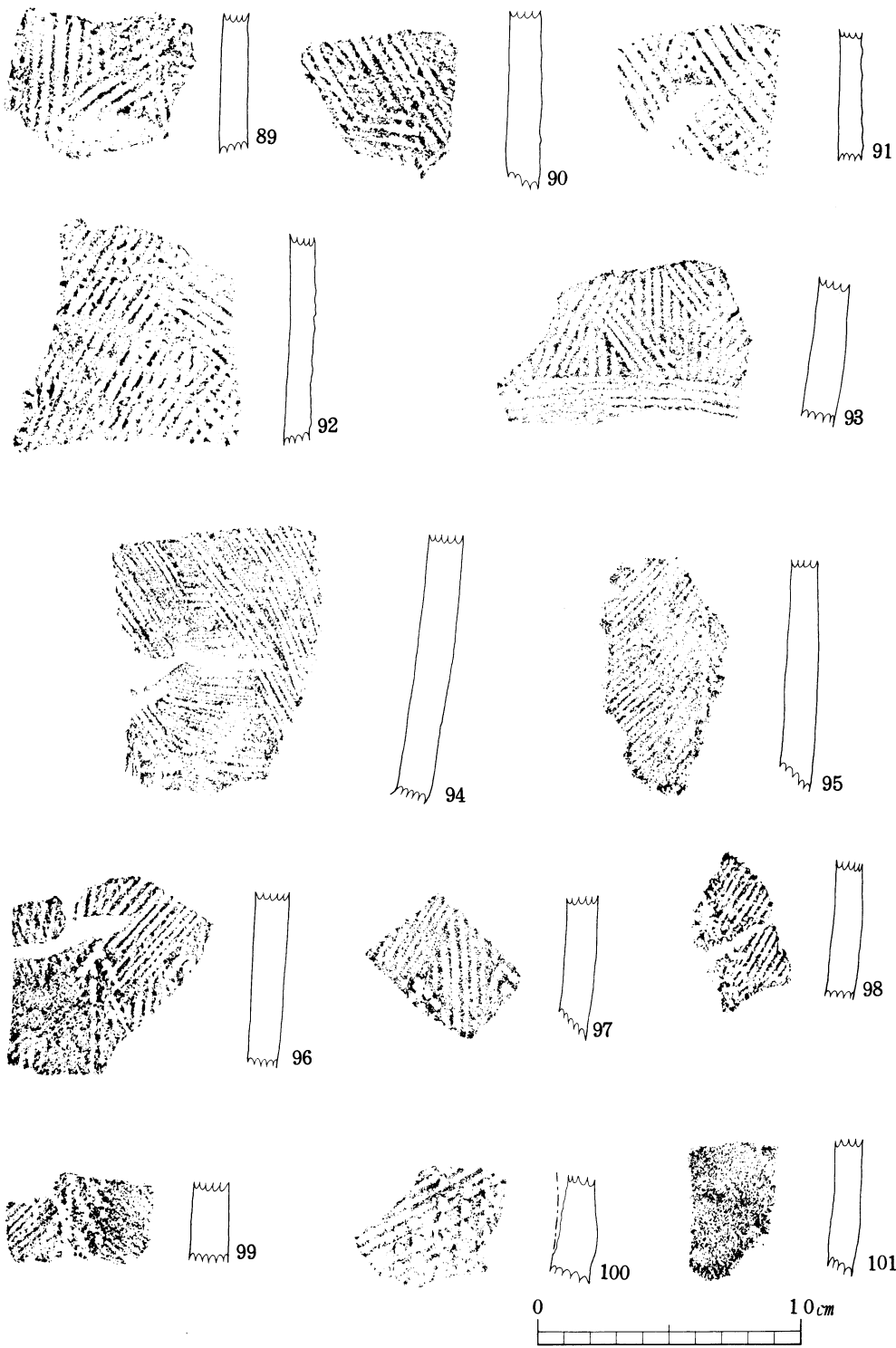




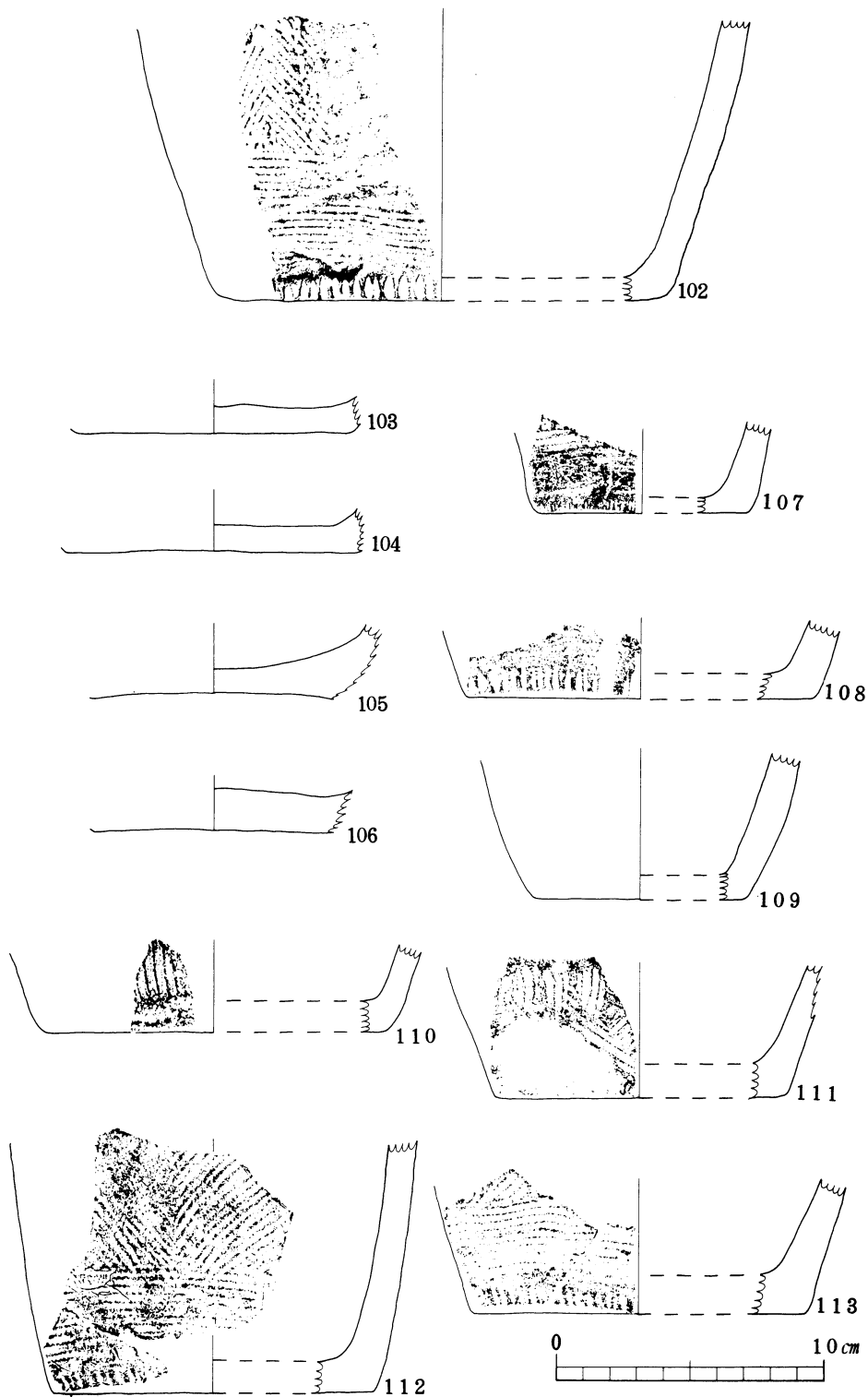
第100图 I 類土器実測図(14)



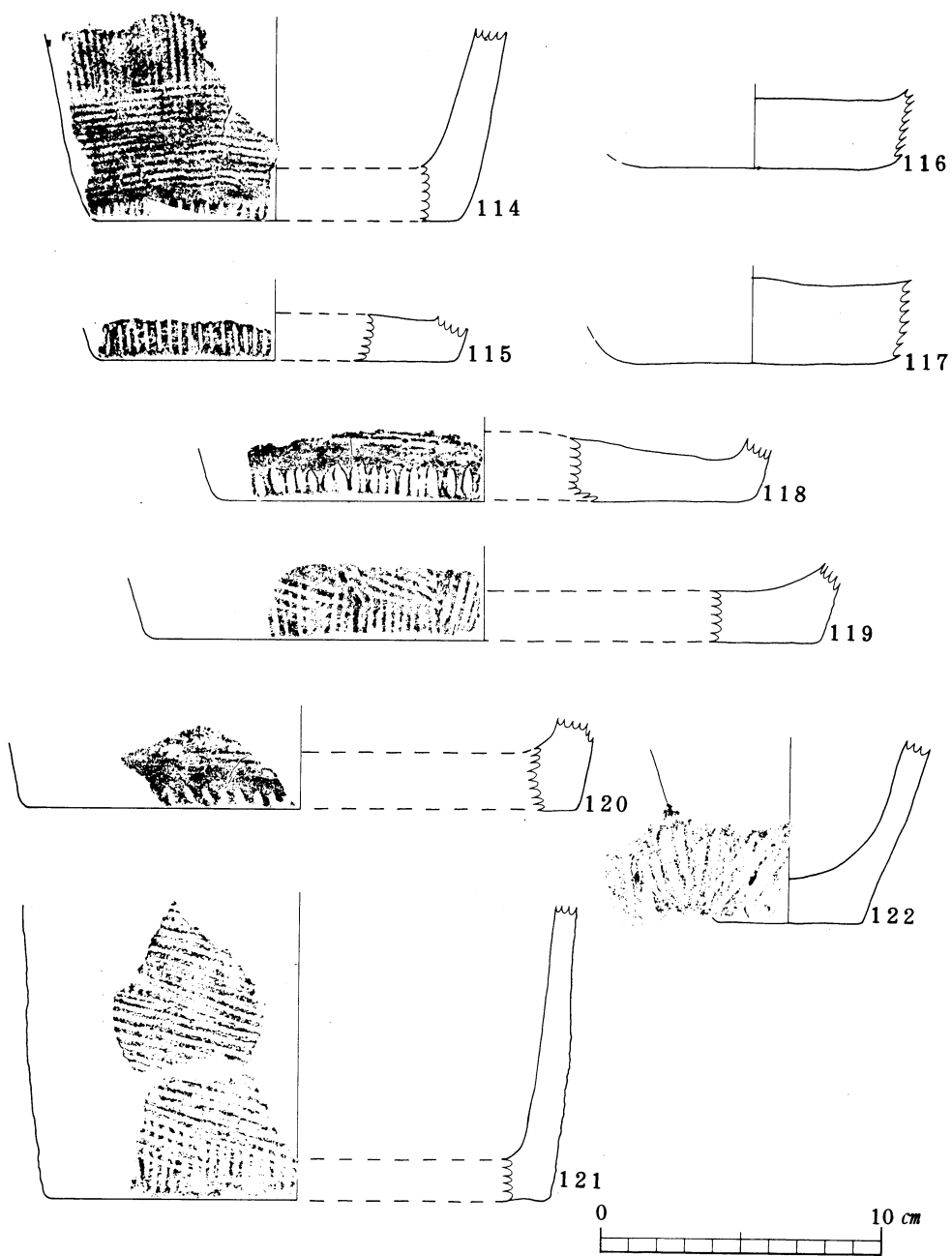
第101图 I 類土器実測图(15)



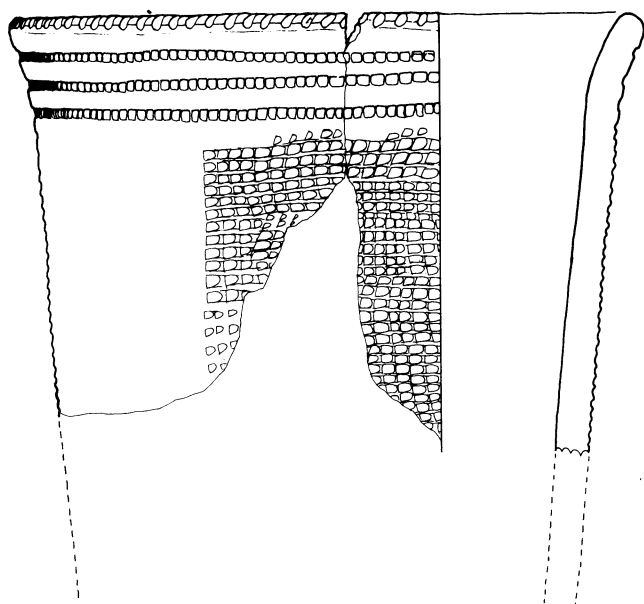
第102图 I 類土器実測図(16)



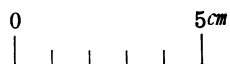
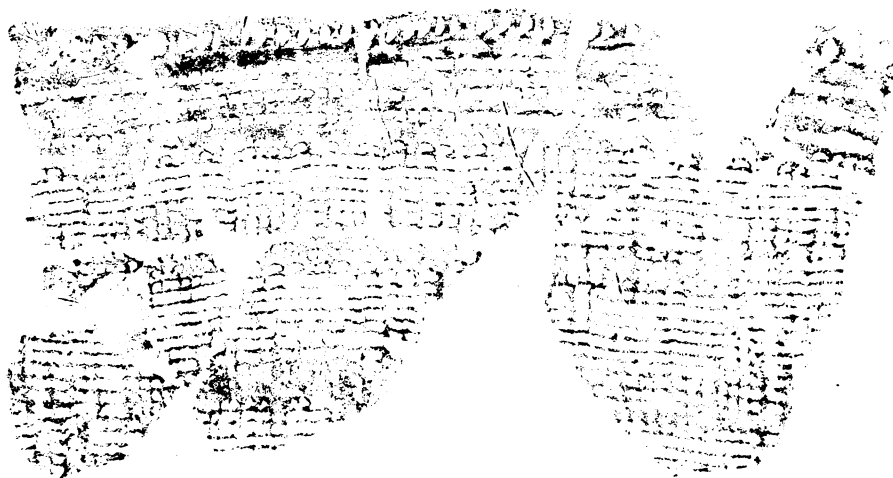
第103图 I 類土器実測图(17)



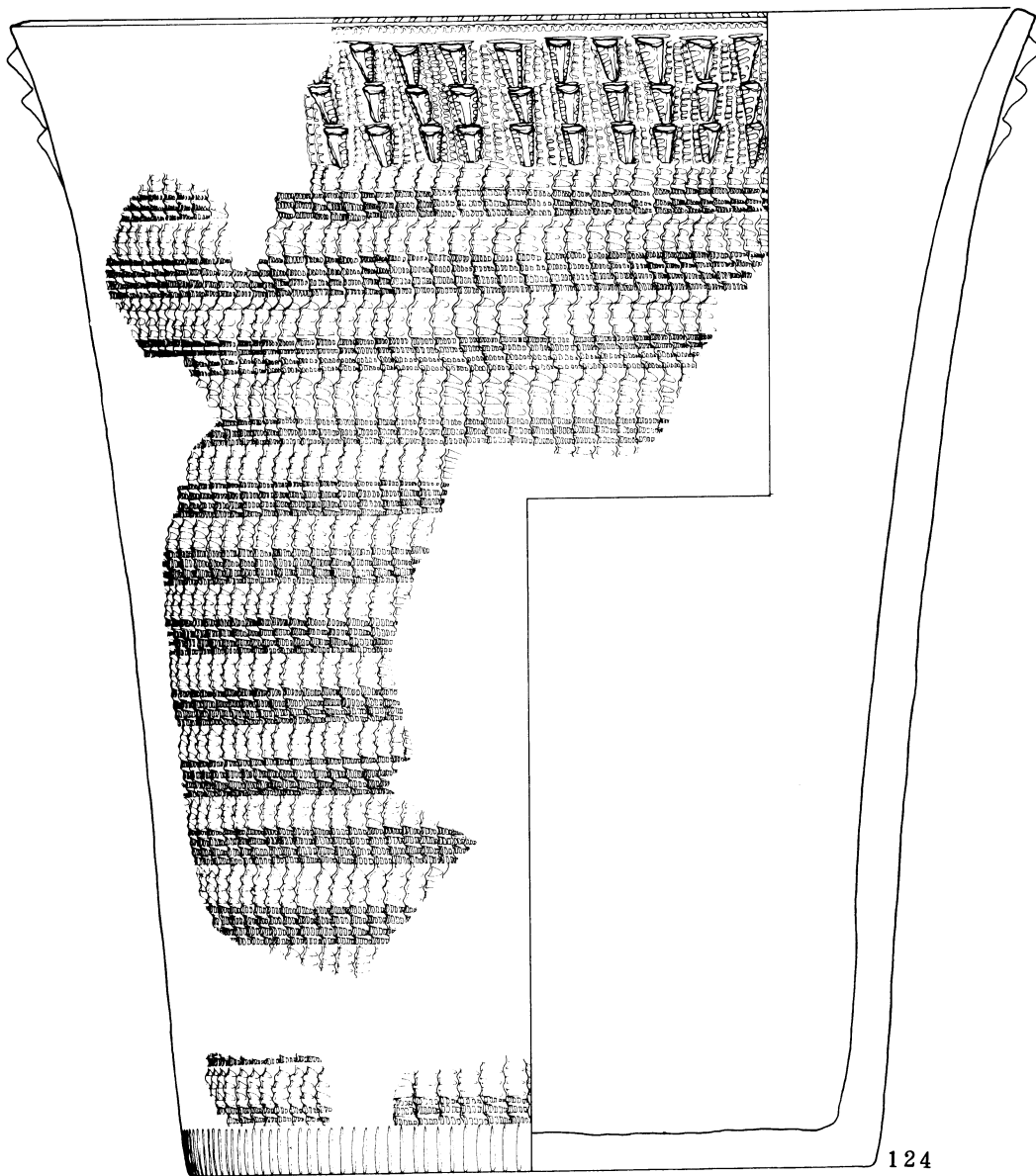
第104图 I類土器実測図(18)



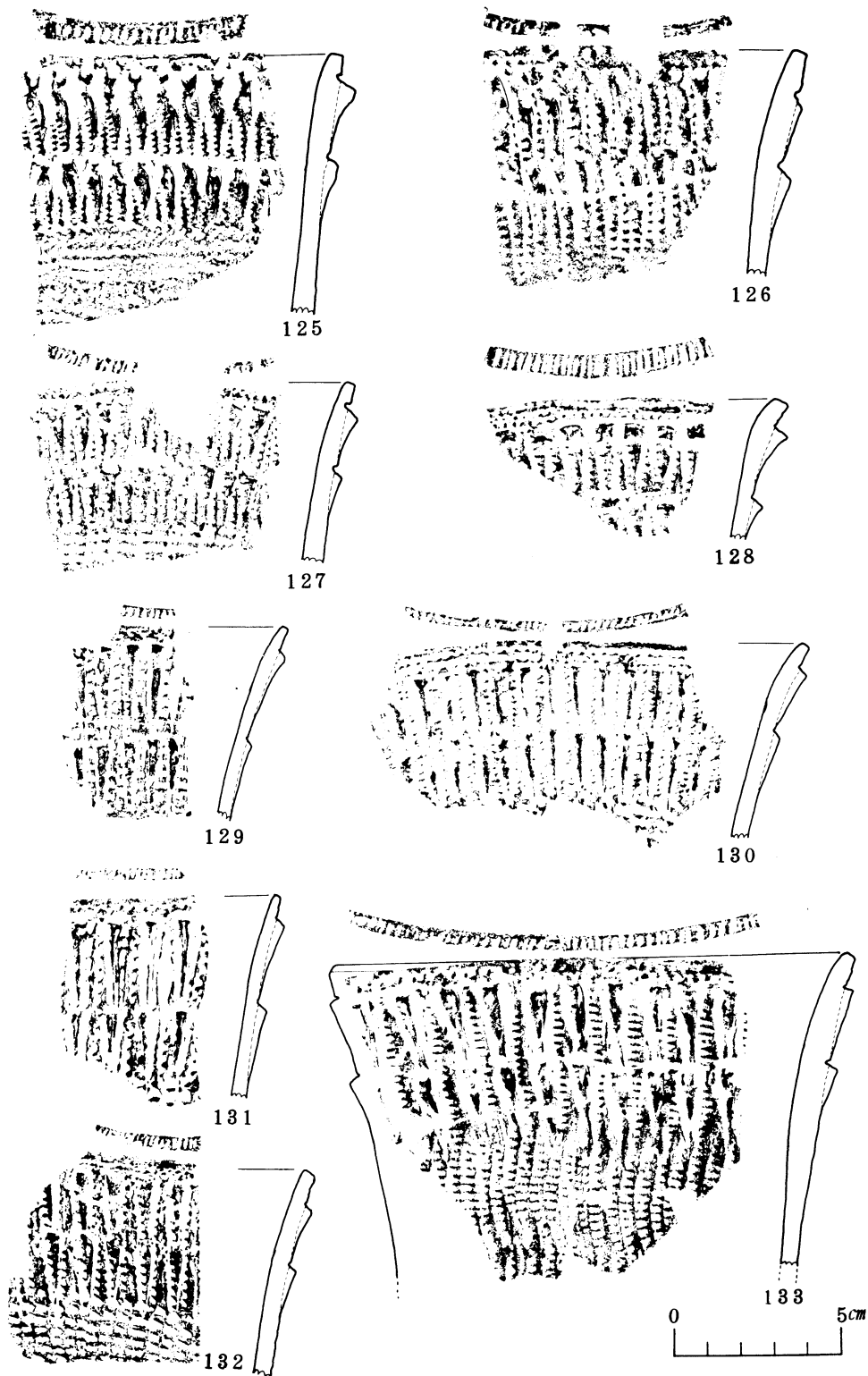
123



第105図 II類土器実測図

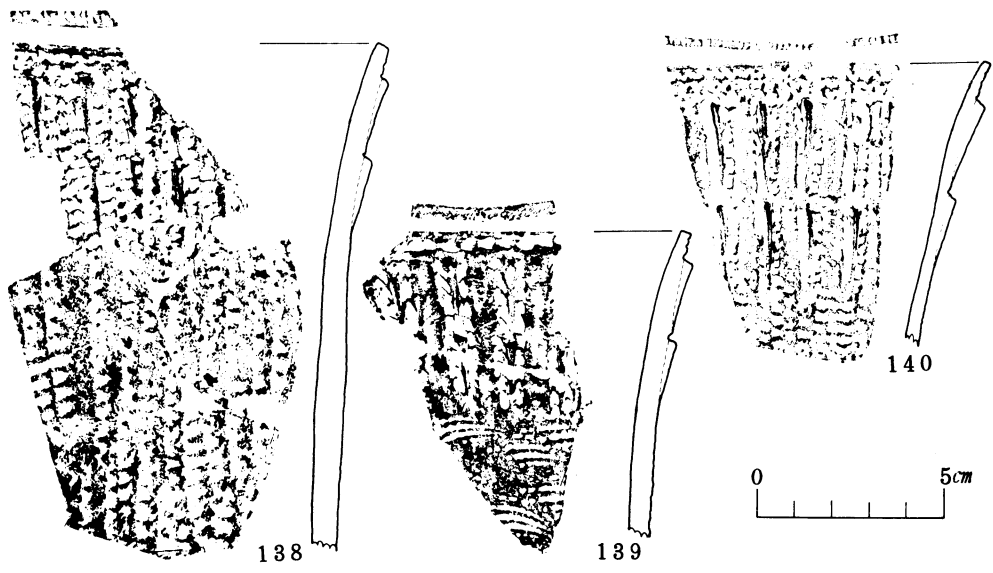
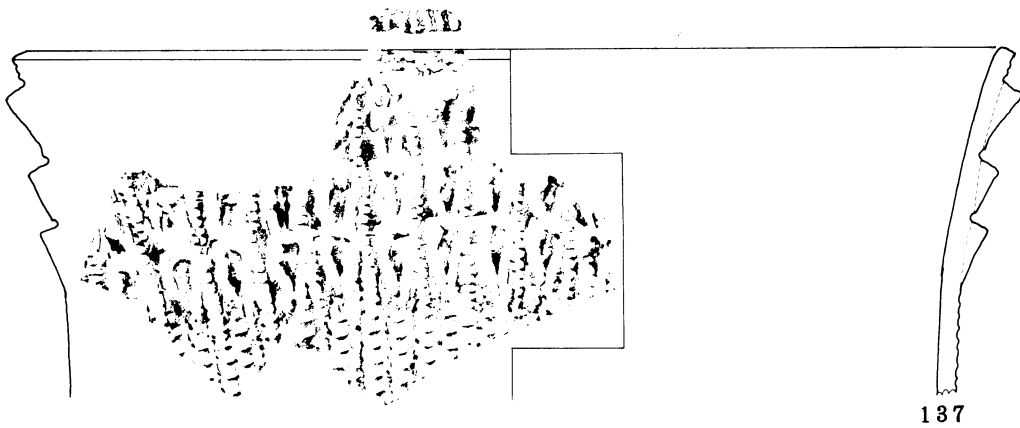
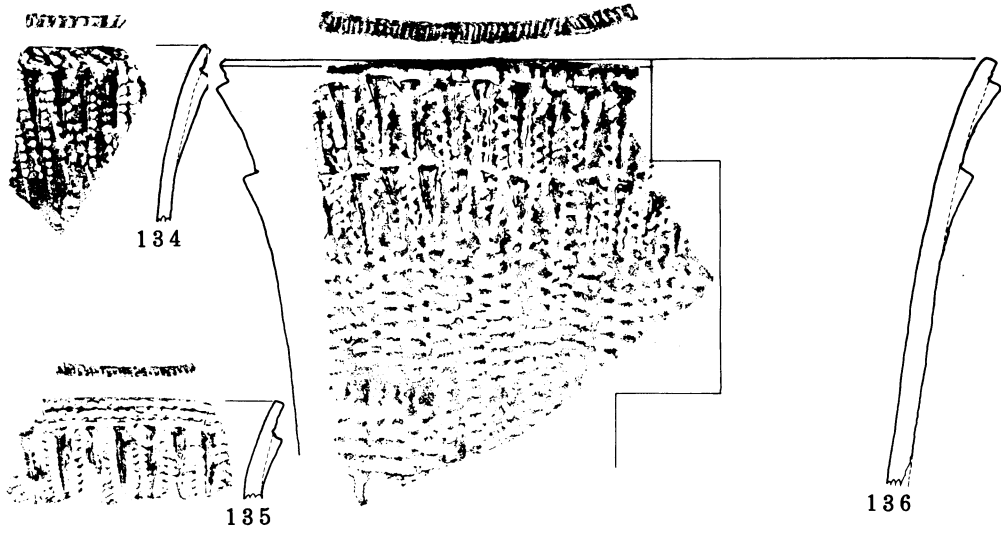


第106图 III A 類土器実測図

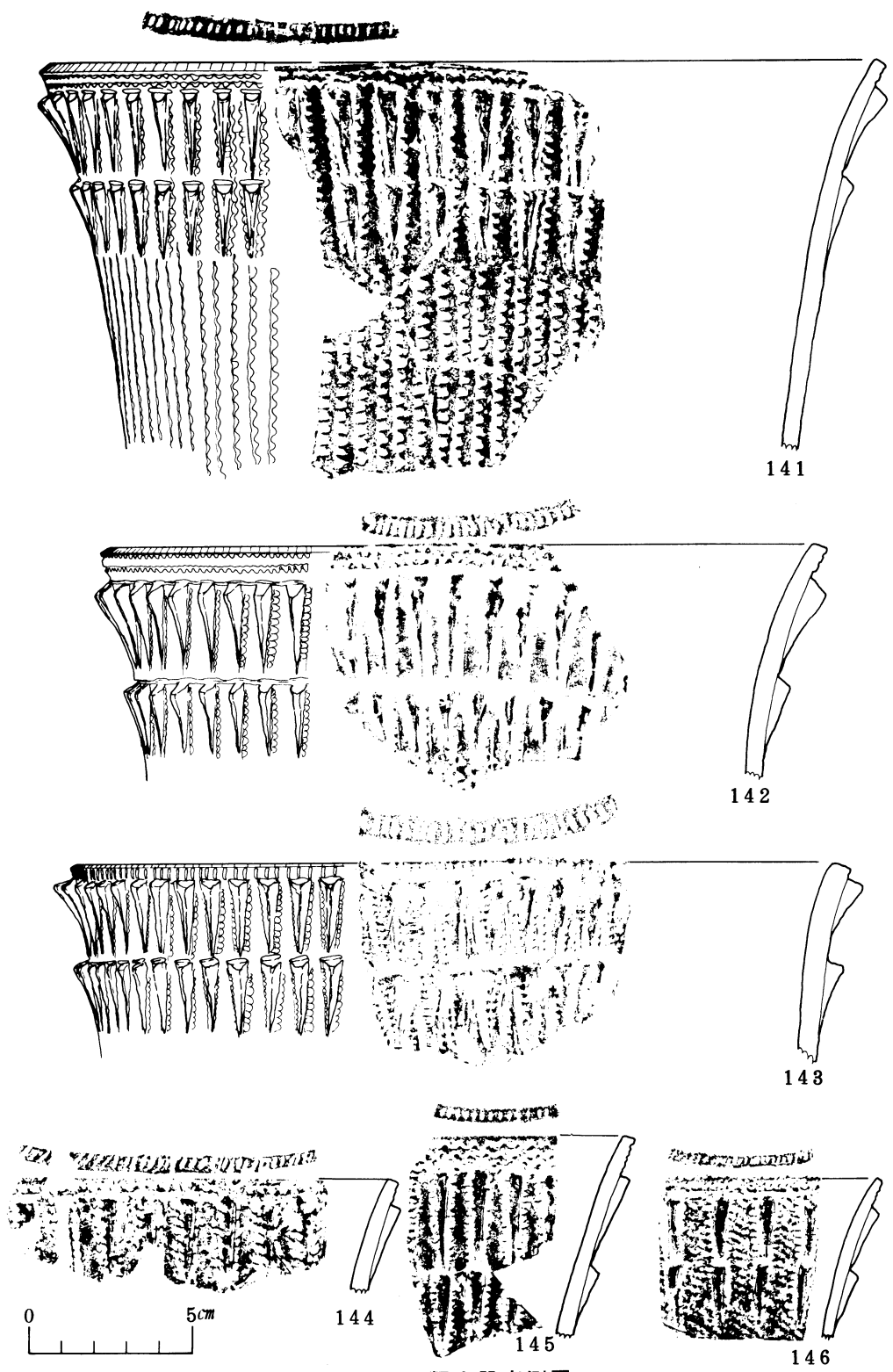


第107图 ⅢA 類土器実測図

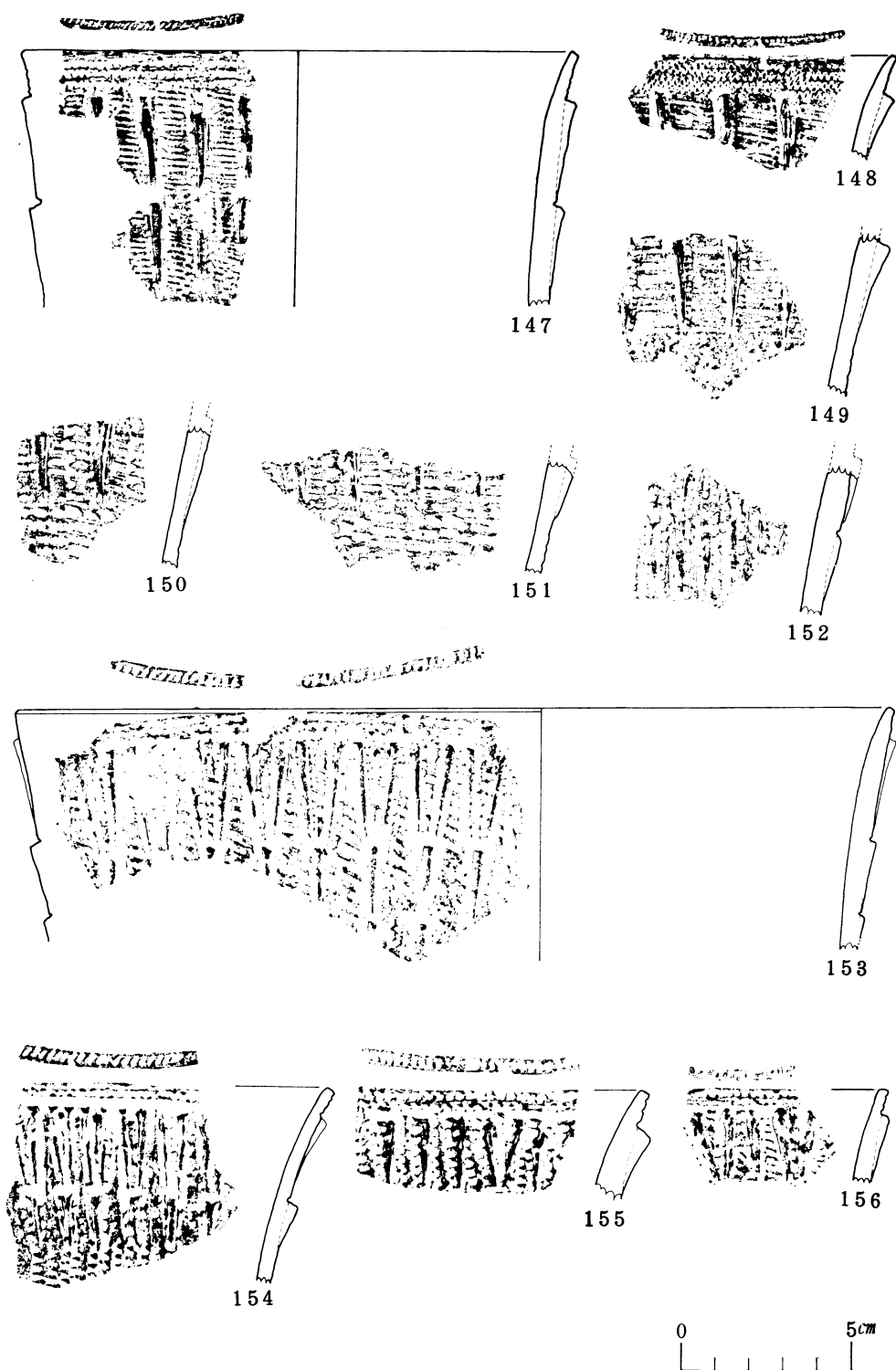




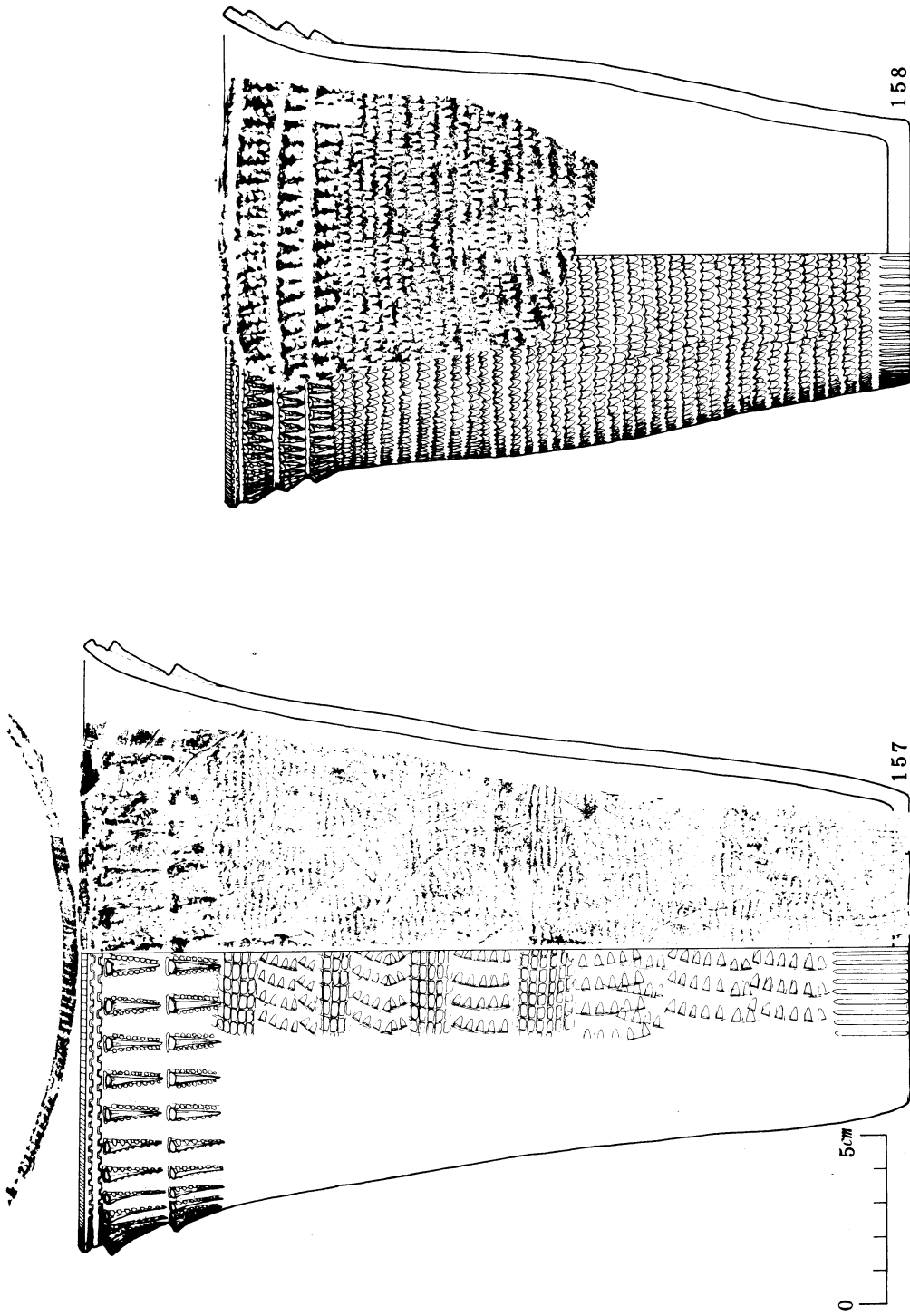
第108图 ⅢA 類土器実測图



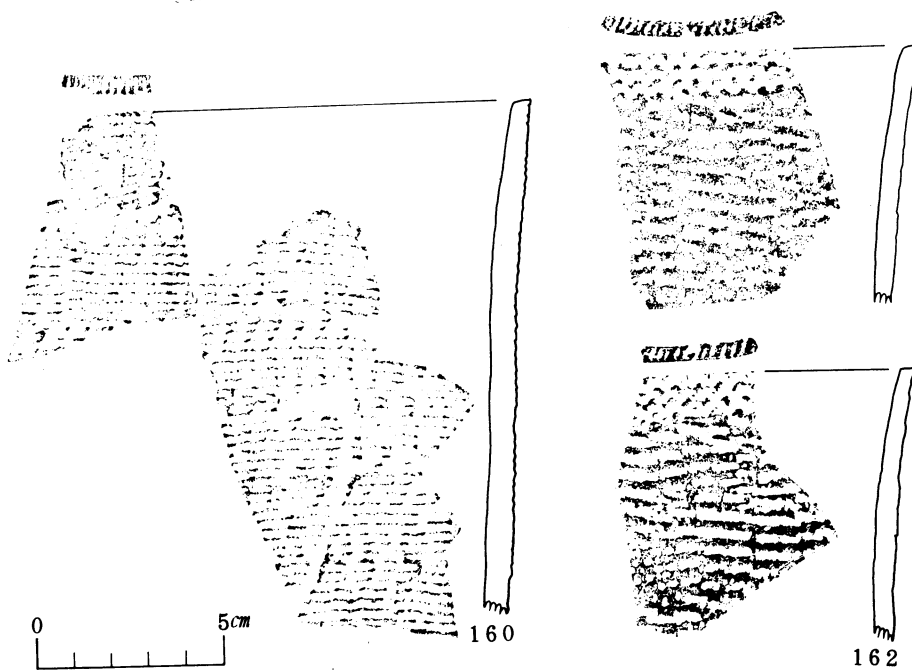
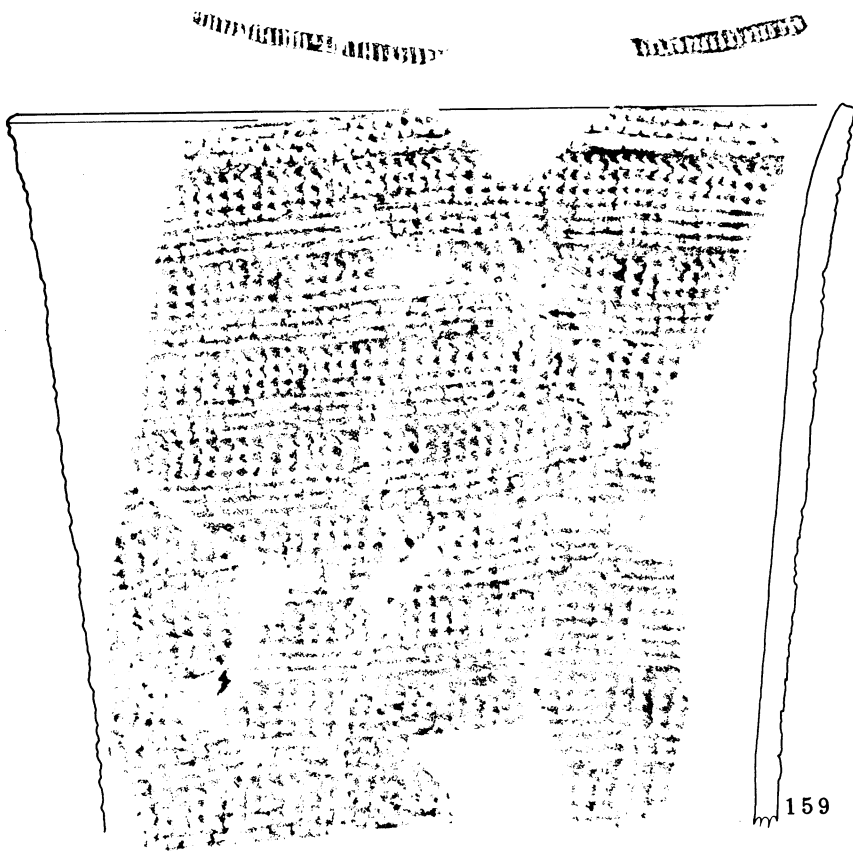
第109图 ⅢA 類土器実測図



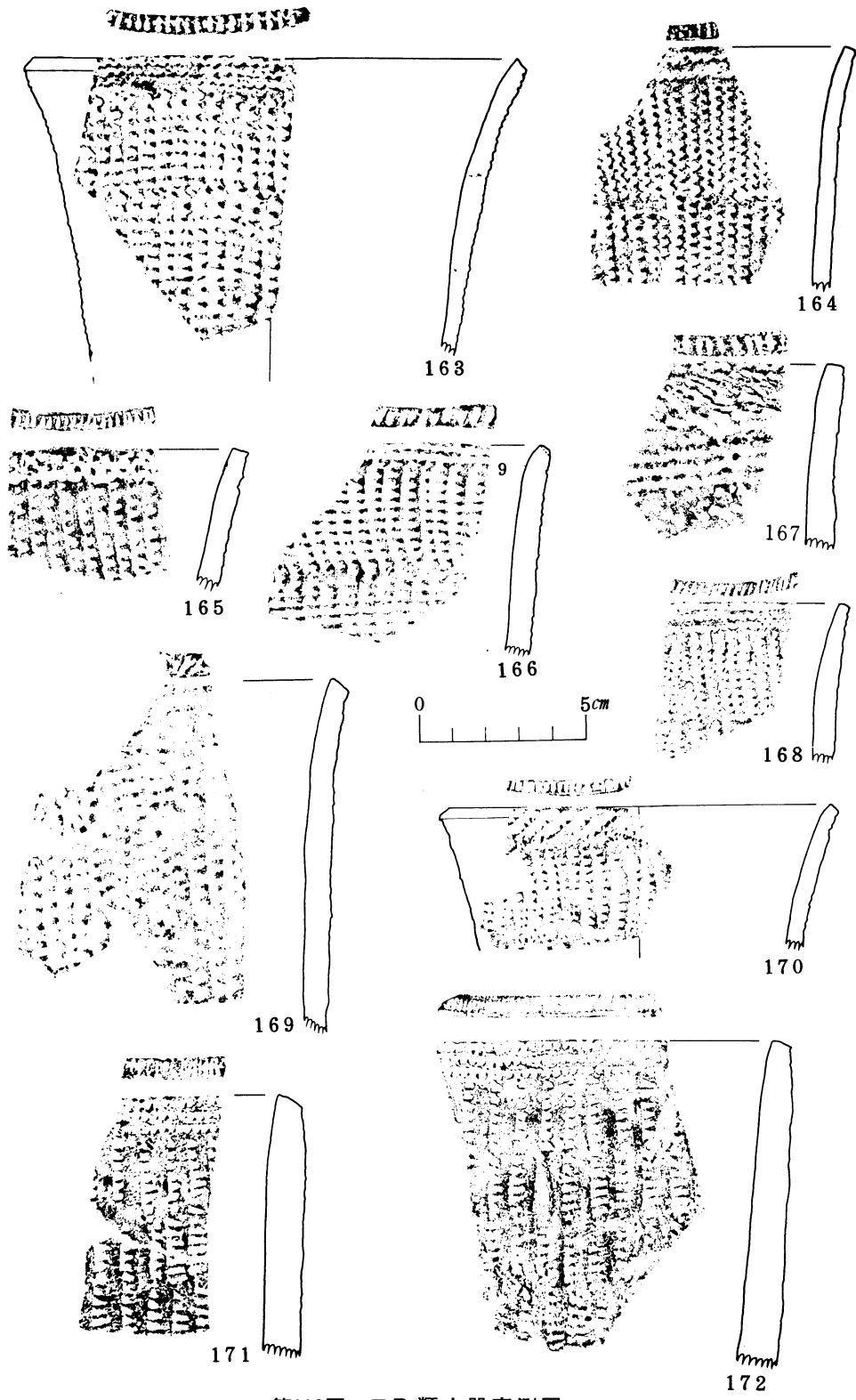
第110図 ⅢA類土器実測図



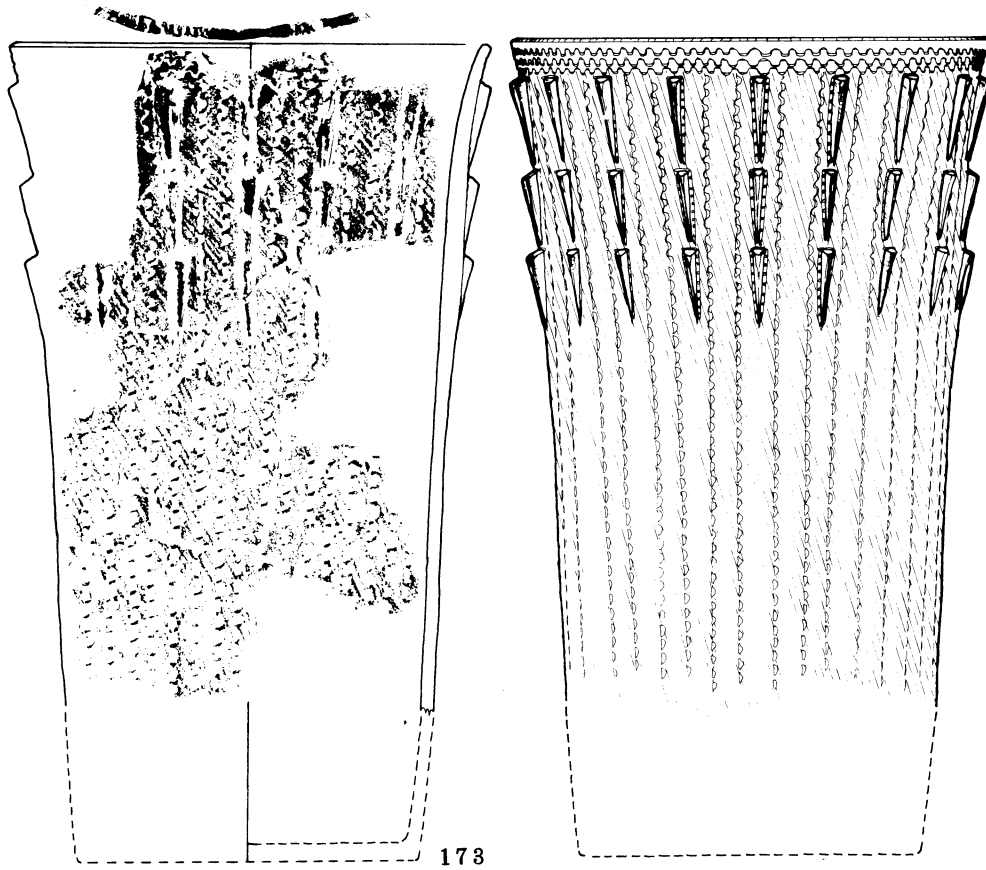
第111图 ⅢA类土器实测图



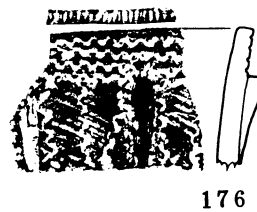
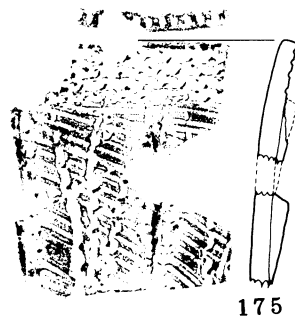
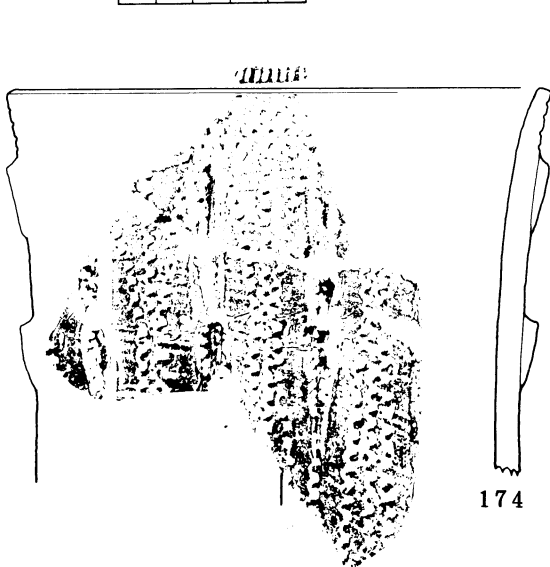
第112図 ⅢB類土器実測図



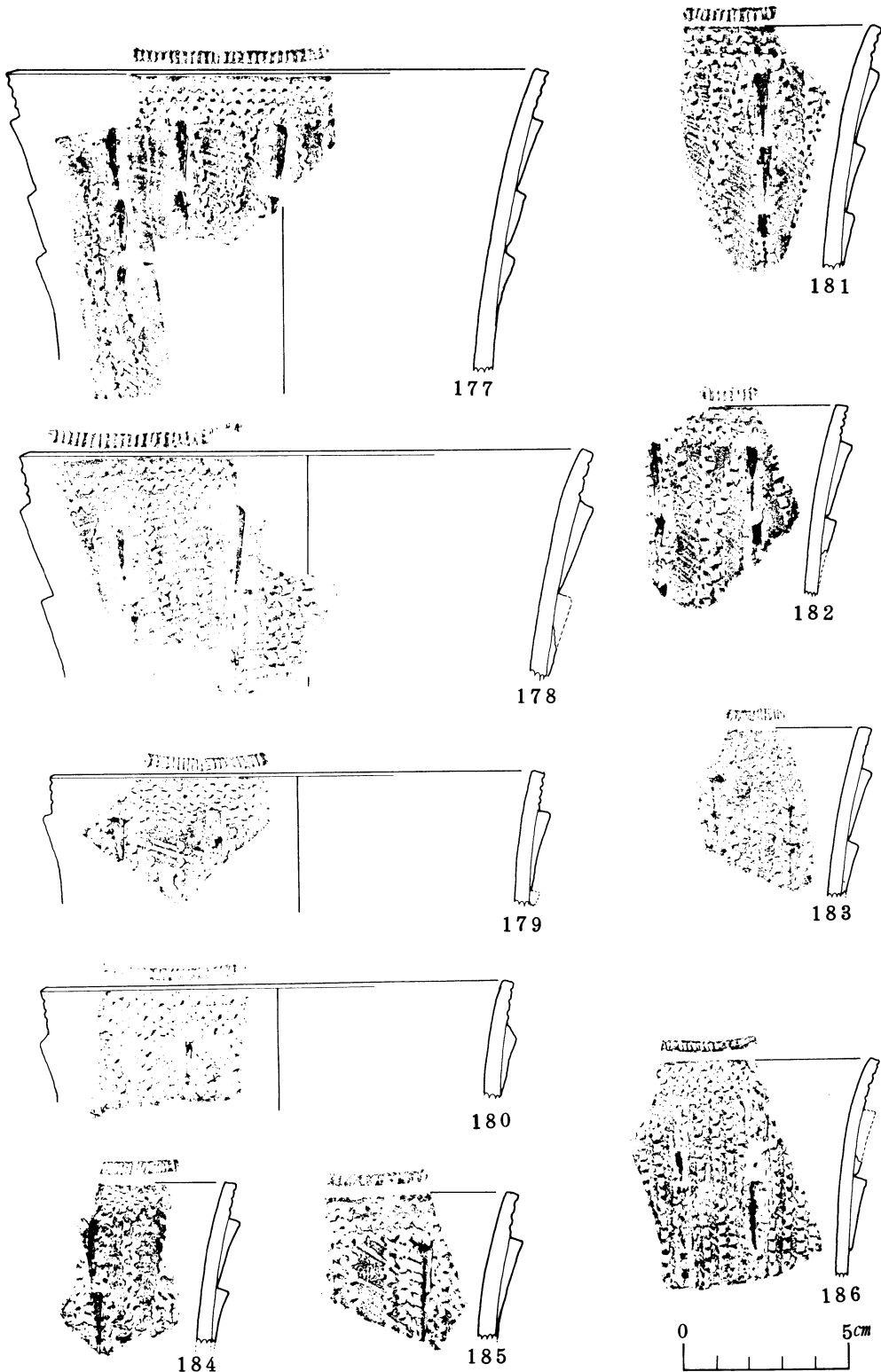
第113图 ⅢB類土器実測図



0 5cm

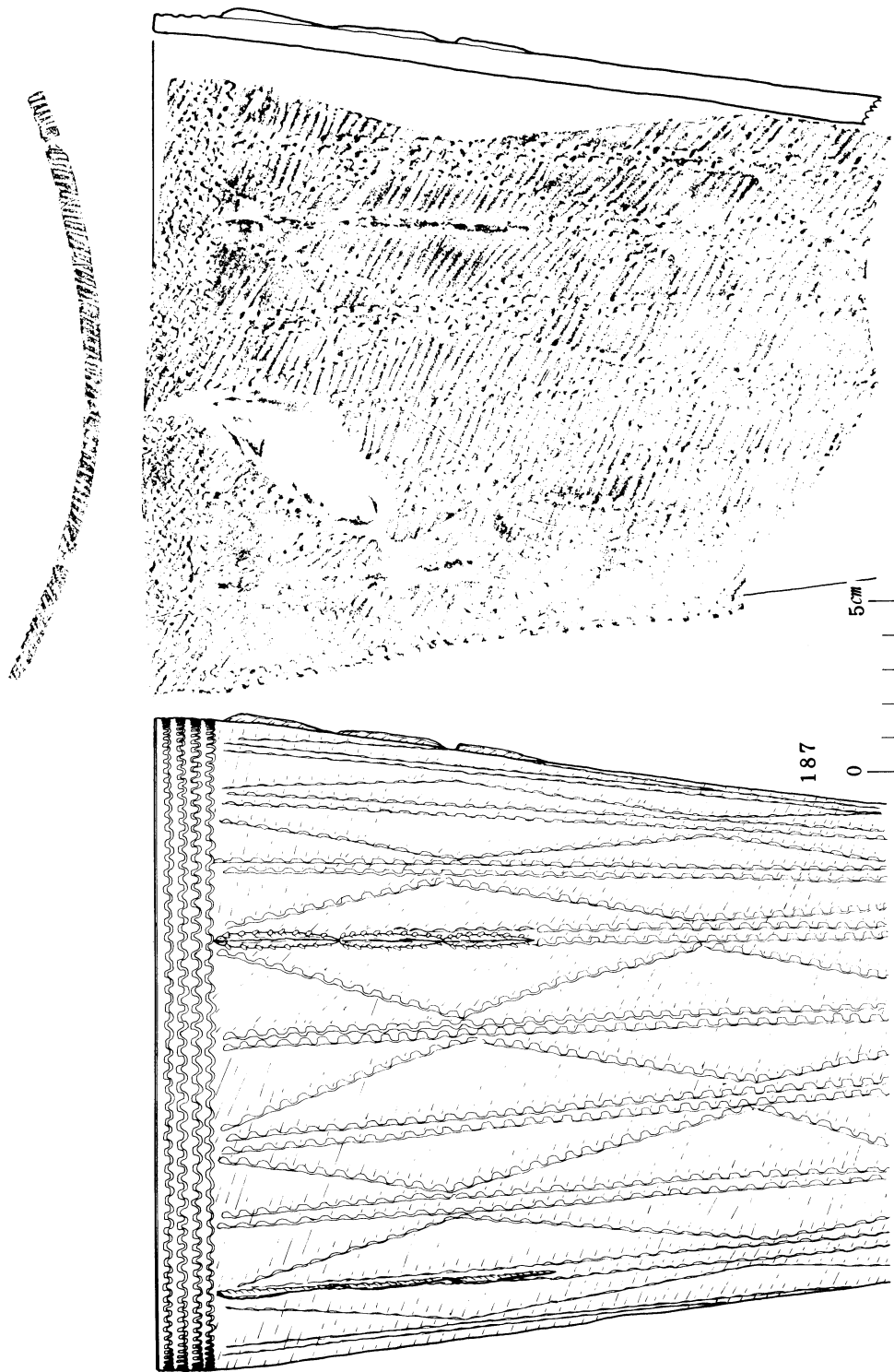


第114图 IV A 類土器実測図

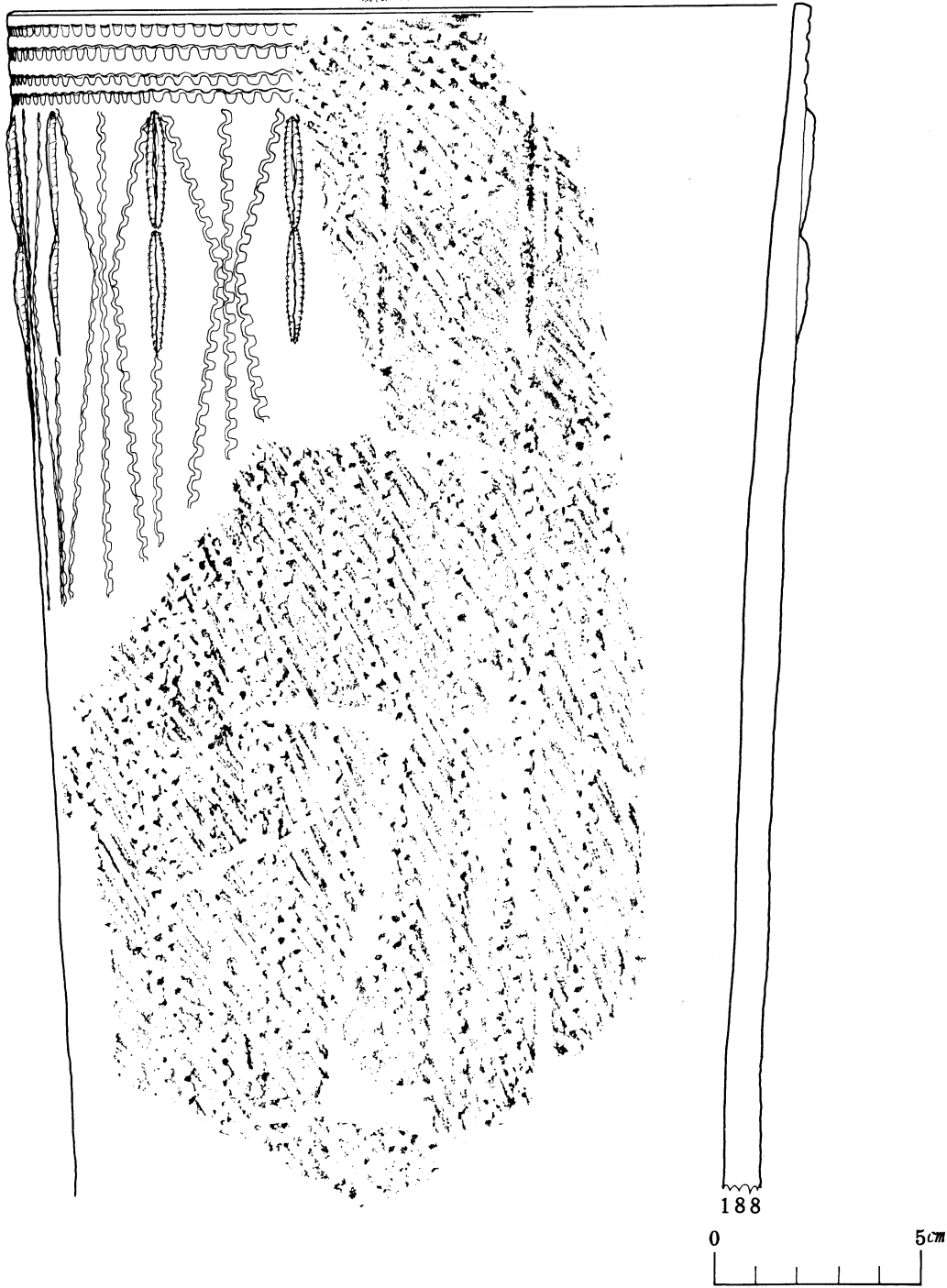


第115図 IV A 類土器実測図

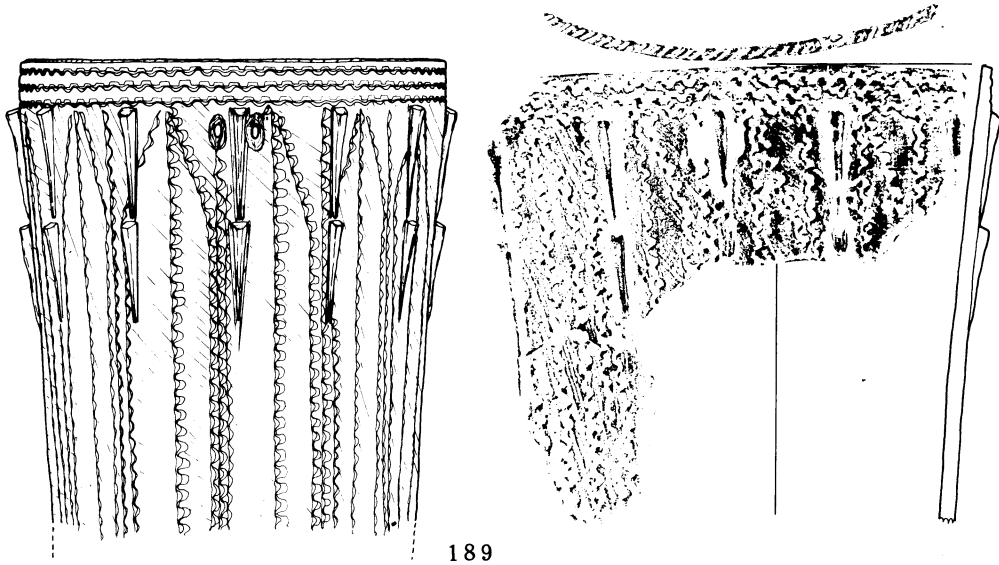




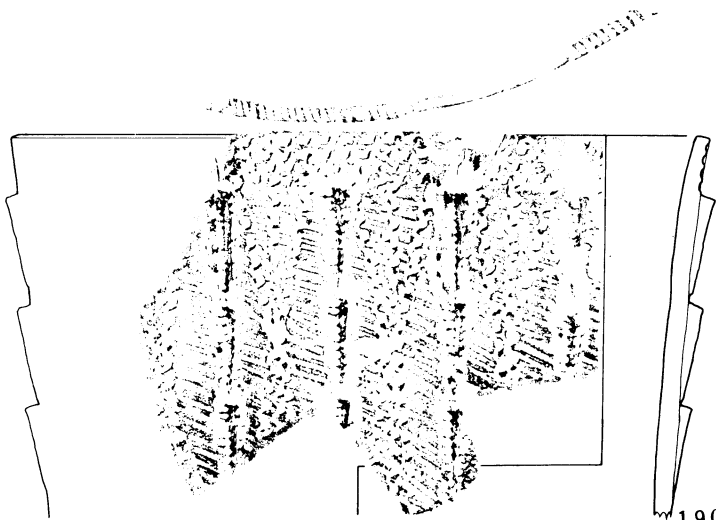
第116図 IV A 類土器実測図



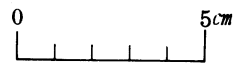
第117図 IV A 類土器実測図



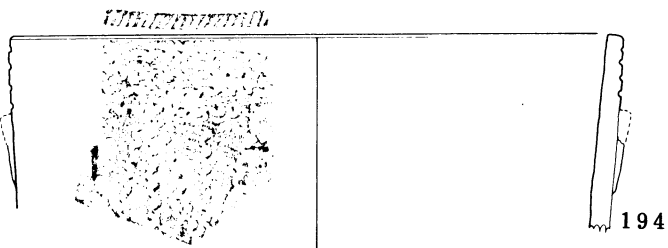
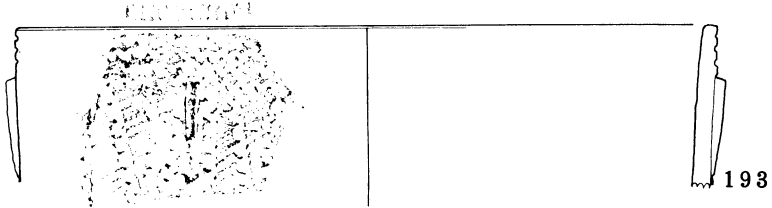
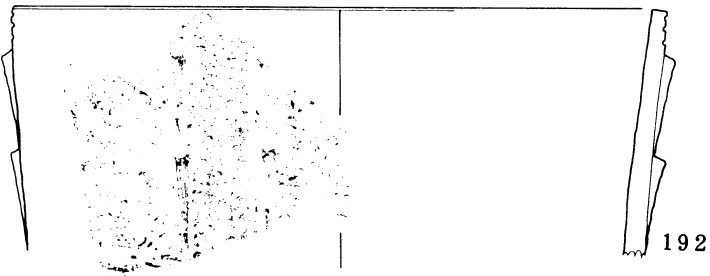
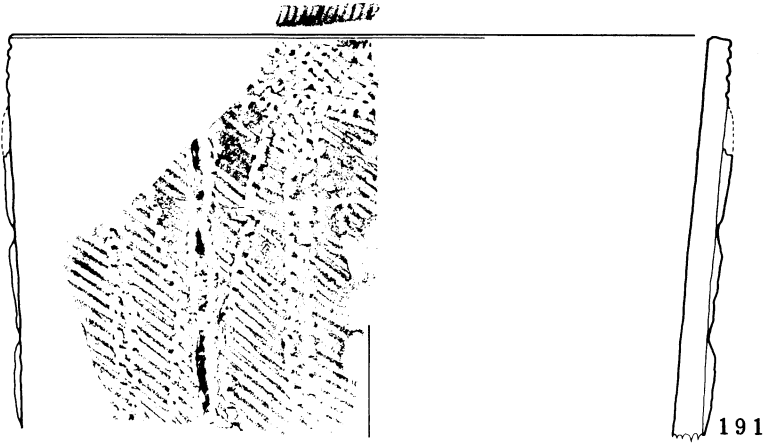
189



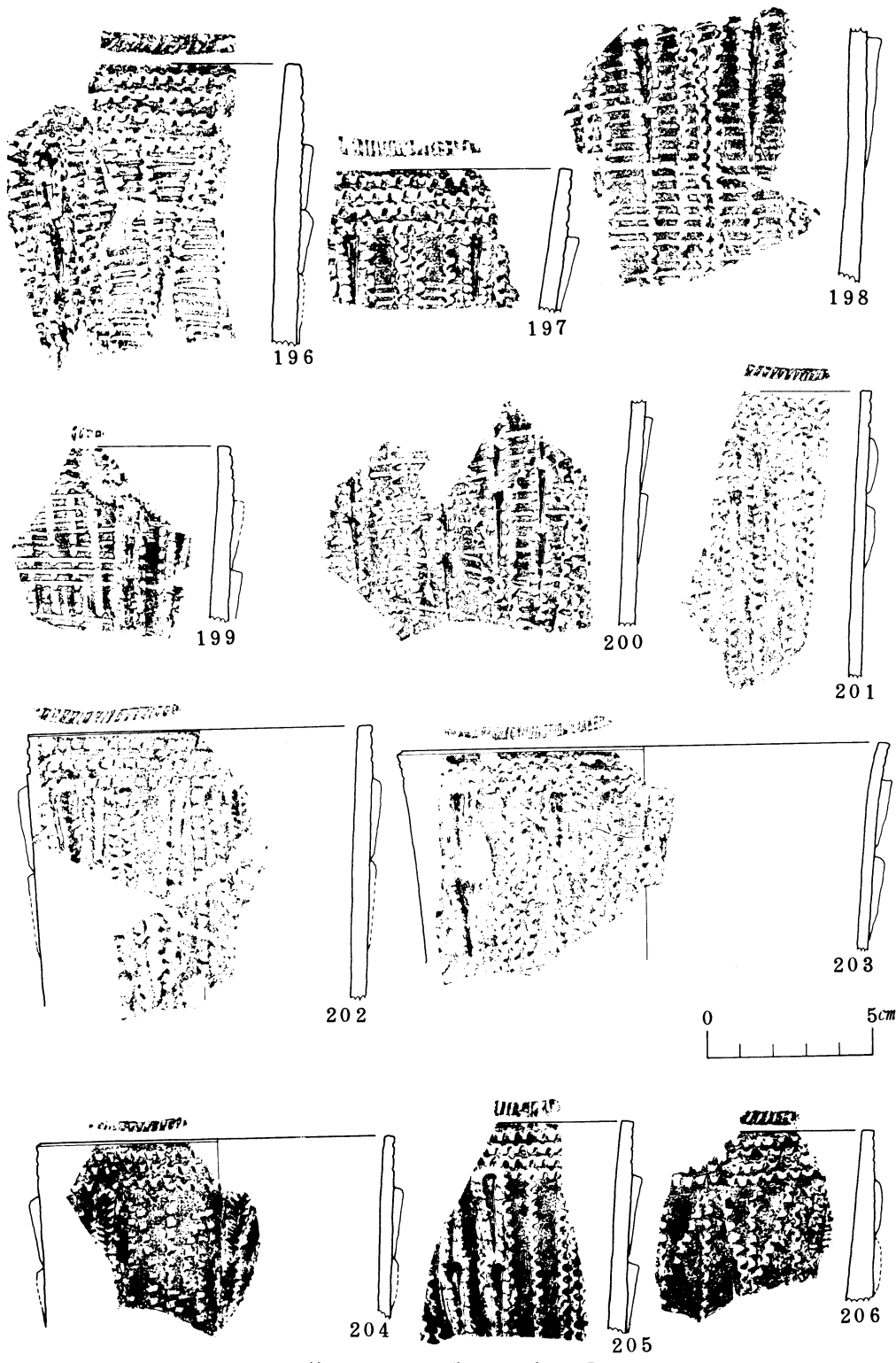
190



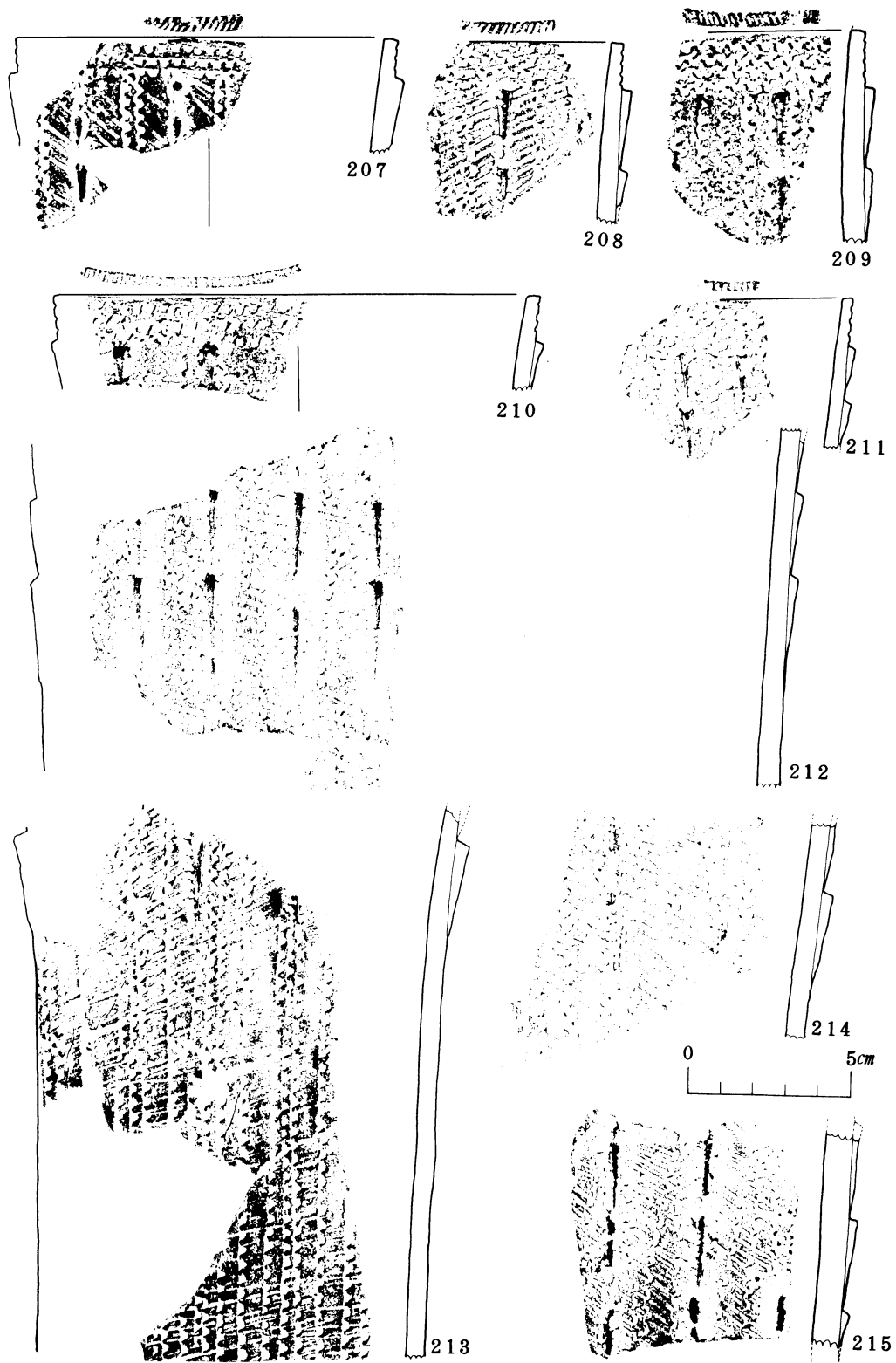
第118图 IVA 類土器実測図



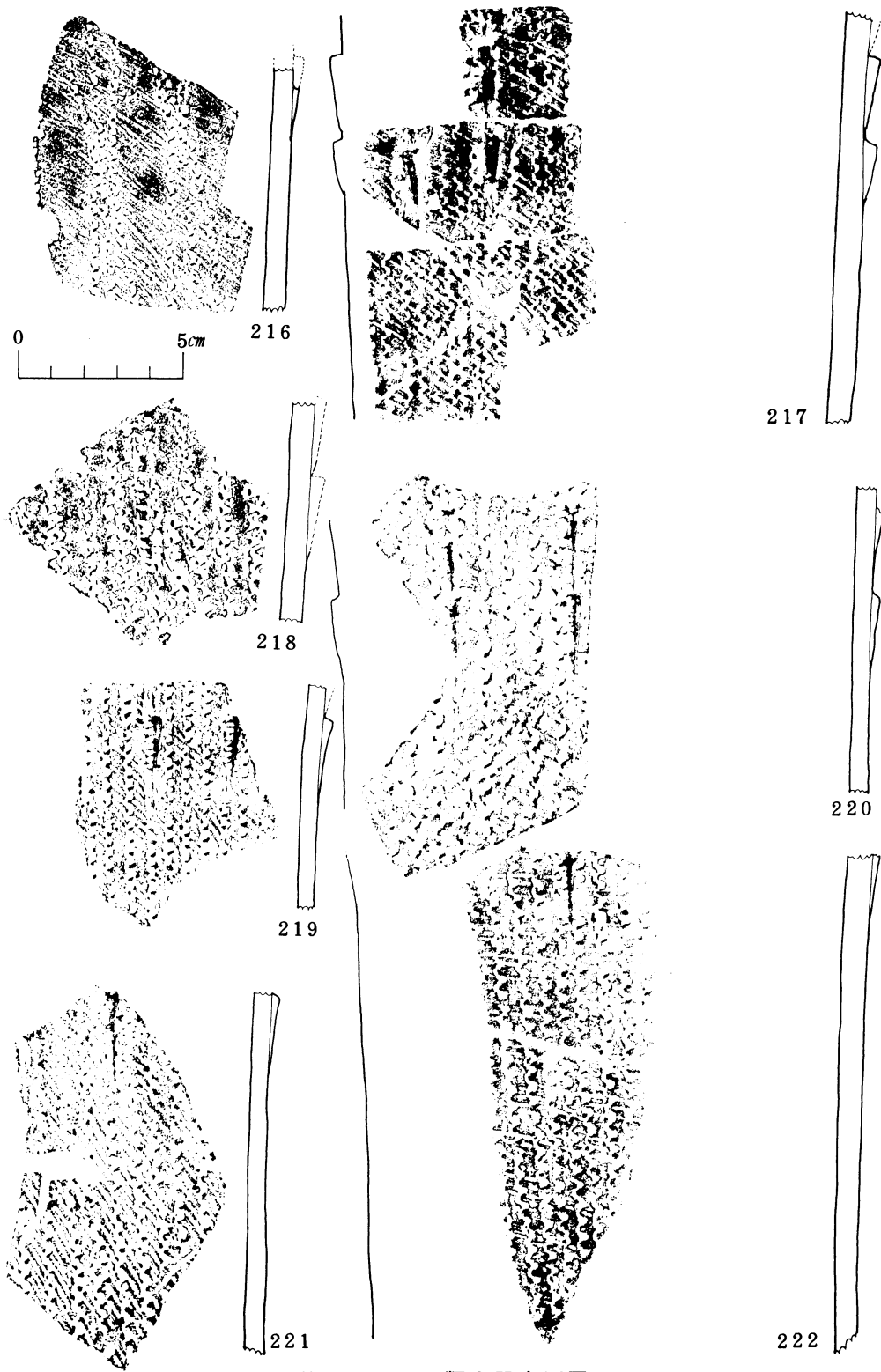
第119図 IV A 類土器実測図



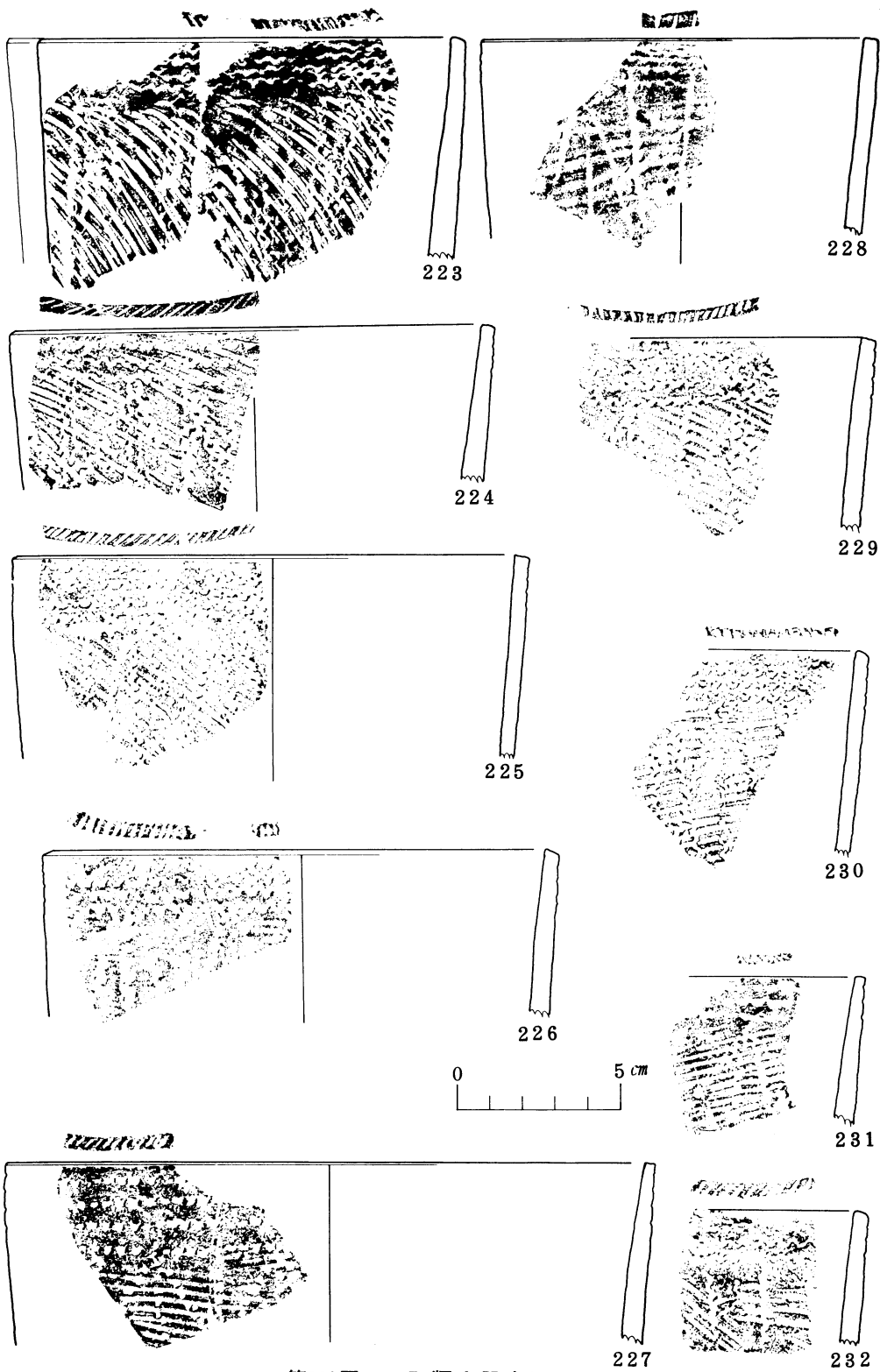
第120图 IV A 類土器実測図



第121图 IV A 類土器実測図

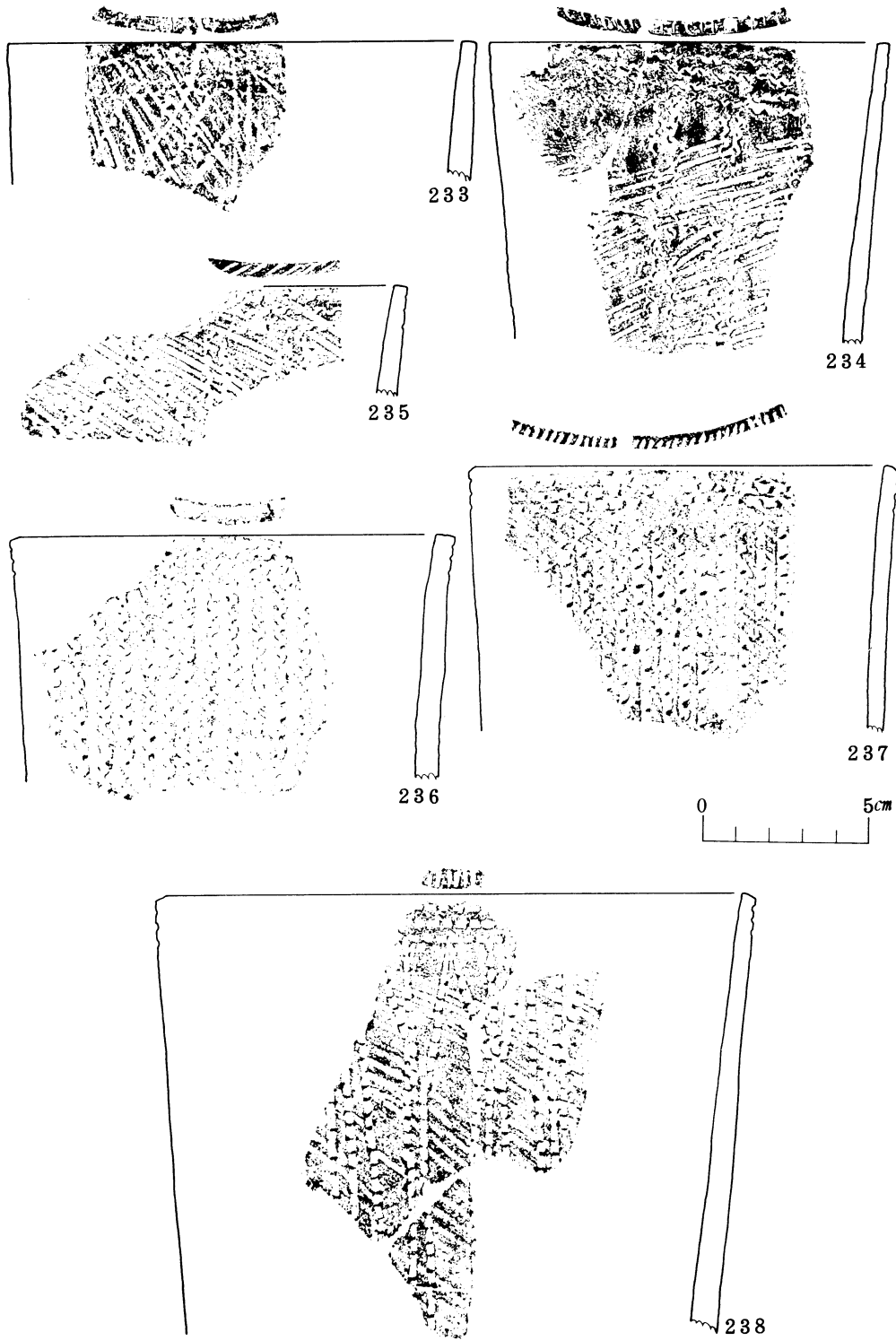


第122図 IV A 類土器実測図

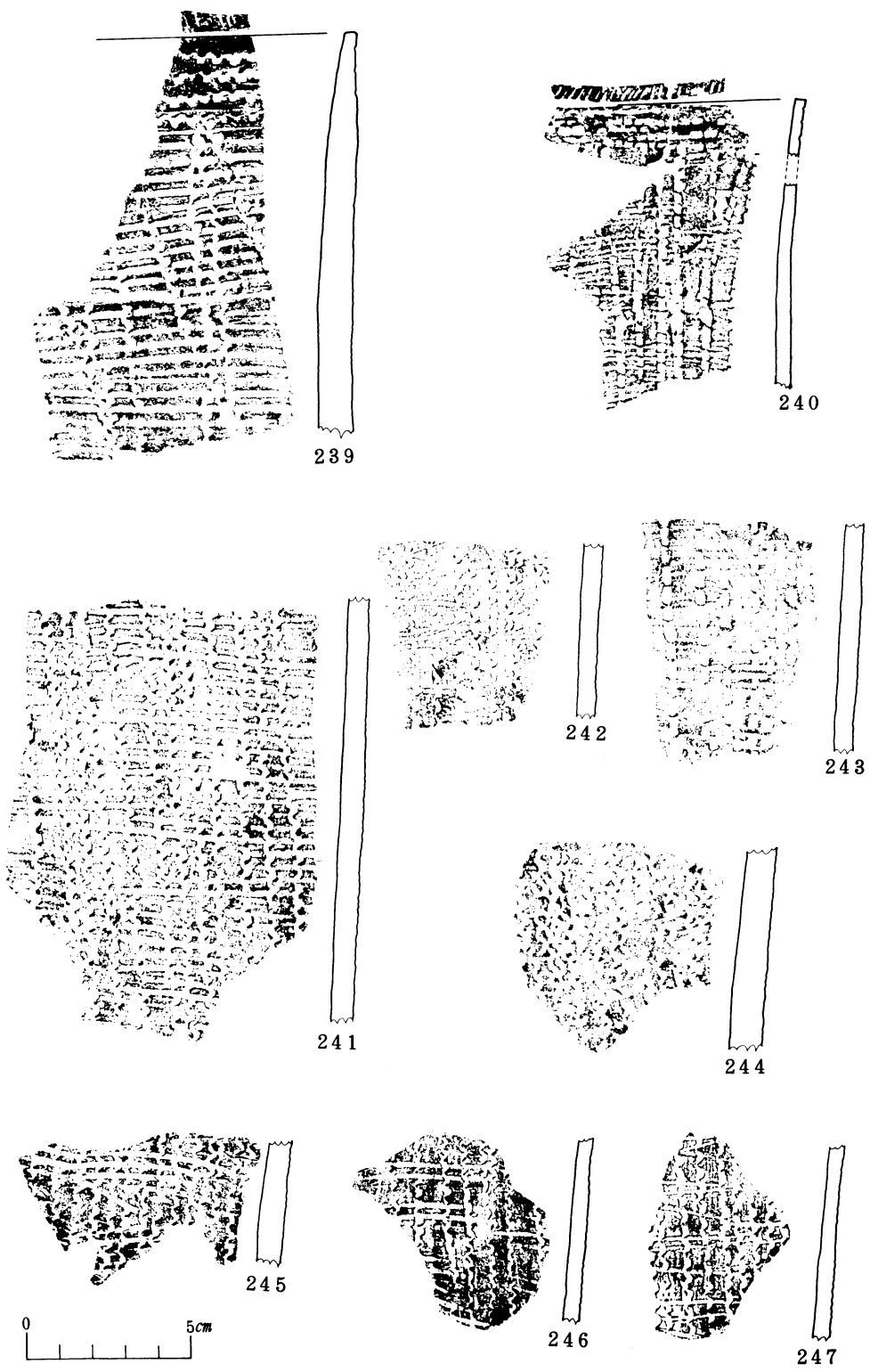


第123图 IV B 類土器実測図

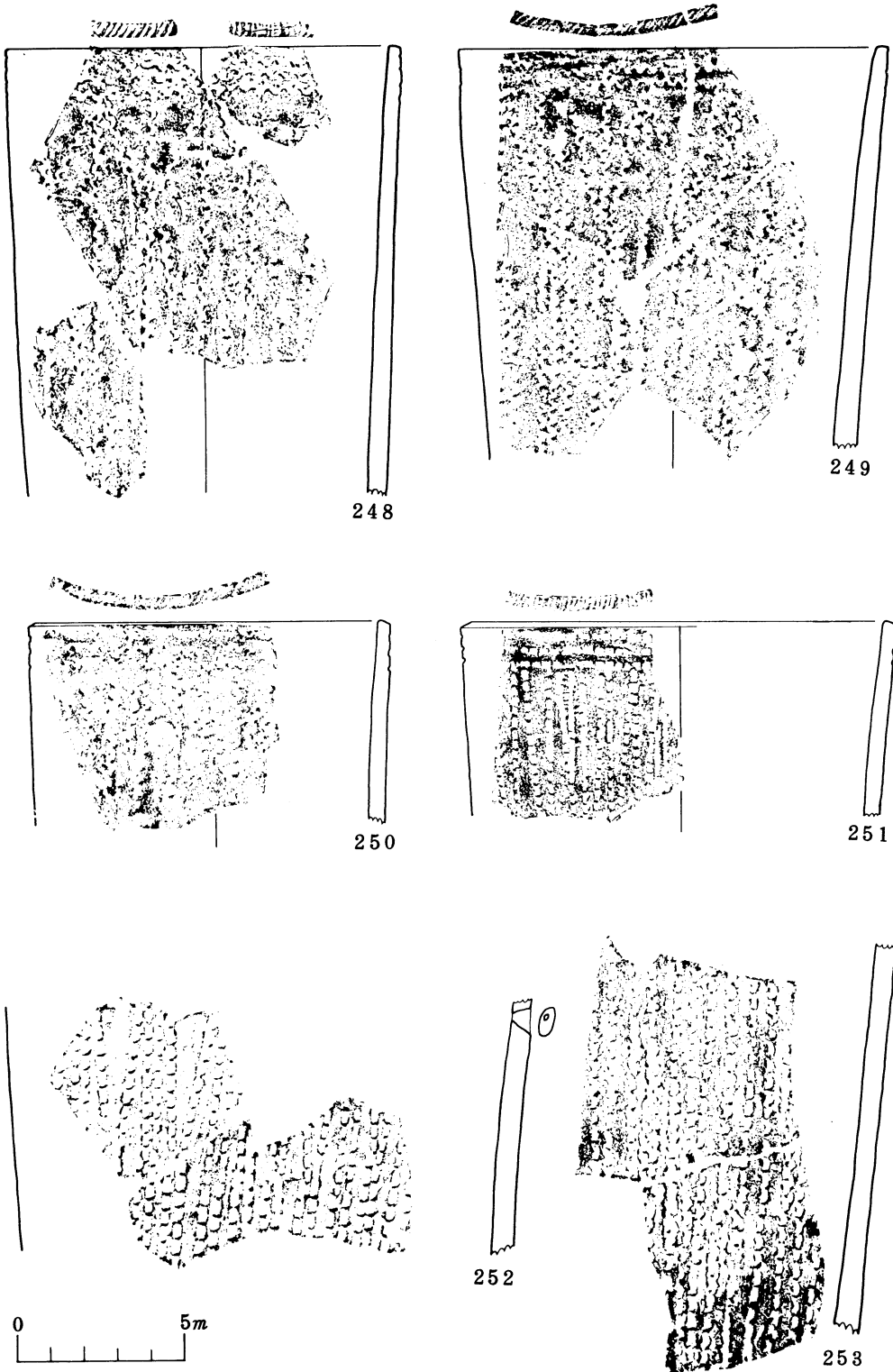




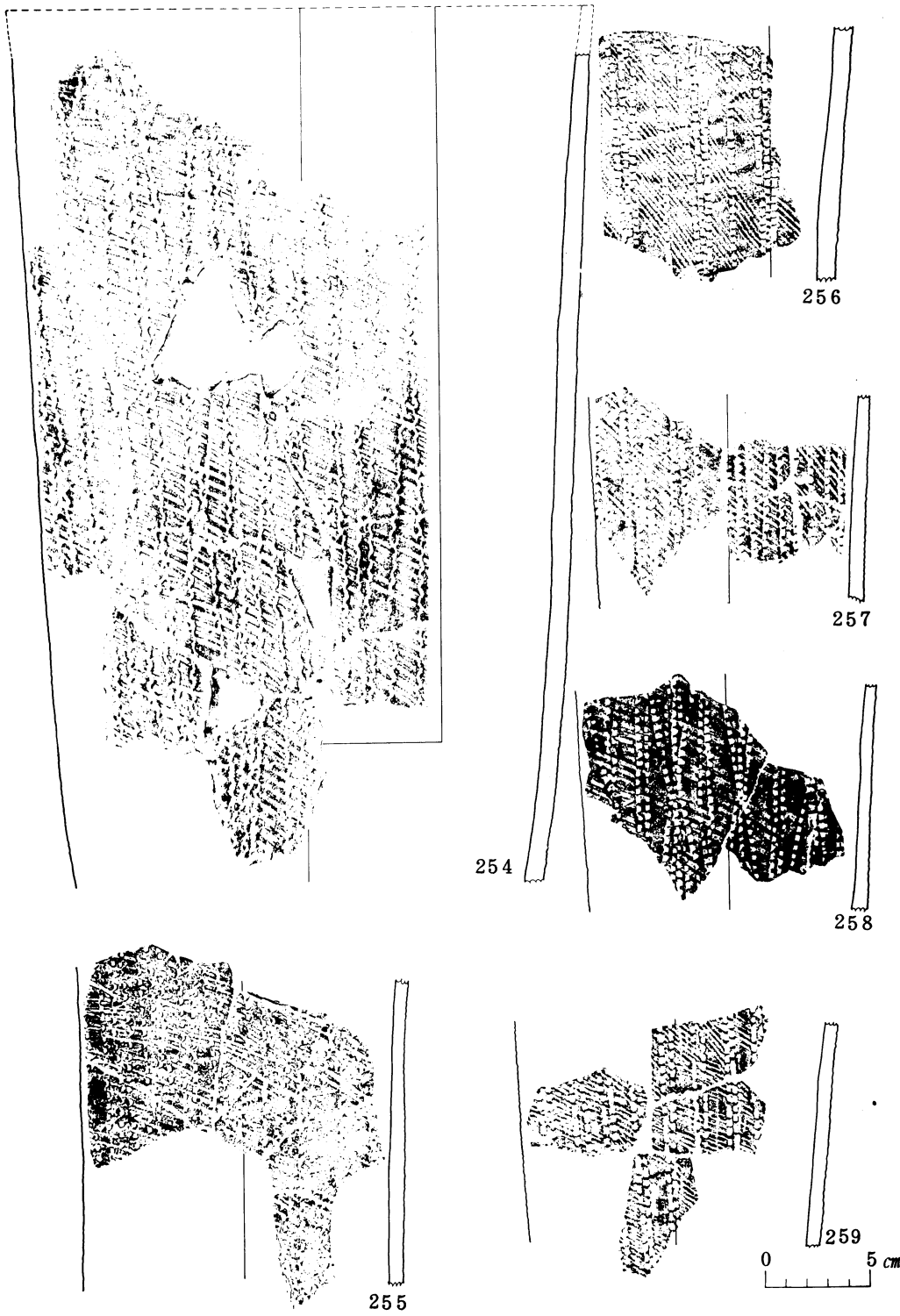
第124図 MB類土器実測図



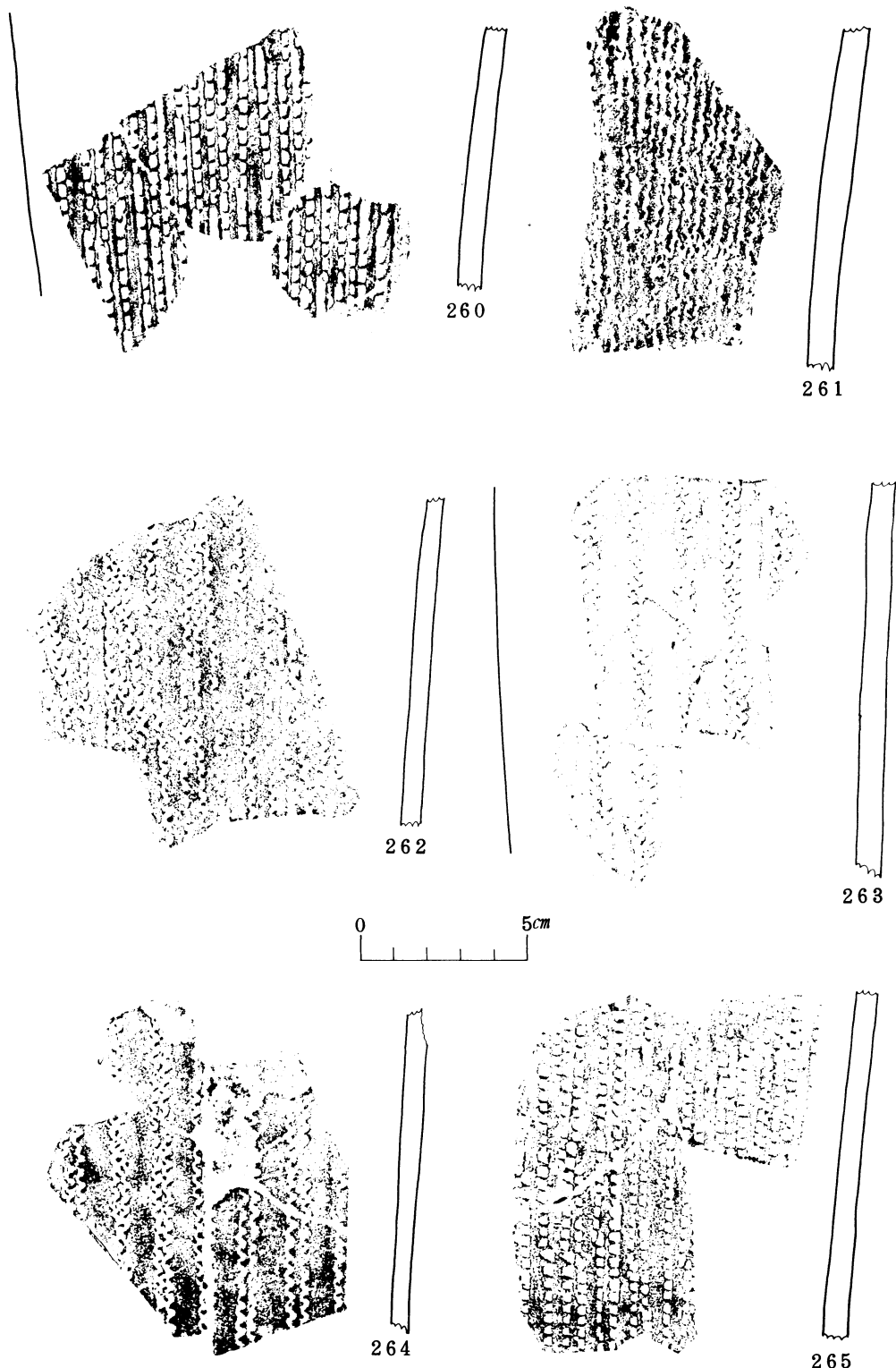
第125図 IVB類土器実測図



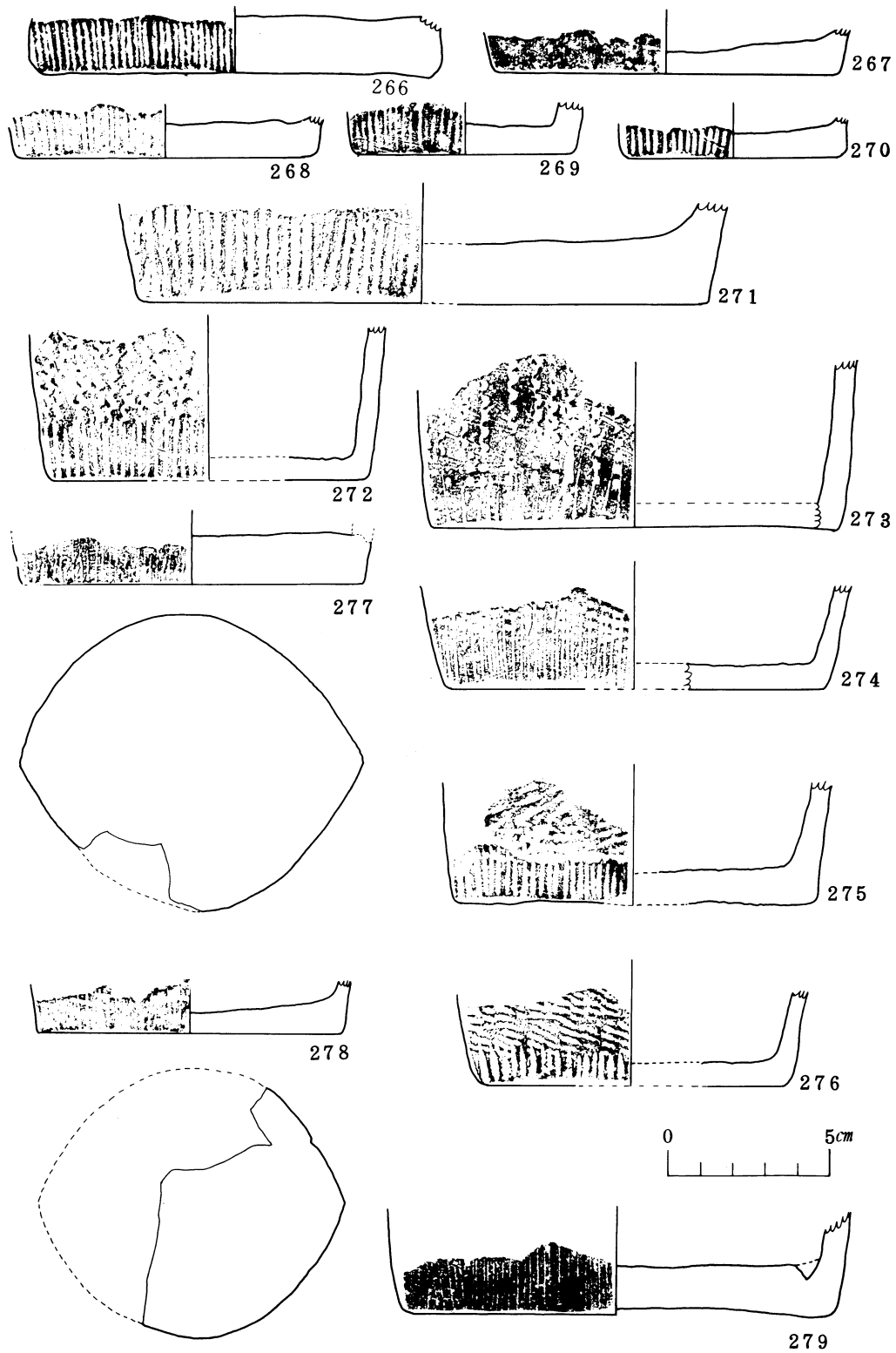
第126図 IV B 類土器実測図



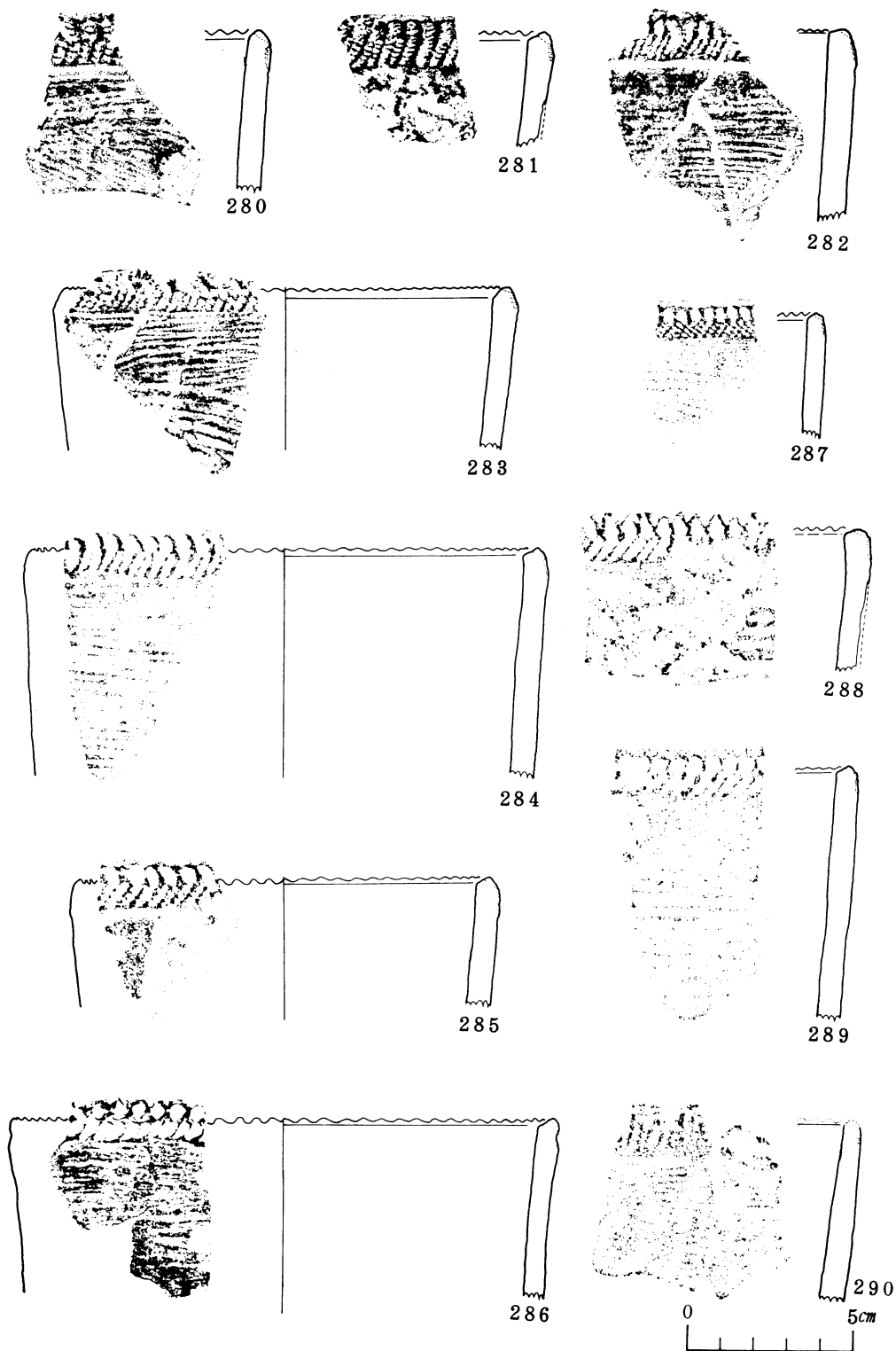
第127図 IVB類土器実測図



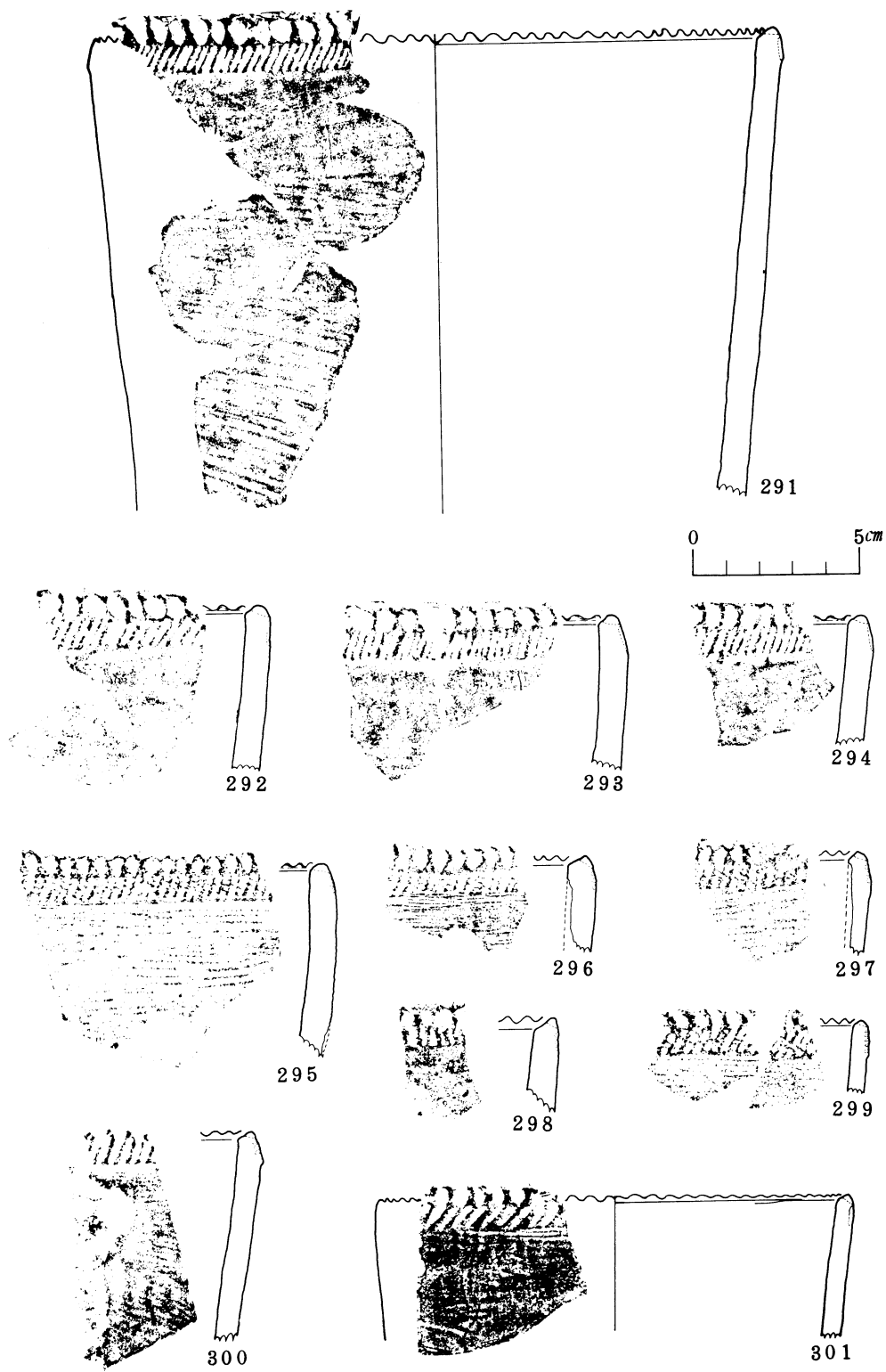
第128图 VB类土器实测图



第129图 IV 類土器実測図

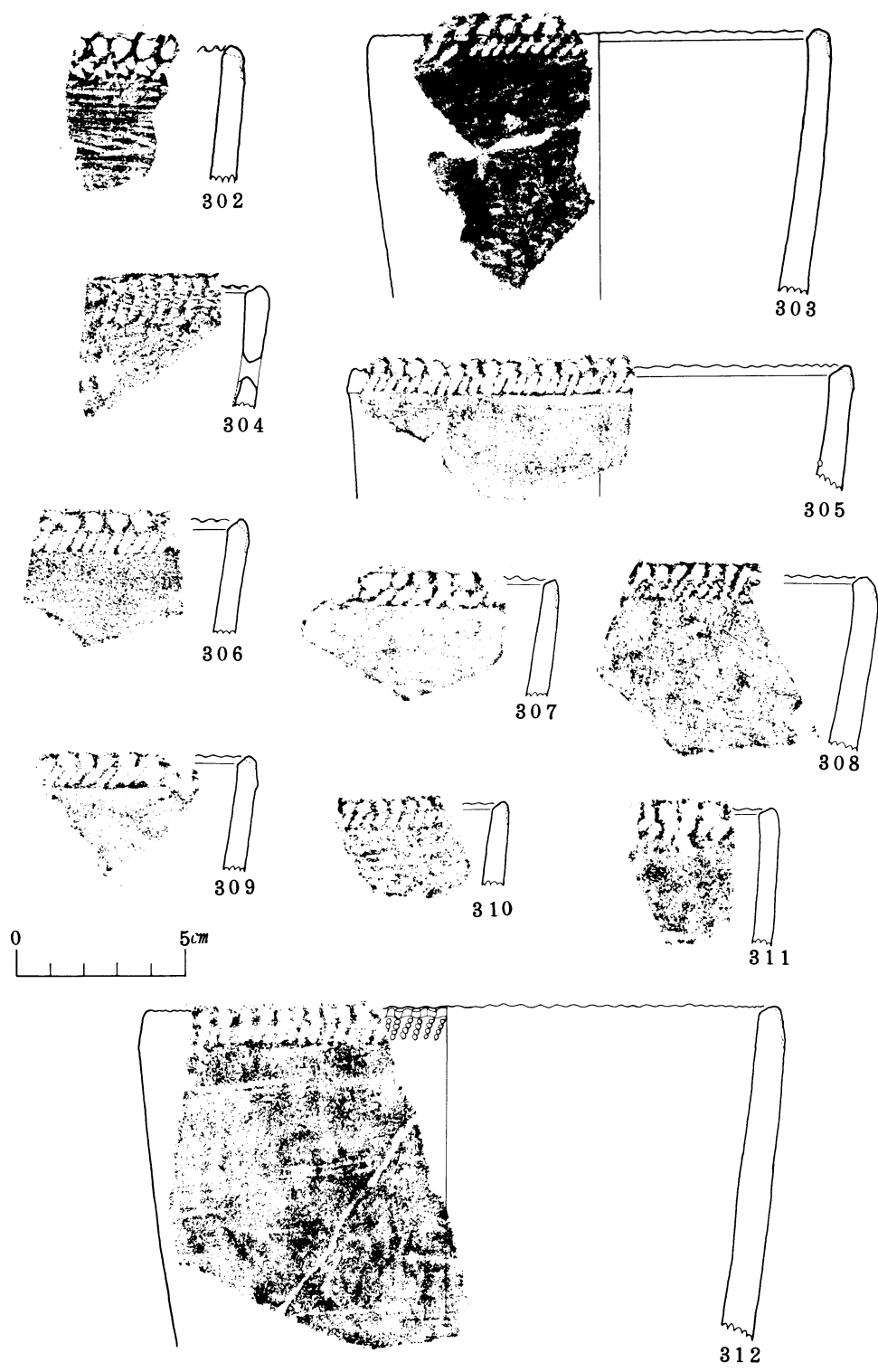


第130图 V類土器実測図

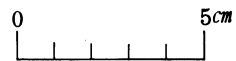
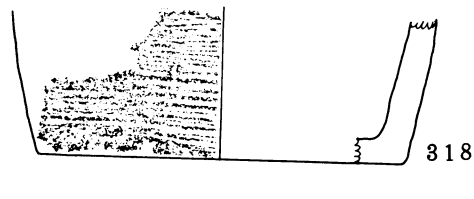
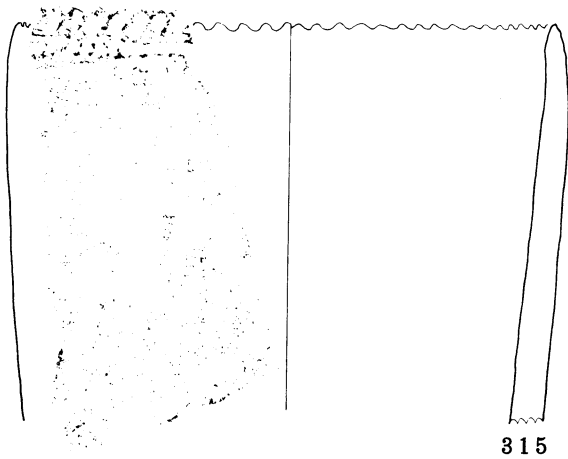
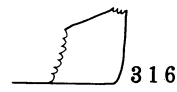
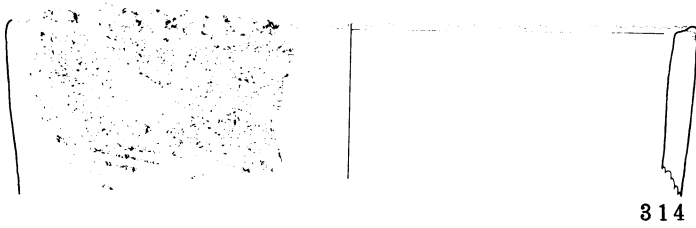
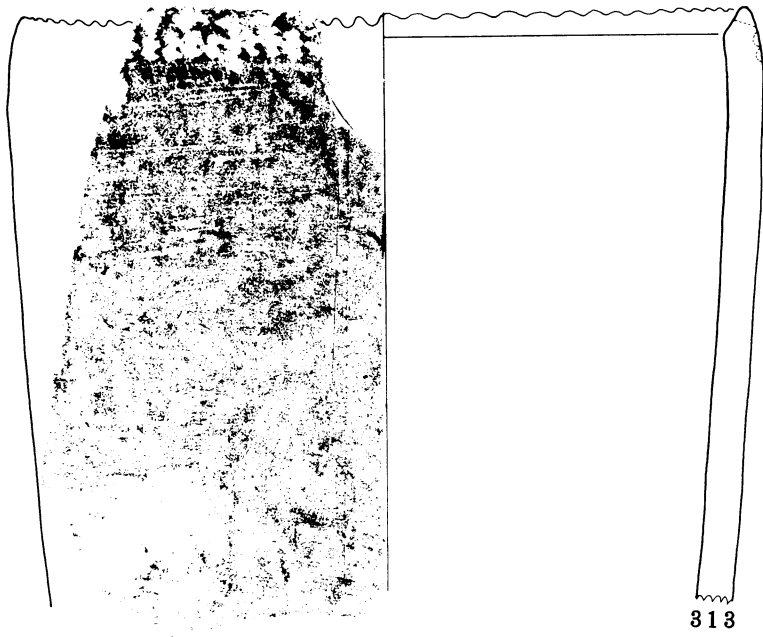


第131图 V類土器実測図

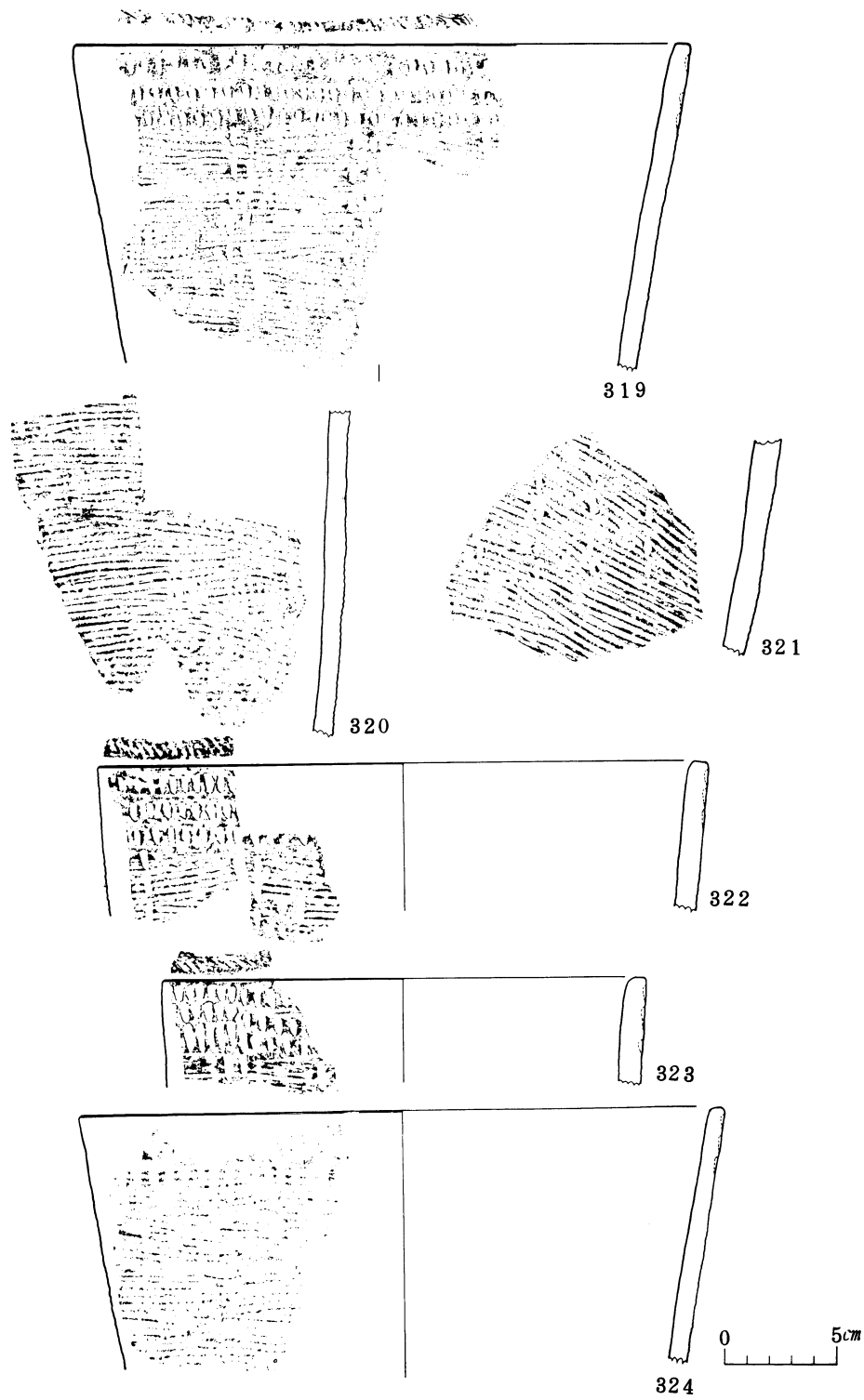




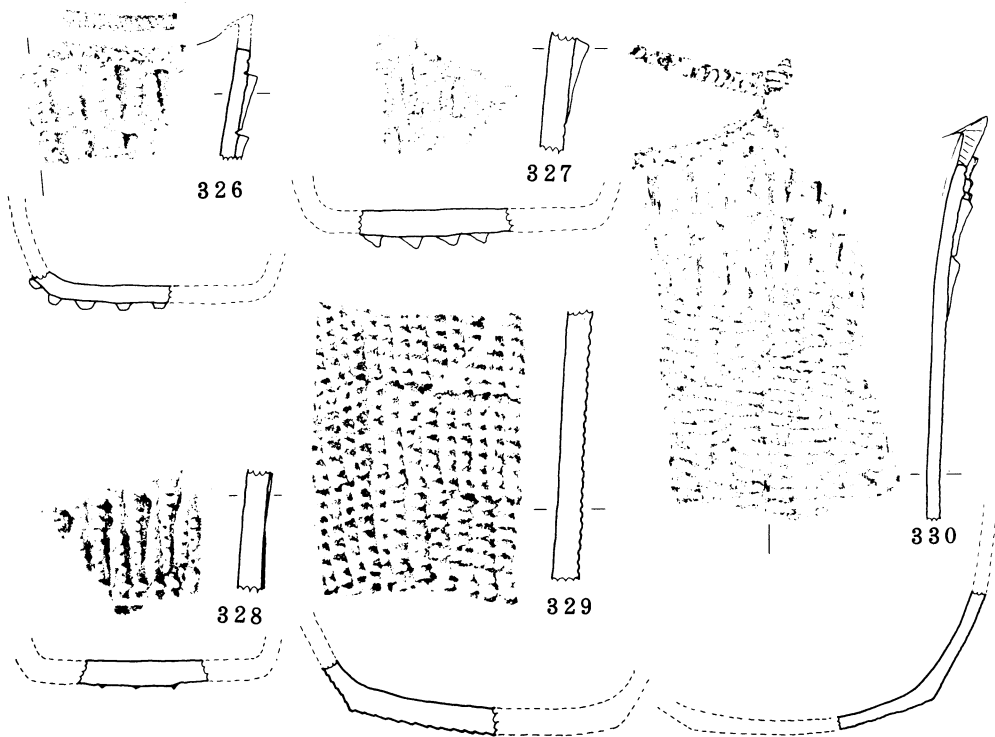
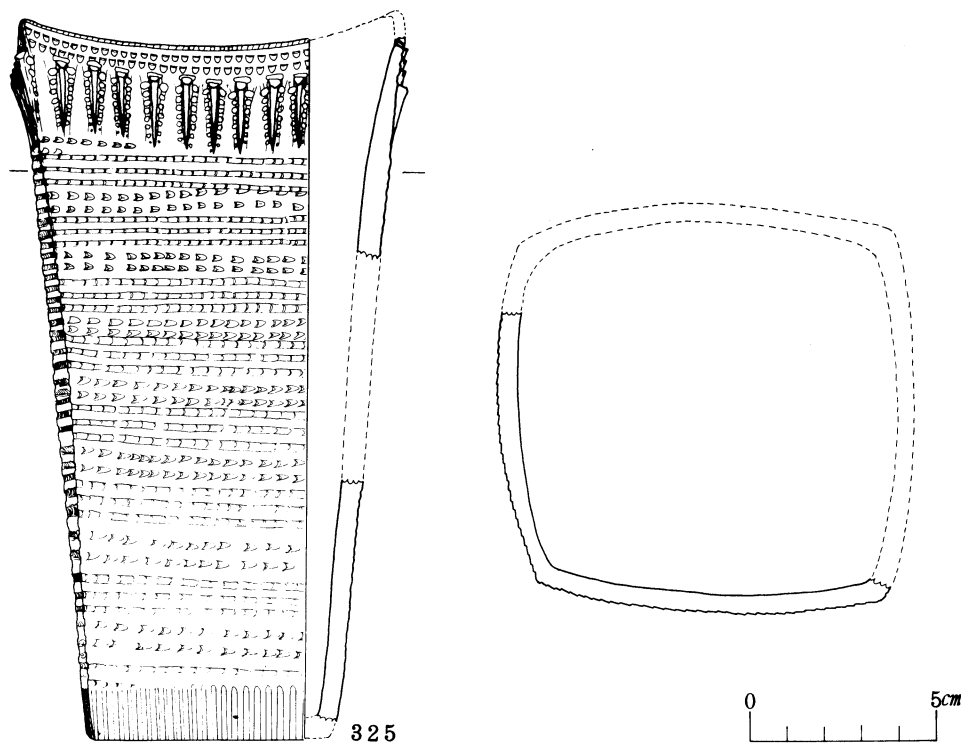
第132図 V類土器実測図



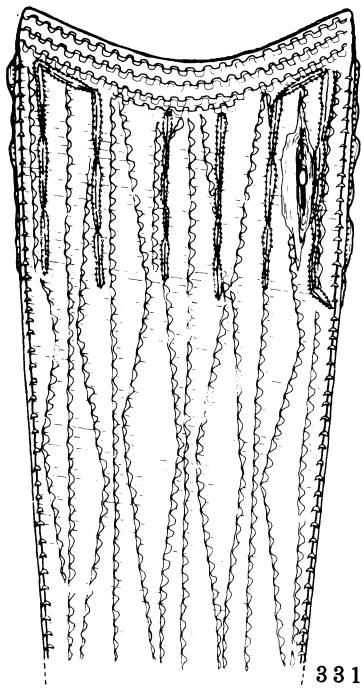
第133圖 V類土器実測図



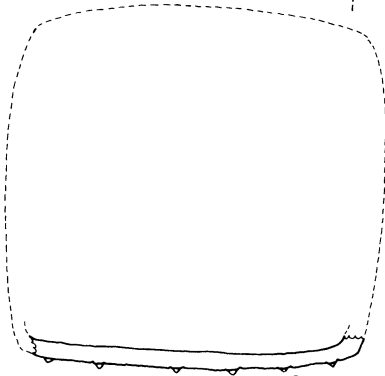
第134图 VI類土器実測図



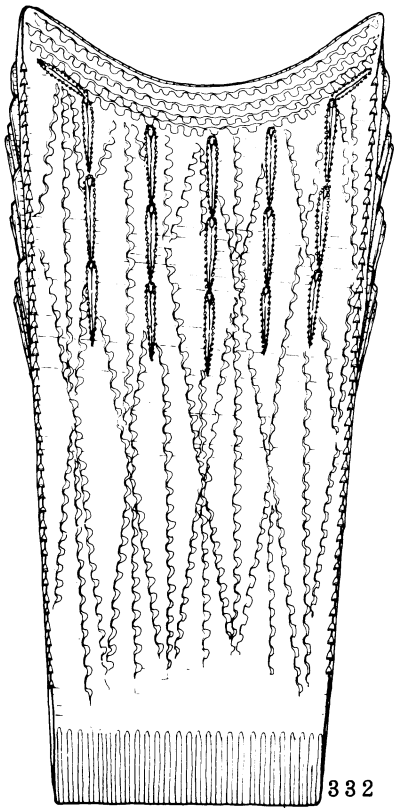
第135图 VII类土器实测图



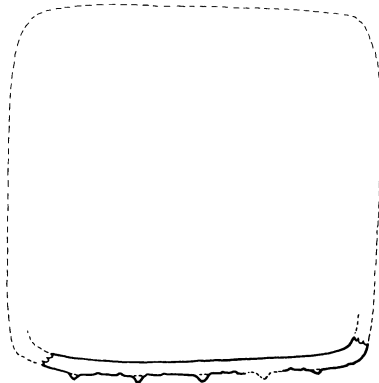
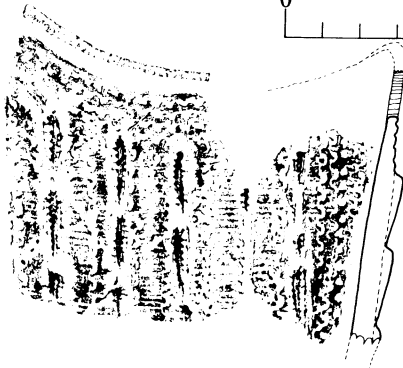
331



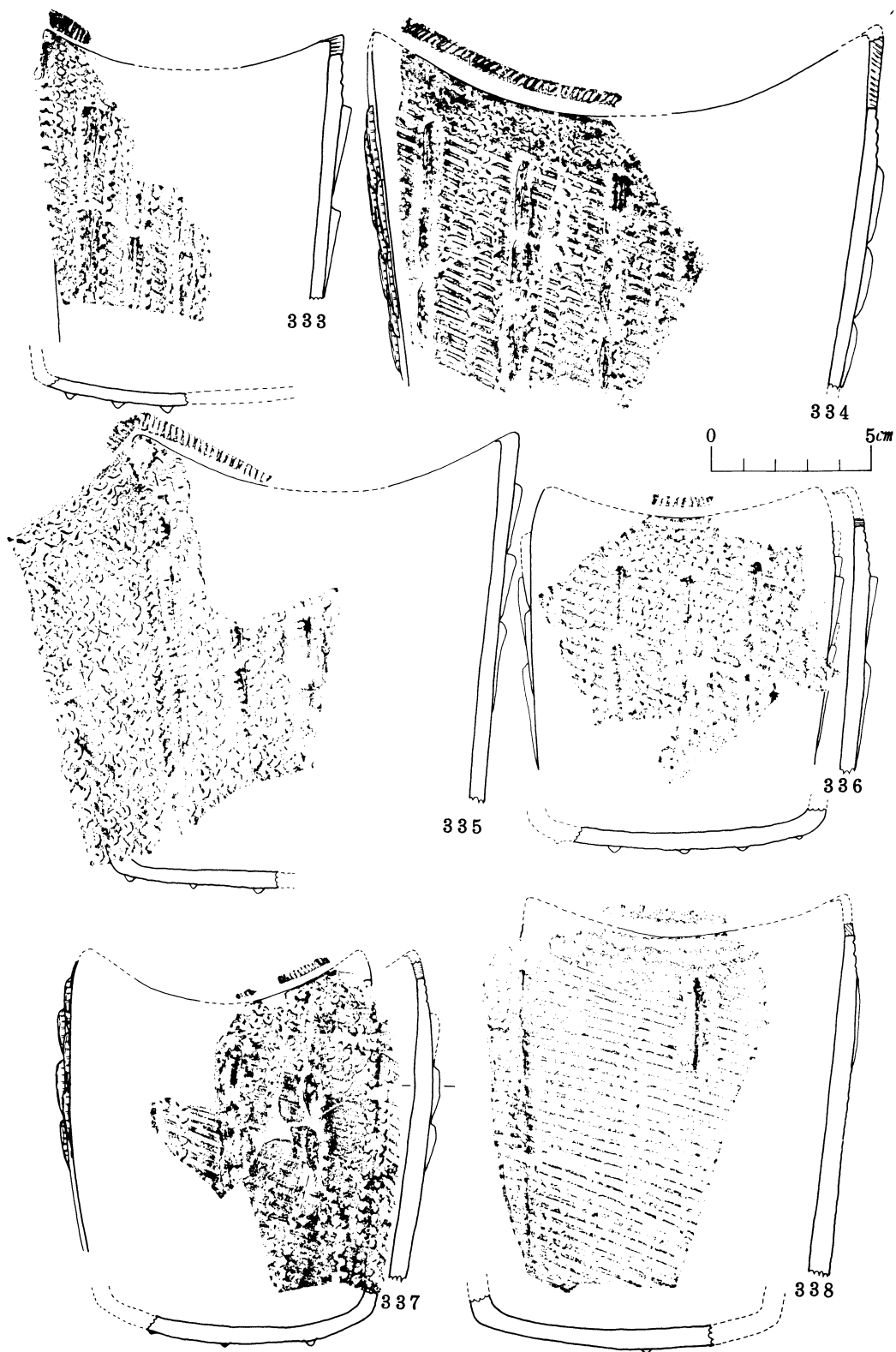
0 5cm



332



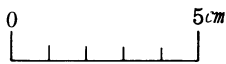
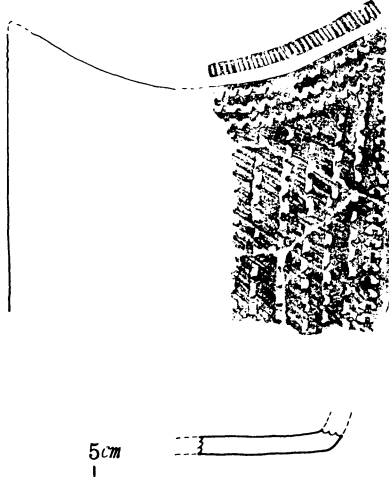
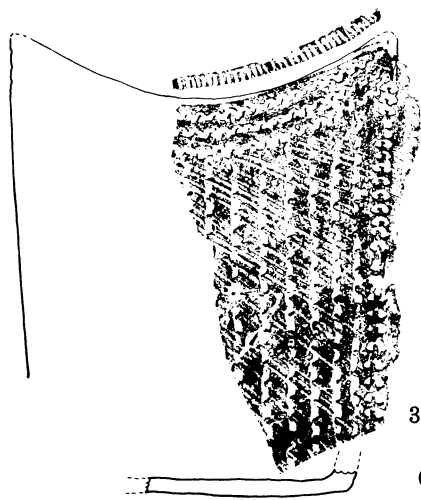
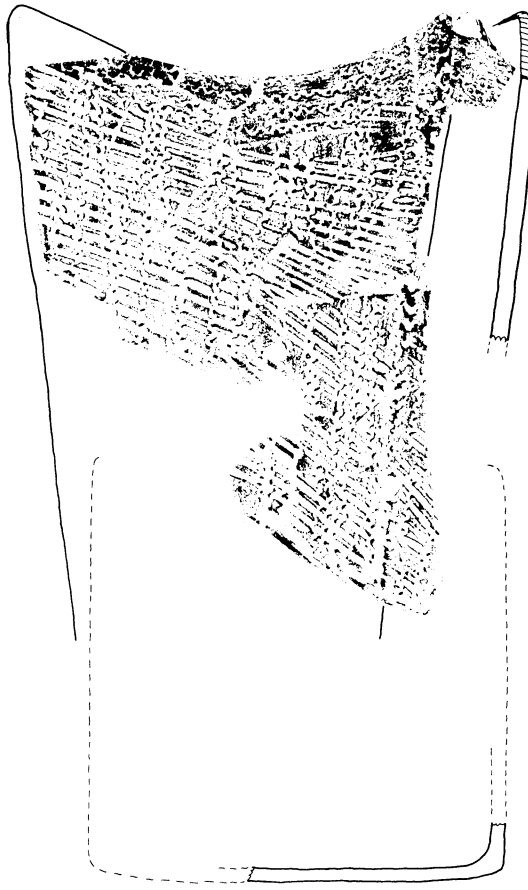
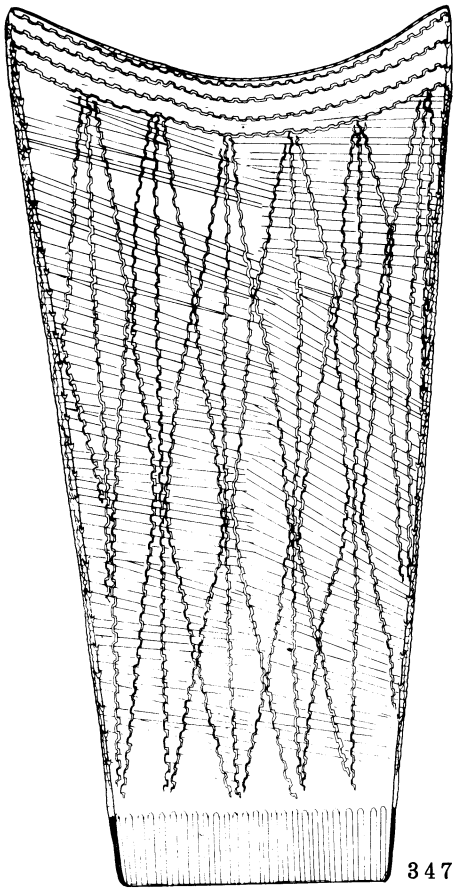
第136图 VIII A 類土器実測图



第137图, VII A 类土器实测图

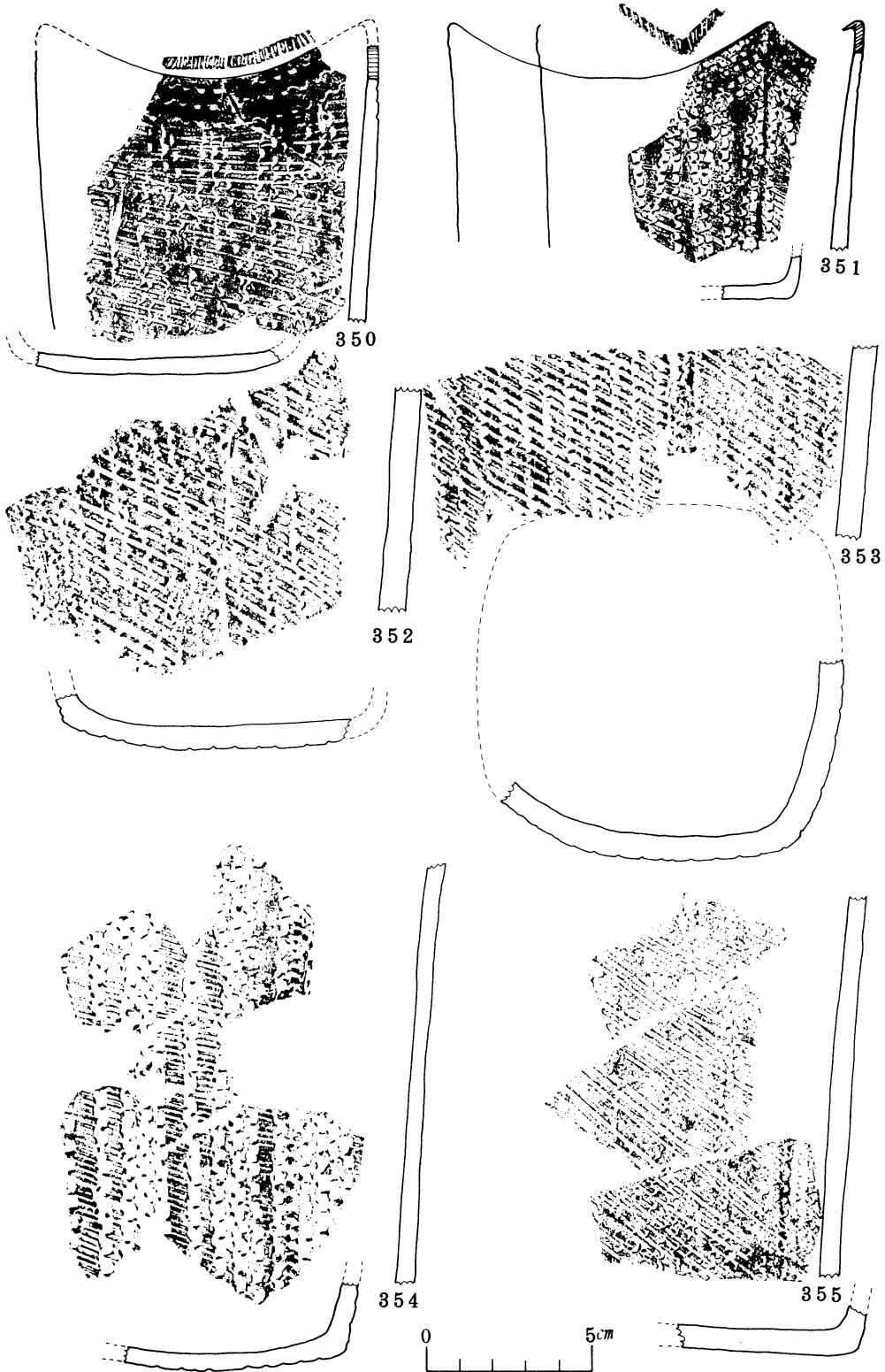


第138图 VIIA 類土器実測図

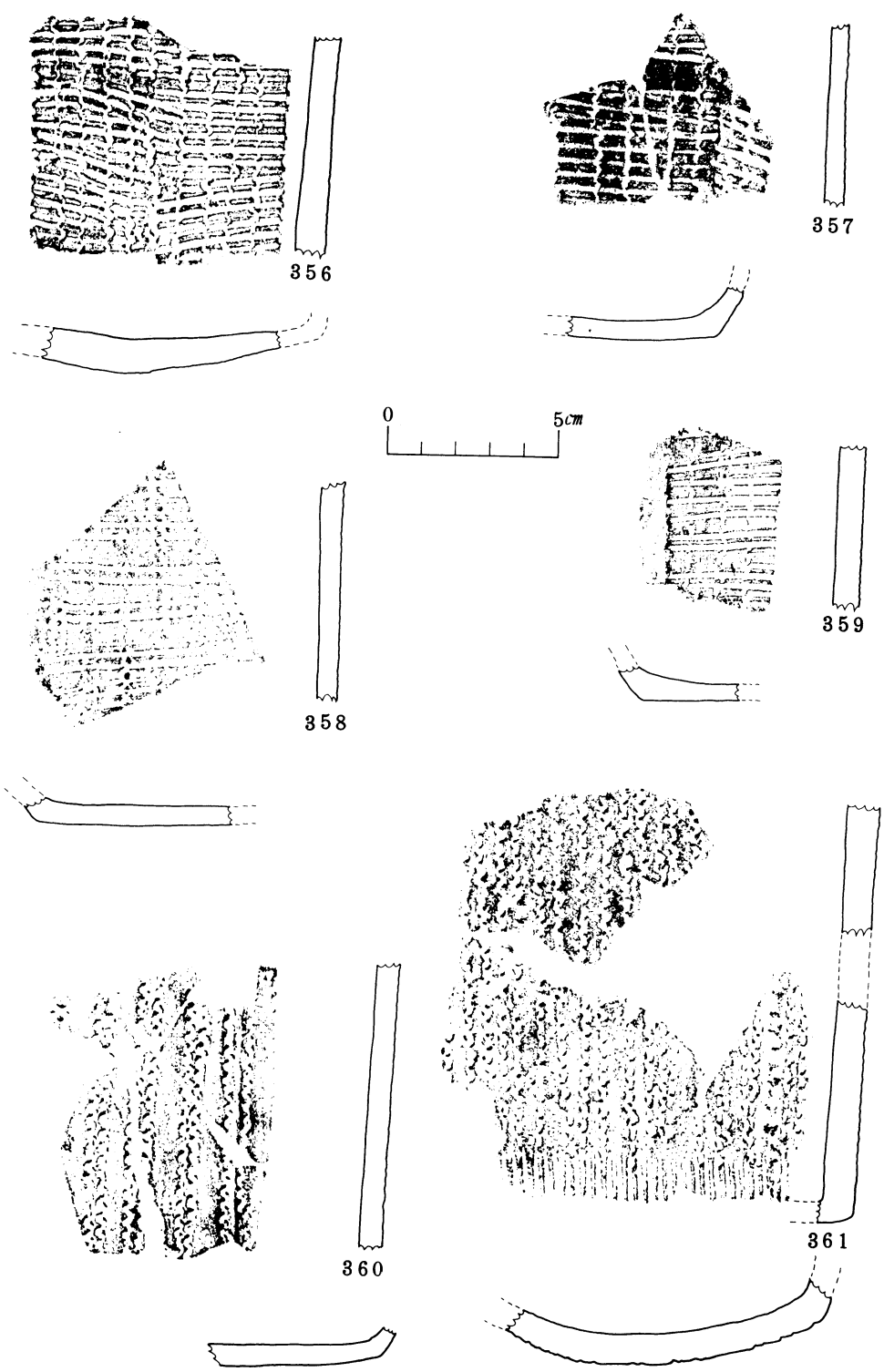


第139图 ⅧB类土器实测图

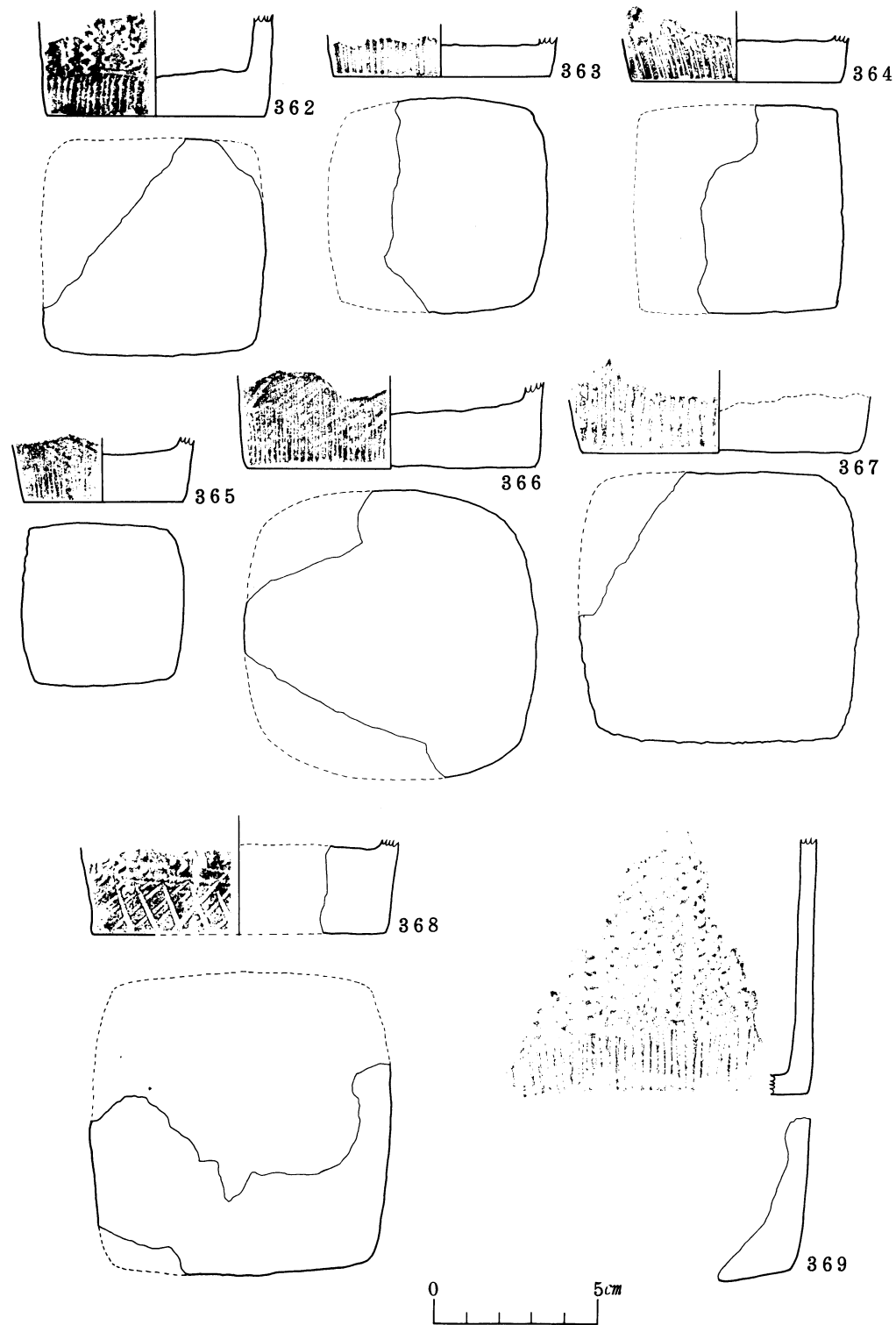




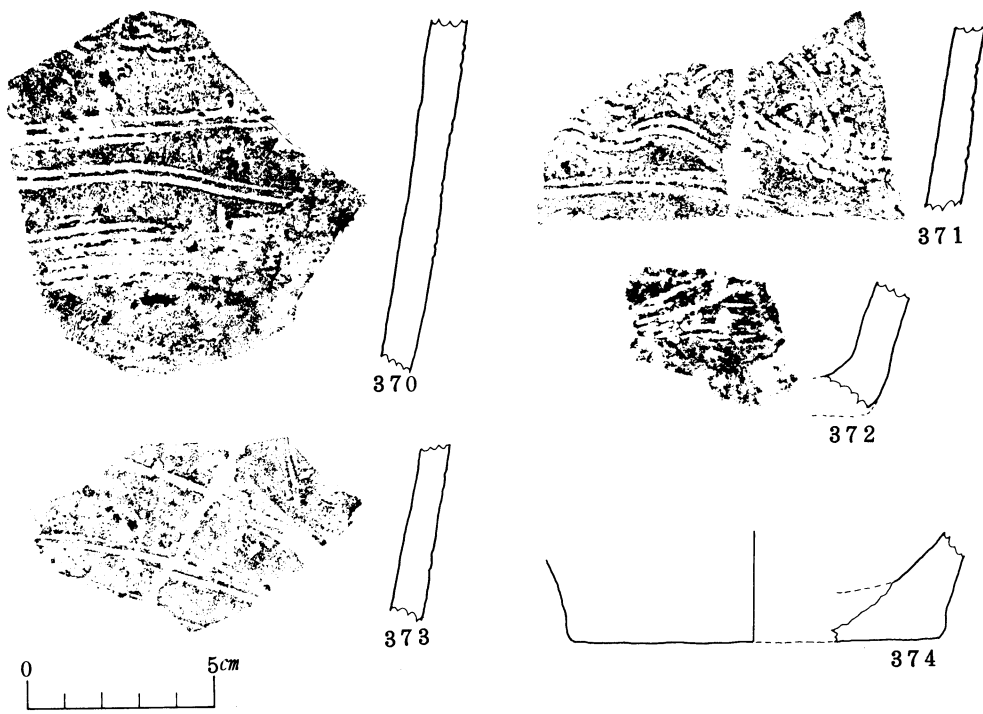
第140图 ⅧB类土器实测图



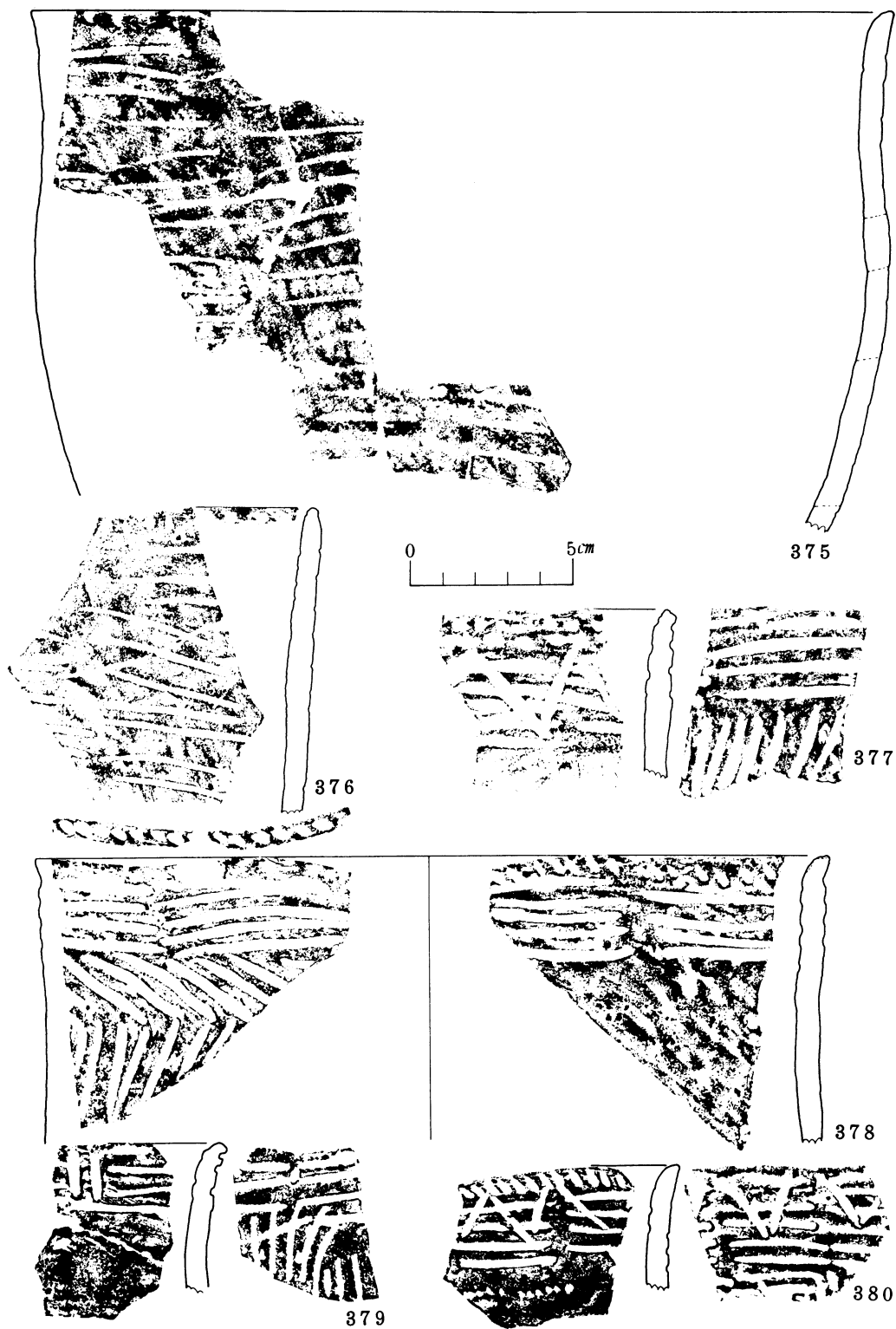
第141图 VIII B 类土器实测图



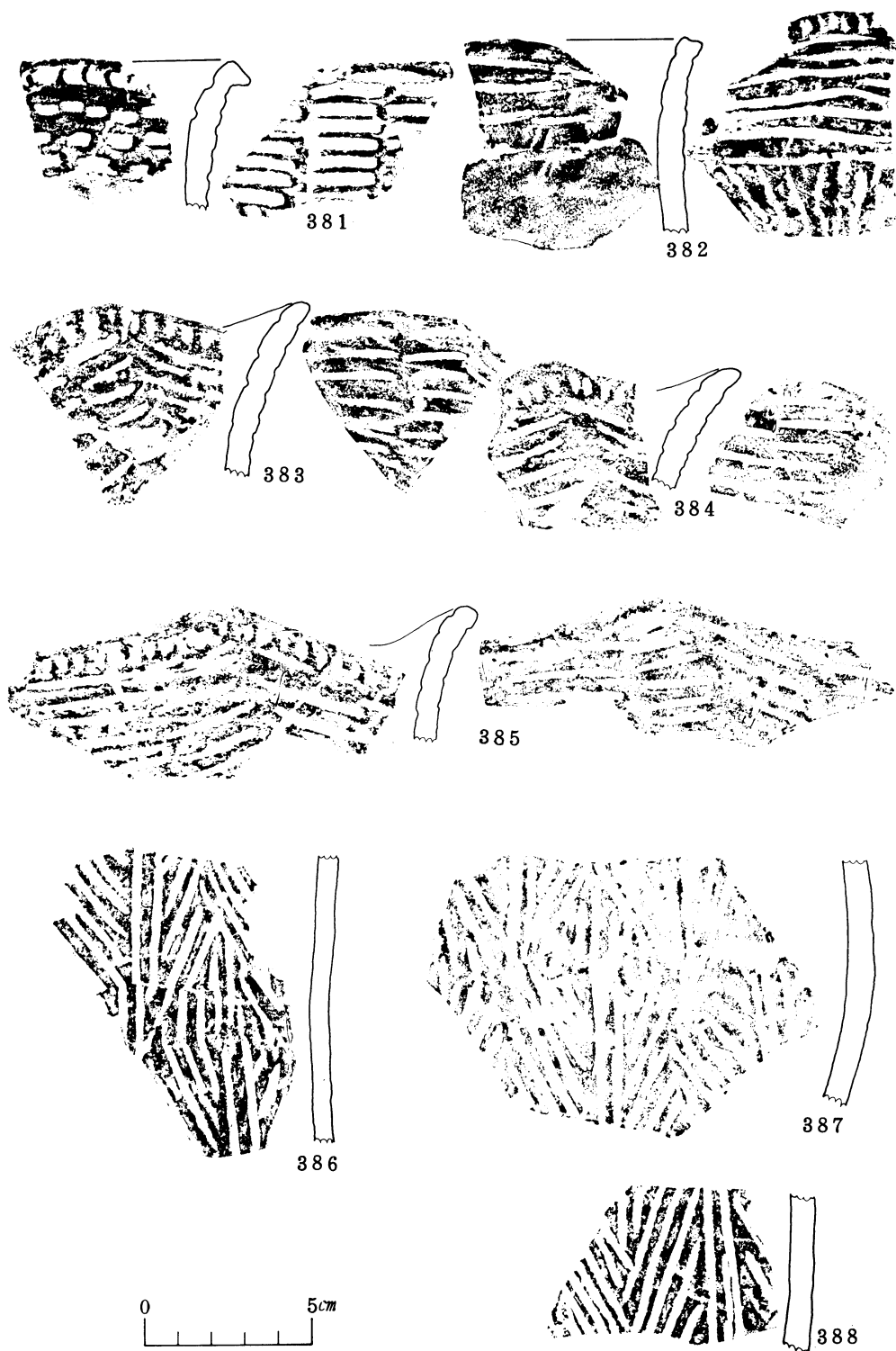
第142图 VII B 類土器実測図



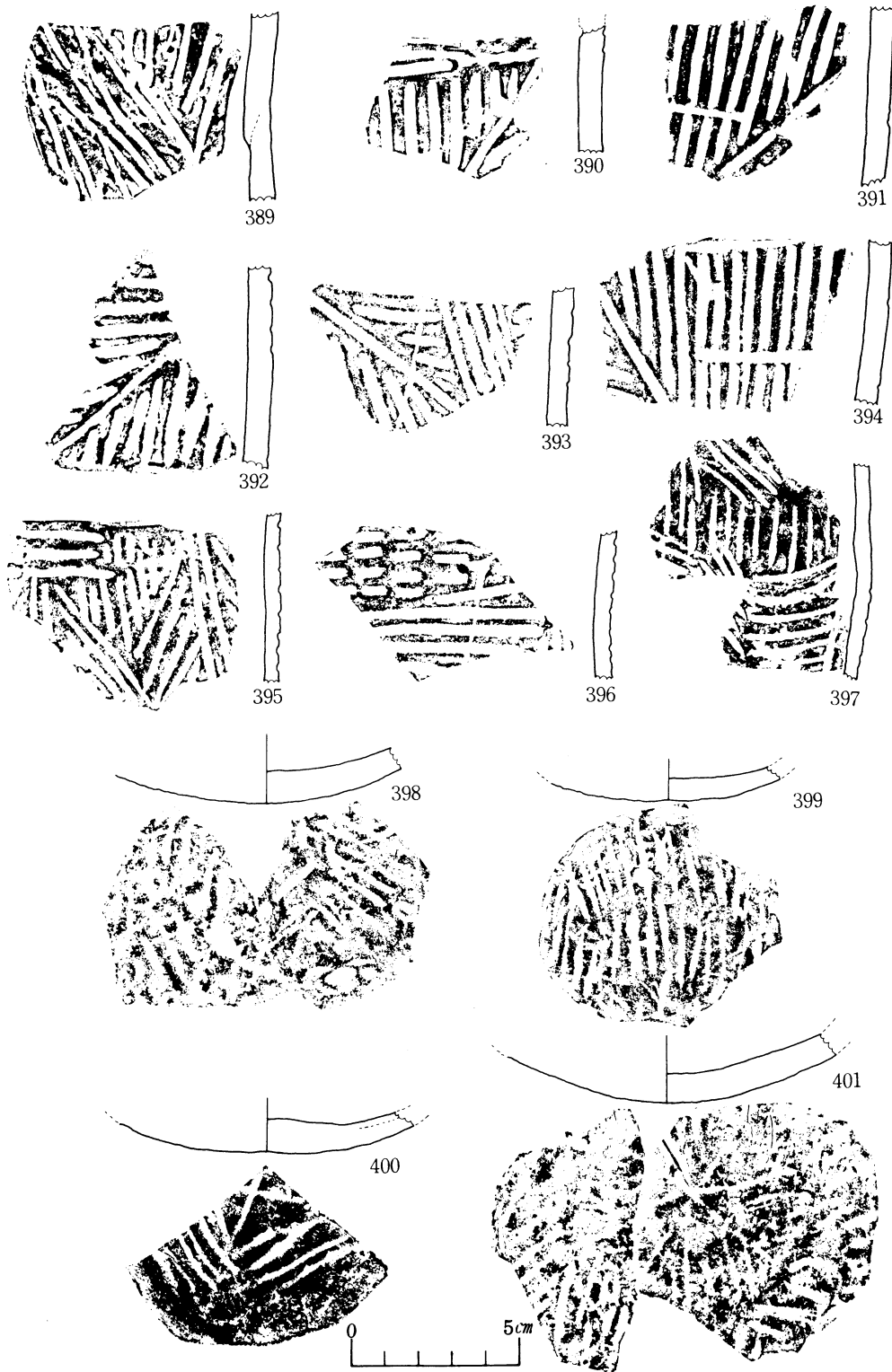
第143图 区類土器実測図



第144图 X類土器実測図 (曾畑式)



第145图 X類土器実測図(曾畑式)



第146图 X類土器実測図 (曾畑式)

第3表 土器一覽表

挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層
1	1	I-A		V	7	34	I-C	D-11	V	13	67	〃	I-8	V	16	100	〃	I-8	IV
〃	2	〃	I-6 F-9	〃	〃	35	〃	I-8	〃	〃	68	〃	I-7	〃	〃	101	〃	G-8 G-9	III IV
〃	3	〃	F-9	IV	〃	36	〃	I-9	〃	〃	69	〃	I-6	〃	〃	102	〃	G-8	V
〃	4	〃	?	V	〃	37	〃	〃	〃	〃	70	〃	I-9	〃	〃	103	〃	F-8	〃
〃	5	〃	F-8	〃	〃	38	〃	〃	〃	14	71	〃	I-11	〃	〃	104	〃	〃	〃
〃	6	〃	I-9	〃	〃	39	〃	〃	〃	〃	72	〃	F-12	〃	〃	105	〃	I-7	〃
〃	7	〃	I-8	〃	〃	40	〃	G-12	〃	〃	73	〃	I-9	〃	〃	106	〃	F-8	II
〃	8	〃	〃	〃	〃	41	〃	F-8	〃	〃	74	〃	〃	〃	〃	107	〃	I-9	V
〃	9	〃	F-9	〃	〃	42	〃	G-9	III	〃	75	〃	F-9	〃	〃	108	〃	I-6	〃
3	10	I-B	〃	〃	9	43	〃	I-9	V	〃	76	〃	F-11	〃	〃	109	〃	E-11	〃
4	11	〃	〃	〃	10	44	〃	〃	〃	〃	77	〃	F-10	〃	〃	110	〃	G-11	〃
〃	12	〃	I-7	〃	〃	45	〃	〃	〃	〃	78	〃	〃	〃	〃	111	〃	F-10	〃
〃	13	〃	F-10	〃	〃	46	〃	〃	〃	〃	79	〃	H-8	〃	〃	112	〃	I-6	〃
〃	14	〃	I-9	〃	〃	47	〃	G-11	IV	〃	80	〃	I-9	〃	〃	113	〃	〃	〃
〃	15	〃	F-9	〃	〃	48	〃	F-9	〃	15	81	〃	F-12	〃	18	114	〃	F-11	IV
〃	16	〃	〃	〃	〃	49	〃	E-12	I	〃	82	〃	G-11	〃	〃	115	〃	F-9	V
〃	17	〃	〃	〃	〃	50	〃	F-8	V	〃	83	〃	G-8	IV	〃	116	〃	F-8	III
〃	18	〃	E-11	〃	〃	51	I-D	F-7	〃	〃	84	〃	F-9	〃	〃	117	〃	I-9 I-7	V
5	19	〃	F-10	〃	〃	52	I-E	E-11	〃	〃	85	〃	I-7	V	〃	118	〃	G-11	〃
〃	20	〃	I-8	〃	〃	53	〃	〃	〃	〃	86	〃	F-8	〃	〃	119	〃	F-9	〃
〃	21	〃	F-9	〃	〃	54	I-F	F-10	〃	〃	87	〃	H-8	〃	〃	120	〃	I-9	〃
〃	22	〃	F-8	〃	〃	55	〃	I-11	〃	〃	88	〃	F-10	〃	〃	121	〃	G-12	〃
〃	23	〃	G-11	〃	12	56	I	I-9	〃	16	89	〃	I-9	〃	〃	122	〃	F-10	〃
6	24	I-C	I-9	〃	〃	57	〃	〃	〃	〃	90	〃	F-8	〃	105	123	II	E-11 F-11	Va
〃	25	〃	〃	〃	〃	58	〃	〃	〃	〃	91	〃	G-3 G-9	III IV	106	124	III A	B-16	〃
〃	26	〃	表採	I	〃	59	〃	〃	〃	〃	92	〃	G-8 G-9	III IV	107	125	〃	H-7	〃
〃	27	〃	I-11	V	〃	60	〃	〃	〃	〃	93	〃	F-9	V	〃	126	〃	No.45	〃
〃	28	〃	I-9	〃	〃	61	〃	D-11	〃	〃	94	〃	〃	〃	〃	127	〃	C-14	〃
〃	29	〃	G-8	〃	〃	62	〃	F-7	〃	〃	95	〃	F-8	〃	〃	128	〃	C-17	〃
〃	30	〃	F-10	〃	13	63	〃	F-10	〃	〃	96	〃	F-10	〃	〃	129	〃	D-15	〃
〃	31	〃	〃	〃	〃	64	〃	G-8	〃	〃	97	〃	G-7	〃	〃	130	〃	B-14	IV
〃	32	〃	I-5	IV	〃	65	〃	I-9	〃	〃	98	〃	E-13	I	〃	131	〃	〃	Va
7	33	〃	F-9	V	〃	66	〃	〃	〃	〃	99	〃	G-8 G-9	III IV	〃	132	〃	F-12	〃



插図	番号	類別	出土区	層	插図	番号	類別	出土区	層	插図	番号	類別	出土区	層	插図	番号	類別	出土区	層
107	133	Ⅲ A	E-5	V上	113	167	Ⅲ B	F-11	Va	120	201	Ⅳ A	D-11	Va	124	235	Ⅳ B	C-12	Va
108	134	〃	D-15	Va	〃	168	〃	B-12	Va	〃	202	〃	D-14	〃	〃	236	〃	F-12	〃
〃	135	〃	〃	〃	〃	169	〃	B-13	〃	〃	203	〃	D-11	〃	〃	237	〃	D-11	Ⅵ
〃	136	〃	B-17	Ⅲ	〃	170	〃	C-16	Ⅳ	〃	204	〃	〃	〃	〃	238	〃	B-12	Ⅲ
〃	137	〃	C-15	Va	〃	171	〃	C-15	Va	〃	205	〃	〃	〃	125	239	〃	B- <sup>12</sup> <sub>13</sub>	Va
〃	138	〃	〃	〃	〃	172	〃	E-10	〃	〃	206	〃	C-17	〃	〃	240	〃	F-12	〃
〃	139	〃	F-15	〃	114	173	Ⅳ A	D-12	〃	121	207	〃	D-15	Va	〃	241	〃	D-12	〃
〃	140	〃	C-15	〃	〃	174	〃	C-14	Ⅲ	〃	208	〃	D-11	Ⅳ	〃	242	〃	D-13	〃
109	141	〃	B-17	〃	〃	175	〃	D-11	Va	〃	209	〃	B-15	Va	〃	243	〃	F-12	〃
〃	142	〃	C-16	〃	〃	176	〃	G-13	〃	〃	210	〃	B-11	〃	〃	244	〃	C-13	Ⅵ
〃	143	〃	C-17	〃	115	177	〃	E- <sup>13</sup> <sub>B-13</sub>	Va Ⅳ	〃	211	〃	D-13	〃	〃	245	〃	F-11	Va
〃	144	〃	G-13	〃	〃	178	〃	D-14	Va	〃	212	〃	B-12	〃	〃	246	〃	D-13	〃
〃	145	〃	B-16	〃	〃	179	〃	D-11	〃	〃	213	〃	E-11	〃	〃	247	〃	D-11	〃
〃	146	〃	No.67	〃	〃	180	〃	E-12	〃	〃	214	〃	F-2	〃	126	248	〃	D-13	〃
110	147	〃	B-16	Va	〃	181	〃	C-15	〃	〃	215	〃	F-8	〃	〃	249	〃	B-13	〃
〃	148	〃	B-14	〃	〃	182	〃	〃	〃	122	216	〃	B-16	〃	〃	250	〃	C-12	〃
〃	149	〃	B-15	〃	〃	183	〃	F-12	〃	〃	217	〃	C-14	Va	〃	251	〃	B-14	Ⅵ
〃	150	〃	C-15	Va	〃	184	〃	〃	〃	〃	218	〃	G-10	Ⅳ	〃	252	〃	F-11	Ⅳ Va
〃	151	〃	D-14	Ⅳ	〃	185	〃	E-10	〃	〃	219	〃	B-14	Va	〃	253	〃	D-14	Va
〃	152	〃	E-15	Va	〃	186	〃	C-14	〃	〃	220	〃	B-16	Ⅳ	127	254	〃	〃	〃
〃	153	〃	C-15	〃	116	187	〃	B-13	〃	〃	221	〃	No.30	〃	〃	255	〃	B- <sup>13</sup> <sub>14</sub>	Va Ⅳ
〃	154	〃	D-14	Va	117	188	〃	D- <sup>11</sup> <sub>D-12</sub>	Va Va	〃	222	〃	B- <sup>14</sup> <sub>15</sub>	Va	〃	256	〃	F-14	Va
〃	155	〃	〃	Ⅵ	118	189	〃	〃	〃	123	223	Ⅳ B	D- <sup>11</sup> <sub>B-12:13</sub>	Va Va	〃	257	〃	〃	〃
〃	156	〃	B-14	〃	〃	190	〃	D- <sup>11</sup> <sub>F-12</sub>	Va Ⅲ下	〃	224	〃	D-13	Va	〃	258	〃	D-13	〃
111	157	〃	C-17	Va	119	191	〃	B-12	Ⅳ	〃	225	〃	B-14	〃	〃	259	〃	D-11	〃
〃	158	〃	C-15	〃	〃	192	〃	C-12	Va	〃	226	〃	C-12	〃	128	260	〃	F-11	〃
112	159	Ⅲ B	B-16	〃	〃	193	〃	E-12	〃	〃	227	〃	F-14	〃	〃	261	〃	〃	〃
〃	160	〃	B- <sup>16</sup> <sub>E-14</sub>	Ⅳ	〃	194	〃	B-12	Ⅳ	〃	228	〃	B-13	Ⅵ	〃	262	〃	D-11	Va
〃	161	〃	C-15	Va	〃	195	〃	C-15	Va	〃	229	〃	C-15	Va	〃	263	〃	F-11	〃
〃	162	〃	〃	〃	120	196	〃	〃	〃	〃	230	〃	C-12	〃	〃	264	〃	F-10	Ⅲ Va
113	163	〃	〃	〃	〃	197	〃	B-13	〃	〃	231	〃	C-13	〃	〃	265	〃	D-11	Va
〃	164	〃	B-16	〃	〃	198	〃	F-11	〃	〃	232	〃	B-13	Ⅳ	129	266	Ⅳ	F-11	〃
〃	165	〃	〃	〃	〃	199	〃	G-12	〃	124	233	〃	B-14	〃	〃	267	〃	D-12	〃
〃	166	〃	D-14	Ⅳ	〃	200	〃	C-12	Va	〃	234	〃	C- <sup>12</sup> <sub>15</sub>	Va	〃	268	〃	E-14	〃

挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層	挿図	番号	類別	出土区	層
129	269	ⅣB	C-15	Va	132	303	V	B-17	Va	137	337	ⅧA	D-12	Va	143	371	Ⅸ	C-12	Ⅵ
〃	270	〃	E-15	Va	〃	304	〃	C-15	〃	〃	338	〃	E-12	〃	〃	372	〃	C-13	〃
〃	271	〃	〃	I	〃	305	〃	B-17	Ⅳ	138	339	〃	D-13	〃	〃	373	〃	〃	〃
〃	272	〃	B-14	Va	〃	306	〃	C-16	〃	〃	340	〃	B-13	〃	〃	374	〃	〃	〃
〃	273	〃	〃	〃	〃	307	〃	B-12	〃	〃	341	〃	B-12	〃	144	375	X	E-10	Va
〃	274	〃	〃	Ⅳ	〃	308	〃	B-14	〃	〃	342	〃	B- <sup>16</sup> <sub>17</sub>	〃	〃	376	〃	E-11	〃
〃	275	〃	B- <sup>16</sup> <sub>17</sub>	〃	〃	309	〃	B-17	〃	〃	343	〃	F-14	〃	〃	377	〃	〃	Ⅲ
〃	276	〃	C-16	Ⅳ	〃	310	〃	B-15	Va	〃	344	〃	D-13	〃	〃	378	〃	F-8	〃
〃	277	〃	D-14	Va	〃	311	〃	D-15	〃	〃	345	〃	B-16	Ⅳ	〃	379	〃	D-11	Ⅳ
〃	278	〃	B-13	〃	〃	312	〃	No.21	〃	〃	346	〃	B-13	Va	〃	380	〃	E-11	Ⅲ
〃	279	〃	〃	Ⅳ	133	313	〃	C-15	Va	139	347	ⅧB	C-13	〃	145	381	〃	E-9	Ⅳ
130	280	V	C-14	〃	〃	314	〃	C-16	〃	〃	348	〃	C-12	Va	〃	382	〃	B-12	Ⅲ
〃	281	〃	C-15	Va	〃	315	〃	C-17	Ⅳ	〃	349	〃	B-14	〃	〃	383	〃	B-13	〃
〃	282	〃	C-16	Ⅳ	〃	316	〃	?	〃	140	350	〃	D-12	〃	〃	384	〃	〃	〃
〃	283	〃	B-17	Va	〃	317	〃	C-15	Va	〃	351	〃	B-13	〃	〃	385	〃	B-14	〃
〃	284	〃	〃	Ⅳ	〃	318	〃	D-13	〃	〃	352	〃	B-12	Va	〃	386	〃	E-11	Ⅴ Ⅲ下
〃	285	〃	C-16	Ⅳ	134	319	Ⅵ	G-13	〃	〃	353	〃	B- <sup>12</sup> <sub>13</sub>	Va	〃	387	〃	?	〃
〃	286	〃	B-16	Ⅲ	〃	320	〃	C-13	〃	〃	354	〃	D-12	Va	〃	388	〃	E-11	Ⅲ下
〃	287	〃	C-15	Va	〃	321	〃	E-11	〃	〃	355	〃	G-13	〃	146	389	〃	E-10	Ⅲ下
〃	288	〃	D-13	〃	〃	322	〃	F-17	〃	141	356	〃	F-12	〃	〃	390	〃	?	〃
〃	289	〃	C- <sup>14</sup> <sub>B-15</sub>	Va Va	〃	323	〃	E-15	I下	〃	357	〃	〃	〃	〃	391	〃	E-11	Ⅲ
〃	290	〃	C-15	Va	〃	324	〃	C-13	Va	〃	358	〃	C-15	〃	〃	392	〃	〃	Ⅲ下
131	291	〃	D- <sup>14</sup> <sub>15</sub>	Ⅳ Ⅴ	135	325	Ⅶ	G-13	〃	〃	359	〃	D-12	〃	〃	393	〃	〃	Ⅲ下
〃	292	〃	B- <sup>14</sup> <sub>C-14</sub>	Ⅳ Ⅲ	〃	326	〃	B-14	Ⅳ	〃	360	〃	F-11	〃	〃	394	〃	E-12	I
〃	293	〃	C-13	Va	〃	327	〃	〃	〃	〃	361	〃	D-12	〃	〃	395	〃	E-11	Ⅲ下
〃	294	〃	B-14	〃	〃	328	〃	B-14	Va	142	362	Ⅷ	D-11	〃	〃	396	〃	〃	Ⅲ下
〃	295	〃	F-11	〃	〃	329	〃	B-15	〃	〃	363	〃	B-13	〃	〃	397	〃	D-11	Ⅳ下 Ⅴ
〃	296	〃	C-17	〃	〃	330	〃	B- <sup>16</sup> <sub>17</sub>	〃	〃	364	〃	B-14	〃	〃	398	〃	E-11	Ⅲ下 Ⅳ
〃	297	〃	F-9	〃	136	331	ⅧA	B-13	Va	〃	365	〃	B- <sup>16</sup> <sub>13</sub>	〃	〃	399	〃	F-8	Ⅲ
〃	298	〃	C-15	Va	〃	332	〃	D-12	〃	〃	367	〃	D-13	Va	〃	400	〃	E-11	Va
〃	299	〃	C-14	Ⅳ	137	333	〃	D-14	〃	〃	368	〃	〃	〃	〃	401	〃	?	〃
〃	300	〃	B-17	〃	〃	334	〃	D-13	〃	〃	368	〃	B- <sup>12</sup> <sub>13</sub>	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	301	〃	No.66	〃	〃	335	〃	B- <sup>13</sup> <sub>14</sub>	〃	〃	369	〃	B-14	Ⅳ	〃	〃	〃	〃	〃
132	302	〃	B-17	Ⅳ	〃	336	〃	D-11	Va	143	370	Ⅸ	C- <sup>13</sup> <sub>14</sub>	Va	〃	〃	〃	〃	〃

## (2) 石 器

石器には、石鏃・石斧（磨製石斧・局部磨製石斧・打製石斧）・石匙・削器・剥片石器・石核・磨石・石皿などの出土がみられる。（注：縮尺 147～160は $\frac{1}{2}$ , 161～163は $\frac{1}{3}$ ）

### A 石 鏃（第1図 001～026）

26点の石鏃が出土しており、完形品14点、破損品12点である。石鏃には二等辺鏃15点、等辺鏃9点、他は破損品のため形態は不明であり、基辺の形状はそのほとんどが直線状を呈している。石材は黒曜石25点、赤色硅質岩1点が素材として用いられている。009は水洗、022は7号住居址内、他はすべてV層からの出土である。

石鏃の形状（形態）・破損状況・調整方法・重さ・長さ・厚さについてみると、石鏃の形状は無茎で二等辺鏃（003・005～007・011・013～015・018～002・024・026）、無茎で等辺鏃（002・008～010・016・017・023）とに大別され、破損品のため推定不可能なものは除外した。形態的には平基式（001～012・014・026）と凹基式（015～023）とに分けられ、013・024・025は基部欠損のため不明である。また、平基式の石鏃においては、基部が少々くぼむものも数点ふくまれる。凹基式の石鏃には浅いものと深いものがあり、深いものにはV字状とU字状をなすものがあり、浅いもの（016～017）・深いものでV字状のもの（020・023）・深いものでU字状のもの（015・018・022）とに分類される。側辺の形状は直線をなすものと中央がやや脹らむもの、窪むものに分けられ、直線をなすもの（001～003・006～008・010・011・013～016・018・022・024・025）・中央部がやや脹らむもの（005・012・017・019～023）・窪むもの（004・026）とがある。

石鏃の破損状況を見ると、26点の中で完形品は15点、その他の11点はいずれかの部分が破損している。破損部位を観察すると、先端部が破損しているもの（001・004・013・015）・基部が破損しているもの（010・016・022）・基部両脚が破損しているもの（012・013・015・024・025）・先端と基部の両脚が破損しているもの（013・015）とが認められる。

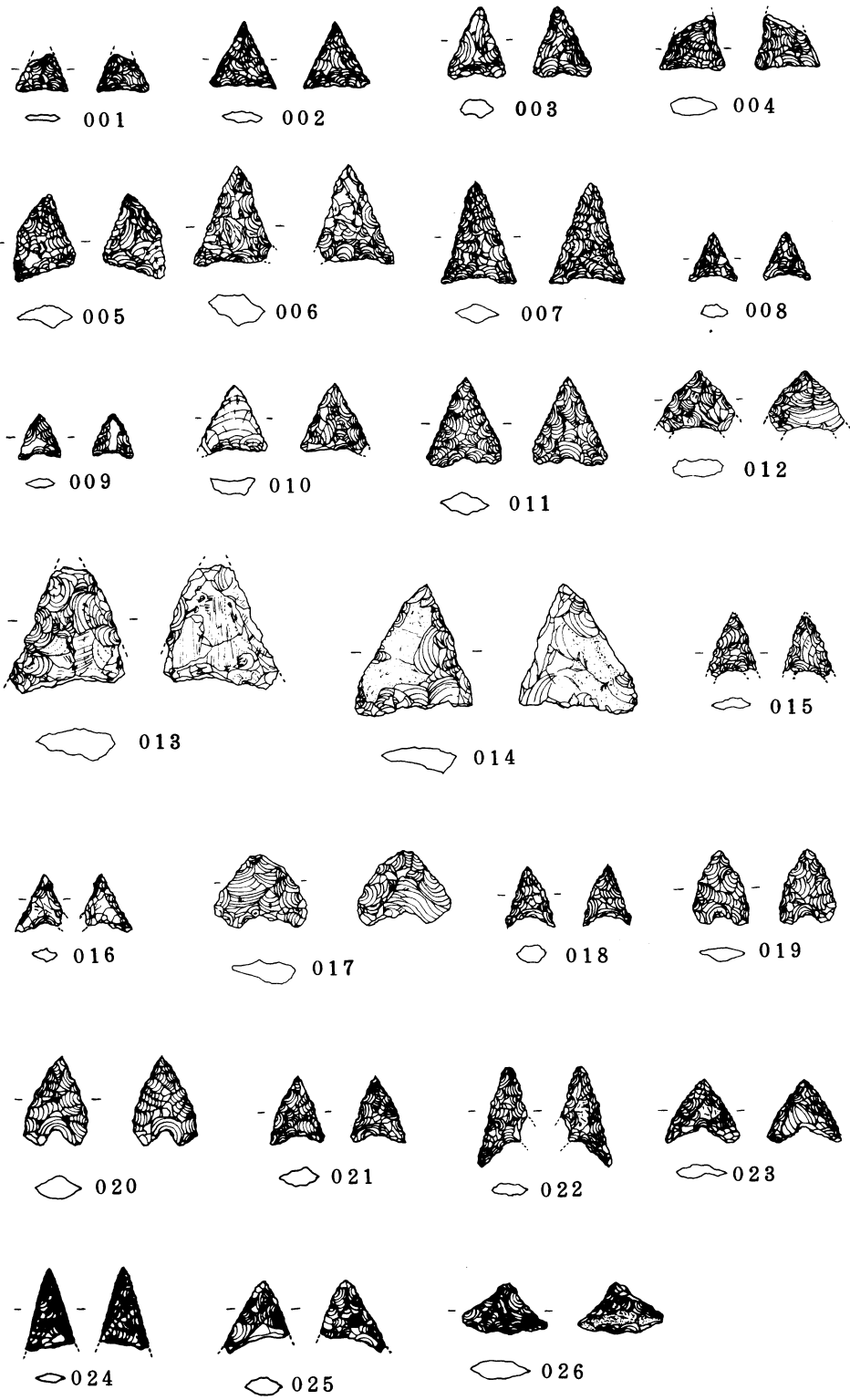
石鏃の調整方法は、そのほとんどが入念な交互剥離により加工調整されている。なかには主要剥離面を残し、簡単な調整を加えたもの（010・013・014・017）もみられる。

石鏃の欠損しているものを除き、重さ・長さ・厚さについてみると、重さは最大4.1g、最小0.15gの範囲内におさまり、0.15gから1.15gの範囲内に集中がみられる。長さは最大2.9cm、最小1.0cmの範囲内にあり、1.0cmから1.3cmまでの範囲内に集中している。厚さは最大0.6cm、最小1.0cmまでの範囲内にあり、0.4cmの厚さに集中がみられる。

これらの石鏃は、そのほとんどが黒曜石であり、良質な素材はみられず、大・中・小の三つの形態とがみられ、主要剥離を残し簡単な調整を加えたもの、端正に調整されたものも見られ、破損品も約半数を数えられる。

第4表 石器出土一覽表

図版番号	区・層	石器名	全 長 (長径)	最大幅 (短径)	厚 さ	重さ (g)	石 材	備 考
001	B-12・V	石 鏃	(0.85)	1.2	0.15	(0.15)	黒曜石	平基式
002	B-13・V	〃	1.5	1.5	0.25	0.35	〃	〃
003	D-12・V	〃	1.6	1.3	0.4	0.70	〃	〃
004	C-14・V	〃	(1.2)	1.5	0.4	(0.5)	〃	〃
005	F-15・V	〃	1.8	1.4	0.5	0.9	〃	〃
006	B-12・V	〃	2.5	(1.7)	0.7	(1.5)	〃	〃
007	E-9・V	〃	2.2	1.7	0.4	0.95	〃	〃
008	B-15・V	〃	1.1	1.0	0.3	0.2	〃	〃
009		〃	1.0	1.4	0.2	0.15	〃	平基式 水洗出土
010	B-16・V	〃	1.5	(1.4)	0.4	(0.7)	〃	〃
011	C-15・V	〃	1.95	1.6	0.5	0.87	〃	〃
012	C-14・V	〃	1.3	(1.6)	0.4	(0.75)	〃	〃
013	B-12・V	〃	2.8	(2.6)	0.7	(4.2)	〃	〃
014	B-14・V	〃	2.9	2.6	0.6	4.1	赤色硅質岩	〃
015	B-15・V	〃	(1.3)	(1.1)	0.2	(0.3)	黒曜石	凹基式
016	C-14・V	〃	1.2	(1.1)	0.3	(0.22)	〃	〃
017	C-14・V	〃	1.6	2.0	0.4	1.4	〃	〃
018	B-12・V	〃	1.3	1.2	0.4	0.4	〃	〃
019	F-12・V	〃	1.7	1.3	0.3	0.4	〃	〃
020	D-14・V	〃	1.95	1.45	0.5	1.0	〃	〃
021	B-15・V	〃	1.5	1.2	0.4	0.5	〃	〃
022	G-12・V	〃	(2.2)	(1.1)	(0.3)	(0.45)	〃	凹基式 7号住居址
023	E-9・V	〃	1.4	1.65	0.4	0.42	〃	凹基式
024	E-9・V	〃	(1.8)	(1.1)	(0.3)	(0.35)	〃	不明
025	C-13・V	〃	(1.6)	(1.4)	(0.4)	(0.55)	〃	凹基式
026	B-12・V	〃	1.1	1.9	0.4	0.7	〃	平基式
027	C-13・V	磨製石斧	7.9	3.0	0.8	31	粘板岩	
028	D-11・V	〃	8.0	(2.8)	(1.2)	(29)	安山岩	
029	C-15・V	〃	6.7	3.2	0.9	27	頁 岩	
030	E-14・V	〃	7.3	2.1	1.2	25	砂 岩	
031	E-14・V	〃	(6.7)	2.5	(1.5)	(46)	頁 岩	
032	C-15・V	〃	4.5	2.1	0.8	8.6	〃	
033	F-14・V	〃	6.3	2.9	1.4	34	〃	1号住居址



第147图 石器实测图(石鏃)

## B 磨製石斧（第2～5図 027～050）

24点の磨製石斧が出土しており、完形品15点、破損品9点である。037は表採品、その他はすべてV層で、033は1号住居址断面用トレンチ内より検出されている。石材は、粘板岩・安山岩・頁岩・砂岩・凝灰岩・蛇紋岩などがみられる。

磨製石斧の多くは完形品で、その形状（平面形・断面形）・重量・製作痕跡・使用痕跡・破損状況などについて見てみると、平面形は石斧の頭部・胴部・刃部について形態が観察できる。頭部の形態は、そのふくらみから丸味をもち胴部側縁との境が不明なもの（028・029・032～035・037～039・041・042・046～048）、やや平坦で胴部側縁との境に陵をもつもの（027・030・040・044・045）、破損のため不明なもの（031・043・049・050）とに分けられる。胴部の形態は、胴部側縁が胴部上半より胴部下半の幅が大きいもの（034・037・047・048）、胴部の側縁が胴部上半より胴部下半の幅が小さいもの（033）、胴部の側縁がほぼ平行のもの（027～032・035・036・039～042・044～046）・破損のため不明なもの（043・049・050）とに分けられ、推定可能なものについては、破損品ため不明なものより削除した。刃部の形態は、刃部が全体的に丸味をもつもの（027～033・037～042・044・047・049）、刃部中央部が直線的で両端刃縁が丸味をもつもの（036・041・043・045）破損のため不明のもの（034・035・046・048）とに分けられる。断面形は縦断面形のみで胴部について形態をみると、胴部が平行のもの（027・031・038～040・042・049）、胴部がわずかに脹らむもの（033・035～037・041・044・045・047）、破損のため不明のもの（028～030・032・034・043・048・050）とに分けられ、刃部の形態についてみると、中心線が刃縁を通るもの（028～032・036～038・040・042・050）、中心線が刃縁を通らないもの（027・039・041・043～045・047）、破損のため不明のもの（029・033～035・046・048・049）とに分類される。

石斧の重量・大きさは、完形品15点のみについて観察してみると、重量は最大重量141gから最小重量8.6gまでの範囲内にみられ、25gから39gまでと79gから95gまでの範囲に集中がみられる。大きさは、最大9.4cmから最小4.5cmまでの範囲にみられ、8.8cmから7.9cmまでの範囲内に集中がみられ、全体として小型のものが多く認められ、のみ状の石斧も観察される。

石斧の製作痕跡・使用痕についてみると、製作痕跡は、すべての石斧において研磨されているが、擦痕と研磨面が判明するもの（027・031・036・041・042・045・049）や、すべての石斧において、一部もしくは側縁及び両面ともに剝離面が認められ、風化のため器面が不明なもの（030・032・034）も認められる。使用痕跡についてみると、刃部欠損のもの（029・030・033～039・042・043・045～048・050）がみられ、刃こぼれ程度のものより破損状態の大きいものまで観察され、おそらく使用のため破損したものと考えられる。

石斧の破損状況についてみると、24点のうち破損品は9点みられ、いずれかの部分について破損している。刃部が破損しているもの（034・035・046・048）、頭部および胴部が破損

第5表 石器出土一覧表

図版番号	区・層	石器名	全長 (長径)	最大幅 (短径)	厚さ	重さ(g)	石材名	備考
034	C-15・V	磨製石斧	( 3.3)	( 2.4)	( 0.9)	( 9.2)	凝灰岩	風化がみられる
035	D-18・V	〃	( 6.5)	( 2.9)	( 1.6)	(38)	安山岩	
036	B-12・V	〃	8.7	4.2	2.7	59	〃	
037	表 採	〃	9.4	4.2	2.5	143	〃	表 採
038	C-15・V	〃	8.7	4.5	1.6	79	〃	
039	D-14・V	〃	9.4	4.1	1.6	104	〃	
040	C-15・V	〃	8.3	4.0	1.6	81	頁 岩	
041	H-11・V	〃	8.8	4.2	2.1	95	凝灰岩	
042	E-11・V	〃	6.1	3.5	1.2	39	蛇紋岩	
043	B-15・V	〃	( 3.7)	( 4.4)	( 1.4)	(19)	凝灰岩	
044	C-17・V	〃	8.5	3.8	2.1	85	〃	
045	I-7・V	〃	10.5	3.7	2.4	141	〃	
046	B-13・V	〃	( 8.7)	3.2	1.3	(56)	砂 岩	
047	B-13・V	〃	8.5	5.4	2.3	127	頁 岩	
048	F-12・V	〃	( 7.2)	( 5.0)	( 1.8)	(78)	安山岩	
049	C-12・V	〃	( 4.1)	( 3.2)	( 0.7)	( 9.0)	粘板岩	
050	D-12・V	〃	( 8.5)	( 7.7)	( 2.3)	( 200)	凝灰岩	
051	I-8・V	局部磨製 石 斧	13.6	5.3	2.6	233	砂 岩	
052	E-11・V	〃	14.9	7.1	3.2	499	安山岩	
053	F-11・V	〃	12.4	5.5	2.5	187.2	〃	風化している
054	B-16・V	打製石斧	22.0	10.2	4.2	1180	〃	
055	表 採	〃	(10.1)	4.1	2.0	(122.6)	凝灰岩	
056	B-14・V	〃	( 8.5)	3.9	1.4	(59.2)	安山岩	風化している
057	O-12・V	石 匙	5.0	6.5	1.2	35	玄武岩	
058	B-12・V	〃	5.6	4.3	1.2	185	黒曜石	
059	C-12・V	〃	4.0	5.7	1.0	16.7	安山岩	風化している
060	F-11・V	〃	5.6	4.2	1.0	23	砂 岩	
061	G-9・V	〃	4.8	2.6	0.9	11	玉 髓	
062	D-13・V	〃	5.8	3.2	0.9	14	砂 岩	
063	C-13・V	〃	5.3	8.3	2.3	61	〃	
064	D-11・V	削 器	5.8	7.0	1.4	49.1	安山岩	
065	O-12・V	〃	8.2	4.6	9.0	36.4	〃	
066	C-17・V	〃	7.8	4.1	1.7	39.7	〃	

しているもの（028・031・043・049・050）とが認められる。

### C 局部磨製石斧（第5図 051～053）

3点の局部磨製石斧が出土し、ともにV層である。石材は砂岩・安山岩であり、053は風化がみられる。051は、長さ13.6cm、最大幅5.3cm、厚さ2.6cm、重さ233gを計り、砂岩を利用している。胴部の形態は胴部側縁が胴部上半より胴部下半の幅が大きく、刃部の形態は全体的に丸味をもち、中心線が刃縁を通っていない。磨面は、両面の一部に観察され、両面ともに研磨面に擦痕が認められる。052は、長さ14.9cm、最大幅7.1cm、厚さ3.2cm、重さ499gを計り、安山岩を利用している。胴部の形態は、胴部側縁が胴部上半より胴部下半の幅がやや大きく、刃部の形態は全体的にやや丸味をもっているが、刃こぼれが両面ともに認められ、中心線が刃縁を通っていない。両面ともに研磨部分のほとんどに擦痕が観察される。053は、長さ12.4cm、最大幅5.5cm、厚さ2.5cm、重さ187.2gを計り、安山岩を用いているが風化が認められる。胴部の形態は胴部側縁が胴部上半より胴部下半の幅が大きく、刃部の形態は全体的に丸味をもち、中心線が刃縁を通っていない。製作痕跡は石材が風化しているため不明である。

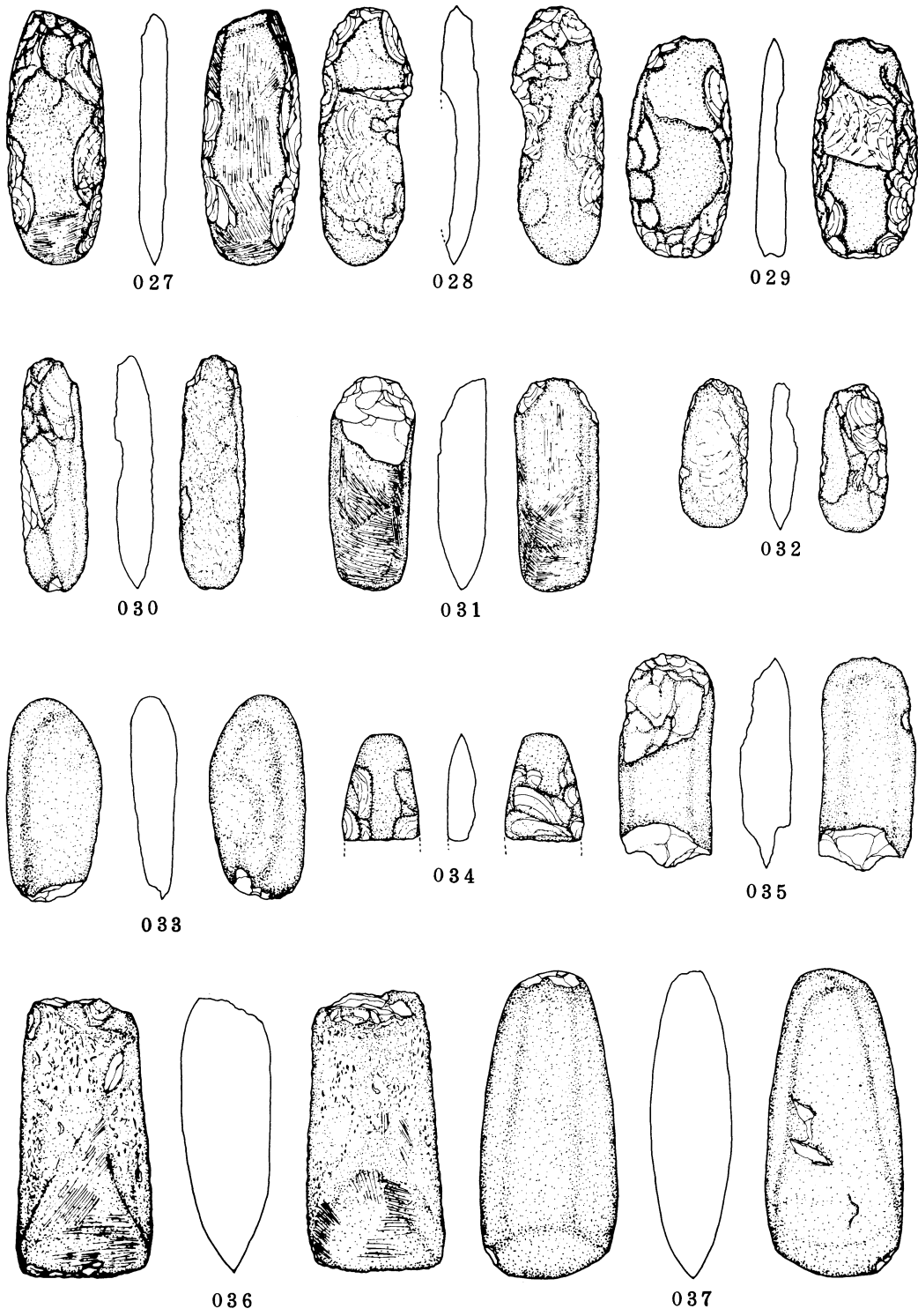
### D 打製石斧（第5図 054～056）

3点の打製石斧が出土し、054と056はV層で、055は表採品である。055・056は刃部欠損が認められる。石材は安山岩・凝灰岩である。054は長さ22.0cm、最大幅10.2cm、厚さ4.2cm、重さ1180gを計り、石材は安山岩を利用し、大型であり、本遺跡の石斧中でいちばん大きい石斧である。両面ともに自然面を一部に残し、大小の剝離調整により成形されている。胴部の形態は、胴部側縁がわずかに脹らみ、刃部は両面ともに剝離痕が観察されるが、使用痕との判別は不明である。055は表採品で、石材は凝灰岩を利用している。この石斧は長さ10.1cm、最大幅4.1cm、厚さ2.0cm、重さ122.6gを計り、両面ともに一部に自然面を残し、大小の剝離により調整され、小型である。胴部の形態は、胴部側縁がわずかに脹らみ、刃部は欠損している。056は、長さ8.5cm、最大幅3.9cm、厚さ1.4cm、重さ59.2gを計り、石材は安山岩を利用しているが風化がみられる。両面ともに自然面を残しており、特に片面の中央付近は頭部より刃部付近にかけて自然面が大部分に観察され、大小の剝離により調整されている。胴部の形態は、胴部の側縁がほぼ平行で、刃部は欠損している。

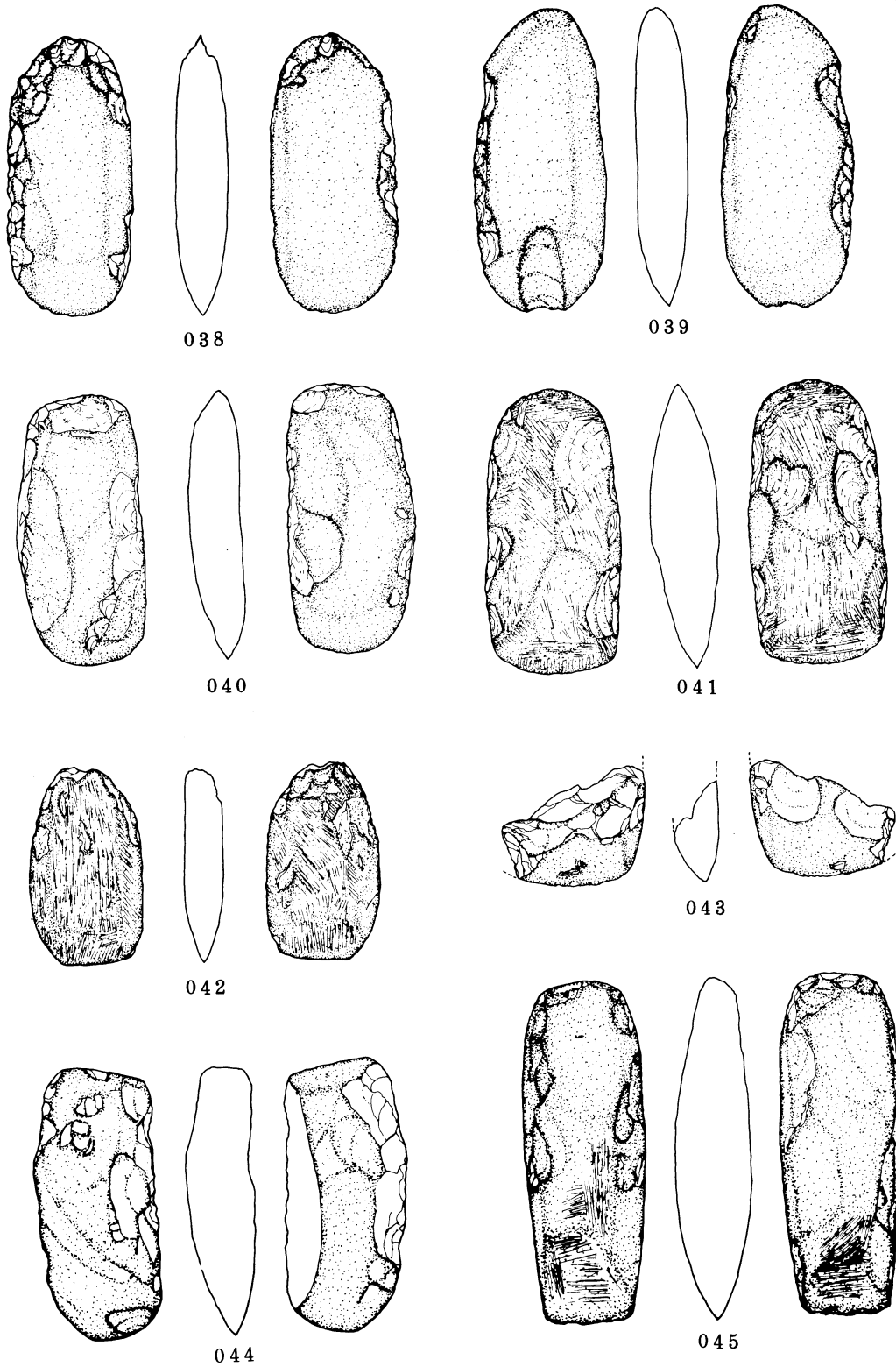
### E 石匙（第6図 067～063）

7点の石匙が出土し、すべてV層である。石材は、玄武岩・黒曜石・砂岩・玉髓で、多種の素材を利用している。形状は057・059・063は横形、058・060～062は縦形である。058は、つまみ部軸線が中央を通らないが、他はつまみ部が中央にある。057は、玄武岩でつまみ部が幅広く、三つの縁辺から構成され、主要刃部の角度は22度である。大きい剝離痕を残した剝片を利用し、つまみ部上面に自然面を残している。058は、気泡の多い黒曜石の縦長の剝片を用い、

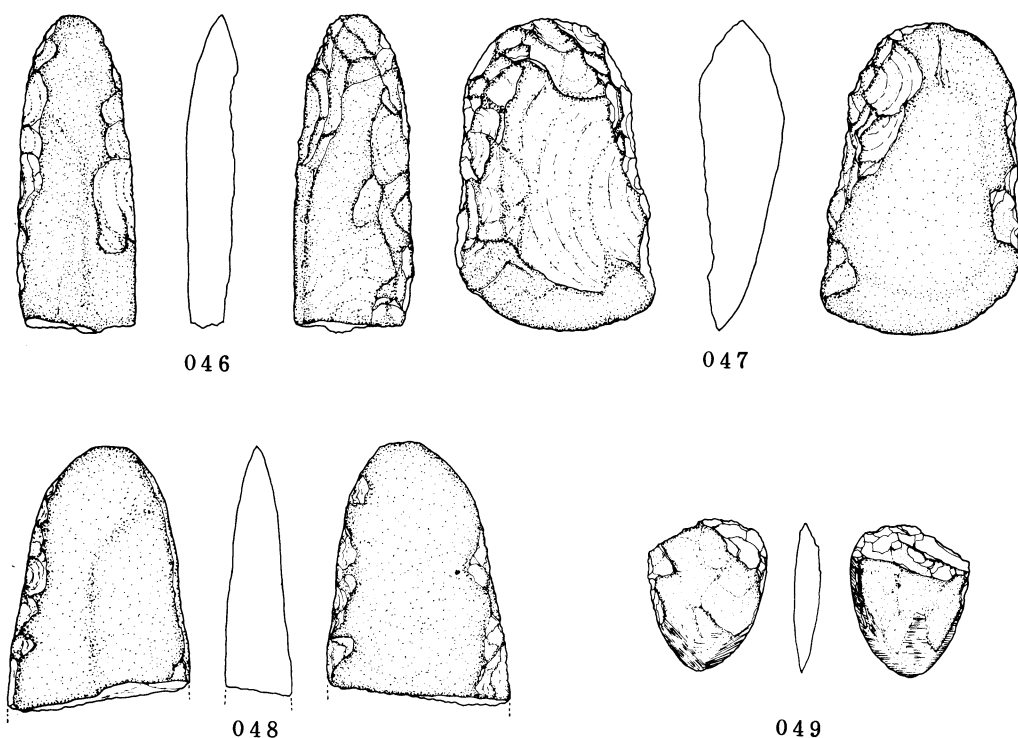




第148図 石器実測図(磨製石斧 I)

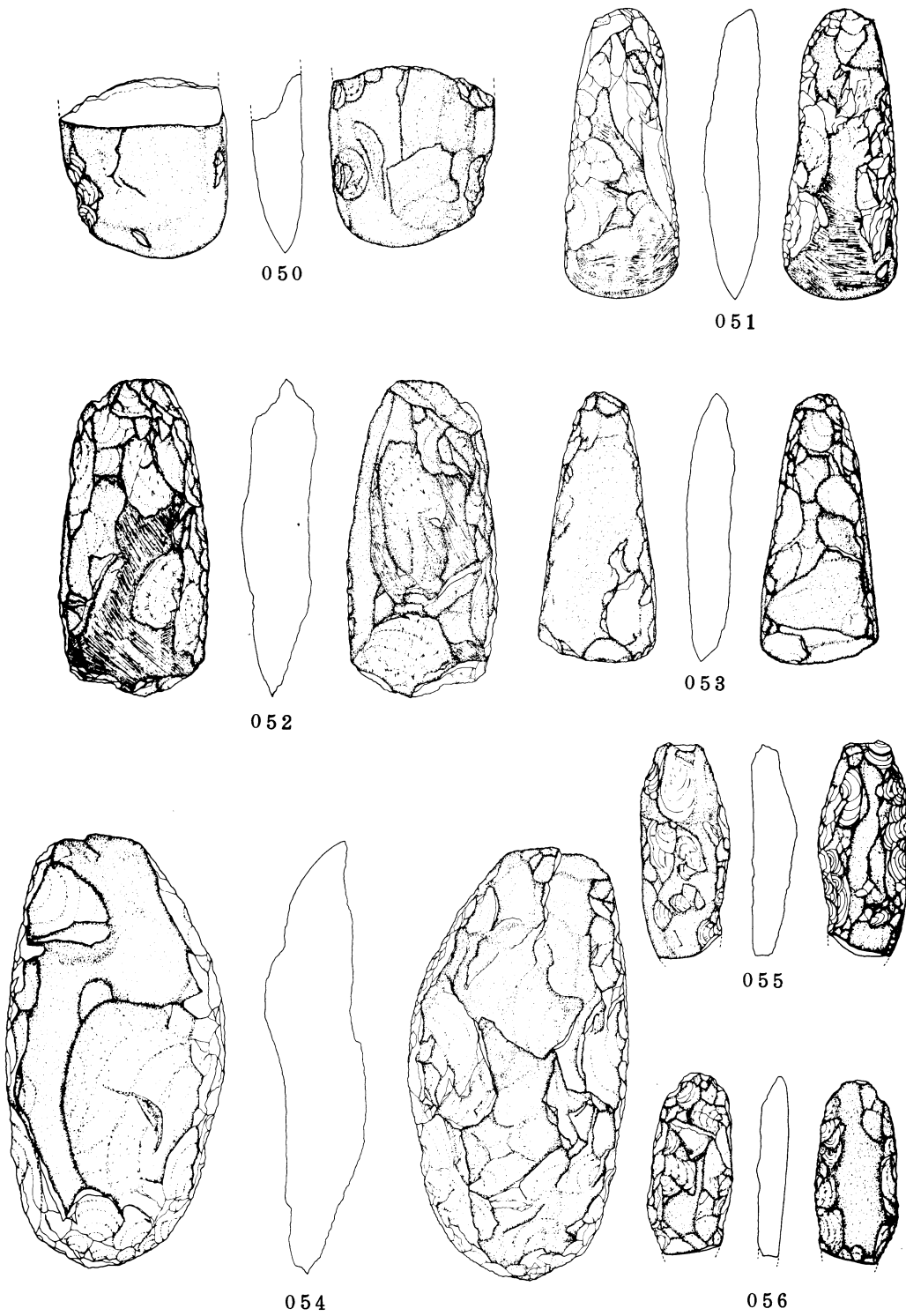


第149图 石器实测图 (磨製石斧 II)



第150図 石器実測図(磨製石斧Ⅲ)

片面に自然面を残している。主要刃部は二つの縁辺からなり、一方が22度、片方が28度であり、細かい剥離により加工調整がなされている。059は、安山岩で風化がみられるため剥離痕は主要刃部をふくめ鋭利さが欠けている。つまみ部は簡単なつくりで幅が広く、刃部は湾曲しており、刃部の傾きは一方が9度、片方が26度である。060は、砂岩で縦長の石匙である。つまみ部上端と片面に自然面を残した剥がが素材として用い、刃部構成は三つの縁辺からなり、特に一つの側縁のみを主要刃部としたものか加工痕が観察される。石材のためか加工痕は鋭利でない。061は、玉髓で縦長の石匙で、両面ともに自然面を多く残し、縁辺のみに細かい剥離により調整加工されている。刃部は三つの縁辺から構成され、主要刃部は二つの縁辺に認められる。つまみ部はやや幅広く、上端は平坦面を作り出している。062は、砂岩で縦長な石匙で、うすい剥片を用い、刃部は三つの縁辺から構成され、主要刃部は一つの縁辺のみに観察される。また側縁辺の一つには自然面が認められる。つまみ部は簡単なつくりで、上端は平坦面をつくり、えぐりは片方だけが深く、他方は自然面を利用している。063は、砂岩で横形の石匙で、これらの石匙の中で、形状及び厚さともに大きい。つまみ部は幅広く、えぐりは簡単につくり、上端には自然面を多く残している。主要刃部は、わずかに湾曲しており、刃部の傾きは、一方が



第151图 石器实测图 (磨製石斧Ⅳ·局部磨製石斧·打製石斧)

第6表 石器出土一覧表

図版番号	区・層	石器名	全長 (長径)	最大幅 (短径)	厚さ	重さ(g)	石材	備考
067	E-1・V	削器	5.2	5.5	1.1	18	玉髓	
068	C-15・V	〃	7.3	7.8	2.0	95	安山岩	
069	C-14・V	〃	5.5	5.2	1.8	17.9	〃	
070	C-9・V	〃	6.7	4.8	1.1	27.7	〃	
071	D-11・V	〃	5.0	9.4	1.0	34.5	玉髓	
072	D-11・V	〃	6.6	9.0	1.3	32.5	〃	
073	不明	〃	9.2	7.8	2.3	22.0	安山岩	
074	E-9・V	〃	5.8	7.5	1.8	39.7	玉髓	
075	C-15・V	剥片	7.0	4.5	2.0	36.4	黒曜石	
076	B-13・V	〃	3.6	3.3	0.8	8.5	〃	
077	F-14・V	〃	3.9	3.5	0.7	8.75	赤色珪質岩	1号住居址
078	E-18・V	〃	3.8	3.6	1.0	13.2	黒曜石	
079	F-1・V	〃	4.9	3.65	0.9	12.5	玉髓	
080	D-14・V	〃	2.4	3.3	0.6	4.0	黒曜石	
081	C-14・V	〃	4.3	2.4	1.3	12.0	〃	
082	C-14・V	〃	3.2	2.0	0.8	4.25	〃	
083	C-7・V	〃	2.9	1.6	0.5	1.7	〃	
084	B-14・V	〃	3.4	3.0	1.0	9.0	〃	
085	B-14・V	〃	3.0	3.05	0.9	9.7	〃	
086	D-14・V	石核	3.1	3.4	3.5	36.1	〃	
087	E-18・V	〃	5.2	4.6	3.6	73.7	〃	
088	B-11・V	磨石	8.7	5.3	3.2	230	安山岩	風化がみられる
089	F-10・V	〃	10.2	7.3	3.4	465	〃	
090	G-12・V	〃	(4.1)	(8.4)	(5.1)	(200)	〃	
091	B-14・V	〃	10.3	6.8	3.1	360	〃	
092	B-11・V	〃	9.5	5.9	3.5	340	〃	
093	B-13・V	〃	(7.0)	(6.0)	3.9	(240)	〃	風化がみられる
094	B-11・V	〃	9.7	6.7	3.9	420	花崗岩	
095	F-11・V	〃	11.7	7.6	5.1	725	安山岩	
096	D-14・V	〃	10.3	7.8	4.0	500	〃	
097	B-14・V	〃	(6.6)	(7.0)	(3.4)	(200)	〃	
098	B-13・V	〃	9.5	7.4	4.5	475	〃	
099	E-10・V	〃	10.6	(7.2)	(5.1)	(415)	〃	

9度、片方が31度である。

#### F 削 器 (152図—064～066, 第153図—067～075)

削器は11点の出土がみられ、そのほとんどがV層で、073は不明である。石材は安山岩7点と玉髄4点が素材として利用している。

削器の平面形を観察すると、形状は定形化した剥片は認められないが、片面および両面の一部に自然面を残した剥片を用いたもの(067・071・072・074)、扁平で大きい剥離面を残した剥片を用いたもの(064～066・068～070)、板状の剥片を用いたもの(073)とに大別されている。

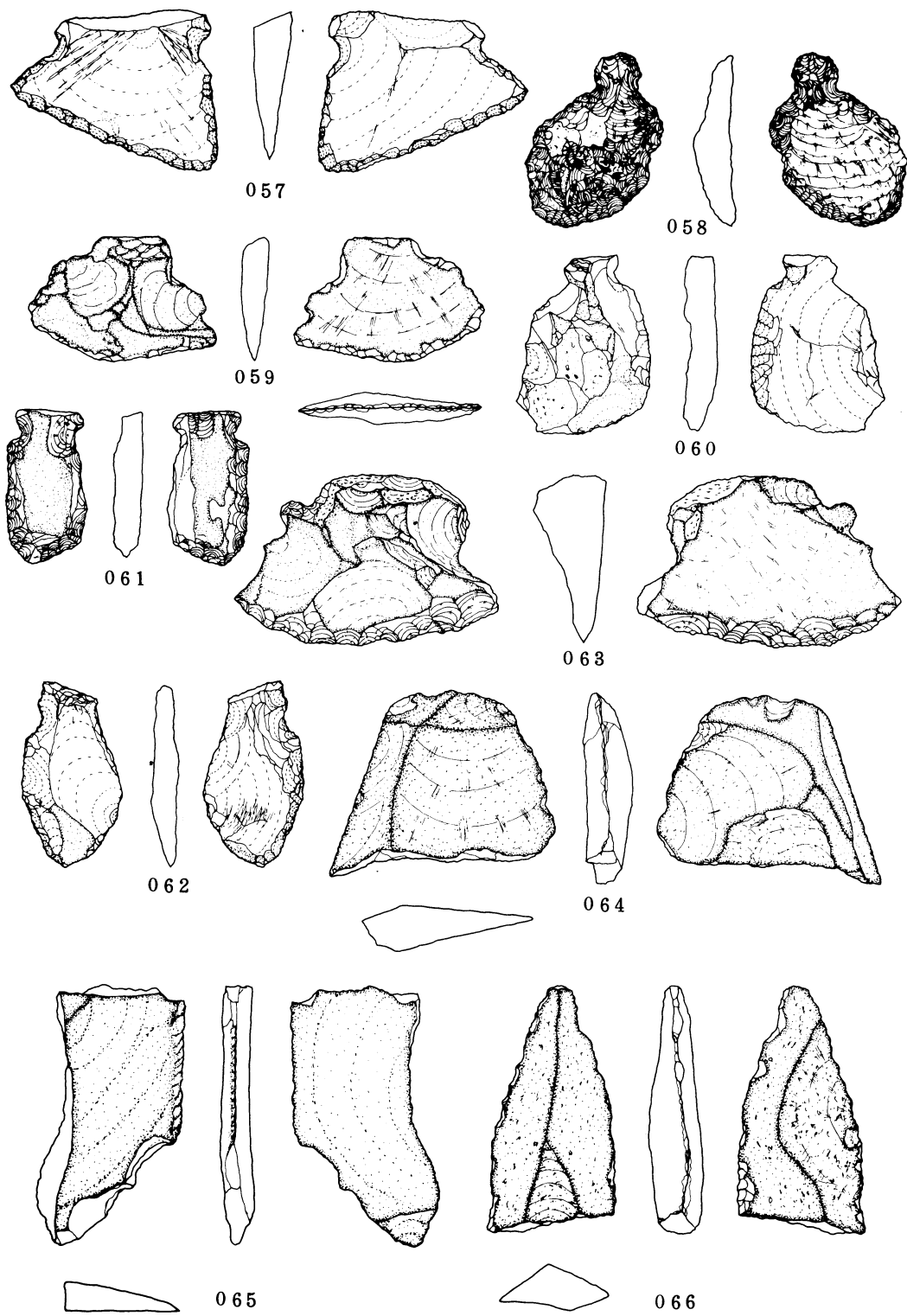
削器の大きさ・重量・製作痕跡及び使用痕跡などについてみると、削器の大きさは、最大長径9.2cm、最大短径9.4cmの最小長径5.0cm、最小短径4.1cmの範囲内におさまり、最大のもは9.2cm×7.9cm(073)、最小のもは5.2cm×5.5cm(067)である。これらの削器は長径8.2cmから6.6cmと5.8cmから5.0cmまでと短径7.8cmから7.0cmと短径5.5cmから4.1cmまでの範囲に集中がみられる。重量についてみると、最大重量95g、最小重量17.9gの範囲内におさまり、39.7gから17.9gの範囲に集中がみられる。削器の製作痕及び使用痕についてみると、製作痕跡と使用痕との区別は判別されがたい。刃部について観察すると、刃部が片面だけに観察されるもの(065・069・073)、両面にあるもの(064・066～072・074)とに分けられ、石材の特有性から(067・071・072)は刃部が明瞭に観察され、他の石器には刃こぼれ程度のも(064・069・074)も認められる。

#### G 剥 片 (第154図—076～085)

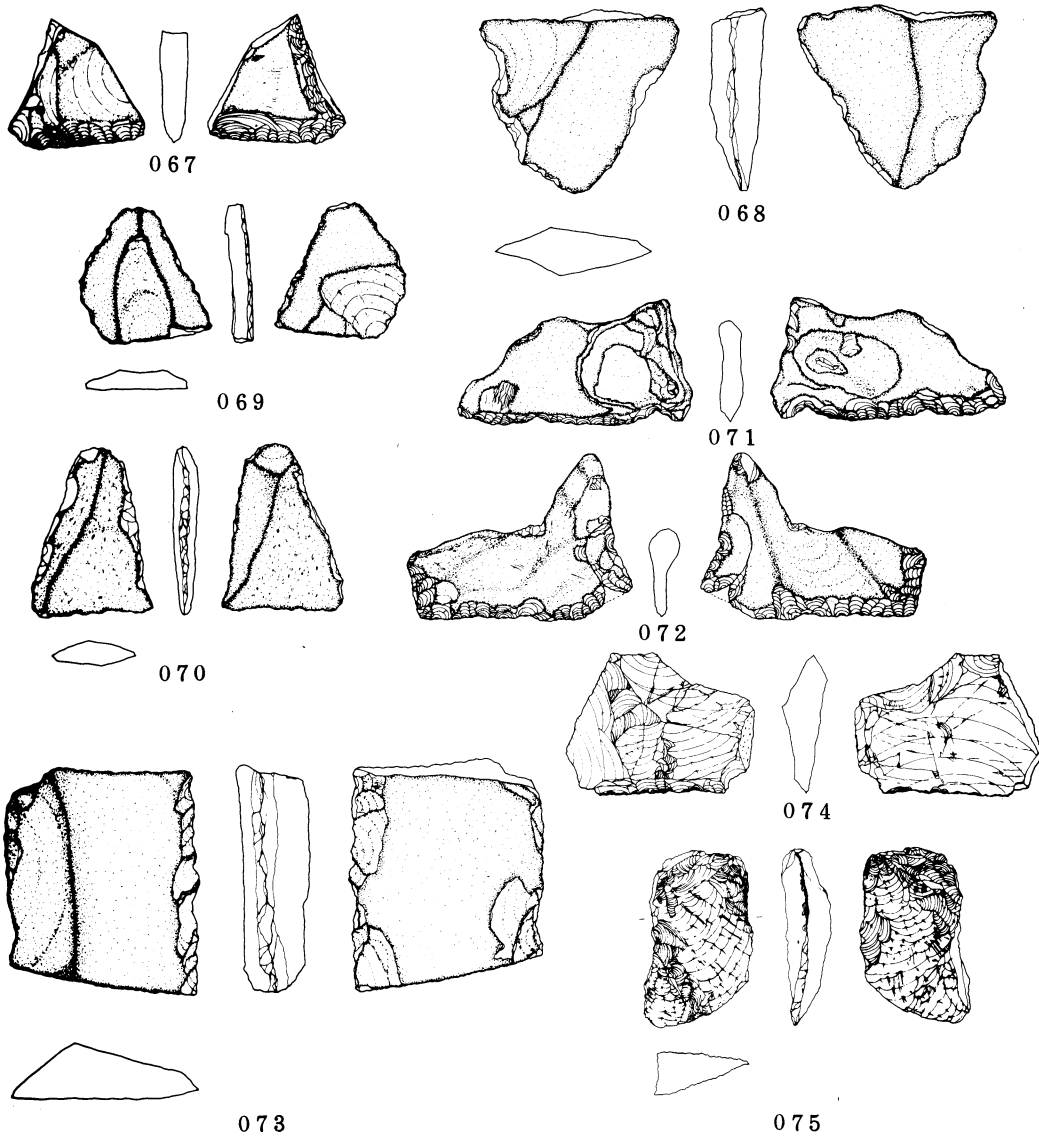
本遺跡においては、V層遺物包含層より黒曜石製の剥片や碎石が多量に出土した。077は赤色硅質岩、079は玉髄、他はすべて黒曜石製である。黒曜石の石材は、ほとんど悪く気泡が多いため定形化した剥片は少なく使用痕のある剥片と加工痕のある剥片のみを取りあげた。

使用痕のある剥片は(075～080・082・083)の8点がみられ、ともにV層の出土である。075はC-15区で、両面に使用痕が観察され、断面は二等辺三角形状を呈している。076は、B-13区で、両面は刃こぼれ程度の使用痕が認められる。077は、赤色硅質岩の素材が用いられ、本石材は石鏃をふくめて2例である。F-14区で1号住居址内より出土している。片面1ヶ所ずつに刃こぼれ程度の使用痕が認められる。078は、片面の一部に自然面を残している。片面の一部に使用痕が認められるが鋭利さは欠けている。079は、F-1区で、石材は玉髄が用いられている。片面の一部に自然面を残し、両面に刃こぼれ程度の使用痕が観察される。080はD-14区で、両面にわずかに使用痕が認められる程度である。082はC-14区で、片面には気泡が多く観察され、両面の一部に刃こぼれ程度の使用痕が認められる。083は、C-7区で、縦長の素材を用い、片面に刃こぼれ程度の使用痕が認められ鋭利である。

加工痕のある剥片(081・084・085)は3点みられ、ともにV層の出土である。3点とも



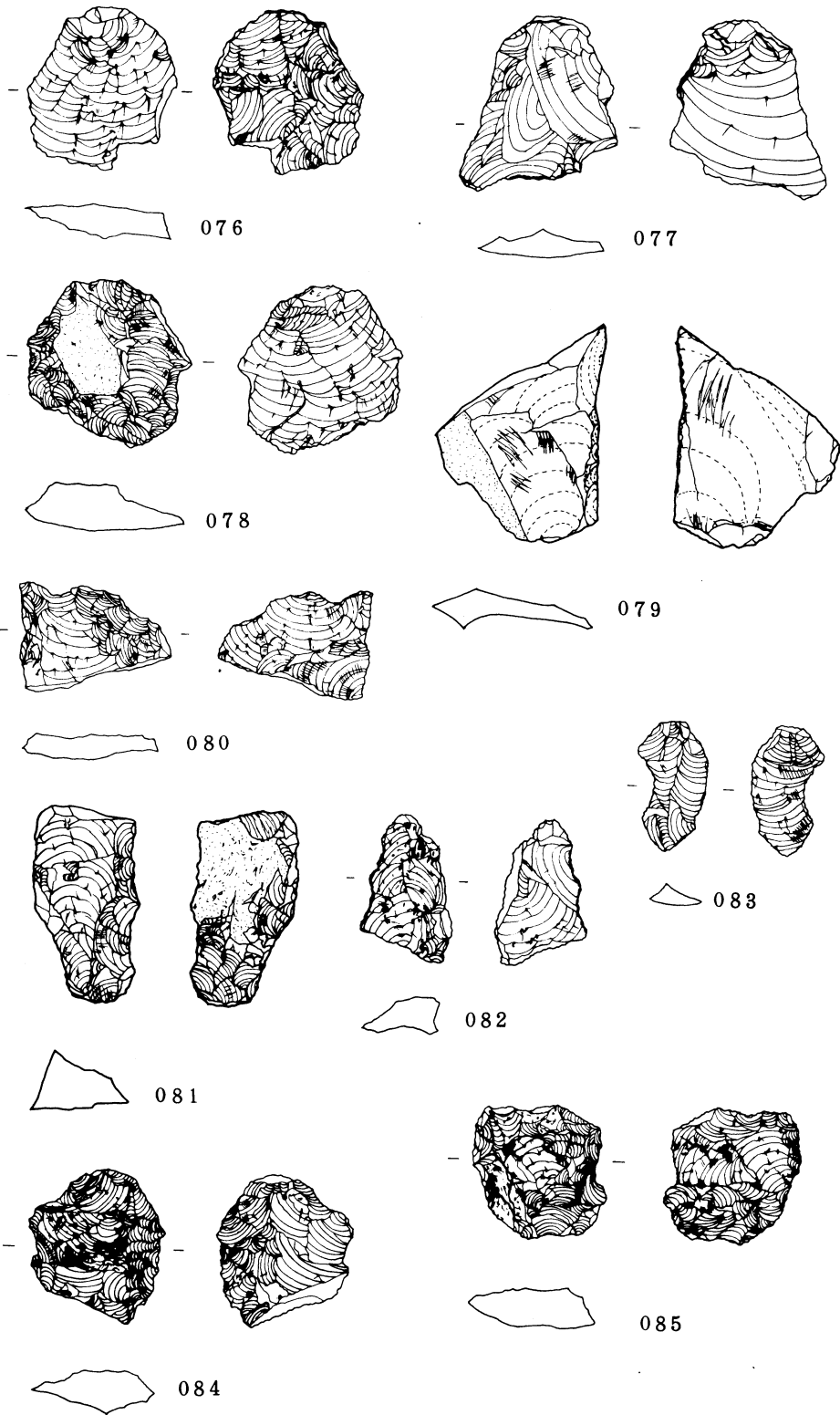
第152图 石器实测图 (石匙·削器 I)



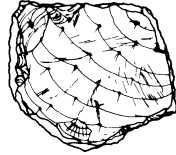
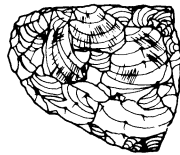
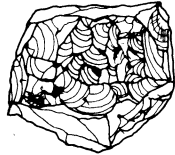
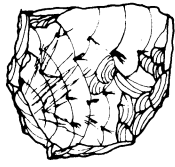
第153図 石器実測図(削器Ⅱ)

に削器と思われるが、ここでは剥片の中に入れた。石材は3点ともに黒曜石である。081は、C-14区で、縦長の剥片で大小の剥離により調整加工され、一部自然面を残している。084はB-14区で、石材が悪く気泡が多く、大小の剥離により調整加工が観察される。085は、B-14区で、両面に気泡が多く認められ、大小の剥離により調整加工され、片面の一部に自然面を残している。

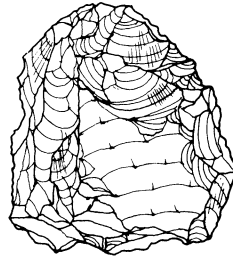
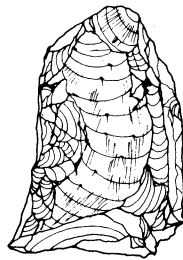
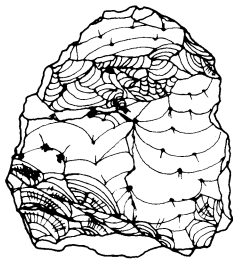
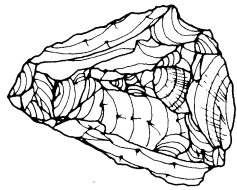




第154图 石器实测图 (剥片)



086



087

### 第155図 石器実測図(石核)

#### H 石核 (第155図 086・087)

石核は2点出土し、ともにV層で、黒曜石である。打面調整はなく、剝離面にも一定方向は見られない。石材は良質でないためか階段上の剝離が出来あがっている。086は、D-14区でプラットホームは平坦になり、打面調整は特に見られない。087は、E-18区で、086同様に石材のためか階段上の剝離が観察され、プラットホームは平坦ではない。

#### I 磨石 (第156～第160図-088～128)

磨石は41点出土している。完形品22点、破損品19点で、すべてV層である。石材は安山岩・

花崗岩・溶結凝灰岩・輝石安山岩・黒曜石などの素材が用いられ、そのほとんどが安山岩である。

磨石の完形品についての形態は、平面形および断面形につき観察すると、そのほとんどが楕円形を基本とし、平面形及び断面形の一部がほぼ直線的になるものも多く認められる。これらの磨石について、大きさ・重量・磨面・敲打痕及び凹部を含む製作痕跡・使用痕についてみると、磨石の大きさは完形品のみで観察してみれば、最大長径11.7cm，最大短径9.6cm，最小長径4.7cm，最小短径3.7cmの範囲内におさまり、最大のもは11.7cm×7.6cm（096），最小のもは4.7cm×4.0cm（126）である。これらの磨石は、長径11.7cmから8.0cmのもの（088・089・091・092・094～096・098・106・108・109・111・113・116・117・119・124）と長径6.2cmから4.7cmのもの（125～128）との範囲におさまる二つのタイプに分類できる。また、破損品を含め平面形の形態から観察してみると、平面形がほぼ直線的になる（石ケン状）もの（088～108）と楕円形状になるもの（109～128）とに形状より大別される。

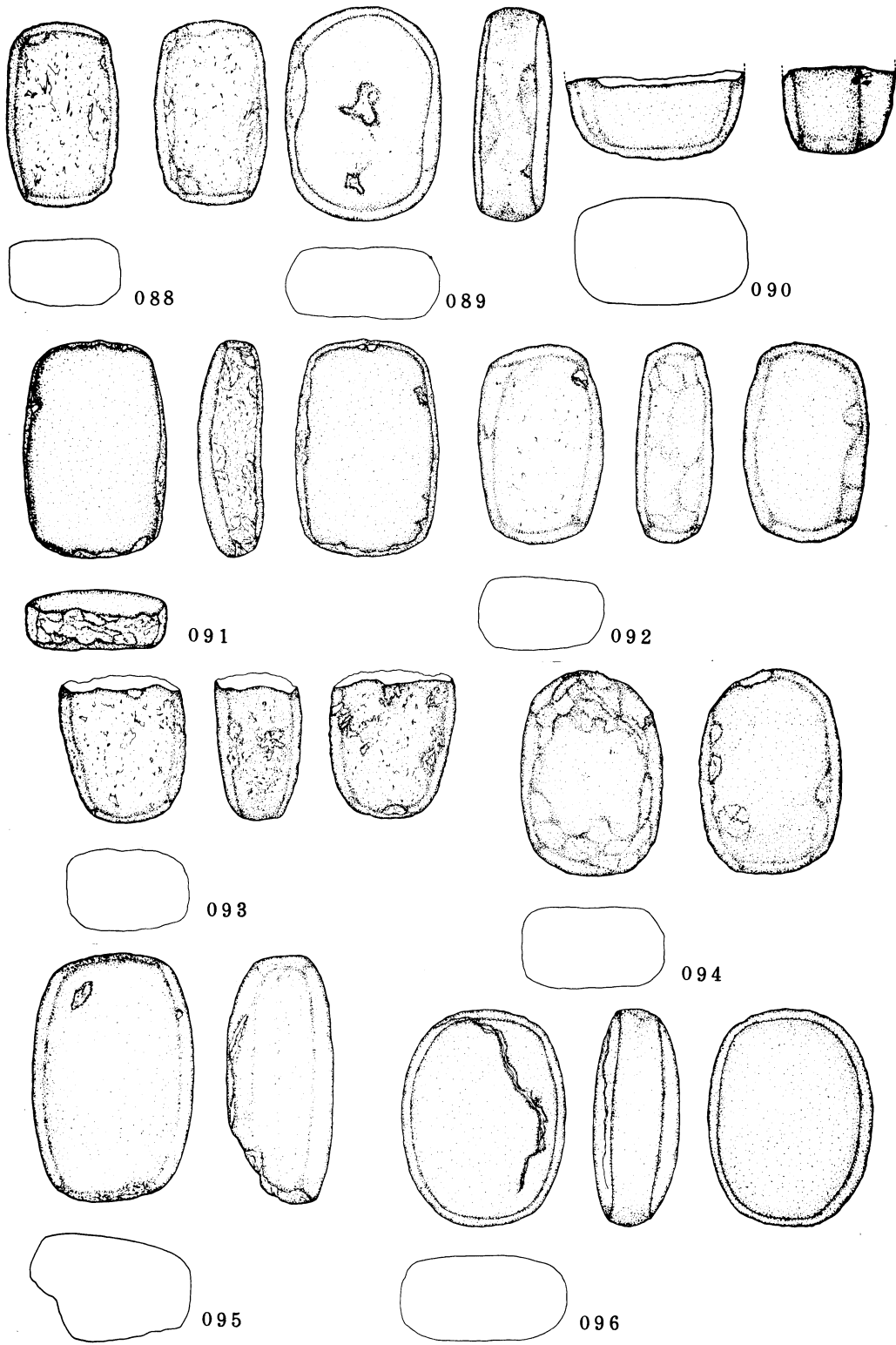
磨石の重量は、完形品でみると、最大重量785g（116），最小重量62.5g（126）の範囲内におさまり、325gから500gの範囲に集中がみられる。

磨石の製作痕及び使用痕についてみると、風化のため判明しがたいものも認められるが、はっきりと研磨が認められるのが多くみられる。研磨面は、磨石の両面・両側面・両端などに観察され、わずかに磨り減った状態のものと稜線が判明するほど磨り減った状態のものとの分けられる。これらの磨石には、研磨面のほかの使用痕として認められるものに、敲打による凹部や敲打痕が観察される。磨石の研磨面の位置についてみてみると、片面にあるもの（110），両面にあるもの（091・099～101・103・104・116・121～123・128），両面と両側面にあるもの（102・120・128），両面と片側面にあるもの（095・097・098），器面全体に研磨面が認められるもの（089・090・092・094・096・109・111・114・115・117・125～127），風化のため不明なもの（088・093・105～108・112・113・124）とに分けられ、特に部分的および全面的に稜線が判明するほど磨り減ったもの（091・096・098・102・103・116・120）も観察される。その他の使用痕として敲打痕が認められ、敲打により凹部を有するものも見られる。敲打痕の位置についてみると、両側面と上端か下端にあるもの（103・104・121・122），片側面にあるもの（097・099・101・103・123），両側面にあるもの（101），片側面と両端にあるもの（098），両側面と両端にあるもの（091・116），上端か下端にあるもの（119）とに分けられるが、前記分類に併用するものも認められる。さらに敲打により凹部を有するものが認められる。その凹部についてみると、片面にあるもの（105～107），両面にあるもの（105・108・124）とが観察される。

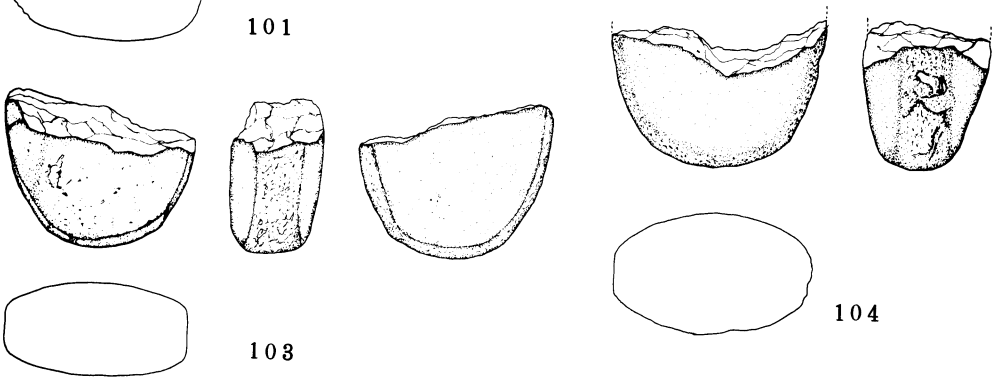
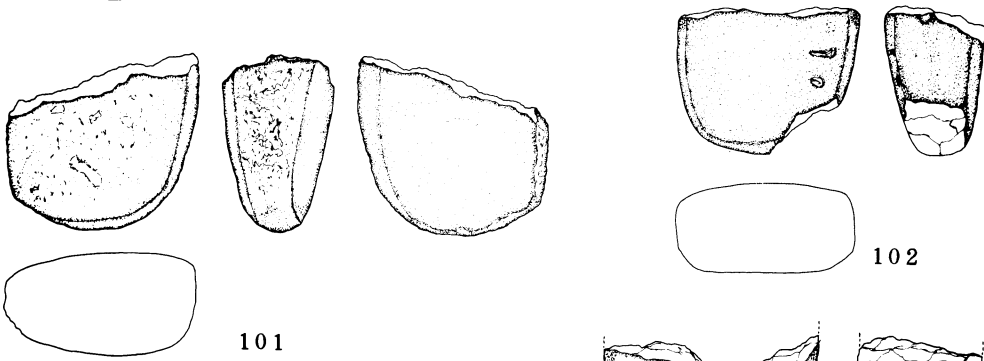
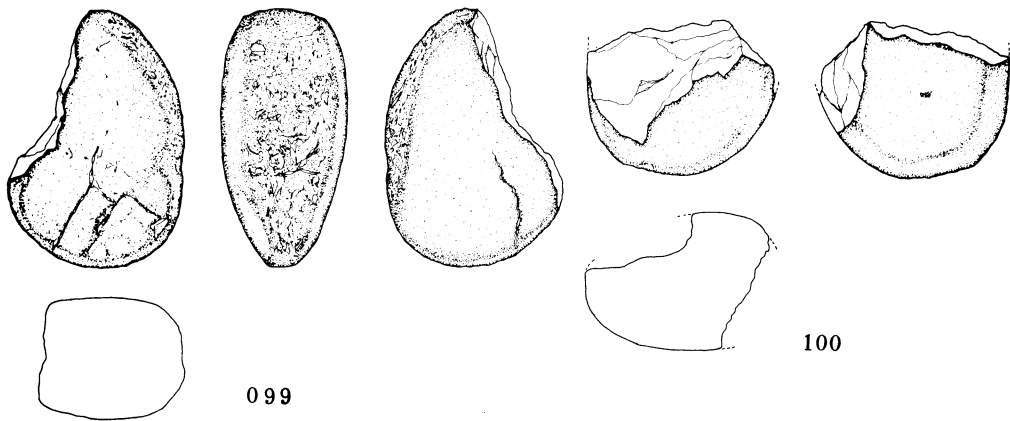
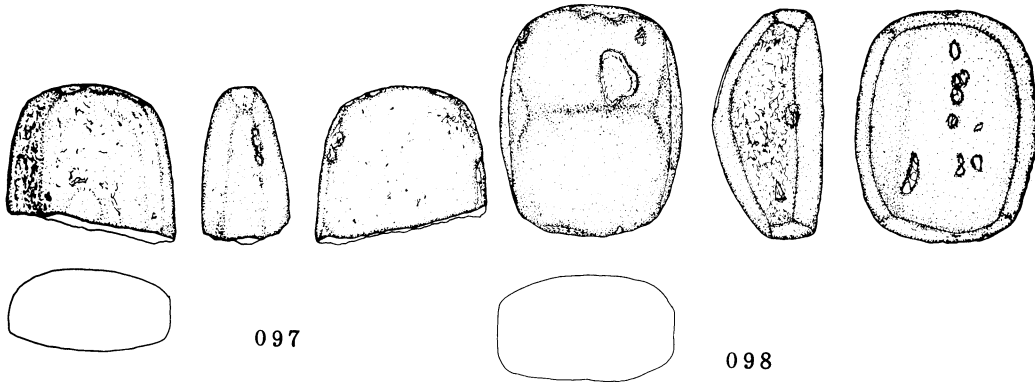
磨石の石材についてみると、安山岩（088～093・095～099・108～114・116～125・127・128），花崗岩（094），溶結凝灰岩（100・107），輝石安山岩（115），黒曜石（126）とが見られ、なかには風化したもの（088・093・105～108・112・124）も認められる。このように石材は、安山岩が大半をしめており、硬質な素材が利用されている。

第7表 石器出土一覧表

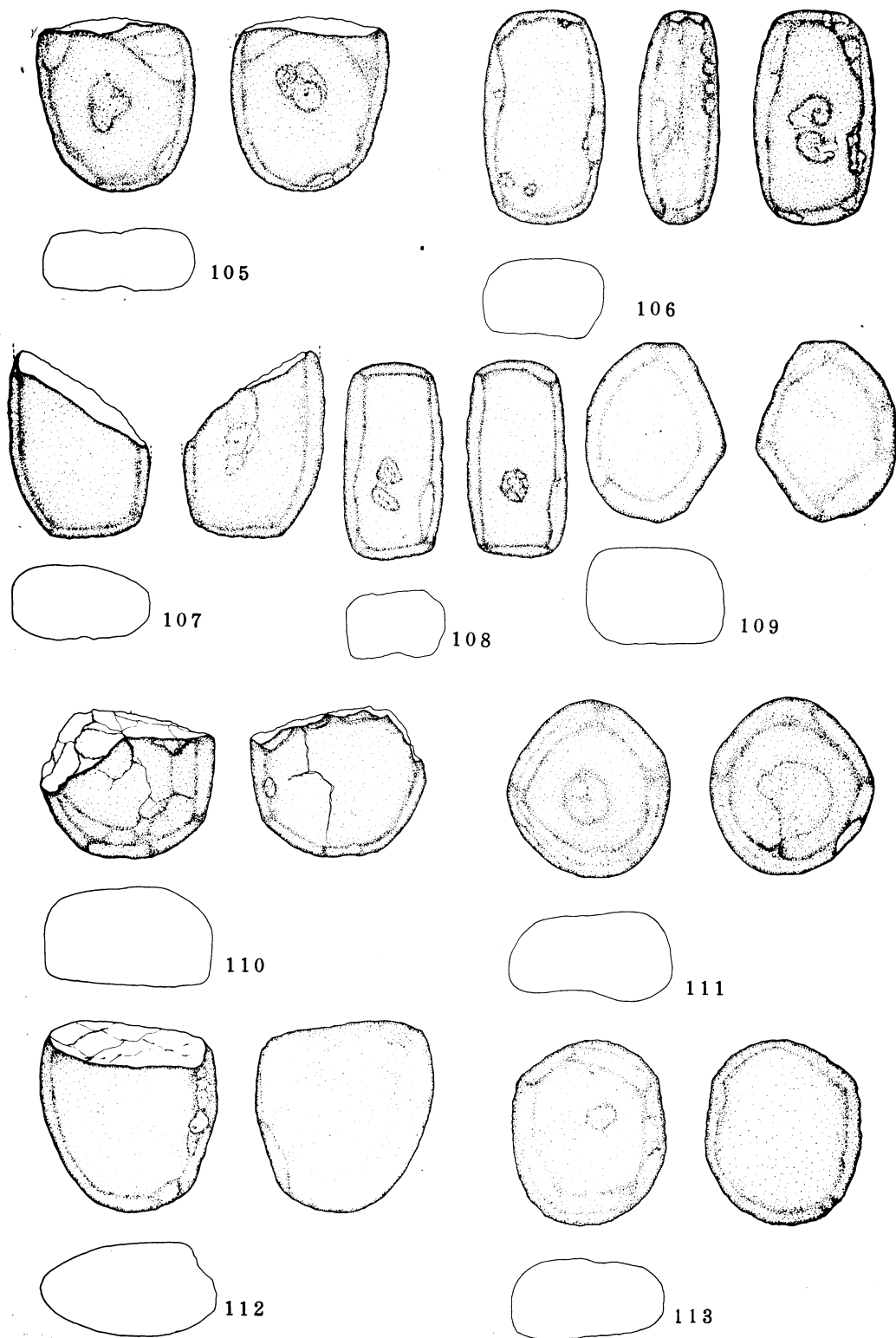
図版番号	区・層	石器名	全長 (長径)	最大幅 (短径)	厚さ	重さ(g)	石材	備考
100	H-16・V	磨石	(6.5)	(7.7)	(5.7)	(290)	溶結凝灰岩	
101	B-12・V	〃	(7.4)	(7.9)	4.2	(235)	安山岩	
102	D-12・V	〃	(6.1)	(7.6)	(3.7)	(202)	〃	
103	F-11・V	〃	(6.5)	(7.9)	(3.8)	(240)	〃	
104	I-7・V	〃	(8.8)	(6.2)	(5.0)	(305)	〃	
105	D-12・V	〃	(8.3)	(7.5)	3.0	(269.5)	〃	風化している
106	D-12・V	〃	11.0	5.7	3.8	325	〃	〃
107	D-12・V	〃	(9.0)	(6.8)	(3.7)	(220)	溶結凝灰岩	〃
108	C-15・V	〃	9.4	4.7	3.2	215	安山岩	〃
109	B-14・V	〃	8.6	6.6	4.6	340	〃	
110	C-12・V	〃	(7.1)	(8.5)	(4.8)	(312)	〃	
111	E-10・V	〃	8.5	7.7	4.2	407	〃	
112	F-8・V	〃	(9.1)	8.5	4.4	(435)	〃	風化している
113	D-13・V	〃	8.8	7.3	3.8	280	〃	〃
114	E-11・V	〃	9.8	9.6	5.0	680	〃	
115	E-9・V	〃	(6.6)	(9.2)	(5.0)	(440)	輝石安山岩	
116	E-10・V	〃	11.6	9.1	4.0	785	安山岩	
117	C-18・V	〃	10.5	9.0	3.9	590	〃	
118	D-11・V	〃	(3.9)	(8.6)	(5.0)	(195)	〃	
119	F-10・V	〃	8.3	4.8	4.8	390	〃	
120	F-9・V	〃	(7.3)	8.9	4.2	(420)	〃	
121	E-12・V	〃	(9.2)	(4.6)	(5.5)	(220)	〃	
122	F-9・V	〃	(10.2)	(5.8)	(4.8)	(300)	〃	
123	F-11・V	〃	(9.0)	(4.4)	(5.9)	(200)	〃	
124	I-8・V	〃	8.0	7.6	3.9	270	〃	風化している
125	D-11・V	〃	5.4	4.7	4.3	165	〃	
126	F-8・V	〃	4.7	4.0	2.8	62.6	黒曜石	
127	B-12・V	〃	5.0	4.9	3.5	95.0	安山岩	
128	J-5・V	〃	6.2	3.7	4.9	155	〃	
129	B-14・V	石皿	(11.2)	(12.2)	(6.4)	(950)	〃	
130	H-16・V	〃	(10.6)	(7.3)	(7.6)	(440)	〃	
131	D-11・V	〃	(15.1)	(9.8)	(7.8)	(1023)	〃	
132	F-14・V	〃	(11.2)	(9.6)	(4.1)	(350)	溶結凝灰岩	1号住居址



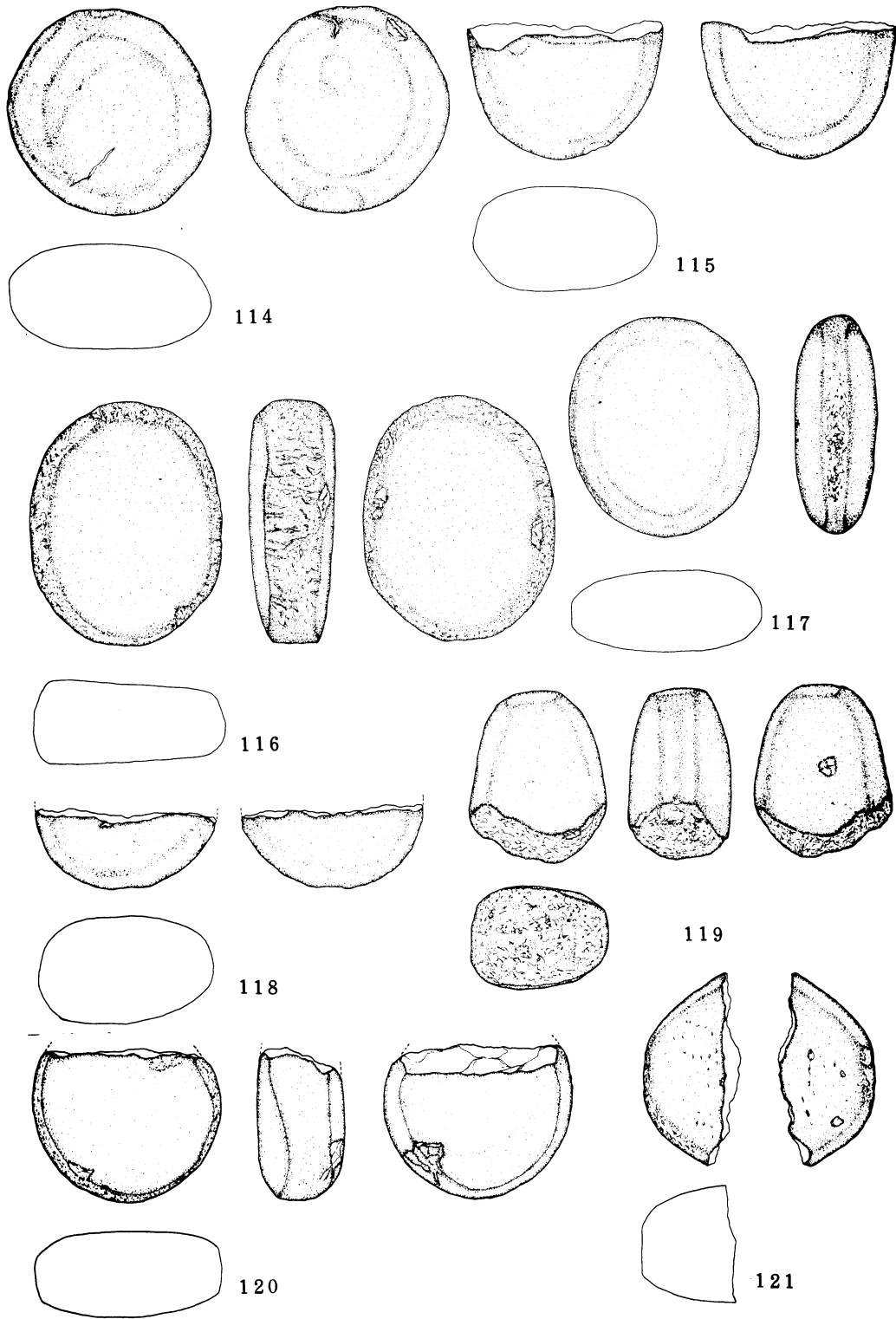
第156图 石器实测图(磨石 I)



第157图 石器实测图(磨石 II)

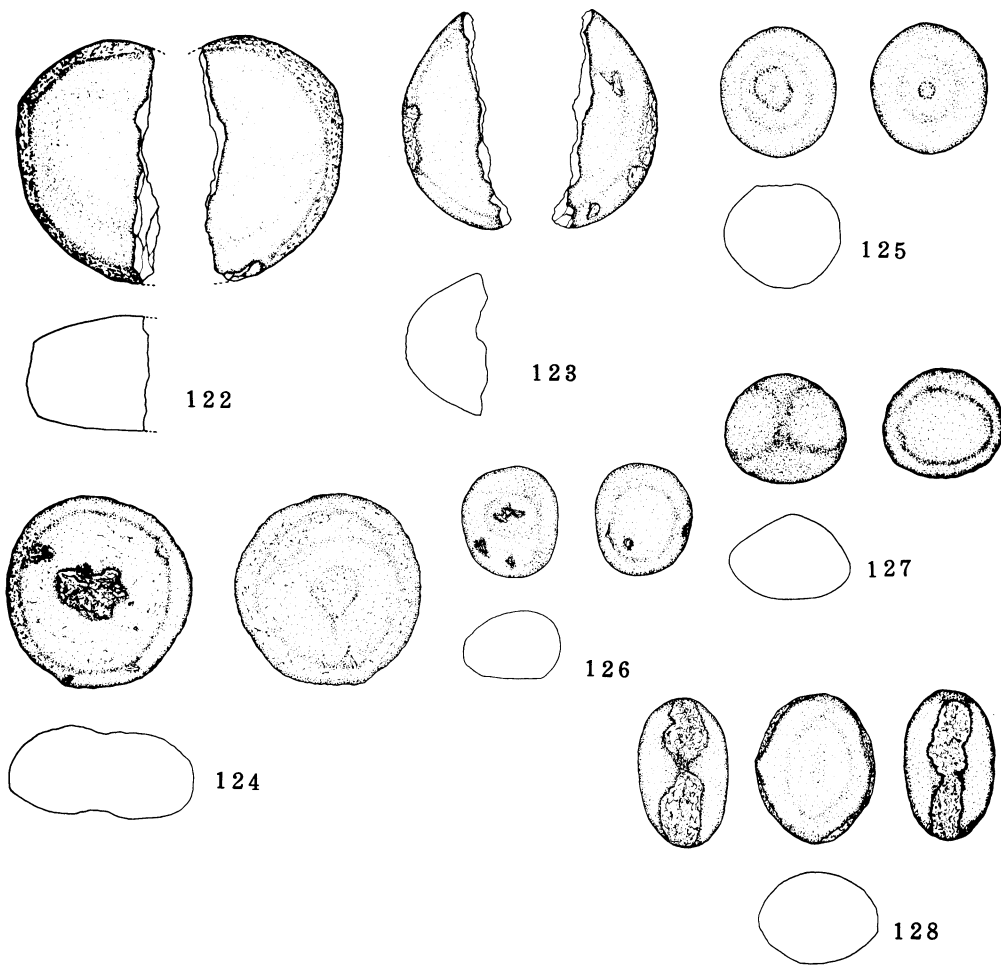


第158图 石器实测图 (磨石 III)



第159图 石器实测图 (磨石 IV)





第160図 石器実測図(磨石 V)

J 石皿 (第161~第163図-129~144)

石皿は16点出土し、すべてV層である。132は1号住居址、133は10号住居址、143は7号住居址内より出土が見られる。石材は、安山岩11点・溶結凝灰岩5点で、溶結凝灰岩の中を含めたが、143は含黒曜石溶結凝灰岩である。石皿のすべては破損品であり、一部欠損しているが、全体の形態が推定できるものは1点のみである。その他の15点は、破片のため形態不明である。

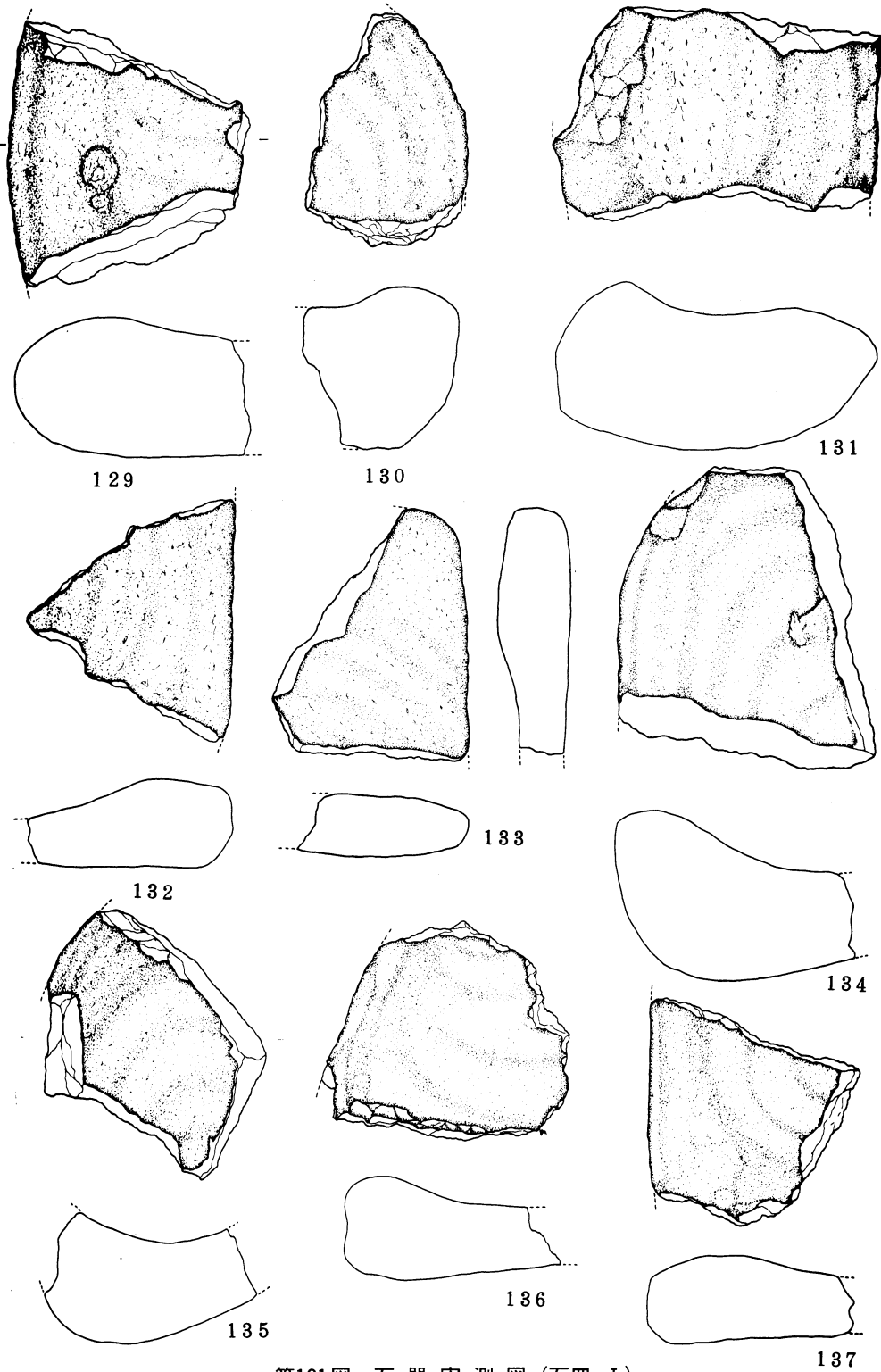
石皿は、すべて破損品であるが、上面と下面についてみると、上面については、平面形不明のものが多い。その中で、一部欠損しているが全体の形態が推定できるもの(143)は、隅丸の長方形の形態を示している。さらに推定可能なものについてみると、139・140も同形態の

第8表 石器出土一覧表

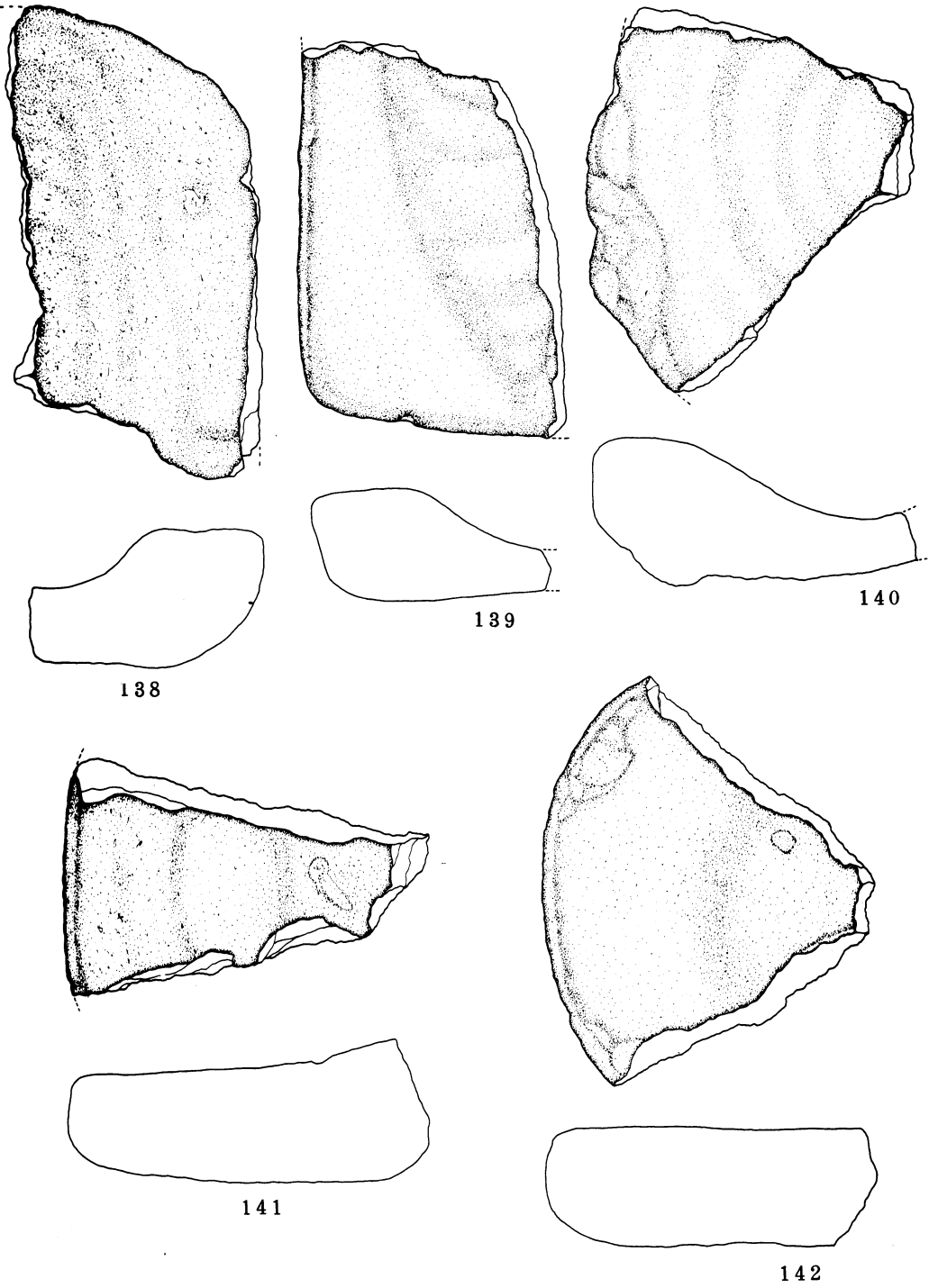
図版番号	区・層	石器名	全長 (長径)	最大幅 (短径)	厚さ	重さ(g)	石材	備考
133	E-11・V	石皿	(11.7)	(9.0)	(3.0)	(310)	溶結凝灰岩	10号住居址
134	H-16・V	〃	(13.8)	(11.8)	(7.8)	(1330)	安山岩	
135	C-14・V	〃	(12.4)	(10.2)	(6.0)	(660)	〃	
136	F-9・V	〃	(10.1)	(11.4)	(4.8)	(510)	〃	
137	C-14・V	〃	(10.5)	(9.7)	(4.1)	(430)	〃	
118	D-11・V	〃	(21.7)	(11.3)	(6.4)	(1780)	〃	
139	B-13・V	〃	(18.4)	(17.6)	(5.2)	(1190)	溶結凝灰岩	
140	F-7・V	〃	(14.9)	(17.6)	(6.8)	(1155)	〃	
141	D-13・V	〃	(16.7)	(10.8)	(6.5)	(1205)	安山岩	
142	H-10・V	〃	(15.0)	(18.8)	(5.5)	(2010)	〃	
143	G-12・V	〃	(21.2)	21.0	7.5	(6300)	含黒曜石 溶結凝灰岩	7号住居址
144	B-15・V	〃	(9.5)	(9.6)	(23.7)	(395)	安山岩	

ものと推定される。142は、大部分が破損しているが、現存の形状から楕円形のものと推定される。石皿の下面については、すべて無脚のものと考えられる。石皿の大きさ・重量は、破損品で不明である。143は破損品であるが、大きさは、現存全長21.2cm、現存最大幅21.0cm、重量は、現存重量 630.0g を計る。

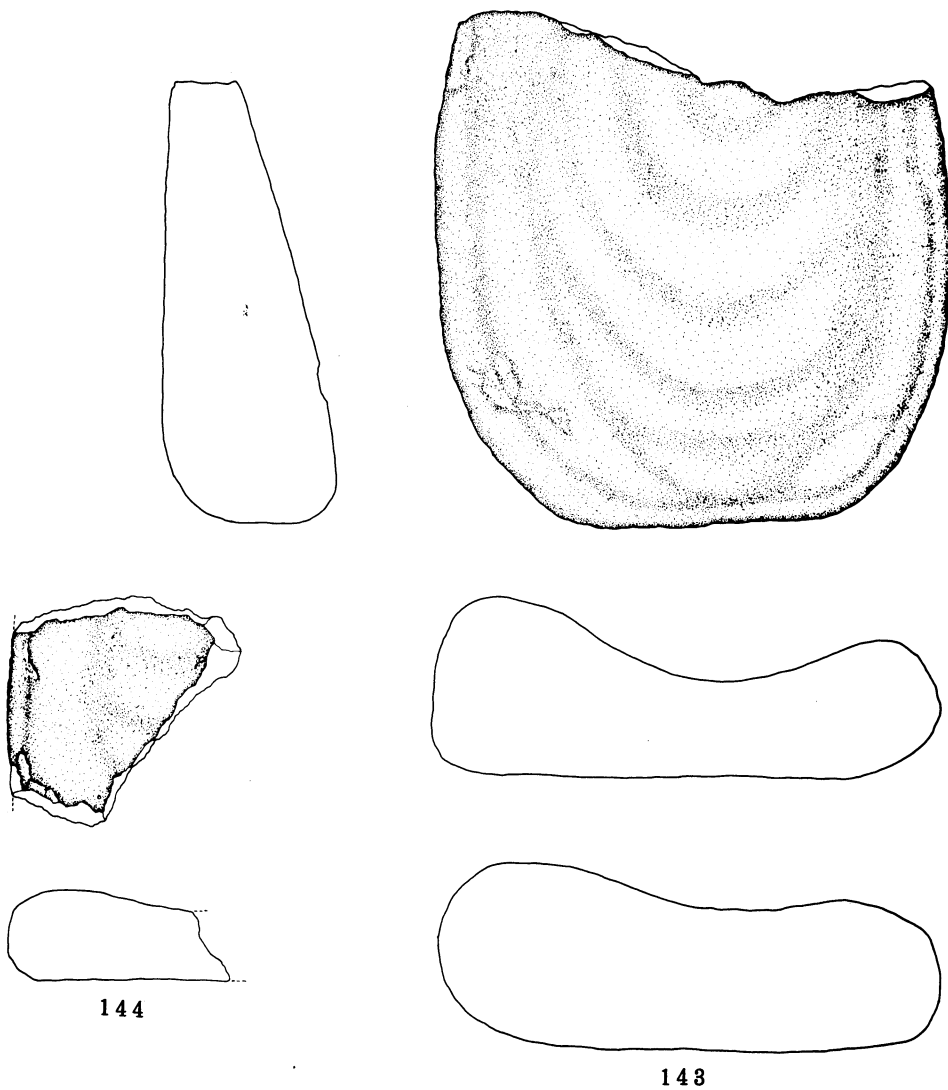
石皿の使用痕は、そのほとんどは破損品のため、その一部について観察するかぎり、上面には滑らかな磨耗痕をもつ窪んだ面が観察され、そのほとんどの石皿に大小の窪み面が観察される。138～140・143は、窪み面が大きく認められ、142の上面はほぼ平坦面に近い窪みである。磨耗痕をもつ窪んだ面が認められる石皿は、この面で他の道具を用いて「磨る」作業が行われたものと思われる。



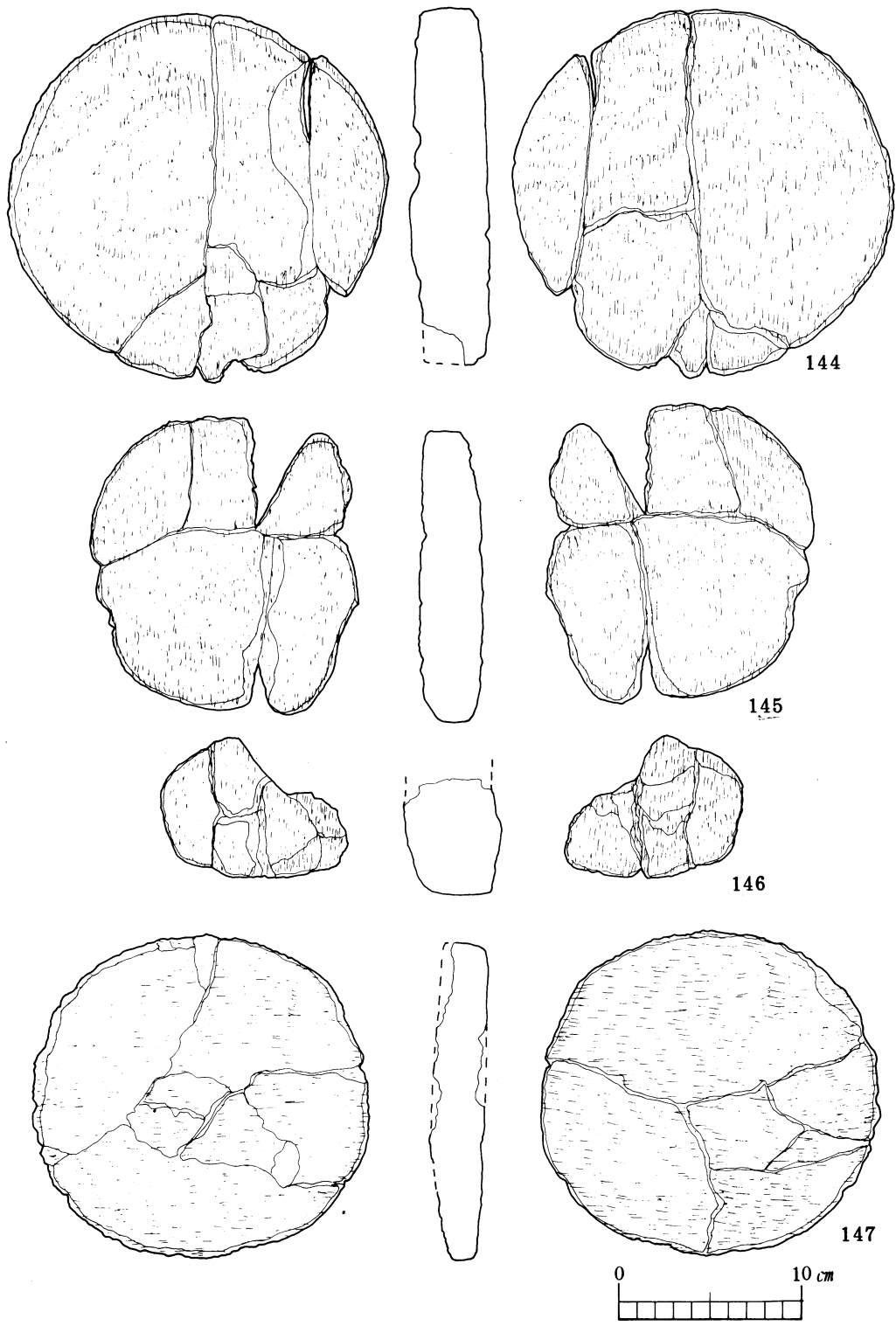
第161图 石器实测图 (石皿 I)



第162図 石器実測図(石皿Ⅱ)



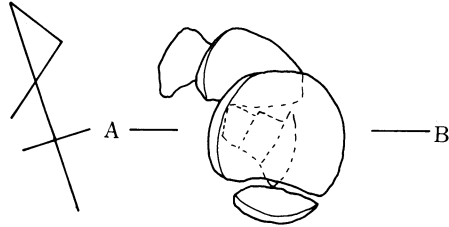
第163图 石器实测图(石皿Ⅲ)



第164図 軽石製品実測図

(3) 特殊遺物

A 円盤状軽石製品 (第165図)



B-4区とE-10区の第V層から、円盤状軽石製品が4枚出土した。

B-4区のもの(147)は、単独出土であるが、E-10区のもの(144~146)は、上面を東に傾斜した状態で3枚重なって出土した。

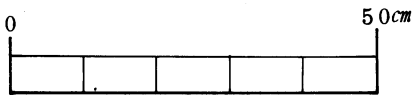
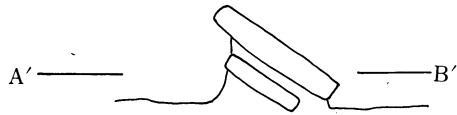
144は、直径が17.9cm、厚さが3.6cmあり、表・裏・側面を丁寧に仕上げている。

145は、直径が13.5cm、厚さが3cmあり、144と同様丁寧に仕上げている。

146は、破片であるが、残存部分を観察すると、145・147同様丁寧に仕上げていることがわかる。

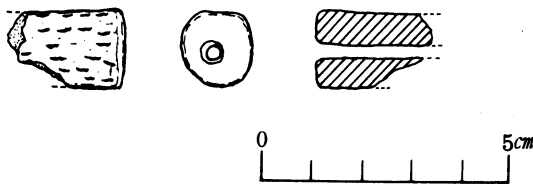
147は、直径が15.3cm、厚さが2.4cmあり、表面のみが丁寧な仕上げで、他の面はやや粗いものである。

以上4枚の円盤状軽石製品は、風化が進んでいたため、PS-NY-6をPS-NY-シーナラーで適量にうすめた合成樹脂で硬化を行った。



第165図 円盤状軽石製品出土状況

B 穿のある土製品



Ⅲ層出土の穿のある土製品実測図

B-13区のⅢ層より出土した。片方は欠損し形は定かでない。直径1.6cmの円筒形の土製品に、直径2.5mmの穴を穿っている。表面には、貝殻か櫛状施文具によって刺突文を施す。色は赤褐色を呈す。

C その他 軽石製頑具(竪穴住居址Ⅳ号出土)、石製装身具(竪穴住居址Ⅵ号出土)、軽石製で一对の陰陽石(竪穴住居址Ⅶ号出土)があるが、住居址の説明の項で述べた。

## 小 結

加栗山遺跡の縄文時代については、Ⅲ層（通称赤ホヤ層）とⅤa層を遺物包含層とし、なかでもⅤa層の縄文時代早期が主体であった。中世山城構築時における一部削除された地点もあるが、1万㎡におよぶ独立した丘陵台地のほぼ一面に遺跡が広がる。竪穴住居址群や特異な形態の連穴土壇群、集石などの遺構はもとより、南九州の縄文時代早期に位置づけられている貝殻条痕文系の石坂式土器・吉田式土器・前平式土器・貝殻条痕文土器などの円筒土器や角筒土器が出土した。これらの土器形式は年代的にも非常に接近したものであるが、わずか10センチメートルの遺物包含層中のもので層位的な編年の把握は困難であった。しかし、土器の分布は型式によって大まかに2つの分布状況を示すものであった。(第83図)。Ⅰ類土器の石坂式土器は台地の南側半分に集中し、その他の型式の土器は北側半分にその分布が確認された。

石坂式・吉田式・前平式土器については、戦後、河口貞徳氏によって遺跡の発掘調査や研究によって形式設定や編年がなされている。ここ数年、九州縦貫自動車道やホ場整備事業等の大規模な開発による事前調査で、縄文時代早期の資料も増えつつある。

加栗山遺跡において分類した円筒土器・角筒土器について、類似点や相違点・関連性などについて触れてみたい。加栗山遺跡の調査で提起された学術上の問題点は山積し、単に調査関係者だけの問題意識にとどまる問題ではないことを含んでいただきたい。

### 【縄文式土器について】

当遺跡出土の縄文式土器は、10類に分類した。最も多量に出土するものはⅣ類土器であった。

Ⅰ類土器は、知覧町石坂上遺跡の土器を指標とする石坂式土器である。石坂式土器の分布は台地の南側に数多く出土し、北半分には全く出土していない。

器形は、平底にやや脹らむ円筒形の胴部をもち、頸部でややしまり、口縁部は外反しながら開く形を呈し、一对の低い山形隆起をもつのが一般的な特徴であるが、直口を呈する口縁部をもつもの(52・53)もある。

文様は、外反する口縁部にアナガラ属の貝殻腹縁による連続文を施す。その連続文は、波状文・連点文等による羽状文、斜位の連点文・波状文、横位の連点文やこれらを組み合わせたもの等バリエーションが豊富である。口唇部では刻み文を持つものと持たないものがある。胴部では、貝殻条痕を綾杉状・斜・横に施しており、底部近くで横位に施すのが一般的であるが、(95~101・102)のように条痕のみでなく「矢印状」の貝殻腹縁による刺突連点文を重ねるものもある。底部近くの胴部末端部には、ヘラ状のものによる縦位の刻みをめぐらす。

内面は、ヘラ状のものにより丁寧なで仕上げがなされている。

胎土は多くが小礫を含んでおり、5mm大の小石が含まれていることが稀にある。砂・小礫の量が粘土に比して多いためか、風化の度合が進んだものや焼成のやや悪いものもみられる。

石坂式土器は、木屋原遺跡・東原遺跡・吉田町大原遺跡など出土例が知られている。

Ⅱ類土器は、口縁部が外反し、器面には貝殻腹縁による押し引き文様を施し、Ⅲ類土器と類似



するが、器壁は厚い。吉田式土器系統のものと思われる。

Ⅲ類土器は、吉田町大原出土の土器を指標とする吉田式土器である。口縁部は、外反・直口し、胴部から平底の底部へ直線的に移行する円筒土器である。器壁は薄い。文様は、平坦な口唇部に刻み目文、口縁部には横位に4～5本の貝殻刺突線文、その直下に整然とした短い逆三角形のクサビ形凸帯を2～3段を縦位にすき間なく貼り付ける。胴部は貝殻腹縁による押し引き文、縦位の貝殻刺突線文、貝殻背部による押し文を全面に施す。外底部は縦位に整然と篋状施文具による凹線文を有す。クサビの無いⅢbは吉田式のバリエーションとしてとらえたい。器面全体に文様化している。内面の器面調査は胴部から底部に篋削り、口縁部では2～3cmの範囲に篋研磨が施されている。

Ⅳ類土器は、器形や口唇部・口縁部・外底部の文様はⅢ類土器と同様であるが、クサビ形凸帯の間隔が広くなりクサビも間延びしたものも現れる。胴部には器面調整及び文様効果も表現する横位・斜位の貝殻条痕文が丁寧に施されている。又、クサビとクサビの間には貝殻刺突線文を縦位及び菱形に施している。口縁内部には2～3cmの範囲に篋研磨痕を顕著にみる。

Ⅴ類土器は、口縁部は直口し、胴部から底部へ直線的に移行する円筒土器である。口唇部は舌状となり貝殻や棒状施文具によって刻み目文を施している。口縁端部には貝殻腹縁や篋状施文具により斜めに刺突文を施す。文様帯は、口唇部と口縁端部に制約されている。胴部には弱いタッチの貝殻条痕が不規則に残り、無文のものもある。条痕は器面調整痕と思われる。内面はナデ整形で、篋削りも一部に認められる。器壁はⅢ類・Ⅳ類と比較して厚く、胎土も小礫を含み荒い。

Ⅳ類・Ⅴ類土器は従来、鹿児島市吉野町前平遺跡出土の土器を指標とする前平式土器といわれている。Ⅴ類土器は、知覧町永野遺跡や溝辺町桑ノ丸遺跡、指宿市岩本遺跡出土の土器に類似しているが、これらの遺跡の土器は、器面の条痕が鋭く強いタッチのものである。加栗山遺跡には出土例がないが、永野・桑ノ丸遺跡には円筒土器に伴って角筒土器が相伴している。

Ⅲ類とⅣ類土器は、器形や文様（平坦な口唇部に刻み目、口縁端部に横位に4～5本の貝殻刺突線文、クサビ形貼り付け凸帯など）、器内面の口縁部の2～3cmの範囲に篋研磨が見られるなど共通点が見られる。相違点はⅢ類土器のクサビ形凸帯は短かく整然とし、クサビの間隔は狭く胴部は押し引き文や刺突線文を施しているのに対し、Ⅳ類土器のクサビ形凸帯は細長く、中には間延びしたものとなり間隔も広く、クサビ間に縦位の刺突線文や菱形文を施し、器面も横位、又は斜位に貝殻条痕を施している点があげられる。いずれにしても縄文時代早期の土器で時間的にも近い関係にあると思われる。Ⅴ類土器は、Ⅲ類・Ⅳ類土器とは文様構成、文様部位、器壁の厚さ、器面調整において大差があることや、桑ノ丸遺跡や岩本遺跡はⅤ類土器の単独遺跡であることなどから今後、検討しなければならないものと思われる。

Ⅶ類・Ⅷ類は角筒土器である。Ⅶ類土器は、文様の押し引き文やクサビ形凸帯の特徴からⅢ類土器に類似する。Ⅷ類土器は、Ⅳ類の円筒土器が角筒土器に器の形態が変化したもので、文様構成は同じである。Ⅶ・Ⅷ類土器の内面の口縁部は篋研磨が施されている。

吉田町大原遺跡の土器には、貝殻縁によって削り出した凸帯、又は楔状の凸帯を2列及び3列に絡らすものや、木ノ実を横並びに押圧してできた文様帯があるとされている。加栗山遺跡のクサビ形凸帯は、全て縦位に貼土を貼り付け、クサビ状に篋で整形したものや、細長い貼土帯を貼り付けている。文様の変化によるものか、時間的に差があるのか、クサビ形貼り付け凸帯の出現には土器文様上、重大な意味があるように思える。ちなみに加栗山遺跡の円筒土器の14C年代は、8890±130～9390±130YB.Pと測定結果があり、早期の中でも古い時期に比定され、細石器文化に供伴する貼り付けの豆粒文や加治屋園遺跡出土の隆帯文土器との関係も今後の課題といえるのではないかと。

X類土器は、縄文時代前期の曾畑式土器である。この土器の遺物包含層はⅢ層の通称赤ホヤ層上部に求めることができる。分布は台地中心部に集中している。破片のため、確かな資料にめぐまれなかったが、器形は口縁部で外反を呈し、胴部が脹らみ、丸底となる。文様は短線の凹線文を基本に直線文、羽状文、菱形文、連結文などを有し、凹線は乱れを生じ、

	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A																		
B											15	10	15					
C										2	2	1						
D										15	4	1			3			
E							1	27	46	1								
F					4	9	6	10	6				1					
G									2		1							
H							2											
I																		
J																		

X類土器の各グリッドによる個数図

浅い。底部は、クモの巣状の文様を施す。胎土には滑石は含まれない。南島の種子・屋久をはじめ、ほぼ全県下にその分布を見る。屋久町一湊、西之表市本城、金峰町阿多貝塚、大口市日勝山、志布志町石踊など計43遺跡が知られている。曾畑式土器の分類の中でも比較的新しい時期に比定されよう。

### 【住居址】

今回の調査により17基（1基は調査区外に主体部が想定され確認だけに留めた）の縄文時代早期に比定される隅丸方形の竪穴住居址が発見された。縄文時代早期の住居址群が日本の最南端の地で発見されたことは考古学上、極めて注目に値することはもとより貴重な資料と考え、少しずつ解明してゆかねばならない。それゆえ軽々しい結論は差し控えねばならない。報告書刊行により整理出来た事からを述べたい。

台地南側のH-9区より発見されたⅧ号住居址は、他の住居址と比較し、分布もかけ離れ形態も不定形である。時期設定の決め手としては資料不足であるが、住居址周辺はI類土器の石坂式土器の分布圏であり、I類土器の石坂期の所産と思われる。

Ⅷ号住居址を除いた、つまり住居址群を形成するI～Ⅶ・Ⅸ～Ⅺ号住居址について若干記述したい。16基の住居址の分布状態は、吉田式・前平式土器の分布と一致し、舌状台地の中央部に位置している。各竪穴住居址は、平面プラン・規模・内部構造・切り合い・建て替え・分布

のあり方などから2～3時期は存在したものと思われる。出土土器からみる限り各住居址から出土する土器は破片で、しかも覆土中のもので正確さに欠けるが、河口貞徳氏が提唱した前平式に比定されるものがほとんどである。一部、吉田式にあたるものもある（検討を要す）。従って各住居址の形態の差や重複関係や建て替えは、一型式の中で継続されたものとして解釈したい。なお、重複する住居址の先後関係は、覆土が同じであることや、床面に変化がみられないことなどから解明はできなかった。

集落形態は、一部、中世山城の構築の際、削除され不明な場所もあるが、全体的な住居址の検出状況は、中央部に広場といえる空間地と土垣群をとり囲むように弧状あるいは馬蹄形状に位置する。重複する住居址、土垣との重複により一時期のものではなく数期におけるものと思われ、各住居址間の結びつきは今後の検討資料としたい。

竪穴住居址の平面プランは隅丸方形となるが、正方形や長方形の形状を示すものがあり、内部構造にも差異が認められ、形態を分類してみた。分類については再検討の必要がある。

大別して3つに分類した。

Aタイプ……壁柱を有する住居址

I号・IV号・V号・VII号・XI号・XM号がある。IV号住居址は、ほぼ正方形で壁柱痕が総数32個検出され整然と並んでいる。VII号住居址は、最も規模が大きく平面プランは長方形を呈している。壁柱と内部に比較的大きい柱穴も有す。V号住居址は最も規模が小さく面積はわずかに

第9表 住居址一覧表

住居址番号	プラン (cm)	面積 (㎡)	方向	柱穴	壁柱	溝	備考
I号隅丸方形	300×340	10.2	N-68°-W	20	21	無	床面はⅨ層
II号隅丸方形	280×300	8.4	N-80°-W	4+?	7+?	有	
III号隅丸方形	260×250	6.5	N-90°-W	4	4	無	床面はⅨ層
IV号隅丸方形	280×250	7.0	N-65°-W	3+?	30+?	無	床面はⅦ・Ⅷ層
V号隅丸方形	160×190	3.04	N-70°-W	4+?	19+?	無	床面はⅨ層上部
VI号隅丸方形	340×260	8.84	N-58°-W	4	11	有	床面はⅨ層上部
VII号隅丸方形	510×280	14.2	N-9°-E	5	25	無	床面はⅧ層下位
VIII号複合	350×260	9.1	N-74°-W	10?	5?	無	床面はⅦ層上位
IX号隅丸方形	240×250	6.0	N-25°-W	8?	4?	有	床面はⅦ層上位
X号隅丸方形	230×270	6.2	N-74°-E	15	11	有	床面はⅧ層上位
XI号複合	2.2×3.2?	6.4?	N-21°-W	3	9	無	床面はⅦ層上位
XII号隅丸方形	440×290	12.8	N-66°-W	1	36	無	床面はⅦ層上位
XIII号隅丸方形	350×320	11.2	N-90°-E	13	6	無	Ⅶ層を床面とする
XIV号不定形	290×290	8.4	N-75°-E	22	19	無	床面はⅦ層下位
XV号隅丸方形	260×?	?	N-60°-W	11+	9+	有	床面はⅦ層上位
XVI号隅丸方形	250×320	8.0	N-70°-E	9	7+	無	

3㎡を計り、住居址としての機能から、住居址以外の地下構築物の可能性があるのではないかとと思われる。Ⅺ号住居址の壁柱は南側に多く配されている。東側床面に軽石製の陰陽石が向き合って出土し、祭祀的要素を含む住居址としてとらえたい。

#### Bタイプ……壁溝・溝を有する住居址

Ⅱ号・Ⅳ号・Ⅹ号・Ⅺ号・Ⅾ号がある。Ⅹ号住居址は壁側に一周する壁溝と、それに平行する溝を有し、壁溝や溝中にも壁柱や柱穴が検出され、Aタイプとの重複も考えられ、建て替えや建て増しがあったものと想定される。数時期に渡って使用されたものであろう。Ⅱ号住居址も同様に2本の平行する小溝を有しているが、テストトレンチや土壇と重複し詳細は定かではない。Ⅶ号とⅪ号は一方の壁にだけに短い溝を設けている。

#### Cタイプ……壁柱や溝はなく柱穴だけの住居址

Ⅲ号・Ⅷ号・Ⅻ号・Ⅾ号がある。柱穴は比較的大きく、整然とは配置されていないが、対になるものも認められる。

Ⅶ号・Ⅺ号住居址は北側に突起部を持ち、平面の形態は異質であり、建て増しや住居址に付随する他の施設が考えられる。

竪穴住居址の床面は、6～9層（黄色パミス層で成分は軽石からなり、桜島の噴出物である火砕硫といわれる）をその対象とし、堆積時は水分を多く含んでいるが床面を検出し長時間放置すると、乾燥しさらさらして床としての効果は充分満足しうるものと思われる。

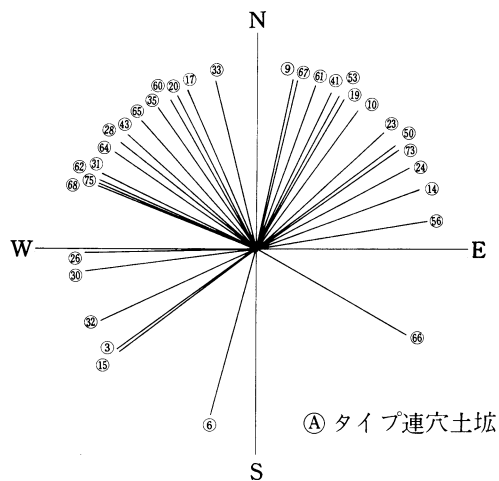
縄文時代の住居址は本県では加栗山遺跡が最初で、まして早期の住居址となると、東・西日本には発見例は乏しく、関東に求めねばならない。撚糸文系や押型文系とは異なる南九州の貝殻文系文化と比較することは危険がないとは言えないが、縄文時代早期のわくの中での比較として考えたい。代表的な遺跡としては、方形住居址の茨城県花輪台遺跡、押型文土器期で円形住居址の静岡県池の本遺跡があげられ、早期には2種類の形態があることがうかがわれ、南九州の本県で縄文時代早期に隅丸方形で周溝や壁柱の構造をもつ住居址が群をなして発見されたことは早期の住居の様式や変化、同一性、集落を論ずる上で貴重な資料といえよう。

加栗山遺跡の住居址群や住居址は、住居址内の出土土器のあり方から放棄されたものと思われ、土器形式の差が少なく、あるいは同時期の住居址の重複関係から、集落の定着と移動の問題が提起されよう。その他、住居の配列や、連穴土壇、集石、墓制、あるいはⅪ号住居址内の陰陽石にかかわる祭祀の問題を山積し、今後の研究に持ちたい。

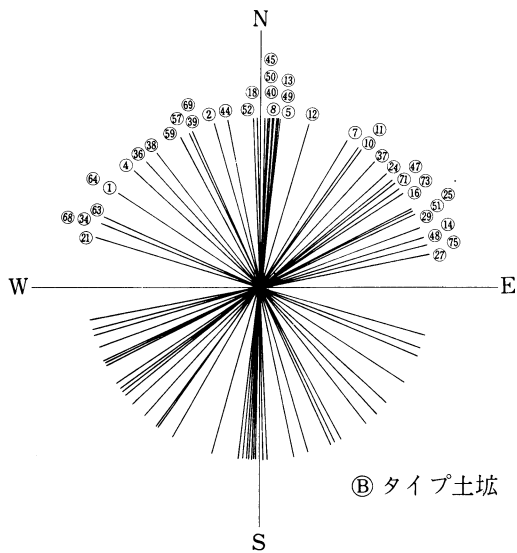
#### 【土壇について】

土壇の分布状況は、全体的な背景から住居址群にとり囲まれるように台地中央部に集中してみられ、特にD-12区やF-13区に単独あるいは重複した数基の土壇が群を成し、台地における土壇の領域を占有した形となる。Ⅰ類土器（石坂式土器）が分布する11区以南には土壇は全く発見されない。

土壇は、形態から①タイプ（連穴土壇）、②タイプ（一般的な土壇）の2つに分類され、①は



① タイプ連穴土坑



② タイプ土坑

や、使用期間・回数に関係があるので  
はと推察するものである。

また、田中谷戸の炉穴の方向決定の  
要因については「火を焼やすという機  
能上、風向きなども考えられるが、あ  
らゆる方向に炉部が向き、別の要因が  
ある」と述べているが、加栗山遺跡の  
連穴土坑の方向は、ある程度、方向が  
決定しているように思われる。方向計  
測については、連穴土坑の小円形を頭  
として主軸を決めたものである。図  
から言えることは、⑥⑥号を除いて、  
N-81°-EからS-15°-Wの間に方向  
性を見いだすことができる。このこと  
は風向きと何等かの関係があるもの  
と思われる。又、地下構築つまり掘り込  
みの中で火を用いることは、風の抵抗  
を少しでも和らげようとする知恵のひ  
とつであるかも知れない。

確実なデータは得られなかったが、  
他の遺構、つまり日常的な生活に密着  
した墓制等を考慮しても、形態的・機  
能的にも不備が考えられ、炉穴として  
の機能をもつものと理解したい。しか  
し、煙道つき炉穴は発見例が少なく、

特殊な形態の炉穴であるのか、日常の調査場や土器作り、墓制、祭祀にともなうものまで多様な機能が予想され、今後の課題としたい。

③土坑——43基の土坑が検出された。平面プランは隅丸方形や長楕円形を呈し、掘り込みは浅く、底面から側壁への立ち上りはなだらかである。単独は⑬・⑳など6基で、その他は、連穴土坑や、住居坑と重複している。切り合い関係は定かではない。土坑内より出土する遺物には土器や礫があるが、いずれも覆土中のものである。これらの土坑の性格についての確かな資料は得られなかった。

### 【集石について】

集石は、土器の分布状況と同じように全域に分散して17基が発見された。検出状況は、礫が

33基、㊸は45基の総計78基が確認出来た。但し、大多数が複雑に切り合い、総数は定かでないことを明記しておく。この中で土坑は単独あるいは重複し、土坑⑮・㊸・㊹など10基は住居址と重複し、それらは無秩序な配置で、他の土坑との配置や形状から住居址に付随する施設とは考えられず、屋外における地下構築物の遺構として理解したい。

形態の異なる㊸・㊹2つの土坑は、使用目的の違いなのか、それとも単に形態上の問題にすぎないのか、判断資料は無く、相互的な関連の中で考えねばならないだろう。

㊸連穴土坑——連穴土坑は、土坑検出面で小円形と略隅丸方形の別個体の掘り込みが隣接して並び、各々の覆土を取り除くと、トンネルによって2つの土坑が連なり、短線の断面はブリッジを呈す。底面はほぼ平坦で、側壁の立ち上りはほぼ垂直で、なかには袋状を呈するものもある。その規模は平均して、小円形部で43cm×53cmの楕円形、隅丸方形部で136cm×58cm、深さ30cm、トンネルの高さ15cmを計り、ほぼ一定の規格があったものと考えられる。

検出された33基のうち、単独で検出された12基をはじめ、8基が住居址と、6基が同じ連穴土坑と、7基が㊸土坑と各々重複するものである。これらの重複は、その配置により無秩序に行われている。これら重複する遺構との先後関係は、土坑内の覆土の堆積はⅤa層で、住居址や㊸土坑と堆積と同質であることや、土器などにも変化は見られないことから、確実な資料を得られなかった。

この種の連穴土坑の目的や機能はという性格上の問題が提起されるが、そのことについて述べたい。土坑周辺には、他の遺構らしき痕跡も認められず、土坑内への覆土から出土する土器や礫は少破片で、しかもその大半が浮いた状態で検出されている。土坑内の壁、底面には焼土や灰らしき痕跡は認められないが、土坑内の覆土には、木炭片と思われる炭化物が観察されている。特記すべき土坑として、Ⅲ号住居址に重複している㊹号土坑は（土坑検出時には、連穴土坑の形状を成していないが、底面に、連穴土坑のブリッジと想定されるパミス層が確認され、㊸タイプの連穴土坑として記録した）土坑北西部の底面に厚さ7～8cmで焼土や灰・木炭の堆積が検出され、側壁は硬く赤褐色に変色し、火の使用の痕跡が顕著に残る当遺跡のただ1基の資料である。

連穴土坑に関する発見例は本遺跡が唯一で、比較検討資料がなく、その要因を探ることは容易ではないが、関東地方一円の数遺跡において同形態の発掘例が報告され、それと対比させながら検討を加えたい。その中で、東京都町田市田中谷遺跡から発見され「炉穴」として報じられている煙道のついたⅢ類の炉穴に標準をあててみた。本遺跡の㊸タイプの連穴土坑33基は、その「炉穴」に極めて類似し共通する要素があるようだ。その報告によると、検出された40炉址のうち3基がⅢ類の炉穴であり、その他の炉穴も同様に炉部に焼土が認められたとしている。焼土の堆積には厚いものと薄いものがあり、10A号炉址の床面や壁・天井部はあまり焼けていないとし、その理由として、使用の期間・使用の回数の多少や焼土のかき出しによって痕跡の度合いが違うことも考慮すべきであると指摘している。このように田中谷遺跡の例から推測して、加栗山遺跡の連穴土坑のほとんどに焼土の痕跡が顕著に見られないのも、土壌の性質

1 m 四方に集中するもの、数個を小じんまりと集めたもの、配置にバラツキがありまとまりのないもの、落ち込みを伴ったものがある。礫は拳大、幼児頭大の円礫・角礫の自然石を集めたものである。集石1・2は集石の中心部が若干凹地とあるが、その他のものは水平な面での検出状況であった。礫の中には火を受けたと思われるものも見られる。

集石と土器との関係は、集石1号に顕著に見られるように集石北側の礫の上や集石の中にⅣ類土器が共伴して検出され、土器の分布と一致する。11区以南にはⅠ類の石坂式土器しか分布していない。

集石については、古くは先土器時代の野川遺跡や、押型文土器に判う熊本県沈目遺跡、福岡県中原遺跡、大分県稻荷山遺跡、鹿児島県石峰遺跡、桑ノ丸遺跡、三代寺遺跡、縄文時代前期の西ノ藪遺跡と、先土器時代から縄文時代前期まで長期間にわたって知られている。従来、確実な証拠はないにしろ、日常生活用具のひとつである調理の場という推測がなされている。

本遺跡の集石遺構の中に集石10号と6号は、掘り込みと共伴して検出された。集石6号の土坑には焼土は確認されていないが、三代寺遺跡でも同様な形態の集石遺構が報告されている。

集石10号の土坑は、平面プランが、ひょうたん型を呈し規模も大きく、深さ45cmと25cmの2つの落ち込みからなり、土坑の南東部縁辺部には焼土が4～5cm堆積し、灰や木炭なども検出された。土坑内上部の礫も、幼児頭大の角礫から拳大の円礫まで、数量も多い。この土坑を伴う集石は何であるのか。平面的に検出される他の集石と対比させながら検討せねばならないだろう。通説としては、石蒸し料理や、民族学的研究によると土坑内に焼礫を入れ、木の葉や土をかぶせて蒸し焼きする方法など想定されているが、不面的に検出される集石の焼礫をつくる場としての要素は指摘できないだろうか。今後、遺跡発見や検討にゆだねたい。

#### 【<sup>14</sup>C測定結果】

集石10の土坑内焼土と炭化物	9150±160 YB.P (8880±150 YB.P)	N-3926
土坑7の炭化物	9390±130 YB.P (9110±130 YB.P)	N-3927
	8890±130 YB.P (8630±125 YB.P)	N-3928

#### 【石器について】

石器は、狩猟具・加工具・土掘り具・皮剥ぎ具・調理具など生活用具のほとんどが検出され、石鏃・磨製石斧・局部磨製石斧・石匙・削器・剥片・石核・磨石・石皿など144点の石器が出土している。そのほとんどがV層の出土で、表採品2点、住居址内の遺構より6点が見られる。

石器の内訳は、石鏃26点、磨製石斧24点、局部磨製石斧3点、打製石斧3点、石匙7点、削器11点、剥片11点、石核2点、磨石41点、石皿16点がみられる。以下、石器について留意点を簡単にまとめる。

石鏃については、26点の出土が見られ、そのほとんどがV層の出土で、022は1号住居址内より見られる。完形品14点、破損品12点である。すべて無茎の打製石鏃で、破損品を含め二等

辺鏃15点、等辺鏃9点、他は不明である。形態的には、平基式15点、凹基式10点であり、平基式の中には、少々窪む形状のものを含めた。石鏃の大きさは、最大2.9cm、最小1.0cm、重さは、最大4.1g、最小0.15g、厚さは、最大0.6cm、最小0.3cmの範囲内に集中している。石材は、そのほとんどが黒曜石で、良質な素材はみられず、主要剥離を残し、簡単な調整を加えたものと端整に調整されたものとが認められる。

磨製石斧については、24点の出土が見られ、完形品15点、破損品9点である。ほとんどはV層で、033は1号住居址断面用トレンチ内より検出されている。石材は、粘板岩・安山岩・頁岩・砂岩・凝灰岩・蛇紋岩など多くの素材が利用されている。磨製石斧の大きさは、最大9.4cm、最小4.5cm、重さは、最大141g、最小8.6gまでの範囲内に見られる。形態的には、扁平な素材を利用し、小形の磨製石斧が多く見られ、中には片刃状のものも認められる。また、蛤刃状の石斧も見られる。

局部磨製石斧については、3点の出土が見られ、ともにV層の出土である。石材は、砂岩・安山岩である。これらの石斧の胴部について見ると、胴部側縁が上半より下半の幅が大きいタイプである。研磨部分には擦痕が観察される。

打製石斧については、3点の出土が見られ、054・056はV層で、055は表採品である。石材は、安山岩・凝灰岩である。形態は、大形石斧1点と刃部欠損の小形石斧2点で、調整は、大小の剥離加工されている。

石匙については、7点の出土が見られ、すべてV層である。石材は、玄武岩・黒曜石・砂岩・玉髓などの多種の素材が用いられている。形状は、横形4点、縦形3点である。つまみ部は、そのほとんどが中央にあり、幅広く簡単に調整加工してあるものも認められる。刃部については、三つの側縁から構成され、主要刃部は、一つの縁辺ないし二つの縁辺に認められるものがほとんどである。調整は大きい剥離痕を残した剥片を利用し、簡単に調整加工され、素材の一部に自然面を残しているものも観察される。

削器については、11点の出土がみられ、ほとんどV層で、073は不明である。石材は、安山岩7点、玉髓4点である。形状は定形化した剥片は認められず、片面及び両面の一部に自然面を残した剥片、扁平で大きい剥離を残した剥片、板状の剥片を利用したものと認められた。削器の大きさは、最大長径9.2cm、最大短径9.4cmと最小長径5.0cm、最小短径4.1cmの範囲内にあり、最大のもは9.2cm×7.9cm、最小のもは5.2cm×5.5cmである。重量についてみると、最大重量95g、最小重量17.9gの範囲内にあり、39.7gから17.9gの範囲内に集中がみられる。刃部については、刃部が片面だけのものと両面ともに認められるものがあり、特に067・071・072は、石材の特有性から刃部が明瞭に観察される。また、刃こぼれ程度のものも認められる。

剥片については、本遺跡より黒曜石製の剥片や碎石が多量に出土した。剥片は、使用痕のある剥片8点、加工痕のある剥片3点のみについて取り上げた。すべてV層の出土である。石材は、ほとんど黒曜石で、そのほか赤色硅質岩・玉髓などが見られる。077は1号住居址内より



出土している。刃部は、刃こぼれ程度の使用痕が認められる。特に加工痕の剥片を使用した剥片は、削器の範囲と思われるが、剥片の中に入れた。

石核については、2点の出土がみられ、ともにV層で、黒曜石である。打面調整はなく、剥離面にも一定方向はみられない。石材が良質でないためか階段上の剥離が出来あがっている。

磨石については、41点の出土が見られ、完形品22点、破損品19点で、すべてV層である。石材は、安山岩・花崗岩・溶結凝灰岩・輝石安山岩・黒曜石の素材が用いられ、そのほとんどは安山岩である。磨石の完形品についての形態は、そのほとんどが楕円形を基本とし、平面形および断面形の一部が直線的になるものも多く認められる。磨石の大きさは、最大長径11.7cm、最大短径9.6cm、最小長径4.7cm、最小短径3.7cmの範囲内におさまり、最大のものは11.7cm×7.6cm、最小のものは4.7cm×4.0cmである。これらの磨石は石ケン状のタイプで、磨石で磨面だけのもの、磨石で敲打痕が認められるもの、磨石で敲打により凹部を有するものと、楕円形状のタイプで、磨石で磨面だけのもの、磨石で敲打痕が認められるもの、磨石で敲打により凹部を有するものとに分類できる。これらの石ケン状タイプの磨石は、加世田市の村原（楯ノ原）遺跡、溝辺町の桑ノ丸遺跡などの遺跡から出土例をみるが、数点のみである。

石皿については、16点の出土がみられ、すべてV層である。132は1号住居址、133は10号住居址、143は7号住居址内より検出される。石材は、安山岩11点、溶結凝灰岩5点である。すべて破損品で、そのほとんどの石皿に磨耗痕として、深い凹部が認められる。

以上、本遺跡の縄文時代の石器について概要を述べたが、石材の黒曜石に限れば、良質の素材が認められず、本遺跡からの出土の黒曜石の原産地は、わりと近距離に素材が求められる鹿児島市竜ヶ水の三船の原産地の産出のものと同質であると考えられる。縄文時代の石器は、総数144点を記録としてとどめたが、今後の資料の増加をまち、検討を要する資料と考える。

#### 《参考文献》

- 河口貞徳 「鹿児島県における貝殻条痕文土器について」 鹿児島県考古学会紀要4号  
江本直他 「沈目」 熊本県文化財報告書 第13集 1974  
河口貞徳他 「石峰遺跡」 鹿児島県教育委員会 昭和55年3月  
若月省吾 「笠懸村稲荷山遺跡」 群馬県新田郡笠懸村教育委員会 1980.3  
今井恵昭・加藤修 「田中谷戸遺跡」 町田市田中谷戸遺跡調査会 1976.  
町田洋 「火山灰は語る」 蒼樹書房 1977  
新東晃一・中島哲郎 「村原遺跡」 加世田市教育委員会 1977  
池畑耕一・長野真一 「西ノ園遺跡」 鹿児島県教育委員会 1978.2  
諏訪昭千代・青崎和憲 「花ノ木遺跡」 鹿児島県教育委員会 1975  
新東晃一・青崎和憲・中村耕治 「桑の丸遺跡」 鹿児島県教育委員会  
戸崎勝洋・青崎和憲 「阿多貝塚」 金峰町教育委員会 1978

## 第Ⅶ章 先土器時代

### 第1節 細石器文化の概要

#### (1) はじめに

昭和51年2月の確認調査に於いてK-3区11層に黒曜石製の細石刃・細石刃核・剥片・碎片などの石器の出土がみられた。この結果、当遺跡は、細石器文化より中世までの遺跡であることが確認された。遺物の出土は、第167図～第168図に見られるように、台地全体にかけて、広範囲にわたって検出されている。それをよく観察すると、それらの出土遺物はあるまとまりを持って構成されている。それをユニットと呼称して捉えている。またそのユニットにもまとまりがあり、ユニットのあつまりという意味でユニット群と呼称する。調査は、台地北から南の先端部にかけて行い、ユニットの検出順に番号をつけていった。その結果、第1ユニットから38ユニットまでを数え、4ユニット群に大別された。層位は第11層（暗茶褐色粘質土層）に限られ、6～9層のパミス層を剥ぎ終ると同時に出土し始め、約10cmの中に包含され出土遺物の多いところではレンズ状に検出された。

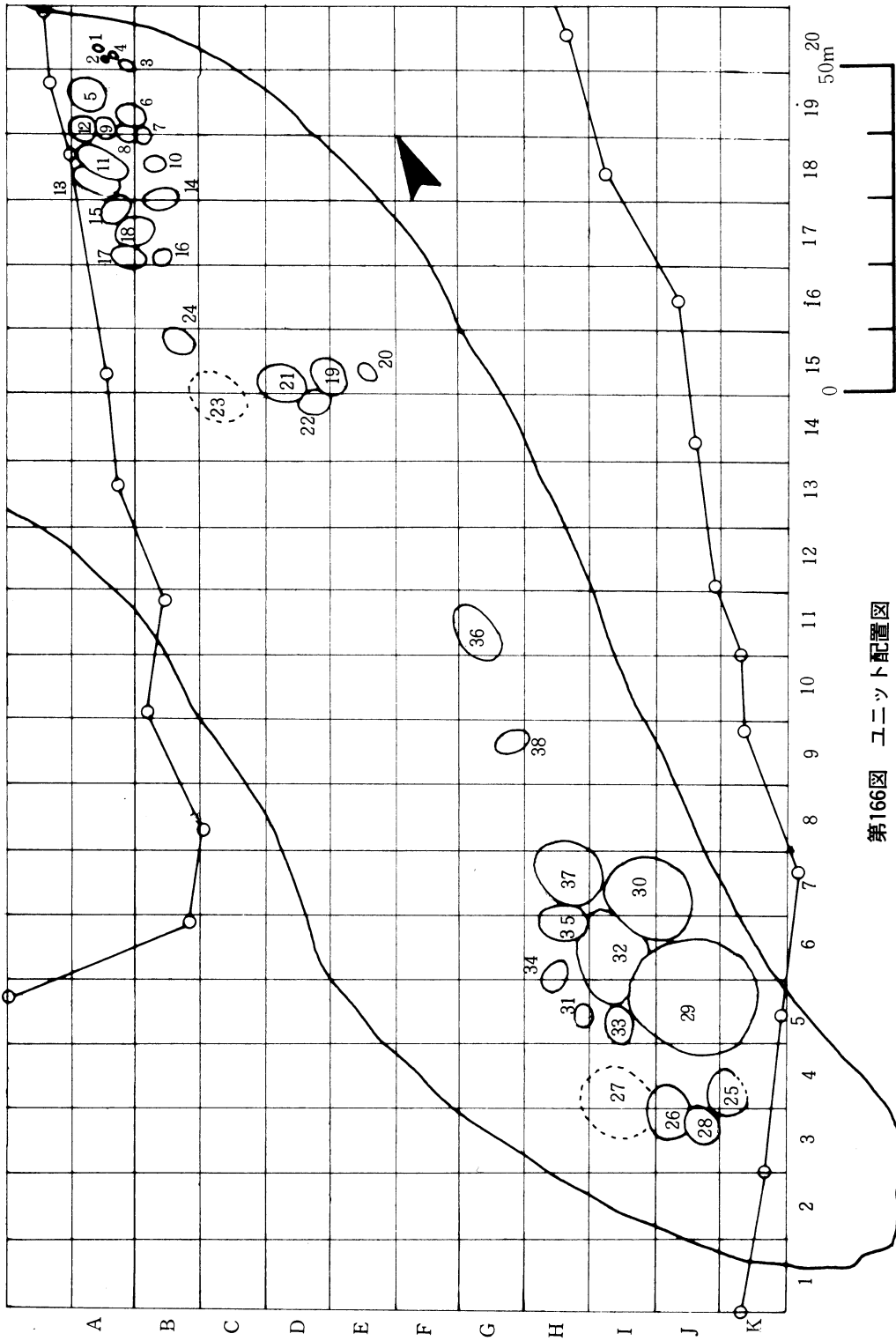
遺物は、各ユニットごとに通し番号を記入し、最初、平板実測において平面分布図を作成した。その後遺物の出土量の豊富さとさらに細分化する必要にせまられ、10m×10mのグリッドを2m×2mの25等分し、第166図のように番号をいれる。

遺物番号は、全てユニット別に行い、ユニット番号と遺物番号を連記した。遺物番号と本文中の番号は同一である。

#### (2) 石材について

石材については、黒曜石、凝灰岩等多くの石材が検出された。黒曜石は大きく2つに大別される。気泡の多い黒曜石と表面にはツヤがないが割ると気泡が少なく黒味の強い黒曜石である。原産地は、前者が当遺跡より約5km程東にある鹿児島市竜ヶ水三船の原石を素材としたと思われる、後者は薩摩郡樋脇町上牛鼻の原石と推定される。前者を黒曜石A、後者を黒曜石Bと仮称した。黒曜石にはそれ以外に気泡が少なく透明度を持ち細石刃核C類に用いられる小角礫も若干検出されている。凝灰岩も大きく2つに大別される。これには、凝灰岩が、温水作用によって表面にツヤのある石材と、表面にツヤがなくやや硬度のたかまった石材がある。前者を凝灰岩A、後者を凝灰岩Bと仮称した。これらは隣町の吉田町から市来町にかけて採集される。

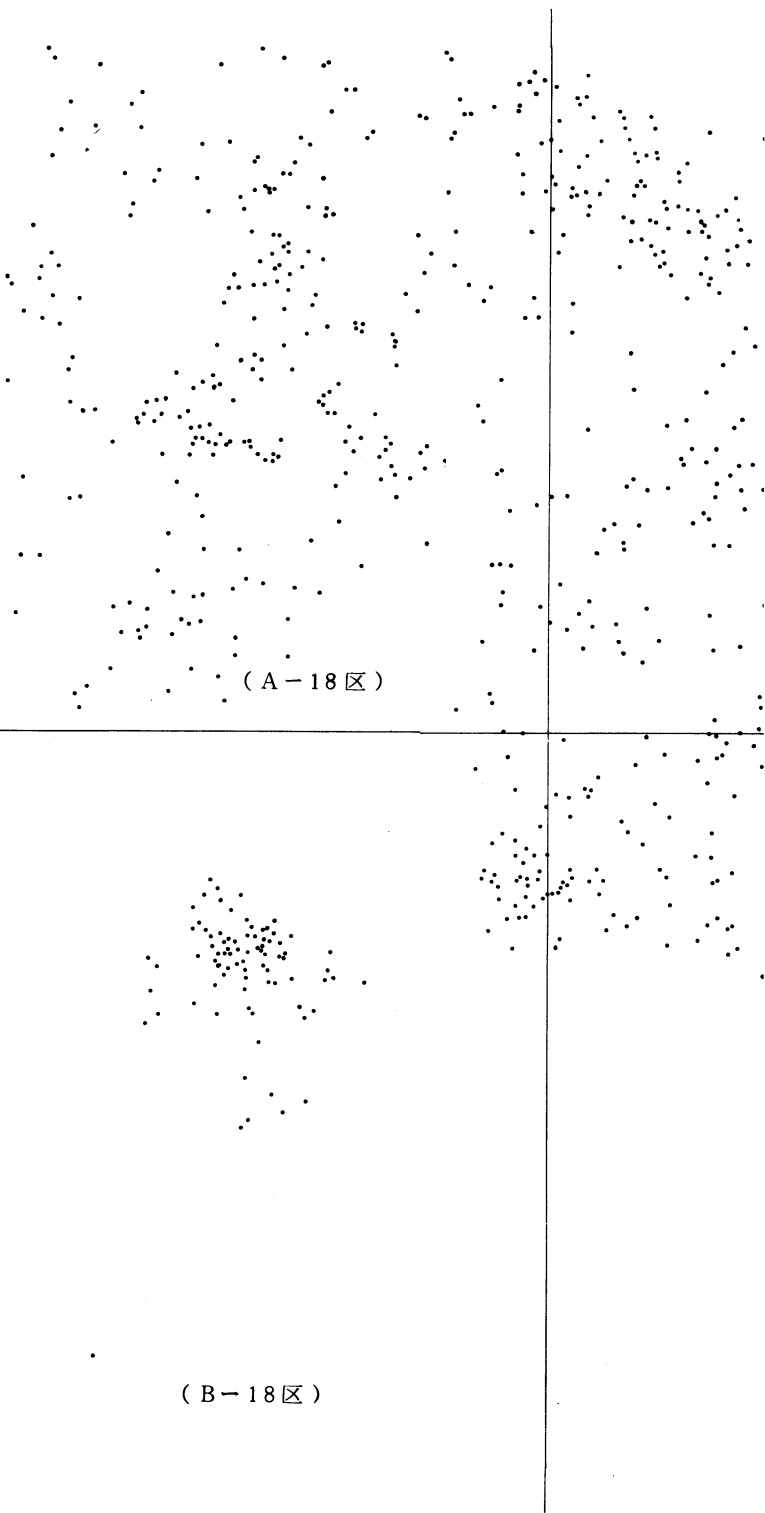
その外、石材として使用されたものに、珪質岩、チャート、石英、玉髄、砂岩、安山岩など多く使用しているが、全体的に少量である。



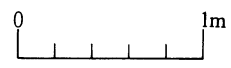
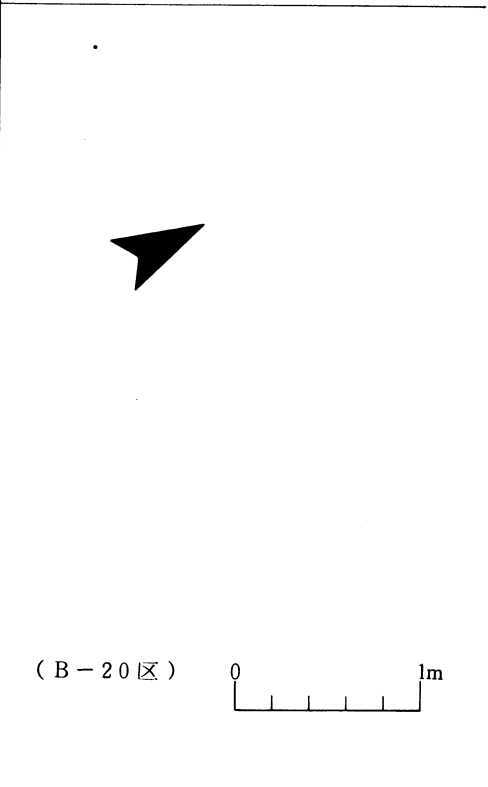
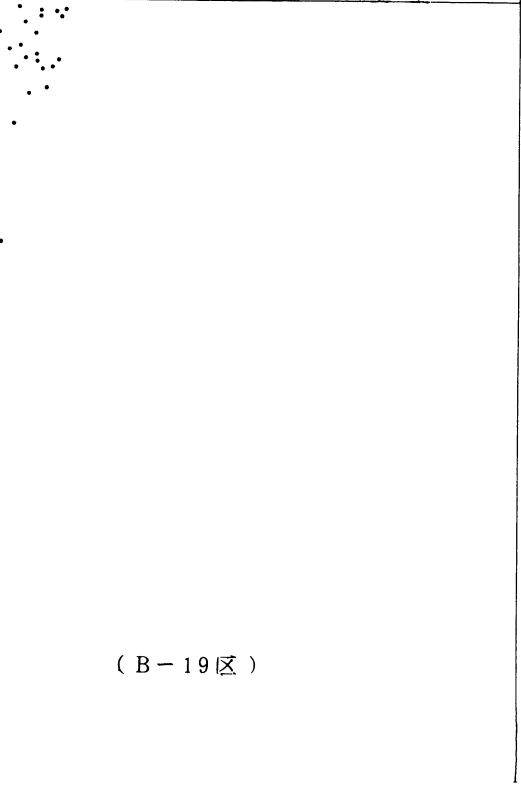
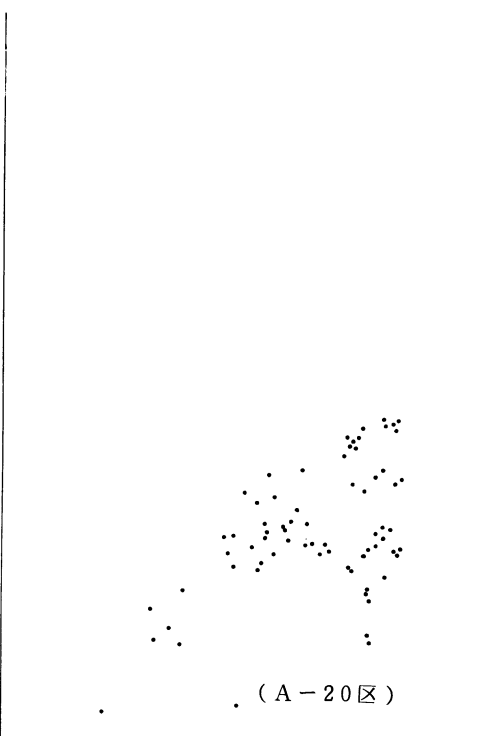
第166図 ユニット配置図

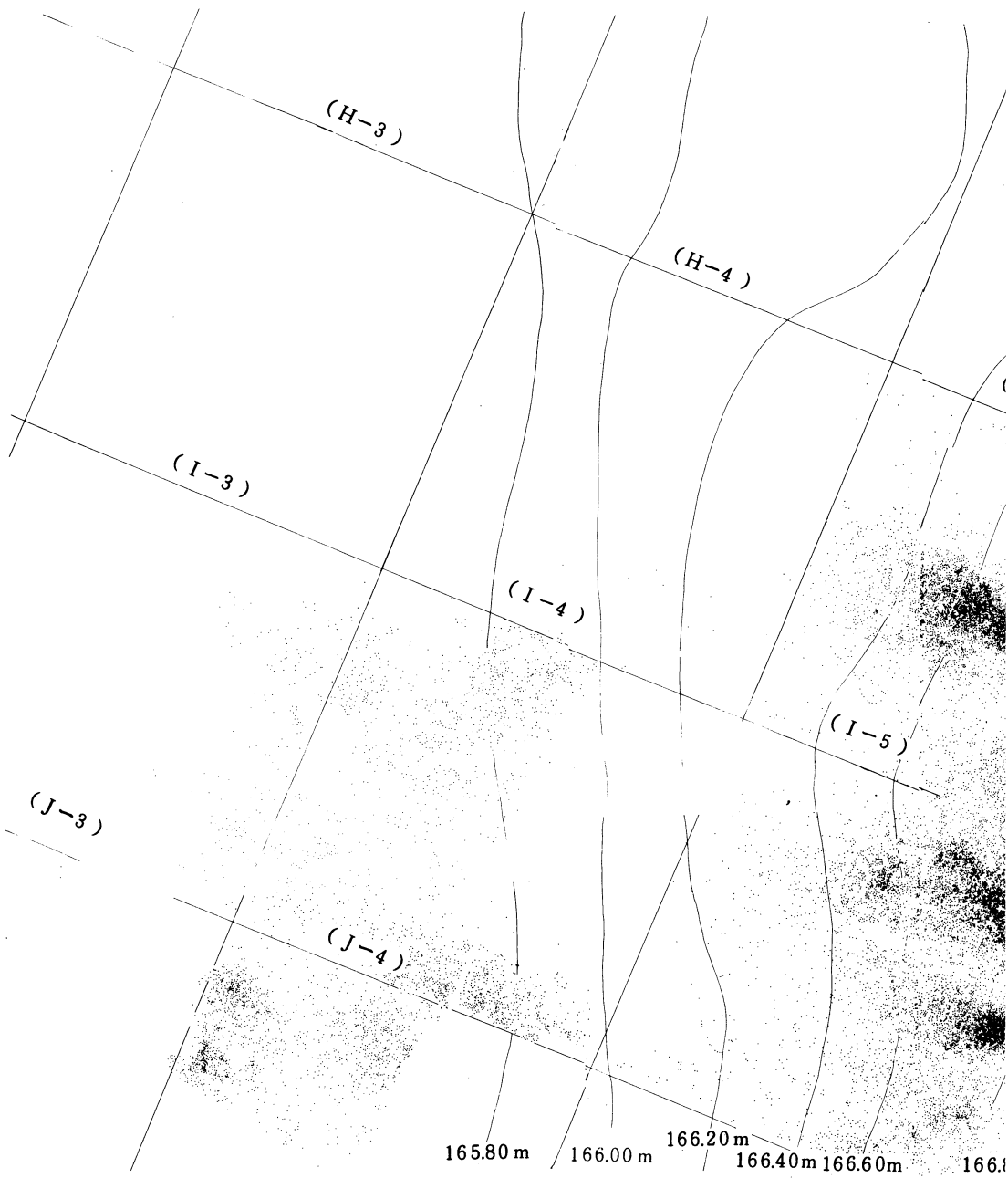
(A-17区)

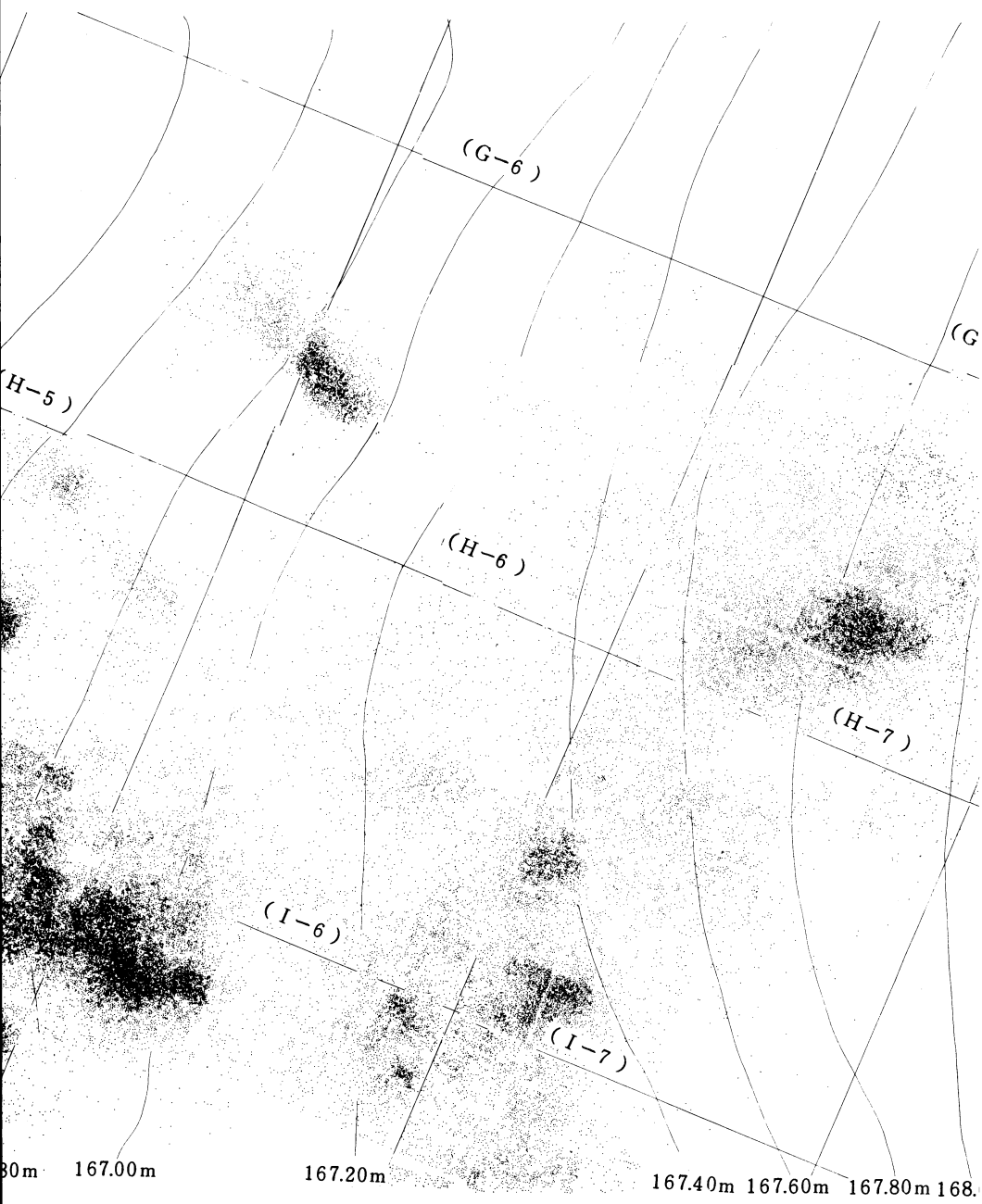
(B-17区)



第167図 ユニット別遺物分布図 (1~18ユニット)

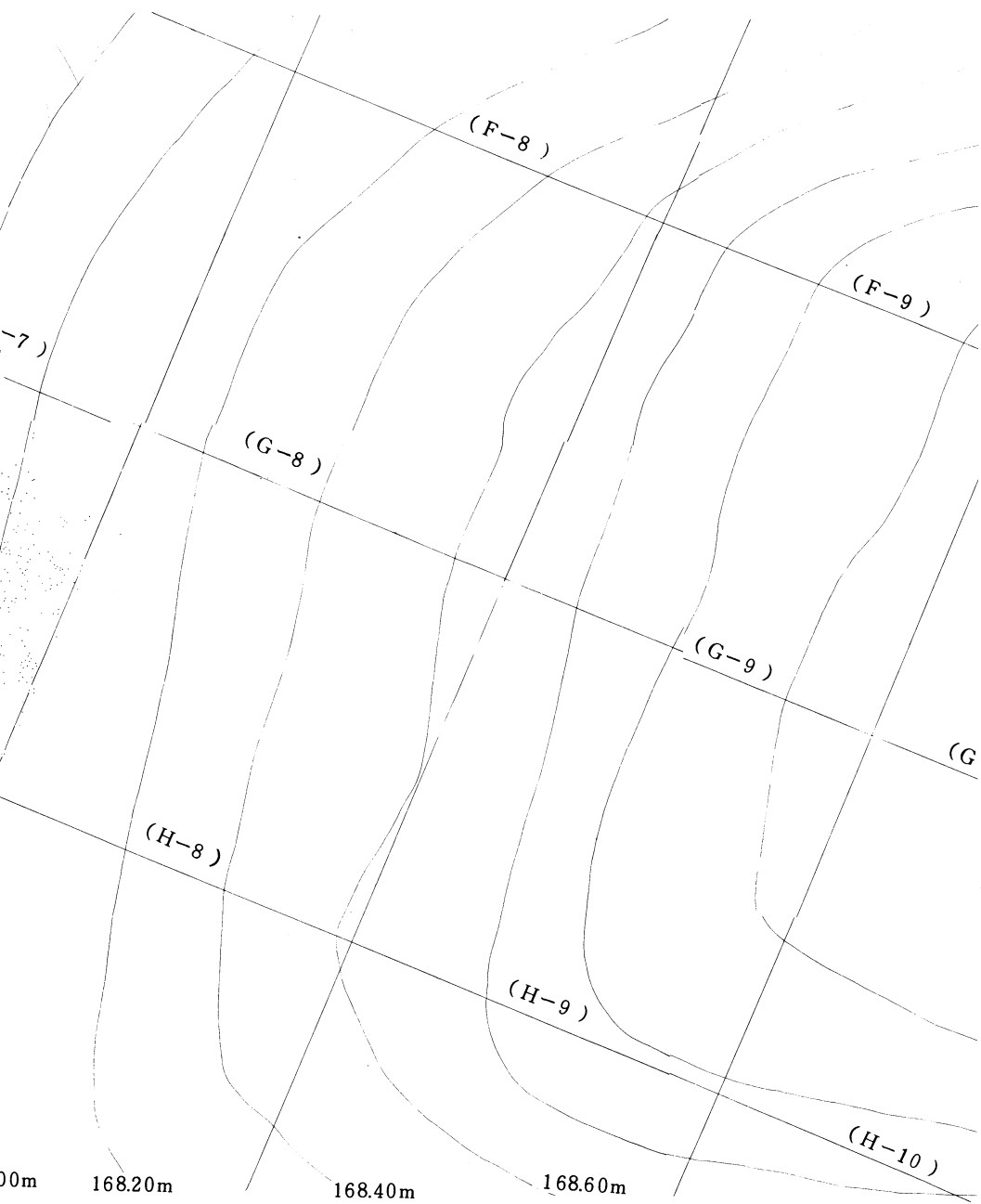




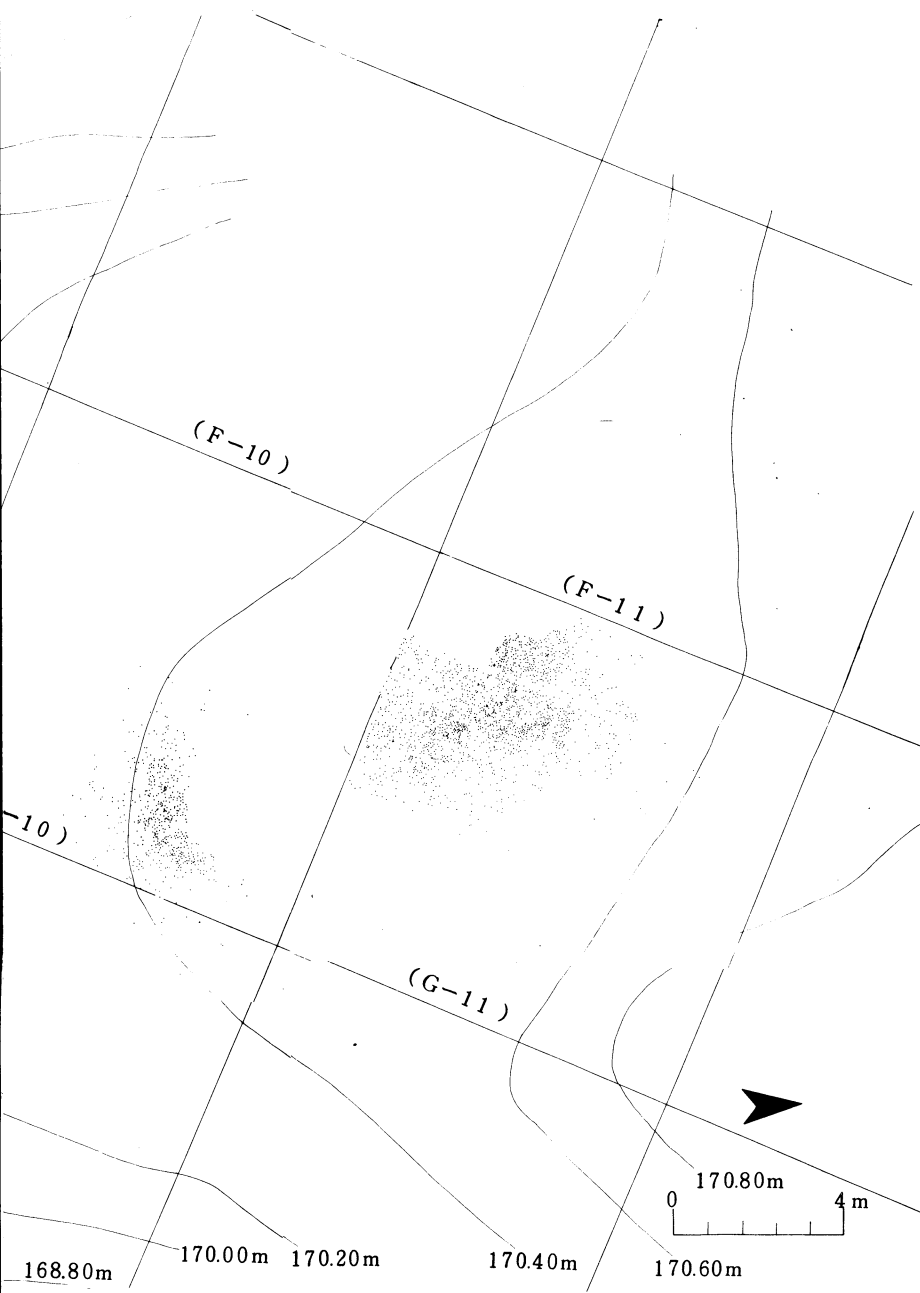


第168図 ヌニ





ユニット別遺物分布図 (25~38ユニット)

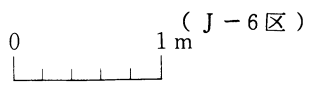


( I - 5 区 )

( J - 5 区 )

第169図 第29ユニット石材別分布図

( i - 6 区 )



29 郡 黒曜石 B

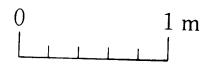
( I - 5 区 )

---

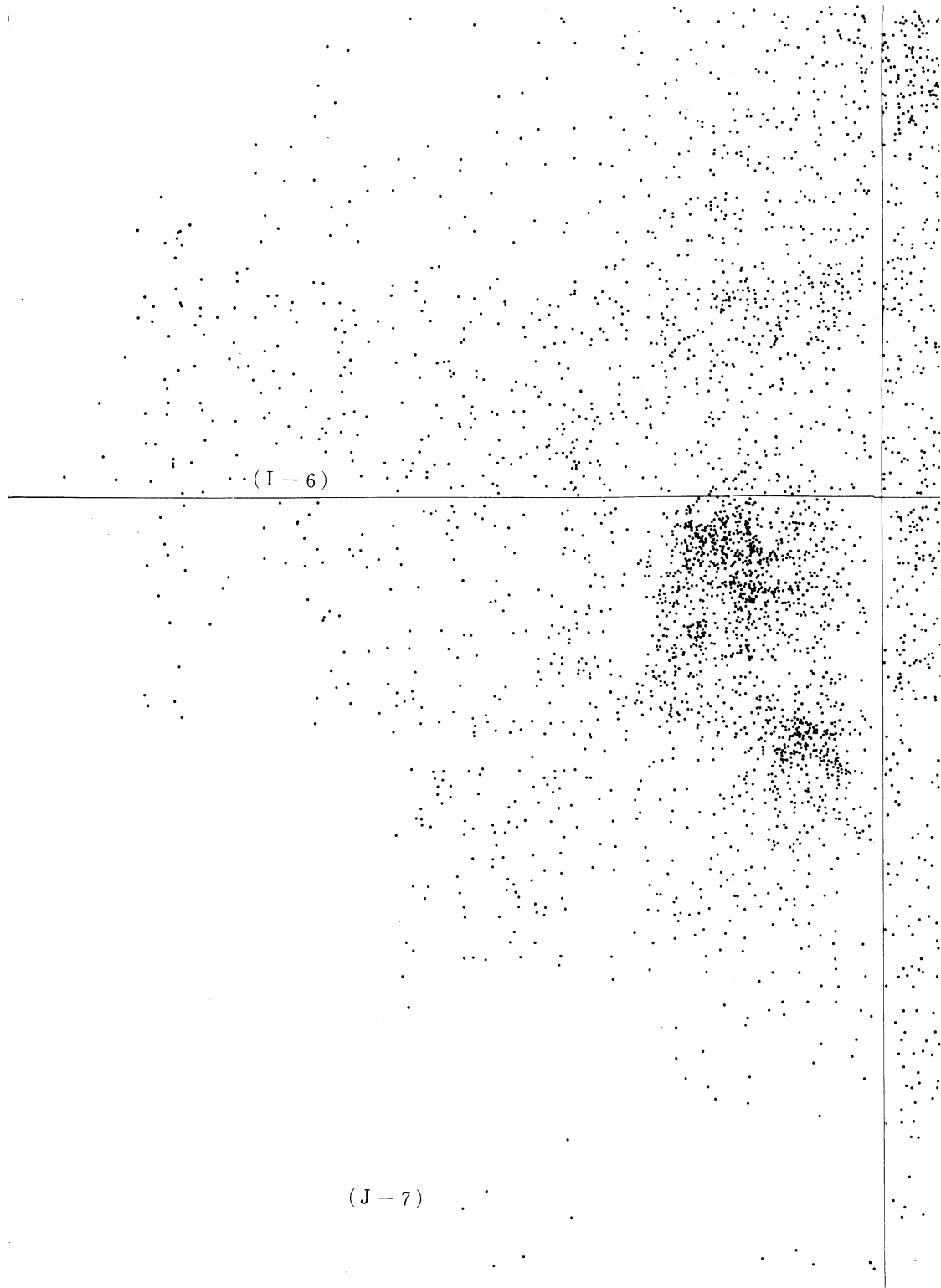
( J - 5 区 )

( I - 6 区 )

( J - 6 区 )



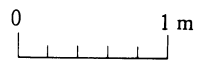
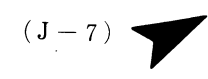
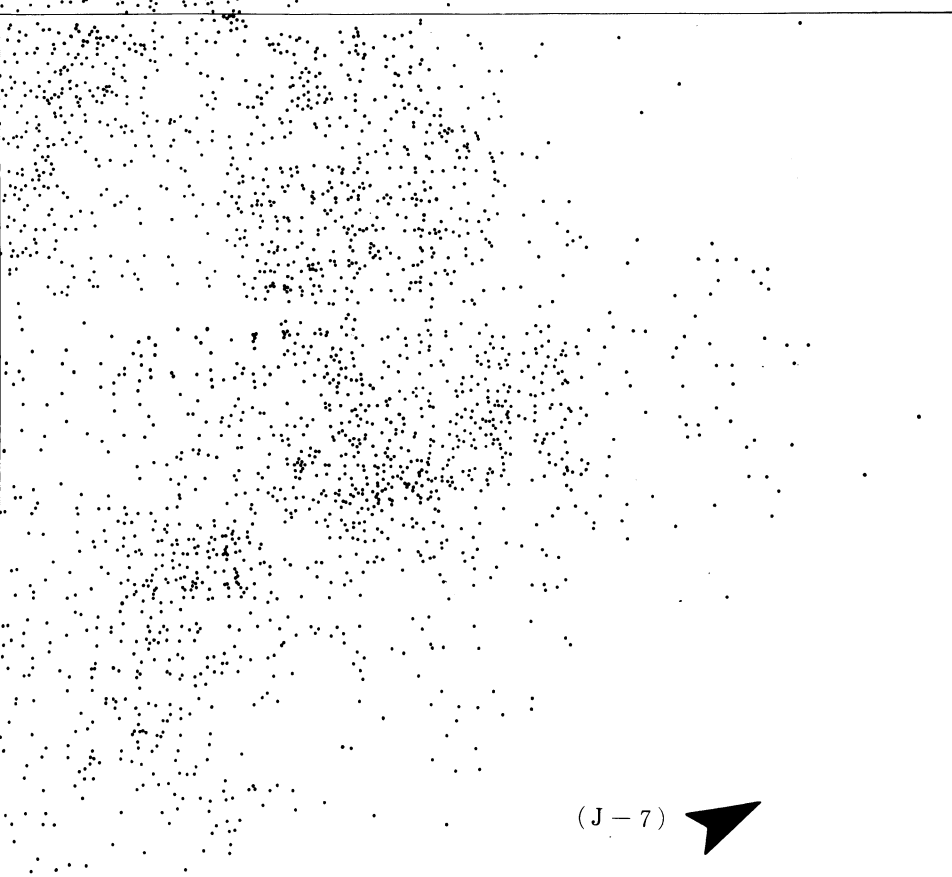
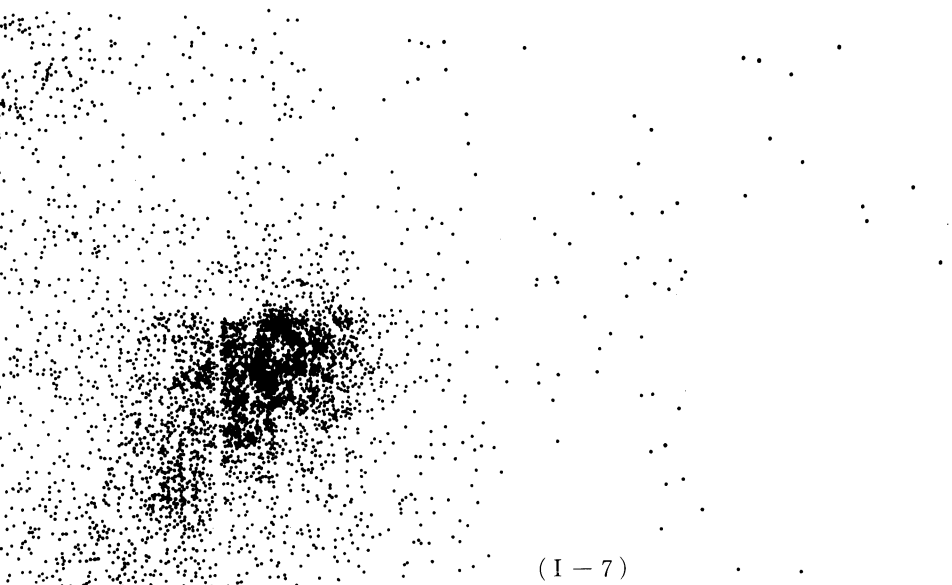
29群黒曜石 A



(I-6)

(J-7)

第170図 第30ユニット石

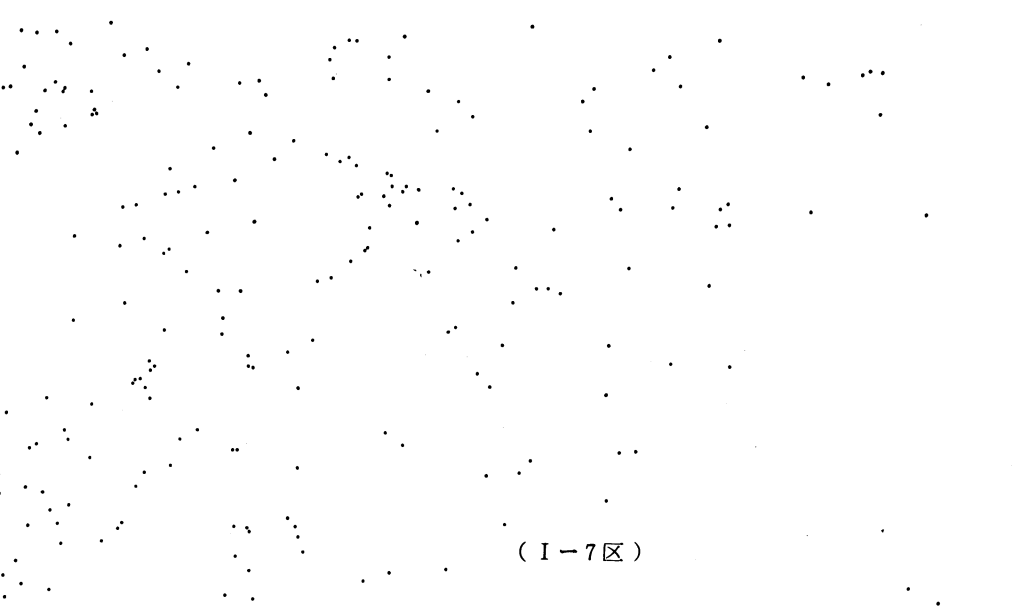


石材別分布図

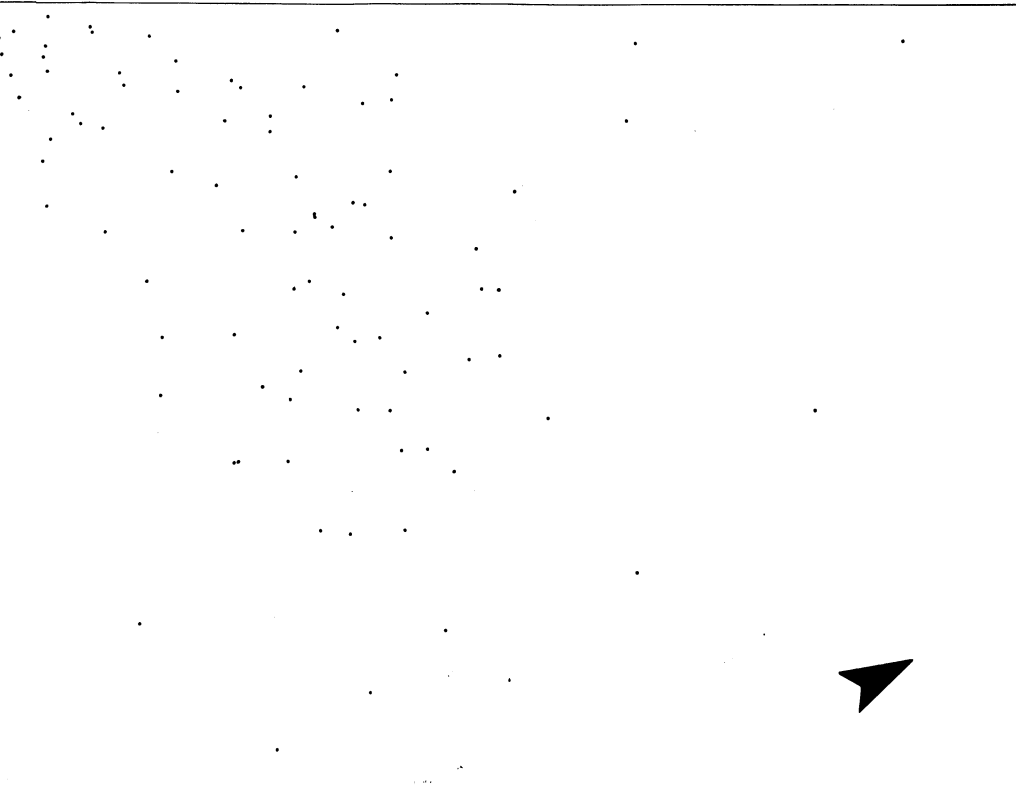


(I - 6)

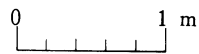
(J - 6)



( I - 7 区 )



( J - 7 区 )

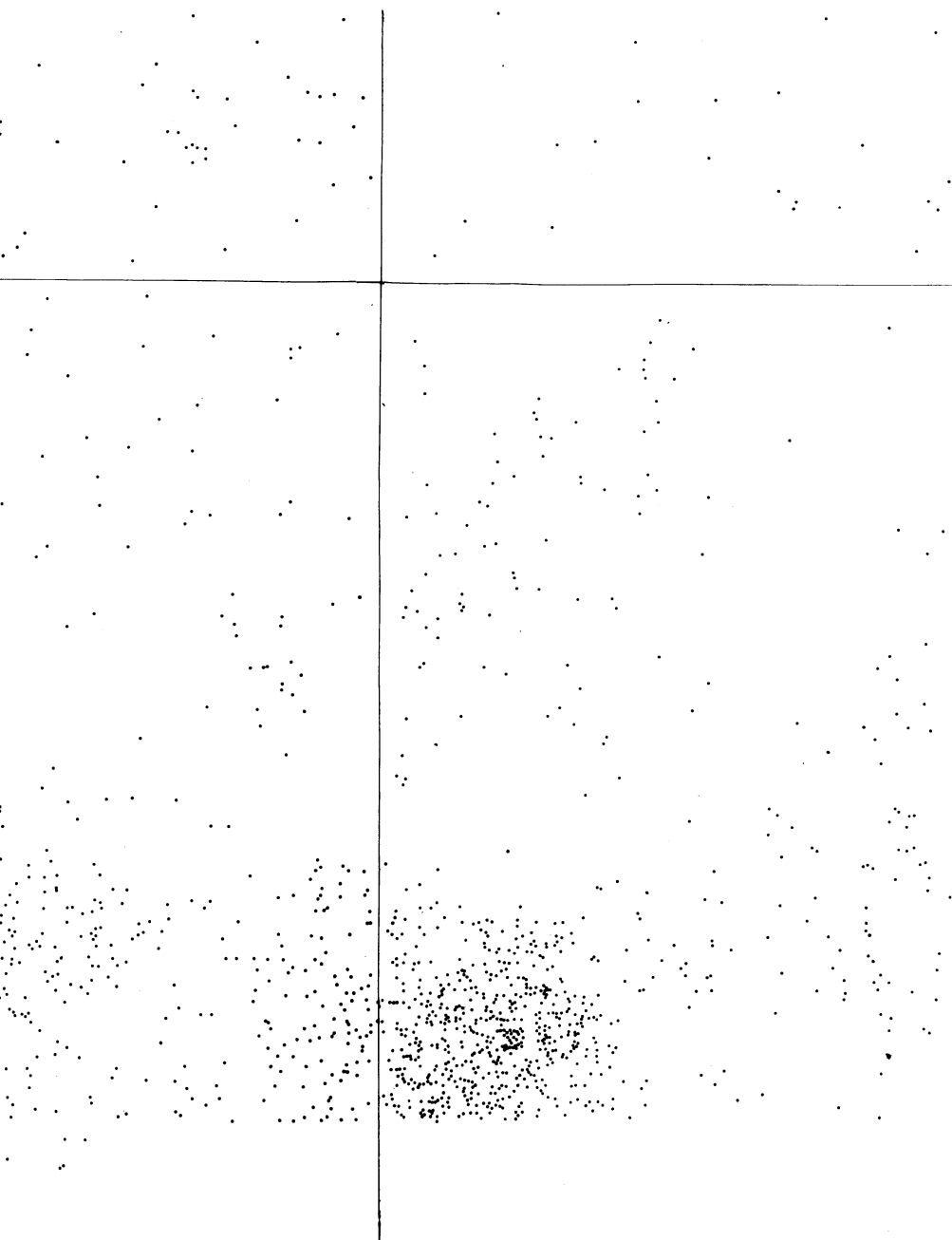


( H - 6 区 )

---

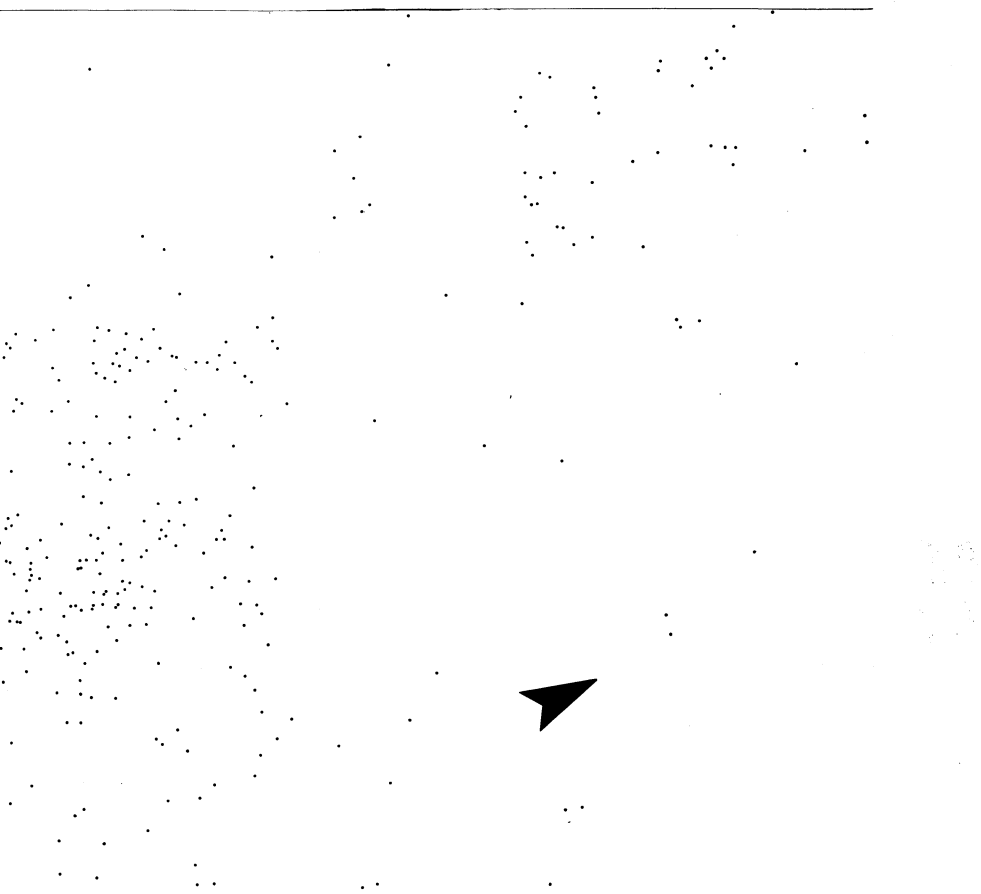
( I - 6 区 )

---

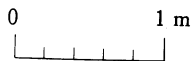


第171図 第32ユニット石材別分布図

(H-7区)



(I-7区)

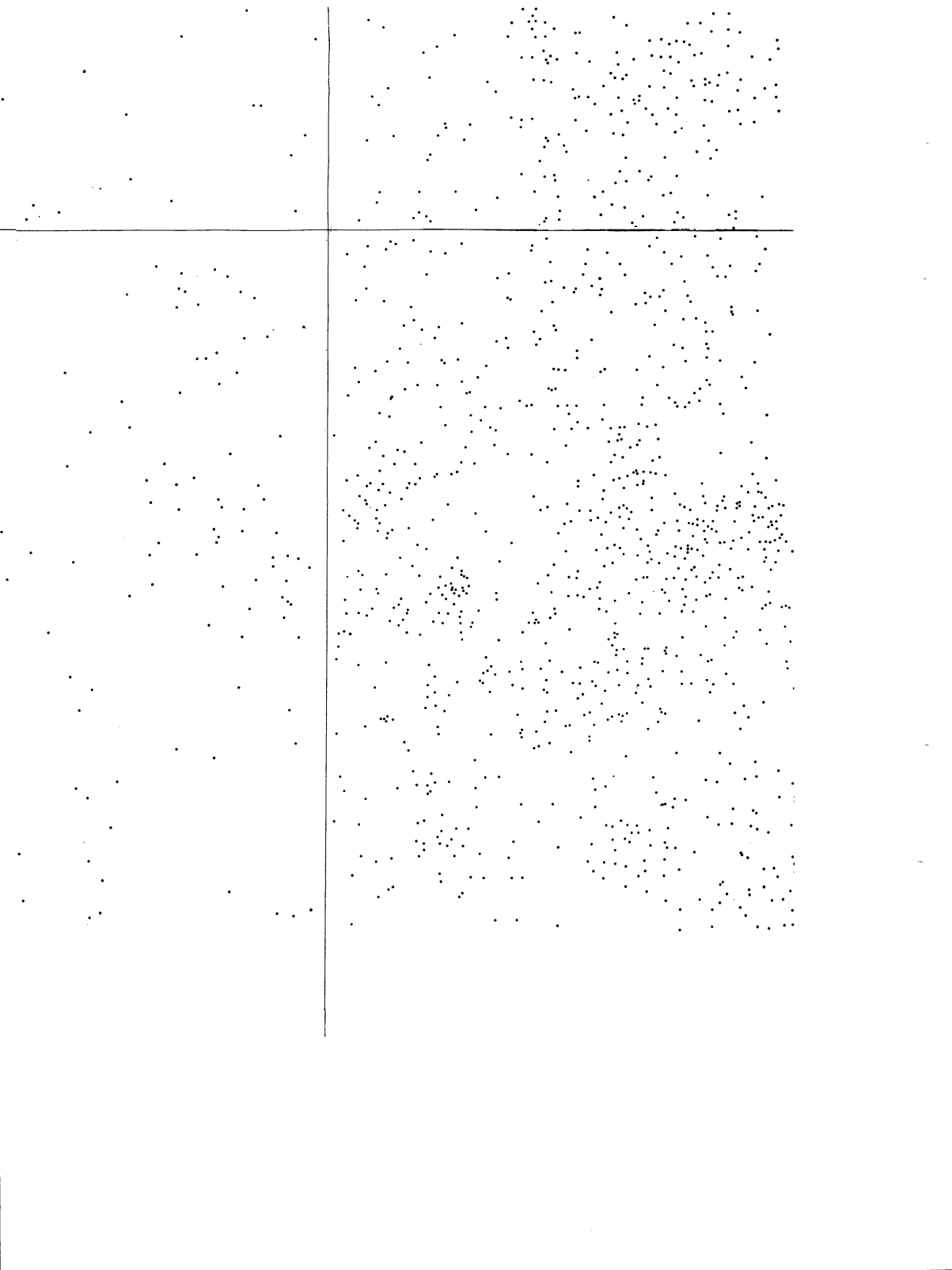


( H - 6 区 )

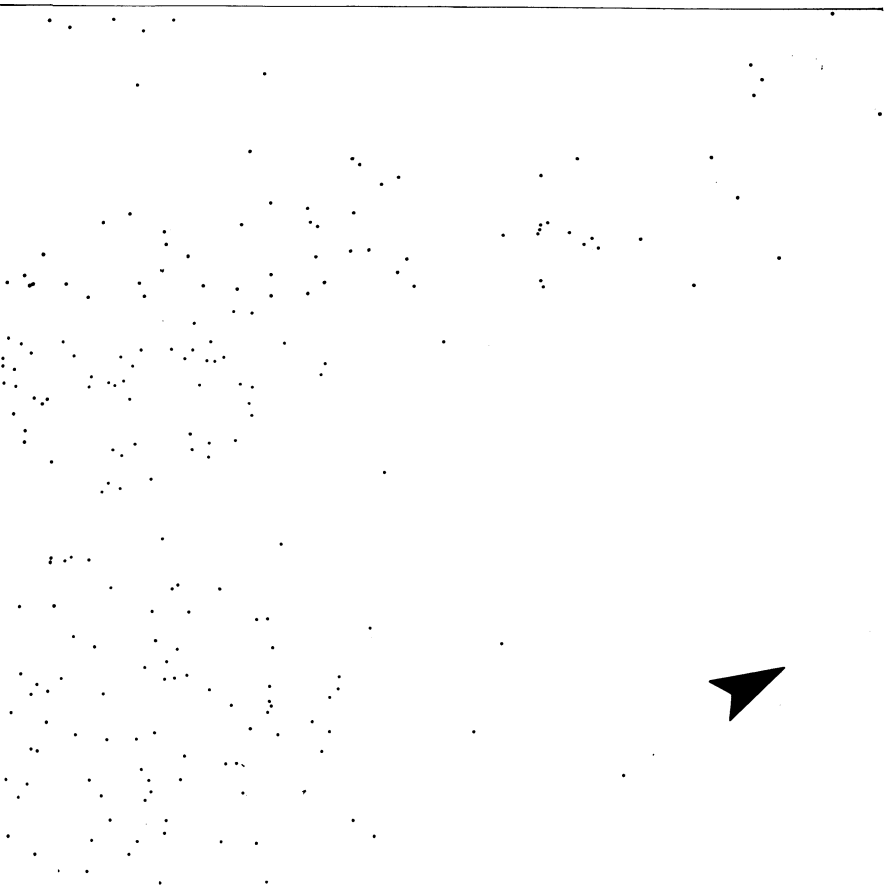
---

( I - 6 区 )

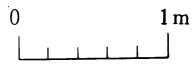
---



(H-7区)



(I-7区)





## 2節 遺構

### (1) 分布図について

#### 石器の分布

先土器時代の遺物は、11層（暗茶褐色粘質土層）から検出されている。遺物には、細石刃、細石刃核、ブランク、スクレイパー、尖頭器、ナイフ形石器、磨製石斧、石鏃、石核、剥片、碎片等が垂直分布で10～15cmにまたがって出土している。また、それらの出土遺物はあるまとまり（ユニット）をもって構成されている。これらのユニットは第166図に示すような分布となっている。

加栗山遺跡でのユニットは38ヶ所認められた。

本調査に於ける遺物分布の報告形成は、遺物の出土状態の観察が、より詳細に把握できる様に発掘区全域に10m×10mのグリットを設定し、そのグリットをさらに2m×2mを1区切りとする小グリットを設定した。

出土遺物は、一点ごとに点をおとし第167、168図に示すような分布となっている。

#### 母岩別資料の分布

母岩別資料分類は、ユニットの中で大別できる石材をユニットの中で平面図を作成した。第29ユニットは、黒曜石Aと黒曜石Bの石材の差を平面図（第169図）で、第30、32、35、37ユニットは、黒曜石と凝灰岩Bとの分類を平面図（第170～173図）で表わした。

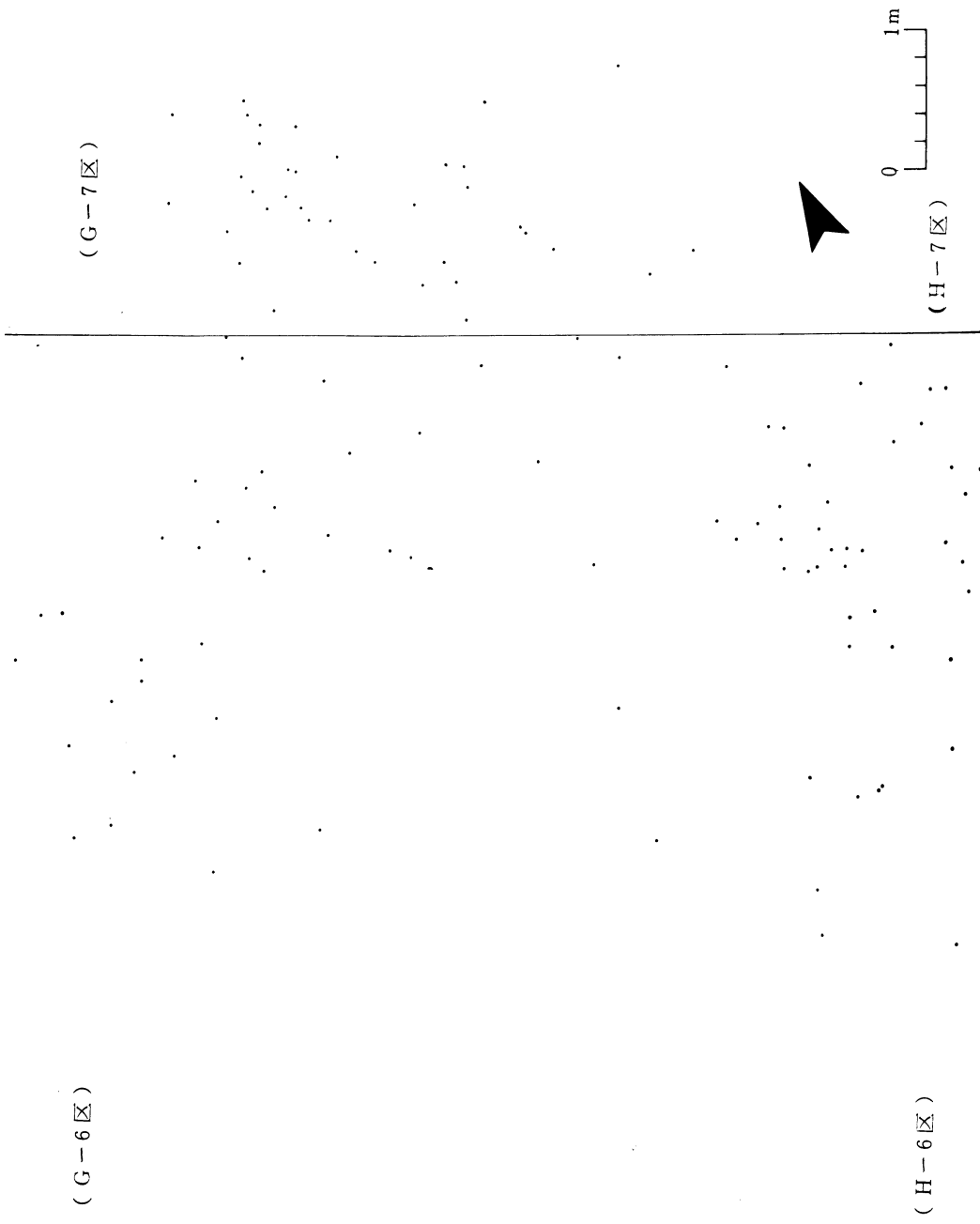
ユニットの範囲が最初の出土状況で判断したものであるので、石材での相違を考えるうえで母岩別資料の分布を図示してみた。

#### 礫の分布

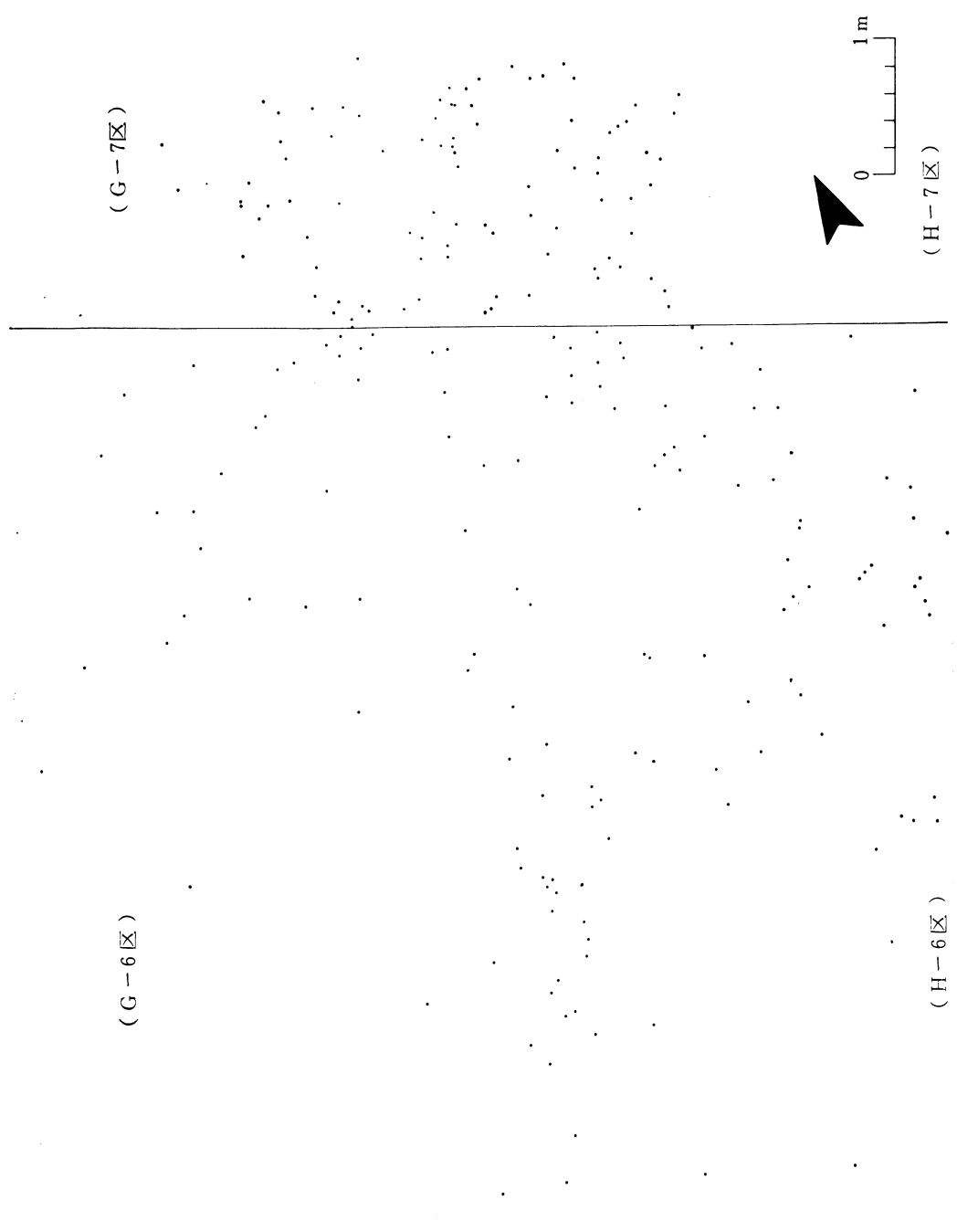
最近、各地の先土器時代の遺跡より礫群の発見が記載されている。加栗山遺跡では、礫群といえる程の集中はないが、ユニットに共伴して礫が検出された。遺物と礫の範囲は一致する。その中で、第30、32、37ユニットは第174～176図に示すような分布になっている。

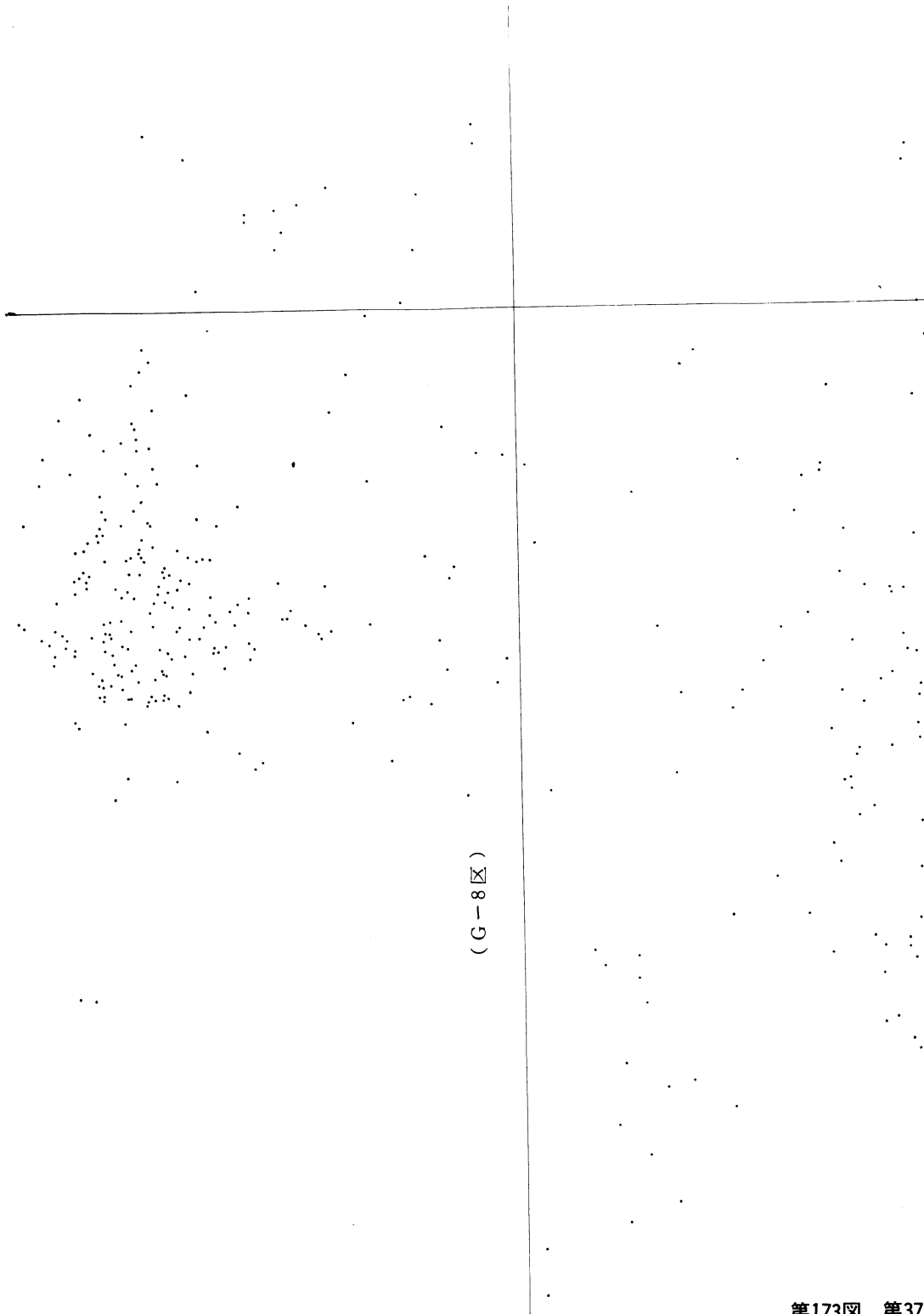
#### 器種別分布

各ユニットごとに、出土遺物の細石刃、細石刃核、ブランク、スクレイパー、剥片、石核等を遺物実測図の前に図示し、その分布をあらわした。また第309図には、石鏃、磨製石斧、ナイフ形石器の分布を図示し、遺跡全体での石鏃の出土がわかる様にしたものである。尚、出土遺物番号と実測図番号は同一である。

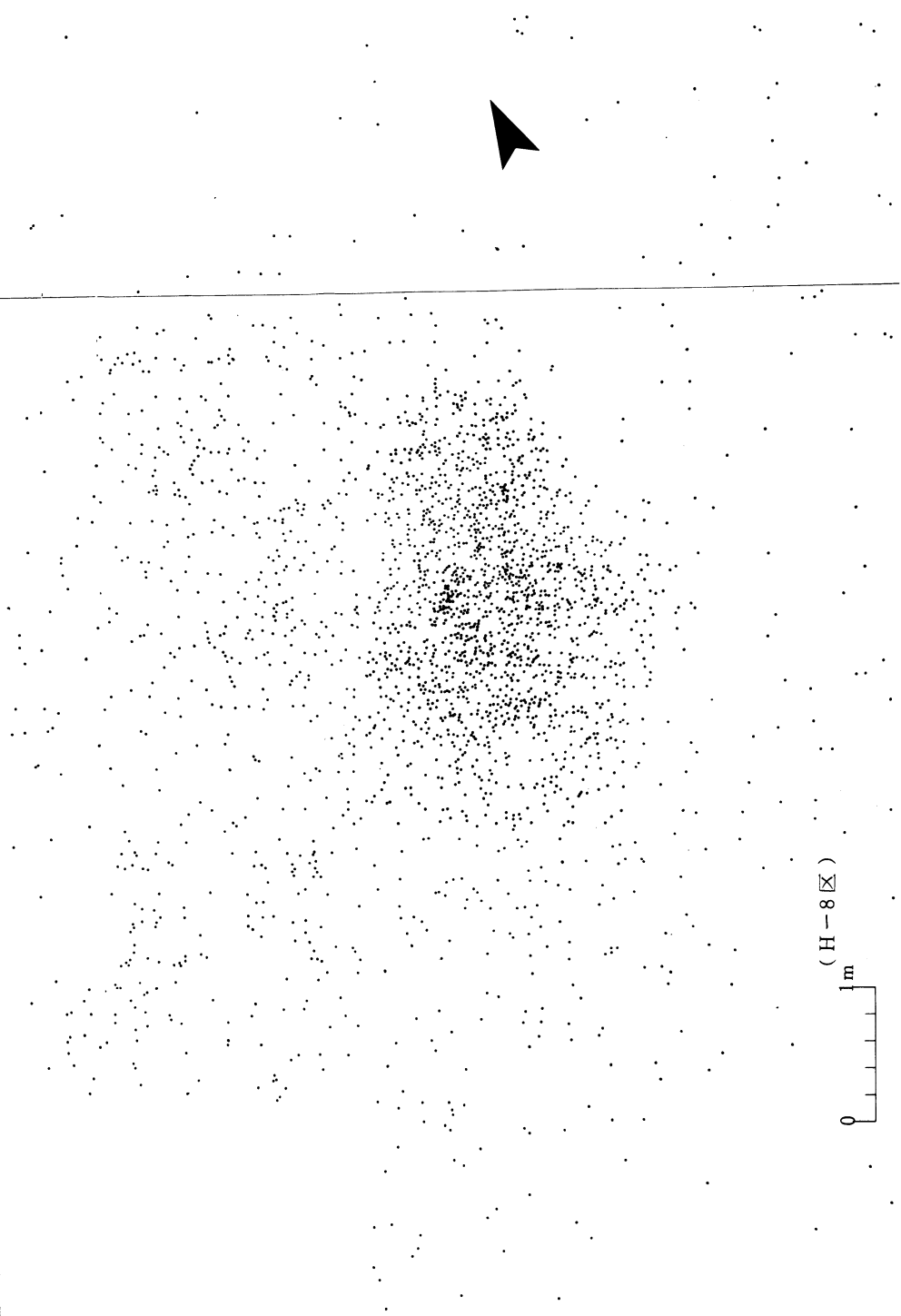


第172図 第35ユニット石材別分布図



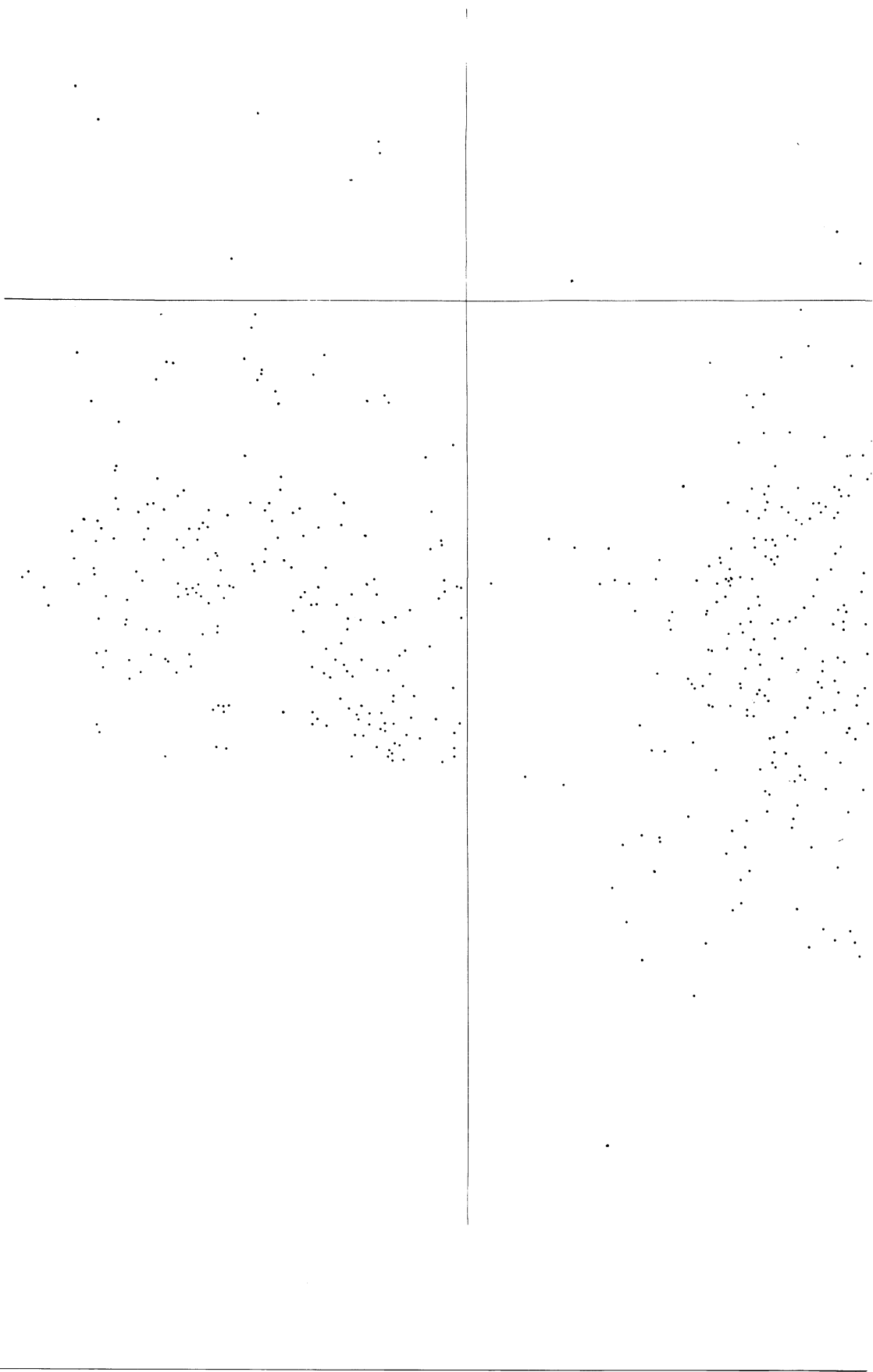


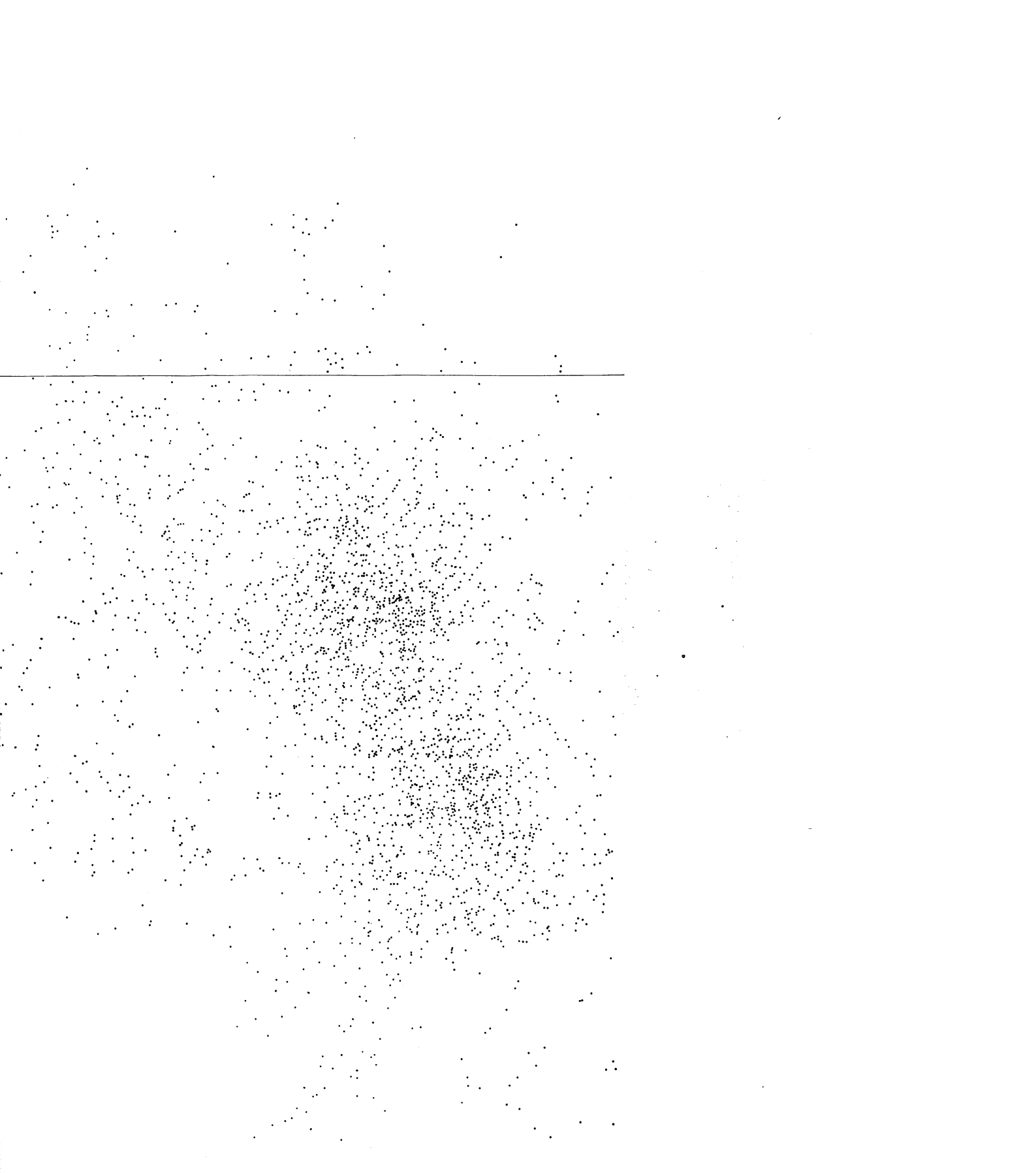
第173图 第37.

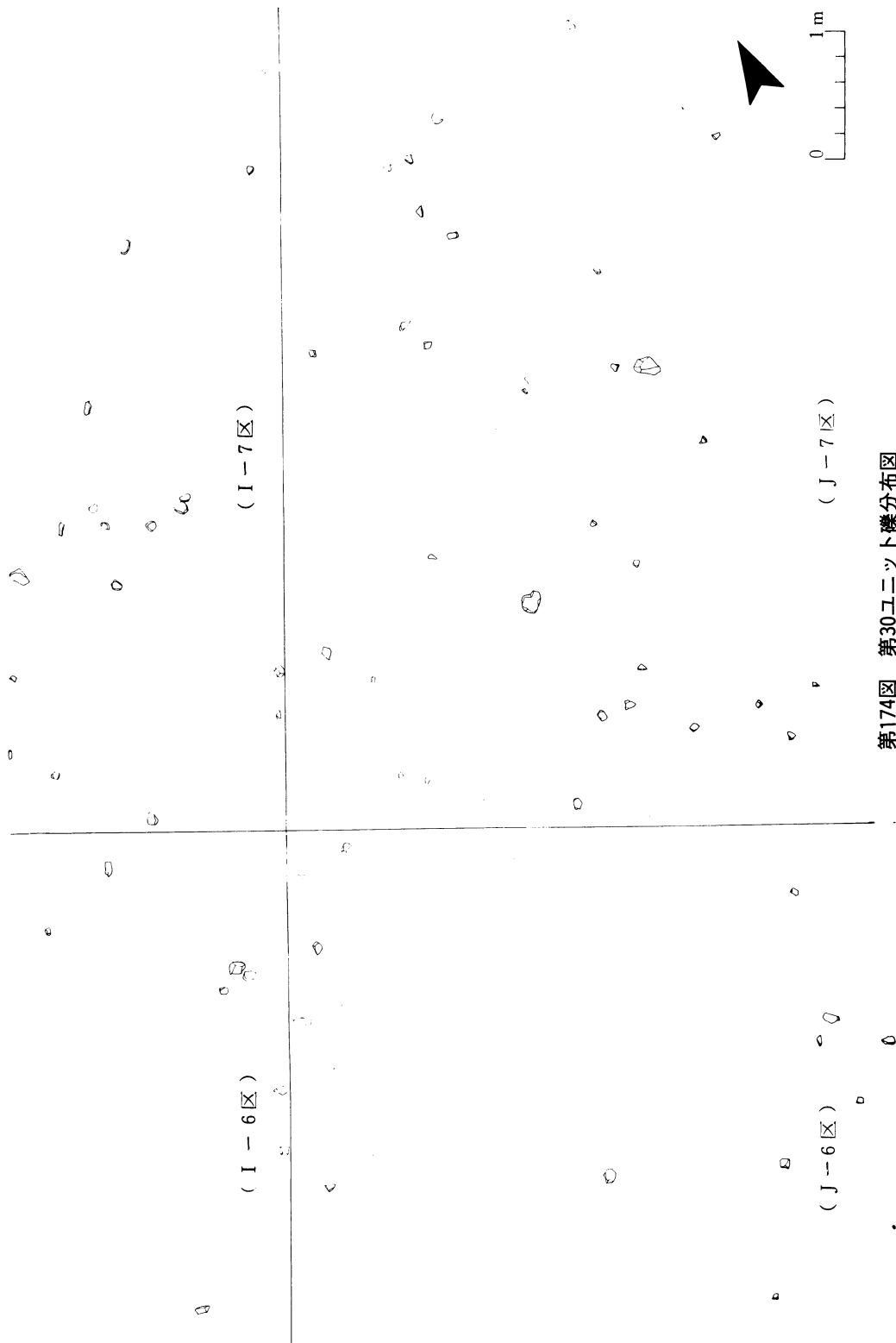


(H-8区)  
1m  
0

ユニット石材別分布図







第174図 第30ユニット磷分布図



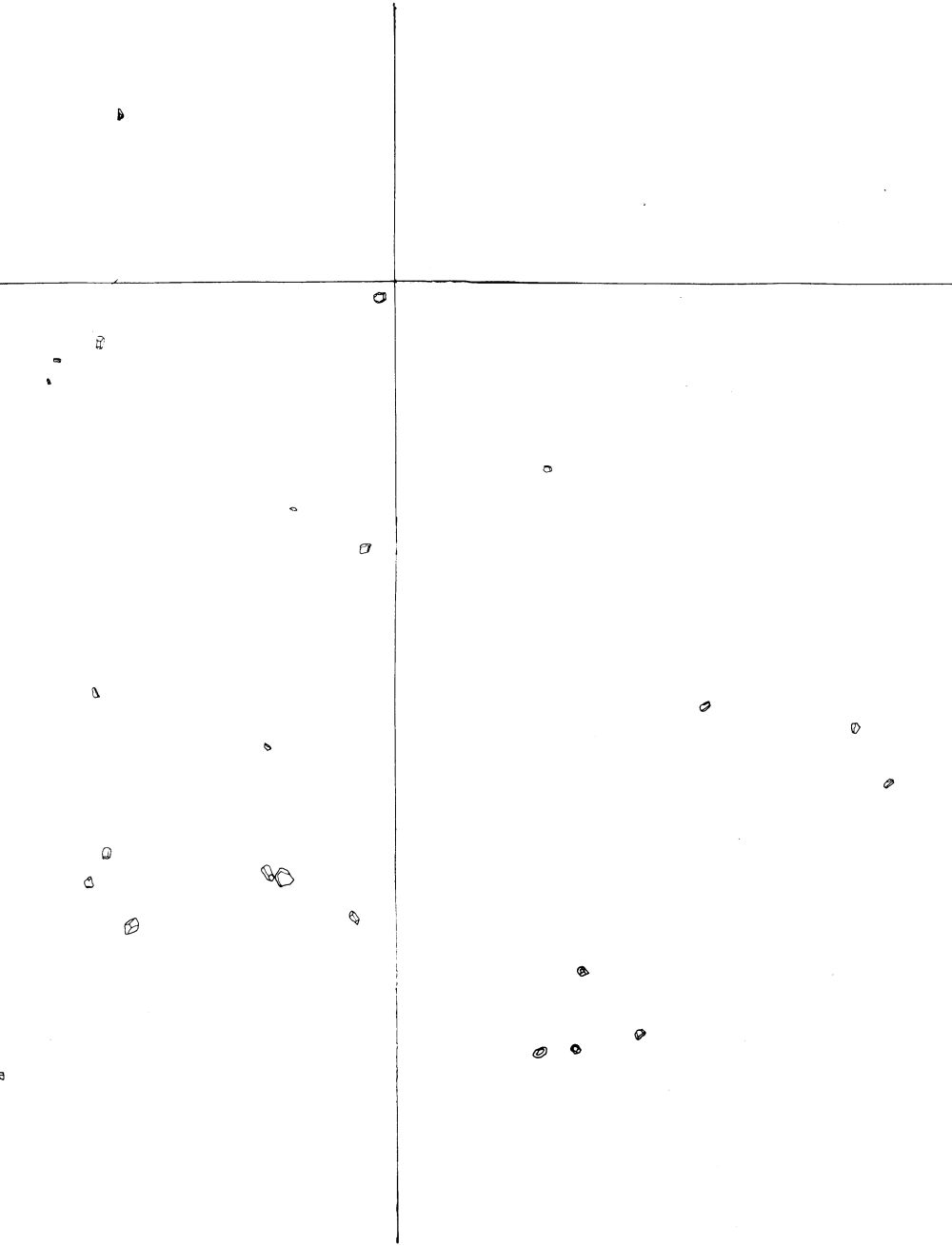
(H-6区)

---



(I-6区)

---



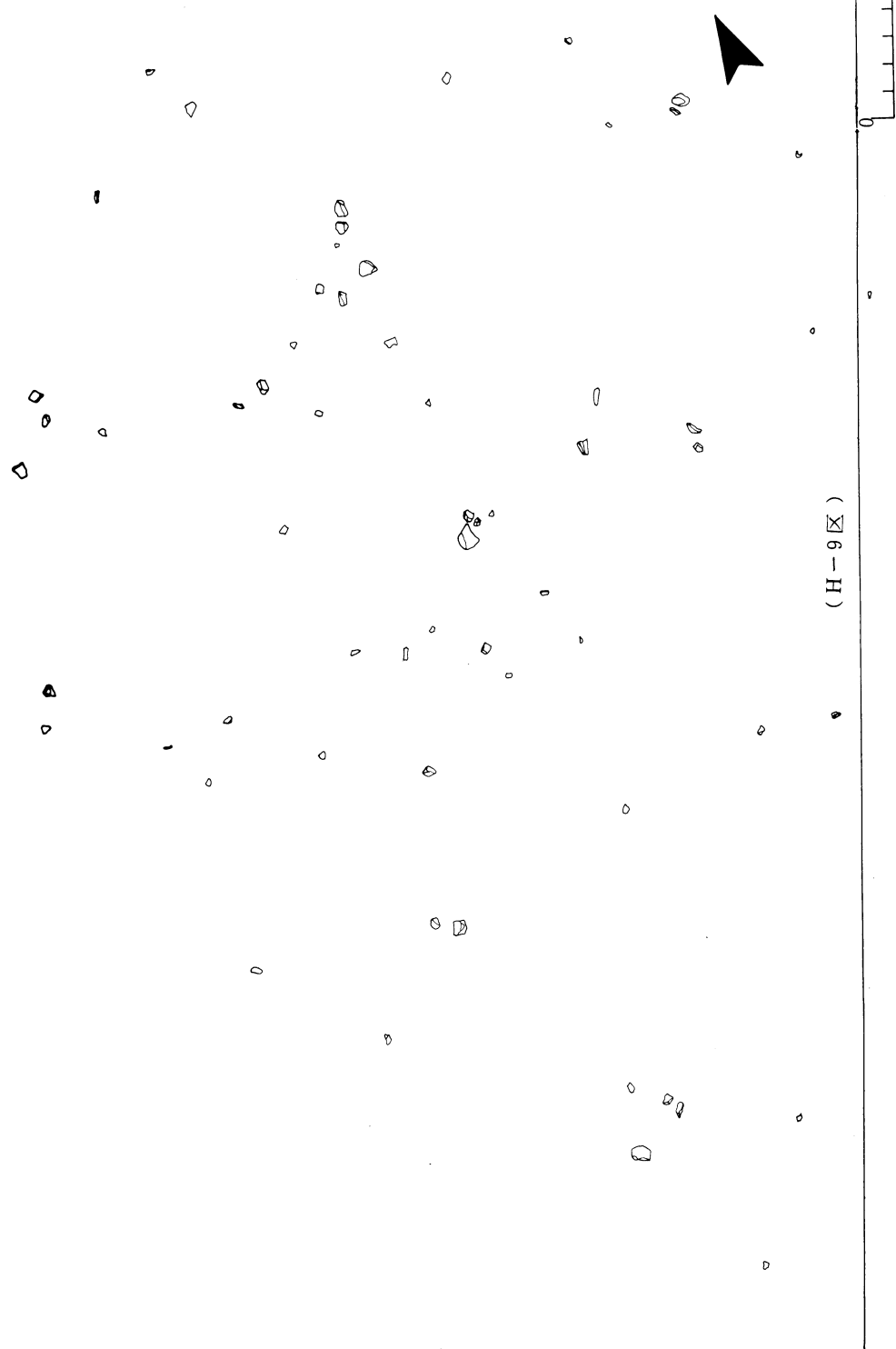
第175図 第32ユニット礫分布図

(H-7区)



(I-7区)



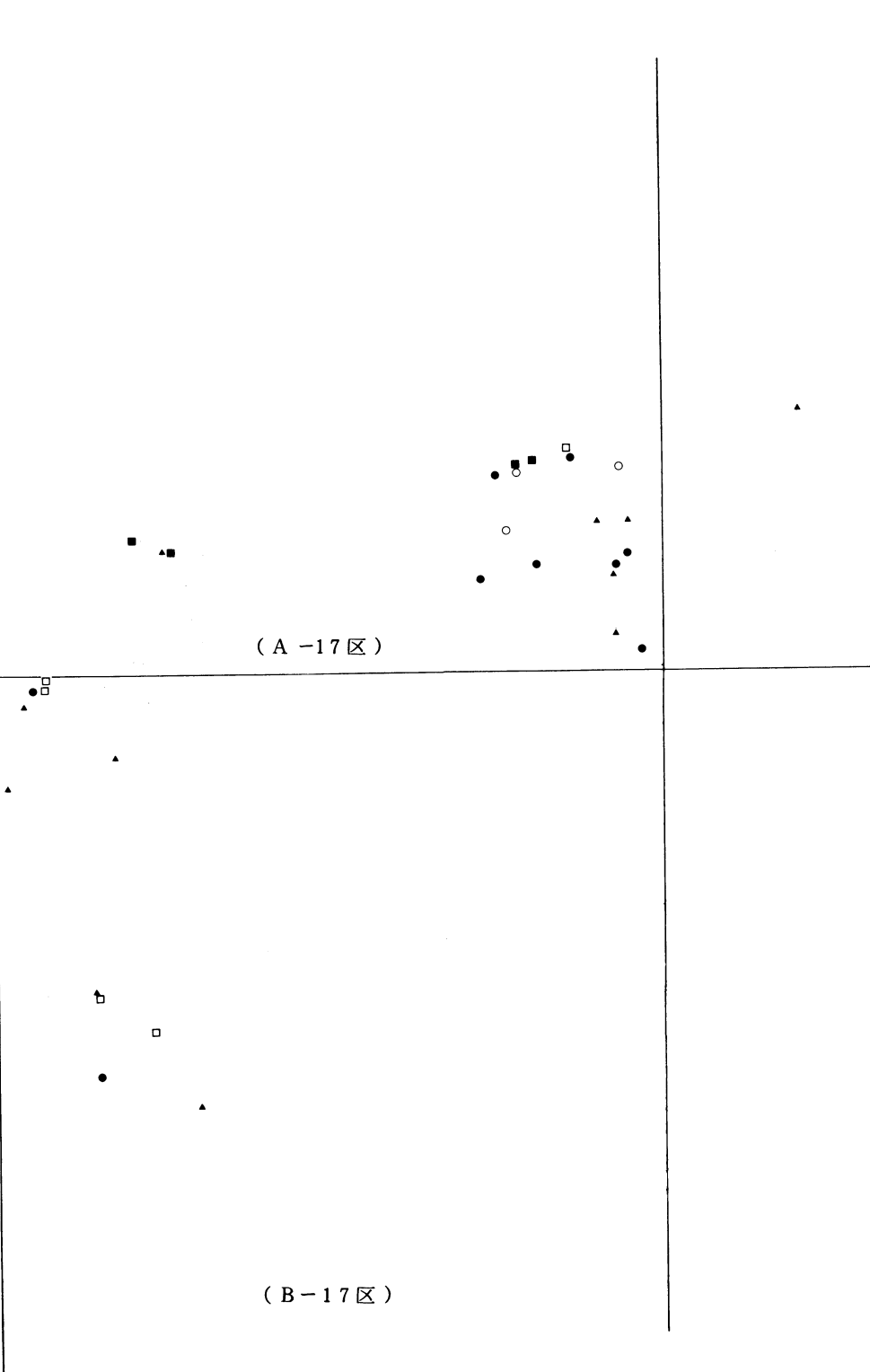


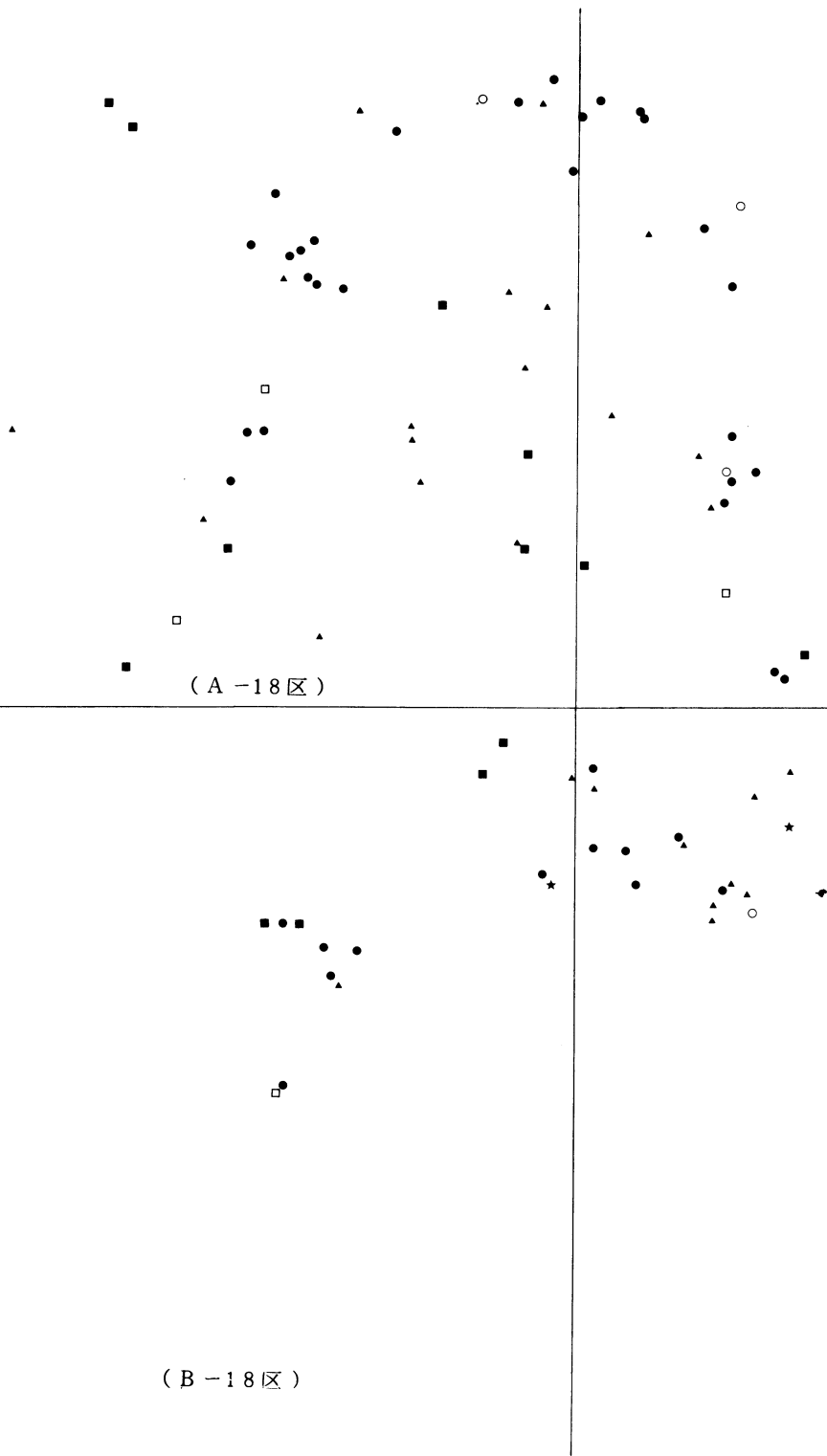
(H-9区)

第176図 第37ユニット様分布図

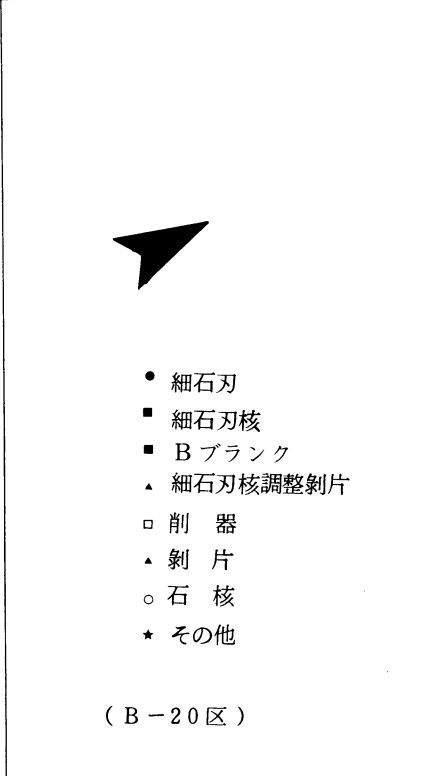
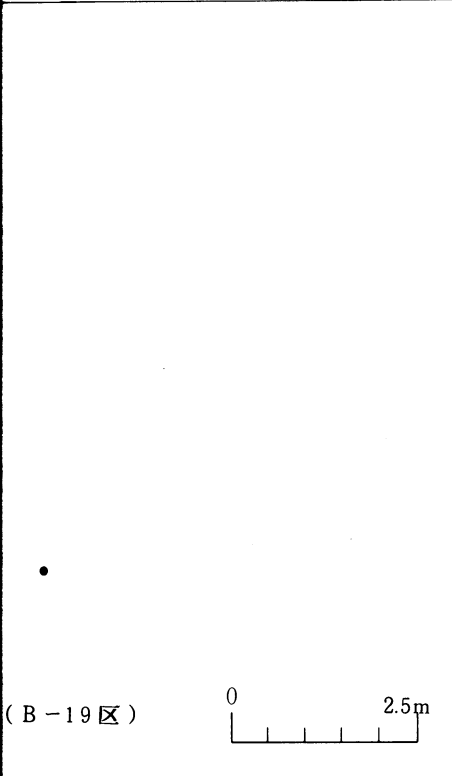
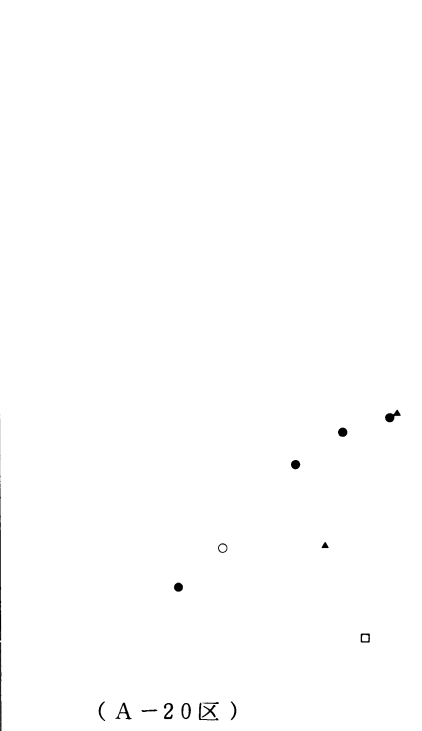
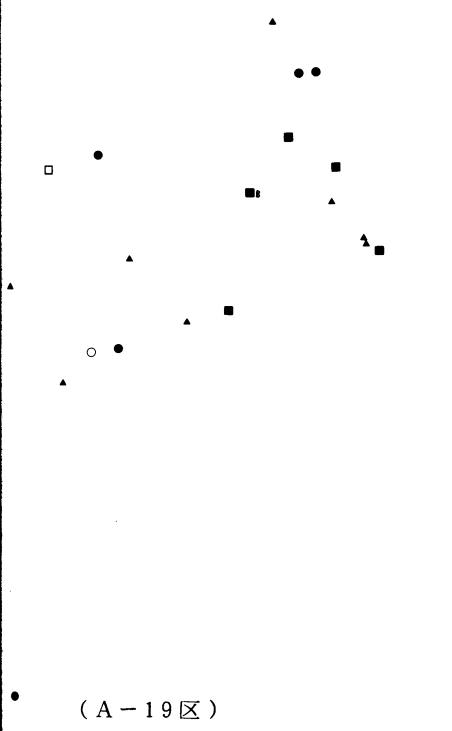
(A -17 区)

(B -17 区)

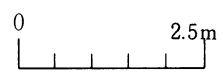




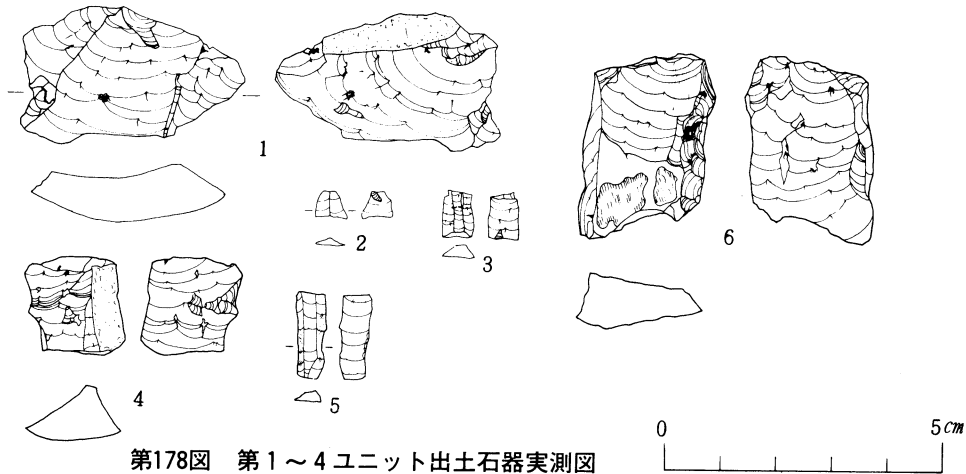
第177図 第1~17ユニット器種別分布図



- 細石刃
- 細石刃核
- B ブランク
- ▲ 細石刃核調整剥片
- 削器
- ▲ 剥片
- 石核
- ★ その他



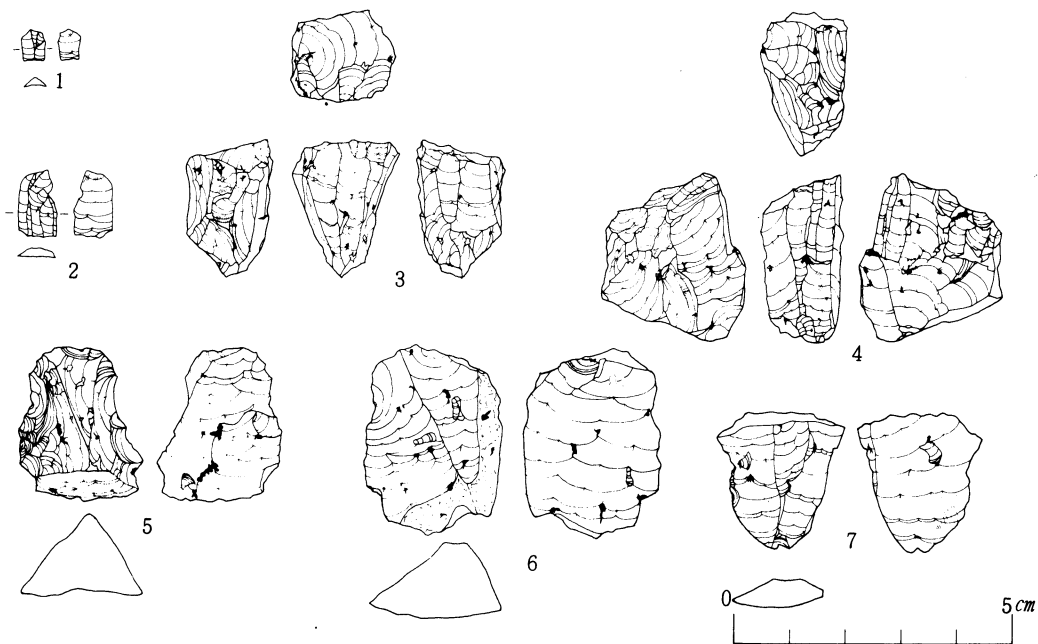
3節 遺物



第178図 第1～4ユニット出土石器実測図

第1～4ユニット出土遺物 (図版95第178図 第27表)

A-20区で遺物は長径7m、短径3mの範囲に79点が散在して検出されている。調査中は、集中を4箇所と仮定したが、整理の段階で一ユニットと判断し、第1～4ユニットと表現する。石材は、黒曜石A、黒曜石Bである。石器は、細石刃4点、スクレーパー1点、剥片9点、碎片39点である。細石刃は、気泡の少ない良質の黒曜石で、頭部・中間部が出土している。6はスクレーパーである。剥長剥片を素材とし、先端右側の縁辺に調整剥離を行っているが、先端部が欠損しているため詳細はわからない。

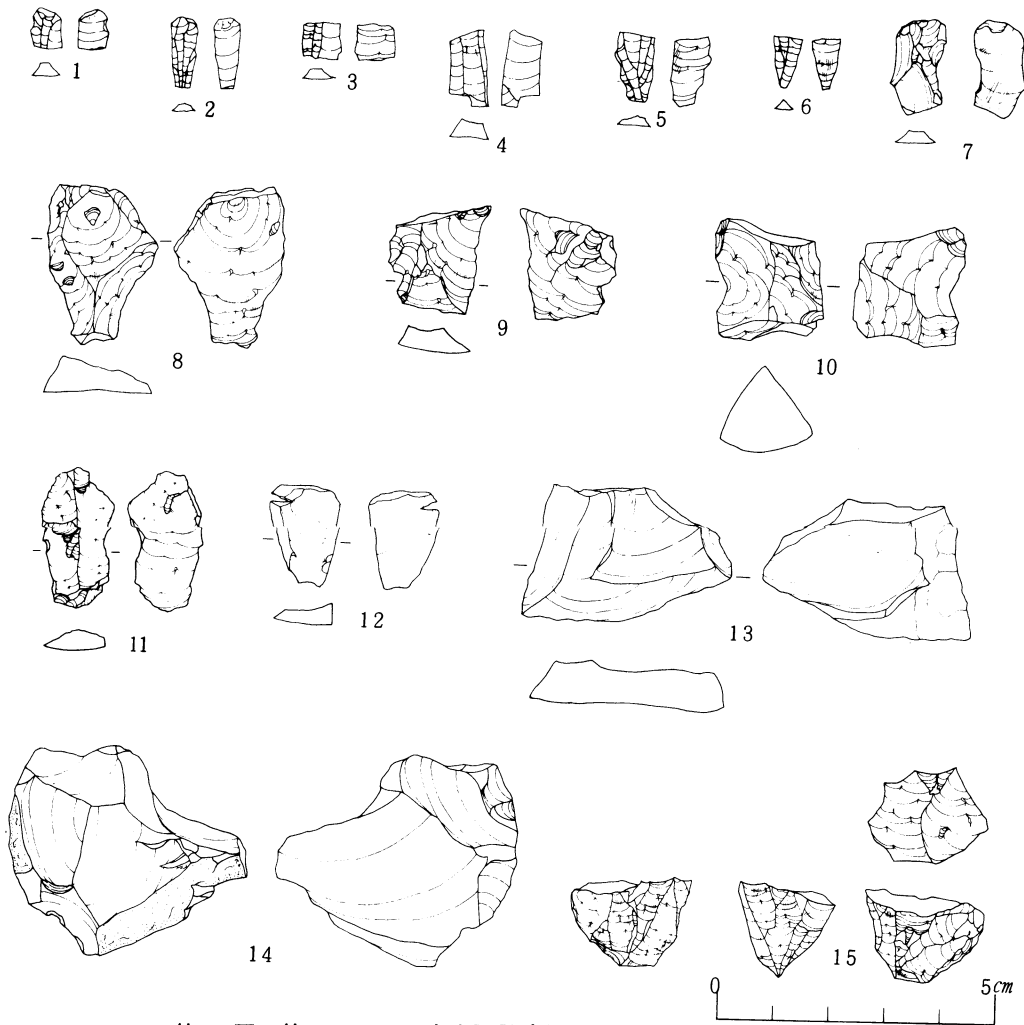


第179図 第5ユニット出土石器実測図



第5ユニットの出土遺物 (図版95第179図 第28表)

A-19区で遺物は長径7m, 短径3mの範囲に144点の遺物が散在して検出されている。石材は、全て黒曜石でAが133点, Bが11点である。石器は、細石刃3点, 細石刃核5点, ブランク1点, スクレイパー1点, 剥片34点, 石核6点である。細石刃は、黒曜石Aで頭部と頭・中間部の各1点である。3, 4は細石刃核で、3は、下縁調整及び粗い側面調整を受け、細石刃剥離作業の進んだA-2類である。4もA-3類であり、折断によって整形され、その後打面は横方向からの調整剥離を受けている。5はスクレイパーで断面三角形の厚みのある剥片の側縁部を調整剥離している。

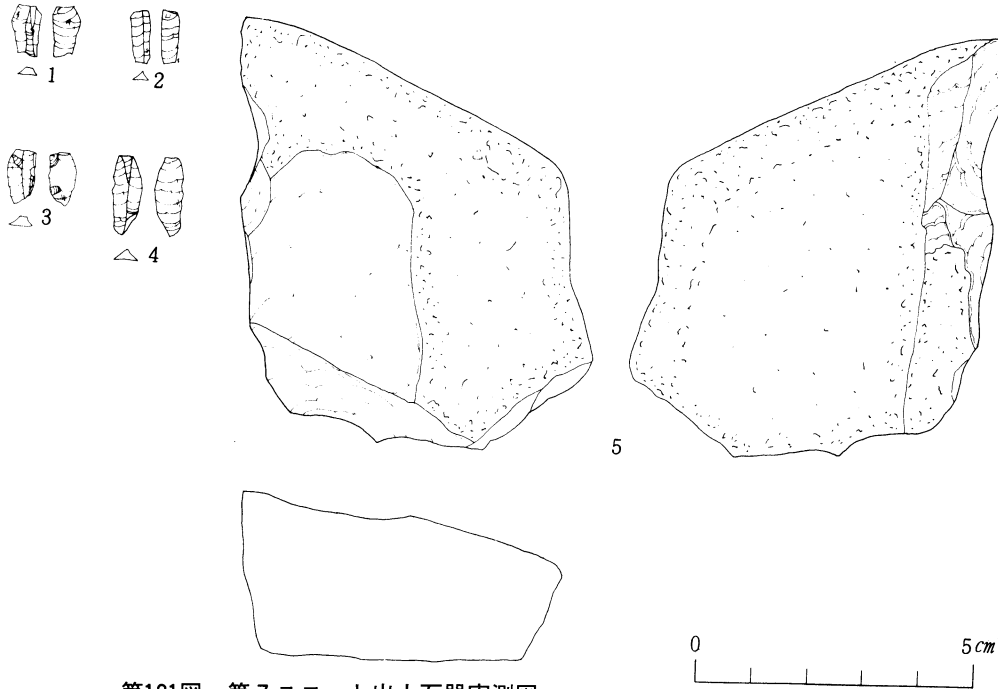


第180図 第6ユニット出土石器実測図

第6ユニットの出土石器 (図版97第182図 第31表)

A-19, B-19区で、遺物は長径5m, 短径3.5mの範囲に79点の遺物が散在して検出され

ている。石材は、安山岩2点、黒曜石A 54点、黒曜石B 14点、凝灰岩48点、砂岩1点である。石器は、細石刃6点、細石刃核2点、剥片18点、石核4点である。細石刃は、黒曜石A、Bであり、頭部1点、頭、中間部1点、中間部2点、尾部2点である。尾部の2点が黒曜石Aで残りは黒曜石Bである。8～11は黒曜石Aの剥片である。10は気泡の少ない黒曜石を素材としている縦長剥片である。両縁部に使用痕がみられる。12は砂岩製の剥片で13は横剥ぎの凝灰岩Aを素材とした剥片である。



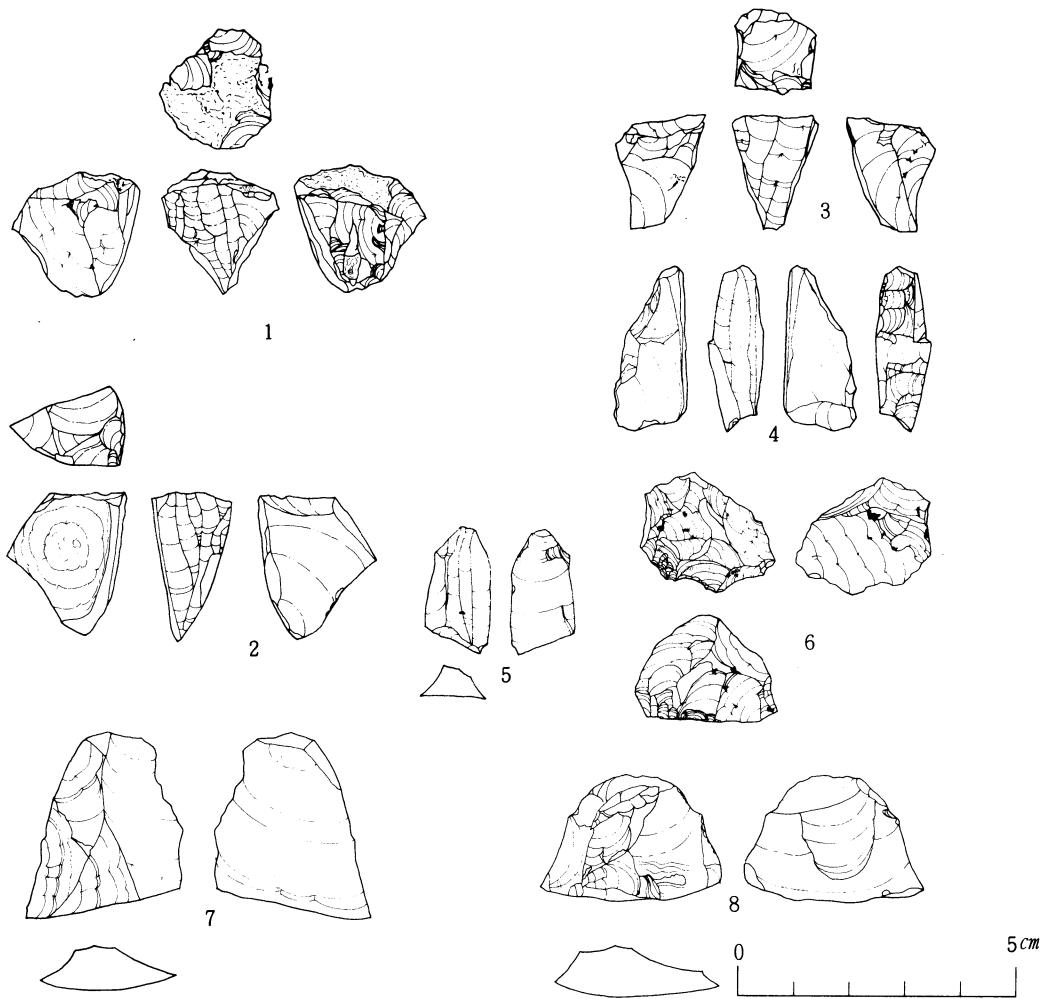
第181図 第7ユニット出土石器実測図

第7ユニット出土の遺物（図版96第181図 第30表）

B-18, B-19区で、遺物は長径3m×2.5mの範囲に50点の遺物が散在して検出されている。石材は、黒曜石A 12点、黒曜石B 19点、凝灰岩A 7点、砂岩3点、礫9点である。石器は細石刃4点、剥片20点、礫器1点である。細石刃は、黒曜石Bの石材で頭部、中間部が各1点、黒曜石Aの石材は完形品である。5は礫器で、砂岩の自然石を素材とし、片側の縁辺部に加撃を加えたものである。

第8ユニット出土の遺物（図版97第182図 第31表）

A-18, A-19区で、遺物は長径3m×2.5mの範囲に37点の遺物が散在して検出されている。石材は、黒曜石A 15点、黒曜石B 10点、凝灰岩A 10点、砂岩1点、礫1点である。石器は細石刃核4点、細石刃核調整剥片1点、スクレイパー1点、剥片11点である。1と3は黒曜石Bの細石刃核である。1は打面に表皮を残したまま荒割りした剥片を使用し、下縁から微調整を受けている。3はA-2類である。2と4は凝灰岩Aで、両方ともA-1類にあたる。先端部の鋭い剥片を素材とし、打面は横側からの調整剥離を施している。4には特に顕著に見られ

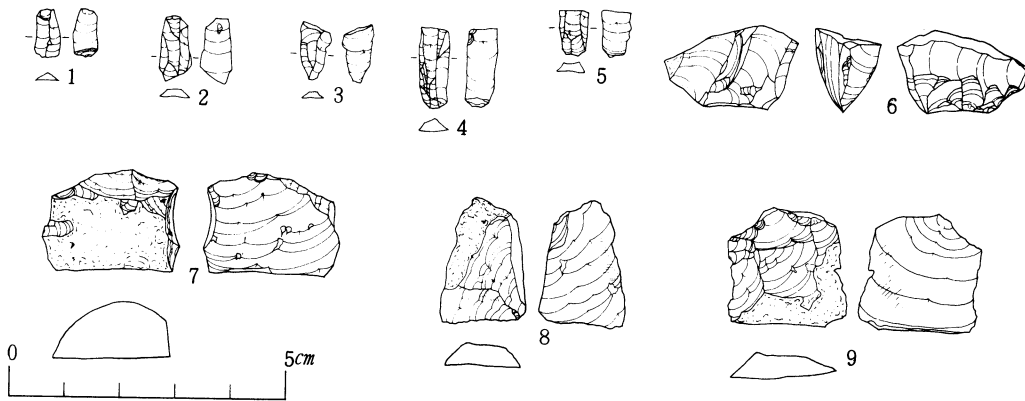


第182図 第8ユニット出土石器実測図

る。側面調整は全くなされておらず、わずかに下縁調整が認められる。6は平坦面を打面にしたブランクと思われる。5は、凝灰岩Aで細石刃核調整剥片である。三条の細石刃剥出痕が認められる。これは、細石刃核から剥出作業中に剥離面が階段状になった場合等に打撃面より加撃を加え、再び細石刃核として使用する場合の調整された剥片のことである。7は砂岩を素材とする縦長剥片である。両側縁部には使用痕が認められる。8は、凝灰岩質の縦長剥片であり、先端部は折断されている。

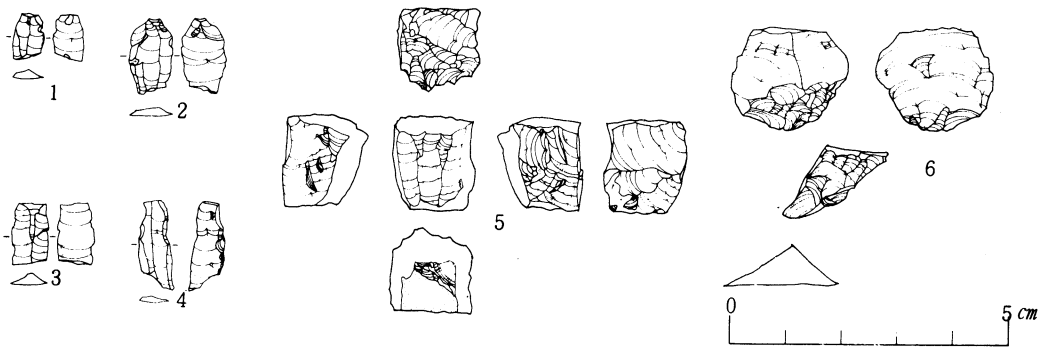
第9ユニット出土の遺物 (図版97第183図 第32表)

A-19区で、遺物は直径3mのほぼ円形の範囲に48点の遺物が散在して検出されている。石材は、黒曜石A33点、黒曜石B13点、凝灰岩A1点、礫1点である。石器は、細石刃5点、細石刃核1点、剥片13点、石核1点である。細石刃は黒曜石Bの頭・中間部2点(1, 2)と黒曜石Bの尾部(3)、黒曜石Aの尾部(4, 5)2点である。6は凝灰岩Aの細石刃核である。



第183図 第9ユニット出土石器実測図

打撃面は欠損しているが、横面調整がなされず、下縁調整が行なわれていることからA-I類に分類できる。7、8、9とも自然面を残した剥片である。7は縦長剥片を折断し、その中部である。8の剥片には先端部に使用痕が認められる。両方とも黒曜石Aであり、9は黒曜石Bの素材を利用した剥片である。



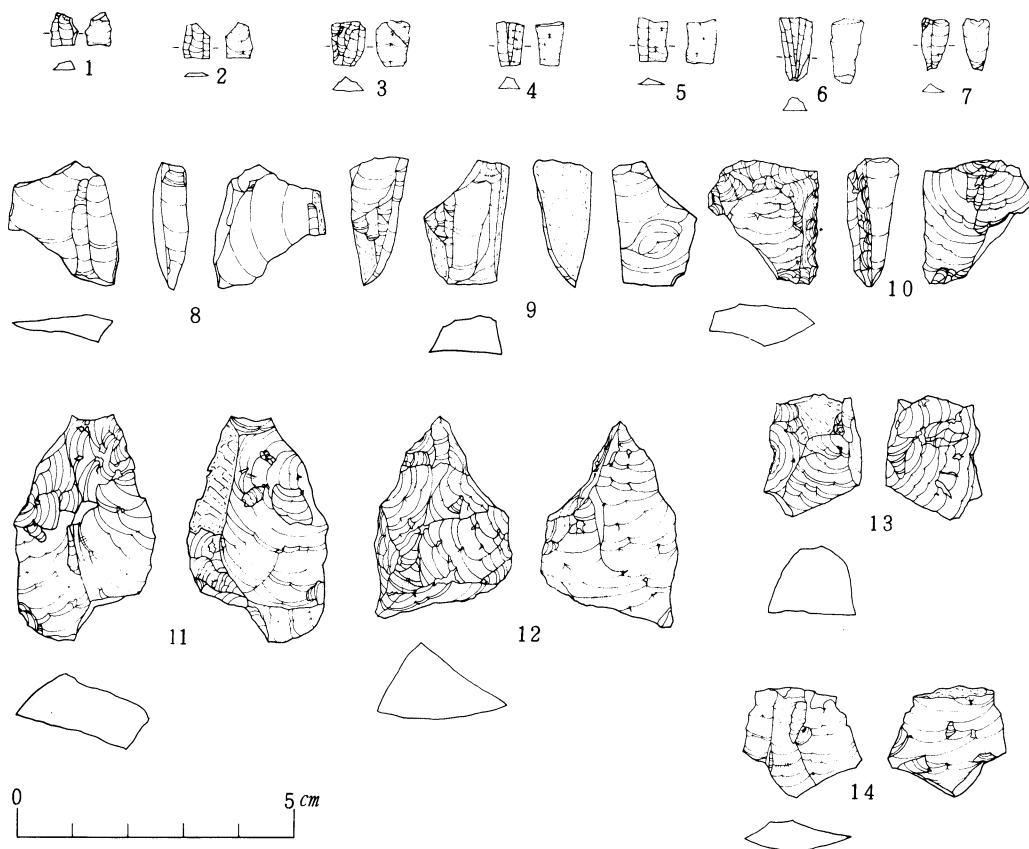
第184図 第10ユニット出土石器実測図

第10ユニット出土の遺物 (図版98第184図 第33表)

B-18区で、遺物は長径3m、短径2.5mの範囲に75点の遺物が散在して検出されている。石材は、黒曜石A48点、黒曜石B24点、凝灰岩A2点、礫1点である。石器は、細石刃5点、細石刃核2点、スクレイパー1点、剥片7点、石核2点である。細石刃は黒曜石Bの頭部2点(1、2)と黒曜石Bの中間部(3)、黒曜石Aの中間・尾部(4)である。5は打撃面調整の入念に行なわれた黒曜石Bの細石刃核である。6は黒曜石Bの剥片で円盤状である。

第11ユニット出土の遺物 (図版98第185図 第34表)

A-18区で、遺物は長径9m、短径4mの範囲に186点の遺物が散在して検出されている。石材は、黒曜石A88点、黒曜石B41点、凝灰岩A34点、砂岩1点、礫22点である。石器は、細

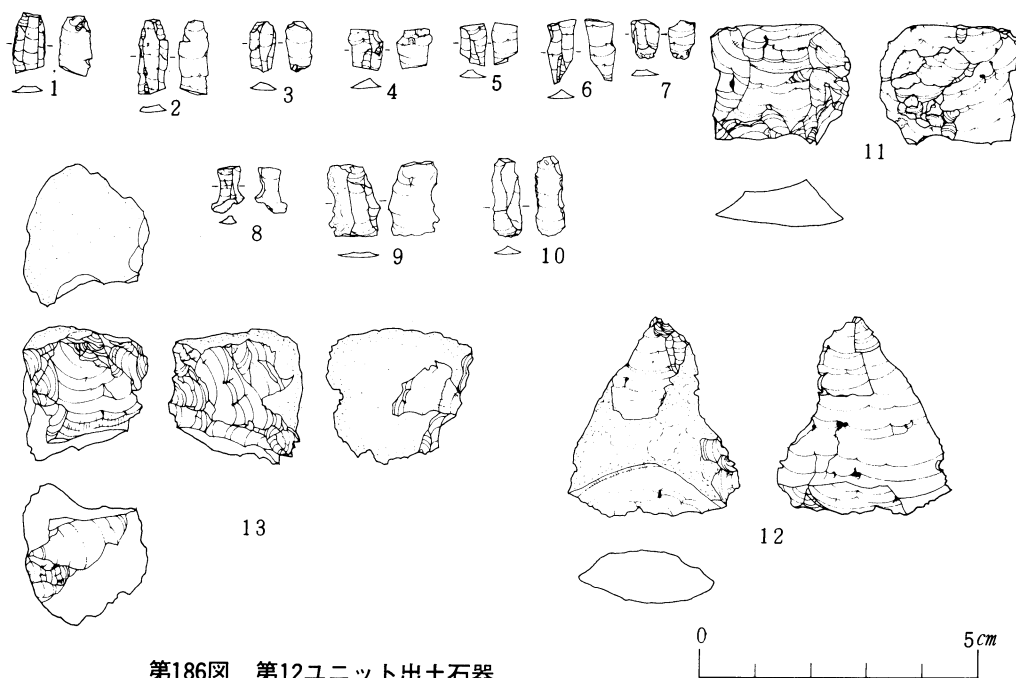


第185図 第11ユニット出土石器

石刃10点，細石刃核2点，細石刃核調整剥片3点，スクレイパー2点，剥片39点，石核5点である。細石刃は，頭部3点（1～3）中間部3点（4～6）尾部1点である。2，5，7が黒曜石B，6が凝灰岩Aで他は黒曜石Aである。6は四条の稜があり尾部に近い。8，9は凝灰岩Aの細石刃核調整剥片である。10は，縦長剥片を用い片側縁部に細かい調整剥離を施こしたスクレイパーである。11～13は厚みのある剥片で，14は黒曜石Bの自然面を残した縦長剥片である。

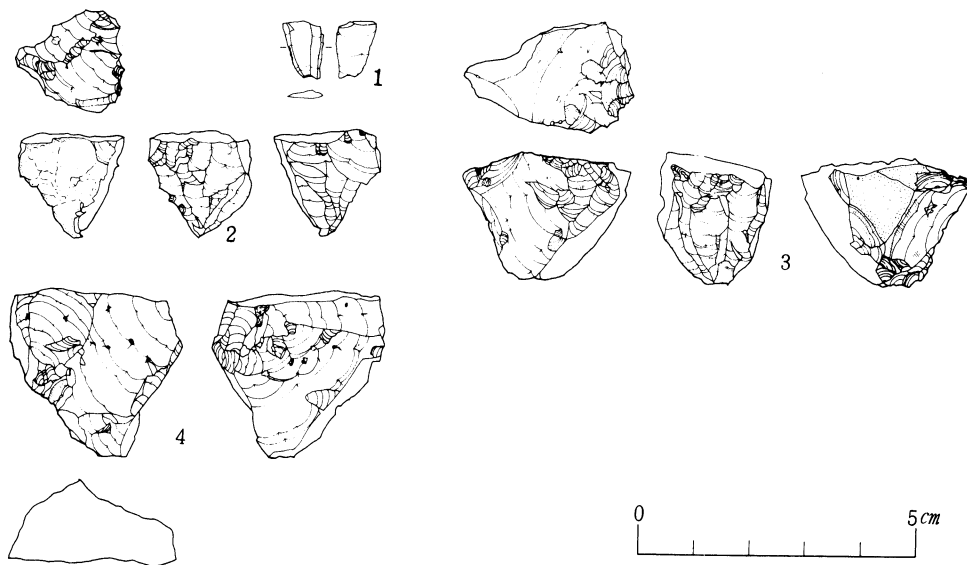
第12ユニット出土の遺物（図版99第186図 第35表）

A-19区で遺物は長径5m，短径4mの範囲に97点が散在して検出されている。石材は，黒曜石A70点，黒曜石B23点，礫4点である。石器は，細石刃10点，剥片12点，石核3点である。細石刃は，黒曜石Aの頭・中間部2点（1，2），黒曜石Bの頭・中間部（3），黒曜石A・Bの中間部が各1点（4，5），Bの尾部2点（6，7），Aの尾部1点（8），Bの完形品が2点（9，10）である。11は黒曜石Aの整形された剥片である。12は，黒曜石Bの三角形を呈した剥片である。13は，黒曜石Bの小礫をうちかいたものであり，石核より残核の類に分類



第186図 第12ユニット出土石器

できるものである。



第187図 第13ユニット出土石器

第13ユニット出土の遺物（図版99第187図 第36表）

A-18区で遺物は長径6m、短径4mの範囲に62点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A46点、黒曜石B6点、凝灰岩A1点、礫9点である。石器は、細石刃1点、細石刃核2

点、剥片11点、石核3点である。1の細石刃は黒曜石Bで尾部である。2は礫を荒割りした剥片を素材としており、平担打面である。3も同様に礫の表皮が残っている。両方とも似かよっているが、後者は側面調整剥離によって整形したものである。4の剥片は、断面三角形の厚みのある剥片である。

第14ユニット出土の遺物（第37表）

B-17、B-18区で遺物は長径5.5m、短径3.5mの範囲に39点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A25点、黒曜石B6点、安山岩4点、礫4点である。石器は、スクレイパー1点、剥片12点、槌石2点、石核2点である。

第15ユニット出土の遺物（図版100第188図第38表）

A-17区で遺物は長径5.5m、短径3.5mの範囲に122点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A120点、凝灰岩A1点、硬質頁岩1点、礫1点である。石器は、細石刃7点、ブランク2点、スクレイパー4点、剥片20点、石核2点である。細石刃は全て黒曜石Aで、頭部3点（1、2、3）、頭・中間部3点（4、5、6）、中間部1点（7）である。8、9はブランクと思われる。10・11は黒曜石Aのスクレイパーである。10は右側縁部に調整剥離があり、11は表皮を残す折断剥片の左側縁部に調整剥離が施されている。12は硬質頁岩の剥片である。13・14・15は黒曜石Aの剥片で、14には使用痕が認められる。16・17は、黒曜石Aの石核であるが、剥片剥出作業過程の中に一定方向がなく、これは残核と表現したい。

第16ユニット出土の遺物（図版100第189図第39表）

B-17区で、遺物は直径3mのほぼ円形状の範囲に46点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A39点、黒曜石B2点、凝灰岩A1点、砂岩2点、安山岩1点である。石器は、細石刃1点、ブランク2点、スクレイパー2点、剥片17点、石核1点である。細石刃は、気泡の少ない黒曜石製で中間部である。2は、黒曜石Bのスクレイパーで、横剥ぎの剥片を素材に先端部周辺の側縁部に調整剥離を施し、形の整ったものである。3は頭部が欠損しているが、断面三角形の厚みのある剥片を使用し、先端部周辺に調整剥離を施している。黒曜石Aである。剥片（4～10）は全て黒曜石Aで断面三角形を呈す厚みのあるものである。

第17ユニット出土の遺物（図版101第40表）

A-17区で、遺物は長径6m、短径4mの範囲に58点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A53点、黒曜石B5点である。石器は、細石刃1点、ブランク2点、スクレイパー2点、剥片17点、石核1点である。1は黒曜石Aで打瘤のある尾部の切断された細石刃である。2、3、4は黒曜石Aのブランクである。5、7、8はスクレイパーである。5は縦長剥片を用い打瘤部を排除し、側縁部に調整剥離を施している。8は気泡の少ない良質の黒曜石の縦長剥片を折断し片側縁部に調整剥離を施し整形されたものである。9は厚みのある剥片である。



第188図 第15ユニット出土石器

第18ユニット出土の遺物 (図版101~102第192図 第41表)

A-17, A-18区で遺物は長径6.5m, 短径5mの範囲に2095点が集中して検出されている。石材は黒曜石A2010点, 黒曜石B66点, 硬質頁岩8点, 安山岩1点, 礫10点である。石器は細石刃143点, 細石刃核25点, ブランク1点, スクレイパー1点, 剥片107点, 石核10点, 大型加工台形様石1点, 石鏃1点である。このユニットは今までのユニットと違い碎片は多いけど集中して遺物がみられた。特に大型加工台形様石の周辺には足の踏み場もない程の出土をみた。大型加工台形様石は, 9層のパミス層を掘り下げた段階で, 10層の赤褐色粘質土層, 11層の暗





第189図 第16ユニット出土石器

茶褐色粘質土層が一部盛りあがっている場所で、11層中に包含されていた。輝石安山岩製の左右対称な台形状の石器である。平坦部に2ヶ所程、研磨の痕跡が見られることから、石皿ではとの意見等がある。細石刃は、黒曜石A・B、硬質頁岩からなり、中間部で過半数を示める。

第10表はそれをまとめたものである。1は、頁岩製の細石刃核で、黒曜石Bが4点で、後は

18ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	19	68	23	21	18	149
〃	11.4%	41.0%	13.9%	12.7%	10.8%	89.8%
黒曜石B		2	2		5	9
		1.2%	1.2%		3.0%	5.4%
硬質頁岩	3	4			1	8
	1.8%	2.4%			0.6%	4.8%
計	22	74	25	21	24	166
	13.3%	44.6%	15.1%	12.7%	14.5%	

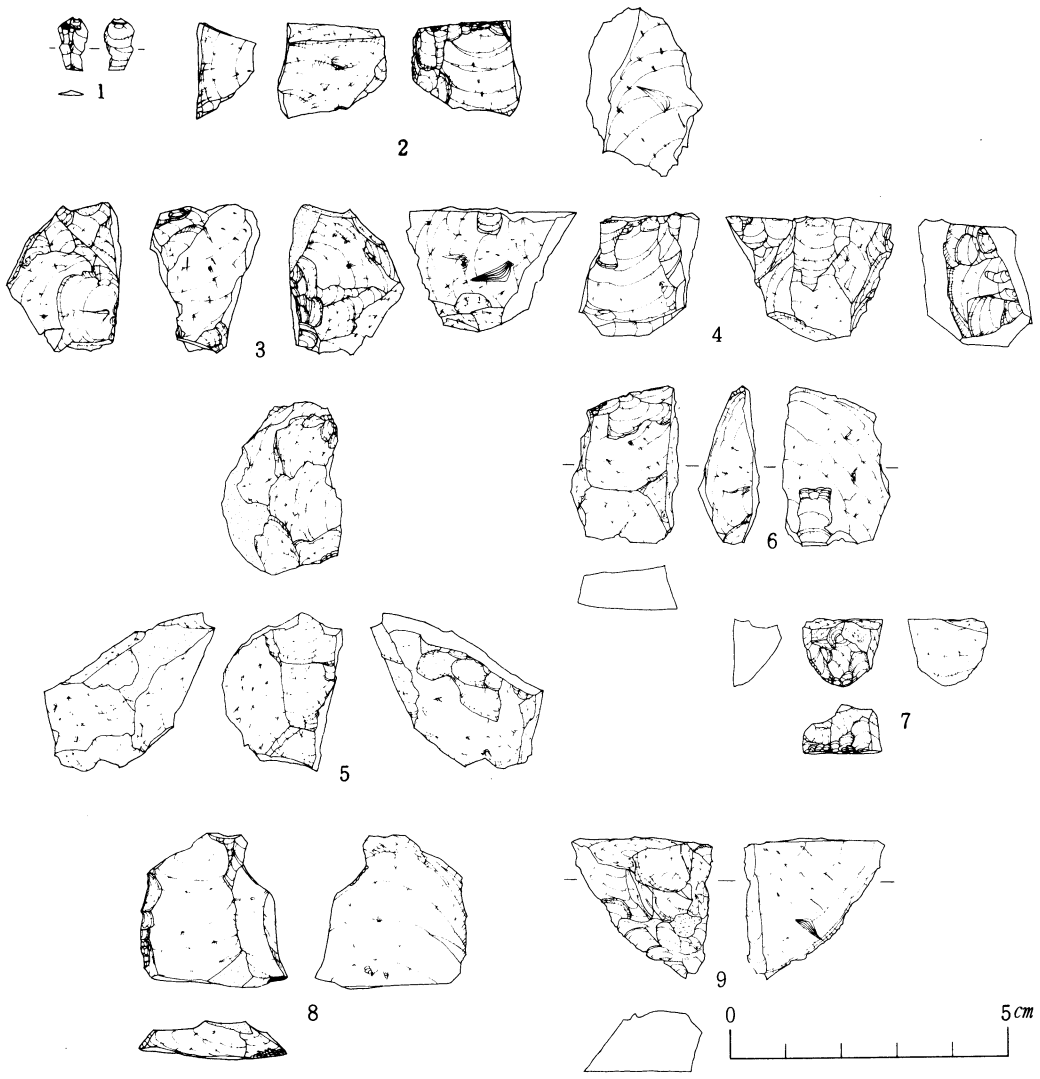
第10表 第18ユニット細石刃分類表

全て黒曜石Aである。1は、剥片の平坦面を側面にし、下縁からの調整剥離が施されている。打面は横方向からの調整剥離によって作られ、打撃面調整はない。

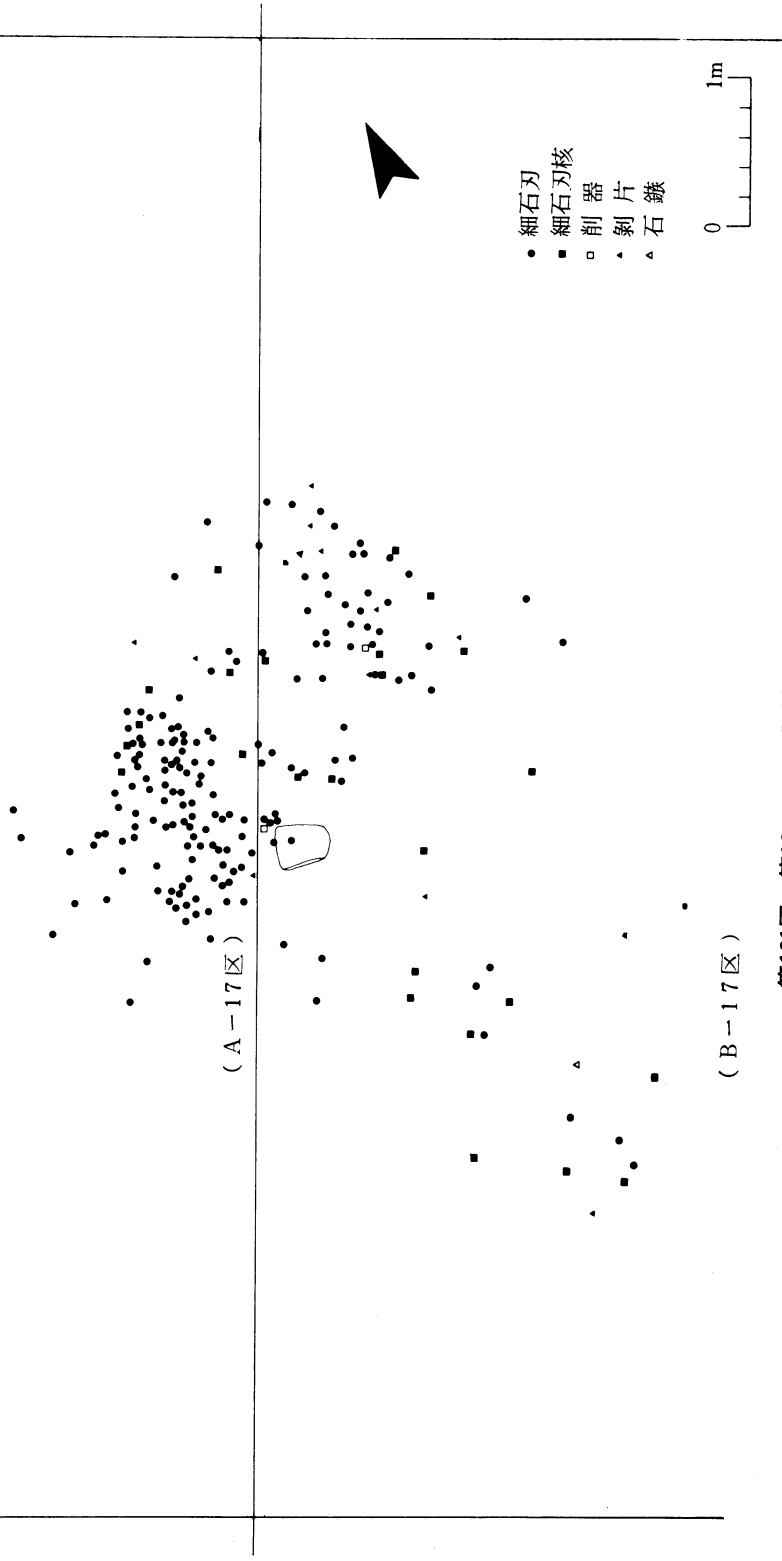
A-4類に分類される。2、9は表皮を一部残した剥片の平坦面を側面にし、下縁は尖がらない。A-3類である。6もこれにはいる。他は図示できなかったものも含めてA-4類である。

平坦な主要剥離面を側面にし、粗な剥離によって断面をV字状に仕上げる。また下縁調整を施し下縁を尖がらすものが多い。打面は平坦な一角のものと横からの調整を受けたものがある。A-4類は11点出土している。

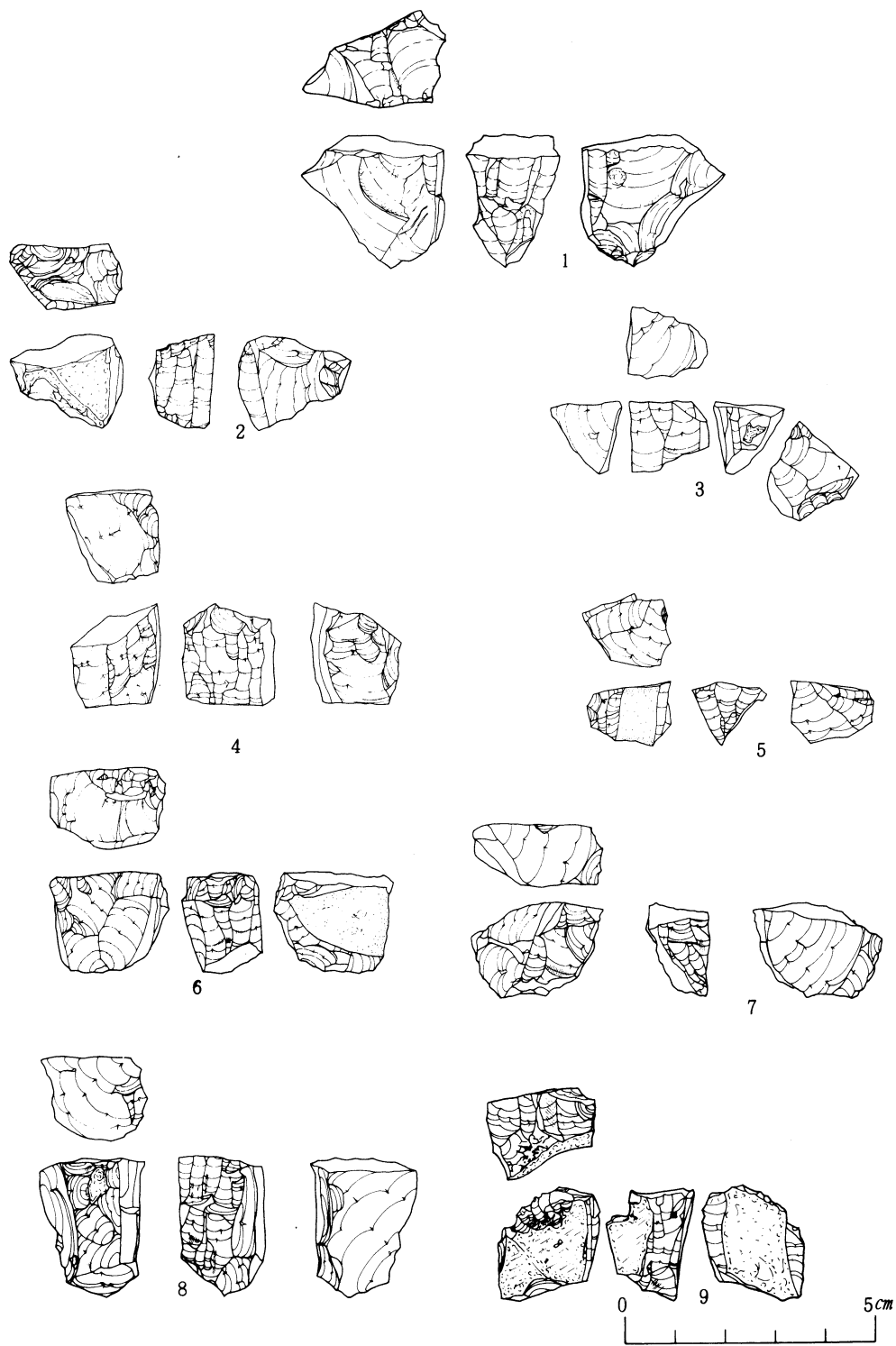
また下縁調整を施し下縁を尖がらすものが多い。打面は平坦な一角のものと横からの調整を受けたものがある。A-4類は11点出土している。



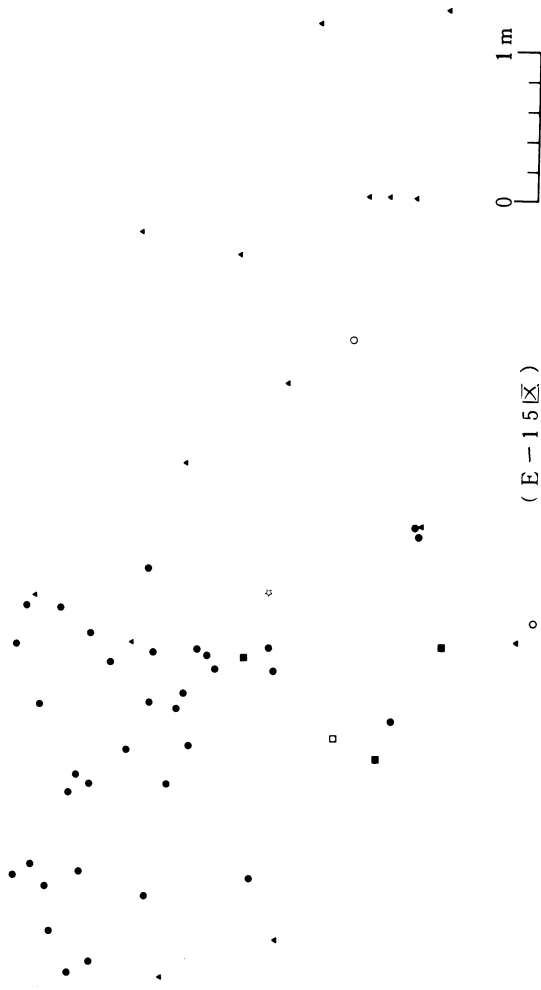
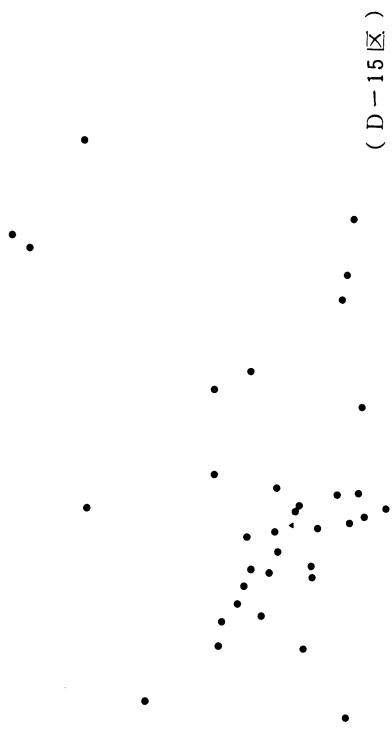
第190図 第17ユニット出土石器実測図



第191図 第18ユニット器種別分布図



第192図 第18ユニット出土石器実測図

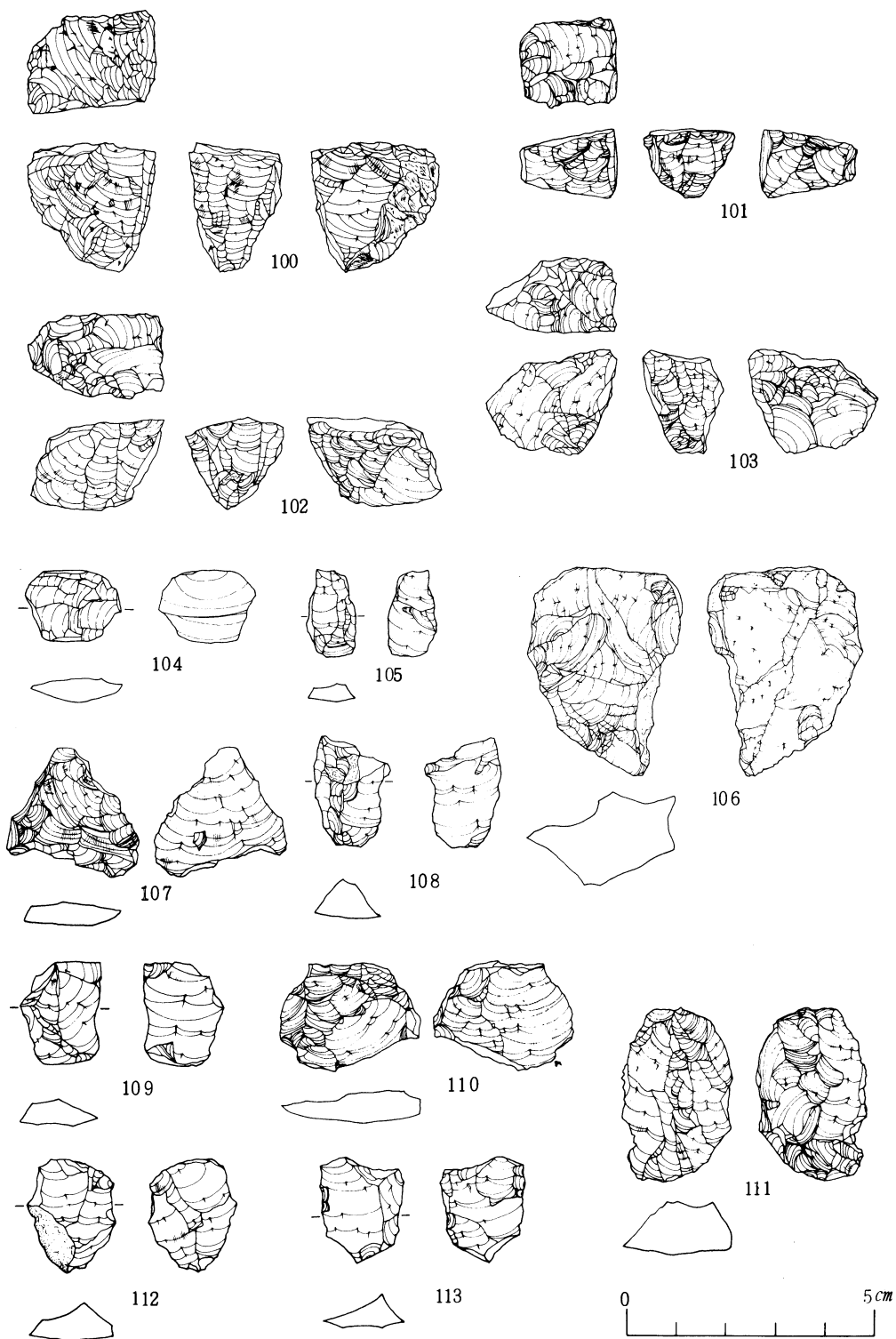


- 細石刃
- 細石刃核
- 削器
- ▲ 剝片
- 石核
- ☆ 原石

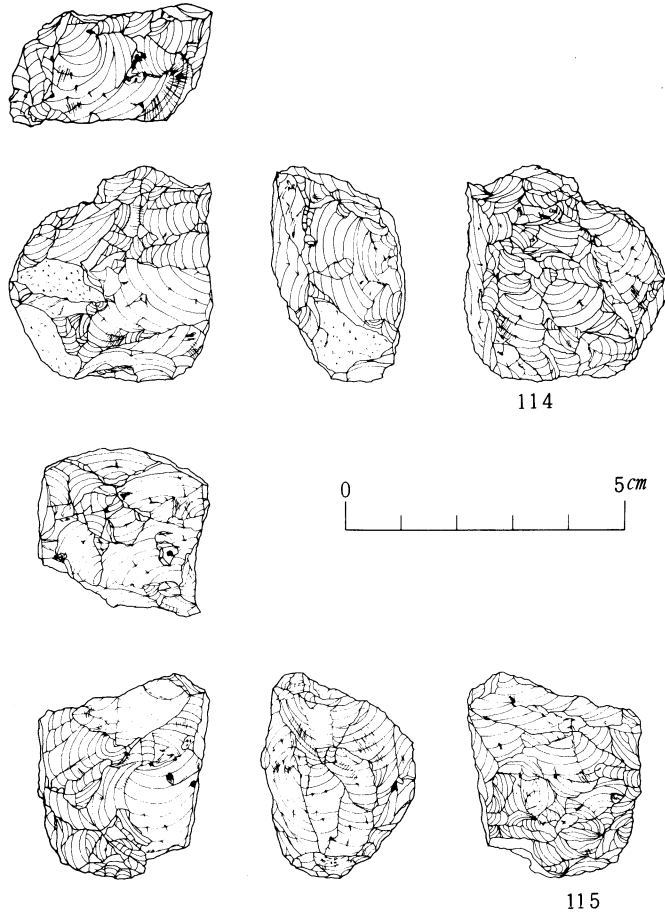
第193図 第19ユニット器種別分布図



第194図 第19ユニット出土石器 (1)



第195図 第19ユニット出土石器実測図(2)



第196図 第19ユニット出土石器実測図(3)

第19ユニット出土の遺物(図版103~104第194~196図 第42表)

D-15, E-15区で遺物は長径6.7m, 短径5.5mの範囲に732点が集中して検出されている。石材は, 黒曜石A 687点, 黒曜石B 36点, 凝灰岩A 4点, 礫5点である。石器は, 細石刃80点, 細石刃核4点, スクレイパー1点, 剥片33点, 石核(残核を含めて)35点, 原石1点である。細石刃は, 黒曜石の石材だけである。打摺の残っている頭部が全体の55%を示め, また

19ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	17	18	7	10	8	60
〃 A	21.3%	22.5%	8.7%	12.5%	10%	75%
黒曜石B	2	8	2	6	2	20
〃 B	2.5%	10%	2.5%	7.5%	2.5%	25%
計	19	26	9	16	10	80
	23.7%	32.5%	11.3%	20%	12.5%	

第11表 第19ユニット細石刃分類表

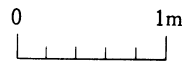
完形品が10点検出されている。刃部の刃こぼれはあまり顕著でない。幅は4~6mmの間に大部分が納まる。断面は台形ないし三角形を呈するが三角形が主を示める。細石刃核は4点とも黒曜石Bである。100・101・102は甲板面よりの側面調整を施こしたものであり, 特に101と102は両側とも調整剥離を行い船底形石器状でありB-1類に分類される。いずれも打撃面調整は行っていない。103は打面部に少し表皮が残



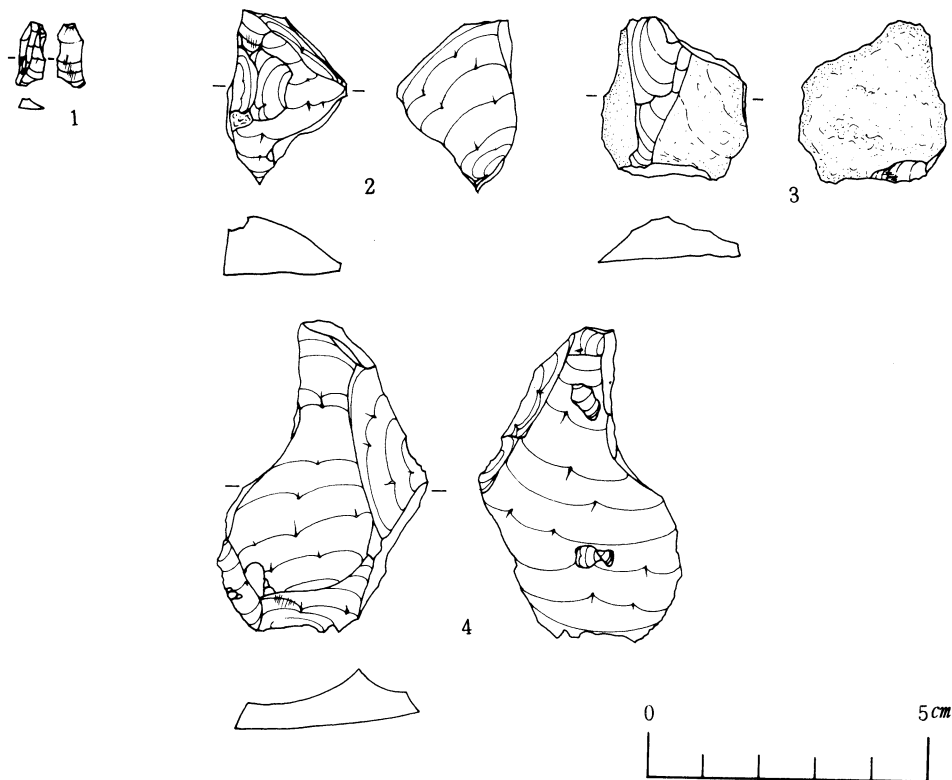
(E-14区)

- 細石刃
- ・ 剥片
- △ 石鏃

(E-15区)



第197図 第20ユニット器種別分布図



第198図 第20ユニット出土石器実測図

っている剥片の主要剥離面を側面にしている。尾縁調整がある。

スクレイパーは厚みのある剥片の先端部に調整剥離を加えたものである。黒曜石Aである。104は凝灰岩Aの細石刃核調整剥片と思われる。剥出面が階段状になった時点で横方向からの加撃で細石刃核を再生しそのとき剥出した剥片である。

剥片は大半が黒曜石Aである。106は表皮を残した大型の厚みのある剥片である。b面に打瘤がみられることから原石を不規則に打ち割り、その中での使用が考えられる。その他の剥片は断面が台形から三角形の薄い縦長剥片を用いたものである。

114, 115の石核は、黒曜石Aで114は表皮を残している。当遺跡で検出される石核は、その大半が残核である。石核の剥離面をみると、原石を半截し、多方向からの剥離が多い。そのため原石を利用して長い縦長剥片が剥出されることはまれである。

第20ユニット出土の遺物 (図版 104第198図 第43表)

E-15区で遺物は長径3.5m, 短径2.2mの範囲にわずか20点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A18点, 硅岩1点, チャート1点である。石器は、細石刃1点, 剥片6点, 石鏃1点である。1は、黒曜石の打瘤をもつ細石刃である。2, 4は黒曜石の剥片である。3は硅岩質の剥片である。表皮を残している。

第21ユニット出土の遺物（図版105～108第200～206図 第44表）

D-15区で遺物は長径8m、短径6mの範囲に1081点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A 703点、黒曜石B11点、凝灰岩A 308点、砂岩4点、安山岩1点、礫58点である。石器は、細石刃 336点、細石刃核19点、スクレイパー4点、剥片 122点、石核19点である。第21ユニットは第2ユニット群に区分される。第2ユニット群の特徴は石材的にみて、黒曜石と凝灰岩Aの石材が相伴することであるが、第21ユニットではこのことが顕著に見られる。

細石刃は、石材は黒曜石A、黒曜石B、凝灰岩A、珪岩と多種にわたって見られる。形態的には、打瘤の残っている頭部が全体の55%を示め、また完形品が43点検出されている。刃部の刃こぼれは、凝灰岩Aでは若干観察されるが、全体的にはあまり顕著でない。39は、表皮を残す断面三角形のスポールと思われる。遺物の断面は台形ないし三角形を呈し、幅は4～6mmの間に大部分が納まるが、8～10mmの幅広のものもある。細石刃核の280から291までは凝灰岩Aで

21ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	51	94	38	44	34	26.1
A	15.2%	28.0%	11.3%	13.1%	10.1%	77.7%
黒曜石B	6	14	5	1	4	30
B	1.8%	4.2%	1.5%	0.3%	1.2%	8.9%
凝灰岩A	10	11	4	11	5	41
A	3.0%	3.3%	1.2%	3.3%	1.5%	12.2%
珪岩		1		3		4
珪		0.3%		0.9%		1.2%
計	67	120	47	59	43	336
	19.9%	35.7%	14.0%	17.6%	12.8%	

ある。281と285は平坦な打面と割割りした側面よりなり下端が尖っている。287は板状の素材を用い側面等の調整はない。A-3類にはいる。284、288は主要剥離面を側面にし、片側のみ調整を打面から加えている。両方も打面再生をしている。289は粗い調整剥離で下端を尖がらし、主軸を長く整形している。286は平坦な両側面で下縁からの調整剥離が施こされている。打面は横からの調整剥離を受けている。A-4類である。

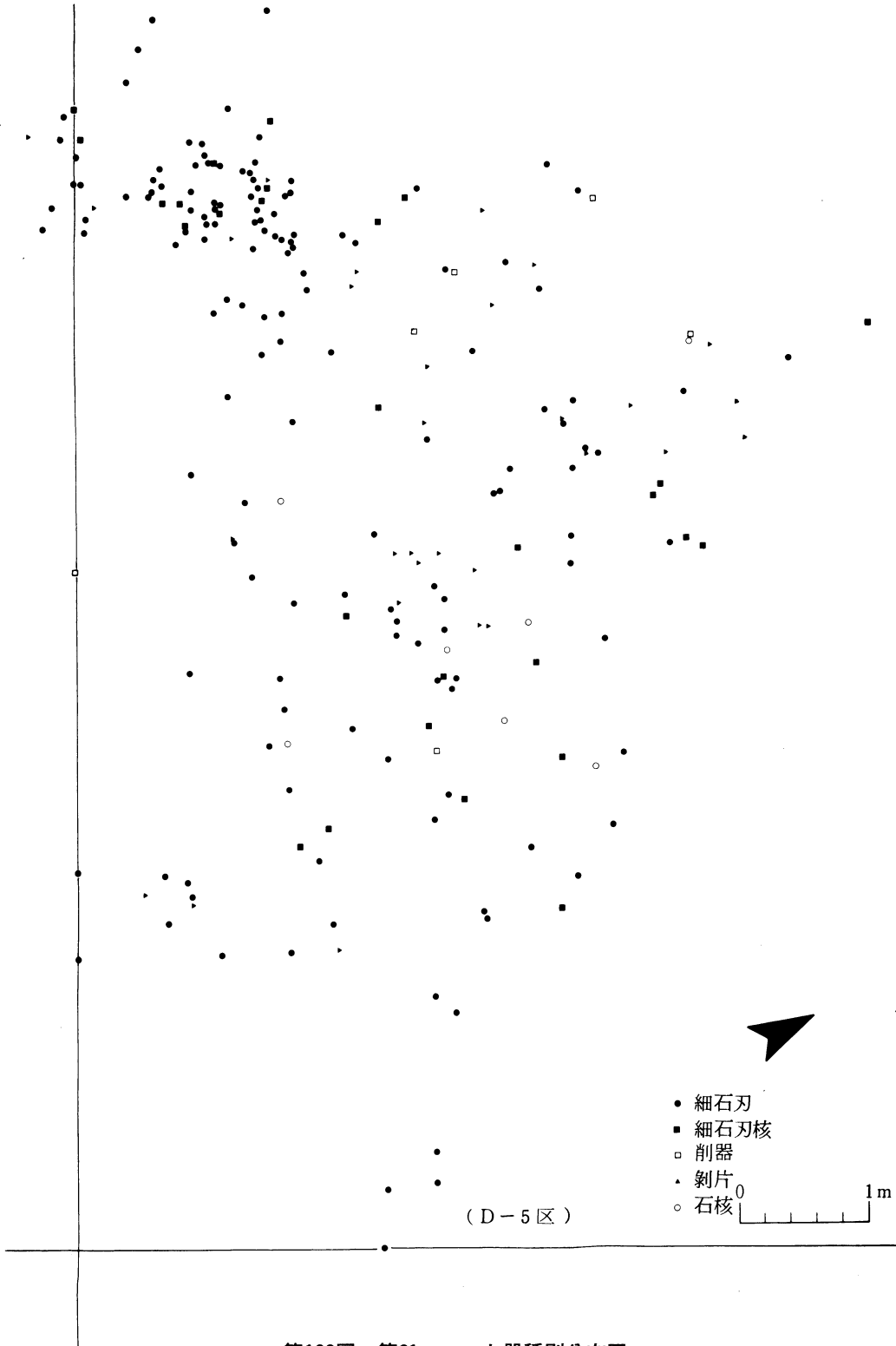
第12表 第21ユニット出土細石刃分類表

282は打面再生剥片である。292から299は黒曜石Aである。292、298は平坦な二面をそれぞれ打面と一側面にし、他の側面は打面からと下縁からの調整を施している。293、294は平坦な打面で、側面は粗い剥離によって整形している。先の二点と共に打面が先に決定されるものである。295、297は大きい剥離によって打面を整形している。296は礫を利用し側面は粗い剥離で仕上げている。打面は打撃面調整と併行して作出している。300は細石刃核調整剥片である。299はA-1類に分類され剥片を素材としたものである。これは他と異なり細石刃剥離作業が最後に行なわれた段階のものでなく、横方向より剥離を連続して行なうことによって打面を再生している。301は、凝灰岩Aの細石刃核調整剥片である。

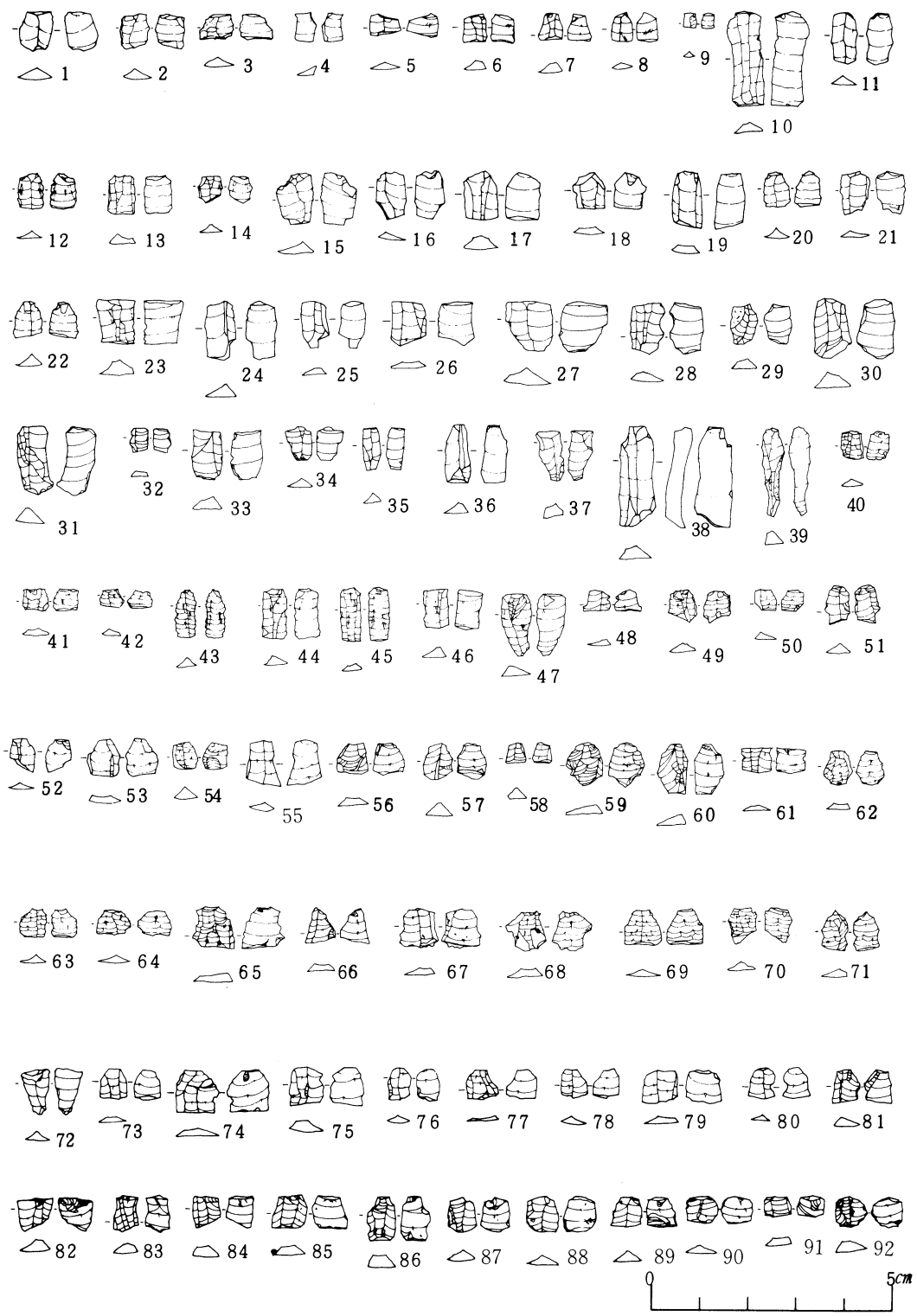
303、304、305は、凝灰岩Aのスクレイパーである。円礫から薄く剥出された剥片を利用したもので、304は自然面を残している。側縁部の一部に調整剥離を加え刃部を形成している。306、307、308は黒曜石Aで厚い剥片を割り、側縁部、先端部の一部に調整剥離を加え刃部にしている。305は、台形の断面をした厚い剥片の側縁部を調整して刃部を形成している。

剥片は凝灰岩Aと黒曜石Aに限られ、打瘤を残しているものが多い。

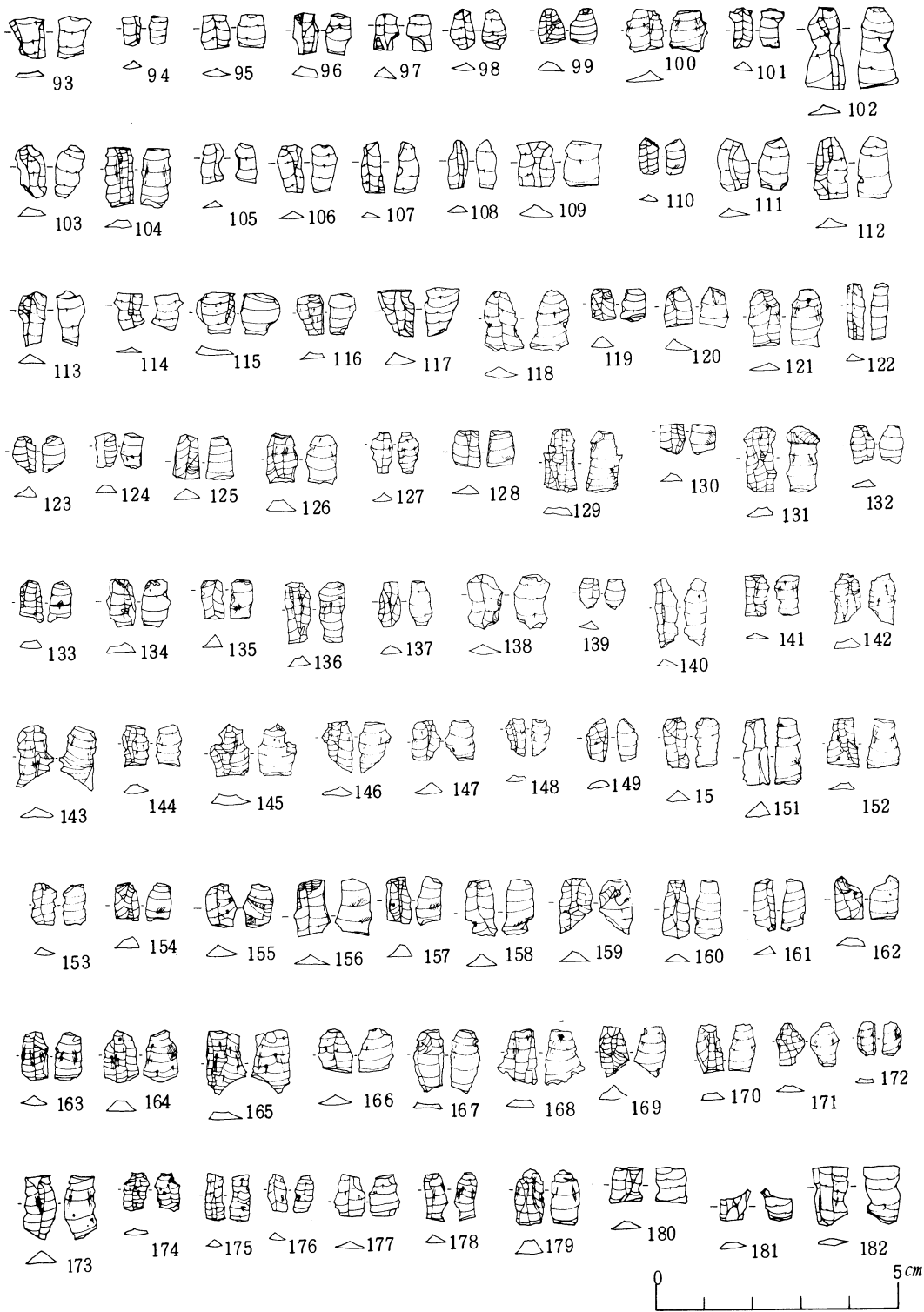
石核は、19点検出されているが、明確な石核は少く大半が残核と呼ばれるものである。310は自然面を残し多方向からの剥出がみられる。



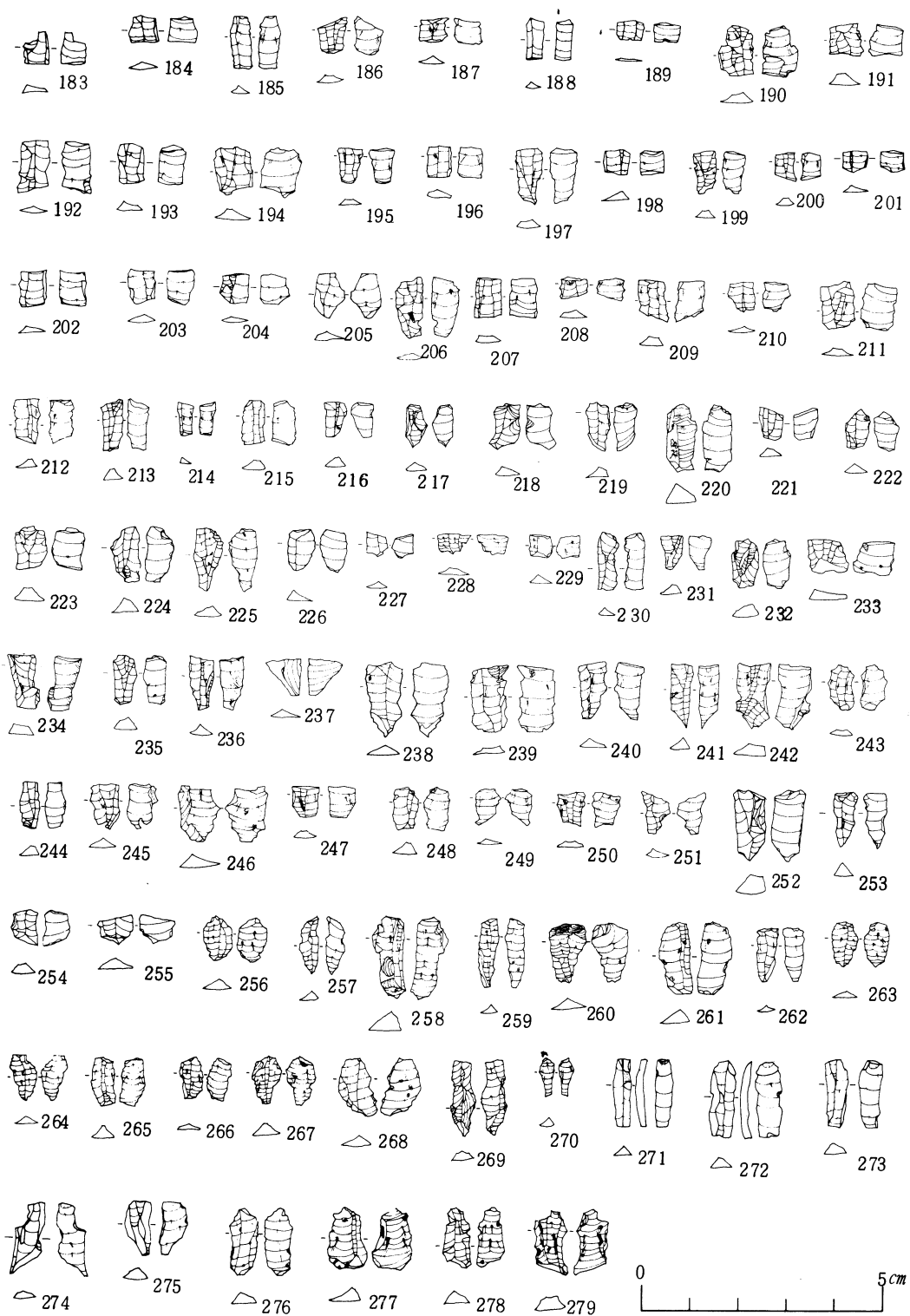
第199図 第21ユニット器種別分布図



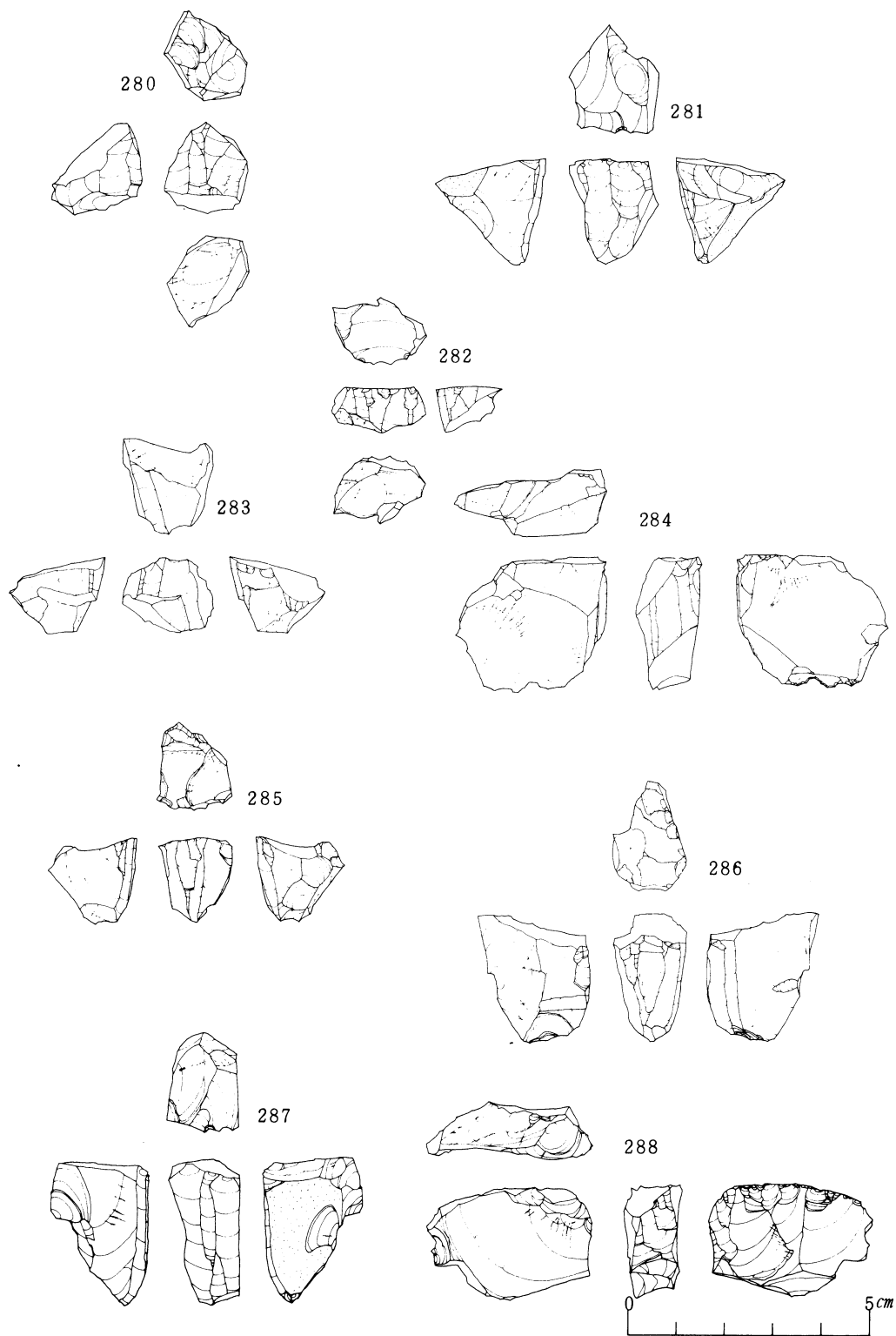
第200図 第21ユニット出土石器実測図(1)



第201図 第21ユニット出土石器実測図(2)

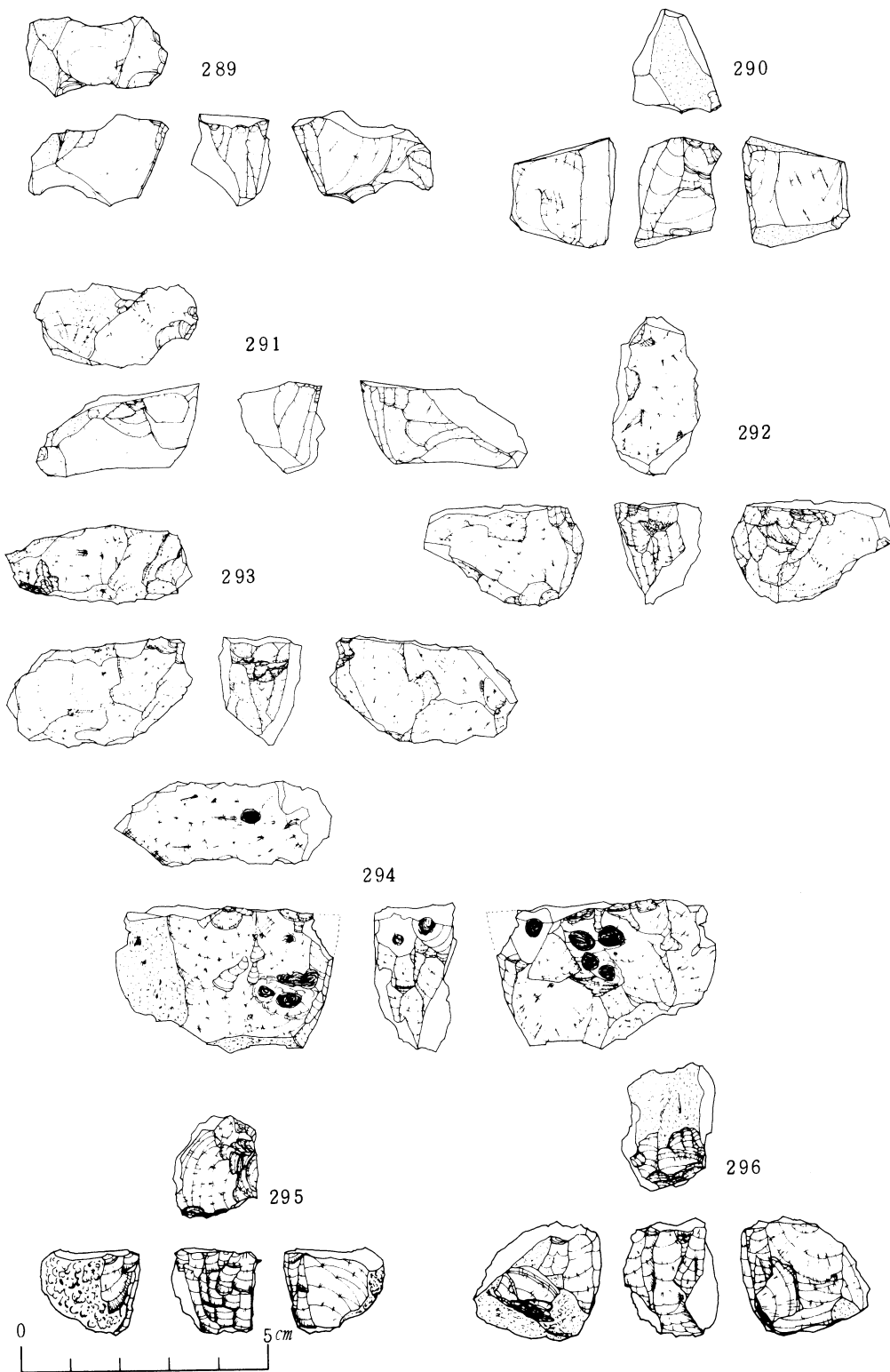


第202図 第21ユニット出土石器実測図 (3)

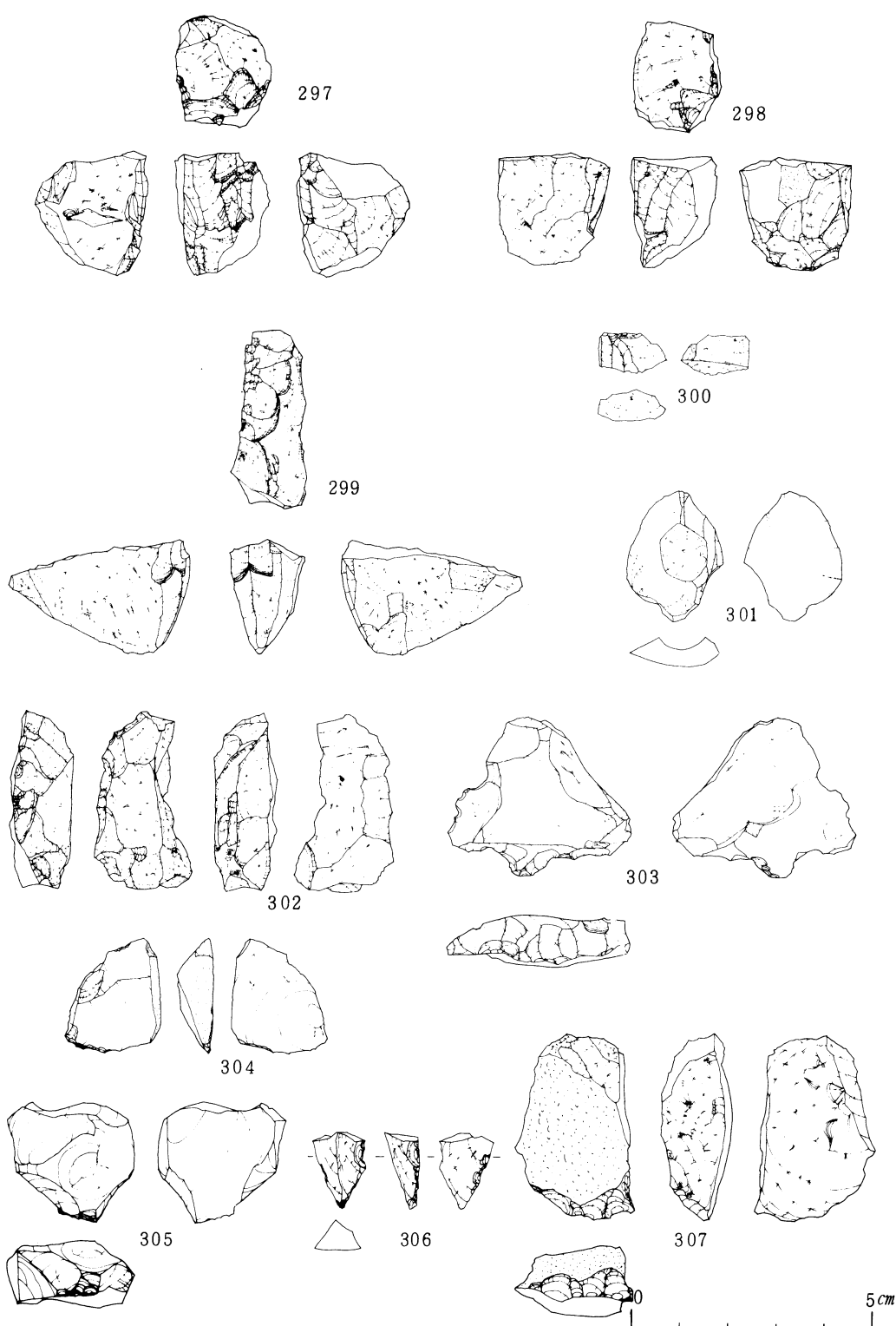


第203図 第21ユニット出土石器実測図(4)

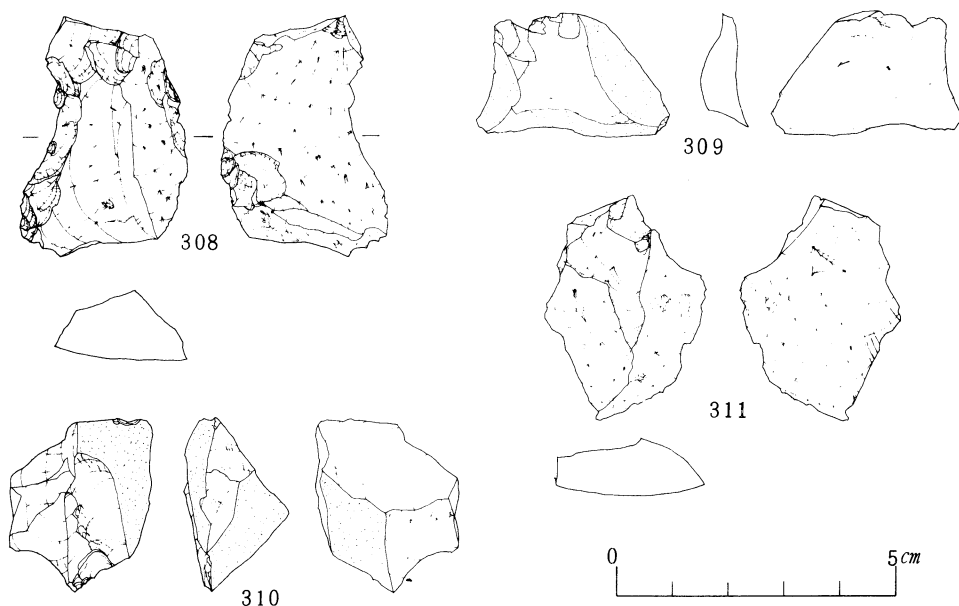




第204図 第21ユニット出土石器実測図(5)



第205図 第21ユニット出土石器実測図 (6)



第206図 第21ユニット出土石器実測図（7）

第22ユニット出土の遺物（図版108～110第208～212図 第45表）

D-14区で遺物は長径 5.2m，短径 4 m の範囲に 891点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A，黒曜石B，凝灰岩A，硬質頁岩，礫である。石器は，細石刃 163点，細石刃核16点，スクレイパー 1点，剥片18点，細石刃核調整剥片 1点，残核 2点である。第22ユニットも2ユニット群に大別され，黒曜石と凝灰岩Aが共伴する。

細石刃は，163点出土し，石材は第13表に表わしたように，黒曜石A，黒曜石B，凝灰岩A，硬質頁岩と多種にわたって見られる。

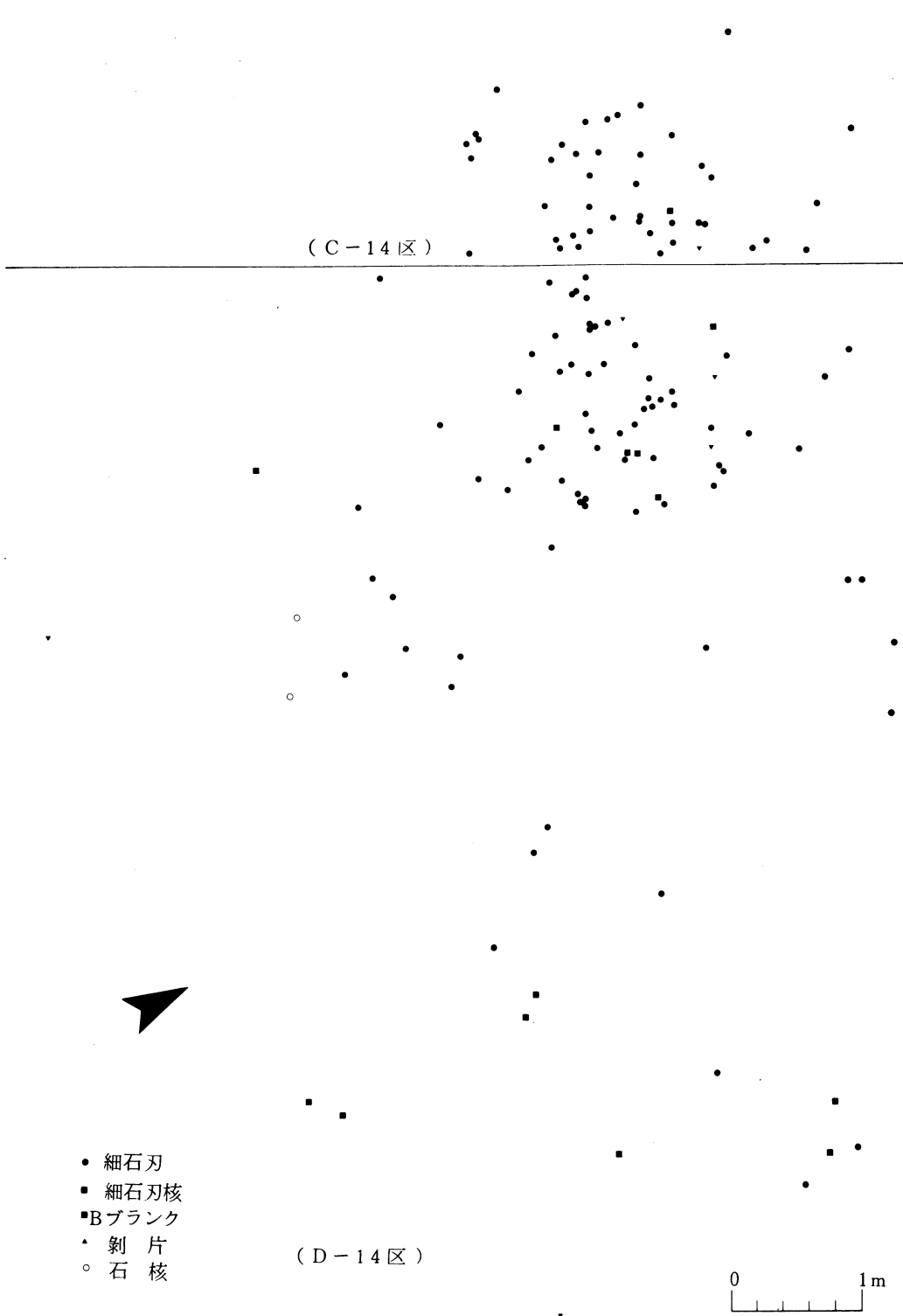
形態的には，打瘤の残っている頭部が全体の38%を示め，また完形品が8点検出されている。また，中間部，尾部とも30%前後である。

10，38，179，232，242はスポールと思われる。遺物の断面は台形ないし三角形を呈し，幅は4～7mmの間に大部分が納まる。

全体として石材は黒曜石が主を示める。

22ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	26	20	35	35	5	121
	16.0%	12.3%	21.5%	21.5%	3.1%	74.2%
〃 B	4	10	5	13	3	35
	2.5%	6.1%	3.1%	8.0%	1.8%	21.5%
凝灰岩A	1	1	1	1		4
	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%		2.5%
硬質頁岩			2	1		3
			1.2%	0.6%		1.8%
計	31	31	43	50	8	163
	19%	19%	26.4%	30.7%	4.9%	

第13表 第22ユニット出土細石刃分類表



(C-14区)

(D-14区)

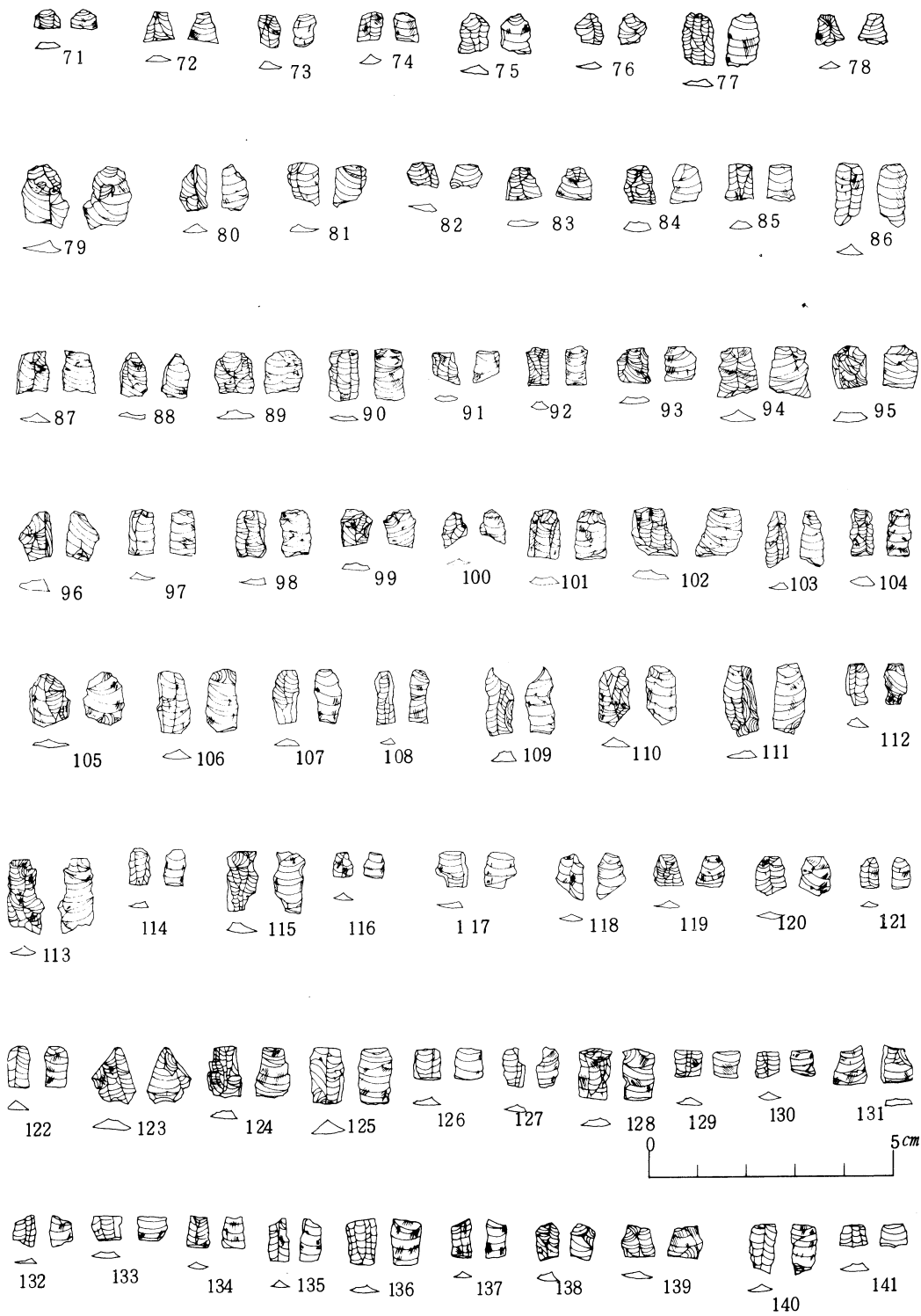
- 細石刃
- 細石刃核
- ▣ Bブランク
- △ 剥片
- 石核

0 1m

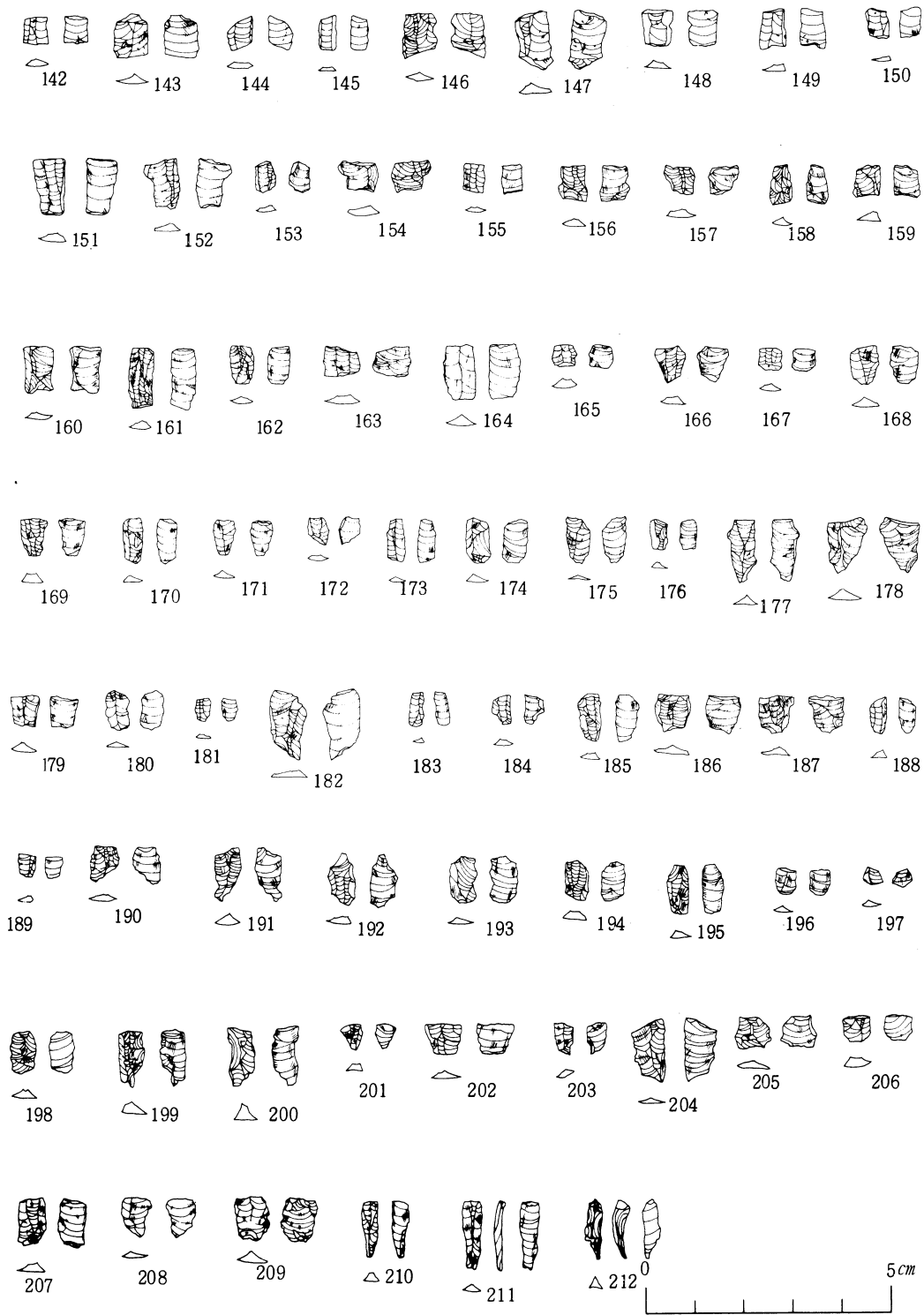
第207図 第22ユニット器種別分布図



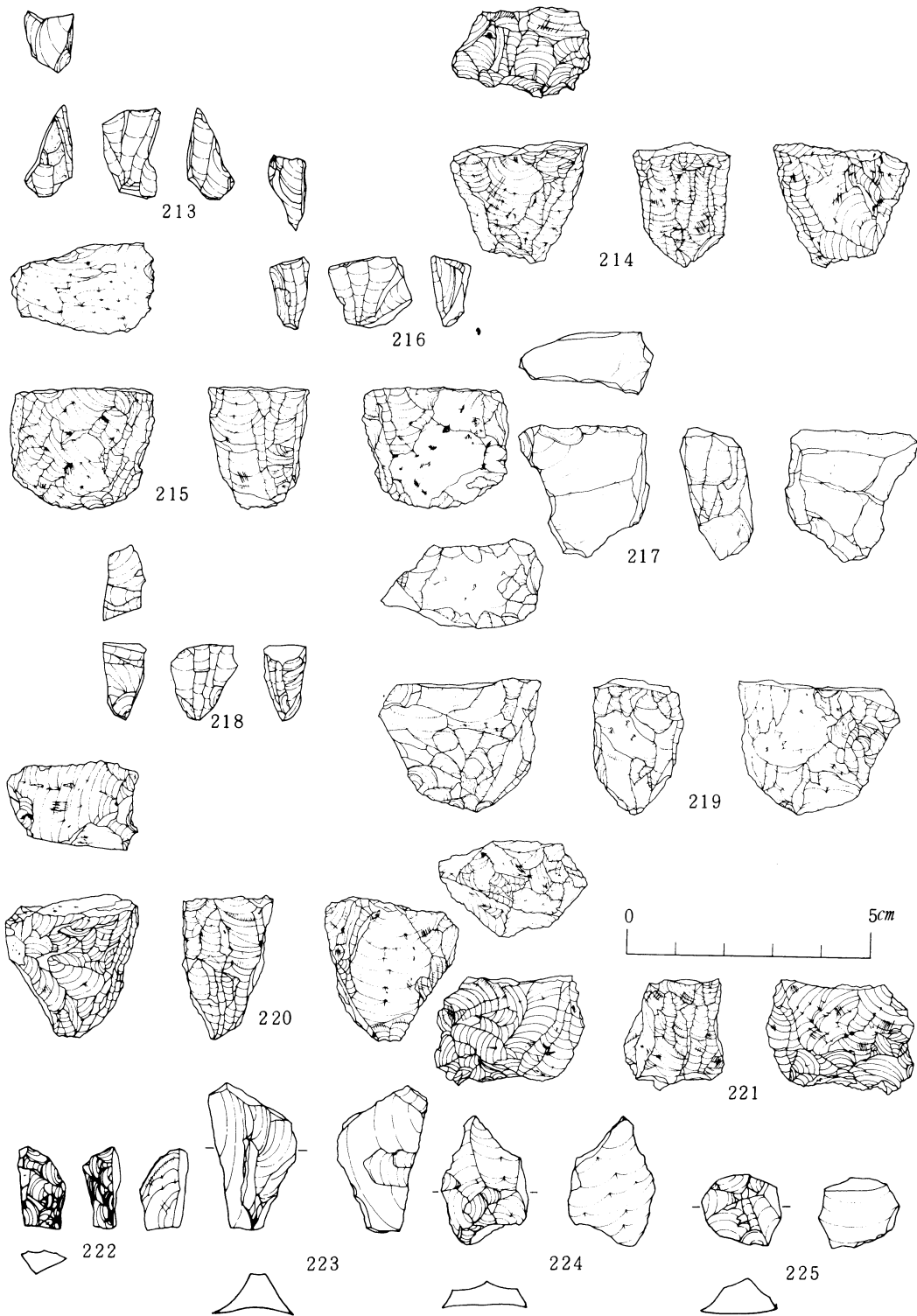
第208図 第22ユニット出土石器 (1)



第209図 第22ユニット出土石器 (2)

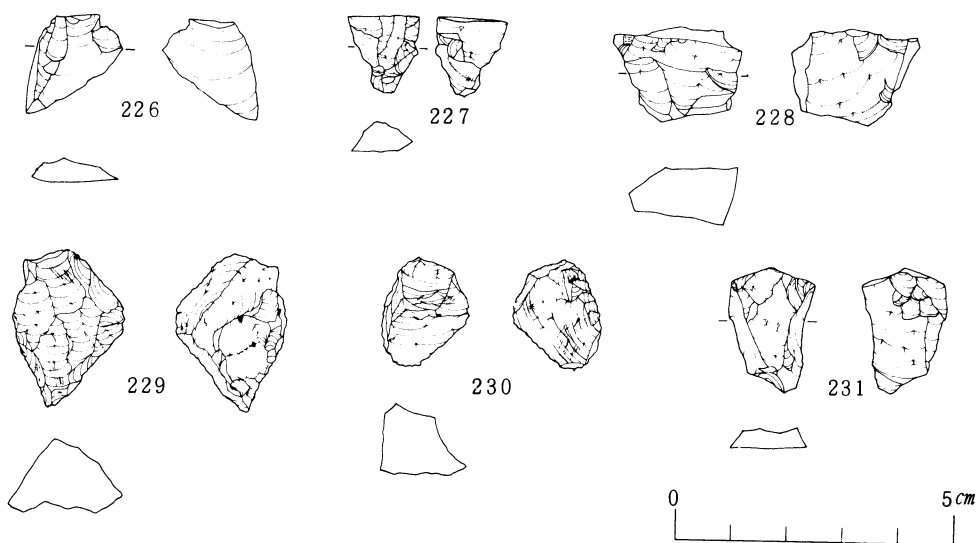


第210図 第22ユニット出土石器 (3)



第211図 第22ユニット出土石器実測図（4）





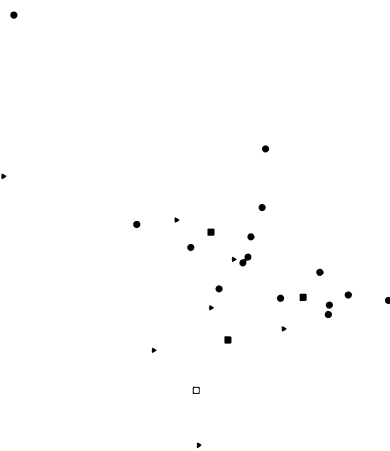
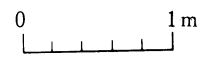
第212図 第22ユニット出土石器実測図(5)

213, 216, 218は凝灰岩Aの細石刃核調整剥片である。217も同石材で平坦な側面を持ち、打面から調整を加えている。尾縁および下縁はスクレイパー状の調整剥離を施こしている。214, 215, 219, 220は形態的に同じ特徴を持つ。打面は平坦面で側面も平坦面を基調にしており、片側面を大きな剥離によって整形している。下縁は調整剥離によって尖がされている。A-4類の典型である。221も同様なつくりであるが、下縁調整剥離が充分でない。

( B - 1 5 区 )

第213図 第24ユニット器種別分布図

- 細石刃
- 細石刃核
- 削器
- ・ 剥片





第214図 第24ユニット出土石器

第23ユニット出土の遺物 (第46表)

B-14, B-15, C-14, C-15区の約20mの範囲に38点が散在して検出されている。石材は、黒曜石が主で剥片等が若干出土している。C-14区には黒曜石の石鏃が出土している。

石器は、細石刃2点(黒曜石A)凝灰岩Aの剥片1点、残核1点が検出された。

遺物の出土状態は集中がみられず、ユニットとしてまとまりにかけているものであるが、一応ユニット外の遺物としてとりあげ便宜上、23ユニットと呼称した。

第24ユニット出土の遺物（図版 117 第214図 第47表）

B-15区で遺物は長径 5.3m, 短径 4m の範囲に 275点が集中して検出されている。石材は黒曜石A, 黒曜石B, 凝灰岩A, 礫などである。石器は, 細石刃15点, 細石刃核3点, スクレイパー 1点, 剥片 7点である。

細石刃は, 黒曜石13点で凝灰岩Aは 2点検出された。打瘤のある頭部は全体の73%を示めて

24ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A		4		2	2	8
		26.7%		13.3%	13.3%	53.3%
B	1	4				5
	6.7%	26.7%				33.3%
凝灰岩A		1				1
		6.7%				6.7%
硬質頁岩	1					1
	6.7%					6.7%
計	2	9		2	2	15
	13.3%	60.0%		13.3%	13.3%	

第14表 第24ユニット細石刃分類表

いる。完形品は全部で 2点検出されている。

刃部の刃こぼれは顕著でなく幅は 4~7mmの間に大部分が納まり断面は三角形が主を示める。

細石刃核16は, 平坦な打面を有し片側のみ打面からの側面調整を施こしている。細石刃剥離作業は正面図の左半分である。17は, 細石刃核剥離面再生剥片である。18は両側面が平坦で全く調整されず, 訂面のみ微調整を施こしている。

19は, 黒曜石Bのスクレイパーで, 不整形な剥片の縁辺部に調整剥片を施こしている。

20~26は, 剥片である。21は硅質土のたかい凝灰岩で部厚い剥片を利用している。23は, 黒曜石Bで横長の剥片を用い自然面を残している。

他は全て黒曜石Aで, やや厚みのある縦長剥片を用いている。

第25ユニット出土の遺物（図版111~113第216~220図 第48表）

K-3, K-4区で遺物は長径 7.5m, 短径 6m の範囲に2319点が集中して検出されている。石材は, 黒曜石A 2257点, 黒曜石B 26点, 凝灰岩B 1点, 砂岩 5点, 安山岩 5点, 礫31点である。石器は, 細石刃 128点, 細石刃核19点, スクレイパー 9点, 剥片 136点, 石核19点である。細石刃は, 黒曜石の石材だけである。打瘤の残っている頭部が全体の52%を示め, また完形品

25ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	42	14	13	18	3	90
	32.8%	10.9%	10.2%	14.1%	2.3%	70.3%
B	10	1	11	13	3	38
	7.8%	0.8%	8.6%	10.2%	2.3%	29.7%
計	52	15	24	31	6	128
	40.6%	11.7%	18.8%	24.2%	4.7%	

第15表 第25ユニット細石刃分類表

が 6点検出されている。黒曜石A・Bとも 3点ずつである。刃部の刃こぼれはあまり顕著でない。幅は 3~10mmの間に大部分が納まる。断面は台形ないし, 三角形を呈するが, 三角形が主を示めている。

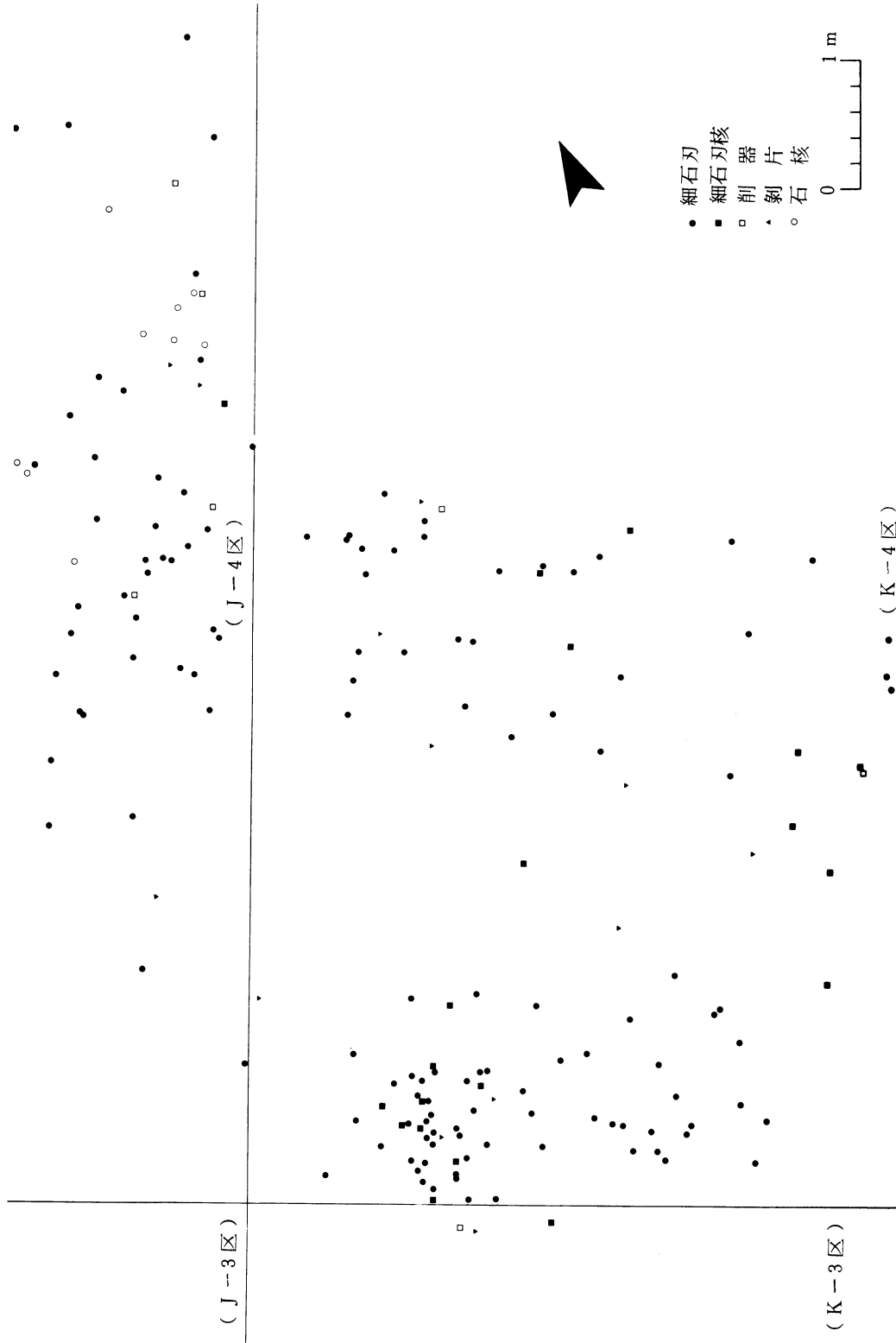
1~4は黒曜石Aの頭部である。5は黒曜石Bの頭部で6~10は黒曜石Aの頭部である。11・12は黒曜石A

の尾部である。13~14, 16~26, 28~30が黒曜石Aの頭部で15, 17, 31は黒曜石Bである。

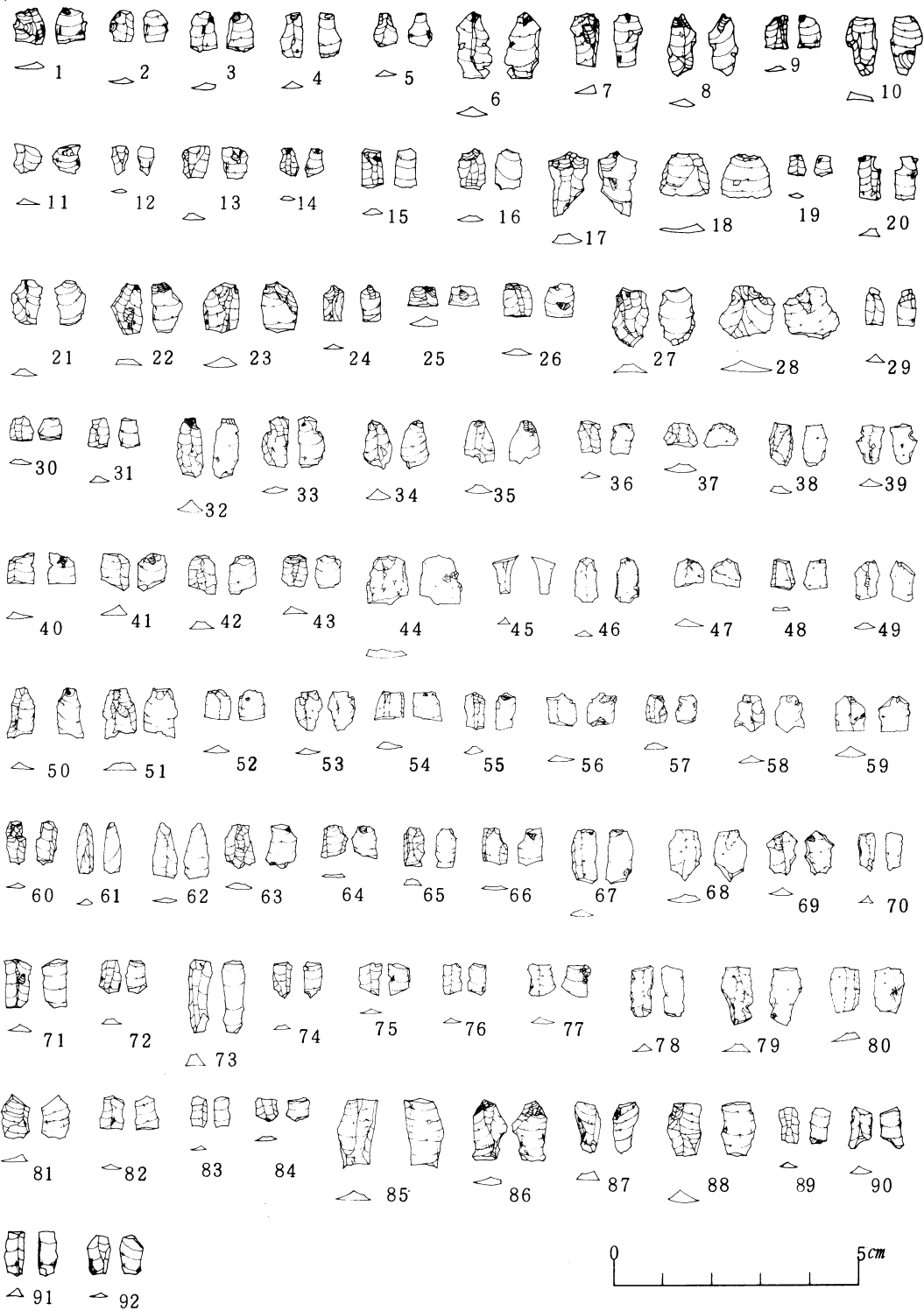
32~68は打瘤のある頭・中間部である。69~92までは中間部で全て黒曜石である。

93~110までは尾部である。

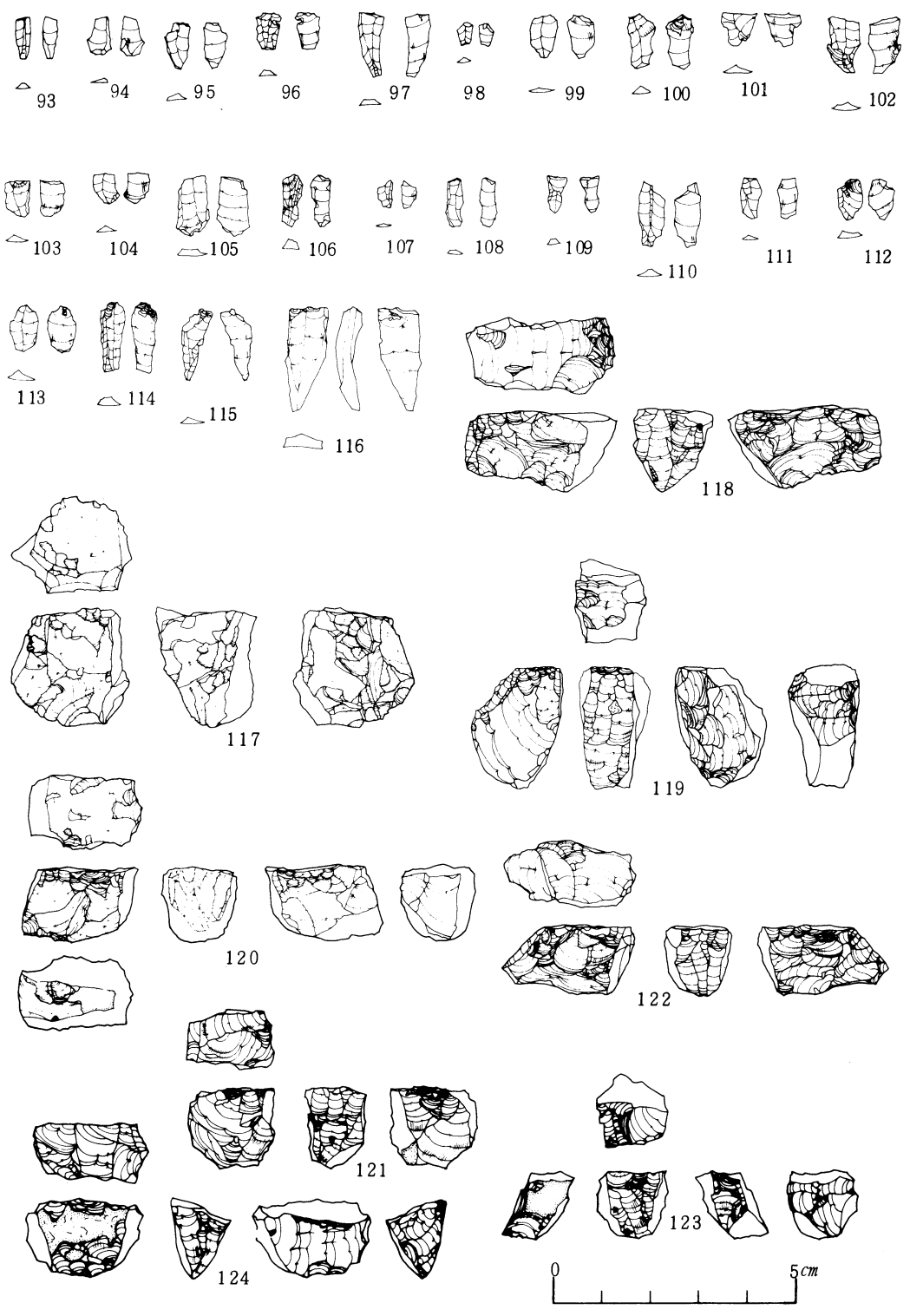
116は, 黒曜石Bで細石刃核調整剥片とも思われる。



第215図 第25ユニット器種別分布図



第 216 図 第25ユニット出土石器 (1)

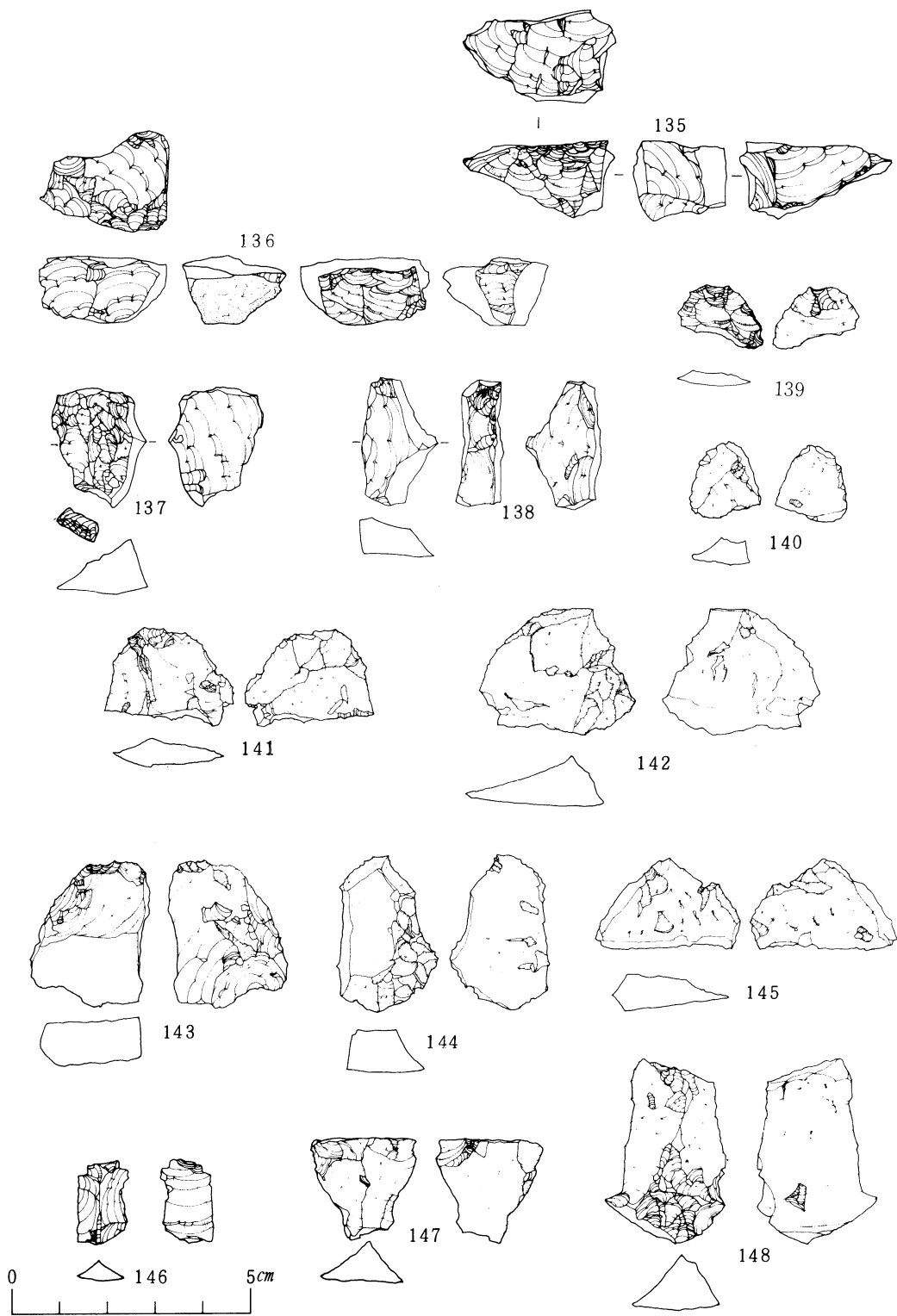


第217図 第25ユニット出土石器 (2)

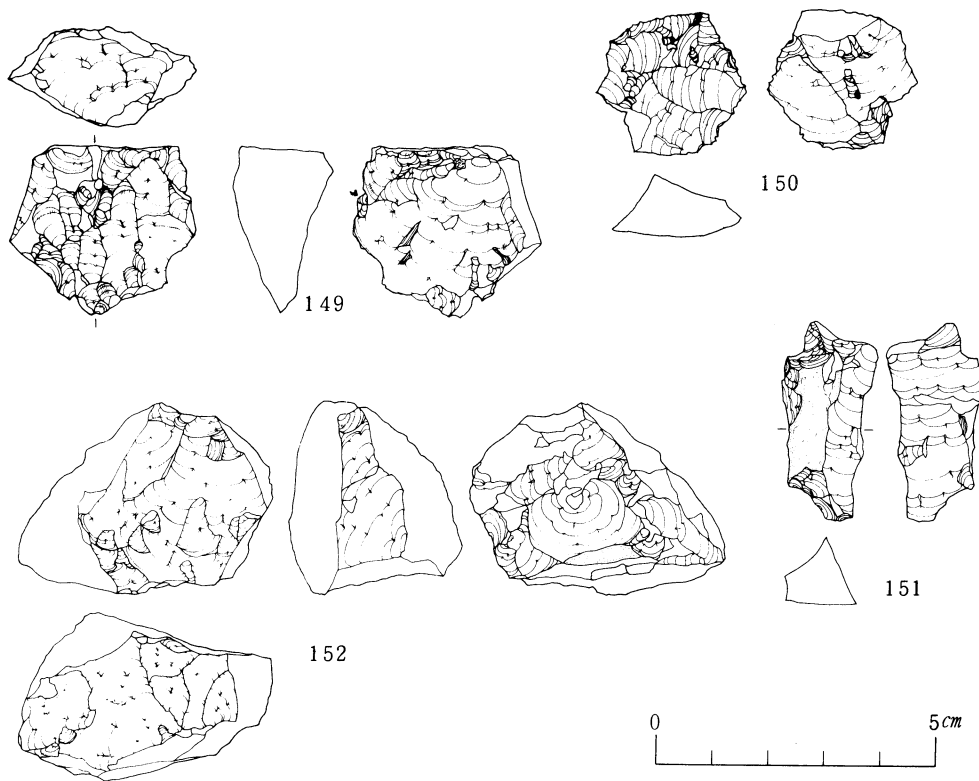


第218図 第25ユニット出土石器実測図(3)





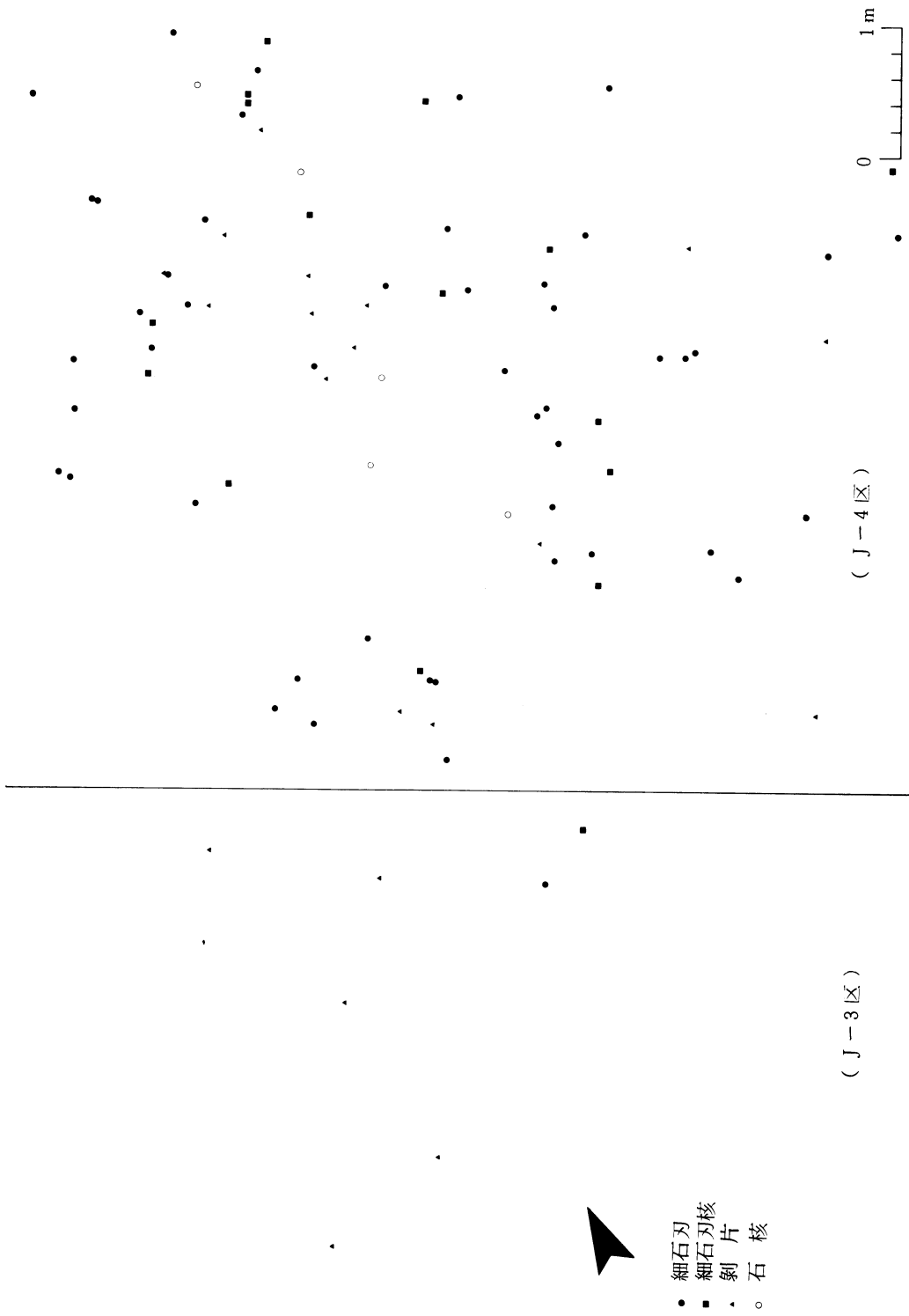
第219図 第25ユニット出土石器実測図(4)



第220図 第25ユニット出土石器実測図(5)

118, 122, 125, 130, 131, 120は両側縁調整剥離を甲板面から入念に施こし船底形石器状に整形したものである。打面は平坦でいずれも打撃面調整は行なわれていない。B-1類の典型である。117も両側面調整剥離を加え平坦打面で打撃面調整が施こされずB-1類に近い。127は、これらと同じような形態を意識したが製作途中こわれたために、作業面の位置をかえたと思われる。121, 126, 129は板状の剥片を使用したものであり、打面は平坦である。打撃面調整は三点とも行なわれている。126のみ黒曜石Bである。A-3類に入る。127は黒曜石A, Bとも異なるが小角礫で良質な石材である。C類に分類され、角柱にするための片側一打の他は、打撃面を調整するだけの無駄のない製作である。119は短軸を細石刃剥離面にし、作業困難になった後、その時の打面を細石刃剥離面に転移したものである。124も作業面の転移を行なっている。132は凝灰岩Bの板状の円礫を使用したもので、作業困難のため再生され捨てられたものである。135と136は剥片の平坦面を打面と推定でき片側面に調整を加えたブランクである。B-1類の細石刃核製作途中と考えられる。

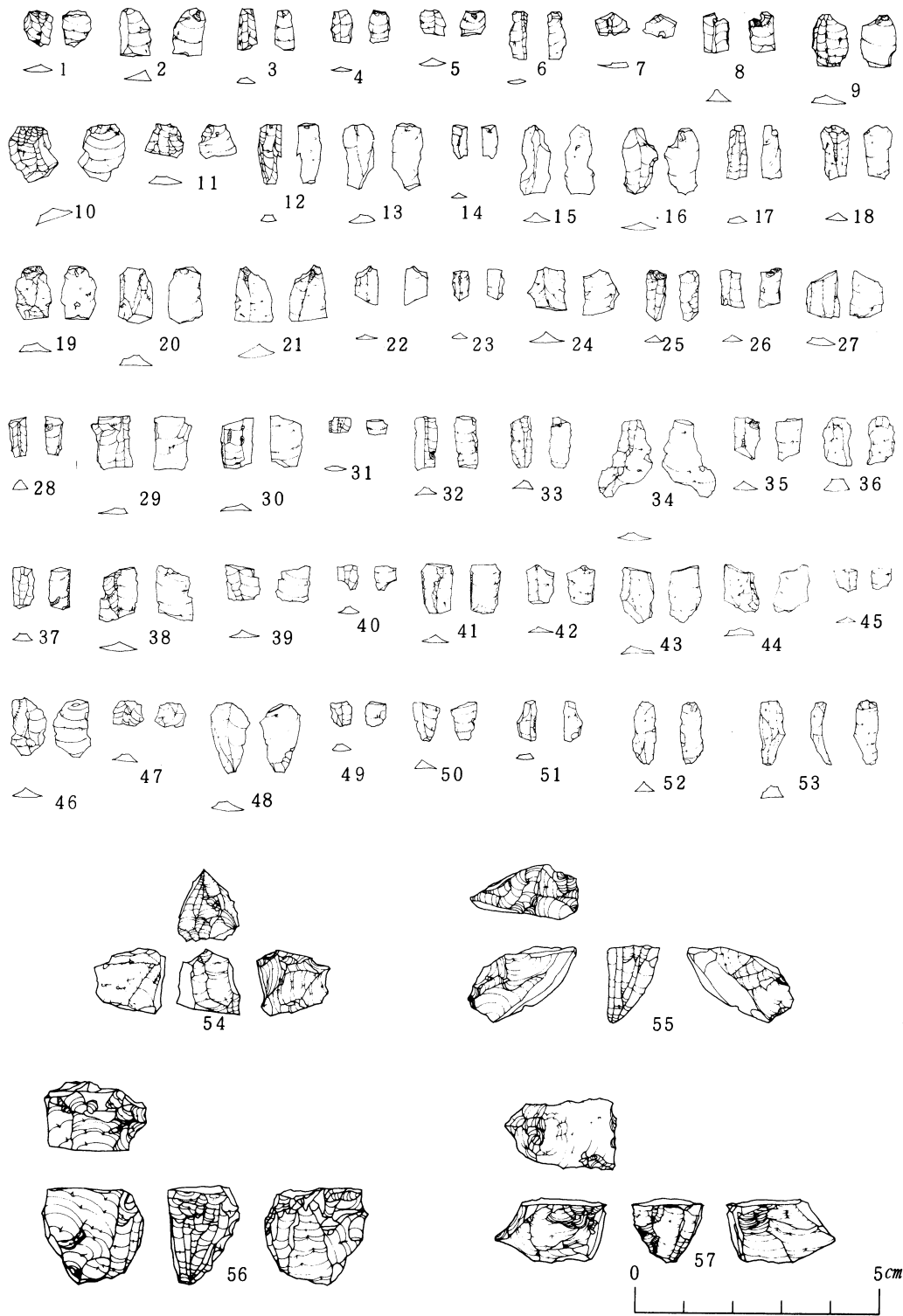
137, 138は黒曜石Aのスクレイパーである。やや厚みのある剥片を粗い剥離で形を整え、側縁部の一部に調整剥離を加え刃部を形成している。



( J-8区 )

( J-4区 )

第221図 第26ユニット器種別分布図



第222図 第26ユニット出土石器実測図（1）



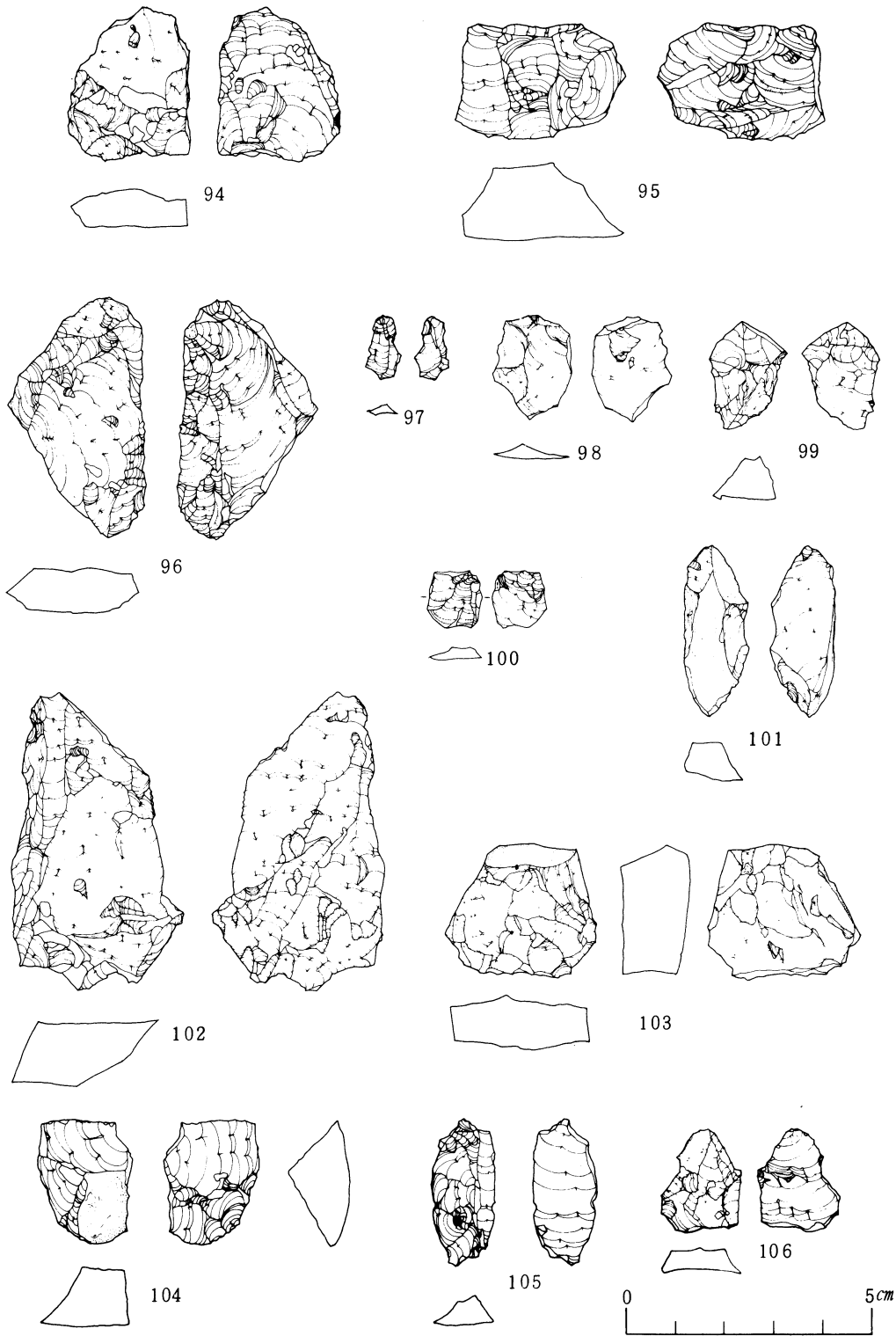
第223図 第26ユニット出土石器実測図（2）



第224 第26ユニット出土石器実測図 (3)

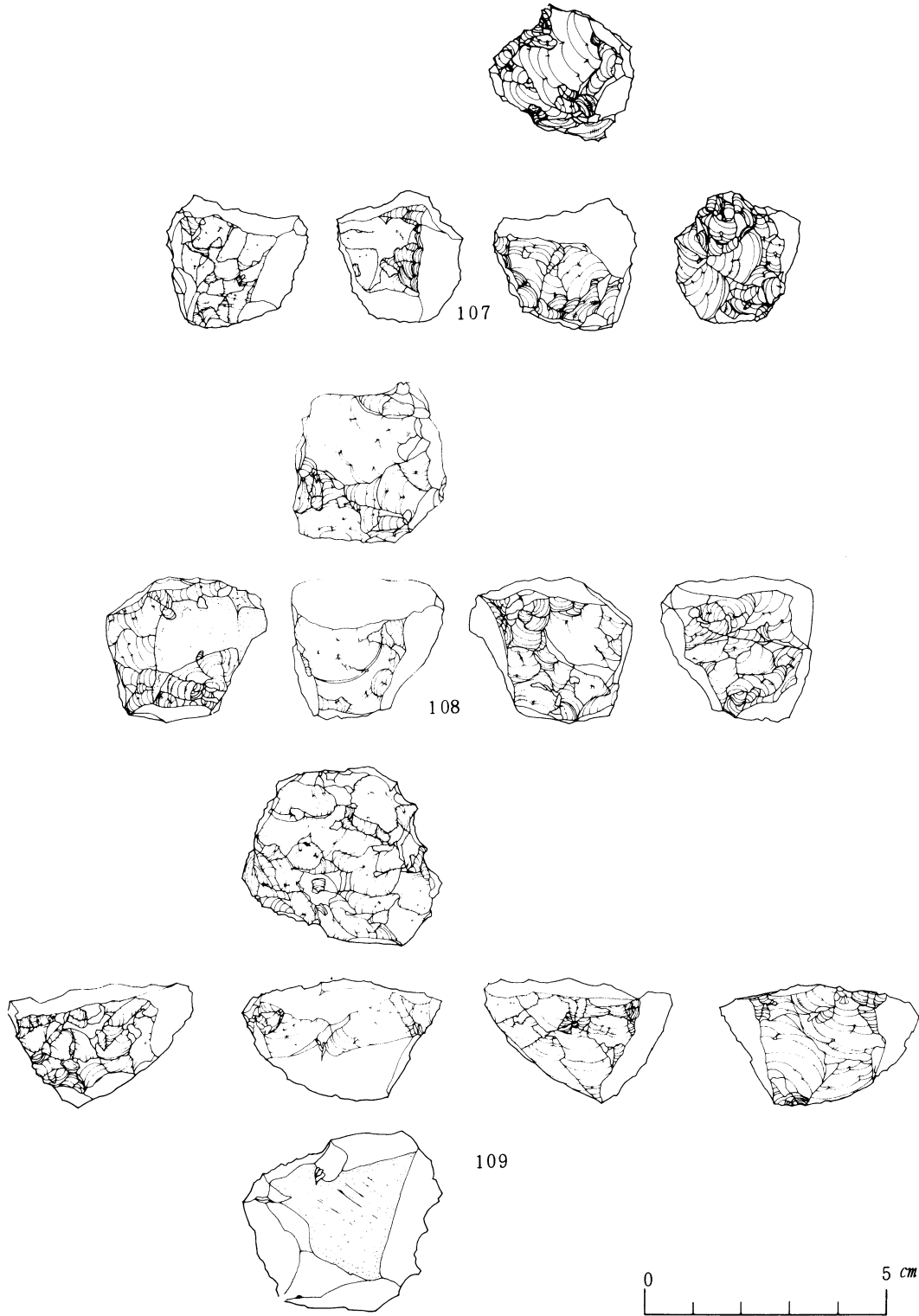


第225図 第26ユニット出土石器実測図(4)



第226図 第26ユニット出土石器実測図(5)





第227図 第26ユニット出土石器実測図(6)

139～148, 150～151は黒曜石Aの剥片である。139は打瘤の残っている剥片で側縁部に刃こぼれが認められる。141, 142, は断面三角形を呈する剥片である。144は, 断面の台形を呈する横剥ぎの剥片である。145も横剥ぎの剥片である。

146～148は断面三角形を呈する厚みのある剥片である,

石核は19点検出されているが, 明確な石核は少く大半の残核と呼ばれるものである。152は自然面を残し, 多方向からの剥出がみられる。

第26ユニット出土の遺物 (図版113～116第222～227図 第49表)

J-4, J-5区で遺物は長径 8.5m, 短径 7mの範囲に 980点が集中して検出されていた。石材は, 黒曜石A 906点, 黒曜石B 28点, 凝灰岩B 11点, 砂岩 1点, 珪岩18点, 礫21点である。石器は, 細石刃70点, 細石刃核15点, ブランク 1点, スクレイパー 1点, 剥片54点, 石核 9点である。細石刃は, 黒曜石のみの出土であるが黒曜石Bは頭部と完形品の各 1点ずつであり,

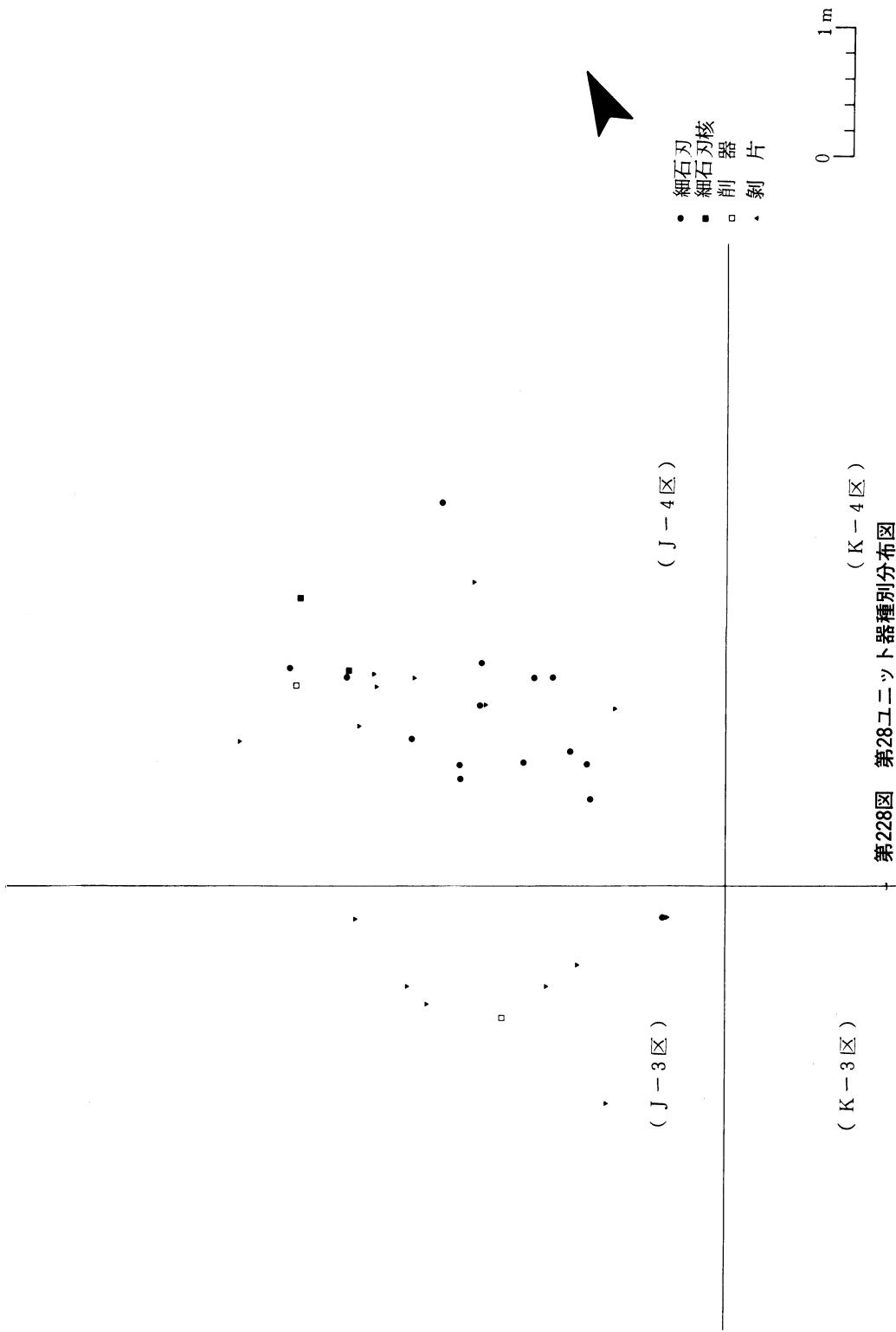
26ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	16	13	23	13	3	18
	22.9%	18.6%	32.9%	18.6%	4.3%	97.1%
B	1				1	2
	1.4%				1.4%	2.9%
計	17	13	23	13	4	70
	24.3%	18.6%	32.9%	18.6%	5.7%	

他は全て黒曜石Aである。打瘤のある頭部は全体の43%を示めている。完形品は全部で4点検出されている。刃部の刃こぼれは顕著でない。幅は4～6mmの間に大部分が納まり断面は三角形が主を示める。

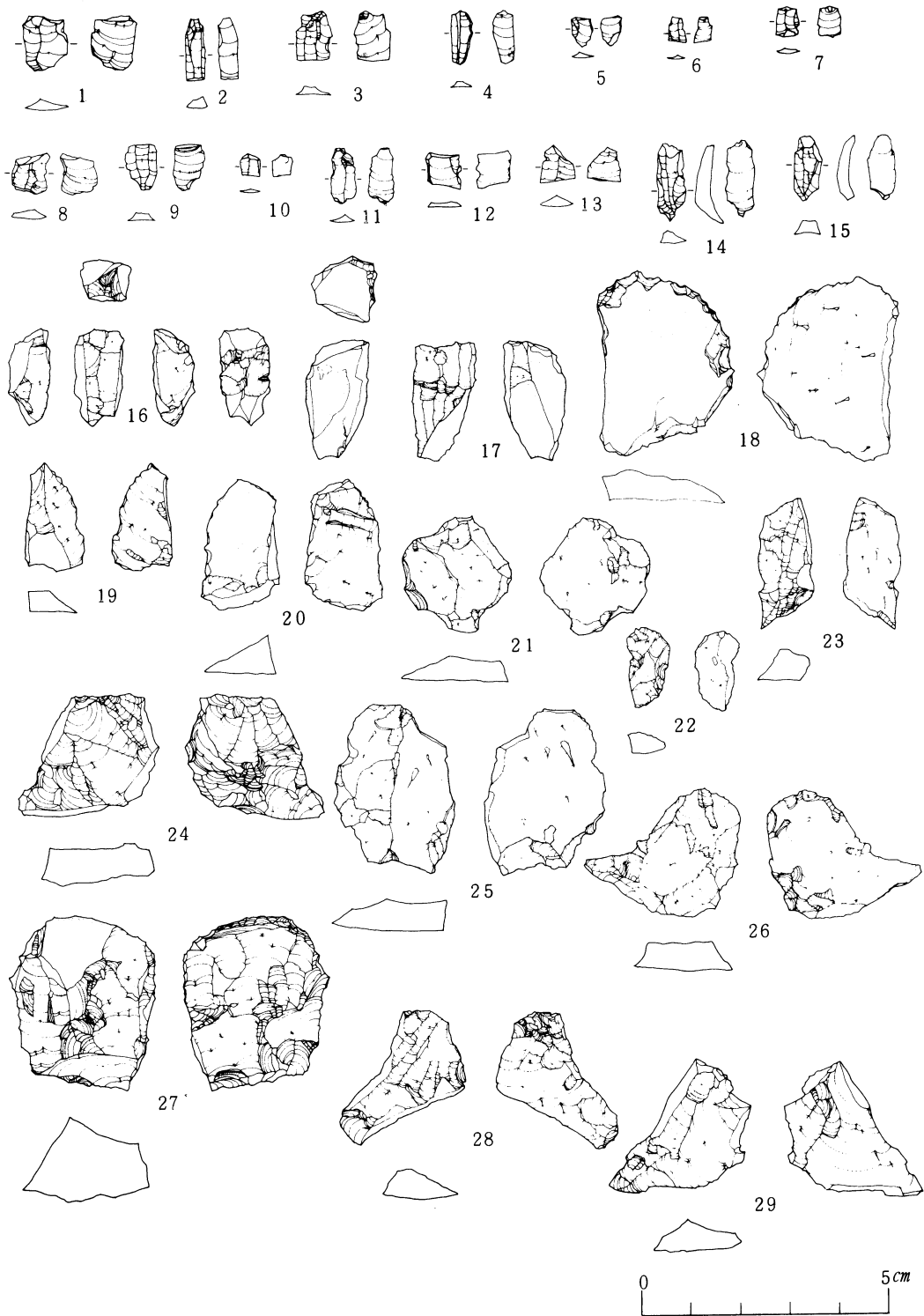
細石刃核55は, 気泡が少なく良質のもので黒曜石A

第16表 第26ユニット出土細石刃分類表

・Bとも異なり, 細石刃核C類に多く使用される石材に類似する。素材は剥片で尾, 下縁からの調整が認められる。打面は作業面からの剥離の後, 横から調整を受けている。A-1類にはいる。62も同じ形態である。60は主要剥離面を側面にして尖頭器状の周辺加工を施こしたブランクを先につくり, そして長軸方向に他端より届かない剥離を行うことにより打面を形成する。打撃面調整を行ないながら細石刃剥離作業を進めている。これはA-2類である。61, 65も完全ではないが同一の製作手法によっている。56, 68, 73, 75は板状の剥片を素材とし, 側面調整はほとんど行なわれないが片面のみである。打面は平坦で部分的に調整したものもある。A-3類である。75, 76, 77, 78は船底形石器状の形態を有するものでB-1類にはいる。細石刃剥離が両端から行なわれているのが75であり, これは下縁調整剥離を施こし断面をV字状に仕上げている。同様に両端からの剥離作業が進んだものが67である。80はB-1類のブランクである。57, 63, 70, 71, 79は黒曜石Bで1点を除いて他は尾端に礫面を残しているがB-1類にはいる。57, 70, 79は打面がポジティブな面で打点が尾端にある。63と79は打撃面がこわれている。59は良質の黒曜石の小角礫を素材とし, C類に分類されるもので1回の剥離で打面を得ている。



第228図 第28ユニット器種別分布図

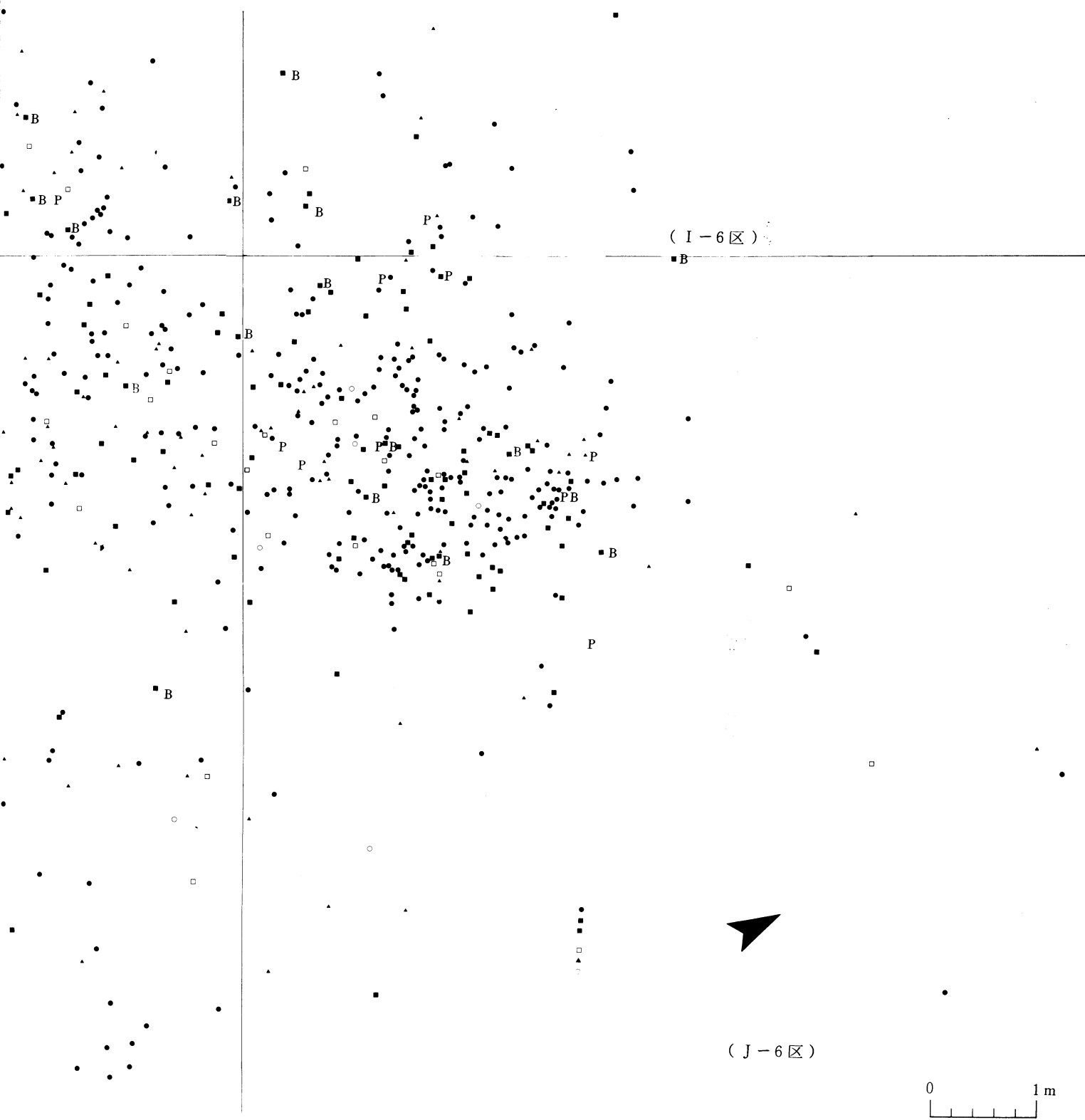


第229図 第28ユニット出土石器実測図

( I - 5 区 )

( J - 5 区 )

■ B ○



第230図 第29ユニット器種別分布図

26ユニット、73は接合である。もとは平坦な打面を有し、一側面は下方からの剥離による平坦面で他方は打面からの入念な調整剥離が施こされた板状の細石刃核である。剥離面再生のためか作業面が剥がされ、その後新しく側面調整がなされ再びブランクとして形成されている。80は横長の剥片を素材とする三稜尖頭器である。1.2cmと部厚な剥辺の二辺にブランディングを施こし、断面を三角形に整形したものである。先端は鋭く尖る。黒曜石Aである。81は、黒曜石Aのスクレイパーで縁辺部に調整剥離がみられる。82～106は剥片である。89は黒曜石Bで他は全て黒曜石Aである。石核は9点検出されているが、明確な石核は少く大半が残核と呼ばれるものである。107～109は石核で多方向からの剥出がみられ、自然面を残している。

#### 第27ユニット出土の遺物（第50表）

H-3, H-4, I-3, I-4区で遺物は約200㎡に123点が散在して検出されている。石材は、黒曜石A89点、凝灰岩B1点、砂岩2点、珪岩8点、礫23点である。石器は、細石刃3点、細石刃核1点、剥片8点、石核3点である。集中がみられず、ユニットとしてまとまりにかけているものであるが、一応ユニット外の遺物としてとりあげ便宜上27ユニットと呼称した。細石刃は、3点とも気泡のない良質の黒曜石で打瘤をもつ細石刃2点と完形品1点である。3点とも刃こぼれはみられない。石核は残核であり剥出の方向性がみられない。

#### 第28ユニット出土の遺物（図版117第229図 第51表）

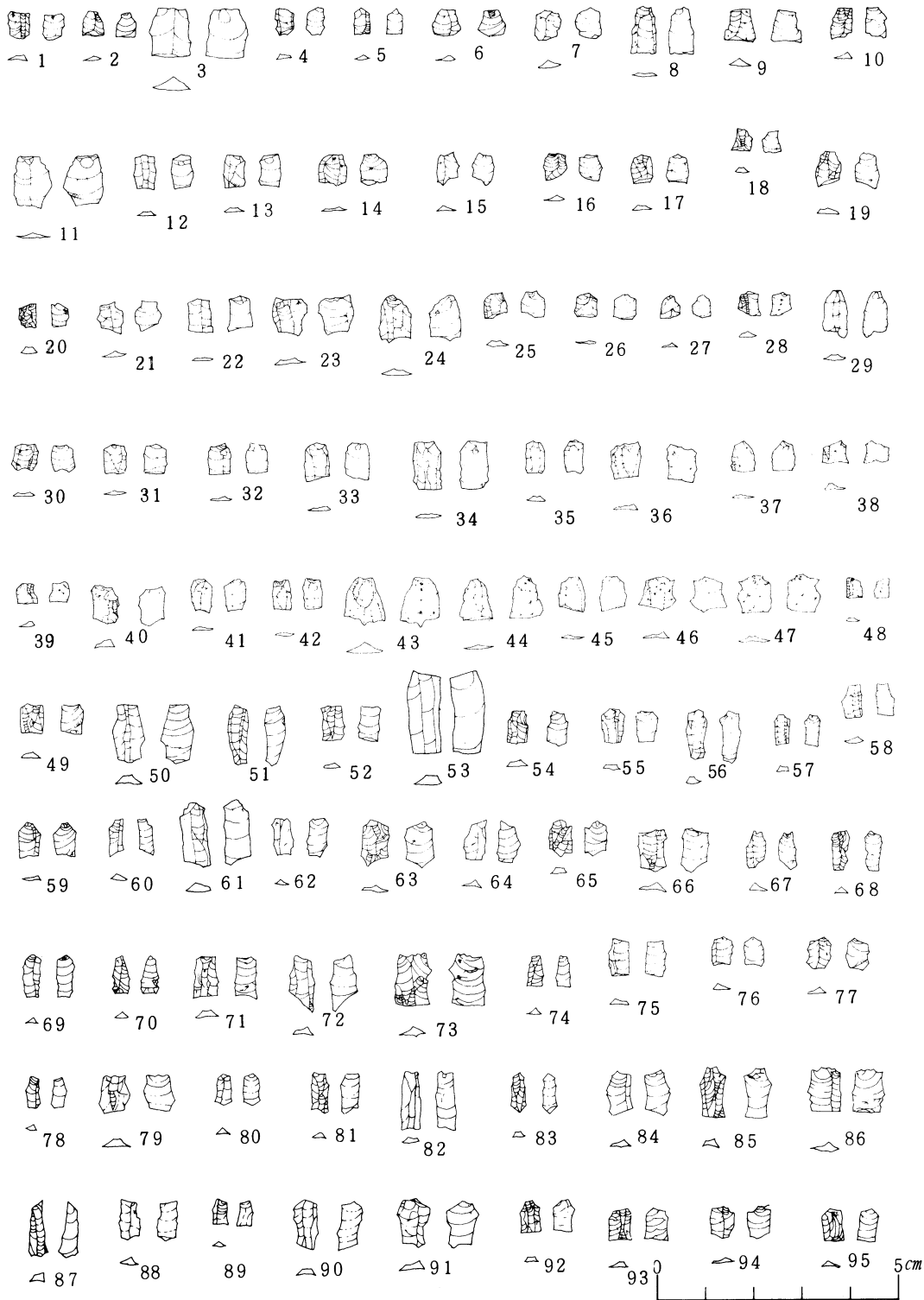
J-3区で遺物は長径6.2m、短径5mの範囲に202点が散在して検出されている。石材は黒曜石A188点、黒曜石B11点、安山岩1点、礫2点である。石器は、細石刃16点、細石刃核2点、スクレイパー2点、剥片28点、石核2点である。細石刃は、黒曜石A13点、黒曜石B3点である。刃部の刃こぼれはあまり顕著でない。幅は4～6mmの間に大部分が納まる。断面は台形ないし三角形を呈するが三角形が主を示める。

細石刃核16は平坦な両側面を持ち、細石刃剥離作業が極端に進んだものである。17はC類に分類され小角礫を用いたものである。わずかに打撃面調整が認められるのみで他の調整は全くなされていない。

18は横割ぎの剥片で、自然面を残しているが、縁辺部に調整剥離を施こしている。石材は、黒曜石Aを用いている。

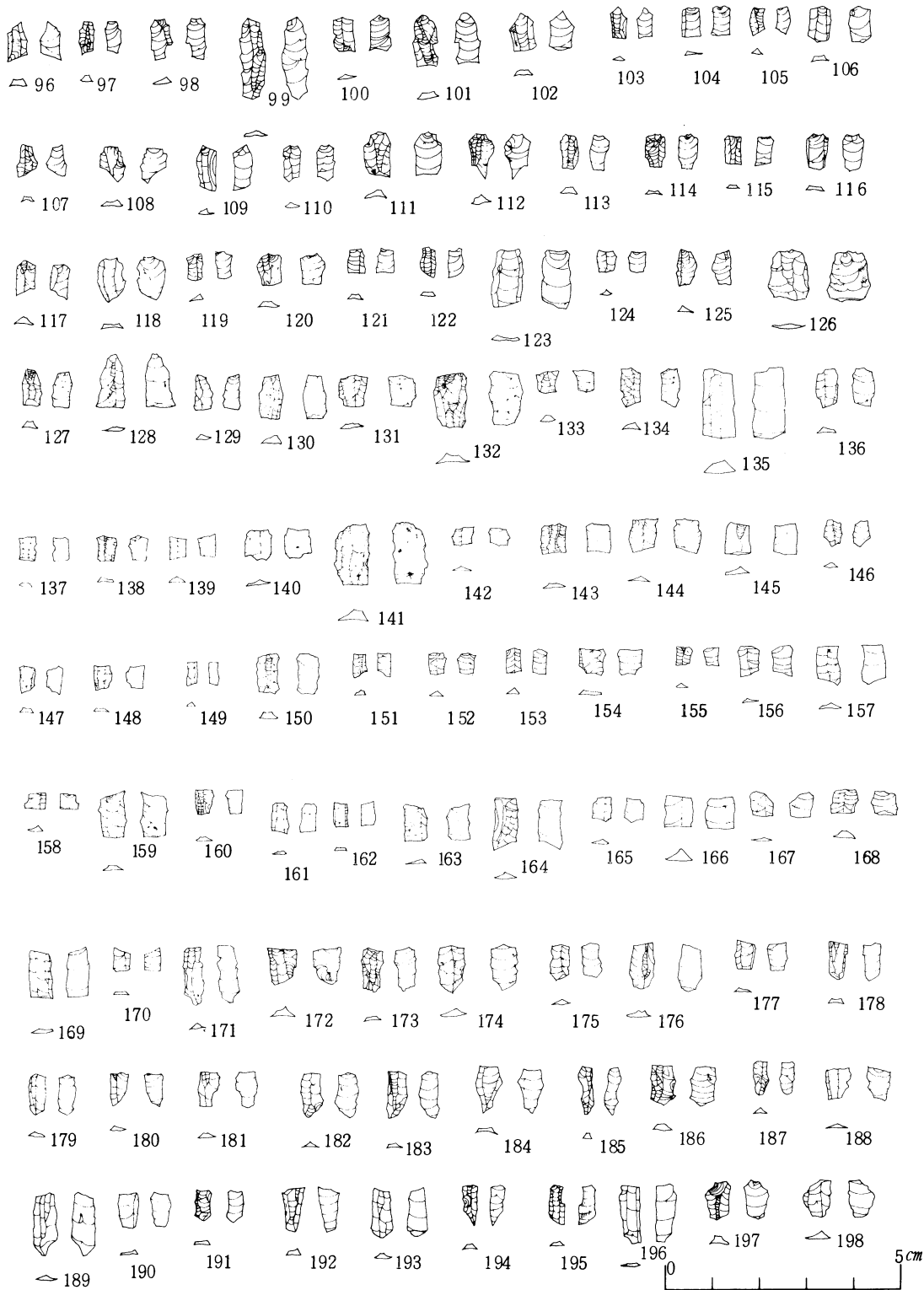
19～29までは黒曜石Aの剥片である。全て縦長剥片である。20は不整形な剥片であるが刃こぼれがみられる。

21～29は不整形な剥片である。石材のためか欠損しているものが多い。

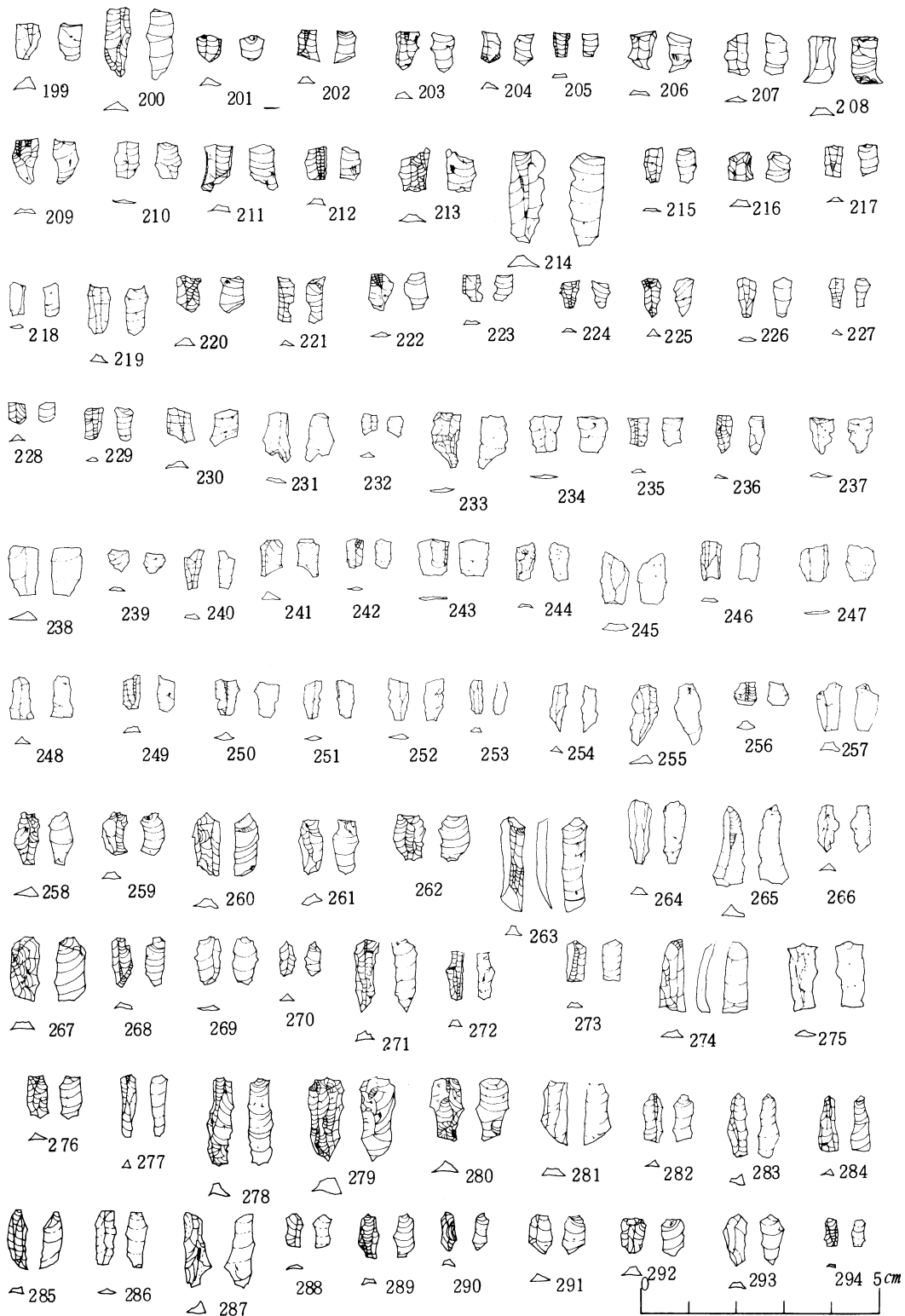


第231図 第29ユニット出土石器 (1)

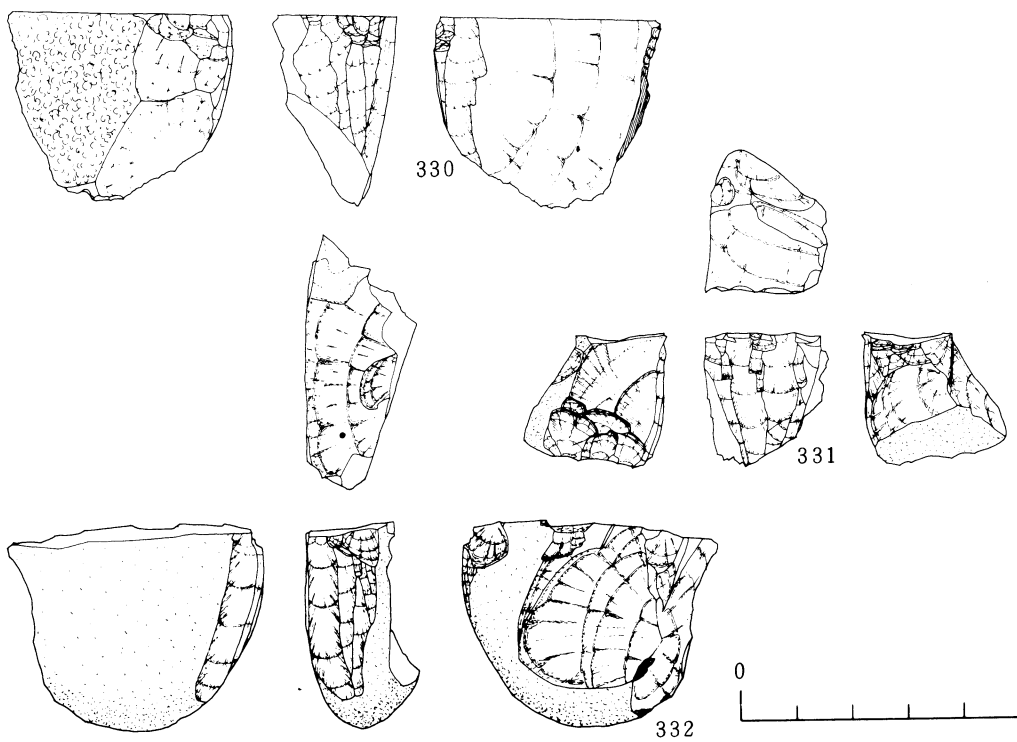
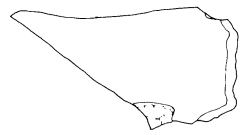
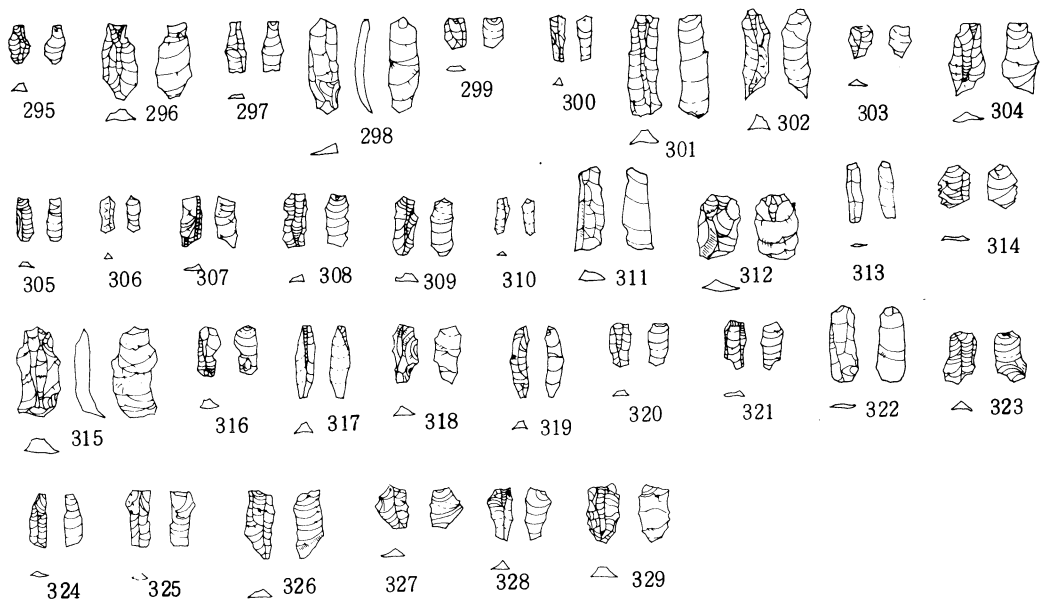




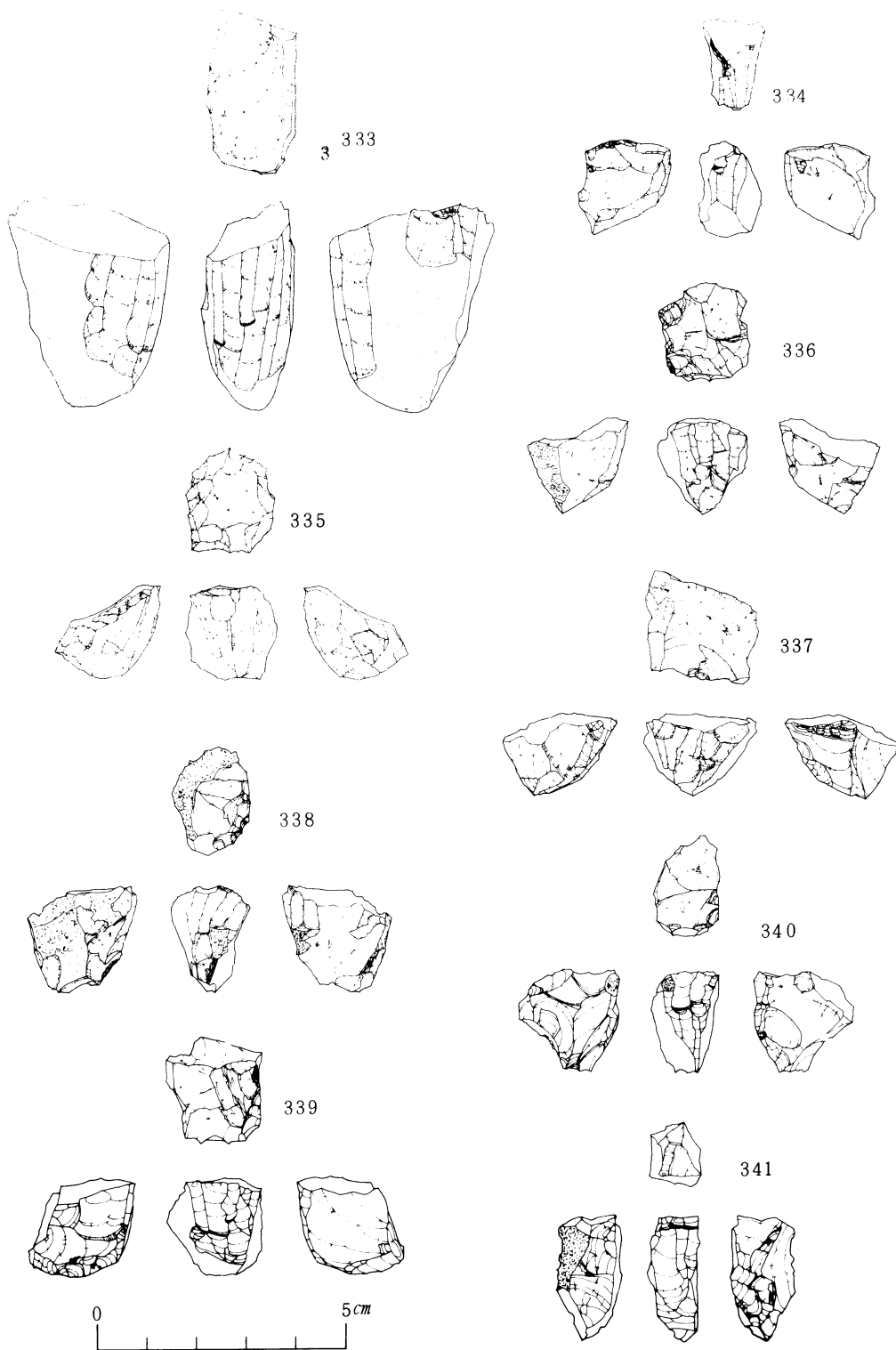
第232図 第29ユニット出土石器 (2)



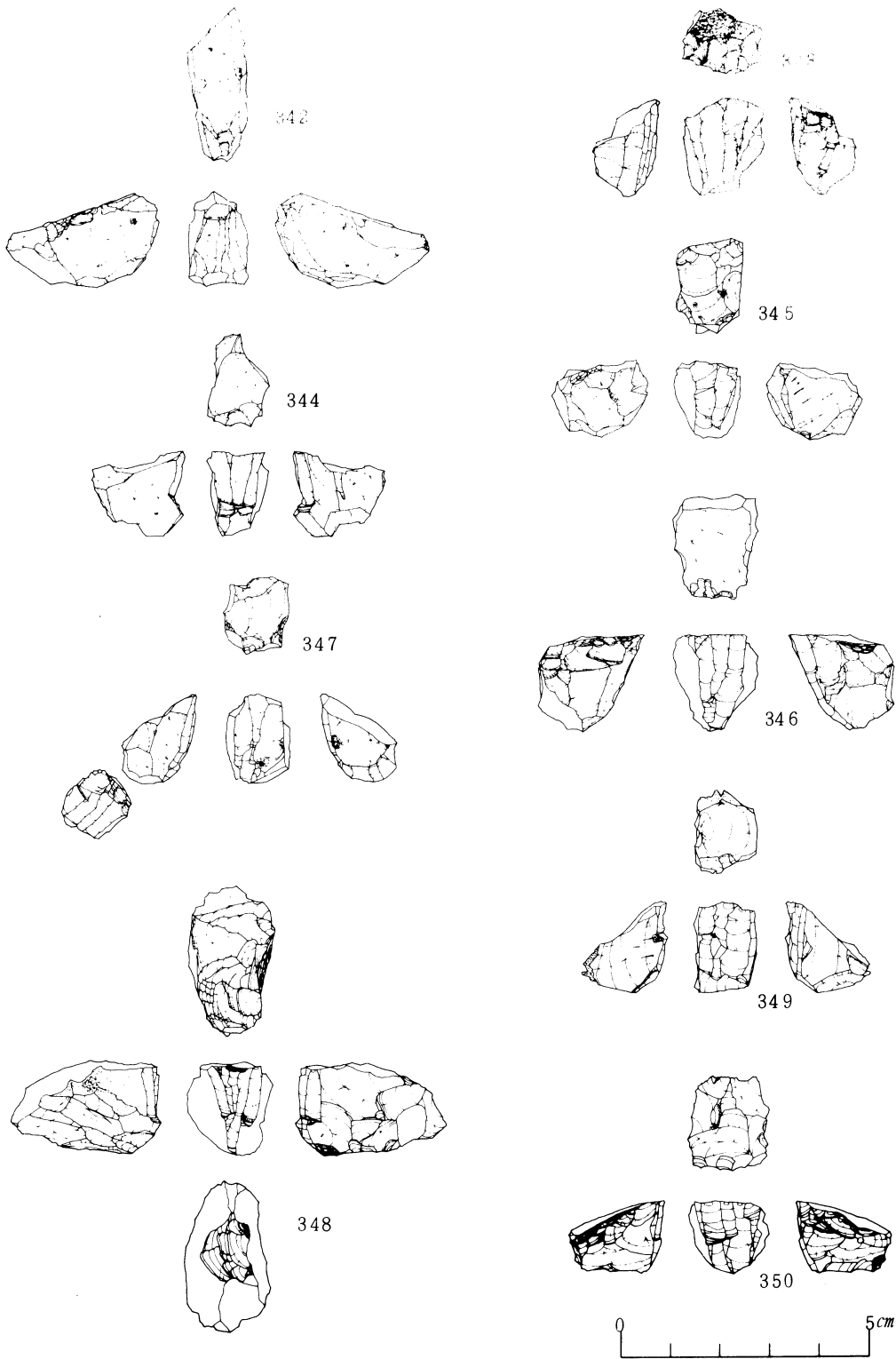
第233図 第29ユニット出土石器 (3)



第234図 第29ユニット出土石器 (4)



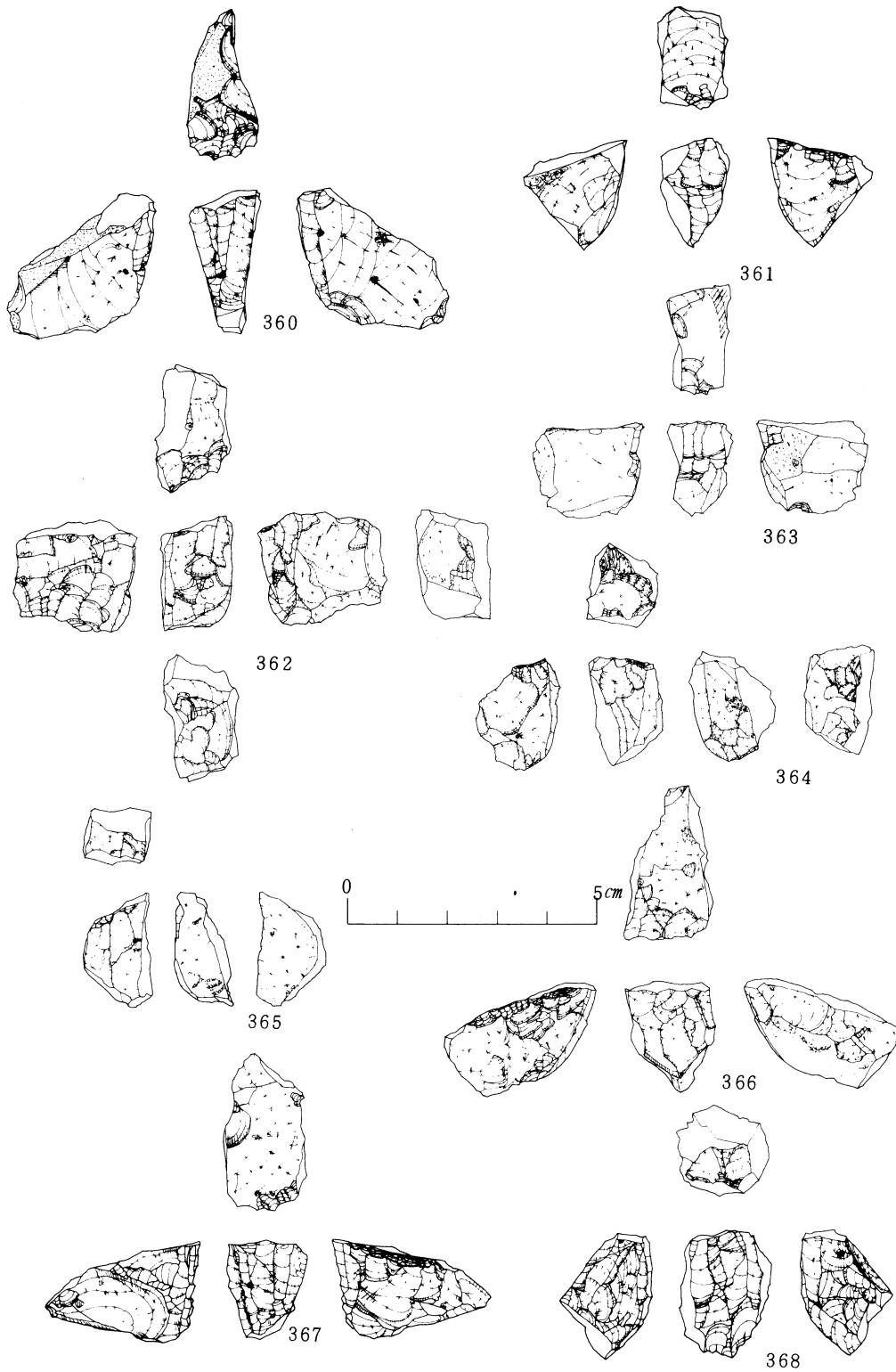
第235図 第29ユニット出土石器実測図(5)



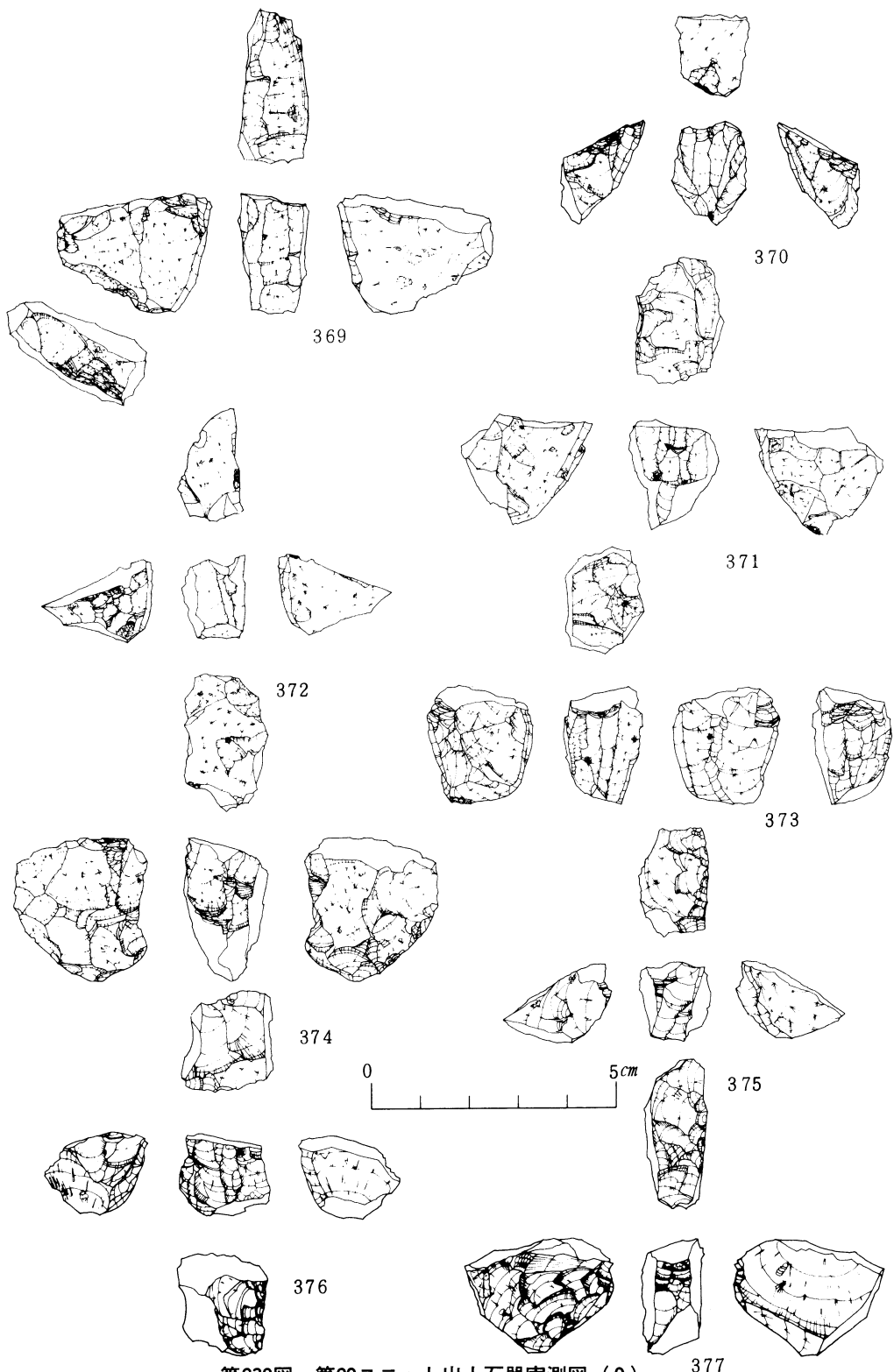
第236図 第29ユニット出土石器実測図 (6)



第237図 第29ユニット出土石器実測図(7)



第238図 第29ユニット出土石器実測図(8)



第239図 第29ユニット出土石器実測図(9)





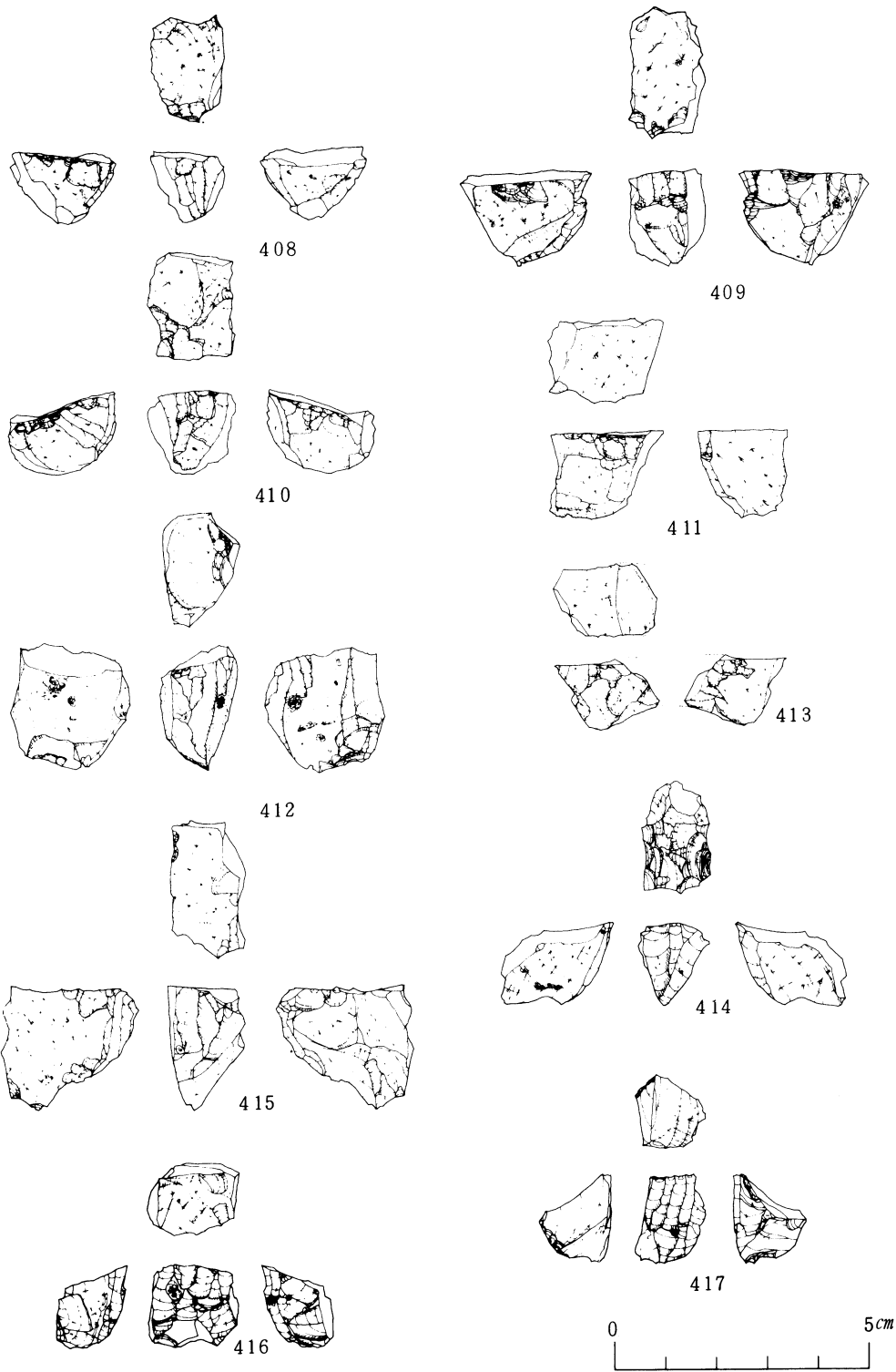
第240図 第29ユニット出土石器実測図 (10)



第241図 第29ユニット出土石器実測図 (11)



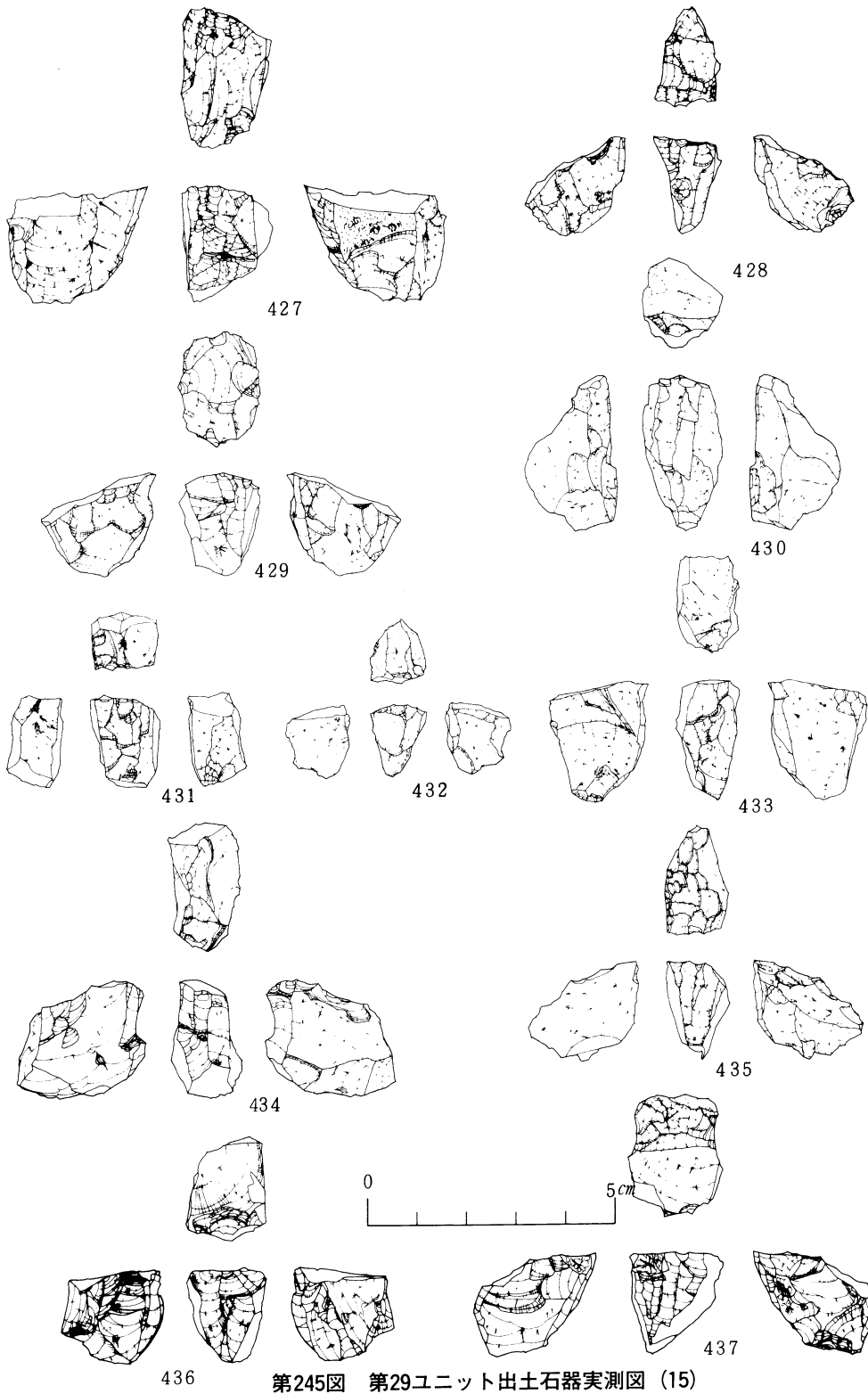
第242図 第29ユニット出土石器実測図 (12)



第242図 第29ユニット出土石器実測図 (13)



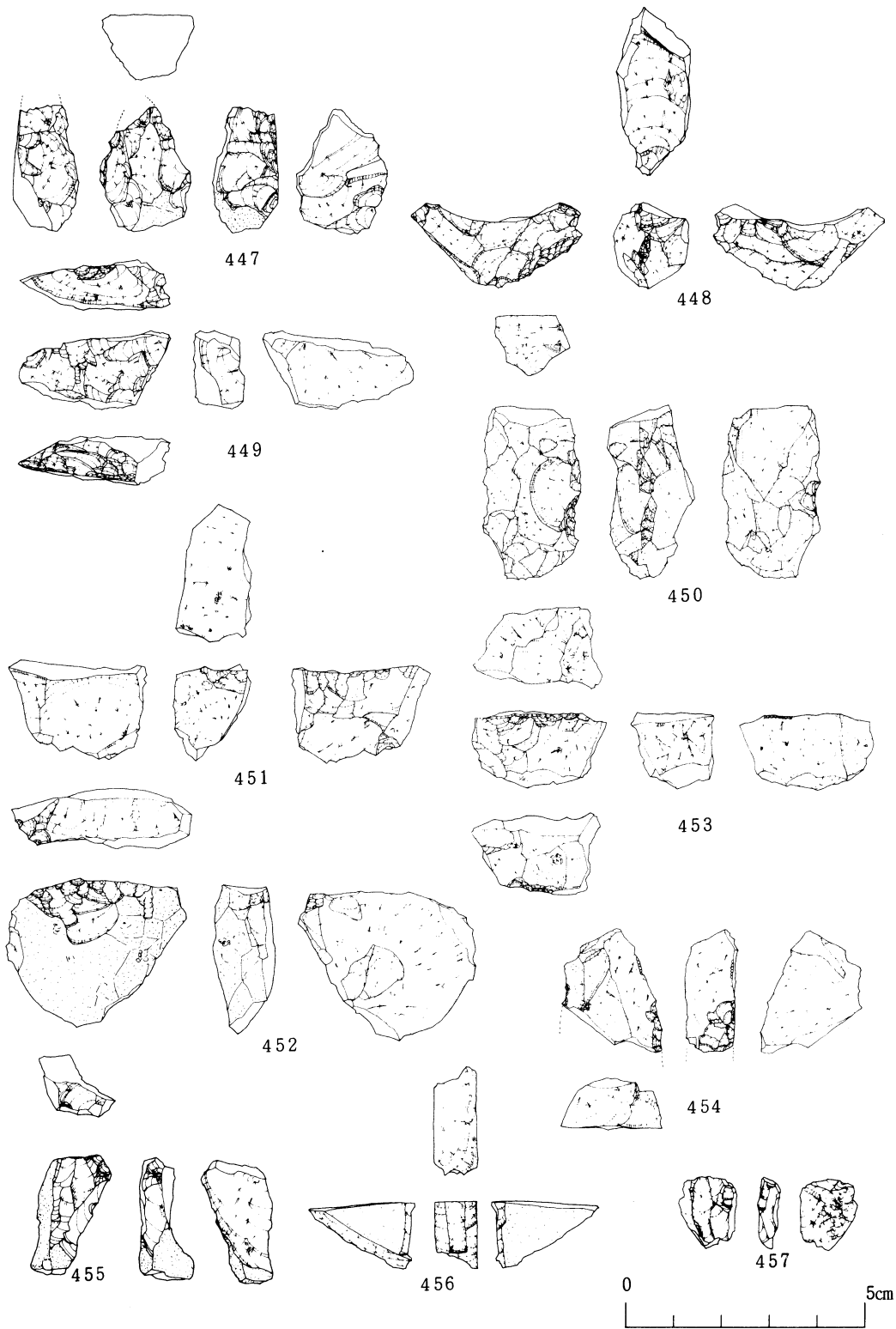
第244図 第29ユニット出土石器実測図 (14)



第245図 第29ユニット出土石器実測図 (15)

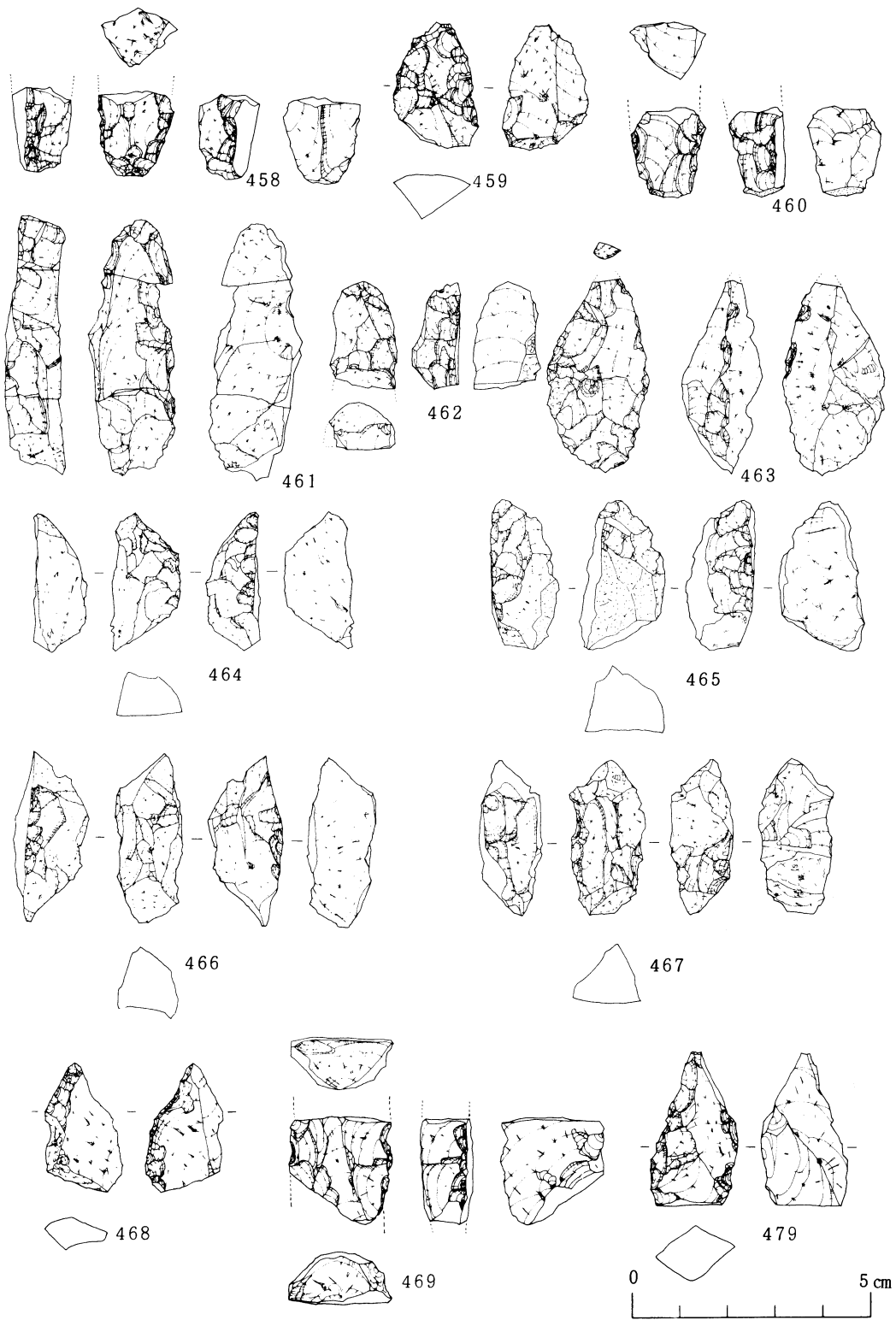


第246図 第29ユニット出土石器実測図 (16)

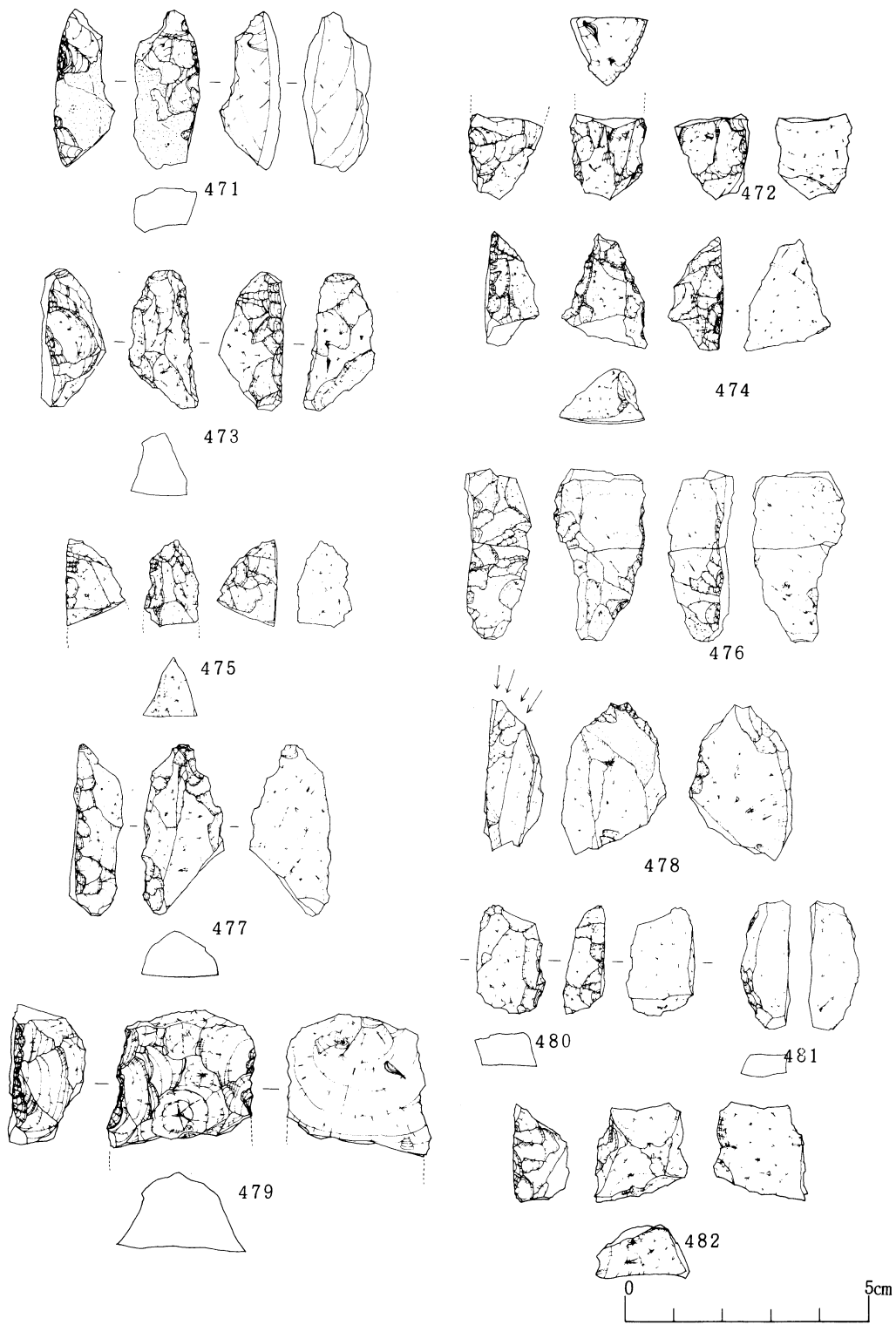


第247図 第29ユニット出土石器実測図 (17)

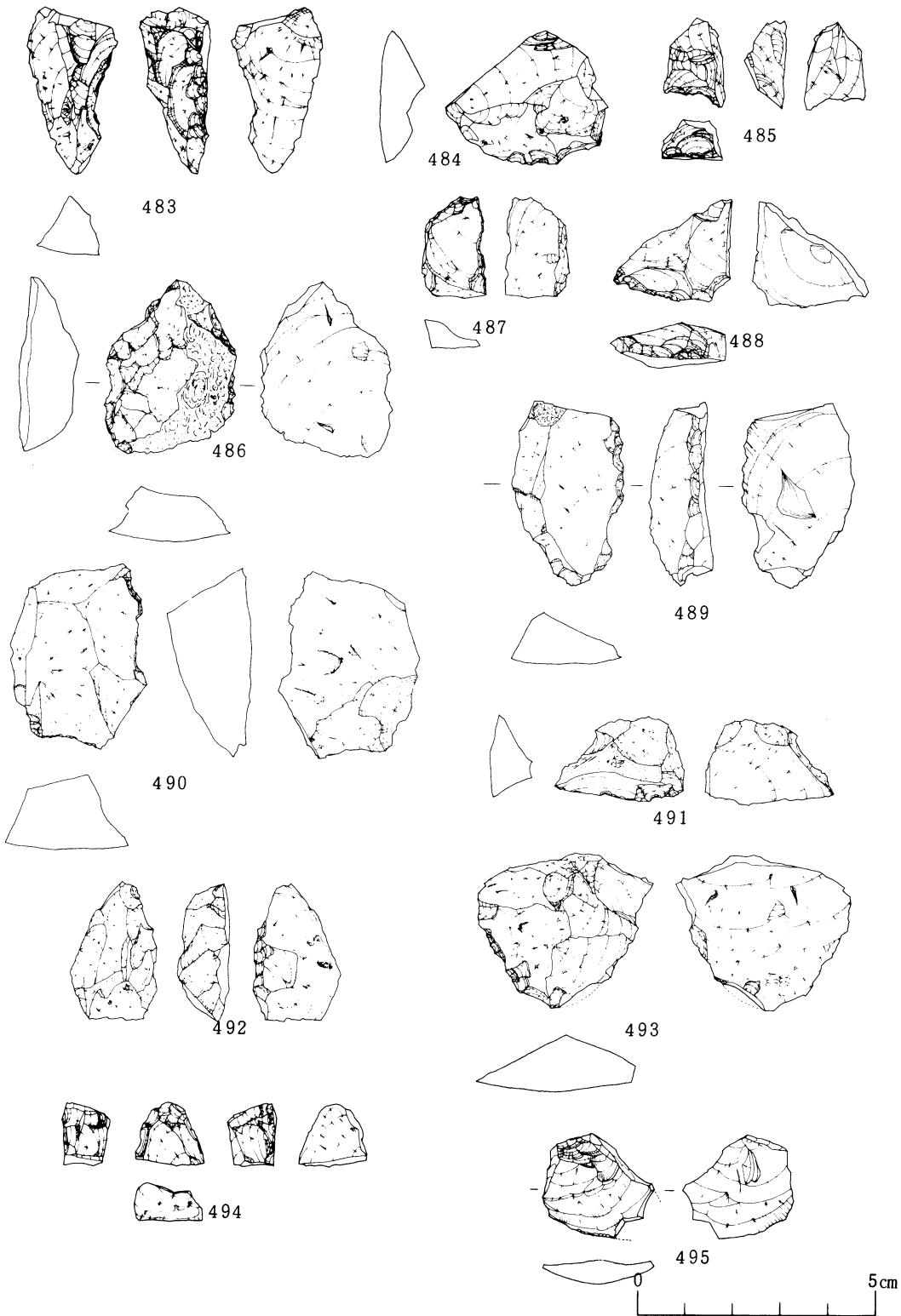




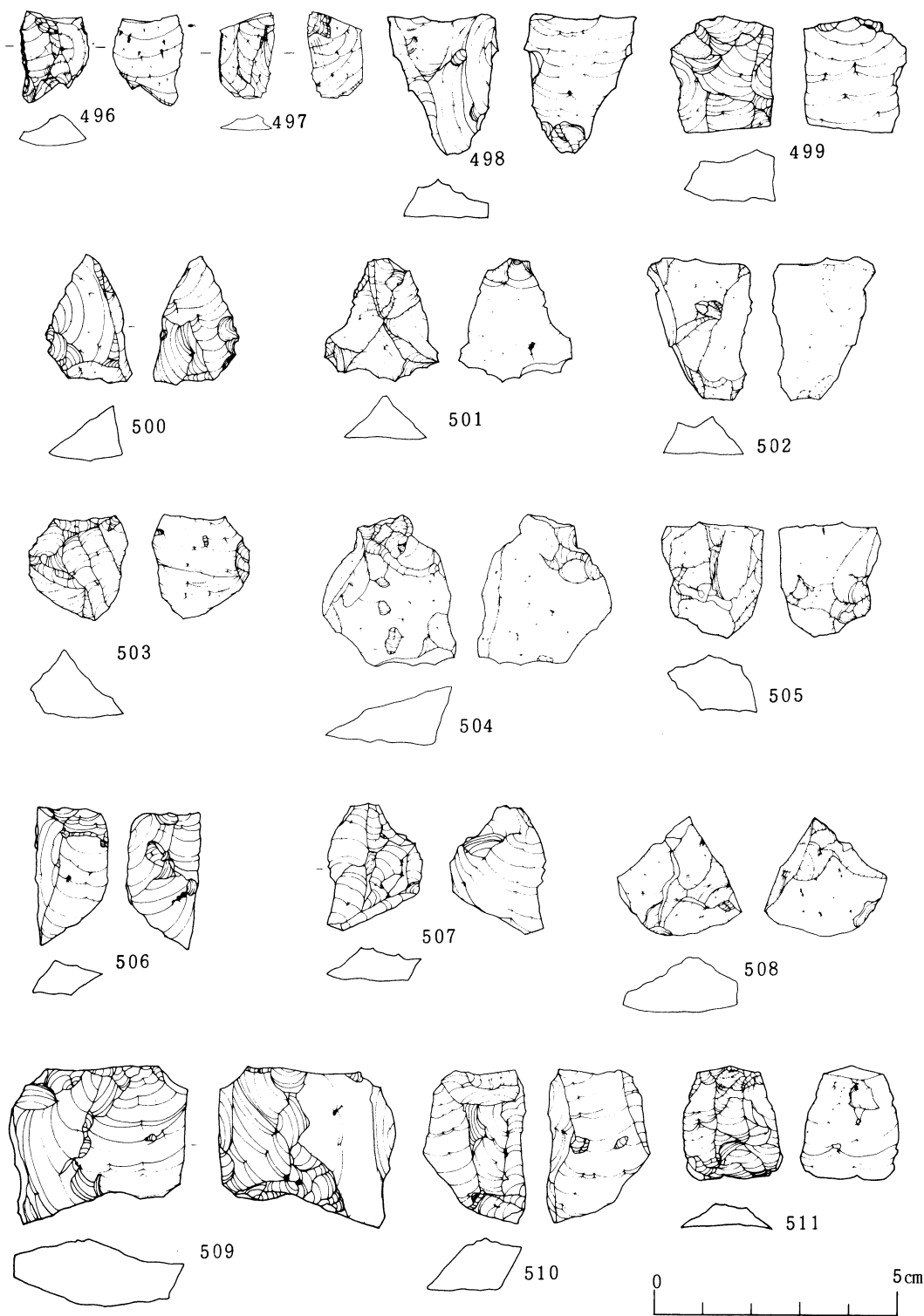
第248図 第29ユニット出土石器実測図 (18)



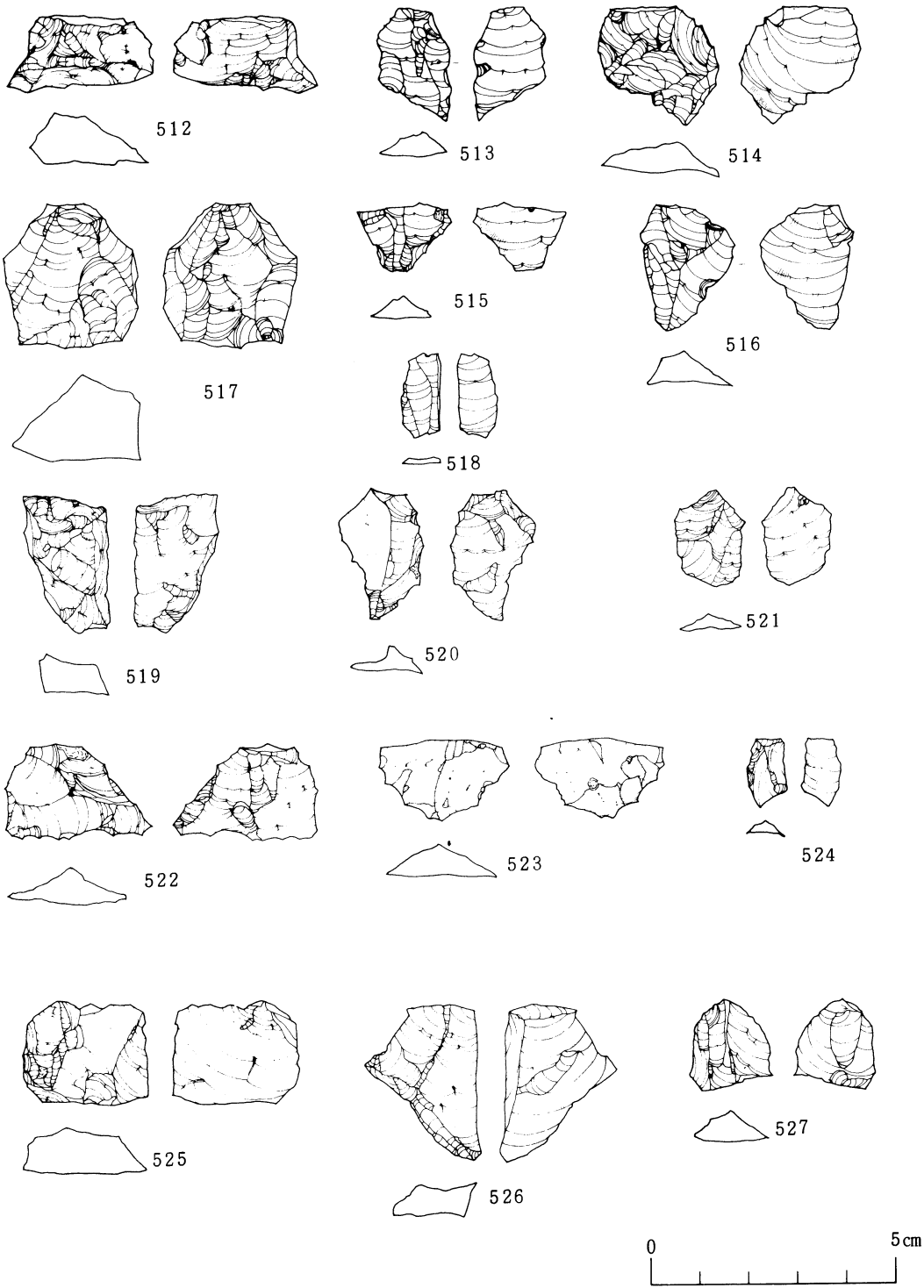
第249図 第29ユニット出土石器実測図 (19)



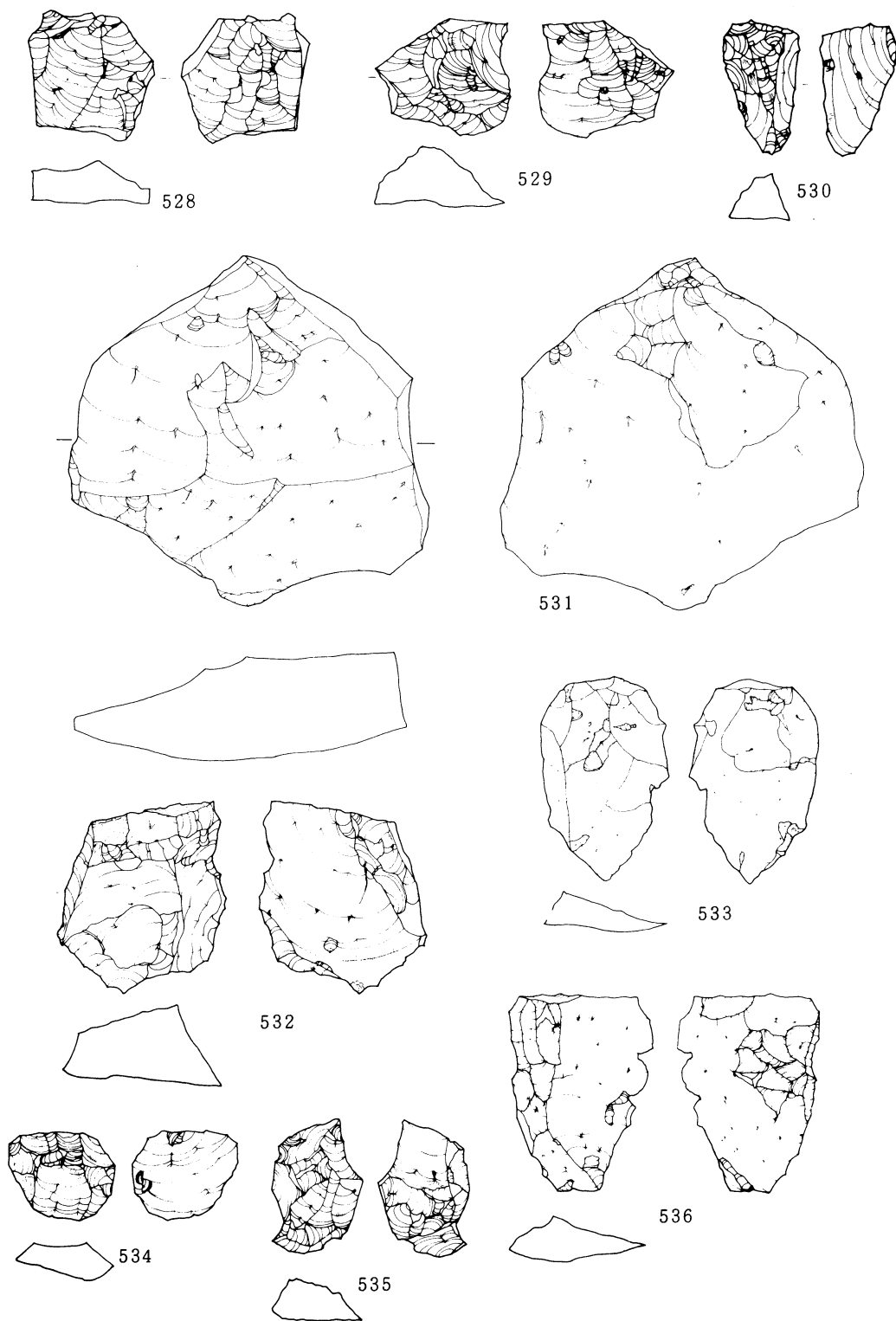
第250図 第29ユニット出土石器実測図 (20)



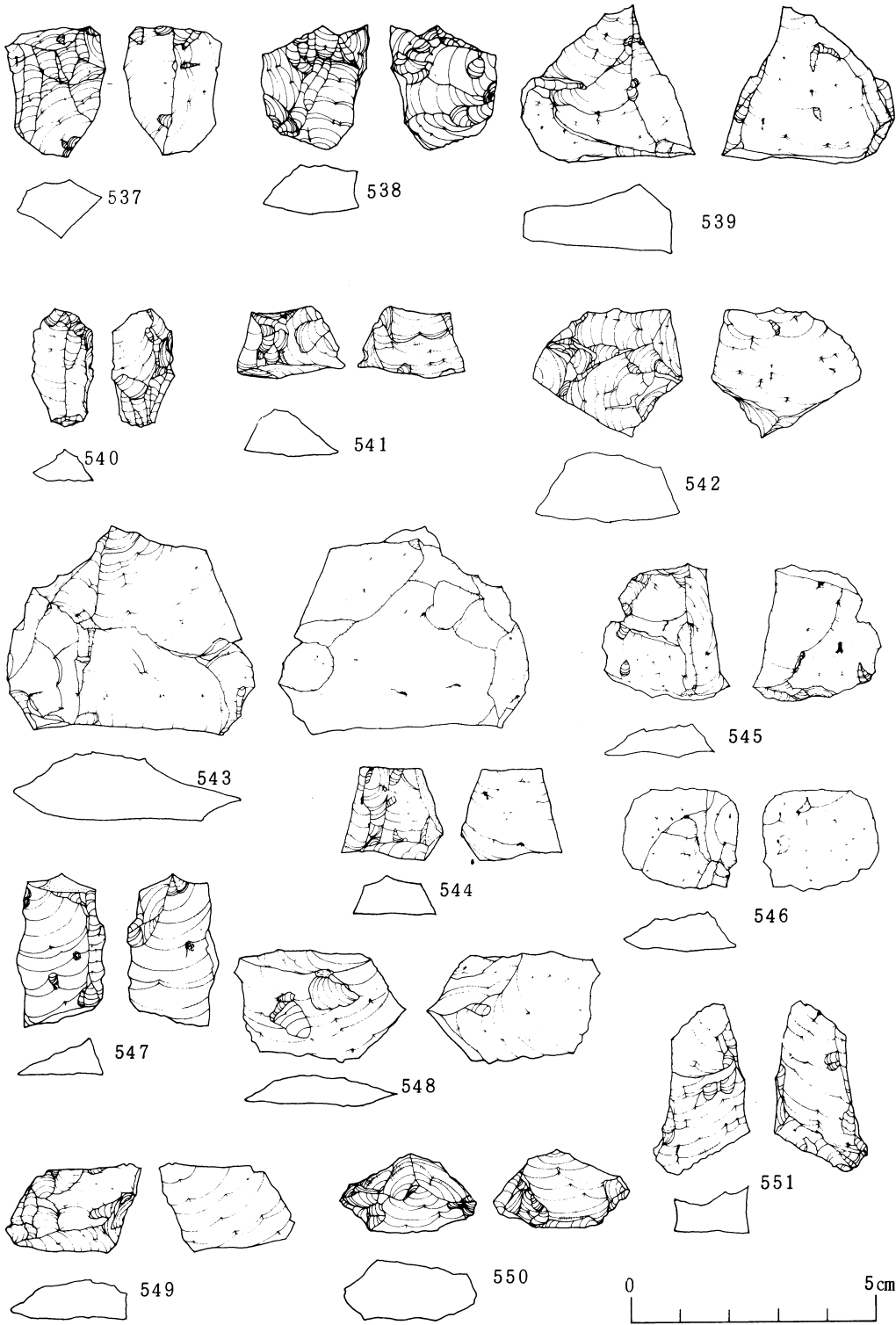
第251図 第29ユニット出土石器実測図 (21)



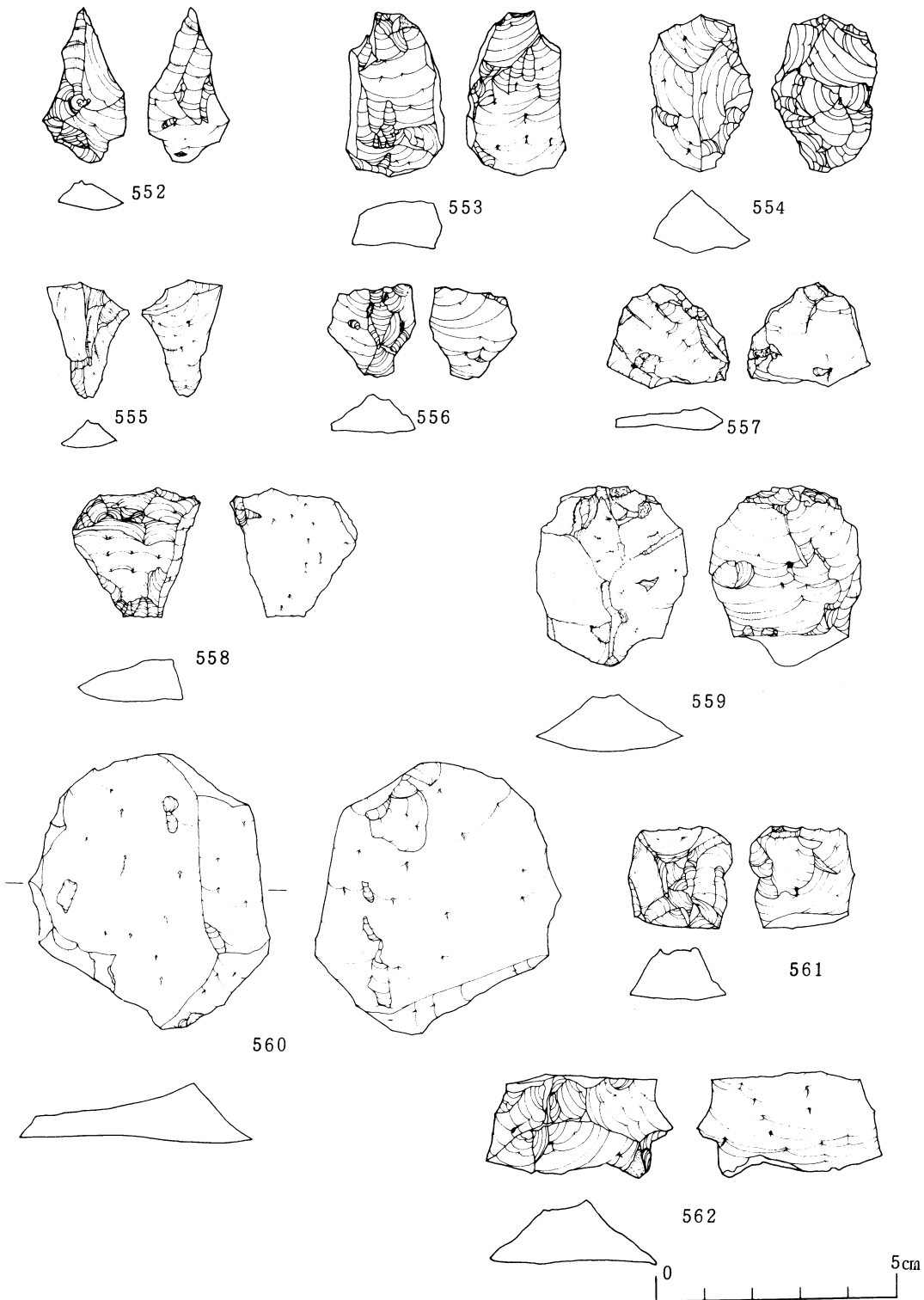
第252図 第29ユニット出土石器実測図 (22)



第253図 第29ユニット出土石器実測図 (23)

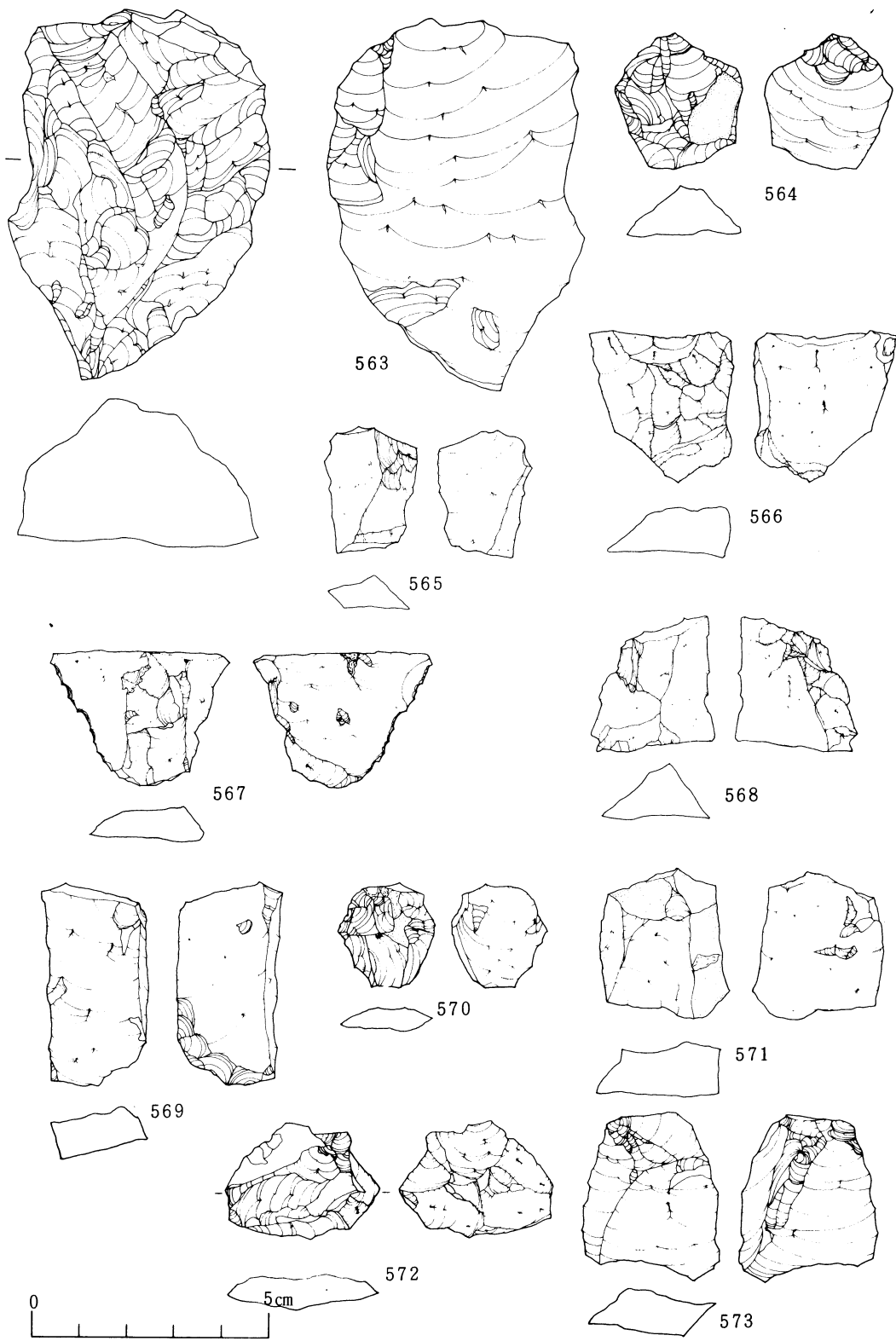


第254図 第29ユニット出土石器実測図 (24)

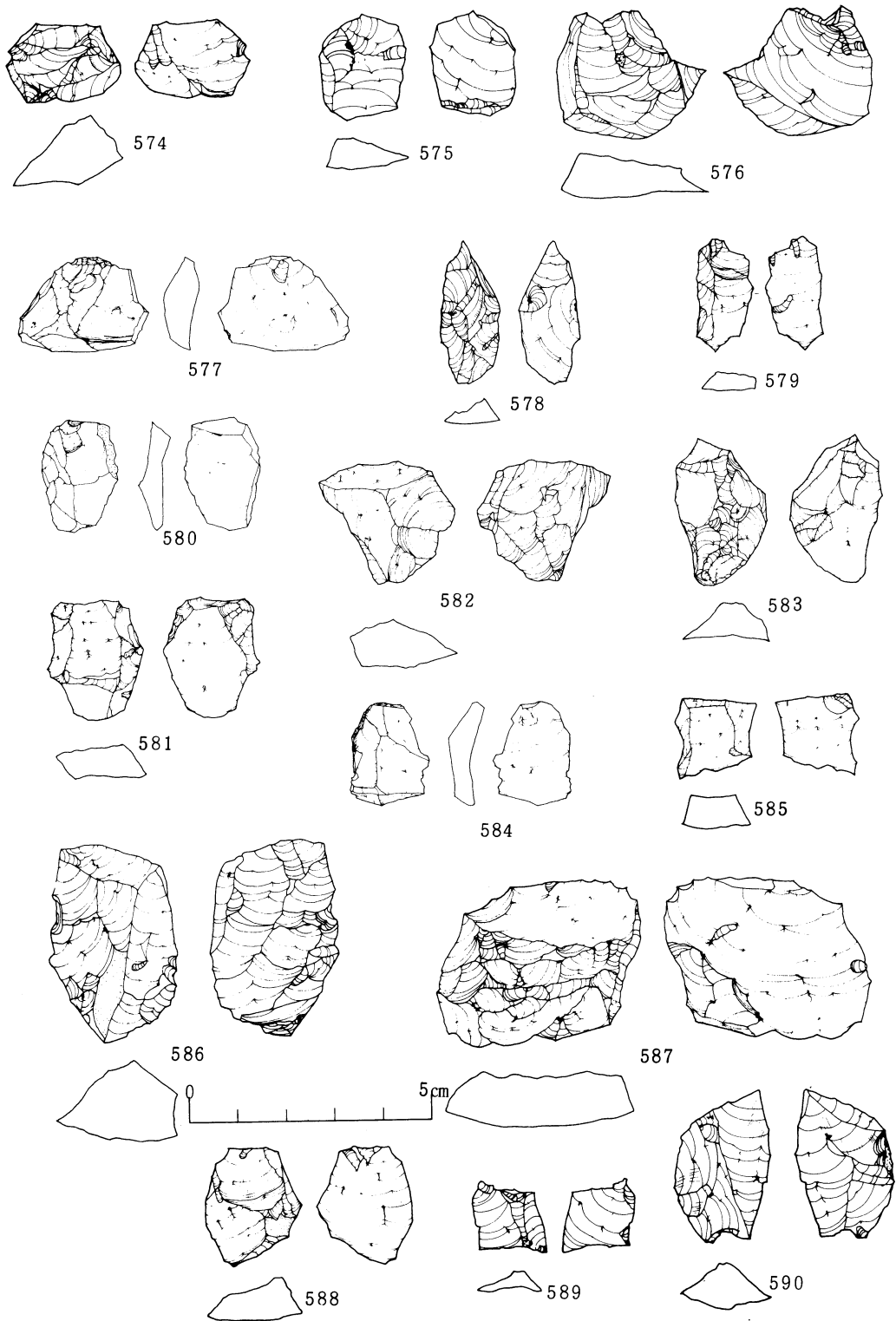


第255図 第29ユニット出土石器実測図 (25)

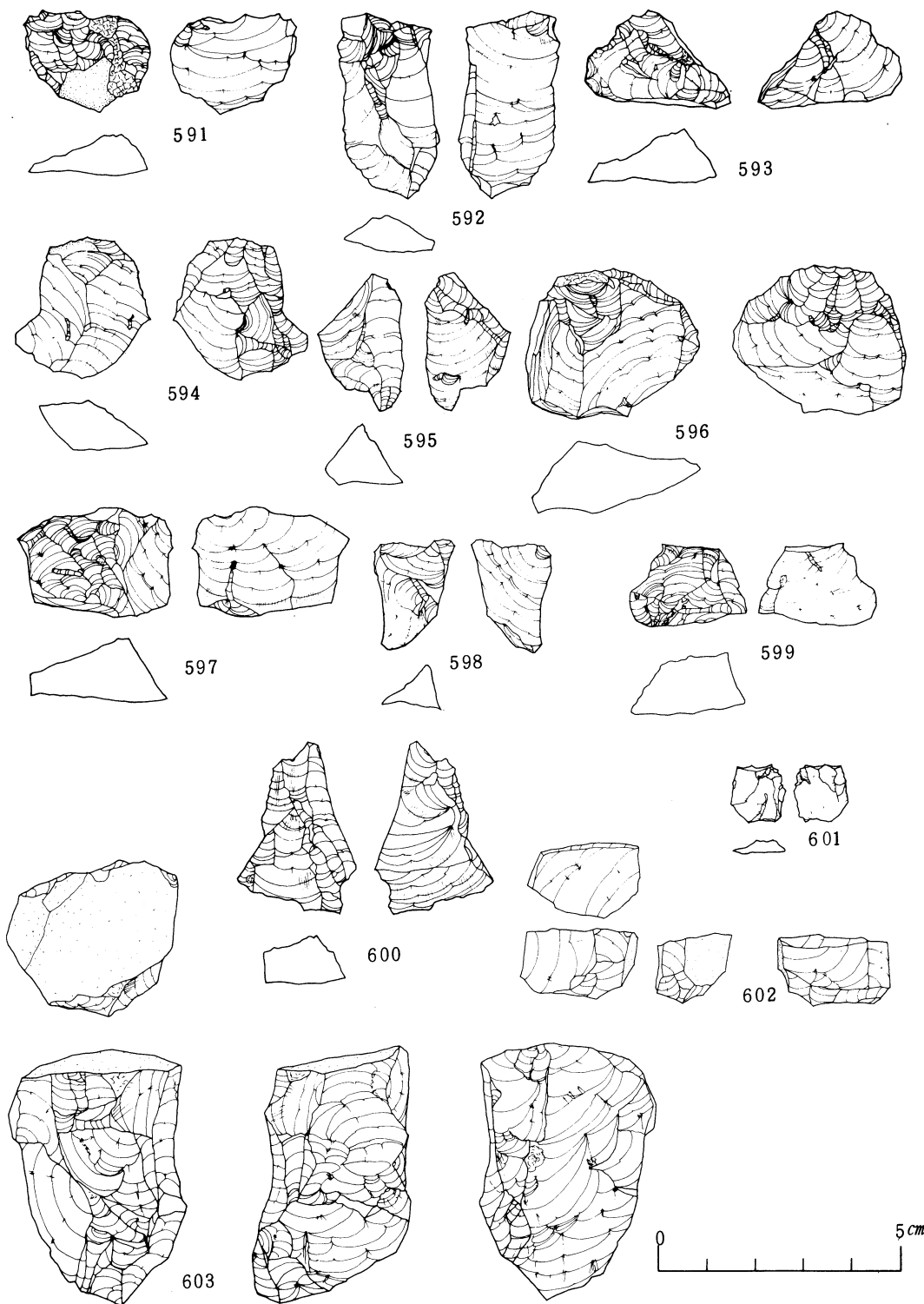




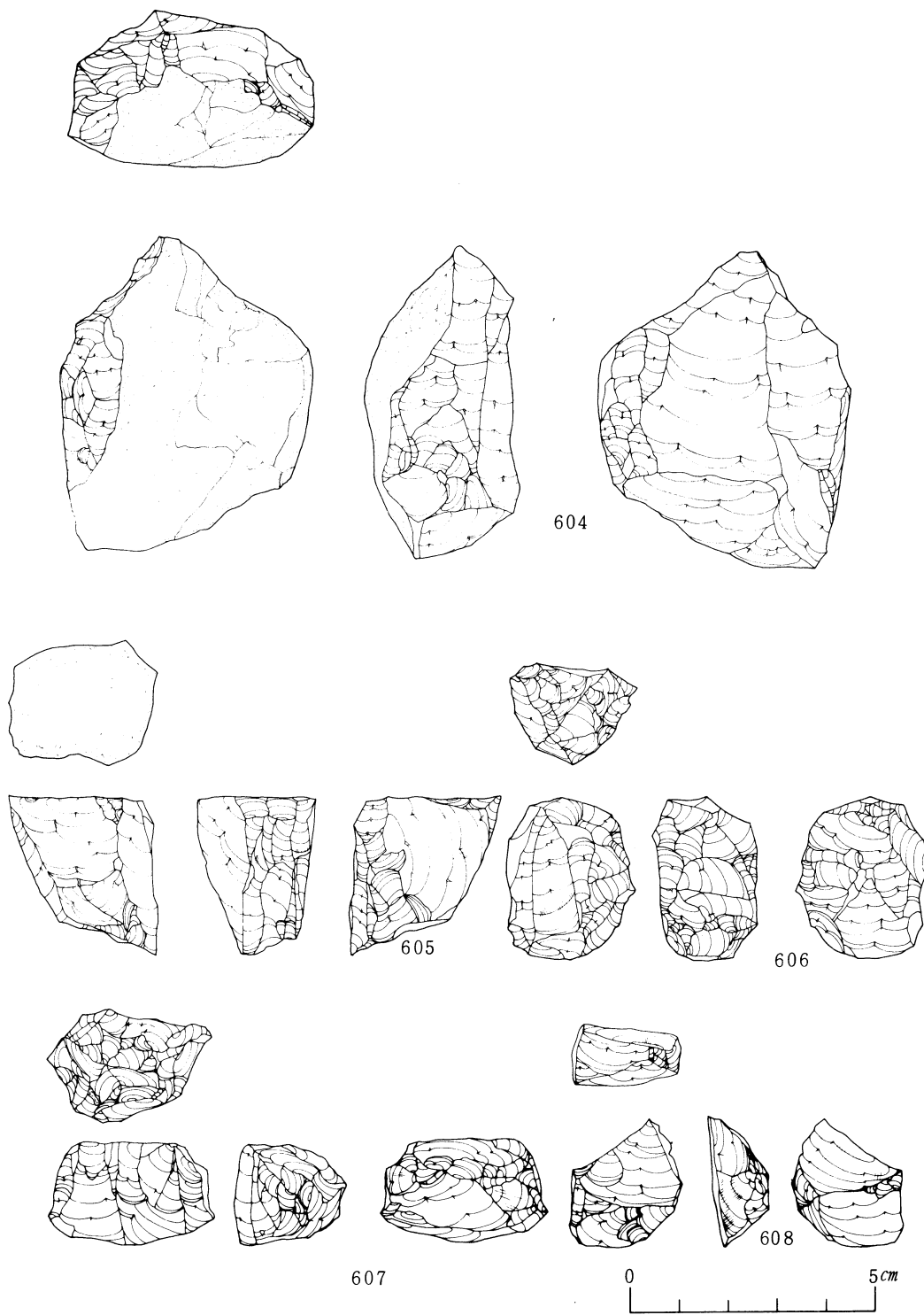
第256図 第29ユニット出土石器実測図 (26)



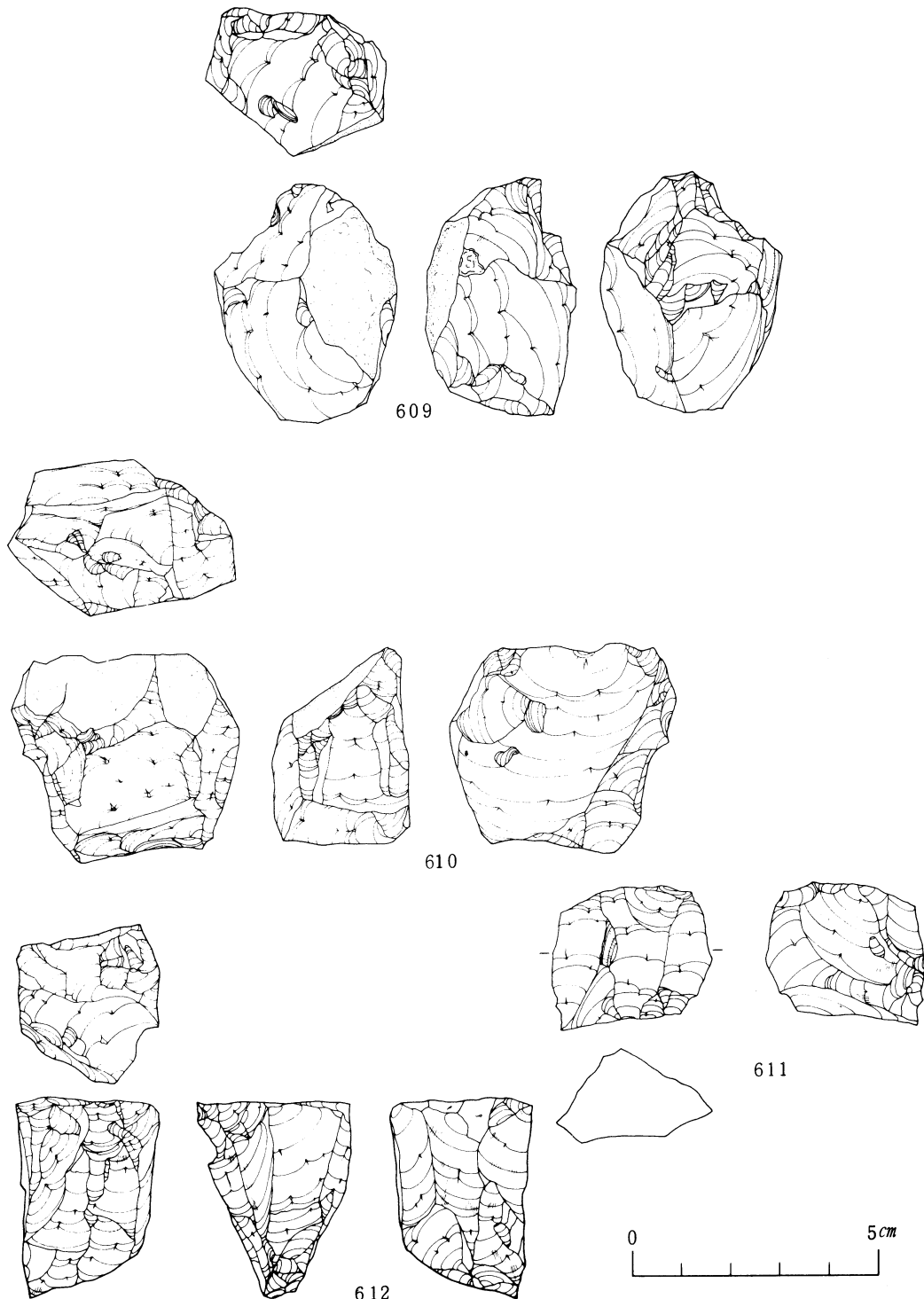
第257図 第29ユニット出土石器実測図 (27)



第258図 第29ユニット出土石器実測図 (28)



第259図 第29ユニット出土石器実測図 (29)



第260図 第29ユニット出土石器実測図 (30)

第29ユニット出土の遺物（図版117～133第231～260図 第52表）

I—5, I—6, J—5, J—6, K—5, K—6区で長径20m, 短径18mの広域な範囲に27904点が数ヶ所に集中して検出されている。第29ユニットに関しては、まだ細分化が必要なのであるが、発掘調査の際、線引きがむずかしく一括して取り上げ、整理の段階での調整を必要とした。第 図はその分布であるが

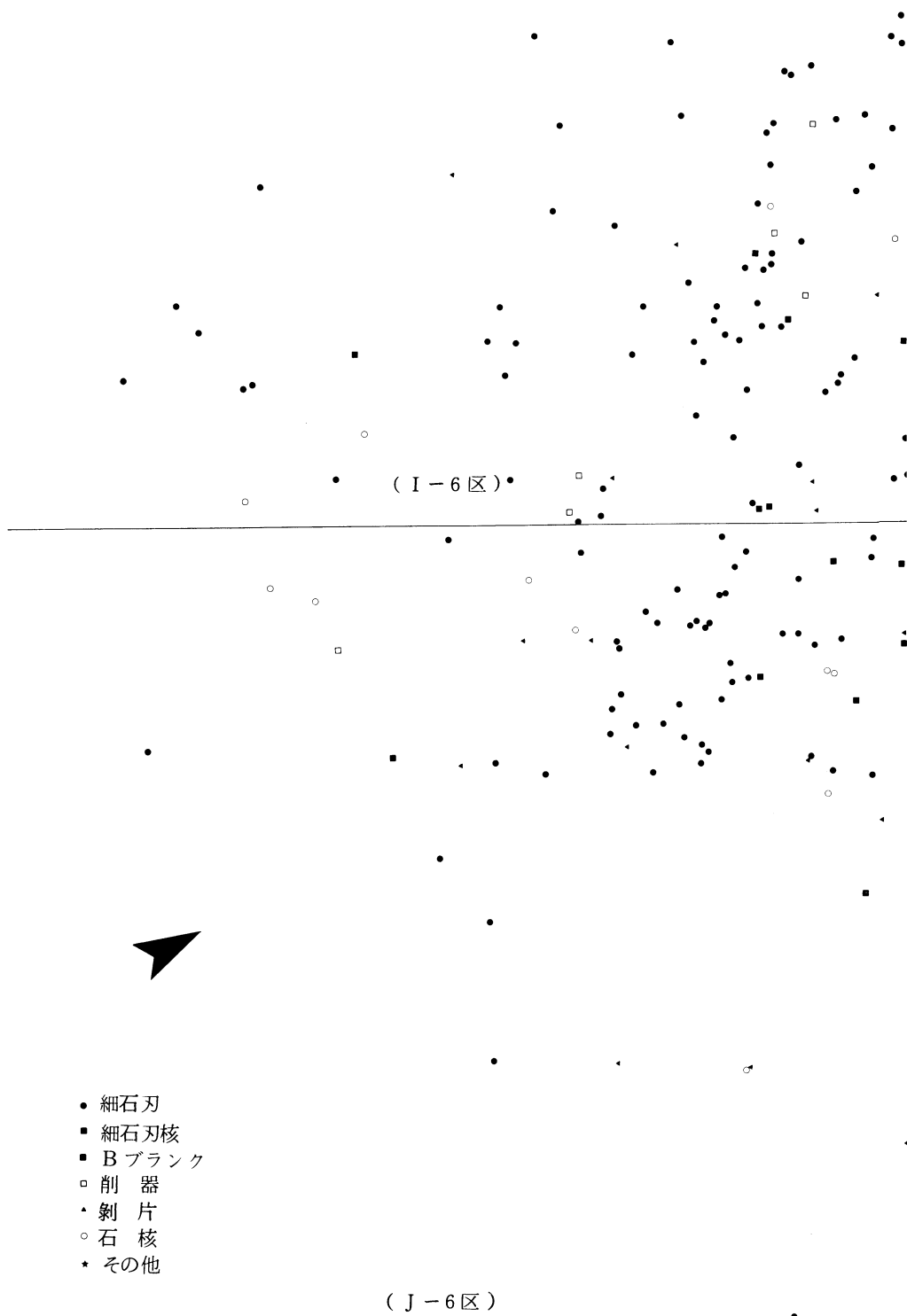
石材は、黒曜石A, 黒曜石B, 凝灰岩B, 砂岩, 安山岩類である。石器は、細石刃 360点, 細石刃核 113点, ブランク28点, 尖頭器21点, スクレイパー33点, 石鏃2点, 石核49点等多くの石器が検出されている。

29ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	22	37	18	24	30	131
	5.9%	9.9%	4.8%	6.4%	8.0%	34.9%
B	35	73	27	59	44	238
	9.3%	19.5%	7.2%	15.7%	11.7%	63.5%
凝灰岩B	1			1		2
	7.3%			0.3%		0.5%
頁岩		2	1	1		4
		0.5%	0.3%	0.3%		1.1%
	58	112	46	85	74	375
	15.5%	29.9%	12.3%	22.7%	19.7%	

第17表 第29ユニット出土細石刃分類表

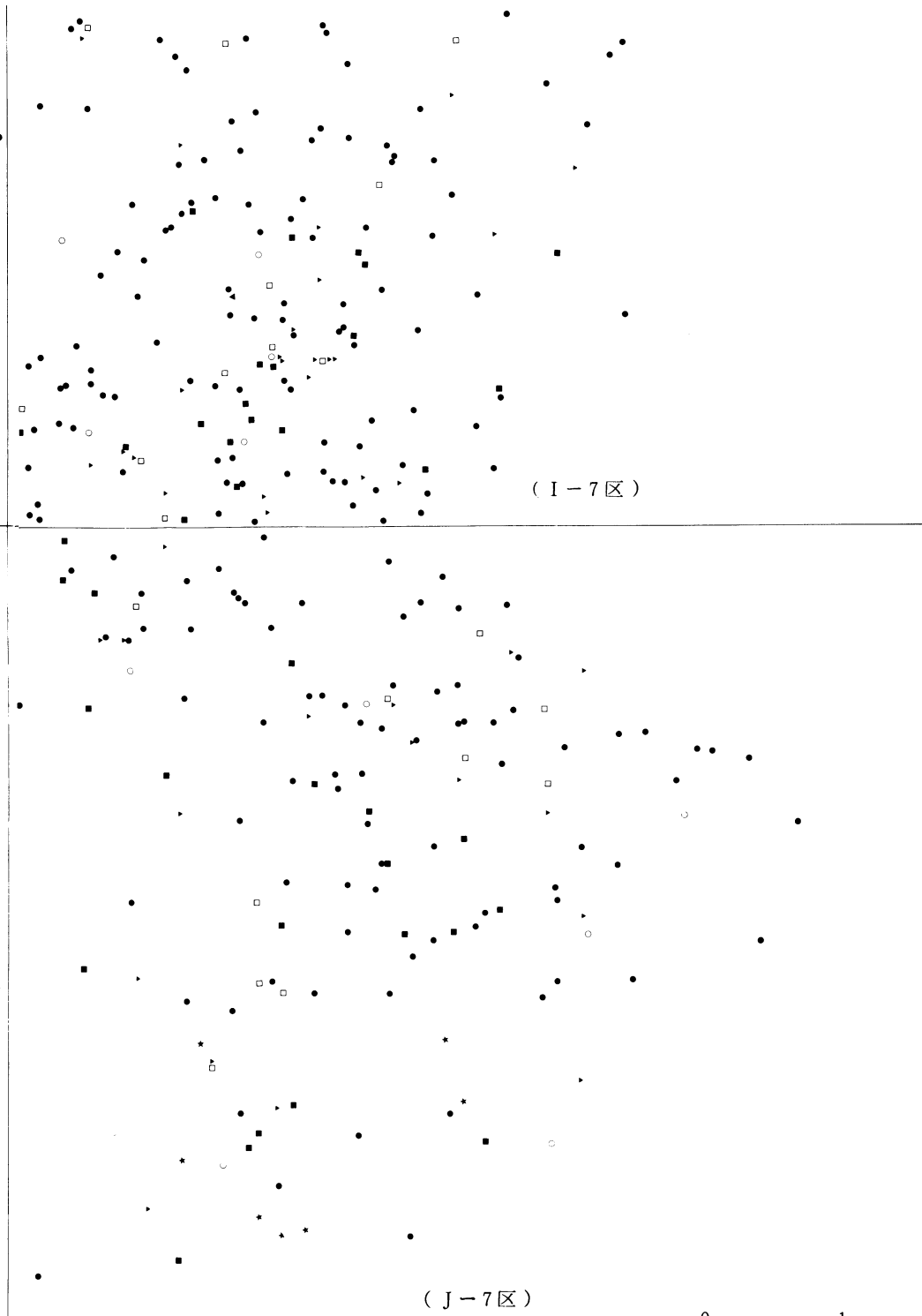
細石刃は、第17表のように黒曜石A, 黒曜石Bが主で凝灰岩Bは2点, 頁岩4点である。特に黒曜石Bは63%を数え他のユニットにはない特徴をもっている。また完形品が74点検出されている。刃部の刃こぼれは顕著でない。幅は3～10mmの間に大部分が納まる。断面は台形ないし三角形を呈するが三角形が主を示める。263, 271, 278, 279, 287, 296, 298, 315等はいわゆる細石刃剥出第1スポールであると思われる。

細石刃核は黒曜石Aが91点, Bが23点, 凝灰岩Bが5点である。375, 382, 414, 435は両側面は剥片のままの平坦面で打面は横方向からの連続した調整剥離によって形成されている。A—1類の典型である。側面調整は行なわれず、断面はV字形になる。また356, 360も素材の使用方法は同じであるが、打面の調整は打撃部に近い部分のみ行なわれている。これもA—1類にはいる。359は周辺加工を施こしたブランクを用意したもので一端から稜の一部を剥ぎ取って打面を形成している。A—2類である。355, 344, 394, 385, 348, 369などは平坦な二側面を持ち、折断あるいは大きな剥離で整形してありB—3類にはいる。両側面はほとんど調整されない場合が多い。358, 374, 427などは先のものより少し大型で主要剥離面を側面にしている点は同じであるが、主に片側面に対し打面から調整剥離を施こし、また下縁からの調整剥離を行ない断面をV字状に仕上げている。A—4類である。367, 390, 397, 403, 422などは平坦な打面より両側縁調整剥離を入念に施こし船底形石器状の形態をもつものでB—1類に分類されるものである。391, 395, 370, 346などは主に平坦な面から両側縁が調整されるが明確な船底形石器状の形態ではない。調整を加えた打面もある。B—2類である。354, 337, 398, 401などはポジティブな剥離面を打面にし、さらに横から調整を施こし打面が丸味を持つ。側面はあまり調整されず、打面の幅に対して器高が低い特徴がある。B—3類である。412は良質の黒曜石小礫を使用したもので一打の剥離によって打面が形成されている。330は青灰色の凝灰岩で片側に自然面を残し、他側面はポジティブな主要剥離面で尾縁に微調整が施こされ、少し磨耗している。打面は節理面で光沢を



- 細石刃
- 細石刃核
- B ブランク
- 削 器
- △ 剥 片
- 石 核
- ★ その他

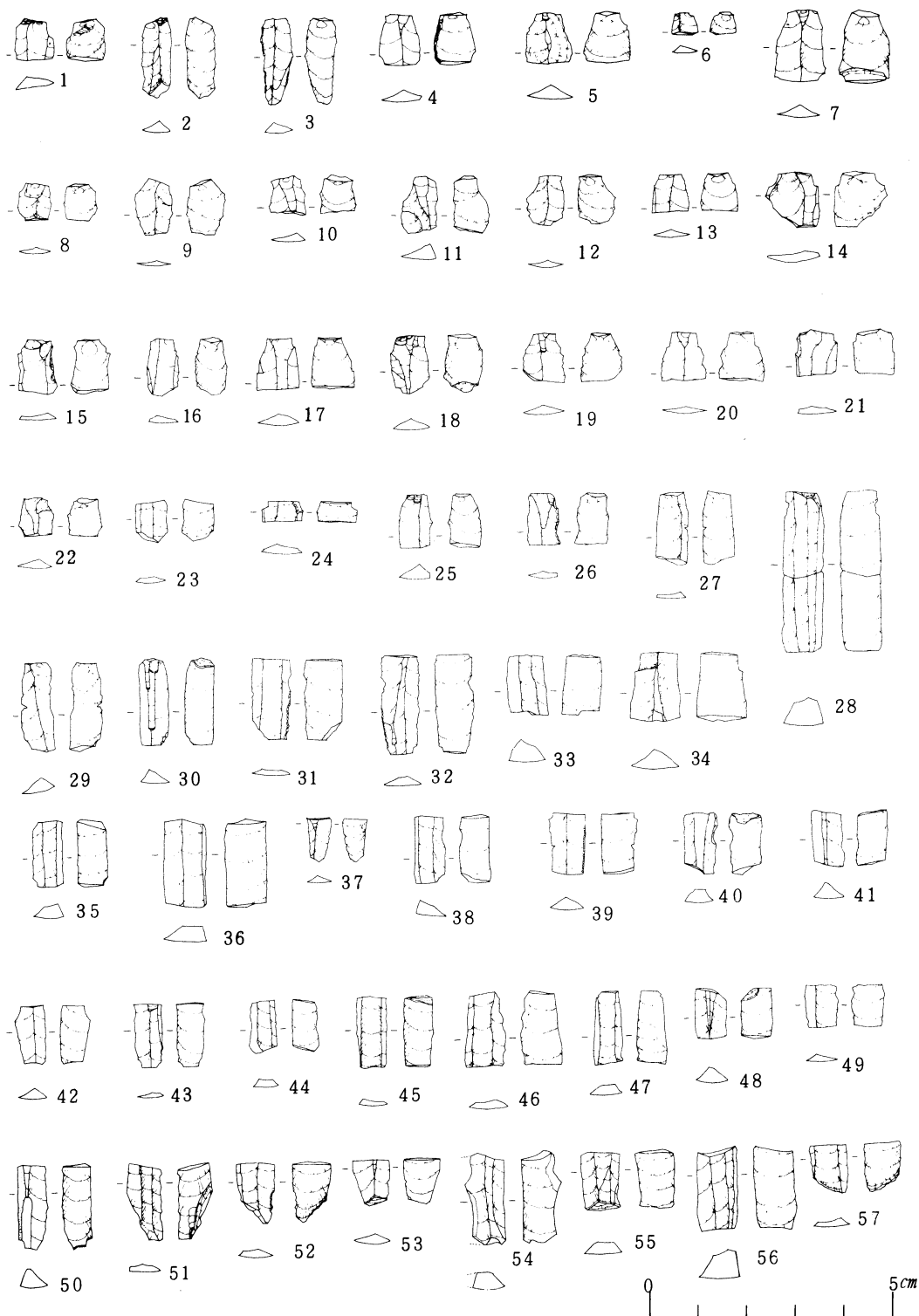
第261図 第30コ.



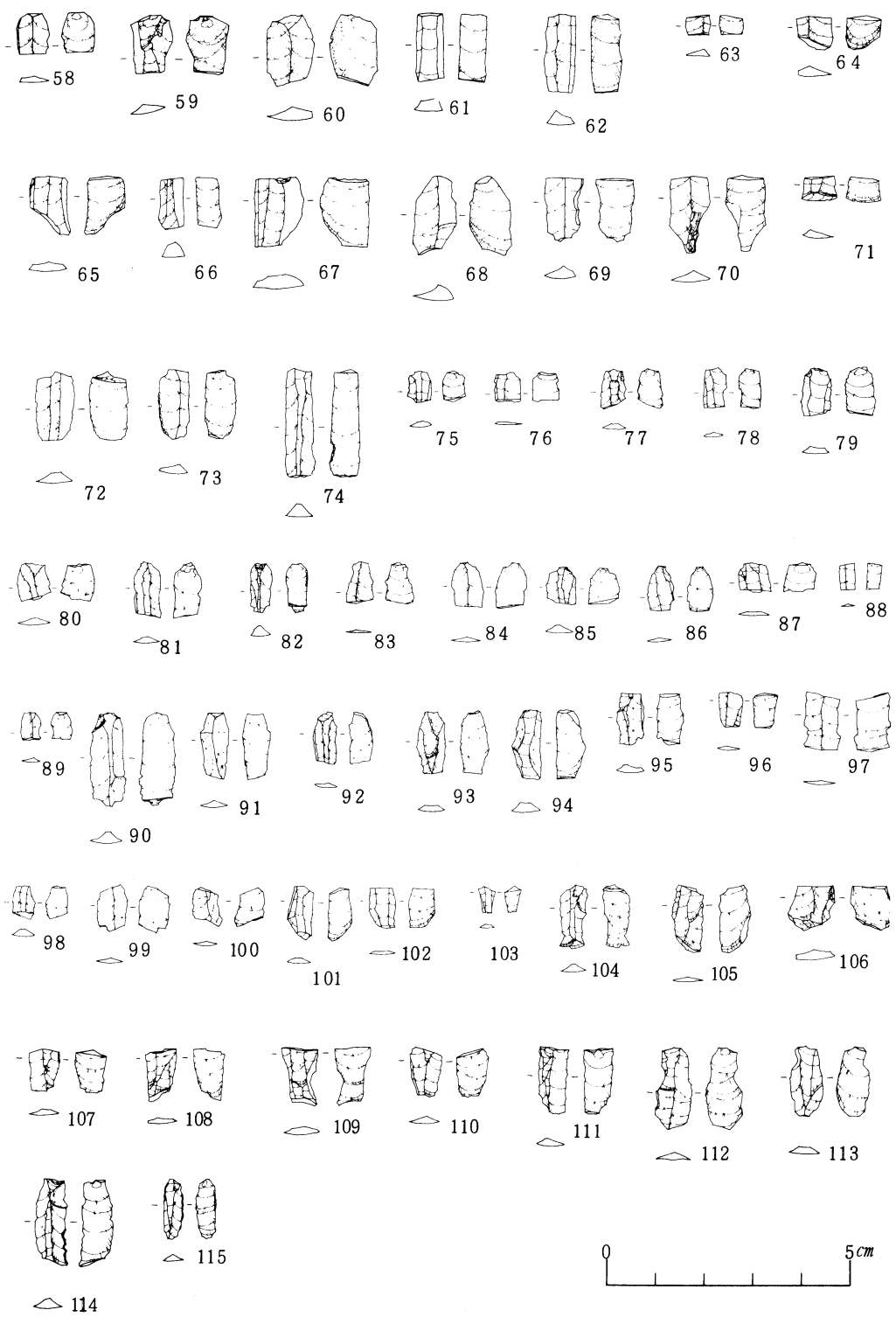


もち打撃面調整は行なわれていない。331は自然面を下面に残しており、片側面の調整と下端の調整剥離がある。332は扁平な円礫を素材とし、折断によって打面を得ている。333も同様の素材を使用したものであり後面は折断している。細石刃剥離作業は正面のみでなく側面の一部まで及んでいる。これは後方からの一打によって打面が再生されている。その後の細石刃剥離作業は行なわれていない。尚、333は第25ユニットの132と接合している。距離的には20m程離れ、扁平な円礫を素材とし、細石刃剥離作業を行うが、途中で打面より打撃を加え再生して細石刃核としているものである。

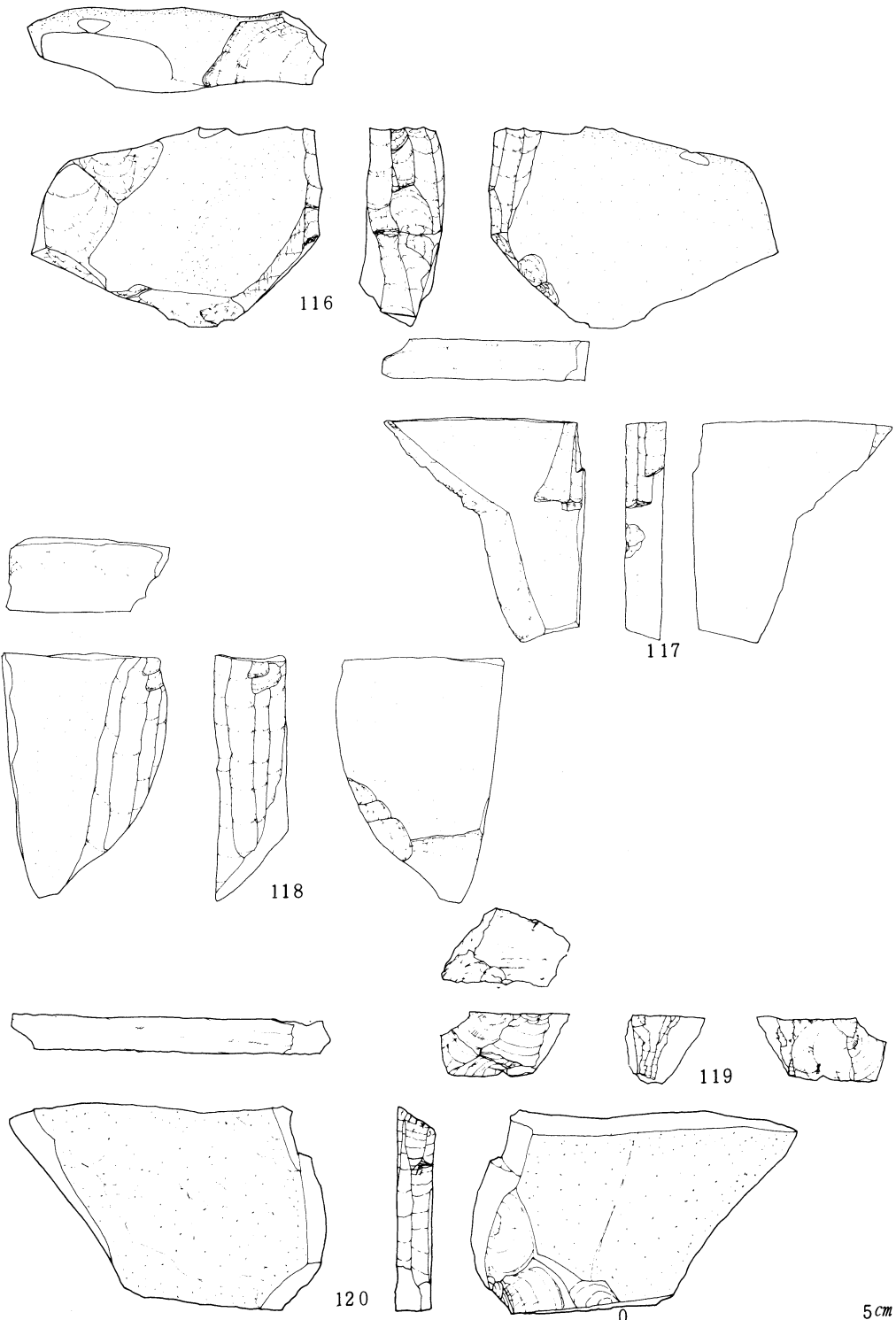
ブランクは約半数を図化できた。ブランクは打面となるべき平坦面をもち、それに対する側面調整剥離あるいは下端調整剥離が施こされているもののみ取り扱った。したがって細石刃核分類のA-3類に相当するものは、形態的に近くてもほとんど含まれていない。



第262図 第30ユニット出土石器実測図(1)



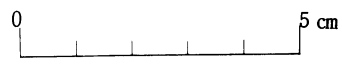
第263図 第30ユニット出土石器実測図(2)

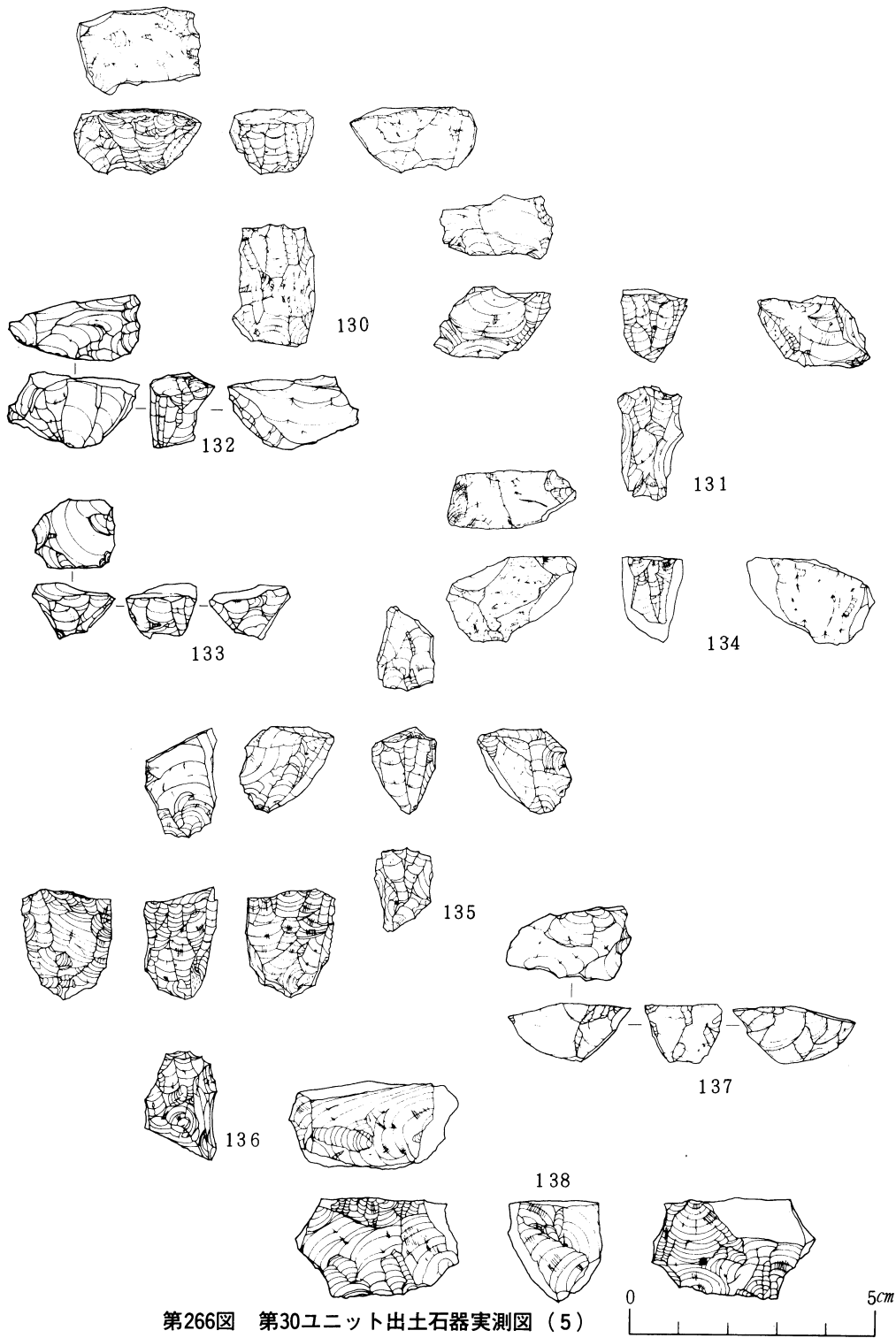


第264図 第30ユニット出土石器実測図(3)

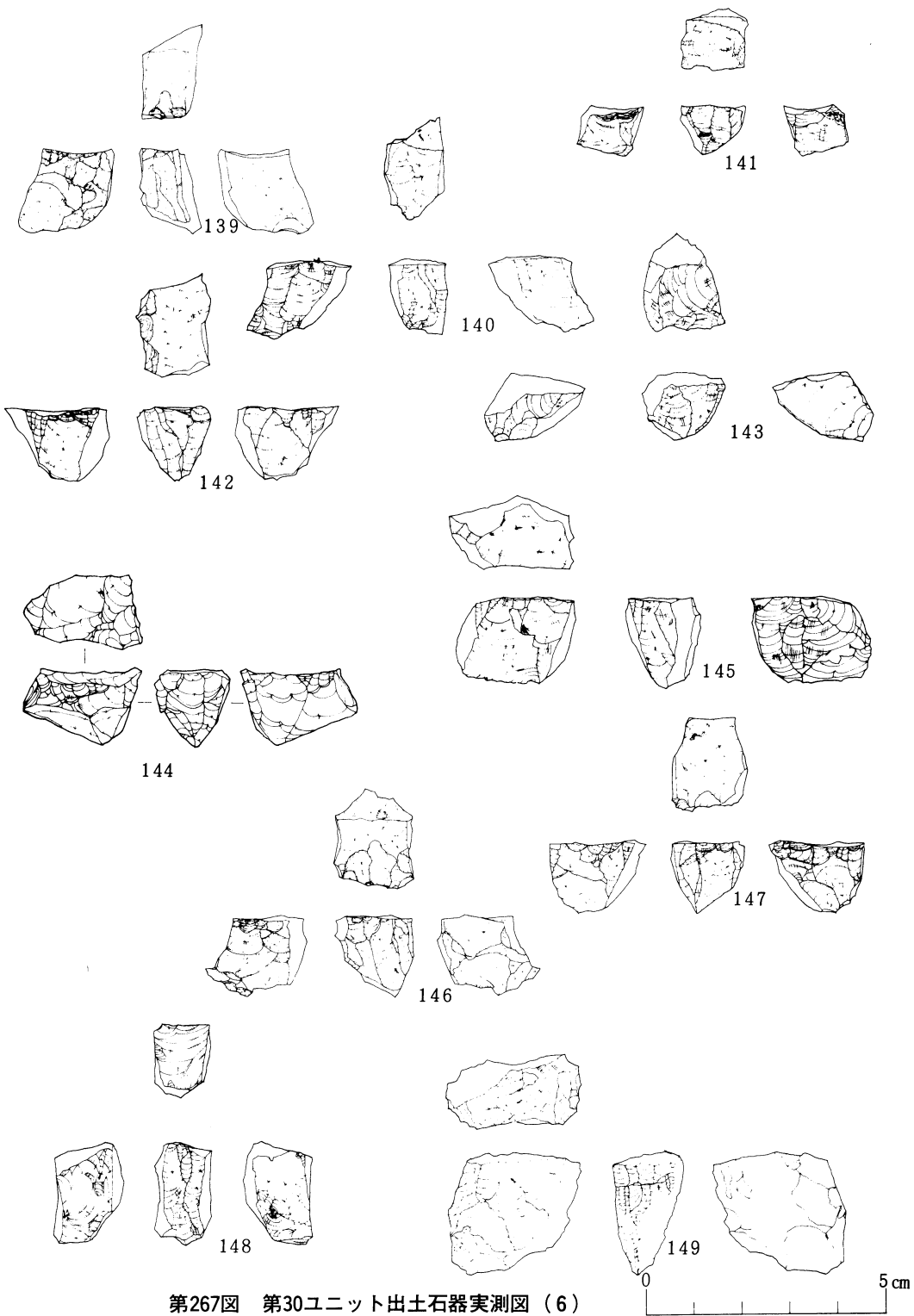


第265図 第30ユニット出土石器実測図（4）

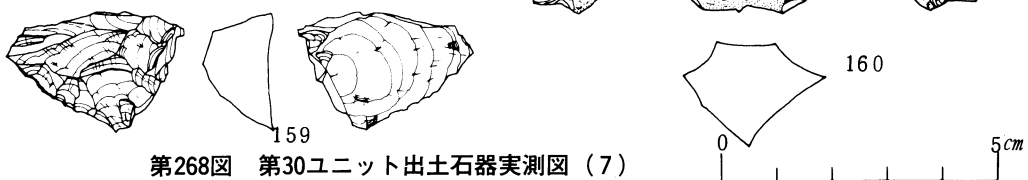
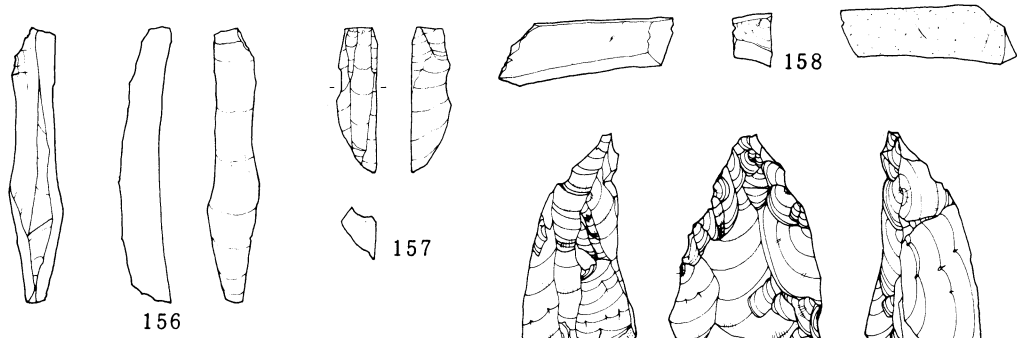
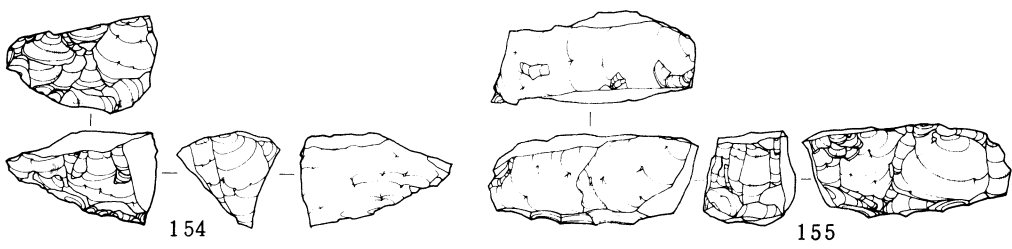
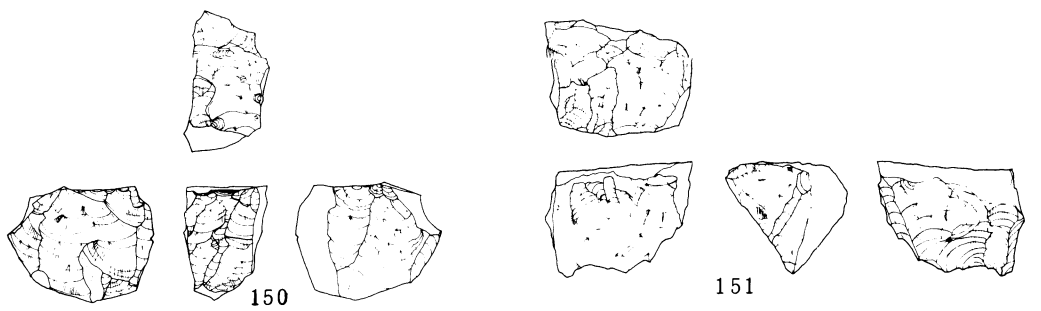




第266図 第30ユニット出土石器実測図 (5)

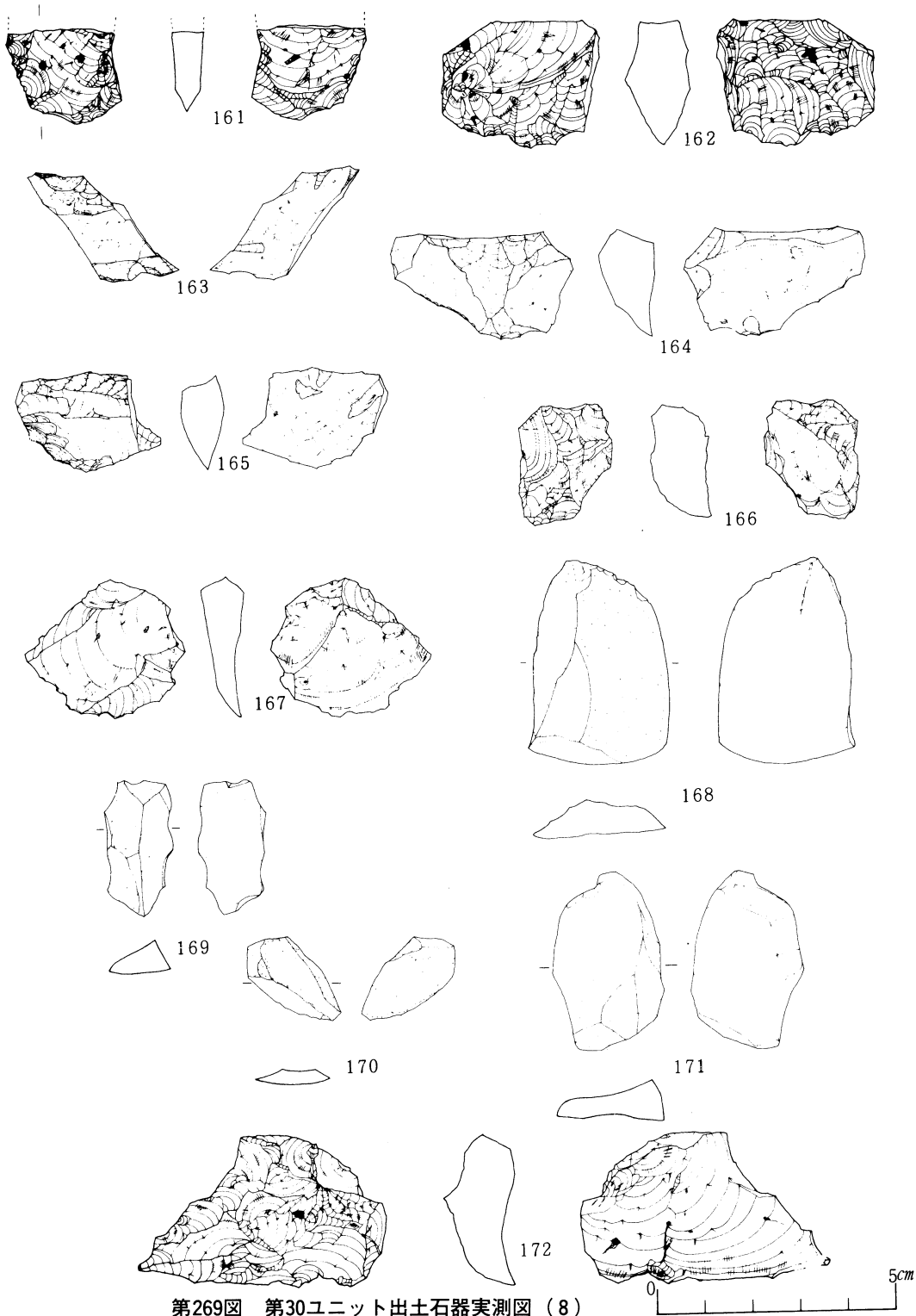


第267図 第30ユニット出土石器実測図（6）

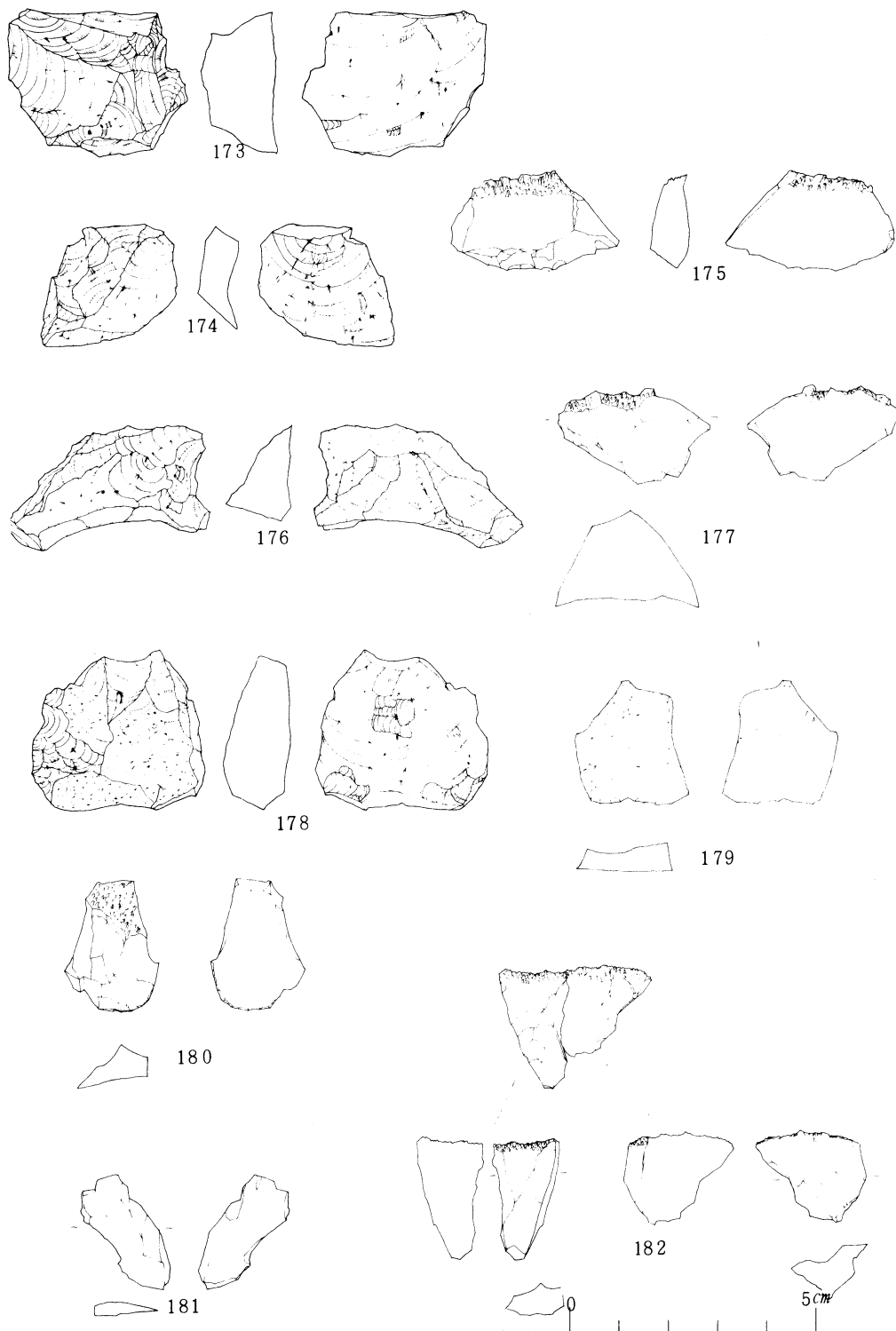


第268図 第30ユニット出土石器実測図 (7)

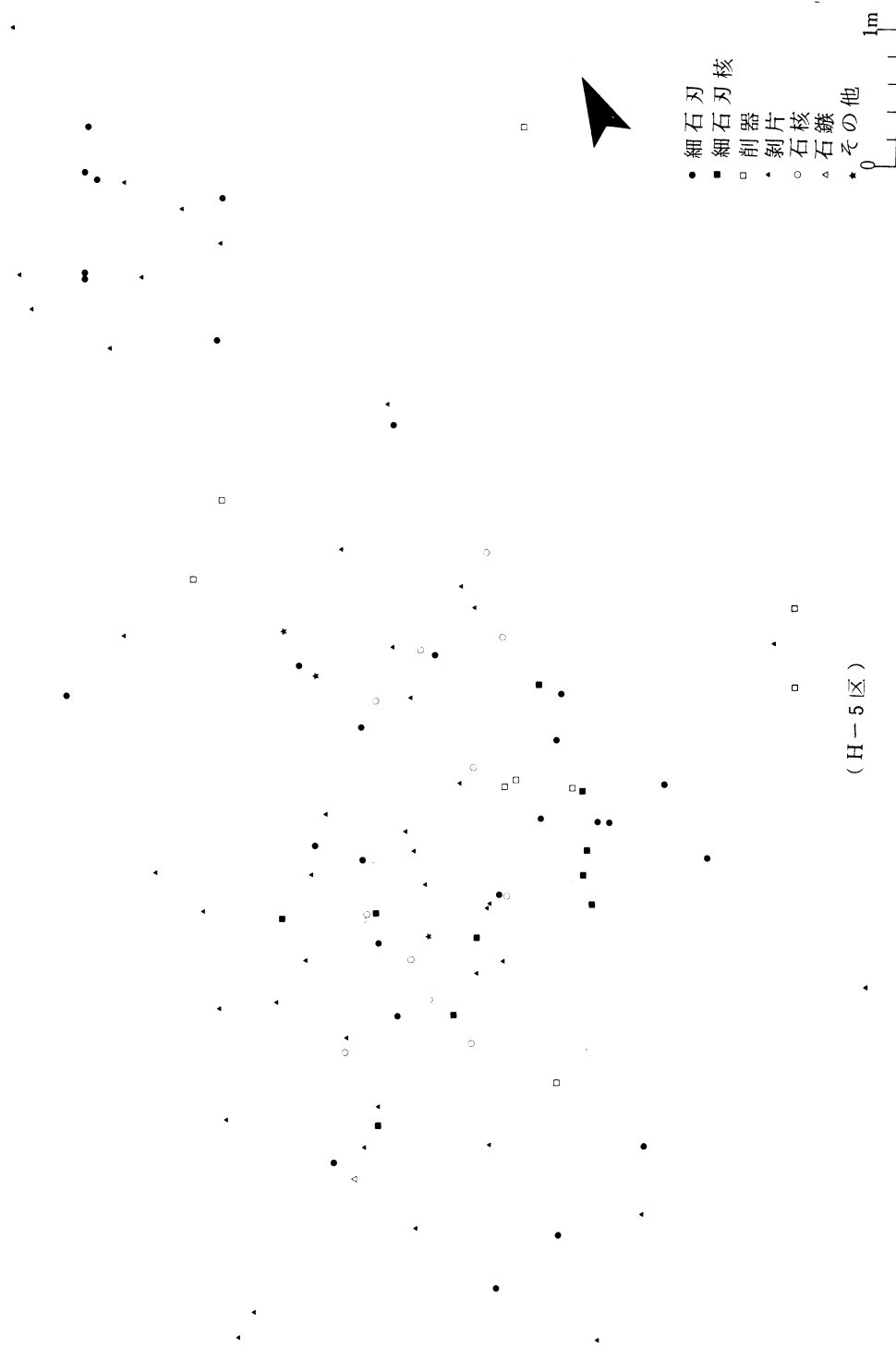




第269図 第30ユニット出土石器実測図(8)



第270図 第30ユニット出土石器実測図(9)



第271図 第31ユニット器種別分布図

(H-5区)

第30ユニット出土の遺物（図版134～140第262～270図 第53表）

I-6, I-7, J-6, J-7区で遺物は長径14m, 短径12.7mの範囲に8899点が集中して検出されていた。石材は、黒曜石A 8061点, 黒曜石B 62点, 凝灰岩B 320点, 頁岩64点, 石英8点, 礫 350点である。石器は、細石刃 310点, 細石刃核51点, ブランク72点, 細石刃核調整剥片 7点, スクレイパー28点, 剥片 471点, 槌石 2点, 石核42点である。細石刃は、石材が豊富にあり、黒曜石A, B, 凝灰岩B, 珪岩, 砂岩頁岩, チャートである。

30ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	25	50	29	30	7	141
	7.8%	15.7%	9.1%	9.4%	2.2%	44.2%
黒曜石B		1				1
		0.3%				0.3%
凝灰岩B	33	40	44	27		144
	10.3%	12.5%	13.8%	8.5%		45.1%
珪岩	1					1
	0.3%					0.3%
頁岩	2	12	7	2	3	26
	0.6%	3.8%	2.2%	0.6%	0.9%	8.2%
砂岩	1		1		1	3
	0.3%		0.3%		0.3%	0.9%
チャート		1	1		1	3
		0.3%	0.3%		0.3%	0.9%
計	62	104	82	59	12	319
	19.4%	32.6%	25.7%	18.5%	3.8%	

豊富にあり、黒曜石A, B, 凝灰岩B, 珪岩, 砂岩頁岩, チャートである。

細石刃は、凝灰岩と黒曜石がほぼ同じ位検出されている。打瘤のある頭部は全体の52%を示めている。

完形品は全部で12点検出されている。幅は4～10mmの間に大部分が納まるが、凝灰岩の細石刃は、全体的に大型で幅も10mm前後のものが多い。

断面は台形ないし三角形を呈し、黒曜石は三角形が多く、凝灰岩は台形が主を示める。

黒曜石の細石刃核は31点出土しているが黒曜石Bは1点であとは全て黒曜石Aである。

第18表 第30ユニット出土細石刃分類表

147は板状の剥片を素材とし折断によって整形し打面も得ている。A-3類である。125, 153は同様に平坦面を側面にし調整は施こされず、打面は横方向からの剥離によって得られ微調整まで行なわれている。A-1類に近い。

121, 137, 144, 147は両側縁を平坦な甲板面から入念に調整剥離を施こし船底形石器状に仕上げたものでB-1類である。

127, 151は接合して一個の船底形石器状のブランクとなる。

136, 145は平坦な打面で両側縁は打面からの調整剥離が施こされているが明確な船底形石器状とはならない。B-2類にはいる。

155は主軸が長く打面と一側面が平坦で、片側面は打面からの入念な調整剥離を加えられ、下面も平坦な側面から入念な調整剥離が施こされ、断面がほぼ四角形を呈している。平坦面は全く調整されず、細石刃剥離作業は一端から打撃面調整が行なわれながら進む。

116は扁平な礫を素材としたもので、下端及び尾端は折断あるいは大きな一打の剥離によって整形している。打面は作業面からの剥離によって形成されている。117～119は同質の石材を使用している。117は折断によって形が決定され調整剥離は全く認められず直接細石刃剥離作業が進められている。118, 119は同じように折断によって整形されているが、細石刃剥離の前段階でその作業面に調整剥離を加えている。また118は他と比較して厚いためと考えられるが下端からの調整剥離を行ない尖がらしている。



第272図 第31ユニット出土石器実測図

第31ユニット出土の遺物（図版140第272図 第54表）

H-5区で遺物は長径3.5m、短径3.2mの範囲に3728点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A 3663点、黒曜石B 9点、凝灰岩B 8点、砂岩2点、礫46点である。石器は、細石刃26点、細石刃核12点、ブランク1点、スクレイパー10点、剥片244点、石核90点である。細石刃は、黒曜石の石材だけである。尾部を折断した部分が全体の70%を示め、また完形品が6

31ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	2	27	3		6	38
	5%	67.5%	7.5%		15%	95%
B		2				2
		5%				5%
計	2	29	3		6	40
	5%	72.5%	7.5%		15%	

第19表 第31ユニット出土細石刃分類表

なり最初得られた平坦面を側面にし、剥片を断ち割るような剥離で打面を得、その平坦な打面より両側面を調整剥離を施こして船底形石器状に仕上げている。2は小角礫を素材にしたC類で、打撃面調整が打面を形成している。図示しなかったが、B1類の細石刃核1点と同類調整剥離を持ったブランクが2点出土している。

第31ユニットの特徴として、狭い範囲に4000点近くの遺物が集中してみられ、石器が他のユニットと比較して極端に少ないことがあげられる。

石核も90点検出しているが、明確な石核は少なく大半が残核と呼ばれるものである。しかし他のユニットと比較すると多すぎる。剥片もまた同様のことがいえる。

#### 第32ユニット出土の遺物（図版141～146第274～288図 第55表）

I-5, I-6区で遺物は長径15m, 短径11mの範囲に4290点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A 2172点, 黒曜石B 24点, 凝灰岩B 1702点, 砂岩59点, 頁岩14点, チャート10点, 石英1点, 玉髄2点, 安山岩3点, 礫 361点である。石器は、細石刃 504点, 細石刃核34点, 細石刃核調整剥片7点, スクレイパー15点, 剥片 566点, 槌石2点, 石核67点である。

32ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	5	6	5	11	4	31
	1.1%	1.3%	1.1%	2.4%	0.9%	6.8%
B	1			1		2
	0.2%			0.2%		0.4%
凝灰岩B	78	80	130	67	4	359
	17.2%	17.6%	28.6%	14.8%	0.9%	79.1%
頁岩	2	1	2	1		6
	0.4%	0.2%	0.4%	0.2%		1.3%
チャート			5	1		6
			1.1%	0.2%		1.3%
硅頁	6	3	3			12
	1.3%	0.7%	0.7%			2.6%
玉スイ	1					1
	0.2%					0.2%
フリント	1		2		1	4
	0.2%		0.4%		0.2%	0.9%
砂岩	9	7	12	3	2	33
	20%	1.5%	2.6%	0.7%	0.4%	7.3%
計	103	97	159	84	11	454
	22.7%	21.4%	35.0%	18.5%	2.4%	

第20表 第32ユニット出土細石刃分類表

点検出されている。刃部の刃こぼれはあまり顕著でない。断面は三角形を呈するものが多い。

細石刃核のみ図示した。1, 3, 6は船底形石器状の形態を有し、平坦な剥離面を打面にして両側縁を調整剥離したものでB1類に分類される。5は細石刃剥離作業が進んだものである。4は他と少し異

細石刃は、豊富な石材を用いている。黒曜石A, B, 凝灰岩B, 頁岩, チャート, 硅岩, 玉髄, フリント, 砂岩等を使用している。細石刃核には、黒曜石A, 凝灰岩B, 頁岩, フリントが素材として使用していない。

細石刃は凝灰岩が全体の約80%を示めている。打榴の残っている頭部が全体の44%を示め、完形品が11点検出されている。凝灰岩が4点しかないのは、凝灰岩の細石刃は長いものが剥出されやすく、折断によって使用しているものと思われる。

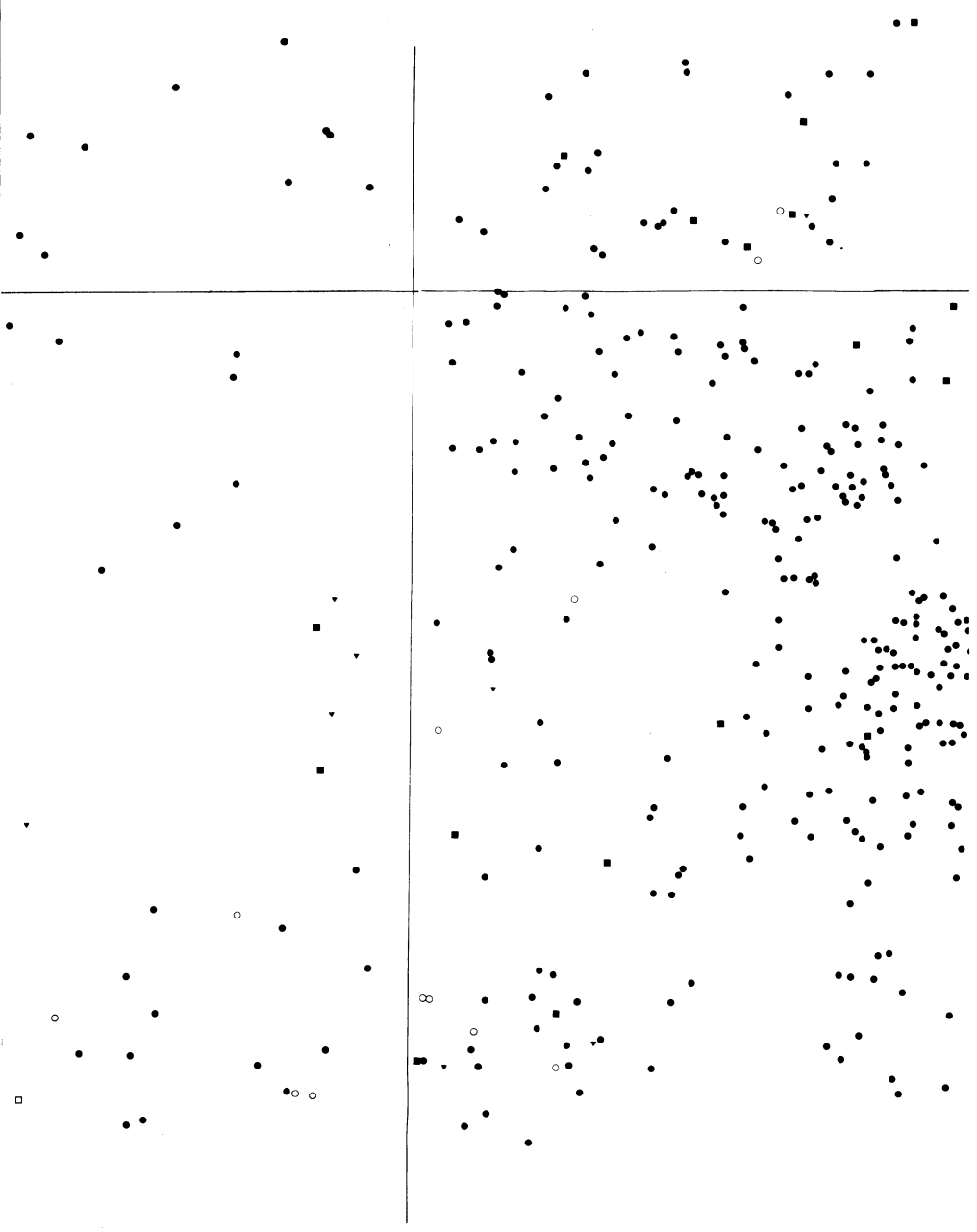
幅は3～10mmの間に大部分が納まる。

断面は台形ないし三角形を呈するが、黒曜石は三角形が凝灰岩は台形が主を示める。128, 294

330, 380は細石刃剥出第1スポールと思われる。

(H-6区)

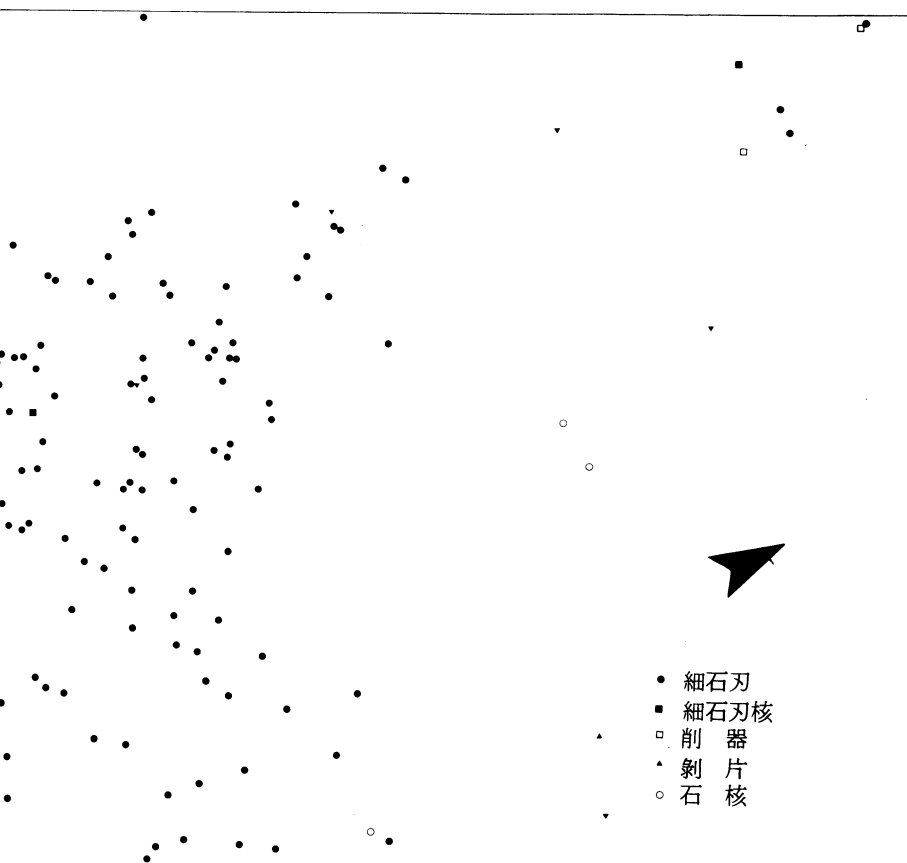
(I-6区)



第273図 第32ユニット器種別分布図



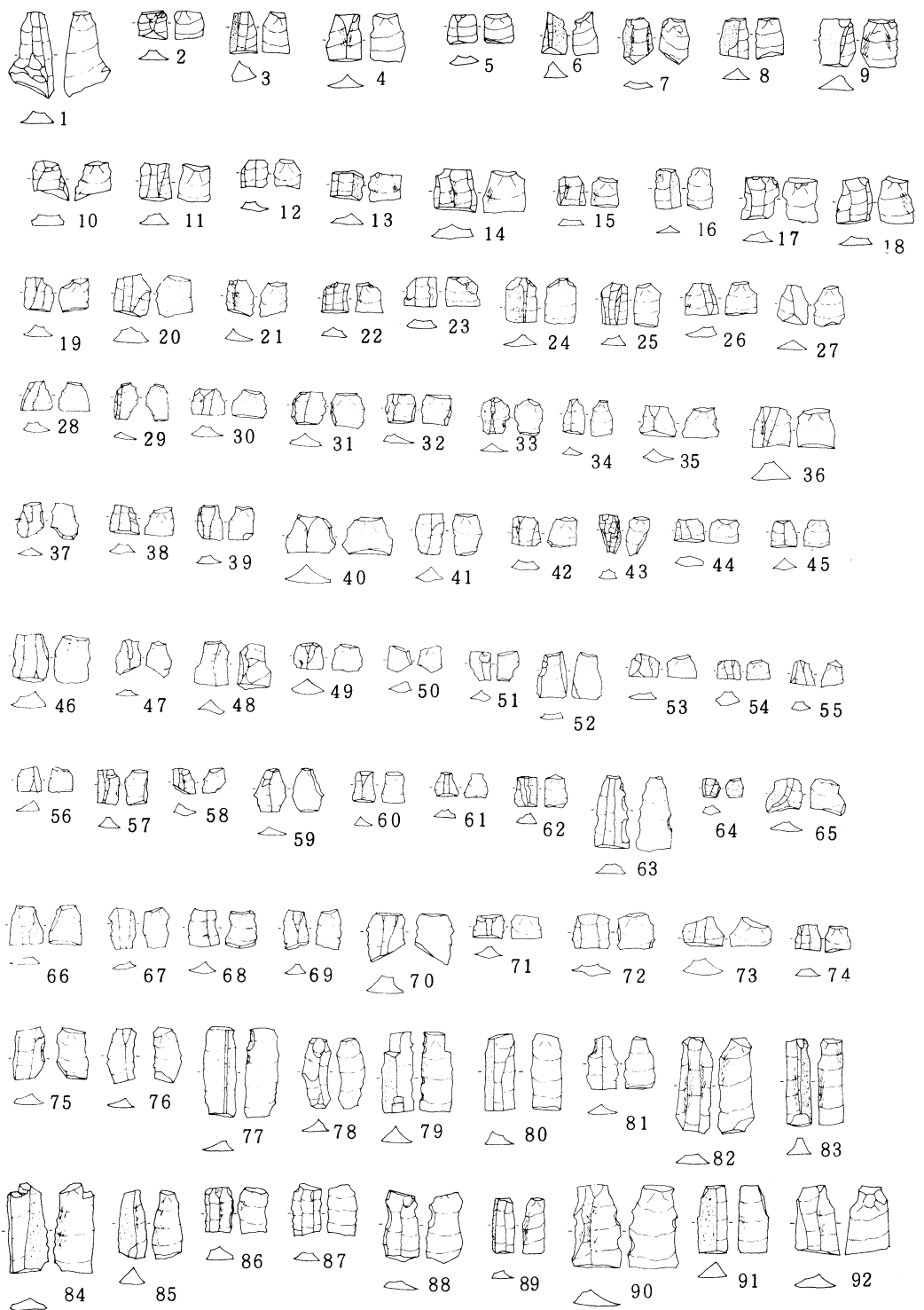
(H-7区)



- 細石刃
- 細石刃核
- 削器
- ▲ 剝片核
- 石核

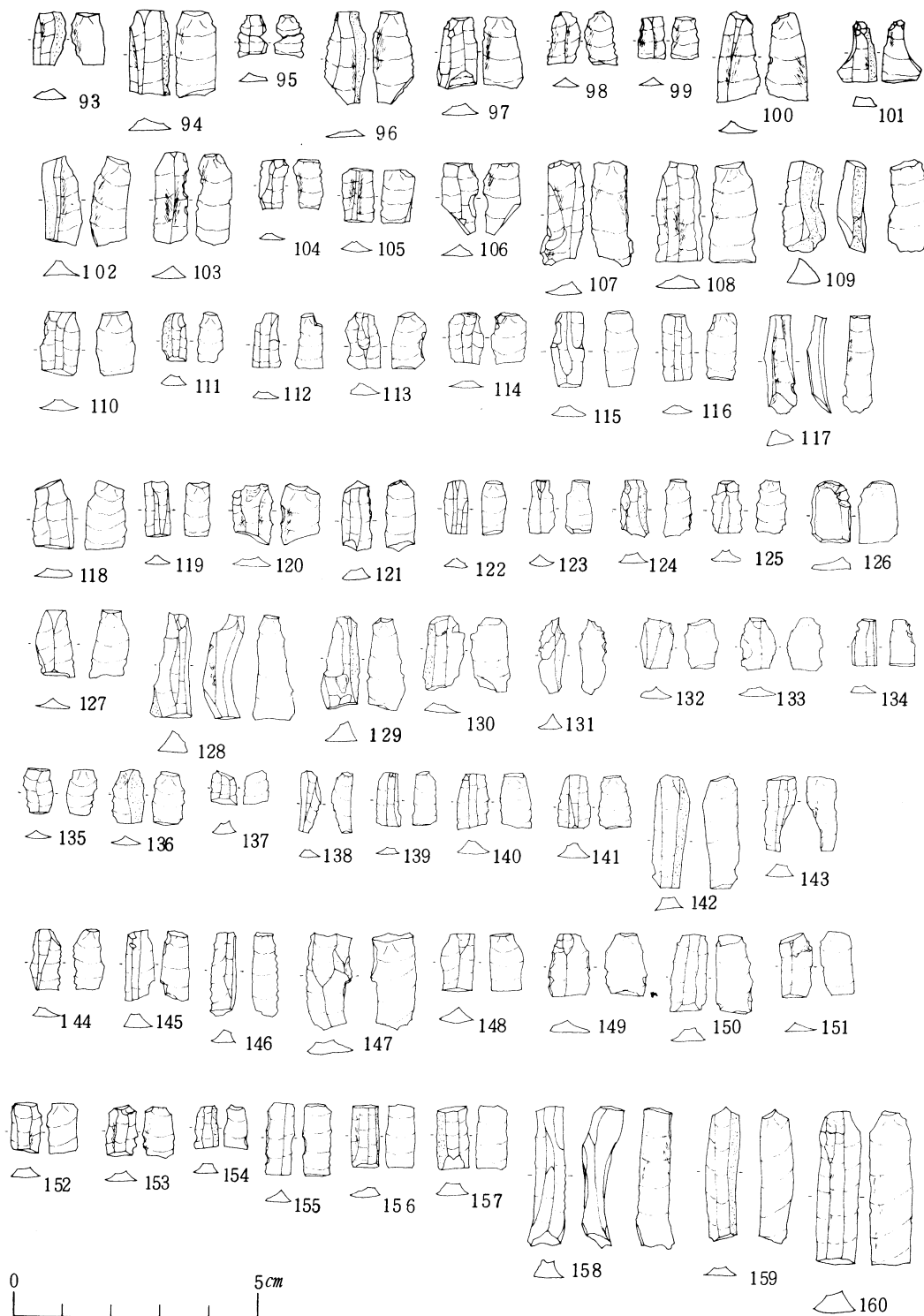
(I-7区)



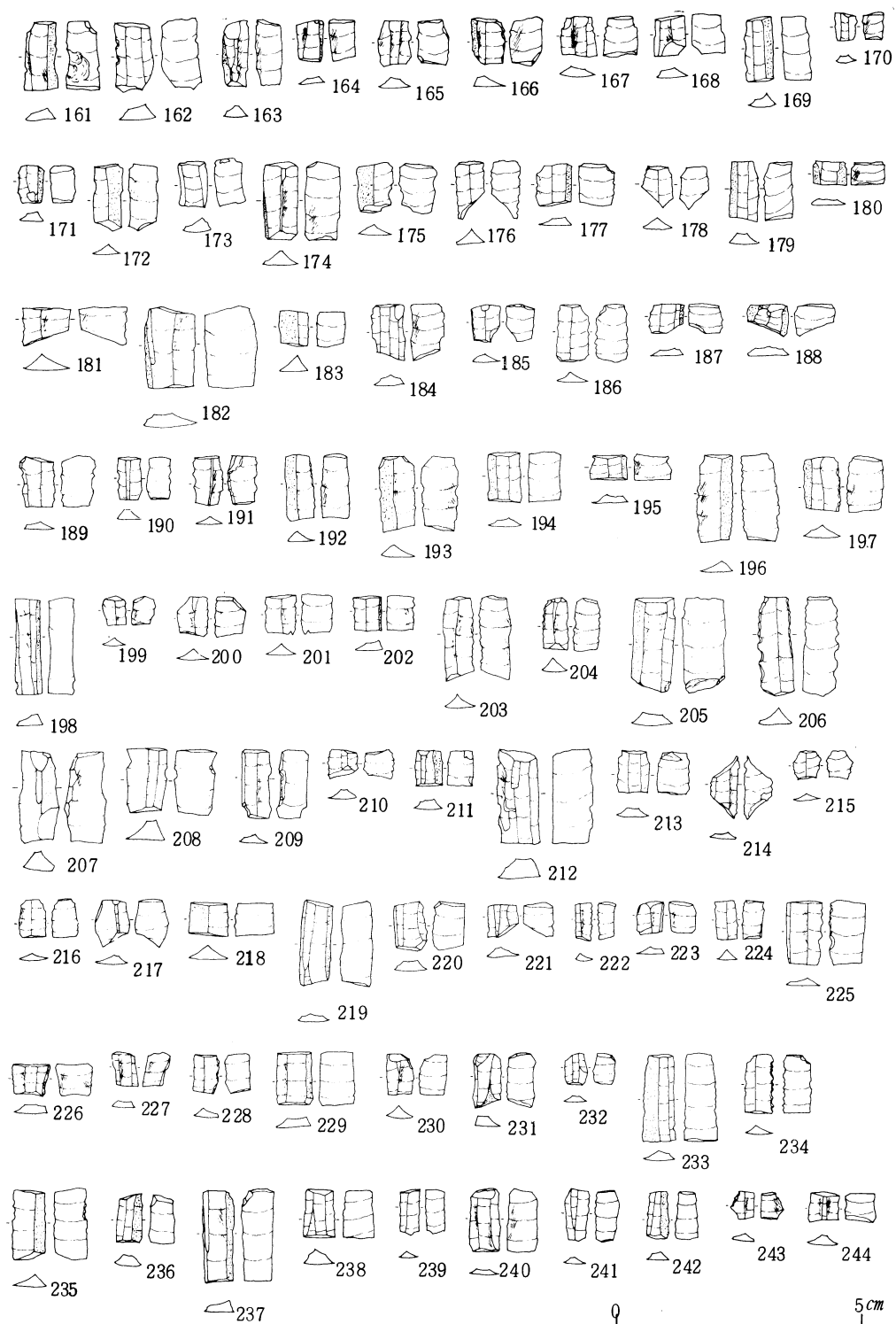


第274図 第32ユニット出土石器実測図 (1)

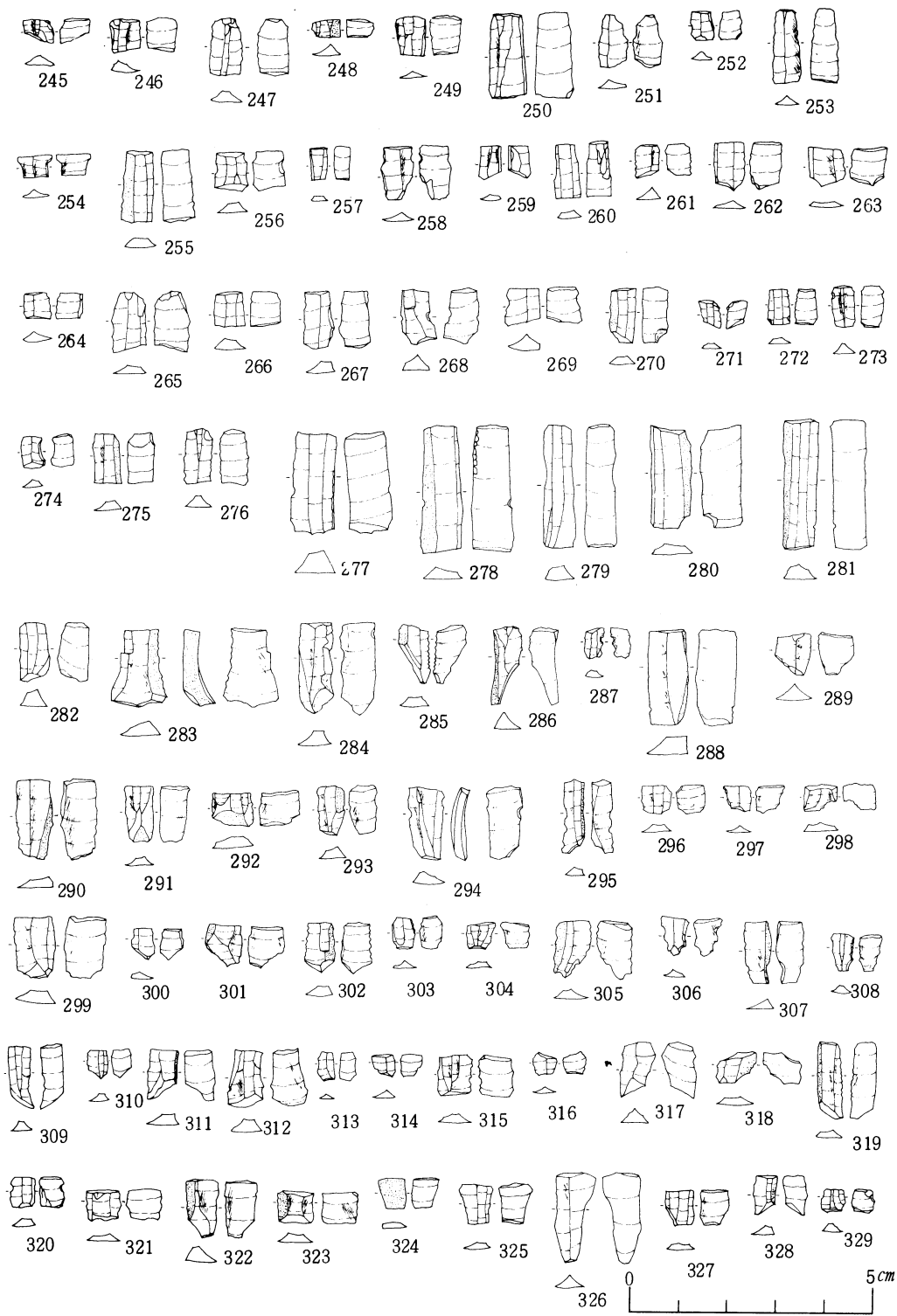




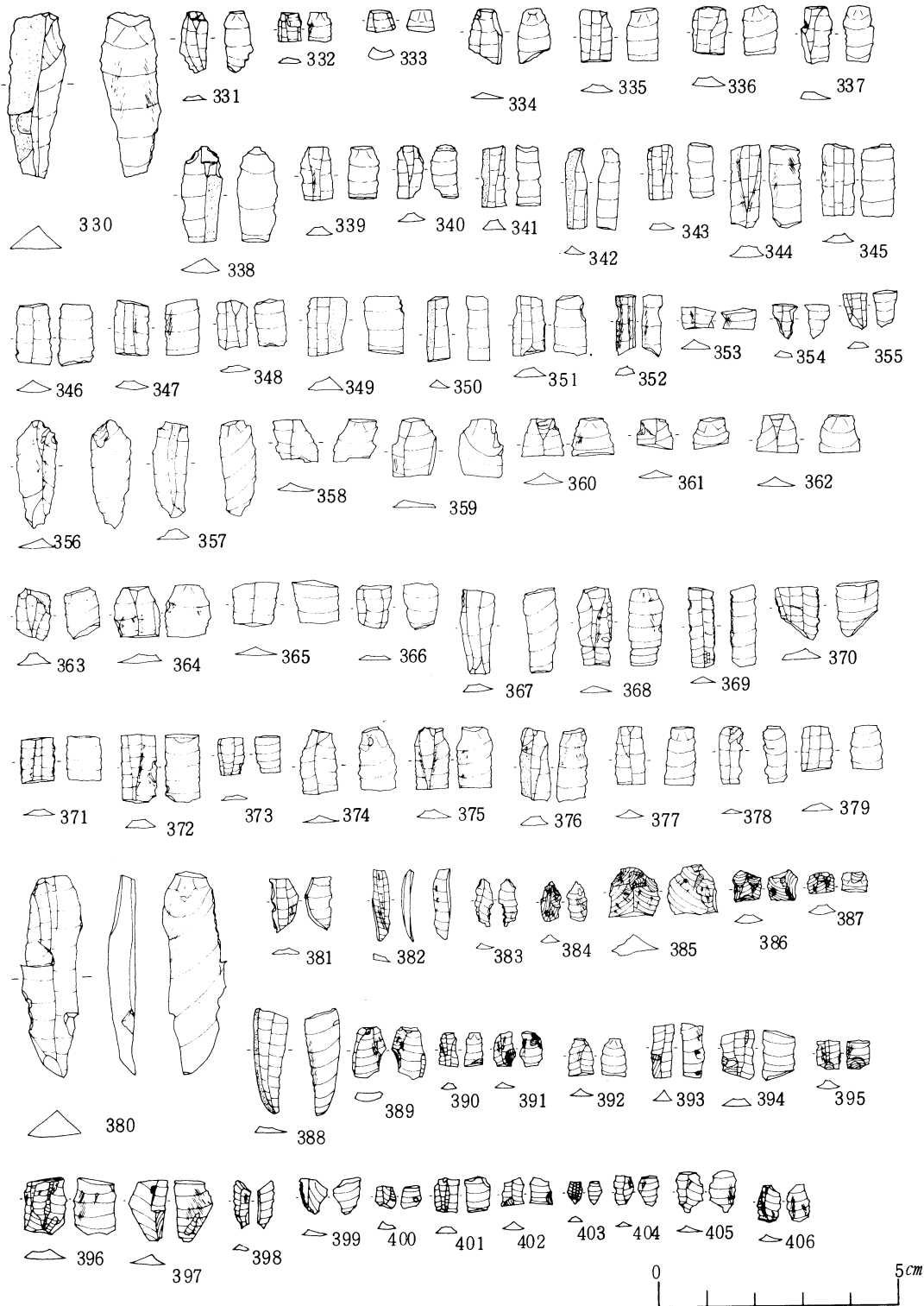
第275図 第32ユニット出土石器実測図(2)



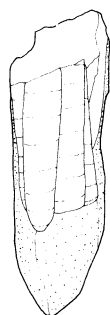
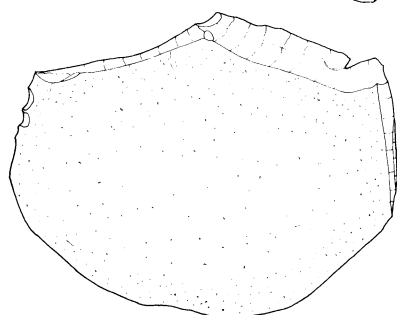
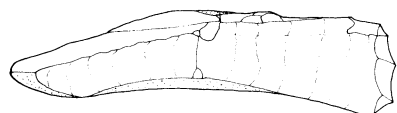
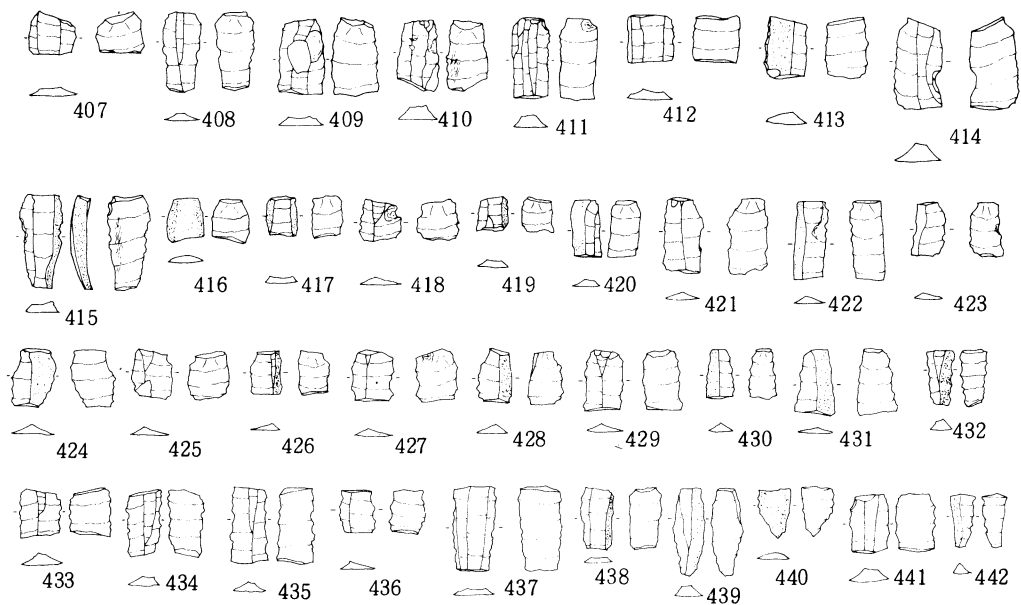
第276図 第32ユニット出土石器実測図 (3)



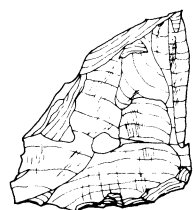
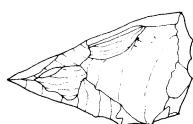
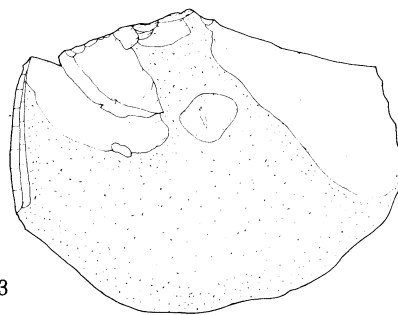
第277図 第32ユニット出土石器実測図(4)



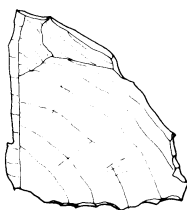
第278図 第32ユニット出土石器実測図 (5)



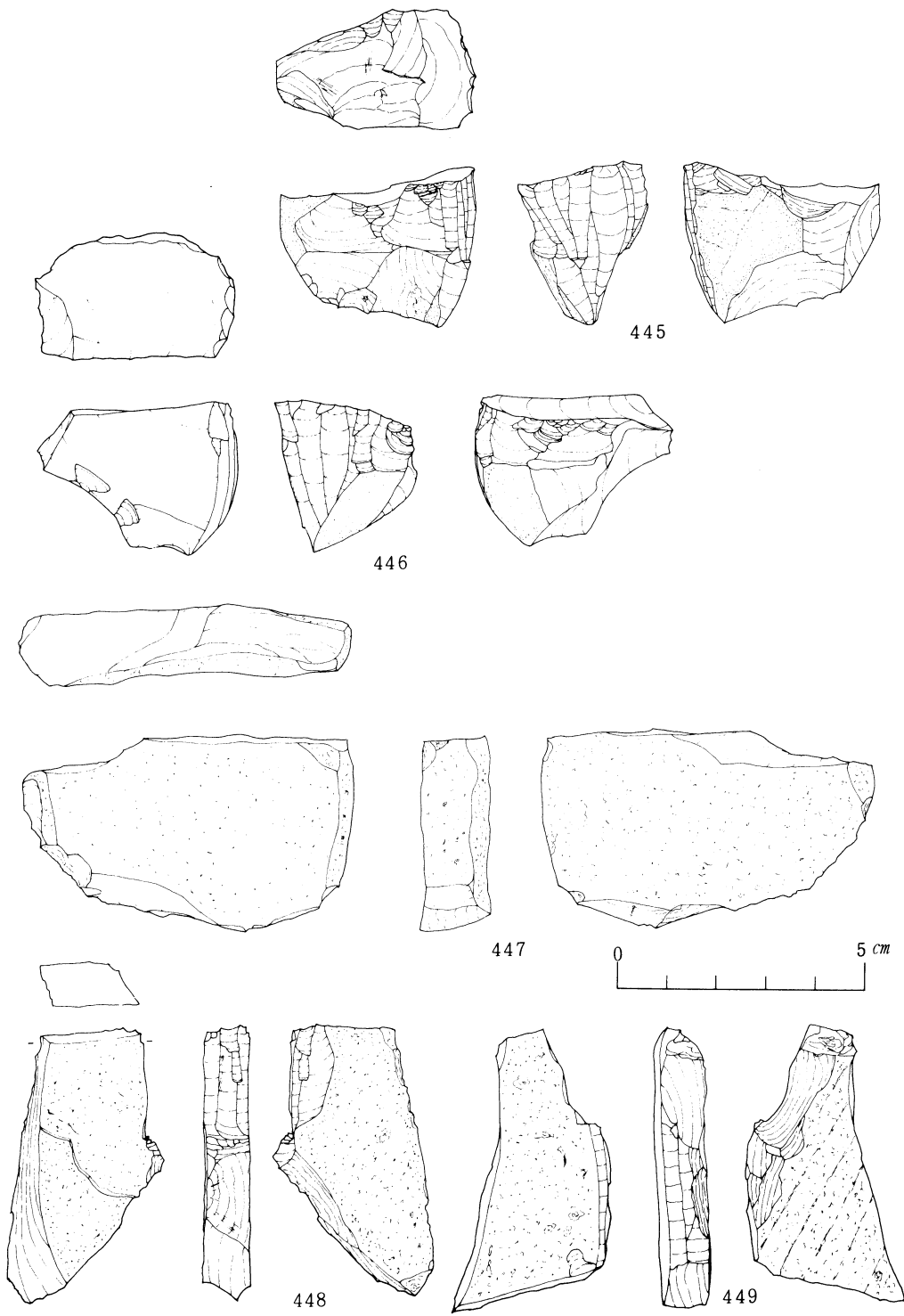
443



444

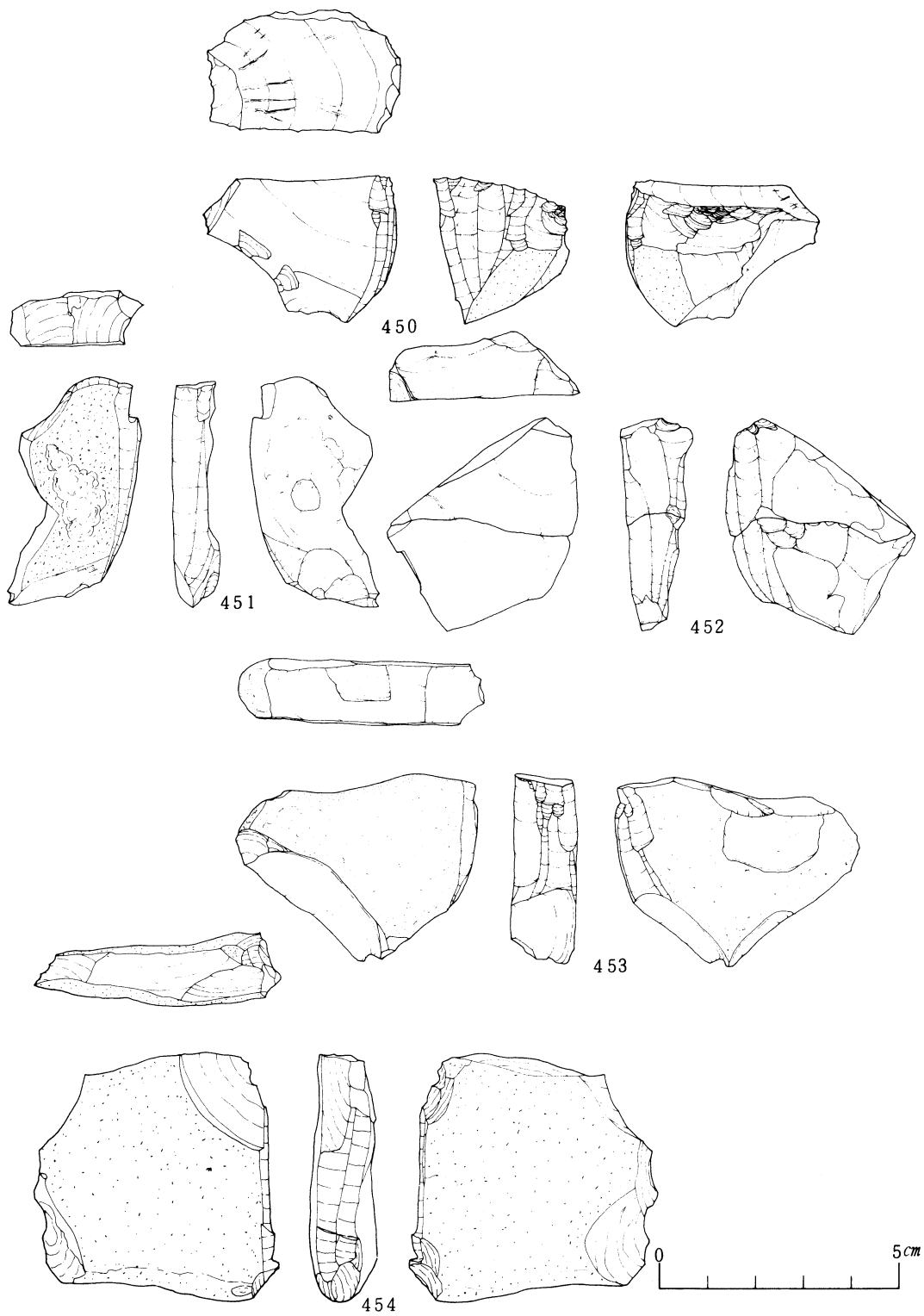


第279図 第32ユニット出土石器実測図(6)

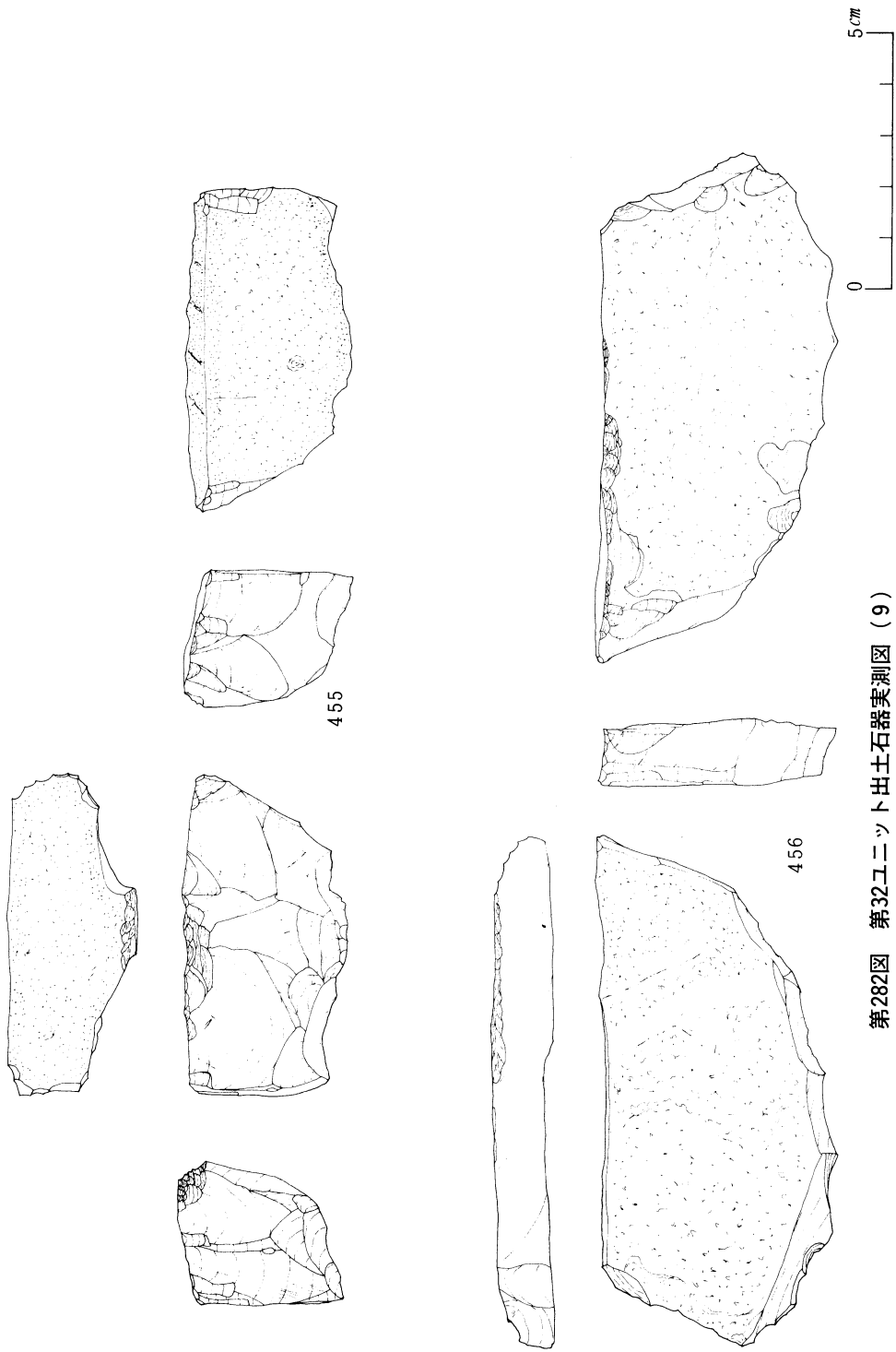


第280図 第32ユニット出土石器実測図（7）

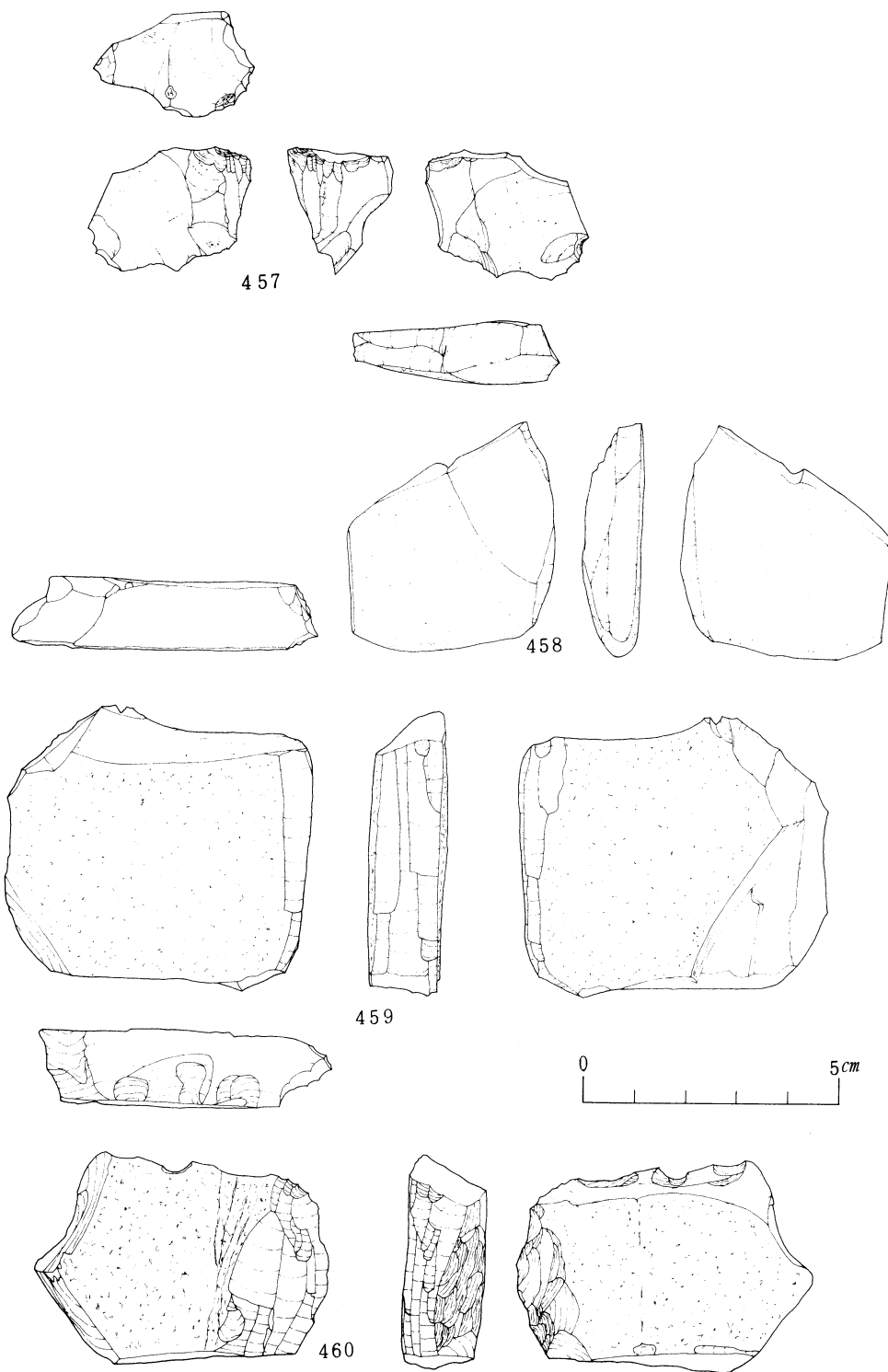




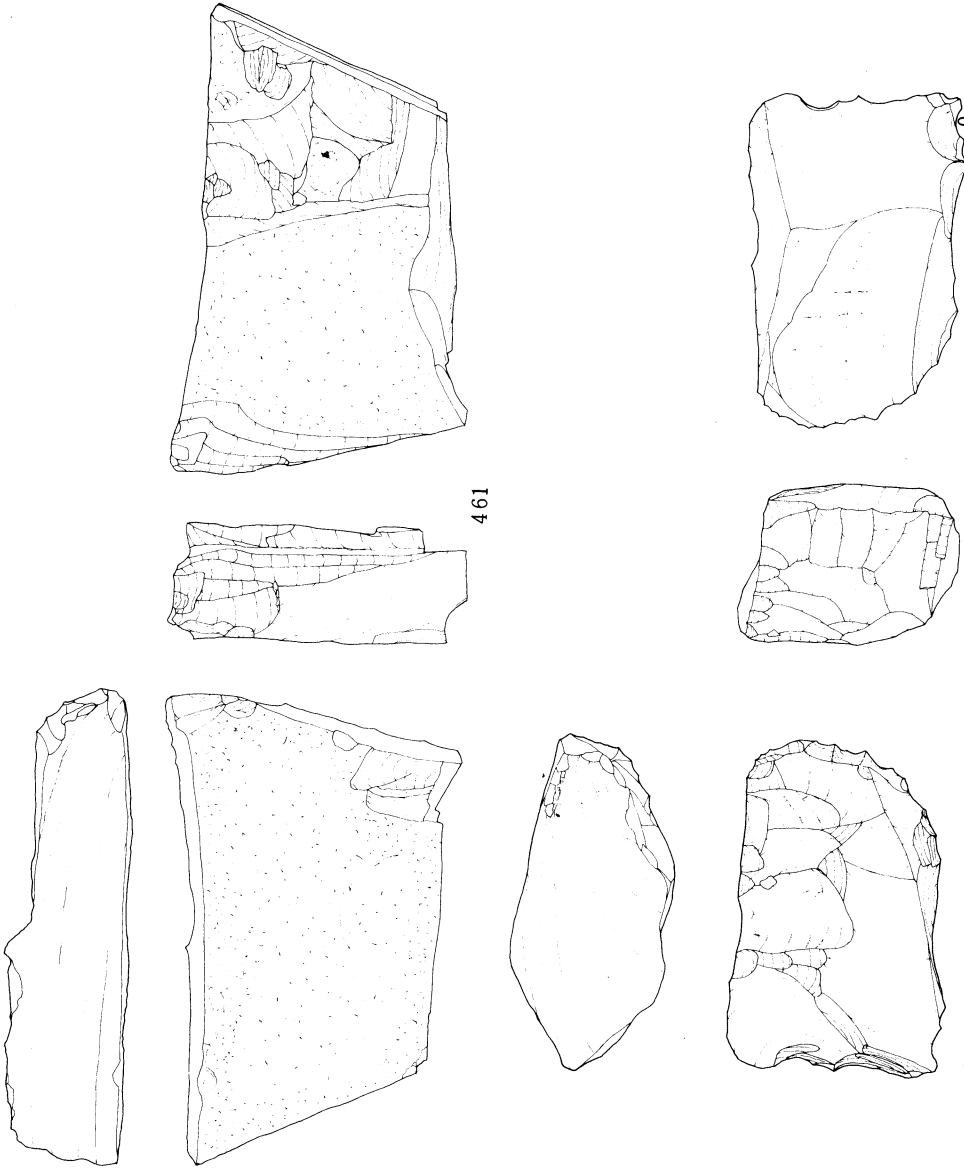
第281図 第32ユニット出土石器実測図(8)



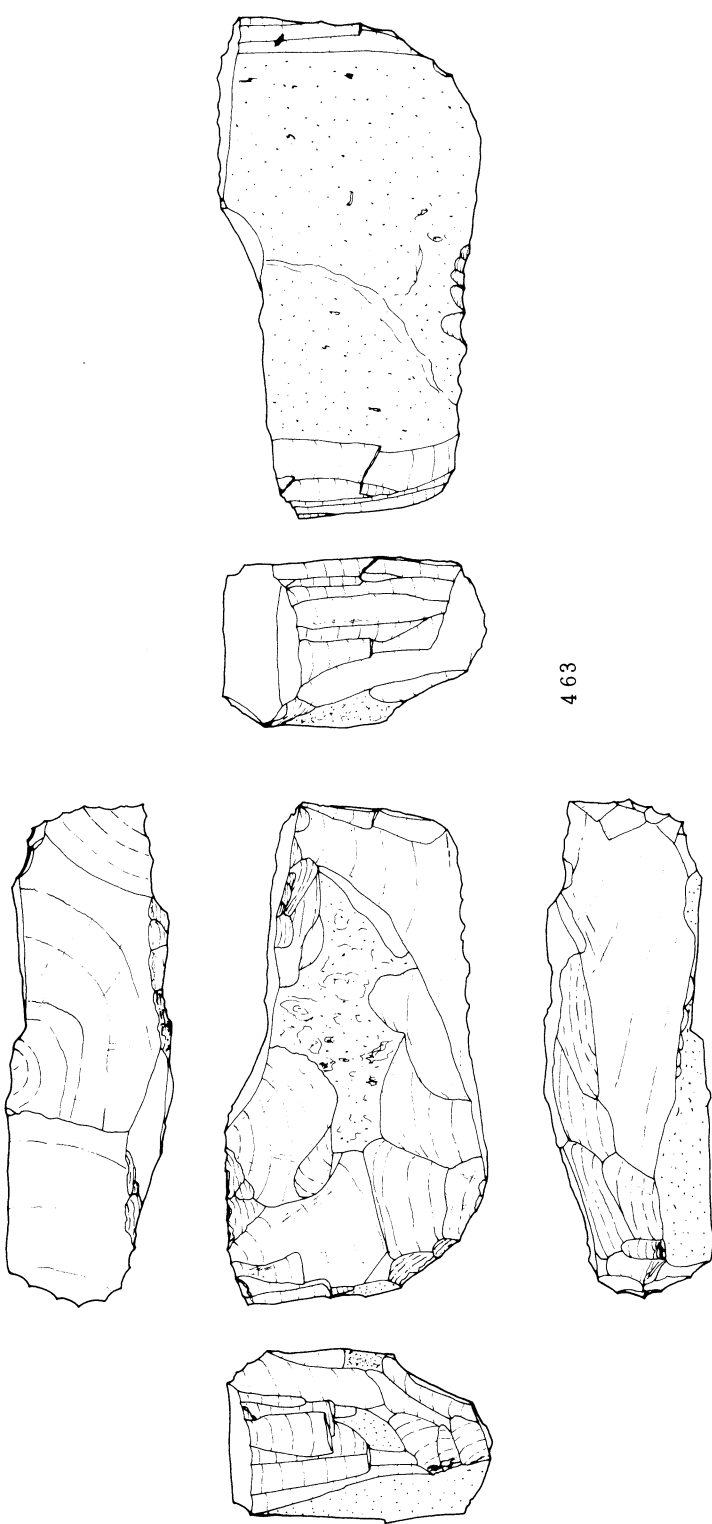
第282図 第32ユニット出土石器実測図(9)



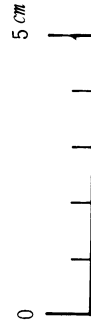
第283図 第32ユニット出土石器実測図 (10)



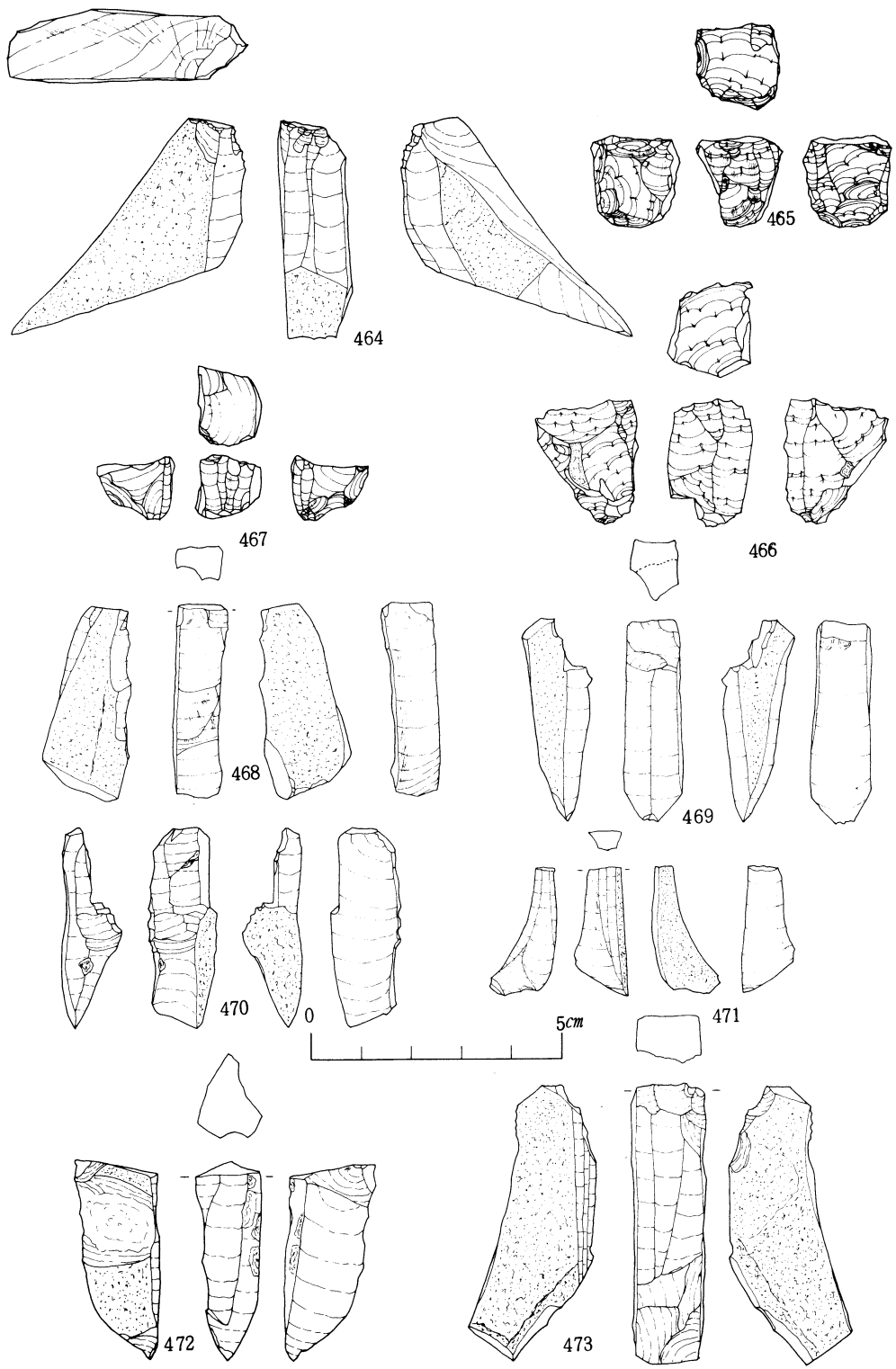
第284図 第32ユニット出土石器実測図(11)



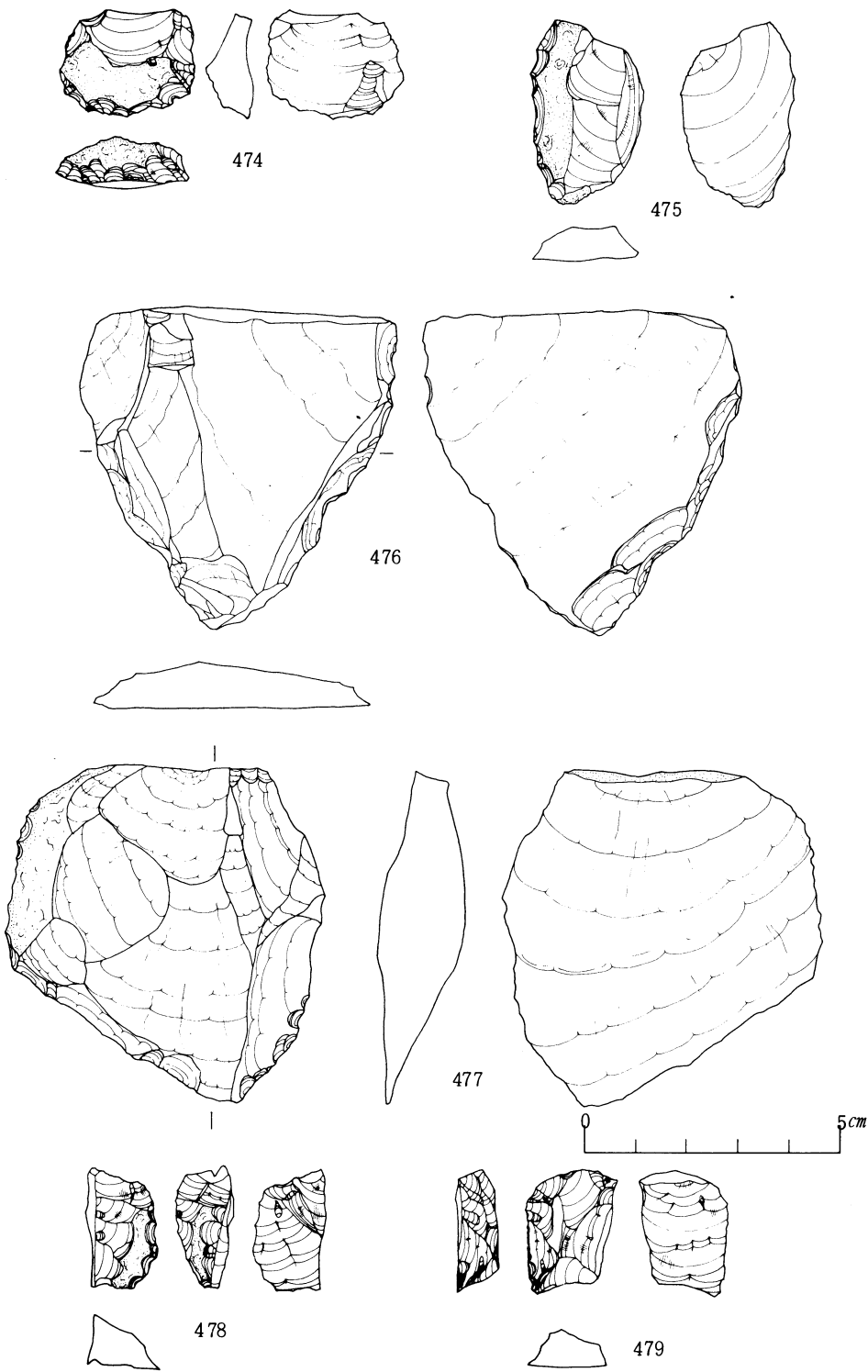
463



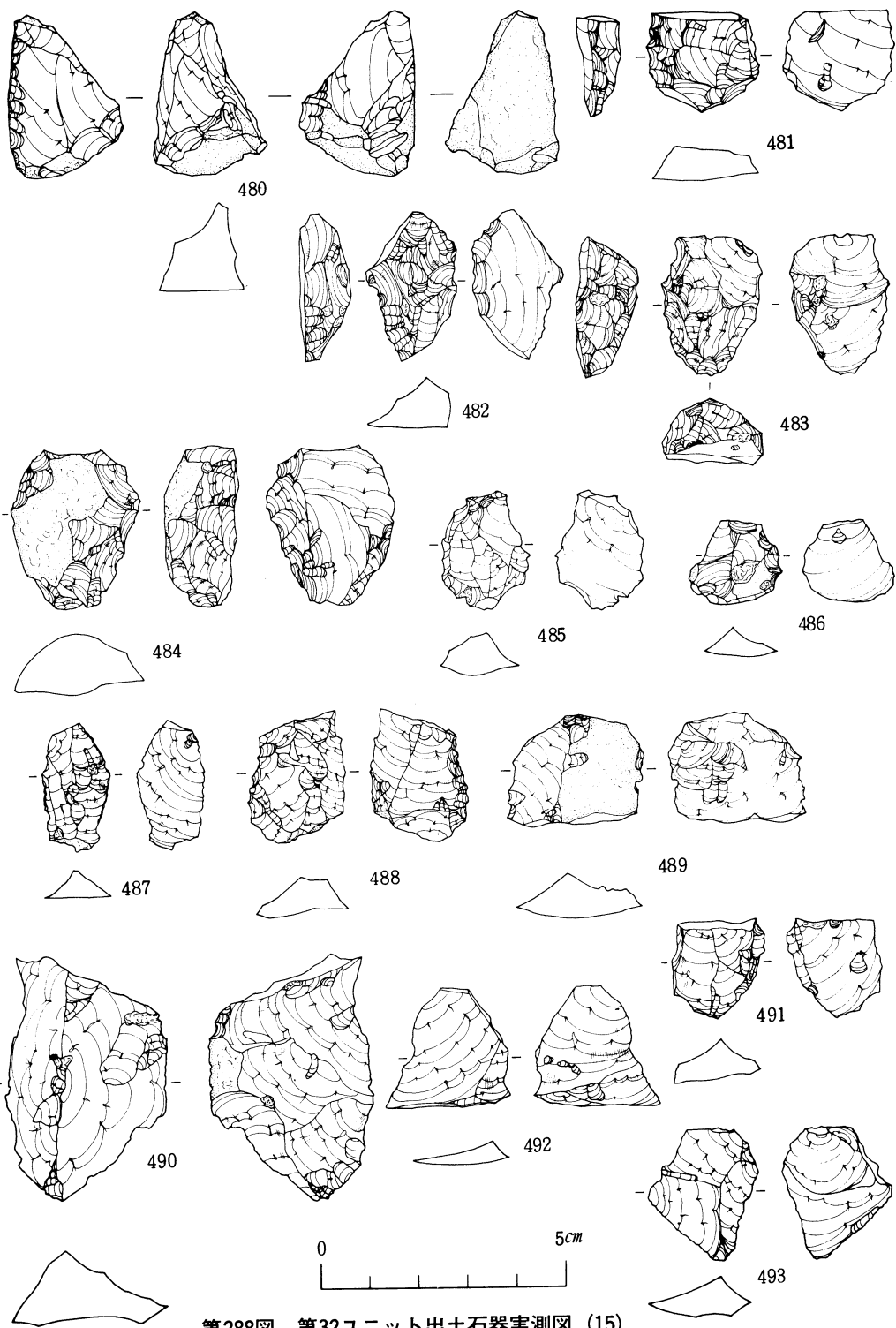
第285図 第32ユニット出土石器実測図(12)



第286図 第32ユニット出土石器実測図 (13)



第287図 第32ユニット出土石器実測図 (14)



第288図 第32ユニット出土石器実測図 (15)



細石刃核 444, 445, 446, 457は側面調整剥離を施こして形を整えたものである。444は硬質頁岩製で平坦な一側面を有し、他側面は下縁からの剥離が行なわれ、特に下縁は入念に微調整剥離が施こされている。445も同様に片側に対し打面からと下縁から調整剥離を施こしている。打面は横方向からの剥離が行なわれている。この二点は、黒曜石製の細石刃核分類でのA 4類に相当する。446は、ポジティブな平坦面で片側面調整剥離がある。457は粗い剥離によって形が整えられている。443, 454, 458は扁平な円礫を素材としたもので自然面の縁辺部を一部残し、他は折断あるいは大きな一打の剥離によって整形している。443は大きな二打の剥離で打面を得、高くなった打面のそばの側縁を調整している。細石刃剥離作業の後、右からの剥離で打面を再生している。打面再生剥片は図示していないが、約4cmの厚さで剥がれている。458は、細石刃剥離面を転移している。尚、これは第37ユニットの323と接合する。

448, 449, 461, 453, 460は、表裏二面が平行する石材を使用したもので折断によって形が決定されている。その中で、449と460は作業面に調整剥離を施こして尖がらしている。

459は、折断の後、角に剥離を加え整形している。447, 456は主軸を長くとり、下縁に大きな剥離を施こし調整している。先のもとの異なり折断によって形を決定するだけでなく明確な調整を施こしたブランクを形成するものである。447は、まだ細石刃剥離作業は行なわれていない。455, 462は厚い素材を使用し、側面と下縁に調整剥離を施こした定形的なブランクをつくるものである。455は、ほぼ直交する平坦な二自然面を打面と一側面にし、それぞれの平坦面から他の面に大きな調整剥離が行なわれている。462は、自然面は残さないが粗い剥離で同様の形態に仕上げている。細石刃剥離作業はまだ行なわれていない。

463は、厚い扁平な素材を利用したもので、片側面は自然面のままである。折断あるいは大きな一打により打面が形成され、他側面は打面からと下縁からの剥離が施こされ整形され、中央部に一部自然面が残っている。細石刃剥離作業は両端から行なわれている。

黒曜石製の細石刃核は3点出土している。465は平坦な打面を持ち、側面には下縁からの調整剥離が行なわれている。467は、C類に使用される石材に似た良質のもので上半分を欠損している。

476から484はスクレイパーである。476は、頁岩製の大型剥片を素材とし、上端を折断し、側縁部を調整したものである。477は砂岩の大型剥片を素材としたものである。

478～484は黒曜石のスクレイパーで、側縁部の片側に調整剥離を加え削器としての使用が考えられる。480は、気泡の少ない良質の黒曜石である。

485～493は、黒曜石Aの剥片である。全て縦長剥片で、489は先端部を折断している。

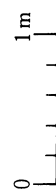
第32ユニットは、黒曜石と凝灰岩の石材が半々の出土であり、広い範囲に分布していた。他のユニットの様に、一箇所に集中する訳でなく、また石器も点在で器種により集中するということもみられない。

(H-5区)

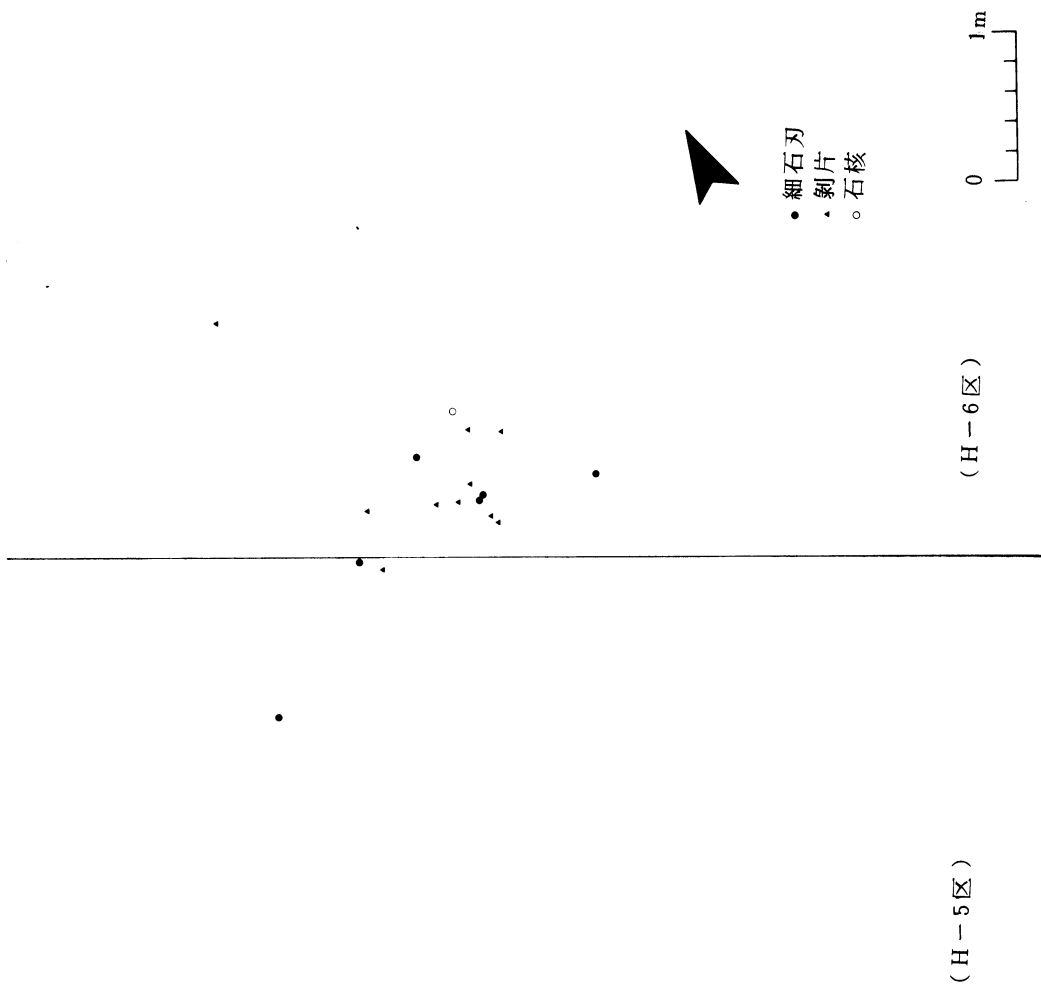


- 細石刃
- 刮器
- ・ 剥片

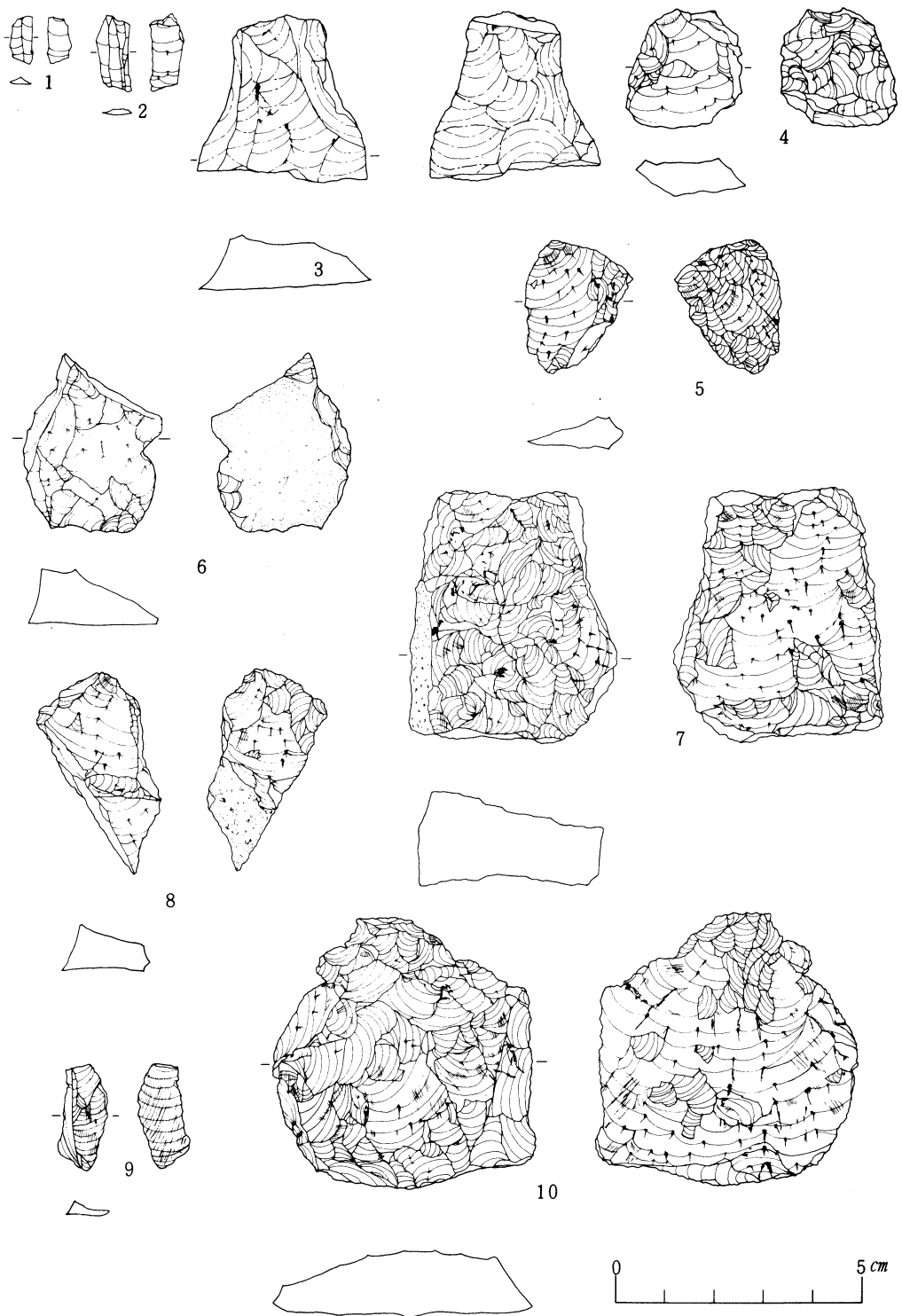
(I-5区)



第289図 第33ユニット器種別分布図



第290図 第34ユニット器種別分布図



第291図 第34ユニット出土石器実測図

### 第33ユニット出土の遺物（第56表）

I - 5区で遺物は長径 6.5m, 短径 4.8mの範囲に 382点が散在して検出されていた。石材は、黒曜石A 376点, 黒曜石B 2点, 安山岩 3点, 礫 4点である。石器は、細石刃32点, スクレイパー 1点, 剥片14点石鏃 1点である。

細石刃は 1点黒曜石Bがあるが他は全て黒曜石Aである。頭部 7点, 頭・中間部10点, 中間部 3点, 尾部 2点である。また完形品が 8点検出されている。

形態的には、打瘤の残っている頭部が全体の53%を示める。断面は台形ないし三角形を呈するが、断面三角形が主を示める。幅は 4～7mmの間に大部分が納まる。

スクレーパーは横剥ぎの剥片の側縁部に調整剥離を施こしている。長さ 4.2cm, 幅 2.7cm, 厚さ 1.2cmである。

剥片は全て黒曜石Aで、不整形なものである。

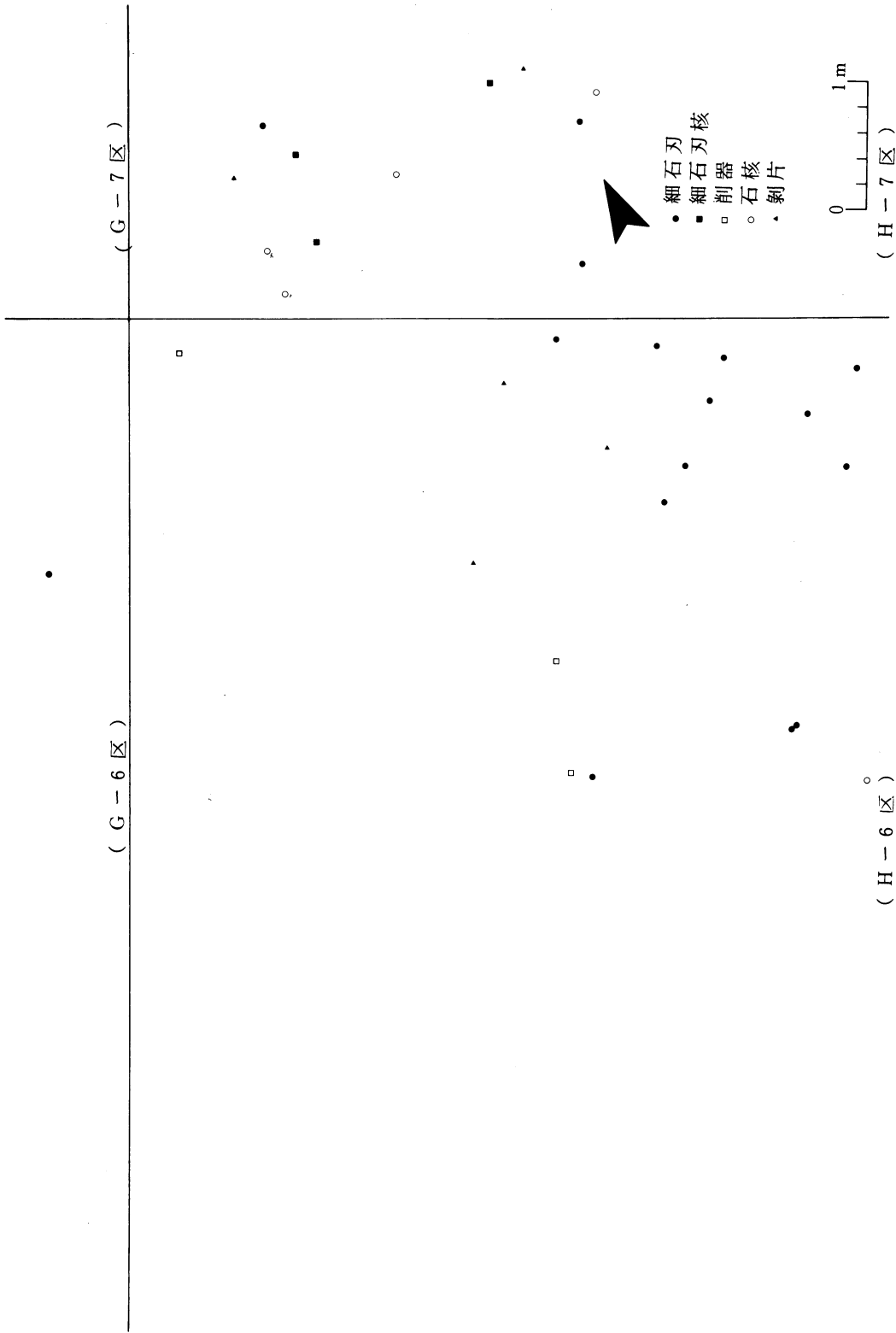
### 第34ユニット出土の遺物（第291図 第57表）

I - 5, I - 6区で遺物は長径 5.5m, 短径 3.8mの範囲に2310点が集中して検出されていた。石材は、黒曜石A 2280点, 黒曜石B 6点, チャート 1点, 礫16点である。石器は、細石刃 7点, 細石刃核 1点, 剥片85点, 石核31点である。

細石刃は、1, 2とも黒曜石Aで、頭部・尾部を折断してある中間部である。1は、断面三角形を呈し、長さ 1.1cm, 幅 0.5cm, 厚さ 0.1cmである。2は台形の断面を呈し、長さ 1.6cm, 幅 0.7cm, 厚さ 0.1cmである。

3は、チャート質の縦長剥片で、長さ 3.3cm, 幅 3.5cm, 厚さ 1.3cmである。先端部は折断している。4～10は黒曜石Aの剥片である。4は、長さ 2.4cm, 幅 2.3cm, 厚さ 0.7cmである。5は、長さ 2.7cm, 幅 2cm, 厚さ 0.7cmの打瘤を折断した剥片である。6は、長さ 3.5cm, 幅 2.8cm, 厚さ 1.1cmで自然面を残した剥片である。7は、長さ 5.2cm, 幅 4.3cm, 厚さ 1.9cmの自然面を残した大形剥片である。8は、長さ 4.1cm, 幅 2.1cm, 厚さ 0.9cmの自然面を残した剥片である。9は、長さ 2.1cm, 幅 0.9cm, 厚さ 0.3cmの気泡の少い良質の黒曜石の剥片である。10は、長さ 5.6cm, 幅 5.2cm, 厚さ 1.2cmの大形剥片である。剥片も85点ほど検出したのであるが図示できる整形された剥片は少ない。

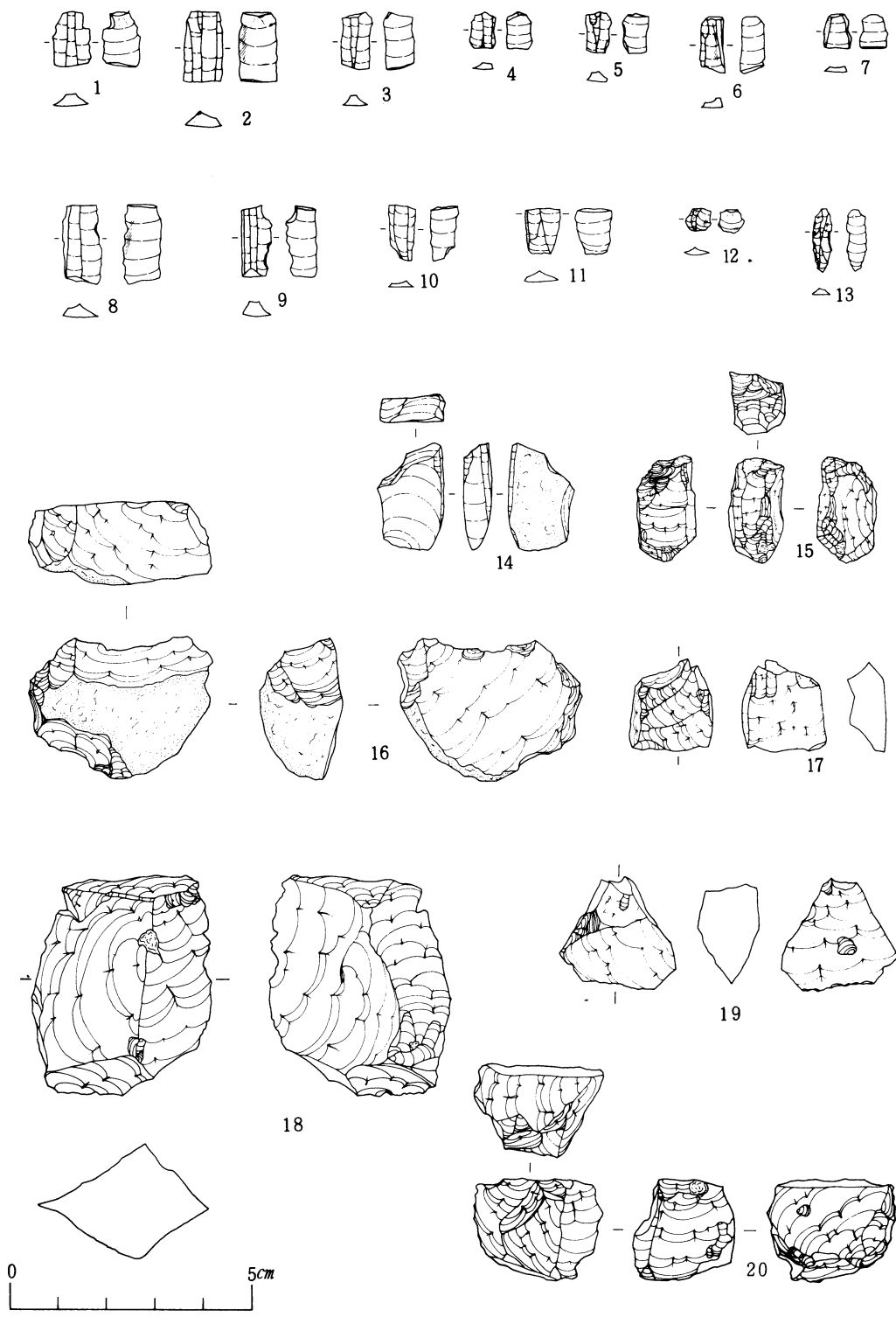
第34ユニットの特徴として、長径 5.5cm, 短径 3.8cmのわりに狭い範囲の中に2310点もの遺物が検出され、そのほとんどが碎片であるということがあげられる。また定形石器が他のユニットに比べ極端に少く、石核（ほとんど石核と呼ぶより残核の部類にはいる）が31点もの出土をしていることが特徴といえ、石器製作の一つの技術の流れがこのユニットの中でいえるのではなかろうか。



(H-6区)

(H-7区)

第292図 第35ユニット器種別分布図



第293図 第35ユニット出土石器実測図

第35ユニット出土の遺物（図版147第293図 第58表）

H - 6, H - 7 区で長径 8 m, 短径 5.5m の範囲に 449 点が散在して検出されていた。石材は、黒曜石 A 228 点, 凝灰岩 B 134 点, 砂岩 3 点, チャート 3 点, 安山岩 1 点, 礫 80 点である。石器は、細石刃 15 点, 細石刃核 3 点, スクレーパー 3 点, 剥片 59 点, 槌石 6 点, 石核 8 点である。細石刃は、凝灰岩 B が 13 点を示め、黒曜石製の細石刃は 2 点のみの出土である。15 点だけ

35ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石 A			1		1	2
〃 A			6.7%		6.7%	13.3%
凝灰岩 B		2	9	2		13
〃 B	13.3%		60%	13.3%		86.7%
計		2	10	2	1	15
		60%	20%	13.3%	6.7%	

の出土であるが、中間部が 70% 弱を示める。

1, 2 は尾部を折断したものである。3 ~ 10 は中間部である。11 は尾部である。12 は黒曜石 A の頭部である。13 は黒曜石 A の完形品である。黒曜石は A であるが気泡の少ないものを選んである。

第21表 第35ユニット出土細石刃分類表

凝灰岩 B の細石刃は全て断面が台形で 1 cm ~ 2 cm の長さを持ち、幅は、5 ~ 10 mm の間にほとんど納まる。12 は、長さ 0.5 cm, 幅 0.5 cm, 厚さ 0.1 cm で断面は三角形を呈する。13 は、長さ 1.3 cm, 幅は 0.4 cm, 厚さ 0.2 cm で三角形の断面を呈する。

細石刃核は 2 点出土し、15 は平坦な両側面で、打面も平坦であり打撃面調整は行なわれていない。14 は、凝灰岩 B の細石刃核片である。左側と上半分が欠損している。自然面を残している。16 は、黒曜石 A のブランクである。

17 は、黒曜石 A の剥片で長さ 1.8 cm, 幅 1.8 cm, 厚さ 0.7 cm である。18 は、黒曜石 A の不整形な大形剥片である。長さ 4.5 cm, 幅 3.7 cm, 厚さ 2.3 cm である。19 は、黒曜石 A の厚みのある剥片を折断した先端部である。下端に使用の際生じたと思われる刃こぼれがみられる。長さ 2.2 cm, 幅 2.4 cm, 厚さ 1.3 cm である。

20 は石核であるが、方向に一定化がなく、8 点出土しているがほとんど残核の中にはいるものである。

第36ユニット出土の遺物（図版147第298~301図 第60表）

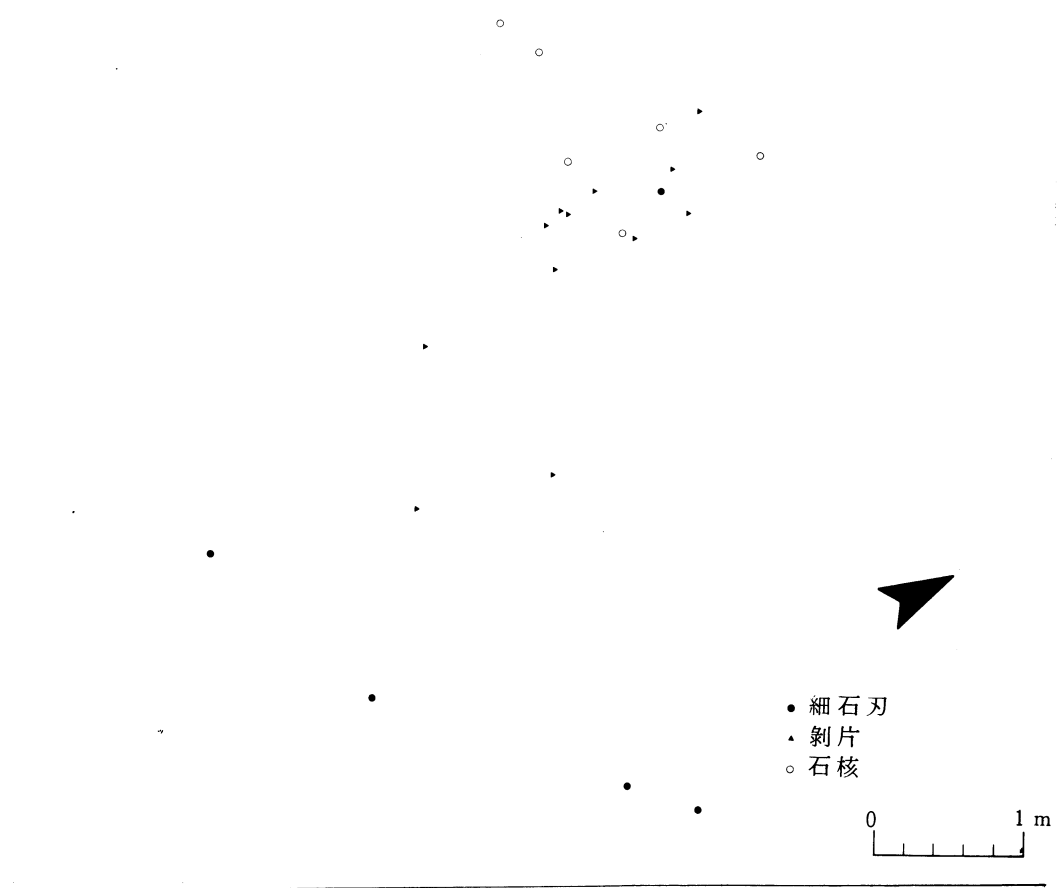
G - 11 区で遺物は長径 10 m, 短径 6 m の範囲に 955 点が集中して検出されている。石材は、黒曜石 A 944 点, 黒曜石 B 2 点, 凝灰岩 B 2 点, 珪岩 3 点, 安山岩 1 点, 礫 5 点である。石器は、細石刃 5 点, 剥片 87 点, 石核 19 点である。1 ~ 4 は細石刃であり、1 は黒曜石 B で尾部が折断され、長さ 1.1 cm, 幅 0.7 cm, 厚さ 0.2 cm で断面は台形を呈する。2 は黒曜石 A で中間部である。3, 4 は黒曜石 A で尾部を折断している。黒曜石 A は断面三角形で、幅は 3 ~ 5 mm である。

定形石器は、細石刃だけであるが、その他石鏃、槌石の検出がみられる。

石鏃は、石英質で長さ 1.7 cm, 幅 1.3 cm, 厚さ 0.4 cm で形態は二等辺三角形で側縁は直で抉りは浅く先端は鋭い。

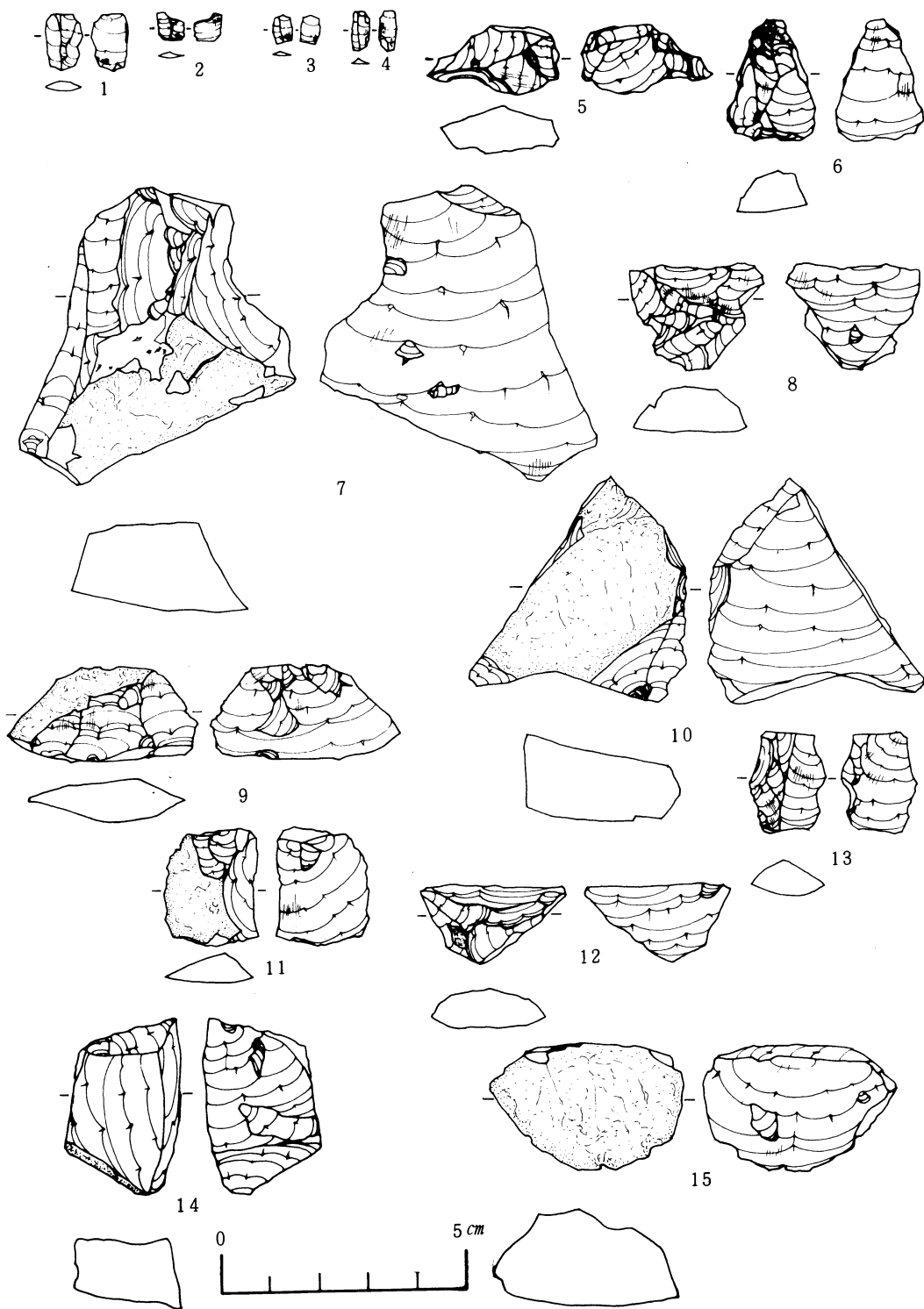
槌石は、長さ 12.6 cm, 幅 6.3 cm, 厚さ 3.9 cm で楕円形の川原石を利用し、下端部に敲打痕がみ



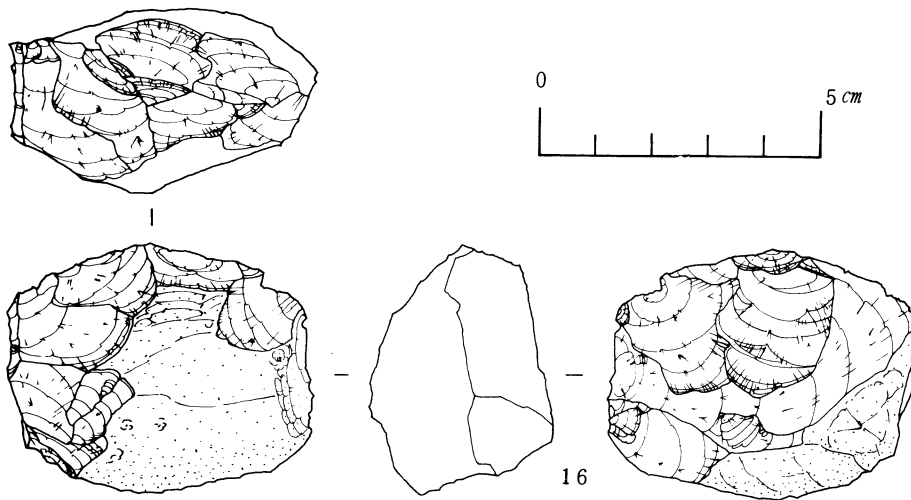


(G-11区)

第294図 第36ユニット器種別分布



第295 第36ユニット出土石器実測図(1)



第296図 第36ユニット出土石器実測図(2)

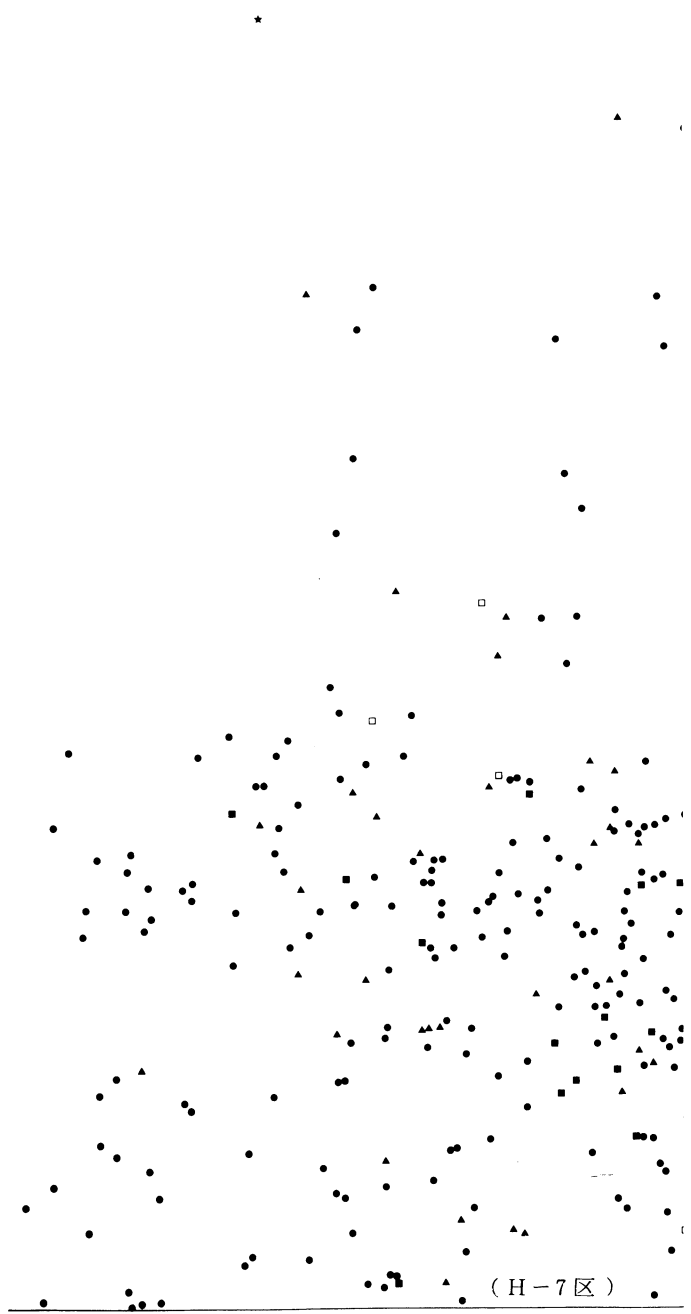
られる。砂岩製である。

5～15は全て黒曜石Aの剥片である。5は厚みのある剥片で、長さ 2.5cm、幅 1.9cm、厚さ 0.8cmである。6は不整形な厚みのある横剥ぎの剥片で長さ 1.4cm、幅 2.7cm、厚さ 0.9cmである。7は、自然面を残した大形剥片である。これも横剥ぎである。長さ 5.3cm、幅 4.9cm、厚さ 1.8cmである。8も厚みのある剥片である。長さ 2.2cm、幅 2.8cm、厚さ 0.9cmである。9は縦長剥片で先端部は折断されている。長さ 2.0cm、幅 3.4cm、厚さ 0.8cmである。自然面を残している。10は厚みのある大形剥片である。長さ 4.4cm、幅 4.2cm、厚さ 1.5cmである。11は、自然面を残した縦長剥片で先端部を折断している。長さ 2.4cm、幅 1.9cm、厚さ 0.6cmである。12は縦長剥片の打瘤部を折断した剥片で長さ 1.6cm、幅 3.0cm、厚さ 0.8cmである。13は縦長剥片で、長さ 2.1cm、幅 1.6cm、厚さ 0.8cmである。14は一部自然面を残した厚みのある剥片である。長さ 3.6cm、幅 2.2cm、厚さ 1.4cmである。15は自然面を残した厚みのある剥片の先端部である。長さ 2.6cm、幅 4.0cm、厚さ 2.0cmである。

16は石核である。自然面を残してはいるが、同一方向からの加撃により剥片の剥出作業を行っている。

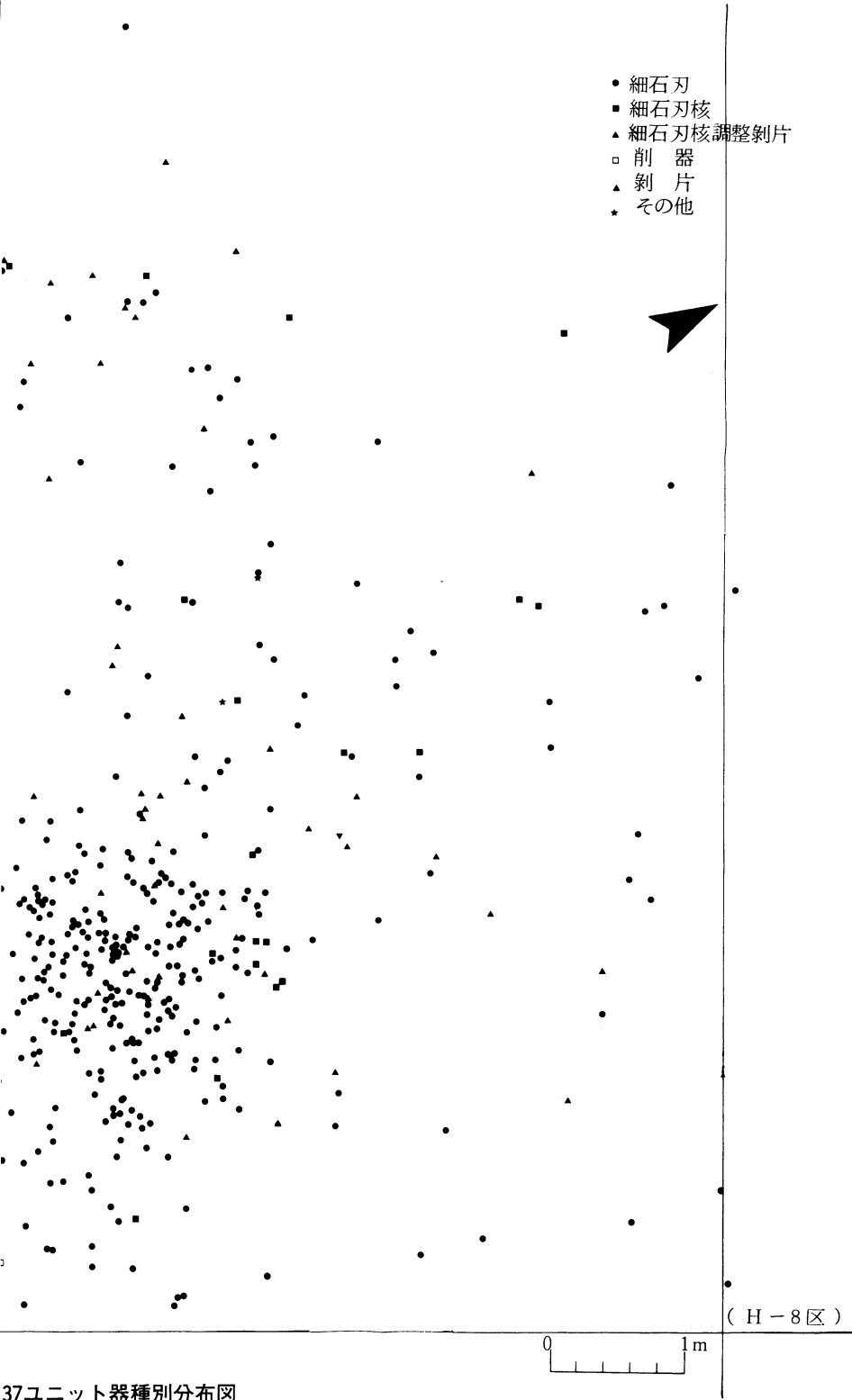
石核も19点程検出されているが、剥出作業に一定性がなく残核の中にはいるものである。

第 294図の様に、細石刃はユニットの周辺に検出されているが、残核と剥片はまとまりがある様に思われる。やはり、石器製作の一段階があるのではなからうか。

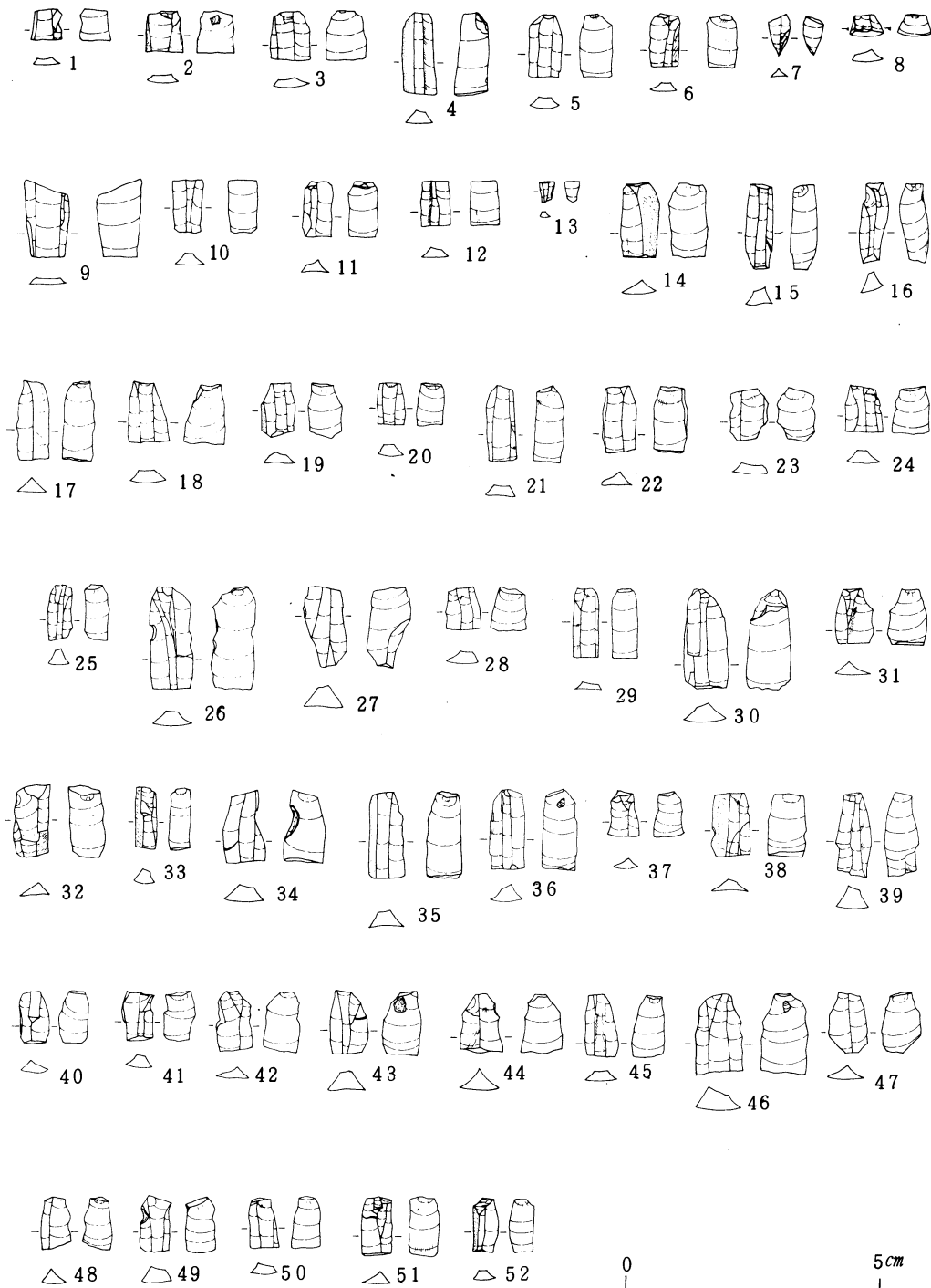


第297图 第

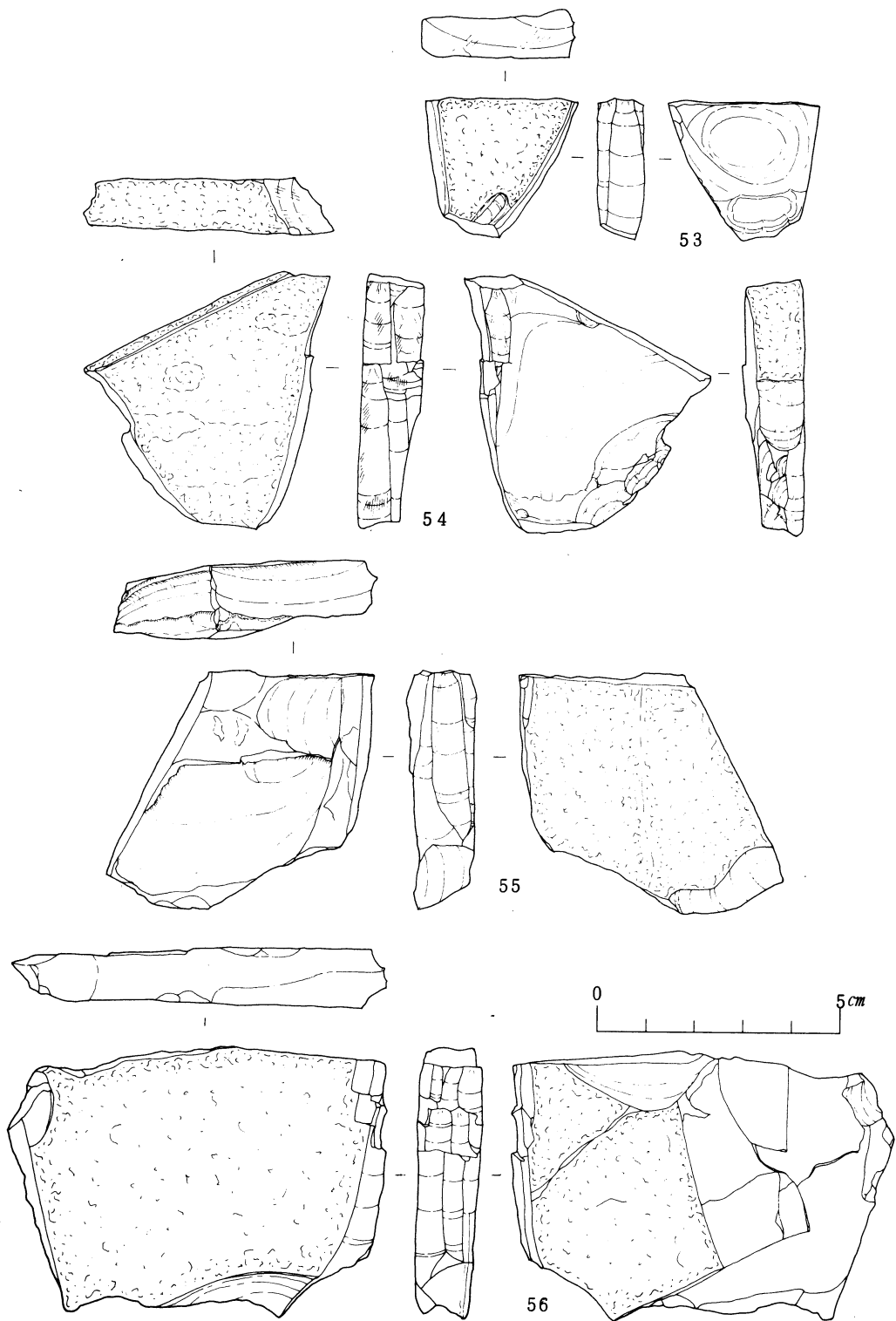
- 細石刃
- 細石刃核
- ▲ 細石刃核調整剥片
- 削器
- ▲ 剥片
- ★ その他



37ユニット器種別分布図



第298図 第37ユニット出土石器実測図(1)



第299図 第37ユニット出土石器実測図 (2)



第300図 第37ユニット出土石器実測図(3)





第301図 第37ユニット出土石器実測図（4）

第37ユニット出土の遺物（図版148～150第298～301図 第60表）

H-7, I-7区で遺物は長径11.7m, 短径10mの範囲に5955点が集中して検出されている。石材は、黒曜石A2494点, 黒曜石B15点, 凝灰岩B2730点, 砂岩1点, 硬質頁岩6点, 頁岩208点, チャート1点, 石英12点, 安山岩3点, 礫505点である。石器は, 細石刃482点, 細石刃核36点, 細石刃核調整剥片7点, スクレイパー4点, 剥片237点, 槌石1点, 石核4点である。細石刃は凝灰岩Bが約94%を示める。打瘤の残っている頭部と中間部が全体の約40%ずつを

37ユニット	頭部	頭中間部	中間部	尾部	完形品	計
黒曜石A	3	2	3	6	1	15
黒曜石A	0.6%	0.4%	9.6%	1.3%	0.2%	3.1%
凝灰岩B	82	104	183	69	69	447
〃 B	17.2%	21.8%	38.4%	14.5%	1.9%	93.7%
砂岩	2			2		4
〃	0.4%			0.4%		0.8%
硬質頁岩	1	3		5	2	11
〃	0.2%	0.6%		1.0%	0.4%	2.3%
計	88	109	191	79	10	477
	18.4%	22.9%	40.0%	16.6%	2.1%	

第22表 第37ユニット出土細石刃分類表

示め, また完形品が10点検出されている。刃部の刃こぼれはあまり顕著でない。幅は5～12mmの間に大部分が納まる。黒曜石は5～8mmの間に凝灰岩は8～12mmの間に納まる。断面は凝灰岩は台形を呈するものが主を示め, 黒曜石は断面三角形が主を示める。また細石刃の素材は多種多様にわたり, 黒曜石A, 凝灰岩B, 砂岩, 硬質頁岩があげられる。

細石刃核は全部で36点検出されているが, 計8点を図示した。

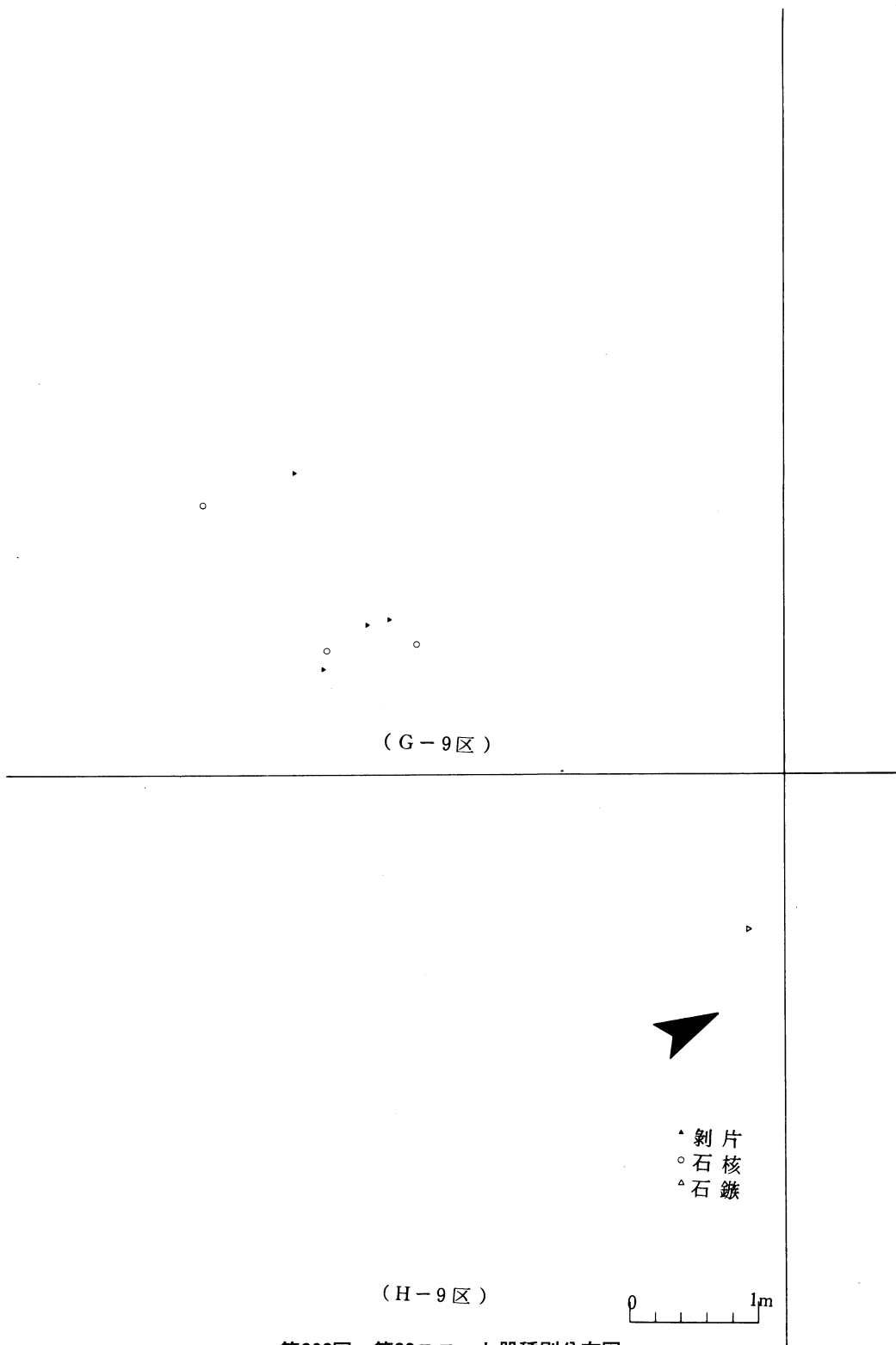
53は, 扁平な凝灰岩礫を素材とし, 折断あるいは大きな一打の剥離によって形を決定し, 同時に打面が得られている。細石刃剥出作業は尾部までなされている。54も扁平な礫を素材とし剥離によって形を決定している。下縁部に調整剥離を加えている。打面部に自然面が残っているが剥出作業のさい打面調整を行なっている。55, 56, 57, 58, 60も同様である。59は自然面を残す硬質頁岩で, 側面は大きな一打の剥離によって形を決定し, 打面には調整剥離がなされている。

61～64は黒曜石Aのスクレーパーである。61は長さ2.9cm, 幅2.0cm, 厚さ0.9cmで側縁辺に調整剥離を施こしている。62は長さ2.5cm, 幅2.0cm, 厚さ0.8cmでやはり側縁辺に調整剥離を施こしている。63は, 横長の剥片を素材とし両側縁に調整剥離を施こしている。長さ5.6cm, 幅2.6cm, 厚さ1.5cmである。

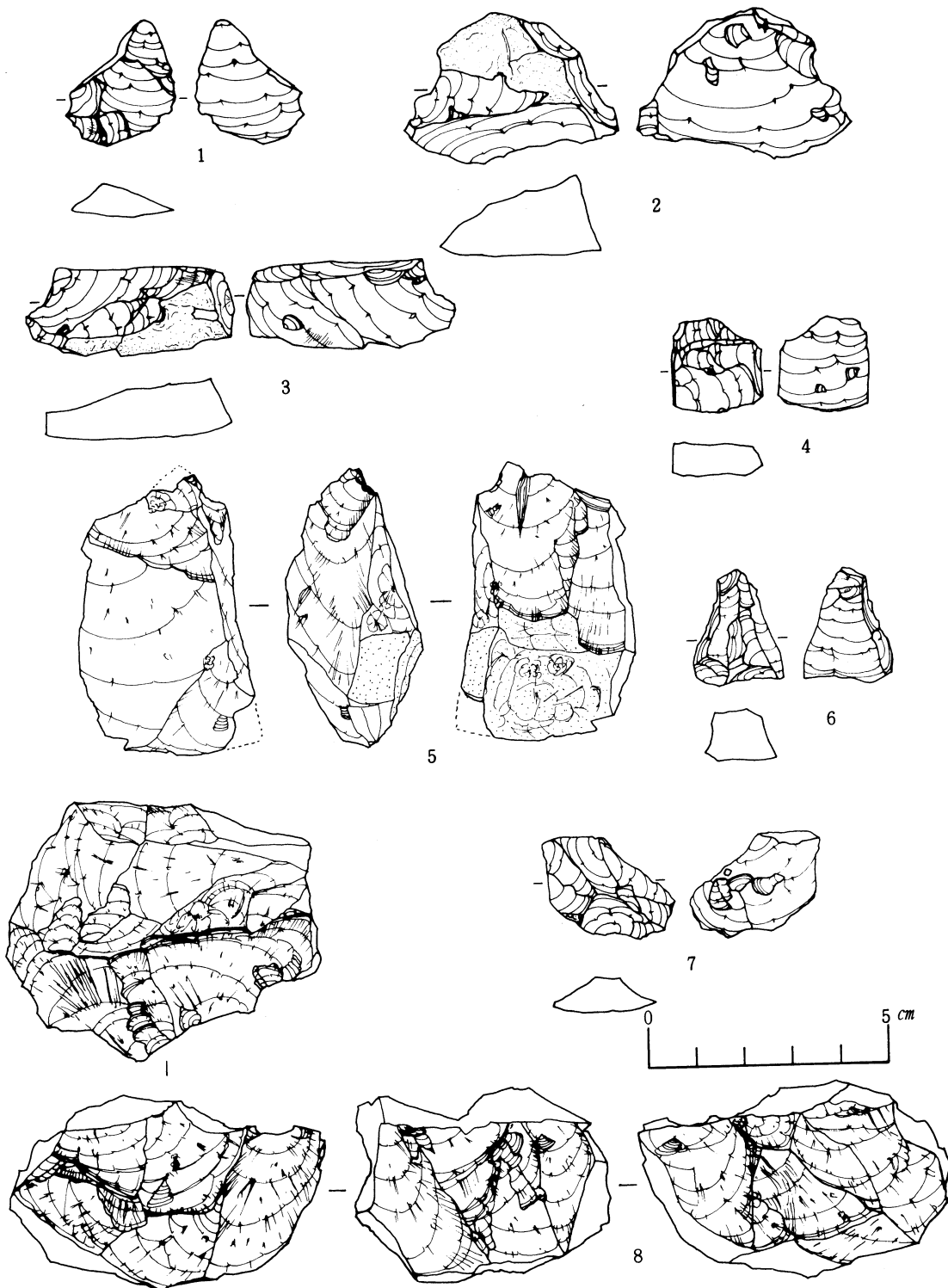
65～79は剥片で黒曜石Aである。剥片は定形の石核から剥出されたものでなく, 不整形な残核よりの剥出とみられ, 縦長, 横長等不整形なものが多い。

槌石も2点出土し, 砂岩製の細長い川原石を素材とし下端部に敲打痕がみられるものや, 楕円形の川原石を素材とし, 全周研磨し, 上端・下端部に敲打がみられるものがある。

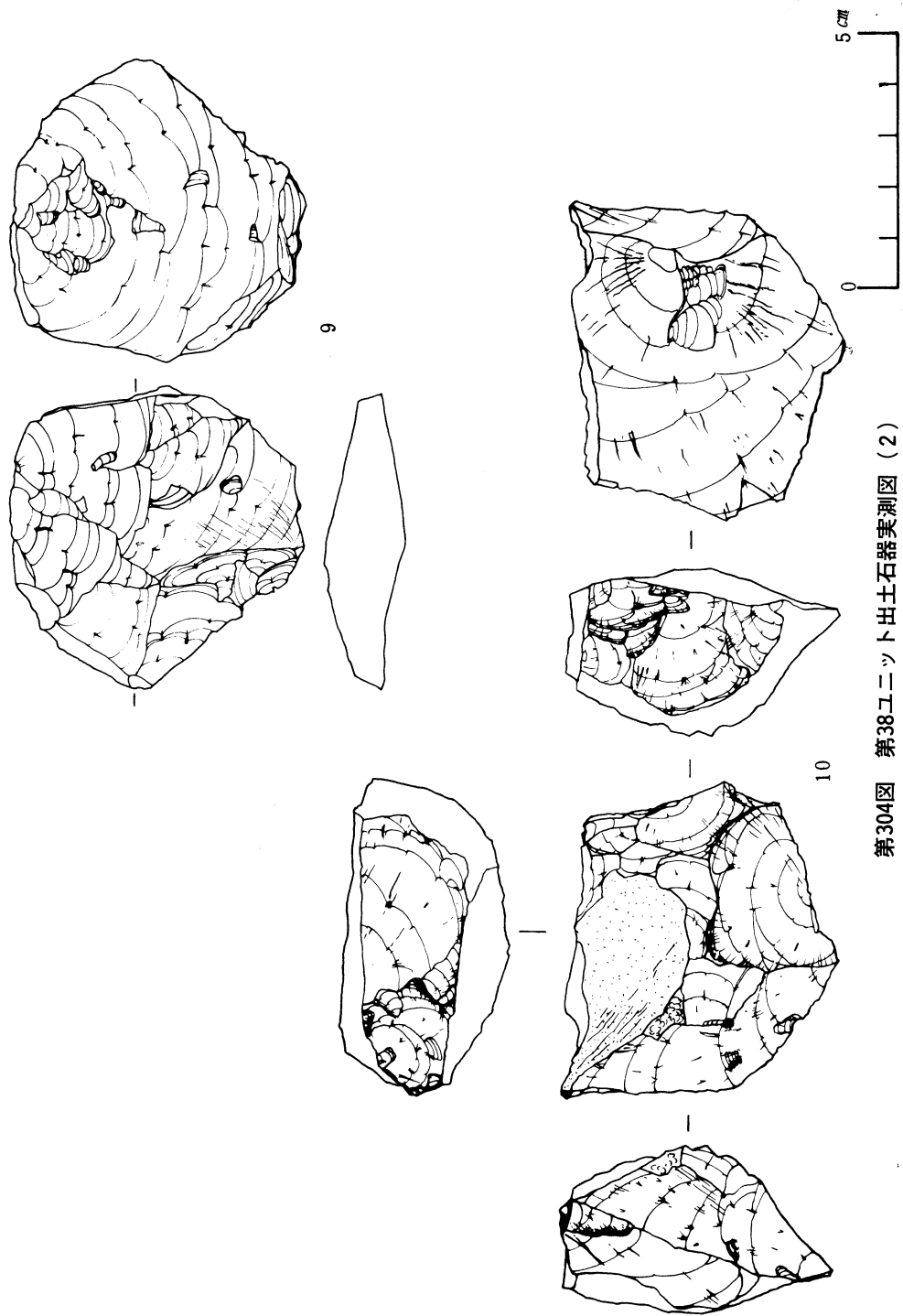
石鏃は, 黒曜石Bで長さ1.9cm, 幅1.6cm, 厚さ0.3cmであり形態は二等辺三角形で側縁は直である。挟りはほとんどみられず先端部は鋭い。



第302図 第38ユニット器種別分布図



第303図 第38ユニット出土石器実測図(1)



第304図 第38ユニット出土石器実測図(2)

#### 第38ユニット出土の遺物（図版151第303～304図 第61表）

G - 9区で遺物は長径6m、短径3.5mの範囲に498点が散在して検出されていた。石材は、黒曜石A 497点、礫1点である。石器は、剥片37点、石核18点、石鏃2点である。1～7は、黒曜石Aの剥片である。1は、長さ2.4cm、幅2.2cm、厚さ0.6cmで縦長の剥片である。2は厚みのある横剥ぎの剥片で、長さ3.1cm、幅4.5cm、厚さ1.6cmである。自然面を残している。3も自然面を残した横長の剥片である。5は、大形の原石を打ちかいた様な不整形な厚みのある剥片である。6、7も不整形な厚みのある剥片である。

8は、握り拳大の原石を素材とし、打面調整を行ない剥片を剥出しているが、素材が気泡が多く、求められるべき剥片の採集ができなかったものと思われる。9は大形の剥片である。10は残核であり、不統一な剥離がみられる。

#### 4節 ユニットの問題点

##### 各ユニットの石器組成

##### 石材の母岩別資料表（第23表）

全体の出土遺物総数が7万弱であり、石材別の分類も限られた時間の中で把握することはむずかしく表に出してみた。ユニット同志の相違も認められるが、全体として、第1ユニット群（1～18）、第2ユニット群（19～24）、第3ユニット群（36、38）、第4ユニット群（25～35、37）に大別される。

##### 石器分類表（第24表）

加栗山遺跡では、細石刃・細石刃核を中心として多くの石器が出土した。そこでユニット別に出土石器の一覧表を作成し、ユニットの特徴を表わした。

剥片は、不整形でも長さ1cm以上で使用にたえられるものを選びだし剥片の中へ入れた。残核は方向性の不規則な石核をいれた。

##### 各ユニットの比較・検討

ユニット間の比較検討する意味で各ユニット同志の接合資料の結果に基づいて、ユニットの時間差及び遺物の移動を考えていくことにする。石材の同定より、黒曜石では接合状態がはっきりせず、凝灰岩のみで接合資料を検討してみた。29、30、32、37ユニットの接合資料を参考にしてみたい。その中で第30、32ユニットは接合資料が多く、このユニットは統一できる広範囲に分布するユニットであると思われる。分布状態、石器器種、石材とも共通点が多い。

第1ユニット群（1～18）は、第18ユニットの集中を除き散在して検出されている。調査範囲外にもユニットの検出可能がありそれらとの関連性も考えられる。

第29ユニットは広範囲に多くの遺物が出土したが、これは何箇所かに細分される可能性がある。

	総 数	黒曜石A	黒曜石B	凝灰岩A	凝灰岩B	安山岩	砂	硬質頁岩	珪	頁	岩	チャート	石	英	玉	髓
1	12	12														
2	28	25	2													
3	8	8														
4	25	21	2													
5	144	133	11													
6	79	54	14	8		2	1									
7	48	12	19	7			3									
8	37	15	10	10			1									
9	48	33	13	1												
10	75	48	24	2												
11	186	88	41	34			1									
12	97	70	23													
13	62	46	6	1												
14	39	25	6		4											
15	122	120		1												
16	46	39	2	1		1	2									
17	58	53	5													
18	1246	2100	66	4		1		8								
19	732	687	36													
20	19	18							1							
21	1081	703	11	308		1	4									
22	891															
23	38	20		1					1							
24	275	116	23						1					7		
25	2319	2257	26		1	3	5						1			
26	980	906	28		11		1		18							
27	113	89			1		2		8							
28	201	188	11	320		1										
29	27904															
30	8899	8061	62							64					8	
31	3718	3663	9											2		
32	4290	2172	24	1702		3	59			1						2
33	382	376	2	134		3										
34	2310	2280	6	2		1							1			
35	446	228		134		1	3						3			
36	955	944	2	2		1										
37	5955	2494	15	2730		3	1	6	3				1	12		2
38	498	497								208						

第23表 ユニット別石材組成表

	細石刃	細石刃核	ブランク	調整剥片	削器	剥片	石核	核残	核碎片	石槌	石鏃	礫
1												
2	2					3						
3	1					10	1					
4	8							5				
5	3	5	1		1	34		6	94			2
6	6	2				18		4	47			9
7	4	4				20			15			1
8				1	1	11		1	19			1
9	4	1				13		2	28			1
10	5	2			1	7		5	57			1
11	10	2		3	2	39		3	103			22
12	9					12		3	69			4
13	1	2				11		3	36			9
14					1	12		2	18	2		4
15	7				4	20	1	1	88			1
16	1				2	16		1	25			2
17	1		2		2	17	1		35			
18	143	25	1		2	107	1	9	1790		1	10
19	61	4			1	33	2	33	592			5
20	1					6			12		1	
21	336	19			4	122		19	716			58
22	163	18	1		1							
23	5	1				4		2			1	10
24	15	4			1	22		9				11
25	123	19			9	136	9	10	1973			31
26	49	15	1		1	54	4	5	748			21
27	3	1				8		3	75			23
28	16	2			2	28		2	149			2
29	368	120	30	1	29	119	14				2	
30	310	51	2	7	28	471	9	133	7531	2		350
31	26	12	1		10	244	11	79	3287		1	46
32	504	34		7	15	566	4	63	2906	2	1	361
33	32				1	14			329		1	4
34	7	1				85	1	30	2150			16
35	19	3			3	59	1	7	281	6		80
36	5					87	3	16	837		1	5
37	284	12		6		237		4	2419	1		205
38						37	3	18	449		3	1

第24表 ユニット別石器組成表



### ユニットの同時性の検討

ユニットの同時性を調べる場合、まず層位の違いによって時間差がでる訳であるが、当遺跡では第1ユニットから第38ユニットまで全て11層（暗茶褐色粘質土）からの出土であり、層位における時間差は把握できなかった。

石器の共通性による検討では、石器に於ける差異は顕著でないが、石材によって石器の形態に差異が生じる様である。また接合によって時間差を把握できるが、これは最初のユニットの分け方に問題がある場合一概に同時性があるとはいえない。後で述べるが当遺跡の第30、32ユニットは共通性が多く石材も類似しているが、ユニットとしては同一とした方がいいのかも知れない。

### 器種分類

当遺跡で出土した石器には、細石刃、細石刃核、ブランク、細石刃核調整剥片、尖頭器、スクレーパー、剥片、石核、残核、碎片、槌石、石鏃、大型加工台形様石、磨製石斧が出土している。ブランクは、形態は細石刃核であるが、細石刃を剥出していないもの。細石刃核調整剥片は、細石刃剥出中、階段状の剥出面が出来、再生のため剥離された剥片である。とくに、凝灰岩Bの石材に多い。ほとんどのユニットの組成は、細石刃、細石刃核、スクレーパー、剥片、碎片、残核である。当遺跡の特徴は、気泡の多い粗雑な黒曜石の素材を利用しているためか、顕著な石核がみられず、ほとんど残核の類に入れられる。また剥片も定形化された縦長剥片は数える程しか出土せず大半は不整形なものである。

### 炭化物

当遺跡の11層（暗茶褐色粘質土層）に於いて遺構の確認を行なうが、散布状態の礫がユニットの出土遺物と共伴して確認されたにすぎなかった。そのため炭化物の残存度において形跡をはかるため、炭化物片に注意し、分布状態を確かめる。その結果、平面、垂直分布とも同一出土状態をあらわし、また出土遺物の有無にかかわらず炭化物の出土状態は変わらない。この結果、11層、12層の層位においての変化も認められず、炭化物の残存度における遺構の確認は目的がなされなかった。

## 細石刃

加栗山遺跡では総数2532点の出土がある。石材は、黒曜石A、黒曜石B、凝灰岩A、凝灰岩B、砂岩、硬質頁岩、頁岩、チャート等があり、石材の相違によって形態が著しく異なる。

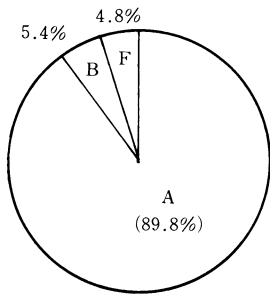
細石刃の三部切截手法が、当遺跡でも存在していたと思われる。打瘤が残っていて身長短いものを頭部、打瘤が残っていて身長長いものを頭・中間部とした。中間部は、身長の長短に関係なく打瘤が残っているものと尾部を折断したものである。尾部は短かく、反りがあることが認められる。

石材と細石刃分割を表で表わすと第9表～第22表のとおりである。

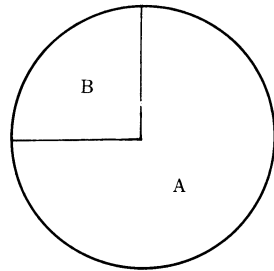
ここでは、38ユニットの中から比較的数量の多い第18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30, 31, 32, 37ユニットを選び石材と細石刃分割を表わしたものである。また第25表と第26表において、ユニットにおける石材の相違と細石刃分割をパーセンテージで表わしてみた。第18, 19, 21ユニットの様には黒曜石Aを石材として使用した場合、頭部が長く尾部のみを折断したものが多い。このことは、当遺跡で使用されている黒曜石Aは気泡が多く、尾部のみで細石刃と断定することはむずかしく、碎片のなかにあるのではなかろうか。

第25表は石材別分類表である。18は第1ユニット群で黒曜石Aを主体としている。第19, 21, 22ユニットは第2ユニット群で黒曜石が主体でAが75%を示める。第25, 26, 29, 30, 31, 32, 37ユニットは第4ユニット群である。このユニット群はユニットごとに石材の特徴があらわれ第25, 26ユニットは黒曜石だけである。第29ユニットは375点検出されたが、他のユニットと比較して黒曜石Bを主体としている。細石刃核でも同様のことがいえる。第30, 32, 37ユニットは凝灰岩Bの石材が主体をなしている。やはり細石刃核でも同様のことがいえる。第31ユニットは黒曜石だけの出土でAが主を示める。

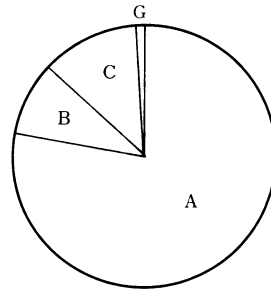
第26表は細石刃の三部切截手法をグラフに表わしたものである。やはり石材との関連がよく、黒曜石は、打瘤を残す部分が約半分を示めず。凝灰岩Bでは打瘤を残す身長の長いものが大部分を示める。



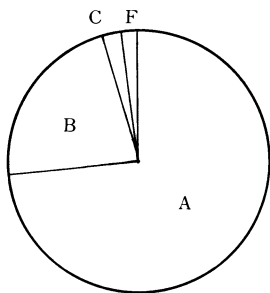
18 166点



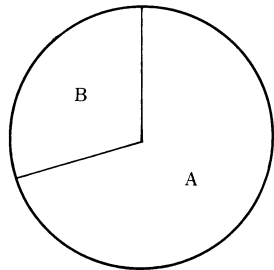
19 80点



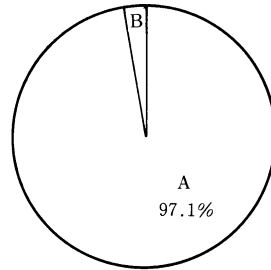
21 336点



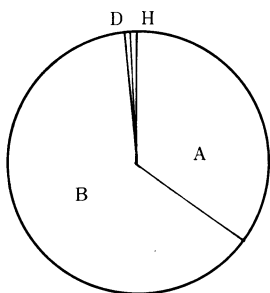
22 163点



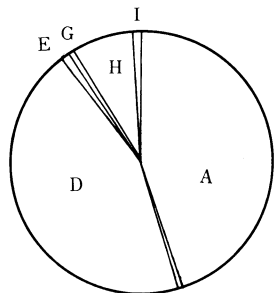
25 128点



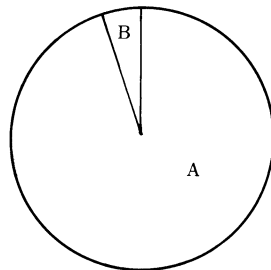
26 70点



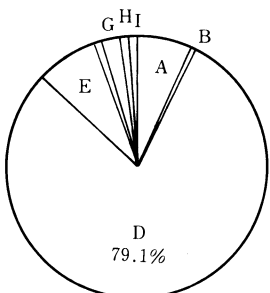
29 375点



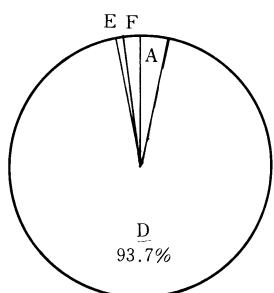
30 319点



31 40点



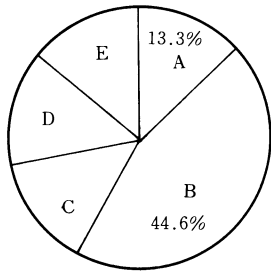
32 454点



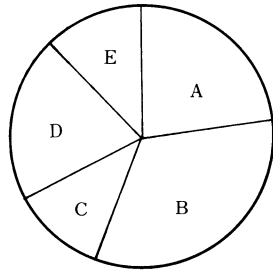
37 477点

- A 黒曜石A
- B 〃 B
- C 凝灰岩A
- D 〃 B
- E 砂岩
- F 硬質頁岩
- G 珪岩
- H 頁岩
- I チャート

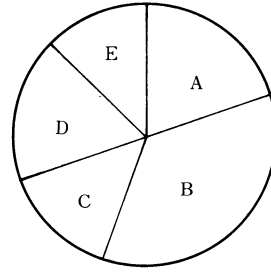
第25表 細石刃石材別分類表



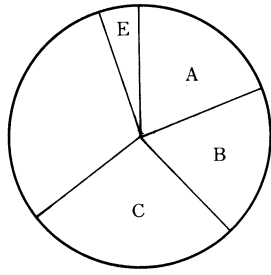
18



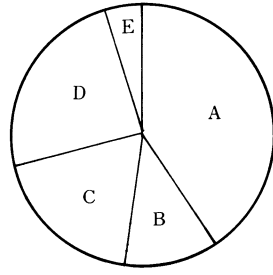
19



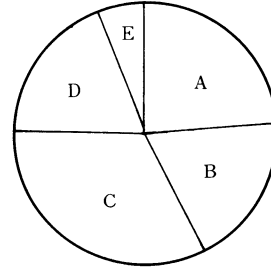
21



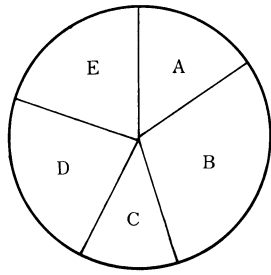
22



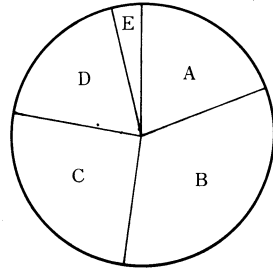
25



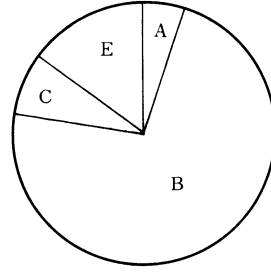
26



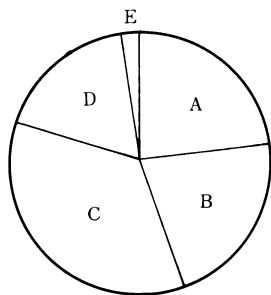
29



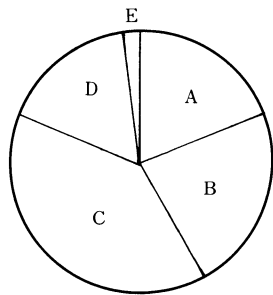
30



31



32



37

A 頭 部  
 B 頭・中間部  
 C 中 間 部  
 D 尾 部  
 E 完 形 品

第26表 細石刃分類表

## ●細石刃核

総計 349 点出土しており、そのなかで黒曜石製は 279 点である。大きく三類に分類できる。

**A 類**…剥片の主要剥離面を側面とし、剥片の形状を著るしく変化させないもの。

**B 類**…主要剥離面を打面とし、両側縁を調整するもの。

**C 類**…小角礫を素材とするもの。

これらはまた素材の使用法、調整等により細分できる。以下その説明を加えていく。

**A 1 類** 29—382, 29—414, 29—435, 29—360, 29—356

剥片の二平坦面が両側面とされ断面は二等辺三角形に近くなる。横方向からの連続した調整剥離によって打面が形成されたものと、打撃部分のみを調整剥離されたものがある。一部下縁調整を受けたものもある。26—62, 26—55, 29, 番号なし。

**A 2 類** 8—3, 29—394, 29—349, 29—344, 29—385, 29—372, 29—355

板状の剥片が使用され、平坦面が両側面とされる。折断あるいは大きな一打により平坦な打面が得られ、また大きな調整剥離や折断等によって形が整えられる。両側面は調整されないが素材としての剥片の形状によっては片側のみ調整剥離を加え板状に近づけたものもある。

**A 3 類** 26—60, 26—61, 29—359

主要剥離面でない側に調整剥離を周辺に施すことにより楕円形の細石刃核原型が先につくられる。次に上縁近く長軸方向に一打され、うすく短い稜のある剥片が剥ぎ取られることによって打面がつくられる。この打面は尾端までおよばない。

**B 1 類** 25—131, 25—118, 29—386, 29—422, 29—390, 29—397, 29—403, 29—367

剥片の平坦面が先に打面として決定され両側縁はこの平坦面より極めて入念に調整剥離が施こされ、その結果長軸が長い船底形石器状の細石刃核原型がつくられる。細石刃剥離作業は基本的に一端からなされた。

**B 2 類** 25—124, 29—437, 29—391, 29—370, 29—410, 29—395

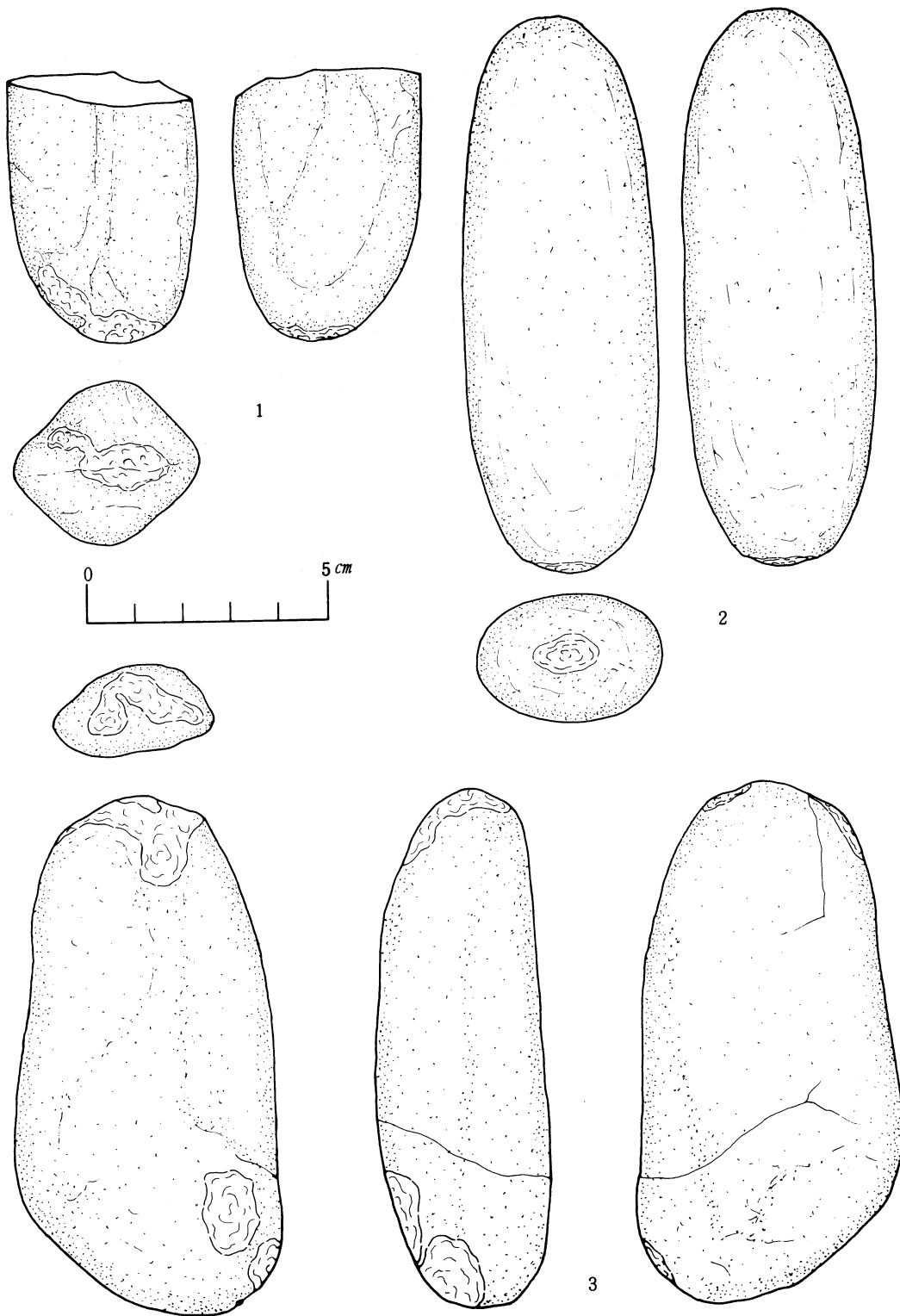
素材の形状に反映されるように一定の形態をもたず船底形石器をつくらない。打面は平坦であり、両側縁は調整剥離が施こされる。

**B 3 類** 29—398, 29—354, 29—337, 29—418, 29—401

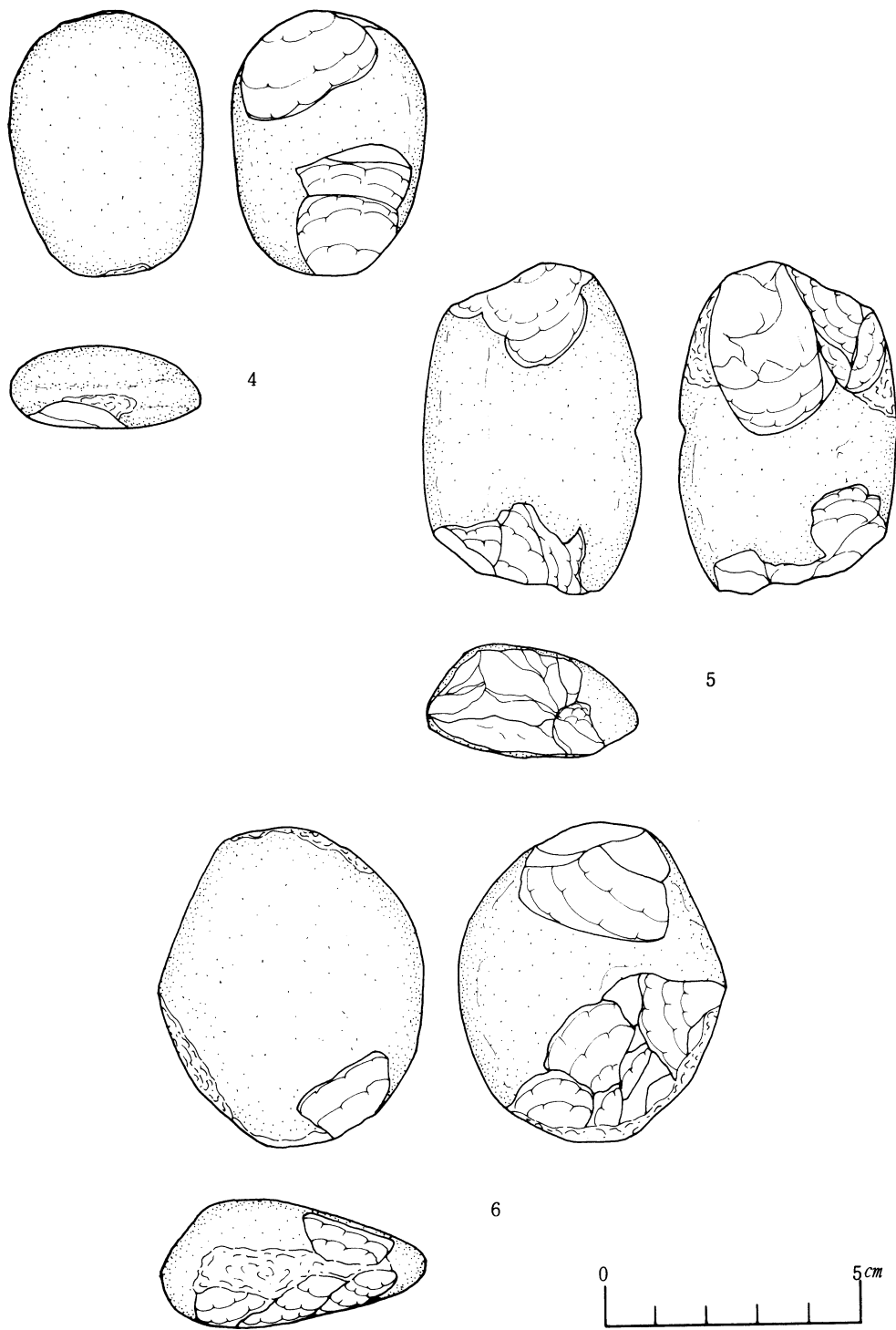
打面は丸みのついたポジティブな面であり、さらに横方向からの調整を受ける。剥片の形状が細石刃核の形態に大きく関係する。他の B 類と同様打面が先に決定されるものであるが、側面の調整剥離はあまり行なわれない。器高に対して幅が広く、主軸も短かく厚ぼったいのが特徴である。

**C 類** 26—59, 28—17, 29—412

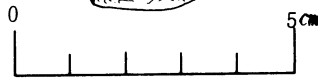
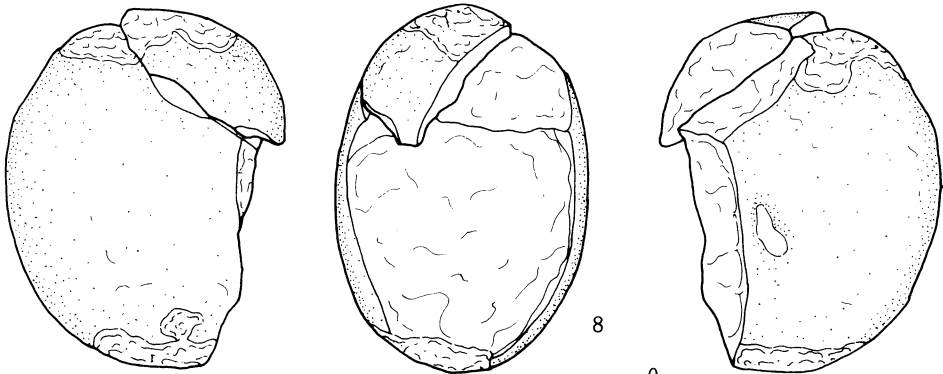
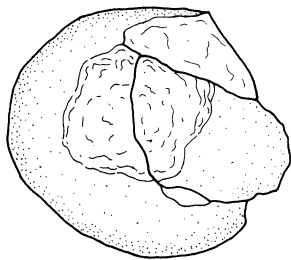
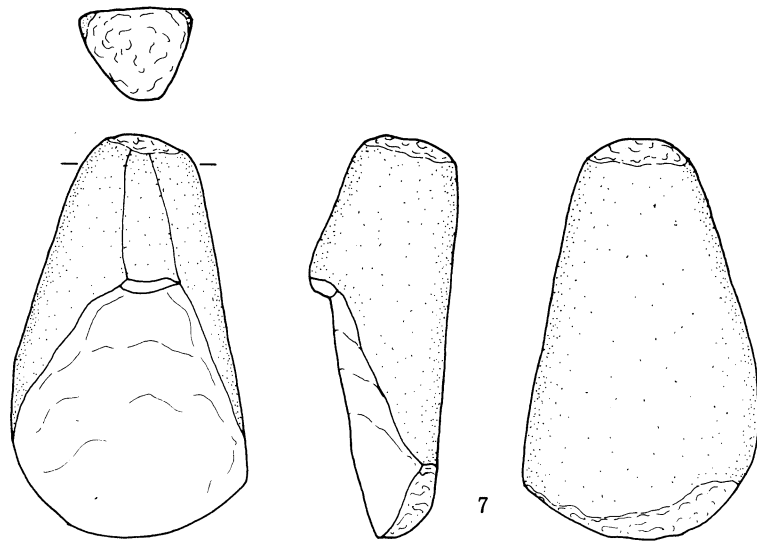
素材の小角礫は黒曜石 A・B とも異なるものであり、その原産地は確認されてない。うすい黒色で気泡がほとんどない。きわめて良質なものである。親指の爪ぐらいの大きさしか見つかっていないうえに細石刃核として利用されているものだけである。小角礫はそのまま細石刃核原型とされ、ほとんど調整をされず、単に打面が調整されるのみである。また打面すら調整を受けないものもある。



第305图 槌石实测图(1)



第306图 槌石夷测图(2)



第307图 槌石实测图 (3)



## 槌石

槌石は全部で15点出土した。槌石も集中はみられず遺跡の台地全体に散在して出土している。また、ほとんどがユニット内からの出土である。

1は、第30ユニットより出土し、長さ 5.8cm、幅 4.3cm、厚さ 4.2cmで楕円形の川原石を利用し、上端は欠損しているが下端部に使用のための敲打痕がみられる。砂岩製である。

2は、第37ユニットより出土し、長さ11.7cm、幅 3.9cm、厚さ 2.7cmで細長い川原石を利用している。下端部に敲打痕がみられる。砂岩製である。

3は、第32ユニットより出土し、長さ11.2cm、幅 5.7cm、厚さ 4.3cmで楕円形の川原石を利用している。上端部全体を使用し敲打のため表皮が剥脱している。また下端部は側縁部との角を利用し、敲打の痕がみられる。

4は、第15ユニットより出土し、長さ 5.4cm、幅 3.3cm、厚さ 1.7cmで砂岩製の厚みの薄い川原石を利用している。上端・下端部とも打撃による剥離がみられる。また、上端、下端部とも敲打痕がみられる。

5は、第19ユニットより出土し、長さ 6.8cm、幅 4.2cm、厚さ 2.3cmで砂岩製の川原石を利用し、上端、下端部に打撃による剥離がみられる。上端部には敲打痕がみられるが下端部にはみられない。

6は、第21ユニットより出土し、長さ 6.6cm、幅 4.2cm、厚さ 2.7cmで砂岩製の川原石を利用している。上端・下端部に打撃による剥離がみられる。上端・下端部とも敲打痕がみられ、また側面には研磨の痕がみられる。

7は、第30ユニットより出土し、長さ 7.5cm、幅 4.3cm、厚さ 2.5cmの断面三角形を呈した砂岩である。上端部・下端部また側面部の稜の部分に敲打痕がみられる。

8は、第37ユニット出土の長さ 6.5cm、幅 4.2cm、厚さ 4.3cmで楕円形の川原石を利用している。全周研磨し、上端部、下端部に敲打痕がみられる。また、第35ユニットから出土の砂岩剥片と接合する。距離は約8mである。第35ユニット出土のものにも敲打がみられ、剥離後の稜に敲打痕がみられることから剥離後にもハンマーストンとして使用したものと思われる。表面、剥離面とも赤色状が強く焼成されている可能性もある。

その他、第14, 29, 30, 32, 36ユニットに出土している。

### 大型加工台形様石

第18ユニットの中央部に、パミスを剥ぎ終わり、遺物の出土がみられはじめたとき11層（暗茶褐色粘質土）が周辺より盛りあがっている状態がみられた。輝石安山岩製の自然石を素材とし、自然面を利用して稜をなし側縁部は直に折断されている。出土状態は稜のある方を上に平らな面が黒曜石の遺物の上ののっていた。長さ40cm、幅は上端が21.2cm、下端28.8cm、厚さが8.8cmである。

面どりをした大形の台形様石であるが、平担面に2ヶ所研磨痕がみられる。周囲に全て敲打により整形されている。2ヶ所の研磨もまだ初期の段階であり、石皿みたいにえぐれる状態ではない。

類似品として指宿市小牧3A遺跡で先土器時代と縄文早期の層位の境のところから3点出土している。現在整理中であるが形態的には類似し大きさもほぼ同様であるが、研磨部が長期にわたって使用されたと思われるぐりが深く石皿の使用と考えられている。また、小林達雄氏は「面どりをした大形の石皿がある。石鏃と石皿、いかにも縄文文化的な持物である」と表現されている。

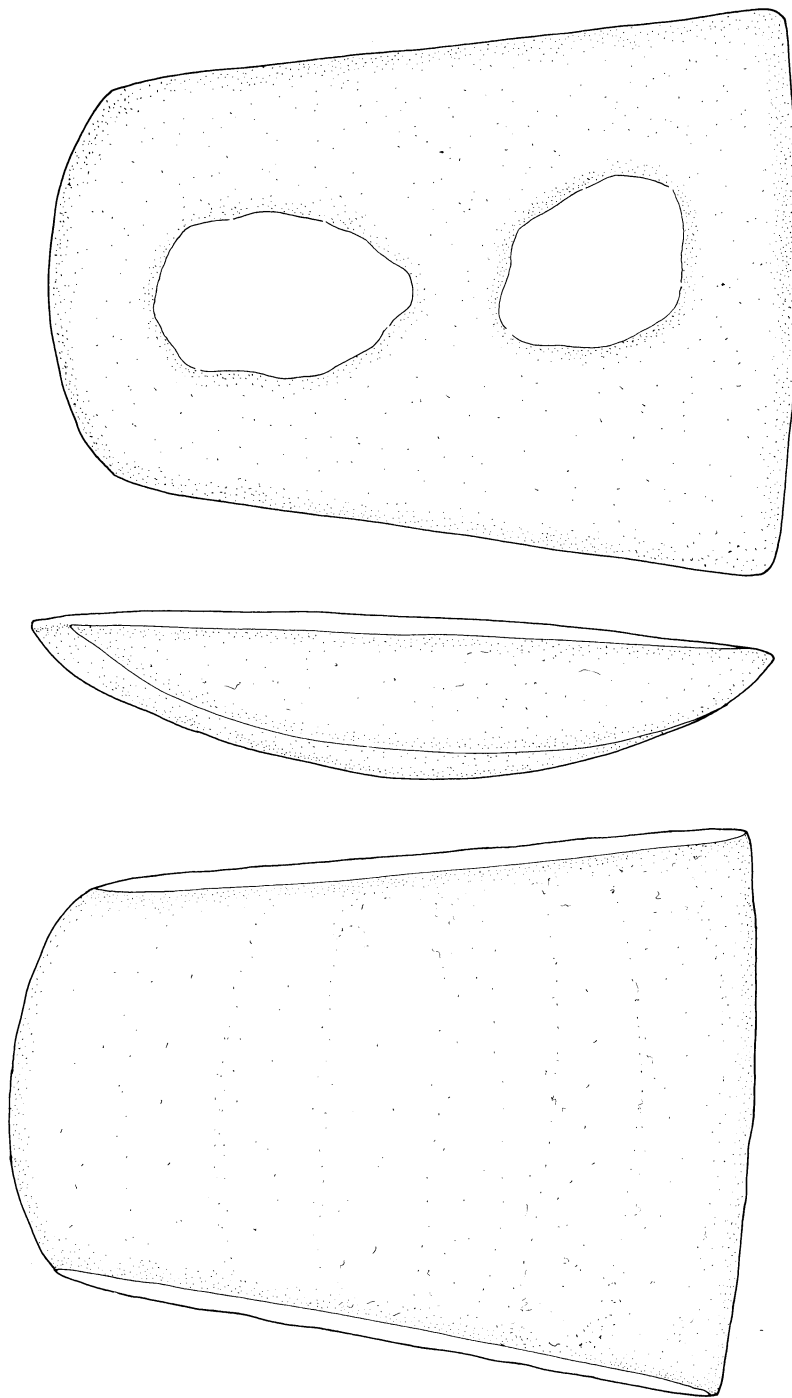
加栗山遺跡出土のものは、石皿としての使用も考えられるが、研磨が浅く、他の使用も考えられるため一応大型加工台形様石と仮称した。

### 磨製石斧（第310図）

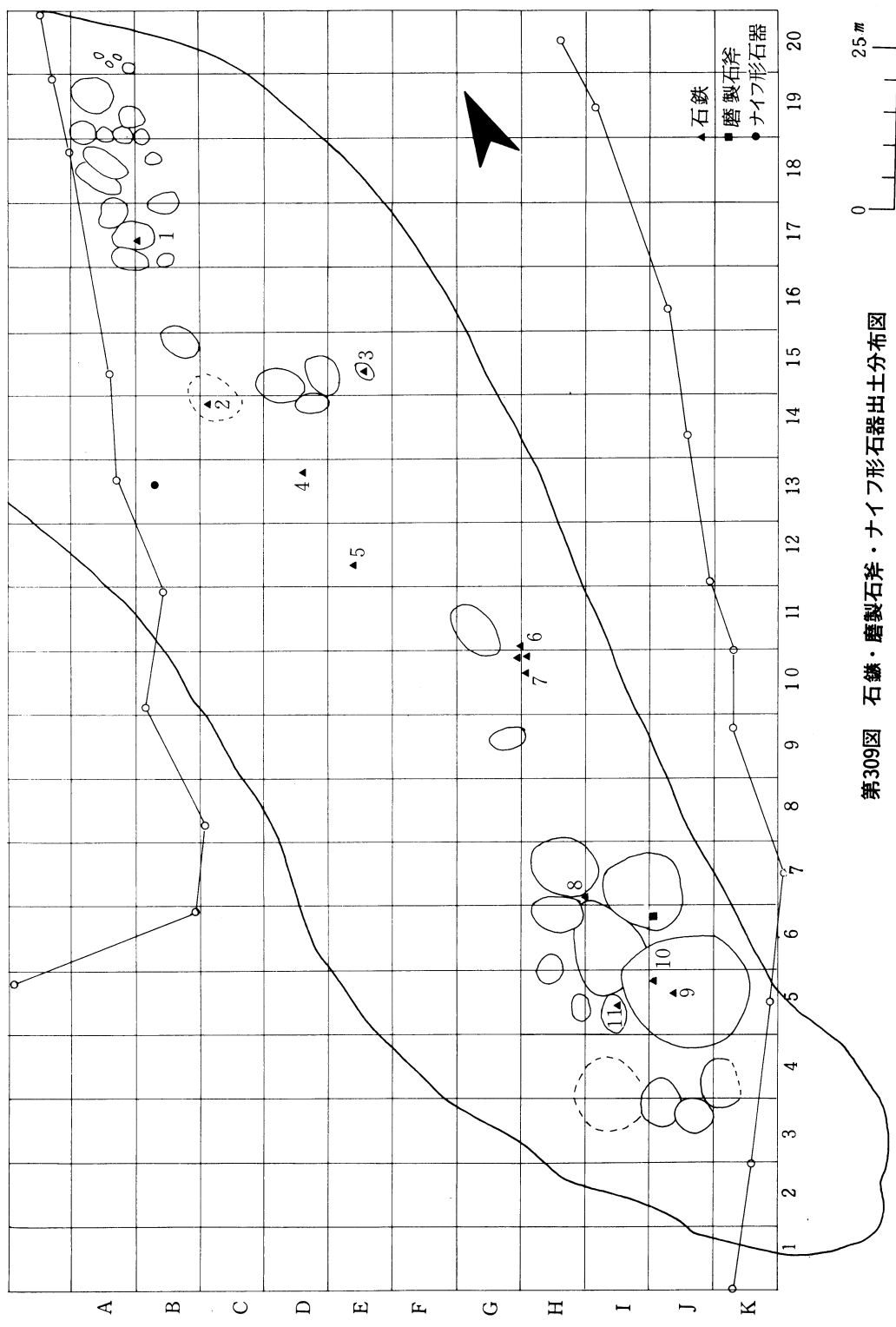
第30ユニットのJ-6区11層の中ほどより出土した。基部は平担で両側縁はほぼ平行する。形態的には短冊形の磨製石斧である。長さ7.7cm、幅4.3cm、厚さ1.3cmを計る。凝灰岩の母岩を素材とし、表裏共両側縁よりの粗い加工によってかたちを整えている。その上に丹念な研磨を施こし、稜線は研磨によってなめらかになっている。刃部は蛤刃状で刃部幅は、3.5cmで裏面と刃部とのなす角度は50度内外で加工が施こされている。

県内では、先土器時代の層位より出土した石斧として、溝辺町石峰遺跡より出土した薄手の剥片を素材とし、両側縁部は、交互に側縁調整を行なっているものがある。これは、当遺跡の研磨した石斧と相違がある。

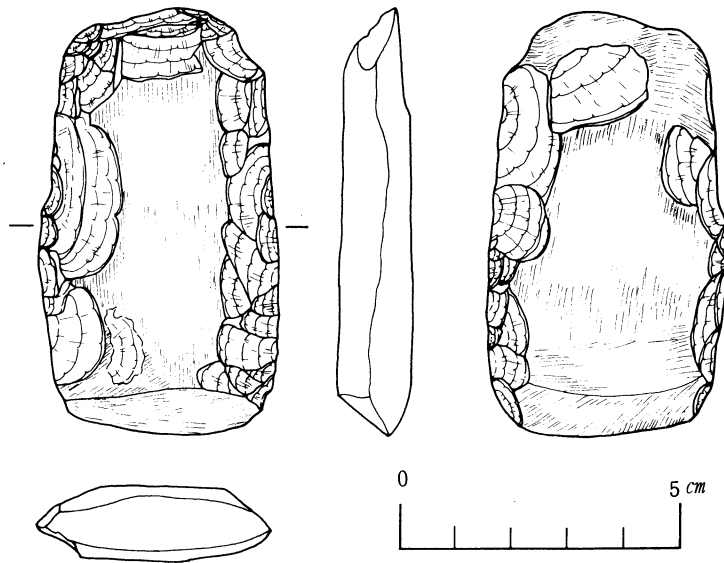
当遺跡の石斧は、研磨痕のはっきりした片刃の短冊形のものであり、第30ユニットの出土遺物の多量に検出されるなかで出土した。これも他に類似した石材がなく、製作の過程を考えるうえで問題点として残るところである。



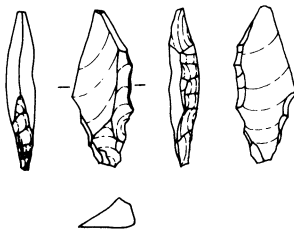
第308图 大型加工台形様石夷測図



第309図 石鉄・磨製石斧・ナイフ形石器出土分布図



第310図 磨製石斧実測図



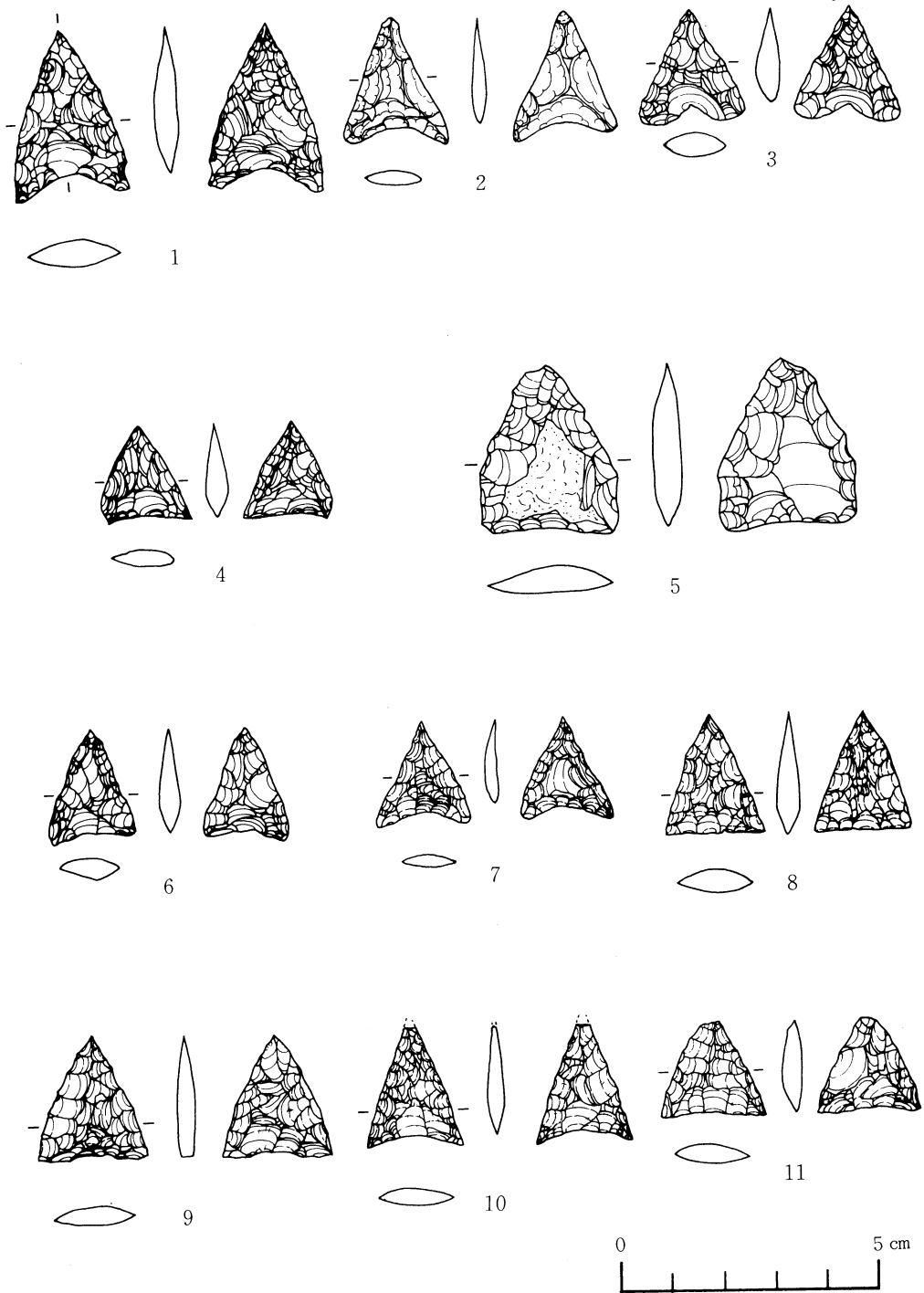
第312図 ナイフ形石器実測図

ナイフ形石器 (第312図)

ナイフ形石器は、B-13区で11層（暗茶褐色粘質土層）の下部に出土した。

形の整った縦長剥片を素材とし、素材の末端部を先端としている。折断によって打瘤をとり去り二側縁に急斜な調整剥離を行っている。調整剥離は、左側縁の基部は腹面（主剥離面）より背面にむかって施こし、右側縁部は背面から腹面にむかって施こしている。石材は赤味がかかった石英で長さ 3.8cm、幅 1.1cm、厚さ 0.5cmである。

ナイフ形石器は、他の細石器の遺物と違い、ユニット内の出土でなく単独で出土し、また層位も11層下部より出土する。それと石材の相違であるが、当遺跡では7万点弱の遺物が出土したのであるが、赤味がかかった石英は1点も出土していない。このことより、ナイフ形石器は、加栗山遺跡内で製作されたものでなく、また加栗山遺跡に人類が住みつく以前のもではなかろうか。



第311図 石鏃実測図

## 石鏃

現在、県内で細石器と共伴して石鏃が出土した例として、出水市上大川内上場遺跡と始良郡溝辺町石峰遺跡をあげることができる。

上場遺跡では、第Ⅱ層下部、第Ⅲ層上部に細石器、爪形文土器と共伴して、石峰遺跡では、5b層、6層に細石器と打製石斧、撚糸文土器と共伴して出土している。

加栗山遺跡では、13点の石鏃が出土した。

1は、第18ユニットから検出され、石材は黒曜石で長さ 2.7cm、幅 1.7cm、厚さ 0.3cmである。側縁はやや外湾し、抉りは浅く先端は鋭い。

2は、第23ユニットから検出され、石材は砂岩で長さ 1.9cm、幅 1.5cm、厚さ 0.3cmである。側縁はやや内湾し、抉りは浅く円味をもつ。先端は鈍い。

3は、第20ユニットから検出され、石材はチャートで長さ 1.8cm、幅1.55cm、厚さ0.35cmである。形態は、二等辺三角形で側縁は直で丸く抉りをいれ先端は鋭い。

4は、ユニット外から検出されD-13-22区より出土した。石材は石英で長さ 1.5cm、幅1.25cm、厚さ0.35cmである。側縁はやや外湾し、抉りは浅く先端は鋭い。

5も、ユニット外から検出されE-12-7区より出土した。石材は石英で長さ 2.6cm、幅 2.1cm、厚さ0.43cmである。側縁はやや外湾し、抉りは浅く先端は鈍い。

6は、第36ユニットより出土し、石材は石英で長さ 1.7cm、幅 1.3cm、厚さ 0.4cmで、形態は二等辺三角形で側縁は直で抉りは浅く先端は鋭い。

7は、ユニット外の検出でH-10-19区より出土している。石材は黒曜石で長さ 1.6cm、幅 1.4cm、厚さ 0.2cmで側縁は、両側は不規則である。抉りは浅く円味をもち、先端部は鋭い。

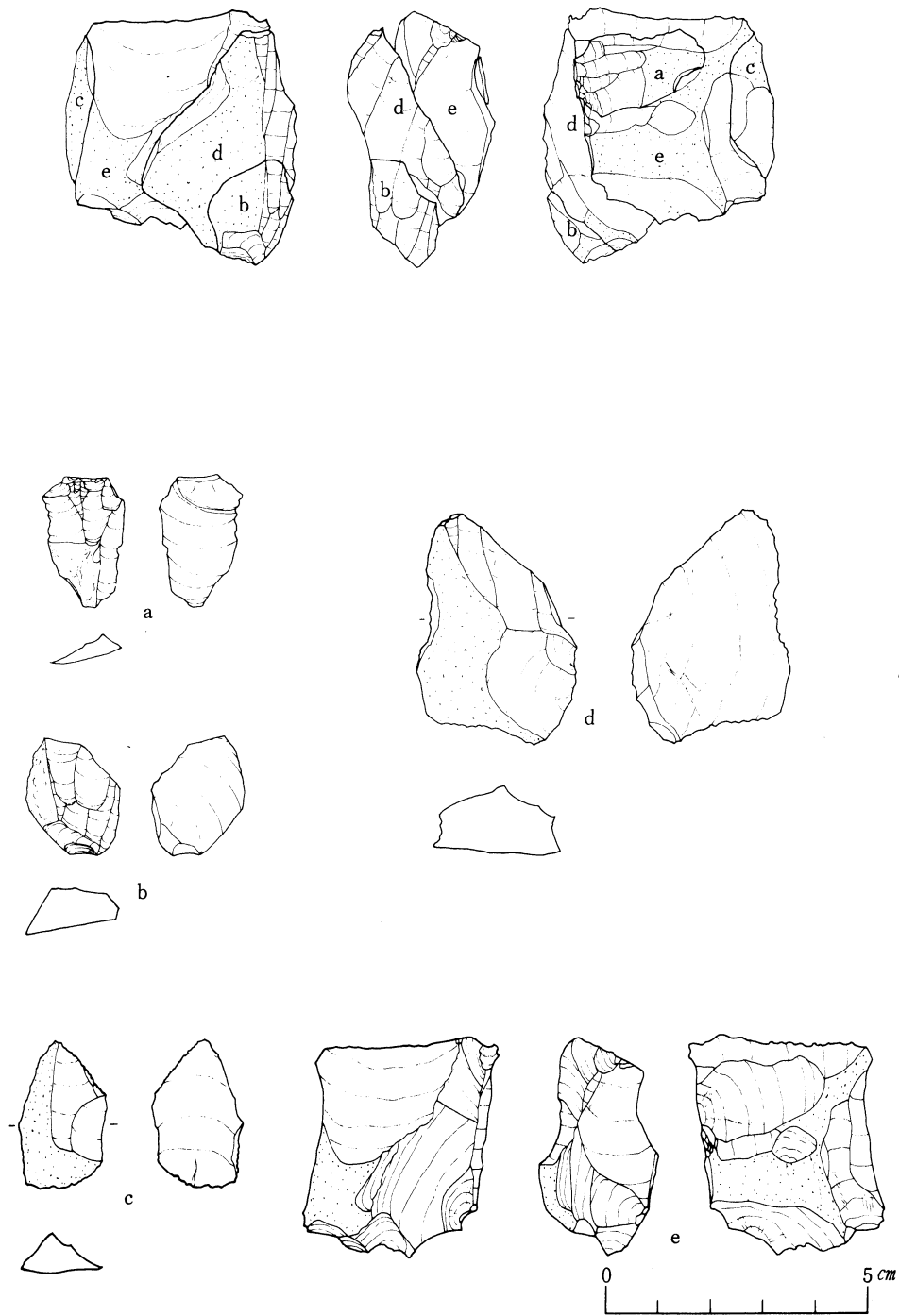
8は、第37ユニットの出土で、石材は黒曜石で長さ 1.9cm、幅1.45cm、厚さ0.36cmである。形態は二等辺三角形で側縁は直である。抉りはほとんどみられず先端部は鋭い。

9は、第29ユニットの出土で石材は黒曜石である。長さ 1.9cm、幅 1.6cm、厚さ0.28cmである。形態は二等辺三角形で側縁は直で、抉りもほとんどみられず先端部は鋭い。

10も、第29ユニットの出土で石材は硬質頁岩で長さ 1.9cm、幅1.45cm、厚さ0.26cmである。形態は二等辺三角形で側縁は直で、抉りは浅く、先端部は欠損しているが鋭いと思われる。

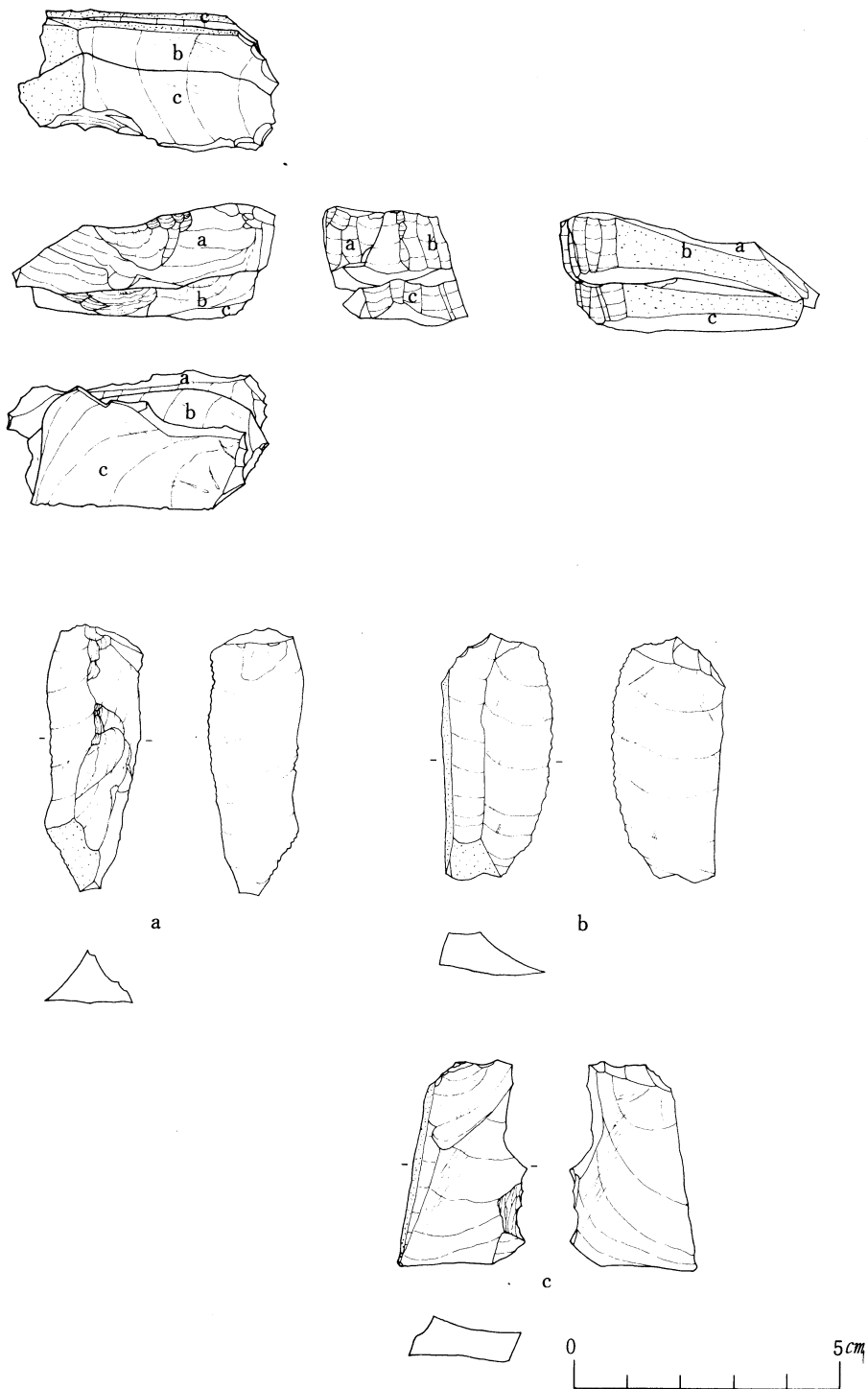
11は、第31ユニットの出土で、石材は黒曜石で長さ 1.5cm、幅1.54cm、厚さ0.37cmである。側縁はやや外湾し、抉りも浅く先端部は欠損している。

石鏃の出土状況は遺跡の台地全体に散在して出土している。またユニット内からの出土が多いがユニット外からの出土もみられる。石峰遺跡から出土の石鏃は基部の窪む凹基式に属し、また押圧剝離による整形も、両側縁・基部より入念に行なわれていると記載され本遺跡の7に形態的に類似している。このことより本遺跡では平基式の三角形鏃が主を示めるが、抉りを浅く円味をいれる石鏃も共伴すると思われる。

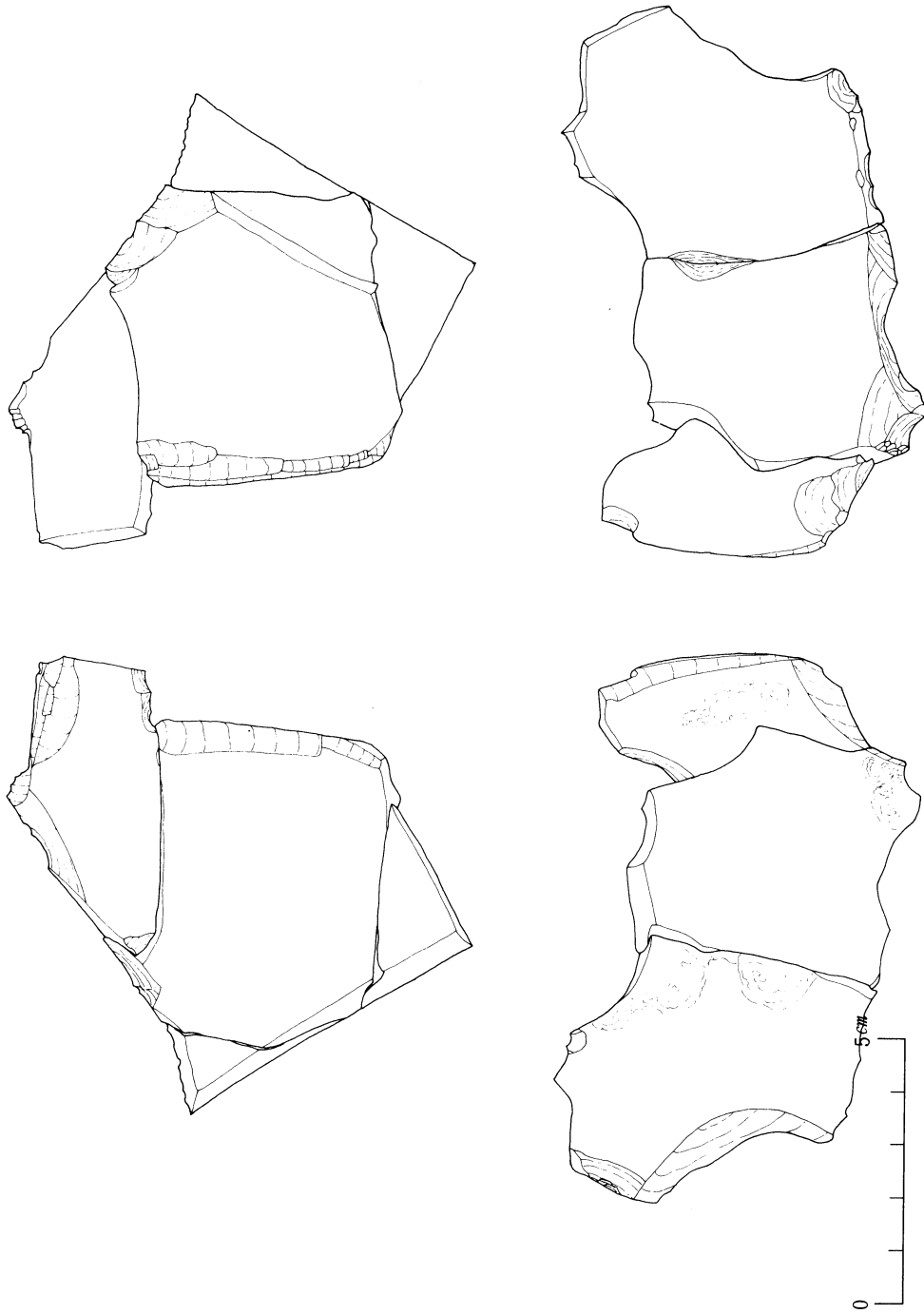


第313図 第32ユニット出土石器および接合図(1)

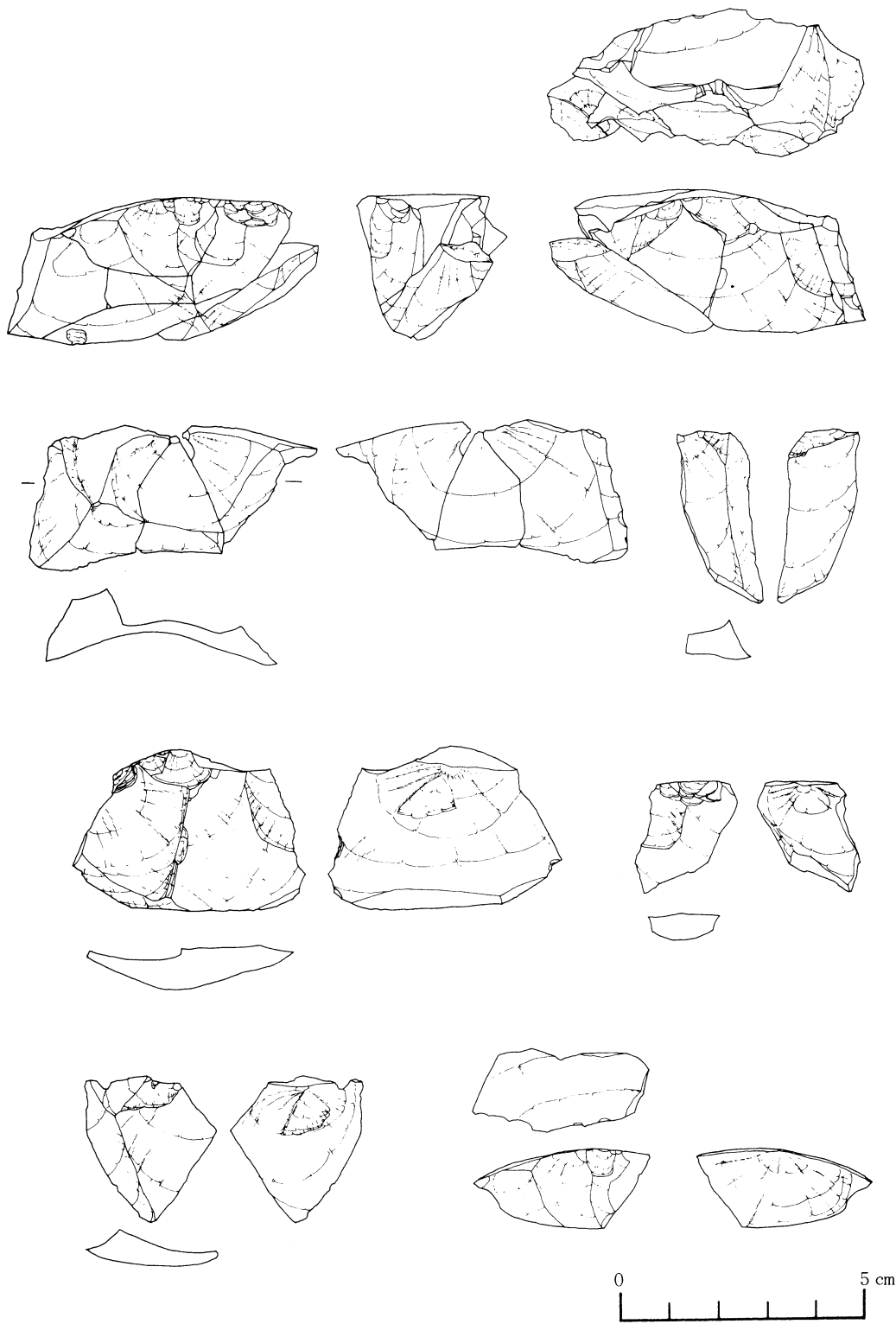




第314図 第32ユニット出土石器および接合図(2)



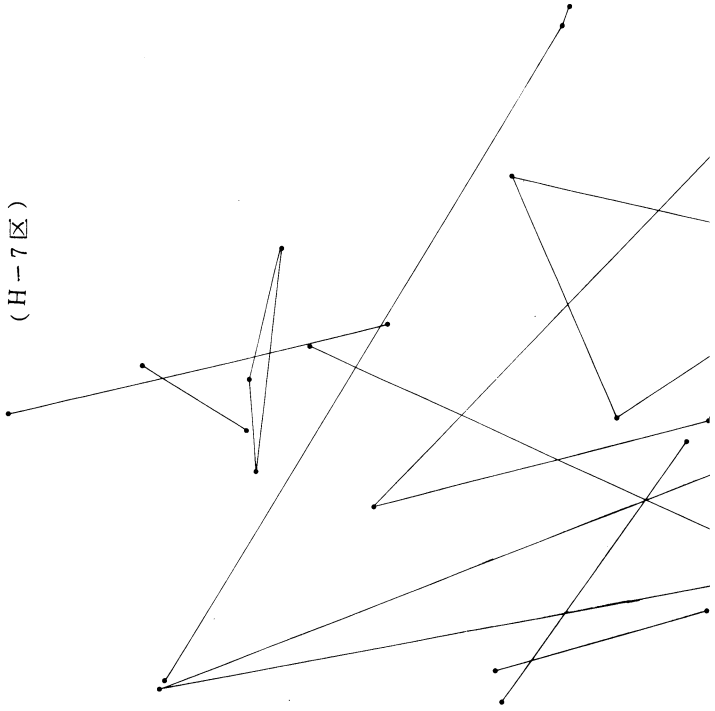
第315図 第32ユニット出土石器および接合図(3)(4)

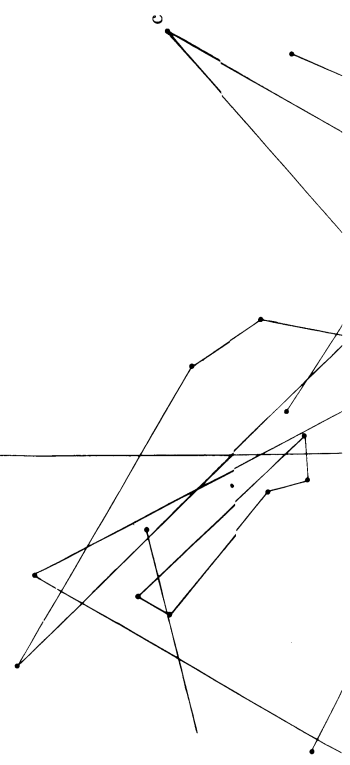
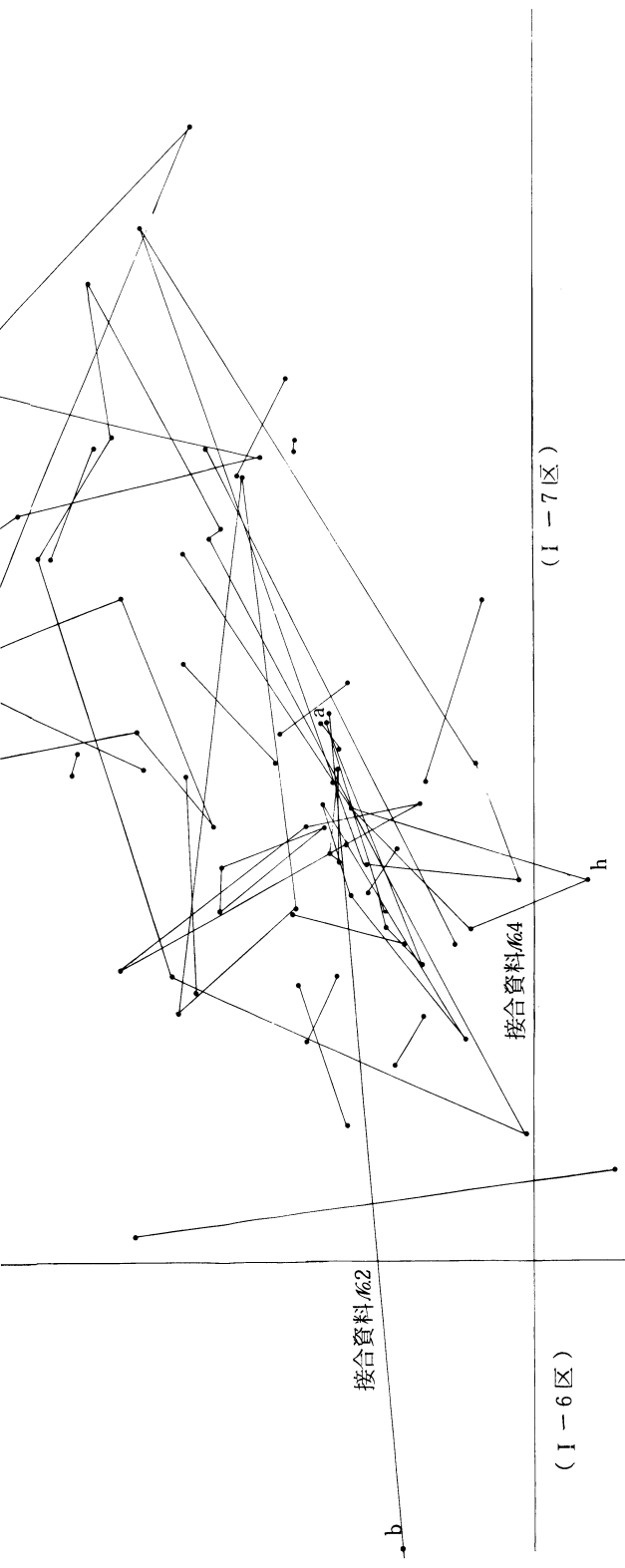


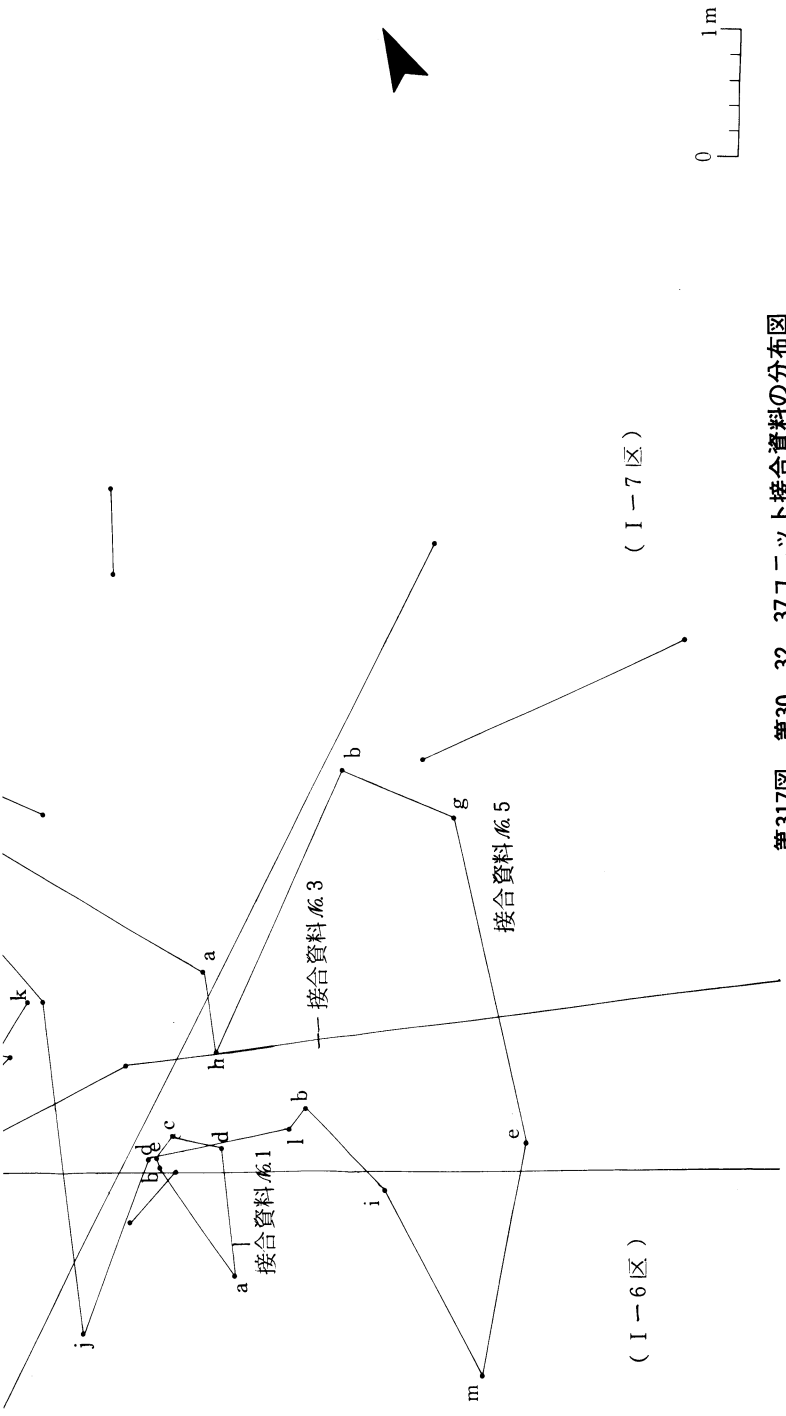
第316図 第37ユニット出土石器および接合図

(H-7区)

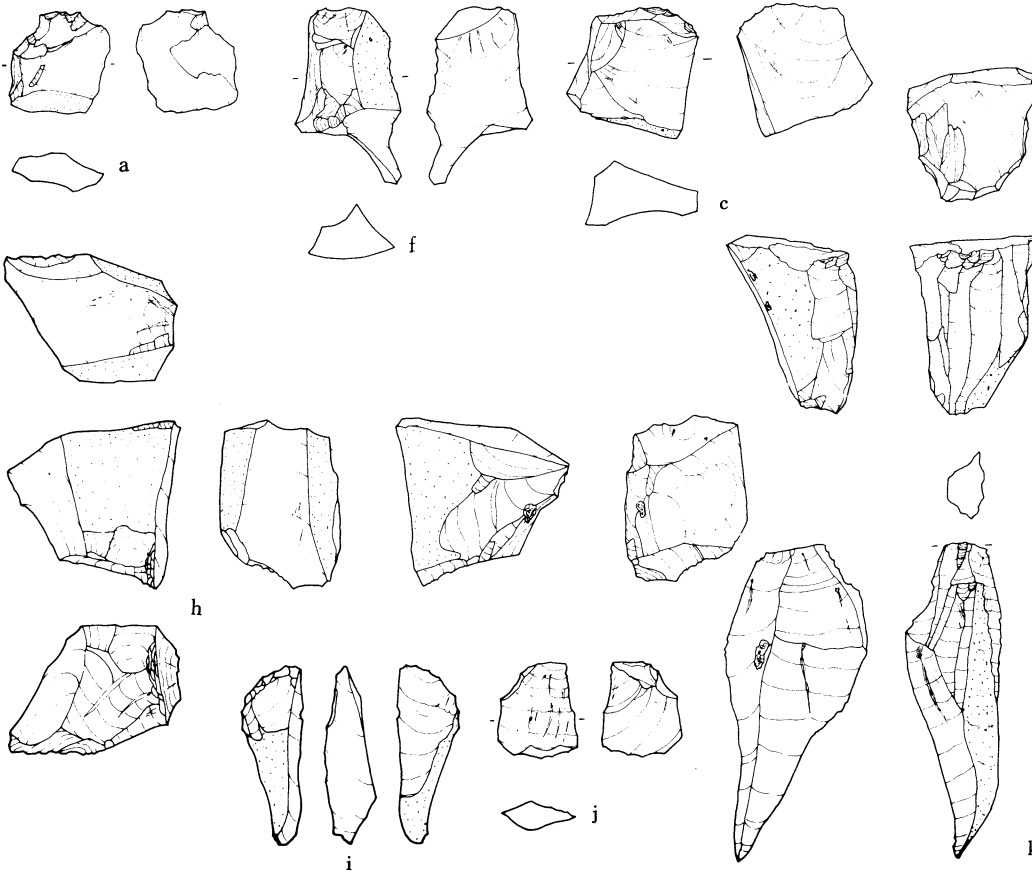
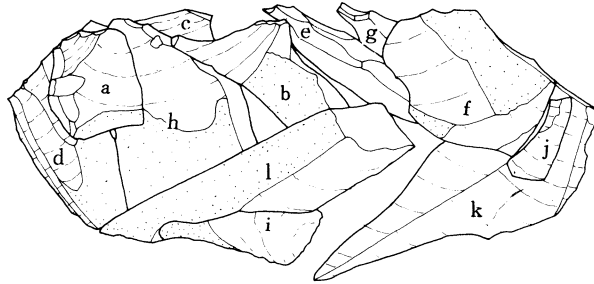
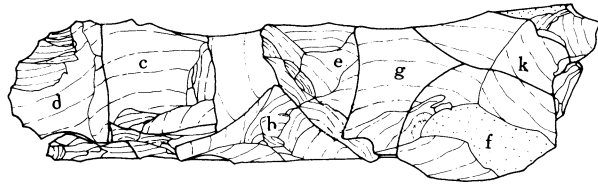
(H-6区)



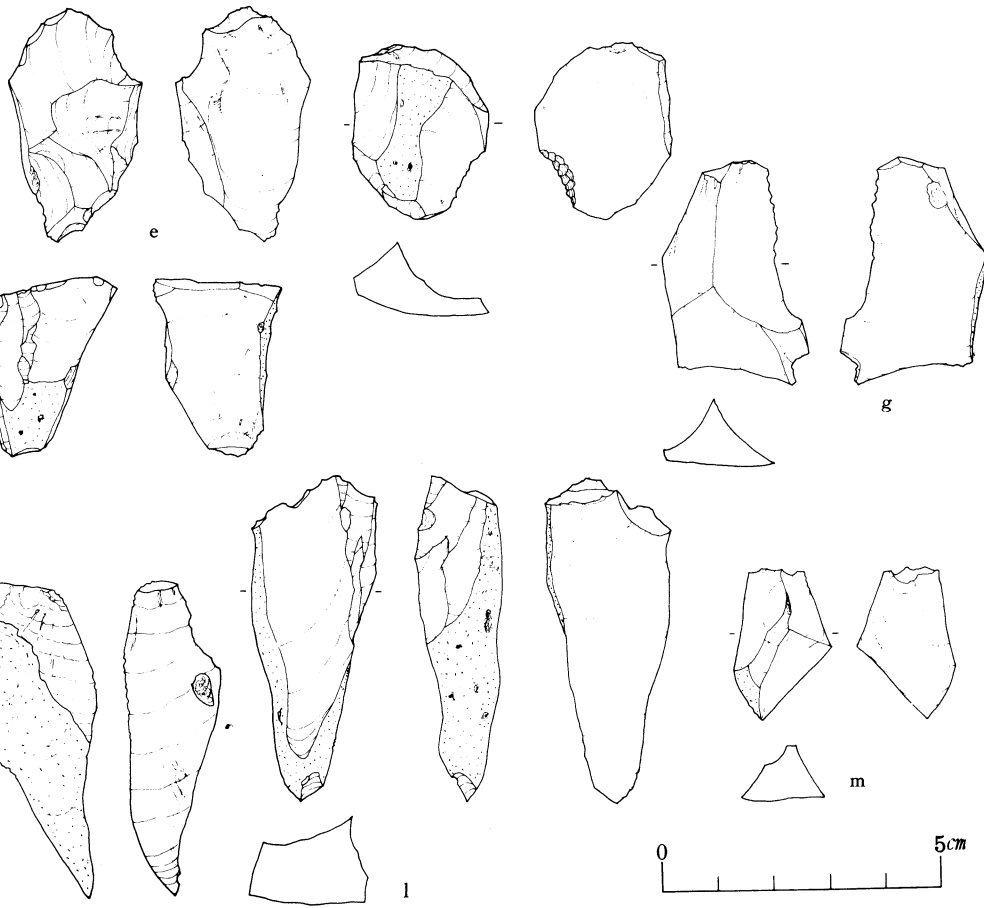
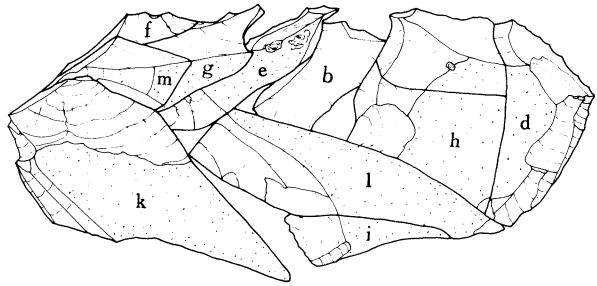




第317図 第30, 32, 37ユニット接合資料の分布図



第318図 第32ユニット出土石



器および接合図 No. 5 資料



## 5 節 石器群の遺存状態

### 接合例について

ユニット間の時期差及びユニット内における分布の状態を調べるため、当遺跡では接合を例としてみることにした。黒曜石の場合、石材の性格上不規則に割れるため、使用中での割れなのか、破棄以後の割れなのか判断がむずかしく、ここでは、凝灰岩B、硬質頁岩にかぎって接合例をとりあげてみた。

第 318図は、第30, 32, 37ユニットの接合資料の分布図である。図の上の接合は第37ユニットであり、下の接合は第30, 32ユニットである。この図でわかる様に第37ユニットと第32ユニットの中に接合資料がみられるが、接合図は大きく2つに大別できる。これは最初のユニットを判断する場合に差異が認められなかったのであるが、この図で示めされる様にユニットを判断できるのであろう。

第 314～317図は、接合図である。

第 314図は、第32ユニット出土の硬質頁岩の細石刃核の接合図である。自然面を多く残し、打面は大きな一打の剥離により準備し、細石刃剥出面は長く剥離されている。細石刃核からの剥離はeを核とし、4つの剥片に分けられるが、使用の認められる剥片はない。

第 315図は、第32ユニット出土の砂岩製の細石刃核の接合図である。やはり自然面を残しているが、a, bの細石刃剥出面が下位のcの細石刃剥出面よりとび出していることから、a, bは打面調整の剥片である。また同石材の下縁部も検出されたが接合できなかった。やはり剥片には使用痕は認められない。

第 316図は2点とも凝灰岩Bの細石刃核である。扁平な自然礫を素材とし、打面を折断によって作りだし細石刃を剥出している。3はその後、折断によって扁平礫を分割し、折断面を打面とし再び細石刃核として利用している。

4も凝灰岩の扁平礫を素材とし、打面部が欠損しているが下縁部に調整剥離を施している。但し、3つに折断により分割しているが再利用は認められない。

第 317図は、第37ユニットを中心にして接合した硬質頁岩の接合例である。残核を中心にして剥片の剥出状態が認められるが、これも剥片の再利用の痕が認められない。

当遺跡の接合例は何点かみられるが、剥出作業よりの再利用が認められるものが少ない。

## 小結

本報告では、先土器時代の遺物出土状態、遺物の分布状態に基づき第1ユニットから第38ユニットまで分離できた。また集中しなくユニットと呼べない個所もあったが、ユニット外の出土を一つにまとめて便宜上ユニットと呼称した。(第20, 23, 27ユニット)

また、集中個所も調査中、遺物が出土しはじめた状態で判別したため調査をすすめるにしたがい集中個所が移転することもあったが最初の状態のまま調査をすすめた。

加栗山遺跡の特徴として細石器文化と縄文的文化の共伴があげられる。

縄文的文化の特徴とあわせて遺物として、石鏃13点、大型加工台形様石(石皿)1点、磨製石斧1点が出土している。

石鏃は、石材は黒曜石、砂岩、チャート、石英、硬質頁岩などがあげられ、器種は平基式の三角形鏃と、基部の窪んだ凹基式の石鏃の二形態に大別されるが主体としては、平基式の三角形鏃である。尚、出土状態は遺跡の台地全体に散在し、出土層位は11層(暗茶褐色粘質土)の上部より出土している。

県内では、出水市上場遺跡、溝辺町石峰遺跡より出土しているが、上場遺跡では爪形文土器、石峰遺跡では撚糸文土器と共伴しているが、当遺跡では土器の出土は認められなかった。

大型加工台形様石は、第18ユニットの中心部より出土し、大型加工台形様石の下に黒曜石製の碎片がみられることから石器製作中での使用が考えられる。尚、第18ユニット内からは、磨石の出土はみられなかったが、当遺跡出土の槌石の中に研磨痕があり磨石として利用された可能性のあること等を考えあわせて石皿としての利用ができる。

磨製石斧は、第30ユニットの11層中位より出土した。遺物の出土状態はユニット全体の広がりを持ちすすめるにしたがい集中部分があらわれる。その部分はレンズ状に遺物が出土しやや大きめの剥片等が下部より出土した。このことは遺物の多いユニットすべてにいえることである。磨製石斧はそのレンズ状の中間部に出土した。九州での石斧の出土は、門田遺跡、石峰遺跡に出土がみられるが門田遺跡は局部磨製であり、また石峰遺跡は打製石斧であり一概に同一とは認められない。

細石刃核は黒曜石の場合大きく3つに大別した。

剥片の主要剥離面を側面とし、剥片の形状を著しく変化させないもの。

主要剥離面を打面とし、両側縁を調整するもの

小角礫を素材とするもの

また、当遺跡の700m北側に位置する加治屋園遺跡で多く検出された。凝灰岩の扁平礫を素材とし、折断による分割で打面調整し、細石刃核として利用したものなどがあげられる。

加治屋園遺跡との比較の中で、石器形態に類似したものが多いが、土器の共伴、石鏃の共伴等多くの相違が認められる。これらは今後の研究の大きな課題と思われる。

本県では、近年先土器時代の遺跡が多く発見、調査され(34遺跡)、出水市上場遺跡、大口市日東遺跡、指宿市小牧3A遺跡、栗野町木場A遺跡など多くの遺跡が現在整理中である。こ

れらと考えあわせ、今後大いに話題を提供するものであろう。

〈参考文献〉

- 小林達雄 「西日本の旧石器文化」 『日本の旧石器文化』 3 〈雄山閣〉 1976  
池水寛治 「鹿児島県出水市上場遺跡」 考古学集刊 3 - 4 1967  
池水寛治 「上場遺跡」 もぐら 6号 1967  
小林達雄他 「野川先土器時代遺跡の研究」 第4紀研究 10 - 4 1971  
木下 修 「門田遺跡」 『日本の旧石器文化』 3 〈雄山閣〉 1976  
福岡県教育委員会 「門田遺跡谷地区の調査」 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』 第  
11集 1979  
長野真一 「小牧3A遺跡の紹介」 『指宿市談』 創刊号 1979  
鹿児島県教育委員会 「石峰遺跡」 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ』  
1980

第27表 第1～4ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1-1	剥片	黒曜石	1	
2	1-3	細石刃	〃	2	
3	1-9	〃	〃	3	
4	2-1			4	
5	2-16				
6	2-27				
7	3-1			5	
8	4-23			6	

第28表 第5ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	18	剥片	黒曜石		
2	20	〃	〃	6	
3	26	細石刃核	〃	3	
4	37	剥片	〃		
5	49	細石刃核	〃		
6	68	〃	〃	4	
7	73	細石刃	〃		
8	75	〃	〃	1	
9	77	剥片	〃	7	
10	87	ブランク	〃		
11	97	細石刃核	〃		
12	117	剥片	〃		
13	123	〃	〃		
14	126	細石刃	〃		
15	136	削器	〃	5	
16	138	細石刃	〃	2	
17	141	石核	〃		残核
18	144	剥片	〃		
19	147	〃	〃		
20	160	石核	〃		

第29表 第6表ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1	剥片	黒曜石A	8	
2	3	細石刃	〃B	3	
3	11	剥片	〃A		
4	17	礫器	安山岩		
5	20	石核	黒曜石A	10	残核
6	22	剥片	砂岩	13	
7	24	細石刃	黒曜石A	5	
8	25	剥片	凝灰岩A	14	
9	26	〃	黒曜石A	11	
10	30	〃	〃B	12	
11	34	礫器	安山岩		
12	36	細石刃	黒曜石B	4	
13	69	〃	〃	1	
14	71	〃	〃A	6	
15	72	〃	〃B	2	
16	82	細石刃核	〃A	15	

第30表 第7ユニット出土石器

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	4	細石刃	黒曜石A	3	
2	8	〃	〃B	2	
3	16	〃	〃	1	
4	22	礫器	砂岩	5	
5	24	細石刃	黒曜石A	4	

第31表 第8ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	5	細石刃核	黒曜石B	1	
2	6	剥片	砂岩	7	
3	7	剥片	凝灰岩A	8	
4	10	細石刃核	黒曜石B	3	
5	24				
6	33	石核調整剥片	凝灰岩A	5	
7	36	細石刃核	凝灰岩A	2	
8	39	削器	黒曜石A	6	
9	40	細石刃核	凝灰岩A	4	

第32表 第9ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	8	細石刃	黒曜石B	3	
2	14	細石刃	黒曜石B	1	
3	16	細石刃	黒曜石A	4	
4	17	剥片、細石刃	黒曜石A	7-5	
5	19	剥片	黒曜石〃	8	
6	28	細石刃	黒曜石B		
7	42	剥片	黒曜石〃	9	
8	48	削器	凝灰岩A	6	

第33表 第10ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	3	細石刃	黒曜石B		
2	8	細石刃	黒曜石B	3	
3	9	細石刃	黒曜石A	4	
4	19	細石刃核	黒曜石A		
5	40	細石刃	黒曜石B	1	
6	41	細石刃	黒曜石A	5	
7	76	細石刃	黒曜石B	2	
8	77	削器	黒曜石B		
9	7	剥片	黒曜石A	6	

第34表 第11ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	3	細石刃核	黒曜石B		
2	11	剥片	黒曜石A	11	
3	27	削器	黒曜石A	13	
4	34	剥片	黒曜石A	12	
5	42	細石刃	黒曜石A	4	
6	50	細石刃	黒曜石A	3	
7	53	細石刃	黒曜石 $\phi$	1	
8	67	剥片	黒曜石B	14	
9	77	剥片	凝灰岩A		
10	78	剥片	凝灰岩A		
11	110	削器	黒曜石A	10	
12	137	石核 剝片	凝灰岩A	8	
13	139	細石刃	黒曜石B		
14	141	細石刃	黒曜石B		
15	145	細石刃	黒曜石A		
16	147	細石刃	黒曜石B	5	
17	149	細石刃	黒曜石B	7	
18	155	細石刃	黒曜石B	2	
19	172	細石刃	凝灰岩A	6	
20	177	細石刃核	凝灰岩A		
21	180	剥片	凝灰岩A		
22	183	剥片	凝灰岩A		
23	187	剥片	黒曜石A		
24	198	石核	凝灰岩A		
25	205	石核 剝片	凝灰岩A	9	

第35表 第12ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	1	細石刃	黒曜石B	9	
2	5	細石刃	黒曜石A	1	
3	23	残核	黒曜石B		
4	25	細石刃	黒曜石B	10	
5	37	剥片	黒曜石A	11	
6	61	細石刃	黒曜石A 黒曜石B	6-8	
7	77	細石刃	黒曜石A	4	
8	79	細石刃	黒曜石B	5	
9	81	細石刃	黒曜石A	2	
10	95	細石刃	黒曜石B	3	
11	97	剥片	黒曜石B	12	
12	99	細石刃	黒曜石B	7	

第36表 第13ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	15	剥片	黒曜石A	4	
2	51	細石刃	黒曜石B	1	
3	59	細石刃核	黒曜石A	3	
4	61	細石刃核	黒曜石B	2	

第37表 第14ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	4		黒曜石B		
2	12	剥片	黒曜石A		
3	13	削器	黒曜石A		
4	28				
5	48				
6	58				
7	60				

第38表 第15ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	4	細石刃	黒曜石A	4	
2	9	剥片	黒曜石A	13	
3	17	剥片	硬質頁岩	12	
4	18	細石岩	$\phi$	7	
5	19	細石岩	$\phi$	1	
6	24	細石岩	$\phi$	2	
7	34	剥片	$\phi$	11	
8	36	剥片	黒曜石A	15	
9	53	石核	$\phi$	8	
10	71	細石刃	$\phi$	5	
11	73	削器	$\phi$	10	
12	82	ブランク	$\phi$	9	
13	87	削器	$\phi$	14	
14	93	石核	$\phi$	17	
15	95	細石刃	$\phi$	3	
16	110	細石刃	$\phi$	6	

第39表 第16ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	1	剥片	黒曜石A		
2	5	細石刃	黒曜石 $\phi$	1	
3	7	削器	黒曜石B	2	
4	13	削器	黒曜石A	3	
5	14	剥片	$\phi$	6	
6	19	$\phi$	$\phi$	7	
7	48	$\phi$	$\phi$	8	
8	56	$\phi$	$\phi$	9	
9	75	$\phi$	$\phi$	10	
10	2	剥片	黒曜石A	4	

第40表 第17ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	24	剥片	黒曜石A	5	
2	31	剥片	$\phi$	9	
3	34	$\phi$	$\phi$	2	
4	35	細石刃	$\phi$	1	
5	36	削器	$\phi$	7	
6	37	削器	$\phi$	8	
7	41				
8	59	ブランク	黒曜石A	3	
9	60	剥片	$\phi$		
10	61	ブランク	$\phi$	4	
11	111	ブランク	$\phi$	6	

第41表 第18ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	12	細石刃核	黒曜石B		
2	13	細石片	〃		
3	14	細石刃核	黒曜石A		
4	17	剥片	〃	2	
5	18	細石刃核	黒曜石B		
6	28	石鏃	黒曜石A		
7	30	細石刃核	〃	4	
8	39	細石刃核	〃		
9	41	細石刃	〃		
10	42	細石刃核	〃		
11	45	剥片	〃		
12	49	細石刃	〃		
13	55	細石刃	〃		
14	63	細石刃核	黒曜石B		
15	65	細石刃核	黒曜石A	5	
16	76	細石刃	〃		
17	91	剥片	黒曜石B		
18	103	細石刃核	黒曜石A	6	
19	108	細石刃核	黒曜石B	3	
20	155	細石刃	黒曜石A		
21	160	剥片	〃		
22	173	細石刃核	黒曜石A		
23	174	細石刃核	〃		
24	176	細石刃	〃		
25	177	細石刃	〃		
26	218	細石刃核	黒曜石B		
27	219	剥片	硬質頁岩		
28	233	細石刃	頁岩		
29	239	細石刃	黒曜石A		
30	254	細石刃	〃		
31	268	細石刃核	〃		
32	282	細石刃	〃		
33	304	細石刃核	〃		
34	339	細石刃	〃		
35	356	細石刃核	〃		
36	357	細石刃核	黒曜石A		
37	359	細石刃	〃		
38	362	細石刃核	〃		
39	363	細石刃核	黒曜石A		
40	368	細石刃	〃		
41	370	削器	〃		
42	371	細石刃	黒曜石B		
43	375	剥片	黒曜石A		
44	392	細石刃	〃		
45	429	細石刃	〃		
46	447	細石刃	〃		
47	453	細石刃核	〃		
48	473	細石刃	〃		
49	492	細石刃核	〃		
50	494	細石刃	〃		
51	511	剥片	黒曜石A		
52	513	細石刃	〃		
53	518	剥片	〃		

54	538	細石刃	黒曜石A		
55	545	細石刃	〃		
56	547	細石刃	〃		
57	567	細石刃	〃		
58	592	細石刃	〃		
59	593	細石刃核	〃	9	
60	613	細石刃	〃		
61	614	細石刃核	〃		
62	615	細石刃	〃		
63	630	細石刃	〃		
64	639	剥片	〃		
65	641				
66	650	細石刃核	黒曜石A		
67	684	細石刃	頁岩		
68	686	細石刃	黒曜石A		
69	695	細石刃	〃		
70	698	細石刃	〃		
71	699	細石刃	〃		
72	704	剥片	〃		
73	708	剥片	〃		
74	712	細石刃	〃		
75	718	石核	〃		
76	746	細石刃核	〃		
77	765	剥片	〃		
78	776	細石刃	黒曜石B		
79	798	剥片	頁岩		
80	801	細石刃	黒曜石A		
81	807	細石刃	〃		
82	810	剥片	〃		
83	817	細石刃	〃		
84	832	細石刃	〃		
85	846	〃	〃		
86	861	〃	〃		
87	881	〃	〃		
88	882	〃	〃		
89	883	〃	〃		
90	884	〃	〃		
91	890	剥片	〃		
92	892	細石刃	〃		
93	894	〃	〃		
94	896	〃	〃		
95	899	〃	〃		
96	901	〃	〃		
97	903	〃	〃		
98	907	〃	〃		
99	917	〃	〃		
00	920	細石刃	黒曜石A		
101	924	細石刃	黒曜石A		
2	933	〃	〃		
3	936	〃	〃		
4	937	〃	〃		
5	939	〃	〃		
6	944	〃	〃		
7	945	細石刃	黒曜石A		
8	946	〃	〃		
9	950	〃	〃		
10	952	〃	〃		

11	954		〃	〃		
12	962		〃	〃		
13	967		〃	〃		
14	969		〃	〃		
15	973		〃	〃		
16	982		〃	〃		
17	986		〃	〃		
18	994		〃	〃		
19	999		〃	〃		
20	1000		〃	〃		
21	1002		〃	〃		
22	1008		〃	〃		
23	1010		〃	〃		
24	1011		〃	〃		
25	1018		細石刃	〃		
26	1021		〃	〃		
27	1025		〃	〃		
28	1028		〃	〃		
29	1040		〃	〃		
30	1046		〃	〃		
31	1054		〃	黒曜石B		
32	1061		〃	黒曜石A		
33	1063		〃	〃		
34	1067		〃	〃		
35	1069		〃	〃		
36	1071		〃	〃		
37	1101		〃	〃		
38	1122		〃	〃		
39	1137		〃	〃		
40	1147		〃	黒曜石B		
41	1153		細石刃	黒曜石A		
42	1161		〃	〃		
43	1170		〃	〃		
44	1187		〃	〃		
45	1188		〃	頁岩		
46	1190		〃	黒曜石A		
47	1193		〃	〃		
48	1200		〃	〃		
49	1203		〃	〃		
50	1205		〃	〃		
151	1206		細石刃A	黒曜石A		
52	1209		〃	〃		
53	1210		〃	〃		
54	1213		〃	〃		
55	1214		〃	〃		
56	1215		〃	頁岩		
57	1216		〃	黒曜石A		
58	1218		〃	〃		
59	1220		〃	頁岩		
60	1221		〃	〃		
61	1224		〃	黒曜石A		
62	1226		〃	〃		
63	1236		細石刃核	〃	8	
64	1237		細石刃核	硬質頁岩		
65	1238		細石刃	〃	1	
66	1239		〃	〃		
67	1240		〃	〃		
68	1245		〃	黒曜石B		

69	1246		〃	黒曜石A		
70	1259		〃	〃		
71	1280		〃	頁岩		
72	1291		〃	黒曜石A		
73	1295		〃	〃		
74	1299		〃	〃		
75	1302		細石刃	〃		
76	1305		〃	〃		
77	1309		〃	〃		
78	1311		〃	〃		
79	1312		〃	〃		
80	1316		〃	〃		
81	1318		〃	〃		
82	1324		〃	〃		
83	1325		〃	頁岩		
84	1331		〃	黒曜石A		
85	1341		〃	〃		
86	1342		〃	〃		
87	1344		〃	〃		
88	1383		〃	〃		
89	1394		〃	〃		
90	1385		剥片	〃		
91	1184		細石刃	〃		
92	463		〃	〃		
93	1263		〃	黒曜石B		
94	893		〃	〃		
95	898		〃	黒曜石A		
96	391		〃	〃		
97	1170		〃	〃		
98	1153		〃	〃		
99	1180		〃	〃		
200	382		〃	〃		
201	1019		細石刃	黒曜石B		
2	1022		〃	〃		
3	573		〃	〃		
4	568		〃	〃		
5	220		〃	〃		
6	163		〃	〃		
7	563		〃	〃		
8	1219		〃	〃		
9	1066		〃	〃		
10	31		細石刃	〃		

第42表 第19ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1	剥片	凝灰岩A	104	
2	2	〃	黒曜石A	106	
3	15	〃	〃	105	
4	19	〃	〃		
5	20	〃	〃	107	
6	23	石核	〃	114	
7	27	剥片	〃		
8	28	〃	〃	108	
9	32	〃	〃		
10	58	〃	〃		
11	60	細石刃	〃	61	

12	61	〃	〃	97
13	72	細石刃核	〃	100
14	86	剥片	〃	109
15	95	細石刃核	〃	101
16	98	剥片	〃	
17	122	原石	〃	
18	147	剥片	〃	
19	157	細石刃	〃	82
20	158	〃	〃	7
21	164	細石刃核	〃	102
22	169	細石刃	〃	40
23	191	〃	〃	
24	212	剥片	〃	110
25	218	剥片	〃	111
26	219	細石刃核	〃	103
27	225	削器	〃	
28	237	剥片	〃	
29	254	細石刃	黒曜石A	8
30	264	〃	〃	41
31	308	〃	〃	9
32	313	〃	〃	42
33	336	剥片	〃	
34	350	〃	〃	112
35	395	細石刃	〃	62
36	410	〃	〃	2
37	412	〃	〃	10
38	414	〃	黒曜石B	29
39	415	〃	〃	19
40	417	〃	〃	11
41	424	〃	〃	20
42	446	〃	〃	
43	469	〃	黒曜石A	63
44	470	〃	〃	69
45	473	〃	黒曜石B	43
46	475	〃	〃	30
47	490	〃	黒曜石A	79
48	494	〃	黒曜石B	12
49	665	〃	〃	13
50	672	〃	〃	44
51	701	細石刃	黒曜石B	3
52	719	〃	〃	31
53	731	〃	黒曜石A	47
54	733	〃	〃	48
55	739	〃	〃	49
56	740	〃	〃	83
57	743	〃	〃	84
58	744	〃	〃	98
59	746	〃	〃	85
60	751	〃	〃	70
61	760	〃	〃	86
62	763	〃	黒曜石B	87
63	767	〃	黒曜石A	71
64	773	〃	〃	88
65	816	〃	黒曜石B	72
66	823	〃	黒曜石A	92
67	824	〃	黒曜石B	14
68	830	〃	黒曜石A	51
69	832	剥片	〃	

70	833	細石刃	〃	56
71	836	〃	〃	64
72	868	〃	〃	99
73	873	〃	〃	73
74	884	〃	黒曜石B	32
75	888	〃	黒曜石A	54
76	897	〃	〃	74
77	901	〃	〃	55
78	906	〃	黒曜石B	15
79	912	〃	黒曜石A	
80	923	〃	〃	66
81	926	〃	凝灰岩	
82	934	〃	黒曜石A	46
83	938	〃	〃	67
84	952	〃	黒曜石B	4
85	955	〃	黒曜石A	76
86	956	〃	〃	
87	962	〃	黒曜石B	
88	450	剥片	黒曜石A	113
89	791	細石刃	〃	89
90	793	〃	〃	90
91	817	〃	〃	
92	828	〃	〃	93
93	829	〃	〃	50
94	858	〃	〃	52
95	825	〃	〃	45
96	879	〃	〃	53
97	950	〃	〃	75
98				
99				
00				

第43表 第20ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1	剥片	黒曜石A		
2	2	〃	〃		
3	3	石鏃	チャート		
4	10	細石刃	黒曜石A		
5	19	剥片	珪岩		

第44表 第21ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	11	細石刃	黒曜石A	278	
2	16	〃	〃		
3	17	〃	〃	256	
4	18	〃	〃	93	
5	24	〃	〃	216	
6	26	〃	〃	180	
7	28	〃	凝灰岩A	27	
8	29	〃	黒曜石A		
9	30	〃	〃	94	
10	34	〃	〃	95	
11	35	〃	〃	181	
12	39	〃	〃	48	
13	40	〃	〃	96	
14	41	〃	〃		
15	42	〃	〃	182	



16	44		〃	〃	97
17	47		〃	〃	98
18	59		〃	〃	257
19	64		〃	〃	99
20	69		〃	〃	258
21	90		細石刃	〃	217
22	93		〃	〃	218
23	95		〃	〃	183
24	100		〃	〃	184
25	107		〃	〃	100
26	108		〃	〃	233
27	109		〃	〃	
28	110		剝片	〃	
29	112		細石刃核	〃	293
30	113		細石刃	黒曜石B	49
31	130		〃	黒曜石A	185
32	132		〃	〃	186
33	133		〃	〃	219
34	134		フレンジ	〃	302
35	147		剝片	〃	
36	21		調整剝片	黒曜石A	
37	61			頁岩	
38	157		細石刃	黒曜石A	
39	172		〃	黒曜石B	259
40	185		剝片	黒曜石A	
41	191		細石刃	〃	101
42	197		〃	〃	50
43	200		〃	凝灰岩A	23
44	207		〃	〃	10
45	208		〃	黒曜石A	187
46	219		〃	〃	51
47	245		〃	〃	220
48	247		〃	〃	188
49	256		細石刃核	〃	292
50	275		細石刃	〃	260
51	278		細石刃核	凝灰岩A	280
52	290		石核	〃	
53	294		細石刃核	〃	281
54	302		細石刃	黒曜石A	221
55	304		〃	〃	261
56	316		細石刃核	凝灰岩A	284
57	325		細石刃	〃	11
58	338		残核	〃	
59	342		細石刃	黒曜石A	52
60	347		〃	〃	
61	358		〃	凝灰岩	1
62	361		剝片	〃	301
63	368		細石刃	〃	
64	376		細石刃核	〃	283
65	382		細石刃	〃	
66	395		削器	〃	304
67	398		細石刃	黒曜石A	189
68	406		〃	凝灰岩A	12
69	416		〃	黒曜石A	263
70	423		〃	〃	190
71	425		〃	〃	53
72	431		細石刃核	凝灰岩A	282
73	433		細石刃	黒曜石A	54

74	437		〃	〃	222
75	442		細石刃核	凝灰岩A	286
76	446		〃	〃	285
77	449		細石刃	黒曜石A	264
78	453		〃	〃	55
79	462		〃	〃	56
80	464		〃	〃	102
81	465		〃	〃	57
82	466		〃	〃	103
83	469		削器	〃	306
84	472		細石刃	〃	58
85	474		〃	〃	223
86	481		〃	〃	224
87	483		〃	〃	
88	484		〃	〃	104
89	486		〃	〃	
90	501		削器	〃	
91	511		細石刃	〃	105
92	519		〃	〃	106
93	521		〃	〃	192
94	522		〃	〃	107
95	529		〃	〃	108
96	530		〃	〃	109
97	532		〃	〃	111
98	533		〃	〃	59
99	535		〃	〃	60
100	536		〃	〃	112
101	539		細石刃	黒曜石A	113
2	544		〃	〃	193
3	546		〃	〃	114
4	547		〃	〃	61
5	550		〃	〃	191
6	553		〃	〃	225
7	557		〃	〃	
8	558		〃	〃	115
9	561		〃	〃	117
10	563		〃	〃	118
11	564		〃	〃	226
12	564		〃	〃	119
13	566		〃	〃	120
14	567		細石刃	黒曜石B	122
15	569		〃	黒曜石A	
16	571		〃	〃	123
17	573		剝片	〃	
18	578		細石刃	〃	124
19	589		〃	〃	125
20	591		〃	〃	126
21	594		〃	〃	265
22	595		〃	〃	
23	596		〃	〃	194
24	599		〃	〃	
25	607		〃	黒曜石B	127
26	609		〃	〃	40
27	625		細石刃核	凝灰岩A	288
28	627		細石刃	黒曜石A	46
29	640		残核	〃	
30	654		細石刃	黒曜石B	47

31	655		〃	〃	41	
32	657		〃	〃	42	
33	675		削器	黑曜石 A		
34	680		細石刃	〃		
35	690		石核	凝灰岩 A	310	
36	691		細石刃	黑曜石 A		
37	706		〃	〃		
38	713		剝片	〃		
39	714		細石刃	〃	227	
40	716		〃	〃	128	
41	719		剝片	〃		
42	725		細石刃	〃	195	
43	726		〃	黑曜石 A	129	
44	728		〃	〃	196	
45	732		〃	凝灰岩	13	
46	734		〃	黑曜石 A	197	
47	735		〃	〃	130	
48	736		〃	〃	198	
49	737		削器	〃	307	
50	738		細石刃核	〃	294	
51	742		細石刃	黑曜石 A	266	
52	752		〃	〃	199	
53	755		〃	〃		
54	757		細石刃核	〃	296	
55	758		細石刃	〃	267	
56	763		〃	〃	200	
57	776		〃	〃	63	
58	784		〃	〃	64	
59	787		〃	〃	228	
60	789		〃	〃	229	
61	791		〃	〃	132	
62	797		〃	〃	133	
63	805		剝片	凝灰岩 A		
64	811		〃	〃		
65	814		細石刃	黑曜石 A		
66	817		細石刃核	凝灰岩 A		
67	818		剝片	〃		
68	821		〃	黑曜石 A		
69	828		細石刃	凝灰岩 A	28	
70	838		剝片	凝灰岩 A		
71	839		削器	〃	303	
72	840		殘核	〃		
73	874		細石刃	黑曜石 A	230	
74	880		〃	凝灰岩 A	37	
75	883		〃	黑曜石 A		
76	884		〃	〃	134	
77	900		細石刃核	凝灰岩 A	287	
78	909		細石刃	凝灰岩 A	2	
79	933		〃	黑曜石 A		
80	935		〃	〃	135	
81	936		〃	〃	131	
82	953		〃	黑曜石 B	144	
83	957		〃	黑曜石 A	136	
84	960		剝片	凝灰岩 A		
85	973		細石刃	黑曜石 A	65	
86	974		〃	〃	232	
87	975		〃	〃	202	
88	980		〃	〃		

89	986		〃	〃		
90	987		〃	〃	66	
91	994		〃	〃	67	
92	999		細石刃核	〃	295	
93	1002		細石刃	黑曜石 A	203	
94	1003		剝片	〃		
95	1004		細石刃	〃	137	
96	1005		〃	〃	138	
97	1009		〃	〃	68	
98	1014		〃	黑曜石 B	45	
99	1016		〃	黑曜石 A	69	
200	1034		細石刃核	〃	298	
201	1037		細石刃核	黑曜石 A	297	
2	1038		〃	凝灰岩 A	289	
3	1056		剝片	黑曜石 A		
4	1057		〃	〃		
5	1070		〃	〃		
6	1076		〃	凝灰岩 A	309	
7	1077		〃	〃		
8	1078		細石刃	黑曜石 A	268	
9	1094		剝片	凝灰岩 A		
10	1011		〃	〃		
11	1012		〃	〃		
12	1108		細石刃核	黑曜石 A		
13	1112		〃	〃		
14	1123		剝片	〃		
15	1132		〃	〃		
16	1153		細石刃	〃	139	
17	D-15-7		〃	〃	37	
18	D-15-7		〃	〃	209	
19	〃		〃	〃	276	
20	〃		〃	〃		
21	D-15-7		〃	〃		
22	〃		〃	〃		
23	D-15-6		細石刃	黑曜石 A	24	
24	〃		〃	〃	25	
25	〃		〃	〃	26	
26	〃		〃	〃	29	
27	〃		〃	〃	30	
28	〃		〃	〃	31	
29	〃		〃	〃	36	
30	〃		〃	〃	38	
31	〃		〃	〃	73	
32	〃		〃	〃	74	
33	〃		〃	〃	77	
34	〃		〃	〃	79	
35	〃		〃	〃	80	
36	〃		〃	〃	81	
37	〃		〃	〃	82	
38	D-15-6		細石刃	黑曜石 A	83	
39	〃		〃	〃	84	
40	〃		〃	〃	85	
41	〃		〃	〃	86	
42	〃		〃	〃	87	
43	〃		〃	〃	88	
44	〃		〃	〃	89	
45	〃		〃	〃	90	

46		◇	◇	◇	91	
47		◇	◇	◇	92	
48		◇	◇	◇	153	
49		◇	◇	◇	154	
50		◇	◇	◇	155	
51	D-15-6	細石刃	黑曜石A		156	
52		◇	◇	◇	157	
53		◇	◇	◇	158	
54	D-15-6	細石刃	黑曜石A		159	
55	D-15-6	細石刃	黑曜石B		160	
56	D-15-6	◇	黑曜石A		161	
57		◇	◇	◇	162	
58	D-15-6	細石刃	◇		163	
59		◇	◇	◇	164	
60	D-15-6	細石刃	◇		165	
61		◇	◇	◇	166	
62		◇	◇	◇	167	
63		◇	◇	◇	168	
64		◇	◇	◇	205	
65		◇	◇	◇	206	
66		◇	◇	◇	207	
67		◇	◇	◇	208	
68		◇	◇	◇	210	
69		◇	◇	◇	238	
70		◇	◇	◇	239	
71		◇	◇	◇	240	
72		◇	◇	◇	241	
73		◇	◇	◇	242	
74		◇	◇	◇	243	
75		◇	◇	◇	244	
76		◇	◇	◇	245	
77	D-15-6	細石刃	凝灰岩A		246	
78		◇	◇	◇	247	
79		◇	◇	◇	248	
80		◇	◇	◇	249	
81		◇	◇	◇	250	
82		◇	◇	◇	251	
83		◇	◇	◇	252	
84		◇	◇	◇	253	
85		◇	◇	◇	271	
86		◇	◇	◇	272	
87		◇	◇	◇	273	
88		◇	◇	◇	274	
89		◇	◇	◇	275	
90		◇	◇	◇		
91		◇	◇	◇		
92		◇	◇	◇		
93		◇	◇	◇		
94		◇	◇	◇		
95		◇	◇	◇		
96	D-15-17	細石刃核	凝灰岩A		291	
97	D-15-22	削器	黑曜石A			
98	D-15-6	削器				
99	D-15-17	石核				
300	D-15-13	細石刃核	凝灰岩A		290	

301	D-15-1	剝片	黑曜石A		75	
2	D-15-13	剝片	凝灰岩A			
3	D-15-1	細石刃	黑曜石A		76	
4		◇	◇	◇	78	
5		◇	◇	◇	142	
6		◇	◇	◇	144	
7		◇	◇	◇	145	
8		◇	◇	◇	146	
9	D-15-1	細石刃	黑曜石B		71	
10	D-15-1	◇	黑曜石A		3	
11		◇	◇	◇	72	
12		◇	◇	◇	147	
13		◇	◇	◇	148	
14		◇	◇	◇	149	
15		◇	◇	◇	234	
16		◇	◇	◇	235	
17		◇	◇	◇	236	
18		◇	◇	◇	269	
19	D-14-10	細石刃				
20		◇	◇	◇		
21	D-15-12	細石刃			20	
22	D-14-15	細石刃	黑曜石A			
23	D-15-17	◇			34	
24	D-15-12	◇			33	
25	D-15-8	細石刃			32	
26	D-14-5	細石刃	黑曜石A		110	
27	D-15-8	◇	凝灰岩A			
28	D-15-2	細石刃	黑曜石A		14	
29		◇	◇	◇	15	
30	D-15-1	◇	黑曜石A		270	
31		◇	◇	◇		
32		◇	細石刃	◇		
33	D-15-17	細石刃	◇		211	
34	D-15-17	◇			212	
35	D-14-5	◇	黑曜石B			
36	D-15-7	◇	凝灰岩		169	
37	D-15-1	◇	黑曜石A			
38	D-15-6	◇				
39	D-15-6	細石刃			4	
40	D-15-6	◇	黑曜石A		5	
41	D-15-6	◇			6	
42		◇	◇	◇	7	
43		◇	細石刃		8	
44		◇	◇	◇	150	
45	D-15-6	◇	凝灰岩A		16	
46		◇	細石刃	◇	17	
47		◇	細石刃	◇	18	
48	D-15-6	◇			19	
49	D-14-5	細石刃	黑曜石A		140	
50	D-15-18	細石刃			35	
51	D-15-18	◇			255	
52	D-15-2	細石刃			152	
53		◇	細石刃		237	
54	D-15-12	細石刃			254	
55	D-15-7	細石刃			170	
56		◇	◇	◇	171	
57		◇	◇	◇		

58	〃	〃			
59	D-15-12	細石刃		305	
60	D-15-12	〃			
61	D-15-12	細石刃	黒曜石A		
62	D-15-7	〃			
63	〃	〃			
64	〃	〃			
65	〃	〃			
66	D-15-12	削器	凝灰岩		
67	D-15-22	細石刃核		308	
68	D-15-7	細石刃	黒曜石A		
69	327	細石刃	〃		
70	D-15-1	細石刃	凝灰岩	172	
71	D-15-7	〃	〃		
72	D-15-1	〃	黒曜石A		
73	D-15	〃	〃		
74	D-15-3	〃	〃		
75	D-15	〃	〃		
76	D-15-16	〃	〃	151	
77	D-15-15	細石刃核	〃	299	

第45表 第22ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	その他
1	2	細石刃	黒曜石A	104	
2	4	〃	〃	123	
3	8	〃	〃	166	
4	14	〃	〃	105	
5	17	剥片	凝灰岩	223	
6	23	細石刃	黒曜石A	124	
7	24	〃	黒曜石B	125	
8	25	〃	〃	19	
9	33	細石刃核	凝灰岩	213	
10	44	〃	黒曜石A	58	
11	45	〃	〃	59 167	
12	47	剥片	〃	224	
13	50	細石刃	〃	126	
14	55	〃	〃		
15	62	〃	〃	168	
16	66	〃	〃	127	
17	70	〃	黒曜石B	24	
18	91	〃	黒曜石A	106	
19	96	細石刃核	〃	214	
20	143	細石刃	〃	128	
21	144	〃	〃	129	
22	151	〃	〃	62	
23	196	〃	〃	169	
24	202	細石刃核	〃		
25	203	細石刃	〃	170	
26	213	ブランク	〃		
27	216	細石刃核	凝灰岩A		
28	224	細石刃	黒曜石A	171	
29	225	細石刃核	凝灰岩A	217	
30	226	〃	〃		
31	227	細石刃	黒曜石B		
32	230	剥片	凝灰岩A	226	
33	236	細石刃	黒曜石A	63	
34	239	〃	黒曜石B	54	

35	241	〃	黒曜石A	131	
36	149	〃		130	
37	243	〃	黒曜石A		
38	249	〃	黒曜石B	25	
39	252	〃	鉄石英	272	
40	258	〃	黒曜石B	21	
41	260	〃	〃		
42	262	〃	〃	26	
43	263	〃	黒曜石B	27	
44	268	〃	〃		
45	270	〃	黒曜石A	173	
46	271	〃	黒曜石B	28	
47	277	〃	黒曜石A	174	
48	296	剥片	〃	227	
49	308	細石刃	〃	175	
50	318	〃	〃	176	
51	319	細石刃	黒曜石A	177	
52	350	〃	〃	179	
53	357	〃	黒曜石B	30	
54	377	〃	黒曜石A	65	
55	384	剥片	〃	228	
56	397	〃	〃		
57	415	〃	〃	132	
58	416	〃	〃	133	
59	418	〃	〃	66	
60	422	〃	黒曜石A	107	
61	424	〃	〃	67	
62	426	〃	黒曜石B	34	
63	429	〃	黒曜石A	134	
64	432	〃	黒曜石B	31	
65	433	〃	〃	55	
66	436	細石刃核	凝灰岩A		
67	438	細石刃	黒曜石B	38	
68	439	〃	黒曜石A	180	
69	444	細石刃	鉄石英	1	
70	450	〃	硬質		
71	459	〃	黒曜石A	135	
72	445	細石刃		2	
73	478	〃	黒曜石A	136	
74	482	残核	〃	230	
75	495	〃	〃	229	
76	498	細石刃	黒曜石B	39	
77	499	〃	〃		
78	500	〃	黒曜石A	181	
79	504	〃	〃		
80	519	細石刃核	凝灰岩A		
81	520	細石刃	黒曜石A	182	
82	521	〃	黒曜石B	40	
83	527	〃	黒曜石A	108	
84	528	〃	黒曜石B	32	
85	529	〃	黒曜石A	137	
86	530	〃	〃	109 138	
87	535	〃	〃	69	
88	539	細石刃核	〃	219	
89	544	細石刃	〃		
90	557	〃	頁岩	13	
91	558	〃	黒曜石A		

101	602		細石刃	黒曜石A		
2	603		〃	〃	111	
3	102		〃	〃		
4	430		〃	〃		
5	542		細石刃			
6	869		〃			
7	564		〃		210	
8	64		〃			
9	613		細石刃	黒曜石A	71	
10	614		〃	〃		
11	630		〃	〃		
12	640		細石刃	黒曜石B	139	
13	647		〃	黒曜石A	43	
14	678		〃	〃	187	
15	695		〃	〃	73	
16	700		〃	〃	113	
17	718		〃	〃	114	
18	719		〃	黒曜石B		
19	723		〃	黒曜石A		
20	724		〃	黒曜石B	45	
21	730		〃	黒曜石A	74	
22	762		〃	〃	188	
23	768		〃	〃	141	
24	770		〃	〃	142	
25	774		〃	〃	75	
26	803		削器	黒曜石A	222	
27	862		細石刃核	〃	220	
28	863		細石刃	〃		
29	866		細石刃核	〃	221	
30	875		細石刃	黒曜石B	46	
31	879		〃	黒曜石A		
32	890		剝片	安山岩		
33		D-15-7	細石刃	黒曜石B	16	
34		C-14-24	〃	〃	192	
35		D-14-2	〃	〃		
36		C-14-24	〃	〃		
37		C-14-25	〃	〃	144	
38		D-14-2	〃	〃		
39		D-14-2	〃	〃		
40		D-14-4	細石刃	黒曜石A	4	
41		D-17-4	〃	〃		
42	870		〃	〃	143	
43		D-14-2	細石刃	黒曜石A	193	
44		D-15-7	〃	〃	190	
45		D-15-9	〃	〃		
46		D-14-4	〃	〃	5	
47		C-14-25	〃	〃		
48		D-14-9	〃	〃	231	
49		D-15-6	〃	〃		
50		D-14-9	〃	〃		
51		D-14-9	細石刃	黒曜石A		
52		D-15-9	〃	〃		
53		D-15-1	〃	〃	194	
54		D-14-4	〃	〃	15	
55		D-15-8	〃	〃		
56		D-15-7	〃	〃	195	
57		D-14-24	〃	〃		
58		C-14-24	〃	〃		

59		C-14-24	〃	〃		
60		C-14-24	〃	〃		
61		C-14-24	〃	〃		
62		C-14-24	〃	〃		
63		D-14-4	〃	〃	17	
64		D-14-4	〃	〃	18	
65		D-14-4	細石刃	凝灰岩A	48	
66		D-14-4	〃	黒曜石A	49	
67		D-14-4	〃	〃	50	
68		D-14-4	〃	〃	51	
69		D-14-4	〃	凝灰岩A	52	
70		〃	〃	〃	76	
71		〃	〃	〃	77	
72		〃	〃	〃	78	
73		〃	〃	〃	79	
74		〃	〃	〃	80	
75		D-14-4	細石刃	黒曜石A	81	
76		〃	〃	〃	82	
77		〃	〃	〃	83	
78		D-14-4	細石刃	凝灰岩A	84	
79		〃	〃	〃	85	
80		〃	〃	〃	86	
81		D-14-4	細石刃	黒曜石A	87	
82		〃	〃	〃	88	
83		〃	〃	〃	89	
84		〃	〃	〃	90	
85		〃	〃	〃	91	
86		D-14-4	〃	〃	92	
87		〃	〃	〃	93	
88		D-14-4	剝片	凝灰岩	94	
89		D-14-4	剝片	黒曜石A	95	
90		D-14-4	細石刃	〃	96	
91		D-14-4	〃	〃	97	
92		〃	〃	〃	98	
93		D-14-4	細石刃	黒曜石A	99	
94		〃	〃	〃	100	
95		〃	〃	〃	101	
96		〃	〃	〃	102	
97		〃	〃	〃	103	
98		〃	〃	〃	116	
99		〃	〃	〃	117	
200		〃	〃	〃	118	
201		D-14-4	細石刃	黒曜石A	119	
2		〃	〃	〃	120	
3		〃	〃	〃	121	
4		〃	〃	〃	145	
5		〃	〃	〃	146	
6		〃	〃	〃	147	
7		〃	〃	〃	148	
8		〃	〃	〃	149	
9		〃	〃	〃	150	
10		〃	〃	〃	151	
11		〃	〃	〃	152	
12		D-14-4	細石刃	黒曜石A	153	
13		〃	〃	〃	154	
14		〃	〃	〃	155	
15		〃	〃	〃	156	

16		◇	◇	◇	157
17		◇	◇	◇	158
18		◇	◇	◇	159
19		◇	◇	◇	160
20		◇	◇	◇	161
21		◇	◇	◇	162
22		◇	◇	◇	163
23	D-14-4	◇	◇	◇	164
24		◇	◇	◇	165
25		◇	◇	◇	166
26		◇	◇	◇	167
27		◇	◇	◇	168
28		◇	◇	◇	169
29		◇	◇	◇	196
30	D-14-4	◇	◇	◇	197
31		◇	◇	◇	198
32		◇	◇	◇	199
33		◇	◇	◇	200
34		◇	◇	◇	201
35		◇	◇	◇	202
36		◇	◇	◇	203
37		◇	◇	◇	204
38	D-14-4	細石刃	凝灰岩A		205
39	327	細石刃	◇		206
40	644	◇	◇		207
41	208	◇	◇		208
42	266	◇	◇		209
43	220	細石刃核	◇		216
44	102	細石刃核	黒曜石A		215
45	508	細石刃核	凝灰岩A		218
46	180	◇	◇		225
47	D-14-4	細石刃			
48	D-14-4	◇			
49	D-15-12	◇			7
50	D-15-12	◇			9
51	D-15-7	細石刃			23
52	C-14-24	◇			56
53	D-4-2	◇			37
54	C-14-25	◇			47
55	C-14-24	◇			33
56	D-4-2	◇			
57	D-14-4	◇			206
58	D-14-4	細石刃	黒曜石B		207
59	D-14-4	◇	硬質頁岩		208
60	D-14-9	細石刃核	黒曜石A		161
61	D-14-9	剥片	◇		162
62	220	細石刃核			
63	554	細石刃			
64	381		鉄石英		
65	421	細石刃	◇		
66	636	◇			185
67	72	◇			
68	697	◇			
69	676	◇			
70	625	◇			
71	C-14-24	細石刃			115
72	D-14-9	◇			
73	D-14-24	◇			36

74	D-15-5	◇			122
75	D-15-7	◇			
76	D-4-2	◇			57
77	2	◇			
78	D-14-4	◇			148
79	D-5	◇			164
80	D-14-9	◇			
81	D-15-6	◇			151
82	D-14-14	◇			152
83	D-15-1	◇			153
84	D-14-4	◇			8
85	C-15-9	◇			154
86	C-14-24	◇			211
87	D-15-9	◇			
88	C-14-4	◇			209
89	D-14-4	◇			
390	D-14-4	◇			212

第46表 第23ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	5		細石刃	黒曜石A		
2	22		石鏃			
3	28		細石刃			
4	33		残核	凝灰岩A		
5	37		剥片	◇		

第47表 第24ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	9		細石刃	黒曜石A	1	
2	14		◇	黒曜石B	2	
3	27		◇	◇	3	
4	34		◇	◇	4	
5	53		◇	黒曜石A	14	
6	58		細石刃核	◇	16	
7	68		細石刃	黒曜石B	10	
8	70		剥片	黒曜石A	20	
9	73		細石刃	◇	15	
10	83		剥片	凝灰岩A	21	
11	89		細石刃	黒曜石A	5	
12	99		剥片	◇	22	
13	140		剥片	黒曜石B	23	
14	154		◇	黒曜石A	24	
15	175		削器	黒曜石B	19	
16	188		剥片	黒曜石A	25	
17	195		細石刃	黒曜石B	6	
18	196		◇	黒曜石A	12	
19	226		◇	◇	7	
20	248		剥片	◇	26	
21	251		細石刃核	黒曜石A	17	
22	253		細石刃	◇	13	
23	257		◇	◇	8	
24	263		細石刃核	◇	18	
25	265		細石刃	頁岩	11	
26	274		◇	凝灰岩A	9	

第48表 第25ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	そ の 他
1	3	細石刃	黒曜石A		
2	29	削器	〃		
3	32	石核	〃		
4	42	剝片	〃	139	
5	87	細石刃	黒曜石A	1	
6	93	〃	黒曜石B	93	
7	101	剝片	〃	141	
8	104	細石刃	黒曜石A	2	
9	112	〃	〃	69	
10	122	石核	〃		
11	129	削器	〃		
12	158	細石刃	〃		
13	159	石核	〃		
14	173	細石刃	〃	3	
15	183	〃	〃		
16	215	〃	〃	4	
17	272	〃	〃	6	
18	328	細石刃核	〃	117	
19	337	細石刃	〃		
20	364	〃	〃		
21	369	石器	〃		
22	389	細石刃	黒曜石B	95	
23	419	〃	黒曜石A	7	
24	421	〃	〃	8	
25	441	〃	〃		
26	463	〃	〃	9	
27	516	石核	〃		
28	545	削器	〃	137	
29	547	細石刃	〃	10	
30	563	〃	〃	11	
31	576	細石刃	黒曜石B	71	
32	587	〃	黒曜石A	12	
33	616	削器	〃		
34	652	石核	〃	149	
35	696	〃	〃		
36	708	剝片	〃		
37	751	細石刃	〃	61	
38	791	石核	〃		
39	796	細石刃	〃	72	
40	804	石核	〃	152	
41	815	細石刃	黒曜石B	74	
42	817	〃	〃	15	
43	818	〃	黒曜石A	16	
44	821	〃	黒曜石B	97	
45	837	〃	〃	98	
46	854	〃	〃	99	
47	863	〃	〃	17	
48	875	〃	〃		
49	921	細石刃核	〃	118	
50	935	細石刃	〃	18	
51	939	細石刃	黒曜石A	19	
52	941	細石刃核	〃		
53	942	細石刃	〃	136	
54	949	細石刃	〃		

55	951	剝片	〃		
56	981	細石刃	〃	20	
57	1057	剝片	〃	142	
58	1064	細石刃	黒曜石B	111	
59	1074	細石刃	黒曜石A	22	
60	1105	剝片	〃	143	
61	1117	細石刃	〃	23	
62	1134	細石刃核	〃	119	
63	1138	細石刃	〃		
64	1179	〃	〃	24	
65	1211	〃	〃	25	
66	1212	細石刃核	〃	120	
67	1221	細石刃	〃		
68	1229	〃	黒曜石B	75	
69	1232	〃	〃	76	
70	1240	細石刃核	〃	121	
71	1253	剝片	黒曜石A	140	
72	1265	細石刃	〃	100	
73	1277	細石刃核	〃	122	
74	1298	細石刃	〃	26	
75	1310	〃	〃		
76	1322	〃	〃	63	
77	1338	〃	〃	27	
78	1342	剝片	〃	144	
79	1418	細石刃	黒曜石B	77	
80	1419	剝片	〃	145	
81	1443	細石刃	黒曜石A	28	
82	1462	〃	〃	29	
83	1470	〃	黒曜石B	78	
84	1501	〃	〃	101	
85	1508	〃	黒曜石A	64	
86	1508	細石刃核	〃	134	
87	1510	〃	〃	125	
88	1513	〃	〃	123	
89	1518	細石刃核	黒曜石A	124	
90	1521	細石刃	〃	79	
91	1523	〃	〃	30	
92	1525	剝片	〃	146	
93	1542	細石刃	黒曜石B	31	
94	1571	細石刃核	黒曜石A	32	
95	1572	細石刃	〃	102	
96	1576	〃	〃	80	
97	1581	剝片		147	
98	1583	細石刃			
99	1587	細石刃	黒曜石A	81	
100	1589	削器	〃	138	
101	1000	細石刃			
2	1608	細石刃	黒曜石A	82	
3	1612	〃	〃	83	
4	1655	剝片		148	
5	1695	細石刃核			
6	1731	〃		126	
7	1739	〃	黒曜石B	127	
8	1749	細石刃	黒曜石A	65	
9	1815	〃	〃	103	
10	1816	〃	〃	112	
11	1837	碎片	黒曜石A		

112	1838	細石刃	〃		
13	1864	細石刃核	〃	128	
14	1884	細石刃	黒曜石B	33	
15	1910	〃	〃	34	
16	1926	〃	〃	104	
17	1929	細石刃核	黒曜石A	130	
18	1943	〃	〃	129	
19	1959	細石刃			
20	1969	〃	黒曜石A	85	
21	1972	〃	〃	36	
22	1978	細石刃核	〃	131	
23	1980	細石刃	〃	35	
24	1984	〃	黒曜石B	37	
25	1989	剥片	黒曜石A	150	
26	1990	〃	〃	151	
27	1997	細石刃	〃	38	
28	1999	〃	〃	39	
29	2010	細石刃核	真岩	132	
130	2013	細石刃	黒曜石A	40	
31	2019	〃	黒曜石B	41	
32	2022	〃	黒曜石A	42	
33	2025	〃	〃	113	
34	2030	〃	黒曜石B	43	
35	2038	〃	黒曜石A	44	
36	2044	〃	〃		
37	2046	〃	〃		
38	2062	〃	〃	105	
39	2114	〃	〃		
140	2140	〃	〃	46	
41	85	細石刃	黒曜石B		
42	225	〃	〃	5	
43	264	〃	黒曜石A	94	
44	462	〃	黒曜石B		
45	694	〃	黒曜石A	13	
46	769	〃	黒曜石B	96	
47	810	〃	黒曜石B	73	
48	814	〃	黒曜石A	14	
49	992	〃	〃	21	
150	1954	〃	〃	84	
51	1593	細石刃核			
52	2190	細石刃	黒曜石A		
53	2204	〃	〃	47	
54	2205	〃	〃	86	
55	2205	〃	黒曜石A		
56	2211	〃	〃	106	
57	2213	〃	〃	44	
58	2214	〃	〃	50	
59	2221	〃	黒曜石B	107	
160	2225	〃	〃		
61	2226	〃	〃	51	
62	2233	剥片	黒曜石A		
63	2245	細石刃	黒曜石B	52	
64	2252	〃	黒曜石A	87	
65	2264	〃	〃	53	
66	2265	〃	〃	54	
67	2266	〃	黒曜石B	108	
68	2271	〃	〃	55	

69	2290	〃	黒曜石A	88	
170	2325	細石調整剥片			
71	2330	〃	黒曜石B	115	
72	2343	細石刃	〃	109	
73	2361	〃	黒曜石A	89	
74	2363	〃	〃	66	
75	2396	〃	黒曜石B	56	
76	2399	〃	〃	57	
77	2404	〃	黒曜石A	58	
178	2418	〃	黒曜石B	90	

第49表 第26ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	10		細石刃	黒曜石A	22	
2	22		〃	〃	23	
3	26		〃	〃		
4	66		〃	〃	25	
5	72		剥片	〃	85	
6	82		石核	〃	107	
7	90		細石刃	〃	12	
8	102		石核	〃	108	
9	112		細石刃	〃	26	
10	115		〃	〃	27	
11	119		細石刃核	〃	54	
12	122		細石刃	〃	1	
13	140		石核	〃	109	
14	149		〃	〃		
15	158		剥片	〃	82	
16	159		〃	〃	83	
17	163		〃	〃	84	
18	187		細石刃核	〃	55	
19	195		〃	〃	56	
20	205		細石刃	〃		
21	209		〃	〃	28	
22	210		剥片	〃	86	
23	224		細石刃	〃	29	
24	236		〃	〃	13	
25	245		細石刃核	〃	57	
26	246		細石刃	黒曜石A	30	
27	258		〃	〃	2	
28	280		〃	〃		
29	286		細石刃	黒曜石A	31	
30	286		〃	〃	3	
31	295		〃	黒曜石A	4	
32	315		細石刃核	〃	58	
33	330		剥片	黒曜石A	87	
34	335		〃	〃	88	
35	339		〃	黒曜石B	89	
36	355		〃	黒曜石A	90	
37	363		細石刃核	〃	59	
38	366		細石刃	〃	32	
39	367		〃	〃	33	
40	375		細石刃	〃	34	
41	450		剥片	〃	81	
42	458		細石刃	〃	8	
43	461		剥片	〃	91	
44	464		細石刃核	〃	60	



45	467		剥片	〃	
46	481		細石刃	〃	35
47	494		〃	〃	
48	497		細石刃核	〃	61
49	517		細石刃	黒曜石B	51
50	521		剥片	黒曜石A	92
51	526		剥片	黒曜石A	93
52	532		〃	〃	94
53	561		石核ブランク	黒曜石B	79
54	582		細石刃	黒曜石A	5
55	593		〃	〃	
56	604		〃	〃	43
57	628		〃	〃	9
58	629		〃	〃	44
59	630		〃	〃	6
60	632		〃	〃	45
61	636		〃	〃	7
62	651		細石刃核	〃	62
63	665		〃	〃	46
64	671		〃	〃	47
65	678		剥片	〃	96
66	700		細石刃核	黒曜石B	63
67	725		剥片	黒曜石A	
68	746		細石刃核	〃	64
69	772		細石刃	〃	
70	772		剥片	〃	97
71	778		細石刃	黒曜石A	14
72	779		石核ブランク	〃	78
73	788		細石刃核	〃	65
74	791		細石刃	〃	15
75	794		細石刃核	〃	67
76	798		細石刃	〃	36
77	804		〃	〃	37
78	807		剥片	〃	98
79	810		細石刃核	〃	66
80	839		剥片	〃	99
81	844		〃	〃	100
82	854		細石刃	〃	38
83	864		〃	〃	39
84	921		〃	〃	48
85	925		〃	〃	49
86	933		〃	〃	40
87	934		〃	〃	41
88	954		細石刃核	〃	69
89	956		〃	〃	68
90	961		細石刃	〃	10
91	973		〃	〃	
92	974		〃	黒曜石B	
93	1001		剥片	黒曜石A	102
94		J-4-3	細石刃	〃	11
95		〃	〃	〃	19
96		J-4-12	〃	〃	17
97		〃	〃	〃	20
98		J-4-16	細石刃	〃	21
99		J-4-6	〃	〃	18
100		J-4-2	〃	〃	42

101		J-4-12	細石刃	黒曜石A	
2		J-4-3	細石刃核	〃	72
3		J-4-3	剥片	〃	103
4		J-4-16	残核	〃	53
5		J-4-8	細石刃核	〃	73
6		J-4-7	剥片	〃	104
7		J-4-11	細石刃核	黒曜石B	70
8		J-4-6	細石刃核	黒曜石B	71
9		J-4-4	〃	黒曜石A	77
10		J-4-3	細石核ブランク	〃	75
11		J-4-8	削器	〃	74

第50表 第27ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	4	I-4-10	剥片	黒曜石A		
2	7	I-4-9	細石刃核	〃		
3	14	I-4-20	剥片	〃		
4	16	I-4-24	細石刃	〃		
5	20	I-4-23	〃	〃		
6	48	I-4-11	残核	〃		
7	79	I-3-15	剥片	〃		
8	84	I-3-10	玉髓	〃		
9	86	I-4-24	細石刃核	〃		
10	95	I-4-21	細石刃	〃		

第51表 第28ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	9		細石刃	黒曜石A	1	
2	10		剥片	〃	19	
3	12		〃	〃	20	
4	12		細石刃	〃	2	
5	18		剥片	〃 B		
6	21		細石刃核	〃 A	16	
7	23		細石刃	〃	14	
8	34		〃	〃	3	
9	48		細石刃核	〃	17	
10	59		剥片	〃		
11	61		〃	〃		
12	69		〃	〃		
13	80		〃	〃	24	
14	82		〃	〃	23	
15	84		〃	〃	25	
16	91		〃	〃	26	
17	93		細石刃	〃	12	
18	94		〃	〃	4	
19	95		〃	〃 B	5	
20	96		〃	〃 A	6	
21	102	J-4-21	剥片	〃		
22	106	〃	〃	〃	22	
23	106	〃	細石刃	〃	7	
24	115	〃	削器	〃	27	
25	123	J-4-16	細石刃	〃	15	
26	125	〃	剥片	〃	28	
27	129	〃	削器	〃	18	
28	147		細石刃	〃	8	
29	171		〃	〃	9	

30	182		〃	〃	13	
31	183		〃	〃 B	10	
32	197		剥片	〃 A	29	
33	200		細石刃	〃 B	11	
34	17		剥片	〃 A	21	

第52表 第29ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	そ の 他
1	1	J-5-9	石 鏃			
2	2	J-5-2	〃			
3	28	J-5-1	剥片	黒曜石A	498	
4	102	J-5-7	ブランク	〃	440	
5	249	J-5-8	細石刃	〃 B		
6	263	〃	剥片	〃 A	499	
7	322	J-5-13	細石刃	〃	255	
8	338	〃	〃	〃	256	
9	353	〃	剥片	〃	500	
10	371	〃	尖頭器	〃	463	
11	374	〃	細石刃	〃	130	
12	410	J-5-18	〃	〃	131	
13	424	J-5-23	剥片	〃	501	
14	426	〃	〃	〃	502	
15	431	J-5-4	細石刃核	〃	354	
16	433	〃	剥片	〃	503	
17	437	〃	細石刃	〃 B	257	
18	439	〃	〃	〃	1	
19	449	〃	剥片	〃 A	504	
20	466	〃	〃	〃	505	
21	476	〃	細石刃	〃 B		
22	477	〃	剥片	〃 A	506	
23	484	〃	細石刃核	〃	355	
24	493	J-5-9	剥片	〃	507	
25	496	〃	〃	〃	508	
26	523	〃	〃	〃	509	
27	565	〃	細石刃核	〃 B	335	
28	590	〃	細石刃	〃	171	
29	604	〃	尖頭器	〃 A	462	
30	638	〃	細石刃核	〃	356	
31	673	J-5-14	石 核	〃	611	
32	804	J-5-5	細石刃核	〃	357	
33	809	〃	〃	〃	358	
34	847	J-5-10	〃	〃	359	
35	868	〃	ブランク	〃	441	
36	929	〃	細石刃核	〃	361	
37	967	〃	細石刃	〃 B	258	
38	974	〃	〃	〃	50	
39	989	J-5-15	細石刃核	〃	334	
40	1001	J-5-4	〃	〃 A	465	
41	1055	〃	削器	〃	479	
42	1075	J-5-20	細石刃	〃	172	
43	1080	〃	〃	〃 B	51	
44	1147	J-6-6	石 核	〃	602	
45	1209	〃	細石刃	〃	52	
46	1260	〃	細石刃核	〃	336	
47	1291	J-6-11	細石刃	〃 A	2	
48	1303	J-6-16	細石刃核	〃	360	
49	1459	J-6-12	〃	〃 B	338	
50	1464	〃	細石刃	〃 A	132	

51	1468		細石刃	黒曜石B	173	
52	1503	J-6-8	細石刃核	真 岩	331	
53	1524	〃	細石刃	〃	53	
54	1526	〃	細石刃核	〃	332	
55	1535	J-6-13	削器	黒曜石A	480	
56	1554		細石刃	〃	54	
57	1568		〃	〃	174	
58	1572		剥片	〃	510	
59	1603	I-6-21	〃	〃	458	
60	1607	〃	細石刃核	〃 B	363	
61	1638	I-6-16	剥片	〃 A	511	
62	1733	I-5-25	〃	〃	512	
63	1746	〃	削器	〃	481	
64	1772	I-5-20	細石刃	〃 B	55	
65	1780	〃	〃	〃		
66	1790	〃	細石刃核	〃 A		
67	1818	I-5-24	ブランク	〃	442	
68	1830	〃	削器	〃		
69	1846	〃	細石刃	〃	259	
70	1882	〃	剥片	〃	513	
71	1912	I-5-19	〃	〃	464	
72	2002	I-5-23	細石刃	〃		
73	2027	〃	細石刃核	〃	362	
74	2062	J-5-5	〃	〃	364	
75	2069	〃	〃	真 岩	456	
76	2159	〃	〃	黒曜石A	365	
77	2268	J-5-10	〃	〃	366	
78	2356	〃	〃	〃	467	
79	2432	J-5-15	石 核	〃	603	
80	2433	〃	〃	〃	604	
81	2500	J-5-20	〃	〃	368	
82	2585	J-5-4	〃	〃	367	
83	2625	〃	細石刃	〃	176	
84	2637	〃	〃	〃 B	56	
85	2736	J-5-9	細石刃核	〃 A	370	
86	2777	〃	剥片	〃	514	
87	2790	J-5-14	〃	〃	517	
88	2793	〃	細石刃	〃	57	
89	2871	J-5-25	細石刃核	〃	369	
90	2913	J-5-19	細石刃	〃	134	
91	2979	J-5-25	〃	〃 B	58	
92	3026	J-5-23	削器	〃 A		
93	3026	〃	剥片	〃	515	
94	3174	J-5-8	細石刃	〃	260	
95	3180	〃	剥片	〃	516	
96	3185	〃	〃	〃	519	
97	3189	〃	細石刃	〃 B	261	
98	3202	〃	剥片	〃 A	520	
99	3240	J-5-3	細石刃核	〃	337	
100	3250	〃	石 核	〃	457	
101	3261	J-5-3	細石刃	黒曜石A	59	
102	3389	J-5-7	〃	〃	60	
103	3414	〃	〃	凝灰岩B	3	
104	3422	J-5-2	〃	黒曜石A	466	
105	3439	J-5-16	剥片	〃	521	
106	3688	J-5-25	細石刃核	〃	371	
107	3694	〃	〃	〃		

108	3841	I-6-21	〃	〃	372
109	3846	〃	〃	〃 B	339
110	3877	〃	剥片	〃 A	
111	3880		細石刃	〃 B	262
112	3893		石核	〃 A	605
113	4008	I-6-16		〃	482
114	4033		細石刃核	〃	373
115	4058	I-5-20	〃	〃	374
116	4207	I-6-13	〃	凝灰岩	330
117	4234	J-6-12	剥片	黒曜石A	523
118	4239	〃	細石刃	〃	
119	4258	J-6-7	尖頭器	〃	468
120	4511	〃	細石刃	〃 B	177
121	4656	〃	細石刃核	〃 A	375
122	4820	J-6-2	剥片	〃	
123	4831		細石刃	〃 B	178
124	4847		細石刃核	〃 A	376
125	4858		剥片	〃	526
126	5011		細石刃	〃 B	4
127	5019		剥片	〃 A	524
128	5021		細石刃	〃 B	179
129	5028		〃	〃	5
130	5040		〃	〃	180
131	5073	J-6-1	石核	〃 A	607
132	5077	〃	細石刃核	〃 B	340
133	5085	〃	剥片	〃 A	527
134	5095	J-6-1	〃	〃	528
135	5125	〃	ブランク	〃	
136	5144	〃	細石刃	〃	6
137	5146	〃	石核	〃	608
138	5150		細石刃	〃 B	181
139	5168		細石刃	〃	136
140	5173		〃	〃	
141	5186		細石刃	〃	137
142	5230	J-6-6	細石刃核	〃 A	377
143	5277	〃	細石刃	〃 B	7
144	5387	〃	〃	〃	182
145	5401	〃	〃	〃	264
146	5442	〃	細石刃核	〃 A	378
147	5443	〃	剥片	〃	
148	5494	〃	細石刃	〃 B	62
149	5561		〃	〃	8
150	5574		細石刃核	〃 A	379
151	5623	J-6-11	剥片	黒曜石A	530
152	5676	J-6-16	〃	〃	533
153	5692	〃	〃	〃	531
154	5700	J-6-21	細石刃核	〃	380
155	5701	〃	剥片	〃	
156	5703	〃	細石刃核	〃	383
157	5705	〃	彫器	〃	478
158	5724	I-5-23	細石刃核	〃	
159	5791	I-5-24	細石刃	〃 B	183
160	5832	〃	〃	〃	63
161	5957	J-6-8	剥片	〃 A	536
162	6005	J-5-5	削器	〃	
163	6302	〃	細石刃核	頁岩	333
164	6573	J-5-10	剥片	黒曜石A	534

165	6666	J-5-15	〃	〃	535
166	6789	J-5-20	細石刃	〃 B	265
167	6831		〃	〃 A	266
168	6905	J-5-25	〃	〃 B	64
169	7093	J-5-9	細石刃核	〃 A	385
170	7094	〃	剥片	〃	537
171	7104		細石刃核	〃	382
172	7148		〃	〃	
173	7301		剥片	〃	538
174	7358		細石刃	〃 B	65
175	7405		〃	〃	
176	7439		剥片	〃 A	539
177	7468		細石刃	〃	66
178	7479		〃	〃	184
179	7488		細石刃核	〃	386
180	7519		剥片	〃	
181	7535		ブランク	〃	
182	7674	J-5-8	剥片	〃	541
183	7750	〃	細石刃	〃 B	185
184	7757	〃	〃	〃	267
185	7897	〃	剥片	〃 A	542
186	7900	〃	〃	〃	
187	7951	J-5-10	〃	〃	543
188	8032		細石刃	〃	268
189	8155	J-5-15	〃	〃 B	269
190	8301	J-5-4	剥片	〃 A	545
191	8312	〃	〃	〃	546
192	8325	〃	〃	〃	544
193	8388	J-5-9	細石刃核	〃	384
194	8444	〃	剥片	〃	547
195	8505	J-5-14	細石刃	〃	186
196	8600	J-5-5	〃	〃 B	188
197	8620	〃	〃	〃	67
198	8640	〃	剥片	〃 A	
199	8650	〃	細石刃	〃 B	
200	8665	〃	〃	〃	189
201	8714	J-5-5	削器	黒曜石B	
202	8724	〃	細石刃	〃	190
203	8743	〃	削器	〃 A	484
204	8758	〃	ブランク	〃	443
205	8815	〃	剥片	〃	549
206	8817	〃	〃	〃	551
207	8824	〃	〃	〃	550
208	8871	J-5-10	〃	〃	552
209	8943	〃	細石刃	〃	9
210	8977	J-5-15	〃	〃	270
211	9033	〃	削器	〃 B	486
212	9060	〃	石核	〃 A	609
213	9229	J-5-4	細石刃	〃 B	271
214	9245	〃	〃	〃	191
215	9247	〃	〃	〃	272
216	9377	J-5-9	細石刃核	〃	341
217	9394	〃	〃	〃 A	387
218	9419	〃	剥片	〃	553
219	9438	〃	細石刃	〃	68
220	9526	J-5-14	〃	〃	273
221	9589	〃	〃	〃 B	

222	9670	J-5-8	剥片	〃A	554				
223	9721	J-5-5	細石刃	〃B	192				
224	9736		細石刃核	〃	342				
225	9742		細石刃	〃	10				
226	9768		ポイント	〃A	470				
227	9779		剥片	〃	555				
228	9831		細石刃核	〃	388				
229	9842		細石刃	〃	69				
230	9937	J-5-10	細石刃核	〃B	343				
231	10,022	J-6-1	細石刃	〃	139				
232	10,023	〃	〃	〃	11				
233	10,043		細石刃核	〃A	389				
234	10,053		剥片	〃	556				
235	10,058		細石刃	〃B	274				
236	10,070		〃	〃	70				
237	10,079		〃	〃A	71				
238	10,093		〃	〃B	72				
239	10,105		〃	〃	193				
240	10,188		ブランク	〃A	444				
241	10,189		細石刃	〃B	194				
242	10,190		〃	〃A	276				
243	10,195		〃	〃					
244	10,202		〃	〃B	277				
245	10,227		〃	〃A	278				
246	10,240		〃	〃B	195				
247	10,260		細石刃核	〃	344				
248	10,277		〃	〃A	390				
249	10,287		プレイバー	〃					
250	10,326	J-6-6	角錐状石器	〃B					
251	10,426	J-6-6	細石刃	黒曜石A	279				
252	10,452	〃	〃	〃	280				
253	10,568	J-6-7	剥片	〃	557				
254	10,613		細石刃核	〃	391				
255	10,663		細石刃	〃	73				
256	10,713		〃	〃B	196				
257	10,736		〃	〃A					
258	10,746		〃	〃B	74				
259	10,760		〃	〃	75				
260	10,903	J-6-2	〃	〃	140				
261	10,910	〃	〃	〃	12				
262	10,935	〃	〃	〃	282				
263	10,944	I-6-21	剥片	〃A	558				
264	10,965	〃	細石刃	〃B	283				
265	10,967	〃	〃	〃A	141				
266	10,972	I-5-25	剥片	〃	559				
267	10,995	〃	細石刃	〃B	284				
268	11,000	〃	ブランク	〃					
269	11,098	I-5-24	剥片	〃	560				
270	11,101	〃	細石刃核	〃	392				
271	11,105	〃	剥片	〃	562				
272	11,113	〃	細石刃	〃B	13				
273	11,115	〃	〃	〃	14				
274	11,141	J-6-1	剥片	〃A	564				
275	11,174		細石刃核	〃B	345				
276	11,188		ブランク	〃A					
277	11,200		細石刃	〃B	76				
278	11,228		〃	〃	285				
279	11,239		〃	〃	286				
280	11,299		〃	〃	287				
281	11,328	J-6-6	剥片	〃A	561				
282	11,330		細石刃	〃	197				
283	11,389		〃	〃B	142				
284	11,407		剥片	〃A	566				
285	11,412		削器	〃B	487				
286	11,422		細石刃	〃	143				
287	11,429		〃	〃	198				
288	11,447		細石刃核	〃	347				
289	11,448		細石刃	〃	199				
290	11,502	J-6-2	〃	〃					
291	11,537	〃	〃	〃	16				
292	11,538	〃	〃	〃	288				
293	11,539	〃	〃	〃	77				
294	11,569	〃	ブランク	〃A					
295	11,590	〃	細石刃	〃B					
296	11,610	〃	剥片	〃A	563				
297	11,622	〃	細石刃	〃B	289				
298	11,663	J-6-7	〃	〃A	201				
299	11,680	〃	剥片	〃					
300	11,694	〃	細石刃核	〃	393				
301	11,720	J-6-7	細石刃核	黒曜石A	394				
302	11,743	〃	細石刃	〃	78				
303	11,755	〃	細石刃核	〃	395				
304	11,780	〃	ブランク	〃	446				
305	11,781	〃	細石刃核	〃B					
306	11,811	J-6-6	細石刃	〃	144				
307	11,821	〃	〃	〃A	145				
308	11,839	〃	〃	〃B	17				
309	11,858	〃	〃	〃A	447				
310	11,864	〃	細石刃	〃					
311	11,876	〃	〃	〃B	18				
312	11,902	〃	〃	〃	460				
313	11,903	〃	細石刃	〃	203				
314	11,945	〃	〃	〃	19				
315	12,008	J-6-1	〃	〃	79				
316	12,013	〃	剥片	〃A	565				
317	12,015	J-6-6	ブランク	〃	448				
318	12,018	J-6-1	細石刃核	〃	396				
319	12,027		ポイント三稜尖 状のブランク	〃	475				
320	12,057		細石刃	〃B	204				
321	12,068		〃	〃A	205				
322	12,090		〃	〃B	80				
323	12,103		〃	〃	206				
324	12,113		〃	〃	81				
325	12,149		〃	〃	207				
326	12,151		細石刃核	〃A	398				
327	12,166		〃	〃	397				
328	12,189		細石刃	〃	208				
329	12,196		細石刃核	〃B	346				
330	12,200		細石刃	〃	290				
331	12,210		〃	〃	146				
332	12,231		細石刃核	〃A	399				
333	12,237	I-5-25	細石刃	〃B	83				
334	12,327	〃	剥片	〃A	567				
335	12,338	〃	〃	〃	568				

336	12.359	〃	細石刃	〃	209
337	12.378	〃	ブランク	〃	
338	12.390	〃	細石刃	〃 B	84
339	12.407	〃	〃	〃	291
340	12.559	J-6-2	〃	〃	147
341	12.563		〃	〃	148
342	12.565		〃	〃	85
343	12.750	J-6-6	〃	〃	292
344	12.804	〃	〃	〃 A	20
345	12.823	〃	〃	〃 B	86
346	12.836	〃	〃	〃	87
347	12.913	J-6-1	〃	〃	88
348	12.924	〃	削器	〃	488
349	12.977	J-6-6	細石刃核	〃 A	400
350	13.010	〃	ブランク	〃 B	
351	13.047	J-6-6	細石刃	黒曜石 B	210
352	13.064	〃	〃	〃	89
353	13.087	〃	細石刃核	〃	348
354	13.113	〃	石核	〃	
355	13.155	J-6-7	細石刃	〃	90
356	13.171	〃	〃	〃 A	211
357	13.215	〃	〃	〃 B	91
358	13.221	〃	〃	〃	21
359	13.342	J-6-2	細石刃核	〃 A	401
360	13.405	〃	剥片	〃	
361	13.536	〃	細石刃	〃 B	149
362	13.582	J-5-24	〃	〃	92
363	13.584	〃	細石刃核	〃 A	402
364	13.592	〃	細石刃	〃 B	293
365	13.595	〃	〃	〃 A	
366	13.605	〃	〃	〃 B	
367	13.657	〃	〃	〃	294
368	13.672	〃	ブランク	〃 A	
369	13.700	J-5-25	〃	〃	449
370	13.748	〃	細石刃核	〃	403
371	13.761	J-5-21	細石刃	〃	212
372	13.765	〃	細石刃核	〃 B	404
373	13.782	〃	ブランク	〃 A	
374	13.789	〃	剥片	〃	570
375	13.840	〃	細石刃	〃	93
376	13.845	〃	〃	〃	150
377	13.916	J-5-22	〃	〃	151
378	14.054	〃	〃	〃 B	213
379	14.109	〃	〃	〃	94
380	14.132	J-5-26	剥片	〃 A	
381	14.137	〃	細石刃	〃	95
382	14.160	〃	〃	〃 B	96
383	14.275	J-5-7	細石刃核	〃 A	406
384	14.281	〃	〃	〃	461
385	14.458	〃	細石刃	〃 B	97
386	14.575	J-5-2	〃	〃	22
387	14.639	〃	剥片	〃 A	571
388	14.742	〃	細石刃核	〃 B	349
389	14.762	〃	細石刃	〃 A	98
390	14.813	J-5-7	〃	〃 B	
391	14.817	〃	〃	〃	99
392	14.920	J-5-5	〃	〃 A	100

393	14.927	J-5-4	〃	〃 B	101
394	15.051	〃	ブランク	〃 A	450
395	15.056	J-6-1	細石刃核	〃	407
396	15.064	〃	剥片	〃	572
397	15.068	J-6-21	細石刃核	〃 B	350
398	15.132	J-6-6	〃	〃 A	409
399	15.148	〃	細石刃	〃 B	
400	15.153	〃	剥片	〃 A	573
401	15.514	J-5-22	細石刃	黒曜石 A	214
402	15.571	J-5-13	〃	〃	102
403	15.575	〃	〃	〃	296
404	15.602	J-5-7	細石刃核	〃	408
405	15.614	〃	削器	〃	
406	15.640	J-5-24	剥片	〃	
407	15.846	J-5-9	細石刃核	〃	410
408	15.956	J-5-24	細石刃	〃 B	103
409	15.959	〃	削器	〃	
410	16.003	J-5-20	細石刃	〃	297
411	16.011	〃	〃	〃	215
412	16.015	J-5-10	〃	〃	152
413	16.100	〃	削器	〃 A	
414	16.106	〃	細石刃核	〃	413
415	16.112	〃	細石刃	〃	153
416	16.161	〃	ブランク	〃	
417	16.206	J-5-25	細石刃	〃 B	23
418	16.255	〃	〃	〃	216
419	16.264	〃	細石刃	〃	154
420	16.268	〃	〃	〃	24
421	16.290	〃	〃	〃 A	155
422	16.291	〃	〃	〃	217
423	16.346	J-5-7	細石刃核	〃	412
424	16.587	〃	細石刃	〃 B	104
425	16.646	〃	細石刃核	〃 A	414
426	16.657	〃	細石刃	〃 B	218
427	16.662	J-5-6	削器	〃	
428	16.663	J-6-6	細石刃	〃	105
429	16.678	〃	〃	〃	25
430	16.681	〃	細石刃核	〃 A	415
431	16.690	〃	削器	〃	
432	16.703	〃	剥片	〃	
433	16.709	J-6-6	細石刃核	〃	416
434	16.740	〃	細石刃	〃 B	156
435	16.745	〃	〃	〃	219
436	16.755	〃	〃	〃 A	220
437	16.774	〃	細石刃核	〃 B	
438	16.784	〃	剥片	〃 A	
439	16.821	〃	細石刃	〃 B	157
440	16.829	〃	〃	〃 A	106
441	16.845	J-6-11	剥片	〃	
442	16.851	J-6-6	〃	〃 B	577
443	16.880	J-6-1	〃	〃 A	578
444	16.888	J-6-2	細石刃	〃 B	107
445	16.893	J-6-6	〃	〃	27
446	16.969	J-6-7	〃	〃	221
447	16.988	J-6-6	〃	〃	26
448	16.999	〃	〃	〃	222
449	17.003	〃	〃	〃	28
450	17.006	〃	〃	〃	29

451	17,016	J-6-6	細石刃	黒曜石B	108
452	17,022	〃	〃	〃	223
453	17,030	〃	〃	〃	298
454	17,041	〃	〃	〃	109
455	17,051	〃	〃	〃 A	
456	17,058	〃	細石刃核	〃 B	417
457	17,069	〃	細石刃	〃	299
458	17,109	I-6-21	ブランク	〃 A	
459	17,117	J-6-1	細石刃核	〃	418
460	17,145		剥片	〃	579
461	17,217		細石刃	〃 B	30
462	17,234		〃	〃 A	300
463	17,241	J-6-6	〃	〃 B	
464	17,263	〃	〃	〃	31
465	17,273	〃	〃	〃	32
466	17,278		〃	〃	159
467	17,339		細石刃	〃 A	301
468	17,474	J-5-15	剥片	〃 B	
469	17,532	〃	〃	〃 A	582
470	17,540	〃	石核	〃	610
471	17,587	〃	剥片	〃	581
472	17,644	J-5-5	細石刃	〃 B	224
473	17,651		〃	〃 A	111
474	17,663		〃	〃 B	34
475	17,683		剥片	〃 A	583
476	17,701		〃	〃 B	584
477	17,727		細石刃	〃	
478	17,730		〃	〃	112
479	17,767		〃	〃	113
480	17,769		〃	〃	302
481	17,774		細石刃核	〃	
482	17,785		細石刃	〃	35
483	17,794		〃	〃	114
484	17,799		剥片	〃 A	585
485	17,836		細石刃	〃 B	303
486	17,892		剥片	〃 A	586
487	17,906		細石刃	〃	304
488	17,978	J-5-24	剥片	〃	587
489	18,004	〃	細石刃	〃 B	116
490	18,008	〃	〃	〃 A	117
491	18,023	〃	〃	〃 B	118
492	18,084	J-5-4	〃	〃 A	305
493	18,102	J-5-9	〃	〃 B	225
494	18,177	J-5-19	〃	〃	226
495	18,184		〃	〃 A	36
496	18,210	I-6-21	〃	〃	161
497	18,249	〃	〃	〃	119
498	18,257	〃	〃	〃 B	227
499		〃	〃	〃	306
500	18,268	〃	細石刃核	〃 A	419
501	18,358	I-6-22	細石刃	黒曜石A	120
502	18,405	〃	〃	〃 B	37
503	18,469	〃	〃	〃	121
504	18,543	J-5-5	〃	〃 A	38
505	18,548	〃	〃	〃	228
506	18,560	J-6-1	細石刃核	〃 B	352
507	18,687	〃	削器	〃	489
508	18,765	J-6-2	細石刃	〃 A	229

509	18,766	J-6-1	〃	〃	163
510	18,816	〃	〃	〃 B	
511	18,911	J-5-25	剥片	〃 A	588
512	18,910	〃	細石刃	〃 B	39
513	18,961	〃	〃	〃	230
514	18,967	〃	〃	〃 A	40
515	18,970	〃	〃	〃 B	231
516	18,976	〃	〃	〃	122
517	19,056	J-5-5	〃	〃	123
518	19,116	〃	〃	〃 A	164
519	19,118	〃	石核	〃	612
520	19,232	〃	細石刃	〃 B	165
521	19,273	J-5-15	〃	〃 A	308
522	19,450	〃	〃	〃 B	124
523	19,455	J-5-20	剥片	〃 A	589
524	19,459	〃	細石刃	〃 B	309
525	19,477	J-5-19	〃	〃 A	41
526	19,576	J-5-9	細石刃核	〃	420
527	19,623	J-5-19	削器	〃	490
528	19,659	J-5-3	細石刃	〃 B	232
529	19,694	J-6-2	細石刃核	〃 A	421
530	19,713	J-6-2	細石刃	〃	42
531	19,735	〃	〃	〃	43
532	19,768	〃	〃	〃	233
533	19,815	J-6-7	〃	〃	44
534	19,829	〃	〃	〃	45
535	19,896	〃	〃	〃	234
536	20,000	〃	石核	〃	
537	20,109	〃	細石刃核	〃	422
538	20,127	〃	細石刃	眞岩	166
539	20,154	J-6-1	〃	黒曜石A	125
540	20,157	〃	〃	〃	46
541	20,181	〃	細石刃核	〃	
542	20,182	〃	細石刃	〃 B	235
543	20,231	〃	〃	〃 A	47
544	20,243	〃	〃	〃	126
545	20,314	〃	〃	〃 B	310
546	20,359	〃	剥片	〃 A	590
547	20,405	J-6-6	細石刃	〃 B	127
548	20,459	〃	〃	〃	48
549	20,495	〃	〃	〃	311
550	20,593	J-5-15	〃	〃	236
551	20,619	J-5-15	細石刃	黒曜石A	128
552	20,636	〃	〃	〃 B	129
553	20,652	J-5-10	〃	〃 A	312
554	20,659	〃	剥片	〃	591
555	20,669	〃	細石刃	〃	237
556	20,792	J-5-5	剥片	〃	592
557	20,922	〃	細石刃	〃	313
558	21,002	〃	ブランク	〃	
559	21,039	〃	細石刃	〃	
560	21,075	〃	細石刃核	〃	424
561	21,080	〃	細石刃	〃 B	314
562	21,125	I-5-25	尖頭状削器	〃 A	492
563	21,168	I-5-20	細石刃	〃	167
564	21,170	〃	〃	〃	168
565	21,180	〃	〃	〃	
566	21,183	〃	〃	〃	315

567	21,238	J-5-9	細石刃核	〃	425	
568	21,259	〃	細石刃	〃		
569	21,260	I-6-22	〃	頁岩	238	
570	21,316	J-6-2	〃	黒曜石A		
571	23,125	〃	尖頭器	〃	477	
572	21,431	J-6-7	細石刃	〃 B		
573	21,432	〃	〃	〃 A		
574	21,450	〃	〃	〃 B		
575	21,457	〃	〃	〃	316	
576	21,506	〃	〃	〃	239	
577	21,521	〃	〃	〃	240	
578	21,533	〃	細石刃核	〃 A	427	
579	21,697	J-6-1	細石刃	〃 B		
580	21,775	〃	削器	〃	491	
581	21,785	〃	細石刃	〃	317	
582	21,793	〃	〃	〃 A	318	
583	21,804	J-6-6	〃	〃		
584	21,813	〃	細石刃核	〃	426	
585	21,860	〃	〃	〃	428	
586	21,927	I-5-25	細石刃	〃		
587	21,996	J-5-3	〃	〃		
588	22,049	J-5-20	〃	〃 B		
589	22,302	J-5-5	ブランク	〃 A	452	
590	22,309	〃	剥片	〃		
591	22,315	〃	細石刃	〃 B	241	
592	22,320	〃	〃	〃 A	243	
593	22,321	〃	〃	〃 B		
594	22,323	〃	細石刃核	〃 A	429	
595	22,327	〃	細石刃	〃		
596	22,379	〃	ブランク	〃	453	
597	22,425	〃	細石刃核	〃	430	
598	22,584	J-5-10	剥片	〃	594	
599	22,607	J-5-10	細石刃	〃 B	169	
600	22,609	〃	〃	〃 A		
601	22,854	J-5-25	細石刃	黒曜石B		
602	22,938	J-5-5	〃	〃		
603	22,960	〃	〃	〃	244	
604	22,974	〃	〃	〃		
605	23,013	J-6-1	〃	〃 A	245	
606	23,073	〃	剥片	〃	595	
607	23,122	〃	細石刃	〃 B		
608	23,193	J-6-6	〃	〃 A		
609	23,224	〃	〃	〃 B	246	
610	23,271	〃	〃	〃		
611	23,281	〃	〃	〃 A	247	
612	23,303	〃	〃	〃 B		
613	23,406	J-6-2	剥片	〃 A	596	
614	23,424	〃	細石刃	〃		
615	23,457	J-6-7	〃	〃		
616	23,466	〃	細石刃核	〃	431	
617	23,480	〃	細石刃	〃 B		
618	23,481	〃	〃	〃		
619	23,496	〃	〃	〃	170	
620	23,520	〃	〃	〃 A		
621	23,557	〃	細石刃核	〃	433	
622	23,603	〃	細石刃	〃	248	
623	23,647	J-5-5	〃	〃 B	249	
624	23,668	〃	剥片	〃 A	597	

625	23,878	〃	細石刃	〃		
626	24,000	J-5-20	〃	〃		
627	24,067	25	〃	〃		
628	24,101	19	〃	〃 B		
629	〃	〃	石核	〃		
630	24,110	〃	細石刃	〃	320	
631	24,212	J-5-4	〃	〃 A	250	
632	24,217	〃	〃	〃		
633	24,247	I-5-24	〃	〃	321	
634	24,375	J-6-2	細石刃核	〃	432	
635	24,483	J-6-6	削器	〃	493	
636	24,612	J-6-7	細石刃	〃		
637	24,702	J-6-1	〃	〃 B		
638	24,736	〃	〃	〃		
639	24,827	〃	〃	〃 A		
640	24,883	J-6-6	削器	〃		
641	24,886	〃	細石刃	〃		
642	24,887	〃	〃	〃	323	
643	24,972	J-6-1	〃	〃 B	324	
644	24,977	〃	細石刃核	〃 A	434	
645	25,036	〃	細石刃	〃	325	
646	25,069	〃	剥片	〃	598	
647	25,118	J-6-21	細石刃	〃 B	326	
648	25,262	J-5-5	削器	〃 A		
649	25,413	〃	細石刃	〃		
650	25,470	〃	〃	〃		
651	25,517	J-5-5	細石刃	黒曜石A		
652	25,598	10	〃	〃 B	251	
653	25,816	J-5-4	〃	〃 A	252	
654	25,919	J-6-2	細石刃核	〃	435	
655	25,986	J-6-7	細石刃	〃	327	
656	26,004	J-6-6	〃	〃 B		
657	26,080	〃	〃	〃 A		
658	26,103	〃	〃	〃		
659	26,139	〃	細石刃核	〃	436	
660	26,150	〃	削器	〃	496	
661	26,222	J-6-1	細石刃	〃	253	
662	26,244	I-5-25	〃	〃 B		
663	26,294	J-5-5	〃	〃 A		
664	26,810	J-6-6	細石刃核	〃	437	
665	26,859	J-6-1	細石刃	〃 B	328	
666	26,874	〃	〃	〃 A		
667	26,921	〃	〃	〃	454	
668	27,076	J-5-5	細石刃	〃 B	254	
669	27,150	J-5-6	細石刃核	〃 A	438	
670	27,430	J-5-15	細石刃	〃		
671	27,821	J-6-11	細石刃核	〃 B	353	
672	27,867	〃	細石刃	〃		
673	27,880	J-5-5	〃	〃	329	
674	27,840	J-6-6	削器	〃 A		
675	11,755	J-6-7	細石刃核	〃		
676	14,121	J-6-19	〃	〃	405	
677	20,180	〃	〃	〃		
678	844	J-5-10	剥片	黒曜石A	601	
679	7,439	〃	〃	〃		
680	15,642	〃	〃	〃	574	
681	16,778	〃	〃	〃	351	

682	26,720		〃	〃	599	
683	4,900		〃	〃	600	
684	16,763		〃	〃		
685	5,702		〃	〃		
686	1,970		細石核 調整片	〃	455	
687	5,729		細石刃核	〃	381	
688	413		剥片	〃		
689	16,076		細石刃核	〃	411	
690	11,755		〃	〃		
691	27,884		削器	〃		

第53表 第30ユニット出土石器一覧表

遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他	
1	15	I-6-15	細石刃	凝灰岩B	30	
2	21		〃	黒曜石A	111	
3	28		〃	〃		
4	46		剥片	〃		
5	59	I-6-14	細石刃	〃		
6	71	I-6-14	剥片	凝灰岩B	169	
7	82	I-6-17	細石刃	黒曜石A	90	
8	92	J-6-3	石核再整	〃		
9	112	J-6-5	細石刃核	〃	121	
10	117	〃	細石刃	凝灰岩B		
11	128	〃	細石刃核	黒曜石A		
12	143	〃	石核	〃		
13	〃	〃	残核	〃		
14	182		細石刃	〃		
15	187		〃	凝灰岩B		
16	224	I-6-18	石核	黒曜石A		
17	289	I-6-14	〃	〃		
18	292	〃	細石刃	凝灰岩B		
19	305	〃	石核	黒曜石A		
20	307	〃	細石刃	〃		
21	310	〃	〃	凝灰岩B		
22	334	〃	〃	黒曜石A	95	
23	339	〃	〃	〃		
24	352	〃	〃	珪質		
25	353	〃	〃	黒曜石A		
26	355	J-6-4	〃	凝灰岩B	51	
27	372	〃	〃	黒曜石A		
28	387	〃	削器	〃		
29	416	I-6-20	細石刃	〃		
30	424	〃	細石刃核	〃		
31	431	〃	細石刃	〃	122	
32	459	〃	〃	〃	76	
33	460	〃	細石刃核	凝灰岩B		
34	493	〃	〃	黒曜石A	123	
35	524	J-6-5	細石刃	〃		
36	529	〃	剥片	〃		
37	540	〃	細石刃	〃		
38	〃	〃	細石刃核	〃		
39	603	〃	細石刃	〃	124	
40	618	J-6-25	剥片	凝灰岩B	32	
41	632	J-6-25	細石刃核	黒曜石A	172	
42	649	〃	〃	〃		
43	650	〃	細石刃	〃		
44	657	〃	細石刃核	頁岩		
45	681	〃	〃	黒曜石A		

46	〃	〃	剥片	〃		
47	693	〃	〃	〃		
48	748	〃	〃	〃		
49	777	I-6-20	削器	〃		
50	778	〃	ブランク	〃	152	
51	783	I-6-20	細石刃	凝灰岩B		
52	824	〃	〃	頁岩		
53	842	〃	削器	黒曜石A		
54	856	〃	細石刃	凝灰岩B	4	
55	886	〃	〃	黒曜石A		
56	927	J-6-5	〃	〃		
57	1050	J-6-9	〃	〃		
58	1079	J-6-4	〃	〃		
59	1085	〃	剥片	〃		
60	1091	〃	〃	〃		
61	1166	I-6-24	〃	頁岩		
62	1169	〃	削器	黒曜石A	159	
63	1195	〃	細石刃	〃		
64	1203	〃	〃	凝灰岩B		
65	1219	〃	〃	頁岩		
66	1222	〃	〃	黒曜石A	79	
67	1258	J-6-15	剥片	〃	173	
68	1312	J-6-3	削器	〃		
69	1320	〃	石核	〃		
70	1342	J-6-5	細石刃	〃		
71	1356	〃	石核	〃		
72	1388	〃	細石刃	〃		
73	1525	〃	〃	凝灰岩B		
74	1569	〃	〃	黒曜石A		
75	1574	〃	剥片	珪質		
76	1602	I-6-23	細石刃核	黒曜石A		
77	1628	〃	細石刃	〃	101	
78	1630	〃	〃	頁岩		
79	1643	〃	石核	黒曜石A		
80	1661	〃	〃	〃		
81	1676	〃	細石刃	凝灰岩B		
82	1687	I-6-20	〃	頁岩	2	
83	1696	〃	〃	黒曜石A	91	
84	1705	〃	〃	凝灰岩B	52	
85	1712	〃	石核	黒曜石A		
86	1717	I-6-19	細石刃	〃		
87	1727	〃	〃	砂岩	73	
88	1760	I-6-18	〃	黒曜石A	102	
89	1804	I-6-25	〃	凝灰岩B	31	
90	1811	〃	〃	〃		
91	1848	J-6-4	〃	黒曜石A	112	
92	1855	J-6-4	剥片	〃		
93	1901	J-6-10	細石刃	凝灰岩B	5	
94	1921	〃	石核	黒曜石A		
95	1936	〃	〃	〃		
96	1940	〃	細石刃	〃		
97	1969	〃	剥片	〃		
98	1977	〃	細石刃核	〃	125	
99	2113	I-6-25	細石刃	凝灰岩B		
100	2124	〃	〃	黒曜石A		
101	2134	I-6-25	細石刃	凝灰岩B	53	
102	2163	〃	〃	〃	6	



103	2171	〃	〃	〃	33	
104	2176	〃	〃	〃	7	
105	2180	〃	〃	〃		
106	2182	〃	〃	黒曜石A	8	
107	2188	〃	〃	凝灰岩B	9	
108	2192	〃	〃	〃	10	
109	2223	〃	〃	〃		
110	2229	〃	〃	〃		
111	2237	I-6-20	〃	頁 岩		
112	2239	〃	〃	凝灰岩B		
113	2246	〃	〃	〃		
114	2249	〃	〃	チャート		
115	2259	〃	〃	凝灰岩B		
116	2262	〃	〃	〃		
117	2268	〃	〃	〃	11	
118	2270	〃	削 器	黒曜石A		
119	2294	〃	細 石 刃	〃		
120	2296	〃	〃	頁 岩		
121	2301	〃	削 器	黒曜石A	162	
122	2332	〃	細 石 刃	凝灰岩B		
123	2352	〃	剥 片	頁 岩		
124	2378	〃	細 石 刃	黒曜石A		
125	2388	I-6-23	〃	〃	103	
126	2394	〃	〃	〃		
127	2421	J-6-3	〃	凝灰岩B		
128	2430	〃	ブランク	黒曜石A	126	
129	2553	J-6-5	細 石 刃	〃		
130	2626	J-6-20	〃	〃		
131	2648	J-6-24	〃	〃		
132	2752	J-6-25	〃	〃		
133	2755	〃	〃	〃		
134	2770	J-6-5	〃	〃	104	
135	2788	〃	〃	〃		
136	2789	〃	〃	凝灰岩B		
137	2827	〃	〃	黒曜石A		
138	2852	〃	〃	〃		
139	2889	〃	〃	〃		
140	2905	J-6-25	〃	砂 岩		
141	2912	J-6-25	〃	凝灰岩B	54	
142	2913	〃	〃	〃		
143	2917	〃	〃	〃	34	
144	2918	〃	〃	〃		
145	2920	〃	〃	〃	35	
146	2943		細石刃核	黒曜石A	128	
147	2947		細 石 刃	〃		
148	2948		〃	凝灰岩B	12	
149	2949		〃	〃	55	
150	2952		〃	黒曜石A		
151	3086	J-6-25	細 石 刃	黒曜石A		
152	3095	I-6-25	〃	〃		
153	〃	〃	〃	凝灰岩B		
154	3146	I-7-16	剥 片	黒曜石A		
155	3144	〃	石 核	〃		
156	3148	〃	細 石 刃	凝灰岩B		
157	3148	〃	石 核	黒曜石A		
158	3165	I-7-21	細 石 刃	頁 岩		
159	3200	〃	残 核	黒曜石A		

160	3240	〃	剥 片	〃		
161	3244	〃	細 石 刃	〃		
162	3259	〃	〃	〃		
163	3278		残 核	〃		
164	3300	〃	剥 片	〃		
165	3306	〃	削 器	〃	163	
166	3316	〃	細石刃核	〃	127	
167	3341	〃	残 核	〃		
168	3342	〃	ブランク	〃	155	
169	3366	〃	削 器	〃		
170	3376		細 石 刃	凝灰岩B		
171	3380	〃	削 器	黒曜石A		
172	3390		細石刃核	〃	129	
173	3394	I-7-17	〃	〃	132	
174	3469	I-7-22	細 石 刃	〃		
175	3495	〃	剥 片	〃		
176	3517	I-7-1	石 核	〃		
177	3527	〃	細 石 刃	頁 岩		
178	3536		剥 片	黒曜石A		
179	3550	〃	削 器	〃		
180	3587	〃	剥 片	〃		
181	3613	〃	細石刃核	凝灰岩B		
182	3670	J-7-2	細 石 刃	黒曜石A	106	
183	3676	〃	〃	〃		
184	3678	〃	〃	〃		
185	3697	〃	〃	〃	107	
186	3700	〃	〃	〃	96	
187	3703	〃	〃	頁 岩	3	
188	3717	〃	〃	黒曜石A		
189	3721	〃	〃	〃		
190	3730	〃	削 器	〃		
191	3732		剥 片	凝灰岩B	117	
192	3736		〃	黒曜石A		
193	3754		細 石 刃	チャート		
194	3759		残 核	黒曜石A		
195	3772		細 石 刃	〃		
196	3776		〃	〃		
197	3819		削 器	〃		
198	3845		剥 片	〃		
199	3892		細 石 刃	〃	98	
200	3908		細石刃核	〃		
201	3910	J-7-7	細 石 刃	黒曜石A	83	
202	3915	〃	細石刃核	〃		
203	3936	〃	剥 片	石 英		
204	3974	J-7-18	細 石 刃	凝灰岩B		
205	4007	〃	〃	〃		
206	4021	〃	剥 片	〃	171	
207	4025	〃	細石刃核	黒曜石A	130	
208	4037	I-7-23	細 石 刃	〃		
209	4078	J-7-3	〃	〃	113	
210	4080	〃	〃	〃	84	
211	4082	J-7-8	〃	凝灰岩B		
212	4088	〃	残 核	黒曜石A		
213	4108	〃	細 石 刃	〃		
214	4117	〃	〃	〃		
215	4131	〃	石 核	〃		
216	4139	〃	細 石 刃	〃	99	

217	4154	〃	〃	〃		
218	4162	〃	〃	〃		
219	4207	I-7-11	石核	〃		
220	4221	〃	残核	〃		
221	4230	〃	剥片	石英		
222	4241	〃	削器	黒曜石A		
223	4249	I-7-12	細石刃核	〃	131	
224	4262	〃	剥片	石英		
225	4267	〃	残核	黒曜石A		
226	4295	I-7-16	剥片	硬質頁岩		
227	4300	〃	削器	黒曜石A		
228	4334	I-6-25	〃	〃	165	
229	4344	J-7-21	〃	〃		
230	4353	〃	細石刃核	〃	136	
221	4390	〃	〃	〃	133	
232	4430	〃	剥片	〃		
233	4439	〃	削器	〃		
234	4448	〃	細石刃核	〃	135	
235	4156	〃	剥片	〃		
236	4487	J-7-1	細石刃	〃		
237	4530	〃	〃	頁岩		
238	4534	〃	〃	黒曜石A	108	
239	4538	〃	〃	凝灰岩B		
240	4559	J-7-6	剥片	黒曜石A		
241	4563	〃	細石刃	凝灰岩B	13	
242	4704	J-7-2	〃	〃	14	
243	4716	J-7-22	細石刃核	黒曜石A	134	
244	4720	〃	剥片	頁岩		
245	4748	〃	細石刃	〃		
246	4754	〃	〃	黒曜石A		
247	4832	I-7-17	細石刃核	凝灰岩B	28	
248	4833	〃	〃	〃		
249	4839	〃	〃	黒曜石A		
250	4844	〃	〃	硬質頁岩		
251	4855	I-7-17	剥片	凝灰岩B		
252	4859	〃	細石刃	〃		
253	4861	I-7-18	〃	〃	36	
254	4879	J-7-3	剥片	プリント	168	
255	4889	J-7-8	〃	黒曜石A		
256	4894	〃	細石刃	〃	114	
257	4009	〃	〃	〃		
258	4945	J-7-16	〃	〃		
259	4975	〃	細石刃核	〃		
260	5000	〃	細石刃	凝灰岩B		
261	5073	I-7-21	ブランク	黒曜石A	138	
262	5147	〃	細石刃	凝灰岩B		
263	5150	〃	〃	〃		
264	5153	〃	〃	〃	37	
265	5176	I-7-1	細石刃核	黒曜石A		
266	5179	〃	〃	〃	137	
267	5213	〃	細石刃	凝灰岩B		
268	5215	〃	〃	〃		
269	5218	〃	〃	黒曜石A	93	
270	5250	〃	細石刃核	〃		
271	5283	I-7-6	〃	〃	140	
272	5292	〃	細石刃	〃		
273	5353	I-7-11	剥片	〃		
274	5377	〃	細石刃核	〃		

275	5382	〃	細石刃	〃	86	
276	5391	〃	剥片	〃		
277	5402	I-7-12	〃	石英	177	
278	5438	J-7-7	〃	黒曜石A		
279	5462	〃	細石刃	凝灰岩B	38	
280	5475	〃	〃	黒曜石A		
281	5502	〃	〃	凝灰岩B		
282	5507	〃	〃	黒曜石A		
283	5527	〃	細石刃核	〃		
284	5528	〃	細石刃	凝灰岩B	15	
285	5534	〃	〃	〃	16	
286	5554	〃	〃	黒曜石A		
287	5568	J-7-2	細石刃核	〃	141	
288	5574	〃	細石刃	凝灰岩B	39	
289	5591	〃	〃	〃	17	
290	5608	〃	〃	〃		
291	5651	〃	〃	黒曜石A		
292	5767	J-7-22	〃	凝灰岩B	57	
293	5775	J-7-17	剥片	黒曜石A		
294	5777	〃	細石刃	凝灰岩B	40	
295	5805	〃	〃	〃		
296	5806	〃	〃	〃		
297	5860	I-7-13	削器	黒曜石A		
298	5890	I-7-21	細石刃	凝灰岩B	74	
299	5925	〃	剥片	黒曜石A		
300	5932	〃	細石刃	凝灰岩B		
301	5973	I-7-21	細石刃	黒曜石A		
302	6007	〃	〃	凝灰岩B		
303	6015	〃	〃	凝灰岩B		
304	6027	〃	剥片	黒曜石A		
305	6043	I-7-16	細石刃	凝灰岩B	64	
306	6102	〃	細石刃核	〃	41	
307	6115	J-7-1	細石刃	黒曜石A		
308	6229	I-7-17	〃	凝灰岩B		
309	6233	〃	〃	〃		
310	6238	〃	〃	〃		
311	6247	〃	細石刃核	黒曜石A		
312	6272	〃	細石刃	凝灰岩B		
313	6282	I-7-22	〃	黒曜石A		
314	6342	〃	剥片	〃	176	
315	6388	〃	細石刃	〃		
316	6407	〃	〃	凝灰岩B	42	
317	6413	J-7-2	細石刃核	黒曜石A	144	
318	6437	〃	細石刃	〃		
319	6453	〃	〃	〃		
320	6464	〃	〃	〃	100	
321	6468	〃	〃	〃	109	
322	6474	〃	〃	〃		
323	6485	J-7-7	〃	〃		
324	6485	〃	細石刃核	〃		
325	6608	〃	細石刃	凝灰岩B	18	
326	6627	J-7-18	〃	黒曜石A		
327	6642	J-7-3	剥片	〃		
328	6691	I-7-8	削器	〃	166	
329	6701	J-7-16	細石刃	凝灰岩B		
330	6702	〃	〃	〃		
331	6723	〃	〃	黒曜石A	115	

332	6872	I-7-21	剝片	〃		
333	6908	I-7-1	細石刃核	〃		
334	6949	I-7-6	剝片	石英	182	
335	6964	〃	〃	〃		
336	6999	J-7-11	細石刃核	黒曜石A	143	
337	7004	〃	剝片	石英	179	
338	7007	〃	細石刃核	黒曜石A	145	
339	7038	J-7-7	細石刃	〃		
340	7061	J-7-2	剝片	〃		
341	7068	〃	細石刃	凝灰岩B	65	
342	7070	J-7-2	剝片	〃		
343	〃	〃	〃	黒曜石A		
344	7080	I-7-22	〃	〃	178	
345	7084	〃	細石刃	凝灰岩B		
346	7098	〃	〃	眞岩		
347	7113	〃	細石刃核	黒曜石A		
348	7154	〃	細石刃	〃		
349	7157	〃	剝片	〃		
350	7160	〃	削器	〃		
351	7162	I-7-22	剝片	黒曜石A		
352	7200	〃	細石刃	眞岩		
353	7239	〃	〃	鉄石英		
354	7247	〃	細石刃核	黒曜石A	146	
355	7265	I-7-17	細石刃	凝灰岩B		
356	7288	I-7-13	石核	黒曜石A		
357	7289	I-6-25	細石刃	凝灰岩B		
358	7306	I-7-2	細石刃核	黒曜石A	147	
359	7360	I-7-21	削器	〃		
360	7398	I-7-2	〃	〃	167	
361	7407	〃	細石刃	〃	149	
362	7447	〃	〃	〃	151	
363	7469	〃	〃	〃		
364	7489	〃	〃	凝灰岩B		
365	7495	〃	〃	〃		
366	7498	I-7-22	剝片	眞岩		
367	7499	〃	〃	砂岩	43	
368	7547	〃	細石刃	黒曜石A		
369	7608	〃	〃	〃		
370	7617	〃	〃	〃		
371	7682	〃	剝片	凝灰岩B		
372	7728	〃	細石刃	〃	19	
373	7729	I-7-1	削器	黒曜石A		
374	7743	J-7-1	細石刃	チャート		
375	7775	J-7-2	〃	黒曜石A		
376	7780	〃	削器	〃		
377	7801	〃	細石刃	〃B		
378	7818	〃	剝片	〃A		
379	7846	J-7-7	細石刃	眞岩		
380	7847	〃	〃	石英	180	
381	7915	J-7-11	〃	黒曜石A		
382	7923	J-7-12	〃	凝灰岩B		
383	7924	〃	削器	〃		
384	7925	I-7-18	〃	〃		
385	7929	J-7-3	削器	黒曜石A		
386	7938	〃	〃	〃		
387	7940	〃	細石刃	〃		
388	7943	〃	〃	〃		

389	7998	J-7-16	〃	眞岩		
390	8003	〃	〃	黒曜石A		
391	8009	〃	〃	凝灰岩B		
392	8029	I-7-16	〃	黒曜石A		
393	8032	〃	〃	凝灰岩B		
394	8059	I-7-17	〃	〃		
395	8093	〃	剝片	黒曜石A		
396	8161	I-7-16	細石刃	凝灰岩B	44	
397	8193	〃	〃	〃	67	
398	8286	I-7-21	〃	〃	45	
399	8317	〃	剝片	黒曜石A		
400	8338	〃	細石刃	凝灰岩B	20	
401	8347	I-7-21	細石刃	〃	21	
402	8349	〃	〃	〃		
403	8371	J-7-1	〃	〃		
404	8372	〃	〃	石英	22	
405	8416	J-7-11	剝片	石英	182	
406	8439	I-7-22	細石刃	凝灰岩B		
407	8453	〃	〃	黒曜石A		
408	8509	〃	剝片	〃		
409	8568	〃	細石刃	眞岩		
410	8573	〃	〃	〃		
411	8578	〃	〃	〃		
412	8579	〃	〃	〃		
413	8592	J-7-2	削器	〃		
414	8605	J-7-12	細石刃	黒曜石A		
415	8688	〃	剝片	石英		
416	8715	I-7-16	細石刃	凝灰岩B	66	
417	8733	〃	〃	〃	23	
418	8748	〃	〃	黒曜石A		
419	8752	〃	〃	〃		
420	8840	I-7-21	〃	凝灰岩B		
421	8856	〃	〃	〃	24	
422	8857	〃	〃	〃	46	
423	8860	〃	〃	黒曜石A		
424	8862	〃	〃	凝灰岩B		
425	8863	〃	〃	〃	25	
426	8869	〃	〃	〃		
427	8874	〃	〃	〃	68	
428	8884	〃	〃	〃	47	
429	8891	J-7-1	〃	〃	26	
430	8906	〃	〃	黒曜石A		
431	8955	J-7-12	〃	〃	110	
432	8958	〃	細石刃核	〃	150	
433	8964	J-7-7	削器	〃		
434	8966	〃	細石刃核	〃	153	
435	8991	〃	〃	〃		
436	9036	J-7-2	細石刃	〃		
437	9041	〃	〃	〃		
438	9073	I-7-22	〃	凝灰岩B		
439	9132	〃	〃	黒曜石A		
440	9308	J-7-17	〃	凝灰岩B	69	
441	9312	J-7-3	〃	黒曜石A		
442	9333	I-6-24	〃	眞岩		
443	9335	〃	〃	〃		
444	9353	J-6-5	〃	黒曜石A		
445	9359	〃	〃	〃		

446	382	J-6-7	〃	凝灰岩B	72	
447	9352	〃	〃	〃		
448	9464	I-6-9	剥片	黒曜石A		
449	9474	I-7-16	細石刃	〃		
450	9480	〃	〃	凝灰岩B		
451	9483	I-7-17	細石刃	黒曜石A	87	
452	9498	〃	〃	〃		
453	9636	I-7-22	〃	頁岩		
454	9672	I-7-21	〃	凝灰岩B	48	
455	9680	〃	〃	〃		
456	9682	〃	〃	〃	27	
457	9684	〃	削器	〃		
458	9693	J-7-1	細石刃	頁岩		
459	9737	J-7-7	〃	凝灰岩B	49	
460	9767	J-7-8	〃	黒曜石A		
461	9773	J-6-24	〃	〃		
462	9781	J-6-4	〃	凝灰岩B	70	
463	9786	I-6-6	〃	黒曜石A	88	
464	9797	〃	〃	〃	94	
465	9837	I-6-24	剥片	〃		
466	9883	I-7-16	〃	硬質頁岩		
467	9890	〃	細石刃	頁岩		
468	9931	J-7-6	〃	黒曜石A		
469	9948	J-7-12	〃	〃		
470	9973	J-7-2	剥片	〃		
471	9993	J-7-22	〃	〃		
472	10025	〃	細石刃	〃		
473	10048	I-7-22	〃	〃		
474	10069	〃	剥片	〃		
475	10089	I-7-17	細石刃	〃		
476	10099	I-6-4	〃	凝灰岩B		
477	10123	J-6-5	〃	黒曜石A	89	
478	10125	〃	〃	〃		
479	10160	〃	〃	凝灰岩B	29	
480	10162	〃	〃	〃	50	
481	10228	I-1-22	ブランク	黒曜石A	154	
482	10376	〃	細石刃	〃		
483	10479	I-7-4	〃	凝灰岩B		
484	10520	I-7-21	〃	〃		
485	2388	I-6-23	〃	黒曜石A		
486	6160	J-7-1	〃	〃		
487	3327	I-7-21	細石刃核	〃		
488	2757	〃	細石刃	〃	81	
489	5294	〃	〃	〃	85	
490	1162	〃	〃	〃	78	
491	3921	〃	〃	〃	92	
492	2820	〃	〃	〃		
493	317	〃	〃	〃	75	
494	2389	〃	〃	〃	80	
495	616	〃	〃	〃	77	
496	3671	〃	〃	〃	82	
497	9911	〃	〃	凝灰岩B	71	
498	3757	〃	〃	黒曜石A	97	
499	1678	〃	〃	凝灰岩B	59	
500	884	〃	〃	〃	58	
501	6219	J-7-11	細石刃	凝灰岩B	60	
502	1652	I-6-20	〃	〃	61	
503	6222	I-7-17	〃	〃	62	

4	8149	I-7-22	〃		63	
5	1594	I-6-23	細石刃核	黒曜石A	161	
6	73	I-6-23	尖頭器	〃	160	
7	2616		調整剥片	凝灰岩B		
8	1797		〃	頁岩	156	
9	6394		〃	凝灰岩B	158	
10	4879		〃	頁岩		
11	4869		細石刃核	凝灰岩B	118	
12	3732		〃	〃		
13	4596		〃	フリント	116	
14	4218		〃	凝灰岩B	119	
15	2061		剥片	黒曜石A	174	
16	7307		細石刃核	〃	148	

第54表 第31ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1	I-5-11	石鏃			
2	3	〃	細石刃	黒曜石A		
3	13	〃	細石刃核	〃		
4	41	〃	剥片	〃		
5	54	〃	細石刃	〃		
6	97	I-5-16	剥片	〃		
7	111	〃	〃	〃		
8	119	I-5-12	石核	〃		
9	138	〃	細石刃核	〃		
10	146	〃	剥片	〃		
11	150	〃	残核	〃		
12	186	〃	細石刃	〃		
13	191	〃	石核	〃		
14	205	〃	細石刃	〃		
15	211	〃	残核	〃		
16	222	I-5-6	剥片	〃		
17	225	〃	〃	〃		
18	232	〃	〃	〃		
19	243	I-5-7	〃	〃		
20	247	〃	〃	〃		
21	255	〃	〃	〃		
22	272	I-5-8	〃	〃		
23	276	〃	細石刃	〃		
24	304	〃	〃	〃		
25	336	〃	〃	〃		
26	347	I-5-13	〃	黒曜石B		
27	365	〃	〃	黒曜石A		
28	371	〃	石核	〃		
29	399	〃	削器	〃		
30	410	I-5-14	〃	〃		
31	414	〃	細石刃	黒曜石B		
32	443	I-5-16	〃	黒曜石A		
33	446	I-5-17	削器	〃		
34	464	〃	剥片	〃		
35	489	〃	細石刃核	〃		
36	499	〃	〃	〃		
37	518	I-5-22	剥片	〃		
38	519	I-5-18	細石刃	〃		
39	528	〃	細石刃核	〃		
40	529	〃	削器	〃		
41	538	〃	細石刃	〃		

42	571	〃	〃	〃		
43	607	〃	削器	〃		
44	612	〃	〃	〃		
45	662	I-5-15	〃	〃		
46	681	I-5-10	細石刃	〃		
47	681	〃	〃	〃		
48	692	〃	〃	〃		
49	695	〃	剝片	〃		
50	697	〃	細石刃	〃		
51	735	J-5-11	剝片	黒曜石A		
52	742	〃	〃	黒曜石A		
53	759	〃	〃	〃		
54	766	〃	残核	〃		
55	786	〃	細石刃核	〃		
56	825	〃	〃	〃		
57	923	I-5-13	剝片	石英		
58	933	〃	石核	黒曜石A		
59	940	〃	剝片	〃		
60	958	〃	〃	石英		
61	1108	〃	石核	黒曜石A		
62	1114	I-5-13	細石刃	〃		
63	1169	〃	〃	〃		
64	1255	〃	〃	〃		
65	1285	〃	剝片	〃		
66	1313	〃	細石刃	〃		
67	1316	〃	剝片	〃		
68	1323	〃	〃	〃		
69	1335	〃	細石刃	〃		
70	1347	〃	剝片	〃		
71	1351	〃	〃	〃		
72	1364	〃	削器	〃		
73	1365	〃	石核	〃		
74	1550	〃	〃	〃		
75	1632	〃	剝片	〃		
76	1668	〃	石核	〃		
77	1736	I-5-18	細石刃	〃		
78	1737	〃	〃	〃		
79	1797	〃	剝片	〃		
80	1805	I-5-10	〃	〃		
81	1823	〃	〃	〃		
82	1831	〃	〃	〃		
83	1881	I-5-12	〃	〃		
84	1908	〃	細石刃核	〃		
85	1953	〃	剝片	〃		
86	1976	〃	細石刃	〃		
87	2084	〃	〃	石英		
88	2101	〃	剝片	黒曜石A		
89	2104	〃	〃	〃		
90	2214	〃	〃	〃		
91	2445	I-5-17	細石刃核	〃	6	
92	2462	〃	細石刃	〃		
93	2584	〃	剝片	〃		
94	2650	〃	〃	〃		
95	2743	〃	細石刃核	〃	5	
96	2766	〃	剝片	〃		
97	2800	〃	〃	〃		
98	2836	〃	〃	〃		

99	2932	I-5-13	細石刃	〃		
100	2958	I-5-12	剝片	〃		
101	3136	I-5-18	細石刃核	黒曜石A		
102	3228	I-5-18	剝片	〃		
103	3210	I-5-14	石核	〃		
104	3356	〃	剝片	〃		
105	3333	〃	〃	〃		
106	3536	〃	〃	〃		
107	3695	I-5-13	削器	〃		
108	1845	〃	細石刃核	〃	2	

第55表 第32ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	5	I-6-15	残核	黒曜石A		
2	67	I-6-10	剝片	凝灰岩B		
3	70	〃	〃	凝灰岩B		
4	71	〃	調整剝片	〃	468	
5	86	〃	剝片	〃		
6	90	〃	細石刃核	黒曜石A	465	
7	174	I-6-14	〃	〃	466	
8	224	I-6-9	〃	凝灰岩B		
9	269	〃	細石刃	黒曜石A		
10	274	〃	〃	凝灰岩B	154	
11	275	〃	剝片	黒曜石A	485	
12	285	〃	細石刃	〃		
13	305	I-6-13	削器	黒曜石B	475	
14	323	〃	〃	黒曜石A	478	
15	341	〃	細石刃	眞岩		
16	344	〃	〃	チャート		
17	349	I-6-8	削器	黒曜石A	479	
18	360	〃	細石刃	硅質		
19	368	〃	〃	眞岩		
20	369	〃	〃	凝灰岩B		
21	386	〃	槌石	〃		
22	392	〃	細石刃	凝灰岩B	155	
23	394	〃	〃	硅質		
24	411	I-6-3	剝片	黒曜石A	486	
25	449	I-6-12	〃	硅質		
26	468	I-6-19	細石刃	黒曜石A		
27	480	I-6-18	〃	凝灰岩B	156	
28	484	〃	〃	チャート		
29	515	J-6-11	〃	〃		
30	516	〃	〃	黒曜石A		
31	539	I-6-6	削器	〃	480	
32	570	I-6-15	細石刃	凝灰岩B	2	
33	572	I-6-7	〃	〃		
34	611	I-6-23	細石刃核	黒曜石A	467	
35	619	H-6-24	細石刃	〃B		
36	621	〃	〃	黒曜石A		
37	627	〃	〃	〃		
38	632	〃	〃	〃		
39	636	〃	〃	凝灰岩B	76	
40	647	H-6-25	〃	〃	158	
41	648	〃	〃	〃	3	
42	691	H-6-5	〃	〃	1	
43	693	〃	〃	〃	282	
44	697	〃	〃	〃	157	

45	700	〃	〃	〃	161	
46	711	H-6-25	〃	〃	162	
47	712	〃	〃	頁 岩		
48	720	〃	〃	黒曜石A		
49	727	〃	〃	〃		
50	731	H-6-24	〃	凝灰岩B	163	
51	739	H-6-24	細石刃	凝灰岩B	4	
52	746	H-6-4	〃	〃		
53	749	〃	〃	〃	5	
54	751	〃	〃	〃	283	
55	764	I-6-9	剥 片	黒曜石A	487	
56	774	〃	石核再整剥片	凝灰岩B		
57	790	I-6-15	黒曜石剥片 細石刃	〃		
58	829	〃	細石刃	〃	6	
59	863	〃	〃	〃		
60	869	〃	石核再生剥片	〃		
61	922	I-6-14	削 器	黒曜石A	484	
62	927	〃	〃	安山岩		
63	928	〃	細石刃	玉 髓		
64	944	〃	剥 片	黒曜石A	488	
65	950	〃	細石刃	チャート		
66	1001	I-6-13	〃	フリント		
67	1012	〃	残 核	黒曜石A		
68	1072	I-6-7	細石刃	〃		
69	1095	I-6-17	〃	〃		
70	1103	I-6-16	〃	〃		
71	1145	I-6-15	〃	凝灰岩B	159	
72	1149	I-6-14	〃	〃	164	
73	1150	〃	〃	〃	165	
74	1151	I-6-15	〃	〃	7	
75	1225	I-6-14	〃	フリント		
76	1226	I-6-14	〃	砂 岩		
77	1247	I-6-13	〃	チャート		
78	1253	I-6-13	〃	〃		
79	1304	I-6-8	〃	凝灰岩B	166	
80	1307	〃	〃	〃	77	
81	1314	〃	〃	黒曜石A		
82	1334	I-6-4	〃	凝灰岩B	167	
83	1351	I-6-24	〃	〃	168	
84	1374	I-6-14	〃	黒曜石A		
85	1379	〃	〃	〃		
86	1385	〃	〃	凝灰岩B	169	
87	1387	〃	〃	〃	170	
88	1389	〃	〃	〃	8	
89	1394	〃	〃	〃	171	
90	1399	I-6-9	細石刃核	〃		
91	1403	I-6-11	細石刃	黒曜石A		
92	1416	I-7-8	剥 片	凝灰岩B		
93	1417	〃	細石刃	〃	172	
94	1422	〃	剥 片	黒曜石A	489	
95	1426	〃	削 器	〃	481	
96	1427	〃	細石刃	凝灰岩B	173	
97	1448	〃	〃	〃	78	
98	1466	I-7-7	細石刃核	〃	448	
99	1478	I-7-6	細石刃	〃	174	
100	1486	〃	〃	〃	79	

101	1515	I-7-6	剥 片	フリント		
102	1518	I-7-8	残 核	黒曜石A	449	
103	1534	〃	細石刃核	凝灰岩B	443	
104	1537	〃	〃	フリント		
105	1558	I-7-11	石 核	〃		
106	1559	〃	石核再整	凝灰岩B		
107	1566	〃	細石刃核	硅 質		
108	1571	〃	剥 片 細石刃核	凝灰岩B		
109	1590	〃	細石刃	〃		
110	1602	〃	細石刃核	フリント	284	
111	1629	〃	細石刃	凝灰岩B	9	
112	1639	〃	〃	〃		
113	1673	I-7-12	〃	砂 岩		
114	1692	〃	〃	?	277	
115	1703	〃	〃	凝灰岩B		
116	1708	〃	〃	砂 岩	285	
117	1712	〃	〃	凝灰岩B		
118	1717	〃	〃	〃		
119	1720	〃	剥 片	〃	175	
120	1728	〃	細石刃	〃	10	
121	1767	I-7-13	〃	〃	176	
122	1778	I-7-14	〃	〃	490	
123	1795	I-7-10	剥 片	黒曜石A		
124	1797	I-7-9	残 核	〃		
125	1799	〃	石 鏃	〃	80	
126	1809	I-7-8	細石刃	凝灰岩B		
127	1814	〃	〃	黒曜石A		
128	1821	〃	〃	硅 質		
129	1827	〃	〃	黒曜石A		
130	1838	I-7-2	〃	硅 質	177	
131	1841	I-7-2	〃	凝灰岩B		
132	1846	〃	〃	〃		
133	1847	〃	細石刃核	〃	452	
134	1849	〃	〃	〃	81	
135	1851	〃	細石刃	〃	286	
136	1852	〃	〃	〃	451	
137	1856	〃	細石刃核	〃	11	
138	1873	〃	細石刃	〃	82	
139	1875	〃	〃	〃	83	
140	1882	〃	〃	〃	178	
141	1890	I-7-1	〃	〃	84	
142	1916	〃	〃	〃	85	
143	1923	H-7-21	〃	〃		
144	1928	〃	〃	硅 質	453	
145	1935	〃	細石刃核	凝灰岩. E	86	
146	1948	〃	細石刃	〃	454	
147	1958	〃	細石刃核	〃	179	
148	1999	H-7-11	細石刃	〃		
149	2011	〃	細石刃核	フリント	87	
150	2031	〃	細石刃	凝灰岩B	88	
151	2037	H-7-11	細石刃	凝灰岩B	180	
152	2048	H-7-12	〃	〃	89	
153	2059	〃	〃	〃		
154	2068	〃	〃	砂 岩	482	
155	2075	〃	削 器	黒曜石A	90	
156	2086	〃	細石刃	凝灰岩B	91	
157	2091	I-7-13	〃	〃		

158	2092	〃	〃	〃	181	
159	2096	〃	〃	砂 岩		
160	2098	〃	〃	凝灰岩 B		
161	2115	〃	〃	〃	287	
162	2116	〃	〃	〃	160	
163	2125	〃	〃	〃	288	
164	2129	〃	〃	〃	182	
165	2130	〃	〃	〃	183	
166	2132	〃	〃	〃	289	
167	2135	〃	〃	〃	184	
168	2138	〃	〃	〃	92	
169	2153	〃	〃	〃	12	
170	2154	〃	〃	〃		
171	2155	〃	〃	〃	93	
172	2158	〃	〃	〃	94	
173	2165	I-7-14	〃	〃	290	
174	2179	I-7-8	〃	〃	95	
175	2184	〃	〃	〃	291	
176	2187	〃	〃	〃	13	
177	2192	〃	〃	〃	14	
178	2200	〃	〃	砂 岩		
179	2201	〃	〃	〃		
180	2210	〃	〃	凝灰岩 B	15	
181	2215	〃	〃	〃	16	
182	2225	〃	〃	〃	186	
183	2227	〃	〃	〃	17	
184	2231	〃	〃	〃	96	
185	2240	I-7-7	〃	〃		
186	2241	〃	〃	砂 岩		
187	2245	〃	〃	凝灰岩 B	292	
188	2247	〃	〃	〃	187	
189	2251	〃	〃	〃	97	
190	2252	〃	〃	〃	18	
191	2261	〃	〃	〃	293	
192	2262	〃	〃	〃	188	
193	2263	〃	〃	〃	19	
194	2265	〃	〃	〃	98	
195	2271	〃	〃	砂 岩		
196	2274	〃	〃	硅 質		
197	2280	〃	〃	凝灰岩 B		
198	2286	〃	細石刃核	〃	455	
199	2288	〃	細石刃	〃	99	
200	2291	〃	〃	砂 岩		
201	2319	I-7-7	細石刃	凝灰岩 B	189	
202	2323	〃	〃	〃	191	
203	2383	I-7-6	〃	〃	20	
204	2385	〃	〃	〃		
205	2390	〃	〃	〃	294	
206	2408	〃	〃	黒曜石 A		
207	2428	I-7-1	〃	凝灰岩 B	21	
208	2432	〃	〃	〃	192	
209	2440	〃	〃	〃	193	
210	2444	〃	〃	〃	100	
211	2446	〃	〃	〃	194	
212	2448	〃	〃	〃		
213	2453	〃	〃	砂 岩		
214	2454	〃	〃	凝 灰 岩	295	

215	2455	〃	〃	〃	101	
216	2456	〃	〃	硅 質		
217	2301	〃	細石刃核	砂 岩		
218	2460	〃	剥 片	凝灰岩 B		
219	2465	〃	細 石 刃	〃	22	
220	〃	〃	〃	〃		
221	2467	〃	〃	〃	102	
222	2468	〃	〃	〃		
223	2471	I-7-2	〃	〃	196	
224	2475	〃	〃	〃	197	
225	2476	〃	〃	〃	198	
226	2477	〃	剥 片	黒曜石 A	491	
227	2479	〃	細 石 刃	凝灰岩 B	199	
228	2496	H-7-21	〃	〃	200	
229	2502	〃	〃	〃	103	
230	2509	〃	〃	砂 岩		
231	2510	〃	〃	凝灰岩 B	201	
232	〃	〃	〃	〃		
233	2511	〃	〃	〃		
234	2517	〃	〃	〃	202	
235	2518	〃	〃	〃	203	
236	2520	〃	〃	〃	104	
237	2521	〃	〃	〃	204	
238	2525	〃	〃	〃	205	
239	2526	〃	〃	〃	206	
240	2529	〃	〃	〃	105	
241	2534	〃	〃	チャート		
242	2548	〃	〃	凝灰岩 B	296	
243	2568	H-7-22	調整剥片 細石刃核	〃		
244	2569	〃	細石刃核	〃	458	
245	2575	〃	〃	〃	457	
246	2576	〃	調整剥片	〃	469	
247	2578	〃	剥 片	〃		
248	2591	〃	細石刃核	〃		
249	2595	〃	細 石 刃	〃	207	
250	2668	〃	〃	〃		
251	2603	H-7-22	細 石 刃	凝灰岩 B	208	
252	2639	〃	〃	〃	106	
253	2699	〃	〃	〃	107	
254	2678	〃	〃	〃	470	
255	2700	〃	調整剥片 細石刃核	〃		
256	2702	〃	細石刃核	〃		
257	2714	H-7-23	細 石 刃	黒曜石 A		
258	2727	〃	〃	凝灰岩 B	108	
259	2731	〃	細石刃核	プリント	444	
260	2786	I-7-11	細 石 刃	黒曜石 A		
261	2810	〃	〃	〃		
262	2812	〃	〃	〃		
263	2840	〃	〃	プリント		
264	2885	〃	〃	凝灰岩 B	297	
265	2934	I-7-12	〃	〃	210	
266	2940	〃	〃	〃	109	
267	2945	〃	〃	〃	211	
268	2946	〃	〃	〃		
269	2947	〃	〃	〃	298	
270	2961	I-7-13	剥 片	〃		
271	2980	〃	〃	黒曜石 A		

272	2986	〃	細石刃	凝灰岩B	110	
273	2988	〃	礫	頁岩		
274	2996	〃	細石刃	凝灰岩B	212	
275	2999	〃	〃	〃	299	
276	3001	〃	〃	黑曜石A		
277	3014	I-7-14	〃	凝灰岩B	213	
278	3020	I-7-9	〃	〃	111	
279	3021	〃	〃	〃	112	
280	3025	〃	〃	〃	214	
281	3026	〃	〃	〃	300	
282	3027	〃	〃	〃	215	
283	3028	〃	〃	〃	301	
284	3029	〃	〃	〃	23	
285	3046	〃	〃	〃	24	
286	3051	〃	〃	〃		
287	3052	I-7-8	〃	〃	216	
288	3053	〃	〃	〃		
289	3055	〃	〃	〃	113	
290	3072	〃	〃	〃	25	
291	3080	〃	〃	〃	26	
292	3081	〃	〃	〃	218	
293	3082	〃	〃	〃	219	
294	3084	〃	〃	〃		
295	3086	〃	〃	〃	114	
296	3087	〃	〃	〃	115	
297	3088	〃	〃	〃	27	
298	3092	〃	〃	〃	116	
299	3095	〃	〃	〃	220	
300	3106	〃	〃	〃	117	
301	3110	I-7-8	細石刃	凝灰岩B	221	
302	3113	〃	〃	〃		
303	3115	I-7-7	〃	〃	28	
304	3116	I-7-7	〃	〃	118	
305	3117	I-7-7	〃	〃	302	
306	3123	〃	〃	〃	29	
307	3124	〃	〃	〃	119	
308	3125	〃	〃	〃	303	
309	3127	J-7-7	〃	〃	222	
310	3131	〃	〃	〃	30	
311	3132	〃	〃	〃	224	
312	3135	〃	〃	〃		
313	3137	〃	〃	〃	31	
314	3138	〃	〃	〃	120	3
315	3140	〃	〃	〃	33	35
316	3141	〃	〃	〃	305	
317	3145	〃	〃	〃	32	
318	3146	〃	剝片	〃		
319	3148	〃	細石刃	〃	225	
320	3149	〃	〃	〃	33	
321	3150	〃	〃	〃		
322	3153	〃	〃	〃		
323	3154	〃	〃	砂岩		
324	3157	〃	〃	〃		
325	3159	〃	〃	凝灰岩B	34	
326	3161	〃	〃	砂岩		35
327	3169	〃	〃	凝灰岩B	124	
328	3171	J-7-7	細石刃	凝灰岩B	125	

329	3174	〃	〃	砂岩	424	
330	3175	〃	〃	凝灰岩B	126	
331	3183	〃	〃	〃	35	
332	3192	〃	〃	〃	226	
333	3199	〃	〃	〃	36	
334	3203	〃	〃	〃	37	
335	3204	〃	〃	〃	38	
336	3206	〃	〃	〃		
337	3208	〃	〃	〃	127	
338	3215	〃	〃	〃	228	
339	3216	〃	〃	〃	39	
340	3217	I-7-6	?	砂岩		
341	3231	〃	剝片	粘板岩		
342	3270	I-7-1	細石刃	凝灰岩B	335	
343	3271	〃	〃	〃	306	
344	3274	〃	〃	〃	307	
345	3281	〃	〃	〃	40	
346	3284	〃	〃	〃	308	
347	3288	〃	〃	〃	128	
348	3289	〃	〃	〃	441	
349	3302	I-7-2	〃	〃	229	
350	3333	I-7-4	剝片	〃		
351	3394	I-7-11	剝片	硅岩		
352	3429	〃	細石刃	凝灰岩B	129	
353	3464	〃	〃	〃	130	
354	3500	〃	〃	〃	131	
355	3502	I-7-12	〃	〃	336	
356	3525	I-7-13	〃	〃	309	
357	3526	〃	〃	〃	230	
358	3537	I-7-8	〃	〃	310	
359	3544	〃	削器	黑曜石B	474	
360	3546	〃	細石刃	凝灰岩B	132	
361	3550	〃	〃	〃	41	
362	3552	〃	細石刃核	〃	456	
363	3554	〃	細石刃	砂岩		
364	3555	〃	〃	〃		
365	3556	〃	〃	凝灰岩B	436	
366	3557	〃	〃	頁岩	388	
367	3558	I-7-7	〃	砂岩	437	
368	3559	〃	〃	〃	440	
369	3560	〃	〃	凝灰岩B	337	
370	3563	〃	〃	砂岩	418	
371	3564	〃	〃	凝灰岩B	338	
372	3566	〃	〃	砂岩		
373	3570	〃	〃	凝灰岩B	42	
374	3574	〃	〃	〃	231	
375	3575	〃	〃	砂岩	339	
376	3577	〃	〃	凝灰岩B	133	
377	3579	〃	〃	〃		
378	3584	〃	〃	〃	232	
379	3585	〃	〃	〃	134	
380	3586	〃	〃	〃	44	
381	3588	〃	〃	頁岩		
382	3589	I-7-7	〃	凝灰岩B	135	
383	3595	〃	〃	〃	45	
384	3596	〃	〃	〃	233	
385	3599	〃	〃	〃	43	



386	3612	〃	〃	〃	
387	3613	〃	〃	砂 岩	419
388	3616	〃	〃	凝灰岩B	234
389	3622	〃	〃	〃	46
390	3627	〃	〃	砂 岩	
391	3628	〃	〃	凝灰岩B	235
392	3647	I-7-6	〃	〃	236
393	3658	I-7-1	〃	〃	237
394	3667	〃	〃	〃	47
395	3726	I-7-11	〃	〃	348
396	3732	〃	〃	フリント	366
397	3742	〃	残 核	黒曜石A	
398	3766	〃	細 石 刃	凝灰岩B	427
399	3880	〃	〃	〃	48
400	3896	〃	〃	〃	239
401	3904	I-7-11	細 石 刃	砂 岩	438
402	3942	〃	〃	凝灰岩B	340
403	3952	I-7-12	〃	〃	49
404	3956	〃	〃	〃	
405	3961	I-7-8	〃	〃	278
406	3965	I-7-7	〃	〃	136
407	3966	〃	〃	砂 岩	
408	3967	〃	〃	凝灰岩B	240
409	3975	〃	〃	砂 岩	426
410	3778	〃	〃	〃	428
411	3987	〃	〃	凝灰岩B	
412	3989	〃	〃	〃	50
413	3997	〃	〃	〃	
414	3999	〃	〃	〃	312
415	4000	〃	〃	頁 岩	
416	4003	〃	〃	凝灰岩B	
417	4008	I-7-6	〃	〃	
418	4019	I-7-1	〃	〃	137
419	4022	〃	〃	〃	407
420	4024	〃	〃	〃	51
421	4025	〃	〃	〃	52
422	4026	〃	調整剥片	〃	471
423	4035	I-7-2	細 石 刃	〃	53
424	4036	〃	〃	〃	242
425	4037	〃	〃	〃	243
426	4041	〃	〃	〃	54
427	4043	〃	〃	〃	313
428	4046	〃	〃	〃	55
429	4049	〃	〃	砂 岩	349
430	4051	〃	〃	凝灰岩B	246
431	4056	〃	〃	〃	
432	4057	〃	〃	〃	247
433	4059	〃	〃	〃	55
434	4060	〃	〃	〃	56
435	4061	〃	〃	〃	57
436	4062	〃	〃	硅 岩	
437	4064	〃	〃	凝灰岩B	248
438	4065	〃	〃	〃	138
439	4066	〃	〃	〃	58
440	4067	〃	〃	〃	
441	4068	〃	〃	〃	59
442	4069	〃	〃	〃	60

443	4072	〃	〃	〃	61
444	4073	〃	〃	〃	139
445	4075	〃	〃	〃	249
446	4076	〃	〃	〃	314
447	4078	〃	〃	〃	315
448	4080	〃	〃	〃	62
449	4082	〃	〃	硅 岩	361
450	4083	〃	〃	凝灰岩B	63
451	4084	I-7-2	細 石 刃	凝灰岩B	250
452	4088	〃	〃	〃	316
453	4095	〃	〃	〃	64
454	4158	I-7-11	〃	黒曜石A	391
455	4202	〃	細石刃核	凝灰岩B	461
456	4210	〃	細 石 刃	〃	65
457	4243	〃	〃	黒曜石A	387
458	4260	〃	〃	凝灰岩B	251
459	4292	〃	〃	砂 岩	413
460	4322	〃	〃	凝灰岩B	317
461	4353	〃	〃	〃	318
462	4391	〃	〃	〃	
463	4429	〃	〃	〃	
464	4417	〃	〃	〃	140
465	4421	I-7-3	〃	〃	66
466	4426	〃	〃	硅 岩	362
467	4433	〃	〃	凝灰岩B	252
468	4440	〃	〃	〃	253
469	4441	〃	〃	〃	67
470	4442	〃	〃	〃	254
471	4444	〃	〃	〃	141
472	4453	〃	〃	〃	255
473	4454	〃	〃	〃	319
474	4456	〃	〃	〃	256
475	4458	〃	〃	〃	
476	4462	〃	〃	〃	257
477	4464	〃	〃	〃	279
478	4466	〃	〃	〃	258
479	4471	〃	〃	〃	68
480	4488	〃	〃	〃	350
481	4489	〃	〃	〃	69
482	4490	〃	〃	〃	142
483	4492	〃	槌 石	〃	
484	4509	〃	細 石 刃	〃	320
485	4510	〃	〃	〃	259
486	4511	〃	〃	〃	260
487	4515	〃	〃	〃	143
488	4519	〃	〃	〃	321
489	4528	〃	細石刃核	フリント	445
490	4529	〃	細 石 刃	凝灰岩B	322
491	4531	〃	〃	〃	144
492	4532	〃	〃	〃	261
493	4539	I-7-4	〃	〃	262
494	4546	〃	〃	〃	323
495	4564	〃	〃	〃	263
496	4569	〃	〃	〃	330
497	4576	〃	〃	〃	264
498	4590	〃	〃	〃	351
499	4594	〃	〃	黒曜石A	383
500	4599	〃	〃	凝灰岩B	70

501	4601	I-7-4	細石刃	珪岩	378	
502	4608	〃	〃	〃	241	
503	4609	I-7-5	細石刃核	フリント		
504	4619	〃	細石刃	凝灰岩B	324	
505	4627	〃	〃	砂岩	429	
506	4640	〃	剥片	凝灰岩B		
507	4642	〃	残核	〃		
508	4766	I-7-11	細石刃	眞岩		
509	4776	I-7-12	〃	凝灰岩B	280	
510	4784	I-7-14	石核	〃		
511	4785	I-7-15	剥片	黒曜石A	493	
512	4808	I-7-6	細石刃	凝灰岩B	325	
513	4809	〃	削器	黒曜石A	483	
514	4816	〃	細石刃	凝灰岩B	265	
515	4830	I-7-1	〃	〃	145	
516	4832	〃	〃	フリント		
517	4835	〃	〃	凝灰岩B	333	
518	4836	〃	〃	〃	281	
519	4846	〃	〃	〃	266	
520	4850	〃	〃	〃	146	
521	4853	〃	〃	〃	147	
522	4856	〃	〃	〃	267	
523	4865	〃	〃	砂岩	414	
524	4867	I-7-2	〃	凝灰岩B	268	
525	4868	〃	〃	〃	269	
526	4869	〃	〃	〃	148	
527	4870	〃	〃	〃	270	
528	4871	〃	〃	〃	326	
529	4872	〃	〃	〃	149	
530	4877	〃	〃	〃	71	
531	4881	I-7-3	〃	〃		
532	4883	〃	〃	〃	327	
533	4885	〃	〃	〃	271	
534	4886	〃	〃	〃	331	
535	4889	〃	〃	砂岩		
536	4890	〃	〃	凝灰岩B	328	
537	4895	〃	〃	〃	329	
538	4921	〃	〃	〃		
539	4908	〃	〃	〃	72	
540	4909	〃	〃	〃	73	
541	4910	〃	〃	〃	150	
542	4911	〃	〃	〃	151	
543	4920	〃	〃	〃	341	
544	4922	〃	〃	〃		
545	4924	〃	〃	〃		
546	4929	I-7-4	〃	〃	272	
547	4939	〃	〃	〃		
548	4933	〃	〃	〃	273	
549	4934	〃	〃	〃	274	
550	4948	〃	〃	珪岩		
551	4950	I-7-4	細石刃	凝灰岩B	275	
552	4969	I-7-5	削器	黒曜石A		
553	4976	〃	調整剥片	凝灰岩B	473	
554	4984	〃	細石刃	〃	276	
555	4985	〃	〃	黒曜石B		
556	4991	〃	削器	砂岩	477	
557	〃	〃	細石刃	凝灰岩B		

558	5008	I-6-4	〃	砂岩	353	
559	5009	I-6-5	〃	黒曜石A	395	
560	5012	I-6-15	〃	〃		
561	5013	〃	剥片	珪岩		
562	5015	I-7-11	細石刃	凝灰岩B	152	
563	5017	〃	細石刃核	〃	460	
564	5024	I-7-8	細石刃	〃	74	
565	5025	〃	〃	〃	153	
566	5025	〃	〃	〃		
567	4679	〃	調整剥片	〃	472	
568	427	〃	削器	〃		
569	4794	〃	細石刃核	〃		
570	1826	〃	〃	〃		
571	2626	〃	〃	〃		
572	684	〃	〃	〃		
573	5360	〃	〃	〃	464	

第56表 第33ユニット出土石器一覧表

	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	14	I-5-3	細石刃	黒曜石A		
2	22	〃	〃	〃		
3	24	〃	〃	〃		
4	34	〃	〃	〃		
5	35	〃	〃	〃		
6	44	〃	剥片	〃		
7	54	〃	〃	〃		
8	57	〃	細石刃	〃		
9	58	〃	〃	〃		
10	61	〃	〃	〃		
11	68	〃	〃	〃		
11	69	〃	〃	〃		
13	72	〃	〃	〃		
14	77	〃	〃	〃		
15	85	〃	〃	〃		
16	87	I-5-3	剥片	〃		
17	122	I-5-2	細石刃	黒曜石B		
18	145	〃	〃	〃A		
19	154	〃	〃	〃		
20	158	〃	〃	〃		
21	177	〃	〃	〃		
22	197	〃	〃	〃		
23	206	〃	〃	〃		
24	212	I-5-3	〃	〃		
25	213	〃	〃	〃		
26	259	〃	〃	〃		
27	262	〃	〃	〃		
28	272	〃	〃	〃		
29	282	〃	〃	〃B		
30	310	〃	〃	〃A		
31	325	〃	〃	〃		
32	336	〃	〃	〃		
33	339	〃	〃	〃		
34	343	〃	〃	〃		
35	115	I-5-2	削器	〃		
36	116	〃	細石刃	〃		

第57表 第34ユニット出土石器一覧表

34	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	1	H-5-25	剥片	チャート	3	
2	50	H-6-16	細石刃	黒曜石A		
3	51	〃	〃	〃		
4	67	H-6-11	〃	〃		
5	172	H-5-9	剥片	〃	4	
6	204	H-5-14	〃	〃	5	
7	230	H-5-21	細石刃	〃	2	尾部切断
8	476	H-6-11	剥片	〃		
9	478	〃	〃	〃		
10	498	〃	〃	〃		
11	513	〃	〃	〃		
12	538	H-5-15	細石刃	〃		
13	603	〃	〃	〃		
14	614	〃	剥片	〃	6	
15	941	H-6-11	〃	〃	7	
16	1123	H-6-16	石核	〃		
17	1131	〃	剥片	〃	8	
18	1192	〃	〃	〃		
19	1193	〃	〃	〃	10	
20	1216	〃	細石刃	〃	1	尾部切断
21	1618	〃	剥片	〃	9	

第58表 第35ユニット出土石器一覧表

35	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	8	H-6-20	細石刃	凝灰岩B	1	尾部切断
2	11	〃	〃	〃	2	〃
3	17	〃	〃	〃	10	頭部切断
4	24	〃	〃	〃	3	尾部切断
5	29	〃	〃	〃	4	尾部切断
6	39	〃	〃	黒曜石A	12	頭尾部切断
7	42	〃	〃	凝灰岩B	5	頭尾部切断
8	82	H-6-19	石核	〃	20	
9	134	H-6-14	削器	?		
10	140	〃	〃	凝灰岩B		
11	151	H-6-15	剥片	黒曜石A		
12	158	〃	細石刃	凝灰岩B	11	頭中間部切断
13	199	H-7-11	槌石の割れ	?		
14	200	〃	剥片	黒曜石A	18	
15	215	〃	細石刃核	〃	15	
16	243	H-7-6	細石刃	凝灰岩B		尾部切断
17	254	〃	剥片	頁岩		
18	270	〃	槌石	?		
19	282	〃	細石刃核	凝灰岩B		
20	294	H-6-10	ブランク	黒曜石A	16	
21	341	H-6-4	細石刃	凝灰岩B	6	尾部切断
22	354	〃	〃	〃		〃
23	379	H-6-20	〃	黒曜石A	13	完全品
24	389	H-6-19	〃	凝灰岩B		
25	390	〃	〃	〃		
26	395	H-6-14	〃	〃	9	尾部切断
27	398	H-6-15	剥片	黒曜石A	17	
28	407	〃	〃	〃	19	
29	426	H-7-11	細石刃	凝灰岩B		尾部切断
30	433	〃	〃	黒曜石A		

31	443	〃	槌石	安山岩		
32	446	H-7-6	細石刃核	凝灰岩B	14	
33	452	〃	槌石	安山岩		
34	462	H-6-9	細石刃	凝灰岩B		
35	380	?	〃	〃	8	頭尾部切断

第59表 第36ユニット出土石器一覧表

36	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	22	G-11-21	細石刃	黒曜石A	3	尾部切断
2	74	G-11-23	〃	松脂岩	1	〃
3	75	〃	?	凝灰岩		
4	106	G-11-17	剥片	黒曜石A	6	
5	132	〃	〃	〃	5	
6	145	G-11-16	細石刃	?		
7	192	G-11-12	剥片	黒曜石A	8	
8	207	〃	〃	〃		
9	241	〃	〃	〃	7	
10	247	〃	残核	?		
11	275	G-11-23	細石刃	黒曜石A	4	尾部切断
12	420	G-11-13	剥片	〃	14	
13	427	〃	〃	〃		
14	463	G-11-14	〃	〃	13	
15	484	〃	〃	〃		
16	575	G-11-17	〃	凝灰岩		
17	624	G-11-12	〃	〃	11	
18	655	〃	石核	黒曜石A	17	
19	673	〃	残核	〃		
20	676	〃	〃	?		
21	702	G-11-13	剥片	黒曜石A	15	
22	899	〃	〃	〃		
23	916	〃	細石刃	〃	2	頭尾切断
24	959	〃	石核	〃		

第60表 第37ユニット出土石器一覧表

37	遺物番号	出土区	器種	石材	実測番号	その他
1	13	H-7-17	細石刃	凝灰岩B		頭・尾部切断
2	14	〃	?	?		
3	18	〃	剥片	黒曜石A		
4	21	〃	細石刃	凝灰岩B		尾部切断
5	34	〃	〃	〃		頭・尾部切断
6	37	〃	〃	〃	3	尾部切断
7	37	〃	〃	〃		頭・尾部切断
8	38	〃	剥片	黒曜石A		
9	49	〃	細石刃	凝灰岩B		尾部切断
10	50	〃	〃	〃	14	〃
11	58	〃	〃	〃		頭・尾部切断
12	79	〃	〃	〃		〃
13	87	H-7-18	〃	〃	15	尾部切断
14	103	〃	〃	黒曜石A		頭中間部切断
15	159	〃	剥片	凝灰岩B		
16	175	〃	細石刃	〃		尾部切断
17	186	〃	〃	黒曜石A		頭・中間部切断
18	217	H-7-19	スクレーパー	〃	63	
19	229	〃	細石刃核	凝灰岩B	53	
20	265	〃	細石刃	〃	16	尾部切断
21	314	H-7-20	剥片	〃		
22	317	H-7-15	細石刃	〃		頭・尾部切断
23	331	〃	細石刃核	〃		

24	333	〃	〃	〃		
25	338	〃	〃	〃		尾部 切断
26	436	H-7-13	剥片	黒曜石A		
27	453	〃	〃	〃		
28	459	〃	細石刃核	砂岩		
29	494	〃	剥片	黒曜石A	65	
30	511	〃	細石刃	凝灰岩B		頭・尾部切断
31	513	H-7-12	〃	〃		〃
32	517	〃	スクレーパー	黒曜石A		
33	531	〃	細石刃	凝灰岩B		頭・尾部切断
34	533	〃	〃	〃		頭・中間部切断
35	577	H-7-7	〃	〃		頭・尾部切断
36	592	〃	〃	〃		完全品
37	635	H-7-8	〃	〃		〃
38	667	〃	細石刃核	〃		
39	684	H-7-9	〃	〃		
40	702	〃	〃	〃		
41	719	H-7-3	細石刃	〃		
42	722	〃	剥片	〃		頭・尾部切断
43	739	〃	〃	〃		
44	742	G-7-21	石核剥片	〃		
45	771	〃	石核	?		
46	799	H-7-16	剥片	凝灰岩B		
47	802	〃	〃	〃		
48	811	〃	細石刃	〃		
49	814	〃	細石刃核	黒曜石A		頭・尾部切断
50	838	H-7-17	細石刃	凝灰岩B	17	
51	847	H-7-17	細石刃	凝灰岩B		尾部・切断
52	850	〃	〃	〃	66	頭・中間部切断
53	851	〃	〃	〃		尾部・切断
54	854	〃	〃	〃		〃
55	870	〃	〃	〃	18	尾部・切断
56	885	〃	剥片	黒曜石A		
57	890	〃	細石刃	凝灰岩B		頭尾部切断
58	891	〃	〃	〃		尾部切断
59	896	〃	〃	〃		中間・尾部切断
60	916	H-7-18	〃	黒曜石A		頭・尾部切断
61	929	〃	剥片	凝灰岩B		
62	940	〃	剥片	硬質		
63	978	〃	細石刃	砂岩		
64	987	〃	〃	凝灰岩B		頭・尾部切断
65	988	〃	剥片	黒曜石A	67	
66	996	〃	細石刃	〃		頭・中間部切断
67	1007	〃	剥片	凝灰岩B		
68	1040	H-7-19	〃	〃		
69	1132	〃	細石刃	〃		尾部切断
70	1163	H-7-14	〃	〃		頭・尾部切断
71	1183	〃	〃	〃	19	尾部切断
72	1185	〃	〃	〃	20	〃
73	1245	H-7-13	剥片	頁岩		〃
74	1259	〃	細石刃	凝灰岩B		尾部切断
75	1278	〃	〃	〃		〃
76	1287	〃	〃	〃		〃
77	1347	H-7-12	剥片	黒曜石A		〃
78	1355	H-7-7	〃	〃	68	〃
79	1370	〃	細石刃	凝灰岩B		〃
80	1398	H-7-8	剥片	〃		頭・尾部切断
81	1404	〃	〃	黒曜石A		〃

82	1419	〃	細石刃	凝灰岩B		頭・中間部
83	1421	〃	剥片	黒曜石A		
84	1443	〃	〃	〃	69	
85	1471	H-7-16	細石刃	凝灰岩B		頭尾部切断
86	1473	〃	〃	〃		〃
87	1474	〃	〃	〃		〃
88	1476	〃	〃	〃		〃
89	1488	〃	〃	〃		〃
90	1492	〃	〃	〃		〃
91	1494	〃	〃	〃		〃
92	1503	〃	〃	〃		〃
93	1504	〃	〃	〃		〃
94	1505	〃	〃	〃		中間・尾部切断
95	1511	〃	〃	〃	21	尾部切断
96	1527	H-7-17	〃	〃		頭・尾部切断
97	1533	〃	〃	〃		〃
98	1553	〃	〃	〃		頭・中間部切断
99	1566	〃	〃	〃		頭・尾部切断
100	1569	〃	〃	凝灰岩B		中間尾部切断
101	1591	H-7-17	細石刃	硬質		頭・尾部切断
102	1600	〃	剥片	砂岩		
103	1604	〃	〃	凝灰岩B		
104	1607	〃	細石刃	黒曜石A		
105	1617	H-7-18	〃	凝灰岩B		尾部切断
106	1660	〃	〃	黒曜石A		頭・尾部切断
107	1665	〃	剥片	凝灰岩B	70	
108	1685	〃	細石刃	〃		頭・尾部切断
109	1687	〃	〃	〃		尾部切断
110	1721	〃	〃	〃	22	〃
111	1733	〃	〃	〃		頭・尾部切断
112	1752	〃	〃	〃		頭・中間部切断
113	1760	〃	〃	黒曜石A		頭・中間部切断
114	1786	〃	剥片	凝灰岩B	71	
115	1828	H-7-19	細石刃	〃		中間・尾部切断
116	1858	〃	細石刃核	〃		
117	1926	〃	細石刃	〃		尾部切断
118	1952	H-7-15	〃	〃		完全品
119	1963	〃	細石刃核	〃		
120	1967	〃	細石刃	〃		頭・尾部切断
121	1975	〃	〃	黒曜石A		頭・中間部切断
122	1979	〃	剥片	〃		
123	1995	〃	細石刃核 (平円)	〃		
124	2012	〃	細石刃	砂岩		頭・中間部切断
125	2021	〃	〃	凝灰岩B		中間・尾部切断
126	2106	H-7-13	〃	〃		頭・中間部切断
127	2130	H-7-12	石核・剥片	〃		
128	2207	H-7-8	細石刃	〃		頭・尾部切断
129	2221	〃	〃	黒曜石A		〃
130	2226	〃	剥片	凝灰岩B	72	
131	2241	〃	細石刃	〃		頭・尾部切断
132	2257	H-7-9	剥片	〃		
133	2273	H-7-4	〃	〃		頭・尾部切断
134	2291	H-7-1	細石刃	〃		頭・尾部切断
135	2302	H-7-16	〃	〃		頭・中間部切断
136	2306	〃	〃	〃		頭・尾部切断
137	2308	〃	〃	〃		〃
138	2310	〃	〃	〃		〃

139	2314	〃	〃	〃	〃	頭・中間部 切斷	
140	2322	〃	〃	〃	〃	尾部・切斷	
141	2331	〃	〃	〃	〃	頭・尾部切斷	
142	2332	〃	〃	〃	〃	頭・中間部 切斷	
143	2334	〃	〃	〃	〃	尾部・切斷	
144	2340	H-7-17	剝片	黒曜石A	〃		
145	2341	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	頭・尾部切斷	
146	2349	〃	〃	〃	〃	〃	
147	2350	〃	〃	〃	〃	〃	
148	2354	〃	〃	〃	〃	尾部・切斷	
149	2370	〃	〃	〃	〃	頭・尾部切斷	
150	2375	〃	〃	〃	〃	〃	
151	2403	H-7-17	細石刃	凝灰岩B	〃	中間・尾部 切斷	
152	2405	〃	細石刃核	硬質	〃	〃	
153	2415	〃	剝片	凝灰岩B	〃	〃	
154	2518	〃	細石刃	〃	〃	頭・尾部切斷	
155	2522	H-7-18	細石刃核	〃	〃	〃	
156	2524	〃	細石刃	〃	〃	頭・中間部 切斷	
157	2684	H-7-19	〃	〃	〃	頭・中間部 切斷	
158	2697	H-7-14	〃	〃	〃	中間・尾部 切斷	
159	2699	〃	〃	〃	〃	尾部切斷	23
160	2727	〃	〃	〃	〃	中間・尾部 切斷	
161	2772	〃	〃	〃	〃	尾部切斷	
162	2780	〃	〃	〃	〃	頭・尾部切斷	
163	2784	H-7-13	〃	〃	〃	尾部切斷	24
164	2790	〃	〃	〃	〃	中間・尾部 切斷	
165	2797	〃	〃	〃	〃	頭・中間部 切斷	
166	2800	〃	剝片	黒曜石A	〃	〃	
167	2816	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	頭・中間部 切斷	
168	2840	〃	〃	〃	〃	頭・尾部切斷	
169	2850	H-7-8	〃	〃	〃	中間・尾部 切斷	
170	2852	〃	〃	〃	〃	頭・尾部切斷	
171	2861	〃	〃	〃	〃	〃	
172	2867	〃	〃	〃	〃	尾部切斷	
173	2871	〃	剝片	〃	〃	〃	
174	2873	〃	細石刃	〃	〃	〃	
175	2884	H-7-12	〃	〃	〃	〃	
176	2899	〃	剝片	〃	〃	〃	
177	2912	〃	〃	黒曜石A	〃	〃	
178	2942	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
179	2947	H-7-21	剝片	〃	〃	〃	
180	2953	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
181	2957	〃	〃	〃	〃	〃	
182	2959	〃	〃	〃	〃	〃	
183	2960	〃	〃	〃	〃	〃	
184	2962	〃	〃	〃	〃	〃	
185	2963	〃	〃	チャート	〃	〃	2
186	2964	〃	〃	〃	〃	〃	
187	2966	〃	〃	凝灰岩B	〃	〃	
188	2967	〃	〃	〃	〃	〃	
189	2969	H-7-22	細石刃核	〃	〃	〃	
190	2986	〃	剝片	〃	〃	〃	
191	3004	〃	〃	黒曜石A	〃	〃	
192	3005	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
193	3011	〃	〃	〃	〃	〃	
194	3014	〃	剝片	〃	〃	〃	
195	3021	〃	細石刃	〃	〃	〃	

196	3034	〃	細石刃核	〃	〃	〃	
197	3050	〃	〃	硬質頁岩	〃	〃	
198	3077	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
199	3108	〃	〃	〃	〃	〃	
200	3111	〃	剝片	〃	〃	〃	
201	3112	H-7-22	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
202	3117	〃	剝片	〃	〃	〃	
203	3122	〃	細石刃	〃	〃	〃	
204	3124	〃	剝片	〃	〃	〃	
205	3137	H-7-23	〃	〃	〃	〃	
206	3141	〃	細石刃核	〃	〃	〃	
207	3143	〃	細石刃	〃	〃	〃	
208	3147	〃	〃	〃	〃	〃	
209	3148	〃	〃	硬質頁岩	〃	〃	9
210	3157	〃	〃	凝灰岩B	〃	〃	25
211	3187	H-7-16	〃	〃	〃	〃	
212	3191	〃	〃	〃	〃	〃	
213	3197	〃	〃	〃	〃	〃	26
214	3209	H-7-17	剝片	〃	〃	〃	
215	3225	〃	細石刃	〃	〃	〃	
216	3228	〃	〃	〃	〃	〃	
217	3230	〃	〃	〃	〃	〃	
218	3238	〃	〃	〃	〃	〃	
219	3242	〃	〃	〃	〃	〃	
220	3267	〃	〃	〃	〃	〃	
221	3275	H-7-18	〃	〃	〃	〃	
222	3277	〃	〃	〃	〃	〃	
223	3287	〃	〃	〃	〃	〃	
224	3290	〃	〃	砂岩	〃	〃	
225	3298	〃	〃	黒曜石A	〃	〃	
226	3305	〃	〃	凝灰岩B	〃	〃	27
227	3306	〃	〃	〃	〃	〃	
228	3307	〃	〃	〃	〃	〃	
229	3312	〃	〃	〃	〃	〃	
230	3317	〃	〃	〃	〃	〃	
231	3342	〃	〃	〃	〃	〃	
232	3345	〃	〃	〃	〃	〃	28
233	3348	〃	〃	〃	〃	〃	
234	3351	〃	〃	〃	〃	〃	
235	3356	〃	〃	硬質頁岩	〃	〃	10
236	3359	〃	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	
237	3385	〃	〃	〃	〃	〃	
238	3389	〃	〃	〃	〃	〃	
239	3404	〃	〃	〃	〃	〃	
240	3405	〃	〃	黒曜石A	〃	〃	
241	3433	〃	〃	凝灰岩B	〃	〃	
242	3437	〃	〃	〃	〃	〃	
243	3440	〃	〃	〃	〃	〃	
244	3446	〃	〃	〃	〃	〃	
245	3451	〃	〃	硬質頁岩	〃	〃	
246	3453	〃	〃	凝灰岩B	〃	〃	
247	3455	〃	石核調整片	〃	〃	〃	
248	3462	〃	細石刃	〃	〃	〃	
249	3470	〃	〃	〃	〃	〃	
250	3482	〃	〃	〃	〃	〃	29
251	3482	H-7-18	細石刃	凝灰岩B	〃	〃	29
252	3483	〃	〃	〃	〃	〃	
253	3484	〃	〃	〃	〃	〃	

254	3498	〃	〃	〃		
255	3516	〃	〃	〃		
256	3540	〃	石核調整剝片	〃		
257	3556	H-7-20	剝片	〃		
258	3562	H-7-21	細石刃	〃		
259	3564	〃	〃	〃	30	
260	3565	〃	〃	〃		
261	3566	〃	〃	〃		
262	3568	〃	〃	〃		
263	3570	〃	〃	〃		
264	3570	〃	〃	〃		
265	3571	〃	〃	〃	31	
266	3624	H-7-20	剝片	黑曜石A	73	
267	3631	H-7-19	細石刃	〃		
268	3653	〃	〃	凝灰石	32	
269	3677	〃	〃	〃		
270	3692	〃	〃	〃		
271	3698	〃	細石刃核	〃		
272	3699	〃	〃	〃		
273	3713	〃	剝片	黑曜石A		
274	3715	〃	細石刃核	凝灰石		
275	3766	H-7-22	剝片	〃		
276	3792	〃	細石刃	〃		
277	3801	〃	〃	〃	34	
278	3808	〃	剝片	〃		
279	3821	〃	細石刃核	〃	56	
280	3823	〃	剝片	〃		
281	3868	〃	細石刃	〃		
282	3872	〃	〃	〃		
283	3882	〃	細石刃核	〃		
284	3889	〃	剝片	〃		
285	3906	〃	細石刃	〃		
286	3925	H-7-16	〃	〃		
287	3926	〃	〃	〃		
288	3937	〃	〃	〃		
289	3948	H-7-17	剝片	〃		
290	3948	〃	細石刃	〃		
291	3969	H-7-18	〃	〃		
292	3973	〃	剝片	黑曜石A	74	
293	3975	〃	細石刃	凝灰石	33	
294	3990	〃	〃	〃		
295	4005	〃	〃	〃		
296	4008	〃	〃	〃		
297	4013	〃	〃	〃	35	
298	4014	〃	〃	〃		
299	4032	〃	〃	〃		
300	4046	〃	〃	〃		
301	4088	H-7-18	細石刃	凝灰岩B		
302	4089	〃	〃	黑曜石A		
303	4155	〃	〃	凝灰岩B		
304	4180	〃	〃	〃		
305	4213	〃	〃	〃		
306	4239	〃	剝片	黑曜石A		
307	4346	H-7-20	細石刃	凝灰岩		
308	4353	H-7-20	剝片	硬質頁岩		
309	4356	〃	細石刃	凝灰岩B		
310	4361	H-7-22	〃	〃		
311	4362	〃	〃	〃		

312	4363	〃	〃	〃		
313	4389	〃	〃	〃		
314	4416	〃	〃	〃		
315	4463	H-7-23	〃	〃		
316	4503	〃	〃	〃	37	
317	4509	〃	〃	〃		
318	4511	H-7-18	剝片	硅岩		
319	4515	〃	細石刃	黑曜石A		
320	4516	〃	〃	凝灰岩B	7	
321	4521	〃	〃	〃		
322	4529	〃	〃	〃		
323	4530	〃	細石刃核	砂岩		
324	4540	〃	細石刃	凝灰岩B		
325	4548	〃	〃	〃		
326	4551	〃	〃	玉髓	1	
327	4566	〃	〃	凝灰岩B		
328	4579	〃	〃	〃		
329	4583	〃	〃	〃		
330	4591	〃	〃	〃		
331	4598	〃	〃	〃		
332	4609	〃	〃	〃		
333	4613	〃	〃	〃		
334	4632	〃	〃	〃		
335	4640	〃	〃	〃		
336	4649	〃	〃	〃		
337	4655	〃	〃	〃		
338	4644	〃	〃	〃		
339	4673	〃	〃	〃		
340	4677	〃	〃	〃		
341	4680	〃	〃	〃		
342	4699	〃	〃	〃		
343	4719	H-7-24	〃	砂岩		
344	4732	H-7-25	〃	凝灰岩B		
345	4770	H-7-13	剝片	黑曜石A	75	
346	4847	H-7-14	細石刃	凝灰岩B		
347	4860	〃	剝片	頁岩		
348	4878	〃	細石刃	凝灰岩B		
349	4881	〃	剝片	〃		
350	4884	〃	細石刃核	〃		
351	4894	H-7-14	細石刃	凝灰岩B		
352	4923	H-7-10	〃	〃		
353	4953	H-7-9	〃	〃		
354	4961	H-7-8	〃	〃	38	
355	4966	H-7-8	剝片	硬質頁岩		
356	4984	〃	細石刃	凝灰岩B		
357	4991	H-7-12	〃	〃		
358	4996	〃	〃	〃		
359	5014	H-7-8	〃	〃		
360	5016	〃	〃	〃		
361	5017	〃	〃	〃		
362	5035	〃	〃	黑曜石A		
363	5044	H-7-22	〃	凝灰岩B		
364	5046	〃	〃	〃		
365	5061	〃	〃	〃		
366	5113	〃	〃	黑曜石A		
367	5115	〃	〃	凝灰岩B		
368	5116	〃	剝片	〃		

369	5125	〃	細石刃	〃	
370	5129	〃	〃	〃	
371	5146	H-7-17	剥片	〃	
372	5148	〃	細石刃	〃	
373	5150	〃	〃	〃	
374	5159	〃	〃	砂岩	
375	5160	〃	剥片	凝灰岩B	
376	5162	〃	細石刃核	〃	
377	5164	〃	細石刃	〃	
378	5167	〃	〃	〃	
379	5177	H-7-18	〃	〃	
380	5188	〃	〃	〃	
381	5205	〃	〃	硬質頁岩	
382	5207	〃	〃	凝灰岩B	
383	5224	〃	〃	〃	
384	5229	〃	〃	〃	
385	5251	〃	〃	黒曜石A	
386	5273	〃	〃	凝灰岩B	
387	5283	〃	〃	黒曜石A	
388	5305	H-7-23	石核	凝灰岩B	
389	5360	〃	細石刃核	〃	
390	5364	〃	細石刃	〃	
391	5365	〃	〃	〃	
392	5369	〃	〃	〃	
393	5386	〃	剥片	〃	
394	5389	H-7-24	細石刃	〃	
395	5409	〃	〃	〃	
396	5413	H-7-22	〃	〃	
397	5419	〃	細石刃核	硬質頁岩	
398	5433	H-7-24	剥片	玉髓	
399	5454	〃	細石刃	黒曜石A	
400	5459	〃	剥片	凝灰岩B	
401	5511	H-7-21	細石刃	凝灰岩B	
402	5525	〃	〃	〃	
403	5527	〃	〃	〃	
404	5531	〃	〃	〃	
405	5533	〃	〃	〃	
406	5534	〃	〃	〃	
407	5541	〃	〃	〃	
408	5542	〃	〃	〃	
409	5564	H-7-23	〃	〃	
410	5569	〃	〃	〃	
411	5574	〃	〃	〃	
412	5576	〃	〃	〃	
413	5581	〃	〃	〃	
414	5582	〃	〃	〃	
415	5593	〃	〃	〃	
416	5594	〃	〃	〃	
417	5598	〃	〃	〃	
418	5599	〃	〃	〃	
419	5606	〃	〃	〃	
420	5616	〃	〃	〃	
421	5630	〃	〃	〃	
422	5635	〃	〃	硬質頁岩	
423	5641	〃	〃	凝灰岩B	
424	5686	〃	〃	硬質頁岩	
425	5693	H-7-25	〃	砂岩	
426	5700	〃	〃	黒曜石A	

427	5710	H-7-20	〃	凝灰岩B	
428	5750	H-7-19	〃	黒曜石A	
429	5754	〃	〃	〃	
430	5769	H-7-18	〃	凝灰岩B	
431	5772	〃	石核調整	〃	
432	5781	〃	剥片	〃	
433	5789	〃	細石刃	〃	
434	5792	〃	石核調整	〃	
435	5796	〃	剥片	黒曜石B	
436	5804	〃	細石刃	凝灰岩B	
437	5837	〃	〃	〃	
438	5845	〃	〃	〃	
439	5846	〃	〃	〃	
440	5848	〃	〃	〃	
441	5853	〃	〃	〃	
442	5857	〃	〃	〃	
443	5871	〃	〃	〃	
444	5878	〃	〃	〃	
445	5881	H-7-12	〃	〃	
446	5837	H-7-14	〃	〃	
447	5959	〃	〃	〃	
448	5966	〃	〃	〃	
449	5971	〃	〃	〃	
450	5973	H-7-15	〃	〃	
451	5978	H-8-11	細石刃	凝灰岩B	
452	5983	H-7-10	〃	〃	
453	5991	H-7-9	〃	〃	
454	5998	〃	〃	〃	
455	6000	〃	〃	〃	
456	6003	〃	〃	〃	
457	6008	〃	〃	〃	
458	6009	〃	〃	〃	
459	6035	H-7-16	〃	〃	
460	6044	H-7-23	〃	〃	
461	6053	〃	〃	〃	
462	6078	〃	〃	目の荒い頁岩	
463	6091	〃	〃	凝灰岩B	
464	6107	〃	〃	〃	
465	6109	〃	〃	〃	
466	6112	〃	〃	〃	
467	6114	〃	〃	〃	
468	6125	H-7-23	〃	〃	
469	6117	〃	〃	〃	
470	6125	〃	〃	〃	
471	6130	〃	〃	黒曜石A	
472	6139	〃	〃	凝灰岩B	
473	6141	〃	細石刃核	〃	
474	6145	〃	剥片	黒曜石A	
475	6158	〃	〃	〃	
476	6162	〃	細石刃	凝灰岩B	
477	6165	〃	〃	〃	
478	6168	〃	〃	〃	
479	6171	〃	〃	〃	
480	6178	〃	〃	〃	
481	6204	〃	〃	黒曜石A	
482	6205	H-7-19	〃	〃	
483	6229	〃	剥片	〃	

484	6223	〃	細石刃	凝灰岩B		
485	6263	〃	〃	〃		
486	6270	〃	〃	〃		
487	6298	〃	〃	〃		
488	6299	〃	〃	〃		
489	6315	H-7-18	〃	〃		
490	6326	H-7-19	〃	〃		
491	6327	〃	〃	〃		
492	6336	〃	〃	〃		
493	6337	H-7-18	〃	〃		
494	6343	〃	〃	〃		
495	6346	〃	〃	〃		
496	6348	〃	〃	〃		
497	6352	〃	〃	〃		
498	6383	〃	〃	〃		
499	6386	〃	〃	〃		
500	6389	〃	〃	〃		
501	6401	H-7-18	細石刃	凝灰岩B		
502	6407	〃	〃	〃		
503	6414	〃	〃	〃		
504	6416	〃	〃	〃		
505	6430	〃	〃	〃		
506	6446	〃	〃	〃		
507	6469	〃	剝片	黑曜石A		
508	6470	〃	細石刃	凝灰岩B		
509	6480	〃	〃	〃		
510	6493	〃	〃	〃		
511	6515	〃	〃	〃		
512	6527	〃	〃	〃		
513	6531	〃	〃	〃		
514	6534	〃	〃	〃		
515	6545	H-7-25	〃	〃		
516	6550	〃	剝片	黑曜石A		
517	6558	H-7-18	細石刃	凝灰岩B		
518	6575	〃	〃	〃		
519	6593	〃	〃	〃		
520	6618	〃	〃	〃		
521	6623	〃	〃	〃		
522	6630	〃	〃	〃		
523	6636	〃	〃	〃		
524	6652	H-7-23	剝器	黑曜石A		
525	6653	〃	細石刃	凝灰岩B		
526	6659	〃	〃	〃		
527	6671	〃	〃	〃		
528	6675	〃	〃	〃		
529	6678	〃	〃	〃		
530	6682	〃	〃	〃		
531	6683	〃	〃	〃		
532	6694	〃	〃	〃		
533	6701	〃	〃	〃		
534	6704	〃	〃	〃		
535	6707	〃	〃	〃		
536	6709	〃	〃	〃		
537	6718	〃	細石刃核	硅岩質		
538	6726	H-7-24	細石刃	凝灰岩B		
539	6731	〃	〃	〃		

540	6744	H-7-17	〃	〃		
541	6753	〃	〃	〃		
542	6756	〃	〃	〃		
543	6762	〃	〃	〃		
544	6774	〃	〃	〃		
545	6789	〃	細石刃核	〃		
546	6806	H-7-18	細石刃	〃		
547	6813	〃	〃	〃		
548	6829	〃	〃	〃		
549	6837	〃	〃	〃		
550	6841	H-7-19	〃	〃		
551	6842	H-7-19	細石刃	凝灰岩B		
552	6847	〃	〃	〃		
553	6852	〃	〃	〃		
554	6854	〃	〃	〃		
555	6856	〃	〃	〃		
556	6877	〃	〃	〃		
557	6878	〃	〃	〃		
558	6879	〃	〃	〃		
559	6880	〃	〃	〃		
560	6881	〃	〃	〃		
561	6887	〃	〃	〃		
562	6893	H-7-18	〃	〃		
563	6895	〃	〃	硬質頁岩		
564	6919	〃	〃	凝灰岩B		
565	6945	H-7-19	槌石	?		
566	6946	〃	〃	?		
567	6952	〃	細石刃核	凝灰岩B		
568	6972	H-7-18	細石刃	〃		
569	6955	〃	〃	〃		
570	7002	〃	〃	〃		
571	7044	〃	〃	〃		
572	7060	〃	〃	〃		
573	7062	〃	〃	〃		
574	7068	〃	〃	黑曜石A		
575	7073	〃	〃	凝灰岩B		
576	7075	H-7-19	〃	〃		
577	7080	〃	剝器	黑曜石A		
578	7087	〃	細石刃	凝灰岩B		
579	7091	〃	〃	〃		
580	7128	H-7-24	〃	〃		
581	7133	〃	〃	〃		
582	7139	〃	〃	〃		
583	7157	H-7-19	〃	〃		
584	7160	〃	〃	〃		
585	7174	〃	剝片	黑曜石A		
586	7177	〃	細石刃	凝灰岩B		
587	7196	〃	〃	〃		
588	7198	〃	〃	〃		
589	7205	H-7-18	〃	〃		
590	7219	〃	〃	〃		
591	7232	〃	〃	〃		
592	7244	〃	〃	硬質頁岩		
593	7269	〃	〃	〃		
594	7272	〃	〃	凝灰岩B		
595	7274	〃	〃	〃		
596	7276	〃	〃	〃		
597	7285	〃	〃	〃		



598	1722		〃	〃		
599	2598		細石刃核	〃		
600	2599		〃	〃		
601	3963		細石刃核	凝灰岩B		
602	3452	H-7-18	細石刃	硬質頁岩		
603	7260	〃	〃	〃		
604	4459		〃	凝灰岩B		

第61表 第38ユニット出土石器一覧表

38	遺物番号	出土区	器種	石 材	実測番号	そ の 他
1	50	G-10-24	剥 片		1	
2	166	G-10-18	石 核			
3	244	H-10-5	石 鏃			
4	333	G-10-19	剥 片		4	
5	415	G-10-24	〃		6	
6	418		削 器		5	
7	433		剥 片		7	
8	479		石 核		10	
9	73		〃	黒曜石A		
10	62		剥 片	〃	3	
11	67		〃	〃	2	

## まとめ

発掘調査の結果、加栗山遺跡は下層より先土器時代、縄文前期、中世山城の3文化層からなる複合遺跡であることが判明した。

しかも各文化層間には厚い無遺物層の火山灰が堆積していたため、攪乱等を受けることも少なく保存状況は良好であった。

また、舌状台地の大半約10,000㎡の全面発掘は、各時代の遺構・遺物を全体的な視野でとらえることができ、遺跡の把握に役立った。

なお、貴重な遺跡であることが判明した段階で、遺跡の保存運動が鹿児島県史跡調査会より起った。結果的には保存はなされなかったが、その後、発掘調査方法、諸考古学者の現地指導、地質、土壌、保存科学等の自然科学の導入といった学術的な調査体制で調査を行い、多くの成果を得た。

ことに集石、土層の保存科学、火山灰の多角的な検討は、遺跡理解のうえで役立った。

これらのほか、各文化層の成果と課題は、

①中世山城……自然地形を最大限に利用し、しかもこの地形に堀、傾斜面の削平をいった人工の手を加えることで、より強固な山城を構築していること。

遺物は一部13世紀頃のものが含まれるが、主体は15～16世紀該当で、城の盛行時期をうかがわせること。

堀Ⅱの断面観察では、堀Ⅱが埋没したのち堀Ⅱ上に溝状遺構及び通路が確認できたことも、当本城が盛衰はあっても、ある期間は城の機能を保っていたものと思われる。

以上のような発掘調査の成果は、築城者・時期・廃城等の諸問題に答えることはできなかった。その一因は、関係文献の少なさからである。城をふくめ、時代背景等歴史的な検討は、文献の聚集及びその資料と発掘結果の対比、検討等、今後残された課題である。

②縄文時代……早期の生活址、特に台地中央部に配される17期の竪穴住居址群や、土壇77基、集石16基、早期の円筒土器、角筒土器など豊富な資料を得ることができた。早期における集落の形態や土壇・集石の機能など発掘成果の再検討など今後の研究課題である。

③先土器時代……細石器文化の遺物が台地全体に38ヶ所のまとまり（ユニット）をもって約7万点検出され、石鏃・磨製石斧との共伴など多くの資料を得ることができた。ユニット間の時期差など今後検討されるべき課題もある。

# 加栗山遺跡における火山灰層の層序

千葉大学教育学部地学教室 石川 秀雄

## 1. 位置および地質

調査地域は鹿児島市川上町に属し、楢木川をはさんで、川上小学校の西南西約350 mの位置にある。この付近一帯には俗に“シラス”と呼ばれる今から約22,000年前に始良火山から噴出した入戸火砕硫の非溶結部堆積物が分布し、これを“新期火山灰・軽石層”が不整合でおおっている。この“新期火山灰・軽石層”は下位から上位にかけて互いに整合関係で降下軽石層、薄層理軽石質火山灰層及び火山灰層（ローム層）の3層に区分されている（大木・早坂，1970）が、本地域では降下軽石層はみられず，“シラス”の上を直接、薄層理軽石質火山灰層と火山灰層（ローム層）がおおう。

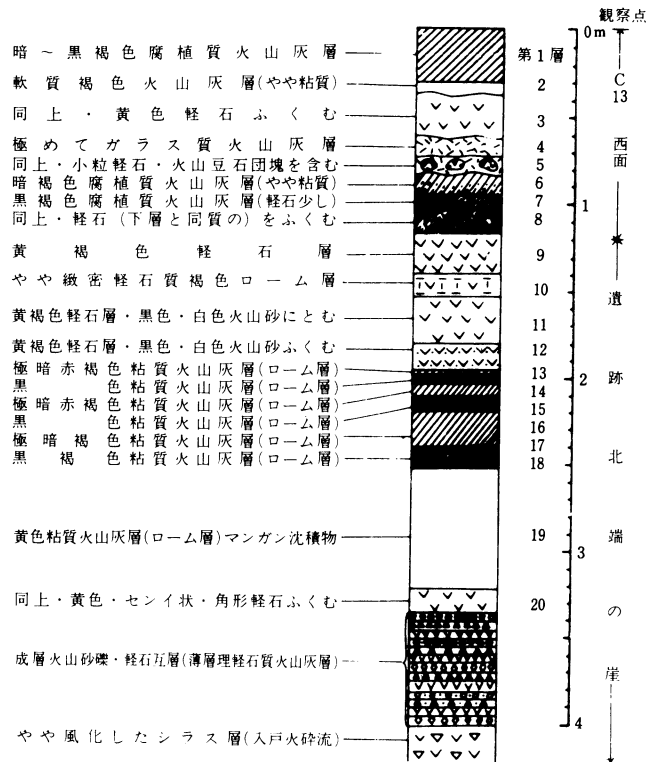
## 2. 層序

模式地質柱状図（第1図）で示すように、最下位にやや風化したシラス層（入戸火砕硫）があり、その上を成層した火山砂礫と軽石との互層からなる薄層理軽石質火山灰層がのる。さらにその上位に火山灰層（ローム層）がのるが、産状と顕微鏡観察から、これを20層に区分できる（第1図）。このうち第4・5層は外観的特徴、火山豆石（pisolite）を伴うこと、屈折率が火山ガラス $n=1,506\sim 1,512$ 、シソ輝石 $\gamma=1,706\sim 1,713$ （モード $1,709\sim 1,710$ ）などから、いわゆる“赤ホヤ層”に同定される。これは今から約6,000～6,400年前に噴出した幸屋火砕硫によるものである。（宇井，1973）。

その下位の第7層から縄文前期の遺物・遺構が、第14層からは先土器時代の細石器が、それぞれ発見されている。第14層の腐植性土壌の $^{14}\text{C}$ 年代は、 $10,220\pm 330$ 年B.P（石川・加藤，1977）である。

なお、上記の火山灰層下位の薄層理軽石質火山灰層については、石川ら（1972）によって、 $10,630\sim 11,200$ 年B.Pがえられている。以上の層序と $^{14}\text{C}$ 年代との関係はよく調和する。第1表は、本地域における層序と $^{14}\text{C}$ 年代を示す。

おわりにのぞみ、本調査について種々御討論いただいた鹿児島県文化課の調査員の方々や、静岡大学加藤芳朗教授をはじめ、試料の年代測定をしていただいた学習院大学木越邦彦教授、屈折率測定をしていただいた群馬大学新井房夫教授に御礼申し上げます。



第1図 模式地質柱状図

第1表 層序と<sup>14</sup>C年代

新期火山灰・軽石層	火山灰層(ローム層)	第4,5層("赤ホヤ層")	6,050±110年 B.P. (宇井・福山, 1972)
		第5層	6,360±90 " (松井, 1966)
		第6層	6,400±110 " (宇井, 1967)
		第7層	縄文前期遺物層
		第14層	細石器遺物層
		第14層	10,230±220年 B.P.
薄層理軽石質火山灰層		10,630±220年 B.P. (石川ら, 1972)	
		11,220±200 " ( " )	
降下軽石層			
入戸火砕流			約 22,000年 B.P. (木越ら, 1972)ほか

参 考 文 献

石川秀雄・肥後精一・泊芳秀・浜崎和男 (1972)：蒲生軽石礫および新期火山灰・軽石層の<sup>14</sup>C年代, 地質雑, 78巻, 563～565頁  
 石川秀雄・加藤芳朗 (1977)：鹿児島市加栗山における火山灰層の層序と<sup>14</sup>C年代, 鹿児島大学教育学部研紀, 28巻, 11～14頁  
 宇井忠英 (1967)：鹿児島県指宿地方の地質, 地質雑, 73巻, 477～490頁  
 宇井忠英・福山博之 (1972)：幸屋火砕流堆積物の<sup>14</sup>C年代と南九州諸火山の活動時期, 地質雑, 76巻, 631～632頁  
 宇井忠英 (1973)：幸屋火砕流—極めて薄く拡がり堆積した火砕流の発見, 火山, 2集, 18巻, 153～168頁  
 太田良平・郡山栄・脇元康元 (1967)：シラスの地質学的分類, 鹿児島県企画部, 1～43頁  
 大木公彦・早坂祥三 (1970)：鹿児島市北部地域における第四系の層序, 鹿大理学部紀要, 3号, 67～92頁  
 木越邦彦・福岡孝昭・横山勝三 (1972)：始良カルデラ妻屋火砕流の<sup>14</sup>C年代, 火山, 2集, 17巻, 1～8頁  
 松井健 (1966)：大隅半島笠之原台地の“アカホヤ”層の噴出年代, 地球科学, 87巻, 37～39頁

# 加栗山遺跡・加治屋園遺跡の 土層調査と土壌分析

静岡大学農学部 加藤 芳朗

## 1. 土層区分 (図1・図2)

両遺跡の土層について、火山灰の堆積と土壌化という観点からの区分(火山灰層位学的区分)を試みた(図1・2)。現地発掘調査班の土層区分はおおむね筆者の区分と一致した。

まずアカホヤ層・軽石一火山豆石層から説明する。加栗山遺跡のⅢb層、加治屋園遺跡の4a層は、その外観点特徴(1mm以下の火山ガラスの密集層、淡オレンジ色、しこしこした感じ、移植ゴテでけずるとサクサクする。指先に付着した火山ガラス片が太陽光の反射でキラキラ光る)、火山ガラスの屈折率が1.506~1.512、しそ輝石のそれ( $\gamma$ )が1.706~1.713(モード1.709~1.710)(群馬大学教育学部新井房夫教授の測定による)であること、その下位に軽石一火山豆石(大きさ1~0.5cmの丸い球ねぎ状構造をもった淡褐色の粒子)を含む層(加栗山のⅢc層、加治屋園の4b層)が来ること(宇井, 1973)から、赤ホヤ層であることが確認された。これは中部~南部九州一円に広く分布する火山灰で、鹿児島湾口の海底付近に噴出源をもつといわれる幸屋火砕碓(約6,000年前)の噴出に伴うものとされている(宇井・福山, 1972; 宇井, 1973)。出土遺物の年代の前後関係を知る上できわめて有力なカギ層である。最近の調査では遠く本州中部にまで分布が確認されている。(町田・新井, 1978)。

この他に、桜島火山起源と思われる軽石も3層認められた。うち、最下部のものは、薄層理火山灰層( $^{14}\text{C}$ 年代10,630~11,200年B.P.)としてすでに報ぜられている(石川他, 1972)。加栗山遺跡のⅥ~Ⅷ層、加治屋園遺跡の7a~7d層は、それぞれ4つのfall unitsをもった顕著な軽石層である。このうち下から2つ目のfall unit(それぞれⅧ層, 7c層)は黒色粒子に富んで、ゴマシオ状を呈する。また、加治屋園遺跡の3b層も黄褐色の軽石層である。これらが、桜島火山の一連の噴出物のどれに当たるかは未詳である。

上記の赤ホヤ層、軽石層を利用して、両遺跡の土層区分の対比を行うことができる。図1・2の説明記載を参考にすると表1のごとくなる。加栗山には加治屋園の2, 3bに当る層がない。縄文土器包含層が加栗山でVa, 加治屋園で5a, 5bだといわれるので、ⅣとVaあるいはVaだけが5a, 5bに相当することになると、Vbは6a, 6bに対比される。

## 2. 一次鉱物組成

採取試料を風乾し、10gをコニカルピーカーに入れて、湯せん器上で、過酸化水素水を加えて有機分を分解する。ついで音波処理を行い、湿式篩別して300#(0.046mm)のふるい上に残った砂(これを $>0.05\text{mm}$ とする)を集めて0.2mmのふるいにかけて、これを通過したもの(0.2~0.05mmの砂)をスライドガラス上でカナダバルサムに封じて検鏡し、400粒前後を同定して

一次鉱物組成を求めた。表2は主要鉱物群にまとめた組成百分率を示してある。実際には各群内を、火山ガラスの付着の有無、屈折率の大小、色の濃淡、形態などに基づいて細分してあるが、これらについては、必要に応じて説明することとする。

図3は、上で述べた加栗山、加治屋園両遺跡の土層の比較(表1)を検討するために、関係土層を表2から抽出して、その鉱物組成を図化したものである。

同図(3)の加治屋園3aは、加栗山Ⅱ・Ⅲaと似た全鉱物組成であるが、Ⅲaは扁平型ガラスが多く、むしろ、つぎの3cやⅢbとの共通性が強い。3cは火山ガラス(とくに扁平型ガラス)がきわめて多く、加栗山Ⅲb(アカホヤ層)に近い。

同図(1)・(2)に掲げた、加栗山Ⅳと加治屋園5a・5b、および加栗山Ⅴa・Ⅴbと加治屋園6a・6bも互いに似た組成であるが、加治屋園の方が、汚れた(結晶子を含むため)火山ガラスが多く、扁平ガラスが少ない。しそ輝石に対する普通輝石や不透明鉄鉱物の割合が大きいなど細かい点での相違が見出される。

同図の(3)の加栗山Ⅺと加治屋園8bとは、火山ガラスが多いことや、石英・岩片が比較的多い(ともに数%)点では共通するが、火山ガラスの内容は、前者で扁平ガラスが圧倒的なものに対して、後者では、多孔・扁平・繊維型ガラスが大体等量である。

以上のように、鉱物組成から野外観察による土層の対比結果(表1)を検討するといくつかのくい違いが出てくる。これらの土層はいずれも土壌化したものであり、降灰速度のおだやかな時期の堆積物と考えられる。これが鉱物組成の変異を大きくしているのか、今後の検討にまちたい。

### 3. 住居址遺構を充填する土層の層位(加栗山遺跡)

(1) 16号住居址 図4のように、Ⅴ層以下を切りこんだ浅い遺構がある。遺物包含層がⅤa層であることから、この切り込みの形成時期をⅤa層の生成中のある時期と推定すると、同遺構を充填する土層はⅤa層の後半またはそれより後でなければならなくなる。ただし、Ⅳ層は遺構の充填が完了した後で堆積しているから(図4参照)、充填土層はⅤa層の上半に限られてくる。ところが、現地での観察によると、充填土層は黒褐色を呈し、とくにその下半(図4の×印)は軽石粒に富み、Ⅴa層よりもむしろⅤb層に似ている。ここに問題が生じたわけである。そこで、この充填土層(図の×印)を採取して、C13の断面(図1)で採取した土層のうち、とくにⅣ～Ⅵ層のどれに当るかを分析によって検討することとした。その結果は、後述〔(4)〕のように、現地観察と同じく、充填土層がⅤb層に似ているとなった。

(2) 2号住居址 図5の斜線部のようにⅥ層以下の軽石層を切る穴があり、これを充填する土層は黒褐色で、図中の点線より左側ではやや軟かく、右側はやや堅くかつ軽石粒をかなり含んでいる。上記と同じく、この土層の層位が穴の形成時期を推定する決め手となると考えられたので、図の×印から試料を採取し、上と同様の検討をした。これも、後述〔(4)〕のようにⅤb層と似た特徴を持つことがわかった。

(3) 遺構の形成時期 (a) 16号住居址 図6の2つの可能性が考えられる。Aは形成期が、

IV層堆積直後の場合である。V b・V a層は遺構外の同層と同じく、火山灰の降下堆積その黒色土化をそれぞれ受けて生成したとする考えである。Bは形成期がV b層形成直後（堆積と黒色土化の終了後、V a層形成のごく初期）で、Aと違うのは、その後V a層の形成までの間のかなり短い時間に、当時地表にあったV b層が雨水などによって移動して遺構内に流れこみ、その下半分を充填したとする点である。

Aの場合には、遺構形成と遺物包含層とがずれることとなる。Bの場合、遺構内では、その底から、流れ込みの充填土層内、さらには、その上位のV a層にわたって、V a層中に含まれるものと同時期の遺物が存在しうる。また、遺構外では、V b層の直上からしか（つまりV a層内にしか）、同様の遺物は包含され得ないこととなる。

Aの可能性も否定できないが、V bが無遺物層、V aが遺物包含層だという事実と調和できるのはBしかない（Aの場合には、V b層にも遺物の産出があってよいこととなるので）と考える。

(b) 2号住居址 穴の中にV b層の材料となった火山灰が流入しそこで黒色土化したとは考えにくいので、上のBと同様に、V b層が黒色土化した後で穴が形成され、その後でV b層物質が流入充填したとする方が自然である。

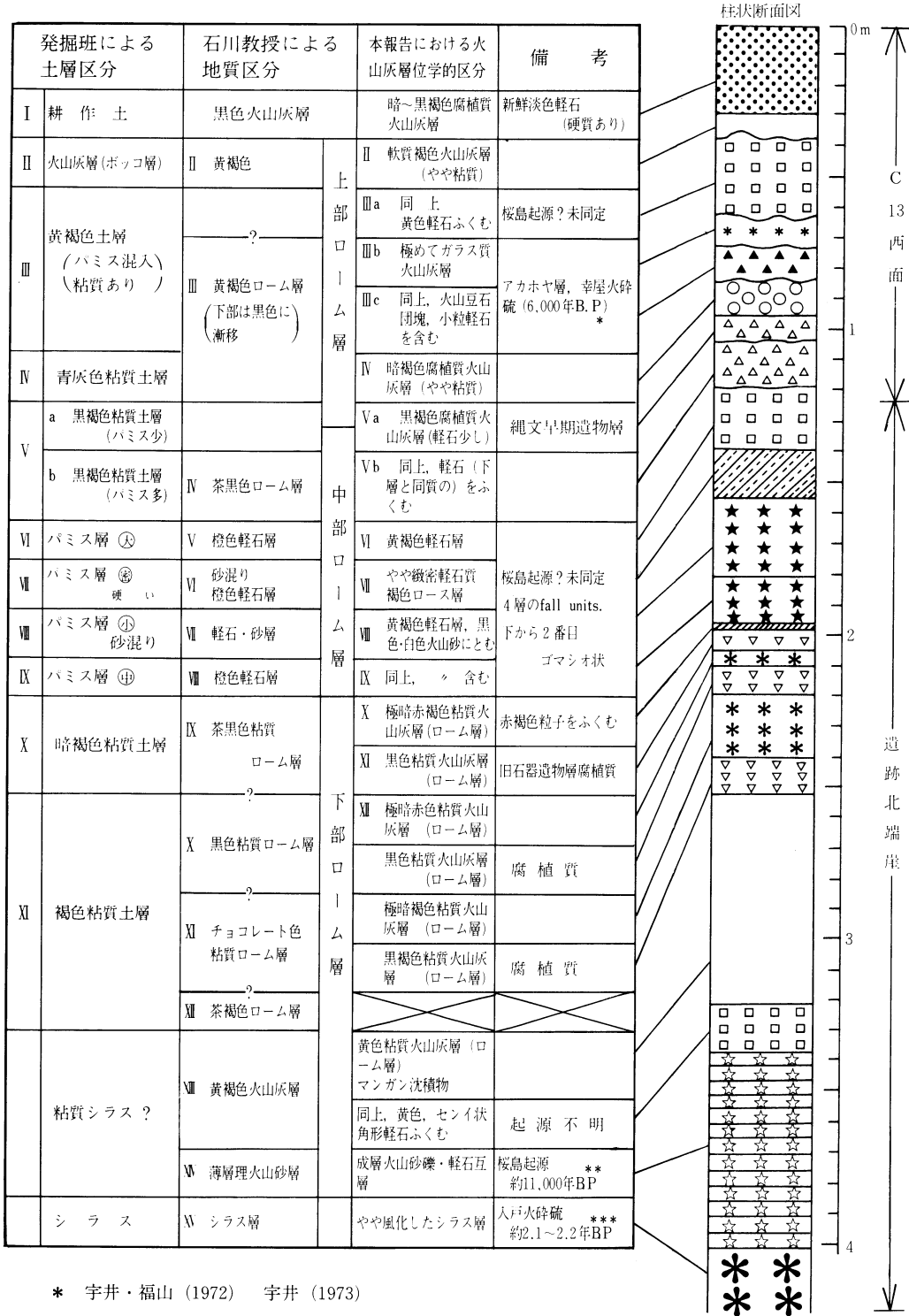
(4) 充填土層の対比検討 表3に關係試料の物理性の一部を示した。これによると、礫の%では、住居址の各試料がV b層に近い値を示す（ただし、2号住居址左試料はV aとV bとの中間）が、砂%、仮比重ではどちらとも判断がつかかねる。16号住居址試料の仮比重がV b層のそれより大きいのは踏圧を受けた可能性を示唆する。

各試料の一次鉱物組成（全鉱物）を表2、図3（1）で比較すると、住居址試料では斜長石が46～51%、火山ガラスが20～32%で、V aよりもV b試料に近似する。さらに、重鉱物・火山ガラスの内容をくわしく調べると（表4、図3（1））普通輝石の量、扁平型や結晶子型火山ガラスの量の点で、住居址試料はV b試料に近いことが推定される。

#### 引用文献

- 石川秀雄・肥後精一・泊芳秀・大木公彦・浜崎和男（1972）蒲生軽石硫および新期火山灰・軽石層の<sup>14</sup>C年代、地質雑 78巻・563～565頁
- 石川秀雄・加藤芳朗（1977）鹿児島市加栗山における火山灰層の層序と<sup>14</sup>C年代、鹿児島大教育研究紀要 28巻・11～14頁
- 木越邦彦・福岡孝昭・横山勝三（1972）始良カルデラ妻屋火砕硫の<sup>14</sup>C年代、火、2集、17巻、1～8頁
- 町田洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラアカホヤ火山灰、第四紀研究、17巻143～164頁
- 宇井忠英（1973）幸屋火砕硫一極めて薄く拡がり堆積した火砕硫の発見、火山、2集、18巻、153～168頁
- 宇井忠英・福山博之（1972）幸屋火砕硫堆積物の<sup>14</sup>C年代と南九州諸火山の活動時期、地質雑、76巻、631～632頁

図1 加栗山遺跡土層区分



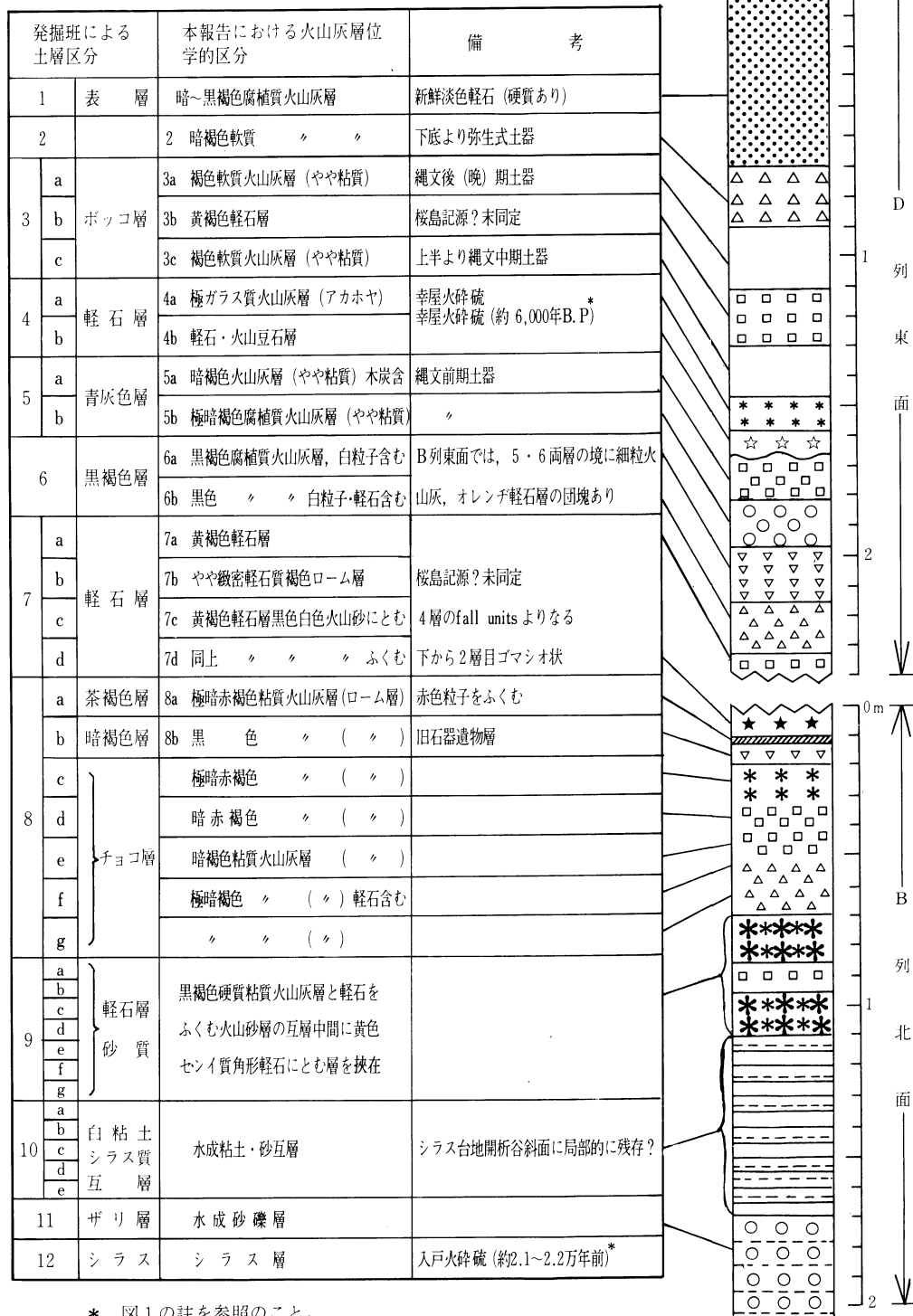
\* 宇井・福山 (1972) 宇井 (1973)

\*\* 石川ほか (1972)

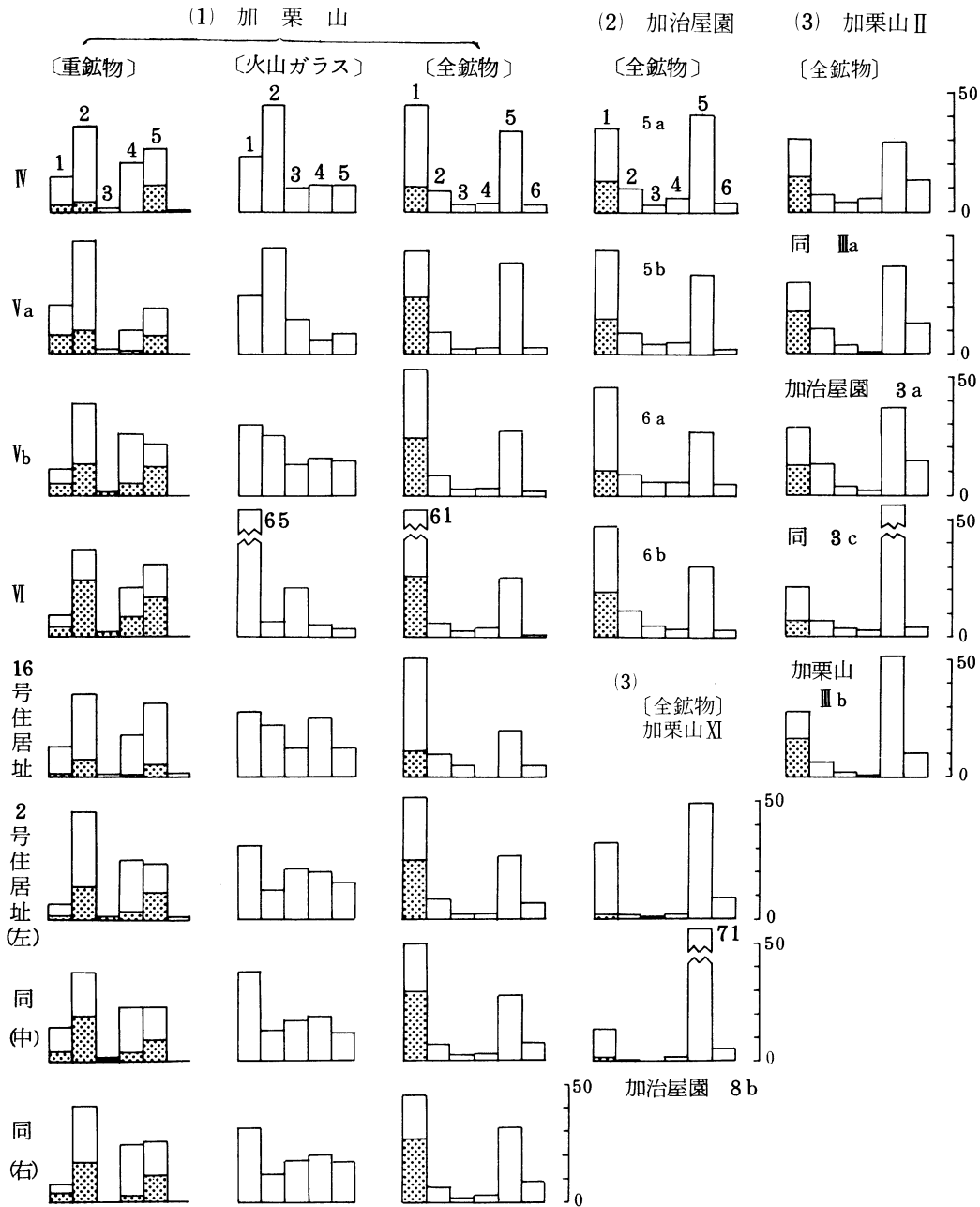
\*\*\* 木越ほか (1972)



図2 加治屋園遺跡土層区分



\* 図1の註を参照のこと。



凡例	記号	1	2	3	4	5	6
重鉱物	しそ輝石(淡色)	同左(濃色)	普通輝石(淡色)	同左(濃色)	不透明鉄鉱物	角閃石	
火山ガラス	多孔型	扁平型	纖維型	結晶子型	褐色型	—	
全鉱物	斜長石	しそ輝石	普通輝石	不透明鉄鉱物	火山ガラス	岩片	

点々部は火山ガラスを付着させた粒子。

第3図 砂試料(0.2~0.05mm)の一次鉱物組成図(%)

A

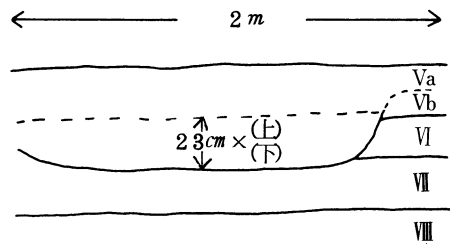
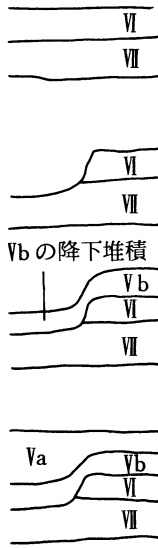


図4 加栗山遺跡15号住居址の浅溝状遺跡のスケッチ。  
ローマ数字は土層記号，斜線は黒色土層，Vは軽石。

B

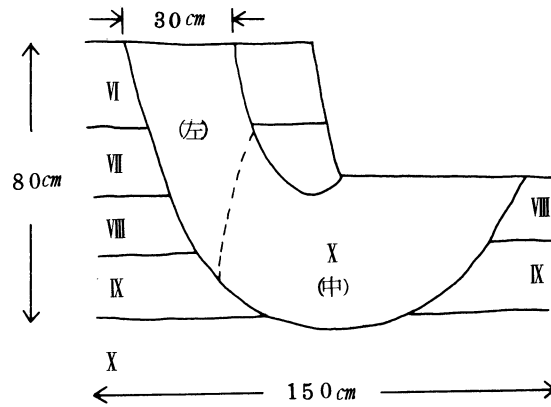
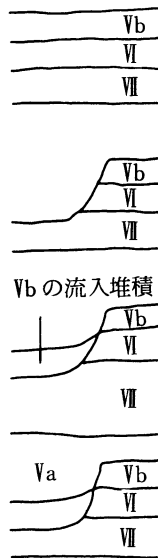


図5 加栗山遺跡2号住居址の穴状遺構のスケッチ。

図6 加栗山15号住居址浅溝状遺跡  
構の形成と土層による充填埋没  
の過程。

表1 加栗山・加治屋園両遺跡土層区分の対比

加栗山	加治屋園	備 考
I	1 2	
II a	3 a	褐色軟質火山灰層(やや粘質) 中部に軽石層(3 b)を挟む
III a	3 b 3 c	
III b	4 a	
III c	4 b	アカホヤ層(ガラス質火山灰層) 軽石-火山豆石層
IV	5 a 5 b	上半:暗褐色火山灰層 (やや粘質)
V a	6 a	下半:黒褐色火山灰層 (下部軽石多し)
V b	6 b	
VI	7 a	軽 石 層
VII	7 b	
VIII	7 c	
IX	7 d	
X	8 a	ごく暗赤褐色粘質火山灰層 (ローム層)
IX	8 b	黒色粘質火山灰層(ローム層)
XII	8 c	ごく暗褐色粘質火山灰層 (ローム層)

表2 細砂(0.2~0.05mm)の一次鉱物組成(%)

遺 跡	試 料	1 次 鉱 物									
		石 英	斜 長 石	角 閃 石	し ぞ 輝 石	普 通 輝 石	不 鉄 透 鈦 明 物	火 山 ガ ラ ス	岩 片	そ の 他	鑑 定 数
加 栗 山	II	<1	31	<1	8	4	6	42	<1	8	253
	III a	<1	30	—	10	4	<1	49	6	<1	357
	III b	<1	28	—	7	2	<1	58	4	<1	376
	III c	<1	21	—	2	2	1	68	5	—	434
	IV	<1	45	—	9	3	4	36	3	<1	372
	V a	<1	44	—	9	2	2	39	2	<1	413
	V b	2	54	—	8	3	3	28	2	<1	382
	VI	—	61	—	6	3	4	26	<1	<1	372
	VII	1	42	—	4	1	5	36	12	<1	421
	VIII	—	62	—	4	2	3	29	<1	<1	447
	IX	<1	84	<1	4	4	4	3	1	—	364
	加 治 屋 園	X	2	68	<1	5	2	5	15	2	<1
XI		3	32	2	2	<1	2	49	8	1	392
XII		2	40	<1	3	—	2	47	5	<1	390
16号住		3	51	<1	10	5	5	20	5	<1	357
2号住左		<1	52	—	9	2	3	27	7	<1	395
◇ 中		2	50	—	7	2	3	28	8	—	427
◇ 右		2	46	—	6	2	3	32	9	<1	409
2		<1	20	<1	8	3	2	53	13	—	412
3 a		—	29	—	13	4	2	37	15	<1	371
3 c		<1	21	<1	7	3	3	62	4	—	457
5 a		<1	35	—	10	3	6	41	4	<1	365
5 b		<1	44	<1	9	5	5	34	2	1	359
6 a	<1	46	—	9	6	6	27	5	<1	399	
6 b	<1	47	—	11	5	4	30	3	—	384	
6 C	5	14	<1	<1	—	2	71	5	2	384	

表3 加栗山遺跡の住居址充填土層の物理性

試料	礫(%)	粗砂(%)	細砂(%)	仮比重
V a	3.6	3.03	1.64	0.64
V b	8.0	2.71	1.88	0.71
16号住居(上)	7.0			
〃 (中)		2.02	1.39	0.80
〃 (下)	7.4			
2号住居(上)	5.3	2.48	1.58	—
〃 (中)	8.1	2.49	1.71	—
〃 (下)	7.6	2.58	1.63	—

表4 重鉱物・火山ガラスの内容

一次鉱物		*	IV	Va	Va	VI	16号 住居址	2号住居址			
								左	中	右	
重 鉍 物	しそ輝石	淡色	+	3	8	5	4	<1	<1	4	4
		淡色	—	12	13	6	6	13	6	10	4
		濃色	+	4	10	13	24	7	14	19	18
		濃色	—	32	38	26	13	29	32	18	24
	普通輝石	淡色	+	—	—	2	2	—	<1	<1	—
		淡色	—	2	2	—	—	<1	—	<1	—
		濃色	+	—	1	5	8	<1	3	4	2
		濃色	—	20	9	21	13	17	20	19	22
不透明	+	11	8	12	17	5	11	9	12		
鉄鉍物	—	16	12	10	14	27	13	14	14		
角閃石	—	<1	—	—	—	<1	<1	—	—		
鑑定粒数		119	102	115	108	151	123	125	125		
火山 ガラス	多孔型		23	25	31	65	28	31	38	32	
	扁平型		45	45	26	6	22	12	13	12	
	繊維型		10	15	13	21	13	22	18	18	
	結晶子型		11	6	16	5	25	20	19	20	
	褐色型		11	9	15	3	13	15	12	18	
	鑑定粒数		111	139	82	96	72	106	119	131	

\* 火山ガラスを付着するもの+  
 〃 付着しないもの—

# 微細遺物—フロテーション・セパレーション法

千 浦 美 智 子

## はじめに

遺跡をとりまく当時の環境を形成する動植物等の有機物は腐りやすく、人間が意識的に関与して残す機会は稀である。従って偶然、又は特別な条件下でしか遺存しえない場合が非常に多い。従って、自然遺物の採集には特別な配慮と工夫が必要となる。例えば、1本の草木といっても、根・幹・葉・花・実・種、更に肉眼で見る事のできない花粉やプラントオパール等各種の構造体から多種多様な試料が出現する。

回収を目的とする試料により、当然その採集方法は異なるが、その中で一番簡単でかつ応用範囲の広い方法として水洗選別（フロテーション）やフルイ選別（スクリーニング）がある。これにより土壌や住居址等の遺構を手掘りした土壌を乾燥したままフルイ綱にかけて微細遺物を取り出す事も可能であるし、又、水を利用して土壌中の微細な遺物を破壊しないで回収する事も可能である。その規模はバケツ（森井、1975）からFlot Boxと呼ばれる物（千浦、1977）や鳥浜貝塚のようにプール大の水場で洗い出す例（鳥浜貝塚研究グループ、1979）まで様々である。

## サンプリングと分析

立地条件の違いと遺跡の有機物残存率の差で使う道具もサンプル対象も大幅に変化する。例えば平地遺跡の場合、当然有機物の残存が少なく、回収を良くするにはかなり多くの土壌を、遺構を中心に採集し、洗いこなす装置を必要とする。一方、洞窟のように非常に著しい量の有機物を包含する場合は、層位的にも難しいので、少量の土壌を細かいメッシュで丁寧に洗別する必要がある。

当加栗山遺跡は、九州南端部・鹿児島市内のシラス台地上に位置する平地遺跡である。フロテーション用の土壌サンプルは、次の遺構を対象にランダムサンプルを取った。

1. 縄文時代早期の15号住居址半軒より30cmマスを市松状に採集（図版1）
2. 縄文時代早期の2号住居址と切り合う連穴土壇から3ヶ所採集（図版2）
3. 細石器文化層の炉址19群（図版3）

これらの土壌サンプルは、国際基督教大学構内にて、5mmと2.5mmのメッシュを使用し、フロットボックスで水洗いした。

全体的に出土遺物は少ない。回収した微細遺物を表1にまとめた。出土した石器のチップは2点を除き全て黒曜石である。ここで回収された土器片、レキ片は余り資料化の対象にならないが、一般的には出土試料の分布状態から住居址廃棄のパターン（小林、1974）との関連を裏づける事も可能である（森井、1975）。

炭化物の分類並びに樹木同定は、残存した物が非常に小さく、大部分がその対象にならなかった（表2）。炭化材の微細な破片の他に少なくとも7点の種子が検出された。キハダは胃腸薬ワカ末等に使用される薬用植物である。

一方、樹木同定は炭化材をパラフィン包埋処理し、プレパラートを作成した（模式図A）。樹木同定が可能であったイチイ科（*Toxaceae*）カヤ材は、その木の実については検出がなかったが、材を使用している以上その実を食用とした可能性が高い（写真1）。

カシ属（*Quercus*）と判断された材は、木口面に輻射孔材の性格がはっきり観察されたが、柾目の柔細胞の髄線については、観察不可能であった。

細石器文化層の炉址から出土した試料は、複数の広葉樹からなり人為的な結果として残った遺構と考えられる。当時の自然環境は全体として、針葉樹が混った落葉・広葉樹より成り立っていたと考えていいだろう。

### 考察

残念ながら当遺跡で水洗選別をした土壌サンプルは、遺跡全体像に対して非常に僅少で微細遺物の回収は決して良くなかった。当加栗山遺跡では、どちらかと言うと試験的に一部の土壌を水洗した為、比較資料がない事、そして筆者が直接遺物整理に関与していない為、断片的にしか遺跡を理解し得ない。

フロテーション法で回収された微細遺物、例えば種子等は普通の手掘りでの採集が不可能である。こうした実は遺跡の使用季節推定をする際に役立っている（Spector, 1970）。自然環境と人間の文化が密接に結びついている事実は明らかである（鈴木, 1978）。古代人の生活環境復元に必要と思われる資料の採集方法、分析の種類等を表3にまとめて見た。記録保存の為に、人工遺物のみならず、各種の土壌サンプルが必要で、これから得られる多くの自然科学的内容をも含む情報は、考古学的見地から再構成されて、はじめて有為な情報となる場合が多い。

写真説明（図版1, 2, 3）

#### 炭化材

1-a	クリ属	<i>Castanea</i>	木口面(×50)	1-b	クリ属	<i>Castanea</i>	板目面(×50)
1-c	クリ属	<i>Castanea</i>	柾目面(×50)	2-a	ブナ属	<i>Fagus crenata</i>	木口面(×60)
2-b	ブナ属	<i>Fagus crenata</i>	板目面(×50)	2-c	ブナ属	<i>Fagus crenata</i>	柾目面(×60)
2-d	ブナ属	<i>Fagus crenata</i>	柾目面(×200)	3-a	環孔材		木口面(×60)
3-b	環孔材		板目面(×60)	3-c	環孔材		柾目面(×60)
3-d	環孔材		柾目面(×200)	4-a	イチイ科カヤ	<i>Torreya</i>	木口面(×50)
4-b	イチイ科カヤ	<i>Torreya</i>	板目面(×50)	4-c	イチイ科カヤ	<i>Torreya</i>	柾目面(×50)
5-a	カシ属	<i>Quercus</i>	木口面(×40)	5-b	カシ属	<i>Quercus</i>	板目面(×50)
5-c	カシ属	<i>Quercus</i>	柾目面(×60)				

種子 6 キハダ *Phellodendron*      7 カナムグラ? *Humulus*

文献リスト (ABC順)

- 千浦美智子 1977 “環境復原とフロテーション” どんめん  
 小林達雄 1974 “縄文世界における土器の廃棄について” 国史学 93, 1~14pp.  
 森井美智子 1975 “ウォーターフロテーション・セパレーションによる微細遺物の再生”  
 中山谷遺跡, I,C.U, 考古学研究センター Occasional papers No. 1.  
 85~98p. p.  
 Spector, Jonet D. 1970 “Seeb. Analysis in Archaeology” Wisconsin Archaeo-  
 logist Vul. 51(4), 163~190p.p.  
 鈴木秀夫 1978 「森林の思考・砂漠の思考」NHKブックス 312.  
 鳥浜貝塚研究グループ 1979 「鳥浜貝塚」福井県教育委員会

表1 微細遺物出土表

	炭化物(g)	石器片(No)	土器片(No)	レキ片(No)
15号住居址	1.19	11	22	179
15号住柱穴1	0.03	—	—	6
15号住柱穴2	0.03	—	2	3
2号住連穴土坑	0.12	—	—	21
プル炉址	0.06	—	—	36
計	1.43	11	24	245

第2表 出土炭化物同定表

		15号住居址	15号住柱穴1	15号住柱穴2	2号住連穴土坑	プル炉址	計
種子	キハダ <i>Phellodendron</i>	4	—	—	—	—	4
	カナムグラ? <i>Humulus</i>	1	—	1	—	—	2
	その他	—	—	—	1	—	1
炭化物	カヤ属 <i>Torreya</i>	1					1
	クリ属 <i>Castanea</i>	2					2
	カン属 <i>Quercus</i>	2				1	4
	ブナ科 <i>Fagaceae</i>	4	1	1			6
	広葉樹	12	1		5	2	20
針葉樹	2	1				3	
	堅果類 殻	5	—	—	2	—	7

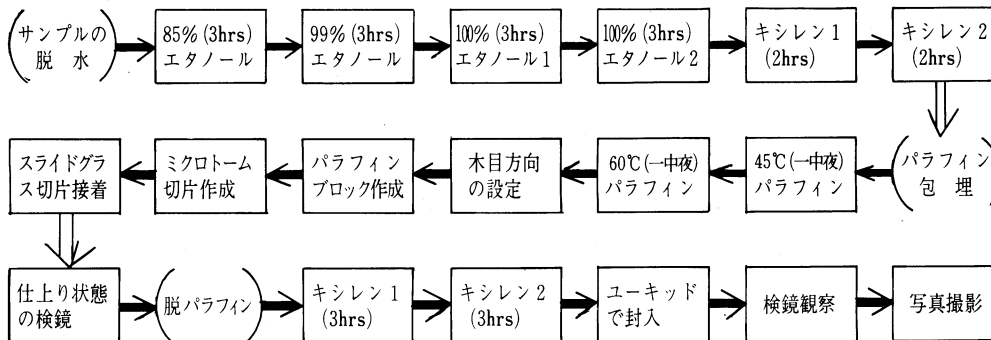


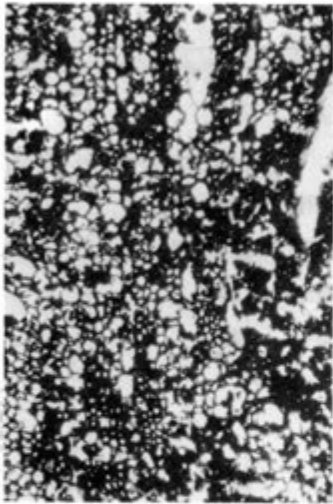
表3 生活環境復元に役立つ遺跡の土壌

採集地点	採集方法	採集物	分析手法	得られる知見	人間の行動	
住居址・炉・柱穴貯蔵 穴・配石・礫群等の各遺構 貝塚・洞窟等の特殊 遺跡 他	フローテーション用 ホール・ランダム コラム・サンプル	土器・石器・木器・ナ ワ・アミ等の人工遺物 実種材等の植物遺物 骨・歯・毛・貝等動物 遺物 糞石・鉱物等	胎土分析・原産地分析 植物質の材質分析 種子・果実同定 動物骨分析 貝殻分析 糞石分析	製作技術・運搬 運搬・搬入 食料・建築材料等 季節推定・食料・薬用 食料・季節理定植性 食料・装飾等 食料・メニュー復元等	文化・社会の適応性 二次森林の様子 農耕栽培種 家畜化 排泄等	生 活 環 境 復 元
埋ガメ・土城・住居址 等の遺構	ランダム・コラム・サ ンプル	pH濃度差, リン, Ca 等の含有量	pH, P, Ca等化学 分析	土城の性格 人為的埋積等土壌の 変化	排泄パターン	
遺構別・地層別	ランダム・コラム・サンプル	イネ科植物の検出	プラント・オハール分析	イネ科植物の検出	栽培種	
炉址・レキ群等の遺構	ランダム・サンプル	ミリカボディー	灰像分析	植物遺体の検出・燃料	料理	
別土器内部, 礫等の 付着物	付着物の分離	構成成分の定性定量分析	ガスクロマトグラフィ ー分析	食物	料理	
同 上	バン状炭化物の回収	たん白質	アミノ酸分析	食物	料理	
遺構・地層別	コラム・ランダム・サンプル	花 粉	花粉分析	植生・気候		
地層別	コラム・サンプル		火山灰・粘土鉱物 粒度・X線回折等の 地層の分析	地形・気候の変化 土壌の堆積 年代測定		

模式図A (図-1)

炭化材のプレパラート作成行程図

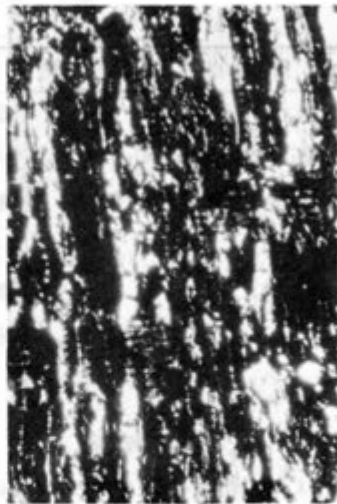




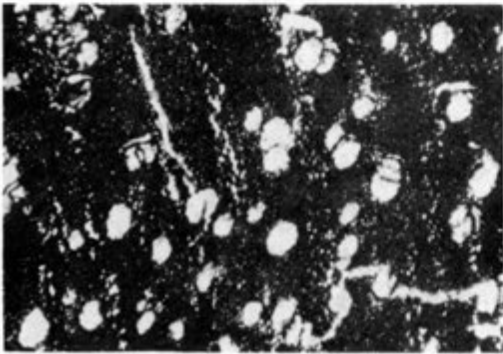
1-a



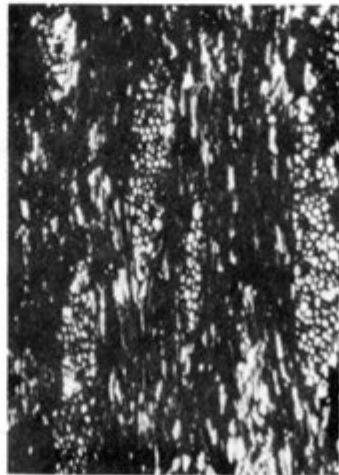
1-b



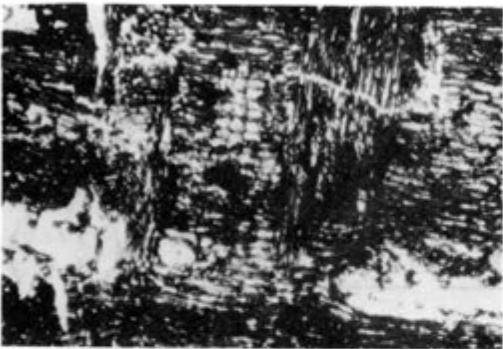
1-c



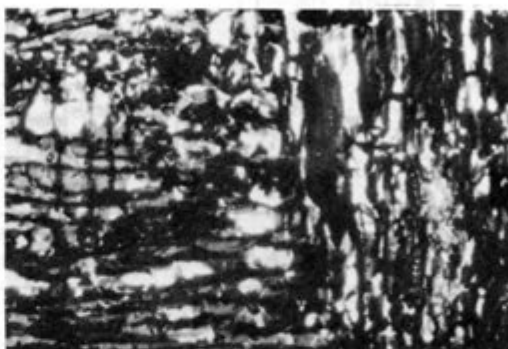
2-a



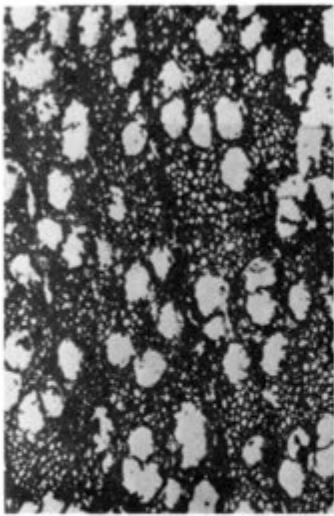
2-b



2-c



2-d



3-a



3-b



3-c



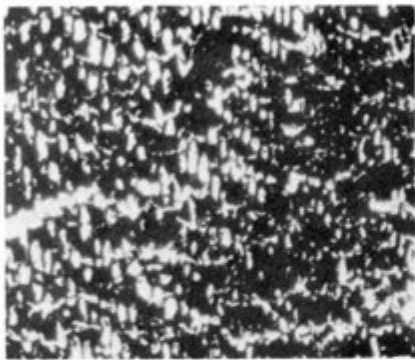
3-d



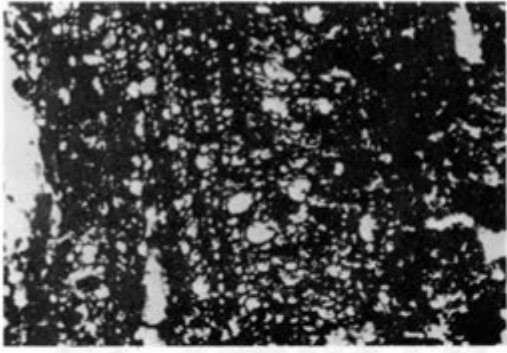
4-a



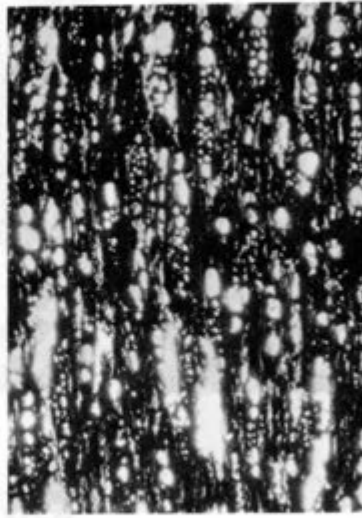
4-b



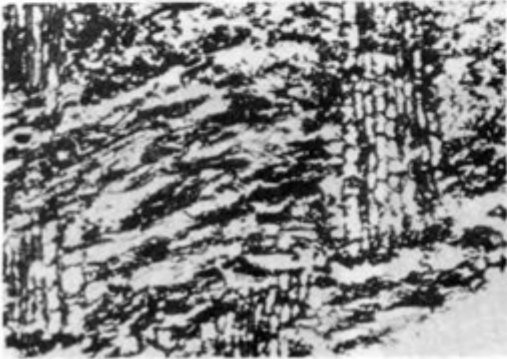
4-c



5-a



5-b



5-c



種子

# 加栗山遺跡におけるプラント・オパール分析

宮崎大学 藤原宏志

加栗山遺跡は、鹿児島市北西約5km、標高約190mのシラス台地上に立地している。シラスの堆積層は数十mにおよび、その上に火山灰の互層が数m堆積する典型的な火山灰台地である。現地表は畑地として利用され、第V層に縄文時代前期の遺構・遺物包含層が、また、第IX層にプレ縄文時代の遺物包含層が検出されている。

本報では各層土壤に含まれるプラント・オパールを定性的に分析し、各土層生成時のイネ科植生を明らかにするとともにイネ科栽培植物の有無について検討した結果について述べる。

## 1. 方法および試料

[分析法]

プラント・オパールの分析法には、定性分析と定量分析の二法があり、前者は土層堆積時のイネ科植物種の推定、後者はイネ科植物体量・種子生産量の推定を行うものである。

この報告では、定性分析結果についてのみ述べるので図1にそのダイアグラムを示すことにする。なお、この定性分析法の詳細、定量分析法などについては別報を参照いただければ幸いである。

[試料]

試料の採取は、'75年10月、発掘調査が進行し遺跡の性格がほぼ明らかになった時点で行われた。採取試料は、加栗山遺跡の標準的な土層10点と遺構・遺物包含層27点であり、その試料番号と採取位置は、図2・3および表1に示したとおりである。

## 2. 分析結果

分析結果は、表2に一覧する。

## 3. 考察および結論

① 第V層はV a・V bに分割されているが、両分割層の間にイネ科植生の差異は認められず、ともにタケ類、ススキ、チガヤの機動細胞プラント・オパールが多く認められた。ススキ、チガヤが多いことは、この地が当時何らかの理由で木本類がなく草原の状態にあったことを示唆するものであろう。なお、栽培植物に由来するとみられるプラント・オパールは全く検出されなかった。

② 第IX層は厚いパミス層の下にあるプレ縄文遺物包含層であり、タケ類が圧倒的に多かった。定量分析結果ではないので単位面積あたり生産量の推定はできないが、当時この地にタケ類が繁茂していたことは疑いない。本分析の結果から、木本類の有無多少について知ることはできないが、これらのタケ類は木本類が多ければその下草として、木本類が少なければタケ類原野として理解されよう。

③ 第V層における縄文前期遺構にともなう試料から検出された主なプラント・オパールはタケ類、ススキ、チガヤに由来するものであり、栽培植物に由来するとみられるものは検出されなかった。イネ科栽培植物が存在すれば住居址およびその周辺試料から、それらに由来するプラント・オパールが検出される可能性の大きいこと（従来行われた他遺跡における分析例からみて）を考える時、やはりこの時代にはイネ科栽培植物がまだ存在しなかったものとみてよからう。

④ 第I層（耕作土）からイネ機動細胞プラント・オパールが検出された。この地は標高約170 mのシラス台地で水田の営まれる立地条件ではない。この分析結果は、比較的新しい時代に陸稲作あるいは焼畑稲作がこの地で営まれたことを示すものと思われる。

#### 参 考 文 献

- 1) 藤原宏志・佐々木章・末吉孝行（1975）熊本・上ノ原遺跡（縄文晩期初頭）土壌のplant opal分析，日本作物学会九支会報42・49～53.
- 2) 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析による古代栽培植物遺物の探索，考古学雑誌62. 148～156
- 3) 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1），考古学と自然科学9. 15～29
- 4) 藤原宏志・佐々木章（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究（2），考古学と自然科学11. 9～19
- 5) 藤原宏志（1979）プラント・オパール分析法の基礎的研究（3），考古学と自然科学12. 29～42

表2 加栗山遺跡におけるプラント・オパール  
定性分析結果一覧

表1 採取試料一覧

試料 No.	区	
①	F-9	V a
②	F-9	V b
③	F-10	石組Ⅱ
④	F-11	石組Ⅰ
⑤	F-11	N側V a
⑥	F-11	N側V b
⑦	F-11	住居址Ⅷ
⑧	F-12	pit 3
⑨	F-13	pit
⑩	F-13	pit
⑪	G-14	住居址Ⅹ
⑫	G-14	住居址Ⅺ
⑬	G-12	住居址Ⅶpit
⑭	E-11	住居址Ⅹ西側
⑮	E-11	住居址Ⅹ東側
⑯	D-12	pit 22
⑰	D-15	石組Ⅲ
⑱	F-11	V a
⑲	F-11	V b
⑳	H-6	Ⅳ下
㉑	H-6	V a
㉒	F-7	V b 上
㉓	F-7	V b 下
㉔	F-7	V a
㉕	J-4	石組
㉖	G-15	住居址Ⅳ
㉗	E-15	Ⅸ層：ブレ期包含層

試料 No.	植 物 名
①	ススキ・チガヤ
②	チガヤ・スズメノヒエ・ススキ・クマザサ
③	ススキ・メガルカヤ・チガヤ
④	ススキ・チガヤ・クマザサ
⑤	メガルカヤ・チガヤ・スズタケ・ススキ
⑥	ススキ・チガヤ・スズタケ
⑦	ススキ・チガヤ
⑧	チガヤ・ススキ・スズタケ
⑨	チガヤ・ススキ・スズタケ
⑩	チガヤ・スズタケ
⑪	スズタケ・ススキ
⑫	チガヤ・スズタケ・ススキ・クマザサ
⑬	スズタケ・スズキ・チガヤ
⑭	チガヤ・ススキ
⑮	チガヤ・ススキ
⑯	スズタケ・クマザサ・チガヤ・ツルヨシ・ススキ
⑰	クマザサ・チガヤ・ススキ
⑱	ススキ・チガヤ
⑲	ススキ
㉑	チガヤ・ススキ・タケ・スズタケ
㉒	スズタケ・ススキ・チガヤ
㉓	チガヤ・スズタケ・ススキ
㉔	スズタケ・ウシノシッペイ
㉔	チガヤ
㉕	チガヤ・ススキ
㉖	スズタケ・チガヤ・シバ・ススキ
㉗	タケ・イネ・ススキ
㉘	タケ
㉙	ススキ
㉚	チガヤ・タケ
㉛	ウシノシッペイ・チガヤ・タケ
㉜	スズタケ・ススキ
㉜	なし
㉝	スズタケ
㉞	なし
㉞	ススキ・スズタケ・クマザサ
㉟	スズタケ・メガルカヤ・ススキ・タケ
㊱	チガヤ・ススキ・スズタケ・クマザサ・タケ

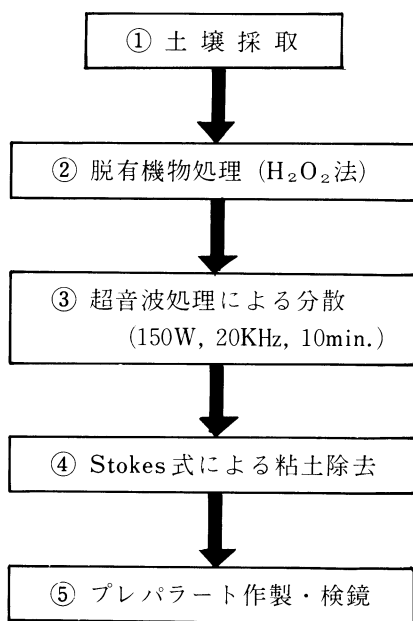


図1 定性分析ダイアグラム

試料 No.	土層	
⑳	I	耕作土(表層)
㉑	II	ボッコ層
㉒	III	黄褐色粘質土層
㉓	IV	灰青色粘質土層
㉔	V	a : 縄文前期式土器包含層
㉕		b
㉖	VI	} パミス層
㉗	VII	
㉘	VIII	
㉙	IX	プレ期遺物包含層
㉚	X	

図2 加栗山標準層

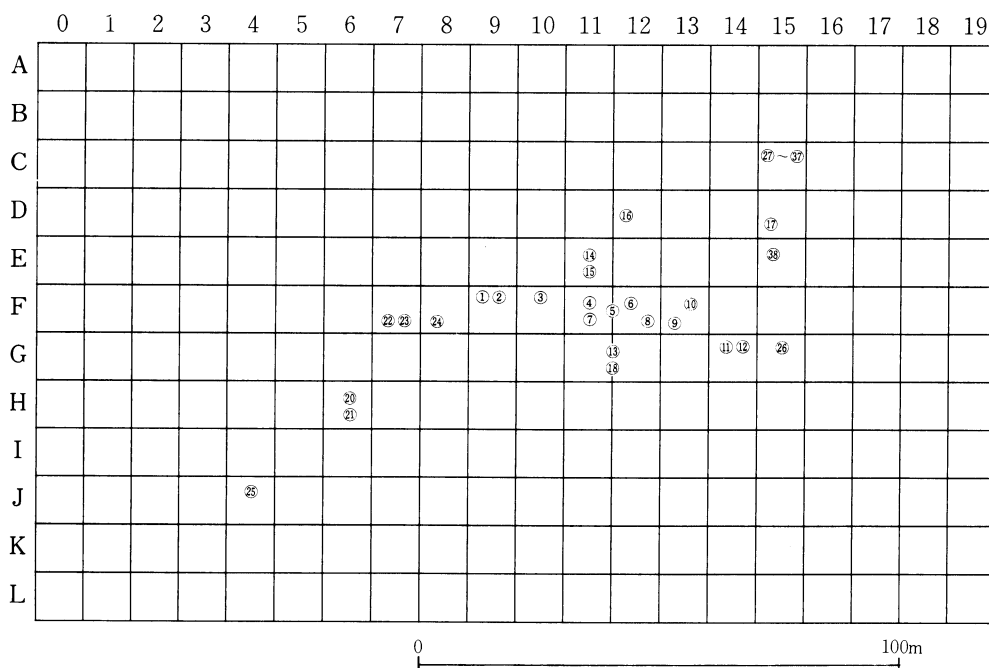
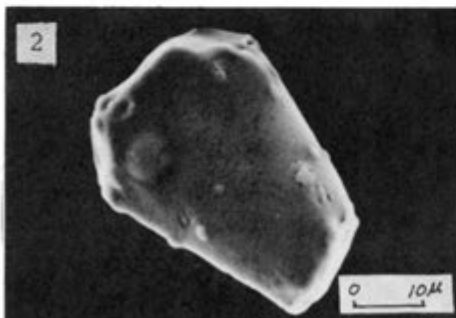
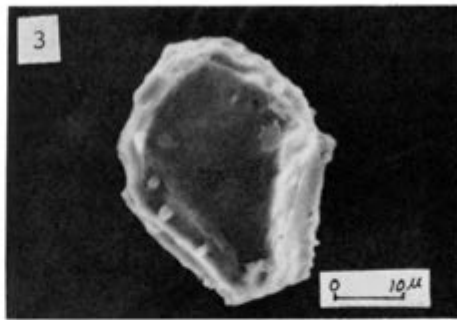
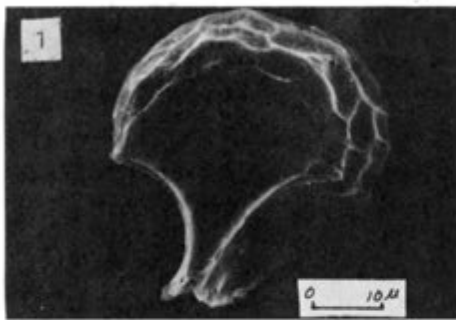


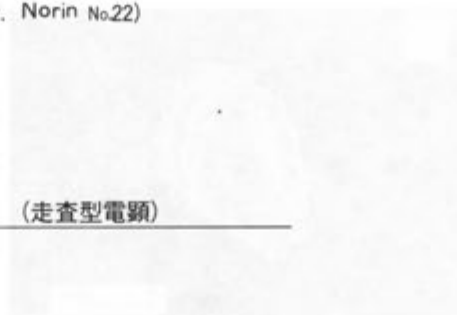
図3 加栗山遺跡試料採取地点

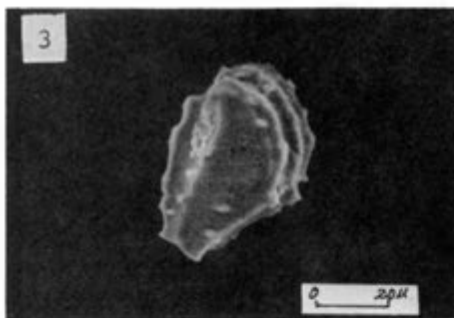
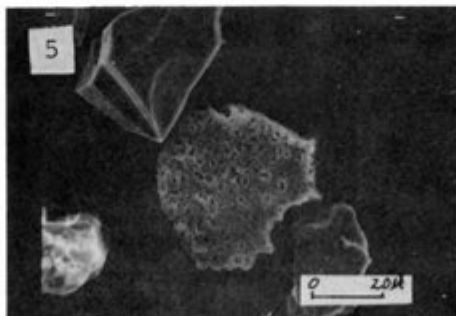
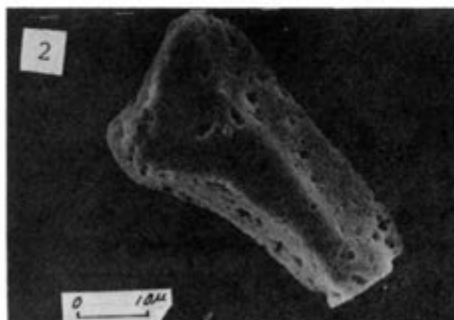
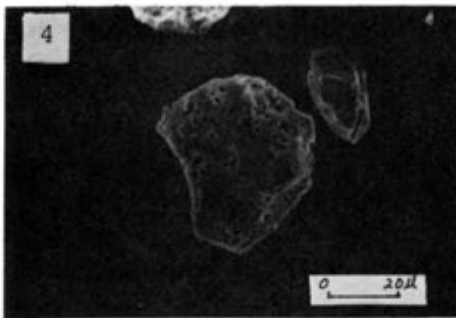




1. イネ (農林22号) *O. sativa* (Var. Norin No.22)
2. ススキ *M. sinensis*.
3. ヤダケ *Bambusaceae*.
4. ネマガリダケ *Bambusaceae*.

植物珪酸体標本 (走査型電顕)



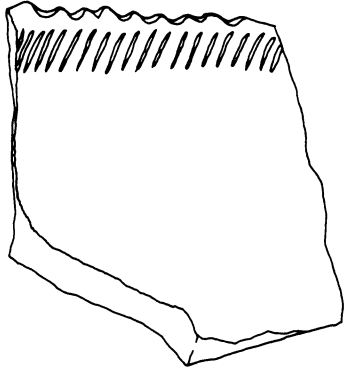


- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 試料No.27 (I層) イネ    | 4. 試料No.31 (IV層) タケ類  |
| 2. 試料No.31 (III層) ススキ | 5. 試料No.36 (IX層) クマザサ |
| 3. 試料No.31 (IV層) タケ類  |                       |

出土プラント・オパール (走査型電顕)

# 土器に関する調査

機械金属技術指導センター 出雲茂人



土器の破片の断面は、左図のようになっており、厚さは約8mm程度あり、内面、外面の表層は0.5～1.0mm程度の厚みの赤褐色の層となっている。赤褐色を呈している表層に、部分的に一段と鮮やかな赤橙色を帯びた所が認められ、この赤橙色の生成原因を確認する目的で、次のような検討を行った。

## 1. 蛍光X線分析による定性分析

赤橙色を呈する最大の構成要素としては、二酸化鉄（ベンガラ）がよく使われているので、ここでもその線に沿って検討した。

内面・外面の赤橙色、赤褐色を呈している表層部分と、これらの着色層をサンドペーパーで除去した後の灰黒色部分（内層）の三つの部分についての蛍光X線スペクトラムをとり、そのスペクトルを比較してみた。その結果、二酸化鉄の構成元素である鉄のピーク（ $Fek\ \alpha$ 、 $Fek\ \beta$ ）の波高にはほとんど差異を認めなかった。

これから推察するに、これら三層の粘土鉱物の中に含まれる鉄分の含有量には差がないことが判る。

## 2. 土器の素地の鉱物組成

土器の内面・外面の赤褐色を呈する表層部分を入念に削りとり、内部の灰黒色層を分別し、これらをX線回折計装置によって粉末法によって分析した。その結果、これらの各層の主な構成要素は、鉱物学的には $\alpha$ -石英、カオリナイト、灰長石の三者であることが判った。

ただ赤褐色を呈していた表面層の $\alpha$ -石英のピークが、灰黒色層のそれに比較すると可成り高いことから土器の焼成の際の熱影響によってカオリナイト、灰長石等に含有される $SiO_2$ （シリカ）が $\alpha$ -石英に転移し成長したものと思われる（図2、X-Ray chart）。

## 3. 赤橙色の部分的呈色理由

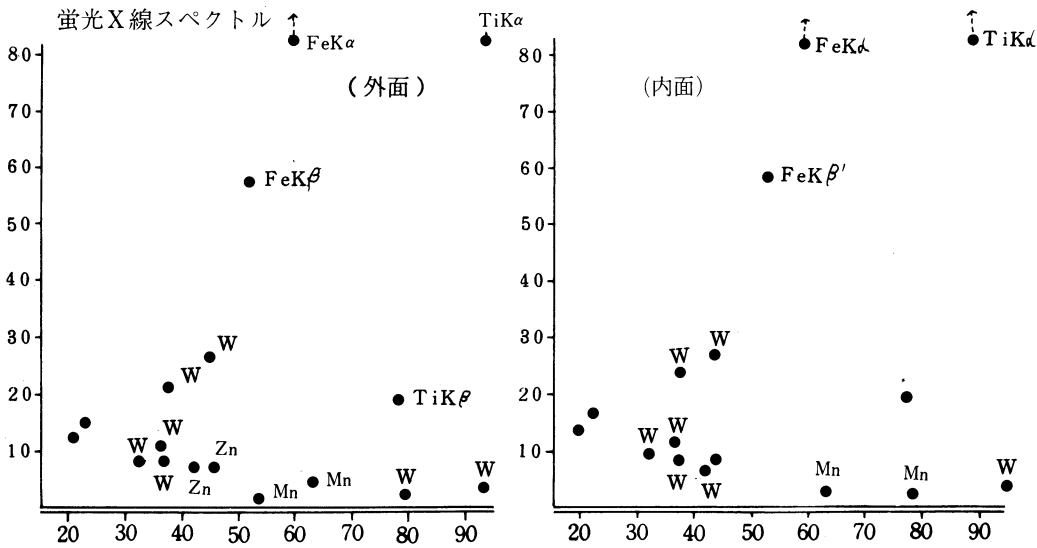
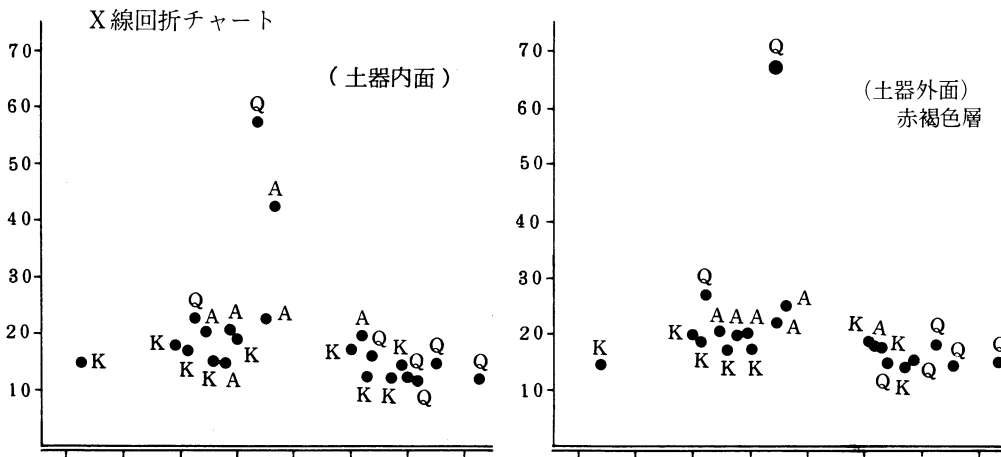
前述の蛍光X線分析およびX線回折の結果から、内面・外面の表層に部分的に見られる赤橙色の発色の原因は、表面層に意図的に二酸化鉄等の顔料を含む釉薬を塗布したものではなく、原料粘土鉱物中に元来含有されている鉄分が、焼成の際の熱影響を受けて酸化されて二酸化鉄に変化し、あたかも鉄含有量の多い釉薬を塗布したかのごとき外観を呈したものと考えられる。

#### 4. 焼成温度の推定

当時の土器の焼成温度が何度ぐらいであったのかは判然としないが、当該土器の内部層の灰黒色の部分が何度で表面層と同様な褐色を呈するのか電気炉で試しに焼いてみた。

たとえば、400℃で3時間保持しても色の変化は見られなかったが、500℃で1時間焼くと淡褐色を呈し、更に2時間焼いたところ当該表層と同じような褐色を呈してきた。更に高温で、たとえば、600℃では約20分も保持すると同様な褐色を得ることができた。

ただ、表層部分にスポット的に見られる赤橙色は600℃台では得られにくいため、その部分はいっと高温になった所であると思われる。今日の窯業技術に見られる高温焼成がその当時なされた訳はなく、木材等を燃料とする焼成であったろうことから、内部の灰黒色層までは表層部分と同一条件では焼成できずに仮焼成の段階で作業が終了したものと思われる。



## 集石遺構の科学処理による取り上げと保存

加栗山遺跡は、中世山城・縄文文化・細石器文化と3種の文化層が確認・検出されたことは第I章から第III章まで述べてきた。この貴重な資料に対して、我々は遺構等について科学的保存という面からも取り組んでみた。

東京都小金井市前原遺跡において、礫焼ピットの科学保存を行なった東京国立文化財研究所第3修復技術研究室の樋口清治室長と青木繁夫氏の指導を受けて、1号集石と2号集石の2基について科学的保存を行なった。

### 1 集石の科学的保存



取り上げる遺構の範囲を決め、EXPをPS-NY-シンナーで適量にうすめ、土に注入して固める。動く石や石のすき間には土をつめて固定しておく。

薬剤：EXP (イソシアネートプリポリマー)  
PS-NY-シンナー



取り上げる範囲のまわりを掘り込む。レベルや方位を測定しておく。



遺構表面から適当な長さの「」型の針金を数ヶ所に差し込む。全体重量を軽くするため、裏側の土を除去するための目安となる。



遺構の天地を逆にする際、遺構の礫が移動しないように、表面に拓本を取る要領で画仙紙を水張りして固定する。ラップ等でさらに覆うと効果がある。



⑤ 天地を逆にするため、遺構の周辺にわく組や、すじかいを入れて頑丈に固定する。



⑥ 表面に発泡ウレタン樹脂を流し込み、さらに頑丈に固定する。発泡ウレタンの節約のため、ビニール袋等で風船をつくり、つめる。発泡が始まったら板等で圧力をかけ平らにする。  
薬剤：ハイプロックス（主剤・硬化剤）主剤対硬化剤＝1対1



⑦ 発泡ウレタン樹脂が固まったら、天地を逆にするためフタをし、遺構を台地と切り離しながら裏打ちをする。ショック防止のため、ウレタンフォームをフタとの間に入れたり、すじかいをしっかりとる。



⑧ 遺構の天地を逆にした後、裏側の土を除去する。③で差し込んでいた針が見えたら、さらに最大限にうすくして全体重量を軽くする。



⑨ 裏土の表面にエポキシ樹脂エマルジョンを塗って固める。  
薬剤：エマルジョン（主剤・プリゾールL-601、硬化剤・プリゾールL-602）主剤対硬化剤＝3対1、適宜水でうすめる。



⑩ 裏土の表面にポリマールをしみ込ませたグラスファイバーマットをはり、さらに固め、安定させる。  
薬剤：ポリマール（ポリエステル樹脂）触媒にパーメック（ベンゾールパーオキサイド）を使う。主剤対触媒＝100対1



⑪

裏に支えの骨組をつくり、裏土と一体化させるため、ポリマールをしみ込ませたグラスファイバーマットをはりつける。



⑫

遺構の天地を元にもどし、上ぶた、発泡ウレタン、画仙紙、針金等を除去していく。



⑬

遺構面を清掃し、EXP（イソシアネートブリポリマー）をさらにしみ込ませて固める。  
薬剤：EXP、PS-NY-シンナー



⑭

動く石はエポキシ系の接着剤で固定し、ひびがはいて土が動く場合は、エポキシ樹脂エマルジョンの原液を流し込んだり、土と練ったものをつめておく。  
薬剤：エポキシ系接着剤、エポキシ樹脂エマルジョン



⑮

### 1号集石

清掃を行ない、展示用の化粧板などをあてる。  
カビ対策用にホルマリンを4~5倍位薄めたものを塗布しておく。



⑮'

### 2号集石

神ノ木山遺跡



# 目 次

I 調査に至るまでの経過 .....	1
II 調査の組織及び調査の経過 .....	1
III 遺跡の位置及び環境 .....	2
IV 調査の概要 .....	3
V むすび .....	3

---

## I. 調査に至るまでの経過

九州縦貫自動車道の計画は昭和43年3月、整備計画が決定され、つづいて4月には日本道路公団に対して、加治木～鹿児島間25kmの区間について工事施行命令が出された。

これを受けて、県教育委員会は文化庁の指導を受け、日本道路公団鹿児島工事事務所と連絡のうえ、県内在住の考古学、文化財関係者の協力を得て、昭和43年12月17日～昭和44年1月20日まで、加治木～鹿児島間の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施した。

その後、本工区の工事着工が具体化したため、県教育委員会文化室（当時）は、昭和47年8月22日、再び分布調査を実施した。

これら2回の分布調査の結果、鹿児島市の区間内には、木ノ迫・加治屋園・加栗山・神ノ木山の4遺跡が確認された。

その後、建設事業の推進と文化財の保護について協議をすすめた結果、これらの遺跡については発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

発掘調査は、昭和49年2月より加栗山遺跡から実施した。

本遺跡は、昭和50年5月12日～15日まで実施した。

## II. 調査の組織及び調査の経過

調査責任者	文化課長	宇都哲（昭和50年度）
	文化課長	山下典夫（昭和55年度）
調査企画	専門員	河野治雄（昭和50年度）
	専門員	本蔵久三（昭和50・55年度）
	課長補佐	有村八朗（昭和50年度）
	課長補佐	新時弘（昭和55年度）
調査担当者	文化財研究員	戸崎勝洋
	主事	青崎和憲
事務担当者	係長	中島敏光（昭和50年度）
	係長	川畑栄造（昭和55年度）
	主事	野村和徳（昭和50年度）
	主事	安藤幸治（昭和55年度）
	主事	長山恭子（昭和50年度）
	主事	天辰京子（昭和55年度）

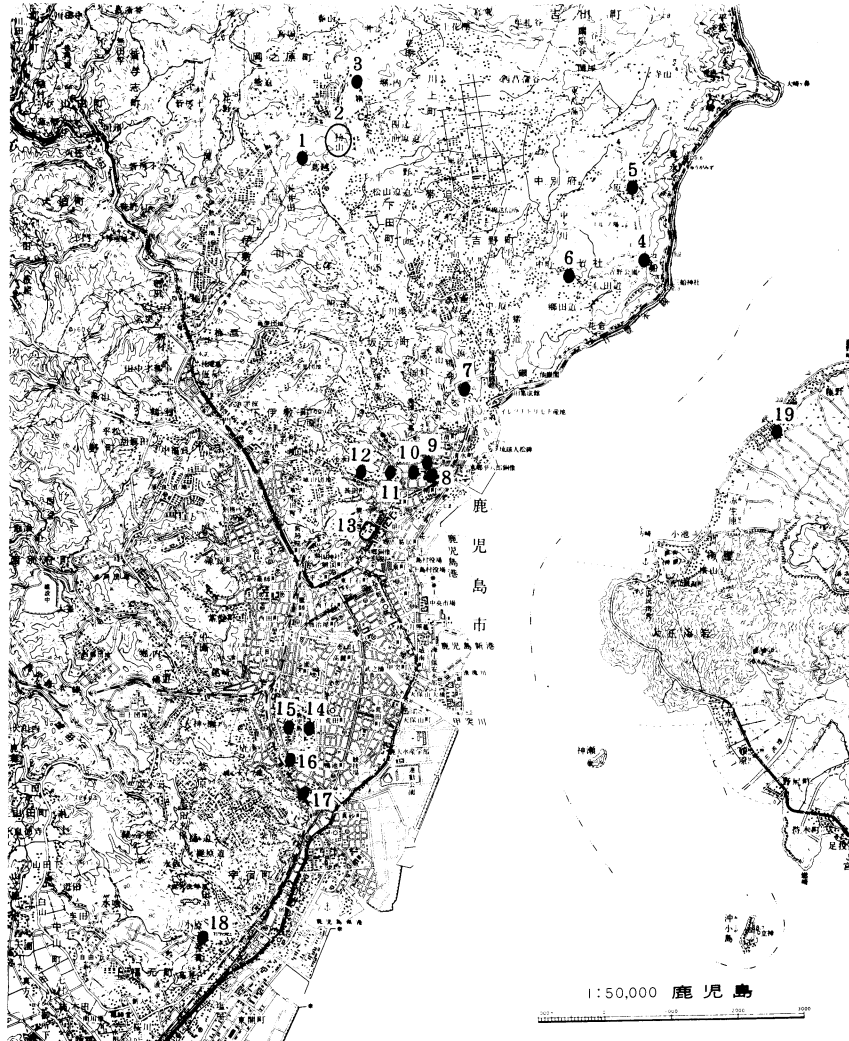
発掘調査は、昭和50年5月12日より草木の下刈りからはじめ、2×2mのトレンチを順次掘り下げたが、耕作土下はシラス層（無遺物層）であったため5月15日終了した。

調査期間は4日間である。

### Ⅲ. 遺跡の位置及び環境

本遺跡は、鹿児島市下田町字神ノ木山に所在する。日本道路公団の九州縦貫自動車道の中心杭でいえば、STANO 212付近の開拓された畑地である。

このあたりは、シラス台地が侵蝕を受けてできた開拓谷が入り込み複雑な地形となる。本遺跡の所在するところは、北西・南東及び南側とも深い谷となり、幅約70mの馬背状を呈する。標高約113mを測る。現況は傾斜面を削平した狭い段々畑が尾根を中心に左右に点在し、その多くは荒地と化している。



第1図 神ノ木山遺跡位置および周辺遺跡

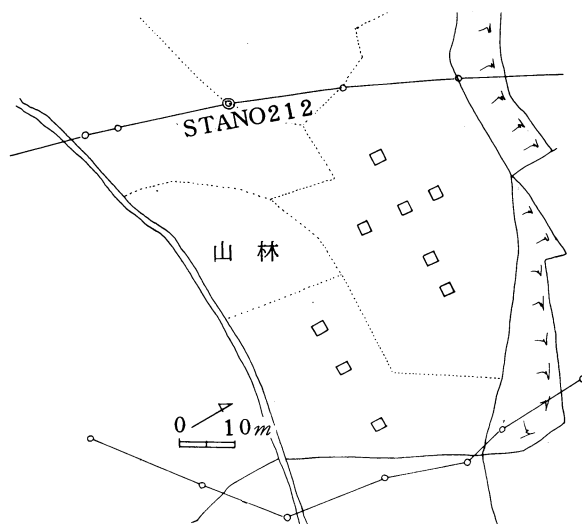
1. 神ノ木山遺跡
2. 加栗山遺跡
3. 加治屋園遺跡
4. 黒曜石原産地
5. 石郷遺跡
6. 七社遺跡
7. 前平遺跡
8. 春日町遺跡
9. 若宮神社
10. 大竜小学校
11. 南洲神社遺跡
12. 豎野(冷水)窯跡
13. 鶴丸城(鹿児島城)本丸・二の丸
14. 釘田遺跡第8地点
16. 県立医大遺跡
17. 一の宮遺跡
18. 笹貫遺跡
19. 武貝塚

#### IV. 調査の概要

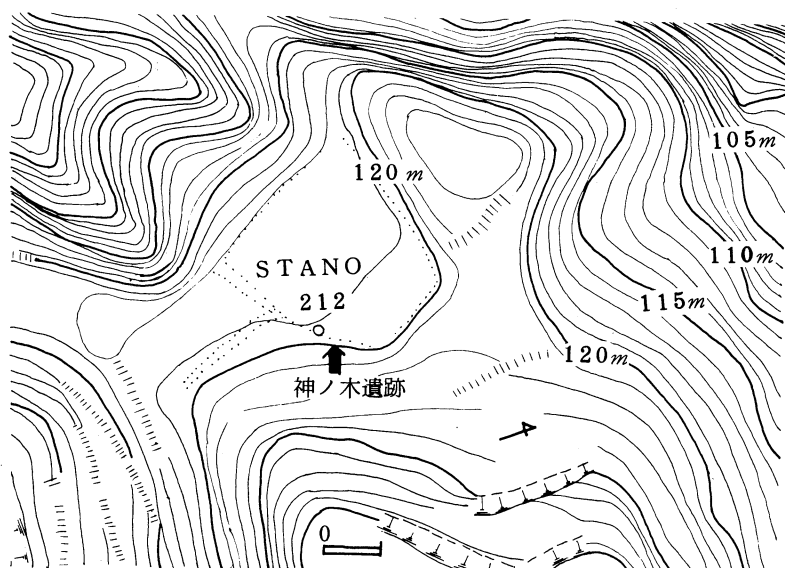
調査は、九州縦貫自動車道の中心杭 STA 212 を中心に 2 m の方眼を設定し、2 × 2 m 及び 2 × 4 m を基本とし、市松状に掘り下げた。

その結果、10～30cmの耕作土下はシラス層となり、遺物は1点も出土しなかった。

このような状況は各トレンチとも同様であるが、一部に二次堆積による黒色土層が観察されたものの、その地点は流水路状となる地形のためであった。



第2図 トレンチ配置図



第3図 遺跡周辺地形図

#### V. むすび

以上のように、発掘調査では遺構・遺物は何ら検出されなかった。



遺跡全景(西から)



遺跡近景(西から)

## 編 集 後 記

二度の厳寒と酷暑に耐え、ある時は、青天を突き破るがごとくもくもくと立ち登る桜島の噴煙の降灰を被り、ある時は、川上小学校・緑ヶ丘中学校の生徒達と古代の人々の生活について、竹ペラや移植ゴテを持っての楽しい語いの中、遂行された発掘調査は、中世山城・縄文時代早前期・先土器時代の文化層が複合し、いろんな面でセンセーショナルなものであった。

その結果、山と積まれた膨大な資料と新事実を前に、報告書に取り組んだわけであるが、万全なることを意図したにもかかわらず、満足いかないものとなり、今となっては何等なす術もない。今後、機会をみて不備を修正し、その責務を全うしたいと想う。

最後に、発掘調査にあたり、貴重な指導や助言を賜った各分野の先生方、さまざまな便宜をはかり協力いただいた日本道路公団、三井建設、徳沢建設、作業員として働いてくださった地元の方々、整理作業を担当していただいた収蔵庫の方々に深謝の意を表したい。

### 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告 (16)

九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告 V

加 栗 山 遺 跡

神 ノ 木 山 遺 跡

発行日 昭和56年3月

発 行 鹿児島県教育委員会 〒892 鹿児島市山下町14番50号

印 刷 かわち印刷有限会社 〒892 鹿児島市下竜尾町26-1

九州縦貫自動車道関係  
埋蔵文化財調査報告

— v —

加 栗 山 遺 跡

(図 版)

1981.3

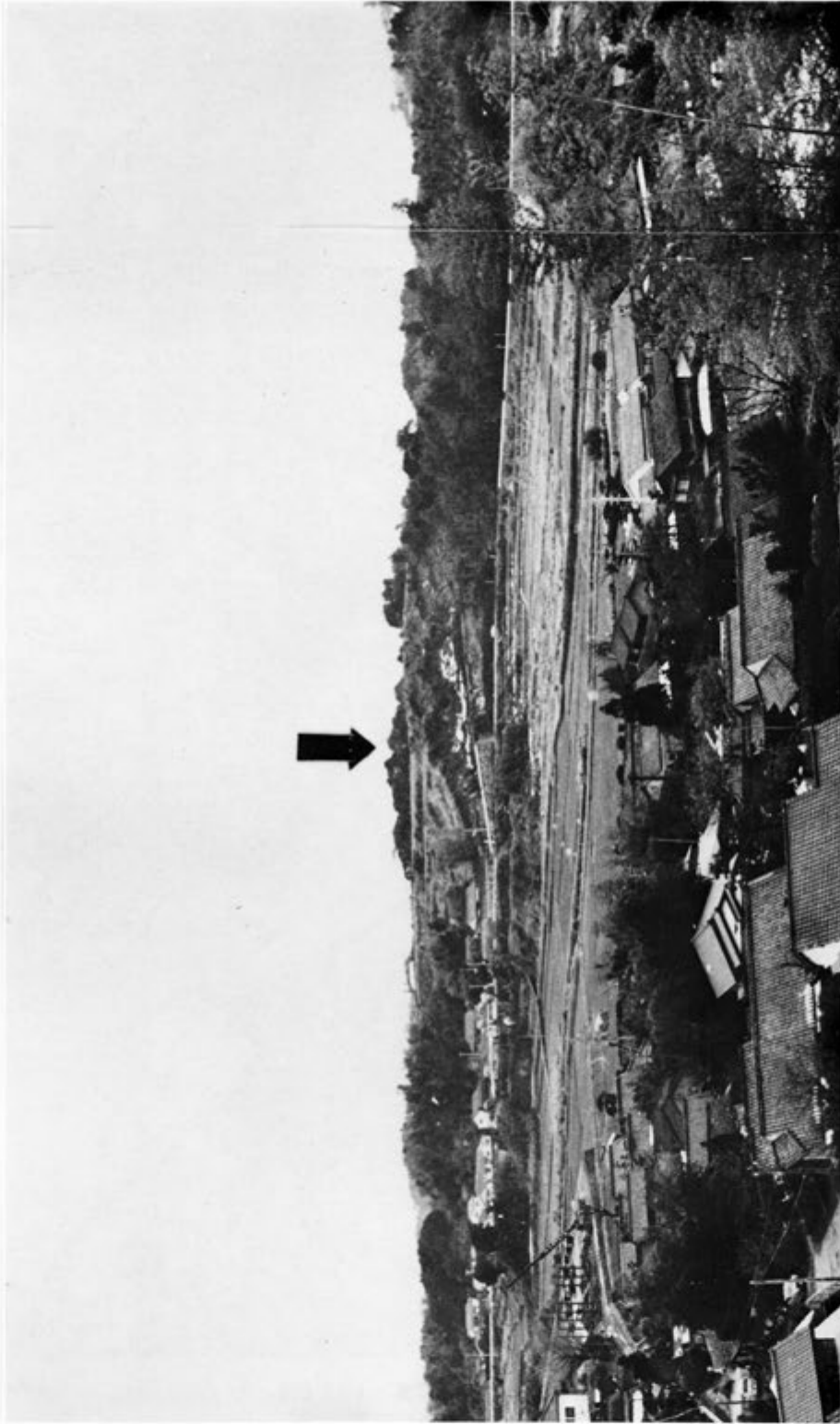
鹿 兒 島 県 教 育 委 員 会



加栗山遺跡と周辺地形航空写真 1:7,000  
(日本道路公団提供)



加栗山遺跡全景 (北東より望む)





曲輪 I (発掘前・南から)



腰曲輪 (発掘前・南から)

1

図版 4



土 層 断 面

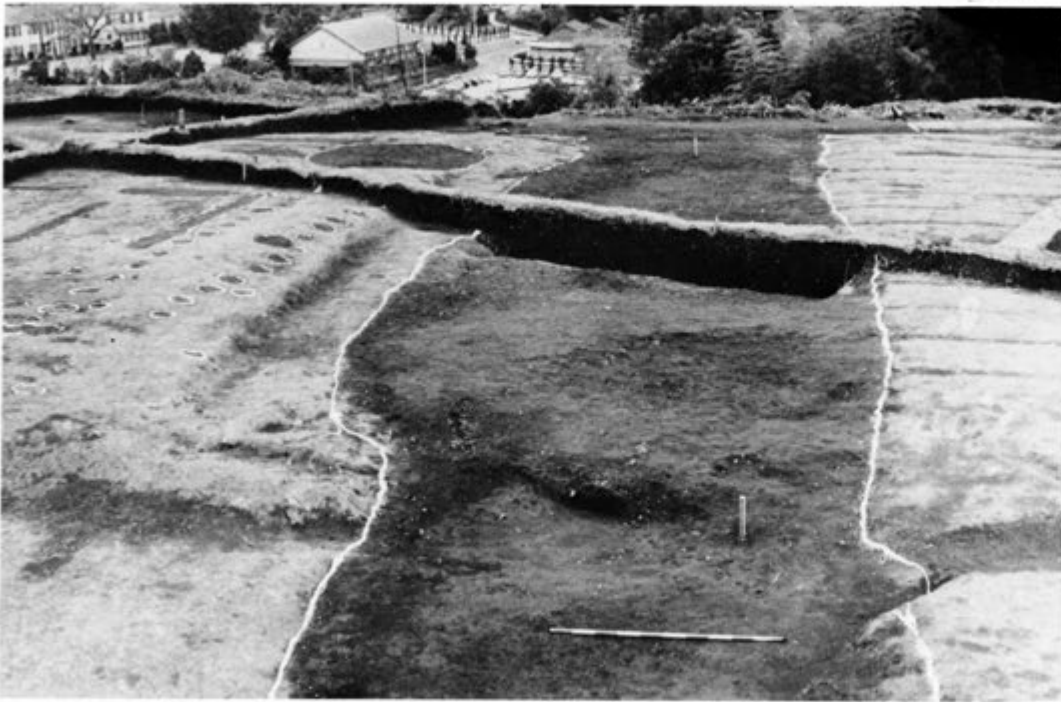
2



ピット群 (曲輪 I)

1

図版 5



堀 I (検出時・西から)

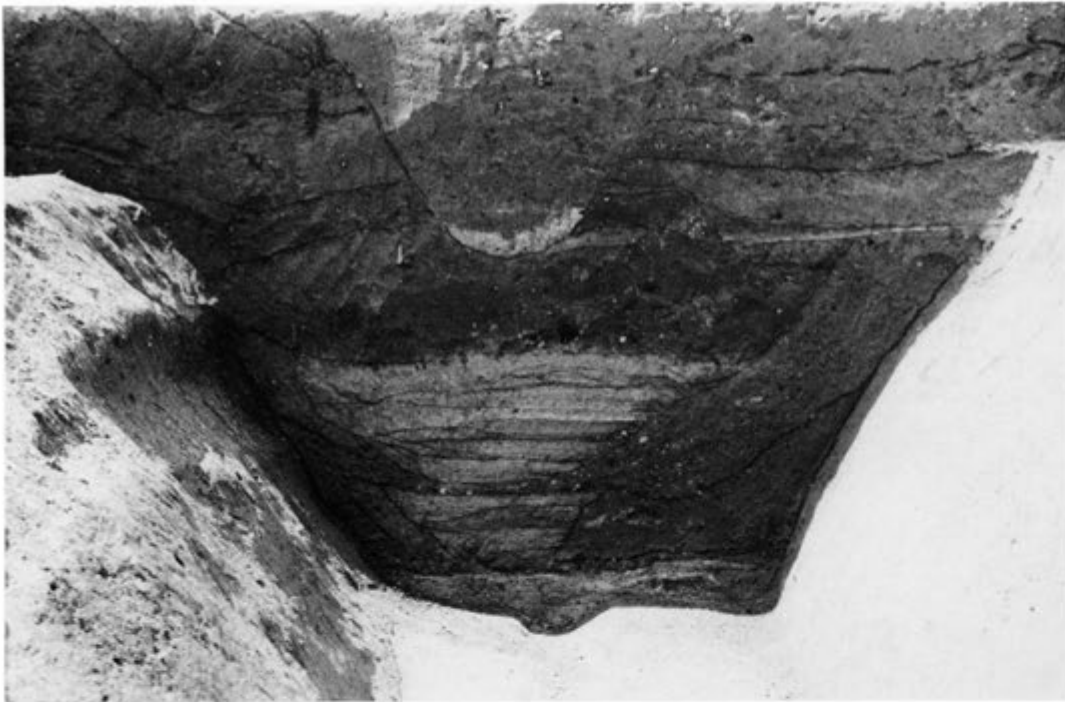
2



堀 I (掘り下げ時・西から)

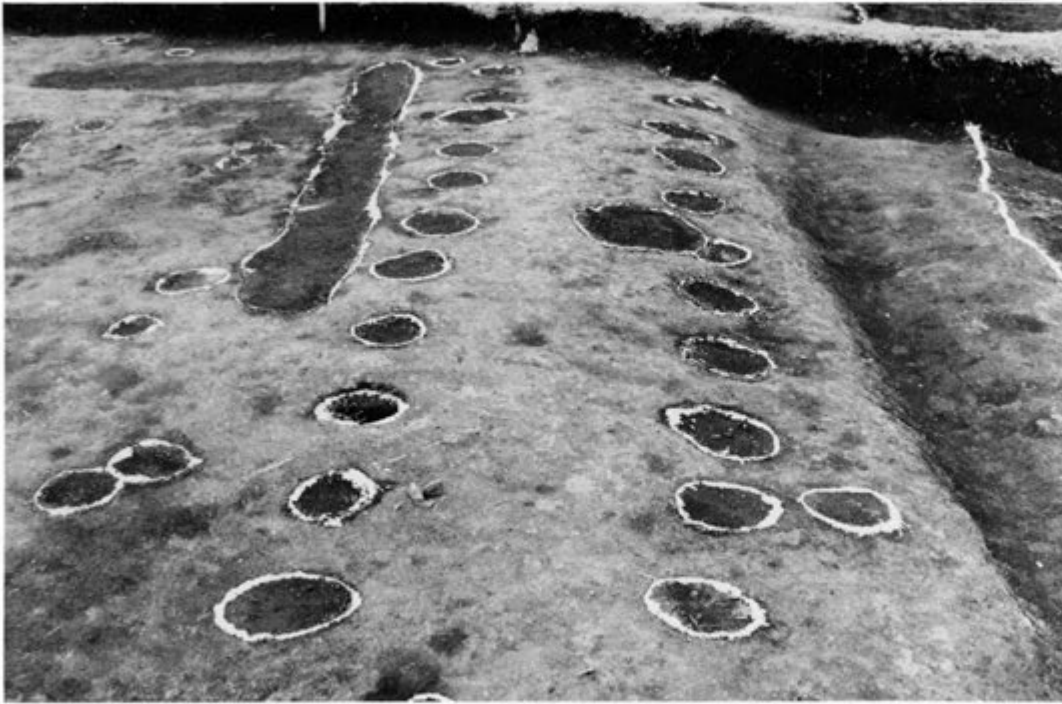


堀Ⅱ・出入口・腰曲輪（北から）



堀Ⅱ土層断面





柵 列 (検出時・西から)

2

柵 列 (掘り下げ時・西から)



1



溝状遺構 (D・E-6・7区)

2

溝状遺構 (G・J-2・3区)





炉址·湯釜出土状况

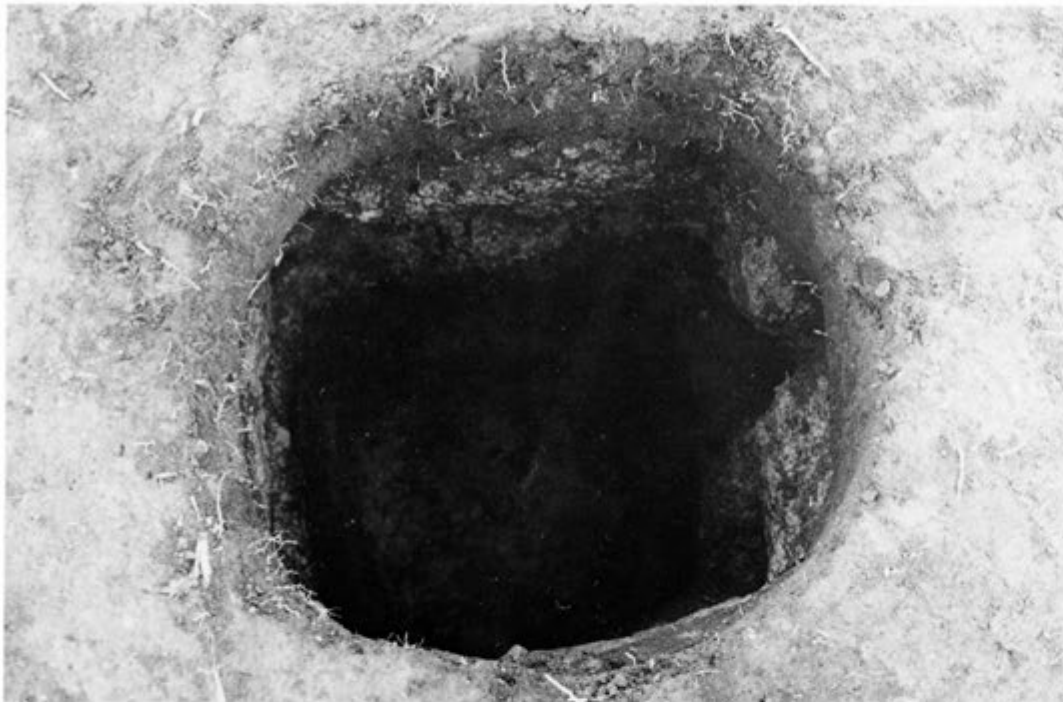


炉址Ⅲ·Ⅳ出土状况





礫溜りⅡ出土状況



井戸出土状況

1

図版11

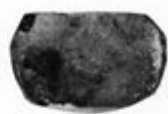
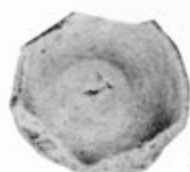
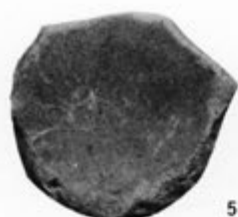
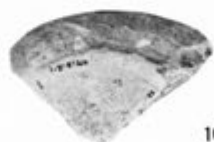
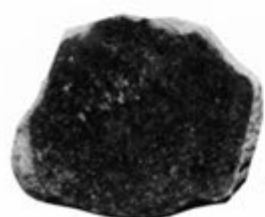


柱穴出土状況

2



土師器出土状況



土 師 器



23



29



35



24



30



36



25



31



37



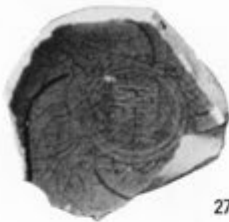
26



32



38



27



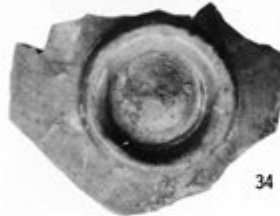
33



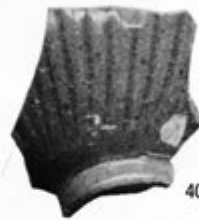
39



28

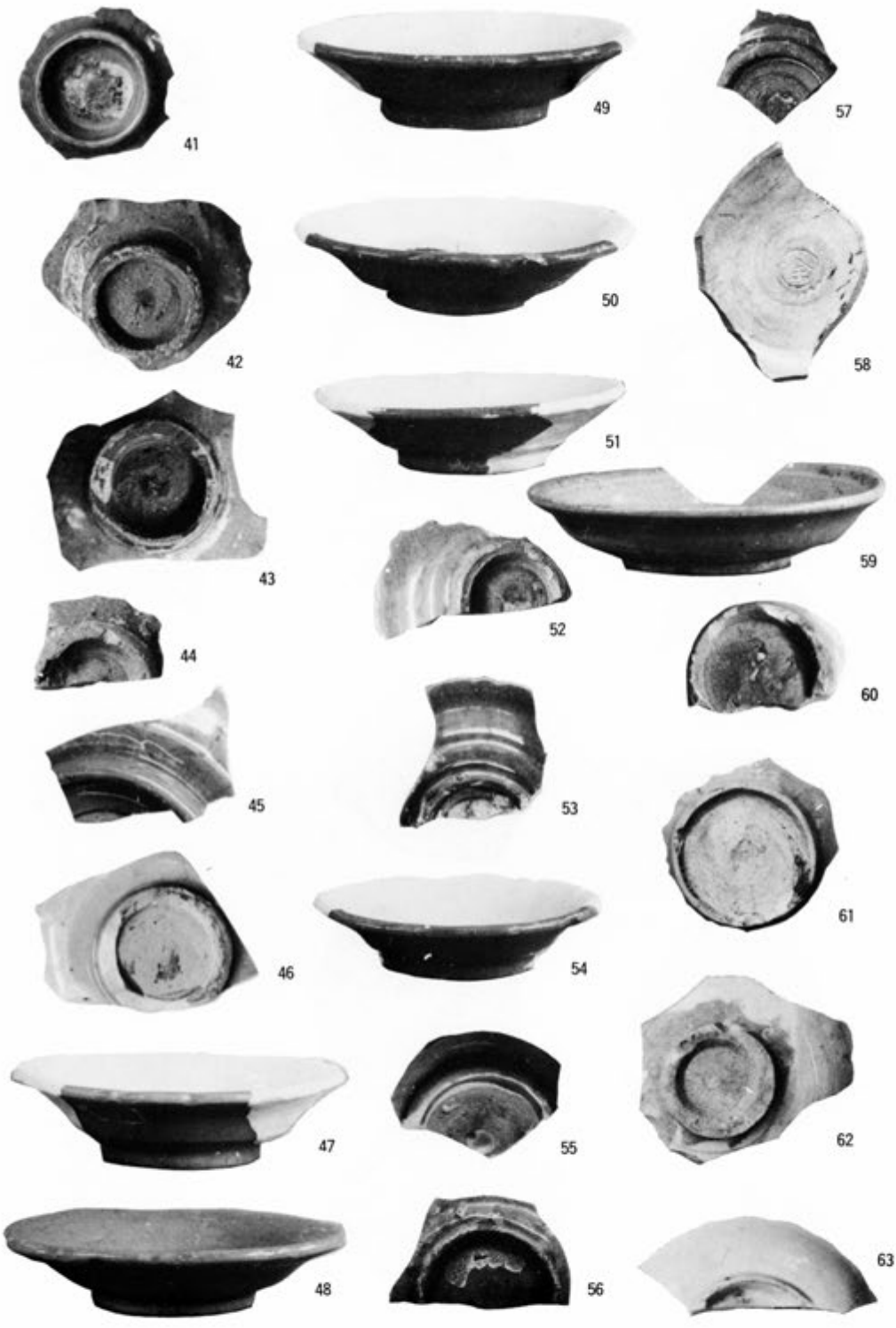


34

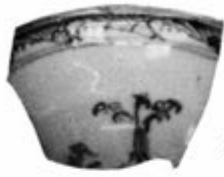


40

青 磁



青 磁 · 白 磁



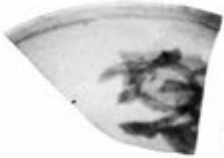
64



71



77



65



72



78



66



73



79



67



74



80



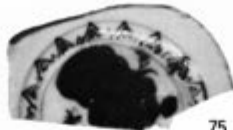
81



68



69



75



82



85



70



76



83



86

染 付



87



90



88



89

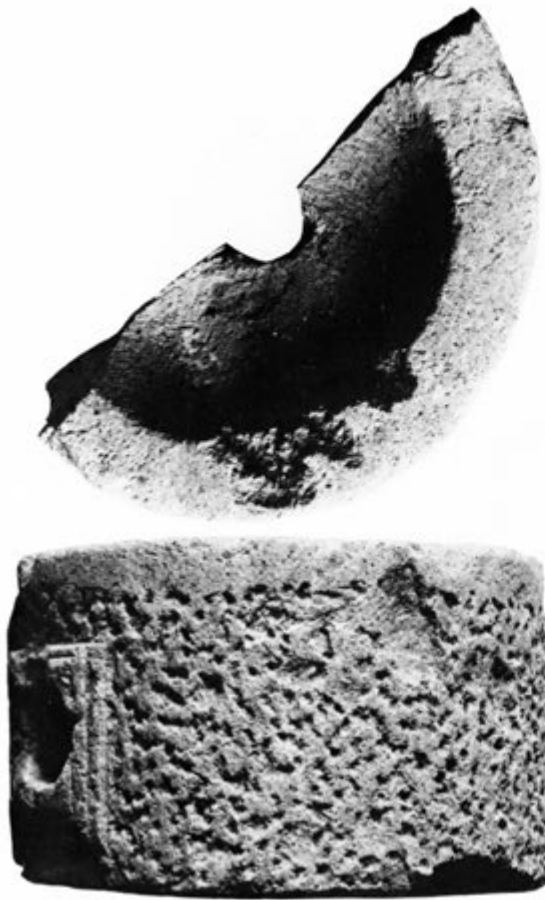


95



91

湯釜・すり鉢・甕・香炉・軽石製蓋



92



94



93

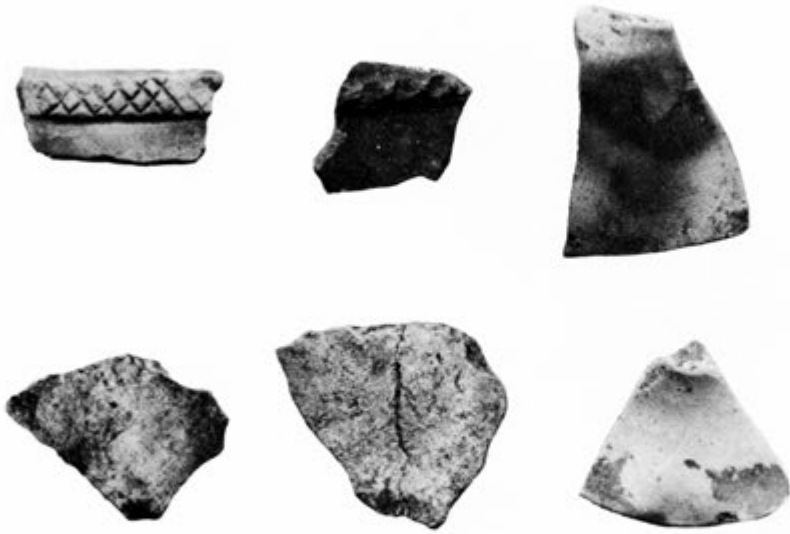


石 白・こうがい



1

図版18



成川式土器

2



高坏・甕の底部



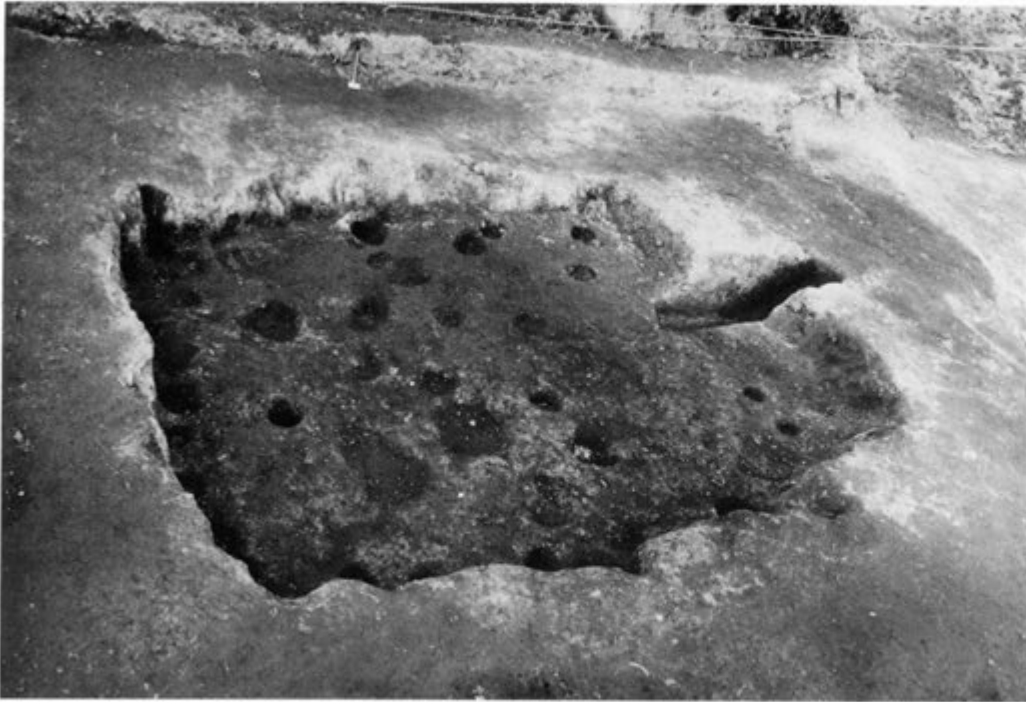
竪穴住居址群（西から）



竪穴住居址群と集石①・②（西から）

1

図版20



I 号住居址(南より)

2



II 号住居址(西より)

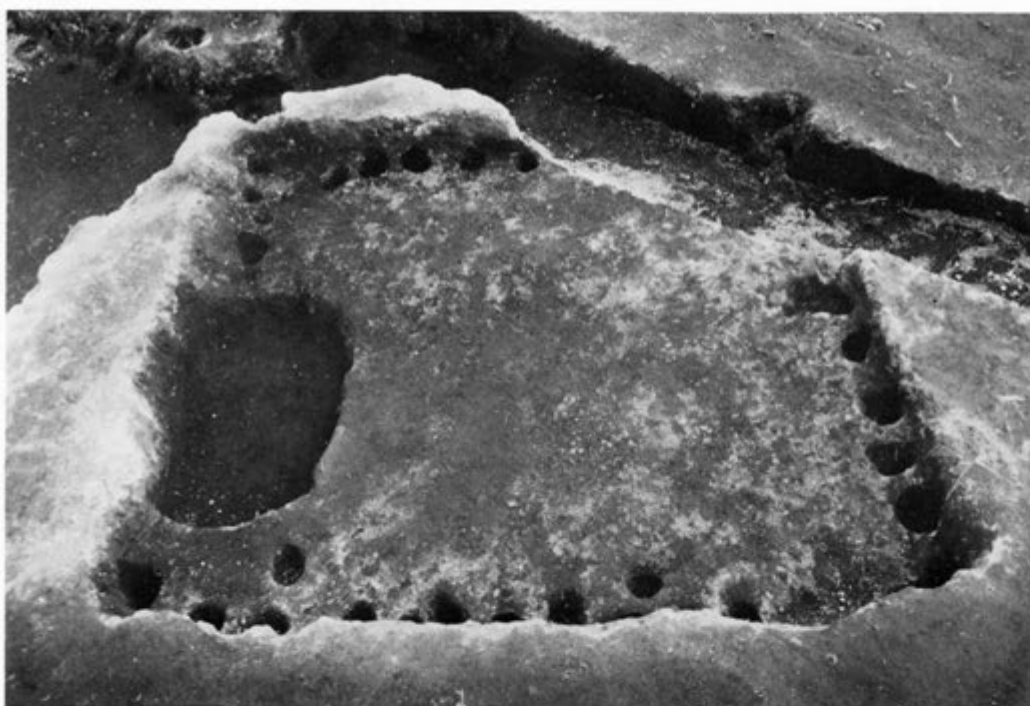
1

図版21



Ⅲ号住居址(東より)

2



Ⅳ号住居址(北より)

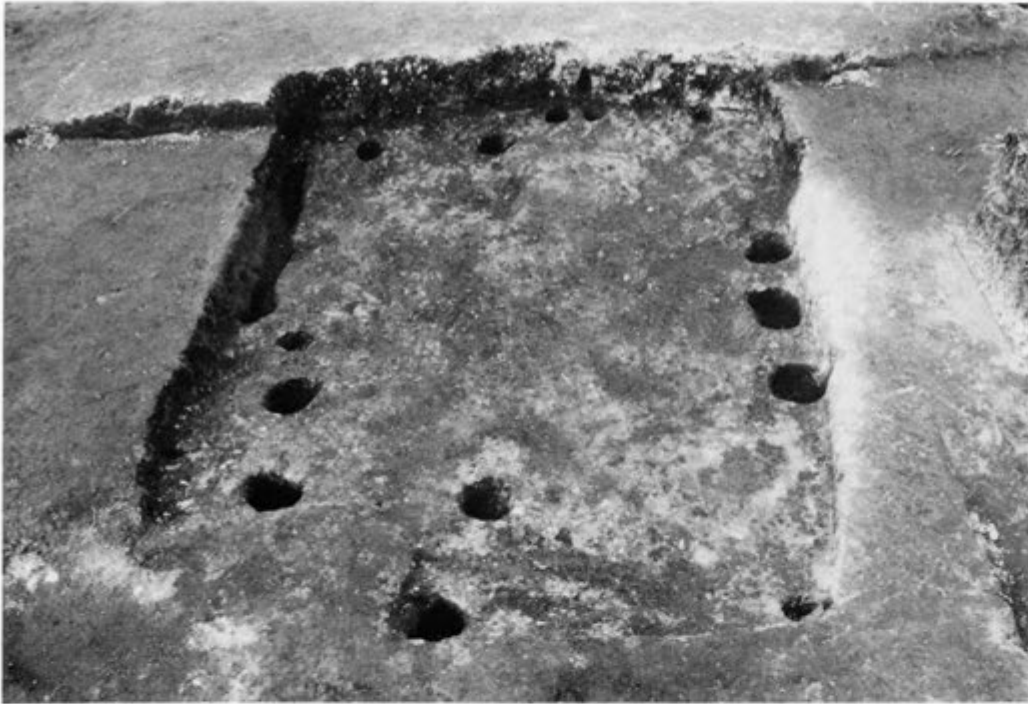
1

図版22



V号住居址(北より)

2

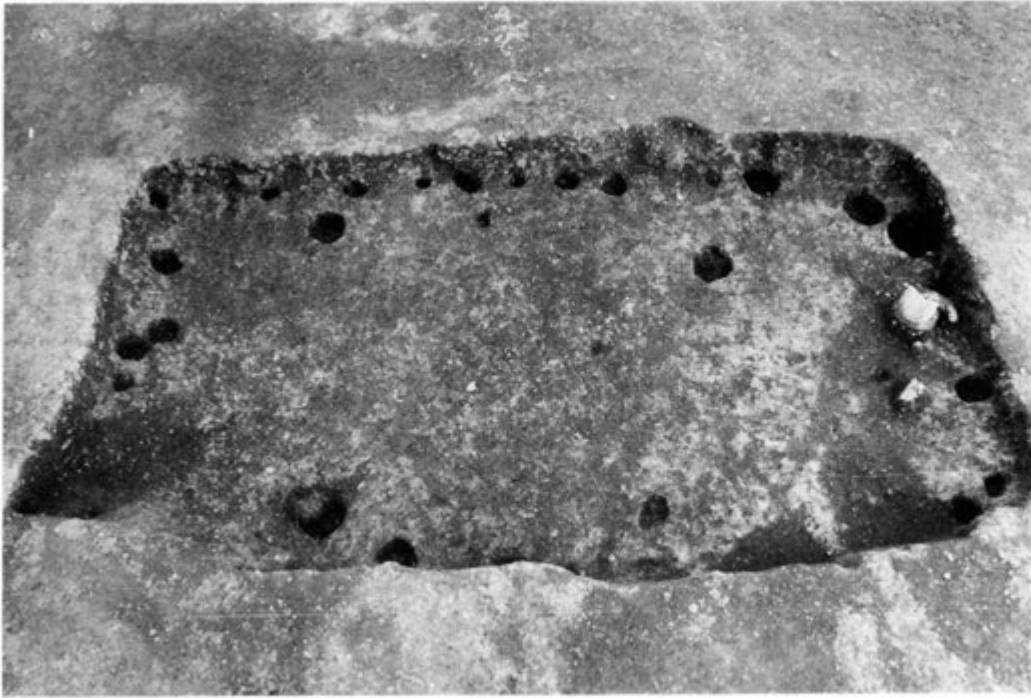


VI号住居址(東より)



1

図版23



Ⅶ号住居址(西より)

2



Ⅶ号住居址・㊤連穴土城(東より)

1

図版24

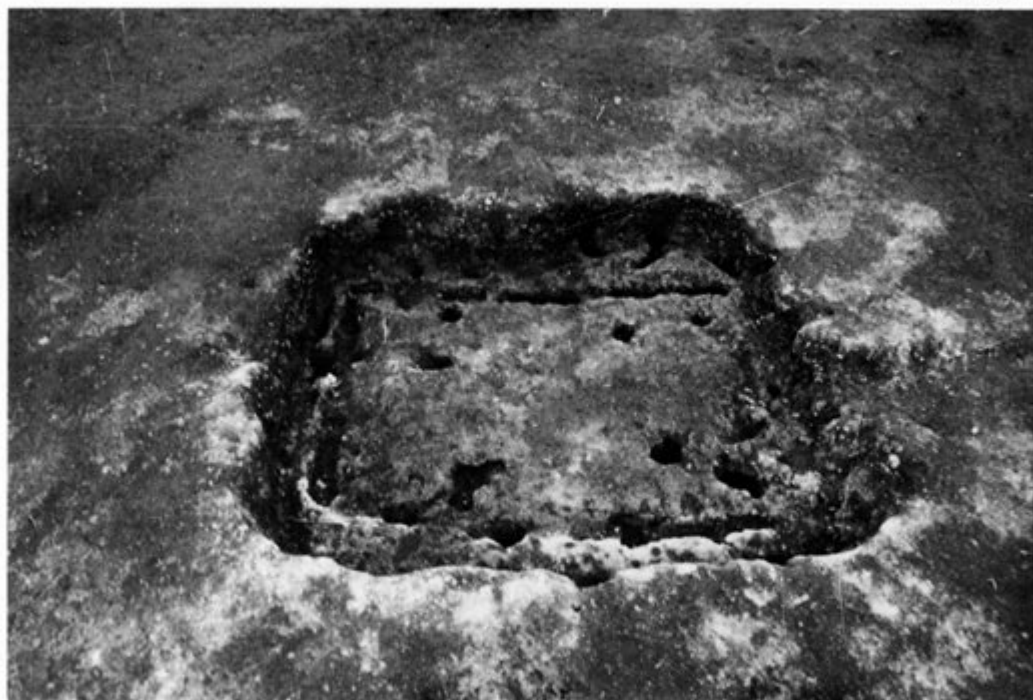


Ⅶ・Ⅸ号住居址(北より)

2



Ⅶ・Ⅸ号住居址と㊤連穴土城(北より)



X 号 住 居 址 (南より)

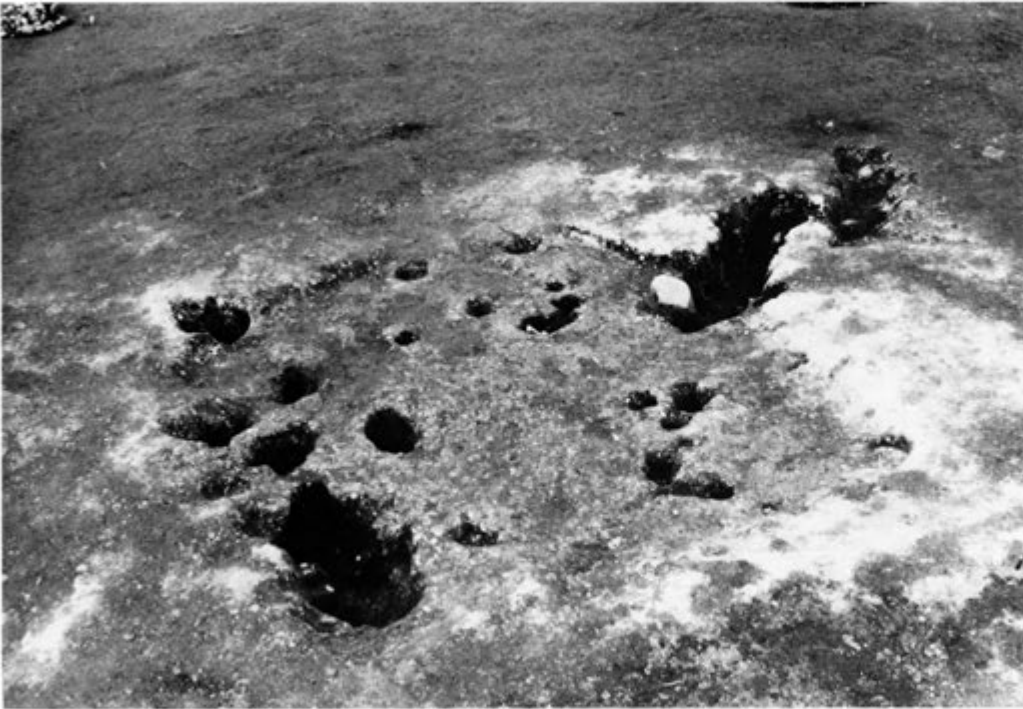


XI・XII 号 住 居 址 (南東より)



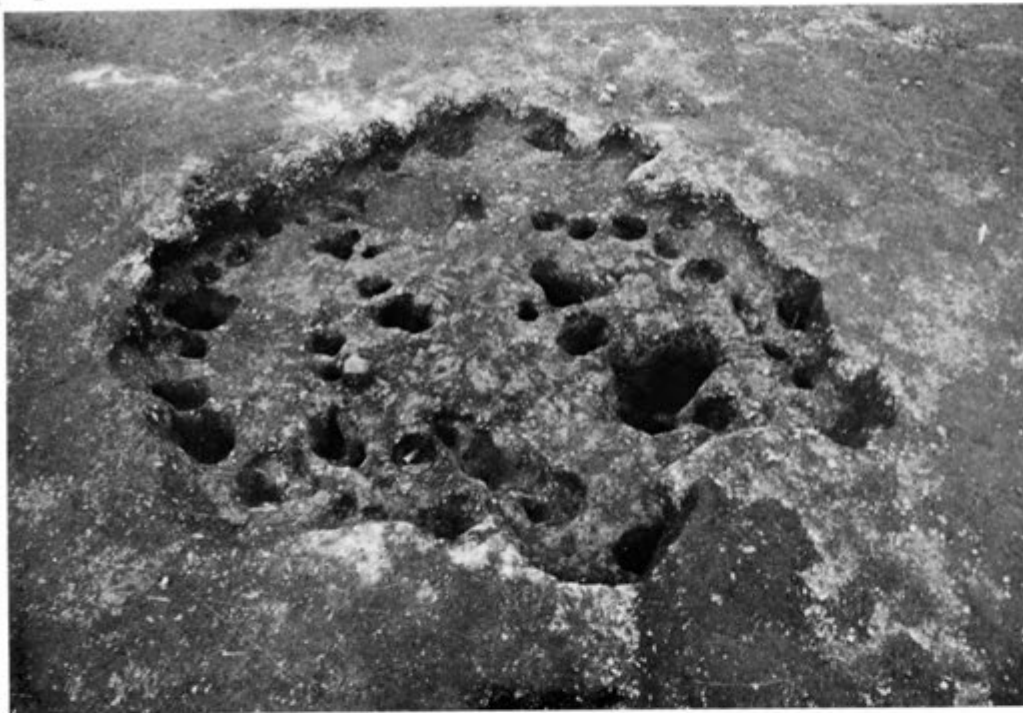
1

図版26



XV号住居址・㊤連穴土城(南より)

2



XII号住居址(南より)



Ⅷ号住居址(西より)



集石 ① (直上より)



集石 ①



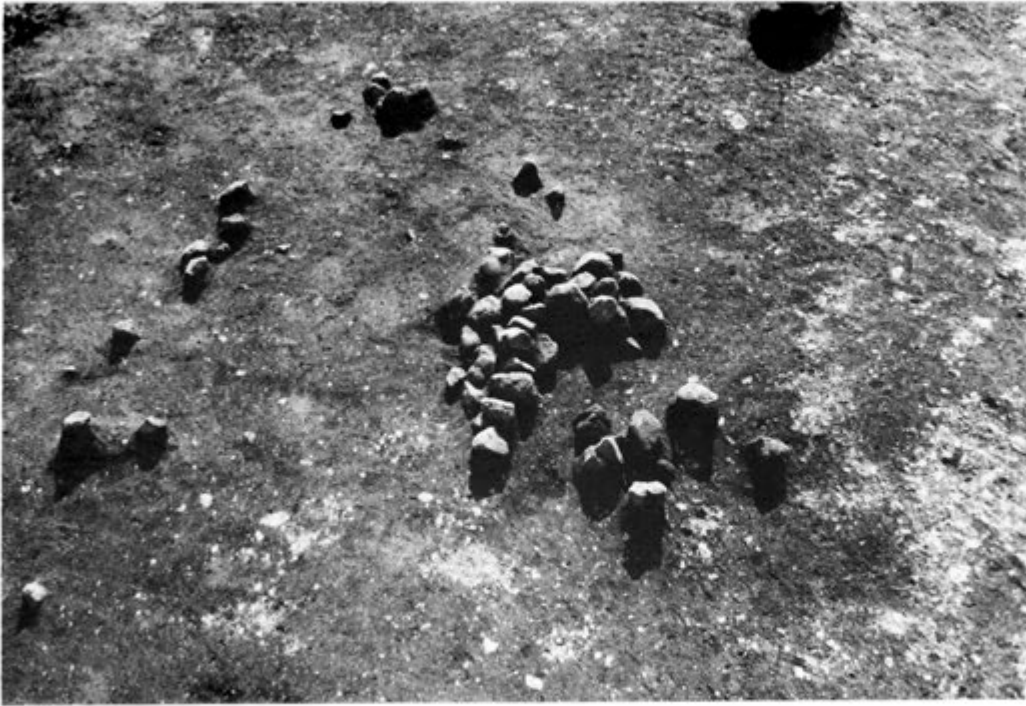
集 石 ②



集 石 ⑬

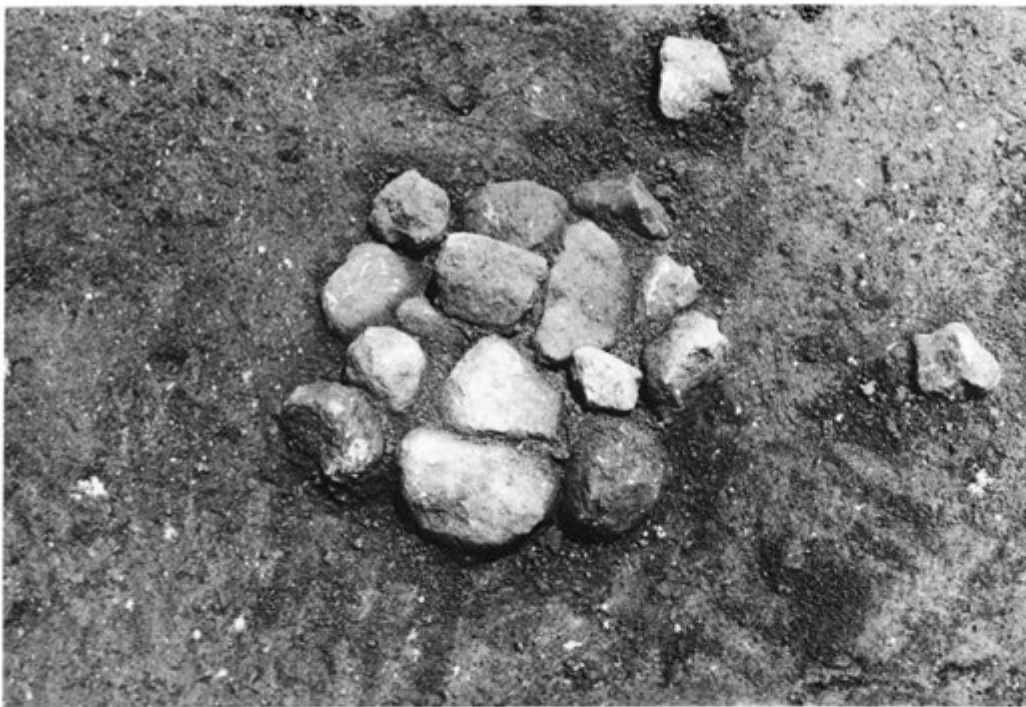
1

図版30



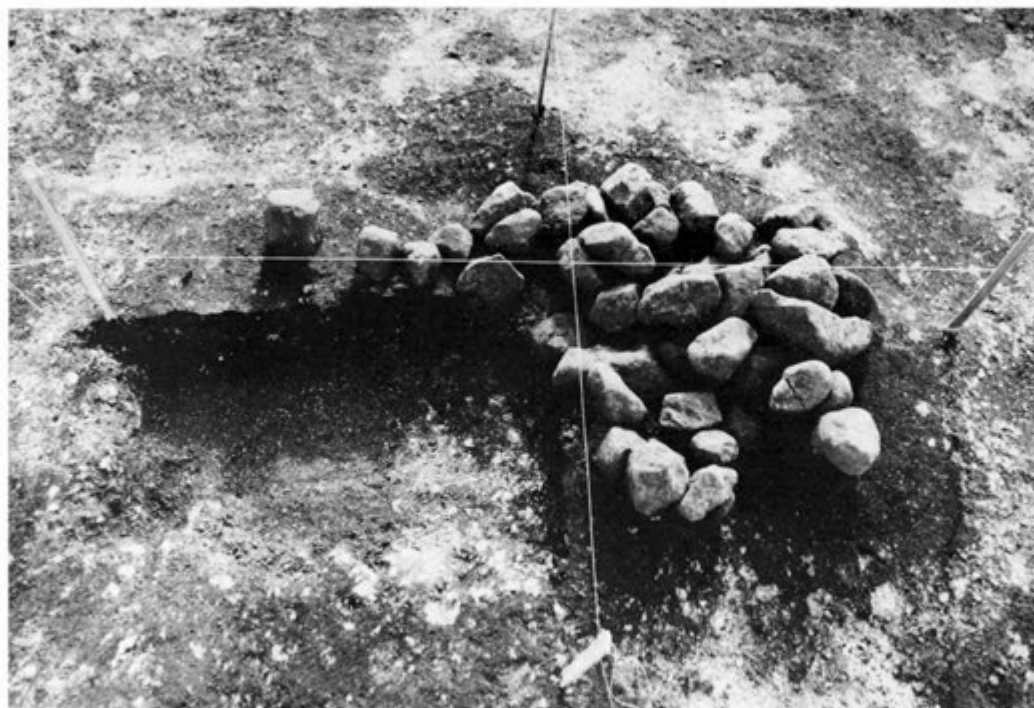
集石 ⑬

2



集石 ⑭





集石 ⑥



集石 ⑩

1

图版32



① 連穴土城

2



② 連穴土城



Ⓐ 連穴土城・Ⓑ 土城



Ⅶ号住居址と重複するⒶ連穴土城



1

図版34



Ⓐ 連穴土城・Ⓑ 土城

2



II号住居址と重複するⒶ連穴土城ⓐの断面



発掘風景



現地説明会の風景



樋口・青木両先生の  
指導のもとに集石遺  
構の取り上げ風景 2



千浦先生 (I.C.U)  
土壌サンプリング

1

図版37



① 土城75の焼土及びその断面

2



I類（石坂式）土器出土状況

1

图版38



土器出土状况

2



土器出土状况





Ⅲ号住居址内出土の軽石製頭具出土状況



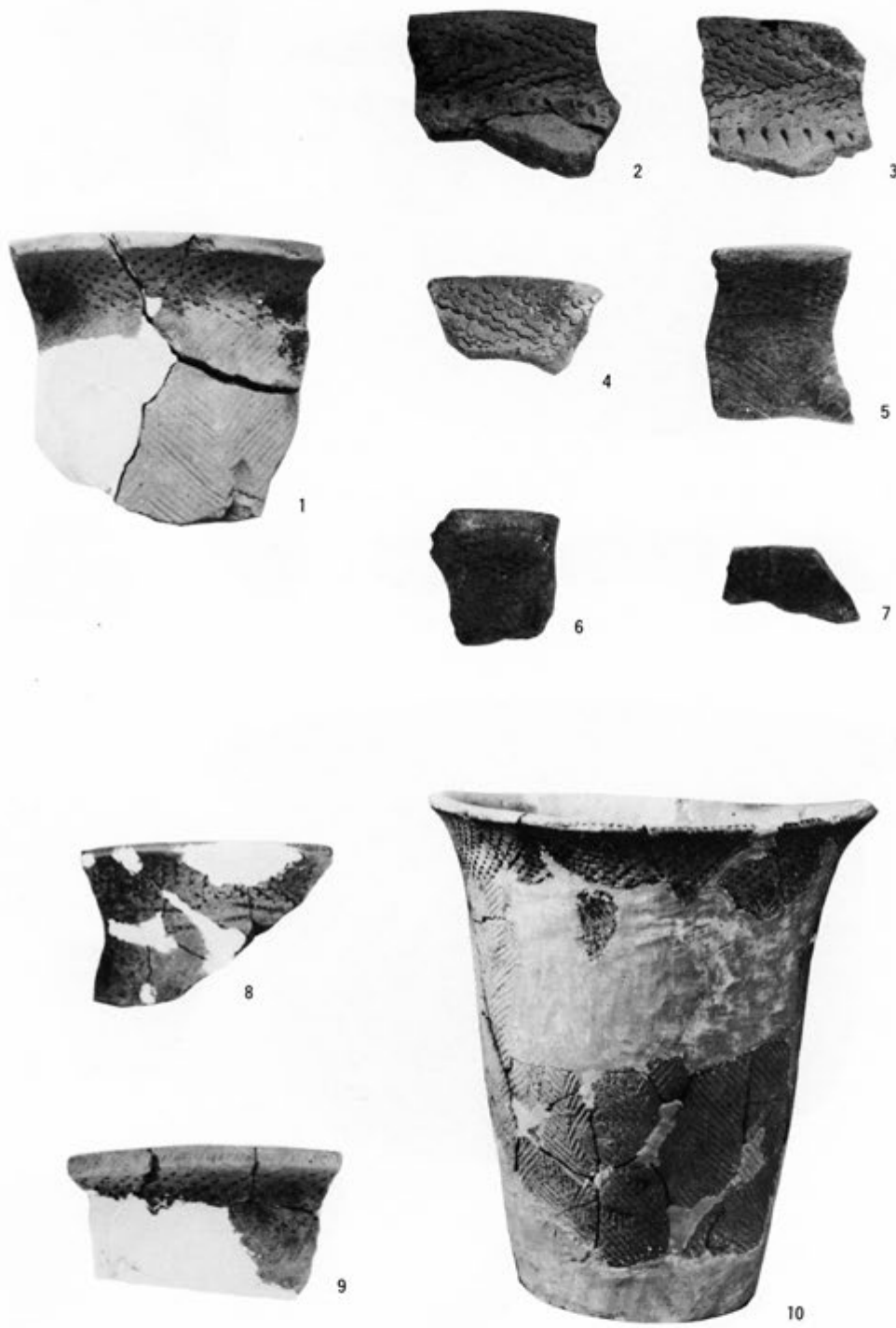
Ⅵ号住居址内出土の石製装身具出土状況



XI号住居址内の軽石製陰陽石出土状況

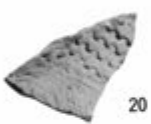
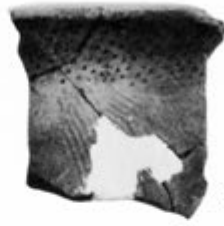
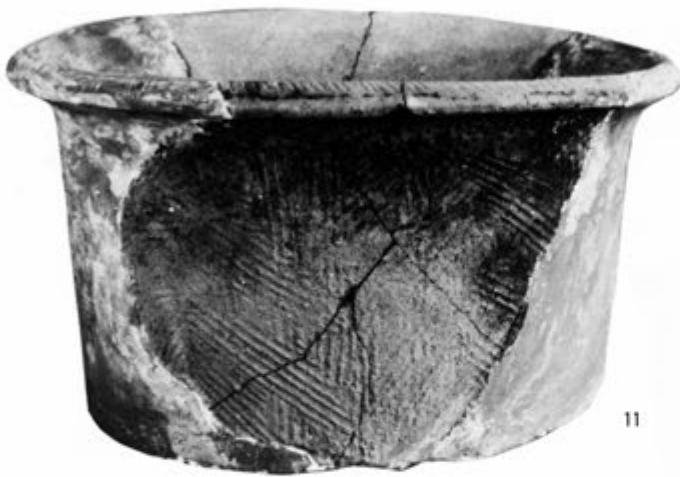


VII号住居址内の石皿及び土器出土状況

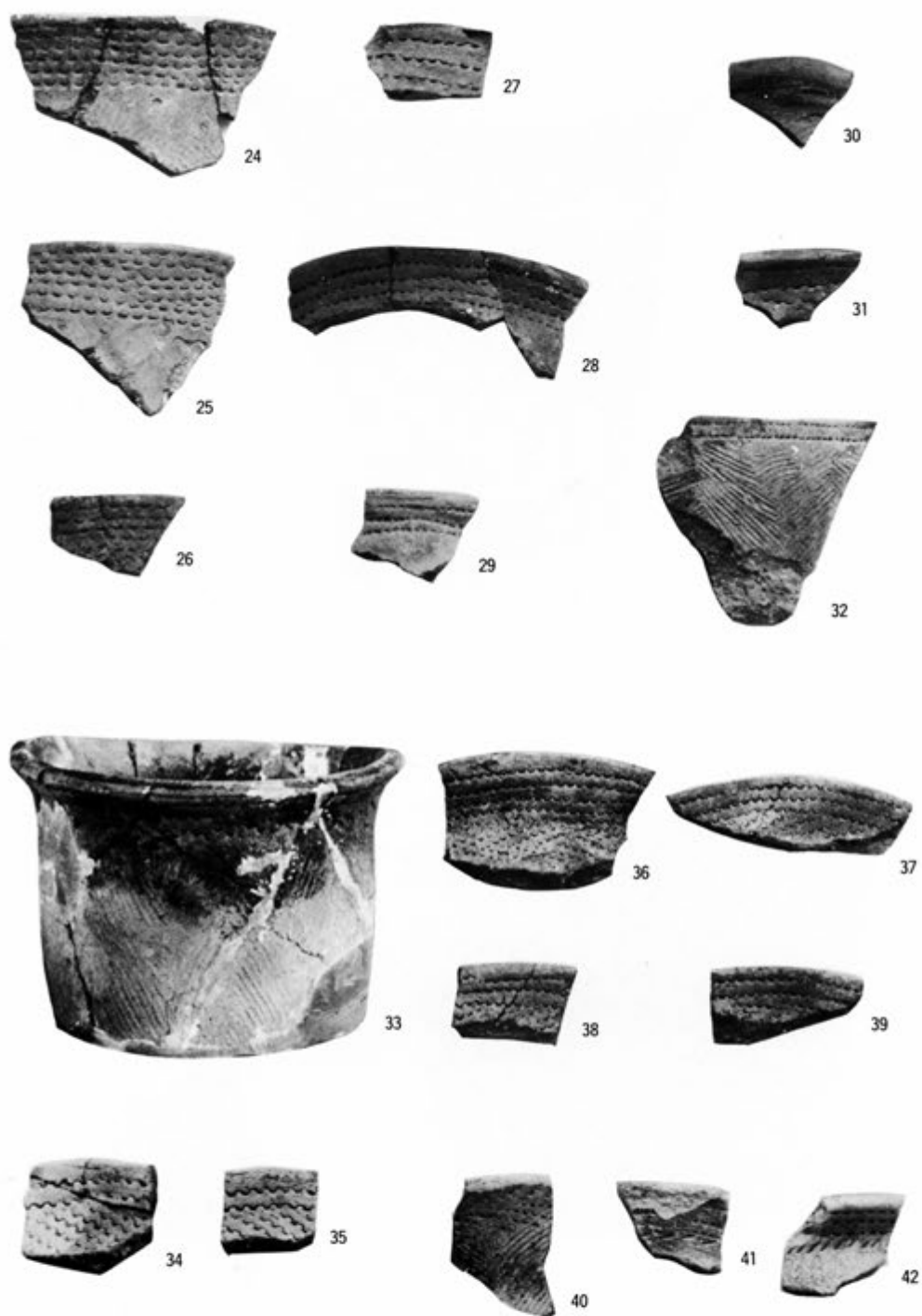


加栗山遺跡出土の I 類土器





加栗山遺跡出土の I 類土器



加栗山遺跡出土のI類土器



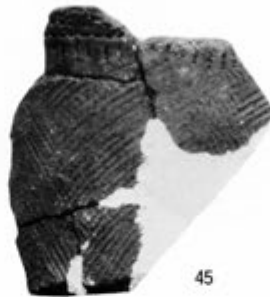
43



46

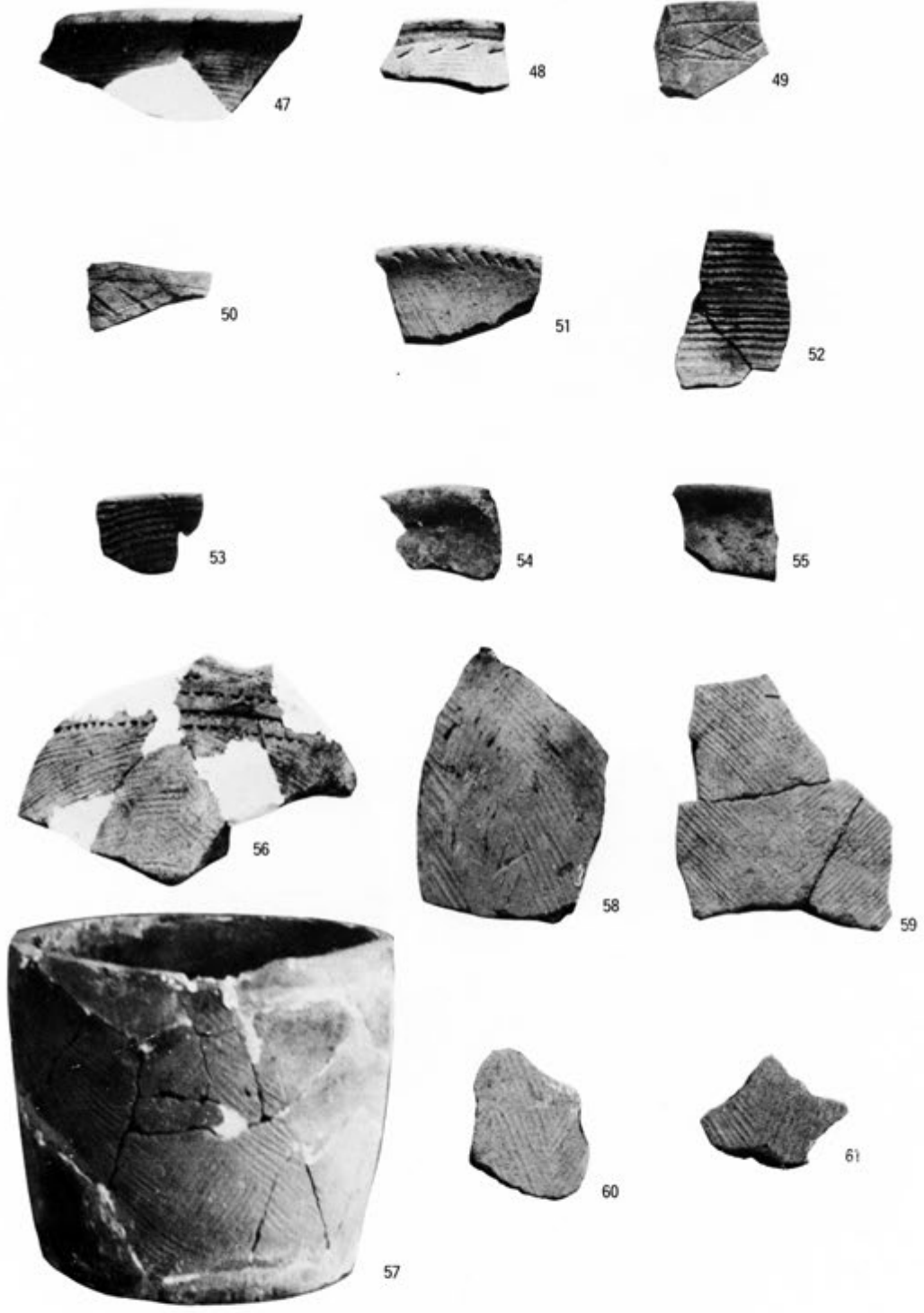


44

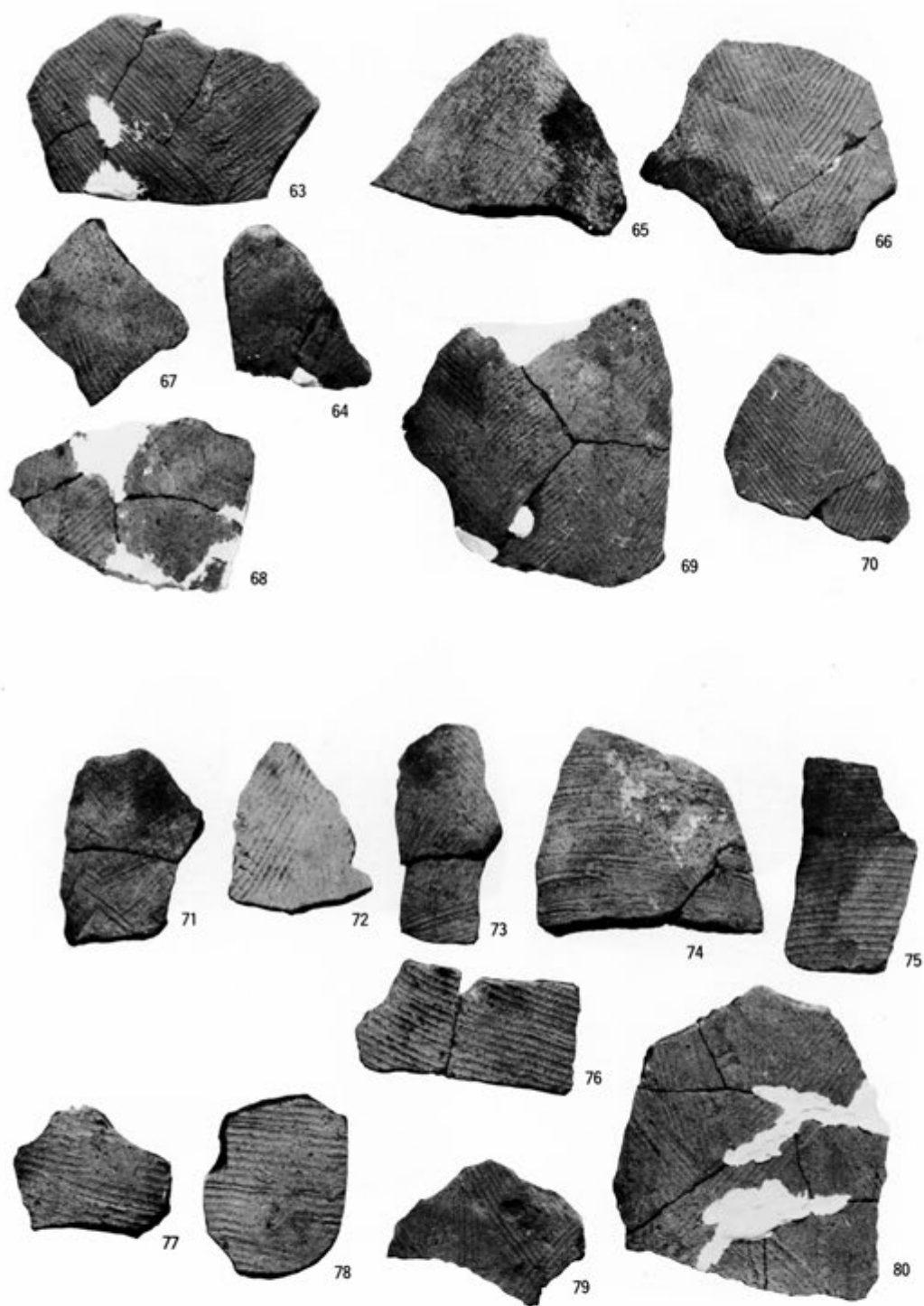


45

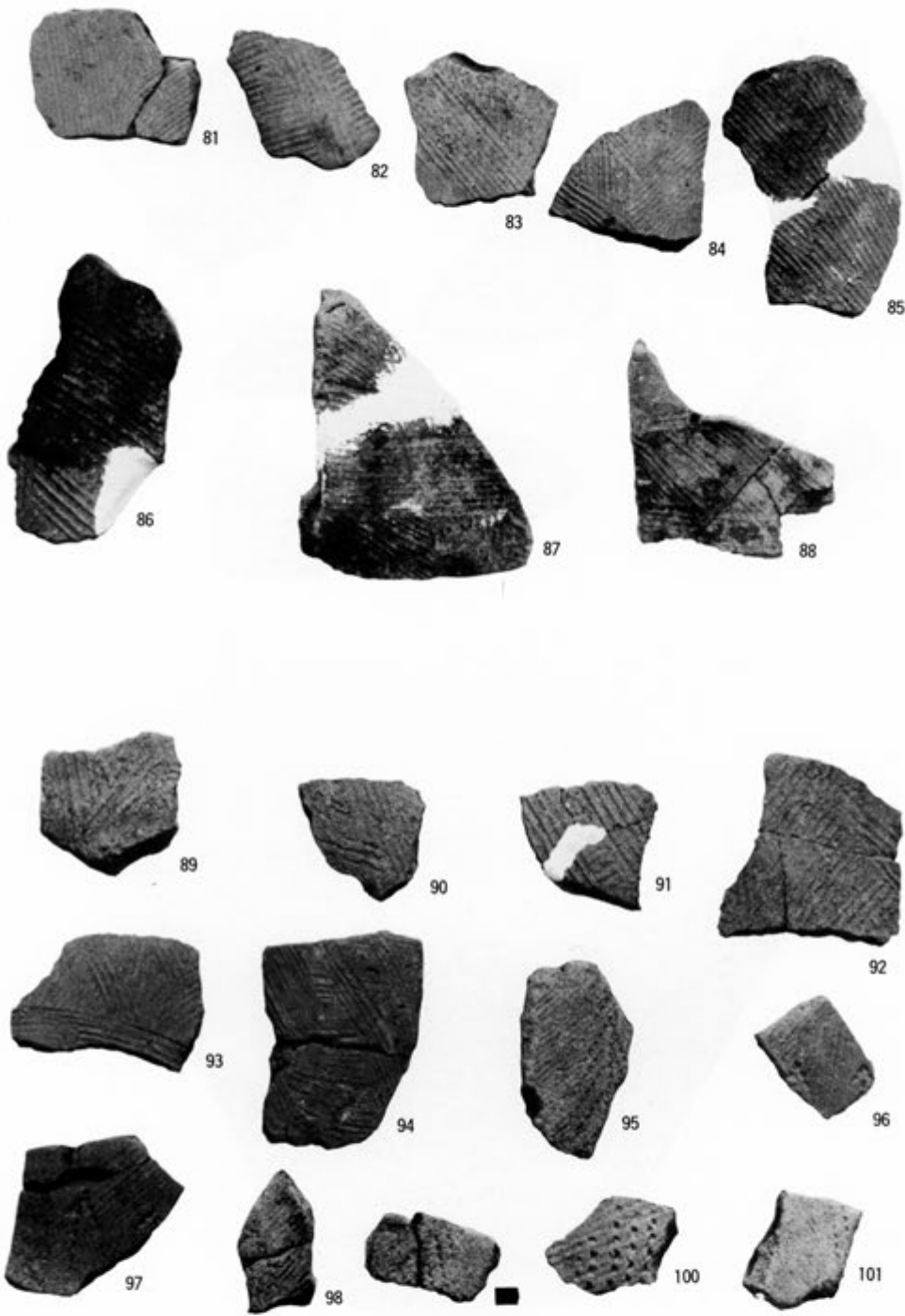
加栗山遺跡出土のI類土器



加栗山遺跡出土のⅠ類土器



加栗山遺跡出土のI類土器



加栗山遺跡出土の I 類土器



加栗山遺跡出土のⅠ類土器



加栗山遺跡出土の I 類土器





123

Ⅱ類土器



押し引き文様



124

Ⅲ類土器

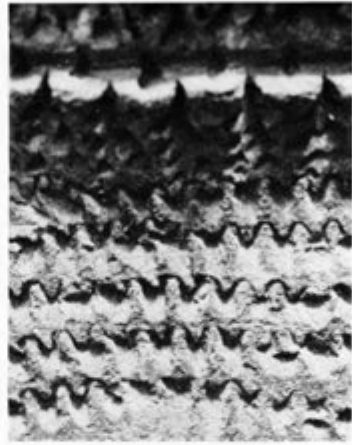


押し引き文様



158

Ⅲ類土器



クサビ形凸帯と  
貝殻刺突文様



157



133



173



IV A 類土器



187



190



189



188

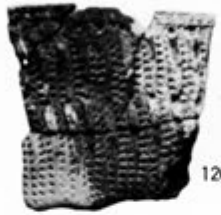
IV A 類土器



角筒土器



125



126



127



128



129



130



131



132

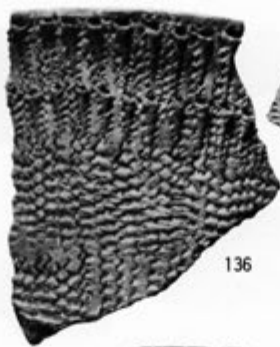
ⅢA 類 土 器



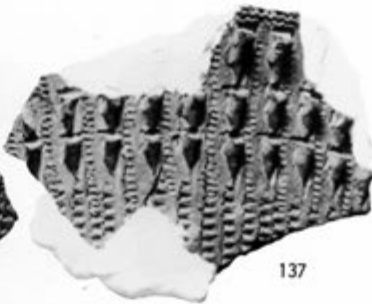
134



135



136



137



138

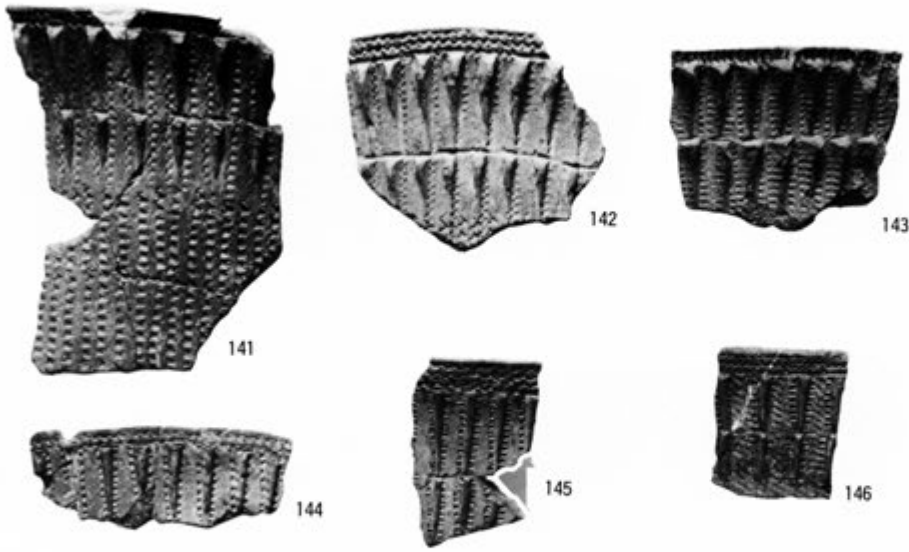


139

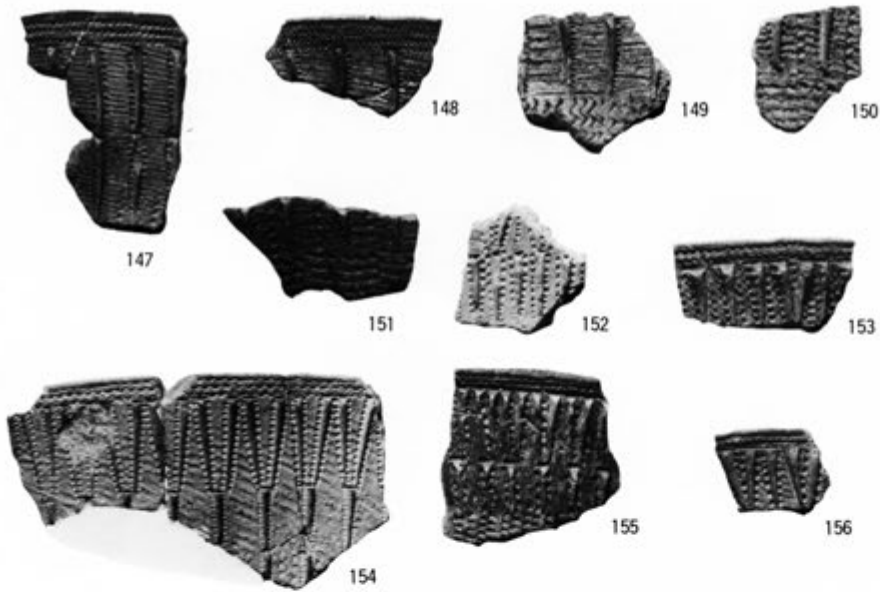


140

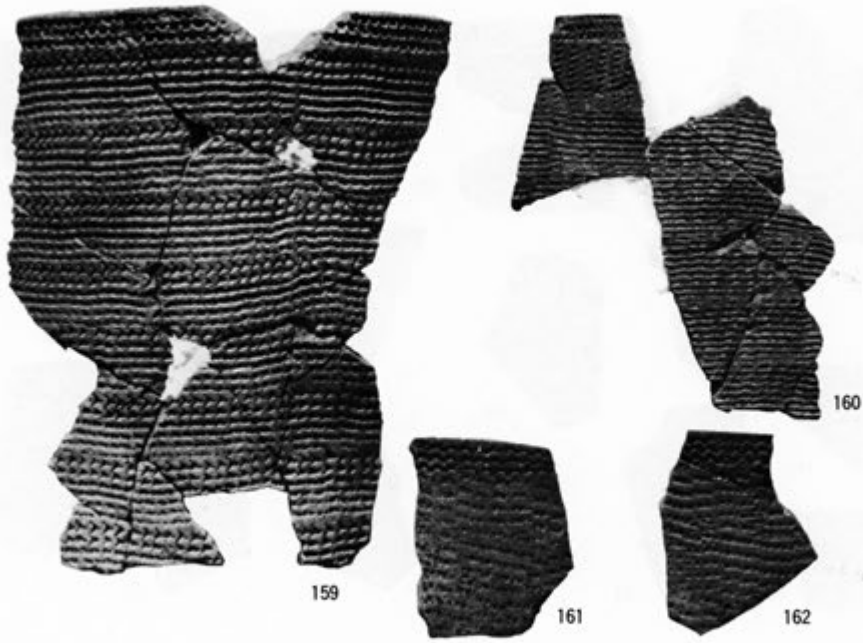
ⅢA 類 土 器



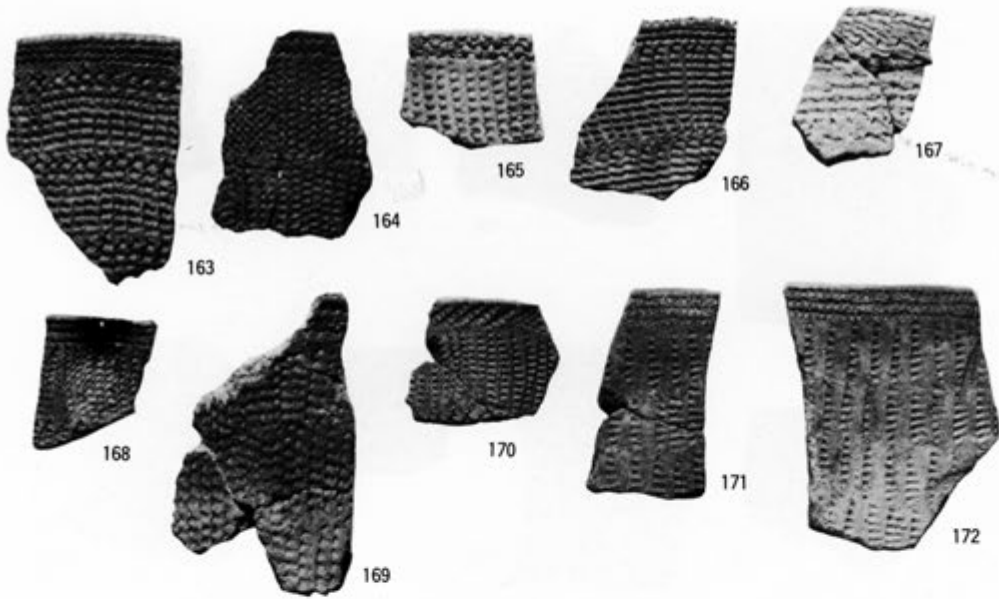
ⅢA 類 土 器



ⅢA 類 土 器

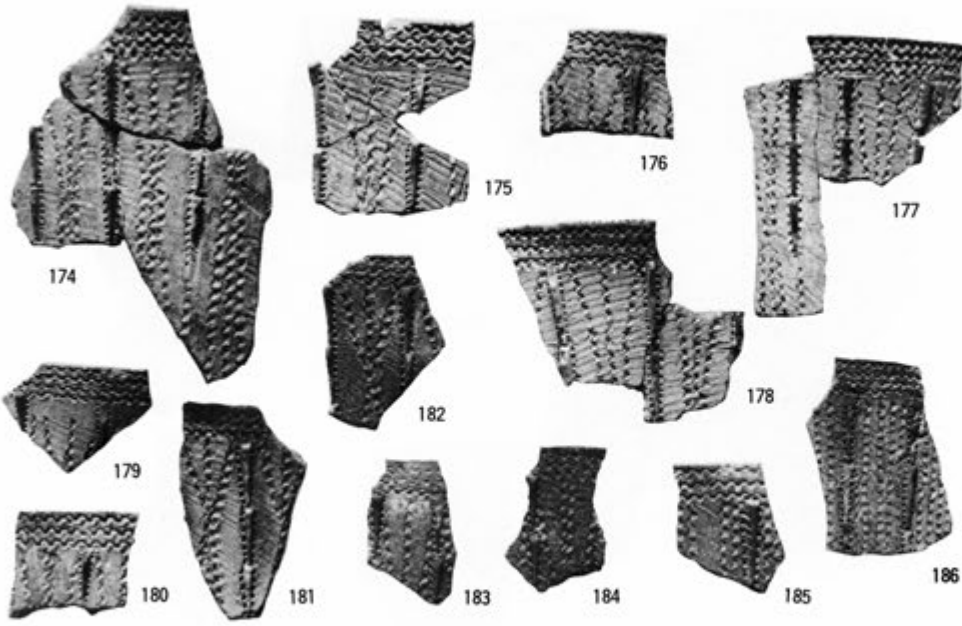


ⅢB 類 土 器

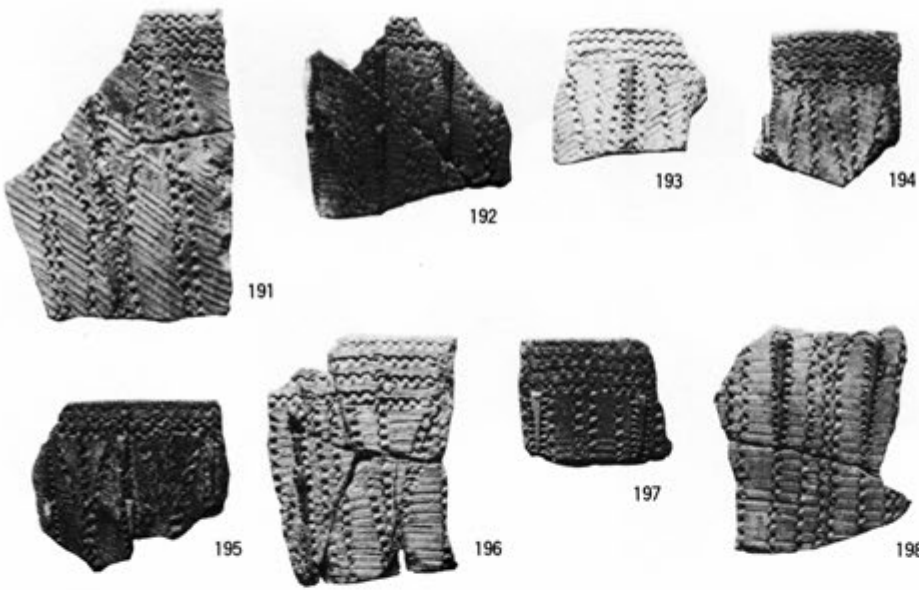


ⅢB 類 土 器

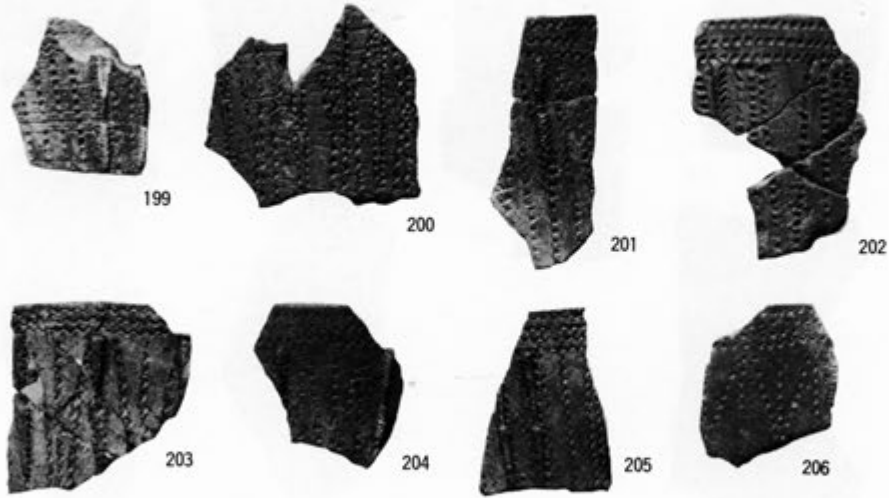




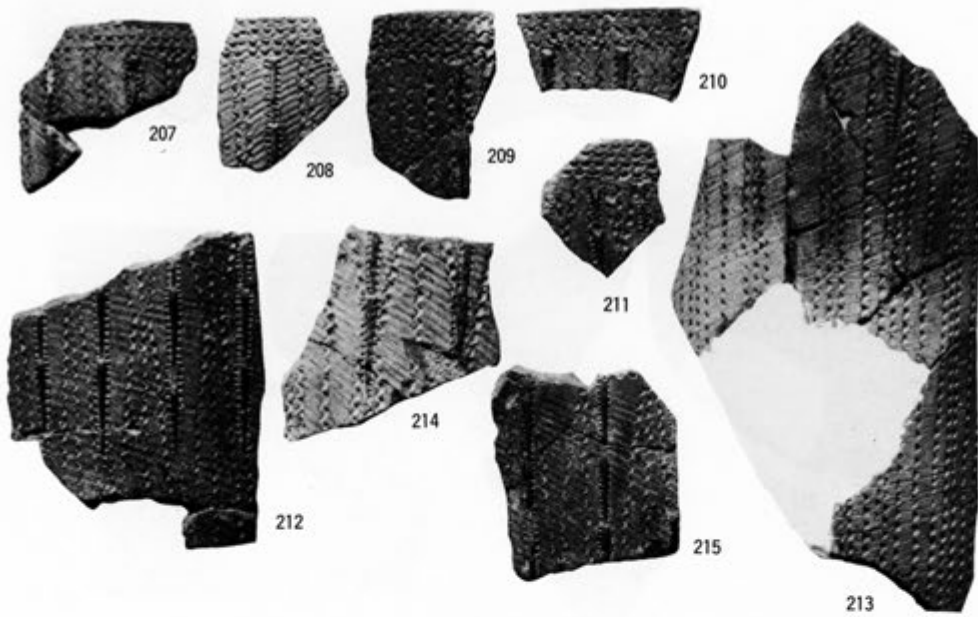
IV A 類 土 器



IV A 類 土 器



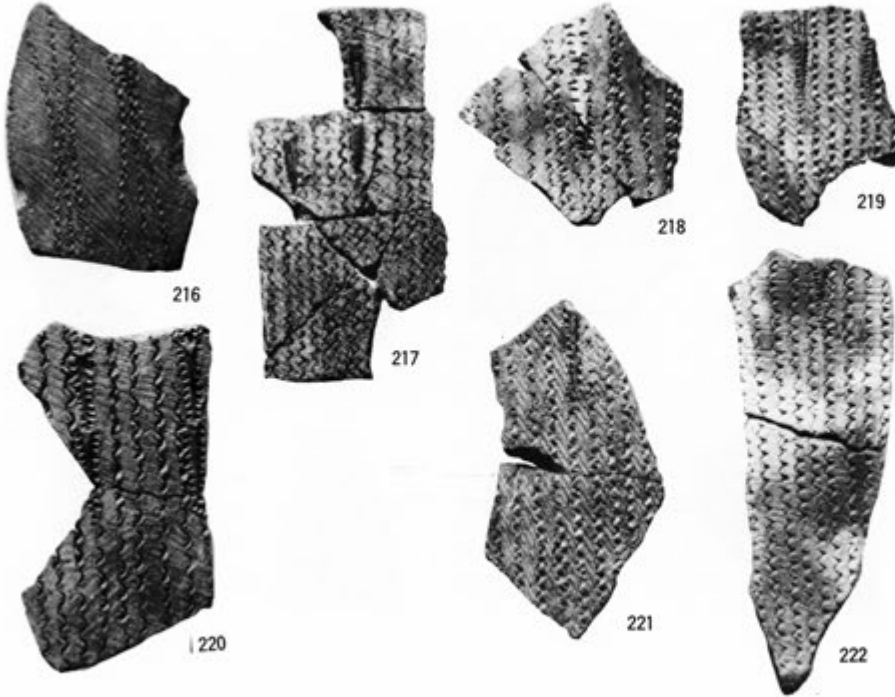
IV A 類 土 器



IV A 類 土 器

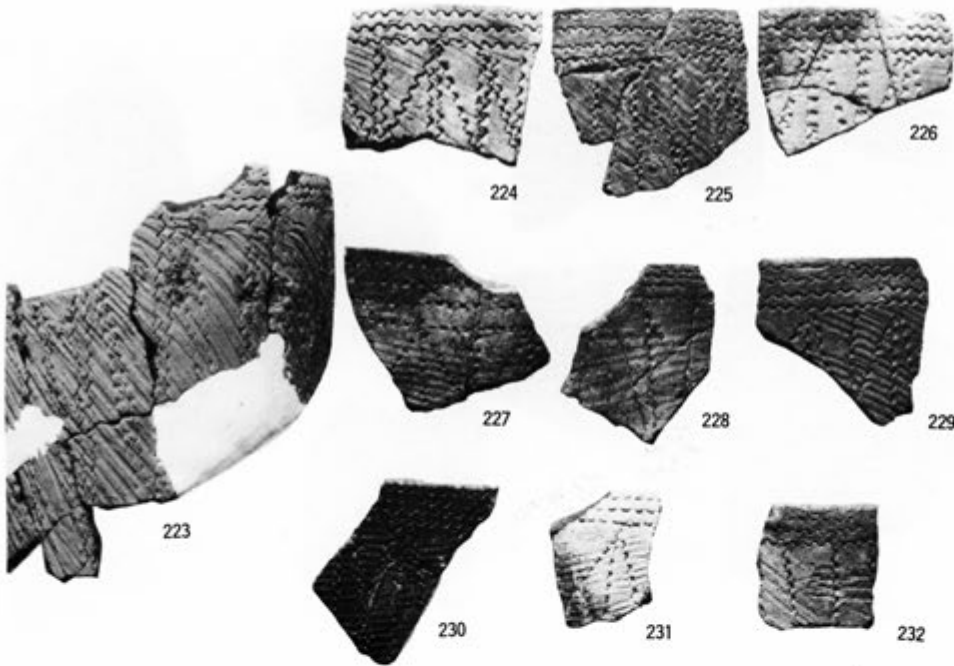
1

图版60



MA 類 土 器

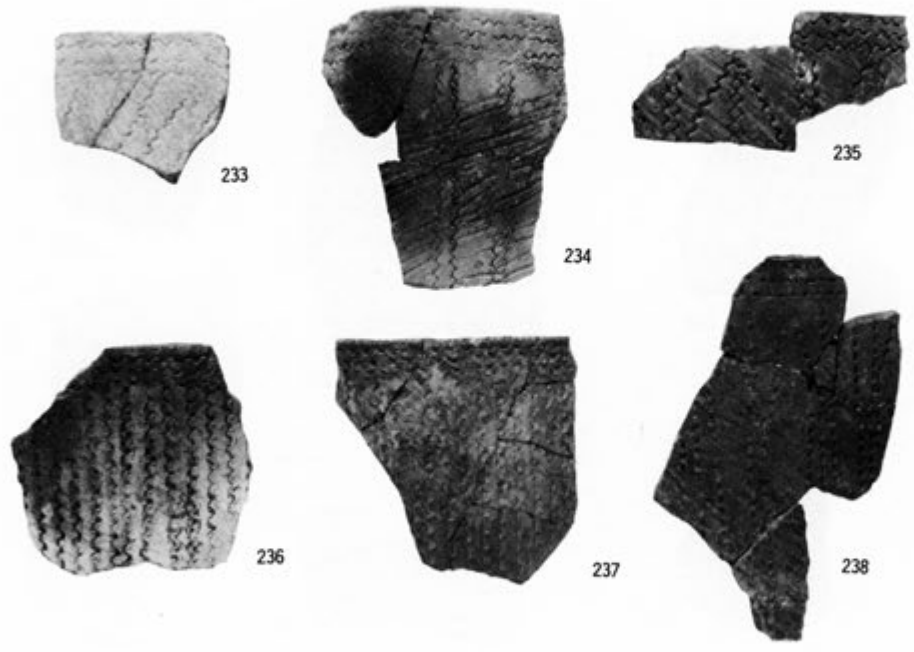
2



MB 類 土 器

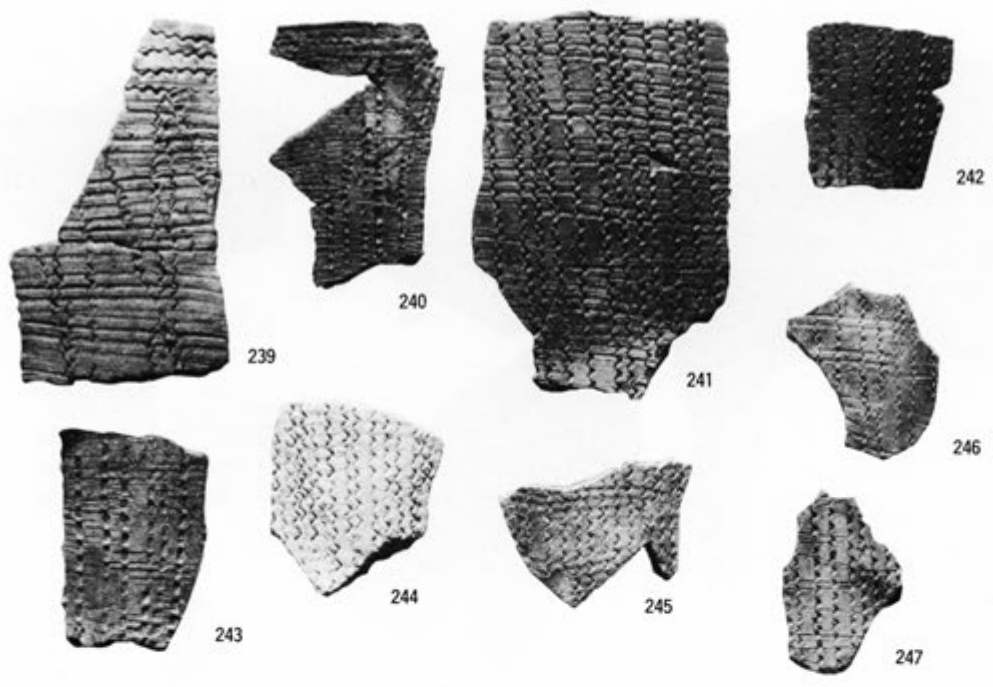
1

图版61



IVB 類 土 器

2



IVB 類 土 器



248



249



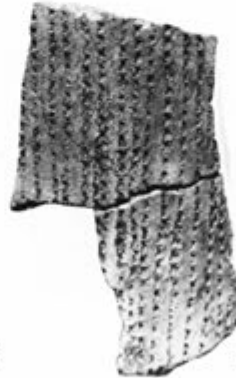
250



251

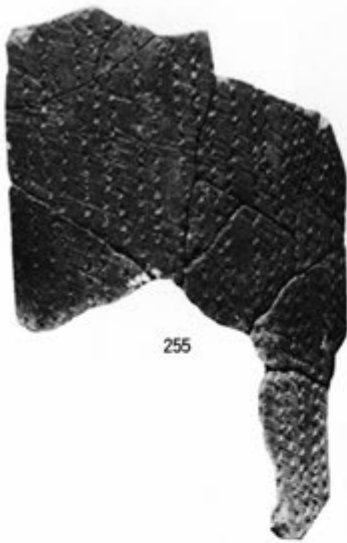


252



253

IVB 類 土 器



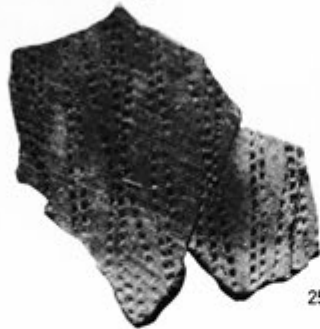
255



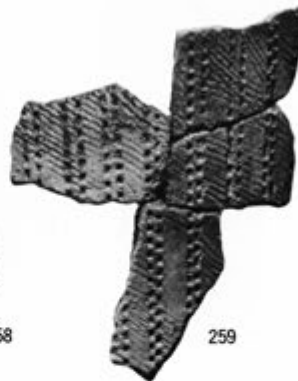
256



257



258

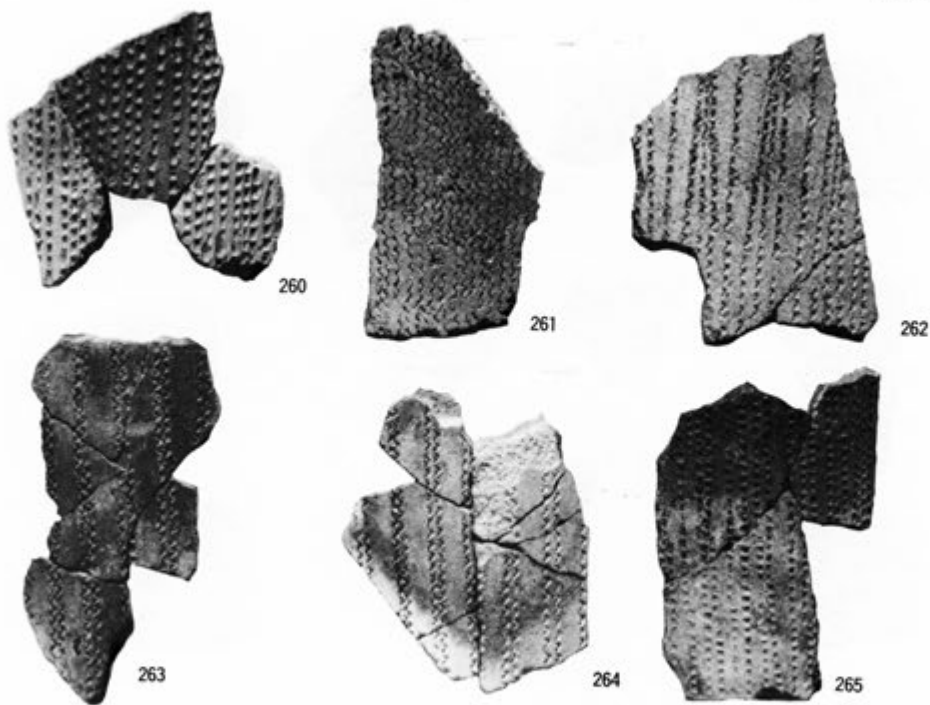


259

IVB 類 土 器

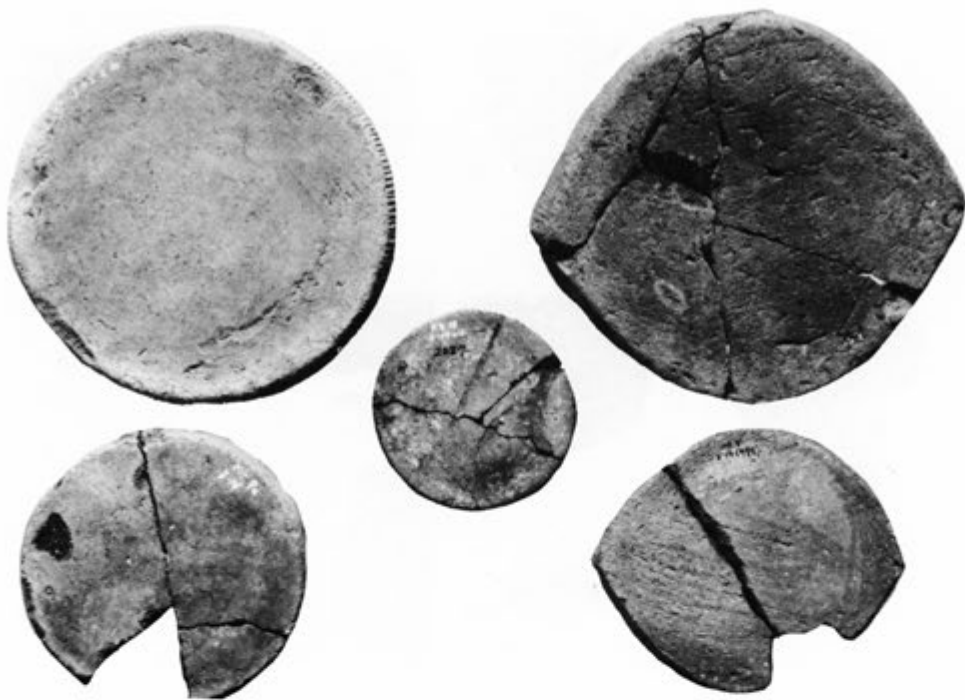
1

图版63



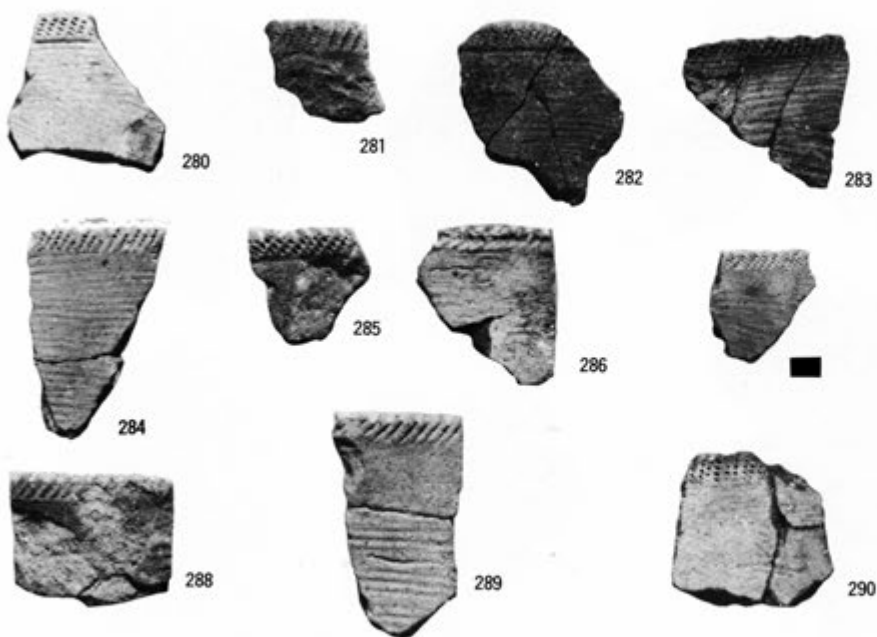
IVB 類 土 器

2



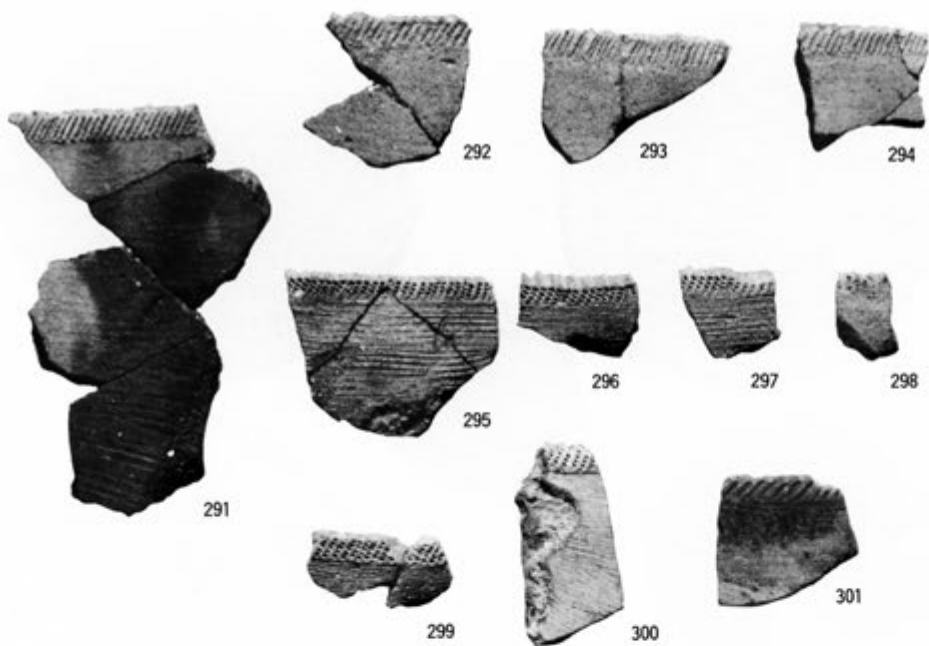
MB 類 土 器

1



V 類 土 器

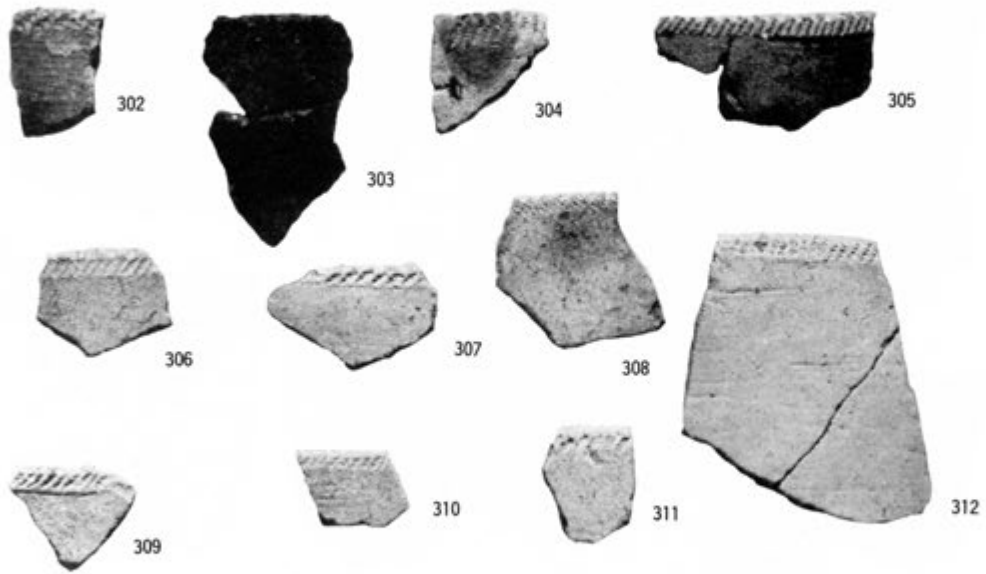
2



V 類 土 器

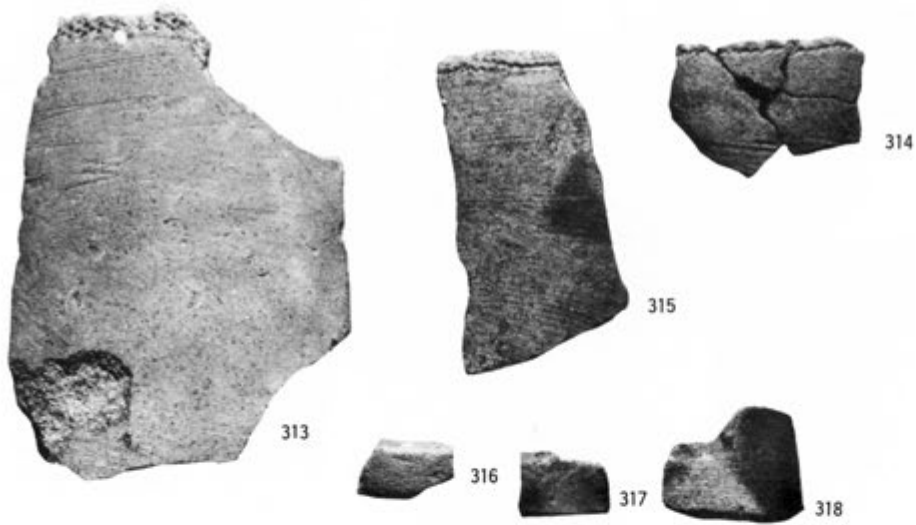
1

图版65



V 類 土 器

2

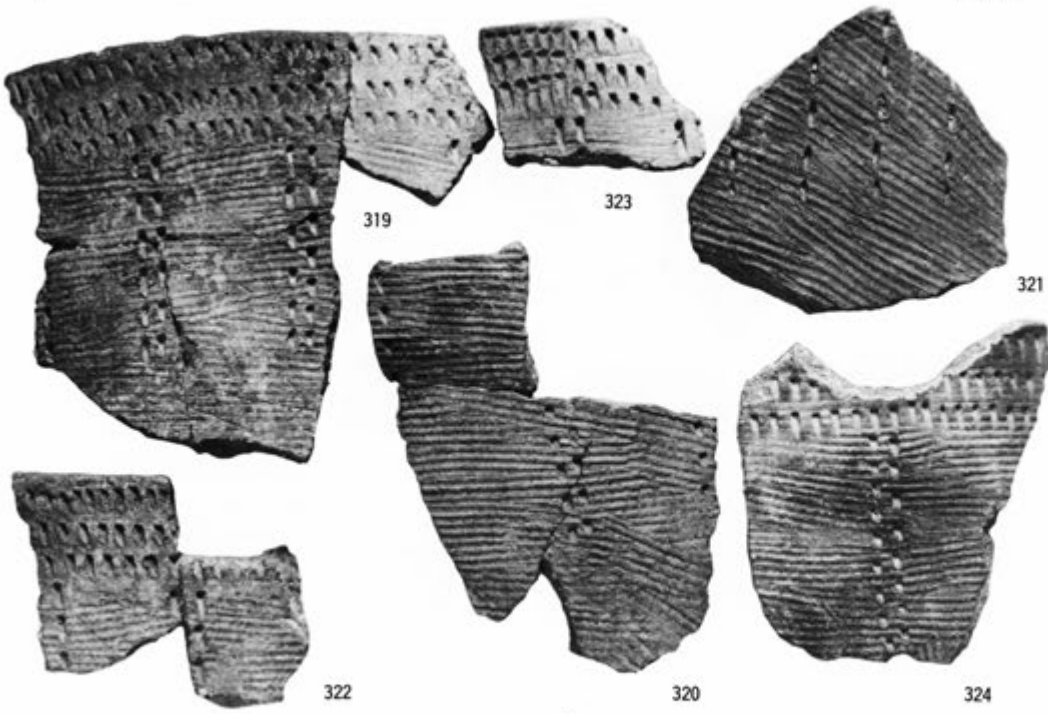


V 類 土 器



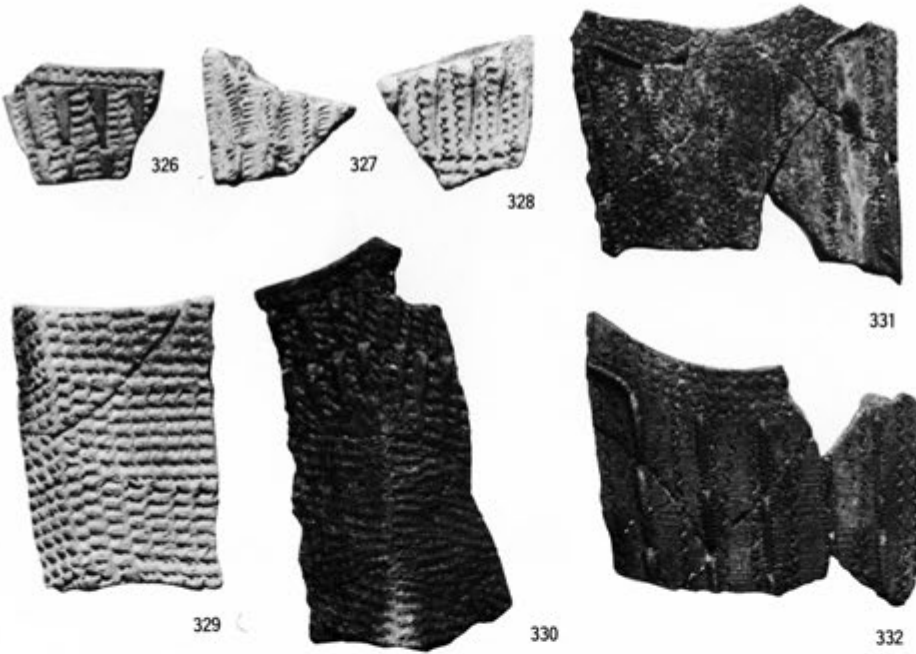
1

图版66



VI 類 土 器

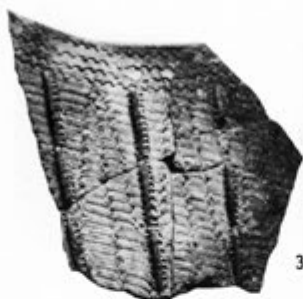
2



VII 類 土 器



333



334



335



338



337



336

VIIA 類 土 器



339



340



341



342



343



344



345

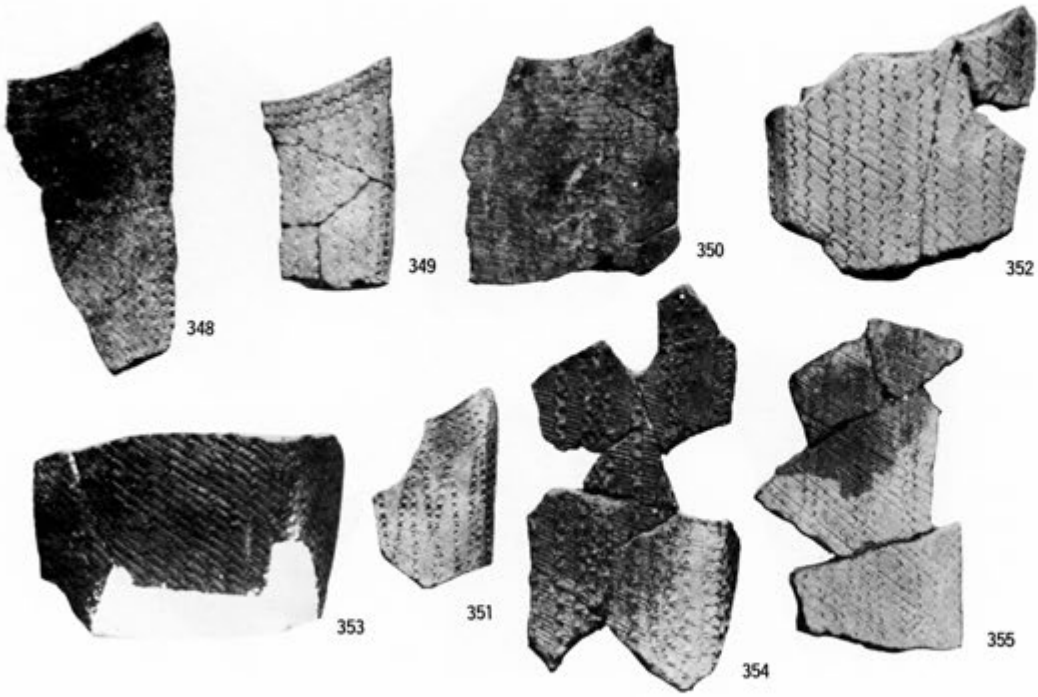


346

VIIA 類 土 器

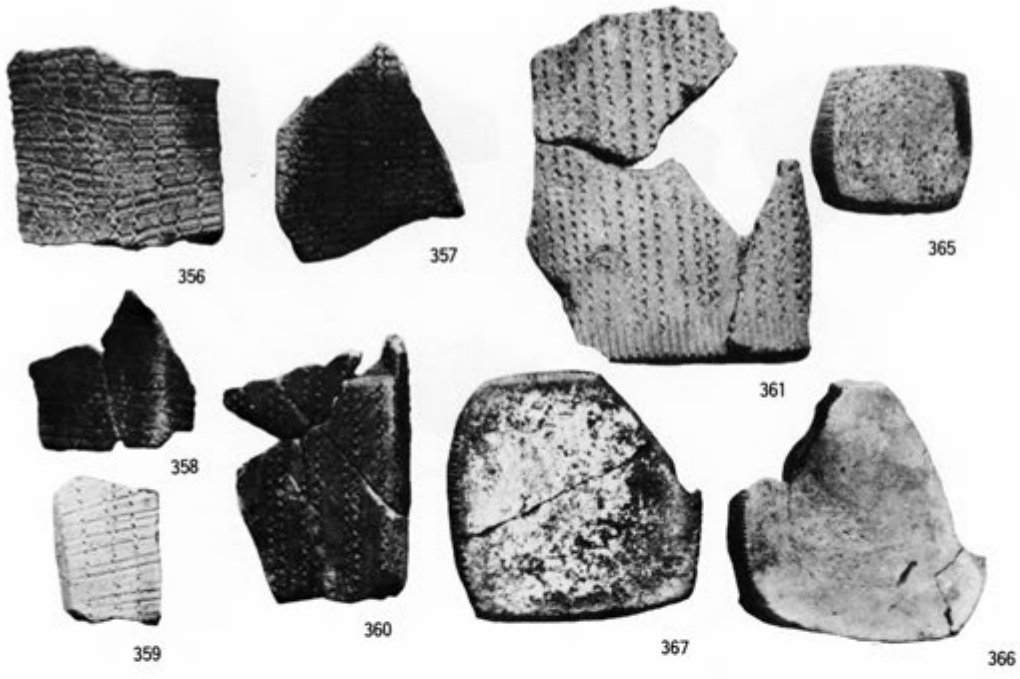
1

图版68



VIB 類 土 器

2



VIB 類 土 器



370



371



373



372



374

Ⅸ 類 土 器



375



376



377



379

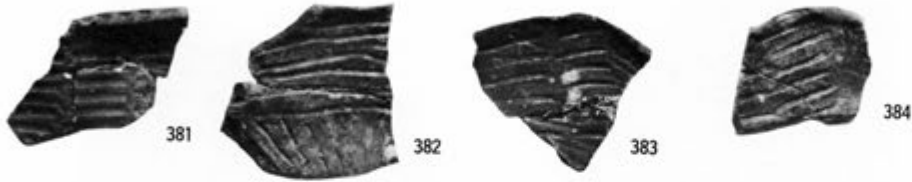


378



380

X 類 土 器

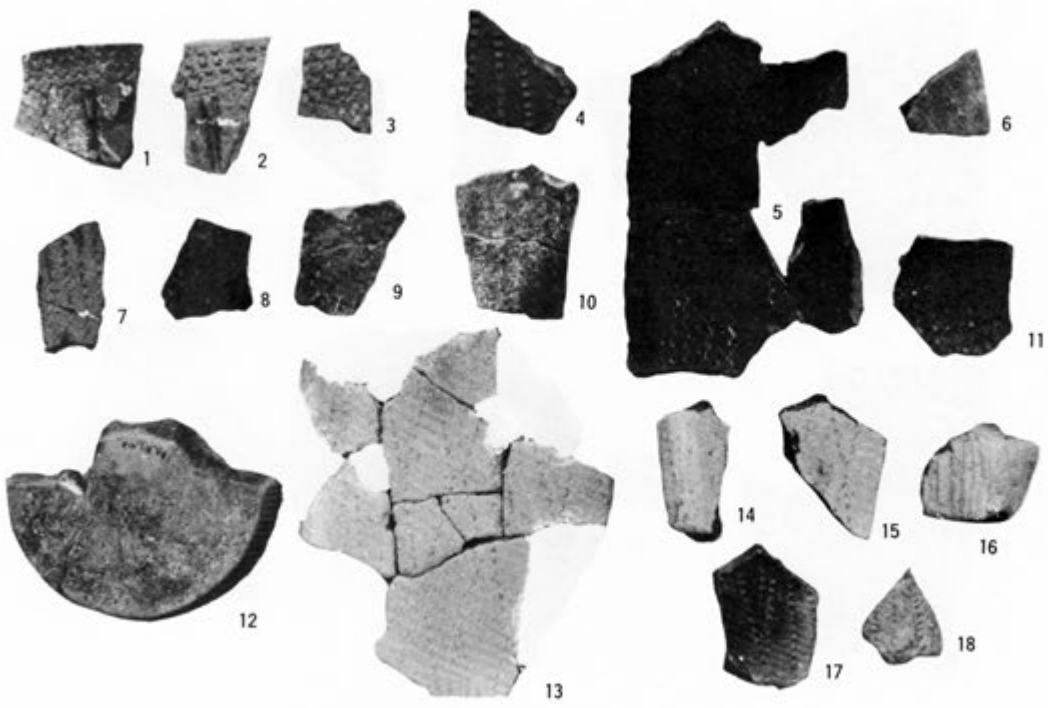


X 類 土 器



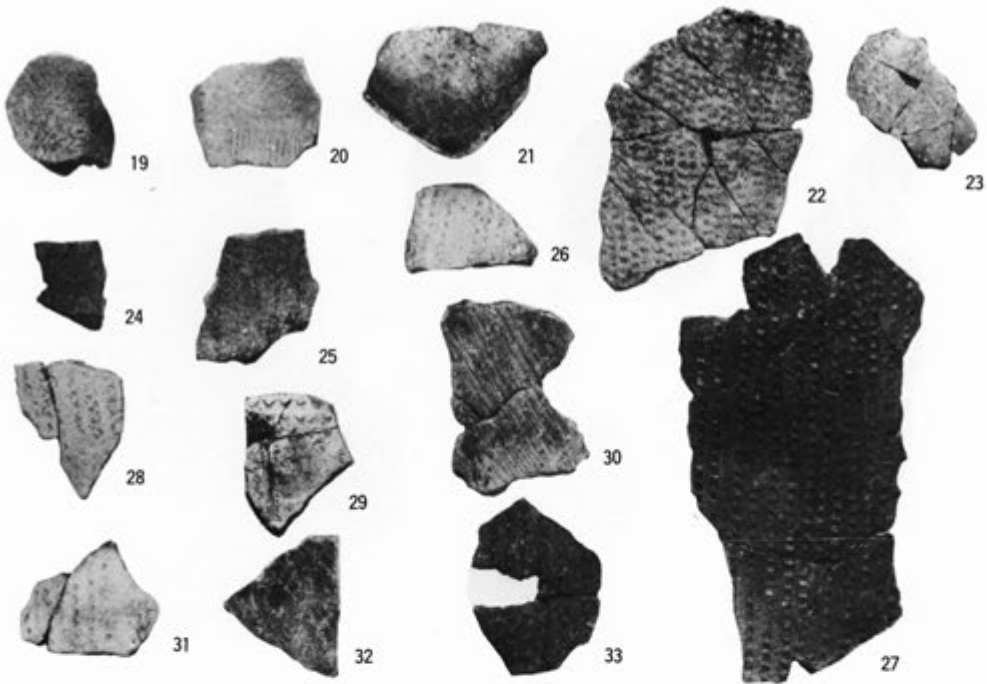
X 類 土 器

1



住居址内出土土器

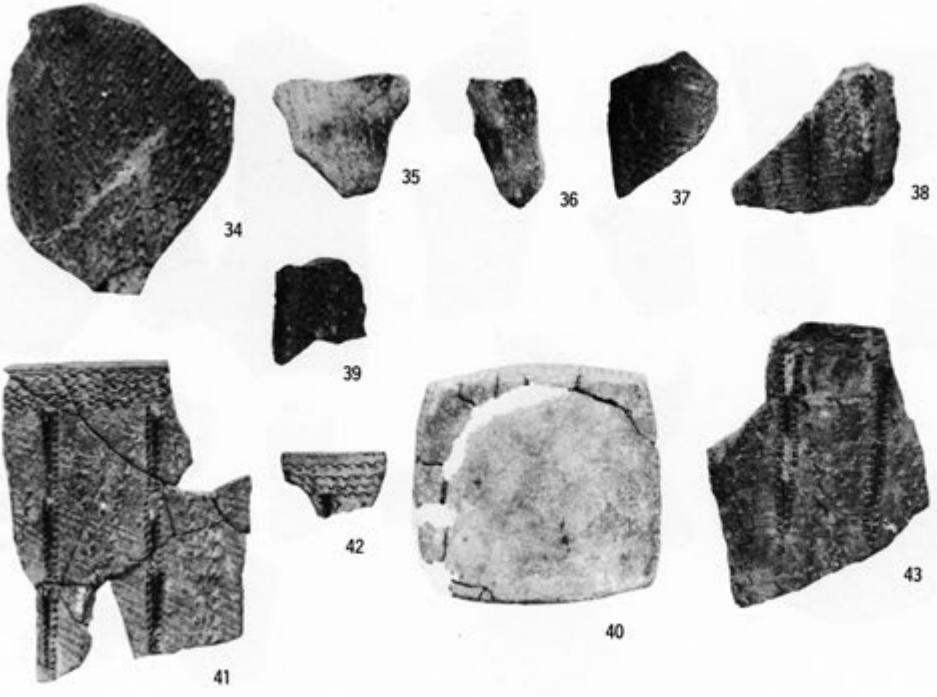
2



住居址内出土土器

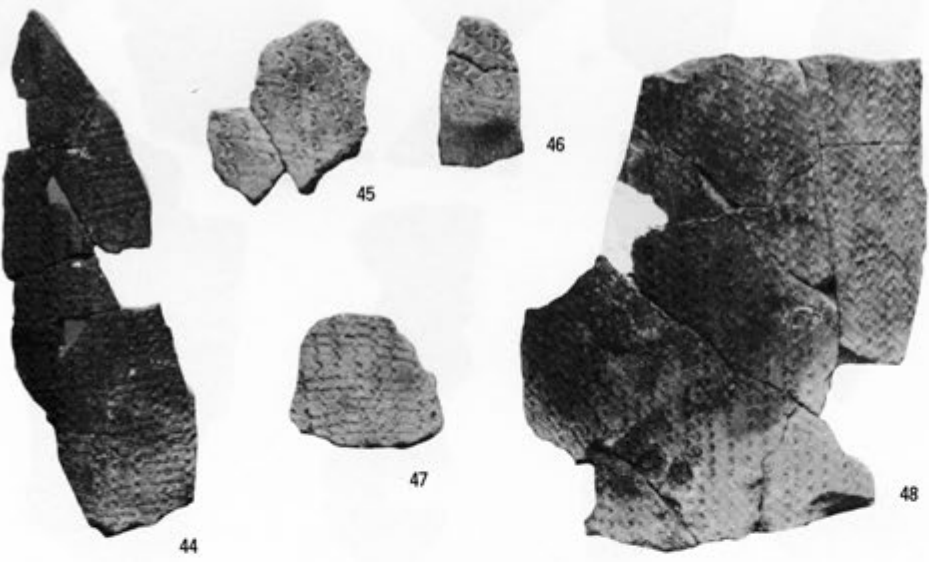
1

图版72



住居址内出土土器

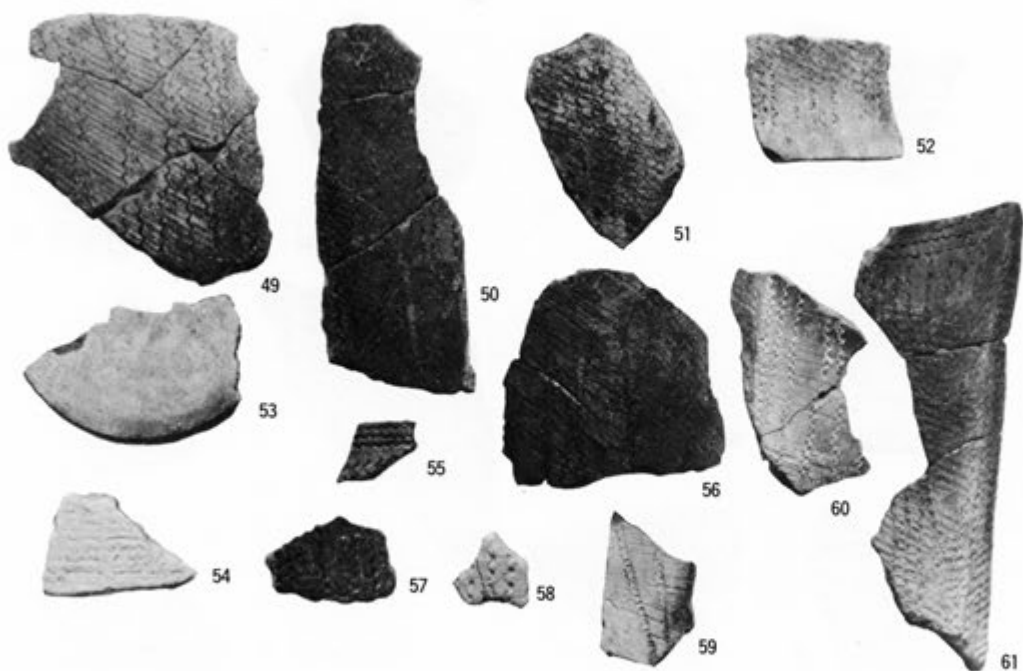
2



住居址内出土土器

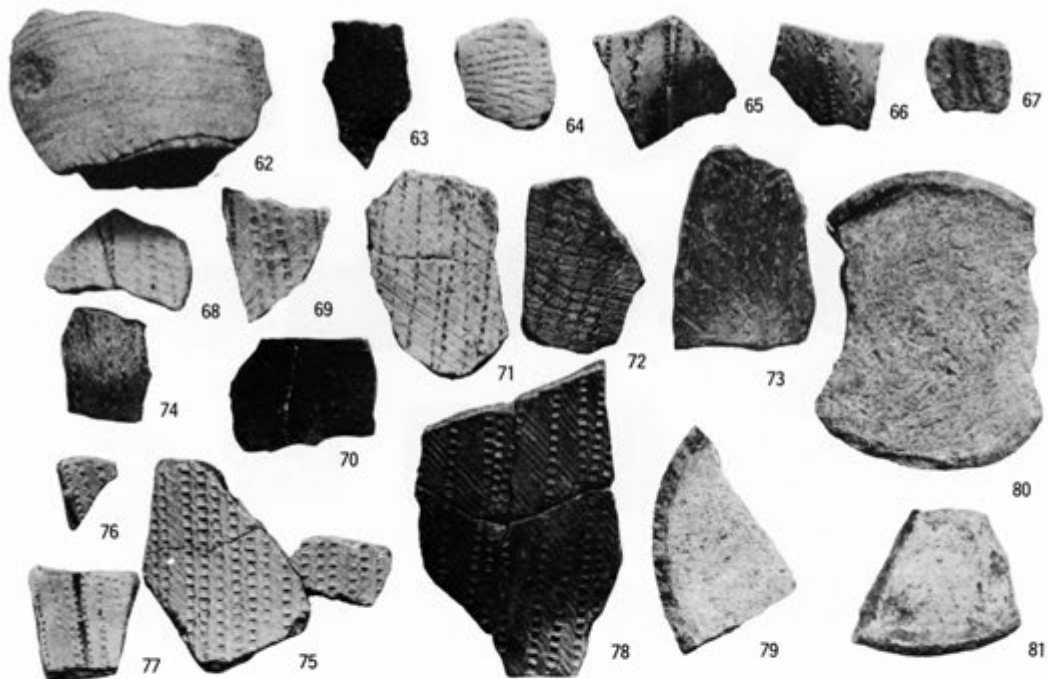
1

图版73



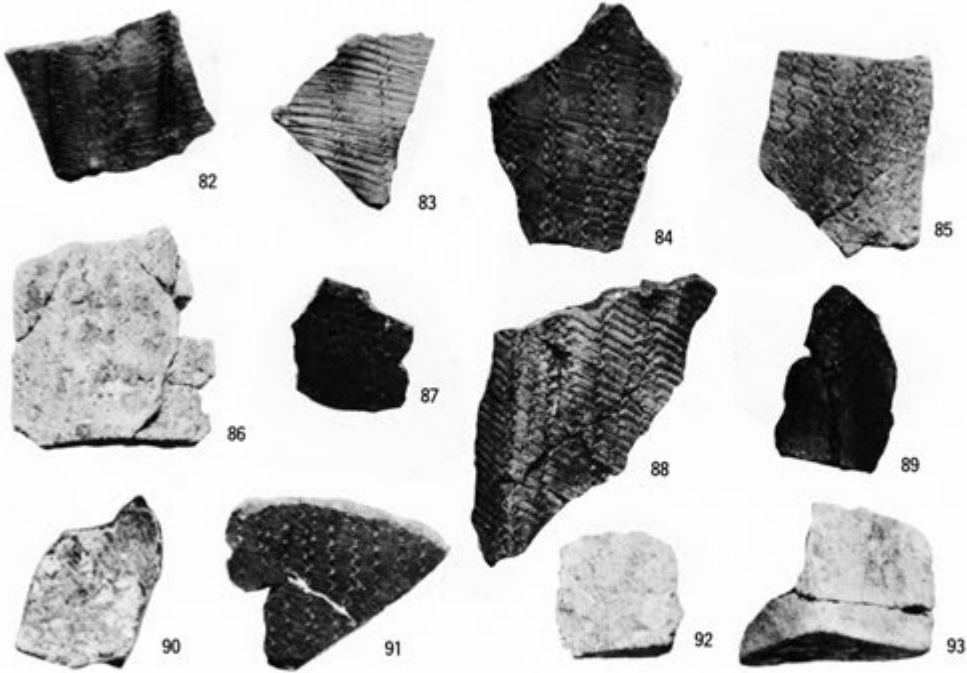
住居址内出土土器

2

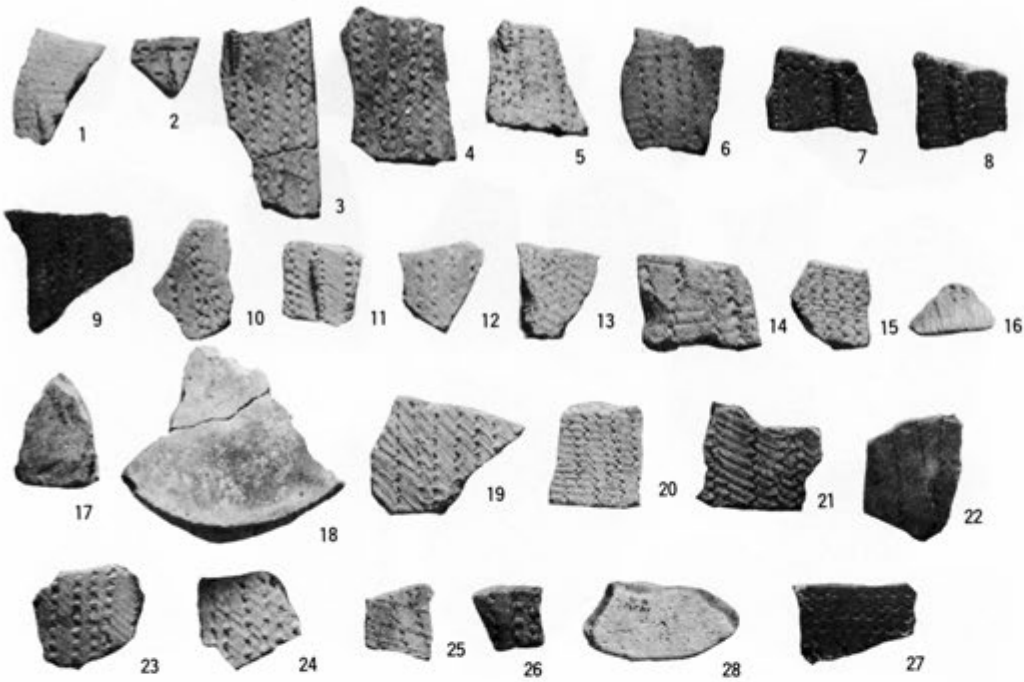


住居址内出土土器

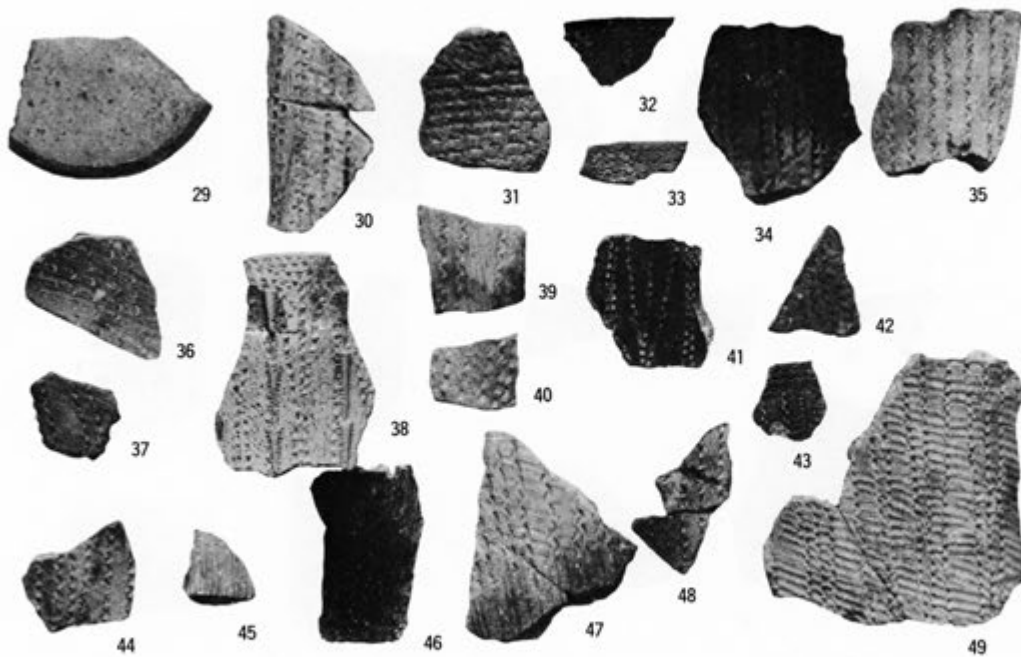




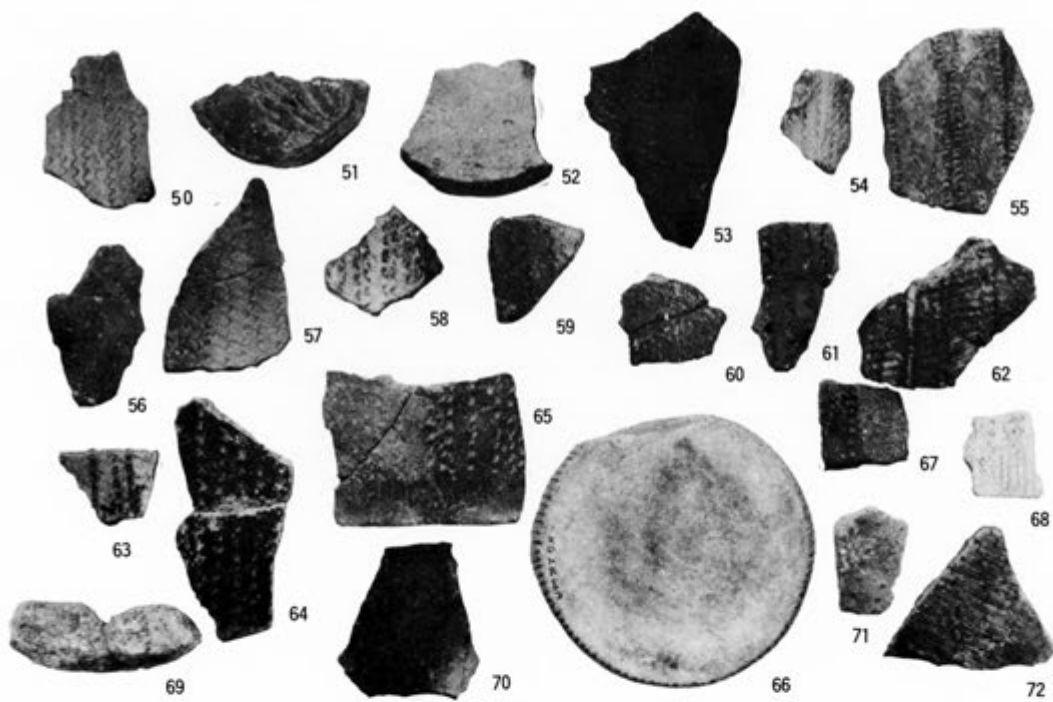
住居址内出土土器



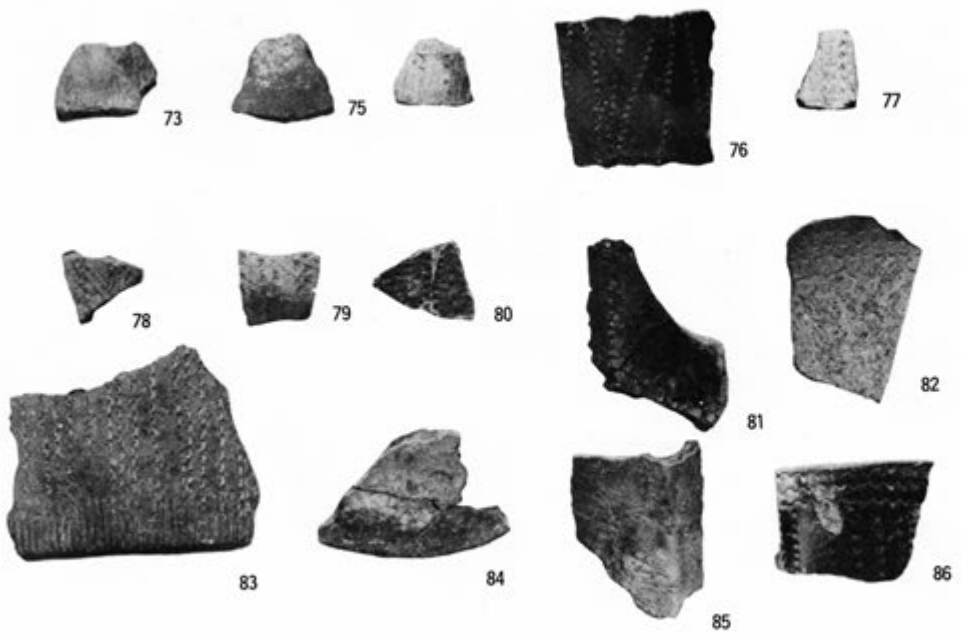
土城内出土土器



土 城 内 出 土 土 器



土 城 内 出 土 土 器



土 城 内 出 土 土 器



貝殻押し文



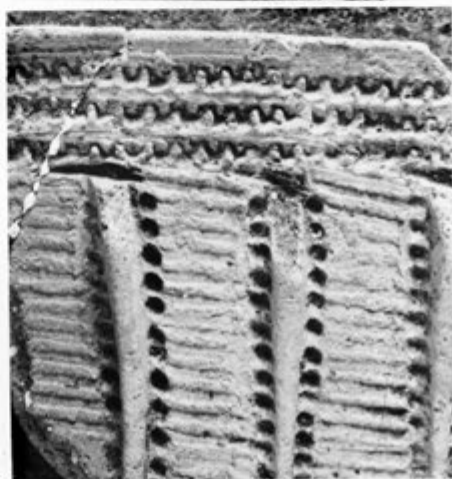
貝殻押圧文



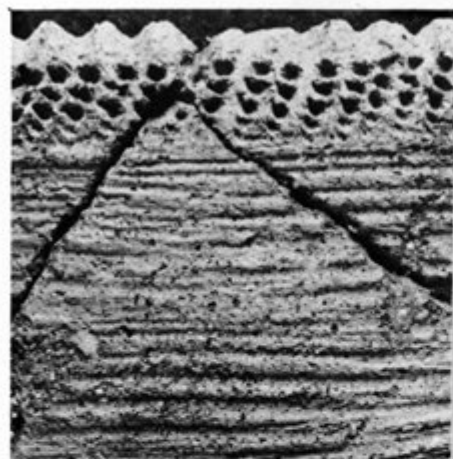
クサビ形凸帯  
と貝殻刺突文

Ⅵ類土器

貝殻刺突文

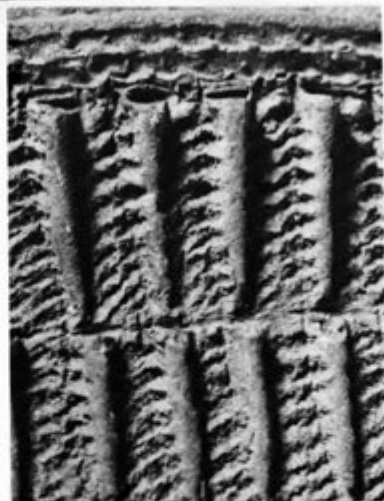


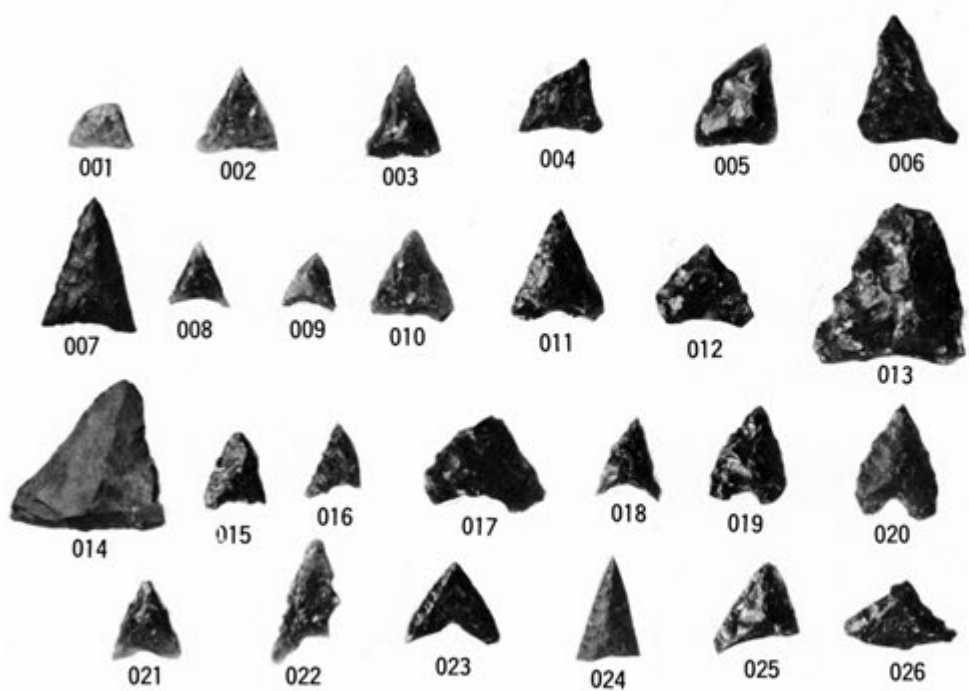
クサビ形凸帯  
貝殻条痕文  
刺突連点文



V類土器

Ⅲ類土器

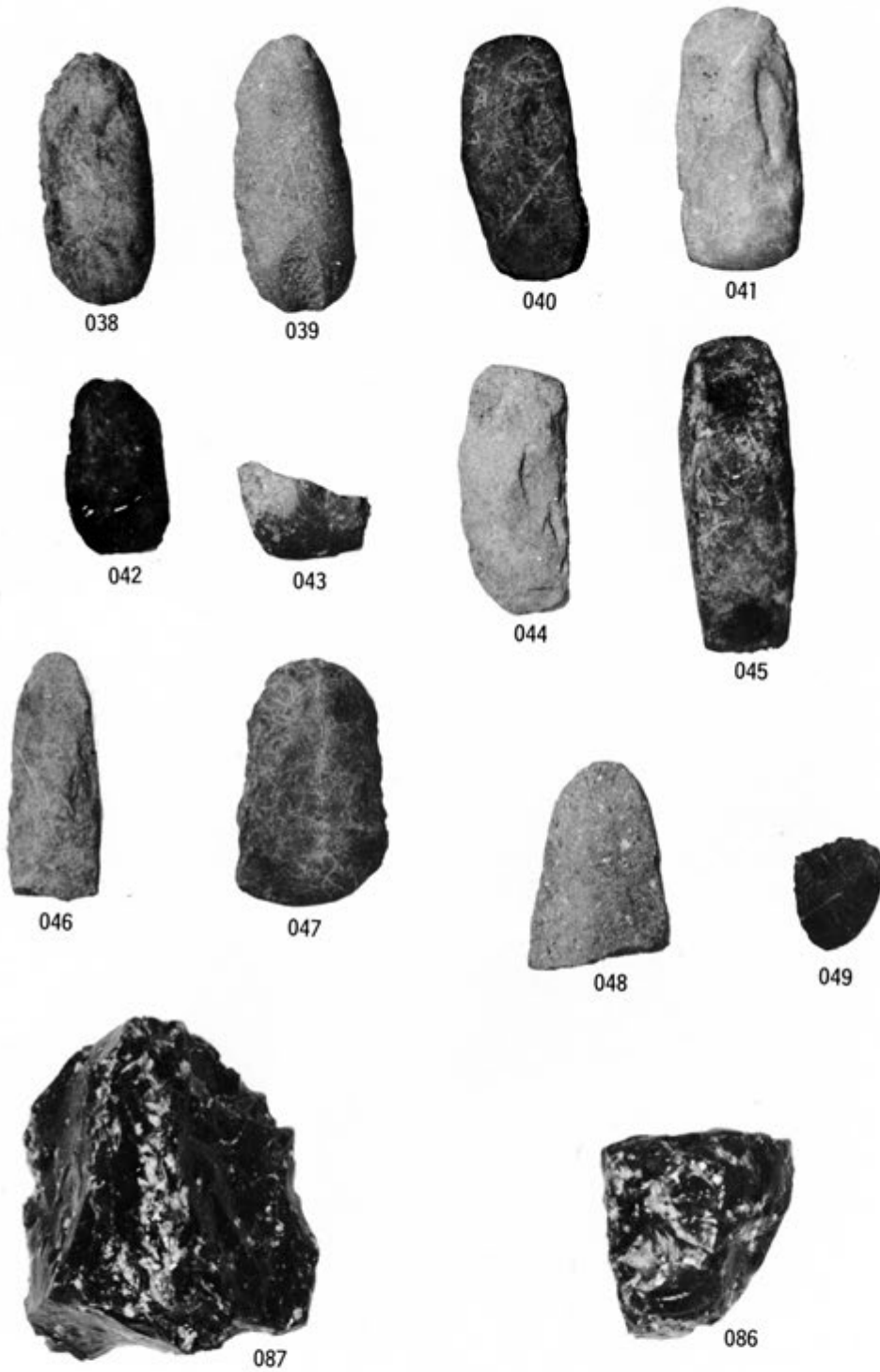




石 鏃



磨製石斧



磨製石斧 石核 (087・086)



050



051



052



055



052



056

局部磨製·打製石斧



057



058



059



060



061



063



062



064

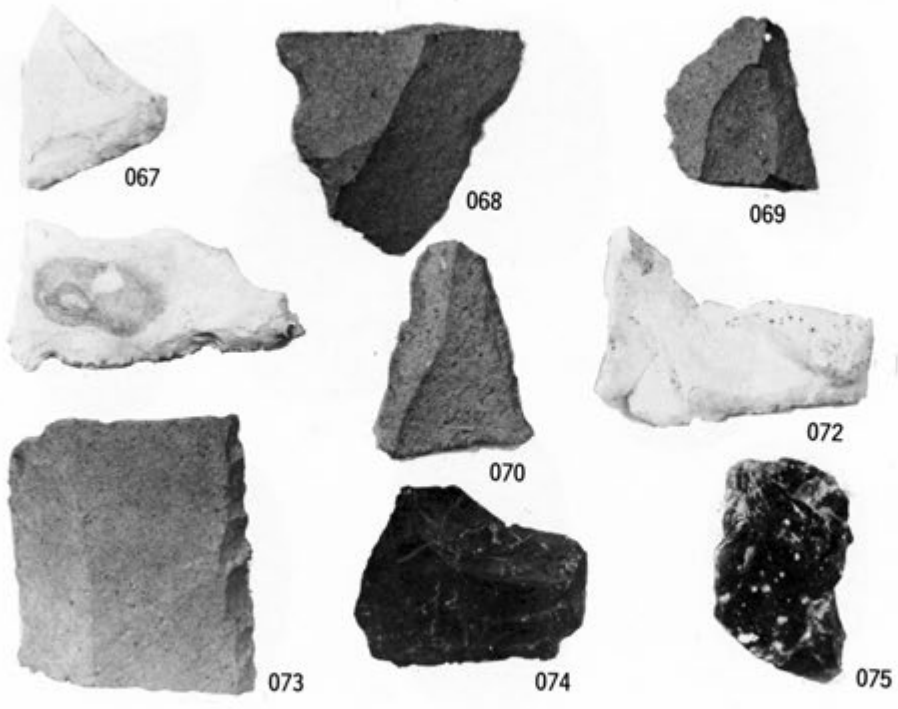


065

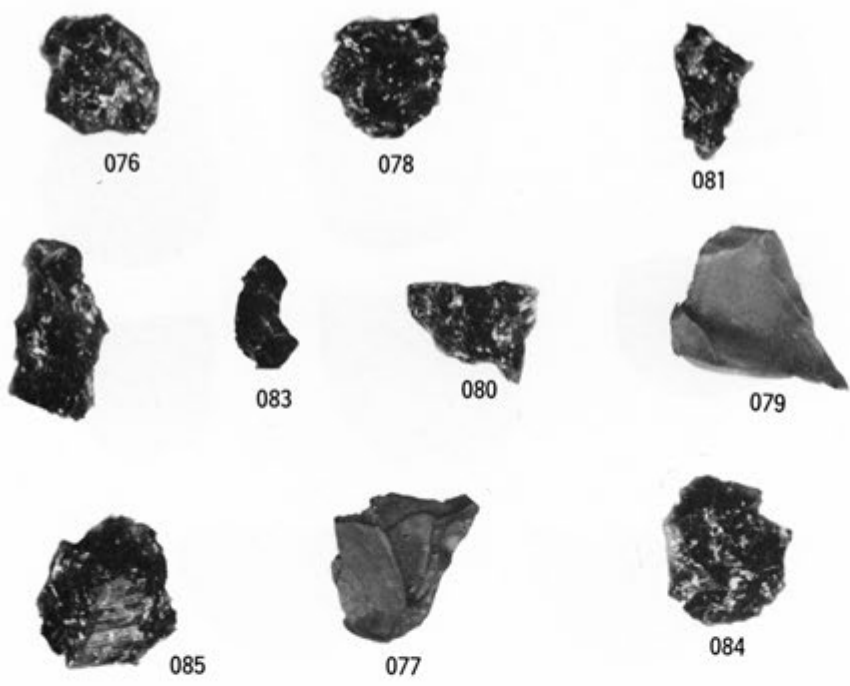


066

石匙·削器

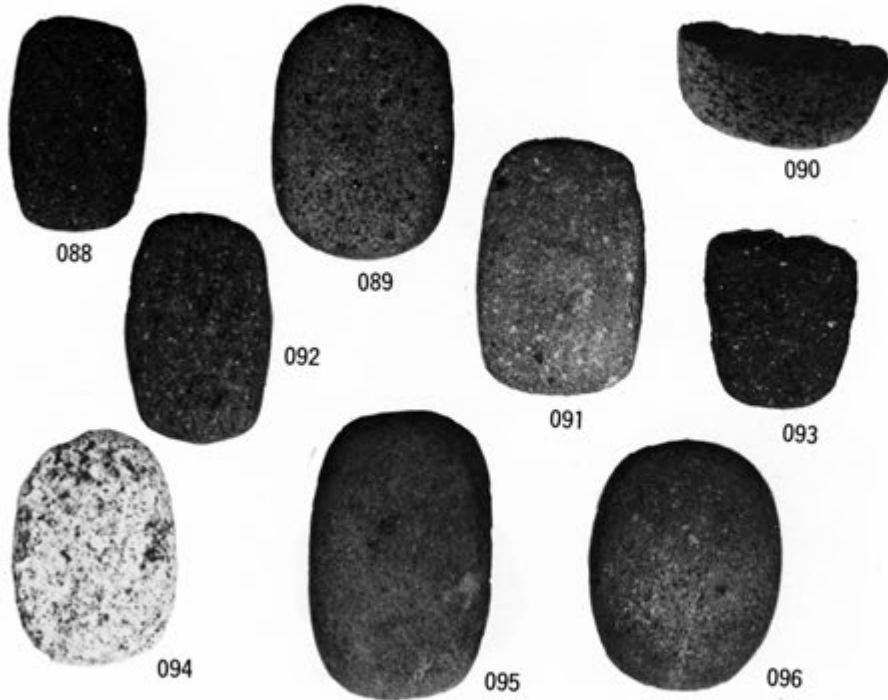


削器·剥片

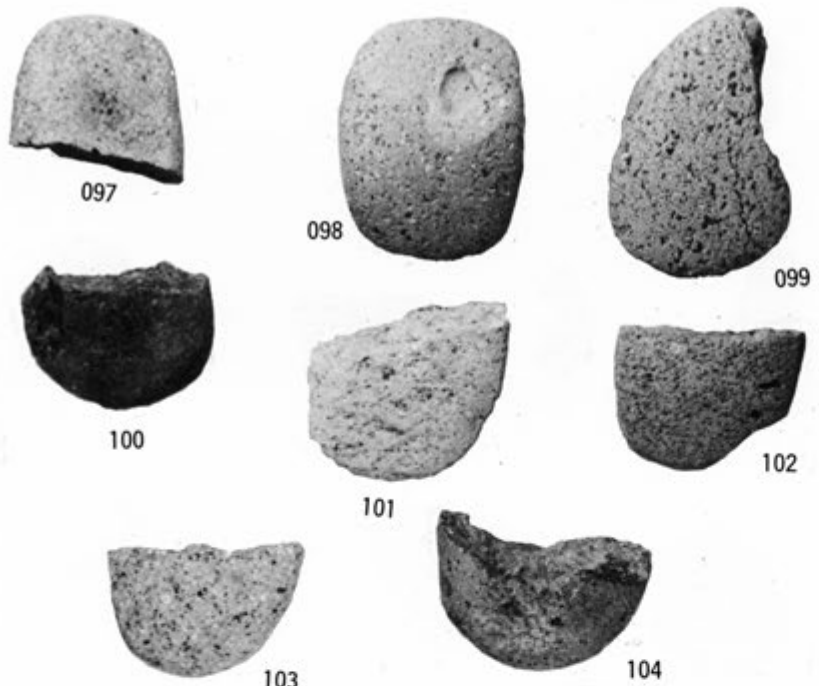


剥片

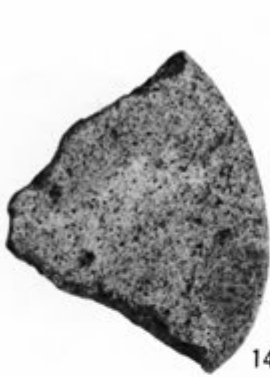




磨石



磨石



142



141



140



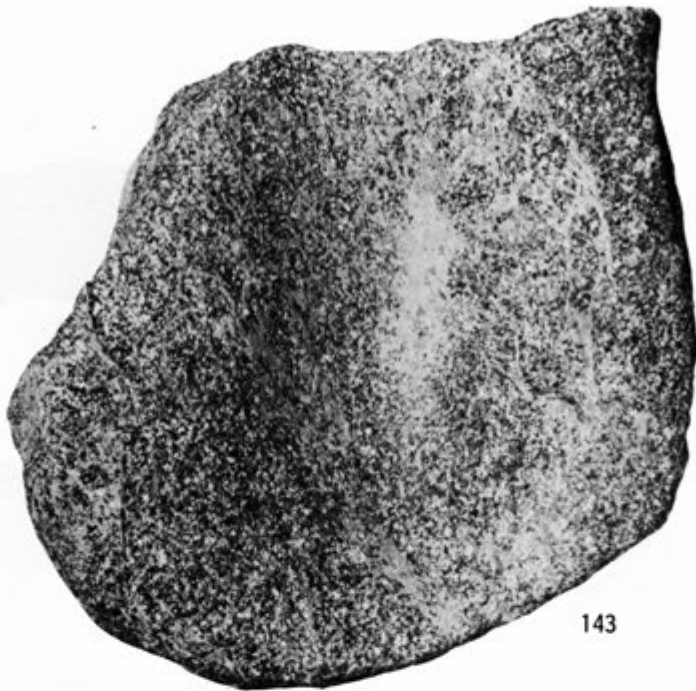
139



138



144



143

石 皿



122



123



124



126



127



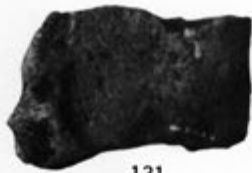
磨 石



129



130



131



132



133



134



135

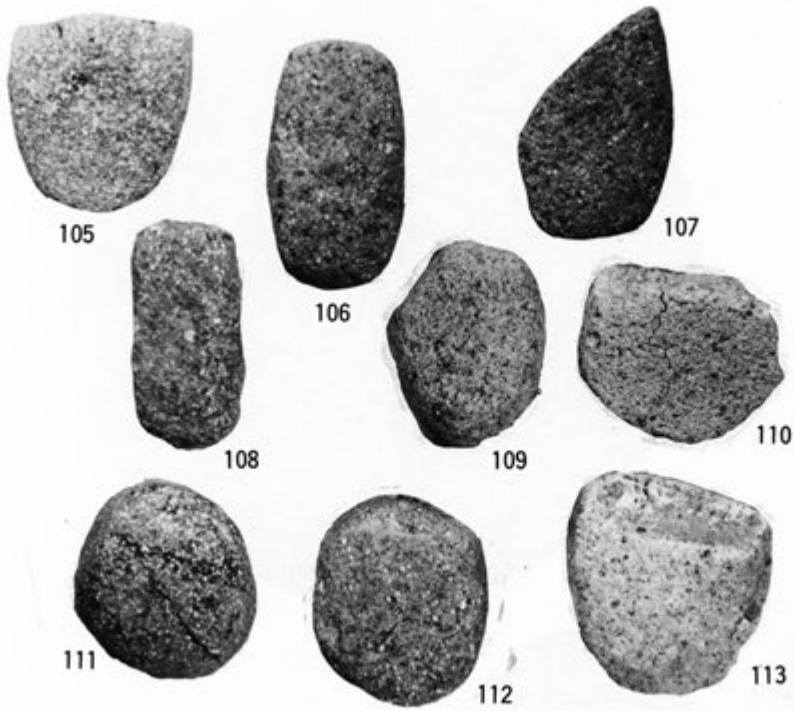


136

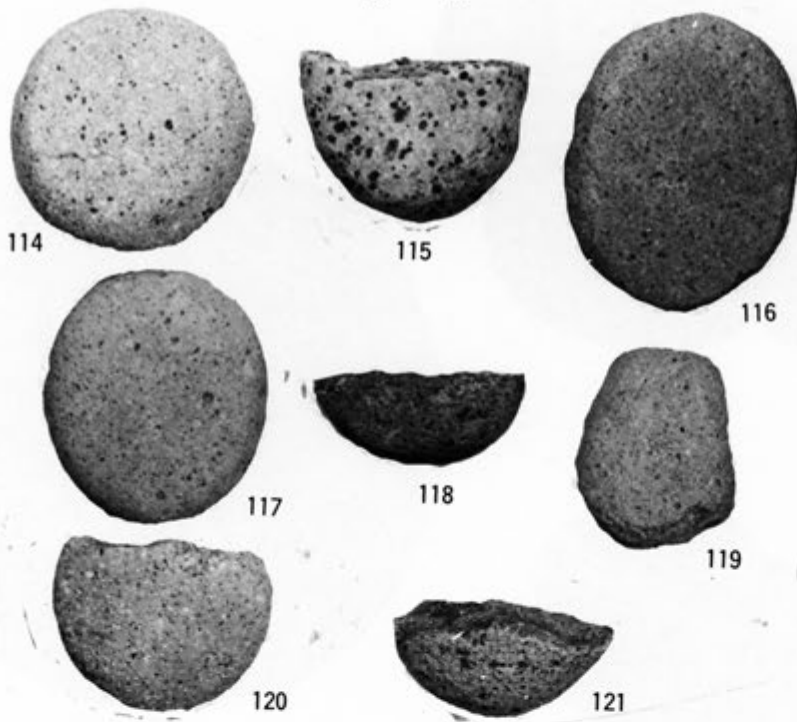


137

石 皿



磨石



磨石



円盤状軽石製器



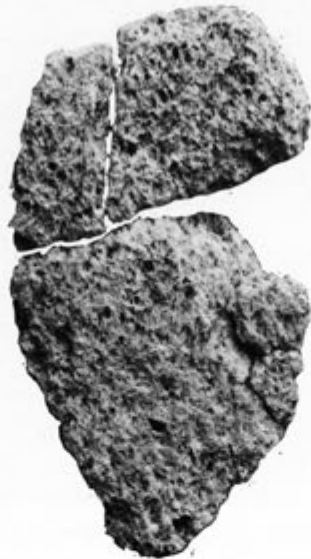
円孔のある土製器  
(Ⅲ層出土)

石製装身具 (Ⅵ号住居址内)

← 軽石製頑具 (Ⅲ号住居址内)

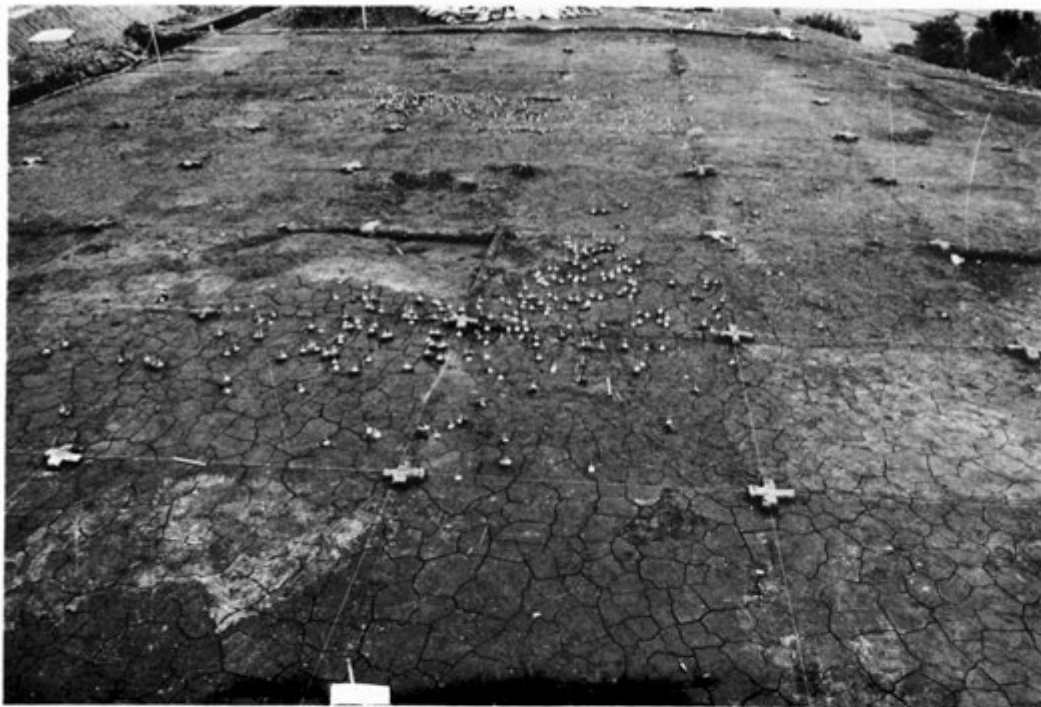


軽石製  
陰陽石 (Ⅻ号住居址内)



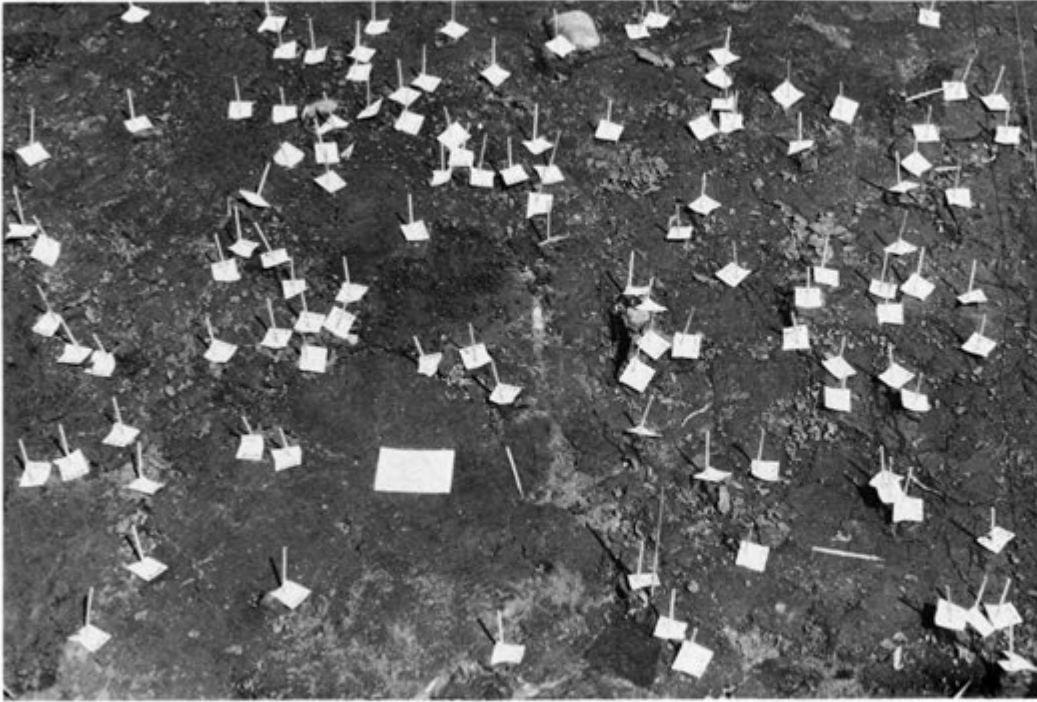


遺物出土状況



第36・38ユニット 遺物出土状況





遺物出土状況



遺物・礫出土状況





大型加工台形様石出土状況



大型加工台形様石出土状況



細石刃核出土状況



細石刃核出土状況



大型加工台形様石出土状況



磨製石斧出土状況



細石器文化石鏃出土状況

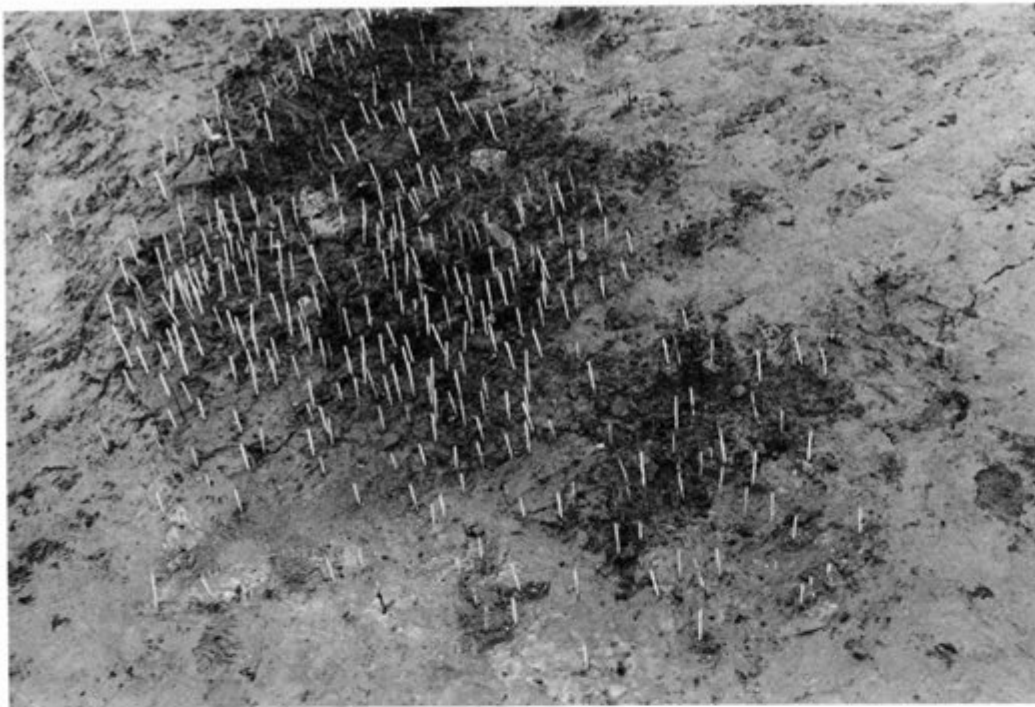


石槌・礫出土状況





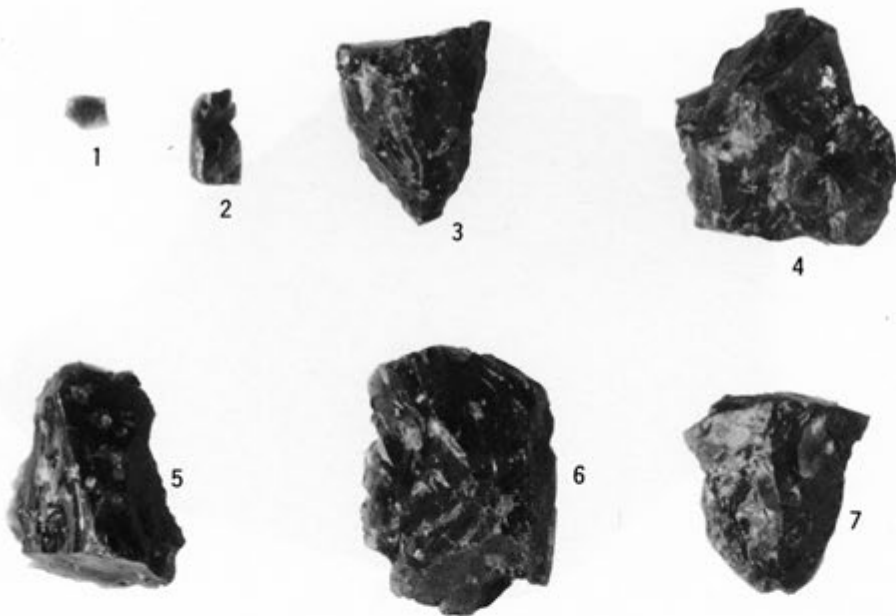
凝灰岩質剥片出土状況



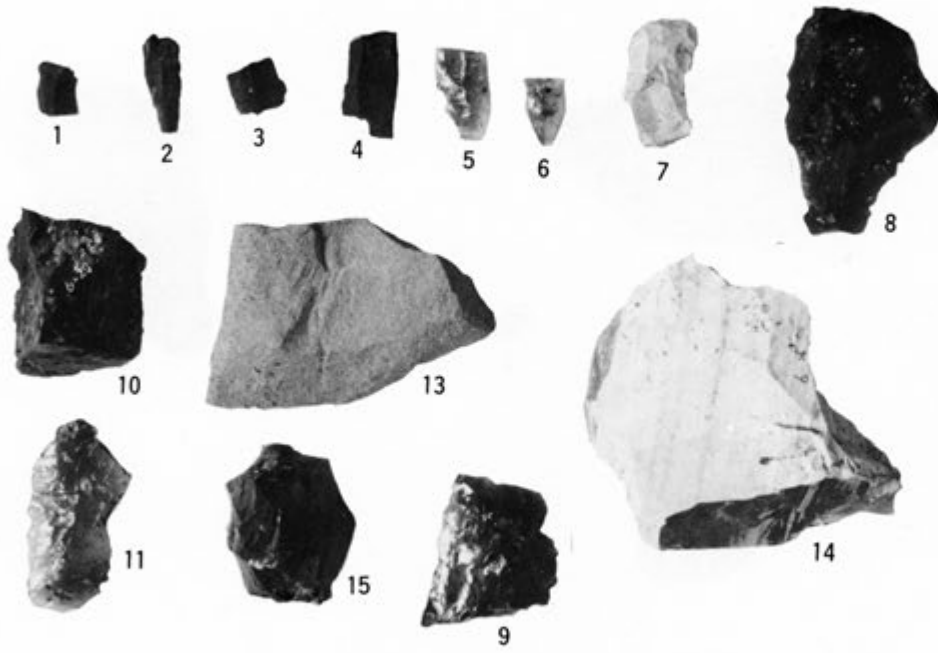
第31ユニット 遺物出土状況



第1～4ユニット出土石器



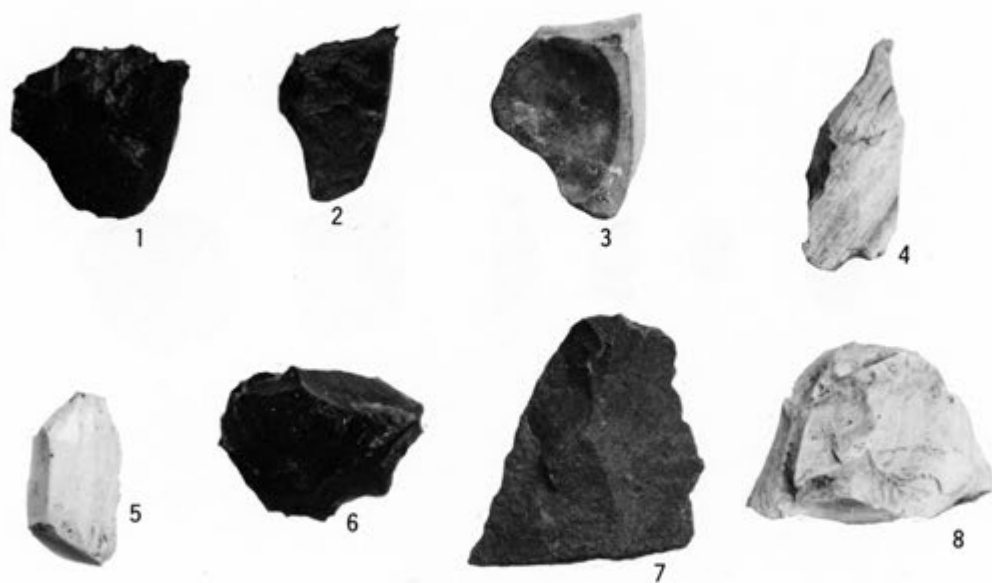
第5ユニット出土石器



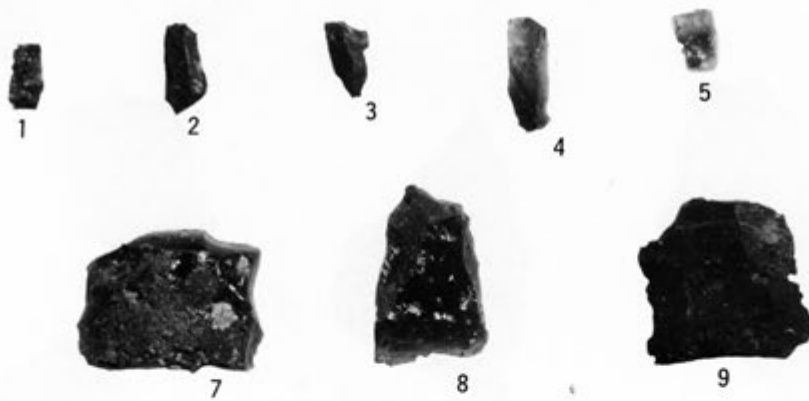
第6ユニット出土石器



第7ユニット出土石器



第8ユニット出土石器

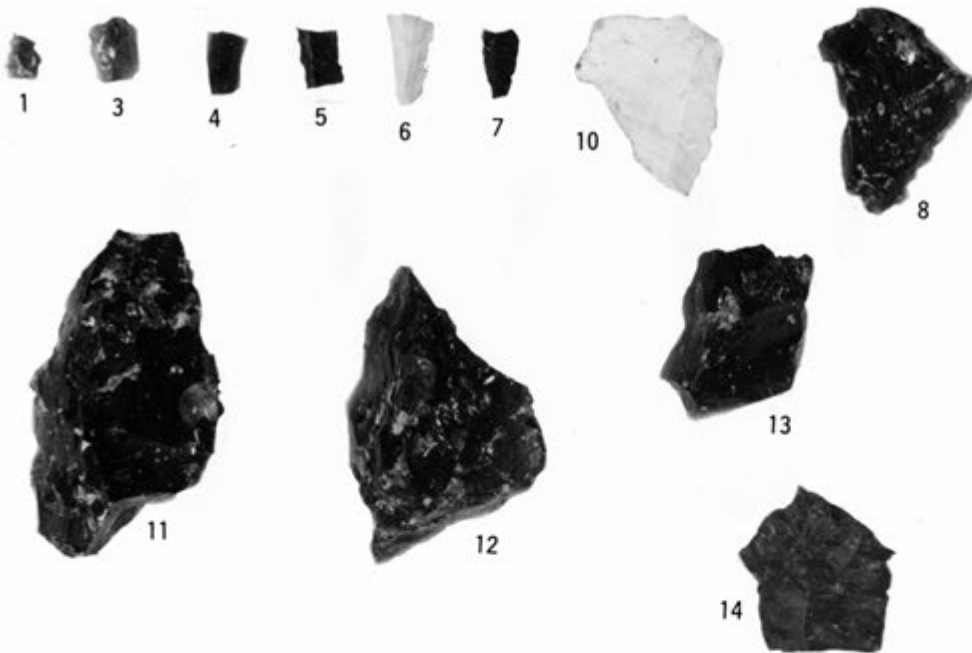


第9ユニット出土石器

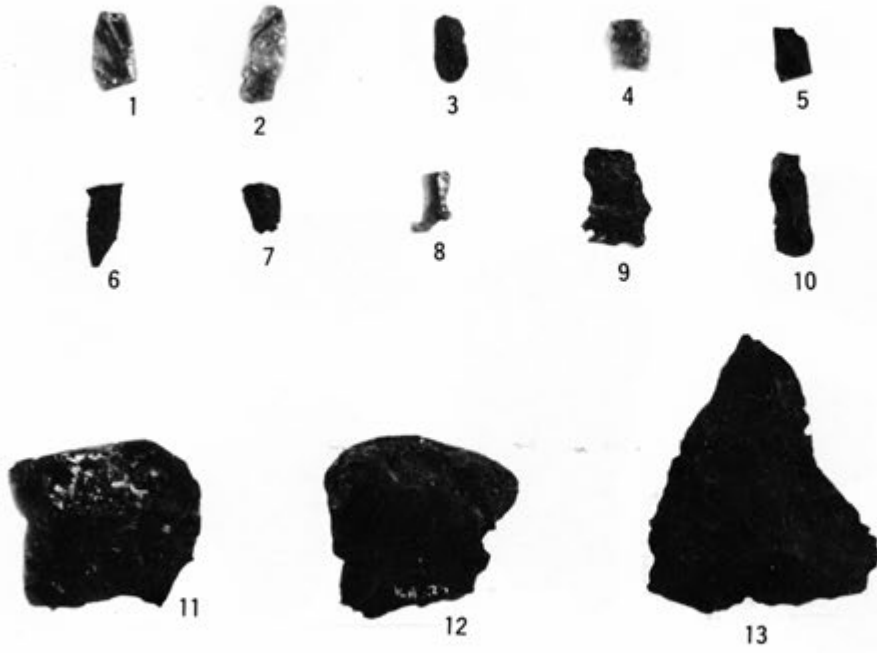




第10ユニット出土石器



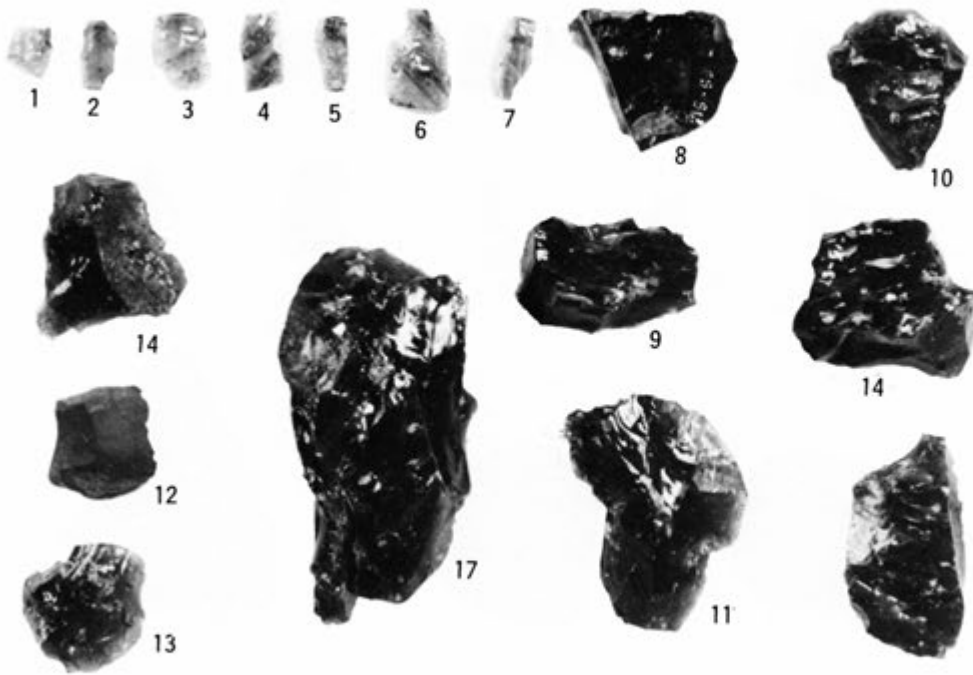
第11ユニット出土石器



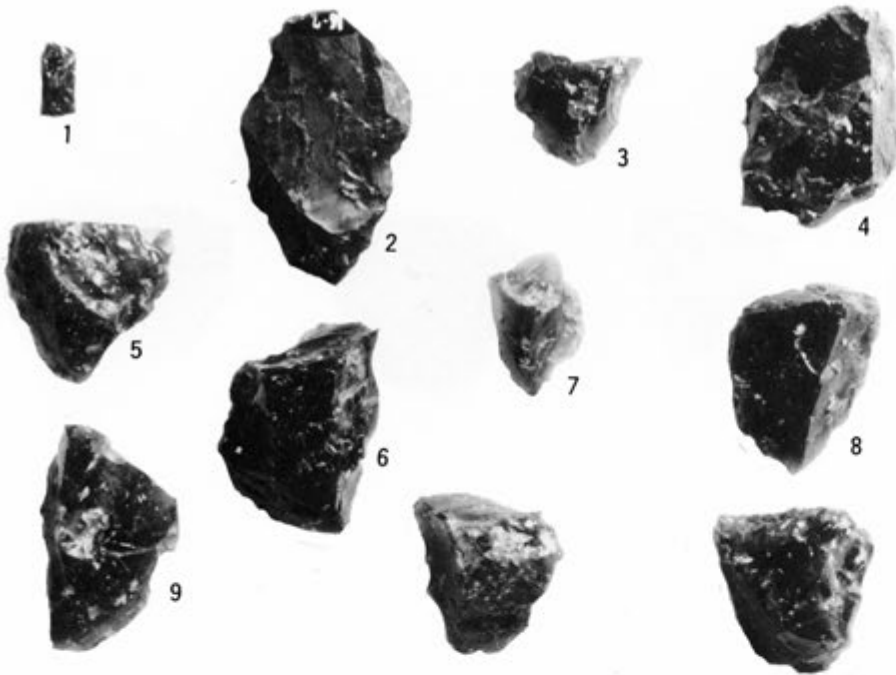
第12ユニット出土石器



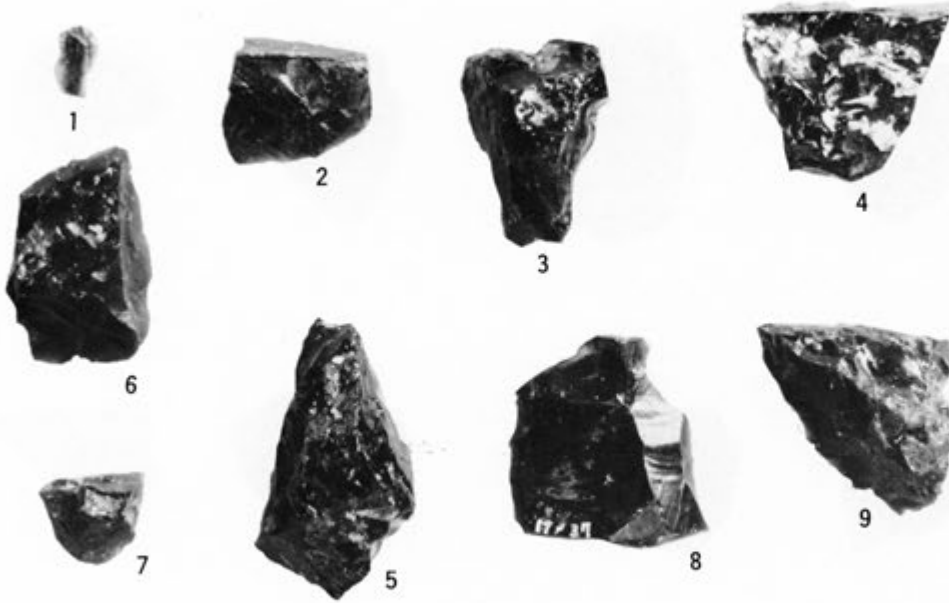
第13ユニット出土石器



第15ユニット出土石器



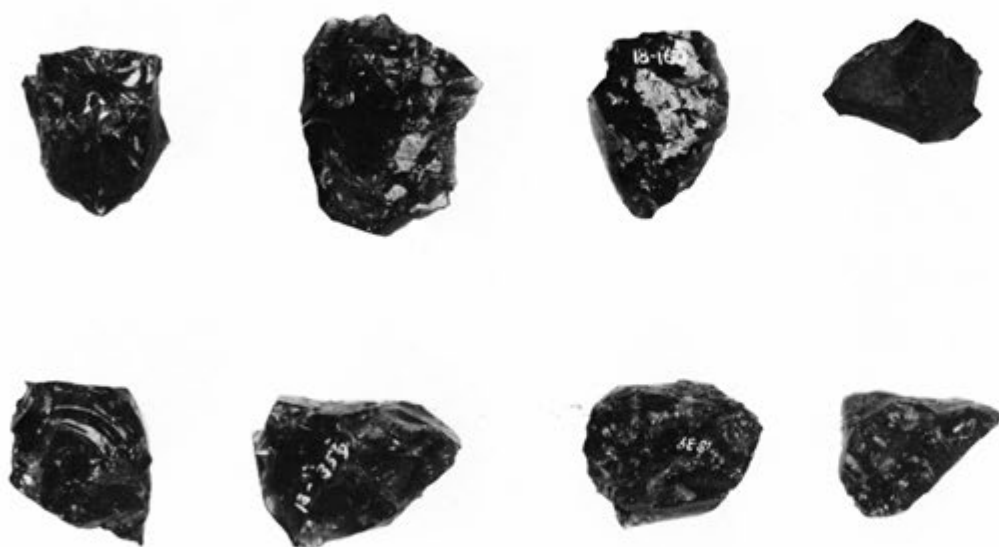
第16ユニット出土石器



第17ユニット出土石器



第18ユニット出土石器



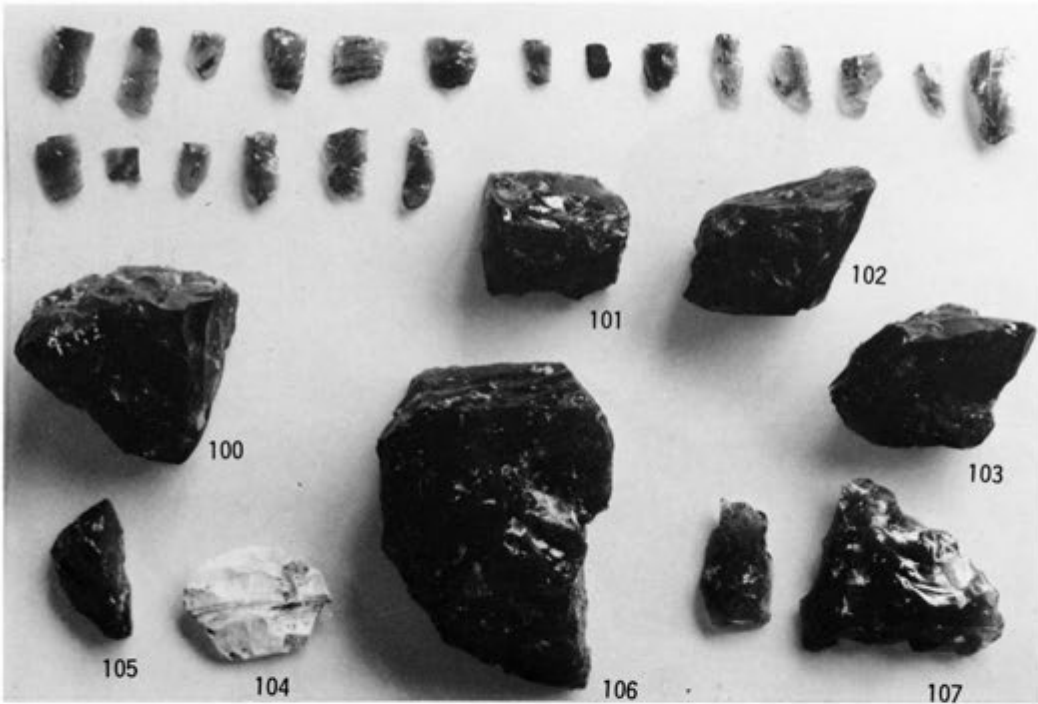
第18ユニット出土石器



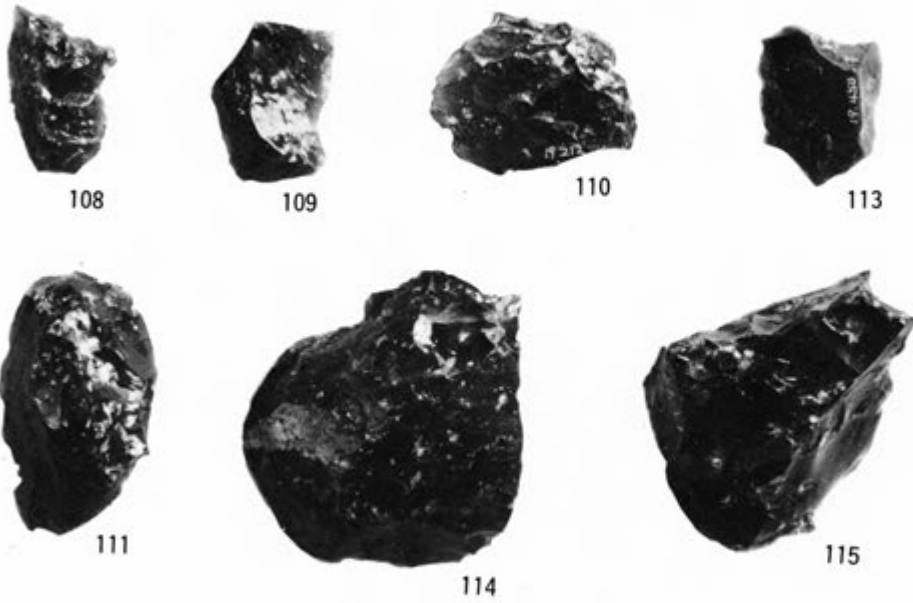
大型加工台形様石



第19ユニット出土石器 (1)



第19ユニット出土石器 (2)



第19ユニット出土石器 (3)



第20ユニット出土石器



第21ユニット出土石器 (1)

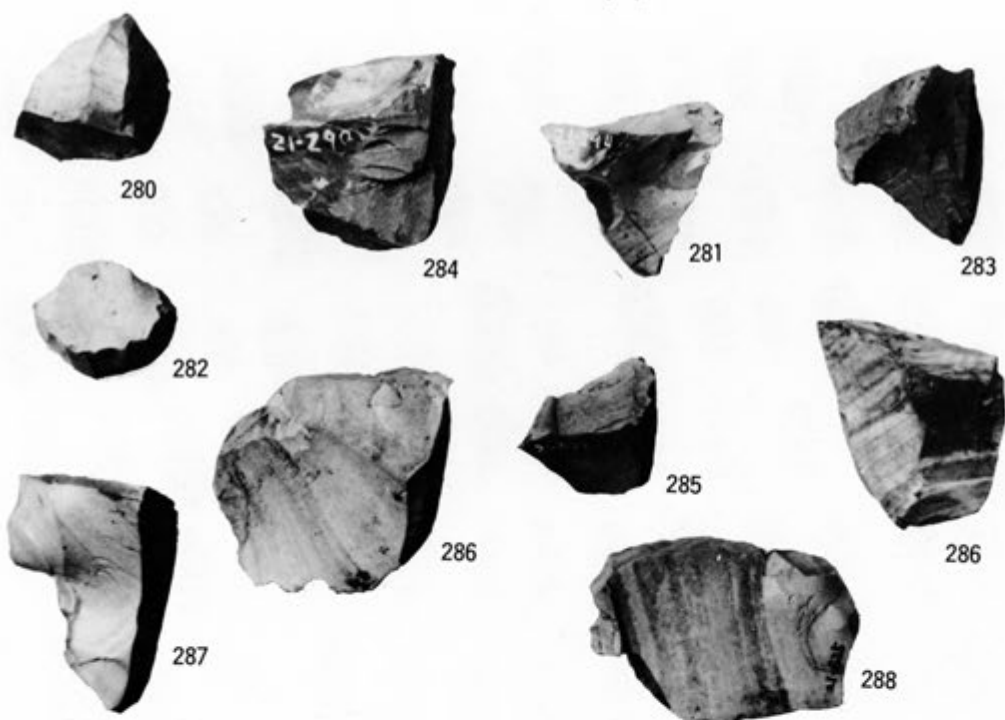


第21ユニット出土石器 (2)

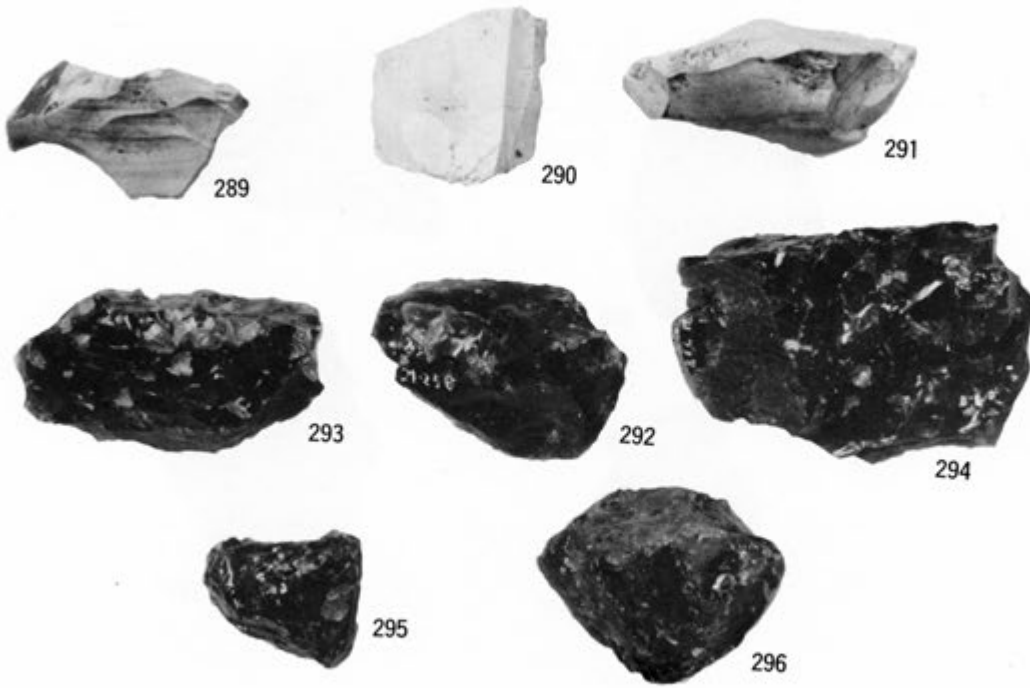




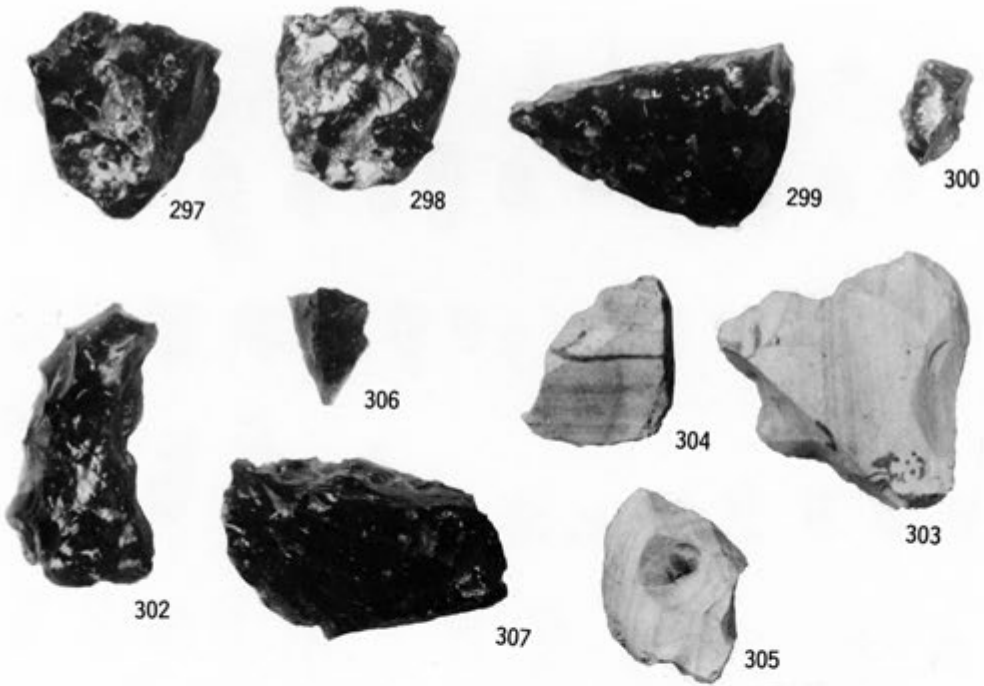
第21ユニット出土石器 (3)



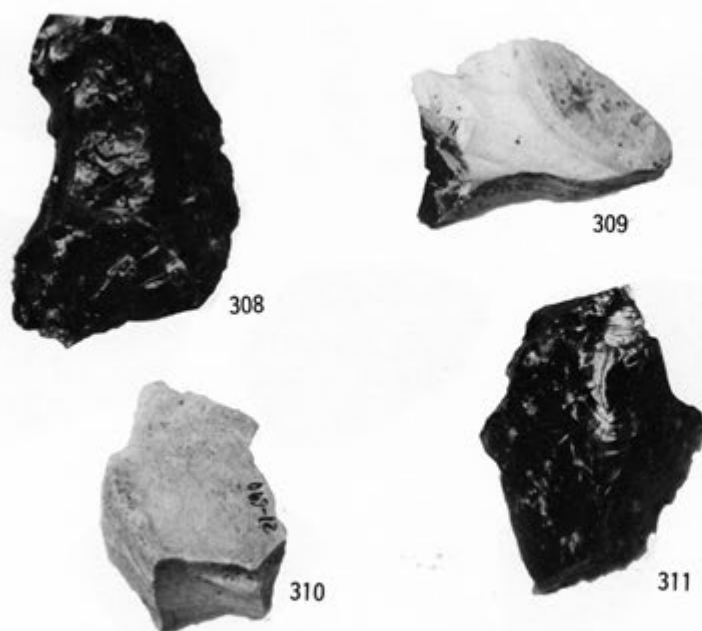
第21ユニット出土石器 (4)



第21ユニット出土石器 (5)



第21ユニット出土石器 (6)



第21ユニット出土石器 (7)



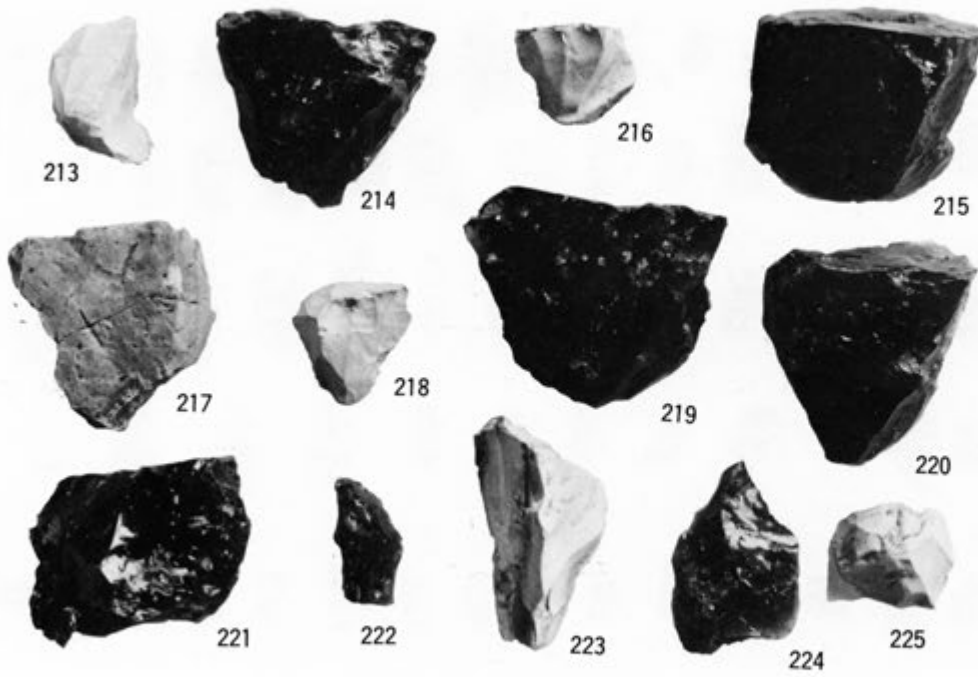
第22ユニット出土石器 (1)



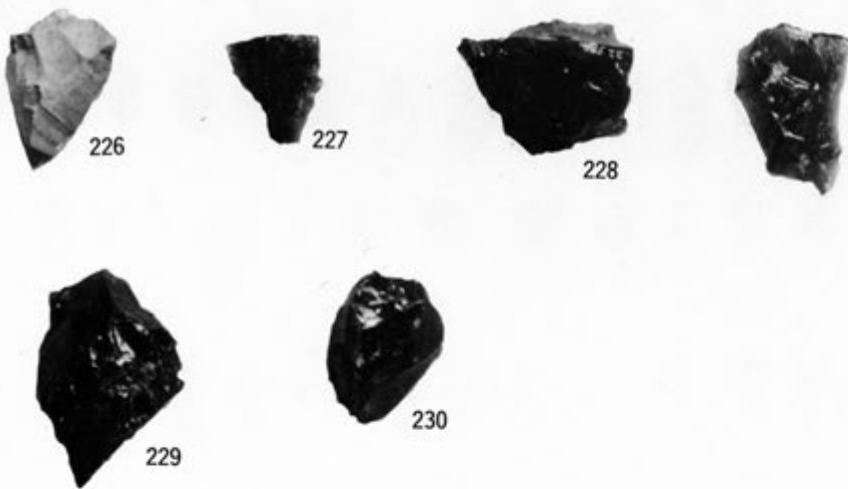
第22ユニット出土石器 (2)



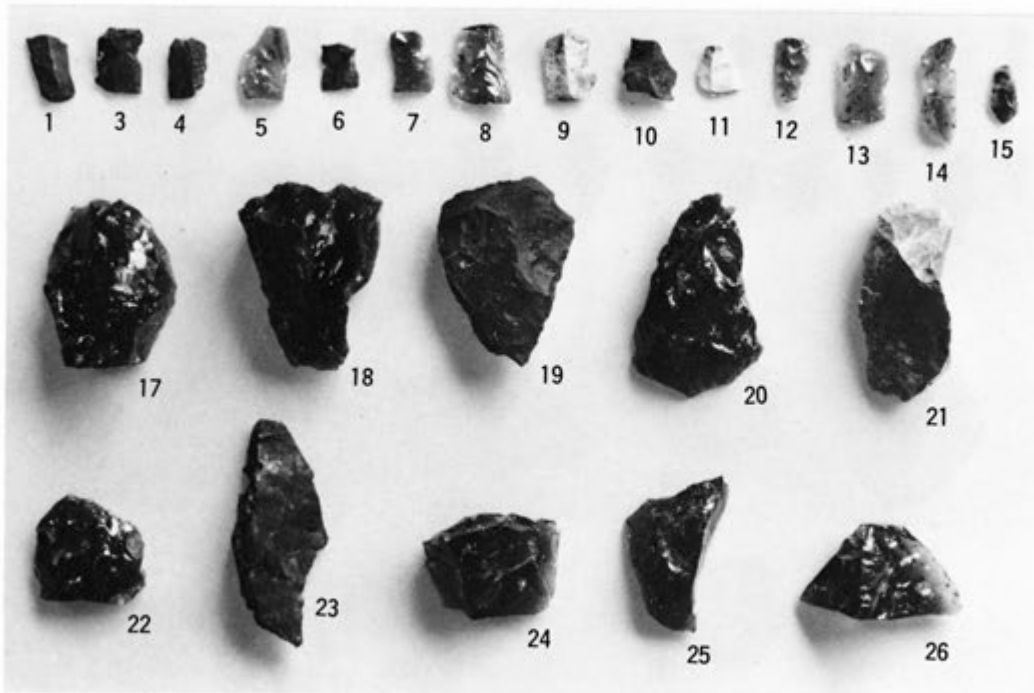
第22ユニット出土石器 (3)



第22ユニット出土石器 (4)



第22ユニット出土石器 (5)



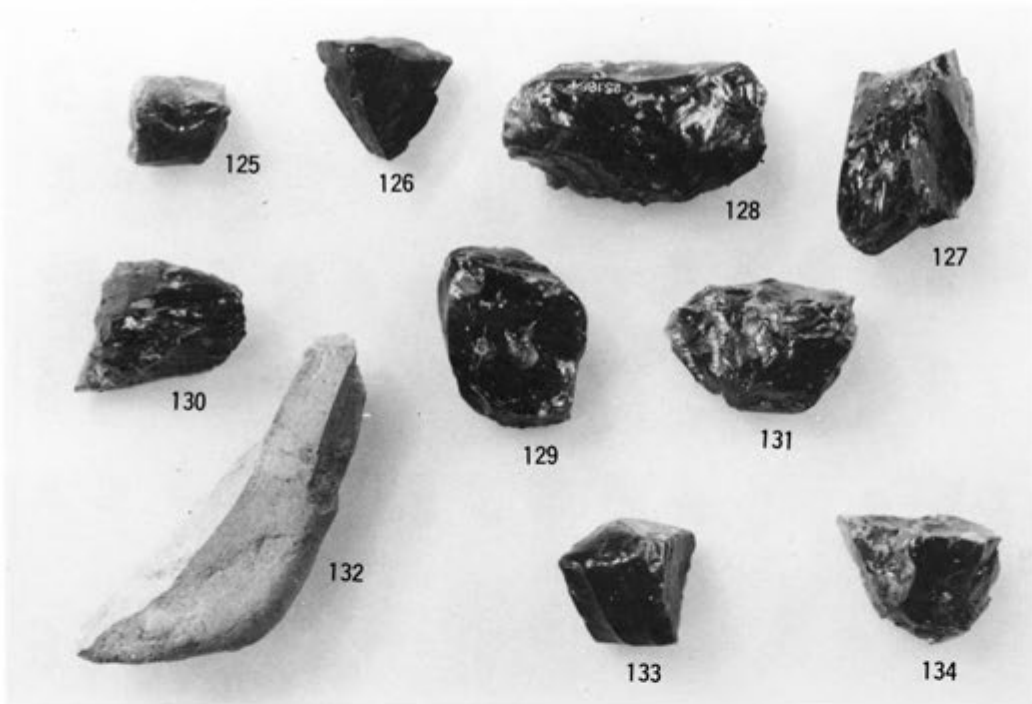
第24ユニット出土石器



第25ユニット出土石器 (1)



第25ユニット出土石器 (2)



第25ユニット出土石器 (3)

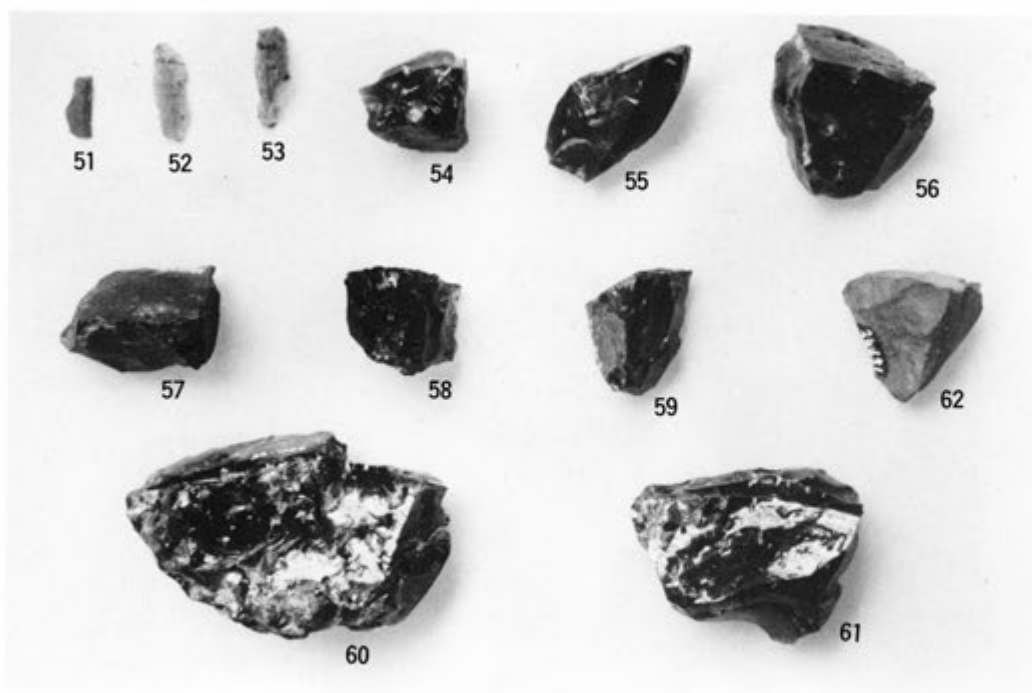


第25ユニット出土石器 (4)

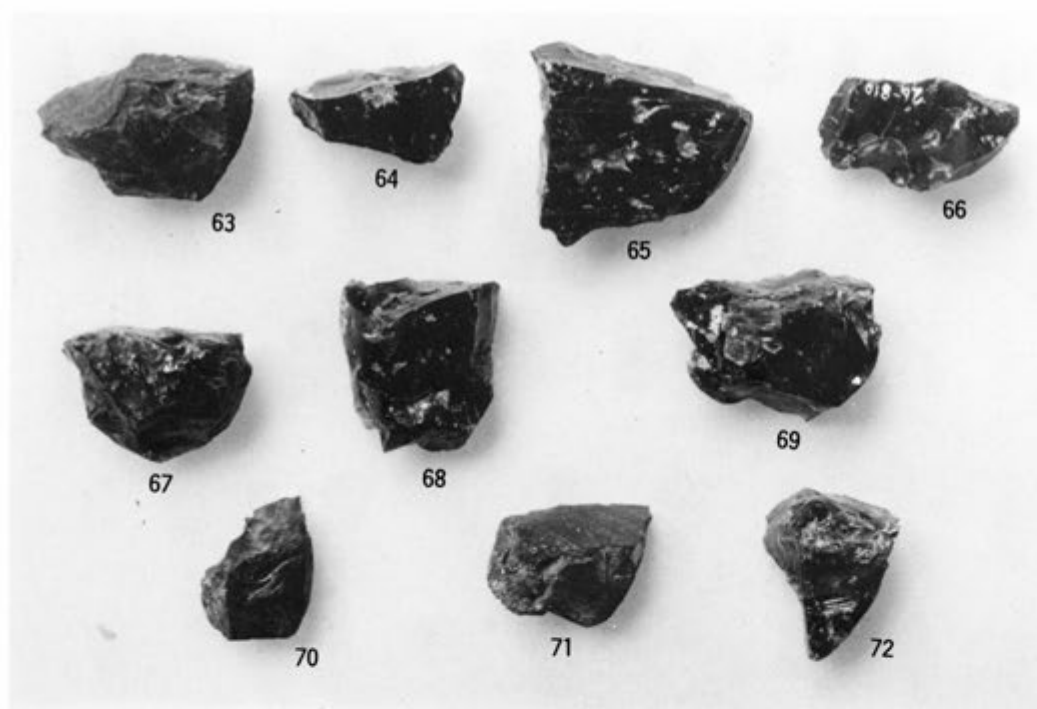


第26ユニット出土石器 (1)





第26ユニット出土石器 (2)



第26ユニット出土石器 (3)



74



73



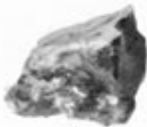
75



74



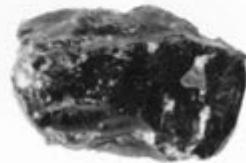
80



78



79



第26ユニット出土石器 (4)



81



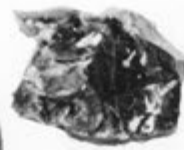
85



82



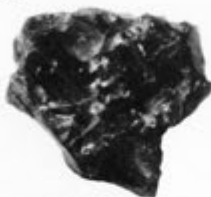
83



84



86



87



88



89

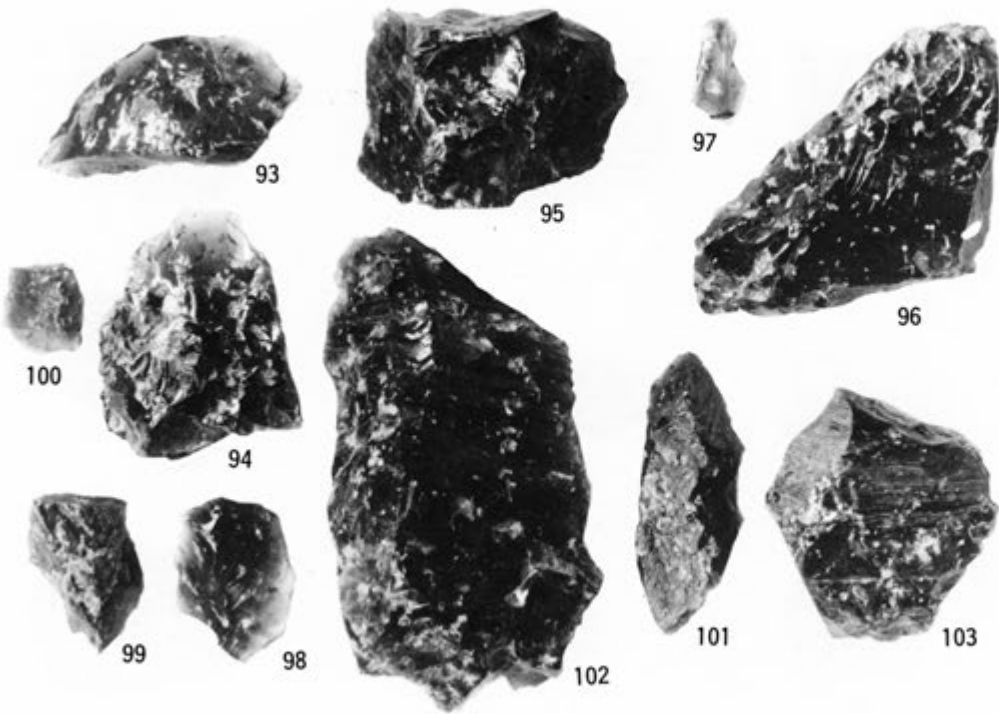


92



91

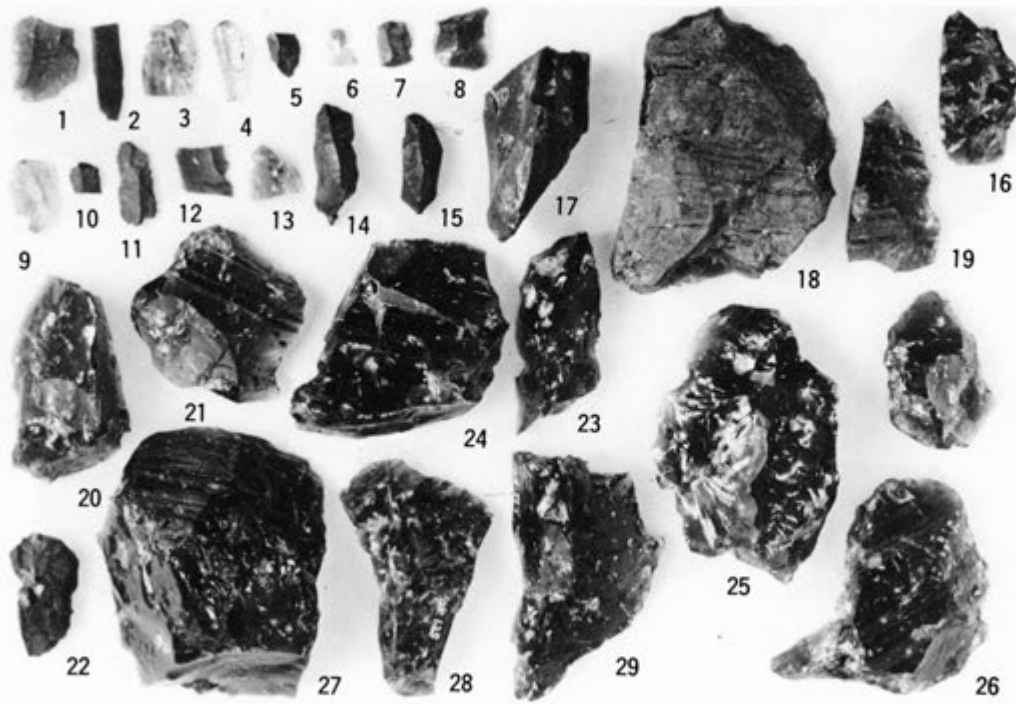
第26ユニット出土石器 (5)



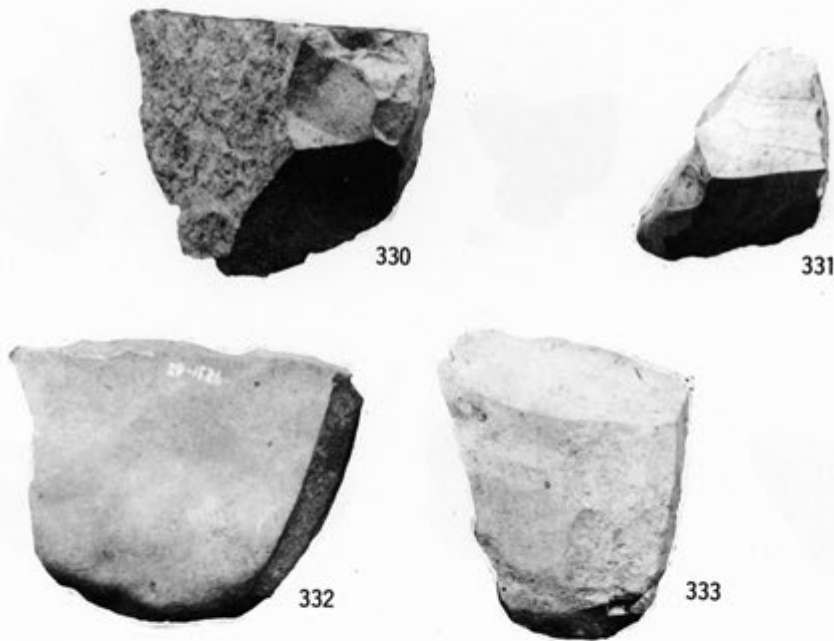
第26ユニット出土石器 (6)



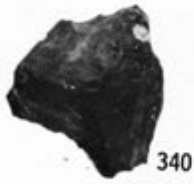
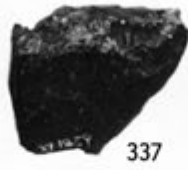
第26ユニット出土石器 (7)



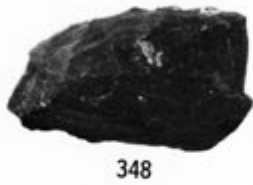
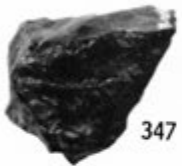
第28ユニット出土石器



第29ユニット出土石器 (1)



第29ユニット出土石器 (2)



第29ユニット出土石器 (3)



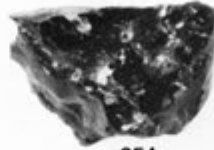
351



352



353



354



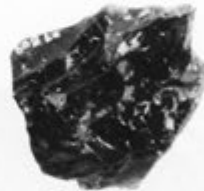
355



356

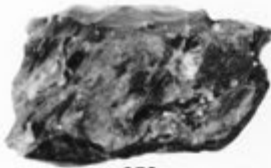


357



358

第29ユニット出土石器(4)



359



361



360



363



362



364



365

第29ユニット出土石器(5)



366



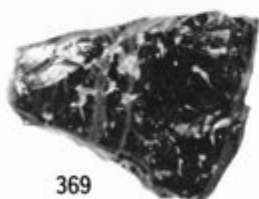
368



367



370



369

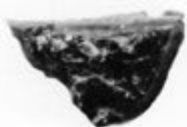


375



371

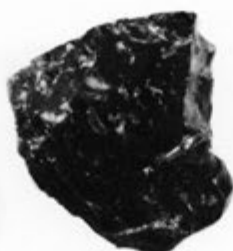
第29ユニット出土石器 (6)



372



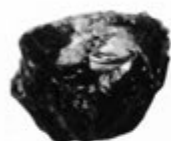
373



374



375



376



377



378



379

第29ユニット出土石器 (7)



380

381

383

385

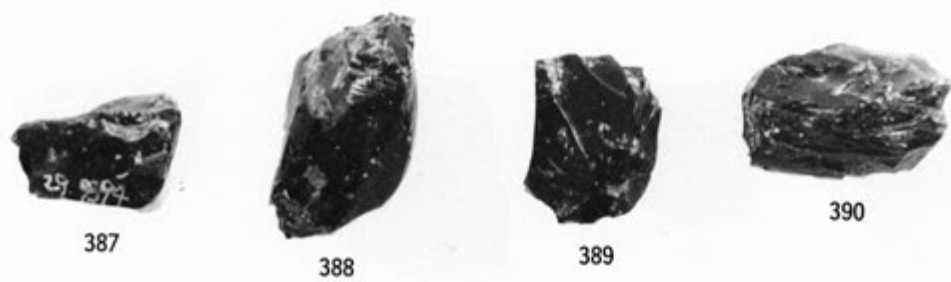


382

386

384

第29ユニット出土石器 (8)

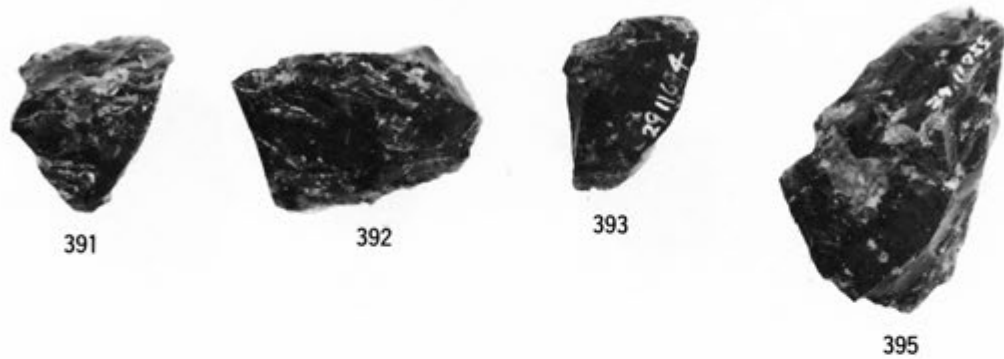


387

388

389

390



391

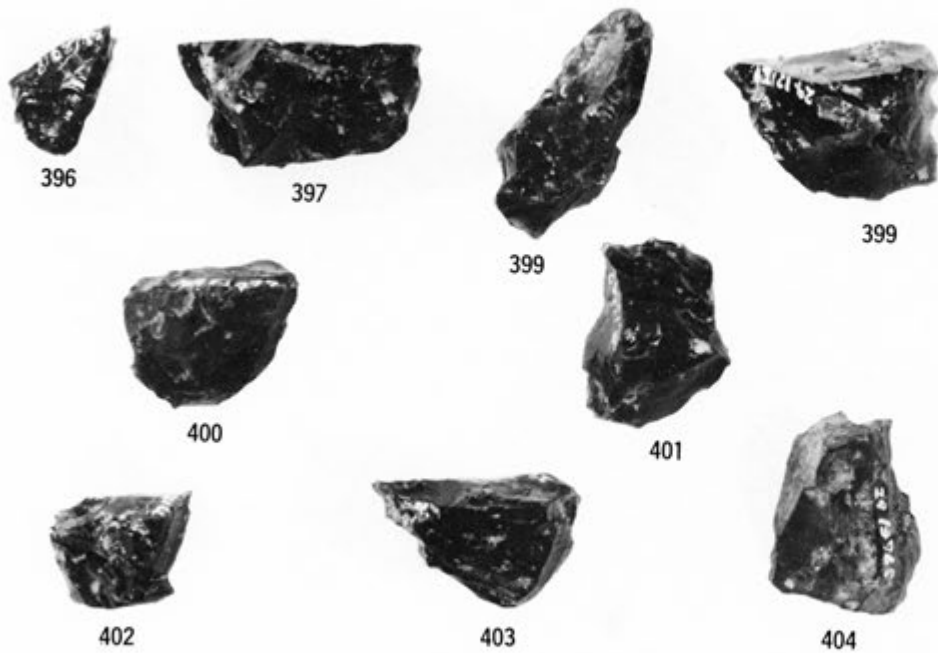
392

393

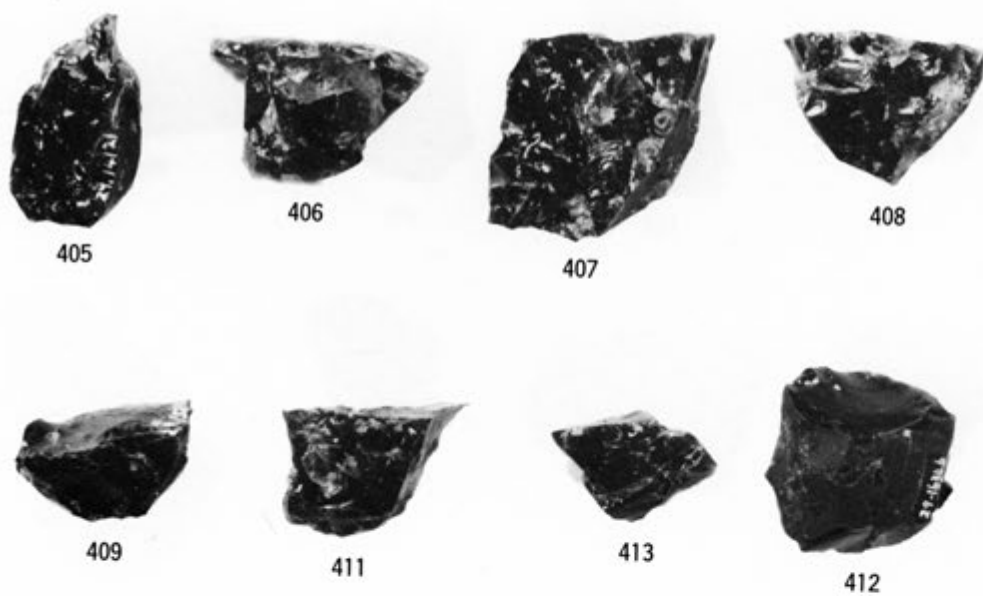
395

第29ユニット出土石器 (9)





第29ユニット出土石器 (10)



第29ユニット出土石器 (11)



414



415



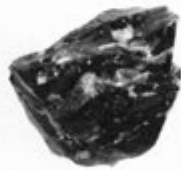
416



417



418



419



420



421

第29ユニット出土石器 (12)



422



423



424



425



426



427

第29ユニット出土石器 (13)



428



429



430



431



432



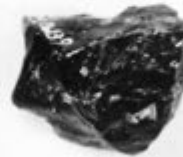
433



434

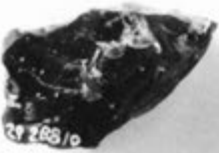


435

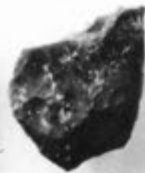


436

第29ユニット出土石器 (14)



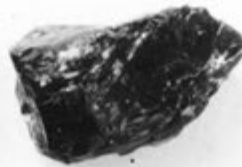
437



438



439



440



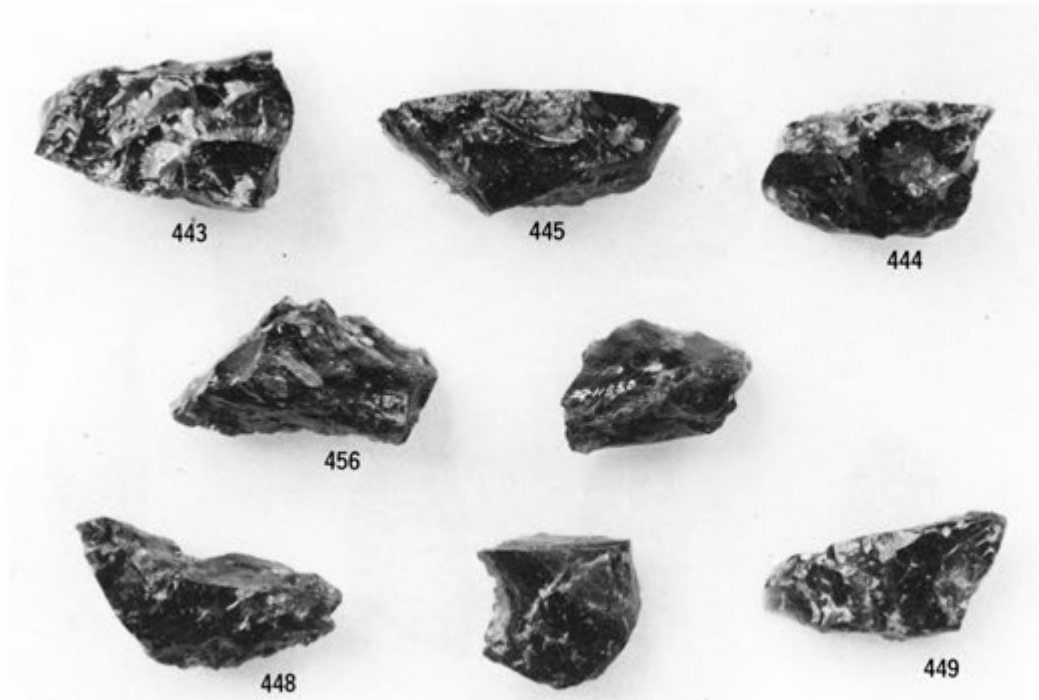
441



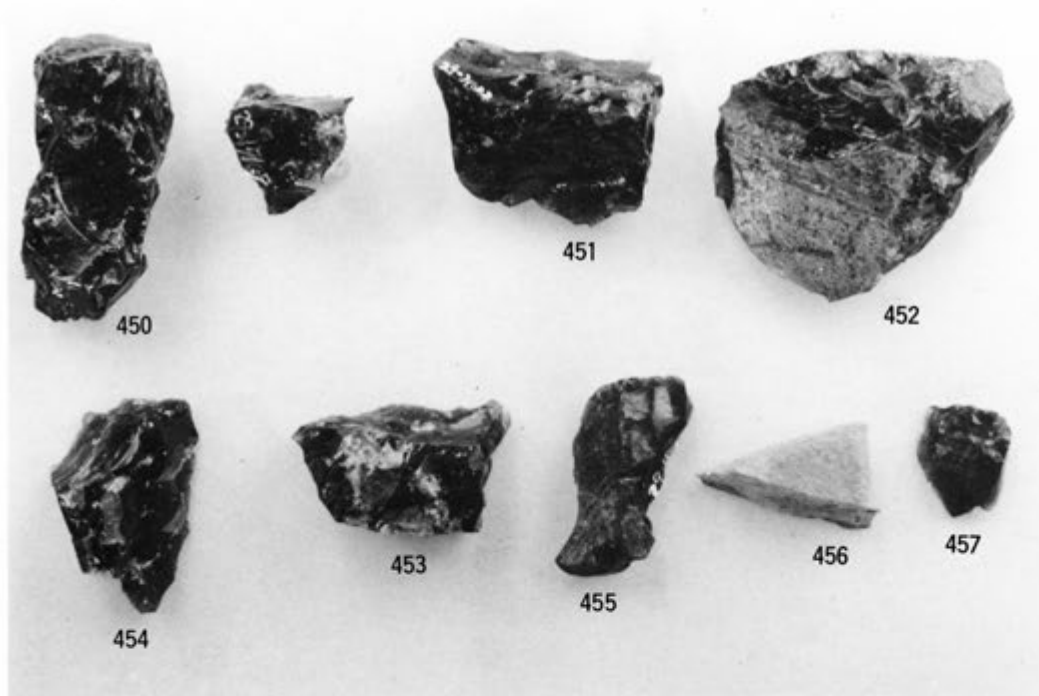
442



第29ユニット出土石器 (15)



第29ユニット出土石器 (16)



第29ユニット出土石器 (17)



461



459



460



461



475



476



477



478

第29ユニット出土石器 (18)



468



470



472



473



474

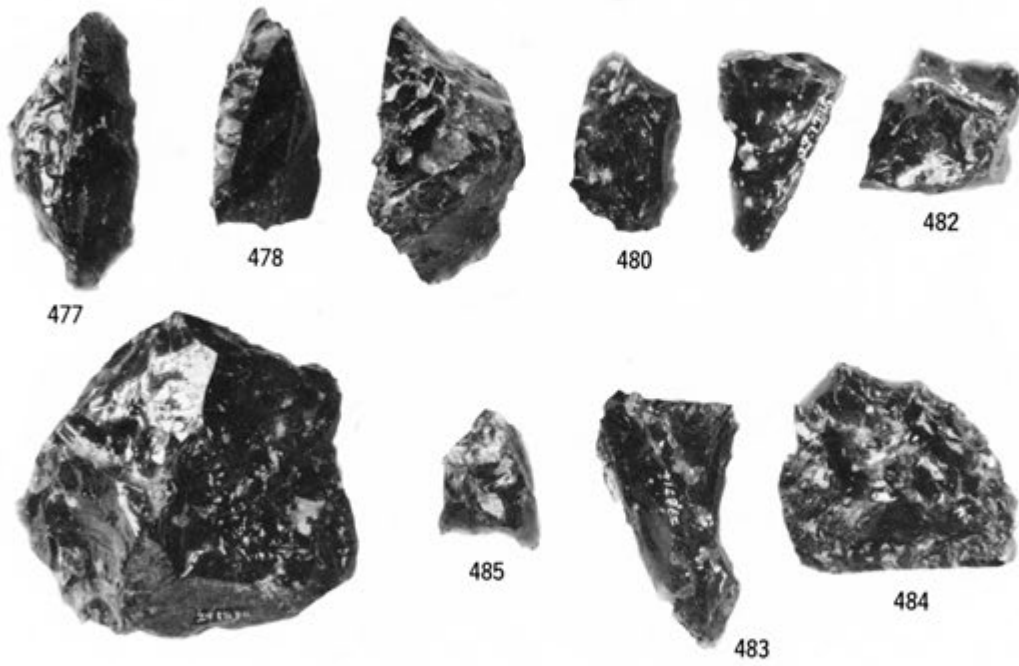


475

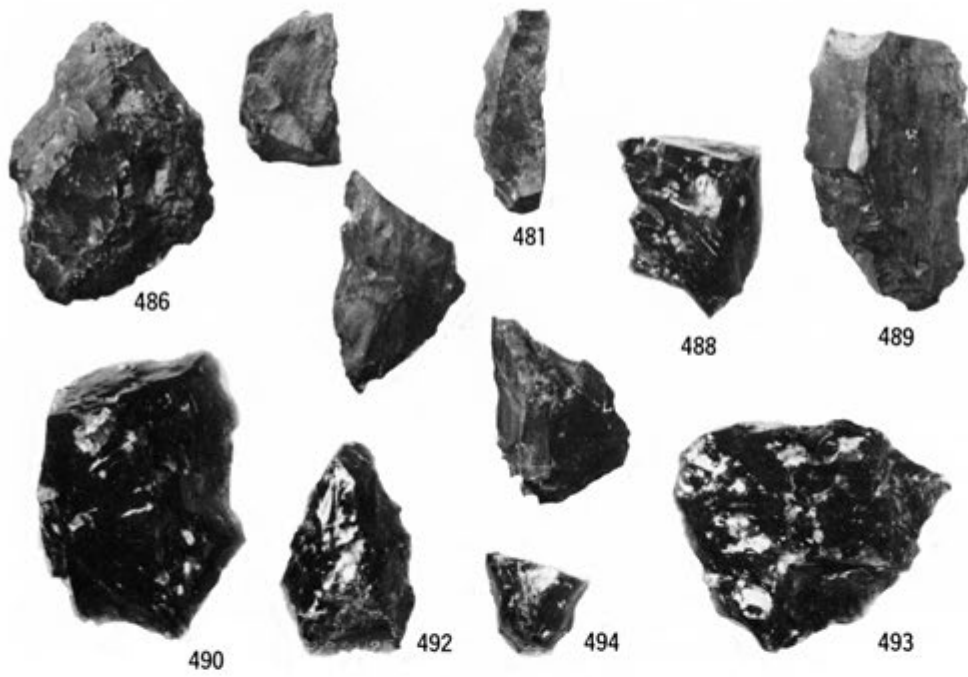


476

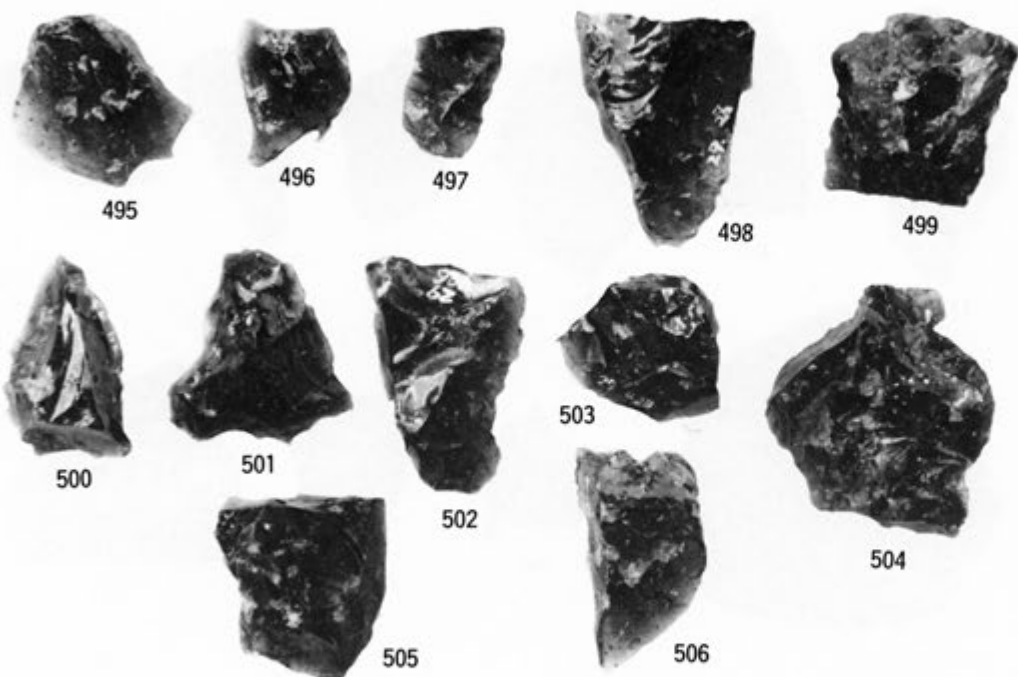
第29ユニット出土石器 (19)



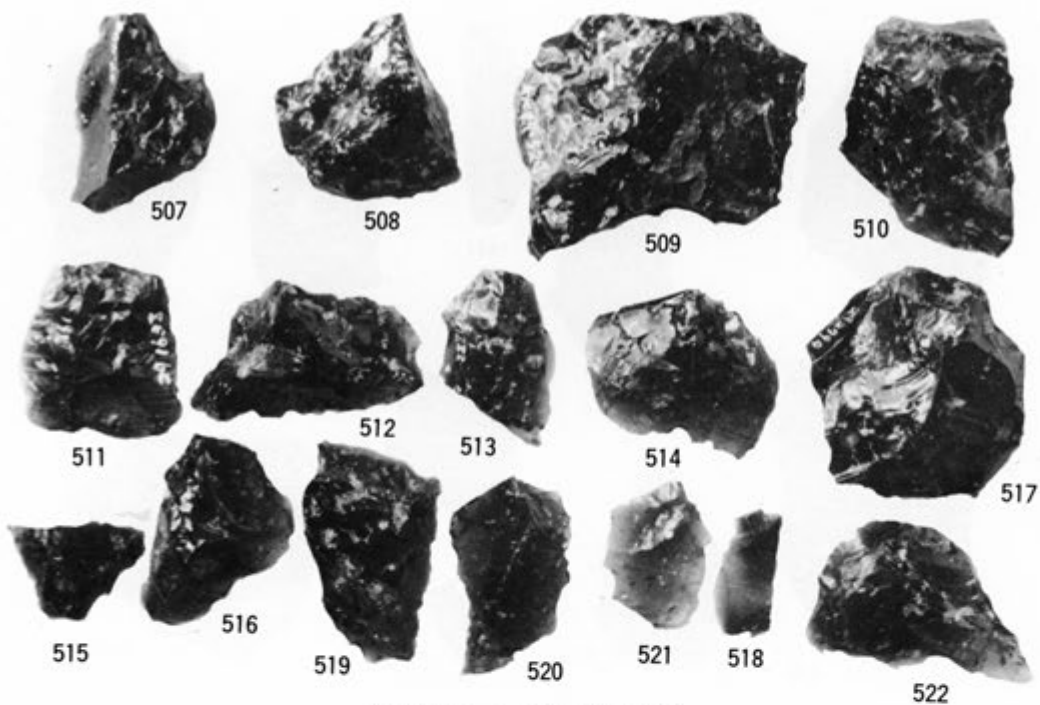
第29ユニット出土石器 (20)



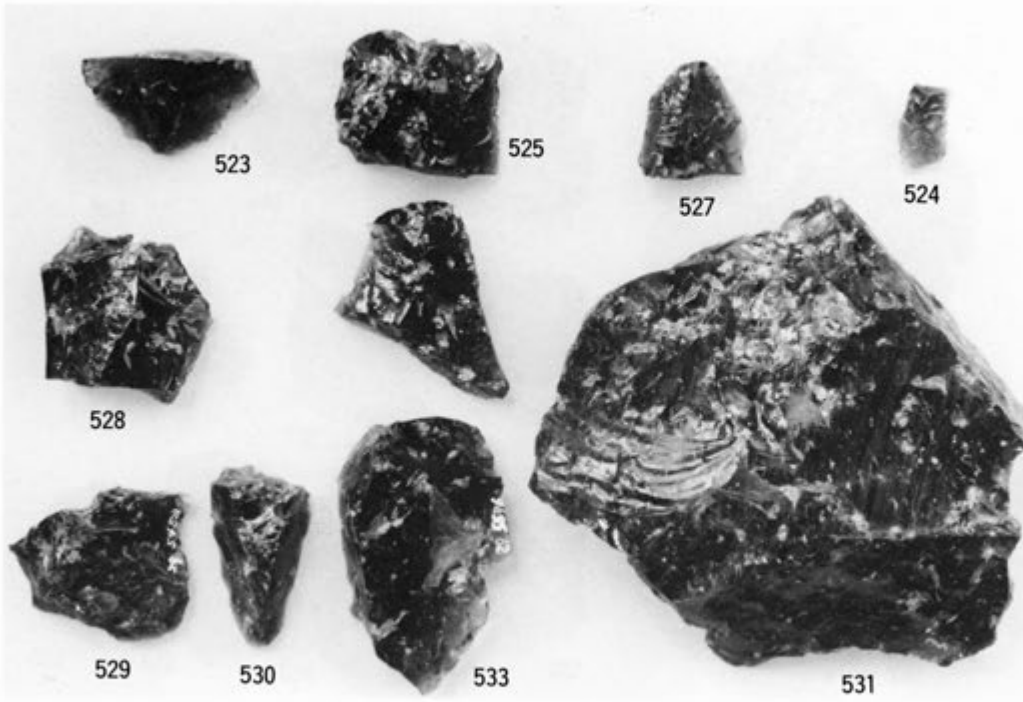
第29ユニット出土石器 (21)



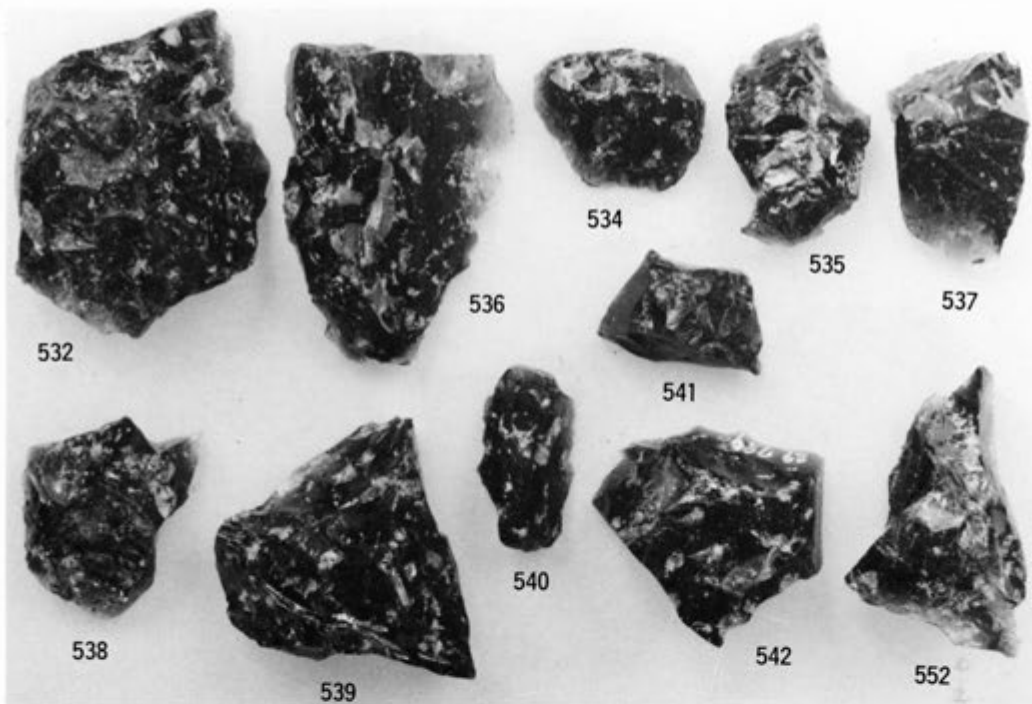
第29ユニット出土石器 (22)



第29ユニット出土石器 (23)

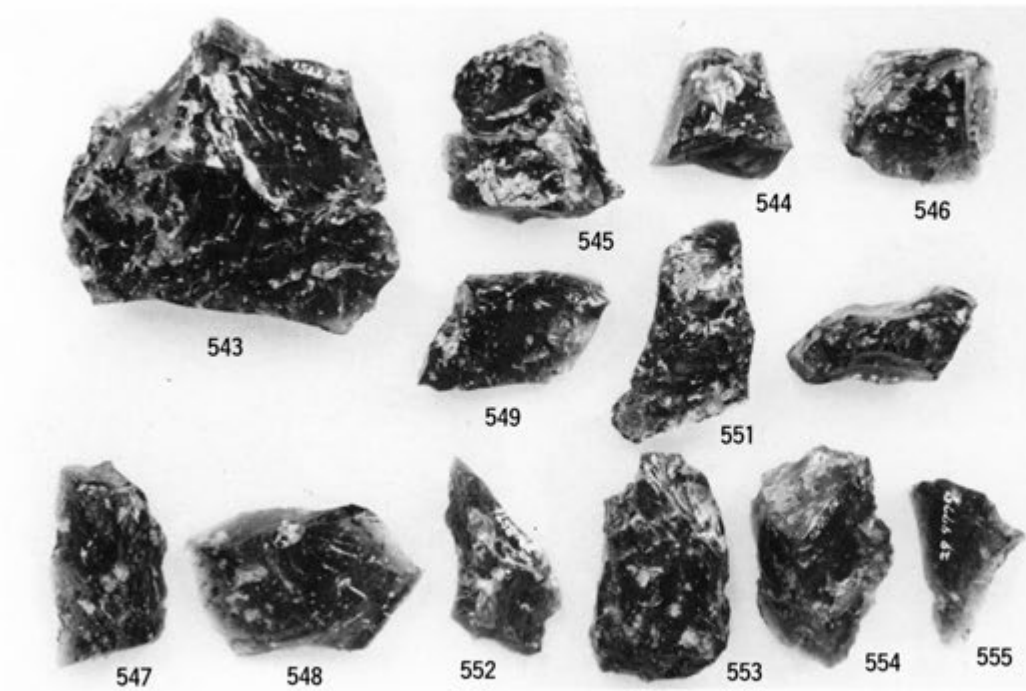


第29ユニット出土石器 (24)

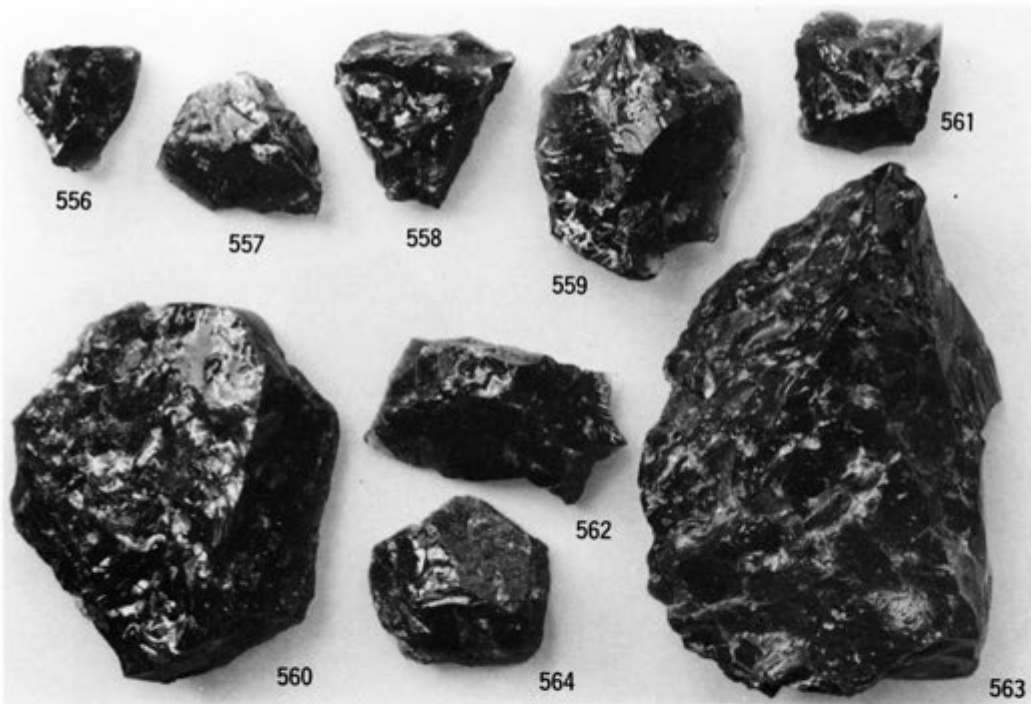


第29ユニット出土石器 (25)

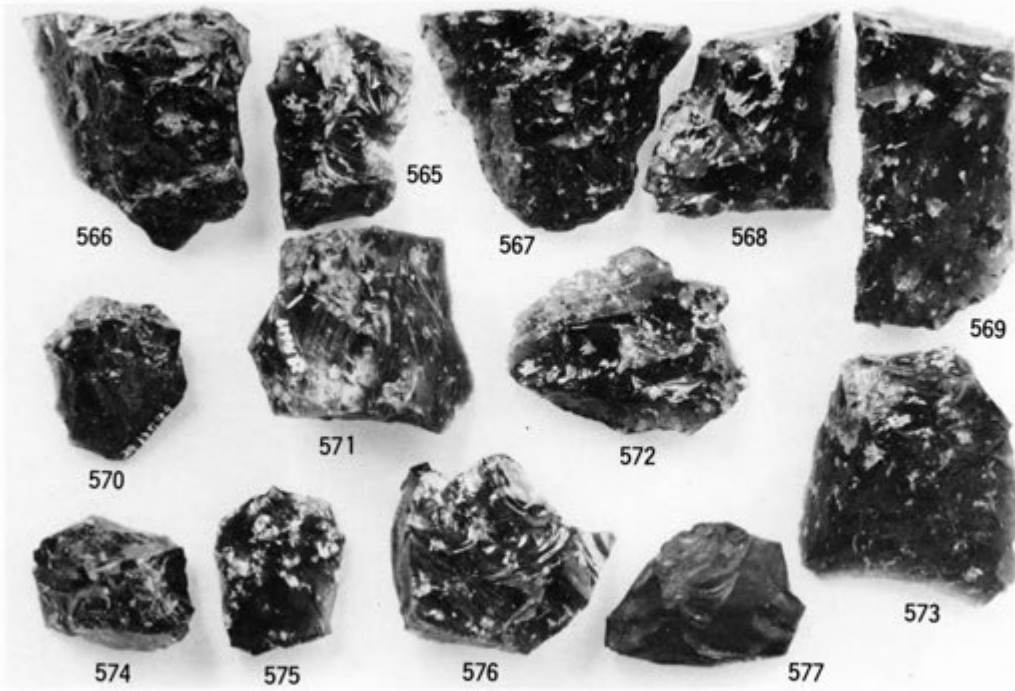




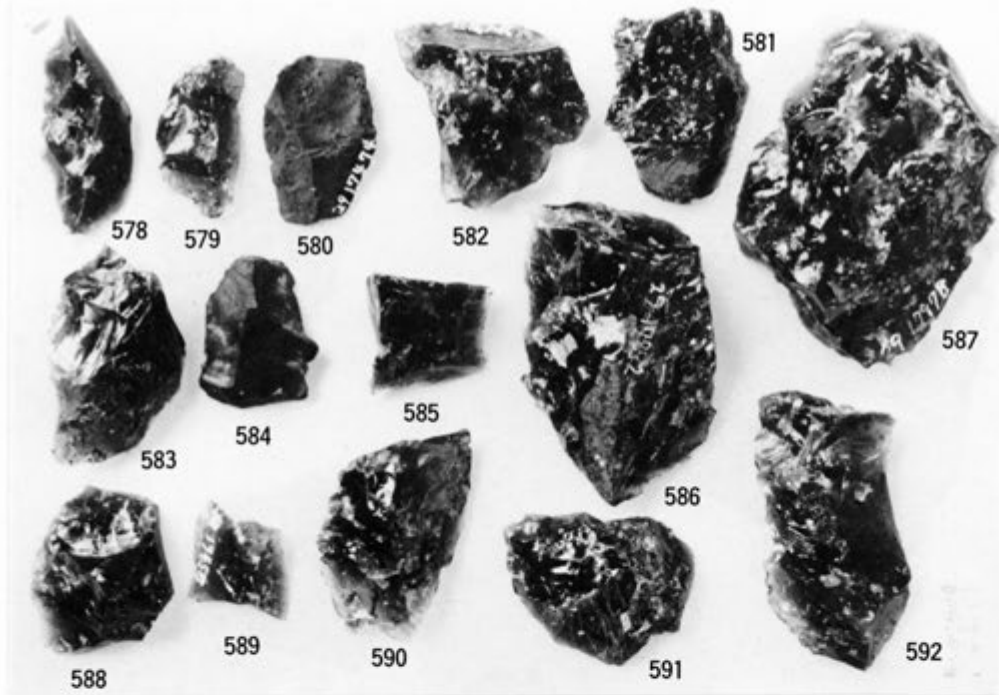
第29ユニット出土石器 (26)



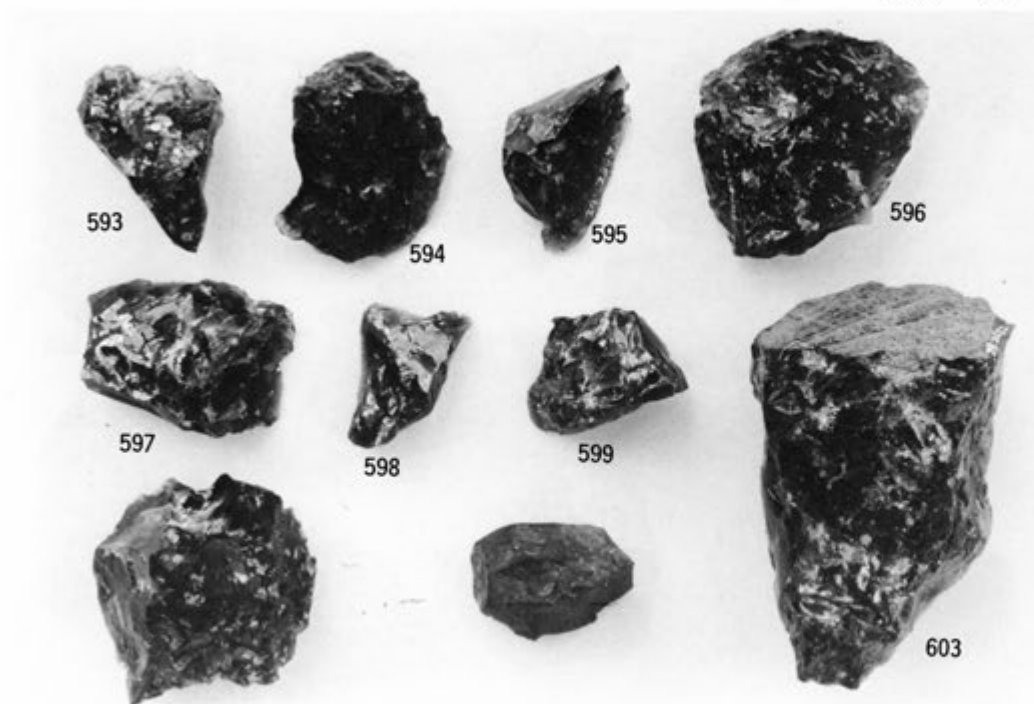
第29ユニット出土石器 (27)



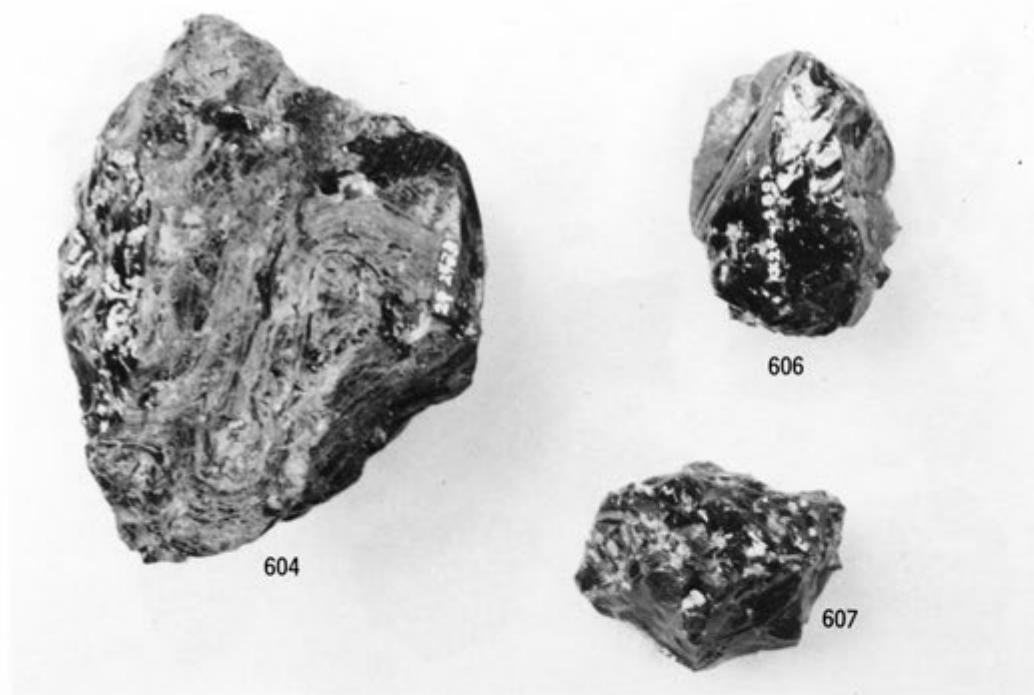
第29ユニット出土石器 (28)



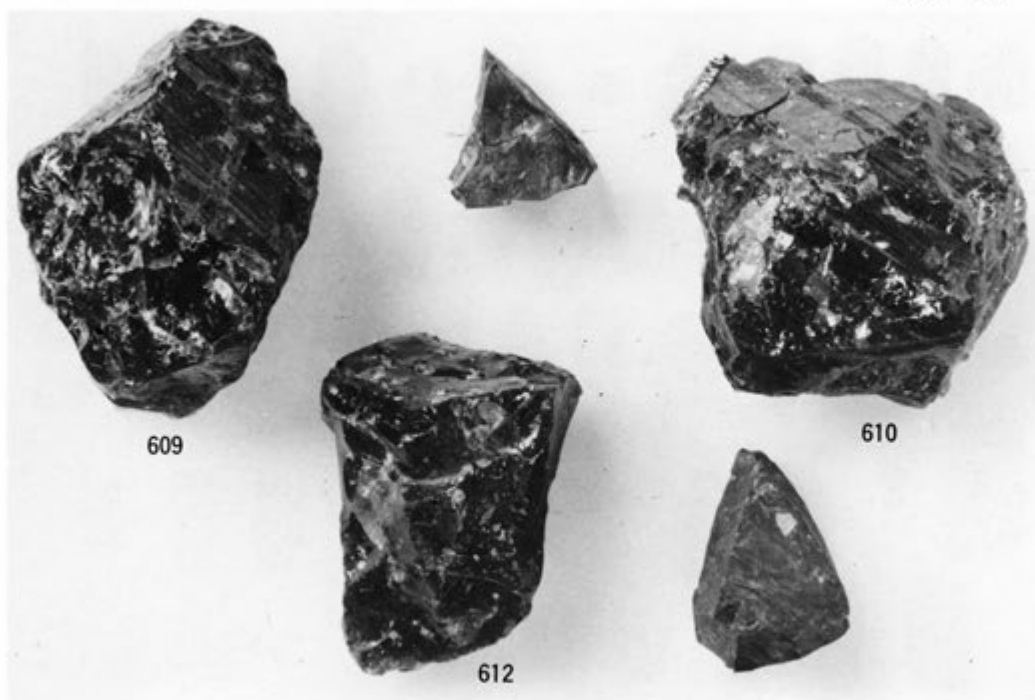
第29ユニット出土石器 (29)



第29ユニット出土石器 (30)



第29ユニット出土石器 (31)



第29ユニット出土石器 (32)



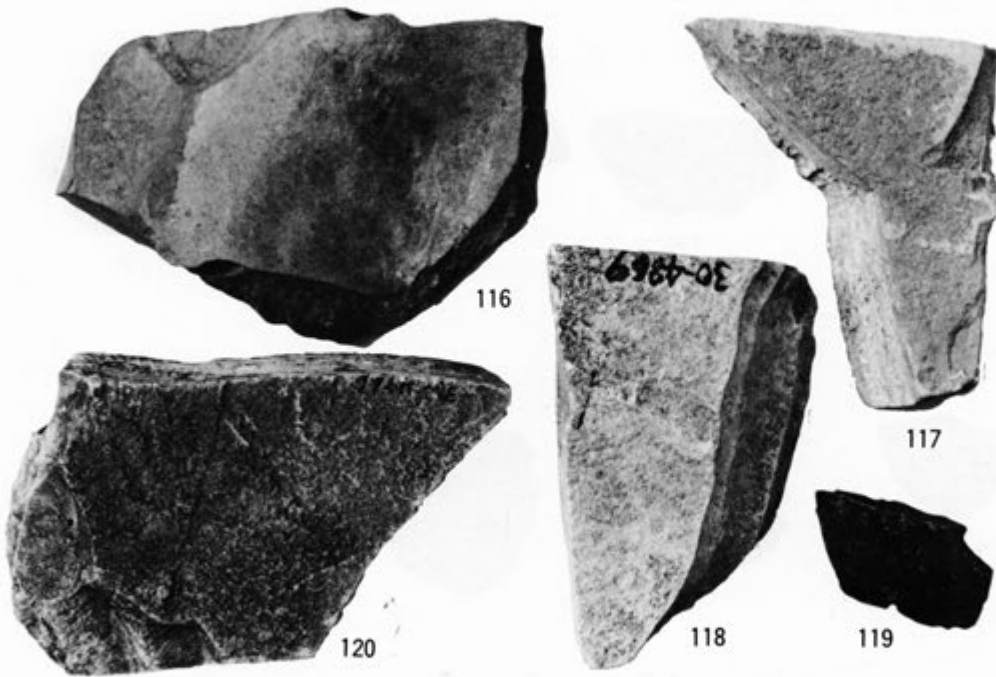
第29ユニット出土石器 (33)



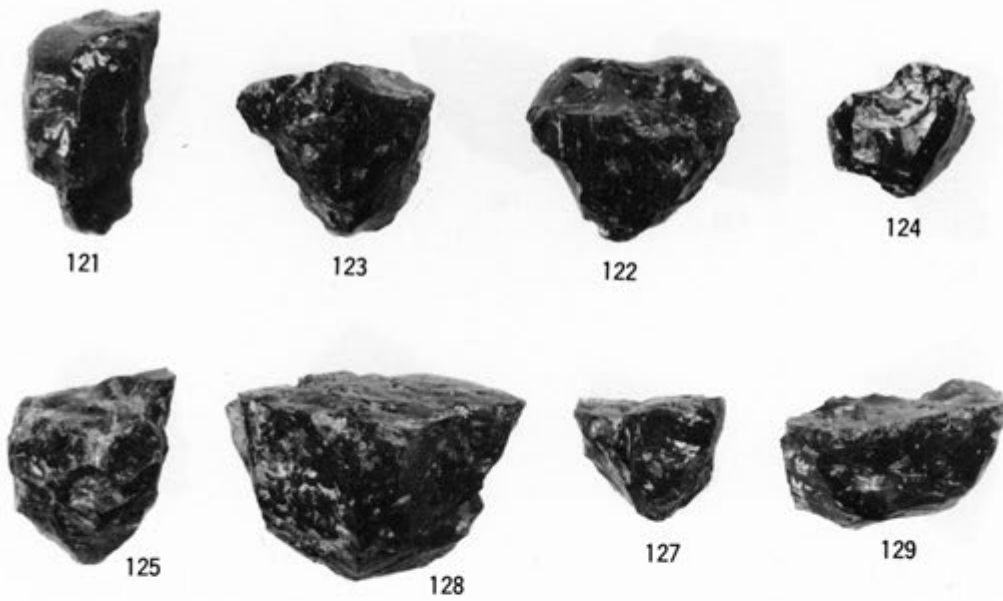
第30ユニット出土石器 (1)



第30ユニット出土石器 (2)



第30ユニット出土石器 (3)



第30ユニット出土石器 (4)

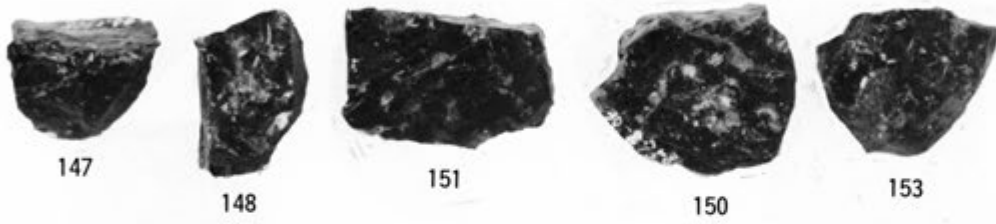


第30ユニット出土石器 (5)

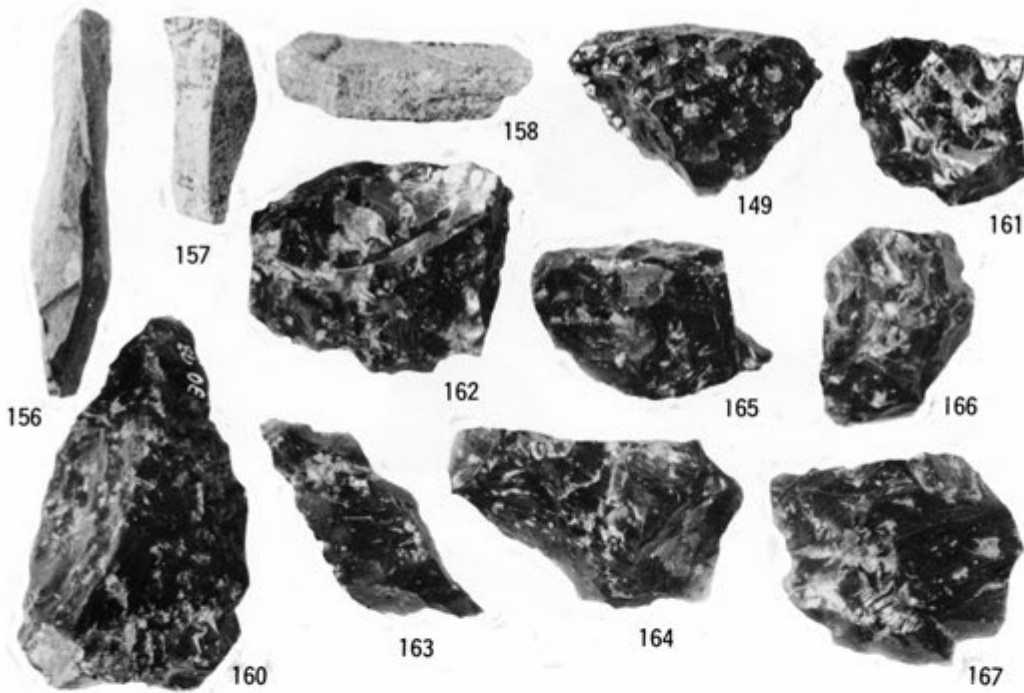


第30ユニット出土石器 (6)



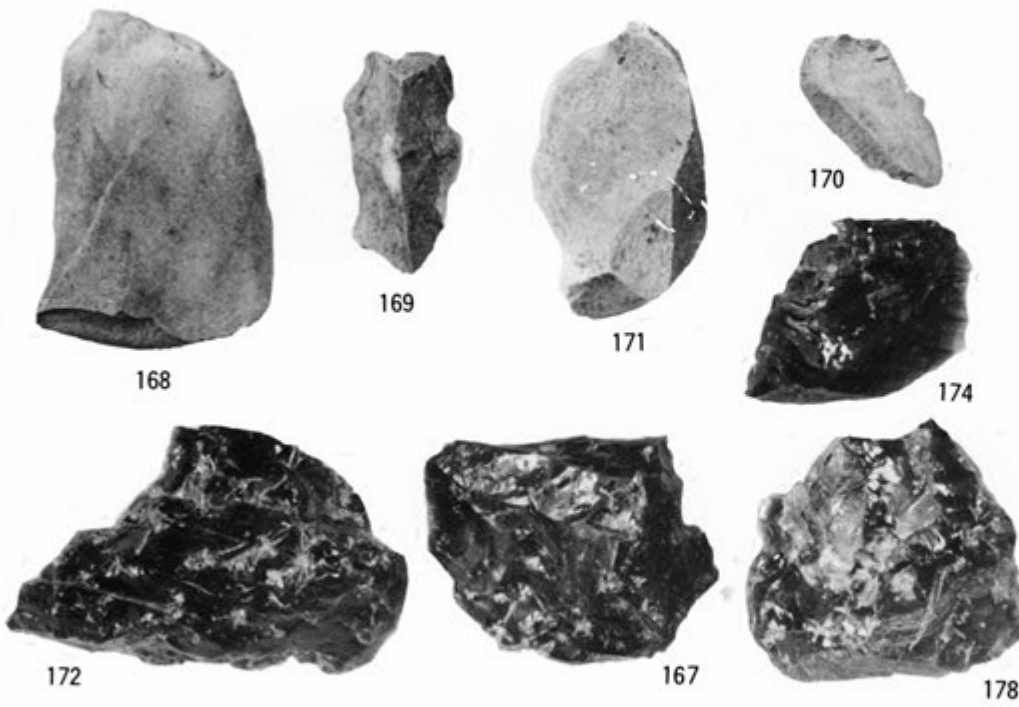


第30ユニット出土石器 (7)

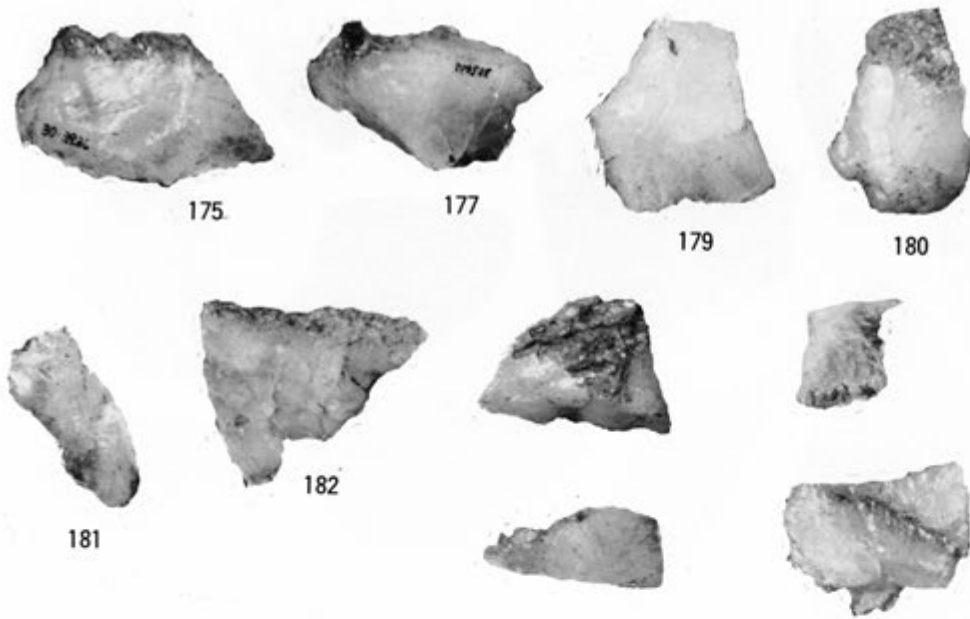


第30ユニット出土石器 (8)

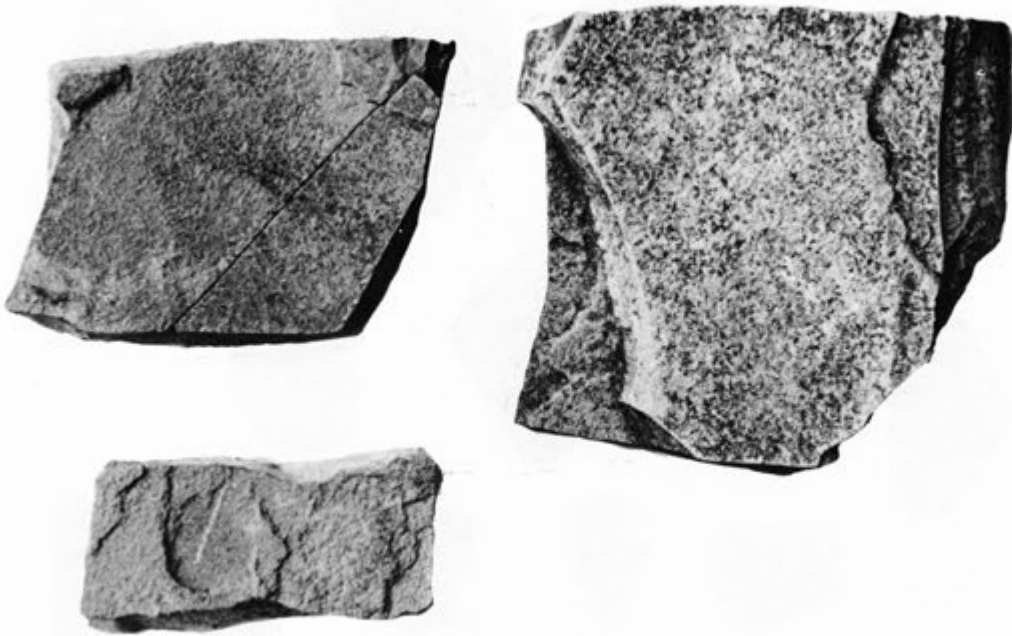




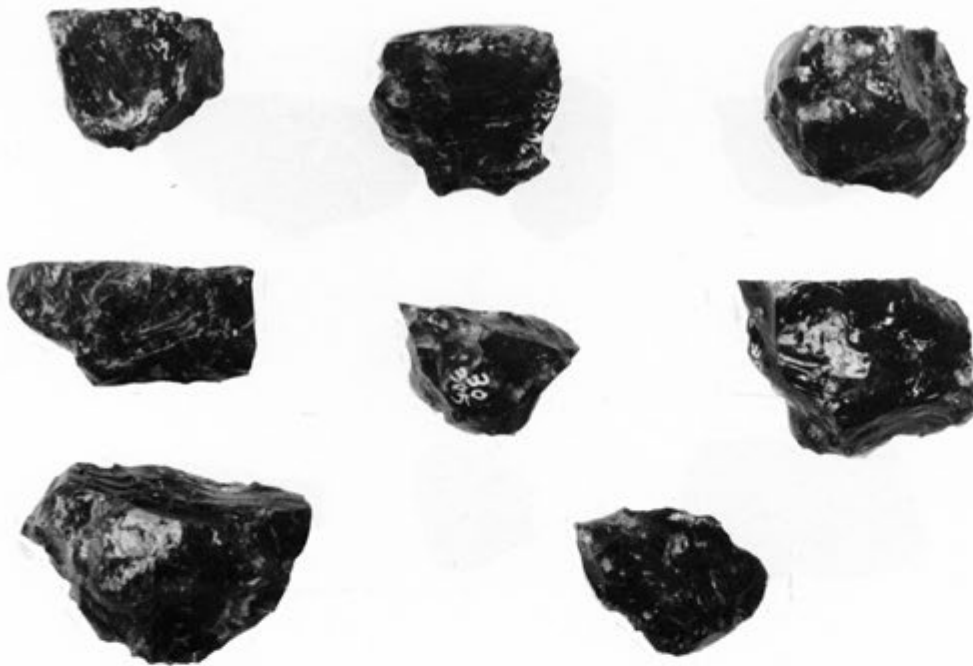
第30ユニット出土石器 (9)



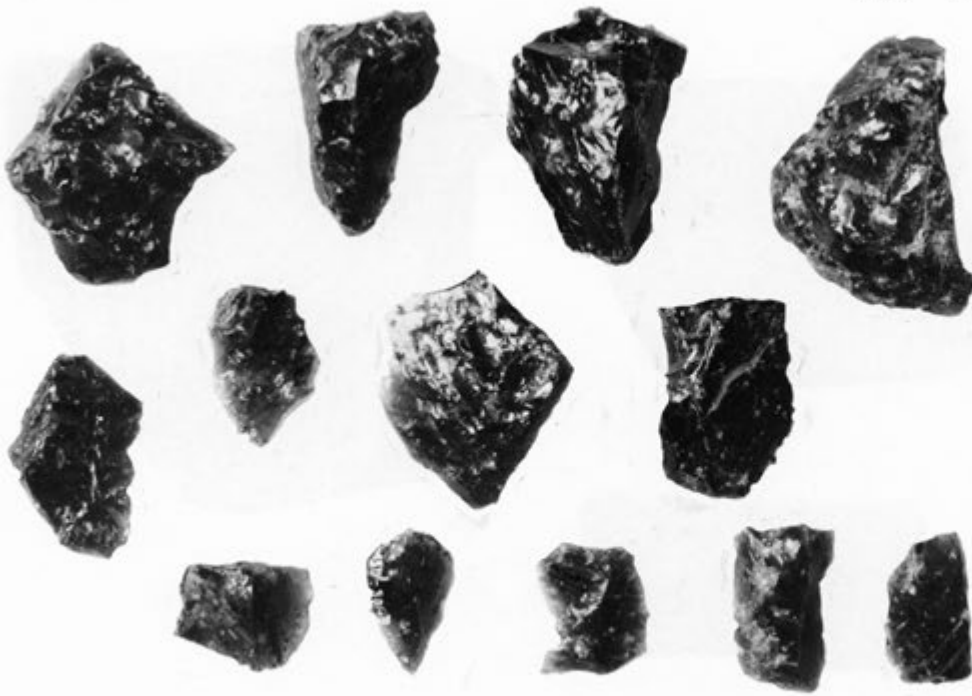
第30ユニット出土石器 (10)



第30ユニット出土石器 (11)



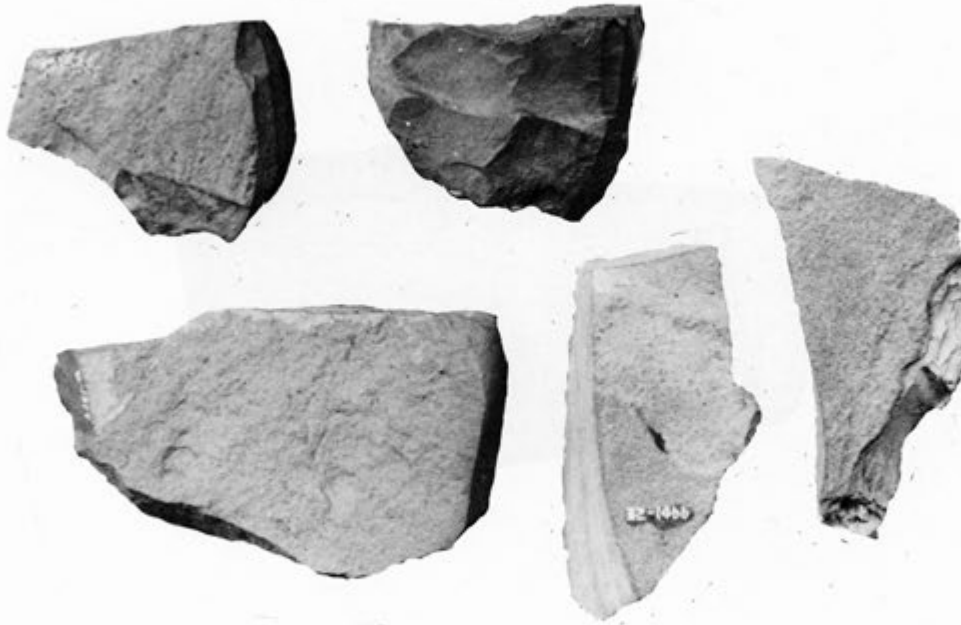
第30ユニット出土石器 (12)



第30ユニット出土石器 (13)



第31ユニット出土石器



第32ユニット出土石器 (1)



第32ユニット出土石器 (2)



第32ユニット出土石器 (3)



443

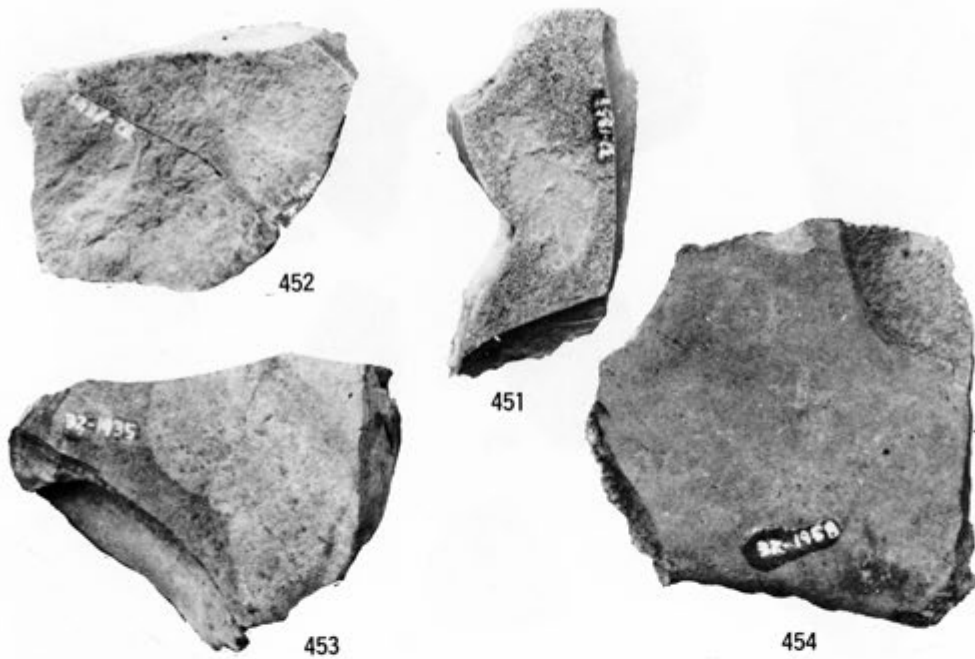


444

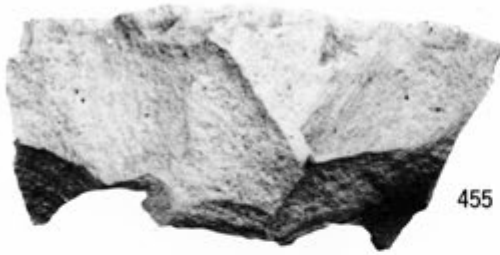
第32ユニット出土石器 (4)



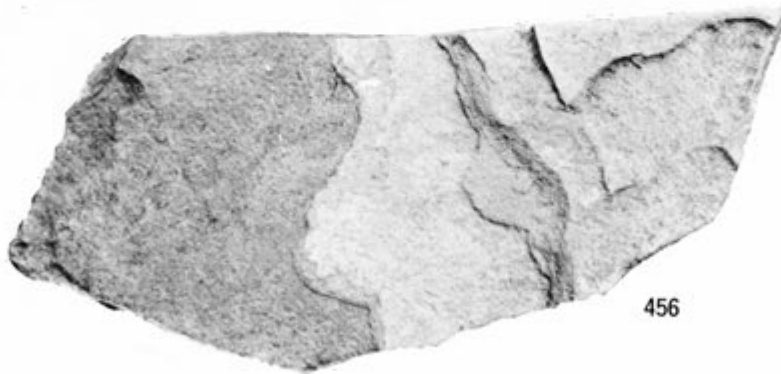
第32ユニット出土石器 (5)



第32ユニット出土石器 (6)



455

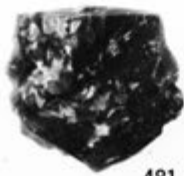


456

第32ユニット出土石器 (7)



484



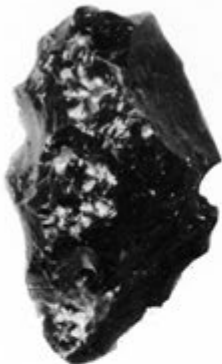
481



482



483



485



486



487

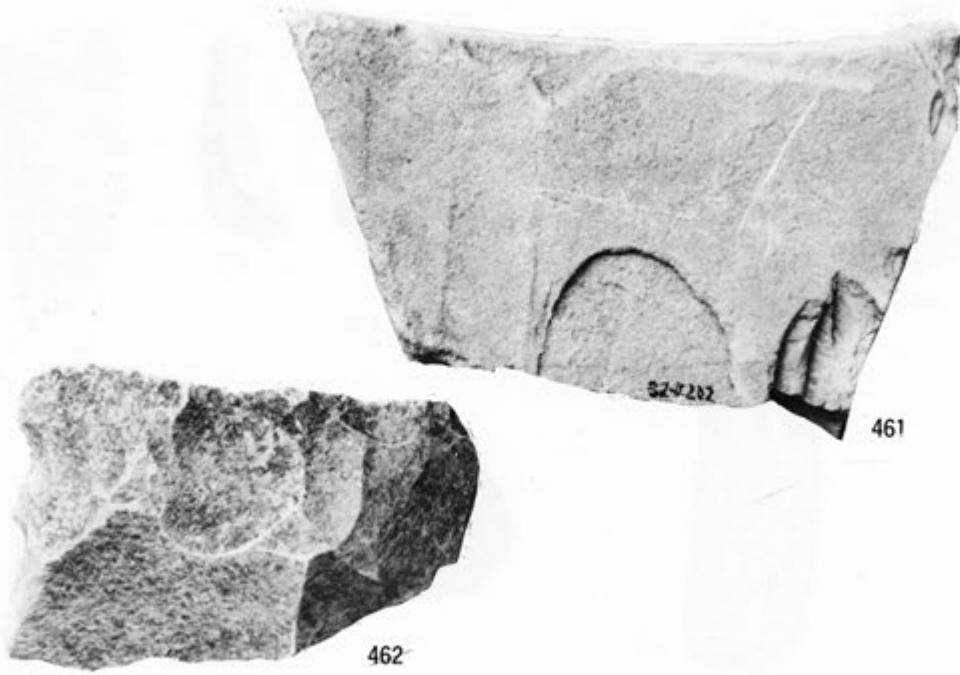


488



489

第32ユニット出土石器 (8)

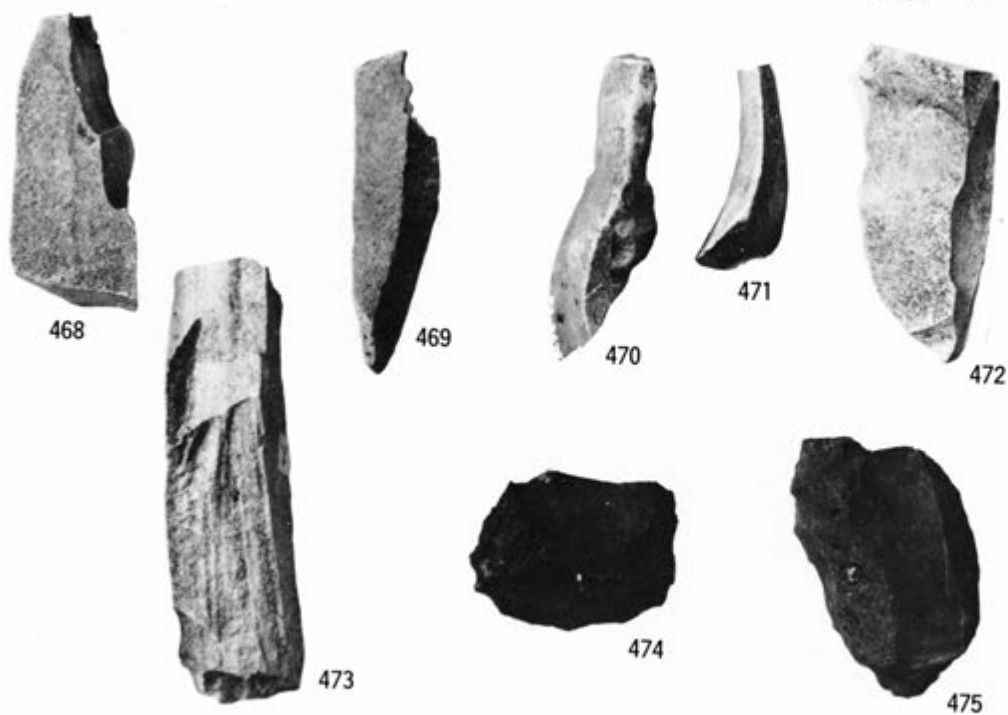


第32ユニット出土石器 (9)

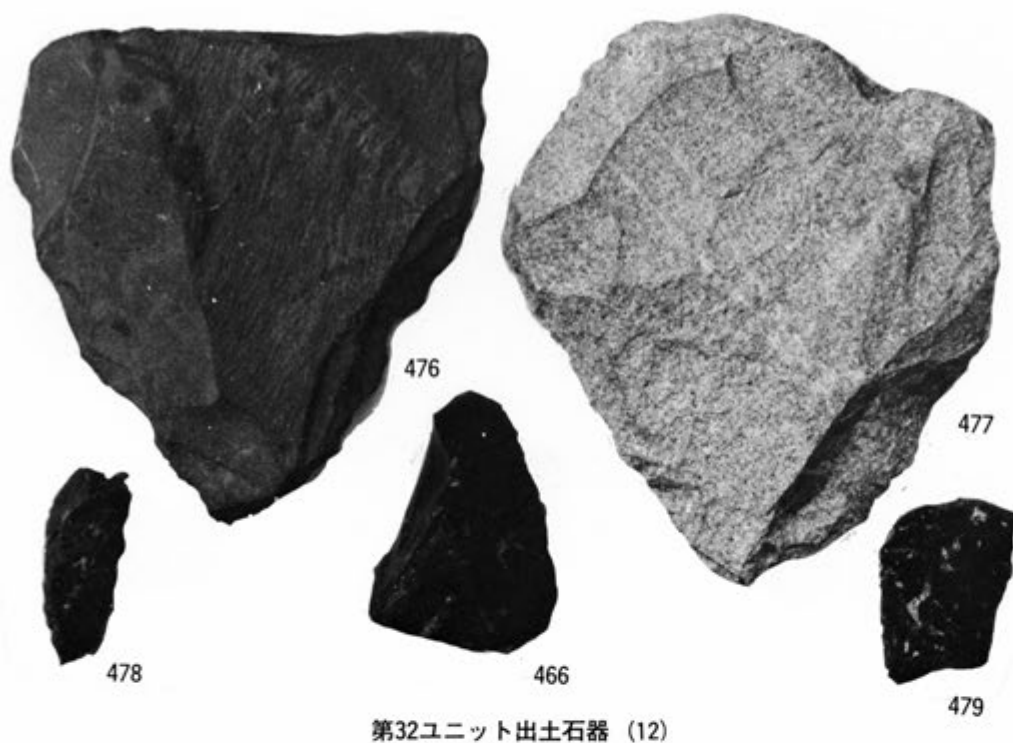


第32ユニット出土石器 (10)





第32ユニット出土石器 (11)



第32ユニット出土石器 (12)



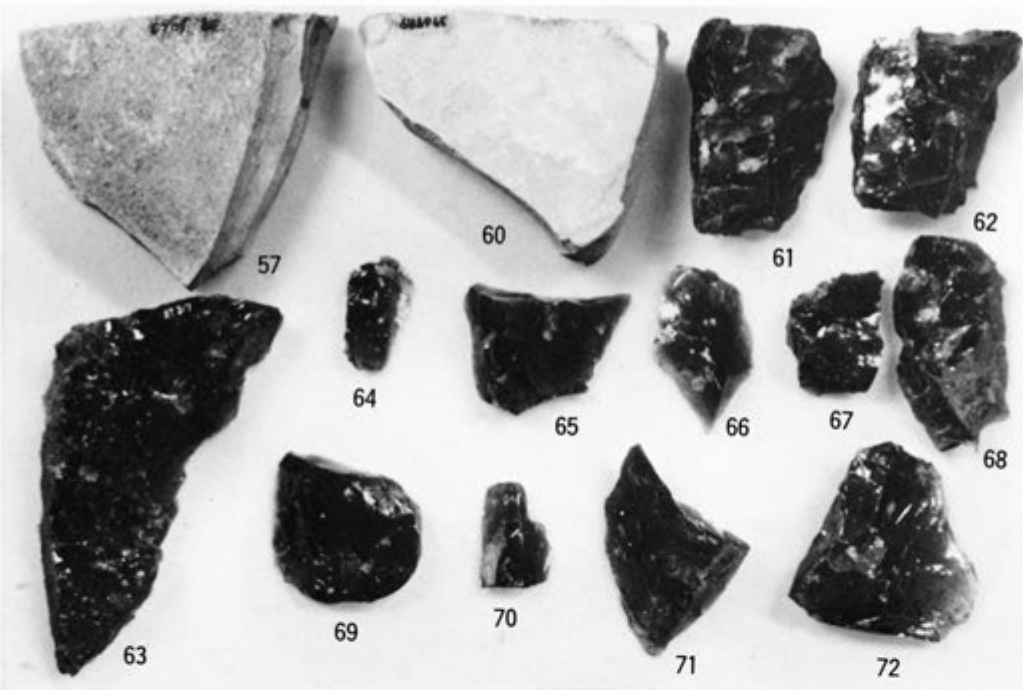
第35ユニット出土石器



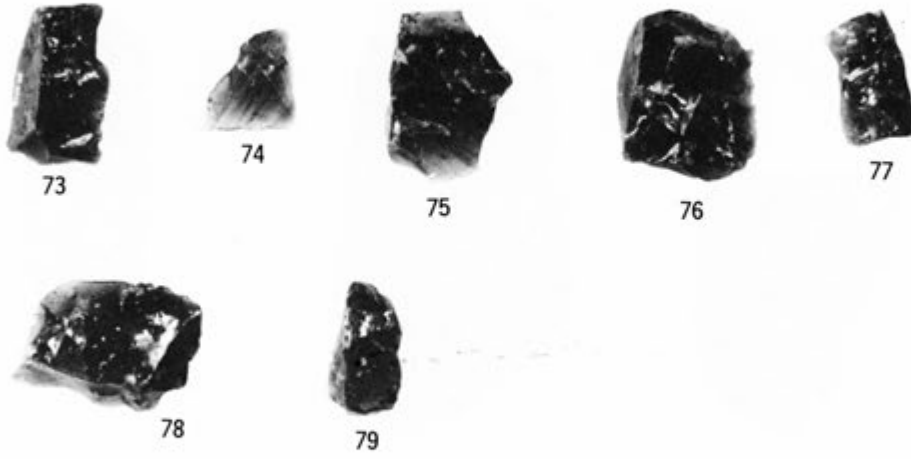
第36ユニット出土石器



第37ユニット出土石器 (1)



第37ユニット出土石器 (2)



第37ユニット出土石器 (3)



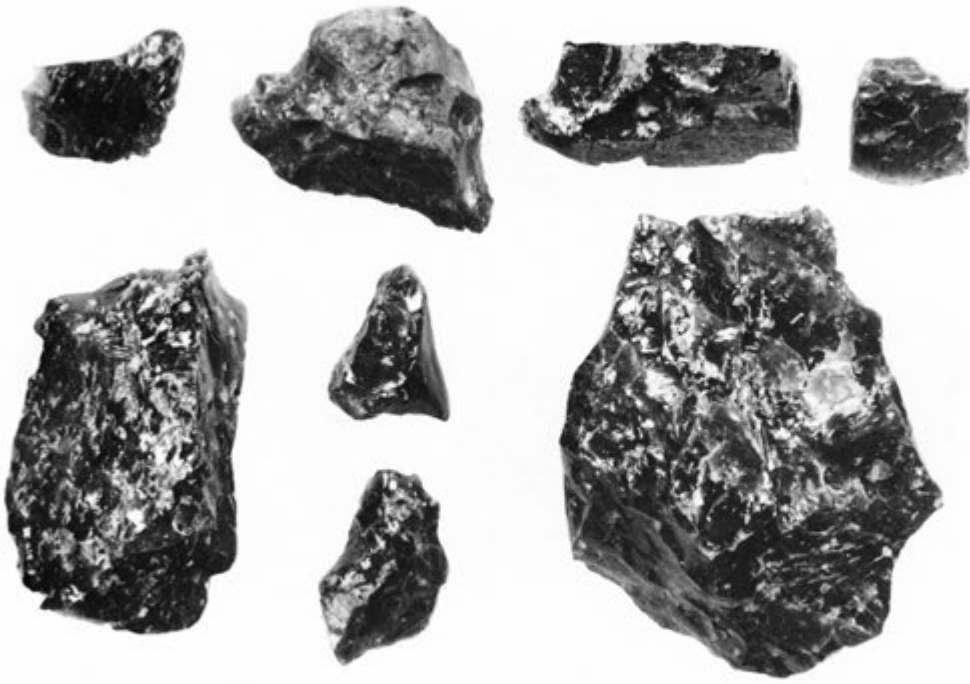
第37ユニット出土石器 (4)



第37ユニット出土石器 (5)



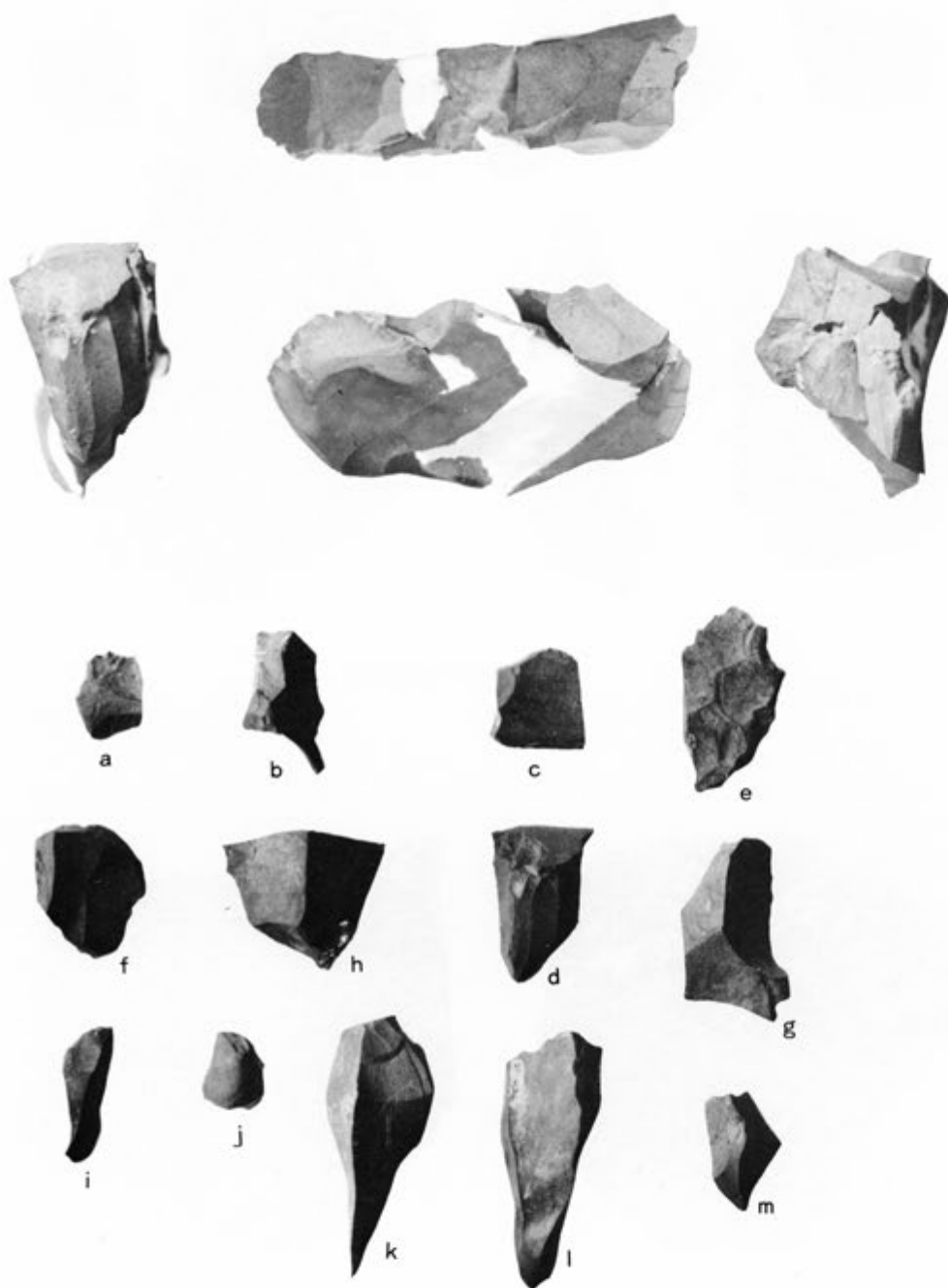
第37ユニット出土石器 (6)



第38ユニット出土石器



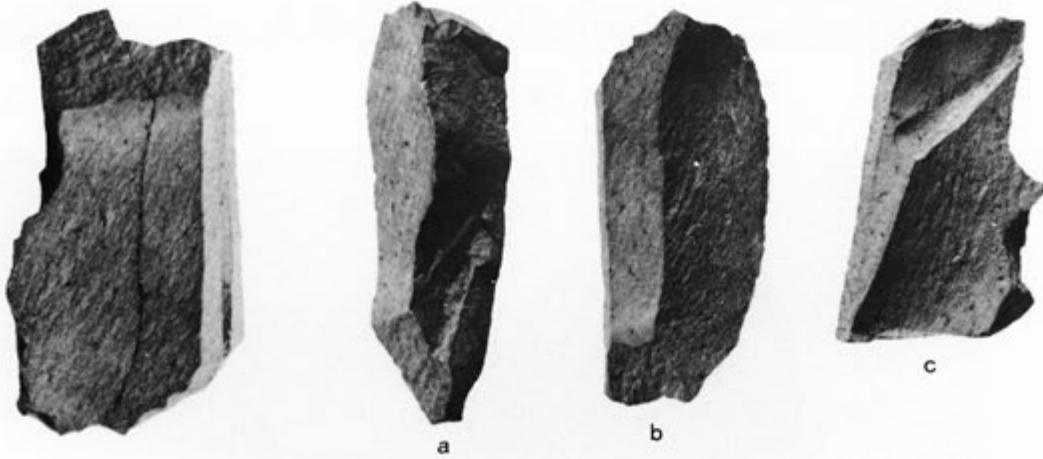
第38ユニット出土石器



第32ユニット接合資料No.5

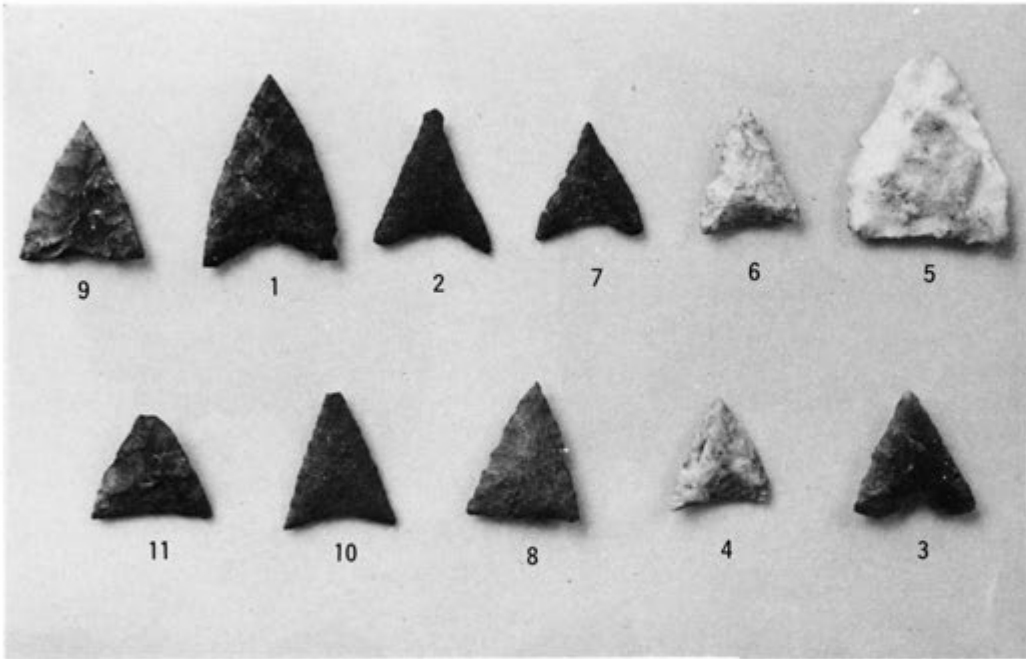


第32ユニット接合資料No.1

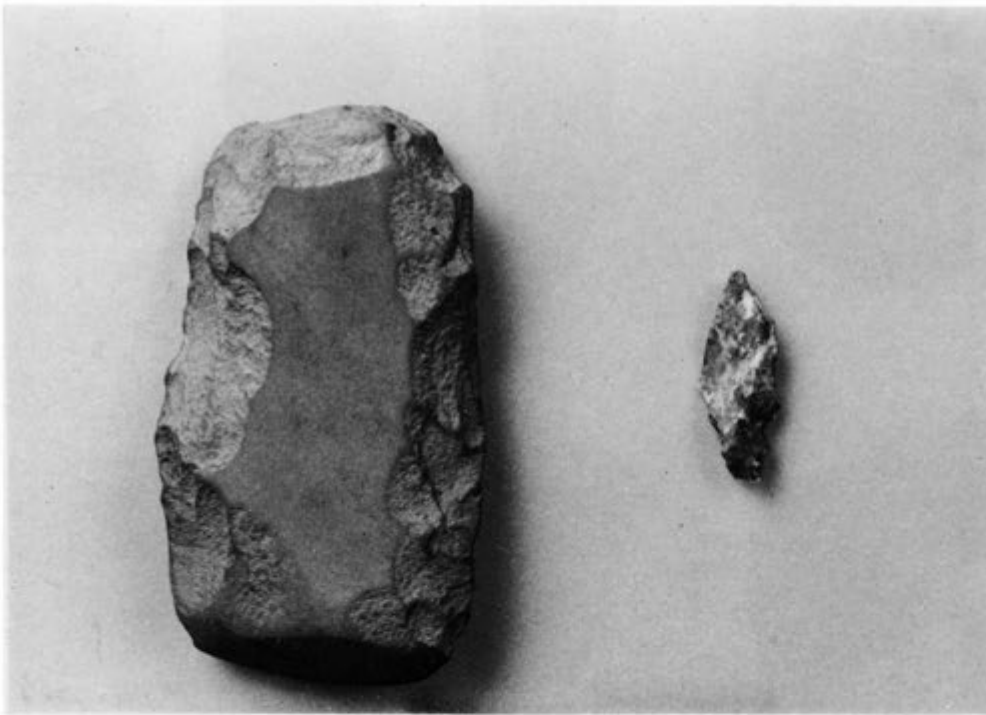


第32ユニット接合資料No.2





石 鏃



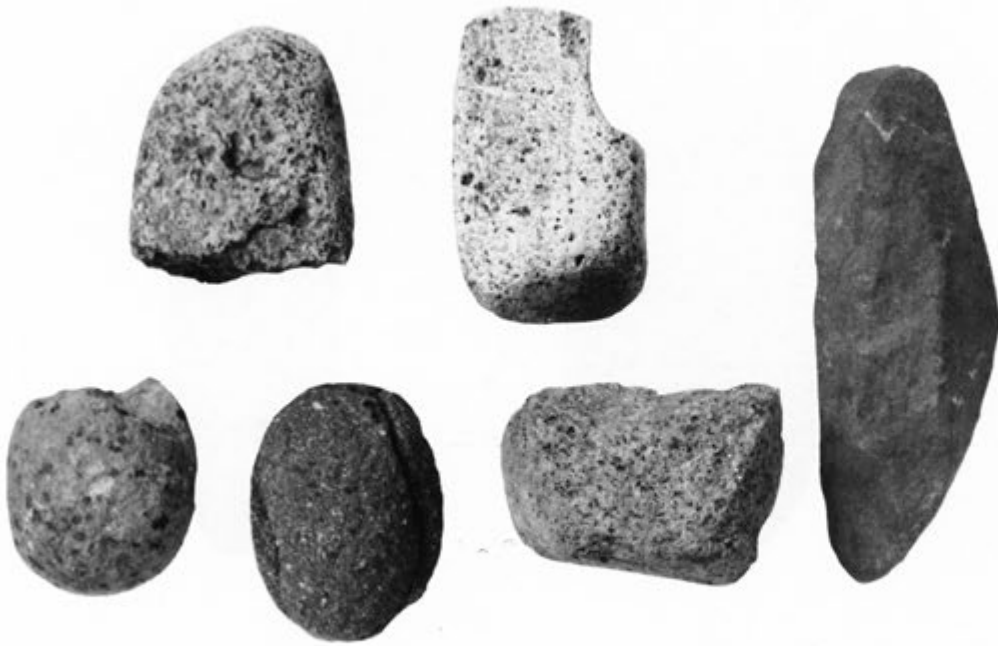
磨製石斧ナイフ形石器



槌 石 (1)



槌 石 (2)



槌 石 (3)